独立行政法人国立文化財機構年報

平成２７年度

平成 27 年度

新収品図版　〔東京国立博物館〕

購　　入



住吉物語絵巻断簡



玄圃瑤華　伊藤若冲自画自刻



吉野宮蒔絵書棚

寄　　贈



刀　近江大掾忠広





双龍図　狩野山雪筆



菩薩立像



青磁盤

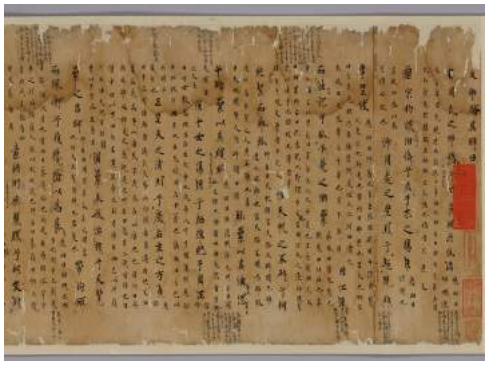
平成 27 年度

新収品図版　〔京都国立博物館〕

購　　入



（巻末）



（巻首）

国宝　漢書楊雄伝第五十七



色絵栄花物語冊子形硯箱



重要文化財　錆絵寒山拾得図角皿
尾形乾山作、尾形光琳画

寄　　贈



水禽柴垣長春花蒔絵松皮菱形重箱（大阪府貝塚市商家からの寄贈品のうち）



淀川名所蒔絵七ツ盃（大阪府貝塚市商家からの寄贈品のうち）



萌葱地御所解（石橋）文様振袖（淀藩稲葉家伝来品のうち）

平成 27 年度

新収品図版　〔奈良国立博物館〕

購　　入



絹本著色春日社寺曼荼羅



紙本墨画帝釈天図像



紙本著色十巻抄（経法）



木製転法輪筒

寄　　贈



錦幡　模造



紅牙撥鏤尺　模造

平成 27 年度

新収品図版　〔九州国立博物館〕

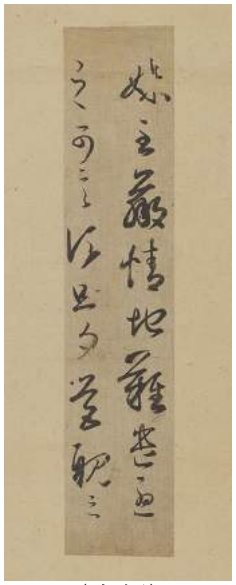
購　　入



絹本著色阿弥陀三尊像



（全体）



（本紙）

紙本揶摸王羲之尺牘（妹至帖）



紙本著色伊勢物語図色紙　第七段　かへる波　俵屋宗達筆



色絵唐花福寿文反皿



（全体）



（部分）

茜地獅子唐草文更紗茶具敷

寄　　贈



紙本金地著色鞠鼓催花図　六曲屏風



柴垣群禽図肩衝釜



柿釉麒麟雲龍文大盤（餅花手）



（全体）



（本紙）

彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）伝藤原行成筆

平成２７年度　年報　目次

平成27年度新収品図版

Ⅰ　27年度自己点検評価報告書　評定状況・・・

① 日本及び諸外国の美術に関する研究…… 148
② 歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究…… 156
③ 我が国の文化財建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究…… 158
④ 無形文化財の研究…… 160
⑤ 我が国の記念物に関する調査・研究…… 166
⑥ 飛鳥地域の遺跡調査及びその出土品・遺構等に関する調査研究…… 172
⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究…… 194
⑧ 我が国の埋蔵文化財に関する調査・研究…… 196
(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進
① 文化財デジタル画像形成に関する調査・研究…… 202
② 文化財の測量・調査等に関する調査・研究…… 204
③ 年輪年代学研究…… 206
④ 動植物遺存体等により環境考古学的研究…… 208
(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進
① 文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究…… 210
② 文化財の保存環境の研究…… 212
③ 文化財の分析及び計測方法に関する調査・研究…… 214
④ 屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害対策に関する研究…… 218
⑤ 伝統的な修復技術及び修復材料に関する研究…… 222
⑥ 近代文化遺産の保存修復材料及び技法に関する国際的共同研究の推進…… 226
(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存に関する協力…… 228
② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力…… 232
(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究
① 収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究…… 234
② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究…… 274
③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究…… 303
④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究…… 310
⑤ アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究…… 318
⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究…… 331
⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究…… 346

5. 文化財保護に関する国際協力の推進
(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備…… 366
(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進…… 368
(3) 研修・専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成及び技術移転…… 380
(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進…… 386

6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
(1) 情報基盤の整備充実…… 388
(2) 研究所の研究成果の発信…… 400
(3) 研究所所管の展示公開施設の充実…… 408
(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力…… 410

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
(1) 文化財に関する協力・助言の実施…… 420
(2) 保存担当学芸員研修の実施…… 444
④ 文化財防災ネットワーク推進事業…… 452

(受託研究)…… 453

ii　業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置
1. 一般管理費の削減
(1)　共通的な事務の一元化による業務の効率化・・・

Ⅶ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図
運営委員･評議員･外部評価委員名簿‥‥‥

Ⅰ　平成27年度　自己点検評価報告書評定状況

自己点検評価報告書　評定状況　補足説明

○年度計画の評定及び中期計画の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

平成27年度自己点検評価報告書　評定状況

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					
1.歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承					
(1) 適時適切な収集		S評定	1	0	
		A評定	4	1	
事業件数　8		B評定	3	7	
(1)-1 適時適切な収集	1111	東博	S	B	22
	1112	京博	A	B	23
	1113	奈良博	B	B	24
	1114	九博	B	B	25
(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用	1121	東博	A	A	26
	1122	京博	A	B	27
	1123	奈良博	B	B	28
	1124	九博	A	B	29
(2)収蔵品の管理・保存		A評定	0	0	
事業件数　8		B評定	8	8	
(2)-1 収蔵品の管理・保存	1211	東博	B	B	30
	1212	京博	B	B	31
	1213	奈良博	B	B	32
	1214	九博	B	B	33
(2)-2 施設の環境整備	1221	東博	B	B	34
	1222	京博	B	B	35
	1223	奈良博	B	B	36
	1224	九博	B	B	37
(3) 収蔵品の保存技術の向上		A評定	3	0	
事業件数　9		B評定	6	9	
(3)-1 収蔵品の修理					
①計画的な修理及びデータの蓄積	1311-1	東博	A	B	38
	1312-1	京博	B	B	39

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
	1313-1	奈良博	B	B	40
	1314	九博	B	B	41
②科学的な技術を取り入れた修理	1311-2	東博	B	B	42
	1312-2	京博	A	B	43
	1313-2	奈良博	A	B	44
(3)-2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実					
	1320	京博・奈良博・九博	B	B	45
(3)-3 収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本整備の充実に向けた検討					
	1330	4館	B	B	46
2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信					
(1) 展覧事業の充実		S評定	3	2	
		A評定	12	9	
		B評定	8	12	
事業件数　24		C評定	1	1	
① 平常展					
①-1 平常展	2111-1	東博	A	B	47
	2112-1	京博	A	A	48
	2113-1-1	奈良博	B	B	49
	2113-1-2	奈良博	B	B	50
	2114-1	九博	B	B	51
①-2 展示説明の充実	2110-2	4館	A	A	52
②　特別展					
特別展等の開催回数	2120	4館	B	B	53
(1/5)特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」	2121-1	東博	A	B	54
(2/5)特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」	2121-2	東博	A	B	55
(3/5)「クレオパトラとエジプトの王妃展」	2121-3	東博	A	B	56
(4/5)「アートオブブルガリー130年にわたるイタリア美の至宝」	2121-4	東博	B	B	57
(5/5)特別展「始皇帝と大兵馬」	2121-5	東博	A	A	58
(1/3)特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」	2122-1	京博	A	A	59
(2/3)特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸　―仏教の典籍と美術―」	2122-2	京博	B	B	60
(3/3)琳派誕生400年記念 特別展覧会「琳派　京(みやこ)を彩る」	2122-3	京博	S	S	61
(1/3)特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	2123-1	奈良博	C	C	62

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
(2/3)開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」	2123-2	奈良博	S	A	63
(3/3)特別展「第67回正倉院展」	2123-3	奈良博	B	B	64
(1/4)開館10周年記念特別展「戦国大名　－九州の群雄とアジアの波涛－」	2124-1	九博	A	A	65
(2/4)開館10周年記念特別展「大英博物館展　－100のモノが語る世界の歴史－ A History of the World in 100 Objects」	2124-2	九博	S	S	66
(3/4)開館10周年記念特別展「美の国 日本」	2124-3	九博	A	A	67
(4/4)開館10周年記念特別展「アフガニスタン美術展」	2124-4	九博	A	A	68
③ 海外展					
「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」	2131	東博	B	B	69
「日本の古墳」展	2133	奈良博	A	A	70
(2) 教育活動の充実		S評定	0	1	
		A評定	3	2	
事業件数　21		B評定	18	18	
① 学習機会の提供	2211-1	東博	B	B	71
	2211-2	東博	B	B	72
	2211-3	東博	A	A	73
	2212	京博	A	A	74
	2213-1	奈良博	B	B	76
	2213-2	奈良博	B	B	77
	2214-1	九博	B	B	78
	2214-2	九博	B	B	79
	2214-3	九博	B	B	80
②-1 ボランティア活動の支援	2221-1	東博	B	B	81
	2222-1	京博	A	S	82
	2223-1	奈良博	B	B	83
	2224-1	九博	B	B	84
②-2 博物館支援者の増加	2221-2	東博	B	B	85
	2222-2	京博	B	B	86
	2223-2	奈良博	B	B	87
	2224-2	九博	B	B	88
③ 大学との連携	2231	東博	B	B	89
	2232	京博	B	B	90
	2233	奈良博	B	B	91
	2234	九博	B	B	92

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
(3) 快適な観覧環境の提供		A評定	1	1	
		B評定	11	12	
事業件数 13		C評定	1	0	
① 施設・設備等の充実	2311-1	東博	B	B	93
	2311-2	東博	B	B	94
	2312	京博	B	B	95
	2313	奈良博	B	B	96
	2314	九博	B	B	97
② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営	2321	東博	B	B	98
	2322	京博	B	B	99
	2323	奈良博	C	B	100
	2324	九博	B	B	101
③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実	2331	東博	B	B	102
	2332	京博	B	B	103
	2333	奈良博	B	B	104
	2334	九博	A	A	105
(4) 文化財情報の発信と広報の充実		A評定	6	5	
事業件数 22		B評定	16	17	
① デジタル化の推進	2411	東博	B	B	106
	2412	京博	A	B	107
	2413	奈良博	A	A	108
	2414	九博	B	B	109
② 博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化	2421	東博	B	B	110
	2422	京博	B	B	111
	2423	奈良博	A	A	112
	2424	九博	B	B	113
③ 広報計画の策定と情報提供	2431	東博	B	B	114
	2432	京博	B	B	115
	2433	奈良博	B	B	116
	2434	九博	A	A	117
	2430	本部	B	B	118
④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動	2441	東博	B	B	119
	2442	京博	B	B	120
	2443-1	奈良博	B	B	121
	2443-2	奈良博	B	B	122
	2444	九博	A	A	123
⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る	2451	東博	B	B	124
	2452	京博	A	A	125
	2453	奈良博	B	B	126
	2454	九博	B	B	127

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
3. 我が国における博物館の中核としての機能の強化					
(1) 調査研究の成果の発信		**A評定**	**0**	**0**	
		B評定	**3**	**4**	
事業件数　4		**C評定**	**1**	**0**	
	3111	東博	B	B	128
	3112	京博	B	B	129
	3113	奈良博	B	B	130
	3114	九博	C	B	131
(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施		**A評定**	**1**	**1**	
事業件数　4		**B評定**	**3**	**3**	
	3211	東博	A	A	132
	3212	京博	B	B	133
	3213	奈良博	B	B	134
	3214	九博	B	B	135
(3) 保存修理事業者への研修プログラム		**A評定**	**0**	**0**	
事業件数　4		**B評定**	**4**	**4**	
	3311	東博	B	B	136
	3312	京博	B	B	137
	3313	奈良博	B	B	138
	3314	九博	B	B	139
(4) 収蔵品の貸与		**A評定**	**0**	**0**	
事業件数　4		**B評定**	**4**	**4**	
	3411	東博	B	B	140
	3412	京博	B	B	141
	3413	奈良博	B	B	142
	3414	九博	B	B	143
(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進		**A評定**	**0**	**0**	
事業件数　4		**B評定**	**4**	**4**	
	3511	東博	B	B	144
	3512	京博	B	B	145
	3513	奈良博	B	B	146
	3514	九博	B	B	147
4.文化財に関する調査及び研究の推進					
(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進		**A評定**	**9**	**4**	
事業件数　27		**B評定**	**18**	**23**	
① 日本及び諸外国の美術に関する研究					
文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	4111	東文研	A	A	148
文化財の資料学的研究	4112	東文研	B	B	150
近現代美術に関する交流史的研究	4113	東文研	A	A	152
美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	4114	東文研	B	B	154

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
② 歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究					
近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	4121	奈文研	B	B	156
③ 我が国の文化財建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究					
我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	4131	奈文研	B	B	158
④ 無形文化財の研究					
無形文化財の保存・活用に関する調査研究	4141	東文研	A	B	160
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	4142	東文研	A	B	162
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	4143	東文研	B	B	164
⑤ 我が国の記念物に関する調査・研究					
我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	4151	奈文研	A	A	166
我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	4152	奈文研	B	B	168
我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	4153	奈文研	B	B	170
⑥ 飛鳥地域の遺跡調査及びその出土品・遺構等に関する調査研究					
平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	4161-1	奈文研	A	B	172
平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査	4161-2	奈文研	B	B	174
東大寺東塔院跡の発掘調査	4161-3	奈文研	A	A	176
古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	4161-4	奈文研	B	B	178
古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	4161-5	奈文研	B	B	180
藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	4161-6	奈文研	A	B	182
飛鳥地域発掘調査	4161-7	奈文研	B	B	184
平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	4162-1	奈文研	B	B	186
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	4162-2	奈文研	A	B	188
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	4163	奈文研	B	B	190
アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	4164	奈文研	B	B	192
⑦ 文化的景観及びその保存・活用に関する調査・研究					
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	4171	奈文研	B	B	194
⑧ 我が国の埋蔵文化財に関する調査・研究					
遺跡データベースの作成と公開	4181	奈文研	B	B	196
出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	4182	奈文研	B	B	198
遺構の安定化方法を検討するための基礎データ収集	4183	奈文研	B	B	200
(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 **事業件数 4**		**A評定**	2	2	
		B評定	2	2	
①文化財デジタル画像形成に関する調査研究					
文化財デジタル画像形成に関する調査研究	4211	東文研	B	B	202
②文化財の測量・探査等に関する研究					
文化財の測量・探査等に関する研究	4221	奈文研	A	A	204

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
③年輪年代学研究					
年輪年代学研究	4231	奈文研	A	A	206
④動植物遺存体による環境考古学的研究					
動植物遺存体による環境考古学的研究	4241	奈文研	B	B	208
(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 **事業件数　9**		**A評定** **B評定**	3 6	3 6	
①文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究					
文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	4311	東文研	A	A	210
②文化財の保存環境の研究					
文化財の保存環境の研究	4321	東文研	A	A	212
③ 文化財の分析及び計測手法に関する調査・研究					
文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	4331	東文研	B	A	214
ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	4332	奈文研	B	B	216
④ 屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害対策に関する研究					
周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	4341	東文研	A	B	218
文化財の防災計画に関する研究	4342	東文研	B	B	220
⑤ 伝統的な修復技術及び修復材料に関する研究					
文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	4351	東文研	B	B	222
文化財修復材料の適用に関する調査研究	4352	東文研	B	B	224
⑥ 近代文化遺産の保存修復材料及び技法に関する国際的共同研究の推進					
近代の文化遺産の保存修復に関する研究	4361	東文研	B	B	226
(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施 **事業件数　3**		**A評定** **B評定**	1 2	1 2	
① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存に関する協力					
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	4411	東文研	B	B	228
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	4412	奈文研	A	A	230
② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力					
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力	4421	奈文研	B	B	232

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究		S評定	1	0	
		A評定	18	15	
		B評定	112	117	
事業件数 132		C評定	1	0	
① 収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究					
収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	4511-1	東博	B	B	234
特別調査「法隆寺献納宝物」（第37次）	4511-2	東博	B	B	235
特別調査「書跡」第13回	4511-3	東博	B	B	236
特別調査「工芸」第7回	4511-4	東博	B	B	237
特別調査「彫刻」第5回	4511-5	東博	B	B	238
油彩画の材料・技法に関する共同調査	4511-6	東博	B	B	239
東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	4511-7	東博	B	B	240
創立150周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	4511-8	東博	B	B	241
板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)	4511-9	東博	A	A	242
中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)	4511-10	東博	A	A	243
模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	4511-11	東博	B	B	244
博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4511-12	東博	A	A	245
能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4511-13	東博	B	B	246
博物館における文化財の情報資源化に関する研究(科学研究費補助金)	4511-14	東博	B	B	247
古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究(科学研究費補助金)	4511-15	東博	B	B	248
法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)	4511-16	東博	B	B	249
多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4511-17	東博	B	B	250
海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究(科学研究費補助金)	4511-18	東博	B	B	251
日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究(科学研究費補助金)	4511-19	東博	B	B	252
絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究(科学研究費補助金)	4511-20	東博	B	B	253
東京国立博物館所蔵写真資料データベース(科学研究費補助金)	4511-21	東博	B	B	254
中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容(学術研究助成基金助成金)	4511-22	東博	B	B	255
「月次祭礼図摸本」総合復元研究(科学研究費補助金)	4511-23	東博	B	B	256
工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―(科学研究費補助金)	4511-24	東博	B	B	257
武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金)	4511-25	東博	A	A	258
三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究(科学研究費補助金)	4511-26	東博	B	B	259
木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)	4511-27	東博	B	B	260
収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	4512-1	京博	B	B	261
訓点資料としての典籍に関する調査研究	4512-2	京博	B	B	262

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
特別調査「彫刻」	4512-3	京博	B	B	263
出土・伝世古陶磁に関する調査研究	4512-4	京博	A	B	264
特別調査「漆工」	4512-5	京博	B	B	265
収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	4513-1	奈良博	B	B	266
復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	4513-2	奈良博	B	B	267
平安時代の大般若経の総合的研究と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(学術研究助成基金助成金)	4513-3	奈良博	B	B	268
仏教工芸の総合的調査	4513-4	奈良博	B	B	269
古墳・古墓出土品の調査と研究	4513-5	奈良博	B	B	270
収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	4514-1	九博	B	B	271
X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	4514-2	九博	A	A	272
日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	4514-3	九博	B	B	273
② アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究					
1 特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」に関する調査研究	4521-1-1	東博	B	B	274
2「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	4521-1-2	東博	B	B	275
3 特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	4521-1-3	東博	B	B	276
4 特別展「生誕150年　黒田清輝－日本近代絵画の巨匠」に関する調査研究	4521-1-4	東博	B	B	277
5 特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」に関する調査	4521-1-5	東博	B	B	278
6 特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」に関する調査研究	4521-1-6	東博	B	B	279
7 特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	4521-1-7	東博	B	B	280
8 臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念「禅―心をかたちに」に関する調査研究	4521-1-8	東博	B	B	281
9特別展「春日大社－千年の至宝」に関する調査研究	4521-1-9	東博	B	B	282
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	4521-2	東博	B	B	283
東洋民族資料に関する調査研究	4521-3	東博	B	B	284
東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	4521-4	東博	A	A	285
神像表現における物語性の調査研究(学術研究助成基金助成金)	4521-5	東博	B	B	286
江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)	4521-6	東博	B	B	287
東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-7	東博	B	B	288
中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-8	東博	A	A	289
東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-9	東博	B	B	290
極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-10	東博	B	B	291
高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-11	東博	B	B	292
ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4521-12	東博	B	B	293
清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究(科学研究費補助金)	4521-13	東博	B	B	294
古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究(学術研究助成基金助成金)	4521-14	東博	B	B	295
古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)	4521-15	東博	B	B	296

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)	4521-16	東博	B	B	297
東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	4521-17	東博	B	B	298
東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)	4521-18	東博	B	B	299
唐・宋時代の陶磁に関する絵画資料の収集と分析（西田記念東洋陶磁史研究助成金）	4521-19	東博	B	B	300
七仏薬師信仰とその造像に関する研究（メトロポリタン研究助成金）	4521-20	東博	B	B	301
仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）	4521-21	東博	B	B	302
③ 京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究					
1特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京を彩る」に関する調査研究	4532-1-1	京博	A	A	303
2 臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念「禅-こころをかたちに-」に関する調査研究	4532-1-2	京博	B	B	304
近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	4532-2	京博	B	B	305
京都の幕末史料に関する調査研究	4532-3	京博	B	B	306
近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)	4532-4	京博	B	B	307
実作例に基づく日本の宮廷および調度の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	4532-5	京博	B	B	308
長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	4532-6	京博	B	B	309
④ 仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 （奈良国立博物館における調査研究）					
1特別展「白鳳」に関する調査研究	4543-1-1	奈良博	B	B	310
2特別展「第６７回正倉院展」に関する調査研究	4543-1-2	奈良博	B	B	311
3特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」に関する調査研究	4543-1-3	奈良博	B	B	312
南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	4543-2	奈良博	A	A	313
綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	4543-3	奈良博	B	B	314
伊豆山権現立像（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究	4543-4	奈良博	A	A	315
春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費補助金）	4543-5	奈良博	B	B	316
真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（学術研究助成基金助成金）	4543-6	奈良博	B	B	317
⑤ アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 （九州国立博物館における調査研究）					
1特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	4554-1-1	九博	B	B	318
2特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」に関する調査研究	4554-1-2	九博	B	B	319
3特別展「京都　高山寺と明恵上人―特別公開　鳥獣戯画―」に関する調査研究	4554-1-3	九博	B	B	320
日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	4554-2	九博	A	A	321
中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	4554-3	九博	B	B	322
契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	4554-4	九博	B	B	323
水中遺跡の保存・活用に関する調査研究(文化庁受託事業)	4554-5	九博	B	B	324
平成20年度に開催した特別展「工芸のいま 伝統と創造」の成果を基礎とした、九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究	4554-6	九博	B	B	325
タイにおける異文化の受容と変容―13世紀から18世紀の対外交易品を中心として―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	4554-7	九博	B	B	326
トピック展示「有田焼創業400年記念展　旧家の生活を彩った器－古伊万里－」に関する調査研究	4554-8	九博	B	B	327

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
酒井田家文書にみる大名家からの御注文品に関する研究（公益信託　西田記念東洋陶磁史研究助成基金）	4554-9	九博	B	B	328
出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	4554-10	九博	B	B	329
日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費補助金）	4554-11	九博	B	B	330
⑥ 有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究					
博物館の環境保存に関する研究	4561-1	東博	B	B	331
被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金）	4561-2	東博	B	B	332
修復文化財に関する資料収集及び調査研究	4562-1	京博	B	B	333
文化財の保存・修復ならびに復元模写に関する調査研究	4562-2	京博	B	B	334
収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究	4563-1	奈良博	B	B	335
収蔵品・寄託品等の文化財修理の観点からの調査研究	4563-2	奈良博	B	B	336
収蔵品・寄託品等の保存科学の観点からの調査研究	4563-3	奈良博	B	B	337
文化財の材質・構造等に関する共同研究	4564-1	九博	A	B	338
博物館における文化財保存修復に関する研究	4564-2	九博	B	B	339
博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	4564-3	九博	B	B	340
石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	4564-4	九博	B	B	341
酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）	4564-5	九博	B	B	342
みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	4564-6	九博	A	A	343
文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（学術研究助成基金助成金）	4564-7	九博	B	B	344
彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費補助金）	4564-8	九博	B	B	345
⑦ 文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究					
博物館環境デザインに関する調査研究	4571-1	東博	B	B	346
博物館教育に関する調査研究	4571-2	東博	B	B	347
博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	4571-3	東博	B	B	348
凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	4571-4	東博	B	B	349
聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築(学術研究助成基金助成金）	4571-5	東博	B	B	350
ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(学術研究助成基金助成金）	4571-6	東博	C	B	351
藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金）	4571-7	東博	B	B	352
「シーボルト旧蔵本」の修理およびデジタル化による公開事業	4571-8	東博	B	B	353
文化財情報に関する調査研究	4572-1	京博	B	B	354
平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究	4572-2	京博	A	A	355
高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	4572-3	京博	S	A	356

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	4573-1	奈良博	B	B	357
文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	4573-2	奈良博	A	A	358
NHKと共同で実施する、高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	4574-1	九博	A	B	359
特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	4574-2	九博	B	B	360
学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	4574-3	九博	B	B	361
文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	4574-4	九博	B	B	362
高等学校所蔵考古資料の調査研究	4574-5	九博	B	B	363
文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究	4574-6	九博	B	B	364
潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	4574-7	九博	A	B	365
5.文化財保護に関する国際協力の推進		**A評定**	3	2	
事業件数　10		**B評定**	7	8	
(1)　保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備					
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究発信	5111	東文研	B	B	366
(2)　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進					
ア. 中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	5211	東文研	A	A	368
イ. 韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究	5212	東文研	B	B	370
ウ. 東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	5213	東文研	A	B	372
ウ. カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査	5214	奈文研	B	B	374
エ. 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	5215	東文研	B	B	376
オ. ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	5216	東文研	B	B	378
(3)　研修・専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成及び技術移転					
①国際研修「紙の保存と修復」	5311	東文研	A	A	380
①在外日本古美術品保存修復協力事業	5312	東文研	B	B	382
②ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	5321	奈文研	B	B	384
(4)　アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進		**A評定**	0	0	
事業件数　1		**B評定**	1	1	
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	5411	IRCI	B	B	386
6.情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		**A評定**	4	3	
事業件数　16		**B評定**	12	13	
(1)　情報基盤の整備充実					

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価 年度	自己評価 中期	頁
文化財情報基盤の整備	6111	東文研	B	B	388
無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	6112	東文研	B	B	390
文化財に関するデータベースの充実	6113	奈文研	B	B	392
被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信	6121	東文研	B	B	394
専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）	6131	東文研	B	B	396
図書の収集・整理・公開・提供	6132	奈文研	B	B	398
(2)　研究所の研究成果の発信					
定期刊行物の刊行	6211	東文研	B	B	400
平成27年度オープンレクチャー	6221	東文研	B	B	402
ウェブサイトの運用	6231	東文研	A	A	404
定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	6232	奈文研	A	A	406
(3)　研究所所管の展示公開施設の充実					
平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	6311	奈文研	B	B	408
(4)　文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力					
文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力	6411	奈文研	B	B	410
文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	6412	奈文研	B	B	412
国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	6413	奈文研	A	A	414
国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	6414	奈文研	A	B	416
平城宮跡解説ボランティア事業の実施、平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加、NPO法人等への支援	6421	奈文研	B	B	418
7.地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 **事業件数　17**		**A評定** **B評定**	3 14	1 16	
(1)　文化財に関する協力・助言の実施					
文化財の収集、保管に関する指導助言	7111	東文研	B	B	420
無形文化遺産に関する助言	7112	東文研	B	B	422
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	7113	東文研	B	B	424
文化財の虫菌害に関する調査・助言	7114	東文研	B	B	426
文化財の材質・構造に関する調査・助言	7115	東文研	B	B	428
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	7116	東文研	B	B	430
地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	7117	奈文研	B	B	432
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	7118	奈文研	B	B	434
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	7119	奈文研	B	B	436

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
他機関等との共同研究及び受託研究を実施	7121	東文研	B	B	438
他機関等との共同研究及び受託研究を実施	7122	奈文研	B	B	440
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	7131	奈文研	B	B	442
(2) 保存担当学芸員研修の実施					
文化財担当者研修	7211	奈文研	A	B	444
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	7221	東文研	A	B	446
東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	7231	東文研	B	B	448
京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	7232	奈文研	B	B	450
文化財防災ネットワーク推進事業	7140	本部	A	A	452
（受託事業）					453
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置					
1.一般管理費の削減		A評定	1	1	
事業件数 3		B評定	2	2	
(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化	9110	本部	B	B	507
(2) 計画的なアウトソーシング	9120	法人全体	B	B	508
(3) 使用資源の減少	9130	法人全体	A	A	509
(4) 自己収入の増大 ※Ⅲにて評価	9140	法人全体	－	－	510
2. 給与水準の適正化等 事業件数 1		B評定	1	1	
	9210	本部	B	B	511
3. 契約の適正化の推進 事業件数 1		B評定	1	1	
	9310	法人全体	B	B	512
4. 保有資産の有効利用の推進		A評定	0	0	
事業件数 6		B評定	6	6	
	9411	東博	B	B	513
	9412	京博	B	B	514
	9413	奈良博	B	B	515
	9414	九博	B	B	516
	9415	東文研	B	B	517
	9416	奈文研	B	B	518

（自己点検評価報告書） 事業名	処理番号	施設名	自己評価		頁
			年度	中期	
5.内部統制の充実・強化		**A評定**	**0**	**0**	
事業件数　3		**B評定**	**3**	**3**	
(1) 理事長のマネジメント強化	9510	本部	B	B	519
(2) 外部有識者による事業評価	9520	本部	B	B	520
(3) 情報セキュリティ対策の向上と改善	9530	本部	B	B	521
Ⅲ　予算、収支計画及び資金計画					
自己収入の増加　事業件数　1		**A評定**	**1**	**1**	
自己収入の増加	9140	法人全体	A	A	510
固定的経費の節減　事業件数　1		**B評定**	**1**	**1**	
※処理番号9110と同じ	9110	本部	B	B	507
Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項					
1. 施設・設備に関する計画					
	0110	本部	B	B	522
2. 人事計画に関する計画		**A評定**	**0**	**0**	
事業件数　5		**B評定**	**5**	**5**	
(1) 職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討	0210	本部	B	B	523
(2) 大学との人事交流	0220	本部	B	B	524
(3) 職員の資質向上	0230	本部	B	B	525
(4) 非公務員化のメリットを活かした制度設計	0240	本部	B	B	526
(5) 計画的な人材の確保・育成の推進	0250	本部	B	B	527

Ⅱ 平成27年度 自己点検評価報告書個別表

自己点検評価報告書「書式Ａ(事業)」　様式補足説明

○【定量的評価】

目標値は、中期計画・年度計画で目標値を定めた項目のみ記載している。

○【定量的評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評価が標準となる

○【年度計画に対する総合評価】及び【中期計画に対する総合評価】

評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【判定根拠、課題と対応】

「判定根拠」は記載を必須とし、「課題と対応」は必要に応じて適宜記載している。

自己点検評価報告書「書式Ｂ(博物館調査研究)」　様式補足説明

○【年度計画に対する総合的評価】の評定及び【中期計画の実施状況の確認】の評定について、定性的観点、定量的観点に留意しつつ以下の基準で総合的に評価している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

自己点検評価報告書「書式Ｂ(研究所・センター調査研究)」　様式補足説明

○【実績値】について
・収集資料数、論文数などの、定量的評価を行うことが適当である実績を記載している。
・記載した項目を「２．定量的評価の観点」へ記載している。
・実績値があるが定量的評価の対象とすることが不適切な項目は、「参考値」と明記して本欄に記載している。

○【１．定性的評価】の観点について
・下記の６つの観点から、当該研究プロジェクト等に応じた観点を選択の上記載している。
(観点の考え方)

・適時性→　必要性、国際性、公共性、緊急性
・独創性→　オリジナリティ、新規性、卓越性
・発展性→　多様性、応用性・汎用性、影響性
・効率性→　時間的投資、人的投資、設備的投資
・継続性→　期間、質・内容、量、基礎性
・正確性→　数値・データ、達成値、網羅性

○【１．定性的評価】の評定及び【４．中期計画の実施状況の確認】の評定について
評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
Ａ：所期の目標を上回る成果が得られている
Ｂ：所期の目標を達成している
Ｃ：所期の目標を下回っており、改善を要する
Ｄ：所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を要する
※Ｂ評定が標準となる

○【２．定量的評価】の観点について
・【実績値】欄に記載された項目について記載している。
・【実績値】欄内で(参考値)として記載された項目は記載しない。

○【２．定量的評価】の評定について
評価は、以下の評定区分を使用している。

Ｓ：達成率 120%以上かつ質的に顕著な成果
Ａ：達成率 120%以上
Ｂ：達成率 100%以上 120%未満
Ｃ：達成率 80%以上 100%未満
Ｄ：達成率 80%未満
※Ｂ評定が標準となる

○【３．総合的評価】の評定について
・定性的評価、定量的評価の各観点の評定(Ｓ～Ｄ)を下記にて数値化(5～1 点)し、平均値を四捨五入して評定を算出している。
Ｓ＝５点、Ａ＝４点、**Ｂ＝３点**、Ｃ＝２点、Ｄ＝１点　　※Ｂ評定が標準

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1111

大項目	Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(東京国立博物館)
日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
・購入件数 16件 内訳：絵画 5件、書跡 1件、漆工 1件、東洋金工 1件、東洋染織 8件
・決算額 225,880,400円

27年度は、絵画5件「住吉物語絵巻断簡」「玄圃瑤華」「四季遊楽図画稿」「倣董源山水図」「桃源仙境図屏風」、書跡1件「和漢朗詠集巻下断簡(戊辰切)」、漆工1件「吉野宮蒔絵書棚」、東洋金工1件「七宝簪・粧刀・眼鏡入」、東洋染織8件「刺繍花鳥図屏風」「ウォンサム（円衫）花唐草文様紋紗」「テンギ　紅地襷福字梅花文様浮紋織印金」「チョガッポ　古銭文様縫い合わせ」「チョガッポ　三角形繋ぎ文様縫い合わせ」「チョガッポ　三角繋ぎ文様縫い合わせ」「チョガッポ石畳文様縫い合わせ」「チョガッポ　石畳文様縫い合わせ」の計16件を購入した。

【補足事項】
・絵画は例年以上に質の高い作品を数多く購入できた。
・「住吉物語絵巻断簡」は、住吉物語絵巻の現存最古本の断簡であり、美術的、資料的価値は極めて高い。当館所蔵の2件(巻子本1巻と断簡1幅)と一連の作品であり、当館で当然収蔵すべき作品である。
・「玄圃瑤華」は近年、非常に評価が高まった伊藤若冲の作品。拓版画という特異な技法による版画で、版画とはいえ本作以外には世界に3件しか現存しない珍しい作品である。


［購入品］住吉物語絵巻断簡

・「吉野宮蒔絵書棚」は徳川綱吉の時代の様々な精緻な技法を凝らした美麗な作品である。常憲院時代物の特徴がよくあらわれている優品で、美術的な価値は極めて高い。
・27年度の東洋金工、東洋染織の購入作品は、当館収蔵品の欠落部分を埋める作例で、しかも市場に出ることが稀であり、入手困難な類の作品である。今回、とくに古美術商との連携をはかり、購入することが可能となった。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品件数	116,932件	－	－		113,897	114,362	115,653	116,268
うち国宝	87件	－	－		87	87	87	87
うち重要文化財	634件	－	－		631	631	633	634
購入件数	16件	－	－		0	5	5	9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：S	27年度は作品の質・量、決算額ともに近年稀に見る高い水準に到達している。

【中期計画記載事項】体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(東京国立博物館)日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	本中期計画期間の実績を通覧すると、時代・地域・分野においてさほど偏りなく、日本を中心に広くアジア諸地域の作品を収集することができている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1112

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)-1　適時適切な収集

【年度計画】
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(京都国立博物館)
京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
・購入件数　18件　内訳：絵画4件、書跡3件、金工5件、陶磁4件、漆工1件、染織1件
・決算額　797,790,000円

27年度絵画4件、「花見遊楽図屏風　狩野養信筆」、「池大雅像　福原五岳筆」、「四季山水図屏風　久隅守景筆」、「四季花鳥図屏風　源琦筆」、書跡3件、国宝「漢書楊雄伝第五十七」、重要文化財「正親町天皇御宸翰消息　蘭奢待云々　九条稙通宛」、重要文化財「寸松庵色紙（ちはやふる）」、金工5件、重要文化財「太刀　銘備中国住人左兵衛尉直次作／建武二年十一月」、「刀　銘越後守藤原国儔」ほか3件、陶磁4件、「錆絵寒山拾得図角皿　尾形光琳・乾山合作」、「灰陶加彩辟邪形器座」ほか2件、漆工1件「桐竹鳳凰菊桐紋蒔絵広蓋」、染織1件「紅文綾地菱亀甲文様総鹿子絞繍小袖」の計18件を購入した。
なお、27年度は当初配分された運営費交付金のみならず、目的積立金や自己収入予算、当機構の文化財保存活用基金を活用することで、質・量ともに当初想定以上の購入をすすめることができた。

【補足事項】
・絵画の「池大雅像　福原五岳筆」は大雅に最も近しい弟子が描いた迫真的な肖像画として貴重な作品である。

・書跡の国宝「漢書楊雄伝第五十七」は、唐の訓詁学者として著名な顔師古（581～645年）が注をほどこした『漢書』楊雄伝の写本である。また、顔師古とほぼ同時代の唯一の唐抄本として非常に高い価値を持つ。

・書跡の重要文化財「寸松庵色紙（ちはやふる）」は、歌が非常に有名で名品として代表的な古筆である。また、保存状態が良い点から、とりわけ高い展示効果が期待される。

・金工の重要文化財「太刀　銘備中国住人左兵衛尉直次作／建武二年十一月」は、鎌倉時代最末期・建武二年の年紀があり、基準作として極めて重要である。

・陶磁の「錆絵寒山拾得図角皿　尾形光琳・乾山合作」は乾山と光琳による画家と陶工の合作で、陶磁史としても貴重な作品である。なお、27年度当館にて開催された特別展覧会　琳派誕生400年記念「琳派　京を彩る」にて展示することもできた。


［購入品］　国宝「漢書楊雄伝第五十七」


［購入品］　「錆絵寒山拾得図角皿
尾形光琳・乾山合作」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品件数	7,532件	－	－		6,621	6,708	6,721	7,109
うち国宝	28件	－	－		27	27	27	27
うち重要文化財	183件	－	－		177	179	179	180
購入件数	18件	－	－		13	1	0	9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	国宝1件、重要文化財3件を含め、当館の展示・研究の充実に寄与する作品の購入を当初の想定以上に進めることができた。

【中期計画記載事項】体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(京都国立博物館)京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	25年度は平成知新館準備のために購入実績はなかったが、27年度は当初の想定以上の購入を進めることができ、中期計画期間全体としては、京都文化を中心とした作品の購入を順調に達成することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1113

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(奈良国立博物館)
仏教美術及び奈良を中心とした絵画、彫刻、書跡、工芸品、考古資料、歴史資料等の中から重点的に購入する

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
・購入件数　4件　内訳：絵画3件、工芸1件
・決算額　140,400,000円

・絹本著色春日社寺曼荼羅　1幅
・紙本墨画帝釈天図像　1幅
・木製転法輪筒　1合
・紙本著色十巻抄（経法）　1巻

【補足事項】
購入品のうち木製転法輪筒は、筒形の容器に16体の尊像を表し、蓋表及び底裏に輪宝を彫刻して十字の梵字を墨書したもので、その特異な形式や墨書された尊名などから、転法輪法に用いられる転法輪筒と思われるもの。転法輪法とは、怨敵退散や国家安穏、あるいは安産を祈るために行われる密教の修法。本品は遺例の極めて少ない転法輪法の貴重な実作例であり、製作が平安～鎌倉時代（12世紀）に遡る点で高い価値を有する。また。稀少な遺例であることから、この機会を逃せば同種のものをコレクションに加えることが困難となる可能性が高い。
その外の3点も含め、仏教美術に重点を置く当館にとって展示に必要不可欠な品を購入できた。


木製転法輪筒

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品件数	1,883件	－	－		1,831	1,834	1,862	1,877
うち国宝	13件	－	－		13	13	13	13
うち重要文化財	112件	－	－		109	111	111	111
購入件数	4件	－	－		4	2	3	15

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	仏教美術に重点をおいた適時適切な収集を実施できた。27年度は年度計画に掲げていたうち絵画と工芸品での購入にとどまったが、28年度以降は多分野での収集に取り組む。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(奈良国立博物館)
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	仏教美術を中心として文化財を収集することができた。過去4年間の実績と合わせ、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積が出来ている。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1114

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－1　適時適切な収集

【年度計画】
各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。
(九州国立博物館)
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
・購入件数５件　内訳：絵画２件、書跡１件、陶磁１件、染織１件
・決算額 609,288,000 円
当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集した。作品として「絹本著色阿弥陀三尊像」、「紙本搨摸王羲之尺牘（妹至帖)」など優れた文化財を、あわせて５件購入した。

【補足事項】
・絵画分野では、２件を購入した。「絹本著色阿弥陀三尊像」は、阿弥陀浄土信仰を背景に、中国の杭州・明州で描かれた典型的な南宋時代の作例で、作品の優秀さとともに文化史的な価値も高い作品である。ついで、「伊勢物語図色紙」（現存 59 枚）のうちの１枚である「紙本著色伊勢物語図色紙　第七段　かへる波」は、江戸初期に活躍した絵師・俵屋宗達の真筆として高く評価される優品である。
・書跡分野では、「紙本搨摸王羲之尺牘（妹至帖)」を購入した。中国４世紀の王羲之の自筆書状（尺牘）を、唐時代に双鉤填墨という方法で精巧に複製したもの。「書聖」王羲之の書は、奈良時代に遣唐使船で将来され、日本の書の原点となった。本作品の丸みのある文字の造形は、平安中期の和様書法の基盤となるもので、日中の書の架け橋を象徴する名品である。
・陶磁分野では、「色絵唐花福寿文反皿」を購入した。元禄 12 年（1699 年）に肥前有田の柿右衛門窯が製作した特注の色絵皿で、独特の赤色は「元禄柿」と呼ばれる。近世陶磁史の重要な基準作である。
・染織分野では、「茜地獅子唐草文更紗茶具敷」を購入した。表地は「獅子手」と称されるインド製更紗、裏地は「かぴたん」と称される南方製の縞織物で、日本で茶具敷として仕立てられたものである。
・いずれも、日本と大陸の文化交流を物語る作例、あるいは時代の美意識や工芸技術の高さを示す優品である。


〔購入品〕紙本搨摸王羲之尺牘(妹至帖)

・収蔵品のうち「紙本著色病草紙断簡」（３幅１枚)、「大和国添上郡樽中郷家地手継券文（十六通）自天暦八年至長保四年」（１巻）の５件が重要文化財に指定された。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品件数	525件	－	－		453	474	493	512
うち国宝	3件	－	－		3	3	3	3
うち重要文化財	34件	－	－		29	29	29	29
購入件数	5件	－	－		17	18	15	14

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 「紙本搨摸王羲之尺牘（妹至帖)」など国立博物館として収集すべき作品と、文化交流を端的に示す作品とを、バランスよく収集した。

【中期計画記載事項】
体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(九州国立博物館)日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化交流を主軸に据えた作品の購入を、中期計画どおりバランスよく着実に実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1121

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承		
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用		

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
1) ○寄贈
・新規寄贈品件数 148 件
　内訳：絵画 3 件、書跡 27 件、彫刻 2 件、刀剣 11 件、陶磁 5 件、漆工 2 件、考古 5 件、歴史資料 7 件、東洋彫刻 9 件、東洋陶磁 5 件、東洋染織 2 件、東洋考古 48 件、東洋民族 22 件
○寄託
・新規寄託品件数 31 件
　内訳：絵画 8 件、書跡 7 件、刀剣 1 件、漆工 2 件、考古 4 件、東洋陶磁 6 件、東洋民族 3 件
・寄託品は新規に 31 件を受け入れ、返却23件のうち2件を寄贈品として受け入れ、2件を購入した。

【補足事項】
○寄贈
・作品の寄贈については24名の所蔵者から、148件の文化財を受け入れた。
・狩野山雪筆「双龍図」は新出作品であるが、山雪の基準印が押されており、作風も山雪のそれに合致するもので、展示効果も高く、価値が高い。
・帝国博物館の初代総長を務め、当館と関わりの深い九鬼隆一に関係する大量の未紹介資料の一括寄贈(歴史資料73点)を受けた。草創期の博物館と総長の活動をうかがわせる資料として活用することができ、寄贈の意義は大きい。
・西アジアの作品を中心とする大量の百瀬コレクションの寄贈を受けた。当館収蔵品の欠落を埋め、さらに充実させることができた。
○寄託
・作品の寄託については3機関9個人から、31件の文化財を新規に受け入れた。
・寄託品のうち、重要文化財は書跡1件(附 漆工1件)、刀剣1件である。



［寄贈品］
双龍図　２幅

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
新規寄贈品件数	148件	－	－		151	63	471	100
寄託品件数	3,072件	－	－		2,689	2,563	2,519	3,064
うち新規寄託品件数	31件	－	－		7	3	20	604
登録美術品件数	24件	－	－		3	2	23	25

【年度計画に対する総合評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 大量の一括寄贈を受け入れ、新規寄贈は総計148件、点数にして550点を超えた。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 本中期計画期間は、まれにみる大量の寄贈の受け入れが続き、収蔵品の充実を図ることができた。また寄託については国宝3件、重要文化財1件を含む大倉文化財団のきわめて良質なコレクションを受け入れ、展示の充実を図ることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1122

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
1)○寄贈
・新規寄贈品件数　405件
内訳：絵画6件、金工47件、陶磁204件、漆工132件、染織3件、考古5件、歴史資料8件
○寄託
・新規寄託品件数　232件
内訳：絵画135件、書跡25件、彫刻9件、金工16件、陶磁20件、漆工20件、考古2件、歴史資料5件
・絵画の新規寄託件数が突出している理由としては、中国絵画のまとまったコレクションを受託できたことが要因である。

【補足事項】
○寄贈
寄贈は405件で、寄贈者は9人である。
・絵画3件、陶磁201件、漆工127件、考古5件、歴史資料8件の計344件については、大阪府貝塚市で江戸時代から続いた商家から、26年度より引き続き寄贈されたものである。27年度の寄贈品は、様々な趣向の茶碗、皿、鉢、永田友治や長野横笛による蒔絵の重箱や膳椀など、茶事や宴席に用いる調度のほか、笙や近代の写真機や引き延ばし機などを含む。5つの土蔵に伝わる文化財の悉皆調査は、28年度も寄贈を前提として進められる予定である。

・金工47件の寄贈の内、12件は兵庫県の愛刀家蒐集のコレクションであり、35件は京都府の居合道師範蒐集のコレクションである。「槍　銘義助」や「黒漆太刀拵」などいずれも貴重な作品が含まれている。

○寄託
・新規寄託のうち指定文化財は、※重文「天蓋　大日如来坐像附属」、重文「木造地蔵菩薩像像内納入品」、重文「木造薬師如来立像」、国宝「剣　無銘　附黒漆宝剣拵」である。重文「木造薬師如来立像」においては今年度名品ギャラリーで展示することができ、今後も展示での活用が期待できるものである。
※既に同重文の本体である「大日如来坐像附属」が当館へ寄託されているため、新規寄託品件数には含むが、新規の重要文化財としてはカウントしない。





大阪府貝塚市商家からの寄贈品
(上)永田友治作、(下)笙・重箱

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
新規寄贈品件数	405件	－	－		24	86	13	379
寄託品件数	6,112件	－	－		6,013	5,914	5,892	6,001
うち新規寄託品件数	232件	－	－		93	73	70	162

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	寄贈、寄託とも、質・量のいずれにおいても極めて高い成果を上げており、平常展の充実に寄与している。

【中期計画記載事項】　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画期間において寄贈、寄託の受入を積極的に行い、収蔵品を順調に充実させることができた。 また、既存の寄託品についても展示し活用することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1123

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承		
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用		

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(4館共通)
1) 本年度は2件の寄贈を受け、7件の新規寄託を受け入れた。

【補足事項】
(4館共通) 1)
・寄贈を受けた文化財は以下のとおりである。
　錦幡　模造　2旒
　紅牙撥鏤尺　模造　1枚
・新規に寄託を受け入れた文化財は以下のとおりである。
　木造帝釈天坐像　1軀　室生寺
　木造二天王立像　2軀　室生寺
　重要文化財　木造阿弥陀如来坐像　1軀　善福寺
　木造阿弥陀如来坐像　1軀　善福寺
　木造観音・勢至菩薩立像　2軀　善福寺
　重要文化財　木造天蓋　附属　飛天像（縦笛、鈸子）　2軀　法隆寺
　国宝　法華経（一品経）　巻第三、巻第五　2巻　浅草寺



寄贈を受けた「錦幡　模造」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
新規寄贈品件数	2件	－	－		0	1	25	0
寄託品件数	1,987件	－	－		1,945	1,951	1,994	1,984
うち新規寄託品件数	7件	－	－		12	13	49	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 寄贈品の受け入れ、新規寄託の受け入れ、ともに実績を上げることができた。今後もこれまで通り文化庁や地元教育委員会等多方面との連携し、新規寄託の増加と継続的寄託に努める。

【中期計画記載事項】
　収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 27年度は寄贈の受け入れを実施することができ、また新規に寄託品を受け入れることができた。いずれの品も平常展での活用が見込まれるものであり、中期計画に沿った実績を上げることができた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1124

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(1)－2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用

【年度計画】
(4館共通)
1)寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
1)寄贈
・新規寄贈品件数 8 件 内訳：絵画 1 件、書跡 2 件、金工 1 件、陶磁 2 件、考古 1 件、歴史資料 1 件
寄託
・新規寄託品件数 97 件 内訳：絵画 6 件、書跡 3 件、彫刻 1 件、建築 2 件、金工 82 件、漆工 1 件、考古 2 件

【補足事項】
寄贈
・8 件の寄贈があった。
・絵画分野では、「紙本金地著色鞠鼓催花図　六曲屏風」の寄贈を受けた。近世初頭の中国古典の受容のさまが窺える。なお、本作品は学界未紹介の新出の作例である。
・書跡分野では、2 件の寄贈があった。「紙本墨書朱舜水追悼文稿　安東省庵筆」は日本に亡命した明時代末の儒学者朱舜水の死を悼み、弟子で柳川藩儒の安東省庵による追悼文の草稿で、日中間の人物交流を物語る。「彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）伝藤原行成筆」は、平仮名が最も美しさをそなえた時代の優品で、書における国風文化の精華を物語る。
・金工分野では、「柴垣群禽図肩衝釜」の寄贈を受けた。近世的な図様や薄手の造りが特筆される時代性豊かな作品である。
・陶磁分野では、2 件の寄贈があった。「白磁玉縁皿」は、8 世紀中国・唐時代の邢州窯の作で、大宰府や鴻臚館等の遺跡から出土例が知られるなど、遣唐使時代の日中交流を物語る。ついで「柿釉麒麟雲龍文大盤（餅花手）」は、16～17 世紀の中国福建省の漳州窯の作で、代表的な貿易陶磁といえる。



〔寄贈品〕彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）伝藤原行成筆

・考古分野では、弥生時代の遺跡からも出土する、前 2～前 1 世紀の中国漢時代の「草葉文鏡」1 面の寄贈を受けた。
・歴史資料分野では、5・6 世紀朝鮮半島の三国時代の碑文から採った拓本の寄贈を受けた。「中原高句麗碑拓本」4 枚と「丹陽新羅赤城碑拓本」1 幅からなり、いずれも原碑は韓国の国宝指定を受け、現在は採拓が禁止されている。
寄託
・97 件の新規寄託があった。
・絵画分野では、日本で中世に愛好された中国の故事をテーマとする「紙本著色鳥龍白楽天問答図・黄龍呂洞賓問答図伝祥啓筆」、また、現存作品の少ない朝鮮時代の紙繊画の優品「紙本著色紙繊八馬図」、江戸時代の青木木米筆になる「紙本墨画淡彩天保九如図扇面」などの寄託を受けた
・金工分野では、「南善吉旧蔵鏡鑑資料」として全 82 件の寄託を受けた。本件は銅製古鏡の一大コレクションで、制作地域的には日本・中国・朝鮮半島、制作年代としては前 5～後 19 世紀までと幅広い。東アジア全体の文化交流や影響関係を物語ることができる資料群である。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
新規寄贈品件数	8件	－	－		1	3	4	5
寄託品件数	885件	－	－		1,219	1,238	1,081	795
うち新規寄託品件数	97件	－	－		17	30	15	12
登録美術品件数	2件	－	－		0	0	0	2

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、分野のバランスよく行うことができた。特に館蔵品の少ない金工分野の優品の寄託を受けることができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	文化交流を主軸に据えた寄託品・寄贈品の受入を、バランスよく行い、中期計画どおり着実に実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1211

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
（４館共通）
1）定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
2）収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
1）文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（東京国立博物館）
1）収蔵品情報調査を継続して行う。
2）歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板･館史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進める。

担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　救仁郷秀明 課長　高橋裕次

【実績・成果】
（４館共通）
1）　寄託品の所在確認作業を行い、所在情報を更新した。また、寄託の継続について寄託者の確認をとった。
2）　本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として保存カルテを作成し、蓄積した。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
1）文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新した。
（東京国立博物館）
1）収蔵品情報調査を継続して行った。
2）歴史資料等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入活用･公開するための作業を進め、500件を編入した。

【補足事項】
（東京国立博物館）
○一時預品の調査確認作業(リスト作成、画像撮影)を行った。
○ICタグの収蔵品管理への導入について検討を行った。
○考古分野の収蔵庫2箇所について、収蔵品等の調査を実施した。



IC タグ導入の検討

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)	1,432件	－	－		1,187	1,594	1,492	1,721

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画の目標とおりの成果を達成することができた。

【中期計画記載事項】国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、かねてよりの課題であった古写真・ガラス乾板の保存・管理に関する検討に本格的に着手した。これにより、次期中期計画の遂行について見通しを立てることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1212

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
2)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
1)文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)年2回行う寄託品の継続手続きにあわせて、所在確認作業を実施した。
2)・貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテの作成を継続して行い、90件作成した。
・収蔵品の貸与記録及び当館における平常展、特別展の展示記録を文化財情報システムへ登録した。
(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)購入品、寄贈品、新規寄託品等、文化財情報システムの収蔵品データを更新した。
○26年度に完了した平成知新館収蔵庫への作品移動について、収蔵庫内で整理作業を行い、収蔵空間の効率的な活用に取り組んだ。
○文化財情報システムについて、入力情報の精査を行い、適宜修正を施した。
○京都国立博物館ウェブサイト内の「館蔵品データベース」掲載の館蔵品の画像の一部について、トリミング等修正を行った。
○新しく導入した水平方向の高精細スキャナー（「オルソスキャナー」）を活用し、損傷の著しい掛幅の書画や錫杖等の縦に長い形状の作品の撮影を行った。
○新規寄贈品・寄託品を中心に、収蔵庫搬入前に酸化エチレン製剤「エキヒュームＳ」による燻蒸庫燻蒸を実施した。
○文化財燻蒸に伴う安全管理を徹底する目的で「京都国立博物館燻蒸業務委託概要」を作成し、関係者の役割分担を明確にした。
○「環境モニタリングシステム」を活用し、平成知新館の温湿度環境の維持・改善や、展覧会の会場計画に役立てた。

【補足事項】
(4館共通)
2)館蔵品・寄託品貸与実績の詳細については処理番号3412を参照。
○収蔵品等の撮影実績の詳細については処理番号2422を参照。


環境モニタリングシステムのモニタリング画面

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存カルテ作成件数	102件	－	－		249	215	253	204

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 26年度に取り組んだ課題について作業の効率化を図ることができた。

【中期計画記載事項】国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 作品の写真・データの蓄積件数は外部からの貸出申請に合わせて変動するため、27年度は減少したが、博物館活動を充実させるため写真・管理データを中期計画に対し順調に蓄積できた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1213

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
2)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
1)文化財情報システム（業務システム）の運用を継続し、収蔵品データを更新する。
（奈良国立博物館）
1)文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的な保存修理を図る。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
(4館共通)
1)
・寄託品の移動時に、保存修理指導室及び列品室の所定フォームに基づく日時連絡を徹底した。
・2ヵ月に1回実施している収蔵庫内環境チェック時、及び年末の収蔵庫査察時に寄託品の所在確認を行った。
2)保存カルテの作成
・文化財の個別写真を添付した保存修理指導室で作成･保管するフォームを用いて100件の保存カルテを作成した。
（東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館）
1)収蔵品データベースの運用を継続し、個別データの追加等更新を行った。
（奈良国立博物館）
1)文化財保存修理所の運用
・文化財保存修理所運営委員会を27年5月7日に開催し、文化財保存修理所の円滑な運用を進めた。
・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する公益財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の3工房代表者と文化財保存修理所協議会を27年9月3日及び28年2月25日に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。
・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を2回実施した。

【補足事項】
・27年12月22日から28年1月17日まで当館西新館北第1室において特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、26年度に文化財保存修理所各工房などで修理が完了した当館収蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示(7件)することで、文化財修理技術を広く一般に理解してもらう機会とした。
・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介する案内パンフレットを、修理所公開や国内外の修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布した。
・28年1月14日に文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。


「新たに修理された文化財」展の展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存カルテ作成件数	100件	－	－		130	127	120	115

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 寄託品の定期的な所在確認により管理が図られた。また文化財の個別写真を添付したフォームを用いた保存カルテを順調に作成した。

【中期計画記載事項】国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品データベースはデータを追加しつつ運用を継続した。文化財保存修理所も円滑に運用することで、文化財に対して積極的な保存修理を実施し、中期計画を順調に実施した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1214

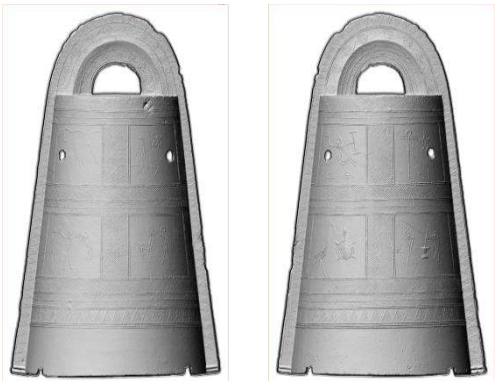
中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存

【年度計画】
収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
(4館共通)
1)定期的に寄託品の所在確認作業を行う。
2)収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。
(九州国立博物館)
1)博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の適切な保存・積極的活用を図る。
2)文化財情報（収蔵品データベース、寄託品・借用品データベース、画像データベース）の一元的管理が可能な業務システム構築を図る。

担当部課	学芸部博物館科学課 学芸部文化財課	事業責任者	課長　今津節生 課長　冨坂　賢

【実績・成果】
(4館共通)
1)出品期間の更新または返却の時期に合わせて所在確認作業を行った。
2)収蔵品及び修理完了資料を中心とした保存カルテを91件作成した。
(九州国立博物館)
1)収蔵品・展示品を中心にＸ線ＣＴスキャナ・３Ｄデジタイザを用いて三次元データを取得して保存状況と構造調査を実施した。また、研究成果を紹介するシンポジウムを実施した。その他、保存修復施設を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。
2)列品・寄託品・借用品・画像などの各データベースを一元管理するシステムを新規に構築し運用を開始した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)神戸市博物館所蔵の桜ヶ丘5号銅鐸をＸ線ＣＴスキャナと３Ｄデジタイザで三次元計測し、これを３Ｄプリンタで出力して触れる複製品として展示した。（特別展「美の国　日本」）また、同様にＸ線ＣＴと３Ｄデジタイザで三次元データ化した西光寺梵鐘を３Ｄプリンタで出力し、これを原型として鋳型の外型を製作し鋳造の研究に用いた。その他、文化交流展示室の展示のために借用した青銅鏡についてＸ線ＣＴスキャナと３Ｄデジタイザで計測を行い、状態調査ならびに古代青銅鏡の変遷に関連する研究を行った。


桜ヶ丘５号銅鐸の三次元計測による側面図

2) 27年度より運用を開始した「文化財情報システム」は、収蔵品・寄託品のみならず、出入りの多い借用品や画像を取り扱うための仕組みが組み込まれている。また、同システム内には陳列情報を管理する機能を有しており、これらの各機能間での相互連動性は高い。今後は実務・研究へのより効果的な活用のため拡張の方向性を検討・具体化しつつ、安定的かつ適切にデータを継承できるようシステム及び内包するデータを整備し洗練させる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存カルテ作成件数	91件	－	－		107	91	94	75
CTスキャン調査	55件	－	－		60	59	58	64
三次元計測	67件	－	－		55	34	43	53

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 カルテの作成や保存修復諸室の活用など実施でき、年度計画を概ね達成している。

【中期計画記載事項】国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 文化財を永く次世代に伝えるため、保存・管理・調査等を中期計画どおり着実に実施することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1221

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】

展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。

(4館共通)

1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。

(東京国立博物館)

1)本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。

2)収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。

3)展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。

4)収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。

5)輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】

(4館共通)

1)収蔵庫など306地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。

(東京国立博物館)

1)本館に存在する収蔵庫18箇所の収蔵実態について環境レベル分けを行ない、本館の全館改修工事を行なう場合の各収蔵庫に対する改修仕様案を作成した。

2)収蔵庫及び展示室など308地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など11地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。

3)法隆寺宝物館の改修に際して、太子絵伝を始めとする収蔵品に対して、安全性を高めた展示支持具を新たに設計した。また、これまでの成果を踏まえた上で中国、韓国の研究者と地震対策に関する研究会を開催し、博物館における防災についての研究を進めた。

4)収蔵庫、展示室など249ヵ所の温湿度、及び11地点の空気汚染物質濃度に関し年次報告書を整備した。

5)特別展開催や収蔵品の貸与に伴う輸送中に生じた振動及び衝撃に関する計測を実施し、8つの計測データを収集した。また、これまでの成果を東京国立博物館紀要51号に論文としてまとめ、刊行した。



収蔵庫内の空気環境計測

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 生物生息、温湿度、輸送中の振動、免震装置の効果などに関する調査と検証を実施し、文化財を保存するための環境の整備に役立てた。

【中期計画記載事項】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、各種の環境データの集積と解析によって、展示・収蔵スペースの保存環境の質的向上と環境改善を効果的に進めることができた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　1222

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
　展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(京都国立博物館)
1)仮設収蔵庫（東収蔵庫）を減築し、隣接する諸施設と調和する外観にするとともに、長期的に継続使用するための改修に向けた設計を行う。
2)明治古都館（本館）の免震補強ほかの改修に向けた基本計画策定の検討を行う。
3)平成知新館の温湿度など、展示・保存環境に関わる調査研究を行う。

担当部課	学芸部列品管理室 総務課	事業責任者	室長　宮川禎一 課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)・年間を通じて、収蔵庫での網羅的な昆虫生息調査を行った。また、温湿度モニタリングを継続して行った。
　・日常清掃のための備品を拡充した。
(京都国立博物館)
1)仮設収蔵庫（東収蔵庫）の機能改善及び減築する中で収蔵スペースを極力確保する計画とした。デザインコードに基づき景観を配慮した設計とした。
2)明治古都館（本館）の免震補強、設備の改善、消火設備等を考慮し展示の他イベントや各種サービスの拡充も視野にいれた基本計画を策定した。
3)平成知新館・明治古都館・東収蔵庫・北収蔵庫、それぞれの施設の特性にあわせた、保存環境の管理・整備を行った。

【補足事項】
○温湿度環境：平成知新館では、「環境モニタリングシステム」、明治古都館・東収蔵庫・北収蔵庫では、温湿度データロガーを活用し、温湿度環境を分析し、空調設定や運転計画に役立てた。また、毛髪式自記温湿度記録計を併用して日常管理を行っている。
○虫菌害対策：27年度行った昆虫生息調査は、平成知新館の展示室・収蔵庫で計200ヵ所・3回、明治古都館収蔵庫・北収蔵庫で計86ヵ所・3回、東収蔵庫で計74ヵ所・2回、明治古都館展示室で30ヵ所・1回のほか、適宜範囲や場所を拡大して実施した。日常の目視点検は、館内職員・監視員の協力を得て行われた。また、一部収蔵庫で付着菌・浮遊菌の調査を実施した。
○空気環境対策：平成知新館の開館から1年が経過したため、一部で有機酸・アンモニアの濃度を調査し、休館期間を利用して展示ケース内の換気を実施し空気環境の維持を図った。


展示ケースの空気環境測定風景


既設東収蔵庫


改修後東収蔵庫
（イメージ図）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 施設の特性にあわせた保存環境の管理・整備を行い、温湿度等への対策を順調に行っている。

【中期計画記載事項】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 今中期期間において、平成知新館を開館した。また、施設の老朽化に対応するための設計、検討を行い、環境整備を順調に進めた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1223

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(奈良国立博物館)1)展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線ＬＡＮによるデータ管理システムを更に充実させる。
2)展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。
3)収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。
4)なら仏像館の展示ケースの改修を行う。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】(4館共通)
1)・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを2ヵ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行うことでIPMを推進した。
・文化財害虫の生息が確認された展示ケースや展示台に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。
・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。
(奈良国立博物館)
1)コンピューターの更新などを進めてデータ管理システムの充実を図るとともに、展示室および展示ケース内の温湿度管理のため導入した無線ＬＡＮによるリアルタイム温湿度管理システムの運用から正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示環境の変化に科学的データを以て即時に対応した。
2)・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線ＬＡＮ温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して今後の参考資料とした。
・正倉院展終了直後の27年11月10日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともに行った。
・東新館の壁付ケースについて、パッキンやシールの追加などを行い気密性の向上を図った。
3)収蔵庫前共用スペースの空調を更新し、収蔵庫入退室時の収蔵品への温湿度負荷の低減を図った。また、無線ＬＡＮ温湿度管理システムによる展示室温湿度の24時間リアルタイムモニタリングを進め、年間を通じて相対湿度６０％前後を維持した。
4)免震性能を有した新たな最新の展示ケースを導入したことにより、保管環境として安全性が向上した。また透過性の良いガラスの使用やＬＥＤ照明の使用等によって、より良い観覧・展示環境が実現できた。

【補足事項】
・展示室、収蔵庫や文化財保存修理所など館内150ヵ所に設置している文化財害虫調査用トラップを、学芸部研究員が当番制により2ヵ月に1回設置・回収を行い、回収したトラップは外部業者に委託して文化財害虫の捕獲数データを蓄積した。この調査データをもとに、害虫被害が懸念される箇所を中心に忌避対策及び殺虫処置を実施し、併せて害虫発生を防ぐための清掃による衛生環境の保持などＩＰＭの実践につなげた。
・機械式自動調湿装置を内蔵した展示ケースを使用することで、多数の観覧者による展示ケース内の急激な温湿度環境変化を緩和し安定した展示環境を保つことができた。


なら仏像館展示室(1)


なら仏像館展示室(2)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昆虫調査用トラップの調査結果の蓄積・分析によりIPMを推進できた。また、展示室湿温度の24時間リアルタイムモニタリングによる適正な環境の維持、なら仏像館の改修により展示ケース等の免震性能を備える等、文化財の保存・管理を行った。

【中期計画記載事項】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】中期計画に沿って、保存･管理のために、温湿度・生物生息等に対する計画的な対策を実施した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1224

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(2)－2　施設の環境整備

【年度計画】
展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭ(総合的有害生物管理)の徹底を図る。
(九州国立博物館)
1)館内の温湿度・空気質・生物生息など保存環境に関するデータを蓄積する。
2)全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津　節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品の生物被害を防止するため、ＩＰＭの徹底を図った。文化財搬入に際し、ＩＰＭメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺黴処理を実施した。
(九州国立博物館)
1)無線温湿度モニタリング装置を活用してデータを蓄積した。収蔵庫、諸室等館内約430ヵ所にトラップを設置し、虫の侵入を調査して保存環境の改善を行った。
2)収蔵庫においても無線温湿度モニタリング装置を活用して環境データ取得の効率化を図った。
・運搬・展示の環境データを解析することで、正倉院・大英博物館などから借用した文化財を安定した状態で展示することができた。

【補足事項】
・温湿度データの管理、解析によって27年度も展示、収蔵環境をより安定させることができた。今後も安定を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。
・収蔵庫、展示室、諸室等の約430ヵ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2週間おきに定期的モニタリングを実施した。害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。
・地元のＮＰＯ法人ミュージアム（ＩＰＭサポートセンター）やボランティアとの連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や粘着トラップの観察には、27年度も引き続き両者の協力を得た。
・ミュージアムＩＰＭ研修等を実施することにより、市民ボランティアやＮＰＯ法人等によるＩＰＭ活動へのさらなる指導を進めることができた。
・殺虫殺黴処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等の借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は薬剤くん蒸処置1件、二酸化炭素処置4件、低酸素法処置5件、調湿温風処理1件、低温処理1件。調湿温風処理、低温処理については、27年度、新たな処置法のオプションとして導入したものである。
・生物モニタリングを継続して観察を進め、それらのデータを活用することによって適切な対策に生かしている。27年度は、特別展示室バックヤード一部の徹底清掃、文化交流展示室の造作下の徹底清掃、一部の扉下に侵入防止ブラシを付加するなどの対応を実施した。



IPM の一環としての
展示室の徹底清掃の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
殺虫殺黴処置	12件	－	－		6	6	10	9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	温湿度計測データを活用し、各展覧会のニーズに合わせて適切な展示環境、収蔵環境の維持をすることができた。また、これまで積み上げてきたＩＰＭ関係の調査結果を利用して、対策を立て実施することができた。

【中期計画記載事項】展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	新システムの導入（温湿度モニタリング装置）、地道な粘着トラップによる生息調査、環境のモニタリングにより、確かな環境整備を行うことができ、中期計画を順調に実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　　①　計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから77件（東京：40、京都：10、奈良：8、九州：19）の本格修理を実施する。
(東京国立博物館)
1)引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。
2)保存修復関係資料(26年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件)

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】
1)紙本などの修理技術者として保存修復課に2名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために543件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから86件の本格修理を実施した。うち国宝3件、重要文化財1件、未指定品4件は寄附金による本格修理である。
(東京国立博物館)
1)修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む305件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期修理計画策定を進めて、86件の本格修理を実施した。
2)データベース構築のために、27年度に修理が完了した90件の修理内容についてデジタル化を実施し、その成果をもとに『東京国立博物館文化財修理報告書XVI』を刊行した。

【補足事項】
・国宝「医心方」（平安～江戸時代）独立行政法人国立文化財機構文化財保存活用基金により、修理を開始した。
・国宝「鷹見泉石像」（江戸時代)、「坪内老大人画稿」(江戸時代)、「坪内老大人像」(江戸時代)はバンク・オブアメリカからの寄附金により修理を開始し、継続して修理を行ない、完了した。
・国宝「雪景山水図」（南宋時代）は増井久代氏からの寄附金により修理を行い、完了した（25年度着工）。
・①重文「放犢図」（元時代）、②「大燈籠」（明治時代）、③「河童形土偶」（縄文時代(中期)・前3000～前2000年）は飯田貞子氏からの寄附金により修理を開始し、①③は完了し、②は継続して修理を行なった。
・文化財保存修復学会第37回大会(27年6月27日、京都)において「被災文化財等救援活動における保存修理―洋紙作品の安定化処理の試み―」「被災文化財等救援活動における保存修理―麻布製カンバスに描かれた油彩画の脱塩の試み」「津波により被災した漆工芸作品の脱塩処理方法の検討」を発表した。
・文化財保存修復学会第37回大会(27年6月28日、京都)において「東京国立博物館蔵　渡辺崋山筆《坪内老大人像画稿（1幅　紙本墨画淡彩)》の修理事例―貼紙のある掛軸装の修理後装丁について」を発表した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
修理件数（本格修理）	86件	40件	A		106	95	93	78
データベース化件数	90件	70件	A		114	83	84	61

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	緊急性の高い本格修理及び対症修理、計画立案のための事前調査を計画的に実施し、厳しい経済的事情の中で、国宝3件、重要文化財6件を含む修理を実施し、当初の予定を上回る内容の成果をあげた。また、関係資料のデータベース化も進めた。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画に従い事前調査、対症修理、本格修理の各段階で保存科学と修理技術が連携して保存修理事業にあたり、博物館活動に対して最適な作品修理を行うことができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　　①　計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから77件（東京：40、京都：10、奈良：8、九州：19）の本格修理を実施する。
(京都国立博物館)
1)中長期的修理計画の策定を検討する。
2)収蔵品修理資料のデータベース化に向けた調査を進める。

担当部課	学芸部列品管理室 学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　宮川禎一 室長　大原嘉豊

【実績・成果】
(4館共通)
1)・本格修理実績　12件　内訳　絵画3件、金工2件、漆工1件、染織5件、歴史1件
　・上記の実績のうち、8件が新規案件である。
　・絵画1件と、漆工1件について、担当研究員及び修理請負候補者選定委員による工程検査を行い、修理が適正に実施されていることを確認した。
(京都国立博物館)
1)中長期的に修理を要する館蔵品リストの更新を行った。
2)26年度に引き続き、「文化財情報システム」運用の改善に努め、収蔵品の修理情報の効率的な活用を目指した。
○文化財保存修理所では、27年度は113件の新規修理文化財の搬入がありデータベース化を行った。また、過去のデータに関して1,378回追加、更新を行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)・黄均筆「江邨漁隠図巻」の絵画1件は、修理して展示することを前提に26年度に寄贈を受けたものである。修理前は本紙と題字部分が分離し、本紙各所に亀裂やカビが生じており、展示に供する状態ではなかったが、今回の修理で本来の淡彩の美しさがよみがえった。
　・列品修理の途中経過について、28年1月に黄均筆「江邨漁隠図巻」の修理請負候補者選定委員と担当研究員による修理工程検査を実施した。また、26年度から継続修理中の「花鳥蒔絵螺鈿篳篥」については、27年8月に修理工程検査を実施した。


黄均筆「江邨漁隠図巻」の修理風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
修理件数(本格修理)	12件	10件	A		10	13	15	11
文化財修理データベース化件数	113件	－	－		118	93	101	113

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 修理を前提とした寄贈を受けることで、収蔵品の充実も図ることができた。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 修理件数の目標値を達成し、中期計画に対し順調に成果を上げた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　　①　計画的な修理及びデータの蓄積

【年度計画】
　修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1)　文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから77件（東京：40、京都：10、奈良：8、九州19）の本格修理を実施する。
(奈良国立博物館)
1)引き続き修理の中長期的計画に基づき修理を実施する。
2)修理資料のデータベース化を図る。
3)寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
(4館共通)
1)・館蔵品本格修理11件のうち、新規7件、26年度からの継続事業4件を実施した。
　内訳　絵画4件　（※うち紙本著色泣不動縁起、絹本著色東大寺曼荼羅の2件は2ヵ年継続事業の最終年度。）
　　書跡1件
　　彫刻3件　（※木造如来立像、木造僧形神坐像、木造女神坐像の3件は1ヵ年で修理完了。）
　　染織2件　（※うち国宝 刺繍釈迦説法図1件は4ヵ年継続事業の最終年度。）
　　考古資料1件
　・年度内に8件が完了した。
(奈良国立博物館)
1)22年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。
2)修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。また、当館紀要『鹿園雑集』に内包する形で報告していた文化財保存修理について、単体での報告書「奈良国立博物館文化財保存修理報告書（仮称)」を28年度に刊行すべく編集作業を進めた。
3)寄託品4件について、寄託所蔵者と協議を行い当館の推薦による財団助成を受けて修理を実施した。

【補足事項】
・展示会場入口に設置した募金箱の寄附金を収蔵品の修理費に使用し、木造毘沙門天立像（髙尾地蔵堂寄託品）、木造僧形神坐像、木造女神坐像の３件の修理を実施した。
・寄託品修理については、出光文化福祉財団の助成による京都・海住山寺所蔵 絹本著色大威徳明王像、朝日新聞文化財団・出光文化福祉財団の助成による滋賀・聖衆来迎寺所蔵 刺繍阿字図の2件について新規着工し、刺繍阿字図は27年度末で修理が完了した。


募金箱の設置状況

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
修理件数(本格修理)	11件	8件	A		11	9	8	9
文化財修理データベース化件数	66件	－	－		54	70	73	77

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 本格修理は目標を達成し、データベース化件数は概ね予定通り実施した。
【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、収蔵品に対しては、財団助成や募金などを活用し、緊急性の高いものから順次修理を実施した。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　1314

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　①計画的な修理及びデータの蓄積　②科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
①修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
(4館共通)
1) 文化財の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから77件（東京：40、京都：10、奈良：8、九州19）の本格修理を実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。
2)修理資料のデータベース化の調査を実施する。
②伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、Ｘ線透過撮影などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】(4館共通)
①　1)館所蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して緊急性の高い文化財31件(本格22件,応急9件)を修理した。
(九州国立博物館)
1)館外所蔵者負担による九州等所在文化財の修理37件のために修復施設を積極的に活用した。館費修理とあわせて68件の修理を実施した。なかでも当館寄託品の久留米市指定文化財「楊柳観音図」(梅林寺所蔵)や、文化交流展で借用していた丹波市指定文化財「涅槃図」(妙法寺所蔵)の修理が実施され、保管や展示などの核となる博物館に修復施設が設置されている利点を十分生かせた。
2)修理報告書及および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。
②1)重文「対馬宗家関係資料」(当館所蔵)等紙文化財の繊維同定を行い、文化財毎に適切な補修紙を作成することができた。
2)国宝「栄花物語」(当館所蔵)について解体時に発見された旧表紙と思われる紙片に残る金属箔の蛍光X線分析を行なうなど、修理中でしか行うことのできない調査を実施することができた。

【補足事項】(4館共通)
1) 館費による修理件数31件(本格22,応急9)
(絵画14(本格9,応急5)、書跡1(本格1)、染織6(本格6)、歴史資料5(本格3,応急2)、考古2(本格1,応急1)、民族資料2(本格2)、その他1(応急1)
(九州国立博物館)
・修復施設1～4（3のみ4月～12月）では、国宝修理装潢師連盟が館所蔵品20件の他、国宝「琉球国王尚家関係資料」の文書記録類（那覇市所蔵）や重文「田能村竹田関係資料」（大分市美術館所蔵）など、合計52件の修理を実施した。
・修復施設3(12月～3月)では、修理工房宰匠が重文「扶桑略記巻第二十」（文化庁所蔵）の他、合計2件の修理を実行した。
・修復施設5では、芸匠が館所蔵品2件の他、重文「吉武高木遺跡Ｍ２号出土銅剣」（文化庁所蔵）など合計5件の修理を実施した。
・修復施設6では、大西漆芸修復スタジオが館所蔵品1件の他、重文「白鞘入剣」の外箱・白鞘（宇佐神宮所蔵）など、合計9件の修理を実施した。


重美・両界曼荼羅の修理風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
修理件数(本格修理)	22件	19件	B		19	20	17	23
文化財修理データベース化件数	－	－	－		－	－	－	－
修復施設の活用(補助事業等)	37件	－	－		19	22	29	31
表具裂データ	4件	－	－		0	0	10	2
科学的調査	16件	－	－		24	11	10	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 伝統的な修理技術と科学的な保存技術を取り入れた修理を実施することができた。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、伝統技術に科学技術を取り入れながら計画的に修理を実施できた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承		
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　　②　科学的な技術を取り入れた修理		

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、赤外線撮影、Ｘ線透過撮影、三次元蛍光分光分析などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(東京国立博物館)
1)Ｘ線ＣＴスキャナーを運用し研究の進展を図り、より適切な修理方法、展示、輸送に関する検討する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】
1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を5件（A-12439年中行事図屏風など)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析60件、1,755箇所（B-3178 医心方など)、Ｘ線透過撮影　248件、387カット(J-20465有柄鉄斧など)、赤外線撮影　1件28カット(A-12435柿本人麻呂像)、三次元蛍光分光分析　2件、20箇所（P-419旧江戸城写真帖）の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。
(東京国立博物館)
1) Ｘ線ＣＴスキャナーシステムで館内外の文化財に対して75件（H-86八橋蒔絵螺鈿硯箱など）275回撮影を行った。

【補足事項】

・東京国立博物館でもより深い文化財調査を行うべく、性能の違う３台のＸ線ＣＴスキャナーを 26 年度に設置し、27 年度から運用が本格化した。



修理前作品の状態調査



調査研究活動における構造調査

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 従来のＸ線透過撮影に加えＸ線CTスキャナーの導入により立体文化財の内部構造や状態の確認が出来るようになり、修理前調査や作品研究において精度の高い情報を用いて行うことができるようになった。また、蛍光Ｘ線線分析や赤外線撮影などの基本的な調査分析も文化財の保存や修理、研究において価値のある調査であり、引き続き精度の向上とデータの活用方法の発展が期待できる。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 立体から平面まで様々な文化財の保存状態確認のための科学的調査を修理技術者、学芸研究者らと共に実施し、修理の仕様策定、作品研究と展示における調査結果の活用などに結びつけることが中期計画に従い、順調に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承		
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　②科学的な技術を取り入れた修理		

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光Ｘ線分析、赤外線撮影、Ｘ線透過撮影、三次元蛍光分光分析などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(京都国立博物館)
1)引き続き文化財材質分析システム等を整備する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)・24年度より朝日新聞文化財団の助成にて修理を継続している国宝「病草紙」について、最終年度にあたり、紙質調査の成果の結果と仕上げの状況について確認を行った。
2)・マイクロフォーカスＸ線装置、蛍光Ｘ線分析装置などで、文化財の調査を行った。内部構造及び材料等が解明し、修理指針の検討を行うことができた。
・重文「二十五菩薩来迎図扉絵」(京都・禅林寺蔵、寄託品）修理に際して、透過Ｘ線撮影を行い、表面彩色層に隠れて見えない構造の分析を行い、設計指針に役立てた。
(京都国立博物館)
1)27年度は、新たに分光測色計、分光器、デジタルマイクロスコープ、Ｘ線発生装置などを購入し、文化財材質分析システムの整備を進めた。

【補足事項】
(京都国立博物館)
1)導入した機器については27年度試験運用を行った。本格的な運用については28年度以降進める予定である。


Ｘ線ＣＴ調査風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
科学的調査	19件	－	－		－	1	1	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 分析機器の整備を進め、積極的に多分野での試験運用を行った。研究データの蓄積とともに、科学的な保存技術を取り入れた修理のための準備を順調に進めている。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 近年導入を進めている化学分析機器の有効活用を目指し、収蔵品だけでなく寄託品の修理も含めて、担当研究員と修理施工者との連携を深め、分析件数を漸増させている。今後もより積極的な活用を目指し、機器の積極的な活用を図るため館内指針の策定などを進める必要性がある。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313-2

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－1　収蔵品の修理　　②　科学的な技術を取り入れた修理

【年度計画】
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
(4館共通)
1)紙本文化財について、繊維同定を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、赤外線撮影、X線透過撮影、三次元蛍光分光分析などの光学的調査を行い、文化財の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
(奈良国立博物館)
1)木造文化財について、木材樹種同定の調査を行い、文化財の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。
2)古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
(4館共通)
1) 株式会社文化財保存と共同で修理文化財についての調査を実施し、修理指針の検討資料とした。
2)・館蔵品や寄託品の修理に際し、当館が保有する光学機器を用いて当館研究員と文化財保存修理所工房職員が共同で赤外線撮影や顔料の蛍光X線分析等を実施した。
・絵画作品の修理に際して赤外線撮影を実施した。(実施計6回)
・修理に反映させるため、絵画表面の顔料に対して蛍光X線分析を実施した。(実施計2回)
・工芸や彫刻作品の修理に際して、内部構造を調査するためX線透過撮影を実施した。(実施計3回)(奈良国立博物館)
1)当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品について、京都大学生存圏研究所と連携して樹種同定調査を行い修理に活用した。(実施計6件)
2)古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材質調査を行い、製作技術の解明や修理方針の策定に活用した。(実施計1回)

【補足事項】
・文化財保存修理所の各工房が、当館の館蔵品や寄託品の修理に際して文化財調査を当館研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。またこれらの調査を円滑に進めるために、当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、近赤外線カメラ、蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置など)を積極的に活用した。



蛍光X線分析器

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
光学的調査	18回	－	－		－	－	9	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 修理所との連携が進み、修理に際して共同で調査を行う環境が整ってきた。これにより26年度を大きく上回る回数の光学的調査を実施することができた。今後も積極的に調査することで、よりよい修理のために得られたデータの活用を図る。

【中期計画記載事項】修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 保存科学担当者と修理技術者が繊維同定や樹種同定、科学分析などを修理前や修理中の文化財に対し行うことで、科学的な保存技術の成果を取り入れ、中期計画を順調に遂行した。

【書式Ａ】　施設名　京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　1320

項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－2　国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実

【年度計画】（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
1)文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行う。
（京都国立博物館）
1)引き続き文化財保存修理所の改修工事を行う。

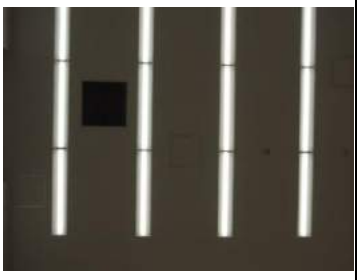
担当部課	京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　植田義雄 課長　中村　恵 課長　今津節生

【実績・成果】
（京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館）
1)・奈良国立博物館の文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行った。
・九州国立博物館の保存修復施設について、室内温湿度環境の改善の検討を行った。
・九州国立博物館の保存修復施設について、ＬＥＤ照明に交換した。
・九州国立博物館の保存修復施設第1室の中二階化を図った。
（京都国立博物館）
1)・文化財保存修理所改修工事（2期)、関連する電気設備工事及び機械設備工事が完了した。

【補足事項】
（奈良国立博物館）
・保存修理所内の空調機の点検を行い、加湿装置の部品を一部交換した。
・修理工房内で使用するリフターの点検を行った。

（九州国立博物館）
・保存修復施設内の温室度環境をより安定的に維持し、安全に修復作業を行うことを目的として、博物館の東壁に面する保存修復施設外周部のペアガラスの上に新たにガラスを貼り付け、遮熱性と断熱性を高めた。その結果、厳冬期でもガラス面の結露が無くなった。
・九州国立博物館の保存修復施設第1～4室は天井高が7ｍあり、蛍光灯が切れた場合の交換作業に大変な労力を必要としていた。27年度、蛍光灯が切れ出したため、ＬＥＤ照明に全て交換し、交換の労力を少なくすると共に、省エネ化を図った。


ガラス工事後の様子（九博）


LED 照明交換後の様子（九博）

・装潢作業を行っている第1～3室では、古文書や歴史資料等の修理事業が増加し、施設が手狭になってきているため、第1室の中二階化を図った。


工房用流し(京博)


バックアップ熱源（京博）


電気室更新（京博）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】順調に成果をあげている。京都国立博物館では文化財保存修理所の改修工事が完了した。九州国立博物館では、施設の改修等によって、より安全な施設や環境で修理を実施できるようになった。

【中期計画記載事項】国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】中期計画に対し順調に成果をあげることができた。京都国立博物館では文化財保存修理所の改修工事が完了した。九州国立博物館では、安全な施設、環境で修理を実施できるよう、日常的に検討を行うことができた。

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 1330

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
事業名	(3)－3　収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本整備の充実に向けた検討

【年度計画】収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部文化財課	事業責任者	課長　救仁郷　秀明 室長　宮川　禎一 課長　中村　恵 課長　冨坂　賢

【実績・成果】

（東京国立博物館）

・自己収入による予算の追加配分により東洋館2階の収蔵庫に棚(東洋民族)を新設し、収納の効率化を行った。

・本館地下の収蔵庫(考古分野2箇所)について清掃と整理を実施した。

（京都国立博物館）

・26年度に完了した平成知新館への作品移動について、完了後に収蔵品の配置を再検討し、収蔵空間の効率化を図った。

・26年度に改修が終了した北収蔵庫について、収蔵品の移動を行った。特に今後継続的に見込まれる大型の寄贈案件を収蔵する空間として運用を開始した。

・明治古都館の本格改修事業に伴う東収蔵庫の減築計画の実施に向けて、減築後の運用に関する検討を始めた。

・外箱のない作品について、資料保存用のアーカイバル・ボックスを導入した。これによりボックスに収納した作品を積み重ねることができ、収蔵空間の増加を実現した。

・KICK（けいはんなオープンイノベーションセンター）内の2室の収蔵庫は、26年度の収納棚整備に続き、京都府と連携して機械設備の点検・整備を進め空調運転を開始、各種のモニタリングにより保存環境としての安全性を確認した後、その一部を館蔵品の外部収蔵場所として運用を開始した。

（奈良国立博物館）

・複数室一体で温湿度管理を実施していた箇所について、詳細な温湿度管理に向けて各部屋毎に計測器を設置した。

・収蔵スペースの確保のため、低利用度スペースの収蔵庫化について検討を行った。

（九州国立博物館）

・26年度に引き続き写場の整備に取り組み、出入口用の鉄扉が大扉１枚造りであり撮影に影響を与えることがあったため、小扉を付設した。

・長期借用及び一時預かり文化財について、当館展示等活用の頻度を勘案し、返却するものは返却し、収蔵スペースの確保に結びつけた。

・館内における遊休スペース活用のために、倉庫に中軽量棚を設置し、備品等保管のスペースを確保した。

【補足事項】

（京都国立博物館）

・平成知新館収蔵庫での作業の効率化のために、脚立を複数本導入した。

・東収蔵庫の減築に際しては、現存の収蔵棚を最大限活用する方針で、再使用できるものを精査した。

・KICK収蔵庫内にて実施したモニタリングは、データロガーによる温湿度調査、昆虫生息調査、付着菌・浮遊菌調査、気流調査である。この結果は、季節に応じた空調の設定変更、害虫侵入対策等に速やかに生かされた。



KICK 収納棚の付着菌調査風景（京博）



倉庫に設置した中軽量棚（九博）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】順調に成果をあげている。京都国立博物館は収蔵庫内の効率的な収納について運用の改善に努め、九州国立博物館は、26年度に引き続き写場整備に取り組み、施設の改善を図った他、遊休スペースの有効活用に取り組んだ。

【中期計画記載事項】収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】順調に成果をあげた。京都国立博物館は収蔵庫改修計画において28年度以降も弾力的な運用ができるよう検討を行い、基本設備の充実を図っている。九州国立博物館は施設の増床が望めない中、収蔵品の保管場所を工夫するなどにより、収蔵スペースの確保等を行い、写場の整備を進めた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2111-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　①－1　平常展

【年度計画】

展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

(4館共通)平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。

(東京国立博物館)

ア　定期的な陳列替の実施（年5,500件）

イ　陳列総件数　約7,200件

ウ　「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。また、平成館考古展示室のリニューアルは前年度に引き続いて行い、27年10月より再開する。法隆寺宝物館は5月下旬から空調設備等改修に伴い閉館し、28年3月中旬から再開する。

エ　特集

特別展「鳥獣戯画」の開催に合わせた「鳥獣戯画と高山寺の近代」（4月28日～6月7日）、東洋館の展示を中核に据えた企画「博物館でアジアの旅」期間中に「中国書画精華」（9月8日～11月29日）、「漢･唐時代の陶俑」（9月1日～12月23日）等を開催する。すでに恒例となった「博物館に初もうで」、「博物館でお花見を」関連企画、上野動物園・国立科学博物館との動物を取り上げた連携企画「美術のくにの象めぐり」（4月7日～5月17日）、台東区立書道博物館との連携企画「顔真卿と唐時代の書」（12月1日～28年1月31日）などを実施する。他に「日御碕神社の甲冑と模写図」（4月7日～7月5日）、「聖母マリアの系譜」（7月7日～8月30日）等。

オ　文化庁関係企画

「平成27年 新指定 国宝・重要文化財」（4月21日～5月10日）にて、平成27年に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長　救仁郷秀明

【実績・成果】

(東京国立博物館)

ア　定期的な陳列替を実施し、6,930件の展示替を行った。

イ　陳列総件数　8,911件

ウ　本館１階展示ケースの修理点検、清掃などで保存環境及び観覧環境の向上を図った。東洋館の展示ケースの補修を行った。また、展示環境の改善のための工事を実施した平成館1階考古展示室を27年10月から再開した。

エ　31件の特集を実施した。

オ　「平成27年 新指定国宝・重要文化財」を実施した(4月21日～5月10日)。また、新指定の重要文化財となった彫刻の一部を、同時期の本館11室においても展示した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	747,944人	362,470人	S		324,597	416,430	484,429	587,528
陳列替件数	6,930件	5,500件	A		4,914	6,989	5,708	5,506
陳列総件数	8,911件	7,200件	A		7,394	9,190	8,824	8,161
特集陳列等実施回数	31件	－	－		32	47	33	22

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】法隆寺宝物館の改修工事による休館にもかかわらず、平成館1階考古展示室の展示再開、黒田記念館のリニューアルオープン、特別展に関わる特集や「博物館に初もうで」など、展覧事業の充実によって、目標値の200%を上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 平常展示とともに、テーマ性を持った特集「博物館でアジアの旅」にかかるイベント等を充実させたことによって、国内外の多く来館者があり、中期計画を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2112-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展

【年度計画】
(4館共通)平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(京都国立博物館)
ア　明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための平常展展示計画を検討する。
イ　定期的な陳列替を行い、テーマ性を持った展示を行う。(陳列替件数　年700件)
ウ　陳列総件数　約1,000件
エ　特別展示室において、部門を超えた特集陳列を行う。
・「葵祭の美術」(4月21日～5月31日)・「日本の仮面」(6月9日～7月20日)・「獅子と狛犬」(28年1月2日～2月21日)
・「雛まつりと人形」(28年2月26日～4月10日)

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
ア　明治古都館改修に伴い、平成知新館で特別展「琳派　京を彩る」を開催することになったため、新たに名品ギャラリーの展示計画を検討した。
イ　定期的な陳列替を行い、展示室ごとにテーマ性を持った展示を行った。(陳列替件数 1,145件)
ウ　陳列総件数1,438件
エ　年度計画に加え、2階１室～5室において新春特集陳列「さるづくし－干支を愛でる－」(27年12月15日～28年1月24日)、特別展示室にて特集陳列「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」(27年12月15日～28年2月21日)、2階1室～5室で特集陳列「皇室ゆかりの名宝」(28年1月26日～2月21日) を開催した。

【補足事項】
・端境期である12月～3月に来館者を誘致するため、干支を特集した「さるづくし－干支を愛でる－」、27年の刀剣ブームに合わせ名物刀に焦点をあてた「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」、ＪＲ東海と連携し、ＣＭの放映時期に合わせて「皇室ゆかりの名宝」などの特集陳列を企画し、来館状況や来館者のニーズに合わせて柔軟に展示計画を設定した。
・当初目標としていた陳列替件数・陳列総件数は、旧来の展示館の実績と、26年度開館した平成知新館の実績をもとに算出したものであった。平成知新館の展示実績は半年分しかなかったが、新たに特集陳列を企画したことにより、当初の想定数量を大幅に上回ることになった。
※平常展来館者の、27年度目標値算出について
(H27目標来館者数)＝(前中期平均来館者数171,110人)×((開館予定日数) 223日)/((通常の年間開館日数) 310日)＝123,088.806451･･･≒123,089人





新春特集陳列「さるづくし」・特集陳列「刀剣を楽しむ」チラシ表（写真左）・裏（写真右）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	205,526人	123,089人	A※		－	－	－	265,791
陳列替件数	1,145件	700件	A※		－	－	－	693
陳列総件数	1,438件	約1,000件	A※		－	－	－	980
特集陳列等実施回数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】
評定：　A

【判定根拠、課題と対応】
判定根拠：柔軟な展示計画により、陳列替件数・陳列総件数ともに目標値を上回ることになり、年末年始の入館者数は連日1,000人を上回ることとなった。また、音声ガイド業務委託先と協力した新たな試みにより、新たな客層の誘致にも成功した。
対応と課題：干支の展示を恒例のものとして周知し、年末年始の一定の来館者数を維持する。「刀剣を楽しむ」の来館者層を一過性のものではなく、リピーターとして取り込むよう努める。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市･京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

【中期計画に対する評価】
評定：　A

【判定根拠、課題と対応】
判定根拠：中期計画どおり平常展示館の建て替えを終了し、26年度から平常展を開催した。常設展示としての位置づけである名品ギャラリーだが、特集陳列ごとにリーフレットやチラシを作成し、最新の研究成果を盛り込んだ。
「葵祭の美術」や「皇室ゆかりの名宝」、「雛まつりと人形」など、京都文化を紹介する展示に加え、「日本の仮面」、「さるづくし－干支を愛でる－」など、アジア的な視野に立った陳列を行い、また「葵祭の美術」ではケース内を葵の造花で彩り、「日本の仮面」ではキャプションに各仮面の重量を記載するなど新たな試みを行った。また、「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」は、２階展示室の横断的な展示とし、大きく部門を越えたものとなった。
課題と対応：次期中期計画においても、京都文化の本質を紹介する平常展示・特集陳列を積極的に推進する予定である。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　①－1　平常展　(1/2)

【年度計画】（4館共通）
平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
（奈良国立博物館）
ア　活発な収集と新しい資料の発掘により名品展（平常展）の充実を図る。
・西新館　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいうべき作品群を展示する。（なら仏像館の改修に伴い、彫刻の名品展展示を西新館に移して実施する）
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　27年度は展示ケース等改修工事のため通年休館
・青銅器館　中国青銅器の名品展
　国内における屈指の青銅器コレクションを展示する。
・特集展示
　収蔵品等からテーマを選び行う小企画展示を行う。
イ～エ(略)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(4館共通)平常展来館者数は、本年度の目標値となっていた前中期計画期間の年度平均（118,032人）を上回らなかった。これは、年間を通じてなら仏像館が施設工事のため休館した影響であり、休館期間を織り込んだ補正目標値には到達することができている。
（奈良国立博物館）
ア　名品展では多数の優れた文化財をバランス良く展示できた。
・西新館　彫刻・絵画・書跡・工芸・考古部門の名品展
　名品展「珠玉の仏教美術」を、4月1日～6月28日及び12月8日～28年3月14日に開催した。
・なら仏像館　彫刻部門の名品展
　年度計画どおり、本年度は展示ケース等改修工事のため通年休館した。
・青銅器館　中国古代青銅器の名品展
　中国商（殷）～漢代の青銅器を展示した。ただし、7月17日及び10月23日～11月9日は臨時休館した。
　また通年観覧無料とした。
・特集展示「新たに修理された文化財」（12月22日～28年1月17日）を開催した。



西新館名品展 展示会場

【補足事項】
　なら仏像館が休館していたため、仏像の一部を西新館名品展「珠玉の仏教美術」で陳列した。
※平常展来館者数の目標値の補正算定式
(1)補正前の目標値118,032人を展示面積で按分
なら仏像館　：118,032人×1,261㎡÷1,731㎡=85,236人（a）
青銅器館　　：118,032人×　470㎡÷1,731㎡=32,047人（b）
(2)工事による休館日数を考慮
なら仏像館　：85,236人（a）×147日（開館実績）÷ 320日（工事がなかった場合の開館日数）＝39,155人（c）
青銅器館　　：32,047人（b）×304日（開館実績）÷ 320日（工事がなかった場合の開館日数）＝30,445人（d）
(3)補正目標値：39,155人（c）+ 30,445人（d）＝69,600人（e）となる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	95,208人	69,600人	A		130,839	145,914	122,075	92,147

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】工事による休館等により、開館日数や展示に制約があった中で、入館者数を確保しつつ多数の優れた文化財をバランスよく展示できた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】来場者数の23～27年度における平均は、前回中期計画期間の平均118,032人を上回っており順調である。次期中期計画期間には一層のファン開拓への努力を行う。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2113-1-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　①－1　平常展　(2/2)

【年度計画】
(奈良国立博物館)
ア(略)
イ　定期的な陳列替の実施（年180件）
ウ　陳列総件数　約600件
エ　特別陳列により名品展の充実を図る。
　独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実
　・「名匠三代－木内喜八・半古・省古の木工芸－」(6月2日～28日)
　・「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～28年1月17日)
　・「お水取り」(28年2月6日～3月14日)
　・銅造伊豆山権現像修理記念「伊豆山神社の歴史と美術」(28年2月6日～3月14日)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
イ　定期的な陳列替を実施し、286件を替えた。
ウ　陳列総件数　620件
エ　下記特別陳列を開催し、平常展の充実を図った。
　・「名匠三代―木内喜八・半古・省古の木工芸―」(27年6月2日～28日)　陳列件数27件
　・「おん祭と春日信仰の美術」(27年12月8日～28年1月17日)　陳列件数51件（陳列替14件）
　・「お水取り」(28年2月6日～3月14日)　陳列件数65件
　・「銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術」(28年2月6日～3月14日)　陳列件数26件（陳列替3件）

【補足事項】
ウ 名品展(平常展)における陳列総件数620件の内訳は次のとおり。
　　中国古代青銅器(青銅器館)　237件
　　珠玉の仏教美術(西新館)　376件
　　特集展示「新たに修理された文化財」(西新館)　7件

※26年度まではなら仏像館における特集陳列が回数に含まれていた。27年度は仏像館にてこのような特集陳列がなかったことから回数が減少している。


名品展「中国古代青銅器」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
陳列替件数	286件	180件	A	経年変化	481	465	130	208
陳列総件数	620件	約600件	B		1,092	814	632	675
特集陳列等実施回数	※1回	－	－		12	6	10	6

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	陳列総件数は所期の目標を達成した。陳列替を定期的に実施することで、全体として展示内容を充実させることができた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画期間を通じて限られた展示面積のなか、定期的な陳列替えにより、日本の歴史・伝統文化への理解を促進させるに足る体系的・通史的な平常展を実施できた。さらなる理解の深化のためには陳列数を増やすことが課題で、それには陳列室の拡充とスタッフの増員が必要である。増員は、研究成果を今以上に充実させるためにも不可欠である。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2114-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　①－1　平常展

【年度計画】(4館共通)
平常展来館者数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期計画期間の年度平均の確保を目指す。
(九州国立博物館)
ア　定期的な陳列替の実施（年600件）
イ　陳列総件数　約700件
ウ　文化交流展（平常展）のリニューアルに着手する。
エ　トピック展示により、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマを掘り下げる。
・「柿右衛門―受け継がれる技と美―」(27年3月3日～5月10日)
・「新羅王子がみた大宰府」(9月22日～11月29日)
・「社寺縁起―八幡縁起を中心に―」(28年2月2日～3月13日)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
1)平常展来館者数は、前中期計画期間の年度平均を達成した。
ア　定期的かつ計画的に陳列替を実施し、1,513件の陳列替を行った。
イ　陳列総件数は2,628件。文化交流展室のリニューアルを行ったことで、展示品とテーマの関連性がわかり易くなった。
ウ　27年度は開館10周年の節目にあたって文化交流展のリニューアルを実施し、文化交流という当館のコンセプトに根ざした、より分かり易い展示室をケース配列・展示テーマの両面から見直した。
エ　独創的な着想に基づいたトピック展示（特集陳列）・特別展示を8回実施し、地元に密着したテーマを行うことができた。

【補足事項】
・文化交流展示室リニューアル
文化交流展示室ではエントランス部分に展示室を構成する5つのテーマをグラフィカルに掲出し、中央部には展示室模型を設置したガイダンスエリアを新設、また、そのエリアから各テーマへのいざないとしてグラフィックサインを設けた。各テーマのエリアが分かるように、サインを設けた。この他に、当館で製作した絵本を紹介するコーナーを新設した。
・トピック展示「柿右衛門―受け継がれる技と美―」
28 年に 400 周年を迎える肥前磁器生産をテーマに、柿右衛門様式の変遷に焦点を当てたトピック展示である。柿右衛門の歴史的変遷をたどると同時に、江戸時代と現代の柿右衛門のテーブルコーディネートの対比が話題となり、カタログの内容についても高い評価を得た。
・トピック展示「新羅王子がみた大宰府」
26年、大宰府史跡に「推定客館跡」が追加指定されたことをきっかけに、太宰府市教育委員会との連携事業として開催したトピック展示。
・トピック展示「祈りのかたち 八幡」
九州で発祥した八幡信仰をテーマに全国的な視野で捉え、美術・工芸・歴史資料・考古など幅広くかつ歴史的に位置づけたトピック展示。なお、当初年度計画では、「社寺縁起―八幡縁起を中心に―」であったが、トピック展示名称を変更した。


文化交流展リニューアル後の
「きゅーはく絵本」紹介コーナー


「柿右衛門」展示風景


「新羅王子がみた大宰府」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平常展来館者数	412,621人	380,690人	B		358,366	460,525	349,848	357,362
陳列替件数	1,513件	600件	A		1,373	1,195	1,157	1,027
陳列総件数	2,628件	約700件	S		2,417	2,416	2,750	1,904
特集陳列等実施回数	8回	－	－		13	12	14	11

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	平常展来館者数は目標値を達成し、陳列替件数及び陳列総件数は目標値を大幅に超えることができた。

【中期計画記載事項】平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	リニューアルを経て、文化交流というコンセプトがわかりやすくなり、中期計画のとおり当館の特色を生かした展示を行うことができた。

【書式A】　施設名 東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号 2110-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1) 展覧事業の充実　①－2　展示説明の充実

【年度計画】(4館共通)
1)作品キャプションについては全てに英語訳を付す。
2)展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	課長 企画室長 情報サービス室長 課長兼文化交流展室長	救仁郷　秀明 浅見龍介 岩井共二 河野一隆

【実績・成果】
1)（東京国立博物館）東京国立博物館の展示説明において作品キャプション全英語訳を付した。
（京都国立博物館）作品キャプションについては全てに英語訳を付した。
（奈良国立博物館）名品展の作品題箋には全て作品名及び解説の全てに英訳を付した。
（九州国立博物館）
・文化交流展示（平常展）を構成する5つのテーマの紹介文の見直しを図りよりわかりやすく、かつ展示内容により即した内容とし、これを日・英・中・韓の4言語併記で掲示した。
・個別テーマの展示について、概要説明及び、挨拶パネルを原則日英併記で掲示した。また個別作品の解説についても従来通り日英併記を原則とした。
2)（東京国立博物館）展示テーマ数 140件(100%)について外国語パネルを設置した。また、74 件(56%) については中国語、韓国語での解説も付している。
（京都国立博物館）展示テーマ数 74 件のうち、 74 件（100%）について外国語パネルを設置した。
（奈良国立博物館）展示テーマごとに、時代背景等を説明した外国語を名品展・特別陳列・地下廻廊展示のパネルに全て併記した。
（奈良国立博物館）展示テーマ数71件のうち、71件（100%）について外国語パネルを設置した。
（九州国立博物館）外国語パネルを92%設置した。


「白鳳展」テーマ解説パネル（英訳付）（奈良博）



特集陳列「皇室ゆかりの名宝」解説パネル（日英）（京博）

【補足事項】
（京都国立博物館）4言語による音声ガイドを提供。
（九州国立博物館）
・文化交流展示室では、各テーマのカラーを決めてビジュアル的に分かるようにし、かつ日・英・中・韓の4言語で歴史の流れを解説した。さらに、時代表記については、原則として西暦が目立つようにデザインし、日本の歴史に詳しくない人が見ても、いつ頃のことかイメージできるようにした。
・展示趣旨についても、日英2言語で表記した。このように、題箋・グラフィックパネルの大幅な見直しによって、より幅広い客層への展示を行うことができた。


日英で標記した題箋（九博）



リニューアルした5テーマ章解説（九博）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
外国語パネル等の設置								
東京国立博物館	100%	80%以上	A		97%	100%	100%	100%
京都国立博物館	100%	80%以上	A		－	－	－	100%
奈良国立博物館	100%	80%以上	A		89%	100%	91%	100%
九州国立博物館	92%	80%以上	B		94%	87%	85%	92%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： A	【判定根拠、課題と対応】4館とも目標値を上回る成果を達成した。九州国立博物館においては多言語標記に加え、視覚的な分かりやすさを向上させることにも取り組んだ。

【中期計画記載事項】展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： A	【判定根拠、課題と対応】中期計画の期間において、いずれの館も外国語パネルの設置率を向上させ、目標値を上回る成果を達成した。さらに、英語以外の言語の解説の整備や、視覚的な工夫にも取り組むことができた。

【書式Ａ】　施設名　東京・京都・奈良・九州国立博物館　処理番号　2120

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展		
【年度計画】特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館)　年3～4回程度　(京都国立博物館)　年2～3回程度 (奈良国立博物館)　年2～3回程度　(九州国立博物館)　年2～3回程度			
担当部課	東京国立博物館学芸企画部企画課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部企画課	事業責任者	学芸企画部長　井上洋一 学芸部長　伊藤嘉章 部長　内藤　栄 課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
(東京国立博物館) 特別展を6回開催した。内訳：当館開催5回、海外展1回
(京都国立博物館) 特別展覧会2回、特別展観1回を開催した。
(奈良国立博物館) 特別展を4回開催した。内訳：当館開催3回、海外展1回
(九州国立博物館) 特別展を4回開催した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
・特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」は平成知新館で開催する最初の展覧会であり、今後の京都国立博物館の特別展の開催を考える上で重要な展覧会となった。京都をあげての琳派400年の盛り上がりの中で、昭和48年の「中華人民共和国出土文物展」につぐ327,925人という多数の観覧者を迎えることができた。展示替による作品の変化で行列の出来方にも大きな変化があり、今後の検討材料となった。
(九州国立博物館)
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」
本展は開館10周年の式典に合わせ、当館の原点回帰を目的として開催し、開館後第1回目の展覧会と同じ名称を付けた特別展である。1回目と同じく正倉院宝物のうち、「螺鈿紫檀五弦琵琶」が大きな反響を呼んだほか、国宝・重要文化財が集結した10周年に相応しい展覧会となった。



(京都国立博物館)琳派展会場
風神雷神図屏風の競演



「美の国　日本」「琉球の美
アイヌの美」展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
特別展等の開催回数								
東京国立博物館	6回	年3～4回程度	A		7	9	8	8
京都国立博物館	3回	年2～3回程度	B		6	5	3	2
奈良国立博物館	4回	年2～3回程度	A		3	3	3	3
九州国立博物館	4回	年2～3回程度	A		5	4	5	5

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4館で目標値を3割以上上回る回数の特別展を開催している。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)年3～4回程度　(京都国立博物館)年2～3回程度　(奈良国立博物館)年2～3回程度
(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の目標を大きく上回り、順調に推移している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(1/5)

【年度計画】
ア　特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」（平成27年3月17日～平成27年5月17日）
　　インド、コルカタのインド博物館の所蔵する仏教美術の名品を通して、その歴史を辿る。（目標来館者数6万人）

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	元学芸企画課長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」
・会　　期　27年3月17日（火）～27年5月17日（日）（56日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、インド政府文化省、コルカタ・インド博物館、インド大使館、日本経済新聞社、
　　BSジャパン
・協　　賛　野崎印刷紙業、三井物産
・協　　力　エア インディア
・作品件数　91件
・来館者数　97,300人（目標60,000人・達成率162.1%）
・入場料金　一般1400円（1200円／1100円）、大学生1000円（800円／700円）、高校生800円（600円／500円）
中学生以下無料、＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　80%

インドのコルカタ（旧カルカッタ）に所在し、1814年に創立したアジア最古の総合博物館であるインド博物館が所蔵する、古代初期を代表するバールフット遺跡の出土品、仏像誕生の地であるガンダーラやマトゥラーの美術などを展示し、インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった。

【補足事項】



ポスター


会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	97,300人	60,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 インド、コルカタのインド博物館の所蔵する仏教美術の名品を広く紹介し、インドの仏像の魅力を示すことができた。目標を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2121-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(2/5)		
【年度計画】 イ　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」（平成27年4月28日～平成27年6月7日） 京都・高山寺の歴史をたどり、合わせて日本絵画史上屈指の名品である鳥獣戯画の全巻を紹介する。目標来館者数18万人）			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　土屋貴裕

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」
・会　　期　27年4月28日（火）　～ 27年6月7日（日）（36日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、高山寺、朝日新聞社
・特別協賛　髙島屋
・協　　賛　カネカ、三井物産、凸版印刷
・協　　力　集英社、ビックカメラ、三井住友銀行、あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　123件
・来館者数　239,115人（目標180,000人・達成率132.8%）
・入場料金　一般1600円（1400円／1300円）、大学生1200円（1000円／900円）、高校生900円（700円／600円）
中学生以下無料、＊（　）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%

日本で最も有名な絵巻の一つである国宝・鳥獣戯画は、墨線のみで動物や人物たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品で、近年修理を終えた。本展覧会では、鳥獣戯画全4巻と、いま存在が確認できる断簡5幅も展示した。また、鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺に伝わる、鎌倉時代の高僧明恵ゆかりの文化財も合わせて公開した。

【補足事項】



ポスター


会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	239,115人	180,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 日本絵画史上屈指の名品である鳥獣戯画の全巻を紹介し、鎌倉時代絵画の魅力を伝えることができた。目標値を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（東京国立博物館）
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 修理を終えたばかりの作品など、関心の高い作品を展示し、調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(3/5)

【年度計画】
ウ　「クレオパトラとエジプトの王妃展」(平成27年7月11日～平成27年9月23日)
　　世界およそ12カ国、40を超える所蔵先からエジプト美術の名品200件を集め、エジプト王妃、クレオパトラなど女性に焦点を当て、その実像に迫る。(目標来館者数18万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　品川欣也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」
・会　　期　27年7月11日（土）　～ 27年9月23日（水）(66日間)
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　外務省
・協　　賛　大日本印刷、トヨタ自動車
・協　　力　日本航空、KLMオランダ航空
・作品件数　181件
・来館者数　267,959人(目標180,000人・達成率148.9%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
絶世の美女として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たちの魅力を、世界各地の名だたる美術館や博物館から古代エジプトの選りすぐりの名品を集めて紹介した。

【補足事項】



ポスター


会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	267,959人	180,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 エジプト王妃、クレオパトラなどの女性の実像に迫ることができ目標を上回る来館者があった。また、子供のための観覧日、キッズデイを開催し、多くの親子連れに楽しんでもらうことができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(4/5)

【年度計画】
エ　「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」(平成27年9月8日～平成27年11月29日)
　　世界的な宝飾ブランドであるイタリアのブルガリに関連するジュエリーを展観する。(目標来館者数3.5万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	主任研究員　品川欣也

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」
・会　　期　27年9月8日（火）～ 27年11月29日（水）(72日間)
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、ブルガリ、読売新聞社
・後　　援　イタリア大統領府、イタリア首相府、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、ローマ市
・作品件数　265件
・来館者数　142,000人(目標35,000人・達成率405.7%)
・入場料金　　一般1400円(1200円／1100円)、大学生・高校生800円(600円／500円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　85%

130年を越える歴史を持つ、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリの回顧展で、ローマの地に1884年に創業したブルガリの、創成期から今日に至るまでの貴重な作品の数々を展示した。

【補足事項】



ポスター


会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	142,000人	35,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ジュエリーの歴史を紹介し、目標を大きく上回る来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 映像や音楽を用いた展示手法も取り入れ、新たな来館者層の開拓にも繋がり、中期計画における目標を達成することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2121-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(5/5)		

【年度計画】
オ　特別展「始皇帝と大兵馬俑」(平成27年10月27日～平成28年2月21日)
　　中国を統一した秦の始皇帝は、万里の長城の建設や兵馬俑を制作させたことで名高い。兵馬俑をはじめとする文物によってその歴史とスケールに迫る。(目標来館者数23万人)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	平常展調整室主任研究員　川村佳男

【実績・成果】
・展覧会名　特別展「始皇帝と大兵馬俑」
・会　　期　27年10月27日（火）～28年2月21日（日）(94日間)
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　中国大使館
・協　　賛　野崎印刷紙業
・協　　力　全日本空輸
・作品件数　91件
・来館者数　483,809人(目標230,000人・達成率210.4%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　78%

始皇帝の陵墓のほど近くに埋められた兵馬俑は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けている。本展では、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物を一堂に紹介し、始皇帝が空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った。

【補足事項】



ポスター


会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	483,809人	230,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	１０体の兵馬俑と８０体の模造を展示したことによって兵馬俑の歴史的意義とスケールに迫り、目標を大きく超える来館者があった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(東京国立博物館)
年3～4回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、目標人数を大きく上回る来館者を得られ、中期計画における目標を達成することができた。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2122-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(1/3)		
【年度計画】ア　特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」(4月7日～5月17日) 19年に開催した展覧会「狩野永徳」に続き、桃山後期に焦点をあて、永徳以後の狩野派絵師たちの作品を一堂に紹介する。(目標来館者数8万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員兼美術室長　山本英男

【実績・成果】
・展覧会名　特別展覧会「桃山時代の狩野派―永徳の後継者たち」
・会　　期　27年4月7日（火）～5月17日（日）(37日間)
・会　　場　京都国立博物館　明治古都館（本館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、ＮＨＫ京都放送局、ＮＨＫプラネット近畿
・後　　援　（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
・協　　賛　野崎印刷紙業、大和ハウス工業、大林組
・協　　力　日本香堂
・作品件数　70件（うち、国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件）
・来館者数　118,186人（目標8万人・達成率147.8%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度94%
・永徳没後、いったんはその体制が揺らいだかにみえた狩野派が、豊臣・徳川・皇室へと絵師を送り込みながら、再び画壇の覇者としての地位を獲得していく過程を、彼らが描いた金碧の障壁画や屏風、豊臣秀吉像をはじめとする肖像画などを展示することで示した。これにより、華麗さを旨とする豊臣政権下の画風から、次第に徳川好みの瀟洒な画風へと変化する状況をもよく提示できた。とくにこの時期の狩野派の作品がまとまって展示されたことはなかっただけに、狩野派芸術の質の高さを知らしめる絶好の機会になった展覧会として評価される。

【補足事項】
本展の調査段階において、狩野山楽の手になる「槇に白鷺図屏風」などの注目すべき作品の新発見があった。また、これまで画集等でしか紹介のなかった狩野孝信筆の「北野社頭遊楽図屏風」なども本展で初めて公開することができた。



槇に白鷺図屏風　狩野山楽筆



北野社頭遊楽図屏風　狩野孝信筆

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	118,186人	80,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】共催の新聞社・放送局などの広報も多数行われて、目標来館者数を大きく上回った。また豊臣から徳川へと移行する激動の時代を、きわめて上質な作品によって具体的に提示することができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(京都国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】94%という非常に高い観覧者満足度が物語るように、これまでまとまった形で紹介されてこなかった桃山後期狩野派の作品の素晴らしさを示す絶好の機会となった。また本展で初めて公開された作品のうち、何点かは当館の寄託となったので、今後、平常陳列などで活用することができるようになった。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(2/3)		

【年度計画】
イ　特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸　―仏教の典籍と美術―」(7月29日～9月6日)
大正４年（1915）にはじまり、仏教に関する典籍を中心とした伝統ある展観事業、「大蔵会（だいぞうえ）」の100回目を記念して開催。仏教経典の総集である「大蔵経（一切経）」の歴史を現存する遺品から紐解くとともに、関連する書跡、絵画や工芸品も併せて紹介する。(目標来館者数3.1万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室主任研究員　羽田聡

【実績・成果】
・展覧会名　特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸　―仏教の典籍と美術―」
・会期　平成27年７月29日（水）～9月6日（日）(35日間)
・会場　京都国立博物館　平成知新館
・主催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
・作品件数　95件（うち、国宝12件、重要文化財36件、重要美術品4件）
・来館者数　34,696人（目標31,000人、達成率111.9%）
・入場料金　一般520円、大学生260円、高校生以下無料
・アンケート結果　満足度83%
　我が国屈指の古写経コレクションとして有名な京都国立博物館の所蔵する「守屋コレクション」を中心に、日本国内に現存する大蔵経（一切経）をほぼ網羅して展示するとともに、京都仏教各宗学校連合会に加盟する16校と関わりのある寺院（天台宗・真言宗・臨済宗・浄土宗・浄土真宗）から協力を得て、絵画や工芸など多彩な作品も展示することで、日本仏教の歴史を通史的、かつ立体的に理解を深めることが可能となった。

【補足事項】
・会期中の8月29日（土）には、平成知新館の講堂において、聴講無料で一般を対象とする記念シンポジウムを開催した。「仏法東漸　―釈尊の教えとそのひろがり―」をテーマとし、典籍及び絵画を専門とする２名（外部講師１名をふくむ）の研究者による基調講演につづき、座談会を行い、展覧会についての理解が深まるよう努めた。
・また、8月30日（日）には、おなじく講堂において、事前申し込み制で研究者を対象とする仏教美術研究上野記念財団のシンポジウムを開催した。「禅宗における人と美術を中心とした東アジアと日本との交流」をテーマとし、典籍・絵画・染織を専門とする3名（外部講師2名をふくむ）の研究者による発表につづき、座談会を行い、今後の調査や研究に資する活発な議論を重ねた。



展覧会チラシ



展覧会図録

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	34,696人	31,000人	B		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	目標値とした来館者数を達成し、展覧会図録は当初納品された800部を完売するなど、一定の成果を上げることができたため。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(京都国立博物館)
年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	目標値の達成とあわせ、関係寺院の協力により、日本の歴史あるいは文化の理解に資するような、仏教美術を中心とした質の高い展示が可能となったため。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(3/3)

【年度計画】
ウ　琳派誕生400年記念 特別展覧会「琳派　京（みやこ）を彩る」（10月10日～11月23日）
光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年となることを記念して開催。琳派の系譜を100件あまりの絵画、工芸作品で紹介する。（目標来館者数12万人）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川　曉

【実績・成果】
・名　称　　特別展覧会「琳派　京を彩る」
・会　期　　10月10日（土）～11月23日(月・祝)（39日間）
・会　場　　京都国立博物館　平成知新館
・主催　　京都国立博物館・日本経済新聞社・テレビ大阪・ＢＳジャパン・京都新聞
・協賛　　京都銀行・京都美術工芸大学・JR東海・日本写真印刷・パナソニック・ワコール
・協力　　岩谷産業・オムロン・日本香堂
・来館者数　327,925人(目標120,000人・達成率273.2%)
・作品数　　175件(国宝5件・重要文化財36件)
・入場料金　一般　1,500円、大学生　1,200円、高校生　900円
・来館者アンケート　満足度　84%
・時系列に沿った琳派の展開と代表的な芸術家の紹介及び、絵画のみにとどまらない諸工芸へと広がる琳派のデザイン的特質を取り上げ、京都で誕生した琳派について紹介する、関西地方初の大規模な展覧会であった。
・27年は本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯に土地を拝領して400年にあたることを記念する「琳派400年祭」が京都全域を挙げて開催されており、本展はその中核として機能する時機を得た展覧会であった。

【補足事項】
・京都府・京都市・京都博物館連絡協議会・社寺・学校教育機関とも連携協力して広報活動を行い、各方面に展覧会への関心を喚起することができた。その成果は予想を遥かに上回る 32 万人を超える来館者数からもうかがえる。
・特別展を開催する明治古都館が耐震調査のため長期閉館に入っていたため、平成知新館で開催する初めての特別展覧会であった。入場整理など運営について詳細な事前予測及び打ち合わせを行ったが、想定外の入場者数となり、会期中に試行錯誤を繰り返しながら、混雑整理対策を行った。大きな混乱はなかったが、来館者が満足しうる観覧環境を確保できたとはいいがたく、大きな反省材料となった。
・記念講演会、土曜講座、フォーラム、各種のレクチャーを、担当研究員を中心に館内及び館外で 44 回行い、琳派芸術への理解促進を深める機会を設けるようつとめた。
・会期中毎日、琳派デザインの特質を体験的に理解できるワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を、京博ナビゲーター（当館教育普及ボランティア）による教育事業として行い、1 万 5 千人を超える来館者が参加した。
・「風神雷神図屏風」三双が揃うことが大きな関心を呼び、話題性の高い展覧会となったため、各種広報媒体に広く取り上げられた。テレビ・ラジオ取材・放送は 24 件、新聞・雑誌など紙媒体掲載は 444 件にのぼる。



会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	327,925人	120,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　S	【判定根拠、課題と対応】 計画の通り展覧会を開催し、琳派の系譜及び絵画のみにとどまらないデザイン的特質を、175件の展示作品によって明らかにした。京都全域で開催された「琳派400年祭」の中核となる展覧会でもあったため、各種広報媒体に取り上げられ、近年にない30万人を超える来館者数となった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。（京都国立博物館）年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　S	【判定根拠、課題と対応】 これまでの研究の蓄積を、時機を得て展覧会として公開したことにより、予想を遥かに上回る人々の来館につながった。予想を遥かに上回る来館者数のため、快適な観覧環境を提供することができず、運営面での課題も明らかとなったが、来館者満足度は高く、大きな混乱なく閉幕を迎えることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(1/3)

【年度計画】ア　特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」(4月7日～5月17日)
保存状態の問題から長く一般の目に触れることのなかった法華経（久能寺経）4巻の修理が完了したことを受け、これを公開するとともに、同時代およびこれに先行する時代の写経・経典遺品を展示し、平安時代経典史を概観する。(目標来館者数2.5万人)

担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長　野尻　忠

【実績・成果】
修理の完了した法華経（久能寺経）4巻を展示するとともに、同時代およびこれに先行する時代の写経・経典遺品をあわせて展示し、平安時代経典史を概観するという、年度計画どおりの事業を実施できた。
・展覧会名　まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展
・会　　期　27年4月7日(火)～5月17日(日)（36日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館第一室
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　日本香堂、仏教美術協会
・出陳件数　67件（うち国宝13件、重要文化財16件）
・来館者数　10,561人(目標25,000人・達成率42.2%)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度84%

【補足事項】
・紙の表裏に装飾のある経巻のために特殊な展示台を作成し、観覧者へのサービス向上を図った。
・賛助会員向け特別鑑賞会を実施（27年4月7日）
・タクシー・ホテル業者向け鑑賞会を実施（27年4月8日・9日）
・公開講座を3回実施（27年4月18日・25日、5月9日）
・図録を刊行


（写真１）特殊仕様の展示ケースと展示台


（写真２）ケース上面のガラスから覗く（経巻のオモテ面が見える）


（写真３）２と同じ部分を側面のガラスから覗く（経巻のウラ面が見える）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	10,561人	25,000人	D		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　C	修理の完了した重要文化財を、所蔵者の承諾を得て、保存環境・観覧環境に配慮しながら展示に漕ぎ着けたことは評価できる。一方、来館者数が目標値を大きく下回ったことが課題で、原因の一つは観覧料金を高く設定したことにある。広報のあり方とともに観覧料金の設定時には、現状よりも多様な観点からの検討が必要である。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　C	本展は、仏教美術を専門とし、これまでにも奈良朝写経展など経典にかかわる展覧会の実績がある当館でなければ実施できないものであった。修理前はほとんど表に出ることのなかった個人蔵の久能寺経の出陳が叶ったのも、当館の積年の研究成果が評価された結果である。設定した来館者数目標が達成できなかったため、今後は広報のあり方や観覧料金設定方法を再検討する必要がある。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2123-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(2/3)

【年度計画】
イ　開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」(7月18日～9月23日)
開館120年を記念し、仏教美術の専門館として長年にわたり構想を温めてきた白鳳美術を取り上げ、その魅力を追求する。(目標来館者数5万人)

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
・展覧会名　開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」
・会　　期　27年7月18日（火）～9月23日（水・祝）(60日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良テレビ放送
・協　　賛　関西大学、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、天理時報社、非破壊検査
・協　　力　日本香堂、仏教美術教会
・作品件数　148件（うち国宝16件、重要文化財72件）
・来館者数　128,901人(目標50,000人・達成率257.8%)
・観覧料金　一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度85%
・従来曖昧であった「白鳳文化」、「白鳳時代」に関する定義づけを提唱し、白鳳の再検討に一石を投じた。
・白鳳時代を代表する作品をほぼ網羅することができ、白鳳文化に関する展覧会の決定版となった。
・薬師寺月光菩薩像のような大型金銅仏を輸送する際、３Ｄ計測を行い安全な輸送方法を考案した。
・通常鑑賞できない仏像の背面や、厨子の内部、塔の上部を飾る部品などを展示することができた。
・ＳＮＳで白鳳展の情報が拡散し、一つの展覧会でありながらリピーターが現れるなどの人気を博した。
・従来、造立年代で議論のある薬師寺金堂薬師三尊像について、担当者が展覧会前に論文を発表するなど、研究を根底に据えた展覧会となり、学術的にも寄与した点が大きい。


会場風景（月光菩薩立像、奈良・薬師寺所蔵）

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	128,901人	50,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　S	【判定根拠、課題と対応】 入館者数が目標を大きく上回り、アンケートによる満足度もきわめて高く、さらに学術的にも寄与した点が大きく、当館120年の開館を記念する行事にふさわしかった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にある、国内外の博物館との連携に基づく質の高い展示となった。また、当館の人的資源を最大限に活用することで、開館120年記念の特別展にふさわしい規模での展覧会を開催することができた。

【書式A】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2123-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　②　特別展　(3/3)

【年度計画】ウ　特別展「第６７回正倉院展」
正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。(目標来館者数18万人)

担当部課	学芸部工芸考古室	事業責任者	室長　清水　健

【実績・成果】
・展覧会名　「第67回　正倉院展」
・会　　期　27年10月24日（土）～11月9日（月）(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、NTT西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
・作品件数　63件
・来館者数　221,189人（目標180,000人・達成率122.9%）
・入 場 料　一般1，100円　高校・大学700円　小・中学生400円
・アンケート結果　満足度69%

天平文化の精華を今に伝える63件の宝物が出陳され、17日間で22万人を超える観覧者(1日平均約１万３千人)が来館した。聖武天皇ご遺愛の袈裟や楽器、紫檀木画槽琵琶や伎楽面といった東西の文化交流を物語る宝物、暮らしに身近な年中行事に関わる宝物などが陳列され、1250年以上前の生活や文化に迫りたいという国民の知的欲求が充足された。殊に近年の調査成果を披瀝するかたちで、動物の毛を用いた宝物が多数出陳された点は、今日の研究水準を知らしめるのに充分であった。

他方多くの来場者が訪れたにもかかわらず、大きな混乱等もなく、展示環境の改善を喜ぶ声も多く聞かれた。また展覧会図録、公開講座やシンポジウム等を通じて、広く学術的な情報が発信できた。

【補足事項】


展示風景



展覧会チラシ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	221,189人(17日間)	180,000人	A		239,581(17日間)	238,019(17日間)	246，269(17日間)	269,348(20日間)

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠:演示具等を工夫した鑑賞に適した展示が行われ、多数の写真パネルを活用するなど、観覧者に宝物の魅力を伝える展示ができた。また日本語と英語の解説が全ての宝物に付され、英語の図録や音声ガイドが作成されるなど国内外への情報発信に努めた。 課題と対応:会場の混雑具合に波があるので、動線を再度検証し、混雑情報の発信を強化して、一層の観覧環境の向上に努めたい。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。(奈良国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】判定根拠:　奈良の秋の風物詩ともいえる展覧会となりつつあり、全国から本展を観覧するために人々が訪れている。歴史や美術の愛好家は本展の開催を毎年心待ちにしており、出陳宝物が大きな話題となっており、中期計画期間中順調に開催した。 課題と対応:観覧者の地域的偏りや、年齢層の偏りが少なからずあり、学校教育との連携も不十分である。魅力ある情報の広範囲な発信に努めるとともに、教育関係者にアピールする機会を増やし、一層の連携を深めたい。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　② 特別展　(1/4)		

【年度計画】
ア　開館10周年記念特別展「戦国大名　－九州の群雄とアジアの波涛－」(4月21日～5月31日)
　　海外交流の窓口・九州を舞台とした戦国大名の興亡を紹介する。(目標来館者数5万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展「戦国大名　－九州の群雄とアジアの波涛－」
・会　　期　27年4月21日～5月31日（37日間）
・会　　場　九州国立博物館特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　122件(国宝6件、重要文化財36件、重要美術品2件)　・来館者数　77,455人（目標50,000人・達成率154%）
・入場料金　一般1,400円、高大生1,000円、小中生600円　　・アンケート結果　満足度88%
・織田信長ら数多くの大名たちが天下を争った戦国時代、中央をにらみながら九州を拠点に活動した大名に焦点を当てた。肖像画や武具・甲冑、遺愛の道具類のほか、当館の特色としては欠かせない対外交流を物語る品なども加え、さまざまなジャンルの作品を含む充実した展示内容で、幅広い世代から好評を得た。

【補足事項】
・九州の大名を中心とした展覧会としては、質量ともにかつてない規模のものとなり、従来の歴史好きの男性のほか、近年の刀剣ブームにより女性ファンも目立ったことは特筆される。
・教育普及の観点から、中世の書状の紙質を触ったり、書状の作法を学んで体験できるコーナー「戦国大名の手紙」を設置した。展示品をより身近に感じてもらえることができた。そのほか、子供向けのイベントとして、子供の日（5月5日）に合わせて参加無料のワークショップ「手作り兜を作ろう！」を実施した。原品は出陳作品の「金箔押桃形兜」(福岡・立花家史料館蔵)。一時は待ち列ができるほど盛況となり、小・中学生を中心とした409人が参加。
・展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。
○会期中、以下の講演会・イベントを開催して、展覧会の普及に努めた。
・27年4月25日（土）特別講演会「戦国・織豊期の九州とアジア」
　講師：中野等（九州大学教授)、伊藤幸司（九州大学准教授)
・27年5月2日（土）記念シンポジウム「戦国武将のデザイン」
　講師：植野かおり（立花家資料館長)、長田弘通（大分市美術館参事)、宮野弘樹（福岡市博物館学芸員)、富田紘次（鍋島報效会学芸員)、久家孝史（松浦資料博物館学芸員)
・27年5月9日（土)、16日（土)、23日（土）リレー講座「よく分かる！戦国大名展」
　講師：荒木和憲、川畑憲子、一瀬智、岸本圭、望月規史（以上すべて当館研究員）


展示室の様子



先行ポスター

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	77,455人	50,000人	A		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 斬新なポスターデザイン、多彩な広報展開、教育普及事業などを通じて、目標を上回る来場者数を得ることができ、更にそれぞれに高い満足度を得た。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 初期目標の50,000人に対して、154%の77,455人の来館者があった。充実した展示内容、分かりやすい展示が功を奏し、おおむね好評を得た。特別展に合わせて、文化交流展示（平常展示）で刀剣の特集展示「中世刀剣の美」を行ったため、文化交流展も併せて観覧する来場者が増えた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(2/4)

【年度計画】
イ　開館10周年記念特別展「大英博物館展　－100のモノが語る世界の歴史－　A History of the World in 100 Objects」(7月14日～9月6日)
　大英博物館が誇る膨大な所蔵品の中から100点を選び、世界の歴史を旅する。(目標来館者数7万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展
　「大英博物館展　－100のモノが語る世界の歴史－　A History of the World in 100　Objects」
・会　　期　27年7月14日（火）～9月6日（日）(47日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、大英博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKプラネット九州
・作品件数　101件　・来館者数　133,174人（目標　70,000人・達成率190%）
・入場料金　一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円　・アンケート結果　満足度 81%
・大英博物館の名品から選び出した100の作品を通じて、200万年前から現代に至る人類の歴史を読み解こうという試み。時代も地域も幅広い領域をたった100の作品で紹介するため、散漫になりがちなところを、解説や展示方法、照明の工夫により、来館者を飽きさせることなく満足いただける展示となった。

【補足事項】
・展覧会の締めくくりとなる101点目の作品は開催館ごとに選ぶことができ、当館は「折り鶴」を展示した。来館者が折りを込めて折った折り鶴を巨大なオブジェに入れていただく参加型のもので、大変好評であった。
・会期が夏休み期間であったことから、一般の方を対象としたものに加え、小中学生を対象としたナイトミュージアムを開催した。その時代その地域の衣装に扮した館員が展示室各所で作品解説を行い、非常に人気を博した。
・教育普及の観点から、粘土に楔形文字を刻んだり、アストロラーベのレプリカに触れることができる体験コーナーを設置。実際に触ることのできない展示品のしくみを、原品のすぐ横でわかりやすく伝えることができた。
・ロンドンバスを館外に展示したり、ホテルで「アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展」と題した講演会付きアフタヌーンティーを開催するなど、展示室以外でも積極的に展覧会の魅力を伝えた。



告知ポスター

○会期中、以下の講座を開催して、展覧会の普及に努めた。
・特別講演会：27年7月14日（火）「大英博物館展の楽しみ方」
　講師：ベリンダ・クレラー（大英博物館本展覧会担当キュレーター）
　27年7月19日(日)「ウルってなぁに?～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～」
　講師：河野一隆（当館企画課長兼文化交流展室長）
　27年8月2日（日）「影絵人形ワヤンのみかた」
　講師：池内一誠（福岡県立太宰府高等学校指導教諭、元当館主任研究員）


展示室でのナイトミュージアム

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	133,174人	70,000人	S		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	世界最大の博物館の一つであることや、人気映画や教科書でおなじみの作品が出陳されるという注目度の高さからか、新聞、テレビほか交通広告等、多彩な広報を展開し、目標の2倍に迫る多くの来場者を迎えることができた。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
(九州国立博物館)
年2～3回程度

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	大英博物館の８つの所蔵部門から選りすぐりの作品を九州で紹介することができ、陳列品の品質としても来館者数の数値としても目標を大きく超える成果を上げることができた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2124-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(3/4)

【年度計画】
ウ　開館10周年記念特別展「美の国　日本」（10月18日～11月29日）
　縄文時代から鎌倉時代までの日本美術の名品を集め、「日本の美」が形成されていった歩みを紹介する。（目標来館者数15万人）

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課長　楠井隆志

【実績・成果】
・展覧会名　開館10周年記念特別展「美の国　日本」
・会　　期　27年10月18日～11月29日（40日間）
・会　　場　九州国立博物館特別展室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、
　ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　95件（うち、国宝33件、重要文化財29件）　・来館者数　160,753人（目標150,000人・達成率 107%）
・入場料金　一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円　・アンケート結果　満足度 89%
　縄文時代から鎌倉時代までの日本美術の名品を中心に集めた、質の高い展示内容であった。とくに螺鈿紫檀五弦琵琶を含む正倉院宝物の特別公開は話題を呼び、期間限定ながら多くの来館者を得た。質の高さばかりでなく、教科書などで誰しも見たことのある作品を揃えることで親しみやすい展示となり、高い満足度を得た。

【補足事項】
・開館10周年記念の特別展として、古代から中世に至る様々なジャンルの古美術の名品を集め、中国、韓国からも国宝級の文化財を借用した。加えて、琉球・アイヌの作品も一章を設けて紹介した。
・教育普及の観点から、「技あり日本！」と題して、銅鐸・銅鏡を３Ｄプリントしたものを実際に触ったり、葦手や蒔絵の技法を説明するパネルなどを掲出して、日本の技術や技法を分かりやすく紹介するコーナーを設置した。
・展覧会会期中には多彩なイベントのほか、テレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。



告知ポスター

○会期中、以下の講座を開催して、展覧会の普及に努めた。
・記念講演会：27年10月24日（土）「正倉院　あぜくら通信　九州版」
　講師：杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）
・講演会：27年10月31日（土）「美の国　日本―書の魅力―」講師：島谷弘幸（当館館長）
・リレー講座：27年11月1日（日）「美の国　日本」講師：楠井隆志（当館展示課長）
　「美の国の工芸」講師：川畑憲子（当館主任研究員）
　27年11月15日（日）「美しき仏画の世界」講師：森實久美子（当館研究員）
　「南海の宝石　琉球王国」講師：原田あゆみ（当館特別展室長）
・プレイベント：27年9月 4日（金）「開講！博多華丸・大吉と学ぶ『美の国塾』」
　講師：博多華丸・大吉、楠井隆志（当館展示課長）


展示室での観覧の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	160,753人	150,000人	B		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 出陳作品のうちに占める国指定文化財の割合が7割近くにのぼり、さらに正倉院宝物6件を含むなど、当館でもかつてない規模で質の高い展覧会を開催できたことは大変有意義である。教科書で見たことのある作品を随所に散りばめ、来館者を飽きさせない展示を工夫し、お客様満足度も非常に高かった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
（九州国立博物館）　年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 所期目標150,000人に対して、107%の160,753人の来館者があり、さらに開館10周年を機に4階文化交流展示室をリニューアルしたことが相乗効果となり、3階・4階ともに来館者数をのばすことができた。九州では公開の機会の限られる正倉院宝物の特別公開など、開館10周年記念にふさわしい大変充実した内容となった。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2124-4

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　②　特別展　(4/4)

【年度計画】
エ　開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」(28年1月～2月)
　　シルクロードの要衝・古代アフガニスタンで栄えた文化を、金、象牙、ガラス、青銅など様々な材質と東西の文化から影響を受けて制作された名品を通して紹介する。(目標来館者数4万人)

担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部長　小泉惠英

【実績・成果】
・展覧会名　九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」
・会　　期　28年1月1日～2月14日（42日間）　　・会　　場　九州国立博物館特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、TNCテレビ西日本、
　　西日本新聞社
・作品件数　248件
・来館者数　　67,641人（目標40,000人・達成率169%）　・入場料金　一般1,400円、高大生900円、小中生500円
・アンケート結果　満足度94%
・本展覧会を通し、「文明の十字路」とよばれたアフガニスタンの古代文化を学び広く紹介することで、アジア諸国との文化交流を目的とする当館の活動をより深めることができた。あわせて文化財保護について多くの国民に関心をもってもらうことができた。

【補足事項】
・アフガニスタンは古くから「文明の十字路」といわれるように、さまざまな地域から人々が集まり、多彩な文化が華開いた地域である。本展覧会では、前2100年頃から後2世紀頃までに古代のアフガニスタンで栄えた文化を、4つの遺跡から出土した名宝によって紹介した。
・教育普及の観点から、古代の青銅精品の復元模造を作成し、展示室にオリジナル作品と併置して、体験コーナーを設けた。
・会期中に、多彩なイベント、テレビ出演、動画公開などを積極的に行った。
○会期中、以下の講座を開催し、展覧会の普及に努めた。
　記念講演会：28年1月9日（土)「アフガニスタンに生命（いのち）の水を」講師：中村哲（医師・ペシャワール会現地代表)、1月16日（土)「心魅するティリヤ・テペ文化」講師：前田耕作（アフガニスタン文化研究所長）
　リレー講座：「知られざる古代都市の秘宝」1月30日（土)「黄金の丘―ティリヤ・テペ」講師：岸本 圭（当館展示課主任研究員)、「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」講師：河野一隆（当館企画課長兼文化交流展室長)、1月31日（日)「アイ・ハヌム―アレクサンドロス大王が造った都市」講師：小泉惠英（当館学芸部長)、「ベグラム―東西文化の宝箱」講師：臺信祐爾（当館特任研究員）
　イベント：28年1月11日（月)「オリエンタル・ベリーダンスショー」
・本展覧会では、教育普及の一環として「こどもガイド」を作成し近郊の小学校配布したほか、会場内では展示品の理解を深めるための教育普及コーナーを設置した。
・日本では、「流出文化財保護日本委員会」が設立され、これをアフガニスタンから不法に国外に持ち出された「流出文化財」を「文化財難民」と位置づけ、これを保護してきた。同委員会が保管してきた102件の「流出文化財」は、本展覧会を契機にアフガニスタンへ無事に返還されることになった。



告知ポスター


体験コーナー
「魚を泳がせてみよう！」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	67,641人	40,000人	A		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 シルクロードの要衝である古代アフガニスタンの多様な文化を紹介する本展は、まさに当館が実施しなくてはならないものであり、同時に、文化遺産の保護の重要性を強く訴えるものであった。来館者の満足度も9割を超え、極めて有意義であった。

【中期計画記載事項】特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。
　特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。
　(九州国立博物館)年2～3回程度

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 本展覧会は国内外の博物館と連携し質の高い展示が実現した。また国民の文化財保護に対する関心を深めることにつなげることができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2131

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(1)　展覧事業の充実　　③　海外展		
【年度計画】 （東京国立博物館） １）海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」（26年2月16日～5月10日） 会場：フィラデルフィア美術館（米国） 日本絵画史上最大の画派で室町から江戸末期まで活動した狩野派の全貌を紹介する。			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	松嶋雅人

【実績・成果】
・展覧会名　海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」
・会　　期　27年2月16日（月）～5月10日（日）（69日間）
・会　　場　アメリカ・フィラデルフィア美術館
・主　　催　アメリカ・フィラデルフィア美術館、文化庁
・特別協力　東京国立博物館
・作品件数　119件

日本の絵画史上、最大最長の画派として室町時代から江戸時代末まで、画壇の中心に君臨し続けた狩野派の作品を紹介した。流派の始祖・正信から明治維新後に活躍した幕末期、狩野派に学び近代日本画に大きな足跡を残した狩野芳崖、橋本雅邦までの400年余に及ぶ狩野派絵師たちの作品を網羅的にとりあげ、画題内容、画面形式などに注目しながら、各時代における様々な表現の特色とその展開を概観した。

【補足事項】



会場外観



会場風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	77,214人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 米国において日本絵画史上最大の画派である狩野派の画業を広く紹介することができた。
【中期計画記載事項】海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 日本を代表する画派「狩野派」の作品を広く紹介することで、日本の文化を強く印象付ける機会となり、中期計画における目標を達成することができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2133

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(1)　展覧事業の充実　　③　海外展

【年度計画】
（奈良国立博物館）
1）「日本の古墳」展（12月22日～28年2月21日）
会場・主催：国立慶州博物館（韓国）、協力：奈良国立博物館
　日本の古墳の出土品の総合的展示を行う。

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室員　岩戸晶子

【実績・成果】
（奈良国立博物館）
1）展覧会名：2015年 韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」
　会　　期　27年12月22日(火)～28年2月21日(日)(52日間)
　会　　場　韓国・国立慶州博物館 特別展示館
　主　　催　韓国・国立慶州博物館
　特別協力　奈良国立博物館
　作品件数　142件
　来館者数　87,662人

　日韓国交回復50周年を記念し、韓国で初めてとなる日本の古墳時代を概観する特別展開催に関し、企画から輸送・展示まで日本側の窓口として協力し、開幕に大きく寄与した。

【補足事項】
「日本の古墳」展開催のための協約書を締結し、国宝29点、重要文化財197点を含む380点に及ぶ借用品の選定には初期から関わり、慶州博への助言や資料提供を行った。
また、展示資料の借用に関しては、折衝や慶州博が提出すべき書類作成などの協助、文化庁に対する輸出申請他の手続きも代行して行った。当館を除く8箇所の所蔵機関、他の協力機関への連絡、各機関と韓国国立慶州博物館間の調整も担ったほか、図録の解説原稿執筆者の選定及び原稿依頼と集約、図録用写真やパネル用の図面類の使用許可に関する手続きも当館が代行した。
日本国内での集荷と奈良までの輸送、輸出梱包、日本から慶州国立博物館への輸送も随時慶州博と協力しながら当館担当者も全てに立ち会った。現地では、開梱・点検・展示作業を主導的に担当し、展示方法や展示環境などに関してもアドバイスや慶州博との協議を通じて展示品の安全で適切な展示環境になるよう努めた。
日本でも類を見ないレベルの古墳展とも言われる充実した内容で開幕した本展は、韓国国内でも好意的に大きく報道され、注目度も高い。5・6世紀の新羅古墳を多く抱える慶州の地で、本展を通じて古墳文化における日本の独自性と日韓交渉の歴史を示せた意義は極めて大きい。


展示風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
来館者数	87,662人	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 本展覧会は藤ノ木古墳、新沢千塚古墳の遺物をはじめ、極めて重要な古墳、遺跡からの出土品が厳選された、日本でも類を見ない規模での展覧会となった。日本の古墳を理解するにあたり、目標以上の規模、意義を持った展示を行うことができたと言える。

【中期計画記載事項】海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 古墳文化を共有する韓国において、日本の優れた古墳出土品によって日本の古墳文化の独自性と東アジアにおける位置づけを質量ともに極めて充実した文化財をもとに示すことができた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2211-1

中項目	２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　①　学習機会の提供　(1/3)

【年度計画】

(4 館共通)1)(略)日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館 19 室、東洋館 2 室、6 室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。

○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施

・特集「親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり」(4 月 7 日～5 月 17 日)

・特集「親と子のギャラリー　ミイラと古代エジプトの神々」(7 月 22 日～9 月 13 日)

○総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(27 年 3 月 17 日～4 月 12 日)、「博物館でアジアの旅」(27 年 9 月 29 日～10 月 12 日)、「博物館に初もうで」(28 年 1 月 2 日～1 月 31 日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。

○体験型プログラムの実施

・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展（平常展）に関連した一般向け及びファミリー向けのギャラリートークや体験型プログラムを実施する。

・本館 19 室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。

(東京国立博物館)

2) 3)(略)

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　淺湫毅 教育普及室長　小林牧

【実績・成果】

1)　総合文化展を通して歴史・文化の理解促進を目的とした教育普及事業を展開した。

・展示テーマや作品に関連した企画を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、伝統文化への興味関心を高めることができた。

○教育普及的展示として、特集「親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり」を実施し、象をテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料をもとに、象の生態や分化史についてわかりやすく伝えることができた。また、特集「親と子のギャラリー　ミイラと古代エジプトの神々」では、展示の工夫とＩＴ技術を駆使したワークシートによって、古代エジプトの文化ついて興味深く伝えることができた。

○「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」「博物館に初もうで」に関連し、ギャラリートーク、ボランティアによるガイドツアー及び、ぬりえ、衣装体験、ヨガ、スタンプなどの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。

○体験型プログラムの実施

・本館 19 室では、伝統模様のスタンプでポストカードをデザインする体験型プログラムや、作品の制作工程見本の展示、ＩＴ技術により作品の高精細画像を楽しめる体験コーナーを継続して運営した。

・本館地下、東洋館 2 室、6 室、ミュージアムシアターや小講堂において、各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を、展示に応じて、また様々な対象に向けて行った。

・平成館考古展示室のリニューアルに伴い、新たにハンズオンコーナーを設け、レプリカによる触れる展示を開始。

【補足事項】(東京国立博物館)

○体験型プログラムの実施

・総合文化展関連ワークショップ及び関連事業　56 回　16,493 人

・本館 19 室みどりのライオン体験コーナー通年 154,246 人

・東洋館でのアクティビティ「アジアの占い体験」通年 27,738 人

○特別展では鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。また夏休み期間の 7 月 27 日には、「クレオパトラとエジプトの王妃」展で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」(1,153 人) を開催した。



博物館でアジアの旅　衣装体験

【定量的評価】項目	27 年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 子どもから大人まで幅広い層に向けて、鑑賞体験を深めるためのプログラムを提供することができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画を順調に達成している。新規企画も展開し、設定した目標を超える多くの人びとに博物館に親しむ機会を提供することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　①　学習機会の提供　(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(東京国立博物館)
２）学校との連携事業を推進する。
・スクールプログラム（鑑賞支援・体験型プログラム等）を継続して実施する（小・中・高校生対象)。
・職場体験の受け入れを継続して行う（中・高校生対象)。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。
3)(略)

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 教育普及室長　小林牧

【実績・成果】
(4 館共通)
1)国立博物館と大学等との連携を図り、歴史・伝統文化に対する理解促進に寄与し、博物館が所蔵する文化財を核とした学ぶ場を提供することができた。加入校数 48 校、35,789 名の学生・教員が本制度を利用し入館した。
(東京国立博物館)
2)学校との連携事業を計画通り実施した。
・スクールプログラムを研究員、およびボランティアにより実施し、児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。
・職場体験として、19 校 60 人を受け入れた。
・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を 7 月 29 日～31 日の 3 日間開催し、39 名が参加した。染織をテーマに、日本文化と博物館への理解を深めると同時に、博物館における鑑賞プログラムについて教員による発表を実施し、互いに意見交換を行った。
・教員鑑賞会・ガイダンスを 3 回実施し、計 546 人が参加した。
○「盲学校のためのスクールプログラム」を 4 校 22 人が参加した。

【補足事項】
1)大学向けの営業を活発化させ、新規で4校に加入いただくことができた。
2)スクールプログラムでは、ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラムなど11のコースを設け、207校8,239人に対して実施した。また、大学生、専門学校生及び教育関連機関の見学対応を、12校275人を対象に行った。

スクールプログラム
博物館の裏側インタビュー　実施風景



【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	48校	－	－		37	38	43	44

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 学校からの評価も定まり、多くの児童・生徒・学生がプログラムに参加し、着実に成果を挙げている。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調に達成している。さまざまなニーズに対応するプログラムを安定的に提供している。学校との対話を深め、よりきめ細かい対応をめざして研究を重ねている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2211-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(3/3)

【年度計画】
(4館共通)1)(略)
(東京国立博物館)1)2)(略)
3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。
（講演会等の目標）　参加者数計7,790人（実施回数計78回）
・講演会　参加者数3,500人（実施回数20回）
・ギャラリートーク等　参加者数4,000人（実施回数55回）
・連続講座　参加者数　250人（実施回数 1回）
・公開講座　参加者数　40人（実施回数2回）

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長　淺湫毅

【実績・成果】(東京国立博物館)
3)文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会（シンポジウム含む)・連続講座を継続して実施した。総参加者数　計 17,990人（実施回数　計 146回）
・講演会　参加者数 6,023人（実施回数 23回）　うち月例講演会2,369人（12回)、記念講演会（シンポジウム含む）3,289人（10回)、テーマ別講演会 365人（1回）
・ギャラリートーク等　参加者数 11,669人（実施回数 120回）
・連続講座　参加者数 352人（実施回数 1回）
・公開講座　参加者数 36人（実施回数 2回）

【補足事項】
・その他展示に関連する事業 877人（実施回数 9回）
27年5月　恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業
上野の山でゾウめぐり　1回　32人　ほか
※講演会等の参加者数が目標値を大幅に上回った理由
ギャラリートークは会場の広さと作品の見やすさから1回50人程度の参加者数を想定しているが、テーマや作品がお客様のニーズに非常によく合致したこと、また、年度計画にはなかった特別展関連ギャラリートーク(鳥獣戯画　京都高山寺の至宝4回、クレオパトラとエジプトの王妃展4回、始皇帝と兵馬俑3回）を開催したことが、想定を大きく上回る要因となった。
講演会においても、お客様の興味要望に合致したものが多かったため、ほとんどの講演会において想定を上回る参加者数となった。また連続講座も平成館考古展示室のリニューアルオープンを目前に控えたタイムリーな時期に「考古学」をテーマとして開催したことにより、想定以上の参加者を集めることとなった。
関連の展示室に月例講演会の案内看板を事前に掲出する等、企画の広報に努めたことも、参加者増につながったと考えられる。


ギャラリートーク
(27年9月
本館特別1室)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
講演会等の参加者数	18,080人	7,790人	A		12,664	13,193	15,777	14,419
実施回数	146回	78回	A		112	126	131	127
うち								
講演会参加者数	6,023人	3,500人	A	経	8,224	6,952	7,184	6,735
実施回数	23回	20回	B	年	32	31	30	30
ギャラリートーク参加者数	11,669人	4,000人	A	変	3,963	5,805	8,205	7,326
実施回数	120回	55回	A	化	76	90	98	94
連続講座参加者数	352人	250人	A		380	303	354	320
実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
公開講座参加者数	36人	40人	B		97	133	34	38
実施回数	2回	2回	B		3	4	2	2

【年度計画に対する総合評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 順調。開催回数、参加人数ともに目標を大きく上回った。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画を順調に遂行出来た。開催回数、参加人数ともに目標大きく上回った。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2) 教育活動の充実　①学習機会の提供

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(京都国立博物館)
1)京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。
・展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。
・小中学生向けワークショップ「少年少女博物館くらぶ」ならびに文化財への一般の関心を高めるワークショップなどを実施する。
・分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。
2)教育諸機関等との連携事業を推進する。
・京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。
・京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力を図る。
・教員のための講座を開講する。
・文化財への関心を高めるワークショップなどを実施する。
3)歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。
（講演会等の目標）参加者数計3,300人（実施回数計38回）
・記念講演会　　参加者数　160人（実施回数 1回）
・土曜講座　　参加者数2,850人（実施回数35回）
・夏期講座　　参加者数　170人（実施回数 1回(3日間)）

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川曉

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(29校)した。
(京都国立博物館)
1)・「平成知新館こどもガイド」(20,000部）を発行した。
・「鑑賞ガイド」(「お経って何だろう？」20,000部、「今日から君も獅子と狛犬博士」10,000部）を発行した。
・「触って発見！　ミュージアム・カート」を実施した（年始を除く開館日の毎日）
・ミニワークショップ（「琳派デザインに挑戦！」39回・15,841人）を実施した。
・「少年少女博物館くらぶ」(「ドキドキ！刀にふれてみよう」2回・40人)を開催した。
・「大人の博物館くらぶ」(「古代の鏡　鋳造体験」1回・15人)を開催した。
・「博物館Dictionary」(10回、20,000部)を発行した。


ミュージアム・カート
（京博ナビゲーター）

2)・「文化財に親しむ授業」(7回・658人)、「おしゃべり鑑賞会」(2回・63人）を実施した。
・「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、京都ミュージアムズ・フォー連携フォーラム「琳派を飾る―展覧会から見えるもの―」(1回・120人）を実施した。
・「社会科教員のための向上講座」(1回・91人)を実施した。
・東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加した。(2回・256人)
3)・「記念講演会」(1回・200人)、「土曜講座」(32回・3,721人)、「夏期講座(古社寺と文化財Ⅲ)」(1回・206人)を実施した。

【補足事項】
・ミュージアム・カートにはボランティアの京博ナビゲーターが常駐し、来館者はハンズオン教材に触れたり対話を楽しんだりすることができた。
・平成知新館のみどころ案内や、鑑賞に役立つ年表を掲載した「平成知新館こどもガイド」を新たに制作した。また、以前から展覧会に合わせて制作している子ども向けの「鑑賞ガイド」や「博物館Dictionary」は、大人にも入門的な解説書として好評で、モニターアンケートでも評価が高かった。
・26年度に引き続き、東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加し、仙台にてワークショップを実施した。地元の大学生と連携して実施することで、単発的な復興支援ではなく、継続的に「地域間の交流」や「若者の成長」を促す場を設ける活動としても意義深いものとなった。
・土曜講座は27年度末で1,810回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。27年度は明治古都館調査による閉館に伴い、秋の特別展の前後に全館休館期間が発生したため、土曜講座の実施回数が当初計画よりも少なくなった。



平成知新館
こどもガイド

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2212

【前ページから続く】

【定量的評価】項目		27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
講演会等の参加者数		4,845人	3,300人	A		1,450	3,150	2,062	4,596
実施回数		39回	38回	B		15	19	21	36
うち土曜講座	参加者数	3,721人	2,850人	A		1,199	2,682	1,257	3,888
	実施回数	32回	35回	C		13	16	10	31
うち記念講演会	参加者数	200人	160人	A		－	215	190	193
	実施回数	1回	1回	B		－	1	1	1
うち夏期講座	参加者数	206人	170人	A		193	213	219	206
	実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
うち社会科教員のための向上講座	参加者数	91人	－	－		58	40	30	66
	実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
うちセミナー・シンポジウム等	参加者数	627人	－	－		－	－	－	243
	実施回数	4回	－	－		－	－	－	2
うちギャラリートーク	参加者数	－	－	－	経年変化	－	－	366	－
	実施回数	－	－	－		－	－	8	－
「京都ミュージアムズ・フォー連携講座」(26年度までは土曜講座の内数、27年度はセミナー・シンポジウム等の内数)	参加者数	120人	－	－		158	119	157	113
	実施回数	1回	－	－		1	1	1	1
少年少女博物館くらぶ等	参加者数	15,896人	－	－		75	85	68	57
ワークショップ	実施回数	42回	－	－		2	2	2	2
文化財に親しむ授業等	参加者数	721人	－	－		552	613	435	581
	実施回数	9回	－	－		7	8	7	9
ワークショップ（こどもひかり）	参加者数	256人	－	－		－	－	1,300	620
	実施回数	2回	－	－		－	－	2	2
ワークシート・鑑賞ガイド	発行部数	50,000部	－	－		30,000	110,000	20,000	190,000
	発行回数	3回	－	－		1	3	1	2
博物館Dictionary	発行部数	20,000部	－	－		5,000	5,000	7,000	8,000
	発行回数	10回	－	－		1	1	2	4

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： A	「平成知新館こどもガイド」を10,000部予定のところ、好評のため20,000部発行したり、「琳派デザインに挑戦！（15,841人）」など、当初計画を大きく上回るの成果を達成することができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： A	今中期計画内において、25年度「こども☆ひかりプロジェクト」、26年度「ミュージアム・カート」、27年度「大人の博物館くらぶ」など、毎年新たな取り組みにチャレンジし、学習機会の拡大を着実に達成できた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　①　学習機会の提供　(1/2)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)小中学校との連携
・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。
・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。
・奈良市教育委員会と連携した世界遺産学習を全国の小学校高学年を中心に実施する。
・中学生の職場体験学習を受け入れる。
2)(略)
3)奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してＥＳＤ(持続発展教育)プログラムの開発を行う。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。
5)地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。

担当部課	総務課渉外室企画推進係 学芸部教育室	事業責任者	係長　石田義則 室長　谷口耕生

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズへの入会及び更新を積極的に進めてきた結果、27年度までで入会校数は27校、大学との連携を継続した。
(奈良国立博物館)
1)
・奈良県内の小中学校に対してメールマガジンの配信を行った。
・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。
・世界遺産学習事業は、全国各地の小学校37校、合計2,440名に対して実施した。
・中学2年生の職場体験を4校9名受け入れた。
3)奈良教育大学が主催し奈良市教育委員会が連携するESDプログラム開発の研究会に参加し、世界遺産学習プログラムの刷新に向けて検討を重ねた。
4)地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。
5)地下回廊で仏像模型や写真パネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開した。

【補足事項】



小学生に向けた世界遺産学習の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	27校	－	－		28	27	26	27

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 26年度に引き続き、多くの大学等と連携を図ったほか、近隣のキャンパスメンバーズ未加入大学に対し、広報を行い新規勧誘に努めた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 大学と連携し世界遺産学習プログラムの検討を行い、実施する等、中期計画通り順調に学習機会を提供し成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2213-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①学習機会の提供　(2/2)

【年度計画】
(4館共通) 1)(略)
(奈良国立博物館) 1),3)～5)(略)2)講座等の開催
・仏教美術等に関するサンデートークを定期的に実施する。
・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。
・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。
・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。
・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。
・正倉院展において小学生とその家族を対象とした講座を実施する。
(講演会等の目標)　参加者数計2,650人（実施回数計27回）
・特別展等講座　参加者数1,500人（実施回数14回）
・夏季講座　参加者数　500人（実施回数 1回（3日間 9講座））
・サンデートーク　参加者数　650人（実施回数12回）

担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長　谷口耕生

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
2)講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計1,242人の参加があり、アンケート結果で平均満足度85%を得た。
・公開講座は3つの特別展及び4つの特別陳列の会期中に15回実施。計2,123人の参加があり、平均満足度79%を得た。
・正倉院展に関連したシンポジウムとして「正倉院学術シンポジウム2015」を27年11月1日に実施。4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。196人の参加があり、平均満足度93%を得た。
・夏季講座は「白鳳－歴史と美術－」と題し、奈良県文化会館を会場に27年8月18日～20日の3日間実施。講師は9人、609人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を28年2月7日に実施し、42人の参加があった。
・文化財保存修理所の一般公開は、28年1月14日に3回実施し、計121人の参加があった。
・第67回正倉院展では、27年11月3日に「親子鑑賞会」を実施し、172名の参加があった。
(講演会等の目標)　参加者数　計3,974人（実施回数計28回）
・特別展等講座　参加者数　2,123人（実施回数15回）
(うち公開講座14回・1,927人、シンポジウム1回・196人)
・夏季講座　参加者数　609人（実施回数1回（3日間1講座））
・サンデートーク　参加者数　1,242人（実施回数12回）


夏季講座「白鳳－歴史と美術－」会場風景

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
講演会等の参加者数	3,974人	2,650人	A	経年変化	3,006	3,454	3,219	3,525
実施回数	28回	27回	B		28	29	26	27
うち特別展等講座参加者数	2,123人	1,500人	A		1,839	2,172	1,682	1,986
実施数	15回	14回	B		15	16	13	14
うち夏季講座　参加者数	609人	500人	A		522	438	587	561
実施回数	1回	1回	B		1	1	1	1
うちサンデートーク参加者数	1,242人	650人	A		645	844	950	978
実施数	12回	12回	B		12	12	12	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、目標値を上回る参加者数が得られた上、アンケートにみる満足度も高かった。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 奈良教育大学、奈良市教育委員会との連携協力を行い、学習プログラムの開発を進めており、中期計画に対し順調に実施した。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　①　学習機会の提供　(1/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)(略)
(九州国立博物館)
1)博物館における体験型事業の充実を図る。
・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。
・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。
・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。
2)～9)(略)

担当部課	交流課	事業責任者	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎

【実績・成果】
(九州国立博物館)
1)
・体験型展示室「あじっぱ」を運営するとともに、これまでの調査研究で得られた知見を加味して、ＢＯＸキット等の体験資料を開発し、新規に収集した資料の紹介を行った。
・「なりきり学芸員体験」や「ガムランワークショップ」「行こうよ！あじっぱ夏祭り」等のワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきゃらばん」と名づけた教育普及活動を継続的に行うなど、幅広い層に向け教育活動の場を提供した。
・「あじっぱ」においてアジア諸国の文化を紹介するとともに、体験学習プログラムを行うことで、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める運営を図った。また、ＢＯＸキット等の体験資料を開発した。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)
・教育普及活動「きゅーはくきゃらばん」を14回実施。当館の体験プログラムを基本に、新規開発したプログラムを提供した。実施回数は年々増加しており、県内では福岡県立少年自然の家「玄海の家」や九州芸文館、遠方では被災地支援のため、福島県、宮城県、秋田県まで派遣した。
・「行こうよ！あじっぱ夏祭り」は2日間でのべ555人が参加した公開型のワークショップで、27年度は同時期に開催した特別展「大英博物館展」に関連させたプログラムを提供した。
・合計7件の体験学習プログラムを開発した。(「モンゴル」「あやつり人形」「あじっぱキッチン（各国のキッチングッズ)」「おひなさま」「針聞書」「東南アジアの楽器」「ミャンマー」)
・入口付近のディスプレイでは4回の特集展示を実施した。(「子どもが主役」「動物」「正月　干支（申)」「中国」)
・小学校児童向けに「わくわく通信」を5回発行し、広報に努めた。体験プログラムや子ども向けのイベントを告知するチラシで、博物館近隣の筑紫地区・粕屋地区・福岡市の全小学校に、毎回136,500枚を配布している。
募集型の体験プログラムは毎回ほぼ定員に達した。


夏祭りでのプログラムの様子



わくわく通信

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 プログラムの改善や開発が順調に進んでいる。また、幅広い年齢層に向けた体験の場の提供ができた。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 開発したプログラムは館内のみならず、学校（出前授業）や他の博物館等（きゅーはくきゃらばん）においても提供し、中期計画どおり学習機会を広く提供できた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(2/3)

【年度計画】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)(略)
2)学校教育との連携事業を実施する。
・職場体験（中学生）の受け入れを実施する。
・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。
・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。
3)～8)(略)
9)放送大学の面接授業を実施する。

担当部課	総務課 交流課	事業責任者	課長　阿部　勝 課長　石橋伸二

【実績・成果】
(4館共通)
1)キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施した。
(九州国立博物館)
2)・職場体験（中学生）を22校106人（のべ50日間）受け入れた。
・高校生ジュニア学芸員は、10校26人が参加し、計8回の継続プログラムとして実施した。
・教員向けの研修会を6回実施した（うち2回は福岡県教育センターのキャリアアップ講座)。
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、75件の貸出しを行った。
・出前授業や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。
9)・放送大学の面接授業を実施した。(「博物館を学ぶ」11月14日、15日)



教員向け研修の様子

【補足事項】
(4館共通)
1)大学等との連携を継続させるため、27年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校等)が新規及び継続で入会した。
加入校内訳(大学 15校、短期大学 3校、専門学校 1校、高等学校 6校)
・会員校の学園祭に協賛した。(5校)
・特典の利用として文化交流展を3,992人（学生3,803人、教職員189人)、特別展を3,687人（学生3,331人、教職員356人）が観覧した。また、パスポートを2,401人（学生2,201人、教職員200人）が割引購入した。
・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
キャンパスメンバーズ加入校数	25 校	―	―		28	24	24	24

【年度計画に対する総合評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ加入校数について26年度数を維持することができ、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できた。
【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。	
【中期計画に対する評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学等についても、計画通り着実に実施できた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2214-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　①　学習機会の提供　(3/3)

【年度計画】(4館共通)1)(略)(九州国立博物館)1)2)(略)
3)シンポジウムを開催する。
4)特別展記念講演会を開催する。
5)文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。
6)ミュージアムトークを随時実施する。
7)文化施設等へ講師を派遣する。
8)特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。　9)(略)
(講演会等の目標)　参加者数計5,500人（実施回数計74回）
・特別展記念講演会　参加者数　700人（実施回数 4回）
・講演及びシンポジウム　参加者数　3,000人（実施回数30回）
・ミュージアムトーク　参加者数　1,800人（実施回数40回）

担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　石橋伸二

【実績・成果】
3) 国際シンポジウム「九州国立博物館開館10周年記念『アジア交流博物館長サミット』」を開催した。(27年10月18日：80人参加)（詳細は処理番号3214参照）
4)特別展記念講演会を3回開催した。
5)講演会等を38回開催した。
6)定期的にミュージアムトークを46回開催し、展示物を見ただけではわからない内容を紹介した。
7)文化施設等へ講師を派遣した。(福岡市　アクロス・文化学び塾等)
8) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を実施した。

【補足事項】
8)・特別展「戦国大名」では、「戦国大名の手紙」をテーマに、紙の原料と紙に触れる体験、切封体験、花押制作体験の 3 箇所の体験コーナーを展示室内に設けた。また、出品作品の兜をペーパークラフトで作るワークショップ「手づくり兜を作ろう」を行った。
・特別展「大英博物館展」では、体験コーナー「楔形文字を書いてみよう」や「アストロラーベを使ってみよう」を企画し、展示室内で体験してもらった。子ども向けのプログラムとしてジュニアガイドを製作し、事前配布、及び来館した小中学生に配布したほか、親子、一般を対称にしたイベント「夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム」を計 5 回実施した。また、プロモーションビデオを製作し、展覧会を周知した。


ナイトミュージアムの様子

・特別展「美の国　日本」では、「技あり日本！」を実施した。３Ｄプリンタで出力した銅鐸や銅鏡を触れるコーナー、漆の技法「蒔絵」をパネルや動画、道具で紹介、葦手絵をパネルで紹介した。
・特別展「黄金のアフガニスタン」では、古代の衣装の装飾と衣装を再現し、試着体験コーナーを設けた。また、アフガニスタンや展覧会について楽しく学べるこどもガイドを製作し、近郊の小学生に事前配布したほか、来館した小中学生に配布した。
・特別展「始皇帝と大兵馬俑」では、ジュニアガイドを製作し、近郊の小学生に事前配布したほか、会場入り口にて小中学生に配布した。また、展示室内では体験コーナー「秦の単位で身体測定」を実施し、秦の単位で数字が表記してある身長計と体重計を設置して体験してもらった。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
講演会等の参加者数	6,212人	5,500人	B		7,833	8,354	7,276	4,694
実施回数	87回	74回	B		89	102	90	82
うち特別展記念講演会　参加者数	710人	700人	B		1,500	966	1,108	980
実施回数	3回	4回	B		7	5	5	4
うち講演及びシンポジウム参加者数	4,096人	3,000人	A		4,592	4,918	4,450	2,132
実施回数	38回	30回	A		39	45	38	26
うちミュージアムトーク　参加者数	1,406人	1,800人	D		1,741	2,470	1,718	1,582
実施回数	46回	40回	B		43	52	47	52

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 参加者数、実施回数ともに多彩な教育普及事業を展開し、来館者アンケート回答からも展覧会とともに高い評価を得た。

【中期計画記載事項】学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】当館独自の分かりやすく親しみやすい展示として定着し、好評を得ており、学習機会の提供という中期計画を達成した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2221-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②−1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
(東京国立博物館)
1)各種教育事業及びイベントの補助活動等の充実を図る。
2)点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。
3)自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアデーなどにおいてボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室　室長　鈴木　みどり

【実績・成果】
1) 館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシスでの活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップの補助活動、スクールプログラム班による学校団体向けプログラムの一部を実施。また、今年度より保存修復班を立ち上げ、保存修復活動の補助をボランティアにより実施した。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。
2)通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。
3)全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。
4)通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。

【補足事項】
2)バリアフリー活動として、点字パンフレットを11冊作成 、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」(隔月1回、全6回)を実施した。
3)・各自主企画グループ及びボランティア活動紹介ツアー等を実施した。
(391回14,522人)
・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、近代の美術ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー）が活動した。また、たんけんマップグループが印刷物を作成した。
・ボランティアに対する研修を行った。(45回、解説会2回)


来館者を案内するボランティア

※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。
従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。
詳細は処理番号2231

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	173人	−	−		169	170	169	173
うち生涯学習ボランティア登録者数	160人	−	−		163	164	152	158
※うち東京藝術大学大学院インターンシップ数	13人	−	−		6	6	17	15

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 教育普及事業に加え、保存修復活動の補助の開始等による活動の充実をはかり、順調に目標を達成している

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ボランティアを支援し、自主企画グループによる活動を促す等順調に中期計画の目標を達成している

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
（京都国立博物館）
1)教育普及補助ボランティア（京博ナビゲーター）活動の充実を図る。
2)調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。
3)文化財に親しむ授業講師（文化財ソムリエ）として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。
4)「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　山川曉

【実績・成果】
（京都国立博物館）
1)・京博ナビゲーター（151人）が下記の活動を行った
　平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（通常活動・年始を除く開館日毎日）
　特別展観「琳派　京を彩る」に関連したミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」(39日)
　教育普及活動の補助（夏期講座・少年少女博物館くらぶ・大人の博物館くらぶ）
・ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会を実施した（12回）
・京博ナビゲーターのモチベーション向上と博物館活動への理解を深める「感謝会」を実施した（1回）
・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した（仮面複製・根付複製）
2)・収蔵品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(26人)
3)・文化財ソムリエ（19人）が下記の活動を行った
　京都市内の小中学校への訪問授業(7回)
　京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」(2回)
　「こども☆ひかりフェスティバル」「こども☆ひかりミュージアムストリート」　への参加（2回）
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(22回)
4)「京都・らくご博物館」において、26年同様、大学生をボランティアとして起用した。(18人)

【補足事項】
1)京博ナビゲーターは、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。特別展覧会「琳派―京を彩る―」の期間中には、京博ナビゲーターが毎日ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を実施し、15,841人の参加者があった。
2)各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
3)文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（19名）に対して、当館研究員がスクーリング22回を実施。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。本年度は「平成27年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、他館活動の調査なども精力的に行った。


文化財ソムリエの訪問授業

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	214人	－	－		64	45	45	210
うち京博ナビゲーター	151人	－	－		－	－	－	163
うち調査・研究支援ボランティア数	26人	－	－		22	21	25	16
うち文化財ソムリエ数	19人	－	－		14	16	13	22
うちらくご博物館学生ボランティア数	18人	－	－		10	8	7	9

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	年度計画に基づき、各種取り組みを実施することができた。さらに特に京博ナビゲーターに関して、新たな活動の実施や、それに付随する研修、感謝会の実施など、ボランティアのモチベーション向上や、ボランティア自身の学習機会を提供することができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　S	中期計画期間において、これまで積極的に取り入れて来なかったボランティアの活動を開始し、教育活動の充実につなげることができた。また、博物館の中に、人と人とのコミュニケーションを持ち込んだ意義は大きい。ボランティア自身の生涯学習の場としても博物館が機能しており、新たな活動の展開も見られた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2223-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】(奈良国立博物館)
1)27年度の新規募集に伴い、新制度Ⅱ期目となるボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動をスタートさせる。
2)ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。
3)勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
4)ボランティアの自主性を活かし、ボランティアによる企画立案プログラムの充実を図るための支援を行う。

担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長　清水　功

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)　4月から世界遺産グループ53名、解説グループ63名、サポートグループ41名の合計157名で、新制度Ⅱ期目の活動をスタートした。世界遺産学習として小学校37校・2,440名を受け入れたほか、幼稚園から高校まで学校団体の案内を行った。正倉院展の会期中は、ボランティアによる講堂解説を毎日実施し、成果を上げた。
2)　ボランティア全員に対して、名品展研修を毎月実施し、また特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した。すべての展覧会図録を配布して、解説と自己研鑽のための学習資料とした。正倉院展の講堂解説では、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習に立会い、指導した。
3)　グループ別に、知識向上と連携を図るため、テーマを決めて毎月の勉強会を実施し、ボランティア室が立会いと指導に当たった。解説グループでは、オブザーバーとして学芸部が立会い、指導した。ボランティアの研鑽と親睦を兼ねて社寺名跡見学会を実施した。
4)　ボランティアの自主的な企画として、敷地内の茶室庭園案内ツアーを実施した。

【補足事項】
1)・各グループを更に小チームに分け、チームリーダーを軸にして円滑な運用を行った。また、定期的にボランティア会議を開催してボランティアと博物館の意思疎通を図った。
・解説グループは、通常のガイドの他に、新人研修を兼ねて地下回廊の仏像写真展「大和の仏たち-奈良博写真技師の眼-」のガイドを実施した。
・世界遺産学習では、なら仏像館休館に伴い、特別プログラム「仏像・いろいろ」を実施した。
・正倉院展講堂解説では、グループの枠を超えて協力しあうことによりボランティアの資質向上と強化に繋がった。
3)・社寺名跡見学会を27年9月(正倉院正倉、平城宮跡)及び28年1月（東大寺）の計3回実施した。
4)・庭園茶室見学ツアーを27年11月に2日間実施した。
・ボランティア通信紙「BRIDGE（ブリッジ）」を3ヵ月毎に発行した。
・他施設とのボランティア交流会を27年12月及び28年1月の計2回実施した
・ボランティアのチーム力強化のため親睦会を27年12月に実施した。


世界遺産グループの活動風景


サポートグループの活動風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ボランティア数	157人	－	－		87	121	114	110
うち世界遺産グループ数	53人	－	－		－	42	41	38
うち解説グループ数	63人	－	－		－	43	39	43
うちサポートグループ数	41人	－	－		－	36	34	29

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たなボランティア制度のⅡ期目の初年度にあたってそれぞれのグループについて増員を図り全体で150名を超えるボランティアを受け入れ一層の充実に努めた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間中にボランティア制度の見直しを行うとともに担当室を設置し活動支援を一元化した。さらにボランティアの受け入れ人数も旧制度に比して約1.8倍となりボランティアの活動機会の増加により教育活動の充実が図られた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－1　ボランティア活動の支援

【年度計画】
(九州国立博物館)
1)ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。
2)ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。
3)ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	ボランティア室主任研究員　八尋智之

【実績・成果】
1)第3、4期ボランティアの自主的な活動を重視することによって、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造等が行われた。
2)ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質が向上し、活性化、発展した。
3)各部会において研修やボランティア同士のグループ別学習、活動を行った。

【補足事項】
1)第4期ボランティアを中心に、第3期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。
・各期ボランティア数（27年度当初）
第3期ボランティア（23年4月から活動）数　144人
第4期ボランティア（26年4月から活動）数　208人
・通常の活動においては、1日平均30～40人、1ヵ月平均延べ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動。
・日常の活動は、館内案内、あじっぱ（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の案内、博物館内のIPM活動。日常的な手話通訳ボランティアの待機体制の確立。


ボランティアが講師を務めたAED研修実施の様子

2)・活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。
〔主な研修〕
障がい者接遇・英語解説講座・古文書講座・陶磁器講座・展示替え研修など
〔主な館外研修先〕
壱岐市立一支国博物館・兵庫県立人と自然の博物館・装飾古墳館等


ボランティアフェスタで３Ｄプリンタ出力の土器を使って説明する様子

3)・企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、イベントやワークショップのみならず、通常の活動においてボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。
〔実施したイベント等〕
・ボランティアフェスタ（27年10月）⇒開館10周年記念イベント
・子どもフェスタ（28年2月）⇒のべ2,500人参加　など

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
ボランティア数	352人	－	－	経年変化	355	308	287	352
うち展示解説ボランティア数	86人	－	－		84	77	75	86
うち教育普及ボランティア数	37人	－	－		48	41	39	37
うち館内案内ボランティア数	38人	－	－		31	29	26	38
うち外国語案内ボランティア数	94人	－	－		89	69	63	94
うち環境ボランティア数	33人	－	－		38	35	29	33
うちイベントボランティア数	6人	－	－		10	6	6	6
うち資料整理ボランティア数	25人	－	－		20	19	19	25
うちサポートボランティア数	24人	－	－		25	23	22	24
うち学生ボランティア数	9人	－	－		10	9	8	9

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】毎月開催のボランティアの連絡会で、行事等の見通しが持てるように計画的に情報提供したことで、26年よりも積極的に活動に参加するボランティアが増えた。また、ボランティアの自主的な研修会を多く企画することができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】ボランティア活動を支援し、教育活動の充実に計画どおり寄与できた。例えば、来館した学校団体へは、当館の概要説明や展示室の案内などを実施した。学校等へボランティアが講師として訪問する機会はやや少なかった。また、特別支援学校への対応は職員を中心に行っているが、当館ボランティアも含めて、対応を検討していく必要があると考えている。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2221-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（東京国立博物館）
1)各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。
2)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】（４館共通）
1)26年度に創設したベーシック会員（総合文化展無料会員）は2年目にして2,500人を超えた。また、賛助会個人会員は制度改定後順調に増加している。パスポート、友の会は特別展の内容により増減するため、27年度は微減となっているが、今後も増加できるようPRに努めたい。
2)友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。
3)マスターカードやアメリカンエキスプレスと協同でキャンペーンを行い、認知度の向上に努めた。
4)一部特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。
5)外国人来館者向けの取組みについてワーキンググループを発足させ、検討を開始した。
（東京国立博物館）
1)26年度の会員制度の一元化により、下位の区分の会員から上位の区分の会員への移行が順調に増加した。特に賛助会個人の維持会員は47人、13%程度増加し、順調である。
2)上野ミュージアムウィーク（上野のれん会との共催）、上野の山文化ゾーンフェスティバル（台東区との共催）及び東京・春・音楽祭（東京・春・音楽祭実行委員会との共催）等、地域連携事業に参加した。上野文化の杜新構想実行委員会と協同で、上野の11文化施設が協同で共通入場券を創設、上野地域の連携及び新たなファンの拡大に努めた。

【補足事項】
（東京国立博物館）
2)上野地区共通入場券の発売に際しては、東京都及びアーツカウンシル東京より助成を得、8施設の共通入場券及び11施設のスタンプラリーを実現させ、地域連携の礎を築くことができた。



上野文化施設共通入場券UENO WELCOME PASSPORT

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
友の会会員数	2,041人	－	－		1,802	1,570	1,586	2,145
パスポート会員数	18,157人	－	－		17,672	16,569	16,474	20,302
ベーシック会員数	2,789人	－	－		－	－	－	1,038
賛助会員数	464件	－	－	経年変化	292	332	379	414
個人会員（プレミアム）	2人	－	－		－	－	－	2
（特別）	8人	－	－		－	－	－	6
（維持）	392人	－	－		238	269	315	345
団体会員（プレミアム）	－	－	－		－	－	－	－
（特別）	20団体	－	－		19	20	20	20
（維持）	42団体	－	－		35	43	44	41

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	順調に推移している。特に賛助会個人会員の増加が著しい。また、新規で創設した総合文化展のみの年間会員「ベーシック会員」も２年目にして2,500人を上回るなど順調に推移している。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	上野の8文化施設の共通入場券及び11文化施設のスタンプラリーを行う等、地域連携を強め、博物館支援者の増加をはかる取り組みを順調に行っている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2222-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（京都国立博物館）
1)支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
2)ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。
3)海外を含む企業等と連携し施設を有効活用することで、博物館の認知度向上を図る。
4)近隣の自治体をはじめとする諸団体との連携の推進を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 企画室長　浅見龍介

【実績・成果】(4館共通)
1)「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。
2)「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知向上に努めた。
4)当館主催イベント「音燈華コンサート」の際に、共催として大和ハウス工業より協賛を受けた。
5)訪日外国人をターゲットにしたイベントなど、この時期にふさわしい各種事業の検討を行った。
（京都国立博物館）
1)支援団体(社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。
2)「ミュージアム・パートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、企業4社と個人1名が新たに加わった。
3)海外企業等に対し、明治古都館及び平成知新館を有償で貸与する等建物の有効活用を行うことにより博物館の認知度向上を図った。
4)近隣の自治体や諸団体等と広報活動やイベント等を実施し、連携推進を図った。

【補足事項】
(4館共通)
2)当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」提示により、グッズ等が10%引きで購入できる等の特典がある。
3)・凸版印刷株式会社と連携し、「新春 京博こと始め2016」及び「新春 京博『さるづくし』」を開催した。
・ジェイアール京都伊勢丹と連携し、「獅子・狛犬像 守護獣巡り」や「新春祭トークショー」を開催した。
・三越伊勢丹や三菱東京UFJ銀行、月刊誌「家庭画報」等と連携し、特別鑑賞会を開催した。
・ＪＲ東海と連携し、「京　冬の旅」に伴い28年1月13日～3月13日まで、京都国立博物館入館券付き旅行券を「ＪＲ東海ツアーズ」「近畿日本ツーリスト」「東武トップツアーズ」の各旅行会社から販売した。
(京都国立博物館)
3)・カルティエが、明治古都館を会場に「カルティエ ロワイヤル」を開催した。
・ブレゲ及びハイアットリージェンシー京都が、平成知新館グランドロビーを会場に「プライベートサロン in 京都2015」を開催した。
4)・京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、4館相互割引、広報のための合同パンフレットの製作、連携フォーラムやスタンプラリーなどを実施した。
・京都府と連携し、「コシノジュンコ　琳派の世界」（ファッションショー）及び大琳派祭プロジェクションマッピング「美の継承」を開催した。
・京都市と連携し、「親子で行く修学旅行」を開催した。


「カルティエ　ロワイヤル」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
パスポート会員数	7,108人	－	－		2,667	3,064	2,295	6,522
ミュージアム・パートナー会員数	6件	－	－		2	－	－	1
清風会会員数	362人	－	－		373	353	336	350
うち賛助会員数	32人	－	－		34	33	30	32
うち特別会員数	65人	－	－		61	60	58	63
うち普通会員数	265人	－	－		278	260	248	255

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 企業や自治体等と連携し、イベントや閉館後の特別鑑賞会等を開催し好評を得た。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ミュージアム・パートナーを26年度より開始し、会員数を増加させた。また、企業との多彩な連携事業を展開するなど、博物館支援者の増加を図ることができた。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2223-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2博物館支援者の増加

【年度計画】（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
（奈良国立博物館）
1)支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。
2)支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。
3)賛助会員制度の継続・拡充を図る。
4)地域、企業との連携を推進する。
5)スタンプカードを発行し、公開講座・サンデートークの受講回数に応じた特典グッズを進呈する。

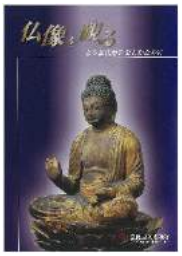
担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】（４館共通）
1)パスポート会員　会員数3,591人(一般3,443人、学生106人、家族42人)
2)会員に夏季講座を優先的に受講できるようにした。
3)株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のＰＲを行った。
4)他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
5)28年度販売開始予定の外国人向け冊子「ミュージアム・３DAYSフリーパス・関西」へ参加申請した。
（奈良国立博物館）
1)支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。
2)特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
3)賛助会員25団体49人(特別支援会員：4団体、特別会員：4団体、一般会員(団体)：17団体、一般会員（個人）：49人)
4)観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。
奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら2015」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。
5)スタンプカードを発行し、公開講座・サンデートークの受講回数に応じて奈良国立博物館グッズなどを進呈した。

【補足事項】
・賛助会員に対する特別観賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。
・日本香堂の寄附により作成した仏像彫刻の解説冊子『仏像を観る』（日本語版、英語版）を館内設置の修理募金への寄附者に配付


なら燈花会


なら瑠璃絵



仏像を観る（日本語版）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
パスポート会員数	3,591人	－	－		2,615	2,486	2,598	3,162
賛助会員数	74件	－	－		65	68	70	73
うち特別支援会員数	4団体	－	－		5	5	5	5
うち特別会員数	4団体	－	－		5	5	4	4
うち一般会員数	66件	－	－		55	58	61	64

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	パスポート会員が昨年比429名増や、賛助会員が1会員増など新たな博物館支援者を獲得する事ができた。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	継続的に会員制度の広報及び募集を行い、順調に新規会員を獲得できており、中期計画に対し順調である。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2224-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　②－2　博物館支援者の増加

【年度計画】
（４館共通）
企業との連携及び友の会活動等の会員制度の活性化を図る。
1)会員制度によるリピーターの拡大に努める。
2)会員制度利用者を対象とした事業を実施する。
3)企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
4)展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。
5)2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた、各種事業を検討する。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当部課	総務課 広報課 交流課	事業責任者	課長　　阿部　勝 課長　　田端幸朋 交流事業室事務主査　岩橋神奈子

【実績・成果】
1)「友の会」等の会員制度を継続して実施した。
2)「友の会」会員を対象に、季刊情報誌『アジアージュ』、トピック展示チラシ等の送付を行った。
3) 企業等と連携し、広報活動を行った。
4) 展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。
5) 既存のものも含め、館内表示等の多言語対応の見直し等の検討を実施した。
(九州国立博物館)
1)支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。

【補足事項】
1)「年間パスポート」の広報を実施した。
(九州国立博物館)
1)近隣地域の諸団体や支援団体等を連携したイベントを開催した。
・地域住民、NPO法人、高校等と連携して、10周年を祝うイベントを日替わりで5日間開催した。地元グループ「大宰府万葉会」と開催した「万葉集つくし歌壇」では、奈良時代に大宰府で詠まれた万葉集の代表的な歌を、参加者が当時の人々の衣装を着て発表した。
・西日本新聞社及び九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財である「博多祇園山笠」の飾り山を開館以来10年連続してエントランスに展示した。
・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携して、子どもたちを対象にしたワークショップイベントや児童画展を開催した。
・地元の福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。


10周年イベントのひとつ
「万葉集つくし歌壇」の様子


定期コンサートの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
友の会会員数	206 人	－	－		117	196	141	192
パスポート会員数	5,571 人	－	－		3,093	4,224	4,633	4,990

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 友の会及びパスポート会員数は26年度より増加した。特別展主催者からの申し入れもあり友の会・パスポートの積極的な広報を控えた。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。

【中期計画記載事項】教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間内において、「友の会」等の会員制度について、徐々にではあるが順調に会員数を増やした。各種イベントを実施し、博物館の活性化に寄与した。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2231

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。
2)東京藝術大学との連携事業を継続して実施する（大学院生対象)。

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室　室長　小林　牧

【実績・成果】
1)博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、学芸研究部・学芸企画部の 9 部署で 10～30 日間の活動を行い、13 大学 23 名が修了した。
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般についてセミナー、講座を実施した。
2)東京藝術大学との連携事業として、藝大生によるギャラリートークを実施し、学生の貴重な経験となったと同時にお客様へのサービスの充実にもつながった。

【補足事項】
1)インターンシップ
・インターンシップの募集は、近隣の 60 大学への郵送による通知の他、全国あるいは国外からも応募できるようにウェブサイトでも行った。
・インターンシップ受入部署
学芸企画部：教育普及室、教育講座室、情報管理室、150 年史編纂室、デザイン室、広報室
学芸研究部：上席研究員、保存修復課、平常展調整室
(東京国立博物館)
1)キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象とした博物館学講座　(8 月 3 日～7 日、参加　22 大学・37 人)
2)東京藝術大学との連携
藝大生によるギャラリートーク　インターン 13 人　計 51 回　聴講者 1,913 人



キャンパスメンバーズを対象とした博物館学講座　演習風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。各事業を実施し、目標を達成した。
【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。中期計画通り実施し、充実した内容で、学生の期待にこたえることができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2232

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　③　大学との連携

【年度計画】
(京都国立博物館)
1)京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　宮川禎一

【実績・成果】
1）京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文社会論講座において、研究員4名によって8科目の授業を担当し、文化財美術作品の実物を教材として研究指導を行った。

【補足事項】

・研究員4名は客員教授3名、客員准教授1名の体制で、京都大学大学院人間・環境学研究科在籍の学生に対して、博物館所蔵の文化財・美術品の実物を使用して具体的な実物観察技術の伝達や作品調書の作成方法などの専門的な教育を行った。また博士後期課程の学生にはその専門について適切な指導を行った。

・京都大学大学院生を京都市内の寺院文化財調査に同行してもらい、文化財調査の実地訓練を行った（写真）

・京都大学国際交流センターの日本語・日本文化研修留学生に対して客員教授の1名が「日本の考古学と出土品」に関する特別講義を行い、博物館の見学会を行った。(27年11月11日に実施。参加者30名)


寺院の文化財調査に同行する大学院生

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	京都大学の博士後期課程及び修士課程の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施した。また留学生研修プログラムに協力して国際交流を図った。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	京都大学の博士後期課程と修士課程の学生を指導して計画通り着実に人材育成を図った。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2233

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する（大学院生対象)。
2)奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産学習のプログラム開発を進める。
3)大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。

担当部課	総務課総務係 学芸部教育室	事業責任者	係長　植田淳也 室長　谷口耕生

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。
(奈良国立博物館)
1)奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本古典資料の講義を行った。授業の内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期2人、後期1人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生7人であった。
2)奈良教育大学が主催し奈良市教育委員会が連携するESDプログラム開発の研究会に参加し、世界遺産学習プログラムの刷新に向けて検討を重ねた。
3)京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(27年10月1日)

【補足事項】



正倉院展特別講義

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 大学との連携事業による教育活動を通じて、歴史・伝統文化の発信に努めることができた。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の期間において、継続して大学との連携事業を実施し、各種の取組みにより人材育成に寄与できたことから、中期計画を順調に遂行できた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2234

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(2)　教育活動の充実　　③　大学との連携

【年度計画】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)インターンシップを継続して実施する。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生の受け入れを実施する。

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課	事業責任者	課長　今津節生 教育普及室事務主査　平田知加洋

【実績・成果】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。
(九州国立博物館)
1)博物館実習生を9大学13人、計9日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は4大学6人)
○博物館見学実習に対応した。(7件450名)

【補足事項】
(東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)
・装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。(27年8月17日～21日)
九州産業大学2人、佐賀大学1人、別府大学1人、広島市立大学2人、吉備国際大学1人の合計5大学7人が研修に参加した。研修では屏風の下貼り作製に関する講義と実習を通じて、文化財保存修復に対する参加学生の理解と研鑽を深めることができた。

(九州国立博物館)
1)・実習実施期間
27年8月19日～8月31日 (のべ9日間) (合計9大学13人)
＊台風15号の影響により、8月24日の実習は中止したため9日間となった。
・実習内容
博物館の各機能に関するレクチャー、実習 (来館者対応、展示企画の立案) 等を行った。
○見学実習として対応した大学は、崇城大学、九州産業大学、九州大学、香蘭女子短期大学、熊本大学、九州共立大学、筑紫女学園大学 (合計７校450人)。
九州国立博物館の概要についての講義・展示室の解説等を行った。


博物館実習 (ナイトミュージアム事前説明)


博物館実習 (博物館科学の講義風景)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
インターンシップ及び博物館実習参加者数	20人	―	―		28	29	28	21

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 館内各部門と連携・協力し、順調に博物館実習を実施できた。

【中期計画記載事項】大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 博物館実習、見学実習を継続して実施できており、中期計画どおり人材育成に寄与できた。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2311-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実　(1/2)

【年度計画】(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(東京国立博物館)
1)多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
2)より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
3)～6)(略)

担当部課	総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課	事業責任者	環境整備課長　若林賢一 特別展室長　丸山士郎 デザイン室長　木下史青

【実績・成果】
1)　当館開催の特別展のうち、６つの特別展で音声ガイドを実施し、来館者サービスの向上を図った。特別展「始皇帝と大兵馬俑」の音声ガイドでは、壇蜜（タレント）のナビゲーター起用等が好評を博し、貸出率が23.3%となった。
（東京国立博物館）
1）平成館・本館連絡通路に、多言語での考古展示室・特別展への案内パネルや、大型グラフィック他、誘導サインを増設した。
2）平成館特別展用の特注スポットライトが不足しているため、新たに購入・補充を行った。
2）考古展示室「国宝埴輪 挂甲の武人」の顔への特注狭角スポットライトを製作・設置した。

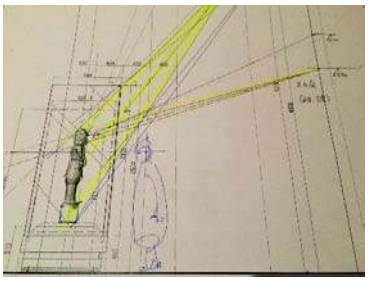


本館平成館連絡通路の大型グラフィックサイン



平成館特別展用特注スポットライト（画像は試作）





考古展示室「国宝埴輪 挂甲の武人」の顔への特注狭角スポットライト

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数	223,331台	－	－		319,172	225,235	154,056	261,241
展示照明整備件数	3件	－	－		3	3	2	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 音声ガイドの提供、展示室の照明の整備、サイン版等も所期の目標を達成している。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の所期の目標を達成している。 引き続き次期中期計画においても施設・設備等の充実推進を目指す。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2311-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①　施設・設備等の充実　(2/2)

【年度計画】(4館共通)1)(略)(東京国立博物館)1)2)(略)
3)総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクなび」(日本語版・英語版)・「法隆寺宝物館30分ナビ」(日本語版・英語版)を引き続き実施する。「トーハクなび」の「本館2階　日本美術の流れコース」については作品解説も搭載し、それと連動したパンフレットを制作・配布する。
4)障がい者のために点字版パンフレット等を引き続き配布する。
5)「総合案内パンフレット」(7言語（8種）：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西）を制作・配布する。
6)本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語（英、中、韓）のパンフレットを継続して制作・配布する。
7)育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　小林　牧 室長　伊藤信二

【実績・成果】
3)24 年度より公開しているアプリ「トーハクなび」（日・英）の提供を継続した。
利用者の使用状況を把握するためのシステムを設け、27 年 4 月からログを収集、28 年 1 月より集積したログの分析を開始した。27 年 10 月には平成館考古展示室のリニューアルに伴い「日本の考古コース」の改定を行い、新たに「今日のオススメ」作品ガイド機能を搭載した。28 年 3 月に時代のニーズに対応した 64 ビットシステムに更新、内容やＣＭＳ機能の改定も実施した。また、学校での団体利用に対応する専門アプリ「トーハクなび　スクールプログラム」の開発を行った。
4)障がい者のための点字版パンフレット等を引き続き配布した。
5)総合案内パンフレット「案内と地図」(7 言語(8 種)：日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)の制作・配布を行った。
6)本館 2 階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ 3 言語(英、中、韓)のカラーパンフレットを継続して制作・配布した。日本語版はトーハクなびの「今日のオススメ」と連動させたパンフレット「日本美術の流れ今日のオススメ」を隔月発行、配布した。また、総合文化展の鑑賞支援のための子供向けワークシート「本館１階見学マップ」「本館 2 階見学マップ」「日本の伝統もよう」を制作・配布した。
7)これまで試行実施に留まっていた託児サービスを、26 年度より引き続き通年で実施した。

【補足事項】
3)各アプリの今年度のダウンロード件数は以下の通りである。
・Android 版「トーハクなび」3,161 件（累計 9,711 件、24 年 4 月 18 日公開）
・iOS 版「トーハクなび」6,141 件（累計 15,587 件、25 年 9 月 26 日公開）
・iOS アプリ「法隆寺宝物館 30 分ナビ」650 件（累計 23,576 件、23 年 1 月 20 日公開))



「トーハクなび」
平成館考古展示室リニューアル版画面

(東京国立博物館)
7)託児サービスを引き続き実施した。託児サービスは、正門プラザ内の託児室を使用。サービスは原則毎月第1・第3土曜日、第2・第4水曜日の4回提供を行い、27年4月4日(土)～28年3月26日(土)の44回実施、利用者数は94人（児童数101人）だった。26年度に引き続き、アンケートでは利用された全てのお客様から、サービスに対して満足であるとの回答を得た（「大変良かった」90%、「良かった」10%)。今後は更に利用者の増加を図るため、ウェブによる告知等、引き続き広報活動を進める。
○26年に引き続き正門プラザ内授乳室を開放した。
○23年度より開始したベビーカー貸出サービスを継続した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
リーフレット等	7言語	7言語	B		7	7	7	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 順調。「トーハクなび」は展示に合せた改定を行ない、さらに作品解説を増やすなどのサービスの充実に努めた。託児サービスが定着した。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 スマートフォンアプリによる日英のでの情報発信や、子ども連れに対するサービスの継続など、来館者のニーズに即したサービスを充実させ中期計画を順調に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2312

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(京都国立博物館)
1)明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展覧会も開催するための観覧環境を検討する。
2)館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布する。
3)平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用し、来館者に対するサービスの向上を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　植田義雄 部長　伊藤嘉章

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図った。
(京都国立博物館)
1)平成知新館において特別展覧会「琳派　京を彩る」を開催するための観覧環境を検討した。
2)館内案内リーフレット(6言語：日、英、中、韓、仏、西)を継続して制作・配布した。
3)平常展（名品ギャラリー）においても、音声ガイド（4言語：日、英、中、韓）を継続して活用した。また、特集陳列「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」では、ゲーム『刀剣乱舞-ONLINE-』のキャラクターを演じる声優陣が担当する音声ガイドを制作し、来館者に対するサービスの向上を図った。



音声ガイド看板

【補足事項】
(4館共通)
1)特集陳列「刀剣を楽しむ－名物刀を中心に－」では、知名度のある作品に音声ガイドをつけたところ、来館者数増に大きな効果があった。
(京都国立博物館)
1)音声ガイド利用台数　計109,167台
特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」（日本語のみ）20,375台
特別展覧会「琳派　京を彩る」（日本語のみ）50,956台
名品ギャラリー(4言語：日、英、中、韓)37,836台
2)ロープパーテーションなどで、動線を明確にし、滞留の起こりそうな箇所にはキャプションを増設するなどして混雑緩和を図った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数	109,167台	－	－		34,095	35,037	17,202	76,671
リーフレット等	6言語	6言語	B		6	6	6	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 平常展（名品ギャラリー）音声ガイドにおいて多言語（4言語）を活用し、積極的な情報提供を推進した。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 館内案内リーフレット制作・配布各種案内及び音声ガイド等の充実を通じ、快適な観覧環境の提供を行った。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2313

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を行う。
2)誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。
3)正倉院展の際に託児室を設置する。
4)ウェブサイトで展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を行う。
5)館内案内リーフレット（7言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して制作する。
6)外国語による案内について、更に充実を図る。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係	事業責任者	係長　前田　学

【実績・成果】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイドを活用した情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を行った。
(奈良国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施した。
2)誘導サイン及び展示照明を整備し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して１歳児から未就学児までの預かりを実施した。
4)正倉院展において、展覧会の混雑状況・待ち時間の速報を特別協力の新聞社ウェブサイトのリンクを張る形で行った。
5)館内案内リーフレット（７言語：日、英、中、韓、仏、独、西）を継続して作製した。
6)総合案内に外国語対応できるスタッフを配置し、外国人来館者への応対の充実を図った。

【補足事項】

2)正倉院展の会期中には、臨時の誘導サインを増設し、より快適な観覧環境を提供した。
3)正倉院展の会期中の無料託児所は託児数92名の利用があった。


館内誘導サイン


無料託児室

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
音声ガイド貸出台数	49,546台	－	－		46,113	41,504	46,953	55,466
リーフレット等	7言語	7言語	B		7	7	7	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 快適な観覧環境を図るため音声ガイドの貸出しや多数の来館者がある正倉院展での各種サービスの提供ができた。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 多言語の館内案内リーフレットの配付や外国語対応スタッフの配置による外国人来館者への対応、貸出用の車いすを常備するなど、快適な観覧環境の提供することができ中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2314

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　①　施設・設備等の充実

【年度計画】
(4館共通)
1)特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、来館者に対するサービスの向上を図る。
(九州国立博物館)
1)快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
2)来館者にとって分かりやすい展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。
4)文化交流展示室の展示を、日本文化に初めて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットを刊行する。
5)英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して制作する。

担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長兼文化交流展室長　河野一隆 課長　楠井隆志 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)特別展等において展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを実施した。
(九州国立博物館)
1)文化交流展示室の鑑賞環境の向上を目的に、文化交流展示室をリニューアルした。
2)文化交流展示を構成する1～5テーマのサインについて全面的な見直しを図り、27年10月18日に設置を完了させた。
3)館内案内リーフレット(7言語：日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作した。
4)展示室内の計5箇所に外国語対応のデジタルサイネージを導入し、海外の来館者の理解を進めた。
5)日本語・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを作成し、配布した。

【補足事項】
1)特別展音声ガイド
・開館10周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」では、77,455人の来館者に対して7,781台の貸出があった（貸出率10.0%)。
・開館10周年記念特別展「大英博物館展－１００のモノが語る世界の歴史－」では、133,174人の来館者に対して22,562台の貸出があった（貸出率16.9%)。
・開館10周年記念特別展「美の国 日本」では、160,753人の来館者に対して22,208台の貸出があった（貸出率13.8%)。
・開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」では、67,641人の来館者に対して9,608台の貸出があった。(貸出率14.2%)
文化交流展示音声ガイド（3言語対応：英語、中国語、韓国語)
文化交流展示音声ガイド実施状況（貸出件数)
文化交流展示　計8,796台　英語版2,382台　中国語版2,834台　韓国語版3,580台



デジタルサイネージの活用状況

(九州国立博物館)
1)文化交流展示室のリニューアルに伴い、独立ケースの配列を検証し、27年8月末にケース移動を完了させた。また、展示室入口の照明を明るくし、観覧者の快適な観覧環境に配慮した。
4)展示室内にデジタルサイネージを設置し、展示テーマについて日英中韓の4ヵ国語で紹介するサービスを開始した。また、九州国立博物館所蔵の「名品50選」の展示情報を日英2ヵ国語で紹介した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
音声ガイド貸出台数	70,955台	－	－	経年変化	56,993	114,064	55,611	67,665
リーフレット等	7言語	7言語	B		7	7	7	7

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 文化交流展示室は26年度より貸出台数が増えており、外国人来館者の展示の理解に役立った。

【中期計画記載事項】施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 来館者のための快適な環境を整備し、中期計画どおりサービス向上を図れた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2321

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
1)タッチパネルアンケート(特別展、総合文化展)を平成館、本館、東洋館で開催された全ての特別展及び総合文化展でアンケートを実施し、集計結果を元に環境改善に努めた。
2)特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」において、会期前に詳細なマニュアルを作成し、対策を講じたうえで期間中の混雑対応等、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1)・定期的にアンケートの項目を見直し、要望が多いキャプション等への指摘に対して改善を行った。
・お客様からの質問・意見については、担当部署へ照会するとともに館内で情報共有を図った。また、質問には迅速に対応した。
2)特別展会場における混雑対応
・特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」では、入場待ちのお客様に少しでも快適にお並びいただけるよう、敷地内への待ち列誘導を9時00分に早め、テントの増設やミストマシン・給水所・パイプ椅子の設置、移動販売の実施、日傘・クロスワードパズルの配布などを行った。また、快適な観覧環境及びお客様の安全を考慮した案内誘導導線を詳細に検討したうえで、常に待ち時間が分かるよう正門のみならずツイッター等でも発信し、お客様各々の待ち列場所に応じた正確な待ち時間を案内できるよう工夫した。
○上野公園と周辺博物館・美術館で開催するイベント「創エネ・あかりパーク2015」に協力し、施設への美術品画像の投影と期間中の開館時間延長を実施した。



創エネ・あかりパークの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
インドの仏―仏教美術の源流　満足度	80%	―	―	経年変化	―	―	―	―
鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―　満足度	67%	―	―		―	―	―	―
クレオパトラとエジプトの王妃展　満足度	67%	―	―		―	―	―	―
アート オブ ブルガリ　満足度	85%	―	―		―	―	―	―
始皇帝と大兵馬俑　満足度	78%	―	―		―	―	―	―
総合文化展　満足度	82%	―	―		65%	70%	78%	77%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	アンケートの結果等を元に環境改善に努めたこともあり、総合文化展満足度は、平成23年度以降で最高となった。また、特別展についても、満足度が80%を超えるものが複数見られた。ただ、混雑した特別展では満足度が下がったため、引き続き、混雑対策の検討が必要である。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画期間を通じ、混雑した特別展において各種の対策を講じて利用者に配慮した運営を行った。また、外国人をはじめとする一般来館者の意見については聴取できているため、それを基に今後改善を行う。混雑時の観覧環境の向上対策も、引き続き進める。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　2322

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
(京都国立博物館)
1)モニターを委嘱し、提言を受け、博物館運営に反映する。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】(4館共通)
1)来館者アンケートを実施し、その結果を改善に生かした。
2)混雑時には入場制限を行い、来館者の安全の確保、快適な観覧環境の維持に努めた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展覧会等に関する専門家の展覧会評を求め、『京都国立博物館だより』に掲載した。
(京都国立博物館)
1)小学校・中学校・高等学校の教員、キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び外国人招致活動用務に携わっている方、近畿地区在住の外国人の方へモニターを委嘱し、提言を受けた。館内で情報を共有し、展覧会を含めた博物館運営に反映した。

【補足事項】(4館共通)
1)・来館者アンケートに休憩用椅子を増やしてほしいという要望が多かったため、平成知新館内に休憩用の椅子を増設し、お客様の休憩場所の確保に努めた。
・来館者アンケートにおいて写真撮影の希望が多く寄せられるが、展示室内では撮影禁止のため、平成知新館前に看板を造作し、来館者が記念撮影を行えるように配慮した。
2)・明治古都館内及び平成知新館、庭園内において、混雑状況に応じて休憩場所の箇所を変更し、お客様が休憩しやすいようにした。特別展会期中、日よけテント、待合所テントの設置、自動販売機、観光客の旅行用大型バッグ（カート）の収納が可能な大型コインロッカー及び傘立ての増設も行った。
・特別展会期中に入館までの待ち時間等の情報をウェブサイト等に掲載した。
・「琳派　京を彩る」展会期中は、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行った。また、章解説やキャプションのための立体のパネルを造作し、配置を工夫することで、観覧者の滞留緩和を図った。


入場待ちのお客様のためのテント（「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」会期中）

(京都国立博物館)
1)・名品ギャラリー展示室一部閉室時の状況が分かりにくいとの提言があったので、チケット売場料金表の横に図面を表示し、チケット購入前に開室状況が分かるようにした。
○職員等への防災・接遇研修等
・各展覧会の開催期間中に火災及び地震を想定した避難誘導訓練を実施し、職員等の防災に対する意識を高めた。
・開館中の火災を想定した総合防災訓練を実施し、来館者の避難誘導訓練や初期消火訓練を行った


総合防災訓練風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち　満足度	94%	―	―		―	―	―	―
仏法東漸　―仏教の典籍と美術―　満足度	83%	―	―		―	―	―	―
琳派　京（みやこ）を彩る　満足度	84%	―	―		―	―	―	―
平常展　満足度	83%	―	―		―	―	―	74%

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	特別展覧会では混雑状況に応じて入場制限を行い、待ち時間をウェブサイト等で掲載するなど、利用者に配慮した運営を実現すべく、施策を着実に実施した。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	来館者へのアンケートや専門家による批評、モニターからの提言などの取り組みを継続的に行い、博物館運営に活かすよう努めた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2323

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営		

【年度計画】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係 学芸部情報サービス室	事業責任者	係長　前田　学 室長　岩井共二

【実績・成果】(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者にアンケートを実施し、その結果を改善に活かした。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を行い、実際の混雑に対しては、収容力に応じた来館者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持につとめた。
(京都国立博物館・奈良国立博物館)
1)今年度も専門家による展覧会評の掲載を検討したが、開館120年記念に関連した当館職員による事業紹介を優先した結果、今年度については展覧会評を掲載することができなかった。

【補足事項】(4館共通)
1)アンケートなどの意見を反映して下記の改善を行った。
・正倉院展の会期中、展示ケースのガラス清掃、エントランスマット清掃を業者委託により実施した。
・正倉院展の会期中、臨時誘導サインを設置し、混雑状況の中でもトイレ利用案内、ミュージアムショップやレストランへの誘導が図れた。
・正倉院展の会期中、館内やトイレの見回り頻度を増やすことにより、ゴミや汚れの発見を早めることで快適な環境の保持につとめた。
・ウェブサイトから寄せられたご意見等の質問に対し迅速に対応した。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、実際の混雑に対して工夫等を行った。
・正倉院展では、入場待ちの来館者のためテント設置、待ち列があるピロティに設置したモニターによる展示案内や館内注意事項の映像を流した。また、館内の混雑調整のための入場制限や入場待ち列の混雑緩和のため案内誘導を行った。
・正倉院展では、過去の同展よりもコインロッカー等を増設することで手荷物預かり数を増やし、観覧しやすい環境の確保に努めた。
・正倉院展では、混雑状況（待ち時間）の速報を、ハローダイヤル、近鉄奈良駅、ＪＲ奈良駅及び読売新聞大阪本社(特別協力)のウェブサイトと連携して行った。


コインロッカー

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
平安古経展　満足度	84%	－	－		－	－	－	－
白鳳―花ひらく仏教美術―　満足度	85%	－	－		－	－	－	－
第６７回正倉院展　満足度	69%	－	－		73%	77%	70%	69%
名品展　満足度	78%	－	－		74%	79%	84%	81%

【年度計画に対する総合評価】 評定：　C	【判定根拠、課題と対応】 年度計画の展覧会評の広報誌掲載については開館120周年記念に関連した当館職員による事業紹介を優先したため実施できなかった。一方、来館者アンケートを実施しその結果をもとに改善を実施したこと、また混雑が予想される展覧会での各種対策により快適な観覧環境を維持できた。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 来館者アンケートを実施して改善すべきところを把握し反映につとめた。また中期計画期間中に毎年度開催した正倉院展では特に混雑する展覧会であるため、過去の展覧会の事例等から注意点を把握し、その対策を講じることで混雑時に適切な対応が行えた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2324

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　②　来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営

【年度計画】
(4館共通)
1)来館者のニーズを引き出すため来館者調査を実施し、その結果を改善に活かす。
2)混雑が予想される展覧会ではその対応を想定した計画を立て、収容力に応じた入場者数の調整、陳列品の配置及び音声ガイドの対象となる文化財の解説場所の工夫等を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　阿部　勝

【実績・成果】
1) 来館者のニーズを引き出すため、文化交流展示室及び各特別展で来館者調査を実施した。
2) 混雑が予想される展覧会（開館10周年記念特別展「美の国　日本」）について、入場規制、展示レイアウトの工夫をし、展覧会場の快適な環境維持に努めた。

【補足事項】
1) 管理運営の改善ためアンケート結果を関係各課と共有し、改善に向けて活かした。
・平常展アンケート 満足度 72 %　回答数316件
（「とてもよい」 44 %、「よい」 28 %、「ふつう」 9 %、「あまりよくない」 3%、「よくない」 2%、「無回答」 14 %）

2) 混雑が予想された開館10周年記念特別展「美の国　日本」では、以下の対応を行った。
・ハローダイヤル、日本道路交通情報センターなど関係各所にFAXを送信し、混雑状況の周知を図った。
・主催事務局において、開館10周年記念特別展「美の国　日本」 公式ウェブサイト、「Facebook」にて待ち時間を発信した。
○太宰府消防署の協力により、地域と連携した火災訓練を実施した。
○筑紫野警察署の協力により、不審者対応の巡回を実施してもらった。



特別展「美の国　日本」の状況

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－満足度	88%	－	－	経	－	－	－	－
大英博物館展　満足度	81%	－	－	年	－	－	－	－
美の国 日本　満足度	89%	－	－	変	－	－	－	－
アフガニスタン美術展　満足度	94%	－	－	化	－	－	－	－
文化交流展　満足度	72%	－	－		65%	70%	65%	62%

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート結果は概ね好評を得た。また、管理運営のためのアンケート結果を改善に向けて活かした。外部からの要望意見聴取等をまとめという形で発行した。なお、混雑が予想された開館10周年記念特別展 「美の国　日本」については、関係各所と打ち合わせを行い、情報収集し、その情報を基に混雑対策を講じることができた。その結果、入場の待ち時間はあったが、混乱なく入場案内ができた。

【中期計画記載事項】一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 管理運営のためのアンケート結果を関係各課で改善に向けて活かしている。また、外部委員の意見のまとめを全職員に配布し、来館者ニーズ等に対する職員の意識改革の推進を図った。なお、混雑が予想される特別展については、関係部署と連携を取り対応等を講じることができた。以上のとおり、中期計画に沿って運営を実施した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2331

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(東京国立博物館)
1)特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
(4館共通)
1)考古展示室のリニューアルオープンにあわせ、オリジナルグッズとして、ペーパークラフトを発売した。

(東京国立博物館)
1)26年度に試行的に実施していた屋外のケータリングカーを特別展期間中常設にした。

【補足事項】
(4館共通)
1)ペーパークラフトはデザイン性にも優れ、グッドデザイン賞を受賞することができた。
2)風月堂とコラボしたオリジナル商品（お菓子）やオリジナルのマスキングテープを新たに開発するなど、低価格帯の商品の更なる充実を図った。
3)ケータリングカーを特別展期間中に常設することによって、来館者から要望が多かった軽食を提供するのみならず、27年度よりその場で気軽に飲食ができるようにケータリングカー周辺の屋外に椅子・テーブルを設置しサービスを向上させた。


ペーパークラフト紙宝シリーズ「埴輪　馬」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 オリジナルグッズの開発や来館者への軽食サービス提供など徐々にではあるが、改善されてきている。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 来館者からの意見を踏まえて軽食を増やしたり、低価格のグッズを開発するなど継続的に努力し中期計画通り改善を重ねた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2332

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。
2)平成知新館に新たなレストランを設け、更なる利用者サービス向上を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1)新規にオリジナルグッズを作成し、また展覧会に応じた関連商品、関連書籍等を取り揃え、サービスの向上に努めた。
(京都国立博物館)
1)レストラン利用者にアンケート調査を実施し、アンケートの集計結果をレストラン外部委託業者に提示することで、接客サービスの向上に努めた。
2)平成知新館に新たに設けられたレストランを活用し、更なる利用者サービスの向上を図った。

【補足事項】
・南門施設には、ミュージアムショップ、レストラン、インフォメーションコーナーがあり、入場料を払わずにお客様が利用できるスペースとなっている。3業務とも外部業者に委託しているが、連絡を密にとり、当館の要望に応えた運営になるよう心がけた。
・明治古都館（特別展示館）の休館に伴い、特別展覧会前後に全館休館期間が生じたが、この期間も、ミュージアムショップ、レストラン及びインフォメーションコーナーは営業を行った。
・プロジェクションマッピングやイルミネーション実施期間中等、当館の開館時間を延長する際には、平成知新館内及び南門施設内のミュージアムショップ、レストランなどと連携し、営業時間の延長を行った。
・インフォメーションコーナーでは、展覧会関係及び京都観光案内等のチラシ掲示や、英会話のできる人員の配置など、当館の案内だけでなく京都市内の観光案内等も行った。
・当館オリジナルグッズ（クリップ、立体カード、ジグソーパズル等）を引き続き販売した。
・ミュージアムショップにおいては、当館で開催中の展示や、干支に関連するグッズ等、日本美術を中心とした様々なグッズを販売した。
・27年度に新たに誕生した公式キャラクター「トラりん」に関連した文化財保護基金グッズを新たに製作、販売した。
・公式キャラクター「トラりん」の着ぐるみを製作し、土、日、祝日を中心に登場させた。来館者からの認知度を高め、関連グッズ等の販売促進につなげることができた。


庭園に登場したトラりん


トラりんてぬぐい

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 館内ミュージアムショップやレストランと連携を密にし、また新たなグッズの製作や販売を行うなど、更なる利用者サービスの向上に努めた。
【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 レストランのサービス等について利用者にアンケート調査を行い、結果を外部委託業者に報告して、接客サービスの向上に中期計画どおり努めた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2333

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
　ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(奈良国立博物館)
1)アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。
2)ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。

担当部課	総務課渉外室利用者サービス係	事業責任者	係長　前田　学

【実績・成果】
(4館共通)
1)オリジナルグッズの商品をミュージアムショップで販売しサービス向上に努めた。
(奈良国立博物館)
1)・正倉院展のオータムレイトの観覧券を購入した方に非売品のしおりを配付した。
　・28年1月2日に来館された方に正月サービスとして非売品のオリジナルステッカーを配付した。
2)仏教美術に関する図書の販売の充実を図った。

【補足事項】

(4館共通)
1)堅苦しくなりがちな仏像をかわいらしくデザインし、手を上げている、走っている等の仏像の動きをポップなカラーで表現した「元気が出る仏像シリーズ」のマーキングクリップや正倉院展模様のブックカバー、特別展出陳作品をプリントしたクリアファイルや一筆箋等のオリジナルグッズをミュージアムショップで販売した。


元気が出る仏像シリーズ
「マーキングクリップ」


正倉院展ブックカバー


一筆箋

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	ノベルティグッズを作成して来館者に配付を行ったり、ミュージアムショップでのオリジナルグッズの販売をしたりすることにより、来館の付加価値を付けることで来館者へのサービスや満足度の向上に努めた。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズや仏教美術に関する図書の販売について、利用者の意見を参考に充実を図った。また、レストランにおいても利用者の意見を収集しサービス向上に努めており、中期計画期間中の改善が順調に行われた。

【書式A】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2334

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(3)　快適な観覧環境の提供　　③ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

【年度計画】
ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
(4館共通)
1)オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。
(九州国立博物館)
1)特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。
2)九州国立博物館開館10周年記念貨幣が発行されることに伴い、ミュージアムショップや券売所での引換えや釣銭としての活用など、サービスの向上に努める。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
(4館共通)
1)〇27年7月に当館ミュージアムショップをリニューアルオープンした。館外にアンテナショップを新設した。
・オリジナルグッズの開発や特別展・文化交流展の展覧内容に即した商品、地場産業の商品を提供した。
(九州国立博物館)
1)レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。
2)27年7月に九州国立博物館開館10周年記念貨幣を発行した。ミュージアムショップや券売所等で引換えや釣銭として利用した。

【補足事項】
(4館共通)
1)・27年7月1日、ミュージアムショップをリニューアルオープンさせた。オリジナル商品の開発や情報発信（図録や書籍等）の充実を図った。
・27年7月20日、太宰府天満宮参道にアンテナショップとして「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」を新設。博物館の情報発信とミュージアムグッズを提供した。
・オリジナルグッズは、館と事業者が共同して開発した。



ミュージアムショップリニューアル


「ミュージアムショップ参道」オープニング


アフタヌーンティセット

(九州国立博物館)
1)　レストランでは、特別展に関連したメニューを提供した。
・開館10周年記念特別展「戦国大名」では、九州の武将にちなみ九州地方の名物を詰め込んだ「松花堂弁当」等を提供。
・開館10周年記念特別展「大英博物館展」では、イギリス仕様の「アフタヌーンティセット」をレストラン及び期間限定のブックカフェで提供。
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」では、日本の美食の秋の食材を詰め込んだ「プレミアム松花堂弁当」等を提供。
・開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」では、「シルクロード」の文化がヨーロッパから西アジア、中国を経て日本へと伝わる流れをイメージした「シルクロード風鍋」等を提供。


記念貨幣

2)　27年7月の九州国立博物館開館10周年記念貨幣の発行
2万枚をミュージアムショップや券売所等で引換えや釣銭として利用した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	館外に常設のミュージアムショップを新設し、情報発信基地として利用者サービスの向上に大きく寄与することができた。

【中期計画記載事項】ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	ショップのリニューアル、館外ミュージアムショップの開設、館と事業者が共同したオリジナルグッズの開発やメニューの提供など、初期の中期計画の目標以上に利用者サービスの向上に寄与している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2411

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】（4館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
（東京国立博物館）
1)外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」（学芸業務支援システム）の構築を進め、博物館機能の充実を図る。
2)収蔵品に関する基本情報のデータ化及びデータ整備を引き続き推進する。
3)収蔵品の和古書・洋古書のデジタル化を実施し、データを整備して、公開する。
4)法隆寺献納宝物について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて実施するとともに、システムの更新について検討する。
5)ガラス乾板・未整理のブローニー・スライド・写真カード等のデジタル化について検討する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】(4館共通) 1)デジタル画像を資料館及びインターネットで公開した。
2)国宝・重要文化財の高精細画像（e国宝）を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。
3)通常博物館で使用する形態の既存フィルムのデジタル化は大半が既に終了しており、今年度は、27年度新規フィルムおよび未登録となっていた、カラーフィルム480枚、モノクロフィルム4枚をデジタル化した。
（東京国立博物館）
1)「列品管理プロトタイプデータベース」について、機能追加とともにオンライン・ヘルプを改訂した。また、データを題箋として印刷するための機能を改善した。
2)収蔵品情報のデータ化とデータ整備を推進した。
3)収蔵する和古書・漢籍について13,924カット、洋古書について16,089カットのデジタル撮影を行った。また26年度までに撮影したものと合わせ、データ整備が完了したものから随時公開した。
4)「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」について、27年4月27日から5月19日まで公開した。また現在のシステムが老朽化していることから、更新について検討した。
5)未整理のブローニーフィルムについて調査の上デジタル化した。また未整理のスライドの一部について試行的にデータの整備を行った。

【補足事項】(4館共通)
2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。
・iOSアプリ549,902件（23年1月20日リリース）参考：26年度末時点512,034件
・Androidアプリ184,456件（25年2月6日リリース）参考：26年度末時点173,877件
（東京国立博物館）
3)和古書・洋古書および漢籍のデジタル画像を公開する「東京国立博物館デジタルライブラリー」において、588件995冊分の画像を公開している。


デジタルライブラリー画面

4)法隆寺宝物館2階資料室は、平成館工事に伴い26年12月から27年4月まで休憩室としていたため、工事終了後の27年4月27日からの公開となっている。また法隆寺宝物館自体も27年5月20日から28年3月14日まで環境整備工事を行ったため、5月19日までの公開となっている。28年3月14日以降については、老朽化したシステムの運用管理の継続が困難であることから再度の公開は行なわないこととした。
○本館19室において、「e国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐろう」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ継続して公開した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	484件	－	－		1,468	776	550,305	79
うちカラーフィルム	480件	－	－		1,392	715	304	41
うちモノクロフィルム	4件	－	－		76	61	1	38
うちマイクロフィルム	－	－	－		－	－	550,000	－

【年度計画に対する総合評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像の公開、データベース開発やデータ整備等は順調である。スライド等の未整理フィルムについて、デジタル化やデータ整備の方法を引き続き検討が必要である。和古書・洋古書のデジタル化件数、およびこれらを公開するデジタルライブラリーの公開件数はいずれも順調に増加している。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定： B	【判定根拠、課題と対応】 既存フィルムのデジタル化はほぼ完了させ、その他のデータ整備や和古書・洋古書デジタル化を進めた。また来館者向けシステムや、インターネット公開のためのシステムを継続的に運用し、公開件数も増加した。以上の通り、中期計画を順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2412

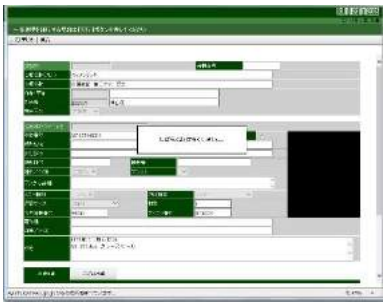
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(京都国立博物館)
1)収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について6言語（日、英、中、韓、仏、西）の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システムへ登録した。(新規登録件数：26,140件) また、ウェブサイトにて公開する館蔵品データの登録及び更新を随時行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について5言語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を伏したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。
3)・収蔵品写真等の既存フィルム等のデジタル化を継続し、5,966件実施した。
・フィルム用スキャナを継続して運用し、既存フィルムのデジタル化を行った。(4,514枚)
・継続してマイクロフィルムのデジタル化を進めており、27年度は90リール（57,805コマ）のデジタル化を行った。
・継続してガラス乾板のデジタル化を行っており、27年度は1,362枚デジタル化を行った。
(京都国国立博物館)
1)・京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。
（中期計画記載事項）
館蔵品データベースの27年度公開データは99件増加した。

【補足事項】
(4館共通)
1) 文化財情報システムのシステム改善により一括登録が可能になったため、コマ数が多いマイクロフィルムの登録を開始し、大幅に登録件数が増えた。
3)・引き続き外部委託とともに当館職員によるスキャニング作業を積極的に行い、費用削減を図りながら、フィルムのデジタル化を促進した。
・自己収入予算の重点配分により、館内では実施不可な8×10、及び5×7フィルムのスキャニングを外注することができた。
・ガラス乾板は、京都造形芸術大学の協力の下、保存整理作業も続けて行っており、27年度はキャビネサイズを中心に状態調査を行い、スキャニング作業は26年から引き続きキャビネ・四つ切サイズを中心に行った。


文化財情報システム
一括登録画面

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	5,966件	2,000件	A		2,165	2,732	2,682	5,536

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	改善された文化財情報システムを使い、新規登録数の大幅な増加につなげた。既存フィルムのデジタル化を積極的に行い、収蔵品のデジタル化を当初の想定以上に推進することができた。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画を通じ、デジタル化を進めるとともに、ウェブサイトにて館蔵品の公開データを継続的に増加させることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2413

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(奈良国立博物館)
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースの充実を図る。
2)画像データベースの個別データを約2,000件追加更新する。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討する。
4)仏教美術情報の公開・普及を図る。
5)「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
（４館共通）
1)収蔵品について情報の整備を継続して実施し、収蔵品データベースのインターネット公開を継続した。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施した（3,875件)。
(奈良国立博物館)
1)収蔵品・展覧会等出品作品等の新規撮影を行い、関連データを整備した(4,237件)。
2)画像データベースの個別データを追加更新した（7,462件)。
3)修理記録・古写真・ガラス乾板等の整理とデジタル化を推進し、運用方法について検討した。
4)仏教美術情報の公開・普及を図るため、仏教美術資料研究センターならびに関連データベースの公開を継続した。
5)「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続した。

【補足事項】
1)デジタル化を進めている館蔵ガラス乾板についてデータベースを新規に作成し、館内で閲覧可能な環境を整えた。これは「日本美術院彫刻等修理記録」に続いて館内のガラス乾板の保存活用を実現する事業の一つである。ガラス乾板のデジタル化は、ガラス乾板の原板の整理、すなわち目録データの作成、保存処理（カビや埃の除去)、畳紙・保存箱への納入、26 年度末に導入したガラス乾板専用の保存棚への排架と連動したもので、原板の保存活用とデジタル化の促進がともに達成されつつあるという点で意義深いものである。今後も最新のデジタル撮影と同時に、近代資料の保存活用にも取り組んでいく所存である。



ガラス乾板データベース

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	3,875件	3,000件	A		5,297	4,924	7,615	5,154
写真データベースの個別データ追加更新件数	7,462件	2,000件	A		4,370	13,402	9,093	5,447

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	目標値を上まわる数値となっており、継続的な蓄積が達成されている。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、情報の共有についても新たな試みを実施しており、機能・サービスの強化することができ、中期計画を大きく上回って成果があった。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2414

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　①　デジタル化の推進

【年度計画】
（４館共通）
1)収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開する。
3)収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化を実施する。(京都：2,000、奈良：3,000、東京・九州は既存フィルムのデジタル化はほぼ完了しているため、新規フィルム撮影のうち年度内のデジタル化が可能なものについて、デジタル化を実施する)
(九州国立博物館)
1)収蔵品に関する基本情報を整備して、公開活用に向けた情報整備を推進する。
2)対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。
3)海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。

担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課	事業責任者	課長　冨坂　賢 課長兼文化交流展室長　河野一隆

【実績・成果】
（４館共通）
1)「収蔵品ギャラリー」を整備し、継続して収蔵品情報を発信した。28年度のリニューアルに向けての検討を行った。
2)収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語（日、英、中、韓、仏）の説明を付したデジタル高精細画像（ｅ国宝）を継続して公開した。
3)既存フィルムのデジタル化は完了している。なお、27年度は新規フィルムの撮影がなかった。
(九州国立博物館)
1)収蔵品の公開活用の基盤となる館内データベースシステムを新規に構築し、公開情報・公開項目の選定を進めた。
2)対馬宗家文書データベースを見直し、より効率的な運用体制を構築した。装飾古墳データベースの公開を継続し、「電子国土功績賞2015」を受賞した。郷土人形データベースを新たに公開した。
3)月例の学芸会議の中で、研究会という形で研究活動や様々な事業活動の発表を定例化し、整備にむけての足がかりとした。

【補足事項】
(九州国立博物館)
1)　27年度から稼働した「文化財情報システム」は、収蔵品の公開・非公開の設定や公開する情報の編集・管理を一元的に行うことができる構造を持つ。これに伴い、「収蔵品ギャラリー」をコンテンツ、ユーザインタフェースの両面から見直しを行い28年度にリニューアルする予定である。
2)　郷土人形データベースは、ボランティア資料部会を中心に、以前から進めている故秋吉元氏寄贈の郷土人形コレクションについて、画像と作品データを検索・一覧できるデータベースである。以前より、仮サーバ上にてデータの蓄積を進めてきたが、27年度からウェブサイト上で公開し、資料整理の成果を広く公表することとした。



郷土人形データベース
トップページ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数	－ （完了済）	－	－		2,146	1,450	62	776

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 対馬宗家文書DB、装飾古墳DB、収蔵品ギャラリーの運用・公開を26年度同様に実施した。収蔵品データベースを公開するための基盤となるシステムを構築した。

【中期計画記載事項】収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 新たに郷土人形DBの運用を開始することで公開される情報量を増加させた。また、ウェブサイトと連動した情報公開の基盤を構築するなど、中期計画どおりにシステムの充実を図った。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2421

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約15,000件 (東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000) の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
(東京国立博物館)
1)調査・研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。
2)博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。
3)資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。
4)法隆寺宝物館において、観覧者向け情報コーナーサービスを継続実施する。

担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	課長　田良島哲

【実績・成果】
(4館共通)
1)　本年度は6,947件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
(東京国立博物館)
1)・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、10,285件の図書および逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像管理システムに画像データ12,513件を登録し、既存データ1,725件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。
・図書館振興財団の助成によりシーボルト旧蔵本の修理・保管箱作成（85冊）、デジタル撮影（65冊　33,911カットを行い、「シーボルト旧蔵本」デジタル・アーカイブに登録した。別途洋書27冊、漢籍51冊のデジタル撮影を行った。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 5,936人)
2)・『Museum』や特別展図録など約200点の当館刊行物について、収載されている当館の所蔵品の列品番号を調査し、図書館システムの該当資料にその情報を入力した。
・埋蔵文化財発掘調査報告書約1,500冊、展覧会カタログ約500冊の書誌データを整備した。また26年度と併せて約960件の売立目録の書誌データを、NCのルールに準拠して整備し、NCに所蔵を登録した。
・所蔵する和雑誌の所蔵情報を点検し、1,993タイトルについてNCに所蔵登録を行い、CiNiiでの検索を可能とした。
3)・展覧会カタログ用書庫に総段数　518段の書架を設置し、カタログを含めた図書約2,200段分の再配置を11日間、3回に分けて実施した。
4)・法隆寺宝物館全館改修工事のため3月までサービスを停止した。また、停止中に検討を行い、情報コーナーサービスを廃止することとした。なお、法隆寺宝物館の図書は、資料館閲覧室に移設し、サービスを継続することを検討している。


整理・配架した書庫内の雑誌書架

【補足事項】
1)・図書資料収集・整理の内訳は、新規図書 6,826冊、既存図書の遡及入力993冊、逐次刊行物の受入3,592冊である。
2)・4回の特別展について展覧会の関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場で関連図書リストを配布した。
・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース (OPAC) に記事を掲載し資料館からの情報発信に努めた。
3)・資料館の入館経路や入口をわかりやすくするため、入館者向けサインの変更、新設を行った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	12,513件	8,000件程度	A		10,566	9,556	9,865	10,720
うちフィルム撮影	1,479件	－	－		1,379	1,063	22	22
うちデジタル撮影	11,034件	－	－		9,187	8,493	9,843	10,643
新規図書整理	6,826件	－	－		3,970	4,877	4,989	6,849
遡及図書整理	998件	－	－		5,459	13,693	3,505	1,266

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： B	新規撮影や関連データ整備を滞りなく行うことができた。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： B	新規撮影や関連データ整備とともに、図書整理を滞りなく行った。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2422

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】

美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。

(4館共通)

1)約15,000件　(東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000) の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。

(京都国立博物館)

1)資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。

2)デジタルサイネージや情報閲覧システム、無線LAN等の情報処理技術を活用し、来館者に対する効果的な情報発信を図る。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】

(4館共通)

1)・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、デジタル撮影を5,294枚行った。
・27年度システムの改善を行ったため、過年度のデジタル撮影2,928枚を遡って登録を行うことができた。
・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書3,856冊、逐次刊行物1,599冊を収集した。

(京都国立博物館)

1)・文化財情報システムにて画像管理、検索性を向上させるため、入力や検索等の各種プログラム改修を行った。
・増大するデジタル撮影データを安全に管理するため、バックアップ仕様の改善やストレージ（大容量記憶装置）のデータ移行等を行った。

2)平成知新館2階レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ、館蔵品の画像や解説を来館者の閲覧に供した。また、展示情報系LANにより1階エントランスホール及び各階展示前室のデジタルサイネージを結び、展示情報や出品作品の画像イメージを表示させるなどして、来館者にとって分かりやすい情報発信を図った。

【補足事項】

1)　・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会　「琳派　京を彩る」(27年10月10日～11月23日)、また特別展覧会「禅　心をかたちに」(28年4月12日～5月22日)を対象として進めた。
・特集陳列・特別展観について、チラシ・リーフレット作成のため、作品の撮影を行った。
・フィルムの保存状態改善のため、保存に適した収納箱への移し替えを継続して行った。



デジタル撮影風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品･出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	8,222件	3,000件	A		3,580	2,713	4,525	4,927
うちフィルム撮影	0件	－	－		3,410	2,168	1,406	557
うちデジタル撮影	5,294件	－	－		170	545	3,119	4,370
過年度分の登録	2,928件	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規撮影、図書資料の収集を滞りなく実施することができた。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新規図書等による基礎資料の収集を進め、平成知新館のレファレンスコーナーやデジタルサイネージの活用により、中期計画どおり順調に充実させることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2423

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ② 博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
(4館共通)
1)約15,000件 （東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
(奈良国立博物館)
1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。
2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を全面的に見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施する。

担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長　宮崎幹子

【実績・成果】
(4館共通)
1)収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した（4,237件)。
(奈良国立博物館)
1)図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図った。
2)仏教美術資料研究センターの耐震補強工事完了をうけて、利用者に対し利便性向上を図るため、資料配置を順次見直し、資料の有効的な活用と効率的な運用について検討し、実施した。

【補足事項】
1)収蔵品ならびに画像データベースの内容を充実すべく、画像・テキスト情報を逐次更新しているが、このたび情報公開をさらに促進させて利用者へのサービスを拡充するために、28年3月から収蔵品画像データの無償ダウンロードのサービスを開始した。画像データの利用者提供については、収蔵品その他全ての画像について、特別観覧の手続きを経てDVDに焼き付けたものを郵送することで対応している。今回はインターネットで公開する収蔵品・画像データベースで表示される収蔵品の画像データについて、利用者が自身でダウンロード可能なように、システムを改修することで対応するものとした。無償ダウンロード可能な画像は、長辺4,000ピクセルの高解像度のもので、学術・教育目的のものであれば、課金無しで利用可能とする。これにより、博物館が蓄積している高品質の情報を社会に還元する方法がさらに充実し、サービス向上に資するものとなる。



無償ダウンロード機能を追加した
収蔵品データベース

・独立行政法人国立美術館が主催する、JALプロジェクト2015「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業2015」へ26年に引き続き協力し、7ヵ国9名の研修生（大学ならびに美術館の図書館司書を中心とする）を受け入れ、研修ならびに見学会を実施した。海外の日本美術資料専門家に対して仏教美術資料研究センターの活動内容や奈良国立博物館が作成する各種データベースを紹介する貴重な機会となり、質疑応答や情報交換がなされた。特に収蔵品ならびに画像データベースに強い関心が寄せられ、今後の情報の蓄積や広報に参考となる意見が得られた。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	4,237件	3,000件	A		6,103	4,960	4,648	5,478
うちフィルム撮影	5件	－	－		219	14	87	7
うちデジタル撮影	4,232件	－	－		5,884	4,944	4,561	5,471

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 目標値を上まわる数値となっており、継続的な情報蓄積が達成されている。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対し、目標値を上まわる数値となるだけに留まらず、収蔵品画像データの無償ダウンロード開始をはじめとする新規事業や、研修並びに見学会を通じた他館との人的交流を実施するなど、活動をより充実させた。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2424

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）　文化財情報の発信と広報の充実 ②　博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化

【年度計画】
美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
（4館共通）
1)約15,000件 （東京：8,000、 京都：3,000、 奈良：3,000、 九州：1,000）の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備する。
（九州国立博物館）
1)蔵書管理システム及び画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供することを図る。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
（4館共通）
1） 1,090件の収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データを整備した。
（九州国立博物館）
1)26年度導入した日本事務器製ネオシリウス（蔵書管理システム） において、内蔵データ整備を行った。27年度より日本写真印刷コミュニケーションズ製文化財情報システムの一部として画像管理システムの運用を開始した。

【補足事項】
（4館共通）
1） 収蔵品・出品作品等の新規撮影は、フィルム撮影に代わりデジタル撮影が主体となっており、そうした流れに対応した整備を行った。


専任撮影技師による宗家文書撮影①


専任撮影技師による宗家文書撮影②

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数	1,090件	1,000件	B		4,441	2,142	1,512	1,167
うちフィルム撮影	0件	－	－		2,175	1,480	822	4
うちデジタル撮影	1,090件	－	－		2,266	662	690	1,163

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	新規撮影件数及び関連データ整備の目標値は達成した。画像管理システムを収蔵品管理システムと連動させることで、利用者のアクセシビリティを向上・管理の効率化を実現することができた。 蔵書データベースの整備については、27年度から3ヵ年をかけて館内及び館外（保管業務委託）蔵書を整備する事業に着手した。

【中期計画記載事項】美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	撮影件数は業務上の事情により左右される部分もあるが、中期計画の目標値は順調に達成している。今後は専任の撮影技師による撮影から画像の利用までの効率的なフローの構築を目指す。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2431

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(東京国立博物館)
総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館でアジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。
3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』(隔月刊)や、総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語8種)、「展示・催し物のご案内」を作成、配布した。
2)「博物館でアジアの旅」、「秋の特別公開」、「博物館に初もうで」、「平成館考古展示室リニューアル」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。
3)本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめ、展示替ごとに更新する日本語パンフレットを10月まで作成し、配布した。「トーハクなび」の「今日のオススメ」作品の配信開始に伴い、『東京国立博物館ニュース』ページ中の「日本美術の流れ」を「今日のオススメ」と連動させ、パンフレット「日本美術の流れ　今日のオススメ」として作成し、配布した。

【補足事項】
2)・『東京国立博物ニュース』では、総合文化展のページを増やし、きめ細かい情報発信に努めた。
・「博物館でアジアの旅」「博物館に初もうで」では、朝日、読売、毎日、日経新聞への広告を出広した。



『東京国立博物館ニュース』728号



「博物館に初もうで」毎日新聞掲載広告

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	スケジュールや案内は当初計画した形での広報物作成と配布が実施できた。また各企画において印刷物を作成し効果的な広報が展開できた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	より一般来館者の関心を惹き、かつ外国人や若年層など、今後来館の幅を広げうる層にも訴求するような印刷物及び広報展開を中期計画通りに実施できている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2432

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供		

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
（京都国立博物館）
1)広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。
2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
1)特別展覧会「琳派　京を彩る」、「禅　心をかたちに」の開催に向けて、事前記者発表を東京で行った。
1)特集陳列「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」の開催にあわせ、広報用ポスター・チラシの企画・製作・配布等を行った。
○特集陳列「刀剣を楽しむ」の開催にあわせ、オンラインゲーム「刀剣乱舞」版特別音声ガイドを企画・制作し、新たな来館者層の開拓に寄与した。
○ＪＲ東海と連携し、「京の冬の旅」にあわせ特集陳列「皇室ゆかりの名宝」を実施し、冬季の集客増加に努めた。
○ＪＲ京都伊勢丹と連携し、トークイベントやスタンプラリーを行い、幅広い情報発信に努めた。
2)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。

【補足事項】
1)27年4月～28年3月の展覧会日程を記載した年間スケジュールリーフレットを作成・配布した（40,000部）。
1)展覧会のジャンルにあわせてチラシ等発送リストの見直しを行い、より効果的な情報発信に努めた。
○報道各社等に紙媒体のリリース以外に、電子メールで随時プレスリリースを配信した。
・近隣私鉄会社と連携し、ポスター・チラシの駅構内掲示等広報活動を実施した。
・「Twitter」を利用し、展覧会の混雑情報やイベントなどの迅速な情報発信に努めた。
・一般社団法人京都府タクシー協会などの構成員に対して特別鑑賞会を実施し、さらなる観覧者数の増加を図った。
2)博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の井浦新氏を任命した。



年間スケジュール
(27年4月～28年3月)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 26年度の東京での記者発表の成果をふまえ、27年度も東京での記者発表を開催し、幅広いメディアへの広報に努めた。また報道関係以外の他業種との連携を進め、多角的な広報活動を展開した。年間スケジュールや展覧会ポスター・チラシ、メールマガジン・ツイッターなど各広報媒体を幅広く効果的に活用し、引き続き積極的な発信を行うこととする。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にしたがって、年間スケジュールや展覧会ポスター・チラシ、メールマガジン・ツイッターなどの広報媒体を効果的に活用し、継続した発信を着実に行い、東京での記者発表を実施するなどした。今後も、引き続き積極的な発信を行うこととする。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2433

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(奈良国立博物館)
1)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。
2)タクシーやホテル等利用者への広報図るため、関係業界に対し特別展の説明会・内覧会を実施する。
3)地域の観光協会を通じて観光客への広報活動を展開する。
4)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
5)文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。
6)写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。
7)奈良の寺社とのスタンプラリー、無料チラシの配布など広報協力を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)27年5月～28年5月の展覧会日程を記載した年間スケジュール　リーフレットを作成し、配布した。
(奈良国立博物館)
1)それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、5回実施した。
2)特別展では、タクシー･ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー･ホテル等の利用者への広報活動を行った。
3)奈良市観光協会への入会をはじめ、積極的に地元観光業界に対し広報活動を展開するとともに情報収集に努めた。
4)奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良県ビジターズビューローとの連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
5)笑い飯哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使に任命し、広報活動の一環として27年8月12日に「奈良国立博物館文化大使　笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」を開催し、149名の参加があった。
6)笑い飯哲夫・文化大使のメディア出演やツイッター等により当館や展覧会の広報活動を行った。
7)特別展「白鳳」では当館と展示内容にゆかりの深い３箇寺を巡るスタンプラリーを実施し、特別陳列「おん祭」及び「お水取り」では寺社の参拝客へ無料チラシ配布し、近隣寺社と広報活動に努めた。

【補足事項】
3)・「はじまりは正倉院展実行委員会」に参加し、「まちなかバル」及びスタンプラリーに協力した。
・地元ホテルのスタンプラリーの特典として、観覧料金の割引を実施した。



年間スケジュール　リーフレット

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣商店街や近隣寺社など地域と連携して博物館の情報を発信することができた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり個々の企画の目的、内容等を踏まえた各種広報活動を計画的に実施することができた。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　2434

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
(4館共通)
1)年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。
(九州国立博物館)
1)特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。
2)現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。
4)九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用を一層、促進する。

担当部課	広報課	事業責任者	課長　田端幸朋

【実績・成果】
1)年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館　展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(50,000部)
(九州国立博物館)
1)特別展のポスター、ちらしなどの対象者や地域を考慮した広報・宣伝材料を制作し、情報発信に努めた。
2)過去の特別展やトピック展示などの情報を整備した。
3)地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。
4)九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開した。
5)文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用のほか、ＰＲ映像や「プロジェクションマッピング」を実施した。

【補足事項】
3)・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。
・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。
・商業施設（ＪＲ博多シティ）と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。
4)・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。
・九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。
・旅行代理店やクルーズ客船の担当等を九博に呼び、九博の広報・営業を行った。
5)・文化交流展示室のＰＲ映像を作成し、テレビＣＭの放送や街頭スクリーンでの上映を行った。(イメージ図：左)
・アクセストンネル(「虹のトンネル」)において、人の影や動きに反応して文化交流展示室の展示物が映し出される参加型の「プロジェクションマッピング」を実施した。(開館10周年記念事業)


文化交流展のテレビＣＭの一コマ


アクセストンネルのプロジェクションマッピングの様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	ポスター・ちらしなどの制作や活用を行うほか、27年度はＰＲ映像の作成と公開などの新たな取組みも行い、来館者増に努めた。

【中期計画記載事項】展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ａ	中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、広報を実施することができた。特に27年度においては、地域・年齢層などのターゲティングを行った上で情報発信を行うことができた。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 2430

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　　③　広報計画の策定と情報提供		
【年度計画】 (機構本部) 1)機構の概要、年報を作成する。 2)機構本部ウェブサイトを運用し、法人情報の提供を行う。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
(機構本部)
1)『独立行政法人国立文化財機構概要 平成27年度』(日本語版・英語版) を27年7月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成26年度』を28年2月に発行し、PDF 版をウェブサイトに掲載した。
2)機構本部ウェブサイト(http://www.nich.go.jp/)の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。

【補足事項】
1)『独立行政法人国立文化財機構概要』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。(日本語版：2,100 部、英語版カラー600 部。いずれもカラー25 ページ)
『独立行政法人国立文化財機構年報 平成 26 年度』: 216 部、カラー4 ページ・モノクロ 1304 ページ。
2)機構本部ウェブサイトアクセス件数：292,721件



『独立行政法人国立文化財機構
概要 平成27年度』
(日本語版・英語版)


『独立行政法人国立文化財機構
年報 平成26年度』



独立行政法人国立文化財機構
ウェブサイトトップページ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り、概要・年報を作成した。また、機構本部ウェブサイトの運用を行い、法人情報の提供を行った。
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企業の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 概要と年報の作成と、ウェブサイトの運用による個人情報の提供を継続して行い、中期計画を順調に遂行した。

【書式Ａ】　施設名　東京国立博物館　処理番号　2441

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回)
2)ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。
3)SNS（ツイッター、フェイスブック）による情報発信を継続して行う。
4)主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　伊藤信二

【実績・成果】(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。(16回)
(東京国立博物館)
1)『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回)
2)・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数67回)
　・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。
3) スマートフォン対応を目的としたモバイルサイト（26年度リリース）により、広範な情報発信を行なった。
　・25年7月より開始したSNS「Facebook」、「Twitter」による情報発信を継続し、よりタイムリーな情報発信と新たな来館者層の開拓に努めた。
4)新聞雑誌各紙の美術・文化担当記者らを対象とした記者懇談会第3回を実施した(27年10月5日)。

【補足事項】
(4館共通)
1)単行本『探検！東京国立博物館』(藤森照信・山口晃著　淡交社　27年11月）の刊行にに協力し、140年を超える歴史と蓄積された文化財の質の高さに裏打ちされた東京国立博物館の品格を十分にアピールできた。
(東京国立博物館)
2)・「1089ブログ」では、研究員はもとより、館内の様々な部署の職員が、展示・催し、その他館の活動に関する情報発信に関わった。
3)・「Twitter」フォロワー34,243件、(26年度11,388件)
「Facebook」いいね！10,331件（26年度6,823件）を獲得し、26年度より着実に数を伸ばしている。
4)・平成館考古展示室リニューアルオープンに先立って実施した第3回記者懇談会では、前回の３倍にあたる計58名の記者の出席を得て盛況であった。



『探検！東京国立博物館』


第３回記者懇談会
(平成館考古展示室)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『東京国立博物館ニュース』発行	6回	6回	B		6	7	6	6

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 当館の広報に資する単行本刊行への対応、ウェブサイトの充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。
【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通りスマートフォン用サイトやSNS運営などの実施により、一般およびメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2442

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(京都国立博物館)1)『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。
3)京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。
4)博物館ディクショナリーを毎月発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
1)各展覧会の招待日のプレス発表とは別に、東京でのプレス発表会を開催し、展覧会の周知に努めた。また、随時プレスリリースを作成・送付し、マスコミ媒体への周知に努めた。
2)ウェブサイト(日・英)による情報提供を行った
3)メールマガジン(日のみ)による情報提供を行った。
1)『京都国立博物館だより』(年4回)、『Newsletter』(年4回)を発行・配布した。
・各特集陳列のリーフレットを発行・配布した。
2)京都府・京都市と連携し、琳派400年記念にちなんだイベントの開催や情報発信に努めた。
3)京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、琳派400年記念にちなんだ展覧会の情報を盛り込んだチラシ・パンフレットを発行・配布した。
4)博物館Dictionaryを発行し、新刊をメールマガジンにて配信、来館者への興味喚起に努めた。
5)収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開した。
○大阪府警機関紙『なにわ』に、年間を通して館蔵の名品を紹介した。
○雑誌『日経おとなのＯＦＦ』、『和楽』、『婦人画報』、『家庭画報』をはじめ、多くの雑誌・書籍に琳派展の記事が掲載され、新たな来館者層の開拓に寄与した。
○ＢＳ日本テレビ「ぶらぶら美術・博物館」(27年11月13日放送)、ＮＨＫＢＳプレミアム「風神雷神図を描いた男　天才絵師・俵屋宗達の招待」(27年10月31日放送)など、複数のテレビ番組での琳派展紹介に協力し、新たな来館者層の開拓に寄与した。

【補足事項】
・『京都国立博物館だより』は、年4回、それぞれ1万部から3万部発行(季節による来館者見込みにより増減)し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館他、郵送希望者にも発送している。
・琳派展を特集した『京都国立博物館だより188号』については、大幅な来館者数の増加に対応して増刷、合計8万部を配布し、来館者サービス充実に努めた。
・『Newsletter』は、『京都国立博物館だより』の英語版として年4回発行。現在127号に達しすでに4半世紀を超えた刊行物であり、外国人観光客や留学生らの好評を博している。
・特集陳列のポスター・チラシ・リーフレットを作成し、広報及び来館者サービスの充実に努めた。



日経おとなのＯＦＦ10月号

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『京都国立博物館だより』発行	4回	4回	B		4	4	4	4
『Newsletter』発行	4回	4回	B		4	4	3	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】『京都国立博物館だより』はより読みやすく読者に興味を持ってもらえるよう、コラムや年表など、より一層記事内容の充実を図った。また、琳派展への各媒体からの取材に積極的に対応し、新たな来客者層の開拓に努めた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 『京都国立博物館だより』などの定期刊行物、ウェブサイトの更新、メールマガジンなど、広報物の刊行を継続して行っている。さらにテレビ・ラジオ・雑誌などに紹介されるよう積極的な広報を実施し、中期計画に対し順調に成果を上げている。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　2443-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
(奈良国立博物館)
1)～7)(略)

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(4館共通)
1)年間を通じて文化財の魅力を紹介する新聞連載を行ったほか、各特別展の開催に合わせて、マスコミ媒体や公共交通機関と連携した広報活動を展開した。
2)特別展や公開講座の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。
3)特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン（毎月１回計11回）のほか、公式ツイッターを使って発信し、より迅速かつ効率的な広報を行った。

【補足事項】

1)　○名品展及び館全体の広報
・年間を通じて、博物館の活動や魅力を紹介する新聞連載「奈良博手帖」を読売新聞で行った。
・ウェブサイトでの特別展・名品展や館全体の情報を公式ツイッターを使って発信し、効率的な広報を行った。27年度中に、フォロワーが8,000人を超えた。
○特別展「平安古経展」広報
・NHKおよび奈良テレビの番組で展示品の紹介を行った。
○特別展「白鳳」広報
・読売新聞に展覧会内容や展示品の紹介を行った。
・NHKおよび読売テレビの番組で展覧会紹介を行った。
○「第67回正倉院展」広報
・読売新聞で展示品紹介を行った。
・NHK「日曜美術館第67回正倉院展」が放送された。
・読売テレビのニュース番組で展覧会紹介を行った。



公式ツイッター

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、各メディアの協力を得て広報物の制作に努めている。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 公式ツイッターによる情報提供に対し、フォロワーが順調に増加している。他の広報媒体も順調に成果を上げており、中期計画を順調に遂行できた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2443-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】
(4館共通)(略)
(奈良国立博物館)
1)特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回)
2)ウェブサイトの外国語版の充実を図る。
3)「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館)での連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。
4)周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシを配布する。
5)マスコミからの取材申し込みを積極的に受け入れ、展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。
6)季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに継続して掲載する。
7)英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。

担当部課	学芸部情報サービス室 総務課渉外室企画推進係	事業責任者	室長　岩井共二 係長　石田義則

【実績・成果】
(奈良国立博物館)
1)名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を発行した。(4回)
2)ウェブサイトの英語版の他に、中国語・韓国語版の作成について検討を開始した。
3)奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、27年12月11日に奈良まほろば館にて東京セミナー、28年2月14日に奈良国立博物館にてワークショップを実施した。
4) 周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシ配布を以下のとおり行った。
・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定(28年1月2日～3日)の無料観覧券(※名品展も無料)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。
・特別陳列「お水取り」について、期間限定(28年3月8日～10日)の無料観覧券(※名品展も無料)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。
5)特別展、特別陳列等の開催にあたっては、報道発表、プレスプレビューを実施、取材にも積極的に応じた。
6)『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。
7)特別展では英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。

【補足事項】



奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『奈良国立博物館だより』発行	4回	4回	B		4	4	4	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、近隣美術館や関連社寺と連携しイベントを行い、集客に努めた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通り順調に広報活動を実施することができた。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2444

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）　文化財情報の発信と広報の充実 ④　広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動

【年度計画】（4館共通）
1)マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。
3)メールマガジンを配信する。
（九州国立博物館）
1)ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。
2)『九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ』の編集・発行・配布を行う。（年4回）
3)太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)マスコミや公共交通機関等と連携し、新聞紙上での作品の解説や公共交通機関での広報活動を行った。
2)ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。
3)メールマガジンを配信した。（毎月2回、年24回）
（九州国立博物館）
1)ウェブサイトにて文化交流展示室の展示スケジュール等を掲載し、また研究員が展示の解説を行う動画を「YouTube」で配信した。
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を発行した。（年4回）
3)スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。

【補足事項】
1)・公共交通機関にて、特別展・トピック展示のポスターの掲示、チラシの設置等を行うとともに、「開館10周年」のＰＲも行った。
（例：「九博10周年」と「美の国 日本」の車内吊り広告）
・新聞紙面にて、特別展（「戦国大名」、「大英博物館展」、「美の国 日本」、「黄金のアフガニスタン」、「始皇帝と大兵馬俑」）の展示解説を連載し、展示作品の紹介を行った。
・開館記念日の10月16日に新聞各紙に「10周年記念」の広告を一斉掲載するとともに、新聞各紙やテレビ番組などで多くの「10周年記念特集」が組まれた。


車内吊り広告の様子



季刊情報誌『アジアージュ』

・「開館10周年」のポスターやロゴマークを作成し、ＰＲに努めた。
2)・駐車場の混雑や対策のため、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を継続して提供した。
・「今日の博物館」のページを新たに構築し、展示状況が事前にわかるようにした。
・スマートフォンやタブレットに対応するよう、日英両言語のページ表示方法を修正した。
・ウェブサイト利用者からの意見に「九博メール」で対応した。
3)・読者投稿紹介やクイズなど双方向型とした。
・メールマガジン登録数（4,630件、28年3月末現在）は毎月平均100人ずつ増えており、また、平均開封率が10%前後といわれている中、約40%と高水準を維持している。

「開館10周年」ロゴマーク

（九州国立博物館）
2)九州国立博物館季刊情報誌『アジアージュ』を27年4月1日、7月1日、10月1日、28年1月1日の4回発行した。
○若年層も含めリピーター確保のため『きゅーはく攻略本』を継続して配布した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
九博季刊情報誌『アジアージュ』発行	4回	4回	B		4	4	4	4

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 来館者・リピーターに対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。『アジアージュ』などの配布先の見直しを行うなどして改善を図った。また、27年度は特に「開館10周年」に関する幅広い告知が行えた。

【中期計画記載事項】広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。特に「開館10周年」を迎えた年であったため、県外のマスメディアとも連携し、展示について幅広い告知が行えた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2451

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実 ⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長　伊藤信二

【実績・成果】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図った。(詳細は処理番号2441参照)

【補足事項】

1)・SNS (Twitter、Facebook)、メールマガジン、ブログなど複数媒体を連動させた情報発信を行い、訴求力を高めた。
・Twitterでは、文化庁とTwitter社の連携企画「ミュージアムウィーク」に参加し、毎月、テーマに沿った展示作品を紹介した。
・話題となっている事象(今年度は刀剣)に着目し、SNSで関連作品の紹介を行い、ウェブサイトへの誘導を図った。
・トップページのフラッシュに「博物館に初もうで」などの企画や展示中の名品画像も使用し、各企画や作品の訴求力を高めた。
・年間を通じ、特別展や企画展示など、テーマを絞って展示作品をピックアップした投票コーナーを実施した。特に刀剣作品の投票回では過去最高の票数を記録した。
・所蔵作品をデザインしたポストカードを更新した。
・特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関して中国語のページを設け充実を図った。

・動画「『自在龍置物』を動かしてみた」を公開した。



ウェブサイトの「投票コーナー」
2015 年度トーハクで逢える名刀



動画「自在龍置物」を動かしてみた

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	6,724,460件	―	―		2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 26年度に開発したスマートフォン対応ウェブサイトにより、着実にアクセスの機会が伸びている。またSNSやブログを積極的に活用し多くのアクセスを得た。
【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従いコンテンツ内容の充実とともに、日々新展開するITツールに積極的に対応し、着実にアクセス数を伸ばしている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2452

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（4）　文化財情報の発信と広報の充実 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部 総務課	事業責任者	上席研究員　浅見龍介 総務課長　植田義雄

【実績・成果】
(4館共通)
1) ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数の向上に努めた。
・ウェブサイトにおいて各種情報の掲載や更新を適宜行い、アクセス件数の向上に努めた。

【補足事項】
1)
・特別展覧会や名品ギャラリーにおける各種展示に係る情報の掲載や更新を逐次行い、内容の充実に努めた。
・各種講座やワークショップなどの教育事業について、情報の掲載や更新を継続的に行った。
・博物館概要、刊行物案内などのページにおいて、発信を適宜行った。また、研究紀要「学叢」については、第 27 号まで PDF を掲載した。
・コンサートや「らくご博物館」などの各種集客イベントについて、情報の掲載や更新を適宜行った。
・メールマガジンを逐次配信し、来館者とアクセス件数の向上に努めた。
・特別展覧会「琳派　京を彩る」や特集陳列「刀剣を楽しむ」に伴う来館者の混雑に対応するため、ソーシャルメディア「Twitter」を通じた混雑状況の発信などを適宜行った。
・特別展覧会「琳派　京を彩る」に伴って各種の情報掲載を頻繁に行い来館者の便宜を図った事で、大幅なアクセス件数の増加が見られた。また、京都では観光上の閑散期となる冬季においても、特集陳列「刀剣を楽しむ」についての情報の掲載や更新によって、これまで博物館に馴染みのなかった新しい層へのアプローチができ、アクセス件数を維持できた。これらの要因によって、平成知新館開館やウェブサイトリニューアルに伴うアクセス件数の激増があった26年度をさらに上回り、統計開始以来の最高値となるアクセス件数を確保した。


トップページ（新春特集陳列）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	3,172,381件	―	―		1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：昭和48年以来の大規模展覧会に対応して相当量の情報掲載を頻繁に行い来館者の便宜を図ったほか、比較的若い世代へのリーチを掘り起こした事で、平成知新館開館に伴うアクセス件数の激増があった26年度をも上回るアクセス件数を確保した。

【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：ボリュームゾーンとなる大規模展覧会に対応し継続的な情報発信を行ったほか、これまで博物館に馴染みのなかった世代に対しても効果的な発信による新規開拓を行い、中期計画期間を通じて最高値となるアクセス件数を確保した。 課題と対応：明治古都館閉館の長期化に伴うアクセス数の低下に備え、引き続き情報発信の充実を図る。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2453

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	(4)　文化財情報の発信と広報の充実　⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る

【年度計画】
(4館共通)
1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。

担当部課	学芸部情報サービス室	事業責任者	室長　岩井共二

【実績・成果】
(4館共通)
・奈良国立博物館公式ツイッターを立ち上げ、ホームページからリンクを張り、展覧会や、講座等イベント等博物館に関する情報発信をより高い頻度で行った。
・「トピックス」の欄を頻繁に更新し、さらにイベント情報欄には文字情報のみならずチラシ画像なども掲載して、より多くの情報を発信することに努めた。
・特別展及び特別陳列を紹介するたびに、主な出陳作品の画像付き解説を掲載し、展示構成や作品理解への便宜を図った。
・『奈良国立博物館だより』最新号をウェブサイト上で閲覧できるよう適宜アップした。
・『第67回正倉院展』の会期中、読売新聞大阪本社（特別協力）のウェブサイトと連携して「ただ今の混雑状況」を知らせる小窓を設置し、同時に公式ツイッターからもリンクを張った。

【補足事項】

・奈良国立博物館公式ツイッターのフォロワーが、8,105人（3/31現在）となり、順調に増加している。



ウェブサイトに『奈良国立博物館だより』掲載

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	1,112,057件	－	－		722,249	845,202	893,553	1,196,669

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 昨年に引き続き、イベント情報等の充実に努めた。またツイッターのフォロワーも増加している。
【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ツイッターからのリンクや、サイト情報の充実と利便性の向上を図り、中期計画開始時よりアクセス件数が向上した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2454

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（4）　文化財情報の発信と広報の充実　　⑤　ウェブサイトアクセス件数の向上を図る		
【年度計画】 （4館共通） 1)アクセス件数の向上を図るため、ウェブサイトの内容の充実を図る。			
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　田端幸朋 課長　阿部　勝

【実績・成果】
1)ウェブサイトにおいて特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、内容の充実を図った。
・研究員が展覧会の解説を行う動画の配信を行った。
・駐車場空き情報の提供を行った。
・博物館までのアクセスについて、最寄り駅からの情報を追加掲載し、利便性の向上を図った。
・「今日の博物館」のページを新たに構築し、来館希望日の展示・イベント情報を手軽に入手できるようにした。
・増加するスマートフォン、タブレット利用者に対応した表示方法を採用した。

【補足事項】
1)
・来館前の情報提供の一環として、ウェブサイト、モバイルサイトにて駐車場空き情報を提供した。
・来館方法のうち、利用が最も多い西鉄太宰府駅から博物館までの道順について、ウェブサイト内に写真付きで新たに案内を掲載することで、利用者にとって使いやすい環境を向上させた。
・これまでの「年間スケジュール」を発展させ、「今日の博物館」のページを新たに構築した。これにより、来館者が来館希望日に開催されている展示・催事等を一目で感覚的に閲覧することができるようになり、来館者の促進に繋がった。
・スマートフォンやタブレットに対応するよう、日英両言語のページ表示方法を修正した。これにより、増加するスマートフォン・タブレット利用者の利便性の向上に繋がった。



ウェブサイト掲載の太宰府駅から
博物館までのアクセス方法

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
ウェブサイトアクセス件数	2,217,391件	―	―		1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトの充実を図り、閲覧者が興味をもつホームページの作成を行った。
【中期計画記載事項】ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトアクセス件数の向上を図るため、特別展、トピック展示、特別公開やイベント等の情報を常に更新し、また研究員が展覧会の解説を行う動画の配信など内容の充実を推進し、中期計画期間内でアクセス件数を向上させた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3111

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)調査研究の成果の発信

【年度計画】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(東京国立博物館)
1)「東京国立博物館情報アーカイブ」等の運用をし、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
2)紀要・図版目録等を刊行する。
3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。
4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)

担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長　勝木言一郎

【実績・成果】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)『東京国立博物館文化財修理報告』XVIを刊行した。また今号から一部市販を開始し、文化財の保存に関する情報の普及を図った。
(東京国立博物館)
1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特集印刷物のうちPDFファイル版3件を東京国立博物館ウエブサイト上に公開し、研究情報の普及を図った。
2)『紀要』51 号、『図版目録　近代日本画篇（巻子・画帖)』を刊行し、収蔵品に関する研究情報の発信につとめた。
3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXVI　古今目録抄２』を刊行し、収蔵品に関する調査研究の成果の発信につとめた。
4) 研究誌『MUSEUM』655～660号を刊行し、文化財研究に関する情報発信につとめた。
○特別展図録・特集図録・特集印刷物等を編集、刊行し、文化財情報の普及を図った。
○『東京国立博物館セレクション』を刊行し、収蔵品に関する国内外への情報発信を強化した。
○『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』を刊行し、文化財の保存に関する情報の発信につとめた。
○出版企画委員会6回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会7回を開催し、博物館の出版事業の円滑化を図った。

【補足事項】
・『MUSEUM』(年6回)
・定期刊行物(4件)
　『紀要』51号、『文化財修理報告』XVI、『法隆寺献納宝物特別調査概報　XXXVI古今目録抄２』、『図版目録　近代日本画篇（巻子・画帖)』
・特別展図録・特集図録・特集印刷物等（9件)
　≪特別展図録≫『鳥獣戯画　京都 高山寺の至宝』、『クレオパトラとエジプトの王妃展』、『始皇帝と大兵馬俑』、『生誕 150 年特別展　黒田清輝　日本近代絵画の巨匠』
　≪特集図録≫『トーハクのミイラ』、『漢・唐時代の陶俑』
　≪特集印刷物≫「養生と医学」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」、「国宝　鷹見泉石像」
・その他(16件)
　ａ．編集・刊行　『セレクション　北斎』、『セレクション　おひなさまと日本の人形』、『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』
　ｂ．改訂　『ハンドブック』(日本語改訂版、英語改訂版、中国語改訂版)、『日本美術 50 選』(日本語改訂版、英語改訂版)、『法隆寺宝物館』(改訂版)、『水滴　動物や野菜をかたどった水いれ』(改訂版)
　ｃ．増刷　『上海博物館　中国絵画の至宝』、『能面　創作と写し』、『横河民輔コレクション　中国磁器名品選』、『天翔ける龍』、『図版目録　インド・インドネシア染織篇』、『図版目録　中世古文書篇』

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
『MUSEUM』発行	6回	6回	B		6	6	6	6
定期刊行物	4件	－	－		3	4	4	4
特別展図録・特集印刷物等	9件	－	－		12	10	14	13
その他	16件	－	－		2	4	2	12

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： B	刊行の実績値が26年度に比べ高くなっており、その事業も順調に進んだため。

【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定： B	博物館における出版刊行事業を通じて、調査研究の成果が十分発信し、中期計画を順調に実施できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3112

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(東京国立博物館、京都国立博物館)
1)文化財修理報告書を刊行する。
(京都国立博物館)
1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。
2)社寺調査報告書等を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
1)『文化財保存修理所報告書 13』を刊行した。
1)研究紀要『学叢』第37号を刊行し、ウェブサイトに創刊号から27号までのPDFを公開した。
2)『社寺調査報告書27』を刊行した。
○特別展等の図録を3巻刊行した。

【補足事項】
・『学叢』第37号で、論文、資料紹介、作品研究、研究随想を、それぞれ1本発表した。
○特別展覧会等図録(3巻)
・桃山後期に焦点をあてた狩野派の展覧会としては、過去最大規模となる、国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件、初公開作品4件を含む70件を出品し、百花繚乱のごとくその才能を花開かせた狩野派絵師たちの競演と戦いの歴史を紹介する特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」を開催、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。
・大正天皇の即位式を記念して始まって以来、毎年開催されている仏教行事「大蔵経」が100回目という大きな節目を迎えることを記念して、仏教経典の総集である「大蔵経（一切経)」の歴史を現存する遺品から紐解くとともに、関連する書跡、絵画や工芸品もあわせて紹介する特別展観「仏法東漸　仏教の典籍と美術」を開催、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。
・本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年となることを記念し、琳派誕生の地である京都において初めて開催される本格的な琳派展として、特別展覧会「琳派　京を彩る」を開催し、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。



特別展覧会「桃山時代の狩野派」図録



特別展覧会「琳派　京を彩る」図録

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
定期刊行物	3件	－	－		3	3	3	2
特別展図録・特集陳列印刷物等	3件	－	－		4	5	2	3

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	特別展覧会「桃山時代の狩野派」、「琳派　京を彩る」及び特別展観「仏法東漸」の展覧会図録を編集するなど、館蔵品や古社寺の文化財の図録を刊行して研究成果の発信を着実に行った。また研究誌である『学叢』を発行して学術研究成果を公開し、創刊号から27号まではウェブサイトにて公開した。

【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	展覧会図録・研究紀要などを予定通り刊行するとともに、インターネットでの公開を行い、中期計画に沿って着実に研究成果の普及を行った。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3113

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(1)　調査研究の成果の発信

【年度計画】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
(奈良国立博物館)
1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。
2)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。
3)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、報告書を刊行する。

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　内藤　栄

【実績・成果】
(奈良国立博物館、九州国立博物館)
1) 文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される（28年8月予定)。
(奈良国立博物館)
1) 研究紀要『鹿園雑集』は、27年度内に編集作業を進めた（28年8月刊行予定)。
2) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、以下の企画を実施した。
・仏像写真展「大和の仏たち」(27年4月1日～28年3月27日)
・(パネル展) 開館120年記念「写真でたどる奈良国立博物館のあゆみ」(27年7月18日～28年3月27日)
3) 光学的調査で得られた画像データの分析を行い、その成果を盛り込んだ調査報告書第1冊（全3分冊のうち）を年度内に刊行した。

【補足事項】
○展覧会図録等9冊を刊行した。
『まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展』(特別展図録)
『名匠三代―木内喜八・半古・省古の木工芸―』(特別陳列図録)
『白鳳―花ひらく仏教美術―』(特別展図録)
『開館120年記念　写真でたどる奈良国立博物館のあゆみ』(パネル展小冊子)
『第67回正倉院展』(特別展図録)
『The 67th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)
『おん祭と春日信仰の美術 ―特集 御旅所―』(特別陳列図録)
『伊豆山神社の歴史と美術』(特別陳列図録)
『お水取り』(特別陳列図録)
○「第67回正倉院展」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。


刊行した展覧会図録等9冊

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
定期刊行物	0件	－	－		－	1	－	1
特別展図録・特別陳列印刷物等	9冊	－	－		5	6	6	10
研究論文等発表実績	27件	－	－		29	31	22	22

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 入場無料ゾーンでのパネル展示を充実させ、博物館事業の成果を発信することができた。これは、なら仏像館休館中の来館者サービス向上策の一環でもある。

【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 調査・研究の成果は、展覧会に関わる刊行物を中心に発信できている。研究紀要についてはインターネットでの公開を実施済で、中期計画を順調に遂行した。しかしながら、その他の刊行物の電子書籍化はなされていない。図版の著作権問題など、クリアすべき課題が多いが、引き続き検討しなければならない。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　3114

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	（1）　調査研究の成果の発信		

【年度計画】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』を刊行する。
2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
（奈良国立博物館、九州国立博物館）
1)28 年度実施で予定していた文化交流展示「文化財を守り伝える博物館」を 27 年度から開始することとなり、展示構成や作品選定、パネルの作製等に時間がかかり、印刷物を作成する余力がなかった。28 年度以降は計画的に進めたい。
（九州国立博物館）
1)研究紀要『東風西声』第11号を刊行した。
2)科学的調査の成果を集めたシンポジウムを行い『X線CTを用いた文化財の研究と活用』を刊行した。
・当館文化交流展示において修理完成披露展示を行った。
・文化財保存のための講演会等を開催した。

【補足事項】
1)　研究紀要『東風西声』では、論文8本（うち当館職員6本）を掲載した。
2)　文化財の科学調査に関してシンポジウムを開催した。
　27年12月19日「X線CTを用いた文化財の研究と活用」
・当館文化財修復施設で修理を行っていた国宝尚家関係資料(那覇市所蔵)と扇面画帖(当館所蔵)について、文化交流展示室にて修理完成披露を行うと共に修理で得られた新知見をパネルで分かりやすく紹介した。
　展示実施回数2回（展示期間：国宝尚家関係資料（27年4月28日～6月7日)、扇面画帖（27年8月25日～10月4日））
・文化財保存のための講演会等を開催した。
　韓国・中国の研究者による文化財保存交流セミナーを開催した。(27年5月28日)
○特別展図録・特集陳列等図録10冊を刊行した。
（うちトピック展示（特集陳列）図録4冊）



扇面画帖の修理完成披露展示

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
定期刊行物	1件	－	－		1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物等	10冊	－	－		10	9	11	11

【年度計画に対する総合評価】 評定：　C	【判定根拠、課題と対応】 科学的調査の成果を集めたシンポジウムや修理完成披露展示などを行なうことによって研究成果を市民に還元することができた。文化財修理に関する印刷物を刊行するという計画は、修理に関する平常展示の準備等で達成できなかった。28年度は計画的に進めていきたい。

【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 予定通りに出版物を刊行するなど、中期計画にそって順調に計画を達成している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3211

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。
(東京国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。
2)アジア国立博物館協会(ANMA)理事会、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）等の国際会議へ参加する。

担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長　鬼頭　智美

【実績・成果】(4館共通)
1) 米国、中国、韓国、インドの4ヵ国の博物館・美術館等から計83人の研究者を招へいし、研究交流を行った。
2) オランダ、英国、ドイツ、フランス、米国、中国、韓国、シンガポール、タイなど10ヵ国の博物館、美術館等へ当館研究職員を47人派遣し、収蔵品及びその活用に関する研究を行い、現地の研究者と交流した。
3)「大兵馬俑展」の関連事業として、国際シンポジウムを開催した。(27年12月19日)文化庁支援事業として国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」を実施した。(28年1月30日)
4) 国際会議への参加を通して、ICOM京都大会への参加を呼びかけた。
(東京国立博物館)
1) 韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、北京・故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流・派遣を行うとともに、海外での文化財調査や特別展等共同事業の企画・実施準備、国際会議出席のため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。
2)第5回アジア国立博物館協会(ANMA)理事会・定期大会に参加、アジア13ヵ国の国立博物館の代表者と交流・情報交換を行った(27年11月26日)。また、IEOに研究員を派遣し、欧米を中心とした主要美術館の展覧会企画・実施責任者との意見交換・ネットワークの強化を図った。(27年4月22日～24日ニューヨーク)

【補足事項】
1)上記研究員招へい・派遣の人数については、当館予算で主体的に招へい・派遣した人数の延べ人数を示す。外部負担、科学研究費及び外部の助成金等による招へい・派遣を含む合計人数は、招へい83人、派遣99人であった。
(東京国立博物館)
1)研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会及び派遣者報告会を実施した：①韓国国立中央博物館との学術交流発表会開催(27年6月2日、27年12月1日)、館内計50人参加②韓国国立中央博物館及び上海博物館との学術交流派遣者報告会開催（28年1月13日、3月16日）館内計40人参加。
2)・ANMAは、シンガポールアジア文明博物館で「政治、民族、芸術のバランス：国立博物館の役割」と題して開催され、理事13ヵ国からは40名余りが参加した。一般公開の定期大会では、円卓会議を含め、アジアの国立博物館が国と社会においていかなる存在として機能するかについて、多方面から活発な意見交換を行った。
・IEOは、ニューヨーク近代美術館が会場となり、約100名が参加、展覧会実務の諸問題について討議、アジアとしては「中国における展覧会実施の諸問題」を提起、意見交換を行うとともに、各参加者との交流に努めた。


第5回アジア国立博物館協会
(27年11月シンガポール)



国際シンポジウム（28年1月）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	83　人	6人	A		16	11	21	47
海外への研究者派遣	47　人	6人	A		48	34	41	18
国際シンポジウム開催数	1　回	－	－		1	－	－	2
国際シンポジウム参加者数	284　人	－	－		323	－	－	422

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	目標値を大幅に上回る人数の研究者交流を実施し、海外研究者との学術交流が進み、今後の展覧会等事業や研究交流につながっている。定期学術交流については、派遣人員の日程を調整しより長期に充実した内容での調査活動ができるようにしたい。

【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	中期計画を大幅に上回る研究者の招聘と派遣を実施し順調に遂行できた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3212

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 企画室長　浅見龍介

【実績・成果】
(4館共通)
1)アメリカ、フランスの美術館より2名招聘し、意見交換等を行った。
2)研究交流並びに研修のため研究員を海外へ17人派遣した。
(京都国立博物館)
1)特別展覧会『琳派　京を彩る』に関連し、琳派400年記念祭委員会と共催で『琳派400年記念国際シンポジウム』を開催した(27年11月3日)。
2)ICOM「国際博物館の日シンポジウム」を京都国立博物館にて開催するにあたり協力した。

【補足事項】

(京都国立博物館)
・27年11月3日、メトロポリタン美術館よりキュレーター1名を招聘し、国際シンポジウムにてパネルトーク、意見交換等を行った。
・27年12月14日、フランス国立ギメ東洋美術館より1名招聘し、学術交流協定に向けた意見交換等を行った。
・27年4月10日～17日、当館研究員をアメリカフィラデルフィア美術館に派遣し、「lnk and Gold：Art of the Kano」展の展示作業に協力した。
・27年5月14日～16日、 当館館長が韓国国立中央博物館にて開催された「龍山再開館10周年国際学術大会」に派遣し、発表及び討論会にて情報交換を行った。また、国立現代美術館、梨泰院、サンソンリウム美術館などの視察を行った。
・27年9月9日～11日、当館館長及び研究者を中国上海博物館に派遣し、国際館長会議に出席し、情報交換を行った。
・27年10月26日～30日、当館研究員を中国マカオ芸術博物館に派遣し、国際シンポジウムにて発表を行うとともに、意見交換を実施した。
・フランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結した。(28年3月)



ICOM 国際博物館の日シンポジウム

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	2人	2人	B		21	3	0	2
海外への研究者派遣	17人	15人	B		25	15	19	14
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	1	－	1
国際シンポジウム参加者数	200人	－	－		150	209	－	168

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 海外からの研究者招聘、当館からの海外派遣は年度計画どおり実施できた。

【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり、国際シンポジウムの開催、研究者の海外派遣等について実施できた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3213

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。
(奈良国立博物館)
1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長　野尻　忠

【実績・成果】(4館共通)
1) 中国・韓国の研究者等計13名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に関わる実りある情報交換を実施した。
2) 職員延べ14名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。
3) 28年3月12日に「日本の古墳文化と新羅の陵墓文化」と題する国際研究集会を開催し、韓国国立慶州博物館の研究者2名及び当館の研究員1名が口頭報告した。
(奈良国立博物館)
1) 中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同研究や展覧会開催に向けて情報を交換した。

【補足事項】(奈良国立博物館)
1) 学術交流協定に基づき、以下の交流を実施した。
・中国上海博物館から職員3名を10日間招聘し、当館から職員3名を10日間派遣した。
・中国河南博物院から職員2名を1ヵ月間招聘した。
・韓国国立慶州博物館から研究員2名を各1ヵ月間招聘し、当館から職員2名をそれぞれ6日間と17日間派遣した。
○その他以下の交流を実施した。
・27年5月12日、中国上海博物館の館長ほか一行6名を受け入れ、学術交流協定の調印式及び情報交換会を実施した。
・開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」にかかる出陳品輸送にあたり、27年7月13～16日及び9月23日～25日に韓国国立慶州博物館研究員2名（各期間1名）を招聘し、輸送に際しての協力を受けた。
・27年7月16～18日、韓国国立慶州博物館の館長を含む2名を招聘し、博物館活動について意見交換した。
・27年10月22～24日、韓国国立慶州博物館の館長を含む2名を招聘し、博物館活動について意見交換した。
・27年12月1日、モルディブ共和国の博物館員2名、ネパール連邦民主共和国の博物館員2名、スリランカ民主社会主義共和国の国家遺産省職員2名を受け入れ、当館における文化財の保存・展示活動について講義した。
・27年12月10日、中国河南省洛陽市の文化財関係者6名を受け入れ、双方の文化財保護行政の状況につき意見交換した。
・韓国国立慶州博物館で開催の特別展「日本の古墳文化」（会期：27年12月22日～28年2月21日）に特別協力し、当館研究員を展示作業及び撤収作業のために各2名派遣した。
・27年6月10日～16日、当館研究員3名をイギリスへ派遣し、イーストアングリア大学美術館及び大英博物館において、日本美術品を調査した。
・三星美術館Leeum（韓国ソウル特別市）への文化財貸与にあたり、展示品輸送随伴及び展示指導のため27年8月8日～11日と9月15日～17日に当館研究員1名を派遣した。


河南博物院招聘者の現地研修
奈良文化財研究所にて

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	13人	6人	A		20	7	9	9
海外への研究者派遣	20人	6人	A		19	17	8	13
国際シンポジウム開催数	－	－	－		－	－	－	－
国際シンポジウム参加者数	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	海外研究者等の招聘・海外への研究者派遣とも、件数は例年並であった。それぞれの招聘・派遣時には有意義な意見交換・現地調査等を実施しているが、より一層の内容の充実を図っていく必要がある。

【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画期間を通じ学術交流協定に基づく交流が堅調で、招聘及び派遣を継続できている。そのほか、他機関が招聘した海外研究者の国内での訪問先に当館を加えてもらうことで、海外の博物館や文化財行政について有用な情報を得ることができている。こうした訪問に関しては、今後も積極的に受け入れていく。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　3214

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(2)　海外研究者の招聘等研究交流の実施

【年度計画】
(4館共通)
1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：(他館内訳略) 九州4)
2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：(他館内訳略) 九州4)
3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。
4)ICOM (国際博物館会議) 大会の日本への招致に向けた活動を促進する。
(九州国立博物館)
1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。

担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　石橋伸二 課長　阿部　勝 課長　今津節生

【実績・成果】
1)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーを実施した。(27年5月28日：韓国)。
オランダ文化遺産局長を招聘して日蘭交流に関する協議を行った。(28年2月15日～21日)
2)当機構職員をベトナム、中国等、海外の博物館・美術館等に、研究交流及び特別展「美の国　日本」等のため、77人を派遣した。
3)国際シンポジウム「九州国立博物館開館10周年記念『アジア交流博物館長サミット』」を開催した。
4ヵ国から16名の国立博物館等の館長及び学芸員を招聘し、各館の活動及び学術交流について報告を発表した。
(九州国立博物館)
1)国際交流活動の推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(タイ王国芸術局等)
2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーや講演会を実施した。(27年5月28日：韓国国立海洋文化財研究所)

【補足事項】
1) 27 年度外国人芸術家・文化財専門家招聘事業（文化庁長官官房国際課）により、オランダ文化遺産局長を招聘し、当館の視察をはじめ、長崎県鷹島、平戸、長崎市などにある海事文化遺産及び日蘭交流に関する史跡の視察を行った。また、28 年度以降の日蘭共同研究事業について協議を行った。(28 年 2 月 15 日～21 日)
(九州国立博物館)
1) 学術文化交流協定に基づく交流事業により、タイ芸術局の調査団（27年9月22日～26日：15人参加）等を招聘し、共同研究や研究員等の交流を実施した。また、瀋陽故宮博物院から副院長、研究員を招聘し、専門的な内容の講演会を実施した。今後の特別展の開催や学術協定の締結にむけて、重要な意義をもった招聘となった。
2)27年度文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」の一環として韓国国立海洋文化財研究所より研究者を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。


海外研究者講演会の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	51 人	4人	S		21	3	16	35
海外への研究者派遣	77 人	4人	A		56	60	87	82
国際シンポジウム開催数	1回	－	－		1	2	1	2
国際シンポジウム参加者数	80人	－	－		263	450	207	403

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 研究者の招聘、シンポジウム等を着実に実施し、計画通り順調に進めた。

【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通り、招聘や国際シンポジウム、調査等を実施することができた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3311

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長　高橋裕次

【実績・成果】
文化財の保存修復に携わりたいと考えている学生、すでに携わっている社会人が、プロとしての能力を学ぶための広く開かれたセミナーをめざして実施しており、27年度は、18人の受講者があった。また、国内外で文化財の保存修理を学んでいる大学院生など4名を受け入れた。国内からの3人はインターンとして10日間、海外からは保存修理に携わっている学生１人が4ヵ月の期間で研修を行った。4人に対し館内で実施している環境保存、調査、修理の各分野の作業をともに行わせることで、臨床保存の実践方法について、多くのことを学ぶ機会を提供できた。

【補足事項】
27年度から本格運用した大型エックス線CTスキャナーの撮影実習なども行えるようになった。



撮影準備を見学するインターン生

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	1回	－	－		2	2	2	2
参加者数	18人	－	－		37	47	48	37
インターン受入れ	4人	－	－		4	4	8	2

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内外から安定的にインターンを受け入れ、大学教育と補完できる教育が行えた。講義に加えて、実際に業務を体験させることで、充実したプログラムを実施した。

【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 例年、研修会には予想を超える応募者があり、盛況であるなど、中期計画を順調に遂行出来た。博物館におけるインターン制度についても認知が広まってきた。次期中期計画期間も時代の流れに対応した研修プログラムを更新していく。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3312

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究院が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回11回・会議7回)
・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・126人)
　27年 4月20日　「桃山時代の狩野派−永徳の後継者たち−」(66人)
　27年10月19日　「琳派誕生400年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」(60人)
・文化財修復に係わる大学院生（2人）のインターンシップ実習（27年8月17日～8月28日、9月7日～9月18日）を実施し、27年11月20日に口頭による報告会を開催し（出席者32人)、報告書を作成した。
・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。(計12回・60人)
　27年 4月23日　独立行政法人国立文化財機構本部事務局（4人）
　27年 5月28日　ボストンミュージアム（2人）
　27年 6月 1日　大エジプト博物館、JICA（3人）
　27年 6月22日　サムソン美術館（2人）
　27年 7月22日　国立臺灣藝術大學美術学院（6人）
　27年11月18日　敦煌研究院保護研究所、東京文化財研究所敦煌プロジェクト（3人）
　27年12月17日　東京大学史料編纂所、元東京写真美術館専門調査員、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、大分大学、東京大学、茨城大学、文化庁（10人）
　28年 1月19日　上海博物館（5人）
　28年 1月26日　ドイツ　ドレスデン　ツヴィンガー宮殿博物館、通訳（2人）
　28年 2月 3日　台湾文化部文化資産局（1人）
　28年 2月 4日　メトロポリタン美術館、クリーブランド美術館、プーシキン美術館、スコットランド博物館、リートベルク美術館、オレゴン大学シュニッツラー美術館、サンフランシスコ・アジア美術館、グラスゴー美術館、国立民族学博物館（ライデン)、ベルリン東洋美術館、ヴィクトリア&アルバート博物館、ポートランド美術館、キヨッソーネ東洋美術館、東京国立博物館（20人）
　28年 3月15日　スミソニアン研究機構　フリーア　サックラー美術館（2人）
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を27年9月4日に実施した。(参加者22人)

【補足事項】
1)・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者から文化財の修復状況について説明をうけ、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。
・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。
・文化財修復に係わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。
・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は関係教育機関の間で周知が進み、参加校も増え、優秀な学生が参加するようになった。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。


保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会(27年9月4日)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定		23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	2回	−	−	経年変化	4	4	3	2
参加者数	126人	−	−		160	169	140	87
インターン受入れ	2人	−	−		4	3	4	1
大学院生のための研修会参加者数	22人	−	−		13	29	18	19

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	26年度とほぼ同等の事業を遂行し目標を達成した。文化財修復に係わる大学院生インターンシップ実習の関係実施機関との連絡態勢も改善され、今後もより充実を図る。

【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画に記載した所期の目標を順調に達成している。保存修理の意義をより多くの国民に知ってもらうため、啓発活動のあり方を検討したい。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3313

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム		

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長　鳥越俊行

【実績・成果】
(4館共通)
1)・保存修理技術者に対する研修会を28年1月20日に開催した。
・海外の修理技術者等の視察を5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。
27年9月24日：ボストン美術館学芸部長らによる視察・研修（5名）
27年10月29日：東京文化財研究所職員による視察･研修（1名）
27年11月26日：中国・寧波市文物局調査団及び元興寺文化財研究所研究員による視察・研修（10名）
27年12月1日：ユネスコ・アジア文化センターによるモルディブ、スリランカ、ネパールの国立博物館等に勤務する学芸員による視察・研修（10名）
28年3月1日：宮内庁正倉院事務所職員および宮内庁書陵部職員による視察・研修（8名）

【補足事項】
1)・文化財保存修理所技術者研修会
28年1月20日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、装潢室工房代表者による修理に関する報告（「修理におけるデジタルデータ・機器の活用について」）を踏まえた討議を実施した。参加者は40名。


文化財修理所技術者研修会の様子

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	6回	－	－		7	9	6	4
参加者数	74人	－	－		97	93	71	67

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年度により増減があるが、26年度並みの実施となった。

【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を継続して受け入れた。また、文化財保存修理所の修理技術者間の交流も研修会を通じて中期計画どおり実施した。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 3314

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(3)　保存修理事業者への研修プログラム

【年度計画】
(4館共通)
1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　今津節生

【実績・成果】
(4館共通)
1)・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計1回・50人参加)
・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計2回・31人参加)
・文化財保存、ＩＰＭ普及のための講座・研修を開催した。(計4回・98人参加)

【補足事項】
○保存修理事業者を対象とした研修会等
・「文化財保存交流セミナー」
27年5月28日　50人参加
対象：一般
＊27年8月25日にも予定していたが台風のため中止した。


文化財保存修復研修

○保存修理事業者と協力した研修会
・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」
27年8月16日～21日　7人参加
対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生
・「古文書保存基礎講座」
28年1月29日、30日　24人参加
対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関で古文書等の担当者
主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
協力：国宝修理装潢師連盟

○IPM普及のための研修会
・「環境調査報告会」
27年5月21日　40人参加
対象：環境関係者
・「ミュージアムIPM研修」(基礎編・技術編・実践編)
27年9月9日～11日（基礎編)、27年11月9日～11日（技術編)、28年2月7日、8日（実践編）　延べ：58人参加
対象：全国の博物館学芸員

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	7回	－	－		10	7	6	9
参加者数	179人	－	－		263	280	139	175

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 インターンの受け入れや研修会など計画どおりに実施することができた。

【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 地元の教育委員会等と連携し、修理技術者やIPM従事者の協力を得ながら基礎から実践までの研修を中期計画どおりに実施できた。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3411

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(4館共通)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。

担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
(4館共通)
1)国内の博物館等123機関に910件の作品を貸与した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)高知県立歴史民俗資料館・愛媛県立歴史文化博物館と協力して、考古資料の相互貸借を実施した。
(東京国立博物館)
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の美術館・博物館等11機関に82件の作品を貸与した。

【補足事項】
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)東京国立博物館では、考古資料相互貸借事業経費により、高知県立歴史民俗資料館に27件、愛媛県立歴史文化博物館に4件を貸与して、高知県立歴史民俗資料館から12件、愛媛県立歴史文化博物館から28件を借用した。借用品により、特集「高知・愛媛の考古学」を開催した。
(東京国立博物館)
1)大韓民国の国立中央博物館で開催された「古代仏教彫刻展」には、当館から重要文化財7件を含む9件の文化財を貸与して、幹部3名が開会式に列席し、作品展示・撤収・輸送随伴に延べ2名の人員を派遣した。



韓国国立中央博物館
「古代仏教彫刻展」図録

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	992件	－	－		905	1,295	1,137	1,130
うち国内の貸与件数	910件	－	－		865	1,252	1,086	1,059
うち海外の貸与件数	82件	－	－		40	43	51	71

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	平成館の改修に伴う考古資料貸与業務停止により貸与件数は減少したが、その他の分野においては通常どおり貸与業務を行うことができた。

【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づき順調に成果をあげている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3412

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	(4)　収蔵品の貸与		

【年度計画】
(4館共通)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長　宮川禎一

【実績・成果】
(4館共通)
1)77機関に対し303件の館蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外の2機関に対し10件)
館蔵品の貸与件数：157件
寄託品の貸与件数：146件
計：303件

○27年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)
・当機構内の施設間における要望も含め、積極的に貸与の要望に応じ、収蔵品の公開に努めることができた。
・貸与に際しては必要に応じて、展示期間等の貸与条件、借用館のファシリティレポート及び警備体制、そして虫害対策などを確認することで、文化財の保全を図ることに努めながら要望に応じた。
・国内では、東京国立博物館の「鳥獣戯画」展に国宝4件と重要文化財16件を含む35件、MIHO MUSEUM及びサントリー美術館の「若冲と蕪村」展に重要文化財1件を含む14件、奈良国立博物館開館120周年記念「白鳳」展に国宝4件と重要文化財1件を含む6件、九州国立博物館開館10周年記念「美の国　日本」展に国宝8件、三井記念美術館の「蔵王権現と修験の秘宝」に国宝3件などを貸与した。
・海外では、韓国のサムソン美術館リウムにおける「細密可貴－韓国美術の品格」展に寄託品を1件貸与した。
・展覧会のみならず、鳥取県公文書館からの県史編纂事業における調査研究のための要望に応じ、考古2件を貸与した。
○東京国立博物館、九州国立博物館等の関西方面における集荷、返却の際に一時保管庫を提供した。



九州国立博物館開館10周年記念　「美の国　日本」展
貸与品：館蔵品　国宝「十二天像 帝釈天」

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	303件	－	－		429	304	626	582
うち国内の貸与件数	293件	－	－		426	301	623	570
うち海外の貸与件数	10件	－	－		3	3	3	12

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	貸与件数は26年度を下回ったが、当館の展示等への影響のない範囲で積極的に対応することができ、館外における収蔵品の公開に努めることができた。

【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	当館における展示履歴及び保存状況を勘案しながら、適切に要請に対応することができ、中期計画に対し順調に成果を上げることができた。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3413

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(4)　収蔵品の貸与

【年度計画】
(4館共通)
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部列品室	事業責任者	室長　吉澤　悟

【実績・成果】
(4館共通)
1)館蔵品及び寄託品を、国内外合わせて36の機関に、計145件貸し出した。
(東京国立博物館・奈良国立博物館)
1)愛媛県立歴史博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
1）収蔵品の貸与
○貸与先36機関の内訳
・国立6件、公立19件、私立9件、海外2件
○貸与作品145件の内訳
・国宝13件（館蔵品3件、寄託品10件）
・重要文化財46件（館蔵品17件、寄託品29件）
・その他86件（館蔵品47件、寄託品39件）
・貸与した館蔵品67件の内訳
（絵画19件、彫刻5件、書跡5件、工芸7件、考古31件）
・貸与した寄託品78件の内訳
（絵画40件、彫刻8件、書跡9件、工芸17件、考古4件）

1)相互貸借事業における貸与・借用品数
・愛媛県立歴史文化博物館（貸与品：館蔵品2件、借用品：6件）
・和歌山県立紀伊風土記の丘（貸与品：館蔵品1件、借用品：2件）



貸与品：国宝　伝教大師尺牘（九隔帖）　館蔵品

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	145件	－	－		118	102	135	149
うち国内の貸与件数	137件	－	－		113	100	135	149
うち海外の貸与件数	8件	－	－		5	2	－	0

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り貸与申請に対して慎重かつ積極的に対応できた。貸与件数も例年に並んで100件を超える貸与を行った。本年も考古相互貸借事業の実施があり、地域を結ぶ文化財公開の実績を作ることができた。

【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にもとづき、貸与申請に対しては慎重かつ可能な限り希望に応えられるよう対処した。文化財の公開と活用に積極的に貢献でき、中期計画の進展は順調であったと評価される。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　3414

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	（4）　収蔵品の貸与

【年度計画】
（4館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　冨坂　賢

【実績・成果】
1)国内 25 機関・海外 1 機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。
（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）

【補足事項】
（九州国立博物館）
1)国内の貸与先機関は、下記のとおりである。

・国及び国立博物館
　文化庁、京都国立博物館、奈良国立博物館
・地方公共団体及び公立博物館・美術館
（福岡県内）
　九州歴史資料館、甘木歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館、福岡市博物館、北九州市立小倉城庭園、海の道むなかた館
（福岡県外）
　奈良県立美術館、吉野ヶ里歴史公園、富山県水墨美術館、下関市立考古博物館、和泉市久保惣記念美術館、神奈川県立歴史博物館、愛媛県歴史文化博物館、大分県立美術館、高槻市立今城塚古代歴史館、岡崎市美術博物館
・私立博物館・美術館及び私立団体
　公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、根津美術館

海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
・台北國立故宮博物院南部院区



根津美術館「青山の至宝－初代根津嘉一郎コレクションの軌跡－」出品
重要文化財　大燈国師墨蹟〈上堂語/（凪墨蹟）〉

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	90件	－	－		119	113	143	101
うち国内の貸与件数	88件	－	－		118	105	117	89
うち海外の貸与件数	2件	－	－		1	8	26	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。

【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり、公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施し、展示等の充実に寄与した。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 3511

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長　谷　豊信 部長　栗原　祐司

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、139の援助・助言を行った。
・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(25件)
・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(56件)
・講演会やセミナー等における講演等での協力(6件)
・作品の展示・保存環境についての調査・指導(22件)
・博物館の管理運営に関わる助言 (30件)
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。

【補足事項】
(4館共通)
1)
○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力
・静岡市教育委員会静岡市文化財保護審議会委員
・独立行政法人国立公文書館重要文化財「東京府・東京市行政文書」保存修理事業企画提案審査会外部委員　他
○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言
・サントリー美術館　「逆境の絵師　久隅守景　親しきものへのまなざし」展企画協力
・高知県立歴史民俗博物館　特別展開催にかかわる助言　他
○講演会やセミナー等における講演等での協力
・ユネスコ　アジア博物館学芸員研修講師
・東京国立近代美術館　「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業2015」研修講師　他
○作品の展示・保存環境についての調査・指導
・埼玉県立近代美術館、新居浜市美術館、町田市立国際版画美術館、北海道博物館、富山県水墨美術館　他
(東京国立博物館)
1)環境調査を実施した新規貸与館は、8館。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	139 件	－	－		126	85	114	119

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	公私立博物館・美術館等の展覧会や運営、環境調査等に対して、内容・件数ともに適切に援助・助言を行うことができた。

【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づいて援助・助言を着実に行うことにより、我が国における博物館の中核としての機能が強化されている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 3512

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長　伊藤嘉章

【実績・成果】
(4 館共通)
1)　公私立の博物館・美術等が開催する展覧会及び運営に対し、 65件の援助・指導を行った。
・文化財の展示にかかる援助・助言（9件）
・文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言（19件）
・講演会、セミナー等での協力（13件）
・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力（24件）

【補足事項】
1)
○文化財の展示にかかる援助・助言
・福島県立美術館　特別展「飛騨の円空」撤収・梱包に関する指導
・サムソン美術館リウム　「細密可貴－韓国美術の品格」展の展示に関する指導　など

○文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言
・山口市教育委員会　常栄寺所蔵彫刻の現地調査の指導
・伊賀市教育委員会　指定文化財候補(伊賀焼)の調査に関する指導　など

○講演会、セミナー等における協力
・香港中文大学文物館　「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画専題講座」の講演
・プーシキン美術館　『樂－茶碗の中の宇宙』展にて講演　など

○文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力
・文化庁　文化審議会専門委員（文化財分科会）
・島根県文化財保護審議会にて調査に関する指導　など


プーシキン美術館
『樂－茶碗の中の宇宙』展 会場

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	65 件	－	－		91	65	43	29

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 援助・助言の件数、内容ともに十分な実績をあげることができた。

【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、援助・助言を着実に行うことができている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 3513

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(東京国立博物館)
1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤　栄

【実績・成果】
(4館共通)
1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計58件を実施した。

【補足事項】
・展示にかかる援助と助言としては、美馬市寺町防災交流センターで開催された特別展「お帰り故郷へ―奈良国立博物館所蔵の郡里廃寺跡出土品たち―」において11月14日に現地で実施した展示指導など、5件があった。
・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言としては、6月1日に法隆寺において所蔵品の保存状態について助言した一件など、16件があった。
・講演会やセミナー等における講演等での協力としては、東大寺で9月2日に開催された第４回「子ども文化財防火教室」での講演など、15件があった。
・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力としては、「東アジア文化都市2016奈良市」準備委員会の委員として会議に3回出席した奈良市への協力など、17件があった。
・博物館等の運営にかかわる援助と助言としては、米沢市上杉博物館の資料収集委員会の委員として助言した件など、5件があった。



〈挿図〉美馬市寺町防災交流センターで開催された、特別展「お帰り故郷へ―奈良国立博物館所蔵の郡里廃寺跡出土品たち―」　チラシ表

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	58 件	－	－		98	67	71	58

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 公立・私立の博物館や美術館が開催する展覧会に技術的な指導を実施し、また運営への助言も実施することができた。定量的項目の数値が大幅な増減をしていないためこの評価とする。今後も公私立博物館等への積極的な協力を継続する。

【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 27年度、徳島県や埼玉県の博物館等、これまであまり交流のなかった機関への援助・助言等の協力があり、人的ネットワーク形成の面で一定の成果があるなど、中期計画を順調に達成できた。今後も公私立博物館等との協力関係の構築に積極的に取り組む。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　3514

中項目	3　我が国における博物館の中核としての機能の強化
事業名	(5)　公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

【年度計画】
(4館共通)
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
(九州国立博物館)
1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのＩＰＭ(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉惠英

【実績・成果】
(4館共通)
1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(67件)
・文化財の調査に係る助言(4 件)
・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18 件)
・作品の展示及び運営等についての指導、助言(27 件)
・講演会、セミナー等における講演(18 件)
・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) (0 件)
(九州国立博物館)
1)「古文書保存基礎講座」を実施予定 (28 年１月 29 日～30 日)
2)公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのＩＰＭ(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催した。

【補足事項】

1)古文書保存基礎講座
　主　催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館
　協　力：国宝修理装潢師連盟
　対　象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関で古文書等を担当するもの。
　内　容：文化財修理についての理念を学ぶ。古文書の形態や整理法も学び、取り扱い時の応急的な手当て方法を実習する。
　実施日：28年１月29日、30日
　参加者：24名

2)ミュージアムＩＰＭ研修
　主　催：九州国立博物館
　対　象：博物館等文化施設でIPMに従事する職員・ボランティア等。
　内　容：博物館等文化施設において必要とされるＩＰＭの基礎、技術、実践等について講義と実習を行う。
　実施日：基礎編　27年9月9日～11日、技術編　27年11月9日～11日、実践編　28年2月7日、8日
　参加者：基礎編29名、技術編16名、実践編13名



IPM研修（基礎編）実習風景

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	67 件	－	－		97	109	64	57

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 計画通りに行った。

【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 講座及び研修会等を実施しており、中期計画を順調に達成した。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4111

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究((1)－①－ア)

【事業概要】他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信していくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究する。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

【スタッフ】山梨絵美子(部長)、二神葉子(情報システム研究室長)、小林公治(広領域研究室長)、小林達朗(文化形成研究室長)、塩谷純(近・現代視覚芸術研究室長)、皿井舞(主任研究員)、安永拓世（研究員)、橘川英規（研究員)、城野誠治(専門職員)、福永八朗（アソシエイトフェロー)、田所泰（アソシエイトフェロー)、津村宏臣(同志社大学准教授・客員研究員)、吉崎真弓（国立情報学研究所特任研究員・客員研究員)、久保田裕道(無形文化遺産部無形民族文化財研究室長)、早川泰弘(保存修復科学センター分析科学研究室長)、山内和也(文化遺産国際協力センター地域環境研究室長)、平出秀文（研究支援推進部管理室長)

【主な成果】

(1)当研究所の刊行物一覧の内容精査を行い、遺漏刊行物についての情報を収集することで、個々の刊行物について把握し、その一覧をウェブサイトで公開した。併せて、公開レベルを確認し、公開可能なものについては端末上での閲覧ができるための準備を進めた。

(2)Picture　Web で管理していた画像情報をワードプレスに移行した。

(3)刊行物アーカイブシステムに過去の展覧会情報データを移行させ、運用を開始した。

(4)調査・研究の公表として 2015 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会で口頭発表を行った。

(5)『美術画報』第 6 編から第 46 編までの入力を完了させ、公開した。

【年度実績概要】

(1)

・全所的アーカイブの一環として、当研究所が開所以来の刊行物を網羅した一覧を作成し、遺漏刊行物がないか各部・センターにはかって情報を収集し、「東京文化財研究所刊行物一覧」をウェブサイトで公開した。

・上記の刊行物一覧に記載された刊行物のうち PDF のない刊行物について PDF 化をすすめた。

・併せて、上記の刊行物一覧に記載された刊行物ひとつ一つに公開レベルを確認・設定し、公開可能なものについては Web 上での公開の準備をすすめた。

・上記のことがらを進めるため、東京文化財研究所アーカイブ WG 協議会を４回にわたって開催した（27 年 8 月 3 日、10 月 13 日、12 月 25 日、28 年 2 月 19 日）

・当研究所の研究誌『美術研究』１～200 号（1932 年から 1959 年）の誌面を PDF で公開した。併せて著作権者・同継承者不明の論文・記事等公開の手続きを進めた。

(2)Picture　Web で管理していた画像情報をワードプレスに移行した。

(3)併せて刊行物アーカイブシステムの評価を行い、『日本美術年鑑』刊行のための入力と図書業務が連動するように改良を行った。

(4)2015 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会（27 年 6 月 6 日、国立西洋美術館講堂）の口頭発表の内容は以下の通り。「文化財情報における専門的アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」（田中淳副所長、皿井舞主任研究員）

(5)『美術画報』第 6 編から第 46 編（1899 年～1923 年）までの入力を完了させ、公開した。

【実績値】

・研究情報のウェブサイトでの公開件数３件（備考欄①②③）

・調査・研究の成果公表１件（備考欄④）

【備考】

①「東京文化財研究所 刊行物一覧」

②『美術研究』１～200 号

③『美術画報』第 6 編から第 46 編

④ 口頭発表「文化財情報における専門的アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4111
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	S	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：公的機関としての活動の透明性が求められる昨今にあって、東京文化財研究所刊行物一覧の公表により研究所のこれまでの研究成果と透明性を一挙に明確に示し得たことは極めて高い成果である。
独創性：他ならない研究所のこれまでの研究成果、活動実績・蓄積を全所的に公表し得た点に高い独創性を示し得た。
発展性：東京文化財研究所刊行物一覧の公表は、これまでの活動実績の単なる公表に留まらず、これをベースにして逐次、情報の蓄積と公表が見込めることとなったことは大きな成果である。
効率性：各部・センターでの実績を全所的に一括して公表・総覧することが可能となったことにより、効率性が高まった。
継続性：文化財情報の公開は開所以来の蓄積・実績に立脚しつつ、積極的に外部発信を行った成果は大きい。
正確性：東京文化財研究所刊行物一覧の公表を行ったことにより、これまで行ってきた研究とその成果を正確に公表できるようになった成果は大きい。

２．定量的評価

観点	ウェブサイトでの公開件数	調査・研究の成果公表				
評定	A	A				

判定理由

ウェブサイトでの公開件数：デジタルアーカイブ３件をウェブサイト上で公開することができた。特に、「東京文化財研究所刊行物一覧」の公表は、質・量的にみて、開所以来の東京文化財研究所の活動とそれにともなう研究成果を網羅・総覧できるようにしたものであり、研究所のこれまでの活動とその成果についての透明性をはかった点は、これまでなし得なかったものである。
調査・研究の成果公表　：アーカイブに関する研究会で口頭発表を行い、文化財情報における専門的アーカイブの構築についての東京文化財研究所の活動の周知と成果の公表を国内外の関係者に広く公表することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当研究所の開所以来の刊行物（成果報告書）を網羅した「東京文化財研究所刊行物一覧」の一覧を公開することで、これまで研究所が行ってきた研究活動内容が、刊行物を介して外部から目に見えるようにするなど大きな成果を挙げた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今中期計画期間にもとづいて、継続的に文化財の研究情報を蓄積しつつ公開・活用するための手法について研究し、「東京文化財研究所刊行物一覧」をウェブサイトで公開するなどして、所期の目標以上の成果を達成することができた。 次期中期計画では当研究所の文化財に関する調査･研究の成果･データをより国際標準に沿う形で整え、共有するための研究をおこなっていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4112
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の資料学的研究((1)－①－イ)

【事業概要】
日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究を行い、文化財を対象とする資料学的基盤を整備、確立する。併せて、その基盤を礎としながら国内外の研究交流を推進し、成果を広く一般に公開する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化形成研究室長　小林達朗

【スタッフ】山梨絵美子(部長)、二神葉子(情報システム研究室長)、小林公治(広領域研究室長)、塩谷純(近・現代視覚芸術研究室長)、津田徹英(文化財アーカイブス研究室長)、皿井舞(主任研究員)、安永拓世（研究員)、橘川英規（研究員)、江村知子(文化遺産国際協力センター主任研究員)、中野照男（成城大学特任教授・客員研究員)、三上豊（和光大学教授・客員研究員)、近松鴻二（学習院大学非常勤講師・客員研究員)、吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師・客員研究員)

【主な成果】
(1)・東京文化財研究所が所蔵する明治期の書簡・手記を中心とする近代文書の判読と翻刻作業を行った。
・美術史研究のためのコンテンツづくりとして、平安時代在銘彫刻作品の銘文データの入力と編年目録（年表）の作成を行った。
・イケムラレイコ氏の公開対談会を行った。
(2)・明治期の美術書簡に関連する研究の成果を企画情報部研究会（27 年 8 月 30 日）において口頭発表を行った。
(3)・イケムラレイコ氏の公開対談会の内容を企画情報部ウェブ上で公開した。
・(1)の成果にかかる内容を『美術研究』416、417、418 号に掲載した。
・東京文化財研究所が所蔵する今泉雄作の『記事珠』について、ウェブサイト上での公開に向けてのパイロット版の作成改良を行った。
(4)・津田徹英がこれまでの調査研究の成果として『平安密教彫刻論』(中央公論美術出版　本文 808 頁　28 年 3 月)を刊行した。

【年度実績概要】
(1)・黒田清輝宛書簡 7,570 通の手紙に記された内容が把握できるよう、判読作業を行い、内容検索ができる目録作成作業を進めた。
・すでに研究所のデータベースとして公開されている 10 世紀から 15 世紀に至る絵画作例の銘文を集めた『年紀資料集成データベース』に対応する彫刻作例の銘文データベースを構築すべく、平安時代の在銘彫刻作品の銘文データ入力、編年目録の作成を進めた。


(1)黒田清輝宛書簡の判読と内容の入力作業

・イケムラレイコ氏と、企画情報部長山梨絵美子、主任研究員皿井舞による公開対談「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」(27 年 6 月 9 日）を東京文化財研究所セミナー室において開催した。
(2)・黒田清輝宛書簡のうち、一群をなす書簡について、企画情報部研究会（27 年 8 月 30 日）で、外部研究者を交えて口頭発表を行った。
・高山百合「黒田清輝宛岡田三郎助書簡　翻刻と解題」、松本誠一「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」
(3)・(1)の成果を踏まえ、27 年度刊行の『美術研究』に「研究資料」として掲載した。
・『美術研究』416～418 号掲載：児島　薫「藤島武二による黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（2）～（4)」
(4)・当プロジェクトに含まれる研究の成果を津田徹英『平安密教彫刻論』(中央公論美術出版　本文 808 頁　28 年 3 月）として刊行した。

【実績値】
発行物数：掲載論文 3 件（①～③）刊行物 1 件④
発表数　：発表 2 件（⑤～⑥）　　公開対談 1 件（⑦）

【備考】論文
①②③児島薫「藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（2）～（4)」『美術研究』416～418 号
刊行物
④津田徹英『平安密教彫刻論』(中央公論美術出版　本文 808 頁　28 年 3 月)
発表（企画情報部研究会 27 年 8 月 30 日）
⑤高山百合（福岡県立美術館学芸課学芸員）「黒田清輝宛岡田三郎助書簡　翻刻と解題」
⑥松本誠一（佐賀県立博物館・佐賀県立美術館副館長）「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」
公開対談（於東京文化財研究所セミナー室　27 年 6 月 9 日）
⑦「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4112
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
評定	A	A	B	B	A	

判定理由
適時性：近代美術史上重要でありながら、内容が明らかでないため研究者に共有されていると言い難い黒田清輝宛書簡について、内容の把握・公開に向けた整理を迅速に行うとともに、外部研究者を交えてその研究交流の促進のために研究会を開催、さらにその内容を『美術研究』において公表するなど、重要資料について共有化作業を進展させることが出来たことは大きな成果である。
独創性：当研究所ならではの資料の活用を行った。また、これまでの成果を専門書として公刊した。その他成果の一端はオープンレクチャーにて公表するとともに、26 年度主催シンポジウムに関連する対談を公開で行うなど、当研究所こそが可能な美術研究基盤の整備、公開を行い大きな成果をあげた。
発展性：10 世紀から 15 世紀に至る絵画作例の銘文を集めた『年紀資料集成データベース』を彫刻の分野にまで展開すべく、日本彫刻作例の銘文データベースの構築を目指し、27 年度は平安時代の在銘彫刻作品の銘文をデータ入力し、併せて編年目録の作成を進めるなど膨大な資料群について基盤整備を発展させることができた。
継続性：26 年に引き続き、黒田清輝宛書簡の内容把握を進めるとともに、その成果を『美術研究』に研究資料として引き続き提示することができた。
正確性：黒田清輝宛外国人書簡について、明治期および古書体専門の客員研究員及び研究補佐員の助力を得て、資料解明の正確性を期すことができたことは大きな成果である。

２．定量的評価

観点	発行物数	発表数				
評定	B	B				

判定理由
発行物数：論文数が3件、刊行物１件であり、目標値に達しているためＢと評価した。
発表数　：発表数が3件であり、目標値に達しているためＢと評価した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	近世書簡の調査翻刻に関しては充分な進捗を見、また論文・発表に関しても充実した内容となり、総合的にＢと評価した。 正確性と継続性を見据えつつ黒田清輝宛書簡を、影印と翻刻を対比的に配して、一点ずつに解題を付して行う資料紹介の手法は、資料紹介のあり方として規範・定型をなし得るものであり、この手法を踏襲しつつ、引き続き翻刻・解題の充実に努めたい。併せて、文化財研究の「今」を見据え、研究の発展性を念頭に置きつつ、ウェブサイト、研究会、講演などさまざまな手法を用いて、成果の周知と公表を行っていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に対する実施状況は、所期の目的を達成している。次期中期計画においても継続して調査・研究を踏まえた美術史研究のためのコンテンツの形成、研究交流促進と成果公表のための研究会等の開催を行っていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4113

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近現代美術に関する交流史的研究((1)－①－ウ)

【事業概要】日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我が国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純

【スタッフ】田中淳(副所長)、山梨絵美子(部長)、橘川英規(研究員)、城野誠治(専門職員)、田所泰（アソシエイトフェロー)、三上豊(和光大学教授・客員研究員)、丸川雄三(国立民族学博物館准教授・客員研究員)、河合大介（客員研究員）

【主な成果】

(1)A.畑正吉資料の調査、B.三木宗策作品及び文献調査、C.松澤宥作品・資料の調査。

(2)A.明治 40 年代のパリにおける美術家の交遊関係の解明、B.三木宗策の文献目録・年譜作成。

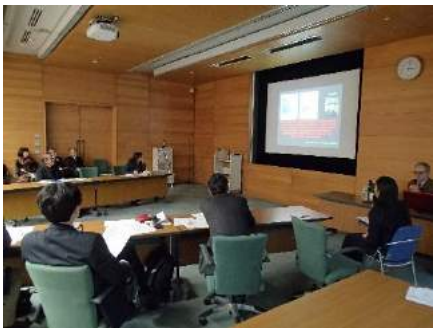
(3)A.「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」展の開催及び図録の刊行、B.「新海竹太郎資料一覧」の『美術研究』誌上公開、C.矢代幸雄／バーナード・ベレンソン往復書簡等のオンライン展示及び研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」の開催、D.「没後 70 年　三木宗策の世界　木彫の正統」展図録への文献目録掲載。

【年度実績概要】

(1)A.27 年 5 月 2 日に彫刻家畑正吉の遺族宅に伝わる写真原版の調査を行ない、11 月には同原板の寄贈を受けた。B.27 年 5 月 21 日に文京区大圓寺・台東区全生庵で、27 年 6 月 16 日に葛飾区西圓寺・江戸川区燈明寺で彫刻家三木宗策の作品及び文献調査を行なった。C.27 年 10 月 15 日に現代美術家の松澤宥作品・資料の調査を行なった。

(2)A.(1)A の調査により、明治 40 年代にパリへ留学していた畑正吉と安井曾太郎・藤川勇造ら美術家との交遊の様子が明らかになった。B.(1)B の調査に基づき三木宗策の文献目録を編纂、これまで顧みられることの少なかった作家の基礎情報を明らかにした。

(3)A.28 年 3 月 23 日より東京国立博物館との共催で「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」展を同館にて開催、同展の図録で黒田の画業に関するテキストおよび作品解説を掲載した。B.26 年度に当研究所へ寄贈となった新海竹太郎資料の一覧を田中修二氏（大分大学）と作成、『美術研究』416 号（27 年 8 月）に掲載した。C.美術史家矢代幸雄とその師であるバーナード・ベレンソンの往復書簡を、ハーバード大学ルネサンス研究センター及び越川倫明氏（東京藝術大学）と共同で 27 年 6 月 30 日よりウェブ上でオンライン展示、また 28 年 1 月 13 日に研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」を開催した（一部科研）。D.郡山市立美術館で 27 年 10 月 31 日から開催された「没後 70 年　三木宗策の世界　木彫の正統」展の図録に(2)B の文献目録を掲載した。



研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」の様子

【実績値】

論文発表　3 件（①～③）

学会発表　7 件（④～⑩）

【備考】

論文

①田中淳「展覧会評　歴史をつくる学芸員の眼」(『美術研究』417　28 年 1 月)

②山梨絵美子「黒田清輝の画業と遺産」(東京国立博物館『生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠』展図録　28 年 3 月)

③河合大介「研究ノート 赤瀬川原平と《山手線事件》―〈匿名性〉を手がかりとして―」(『美術研究』418　28 年 3 月)

発表

④塩谷純「近代歴史画の魅力」(井原市立田中美術館講演会　27 年 5 月 16 日)

⑤山梨絵美子「美術商林忠正―欧米と日本の異なる「美術」概念のはざまで」(ハイデルベルク大学東アジア美術研究所国際シンポジウム「日本美術史研究の現在―グローバルな視点から」　27 年 10 月 24 日)

⑥田中淳「住友春翠と近代美術　黒田清輝の支援者」(新居浜市美術館講演会　27 年 11 月 21 日)

⑦山梨絵美子「ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点」(研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」28 年 1 月 13 日)

⑧田中淳「近代日本美術の基層をめぐって―岸田劉生を中心に」(総合研究会　28 年 3 月 1 日)

⑨塩谷純「近代日本画を支えた人たち」(川越市立美術館講演会　28 年 3 月 21 日)

⑩山梨絵美子「黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み」(東京国立博物館講演会　28 年 3 月 26 日)

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4113
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	S	A	A	A	A	A

判定理由
適時性、独創性：物故作家の調査を進める中で、松澤宥のような作品と資料が分かちがたく結びついた現代作家を対象として取り組むことは、今日の美術アーカイブのあり方に一考を促すものとして特に評価されよう。また多くの仏像制作を手がけた三木宗策のような、従来の近代彫刻史の文脈では捉え難い作家の営為を 27 年度は明らかにすることができたことは極めて高い成果である。
発展性、効率性：この中期計画で解読を進めてきた矢代幸雄とバーナード・ベレンソン間の往復書簡を、27 年度はウェブ上で公開することができた。書簡中に登場する人物にはリンクをはるなど、ウェブ公開の利点を生かした利便性の高いものとなっている。さらにその成果をふまえた研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」も開催した。
継続性、正確性：当研究所の創設に寄与した洋画家ということで、昭和 5 年の開所以来、調査研究を続けてきた黒田清輝の大回顧展を開催、同展の図録にはその集大成となる論文や作品解説を掲載し、今後の黒田研究の基礎文献となるよう努めた。

２．定量的評価

観点	論文発表	学会発表				
評定	A	A				

判定理由
論文発表・学会発表：論文発表3件、学会発表7件と、いずれもこれまでの研究成果をすみやかに発表し、例年以上に内容・数量ともに充分な成果発表を実施することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田清輝、三木宗策ら近現代美術家および矢代幸雄ら美術史家・評論家の資料の調査を進め、展覧会やウェブサイト等で公開するなど定性的にも定量的にも目標以上の成果を達成した。 中期計画の目標達成に加え、27 年度は畑正吉資料や松澤宥資料の調査等、次の中期計画に繋がる新資料の調査に着手することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田清輝展の開催や新海竹太郎資料の整理公開、矢代幸雄書簡のウェブ公開等、この中期計画で手がけてきた研究の集大成を果たすことができた。次期中期計画においても、新海資料のデジタル化や矢代書簡の邦訳等、さらなるステップアップを図りたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4114
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究((1)－①－エ)

【事業概要】様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日にどう至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連書分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないし文化財に対するより深い理解を形成することを目指す。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　小林　公治

【スタッフ】山梨絵美子（部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、津田徹英（文化形成研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）、中野照男（客員研究員）

【主な成果】

(1)・真珠科学研究所と螺鈿器に使われている貝の客観的な識別方法開発を目的とした共同研究を開始した。
・研究所が所蔵するガラス乾板のデジタル化作業を引き続き実施するとともに、新たに企画情報部が所蔵する文化財撮影Ｘ線フィルムのデジタル化を行なった。
・『日本絵画史年紀資料集成十世紀―十四世紀』についてデータを拡充するとともに入力を実施した。
・柳澤孝氏から寄贈された南・西アジア画像資料の整理を進め、データベース化を行なった。
・サントリー美術館において、同館所蔵漆器類の調査を行った。
・東慶寺において、同寺所蔵漆器類の熟覧調査を実施した。
・この他、真珠科学研究所との研究協議・サンプル提供を実施した。

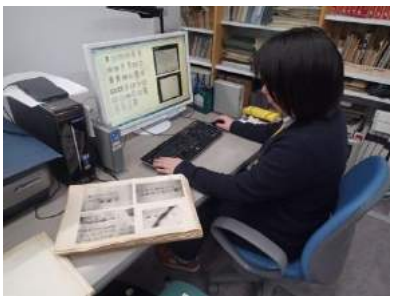
(2)・企画情報部 9 月研究会において、志村明氏・秋本賀子氏から、伝統的絹生産技術および伝世絵画に使われている画絹との関係について発表いただいた。
・サントリー美術館での調査・検討成果について、『美術研究』417 号誌上にて考察として報告した。
・先年来調査を行なってきた東京国立博物館蔵普賢菩薩像について、『美術研究』416 号に論文として成果公表した。
・26 年度調査、愛知県陶磁美術館で調査を行なった朝鮮製および中国製螺鈿漆器について編年的位置付けの検討を行ない報告した。

(3)・デジタル化したガラス乾板及びＸ線フィルムについては、文字データなどの確認・整理・補筆作業などを行い順次ウェブサイトにアップして公開した。

【年度実績概要】

(1)・ガラス乾板デジタル化作業では 27 年度内に 7,163 枚のガラス乾板、8,623 枚の X 線フィルムをデジタル化し、そのうちの 6,157 枚について新たに文字データ入力校正や整形加工を行った（28 年 3 月 16 日現在)。
・サントリー美術館が所蔵する桃山時代および江戸時代初期の螺鈿および漆器類、また東慶寺が所蔵する室町時代から江戸時代にかけての漆器類について詳細な実見調査を行い、文様表現や製作技術・材料などについての検討・意見交換を行なった。
・日本絵画史年紀資料について、862 件の記録についてデータ補完した上でデジタル入力を行ない、また文字資料について翻刻、検討を実施した

(2)・デジタル化できたガラス乾板・X 線画像のうち、種々の入力校正や画像加工が終了し、サーバーにアップしてウェブサイト公開を行った画像は 9,786 件となった（28 年 3 月 16 日現在)。


ガラス乾板文字情報調査・入力状況

【実績値】
発表件数　1 件(①)
論文掲載数　3 件(②～④)
調査件数　2 件

【備考】
① 志村明・秋本賀子「絹生産における在来技術について」（「第 5 回企画情報部研究会」　27 年 9 月 29 日）
② 小林達朗「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」（『美術研究』416 号　27 年 8 月 10 日）
③ 小林公治「南蛮漆器書見台編年試論」（『美術研究』417 号　28 年 1 月 21 日）
④ 小林公治「15-17 世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討」（『鹿島美術研究年報』第 32 号別冊　27 年 11 月 15 日）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4114
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：本プロジェクトは、美術品を中心とした有形文化財についての理解を促進させるため、多面的な視点から研究を進めようとするものである。27 年度はこれまで行なった調査や研究について論文として早急な成果公開を行なえた。また美術史分野ではこれまでほとんど知られていなかった分野についての報告と情報共有を行なうことができた。
独創性：本研究プロジェクトでは、美術史研究では比較的関心が低く、研究者も少ない工芸品研究についても目を向け様式論以外の視点による多角的研究を進めたり、代表的仏画について高解像度画像に裏付けられた独創的分析研究を実施することなどを行なえた。
発展性：27 年度実施し公表した研究事例とその成果は、他の作品などにも適用可能な汎用性を持つものであり、以後の高い研究発展性を持つ基礎的な研究であると評価することができる。
効率性：個別性が重視される美術作品研究においては効率性は時に矛盾する考え方であるが、データのデジタル入力を実施し、インターネットを通じた幅広い公開を行なうなど、データの活用に対してなどで効率性に配慮して進行している。
継続性：本プロジェクトの調査や研究は地道かつ継続的に実施されているものである。
正確性：学術的にきちんと裏付けされた論証可能なデータを用いて研究を進めるなど、正確性を重んじた客観性を持つ研究を進めている。

２．定量的評価

観点	発表件数	論文掲載数	調査件数			
評定	B	B	B			

判定理由
発表件数：27 年度は、機会をとらえてプロジェクトに即した研究成果の公表を行なうことができた。
論文掲載数：これまで調査検討を重ねてきた研究対象について、論文という形での成果公開を行なうことができた。
調査件数：少しずつではあるが、着実に各機関や寺社などでの調査を実施している。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	定性的評価については、真珠科学研究所とのこれまでにない斬新な共同研究の着手やこれまでの調査成果を論文発表するなど、着実な成果公表が行なえた。定量的評価についてはデータの公開などでまとまった件数の実績を上げることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画最終年度にあたる27年度は、これまで実施してきた調査について、ひとつの区切りとなる調査成果の検討結果をまとめた論文としての発表を行なうことができた。もちろん、これですべてが完結するわけではなく、28年度以降も新たな研究計画の下で、より大きな研究進展が得られるように努力したい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4121

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究((1)－②))

【事業概要】

近畿地方を中心として、重要な古寺社や関連する旧家等が所蔵する歴史資料や書跡資料等について、継続的・悉皆的に整理・調書作成・写真撮影等の調査を行い、現存資料の把握に努め、成果を目録・データベース等により、また重要資料は翻刻して公開する。このような調査によって文化財研究の基礎を固めた上で、文化財の歴史的性格・特徴等を研究し、日本の歴史・文化の研究に資する。撮影した写真は研究者等の研究に供する。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	歴史研究室長　吉川　聡

【スタッフ】

小原嘉記(中京大学国際教養学部准教授、客員研究員)、渡辺晃宏(都城発掘調査部副部長)、馬場 基(都城発掘調査部主任研究員)、山本 崇(都城発掘調査部主任研究員)、桑田訓也(史料研究室研究員)、山本祥隆(史料研究室研究員)、中村一郎(写真室主任)、栗山雅夫(写真室技術職員)、鎌倉 綾(写真室技能補佐員)、飯田ゆりあ(写真室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

東大寺が所蔵している興福寺僧の日記から、興福寺における神仏分離・廃仏毀釈の様相が明確となった。興福寺は奈良随一の大寺院だったが、神仏分離の際には大きな打撃を受けている。その詳細が判明したことは、奈良における文化財伝存状況や寺社の歴史、さらには現代日本における神仏関係の解明に寄与するはずである。また愛媛県横峰寺所蔵の蔵王権現関係資料の原本調査から、奈良県大峯山の信仰が、全国に伝播していく様相をうかがうことができた。

【年度実績概要】

・興福寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、二条家記録第 11 函～第 17 函・井坊家記録の調書を作成した。また、第 109 函等の写真を撮影した。
・仁和寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、御経蔵聖教第 64 函～第 74 函の調書原本校正・写真撮影を実施した。
・薬師寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、第６函～第８函の目録校正、第 25 函の写真撮影を実施した。また、東京大学史料編纂所の公開研究会において報告を行った。
・唐招提寺所蔵の書跡資料の調査を実施し、宝蔵・新宝蔵等に所在する資料の確認作業・整理作業を行い、宝蔵第２函～第３函を写真撮影した。
・東大寺所蔵の歴史資料の調査を、科学研究費補助金も充当して実施し、新修東大寺文書聖教の第 80 函～第 85 函の調査データ入力、第 56 函等の撮影等を行った。また、その中に見いだした興福寺僧の明治維新期の日記の調査成果により、興福寺における神仏分離の様相について論稿を公表した。
・上記の興福寺僧関係資料については、現在もご子孫の元にある個人所蔵資料について、科学研究費補助金も充当して、調査を開始した。また、内山永久寺関係の、個人所蔵の資料について調査を実施した。
・愛媛県横峰寺が所蔵する資料について、原本調査の成果を公表した。また三仏寺所蔵の歴史資料の調査を実施し、第５函～第６函、経典等の調書を作成し、仏像・神像等の写真撮影を実施した。
・調査協力の依頼を受けて、石山寺調査、文化庁依頼の仁和寺聖教調査等に協力した。


「千年有余の僧体、一時に廃され候趣意、歎かわしきこと、古今未曾有の珍事なり」
吉川聡
奈良・興福寺僧の日記で判明した神仏分離を迫られた寺院当主の衝撃
月刊住職

神仏分離の調査成果の論稿

【実績値】

刊行物・論文等数２件（①～②）

（参考値）調査資料点数

興福寺：調書作成資料点数 242 点、写真撮影資料点数 64 点
仁和寺：調書原本校正資料点数 472 点、写真撮影資料点数 476 点
薬師寺：調書原本校正資料点数 86 点、写真撮影資料点数 172 点
唐招提寺：調書原本校正資料点数 34 点、写真撮影資料点数 227 点
東大寺：調査データ入力資料点数 898 点、写真撮影資料点数 521 点
三仏寺：調書作成資料点数 625 点、写真撮影資料点数 7 点
奈良の旧家等：調書作成資料点数 209 点、写真撮影資料点数 26 点

【備考】

① 吉川聡「廃仏毀釈　発見された奈良・興福寺僧の日記」『月刊住職』第 498 号、2016.1
② 吉川聡「石鎚山の縁起からみた蔵王権現信仰」『奈良文化財研究所紀要 2015』2015.6

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4121
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	A	B

判定理由

適時性：近畿を中心とする、世界遺産にも登録されるような古寺社等には、未だに調査・整理されていない歴史資料・書跡資料が数多く存在している。その内容を把握し、保存を図り、史料として利用できる状態にまで整理することは、適時性が高い調査である。

独創性：横峰寺の調査成果については、文献に錯簡があることに初めて気づいた結果、釈読が可能となったものであり、独創性が認められる。

発展性：調査資料には、日本史を研究する上で重要な内容を持つものが多く含まれている。また 27 年度は特に、興福寺の神仏分離の状況を明確にすることができた。これは、その際に寺社のもとを離れた資料の追跡にも資するものであり、発展性がある。

効率性：資料の状況・緊急性等に合わせて、調書の取り方・撮影方法などを変えており、効率性を充分考慮している。

継続性：膨大な資料を、長年にわたって着実に中断なく、全容を把握する調査を実行している。このような調査は大学等の機関ではなしえない事業であり、継続性に極めて優れている。

正確性：調査資料の重要性に鑑みて、詳細・正確な調査を実施している。

２．定量的評価

観点	刊行物・論文等数					
評定	B					

判定理由

刊行物・論文等数：2件という目標の数を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	興福寺・仁和寺・薬師寺・唐招提寺・東大寺・三仏寺の調査を実施した。その調査の成果として、興福寺の神仏分離・廃仏毀釈の実像を明らかにすることができた。さらに、興福寺関連資料として、個人蔵資料の調査も開始し、また愛媛県横峰寺の所蔵資料から大峯山の信仰の伝播状況を推測するなど、近畿を中心とする古寺社関係資料の調査研究を、やや広い視点から実施することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査研究事業は、堅調に実現できたと考える。各寺院の調査は、予定通り実施できた。神仏分離関係の検討を行ったことにより、興福寺関係などの個人所蔵の資料も、調査の対象とすることができた。今次中期計画の５年間全体について振り返ると、目録・史料集・報告書の公刊や、データベース増補等を実現できた。以上から順調と判定した。今後も、現在蓄積しつつある寺社の調査データを、目録・史料集等の形で公表していく必要があるだろう。また、寺社所蔵資料の調査をいっそう進め、さらには、そこから流出した資料なども、積極的に調査する必要があるだろう。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4131

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究（(1)－③）

【事業概要】

我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の技法についての再検証（調査研究）を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	建造物研究室長　林良彦

【スタッフ】

箱崎和久（遺構研究室長）、西山和宏（都城発掘調査部主任研究員）、海野　聡（遺構研究室研究員）、鈴木智大（遺構研究室研究員）、番　光（文化遺産部建造物研究室研究員）、西田紀子（企画展示室研究員）

【主な成果】

文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料「ガラス乾板」について画像のデジタルデータ化により、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を「法隆寺金堂古材調査」を継続的に実施した。このほか、受託事業により、鳥取県若桜町の伝統的建造物群保存対策調査、山梨県富士吉田市の北口本宮冨士浅間神社社殿の詳細調査、秋田県横手市増田町の歴史的建造物の調査を行った。

・所内で保管している文化財建造物等の保存修理時の撮影ガラス乾板を整理して、約 600 枚の画像をデジタル化した（デジタル化は外注）。また、上記ガラス乾板及び建造物保存図並びに同摺拓本資料について、外部への資料提供を実施した。
・古代建築の技法に関する調査研究では、法隆寺所蔵の古材調査を 21 年～26 年度に引き続き実施した。27 年度は、引き続きかつて法隆寺西院金堂に使用されていた部材について調査を行い、西院金堂の現地調査を終了し、図面の作成や補足調査を行った。なお、調査にあたっては、年代学研究室の協力を得た。
・鳥取県若桜町の伝統的建造物群保存対策調査、山梨県富士吉田市の北口本宮冨士浅間神社社殿の詳細調査、秋田県横手市増田町の伝統的建造物群保存地区に残る町家 2 件の詳細調査を受託し、調査・図面作成・報告書原稿作成等を行い、後者 2 件について報告書を刊行した。



北口本宮冨士浅間神社社殿調査

【実績値】

刊行図書数 3 冊（①）
学会等発表件数 3 件（②）、論文等数 6 件（③）
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 600 枚
古代建築研究現地資料収集：法隆寺古材調査 10 回

【備考】

刊行図書
① 横手市教育委員会『横手市指定有形文化財　松浦千代松家住宅調査報告書』28.3
② 横手市教育委員会『登録有形文化財　佐藤又六家住宅調査報告書』28.3
③ 北口本宮冨士浅間神社『北口本宮冨士浅間神社建造物詳細調査報告書』28.3

学会等発表
②林良彦「伝統的建造物群保存地区における修理修景」文化庁伝統的建造物群保存地区関係者集会、27.7　ほか 2 件

論文等
③海野聡「古代建築のイメージの限界-描かれた古代建築の特質―」、『奈良文化財研究所紀要 2015』、27.6　ほか 5 件

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4131
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：鳥取県若桜町で行っている伝統的建造物群保存対策調査は自治体の文化財保存に対する協力で失われつつある日本の集落町並みを保存する上で緊急性が高い。
独創性：古代建築の諸構法の研究は、研究所がこれまで継続してきた調査研究に基づき、これを発展させるため、法隆寺古材調査では「技術・技法」等の視点を加え、独創性のある研究内容といえる。
発展性：法隆寺古材調査は、古代建築の技法を知る上でまたとない資料であり、新たな視点での調査行い、成果を資料化することは、古代建築研究の展開に大きく貢献するものである。
効率性：限られた人員に対し充分な成果を出している。
継続性：文化財建造物保存修理事業等で作成された貴重な記録である「ガラス乾板」の資料整理、デジタル化作業は近年継続的に実施しており、地味な作業ではあるが高く評価できる。
正確性：受託業務として行った増田町建造物調査や北口本宮冨士浅間神社の社殿調査においては、詳細かつ正確な調査にもとづいて、その価値を明確にすることで、近年文化庁で推進されている文化財の保存・活用によるまちづくり施策に、大きく貢献している。

２．定量的評価

観点	刊行図書数	論文等数	学会等発表件数	保管建造物関係資料整理	古代建築研究現地資料収集	
評定	B	B	B	B	B	

判定理由
刊行図書数：受託調査の報告書3冊を刊行できた。
論文等数：目標値の6件に達した。
学会等発表件数：目標の3件に達した。
保管建造物関係資料整理：建造物修理にともなう写真乾板600枚を修復デジタル化した。
古代建築研究現地資料収集：法隆寺古材調査のうち、金堂分の現地調査について完了し、図化、整理を行った。
刊行図書数以下は特に目標値を挙げていないが十分に成果が認められるので、Ｂと判定した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・文化財建造物の保存修理に関する基礎データの整理等については計画通り実施できた。 ・受託事業で、北口本宮冨士浅間神社、増田町の歴史的建築の具体相を究明できたことは、文化庁等の調査に寄せる期待に応えることになり評価できる。 ・古代建築の研究「法隆寺古材調査」は継続して行っている基礎的な作業であり、今後高く評価されるものと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	所内保管の建造物関係資料についての整理等作業、古代建築の諸構法に関する研究とも順調に進捗している。前者は基礎的な作業であるが、これを継続させたい。後者の研究は、研究所が蓄積した過去の研究成果を元にした本研究所ならではの研究である。法隆寺古材調査は膨大な作業量があるが 現場での作業を続けるとともに研究成果をまとめて公表して行く。受託各事業は自治体や所有者の求めに応じて行っているが、いずれも文化財建造物や伝統的建造物群の保存に大きく資するものである。これについても力を注ぎたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4141

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化財の保存・活用に関する調査研究（(1)－④－1）

【事業概要】我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　飯島　満

【スタッフ】高桑いづみ（無形文化財研究室長）、菊池理予（研究員）、佐野真規（アソシエイトフェロー）、星野厚子（東京藝術大学助手・客員研究員）、早川典子（保存修復科学センター主任研究員）

【主な成果】

(1) 能楽について、戦国時代の囃子や謡の旋律を調査し、成果を公表した。また、能楽で用いられた楽器を中心に調査を行い、成果を公表した。
(2) 染織技術を支える原材料や道具等について調査を行い、その成果を公表した。
(3) 無形文化遺産部が所蔵する音声資料の整理を行い、その成果を公表した。
(4) 上演機会が著しく減少している伝承芸能について実演記録を作成した。

【年度実績概要】

(1) 戦国時代の伝書を読み解き、当時の謡のリズムは江戸時代以降とは異なっていたこと、桃山時代の旋律はかなりの割合で当時のアクセントに従っていたことを解明した。成果は能楽学会大会、日本演劇学会秋の研究集会、無形文化遺産部公開学術講座などで公表した。絵画資料と芸能の関係についても考察し、楽劇学会大会で発表した。
(2) 染織技術のうち、埼玉県の熊谷染の事例を中心に、原材料や道具の入手・供給、道具のメンテナンスの状況等の調査を行い、報告書（付録：記録映像資料）にまとめた。また、伝統技術の伝承に関する研究会を東京文化財研究所で開催した。一方、染織技術と材料の関わりを検討するため、友禅染を例に天然材料と合成材料を比較する研究会を文化学園服飾博物館との共催で開催した。
(3) 義太夫節浄瑠璃の曲節の実演集（東京文化財研究所所蔵 LP 盤）について、収録内容を整理し公表した。
(4) 連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録 14 席を作成した。なお、神田松鯉師については時代物 1 演目の収録が完了し（27 年 9 月まで全 20 回）、新たな演題で記録する運びとなった。また、ほとんど上演されなくなっている落語の正本芝居噺について、林家正雀師による実演記録 2 席を作成した。



神田松鯉師による講談『柳沢昇進録』
28 年 1 月 26 日

【実績値】

学会等発表　6 件（①～⑥）／論文等発表　4 件（⑦～⑩）／報告書刊行　2 件（⑪⑫）／（参考値）記録作成　16 席

【備考】

①高桑いづみ「地拍子の古態―早歌からの継承―」能楽学会　27 年 6 月 21 日　早稲田大学
②高桑いづみ「楽劇研究と絵画資料」楽劇学会　27 年 6 月 28 日　国立能楽堂
③高桑いづみ「シンポジウム　能の復元的上演の可能性―「能」を現代に蘇らせる手法―」日本演劇学会 27 年 10 月 25 日 法政大学
④菊池理予「染織技術の伝承　その現状と課題―熊谷と京都を事例として―」無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ 27 年 11 月 11 日　東京文化財研究所
⑤高桑いづみ「明治以前の謡とアクセント」第 10 回無形文化遺産部公開学術講座 27 年 12 月 18 日　東京国立博物館平成館
⑥高桑いづみ「楽器行脚 20 年」東京文化財研究所総合研究会　28 年 1 月 12 日　東京文化財研究所
⑦菊池理予「復刻銘仙の製作と技術の伝承―分業のこれから―」『きものモダニズム』須坂クラシック美術館　27 年 9 月 26 日
⑧菊池理予「道具と技術の関わり―熊谷地域の染色工房を調査して―」『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所　27 年 9 月 30 日
⑨高桑いづみ「室町時代のアクセントと謡のフシ」『無形文化遺産部研究報告』第 10 号　28 年 3 月 30 日
⑩飯島満『七代目豊沢広助　義太夫の種類と解説―無形文化遺産部プロジェクト報告―』東京文化財研究所　28 年 3 月 30 日
⑪『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』東京文化財研究所　27 年 9 月 30 日
⑫『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」報告書』東京文化財研究所 28 年 3 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4141
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
評定	A	A	B	A		

判定理由
適時性・独創性：我が国の無形文化遺産には存続が危ぶまれているものが少なくない。26 年度から継続して調査を実施した熊谷染（埼玉県熊谷市）も、多くの染物工房が廃業を余儀なくされている。そうした状況下、染織技術のみならず、原材料・道具等にまで範囲を広げ調査することになったのだが、廃業後では実現不可能な事業であり、時宜にかなったものと評価できる。また『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』には、熊谷染の調査時に収録した記録映像が報告内容に対応する参考資料として添付されている。こうした報告書は工芸技術の分野ではほとんど類例のないものであり、独創性の観点からも高く評価できる。
発展性：能楽の音楽学的研究は長年の実績が学会でも高く評価されているが、室町時代の日本語アクセントと謡の相関性についての解明は、能楽の伝承実態を明らかにする上で重要な知見をもたらしたものと評価できる。
また、文化財保護委員会が作成した資料には、いまだにその存在が広く認知されていないものがある。当研究所が所蔵する義太夫節の解説レコードも、具体的な収録内容が十分に紹介されておらず、前回のプロジェクト報告書（23 年 3 月刊）で紹介できなかった部分（七代目豊沢広助による弾き語り）を整理・公開したが、昭和 30 年代に溯る演奏者による録音であり、基礎資料としての活用が期待できる。
継続性：無形文化遺産部では、これまで数多くの実演記録を作成してきたが、講談（一龍斎貞水師）の記録作成は 14 年度から現在に至るものであり（神田松鯉師は 21 年度より）、東京文化財研究所ならではの長期的な事業として評価できる。

２．定量的評価

観点	学会等発表	論文等発表	報告書刊行			
評定	A	A	B			

判定理由
学会等発表・論文等発表：それぞれ6件と4件で例年に増して内容・数量ともに充実した発表を実施することができた。特に、所内外の学会及び研究会にて能楽の音楽学的研究は高い評価を受けており、室町時代の日本語アクセントと謡の相関性についての解明は、能楽の伝承実態を明らかにする上で重要な知見をもたらしたことは大きな成果となった。
報告書刊行　：27年度はプロジェクトに関わる報告書も刊行することができ、定量的に十分である。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	目標以上の成果を達成していると判断し、総合的評価をＡとした。28年度計画においても、我が国の無形文化遺産の保護に資する調査・資料収集・記録作成等を実施し、プロジェクトの一層の充実を目指したい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	無形文化財を中心に、我が国の無形文化遺産に関する調査研究を継続的かつ発展的に実施することができた。現状記録の必要な伝統芸能・伝統技術等についても、順調な記録作成の実施により、資料の蓄積も着実に行うことができた。以上により、所期の目的を達成することができた。 中期計画期間において、 能楽、染織技術等について継続的に調査を行い、成果を発表するとともに、講談等伝承芸能の実演記録も着実に蓄積することができた。以上の事により所期の目標を達成することができた。

【書式B/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4142

(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究((1)－④－2)

【事業概要】

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集し、保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行い、媒体転換等の必要な措置を講じるための準備を進める。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産研究部長　飯島　満

【スタッフ】

久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、今石みぎわ（研究員）、齊藤裕嗣（國學院大學大学院兼任講師・客員研究員）、菊池健策（都留文科大学非常勤講師・客員研究員）

【主な成果】

民俗芸能・風俗慣習・民俗技術の伝承実態・伝承組織について現地調査と資料収集を行った。特に27年度は、これまで重点を置いてきた被災した民俗文化財の調査・記録に加え、「無形文化遺産の防災」の観点から現状調査や情報収集、関係者間のネットワーク形成を図った。

また、無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議した。27年度は、災害を始めとする文化継承の危機にあたって、外部の力をいかに継承の力に変えていくかというテーマを取り上げ、関係者間の協議やネットワーク形成を図った。その成果は報告書にまとめ、関係者及び関係機関等に配布した。さらに、無形文化遺産情報ネットワーク協議会も開催し、震災後5年間の活動の課題の整理と今後の展望について関係者間での情報共有を行った。

【年度実績概要】

(1)無形民俗文化財に関する調査・資料収集

民俗芸能の調査として咲前神社太々神楽等について、民俗技術の調査として箕の製作技術や鵜飼漁の技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状を把握するとともに現地関係者とのネットワークを構築した。また継続テーマである「削りかけ」状祭具に関わる技術と風俗慣習の研究として、石川県や青森県において調査を行った。

(2)被災地域の無形文化遺産に関する調査・記録とアーカイブの構築

民俗芸能、風俗慣習の調査として東日本大震災被災地である浪江町の苅宿鹿舞、宮城県女川町の祭礼及び獅子舞等に関して調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また国立研究開発法人 防災科学技術研究所と無形文化遺産アーカイブスの開発を行い、28年3月には、全国版に先駆けて「311復興支援 無形文化遺産アーカイブス」を公開した。収容する映像・画像資料等についても随時収集や寄贈受け入れ等を行い、整備を進めた。

(3)研究集会の開催

第10回無形民俗文化財研究協議会を27年12月4日「ひらかれる無形文化遺産―魅力の発信と外からの力」をテーマに東京文化財研究所において開催し、154名の参加を得た。4件の事例報告（松井今日子・五十嵐千江・柳沢拓哉・狩俣恵一）をもとにコメンテーター2名(菊池健策・小岩秀太郎)を含めた総合討議を行った。成果は『第10回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。

また28年3月には第4回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を東京文化財研究所において開催。東北被災地域における無形文化遺産の復興支援に関わる様々な分野の関係者が参加し、課題の整理と今後の展望について協議した。

【実績値】

学会等発表　3件（①～③）
論文等発表　3件（④～⑥）

【備考】

発表件数

① 久保田裕道「神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽」鷺宮咲前神社太々神楽奉納二百年記念式典　27年10月24日
② 今石みぎわ「生きた文化財を継承する―無形文化遺産と被災・復興」東北大学東京分室会議室　27年10月25日
③ 今石みぎわ「小正月を彩るツクリモノの世界」第6回 儀礼文化講座　27年12月13日

論文

④ 久保田裕道「神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽」他『鷺宮咲前神社と太々神楽二百年記念誌』27年10月24日 鷺宮咲前神社太々神楽二百年記念事業実行委員会
⑤ 久保田裕道「3.11以降の東北民俗芸能の状況と再評価」『岩手県民俗芸能北京公演プログラム』国際交流基金27年10月17日
⑥ 久保田裕道「無形文化遺産としての儀礼文化」『儀礼文化学会紀要』第2号　儀礼文化学会　28年3月31日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4142
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
評定	S	A	A	A		

判定理由

適時性：継承の危機にある無形民俗文化財の調査研究、記録作成は極めて必要性、緊急性が高い。特に東日本大震災以降は、無形文化遺産が持つ地域コミュニティの紐帯としての機能が再認識されたことにより、被災地域に限らず、その活用に対する助言・提言が求められている。それに対して、文化財の記録保存に留まらない活用の在り方を模索し、提示したことは、社会的ニーズに合致したものとして高く評価できる。また、無形文化遺産アーカイブを開発・公開したことは、貴重な記録の保全・拡充・活用に資するのみならず、震災復興・文化財防災に貢献できる点において、適時性に照らしても極めて高く評価できる。

独創性・発展性・継続性：
国内唯一の無形民俗文化財の研究部として全国の関係者を集めて専門的観点から協議会を開催し、関係者のネットワーク構築を促進させていることは、無形民俗文化財の保護体制の整備・強化の観点から見て、その独創性を十分に評価できる。さらに、無形文化遺産情報ネットワークを通じ、無形文化遺産の防災についての議論を深めたことは、独創性、発展性において十分に評価できる。

２．定量的評価

観点	学会等発表	論文等発表				
評定	A	A				

判定理由
学会等発表・論文等発表：発表件数、論文等掲載数ともに高く評価できる。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	五年間を通じて継続してきた被災地域における無形民俗文化財の調査・研究の成果は、過疎高齢化や少子化により継承が困難になっている全国の無形民俗文化財の保護に際しても活用できるものであり、社会的ニーズの高い課題に取り組むことができるなど、当初の計画以上の成果をあげることが出来た。さらに27年度は無形文化遺産の防災という新たな観点を取り入れることにより、より広い課題の共有と議論の深化を図ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画通り実施しており、当該年度計画を達成したため順調と判定した。最終年度にあたり、中期計画の趣旨に沿って報告書を刊行した。重点的に行ってきた東日本大震災の被災地域における無形民俗文化財の調査・研究の成果を取りまとめることにより、全国の継承が困難な無形民俗文化財の保護や無形文化遺産の防災に対する提言となった。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4143
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集（(1)－④－３）

【事業概要】無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　飯島　満

【スタッフ】高桑いづみ（無形文化財研究室長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（主任研究員）、菊池理予（研究員）、今石みぎわ（研究員）、二神葉子（企画情報部情報システム研究室長）

【主な成果】

韓国国立無形遺産院との交流事業において、23 年度に調印した合意書（当時の韓国側の組織名は韓国国立文化財研究所）に基づき、研究員の受け入れを内容とする研究交流を計画通り実施した。また関係する国際会議・シンポジウム等へ参加し、海外研究者への助言や調査協力を通して、無形文化遺産分野における国際的情報収集及び情報提供・発信を行った。

またユネスコ無形文化遺産条約をめぐる国際的な動向を把握し、我が国の無形文化遺産の保護に活用するため、ユネスコ無形文化遺産条約第 10 回政府間委員会に参加し、情報収集を行った。

【年度実績概要】

(1)韓国との交流事業では、23 年度に調印した「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流合意書」に基づき、韓国国立無形遺産院から、調査研究記録課の方劭蓮学芸研究士を 27 年 6 月 1 日～22 日の間、無形文化遺産部に迎え、研究交流及び共同調査を実施した。また、27 年度で第 2 期が終了するのを受け、28 年度の成果報告会及び 28 年度以降の事業の継続について話し合いの場を設けた。

(2)またユネスコ無形文化遺産条約第 10 回政府間委員会（開催国ナミビア：27 年 11 月 30 日～12 月 4 日）に参加し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集をおこなった。その成果は『無形文化遺産研究報告』第 10 号において「無形文化遺産の保護に関する第 10 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。さらに、近年のユネスコ無形文化遺産条約の運用の動向を分析するための研究会「ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる近年の動向」を 28 年 2 月 18 日に東京文化財研究所において開催した。



ナミビア初の無形文化遺産の代表リスト登録が決まり、喜びにわく会場内の様子（ユネスコ無形文化遺産条第10回政府間委員会　於：ナミビア・ウイントフック）

【実績値】
学会等発表　1 件
論文等発表　1 件

【備考】
二神葉子「ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる近年の動向」28 年 2 月 18 日　東京文化財研究所
二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第 10 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』第 10 号　東京文化財研究所　28 年 3 月 30 日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4143
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
評定	B	B	B			

判定理由
適時性：韓国は現在、無形文化遺産に係る保護政策を国内的にも国際的にも促進しており、その中心機関である韓国国立無形遺産院との研究交流は、同国の状況をリアルタイムで把握することができる絶好の機会である。
発展性・継続性：第２期５年目を迎えた韓国との研究交流事業は、相手方の改組後も滞りなく継続されている。第２期が27年度で終了するのを受け、今後の事業継続について話し合いの場を持つなど、緊密な関係を継続している。またユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会については、毎年スタッフを派遣しており、継続的に情報収集を行っている。

２．定量的評価

観点	学会等発表	論文等発表				
評定	B	B				

判定理由
27年度は主にユネスコ無形文化遺産条約に係る研究会および論文発表を実施したが、当初予定した回数を達成したと考える。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	韓国との交流に関しては、相手方の改組後も、研究員の派遣交流が実施できるなど当初の計画通りであった。国際会議等での情報収集も、効率的に実施することができた。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については継続的に実施しつつ、その情報の分析を進め、その成果の発信・活用に努めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	韓国国立無形遺産院との研究交流は順調であり、国際会議等における情報収集も、当初の計画通りに実施している。ユネスコ無形文化遺産条約政府間委員会における情報収集については継続的に実施し、その成果をこれまで十分に蓄積しており、中期計画の目標を十分達成していると考える。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4151

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）((1)－⑤－ア)

【事業概要】

遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料収集・調査・整理等を行い、遺跡等の保存・整備・活用に関する一体的な研究を推進し、適切な管理・整備等に資する。また、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　内田和伸

【スタッフ】

高橋知奈津（研究員）、前川歩（研究員）、中島義晴（主任研究員）、小野健吉（副所長）

【主な成果】

「デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用」をテーマに「平成 27 年度　遺跡整備・活用研究集会」を開催し、遺跡の活用においてデジタルコンテンツを用いている自治体やコンテンツ制作会社等から情報収集を行うとともに、最先端の研究、代表的な事例に関する発表および総合討議からなる研究集会を開催した。26 年度の成果については、『平成 26 年度遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等の整備・活用の長期的な展開』を刊行・配布するなど、その普及等を行った。また、福岡県や中国の西安・洛陽から担当者を招き、「遺跡整備事例研究会」を行った。

【年度実績概要】

・国内外における遺跡の整備に関する調査研究活動として遺跡整備事例に関する現地調査・情報収集を３回実施した。
　①中国現地調査　内田・中島　唐長安城跡大明宮跡（西安市）・隋唐洛陽城跡（洛陽市）・殷墟跡（南陽市）他
　②韓国慶州調査　内田　月城跡・月精橋跡復元橋・チョクセム遺跡発掘館他（慶州市）
　　上記の調査成果概要を内田が「近年の隣国古都の遺跡整備」として研究所内の研究会で報告。
　③三重県内現地調査　内田・高橋　上野城跡と旧崇広堂（上野市）・宝塚古墳（松阪市）・斎宮跡（明和町）
・27年12月18日（金）に、「デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用」を主題とし、27年度遺跡整備・活用研究集会を平城宮跡資料館講堂において開催した。参加者117人（発表者・関係者除外）。
・26 年度の遺跡整備・活用研究集会開催後、の成果について検討を加え、奈良文化財研究所紀要 2015」に報告するとともに、報告書『平成 26 年度遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等の整備・活用の長期的な展開』を編集・刊行した。
・遺跡整備事例研究会を２回開催した。
　①中国西安・洛陽の発掘調査と整備について担当者に報告してもらう研究会を28年3月2・3日に開催した。
　発表内容は「長安城大明宮跡の発掘調査成果」「長安城大明宮跡の整備」「洛陽城跡の発掘調査成果」「洛陽城跡の整備」であった。
　②福岡県内の最新の遺跡整備の現状について福岡県の担当者に報告してもらう研究会を 27 年 12 月 17 日に開催した。
　発表内容は「福岡県内の遺跡整備の現状について」であった。



研究集会でのデモの様子

【実績値】

1. 研究集会開催数　3 回　備考①
2. 刊行図書数　1 件　備考②
3. 論文等数　7 件　備考③

【備考】

①研究集会
　遺跡整備・活用研究集会「デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用」　27.12.18(参加者数： 117 名)
　遺跡整備事例研究会「福岡県内の遺跡整備状況」27.12.17(参加者数：4 名)
　遺跡整備事例研究会「西安・洛陽の発掘調査と整備」28.3.2・3(参加者数：15 名)
②刊行図書
　『史跡等の整備・活用の長期的な展開』平成 26 年度遺跡整備・活用研究集会報告書報告書　27.12
③論文等
　内田和伸「平城宮跡の保存および活用」『慶州月城と世界文化遺産の調査と研究』韓国国立慶州文化財研究所 27.11
　内田和伸「史跡名勝天然記念物の保護の仕組み」『全史協 50 年のあゆみ』全国史跡整備市町村協議会 27.10
　内田和伸「平城宮東院庭園での活用プログラム「庭の宴」」『遺跡学研究』第 12 号日本遺跡学会 27.11
　内田和伸「大明宮・洛陽宮跡の遺跡整備現況調査」『奈文研ニュース』奈良文化財研究所 27.12
　中島義晴「史跡等の整備・活用の長期的な展開」『奈良文化財研究所紀要 2015』奈良文化財研究所 27. 6
　中島義晴「総括 史跡等の整備・活用の長期的な展開について」『平成 26 年度遺跡整備・活用研究集会報告書』奈良文化財研究所 27.12
　高橋知奈津「遺跡におけるデジタルコンテンツの活用」『奈文研ニュース』奈良文化財研究所 28.3

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4151
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	B	B	B

判定理由
適時性：デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用に関する研究集会は、ここ 2･3 年で急速に普及してきているＡＲ（ＣＧを用いた拡張現実）等による遺跡に関する復元景観などの展示技術と課題を扱ったものであり、時宜を得たものと言える。
独創性：デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用に関する研究集会は、これまでに無く独創的なものと言える。
発展性：27 年度の研究集会は、ＡＲ技術は日進月歩で進化しており、導入自治体も増えている。さらに継続して新しい技術やそれを用いた遺跡の管理手法等に関して情報の収集・発信を続ける必要性がある。
効率性：研究集会の開催、報告書の刊行等をスケジュール通りに進めることができ、事業を効率的に実施できた。
継続性：遺跡の保存・活用に関する基礎的・応用的な検討を基礎としながら、研究集会の開催等を通じ、遺跡整備について継続的に検討を進めている。
正確性：研究集会での配付資料および昨年度の研究集会報告書の作成にあたり、必要な調査・検討を行い、正確な情報が提供できた。

２．定量的評価

観点	研究集会開催回数	刊行図書数	論文等数			
評定	A	B	A			

判定理由
研究集会開催回数：回数での目標はなかったが、必要に応じて研究集会を 3 回開催できた。
刊行図書数：計画通り、1 冊刊行できた。
論文等数：目標以上の十分な成果が認められる。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の計画通り堅調に事業を実施した。特に、ＡＲ技術など近年急速に普及しはじめている、デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用に関する研究集会については、事前に全国の自治体にアンケート調査を行い、先行事例やシステム開発中の事例を把握した上で研究集会を開催した。参加者に議題となる技術内容を実感してもらえるようにタブレット端末や最新のヘッドマウントディスプレイなどを使った体験デモも行った。これらの工夫により研究会ではシステム普及の現状や最新技術の情報、課題等を容易に共有することができた。研究会後も資料や情報提供に関する依頼も多く、これからシステム開発しようとしている自治体も多数あり、極めて時宜を得た研究会であったと評価できる。日進月歩の技術であるため、数年後にも同様の研究集会が必要と考えられる。また、過年度研究集会の報告書を刊行し、遺跡の整備に関する論文等も多数発表して、調査・研究の成果は顕著であった。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画においては、「国際的動向の観点」からも遺跡の活用に関する調査研究を行うことになっているが、特に 27 年度は、平城宮跡等とも関係の深い、中国の長安・洛陽の宮殿跡、韓国の慶州の宮殿跡について現地調査を行うとともに、中国側担当者の招聘により現地の詳しい情報の収集・共有ができ、近年その数を増している中国の国家考古遺跡公園は文化庁認定の日本遺産と同様に称号であること等がわかった。今後も引き続き情報収集をおこない、国際的動向を意識しながらも国内の遺跡の保存活用を「地域振興」へも寄与できるようにするための研究が必要である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4152
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査および研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）((1)－⑤－イ)

【事業概要】
庭園史に関する文献調査等の基礎的資料の収集・研究を進め、成果を公表する。また現存庭園に関する国内外での現地調査を行い、その保護に資する研究をおこなう。併せて、文化財庭園に関わる所蔵資料の整理・研究を進める。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　内田和伸

【スタッフ】
中島義晴（文化遺産部主任研究員）、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員）、小野健吉（副所長）、エドワーズ・ウォルター（中国科学院心理学研究所、客員研究員）、マレス・E・ベルナール（総合地球環境学研究所、客員研究員）

【主な成果】
23 年度から 26 年度に実施してきた「庭園の歴史に関する研究会」のまとめとして、研究論集『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』を出版した。本論集は、中世庭園に関して総合的かつ学際的な研究対象として扱ったもので、中世庭園史研究の進展に大いに寄与する内容とすることができた。
また、奈良市における庭園の悉皆的調査では、民家・寺院の庭園の現地調査を行い、奈良市内に現存する庭園の現状・意匠的特徴等を把握することができた。

【年度実績概要】
・学報『鎌倉・室町時代庭園の研究』の刊行
23 年度から 26 年度までに、当研究室では中世庭園の研究をテーマに、「庭園の歴史に関する研究会」を実施してきた。本研究会は、所内外の庭園史・建築史・文献史・絵画史等の研究者とともに、分野横断的に庭園について議論を行うことを目的としたもので、年度ごとに「鎌倉時代の庭園」「禅宗寺院の庭園」「室町時代の将軍の庭園」「戦国時代の城館の庭園」をテーマに研究報告及び討議をおこなってきた。27 年度は、これらの研究会の成果のまとめとして、研究会参加者 14 名に論文執筆を依頼し、とりまとめたものである。また巻末には中世庭園に関する資料を付した。中世庭園について、総合的・学際的な視点から編集された論文集は、これまでに無いもので、中世庭園史研究の進展に資する成果をあげることができた。

・連携研究：奈良市における庭園の悉皆的調査
奈良市と連携研究協定を結び、奈良市における庭園の悉皆的調査に取り組み、民家庭園 12 件、寺院庭園 10 件について、現地調査を終了した。また、報告書作成に向けて、周辺資料の収集、調査成果のとりまとめを開始した。

・発掘庭園データベース更新に向けた事例収集を実施した。

・森蘊・村岡正・牛川喜幸の庭園等関係研究資料について、国内外の庭園・遺跡を撮影したスライドを分類し、注記整理を進めた。また資料目録のデジタル化を進めた。


奈良市における庭園調査の様子（N 家住宅庭園）

【実績値】
報告書等刊行件数：2 件（①～②）
論文等数：４件（④⑤⑥）

【備考】
刊行図書
① 学報第 96 冊　研究論集『鎌倉・室町時代の庭園の研究』奈良文化財研究所 2016.3
② 小野健吉『日本庭園の歴史と文化』吉川弘文館 2015.9.29
論文等
③ 高橋知奈津「戦国時代の城館の庭園」『奈良文化財研究所紀要 2015』奈良文化財研究所 2015.6
④ 小野健吉「中世庭園史の概観と研究の現状」『鎌倉・室町時代庭園の研究』奈良文化財研究所 2016.3
⑤ 中島義晴「中世日本における境致の概念および庭園との関連」『鎌倉・室町時代庭園の研究』奈良文化財研究所 2016.3
内田和伸「平城宮東院庭園での活用プログラム「庭の宴」」『遺跡学研究』第 12 号日本遺跡学会 2015.11

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4152
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由

適時性：学報『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』をとりまとめ、近年発掘調査によって新たな検出が相次ぎ、研究の進展が期待される中世の庭園について、論文集として刊行することができた。

独創性：学報『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』は、庭園史学のみならず、建築史学、美術史学、文献史学、考古学の多分野の研究者とともに取り組んで成果をまとめ、これまでにない学際性の高い論集とすることができた。

発展性：学報『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』の刊行は、従来研究の進んでいない中世の庭園に関する総合的な論集で、中世庭園史の研究の進展に大いに資するものである。これらの研究の進展により、埋蔵文化財発掘調査に基づく考古学的研究の発展も期待できる。

効率性：報告書の刊行時期を踏まえ、庭園の現地調査等の日程を計画的に調整し、年度内での報告書の刊行を含め、スケジュール通りに進めることができたので、事業を効率的に実施できたと評価できる。

継続性：今期中期計画で継続的に取り組んでいる中世の庭園の歴史に関する研究について、最終年度に学報を刊行することができた。また、資料収集やデータの改訂に向けた作業等、前年度から行ってきた事業を着実に進めることができた。

正確性：発掘庭園に関する正確な情報提供のため、新たな事例収集・更新内容の検討を実施することができた。

２．定量的評価

観点	報告書等刊行件数	論文等数				
評定	B	B				

判定理由

報告書等刊行件数：計画通り、報告書を１冊刊行した。

論文等数：上記、刊行物にスタッフの2本の論文を掲載することができたことをはじめ、十分な成果が認められる。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初の計画通り事業を実施した。特に、中期計画の最終年度として、これまで継続的に取り組んできた「庭園の歴史に関する研究会」の成果として、学報『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』を刊行できたことは、中世庭園史及び考古学的研究の発展に大いに寄与するもので、意義があった。また、現存する庭園の調査や、庭園に関する基礎的資料の収集・整理も着実に進めることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中世の庭園史に関する文献調査、庭園の現地調査、庭園に関する基礎的資料の収集・整理について、着実に進め、最終年度として学報『中世庭園の研究－鎌倉・室町時代－』を刊行することができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4153
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	我が国の記念物に関する調査・研究(国際研究交流)((1)－⑤－ウ)

【事業概要】
不動産文化財等に関連する各種研究成果について、米国コロンビア大学との研究交流のもとに成果発表を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	遺跡整備研究室長　内田和伸

【スタッフ】
小野健吉（副所長)、杉山洋（企画調整部長)、中島義晴（文化遺産部景観研究室 主任研究員)、佐藤由似（企画調整部国際遺跡研究室 研究補佐員）

【主な成果】
平成 23 年度から米国・コロンビア大学において奈良文化財研究所職員が行った研究発表について、英文の論文集としてまとめ、刊行した。

【年度実績概要】
・平成 23 年度から米国・コロンビア大学において奈良文化財研究所の９名の職員が行った研究発表について、英文の論文集『Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015』としてまとめ、刊行した。

・収録論文

ONO Kenkichi The Garden of Fujiwara no Toshimori's Estate Depicted in *Kasuga gongen genki e*

SHIMIZU Shigeatsu Authenticity and the Dismantling-and-Repair Method of Architectural Restoration in Japan

ISHIMURA Tomo Memories of a Sacred Landscape: Lost Female Rituals and the Surviving Cultural Landscape in the Amami Islands of Japan

HIRASAWA Tsuyoshi Protection of Cultural Properties in Japan, and the Policy for "Places of Scenic Beauty"

Basic Study on the Preservation of Openly Exhibited Soil

WAKIYA Soichiro Structural Remains: Analysis of Soil Moisture Changes at the Miyahata Site

UNNO Satoshi Maintaining Japan's Important Cultural Buildings: Using Both Larger Diameter and Long Logs in the Conservation and Construction of Japanese Wooden Architecture

KIKUCHI Yoshito *Matsuri* in Japan's Historic Districts: Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities

SEINO Takayuki In Search of Desirable Management of Historic Parks: From Past to Present to Future

HOSHINO Yasuharu A Review of the Application of



27 年度刊行した論文集

【実績値】刊行図書数：1 冊

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4153
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：中期計画の最終年度のとりまとめとして、論文集を刊行することができた。

独創性：不動産文化財に関する研究成果について英語の論文集としてまとめ、刊行した。

発展性：日本における調査研究の成果について、外国においても共通するテーマを扱い英文で表記した。

効率性：コロンビア大学の関係者の来日に合わせて、日本でも打合せを行った。

継続性：平成 23 年からの研究交流を着実に進めた。

正確性：論文は、自ら行っている研究の成果を主題としており正確な情報に基づくものである。

２．定量的評価

観点	刊行図書数					
評定	B					

判定理由
刊行図書数：計画通り、論文集を刊行することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初の計画通り事業を実施し、不動産文化財等に関する研究成果を論文集としてまとめ、奈良文化財研究所で実施している調査研究の成果について情報発信を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	米国･コロンビア大学との研究交流のもとに不動産文化財等に関連する研究成果の発表を昨年度まで行ってきた。27 年度はこれらのとりまとめとして、論文集を刊行することができた。併せて、28 年度以降の研究交流事業の方向性等を確認できた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-1

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査(⑴－⑥－ア)

【事業概要】

古代都城の解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺　晃宏

【スタッフ】

馬場基、神野恵、林正憲(以上、都城発掘調査部主任研究員)、小田裕樹、丹羽崇史(以上、考古第二研究室研究員)、石田由起子、川畑純(以上、考古第三研究室研究員)、桑田訓也（史料研究室研究員)、海野聡（遺構研究室研究員)、大橋正浩（同アソシエイトフェロー)、高妻洋成(埋蔵文化財センター保存・修復科学研究室長)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、同研究員)、小池伸彦(同遺跡・調査技術研究室長)、村田泰輔（同アソシエイトフェロー)、中村一郎(企画調整部写真室主任)、栗山雅夫(同技術職員)、鎌倉綾（同技能補佐員)

【主な成果】

・平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査を実施し、多大な成果を挙げた。
　奈良時代の西一坊大路西側溝、一条南大路北側溝を検出し、その変遷過程を明らかにした。
　奈良時代後半の平城京右京北部域の再開発に関連する一条南大路の大規模改修工事の実態を明らかにした。
　平城京廃都後の土地利用のあり方を明らかにした。

【年度実績概要】

発掘調査面積は 1089 ㎡。調査期間は 27 年 4 月 6 日～6 月 17 日、10 月 19 日～10 月 30 日。

・基本層序

調査区北部では暗褐色粘土の地山上に暗灰色粘質土、灰褐色粘質土、旧耕土・床土と旧庁舎の造成土が堆積する。調査区南部では、褐色粘土または灰色細砂の地山上に灰褐色粘質土、旧耕土・床土、旧庁舎の造成土が堆積する。

・主な検出遺構

奈良時代の遺構として、西一坊大路西側溝と一条南大路北側溝を検出した。西側溝は新旧２時期とこれを迂回させたとみられる溝があり、北側溝は３時期の変遷がある。また平安時代の掘立柱建物群と廃棄土坑を検出し、中世の井戸・落ち込みを検出した。坪内では性格不明の井戸状遺構を検出した。

・主な出土遺物

土器、瓦（緑釉瓦片含む)、木器、金属器、金属製品、石製品、自然遺物等がある。

・調査所見

西一坊大路西側溝および一条南大路北側溝の変遷から、当初掘削された条坊側溝において元来の軟弱地盤であることに起因する溝肩の崩壊が起こり、これらの対策として、迂回溝を伴う大規模な改修・再整備工事がおこなわれていたことが明らかになった。改修の時期は奈良時代後半にあたり、西大寺の造営を始めとする平城京右京北部域の活発な再開発と関連するものとみられ、注目される成果である。

また、平安時代後期の掘立柱建物群は４時期以上の変遷があり、大規模な四面廂建物も存在することから、当該期の富豪層の居宅の可能性もあり、平城京廃都後の土地利用の変遷を解明するうえで重要な手がかりを得た。



調査区全景（南から）

【実績値】

論文等数：1 件（①)

(参考値)

出土遺物：瓦片 74 箱（うち軒丸瓦 9 点、軒平瓦 11 点、緑釉瓦 2 点)、土器片 36 箱、木製品 5 点、金属製品 11 点（鉄釘・鉄滓等)、石製品（砥石）4 点、種子・骨・木炭等

記録作成数：実測図 57 枚（A2 判)、遺構写真 54 枚（4×5)、デジタル写真約 1,000 枚

【備考】

①小田裕樹「平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査　平城第 546 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28 年 6 月（予定）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4161-1
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	A	B	B

判定理由
適時性：大規模工事という機会を捉え広範囲に及ぶ発掘調査を実施し、26 年度の第 530 次調査と併せて大規模な都城遺構を調査して、多くの成果を得ることができた。
独創性：考古学のみならず、文献史・建築史からの分析や、堆積学や木材分析などを含む多様な自然科学的分析など、学際的な検討・調査をおこない、多くの成果を上げることができた。
発展性：明らかになった条坊遺構の変遷過程は、西大寺の造営など奈良時代後半における平城京右京北部域の再開発という歴史的画期に対応するもので、今後周辺域での調査においても留意すべき重要な視点を得ることができた。
効率性：重機の有効活用や調査員・作業員の効果的な配置によって、迅速かつ効率的に調査を遂行できた。
継続性：平城京内の詳細で正確な条坊データの蓄積に寄与することができた。今後の周辺域での調査においても重要な指標となると考える。
正確性：調査員間での十分な意思疎通と、部内・所内検討会を開催することにより、正確な調査を実施することができた。

２．定量的評価

観点	論文等数					
評定	B					

判定理由
論文数：目標値の１件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	・平城京条坊遺構の詳細な情報を取得し、奈良時代史上の歴史的画期である平城京右京北部域の開発との関連性を見いだせる新知見を得た。 ・今後周辺域での調査における重要な視点を提示できた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間において、古代都城の解明に資する、重要で多大な成果を得て、調査成果を積み重ね研究を推進し、所期の目標を達成することができた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4161-2
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査　((1)－⑥－ア)

【事業概要】
古代都城の解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺　晃宏

【スタッフ】
芝康次郎（考古第一研究室研究員)、大谷育恵(同アソシエイトフェロー)小池伸彦(埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長)、村田泰輔（同アソシエイトフェロー)、中村一郎(企画調整部写真室主任)、鎌倉綾（同研究補佐員）

【主な成果】
・第一次大極殿院内庭部の発掘調査を行い、重要な知見を得た
調査は第一次大極殿の正面（東区）と内庭部西より（西区）で行った。
東区では奈良時代前半の幢旗遺構の有無の確認を目的とし、調査区内にはその痕跡がないことを確認した。
西区では第一次大極殿内庭部の東西に存在するとされる井戸の有無および時期の確認を目的とした。調査の結果、奈良時代前半の大土坑を検出し、遺構の正確は未確定ながら一時的な構造物であることを明らかにした。

【年度実績概要】
発掘調査面積は 328 ㎡。調査期間は 27 年 7 月 1 日～10 月 2 日。
・基本層序
東区、西区とも現地表面（H=73.0～3m）下には厚い整備盛土があり、その下位に旧表土、水田耕作土、床土、礫混じり褐色土（上層礫敷、下層礫敷)、橙色粘質土、暗褐土などの造成土、明黄褐色ないし黄褐色粘土（地山）とつづく。東区では、礫敷下位の造成土が 10～20 ㎝であるのに対して、西区では、その西端で約 60 ㎝となり、第一次大極殿の中軸から外側に向かって厚い。上層礫敷面の標高は、東区北端で 70.4m、南端で 70.2m、西区北端で 70.1m、南端で 69.7mであり、東西方向は概ねフラットだが、南北方向は北から南に向かって緩やかに標高を下げる。
・主な検出遺構
東区　柱穴２基を確認した。柱穴は奈良時代後半のもので、掘方は一辺 0.8～1.0mの方形で深さ 40 ㎝。両者は規模や埋土から別の建物遺構に由来すると考えられる。
西区　奈良時代前半の大土坑１基、奈良時代後半以降の東西溝１条を検出した。大土坑は一辺 2.7m四方の正方形で、深さ約２m。東西溝は幅 1.1～1.3m、深さ約 20 ㎝の素掘溝。
・主な出土遺物
西区の大土坑では、底に堆積する埋土から、木簡（おもに削片）を含む木製品（燃えさし・檜皮）が出土した。


西区大土坑検出状況（南西から）

・調査所見
東区　検出遺構は上層礫敷を切りこむ柱穴２基であり、下層礫敷を切り込む奈良時代前半の遺構は確認できなかった。したがって、少なくともこの調査区付近には東西一列に並ぶタイプの幢旗遺構は存在しないと考えられる。
西区　上層礫敷面の遺構は東西溝１条である。東西溝はその位置関係および埋土の出土遺物から平安時代初頭に位置付けられる。上層礫敷下位から検出した大土坑は、井戸枠が存在せず、抜取穴も確認できないことから、井戸と断定することはできない。ただし、東方の SE7145 とは第一次大極殿院の中軸を挟んで対称の位置に存在することや、規模や埋土の類似から、両者は関連をもつ一時的な構造物であった可能性が高い。

【実績値】
論文等数：1 件（①）

(参考値)
出土遺物：瓦片３箱（うち軒丸瓦１点)、土器片２箱、木製品３箱（燃えさし・削片等)、木簡 83 点
記録作成数：実測図 16 枚（A2 判)、遺構写真 22 枚（4×5)、デジタル写真約 340 枚

【備考】
①芝康次郎「平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査　平城第 551 次」『奈良文化財研究所紀要　2016』28 年 6 月（予定）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4161-2
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：第一次大極殿院整備にも資する重要な所見を、整備計画策定に先立つ時期に得ることが出来た。
独創性：積み重ねられた既往の調査成果を精緻に分析して課題を明確に絞り込み、さらに正確な測量によって課題解決に向けた調査計画を策定して調査に望むことができた。
発展性：第一次大極殿院の成立過程に関する新たな見通しを得て、既存の研究成果の再整理への影響も含めて、今後の研究への指針となる成果をえることができた。
効率性：当該地区を利用する各種イベントとの競合を回避しつつ、効率よく調査を行うことができた。
継続性：第一次大極殿院地区の学術的解明作業を、従来の成果の上に積み上げ、新たな知見を得ることが出来た。
正確性：遺構の検出面の詳細な検討を意識した調査の運営などによって、正確な遺構の把握を行うことができた。

２．定量的評価

観点	論文等数					
評定	B					

判定理由
論文数：目標値の１件を達成した

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・学術的にも、また遺跡整備の観点からも重要かつ正確な成果を得ることができた。 ・イベント開催とも調整を行い、遺跡の活用という観点からも適切な対応が出来た。 ・論文数は目標値を達成した。 今回の成果を踏まえ、次年度以降も平城宮・京の解明に向けて研究や調査を計画したい。 なお、平城宮内では各種イベントが盛んに行われるようになっており、これらのスケジュール等との調整をより一層綿密にする必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・計画通り調査が進み、成果を確実に挙げている。 以上より、中期計画の所期の目標を達成している。 28 年度以降もこうした成果を踏まえ、また継続的に調査研究を進めていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-3
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	東大寺東塔院跡の発掘調査((1)－⑥－ア)		
【事業概要】古代都城の解明のため、平城宮・京跡、藤原宮・京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を実施する。			
【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺　晃宏

【スタッフ】
箱崎和久・山本祥隆・石田由紀子・浦蓉子・大谷育恵・小田裕樹・芝康次郎・丹羽崇史・神野恵・鈴木智大・大橋正浩（以上、都城発掘調査部)、中村一郎・栗山雅夫・飯田ゆりあ・高田祐一（以上、企画調整部)、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター)、南部裕樹（東大寺)、廣岡孝信（奈良県立橿原考古学研究所)、

【主な成果】
・東大寺東塔院跡の発掘調査を行い多大な成果を挙げた。
鎌倉時代再建時の塔基壇や、基壇下裾部の石敷き舗装などを確認した。それにより、塔基壇が奈良時代創建時より一回り大きく造り替えられていたことが判明し、また塔本体の柱配置などに関する情報を得た。
奈良時代創建時の塔基壇の一部が鎌倉時代再建時の塔基壇の中に良好な状態で遺存していることを確認した。
鎌倉時代再建時の回廊の位置をほぼ特定した。

【年度実績概要】
発掘調査面積は 720 ㎡。調査期間は 27 年 7 月 21 日～12 月 15 日。
・基本層序塔及び回廊の基壇上は、表土及び近世以降の堆積層（平均約 20cm）の直下に基壇土が確認される。塔基壇土は主に鎌倉時代再建時の盛土で、基壇縁辺近くでは奈良時代創建時の盛土も遺存する。回廊基壇には地山削り出しの部分も存する。基壇下裾部は、表土下に瓦片を多量に含む近現代の土壌が厚く堆積し、それと地山との間に鎌倉時代または奈良時代の整地土が遺存する。
・主な検出遺構
鎌倉時代：塔基壇の縁辺部で凝灰岩製の基壇外装（延石など）を、基壇下裾部で石敷き舗装を検出した。基壇上面では近代に礎石を撤去した際の抜取穴 9 基を確認した。基壇北面階段の北側では回廊北門に向かう参道の縁石を検出し、また東面回廊の東西両雨落ち溝及び南面回廊の北雨落ち溝を確認した。
奈良時代：部分的に、凝灰岩製の塔基壇外装（延石・地覆石・束石・羽目石）を検出した。


鎌倉時代再建時の塔基壇検出状況（北東から）

・主な出土遺物
奈良時代から鎌倉時代にかけての軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鬼瓦・磚、鉄製品（釘・鎹など)、青銅製品（風鐸破片）
・調査所見
東塔について、鎌倉時代再建時の基壇規模（平面約 27m四方、高さ 1.7m以上）が判明するとともに、塔本体の柱配置を復元するための重要なデータを得た。現在のところ、再建塔は中央間 20 尺、両脇間 18 尺の３間四方と想定される。また、奈良時代創建時の基壇外装も一部遺存していることを確認し、そこから基壇平面規模（約 24m四方）を推定しえた。これにより、鎌倉時代の再建時に基壇が一回り大きく造り替えられていたことが明らかになった。
回廊について、特に東面・南面において雨落ち溝などを検出し、その位置をほぼ特定した。これにより、東塔院域が調査前の想定より広大であったことが明らかになった。
塔基壇下裾部の石敷き舗装や塔基壇北面階段と回廊北門をつなぐ参道の縁石などの遺構も、良好な状態で検出された。これらは、東塔院の全体像を解明するための貴重な資料となる。

【実績値】
論文等数：1 件（①）
報道発表等件数：2 件
現地説明会数：　1 件
(参考値)
出土遺物：瓦片 4000 箱、土器片 5 箱、鉄製品 2 箱、青銅製品 1 箱
記録作成数：実測図 117 枚（A2 判)、デジタル写真約 1,800 枚

【備考】
①山本祥隆ほか「東大寺東塔院跡の発掘調査　平城第 550 次（東大寺第 164 次)」『奈良文化財研究所紀要　2016』28 年 6 月（予定）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4161-3
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	S	B	B	A

判定理由
適時性：東大寺東塔院という重要な遺跡につき、東大寺の整備計画および要請に合わせつつ、発掘調査を実施することができた。
独創性：事前のレーダー探査の成果を元に発掘調査計画を立案した。また、従来からの建築史的研究の積み重ねを十分に踏まえて課題設定を行いながら調査を進める等、奈文研ならではの総合的で多様な調査を進めることができた。
発展性：鎌倉再建の東塔院について重要な知見を得ることが出来たと共に、計画的かつ抑制的な部分調査によって奈良時代創建時の様相を知るための重要な知見をもえることができ、今後の調査を進める上での重要な情報が積み重ねられた。また、東大寺・橿原考古学研究所との共同調査を円滑に進められたことも、大きな成果である。
効率性：調査人員を効率的に配置することで、限られた期間内で大きな成果をあげることができた。
継続性：当研究所では、寺院基壇建物に関する豊富な調査経験の蓄積をしてきている。これを研究所内で共有しつつ、調査に反映することで、大きな成果を挙げることができた。
正確性：考古学・文献史学・建築史学等の観点に、さらに自然科学的知見からの分析も踏まえた調査によって、正確な調査を行うことができた。

２．定量的評価

観点	論文等数	記者発表等件数	現地説明会数			
評定	B	B	B			

判定理由
論　文　数：目標値の１件を達成した
記者発表等件数：目標値の２件を達成した
現地説明会数：目標値の１件を達成した

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	・東大寺東塔は、明治時代以来の研究により、様相がほぼ明らかにされていると考えられてきており、主としてその追認作業や詳細の確認になると想定されていた。しかしながら、今回の調査により、従来全く想定されていなかった事実を明らかにすることができた。 　具体的には、①鎌倉時代再建の東大寺東塔の規模を確定した。また、②鎌倉時代基壇が奈良時代の基壇を完全に覆い込んで再構築している様相を明らかにした。この2点は、従来全く想定されていなかったものである。 ・周辺の舗装などの具体的様相も明らかにすることができた。また、奈良時代の規模についても、一定の見通しを得ることができ、調査計画策定に重要な情報を得ることが出来た。 ・東大寺東塔院回廊について知見を深め、レーダー探査では確定し得ない情報を得ることができた。 ・東大寺・橿原考古学研究所との共同調査を円滑に行うことができた。 ・論文数・記者発表数・現地説明会数など、数値目標を達成することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	明治以来の研究を大きく覆すような、当初の見込みをはるかに越える大きな成果を上げている。そして、従来からの調査研究の蓄積による複雑な遺構の状況の詳細な理解、状況の変化に応じた臨機応変で適切な調査方法の選択、レーダー探査の活用、学際的研究の総括など、奈文研ならではの取り組みによって成果を上げることが出来ている。さらに、他機関との円滑な共同調査も進めることができている。これらにより、著しい成果を挙げている。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-4

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行(⑴－⑥－ア)

【事業概要】

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財造物に関する基礎的調査研究を実施する。本プロジェクトでは古代都城の解明のため、古代官衙・集落遺跡に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　　渡辺　晃宏

【スタッフ】

玉田芳英（都城発掘調査部部長)、馬場基、青木敬、(以上、都城発掘調査部主任研究員)、小田裕樹、大澤正吾(以上、考古第二研究室研究員)、清野陽一（考古第三研究室研究員）海野聡(遺構研究室研究員)、小池伸彦(埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長)

【主な成果】

(1)第 19 回古代官衙・集落研究集会「宮都・官衙・集落と土器(官衙・集落と土器 2)」を開催。
　各地域における在地集落の土器様相を踏まえた上で宮都・官衙遺跡に特有の土器様相について検討を行った。
　各地域の分析結果に即して、それぞれの地域における特徴的な土器様相が生まれる背景について議論した。
　土器の観察視点や整理・調査の方法についての議論を行い、今後の調査・研究における課題を共有した。
(2)『第 18 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』(奈良文化財研究所研究報告 15) (①)の刊行
　昨年度開催した第 18 回研究集会の報告書を刊行し、研究成果の公開を行った。

【年度実績概要】

(1)研究集会(27 年 12 月 11～12 日、於：平城宮跡資料館講堂)の開催

研究報告は、松本太郎「東国の官衙・集落と土器様相」、長直信「豊前・豊後の官衙・集落と土器様相」、春日真実「越後の官衙・集落と土器様相」、村田晃一「陸奥国北辺における城柵の造営と集落・土器」、小田裕樹「飛鳥・藤原・平城地域とその周辺の土器様相」、市川創「難波地域とその周辺の土器様相」、筒井崇史「京都府南部における土器様相」の計 7 本。

報告後、会場からの質問や意見を交えつつ、報告者を中心に討論を行った。

研究集会開催に際しては、報告資料集（②）を編集・刊行し、参加者等に配布した。



研究集会の討論の様子

(2)『第 18 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』(①)の刊行

26 年度開催した第 18 回古代官衙・集落研究集会の成果報告書として、『第 18 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』(奈良文化財研究所研究報告 15) (①)を刊行した。

【実績値】

公刊図書数：2 件(①②)
論　文　数：2 本(①②)

(参考値)

研究集会参加者 149 名
アンケート回答 135 名(回収率 90.6%)
アンケート結果　大変有意義であった 84 名、有意義であった 48 名、普通 3 名、あまり有意義でなかった 0 名、有意義でなかった 0 名
報告書(①)　総頁数：192 頁　所収：論文 7 本、討論

【備考】

①『第 18 回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』(奈良文化財研究所研究報告 15) 2015 年 12 月
②『第 19 回古代官衙・集落研究集会　宮都・官衙・集落と土器(官衙・集落と土器 2)研究報告資料』2015 年 12 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4161-4
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	B	B

判定理由
適時性：古代官衙・集落遺跡の調査・研究推進上における重要かつ適切な課題を設定し、第19回研究集会を開催した。26年度開催した第18回研究集会の成果を、遅滞なく研究報告書として刊行し、広く公開した。
独創性：官衙に特徴的に見られる土器の出土状況を、地域毎に抽出する作業を通じて、官衙の特性や地域の特徴、さらにはそれらの事象の歴史的意義づけを論じることができた。
発展性：土器は、遺跡の性格にかかわらず普遍的に出土する遺物であるため、さらに多くの地域・遺跡での分析を通じて、より豊かな成果を得ることができ、またその歴史性を描くことが可能になる。こうした見通しと新たな課題を、報告者のみならず参加者も含めて共有することができた。
効率性：地方官衙関係遺跡データベース構築作業との連携により、効率を高めた。また、報告者とメールを利用して綿密な連絡を取ることで、研究集会の質的向上を図った。
継続性：当研究所の事業として、19回目の研究集会を開催した。また26年度と同一テーマを設定し、昨年度抽出された課題を新たな視点から見直すなど、継続的開催によって、多くの研究成果が蓄積された。また研究所内外から積極的な情報提供や研究集会への参加等を得ている。
正確性：研究集会において、各報告者と会場参加者も含めて議論等を行い、特に具体的な遺構・遺物の図面・写真を用いての討論も交えることで、研究成果・問題意識を確認・共有した。

２．定量的評価

観点	公刊図書数	論文数				
評定	B	B				

判定理由
公刊図書数：目標件数2件を達成した
論　文　数：目標件数2件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・適切なテーマ設定の下に研究集会を開催し、地方自治体職員も含め、多くの参加者を得た。報告・討論とも充実しており有意義であった。こうした状況は、参加者アンケートの結果からも確認できる。 ・充実した内容の研究報告書を、目標の期日に刊行し、公開した。 28年度以降も、適切なテーマ設定を行い、研究集会の開催と質の高い報告書刊行を継続的に行うことを目指したい。なお、研究集会は、地方自治体の埋蔵文化財担当職員等も含め、全国的で高度な研究・調査情報交換・共有の場としての役割も果たしている。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・研究集会での報告や討論を通じて、古代国家形成の分析や古代都城研究に資する研究成果を得た。 ・全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員等との調査・研究情報の交換を通じ、本研究所の研究の質的向上に資した。 ・研究報告書の刊行によって研究成果を公表し、国民共有の財産となった。 本研究集会及び報告書は、古代国家形成・古代都城研究に役立ち、また全国の地方自治体の埋蔵文化財担当職員をはじめとした参加者からその継続を望む声も大きい。今後も継続して事業を推進する必要がある。継続的な事業実施のためにも、報告書編集作業の一層の効率化、適切なテーマ設定による質の高い研究集会の開催を進めていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-5

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行（(1)－⑥－ア）

【事業概要】

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財造物に関する基礎的調査研究を実施する。古代都城の解明のため、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　　渡辺　晃宏

【スタッフ】

清野孝之(考古第三研究室長)、今井晃樹・林正憲(以上、都城発掘調査部主任研究員)、石田由紀子・川畑　純・清野陽一（以上、同部考古第三研究室研究員)、中川二美・山本亮(以上、同室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

(1)　第 16 回古代瓦研究会シンポジウム「８世紀の瓦づくりＶ　－ 東大寺式軒瓦の展開－」を開催
(2)　シンポジウムの開催にあたり、発表要旨集を作成した。

【年度実績概要】

(1)研究会シンポジウム（28 年 2 月 6～7 日・於：平城宮跡資料館）の開催
口頭研究報告は２日間で 8 本を実施した。
口頭報告終了後、口頭報告者 8 名により、当該型式を中心とした瓦の文様、技法の共通性、瓦の年代観、各地における当該型式の歴史的意義などについて討論を実施した。

(2)報告書の刊行
シンポジウムの発表要旨集（①）を制作し、配布した。



古代瓦研究会総合討議の様子

【実績値】

公刊図書数：1 件(①)
論　文　数：8 本(②)

(参考値)

研究集会参加者 124 名
アンケート回答 88 名(回収率 71.0%)
シンポジウムの内容について：・東大寺式軒瓦の製作技法についてよく分かった。
今後取り上げてほしいテーマ：国分寺の瓦、道具瓦、瓦窯について。

【備考】

①『８世紀の瓦づくりＶ　－ 東大寺式軒瓦の展開－』第 16 回シンポジウム発表要旨集、28.2
②廣岡孝信「東大寺の東大寺式軒瓦」、石田由紀子「平城宮の東大寺式軒瓦」、清野陽一「頭塔の東大寺式軒瓦」
今井晃樹「西大寺・西隆寺・興福寺の東大寺式軒瓦」、原田憲二郎「新薬師寺・元興寺の東大寺式軒瓦」、
小谷徳彦「近江地域の東大寺式軒瓦」、渡部明夫「讃岐地域の東大寺式軒瓦」、倉澤正幸「信濃地域の東大寺式軒瓦」

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4161-5
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由

適時性：シンポジウムの課題設定は、東大寺東塔の発掘調査終了直後でもあり、注目が集まった。
独創性：奈良時代の大寺院の瓦を総合的に比較検討できる点で、これまでにない成果を上げることができた。
発展性：今後、調査が進む奈良の寺院や各地の出土瓦研究の指針を得ることができた。
効率性：平時は個別に調査研究される資料が、一所に集まり比較検討できたので、相互の類似や相違点をその場で確認検討することができた。
継続性：計画どおり奈良時代後半の重要な瓦についてのシンポジウムを実施した。今後は、この成果をもとに奈良時代末までの瓦の調査研究を実施していく。
正確性：予稿集には、各寺院、各遺跡出土の瓦の実測図や拓本、細部の写真などを豊富に掲載しており、今後の研究に資する正確で詳細なデータを提供した。

２．定量的評価

観点	公刊図書数	論文数				
評定	B	B				

判定理由
公刊図書数：目標件数1件を達成した
論　文　数：目標件数8件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・シンポジウムでは、適切な課題設定のもと、高度で有意義な議論を展開することができた。 ・研究者・資料が一堂に会しての議論により、成果や問題点の共有ができた他、予稿集も資料集として有意義なものを編集することができた。 以上、定性的・定量的評価とも目標を達成している。28年度以降も継続的に重要かつ時宜に適した課題を設定し、研究の共有と発展を目指したい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・計画通り着実にシンポジウムを実施することができた。 ・研究会の内容は有意義であり、またその内容の社会発信も計画通り実施することができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-6

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）((1)－⑥－ア)

【事業概要】「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めに至る間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果は広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。藤原宮跡は我が国初の本格的都城を備えた宮殿遺跡であり、官衙地区については研究所発足当初から、中枢部については 11 年度以降、実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 玉田芳英

【スタッフ】

尾野善裕(考古第二研究室長)、西山和宏、廣瀬　覚、森川　実(都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人(考古第一研究室研究員)、大澤正吾(考古第二研究室研究員)、川畑　純、清野陽一(考古第三研究室研究員)、前川　歩(遺構研究室研究員)、大谷育恵(考古第一研究室アソシエイトフェロー)、山本　亮(考古第三研究室アソシエイトフェロー)、福嶋啓人(遺構研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(企画調整部写真室再雇用職員)、栗山雅夫(企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

・藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥・藤原第 186 次）を実施した。
・調査の結果、藤原宮の中枢部において、藤原宮の時代を中心とする前後の時期にわたる遺構変遷を明らかにすることができた。
・発掘調査で得た新知見より、今後の調査計画を明確にすることができた。

【年度実績概要】

・調査地：　藤原宮大極殿院（飛鳥・藤原第 186 次）
・目　的：　藤原宮大極殿院の様相解明。大極殿前面広場の空間利用の解明。
・調査期間：　27 年 4 月 2 日～28 年 2 月 26 日
・調査面積：　1548 ㎡
・調査成果：　藤原宮大極殿の南面において藤原宮造営期の南北大溝（運河）1 条、南北溝 1 条、斜行溝 1 条、藤原宮期の大極殿南面階段痕跡 2 基（中央と東階段）、礫敷広場を確認した。このほか、奈良・平安時代の建物 6 棟、奈良・平安時代の塀 2 条、平安時代の井戸 1 基、奈良時代以降の耕作溝群などを確認し、藤原宮中枢部における飛鳥時代から平安時代までの遺構変遷を明らかにした。

南門部分の運河を埋め、その東側に迂回して付け替えた南北溝から派生する斜行溝は、南門の北側で運河を埋め残した凹みに連結することが判明した。藤原宮の造営過程に新たな知見を加えた。

また、大極殿南面階段痕跡は、藤原宮中枢部の構造を解明し、他の古代の宮殿との比較研究を行ううえで重要な遺構である。

これらの調査成果から、28 年度以降の継続調査につながった。



調査区全景（南から）

【実績値】

発表件数：4 件（論文等 2 件①・④、報道発表 1 件②、現地説明会 1 件③）

（参考値）

出土遺物：軒瓦等 117 点（13 箱）、丸平瓦コンテナ 159 箱、土器・土製品コンテナ 86 箱、木製品・木質遺物コンテナ 42 箱、金属製品 6 点、石器・石製品 1 箱、種実・獣骨・冶金関連遺物等 14 箱
記録作成数：遺構実測図 75 枚、写真〈4×5〉113 枚、デジタル写真 593 枚
現地説明会来場者数：1122 人

【備考】

①清野陽一「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 186 次)」『奈文研ニュース』No.59　27.12
②奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 186 次調査）記者発表資料」27.10. 09
③奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 186 次調査）現地説明会資料」27.10.12
④奈良文化財研究所都城発掘調査部「藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 186 次調査)」『奈良文化財研究所紀要 2016』28.6（予定）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4161-6
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	B	A	B

判定理由

適時性：藤原宮大極殿院の様相を解明するために、必要な場所を選定して適切な調査を行った。近年、平城宮では第一次大極殿院の復原整備にともなう調査研究を継続的に実施しており、大極殿院の復原的研究が大きく進展するなか、その源流となる藤原宮大極殿院の実態解明を行う本調査は、時宜を得たものといえる。

独創性：藤原宮中枢部において、藤原宮造営期から平安時代までの遺構変遷を明らかにした。特に、これまでその詳細が不明であった大極殿南面階段の詳細を明らかにし、予想を大きく上回る貴重な調査成果を得た。

発展性：藤原宮中枢部の空間利用、造営過程の実態解明に関する成果を蓄積し、研究課題への新たな展望を得た。我が国初の本格的古代都城である藤原宮の中枢部の状況を明らかにすることにより、今後の古代都城研究の発展に大きく寄与する成果といえる。

効率性：従前の調査成果などから事前に十分な準備を行うとともに、3D測量・図化など最新の調査手法を取り入れ効果的、効率的な調査を実施した。

継続性：藤原宮の様相解明のための長期的な調査研究の一環として、昨年度より継続して大極殿院の発掘調査を行った。27 年度は特に、これまでに知られていなかった藤原宮の造営過程や大極殿の構造を把握するなど、当初の予想を上回る成果を得た。今後の継続調査にとって重要なデータを蓄積することができた。

正確性：出土遺物・遺構を、その地域性や年代観の特徴・特性を踏まえ、正確かつ的確に記録を作成するとともに、その公表を行った。

２．定量的評価

観点	発表件数					
評定	B					

判定理由

発表件数：当初予定の 4 件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	藤原宮中枢部の発掘調査及び出土遺物･遺構の整理調査を遅滞なく計画通りに実施することができた。特に今回検出した大極殿南面階段痕跡は、藤原宮中枢部の構造を解明するとともに、他の古代の宮殿との比較研究を行ううえで重要な遺構と位置づけられ、当初の予想を大幅に上回る特に大きな成果と言える。また、現地説明会の開催や図書等の刊行を通じて、調査成果の公開も適切に行った。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本調査研究は、中期計画の５年間の各年度における藤原宮の発掘調査やそれに基づく研究成果などにより、発掘調査による古代国家の復元という中期計画の目標を着実に達成した。また、次期中期計画に向け研究の蓄積を加えることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4161-7
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥地域発掘調査（(1)－⑥－ア）

【事業概要】
飛鳥・藤原地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開し、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。奥山廃寺は、我が国の国家成立期の舞台である飛鳥における古代寺院として重要な遺跡であり、その実態解明に向け調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 玉田芳英

【スタッフ】
西山和宏（都城発掘調査部主任研究員）、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）、飯田ゆりあ（企画調整部写真室アソシエイトフェロー）

【主な成果】
奥山廃寺東面回廊推定地で、奥山廃寺に伴うとみられる整地土層を確認し、溝状遺構 1 基を検出した。溝状遺構は東面回廊西端付近で南北方向に検出し、古代の瓦のみを含み奥山廃寺存続時か廃絶後の遺構と考えられる。また溝状遺構を境に整地土の土質が異なることを確認しており、回廊の内外で整地土を使い分けた可能性が考えられる。

【年度実績概要】

調査地：高市郡明日香村奥山 665、666 の一部
調査期間：27 年 12 月 14 日～18 日
調査面積：8 ㎡
調査成果：

- これまで調査データが得られていなかった奥山廃寺東面回廊推定地の西端にあたる位置で、南北方向の溝状遺構を検出した。古代の瓦のみを含むことから、奥山廃寺継続時か廃絶後の遺構であると考えられる。
- 整地土とみられる黄褐色の山土層を確認した。周辺で行われた過去の調査成果から、奥山廃寺に伴う整地土層の可能性がある。
- 溝状遺構を境に、東西で黄褐色山土に土質の差がみられ、東側の推定回廊下の黄褐砂の方がより均質となる。回廊の内外で整地土の質に差をもたせた可能性を想定できる。地山の形状は原地形を反映するとみられ、山土で地山の起伏を整地したものとみられる。
- 奥山廃寺東面回廊に関連すると考えられる遺構をはじめて確認し、奥山廃寺の実態解明に向けた貴重な成果を得ることができた。

出土遺物：瓦、土器



調査区全景（北東から）

【実績値】
発表件数：1 件（論文等）
（参考値）
出土遺物　　丸平瓦３箱、土器１箱
記録作成数　遺構実測図１枚、デジタル写真９枚、デジタルメモ写真 50 枚

【備考】
・山本亮「奥山廃寺の調査−飛鳥藤原第 185-10 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28.6（予定）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4161-7
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：個人住宅の建て替え工事と並行して緊急的に実施し、適切に調査研究データの蓄積を行った。

独創性：我が国の国家成立期の舞台である飛鳥における古代寺院として重要な奥山廃寺において、これまで不明であった東面回廊の実態解明に寄与するデータを得ることができた。

発展性：奥山廃寺東面回廊推定地付近で、初めて寺院に関わると推定される遺構を検出したことにより、東面回廊の存在及び実態について見通しを得た。

効率性：工事と並行し面積及び工程に制約があるなかで、これまでの調査成果を踏まえ事前に十分な準備を行い、効率的に調査成果を得ることができ、また事前の予定通りの期間で調査を終えることができた。

継続性：奥山廃寺における継続的な調査研究の実施により、今後遺跡の全容解明を進めていくうえで参考となるデータを加えることができた。

正確性：遺跡及び遺構の特徴について、逐次スタッフ間で協議しつつ、共通した認識のうちに調査を進行し、正確かつ的確な記録を作成した。

２．定量的評価

観点	発表件数					
評定	B					

判定理由
発表件数：当初目標の1件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	奥山廃寺東面回廊推定地で、寺院に関わると推定される遺構をはじめて確認するなど、飛鳥地域における発掘調査と出土遺物・遺構に関する調査研究を計画通りに実施することができた。また、図書等の刊行を通じ、調査成果の公開を適切に行った。今後の調査研究に有益な資料を得ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27 年度は奥山廃寺東面回廊について貴重な情報を加えたことなど、中期計画の 5 年間における調査研究成果の蓄積により、発掘調査による古代国家の具体像の復元という中期計画の目標を着実に達成することができた。また、次期中期計画に向けた見通しを得ることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4162-1
（様式１）

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等（(1)－⑥－イ）

【事業概要】
国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施し、整理が終了したものより順次公表を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
箱崎和久・神野　恵・青木　敬・今井晃樹・林　正憲・馬場　基・芝　康次郎・丹羽崇史・小田裕樹・石田由紀子・桑田訓也・山本祥隆・鈴木智大・海野　聡・浦　蓉子・大橋正浩(以上、都城発掘調査部)、中村一郎・栗山雅夫・鎌倉綾(以上、企画調整部)、高妻洋成・脇谷草一郎・田村朋美・金田明大(以上、埋蔵文化財センター)

【主な成果】
(1)27 年度の発掘調査出土遺物・検出遺構について、整理・分析及び研究、図面作成・写真撮影等の基礎作業を行った。
(2)26 年度以前の出土遺物・検出遺構に関する継続的な整理・分析研究・調査を行った。
研究を進展させ報告書作成に備えるとともに、出土文化財の保全に万全を期した。また、出土遺物の科学的分析・保存処理を行った。
(3)出版物等により、調査成果の公表を行った。

【年度実績概要】
(1)27 年度の発掘調査による検出遺構・出土遺物の整理と研究
・木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡等の整理・分析及び研究、検出遺構の図面トレース及び遺構の分析・解釈、撮影写真の整理を実施した。
・受託事業として行った平城京内の発掘調査についても、出土遺物や検出遺構の整理・分析研究といった基礎作業の大半は本事業で行っている。
(2)26 年度発掘調査出土遺物の整理と科学的保存処理
・過去の調査出土遺物の洗浄・整理・分析研究等の作業を継続的に実施した。
・過去の調査出土木製品及び木簡、金属製品の保存処理を継続して実施し、適宜遺物の材質等の分析を行った。
・旧大乗院庭園・平城京左京三条一坊及び平城宮東区朝堂院の学報作成に向けて、遺物・遺構の整理・分析・研究・執筆作業を行った。


木簡など多量の遺物を含む土の
洗浄・選別作業風景

(3)調査・研究成果の公表
・平城第 552・559 次調査で記者発表を実施した。また、27 年度の発掘調査の概報を作成した。
・出土木簡を整理作業を進めて釈文を検討し、その速報成果を『平城宮発掘調査出土木簡概報』43・44（①・②）として刊行した。
・特別展『地下の正倉院展』(27 年 10 月 17 日～11 月 29 日・於：平城宮跡資料館)を開催し、図録(③)を刊行するとともに、1 回の記者発表を実施した。

【実績値】
報告書等数：4 件(①～④)

【備考】
①『平城宮発掘調査出土木簡概報』43(27 年 12 月)
②『平城宮発掘調査出土木簡概報』44(27 年 12 月)
③『地下の正倉院展　木簡を科学する』(27 年 10 月)
④「Ⅲ平城宮跡等の調査概要」(『奈良文化財研究紀要 2015』28 年 6 月予定)

【書式Ｂ/研・セ】
（様式２）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4162-1

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	A	B	A	B

判定理由
適時性：27 年度調査での検出遺構・出土遺物の資料的価値を明らかにし、随時発掘調査現場にフィードバックした。また、発掘調査現場の記者発表等の機会を利用した迅速な情報公開の他、『平城宮発掘調査出土木簡概報』を刊行し、文化財に関する普及啓発を促進した。
独創性：自然科学分野との連携により、多様な分析を試みるとともに、文化財保全に万全を期した。重要な土層については剥ぎ取りを行い、記録・保全に十全を尽くした。
発展性：新たに検出した遺構や遺物の分析・研究を通して、都城研究をさらに推進するとともに、今後の調査、研究に資する新知見を得、明らかにすべき課題を明確にすることができた。とりわけ、従来想定されていたものの現物は確認できていなかった、役所備え付けの大型歴名簡を確認することができ、『平城宮発掘調査出土木簡概報』に公表したことは大きな意義がある。
効率性：データベース化の促進等を積極的に行い、整理・管理作業を中心にその効率化を促進した。
継続性：従来の平城宮・京跡及び寺院跡の発掘調査で得た膨大な歴史資料についての基礎的な分析と研究成果を踏まえて、27 年度の研究に活用し、かつ新たな課題・視点の発見につなげ、『奈良文化財研究所紀要』において積極的に公開した。
正確性：出土資料を的確に資料化し、これまでの成果に新たな知見を得て、歴史的事実を正確に把握した。

２．定量的評価

観点	報告書等数					
評定	B					

判定理由
報告書等数：目標値 4 件を達成した

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・継続的な学術調査を、正確に、かつ多様な手法を用いて実施することができた。 ・図書の刊行・記者発表などを通じて、調査成果を積極的に公開することができた。 ・27年度の平城宮・京跡及び寺院跡で出土した膨大な考古資料・文字資料を継続的に整理・分析し、その概要を刊行するとともに、従来の調査資料を再度検討し、展覧会や正式な報告書の形でその成果を公表することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・国家の形成過程や当時の生活実態の解明に資する、検出遺構・出土遺物に関する総合的・多角的な調査・研究を実施した。 ・整理が終了した後にその調査成果をまとめ、迅速に公表した。調査成果の正確な公表に向けた基礎的作業を積み重ねた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4162-2
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等((1)－⑥－イ)

【事業概要】27 年度の発掘調査により飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類、木簡などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　玉田芳英

【スタッフ】
尾野善裕（考古第二研究室長)、清野孝之(考古第三研究室長)、西山和宏、森川実、廣瀬覚、降幡順子、山本崇(以上、都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人、和田一之輔（以上、考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、川畑純、清野陽一（以上、考古第三研究室研究員)、大林潤、前川歩（遺構研究室研究員)、大谷育恵（考古第一研究室アソシエイトフェロー)、金宇大（考古第二研究室アソシエイトフェロー)、山本亮(考古第三研究室アソシエイトフェロー)、福嶋啓人(遺構研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫（企画調整部写真室再雇用職員)、栗山雅夫(企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室アソシエイトフェロー)

【主な成果】
・27 年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を実施し、成果の一部を公表した。
・26 年度までの発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの再調査・再整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の再整理・再検討作業を実施し、成果の一部を公表した。

【年度実績概要】
・27 年度の発掘調査による遺物・遺構について
27 年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦磚類などの整理、分析研究、発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業及び、出土遺物の保存と保存処理は調査研究の基礎作業であり、年間を通じての野外での発掘調査と並行して各研究室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2016』等で公表する予定である。
・26 年度までの発掘調査による遺物・遺構について
発掘調査成果を報告書として公刊するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理及び自然科学的分析を継続的に実施した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業を継続的に実施した。
また、飛鳥地域出土の尾張産須恵器の集成を行うなど、過去の飛鳥・藤原京跡出土の遺物・遺構の再整理を実施し、その成果の一部を『奈良文化財研究所紀要 2016』等で論文として公表する予定である。
・成果の公表について
これまで飛鳥・藤原京跡で行った発掘調査および遺物・遺構の調査研究の成果をとりまとめ、『坂田寺出土建築部材調査報告書』『藤原宮出土馬の研究』（ともに 28 年 3 月刊行）の執筆・編集・刊行、『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』（28 年 6 月刊行予定）の執筆、編集を行った。


坂田寺回廊出土巻斗

【実績値】
発表件数：９件（刊行物３件①～③、論文５件④～⑧、研究発表１件⑨）

【備考】
① 奈良文化財研究所編『坂田寺出土建築部材調査報告書』(28 年 3 月)
② 奈良文化財研究所編『藤原宮出土馬の研究』(28 年 3 月)
③降幡順子ほか 4 名「古代鉛釉陶器・施釉瓦の科学分析からみた特徴」日本文化財科学会第 32 回大会（27 年 7 月 11 日)
④降幡順子ほか 2 名「東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の科学的特徴」『2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム発表要旨集』(27 年 8 月)
⑤山本崇「その後の藤原京―藤原宮京の退顛過程」奈良女子大学古代学学術研究センター編集・発行『都城制研究(9) 都城の廃絶とその後』(28 年 3 月)
⑥廣瀬覚「藤原宮大極殿基壇の測量調査－第 186 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』(28 年 6 月予定)
⑦尾野善裕、森川実、大澤正吾「飛鳥地域出土の尾張産須恵器」『奈良文化財研究所紀要 2016』(28 年 6 月予定)
⑧清野孝之「藤原宮出土の藤原宮以前の瓦」『奈良文化財研究所紀要 2016』(28 年 6 月予定)

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4162-2
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	B	A	B

判定理由
適時性：新たに出土した資料を迅速に公開し活用に供した。過去の資料も今日的な観点から再整理、再分析を行い、特に27年度は、藤原京跡右京六条三坊の空間利用や飛鳥地域出土の尾張産須恵器、あるいは藤原宮の造営時に利用された馬の特質について、従来の調査成果を塗り替える極めて重要な結果を得た。
独創性：遺物・遺構の整理・分析方法について、従来までの方法に加え、出土遺物の理化学的分析や遺構の３Ｄ測量等を試みるなど、積極的に新たな整理・分析方法を追究した。
発展性：蓄積された遺物・遺構に関するデータを今後の調査研究に活かすため、資料化を行い、報告書にまとめた。さらに、その成果に基づき新たな視点から検討を加え、今後の調査研究の発展のために極めて重要な成果を得た。
効率性：新出及び蓄積された遺物・遺構に関するデータの調査・再調査を効率的に行った。
継続性：1956年に飛鳥寺、川原寺、飛鳥板蓋宮伝承地において調査を開始し、1973年からは飛鳥藤原宮跡発掘調査部を設置し、継続的に行ってきた遺物・遺構の調査研究に関する、膨大なデータの基礎的分析研究と保存処理を継続的に実施した。
正確性：新出資料や蓄積された資料の正確な資料的性格と価値を把握し、公表した。

２．定量的評価

観点	発表件数					
評定	B					

判定理由
発表件数：過去の調査研究の資料を整理研究し、8 件の論文等を公表することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27年度の出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と並行して遅滞なく計画通りに実施することができた。また、過去の出土遺物・遺構について今日的な観点からあらためて調査研究を行い、藤原京の土地利用状況や、出土建築部材、須恵器、瓦などの出土遺物の年代観、生産と供給の状況等について、これまでとは異なる貴重な研究成果を得た。また、理化学的分析や３Ｄ測量等の新たな手法を積極的に取り入れ、従来とは異なる視点から検討を加え、藤原宮出土馬の産地や飼料について新たな知見を加えた。27年度はこれらの調査成果を報告書や論文等にまとめるなど、調査研究成果の公開も積極的に行うことができた。これらの調査研究成果は当初の予想を大幅に上回るものであるといえる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の５年間において、飛鳥・藤原京跡で出土した遺物・遺構の整理、調査研究、分析、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。発掘調査成果を公開するための調査研究を計画的に行い、報告書にまとめた。これらにより、飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等を行うという計画を達成した。 また、これらの調査研究の蓄積により、次期中期計画に向けた見通しを得ることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4163

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究（(1)－⑥－ウ）

【事業概要】

飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、出土遺物を中心とした資料の調査を実施する。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺等の飛鳥・藤原京跡内寺院の出土部材の研究を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　石橋茂登

【スタッフ】

西田紀子(学芸室研究員)、若杉智宏(学芸室研究員)、降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人(考古第一研究室研究員)、田村朋美（保存修復科学研究室研究員)、小沼美結（アソシエイトフェロー）

【主な成果】

(1)キトラ古墳、高松塚古墳壁画に関する研究を継続した。
(2)飛鳥寺塔心礎出土品を含む飛鳥寺跡発掘調査出土品の再整理と調査を継続した。
(3)於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査を行い、成果を公表した。
(4)向原寺所蔵金銅観音菩薩立像の調査成果を公表した。
(5)長法寺出土の押出三尊仏像・御正体の非破壊調査を実施した。
(6)山田寺跡出土部材の計測調査を継続した。

【年度実績概要】

(1)壁画のうち特にキトラ古墳天文図、高松塚古墳星宿図を主として調査研究を継続し、成果を飛鳥資料館秋期特別展、関連イベントにおいて公表した。
(2)飛鳥寺塔心礎埋納品のうち収蔵庫保管の金属製品を中心にリストを作成し、一部の実測とＸ線ＣＴ画像撮影、箱の入れ替えなどの整理作業を行った。また飛鳥寺塔心礎出土ガラスの蛍光Ｘ線分析を行い、成果を研究図録として公表した。これらの作業は 28 年度も継続する予定である。
(3)於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の蛍光Ｘ線分析を行い、その成果を論文として公表した。
(4)向原寺所蔵金銅観音菩薩立像について 26 年度実施した蛍光Ｘ線分析とＸ線ＣＴ画像撮影の成果を、論文として公表した。
(5)長法寺出土の押出三尊仏像・御正体について蛍光Ｘ線分析とＸ線撮影、３Ｄ計測、写真撮影、レプリカ作成を行った。
(6)重要文化財山田寺跡出土品のうち建築部材について計測調査を継続し、データを収集した。これらは中長期的な変化を知るための基礎データとなるものであるので、28 年度以降も継続する予定である。



(5) ３Ｄ計測の様子

【実績値】

研究図録数１件（①）
論文発表３件（②③④）
山田寺部材計測データ１年分　（２時間ごと１回、年間 4,380 回計測）

【備考】

①飛鳥資料館研究図録第 19 冊『飛鳥寺跡出土遺物の研究　ガラス玉類の考古科学的研究』28.3
②石橋茂登・降幡順子「向原寺所蔵金銅観音菩薩立像の調査」『奈良文化財研究所紀要 2015』 27.6
③石橋茂登・降幡順子・丹羽崇史・井上曉子・林佳美「於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査」『奈良文化財研究所紀要 2015』 27.6
④諫早直人「飛鳥寺塔心礎出土馬具」『奈良文化財研究所紀要 2015』 27.6

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4163
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	B	A	B

判定理由
適時性：(2)飛鳥寺跡発掘調査出土品の再整理と調査は学術的に重要な資料であり、近年韓国などで同時代の類例が発見されている状況のなか、部分的とはいえ公表できた意義は大きい。(5)押出三尊仏像・御正体は当館に寄託されている資料だが、所有者の意向で近々寄託先が変更される可能性があり、機会を逃さずに実施した。(1)キトラ古墳壁画、高松塚古墳壁画における天文図・星宿関連の研究は、秋期特別展と関連イベントの内容に活かすことができた。
独創性：(1)中国式星図の研究はごく限られたものしかない状況であり、キトラ古墳・高松塚古墳の天文図・星宿図について詳細で正確な画像と実物に基づき研究を行った本研究は、これまでにない取り組みである。(3)於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査は、従来美術工芸あるいは考古学的視点から年代推定されていたものを、成分分析によって製作時代を考察した点に独創性がある。(4)金銅仏の内部構造をＸ線ＣＴ画像で調査することはこれまでほとんど行われていなかった調査である。
発展性：(5)押出三尊仏像の調査では、通常は押出仏ならば表面の写真が公表されるところ、裏面側により原型に近い細かな造形が残されていることを見いだした。今後、同様な調査で従来と違う所見を得られる可能性が高い。(6)山田寺跡出土の建築部材の計測は、長期のデータ集積によって、保存処理して再組み立てを実施した有機質遺物の経年変化を知る上で重要な知見を得られると見込まれる。
効率性：実物資料を収蔵している飛鳥資料館が中心となって、他部門の研究員の協力を得ることで、多様な調査研究を滞りなく遂行することができた。
継続性：(2)飛鳥寺跡発掘調査出土品の再整理と調査は 26 年に引き続き実施しており、一部を成果として公表できるようになった。引き続き継続すべき研究である。(3)(4)(5)では長年当館に保管収蔵されてきた資料ながら、本格的な調査研究がなされていなかったものを対象とした研究である。当館にはまだ未調査の資料が多数保管収蔵されており、それらの調査研究を継続することで、新しい成果を得ることができる。
正確性：蛍光Ｘ線分析、Ｘ線ＣＴ画像撮影では当研究所の保存科学分野の研究員が調査することで適正な手法で、正確なデータを得ることができた。また各調査においては実測や計測のほか、写真撮影、Ｘ線画像、３Ｄ計測など複数の方法で記録を作成し、正確な情報の収集に努めた。

２．定量的評価

観点	研究図録数	論文発表	山田寺部材計測データ			
評定	B	B	B			

判定理由
研究図録数：目標値（年１冊以上）を達成できた。
論文発表：研究成果を適切に公表できた。
山田寺部材計測データ：目標値（１年分）を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	飛鳥資料館に保管収蔵されている資料を中心として、さまざまな調査研究を実施している。その成果も順次公表されており、奈良文化財研究所の一部としてふさわしい活動を行っているといえる。また山田寺跡出土建築部材の計測のように短期間では目立った成果とはならないが長期的には重要な成果になると見込まれる基礎的な調査研究も継続している点が評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	さまざまな調査研究を堅実に実施しており、研究図録も予定どおり刊行するなど、活動は全般的に精力的で順調といえる。とくに壁画古墳に関する調査研究は秋期特別展とも関連して研究成果をとりまとめてひろく公表できたことは大きな成果といえる。 今後も当研究所の体制と当館の保管収蔵資料を生かした、総合的な研究が期待される。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4164
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 ((1)－⑥－エ)

【事業概要】(1)中国社会科学院考古研究所との共同発掘調査成果の整理及び次期共同調査の打合せを行う。
(2) 遼西地域東晋十六国期都城文化関連遺跡・遺物の調査と調査研究報告書を公刊する。
(3) 河南省文物考古研究院との共同研究、及び報告書刊行に向けての準備を行う。
(4) 日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究と発掘調査交流を、韓国国立文化財研究所と行う。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山洋

【スタッフ】(1) 渡辺晃宏・今井晃樹（以上、都城発掘調査部)、栗山雅夫（企画調整部）
(2) 玉田芳英・清野孝之・今井晃樹・廣瀬覚・石田由紀子・諫早直人・川畑純・大谷育恵（以上、都城発掘調査部)、小池伸彦（埋蔵文化財センター)、栗山雅夫（企画調整部)、他 4 名（呉炎亮・李新全・李竜彬・李霞）
(3) 玉田芳英・尾野善裕・森川実・丹羽崇史・降幡順子他 6 名（以上、都城発掘調査部)、難波洋三(埋蔵文化財センター)、中国側 5 名(楊文勝・張慧明・趙志文・李一丕・郭洋)
(4) 玉田芳英・渡辺晃宏・清野孝之・箱崎和久・廣瀬覚・青木敬・庄田慎矢・諫早直人・小田裕樹・川畑純・鈴木智大・海野聡（以上、都城調査部)、石橋茂登（企画調整部)、藤井裕之（埋蔵文化財センター)、韓国側 7 名（張恩恵他）

【主な成果】(1)北魏洛陽城出土遺物の整理研究及び同遺跡の発掘成果の報告会を実施した。
(2) 23 年～27 年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術検討会（於遼寧省文物考古研究所）で研究発表を行った。
(3) 報告書刊行に向けての準備を進めるとともに、唐三彩関連資料の調査等を実施した。
(4) 日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。共同研究について成果をまとめた論集を刊行した。

【年度実績概要】
(1) 27 年 6 月に 2 名を洛陽に派遣し、出土遺物の整理を実施した。27 年 12 月に渡辺、今井が中国社会科学院考古研究所に赴き、次期共同調査について打合せをした。1 月に社会科学院考古研究所の銭国祥氏を招聘し、北魏洛陽城の発掘成果の報告会を実施した（①)。
(2) 金嶺寺遺跡出土瓦の調査研究（清野)、大板営子墓地の造営過程の研究（廣瀬)、三燕と倭の金工品の比較研究（諫早)、遼寧省出土指輪の研究（大谷）とそれぞれの研究発表を行った（②)。
・金嶺寺遺跡出土瓦の製作技法、大板営子墓地の時期変遷と親族構造を明らかにした。三燕出土馬具等と倭の馬具等の技法的特色、遼寧省出土貴石象嵌指輪の実態を明らかにした。
(3) 唐三彩関連資料の調査等を行った（③)。
・27 年 12 月に 3 名を派遣し、河南省鄭州市にて「黄冶唐三彩窯」刊行に向けての打ち合わせを行い、唐三彩関連資料を調査した。
・27 年 11 月に河南省から 5 名を招聘した。
(4) 日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究、発掘調査交流を実施した。
・共同研究にかかる研究者派遣 3 名、発掘調査交流に係る研究者派遣 1 名・受入れ 1 名。
・『奈文研ニュース』No.59・60 にて発掘調査交流の内容を公表した。(④)。
・『日韓文化財論集 3』を執筆、編集、刊行した（⑤⑥)。
・国立扶余文化財研究所『東アジア古代寺址比較研究(Ⅱ)－金堂址編－』(国立扶余文化財研究所学術研究叢書第 54 輯）を翻訳し、日本語版を刊行した（⑦)。


韓国、東宮と月池発掘調査風景

【実績値】口頭発表等数：5 件（①、②)
論文等数：23 件（②、③、④、⑤、⑥、⑦）

【備考】①銭国祥「北魏洛陽城太極殿等の発掘調査」28 年 1 月 14 日
②清野孝之「遼寧省北票市金嶺寺遺跡出土瓦の調査」他 3 編（奈良文化財研究所・遼寧省文物考古研究所編『2011 年－2015 年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術検討会』資料集、27 年 11 月)。
③降幡順子・神野恵「奈良三彩技術与化学特征的研究 - 平城宮陶器Ⅱ之奈良 - 」『華夏考古』2015 年第 4 期（27 年 12 月）
④川畑純「日韓発掘交流に参加して」他 1 編（『奈文研ニュース No.60』28 年 3 月）
⑤箱崎和久・鈴木智大・海野聡「日本からみた韓半島の古代寺院金堂」(『日韓文化財論集 3』28 年 3 月）
⑥権宅章「高興野幕古墳から見た 5 世紀の対外交渉」他 12 編（『日韓文化財論集 3』28 年 3 月）
⑦奈良文化財研究所・国立扶余文化財研究所『東アジア古代寺址比較研究（Ⅱ）―金堂址編―』（日本語版）（27 年 12 月）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4164
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性 ： 報告会における発表や、刊行物における研究成果公表等、適切かつ速やかな公表を行った。
独創性 ： 奈文研が蓄積してきた精緻な調査方法を、中国・韓国の遺構や遺物の調査に応用することで成果を挙げている。
発展性 ： 各事業において、遺物の製作技法の分析等の調査研究が進み、また海外研究者との意見交換も進展したことにより、検討会資料や研究論集をまとめることができた。
効率性 ： 成果を公刊できる形まで、資料調査研究を効率的に進めることができた。
継続性 ： 現地調査の成果である実測図や写真データの集積が続けられている。
正確性 ： 現物資料の詳細な観察記録に基づくデータの蓄積が図られており、正確性は担保されている。

２．定量的評価

観点	口頭発表等数	論文等数				
評定	A	A				

判定理由
口頭発表等数 ： 目標値1件を越える5件を達成した。
論文等数 ： 目標値3件を越える23件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・中国・韓国双方の研究機関との連携を継続し、概ね計画通りの資料収集を行って成果を挙げた。 ・中国における報告会での発表や調査成果の公表によって、研究の成果を速やかに公けにした。 ・人的交流の促進により、多くの研究成果を共有しており、今後の共同研究の継続も期待できる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の最終年度にあたり、これまで蓄積してきた資料の調査研究に基づいて、口頭発表や論文執筆により高い水準の研究発表ができ、(1) から (4) のいずれの研究も着実な成果を挙げて、所期の目標を達成している。 中国の研究機関、韓国の研究機関との共同研究が継続的に実施されることが、研究成果の共有と研究水準の向上に寄与するとともに、今後の研究の発展につながると考えられる。よって、28 年度以降も本事業を継続して進めていく計画である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4171
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究（(1)－⑦）

【事業概要】文化的景観及びその保護に関する基礎的・応用的な調査研究を推進し、諸外国との比較のもとに、我が国の文化的景観保護に関する情報の収集・検討等を行う。また、これまでの成果を踏まえつつ、文化的景観の学術及び保護に資する検討会を主催し、文化的景観の概念及び調査・計画手法等の体系化に取り組む。

【担当部課】	文化遺産部	【プロジェクト責任者】	景観研究室長　林良彦

【スタッフ】
中島義晴（文化遺産部主任研究員）、惠谷浩子（景観研究室研究員）、菊地淑人（景観研究室アソシエイトフェロー）、小浦久子（大阪大学准教授・客員研究員）、山下慎吾（魚と山の空間生態研究所代表・客員研究員）

【主な成果】
文化的景観研究集会及び「文化的景観学」検討会を開催し、文化的景観に関する体系化に関する検討を進めた。検討会の成果の一部については文化的景観スタディーズ第１冊としてまとめた。また、我が国及び諸外国の文化的景観保護に関する情報収集・検討の成果として、文化的景観資料集成第２集、第３集を刊行した。その他、文化的景観の現地調査等を行い、論文等を通じて成果を報告した。

【年度実績概要】
(1)基礎的・体系的研究
- 文化的景観研究集会（第７回)「営みの基盤　生態学からの文化的景観再考」を 27 年 11 月 29 日～30 日に実施した。29 日のシンポジウム成果を踏まえ、30 日には「京都岡崎の文化的景観」にてエクスカーションを実施した。
- 「文化的景観学」検討会を、27 年 5 月 10 日、6 月 2 日、8 月 6 日～7 日、10 月 10 日、12 月 7 日、28 年 2 月 28 日に開催し、文化的景観学の体系化及び成果の公表に向けた検討を進めた。このうち、27 月 6 日～7 日には、「長良川中流域における岐阜の文化的景観」にて現地調査・ディスカッションを行った。成果の一端を文化的景観スタディーズ第１冊として公表した（備考①）
- 我が国及び諸外国の文化的景観保護に関する情報収集・整理・検討の成果として、文化的景観保存計画を中心とした資料集（文化的景観資料集成第２集・第３集）を刊行した（備考②③）。


文化的景観研究集会（第７回）の様子

(2)文化的景観保護に関する現地調査・研究
- 宇治市、四万十市、阿蘇市等をフィールドに、それぞれの地方公共団体担当部局への協力を通じて、文化的景観の価値評価及び整備計画に関する検討を行った。
- 奈良文化財研究所ウェブサイトにおいて公開している重要文化的景観選定地区に関する基礎的情報について、内容の更新・拡充等を図った。
- 全国の文化的景観に関する協議等により、文化的景観の価値評価及び保護のあり方について検討を進めた。

【実績値】
刊行図書数：3 冊①②③
論文等数：8 件（講演・発表等 4 件④、論文等４件⑤）

【備考】
刊行図書
①奈良文化財研究所『地域のみかた－文化的景観学のすすめ』文化的景観スタディーズ第 1 冊 28.3
②奈良文化財研究所『文化的景観保存計画の概要（Ⅱ）』文化的景観資料集成第 2 集、27.7
③奈良文化財研究所『文化的景観保存計画の概要（Ⅲ）』文化的景観資料集成第 3 集、27.11
論文等
④惠谷浩子「日本の文化的景観の保全に関する現状と施策」日中大学交流文化遺産国際会議： 過去から未来へ－アジア・太平洋地域における建築・遺跡・景観保存の道筋、26.6　ほか３件（詳細については統計表参照）
⑤菊地淑人「世界遺産登録された棚田景観の価値と保護–フィリピンとインドネシアの比較–」奈良文化財研究所紀要、27.6　ほか３件（詳細については統計表参照）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4171
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	A	B	B	B

判定理由
適時性：文化的景観の概念及び調査・計画等を体系化することを目指した「文化的景観学」の取組は、過年度の検討会の成果について更に深化させることができ、また、生態学をテーマとした研究集会の開催へとつなげられた。また、資料集成についても、重要文化的景観選定地区が 50 地区に達した 27 年度に既選定地区の計画概要を網羅させることで、適時的なものとなった。
独創性：文化的景観の保護における複雑な課題に対して、これまで学術分野としての「文化的景観学」に関する体系的検討は行われておらず、とくに 27 年度の研究集会がテーマとした生態学分野との関わりは深い理解が得られていなかった。その点で、国内外の文化的景観保護への貢献は大きい。
発展性：文化的景観研究集会や「文化的景観学」検討会での検討、国内外の動向分析を通じて、文化的景観の概念適用と実践体系に関する検討を深化していくことは、地域社会の持続可能性にも大きく貢献できるものである。
効率性：数多くの分野との協働が欠かせない文化的景観に関する検討において、「文化的景観学」検討会に様々な専門と立場のメンバーを招聘して多角的な情報を共有し、議論を深めた。また、検討会の議論を研究集会へと展開させるなど、事業を連動させることで効率化に努めた。
継続性：26 年度まで 6 回にわたって開催してきた文化的景観研究集会、また 24 年度からの「文化的景観学」検討会の成果を踏まえつつ、「文化的景観学」検討会及び文化的景観研究集会（第 7 回）を実施し、文化的景観の保護に関する体系化に関する検討を深め、検討会の成果の一端を刊行物として公表した。
正確性：文化庁及び各地方公共団体との連携・協力の下に、国内外の文化的景観に関わる情報の把握・収集及び現地調査において、詳細かつ正確な把握・検討・公開等を行った。

２．定量的評価

観点	刊行図書数	論文等数				
評定	B	B				

判定理由
刊行図書数：計画通り 3 冊の報告書等を刊行した。
論文等数：広く文化的景観の諸課題の検討に応じ、国内外の講演会・研究会等のほか、刊行物への論文等の公表により、十分な成果が認められる。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	1：文化的景観に関する研究集会・検討会等の実施による保護行政や学術研究への貢献、2：国内外の文化的景観保護に関する資料集成刊行を通じた基礎的・体系的な調査研究成果の公開、3：宇治市、四万十川流域、阿蘇地域などを対象とした現地での調査研究、4：学会・学術雑誌等での研究成果発表等、年度当初の計画を的確に遂行することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化的景観に関する研究集会・検討会の開催や資料集成の刊行、現地調査の実施等により、当初の計画通り研究を遂行することができた。特に、研究集会・検討会では文化的景観の概念及び調査・計画等の体系化に関する検討を深め、また、資料集成の刊行では、継続的に情報収集・整理をおこなっている国内外の文化的景観保護に関する基礎的情報の公開を通じて、保護行政・学術研究への貢献を図った。現地調査・研究では、保存計画や整備・活用計画の策定について検討を進めることができた。 次期中期計画及び 28 年度計画では、文化的景観に関する研究集会・検討会を中心に、個別の事例・課題に対する検討を重ね、一定の知見を取りまとめ公表するとともに、国内における文化的景観整備活用事例についての基礎的な情報収集及び成果の公表等していくことが重要である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4181

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺跡データベースの作成と公開（(1)－⑧－ア）

【事業概要】

官衙関係遺跡の指標や属性分析法の確立に関する研究等を継続し、資料収集とデータベース化を進めて順次一般公開するとともに、寺院遺跡の発掘調査で抽出すべき基本的属性についてのデータ収集と分析を行い、一般公開する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦

【スタッフ】

山中敏史（元文化遺産部長、客員研究員）、小澤　毅（三重大学人文学部教授、客員研究員）、森本　晋（企画調整部国際遺跡研究室長）、馬場　基、青木　敬（以上、都城発掘調査部主任研究員）、小田裕樹、海野　聡，大澤正吾（以上、都城発掘調査部研究員）

【主な成果】

官衙関係遺跡・集落・宮都等の建物データについて全国的に網羅して作成した資料集成をもとに、報告書『長舎と官衙の建物配置』を刊行した。また、官衙・寺院関係遺跡及び井戸遺構に関するデータベースを作成し、官衙・寺院データベースでは関東地方の追加データについて新たに公開した。

【年度実績概要】

- 26 年度開催した第 18 回古代官衙・集落研究集会の報告書、『官衙・集落と土器 1』（奈良文化財研究所研究報告第 15 冊、①）として編集・刊行した。
- 26 年度開催した第 19 回古代官衙・集落研究集会「宮都・官衙・集落と土器」（官衙･集落と土器 2）の研究報告資料を作成した（②）。
- 前年度に引き続き、東京都・千葉県・栃木県・茨城県・福島県・山形県・秋田県について報告書のめくり作業・該当データ抽出を行い、国府・官衙・城柵やその他の官衙関係遺跡等の資料を追加収集・整理した。また、26 年度に続いて、25 年度までに刊行された古代寺院に関する報告書のめくり作業・該当データ抽出を行った。
- 27 年度新たに収集した官衙関係遺跡と古代寺院遺跡の資料をデータベース化し、新出資料も追加して一般公開した。
- 26 年度に資料を収集した桁行 9 間・梁行 2 間あるいは 3 間の建物について、官営工房など特殊な性格を有するものが見られることを明らかにした。
- 27 年度は新たに、東京都・千葉県・栃木県・茨城県・福島県・山形県・秋田県と平城宮の古代井戸遺構に関する資料を収集・整理し、それらをデータベース化した。



古代地方官衙関係遺跡データベース画面

【実績値】

データベース入力・補訂件数：計 8,413 件

官衙関係遺跡データベース：遺跡数 205 件、文献データ 706 件、建物データ 854 件、画像データ 738 件

古代寺院遺跡データベース：遺跡数 138 件、文献データ 1,076 件、建物データ 622 件、画像データ 1,171 件

古代井戸データベース：遺跡数 307 件、文献データ約 1,529 件、井戸データ 1,067 件

公開データ数：計 90,745 件

官衙関係遺跡：遺跡数 1,677 件、文献データ 17,586 件、建物データ 20,578 件、画像データ 22,669 件

古代寺院遺跡：遺跡数 1,630 件、文献データ 17,443 件、建物データ 3,939 件、画像データ 5,223 件

報告書件数：1 件（①）

（参考値）

研究集会当日資料集：1 件（②）

【備考】

①小田裕樹ほか編『官衙・集落と土器 1』奈良文化財研究所研究報告第 15 冊、27.12.

②小田裕樹ほか編『宮都・官衙・集落と土器』第 19 回古代官衙・集落研究集会当日資料、27.12.

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4181
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：従来から需要の多い古代官衙関連遺跡・古代寺院遺跡データベースとともに、やはり需要の増加している井戸関連遺跡データベースについて、データ数を増加して公開することで需要に対応している。
独創性：全国を網羅していることに加え、様々な遺跡や遺構の性格分析・研究などに役立つ多彩な項目を設置したデータベースで、他に類を見ない。
発展性：発掘調査事例の多い関東地方のみならず、東北地方にもデータ収集範囲を広げてデータベースの更なる拡充を進めている。
効率性：全国的な官衙関連遺跡・古代寺院遺跡・井戸関連遺跡に関する膨大なデータを公開し、様々な項目から必要に応じて素早くデータを抽出することができるため、遺跡等の各種分析・研究に対する利便性は極めて高い。
継続性：毎年増加し続ける遺跡データを継続的に収集・入力し公開しており、データベース全体の更新を続けている。
正確性：新出資料の追加に加え、既存のデータに関しても変更を生じた事項について改訂を行い正確性を保っている。

２．定量的評価

観点	データ入力・補訂件数	公開データ数	報告書件数			
評定	A	A	B			

判定理由
データ入力・補訂件数：目標の 2,500 件を大きく上回った。
公開データ数：目標の 60,000 件を大きく上回った。
報告書件数：計画通り1件を刊行した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	データベース入力件数、公開件数とも目標値を大きく上回ったほかに、26 年度設置した井戸関連遺跡データベースの入力が軌道に乗り順調にデータ数を増やしている。また、報告書『官衙・集落と土器 1』を刊行し、さらに研究集会資料集『宮都・官衙・集落と土器』を作成するなど、27 年度の目標を十分に達成していると言える。 毎年8,000～9,000件前後の発掘調査が実施されていることから、今後も全国で官衙関連遺跡・古代寺院遺跡・古代井戸についてデータ量が増加することは間違いない。それらの調査研究・文化財保護にあたる人々にとってこのデータベースは、遺跡や遺構データの抽出・分析等の面で一層の利便性・効率性を提供すると期待できる。従って、引き続き、古代官衙関連遺跡・古代寺院遺跡・古代井戸に関する新資料等を収集・整理し、これらデータベースの一層の充実を図りたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	従来どおり、官衙関連遺跡・古代寺院については、新資料の収集・整理、既存データの補訂などで着実にデータの蓄積を進め、それらを順次、地域ごとに公開しており、27 年度は東京都など報告書点数の膨大な関東地方や東北地方の一部にまでの収集範囲を広げており、事業を計画通り順調に進めていると言える。今中期計画期間の最終年度である 27 年度は、古代官衙・寺院関連では、27 年度に入力の済んだ関東・東北地方の一部のうち、東京都・千葉県・栃木県・茨城県までのデータベースを公開した。古代井戸データベースでも順調に新データ入力を進めており、所期の目標を十二分に達成している。28 年度以降もデータベースの充実に努め、増加し続ける発掘調査データに対応していきたい。また、年度ごとに異なるテーマに従い、毎年度着実に資料集作成や報告書刊行を行っているが、これらについても 28 年度以降、継続していく所存である。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4182
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査（(1)－⑧－イ）

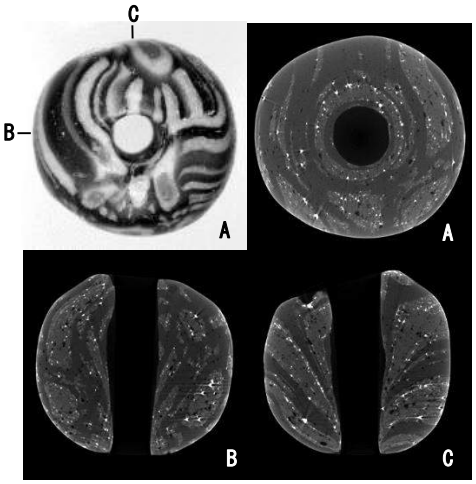
【事業概要】
標記プロジェクトに関して、(1) 考古遺物の非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用研究、(2) 高エネルギーＸ線ＣＴ法及びＸ線ＣＲ法の応用研究、(3) 漆製遺物や塗装材料などの分析法の実用化とデータベース作成、(4) 金属製遺物の埋蔵環境調査、(5) 出土木製遺物の保存に関する研究集会の開催、に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美(以上、保存修復科学研究室研究員)、降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、杉岡奈穂子(保存修復科学研究室アソシエイトフェロー)、肥塚隆保(元副所長、客員研究員)

【主な成果】
(1) 標準試料のラマンスペクトルを集積するとともに、顔料、ガラス、石製品、紙資料のラマンスペクトルを取得した。
(2) 香川県まんのう町出土のモザイク玉について、X 線 CT 撮影を実施することで、複雑な構造を有する古代のモザイク玉の製作技法を明らかにすることができた。
(3) 青森県御所野遺跡出土遺物に付着した黒色物質を分析し、漆とされていた黒色物質がアスファルトであることを明らかにした。
(4) 古墳石室の埋蔵環境を再現した模擬石槨で金属試料の暴露試験および埋蔵環境調査を実施し、埋蔵環境が金属製品の腐食に与える影響の解明に取り組んだ。また、交流インピーダンス法により金属の腐食速度について検討した。
(5)「出土木製遺物の保存に関する最近の動向」をテーマとした研究集会を開催した。

【年度実績概要】
(1) レーザーラマン分光分析とX線回折分析を併用することで、錫酸鉛着色による黄色カリガラスの存在を日本で初めて確認した（福岡県三雲遺跡加賀石地区出土)。また、炭化紙資料のラマンスペクトルや滑石製遺物のラマンスペクトルを集積した。
(2) 香川県まんのう町出土のモザイク玉について、マイクロフォーカス X 線 CT 撮影を実施することで、複雑な構造を有する古代のモザイク玉の詳細な製作技法を明らかにした。材質調査の結果と総合的に考察することにより、本資料がササン朝ペルシア産であることを実証的に示した。
(3) 青森県御所野遺跡より出土した遺物に付着していた黒色物質はこれまで漆であるとされてきた。クロロホルムへの溶解性と FT-IR による分析から、これらの黒色物質がアスファルトであることを明らかにした。
(4) 模擬石槨周辺の環境測定と石槨内に設置した金属試料の腐食試験から腐食過程のモニタリングを実施した。その結果、石槨内の結露発生箇所が季節ごとに変化すること、それに応じて金属の腐食速度が季節ごとに異なることがあきらかとなった。また、交流インピーダンス法の試験の結果、金属試料の腐食速度は試料近傍の溶存酸素濃度に支配されることが示唆された。
(5)「出土木製遺物の保存に関する最近の動向」と題した研究集会を開催し（28 年 1 月 22 日)、出土木製遺物の一時保管から保存処理後の保管環境に至るまでの現状と課題について、全国の文化財担当者と情報を共有し、総合討議を通じて様々な角度から意見交換を行った。



香川県出土モザイク玉の X 線 CT 画像

【実績値】
発表件数：14 件（①～②）
論文等数：7 件（③～⑤）
研究集会開催件数：1 件（⑥）

【備考】
発表
①Tomomi TAMURA, Katsuhiko OGA「A scientific and archaeological investigation on Roman glass artifacts unearthed in Japan」Technart2015, Catarnia, Italy, 2015.4.27.
②Tomomi TAMURA, Katsuhiko OGA「A study on production areas of Indo-Pacific beads from Southeast Asia to East Asia: scientific and archaeological approach」15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists, Paris, 2015.07.09. 他12件
論文等
③田村朋美・大河内隆之「香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の材質・構造調査」『奈良文化財研究所紀要 2015』27.6.
④Tamura and Oga「Archaeometrical investigation of natron glass excavated in Japan」Microchemical Journal 126, 28.1.
⑤脇谷草一郎・柳田明進・小椋大輔・鉾井修一「模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究-石室内環境が金属製遺物の腐食におよぼす影響について-」『奈良文化財研究所紀要 2015』2015.6.26　他 4 件
研究集会
⑥研究集会「出土木製遺物の保存に関する最近の動向」（発表件数：6 件、参加人数：90 名、開催日：28.1.22）

【書式Ｂ】
（様式 2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4182

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	継続性
判定	B	B	B	B	B	B

判定理由

適時性：古代の材料や技術に関する新しい知見を得るためには、自然科学的な手法による出土遺物の材質・構造調査が不可欠である。出土遺物の材質・構造調査には非破壊的な手法が求められており、各種の調査機器を応用することで、より多様な遺物の調査が可能となる。また、近年、遺物が埋蔵した状態で整備が行われる事例の増加しており、埋蔵環境中での遺物の劣化機構の解明が求められている。

独創性：古墳石室における埋蔵環境を再現した模擬石室において、鉄製遺物及び青銅製遺物の暴露試験を実施し、古墳石室内における金属製遺物の腐食に関する基礎データを収集した。古墳石室内を再現した埋蔵環境が金属製遺物の腐食に与える影響についての研究は他に類を見ない。

発展性：出土遺物の材質構造に関するデータを集積することで、近隣諸国だけでなく地中海周辺地域で出土した類例との比較研究も可能となり、現在のイスラエル地域で生産されたガラス製遺物が古墳時代の日本列島に流入していたことを明らかにすることができた。

効率性：大量に出土する玉類などの遺物の材質調査において、蛍光Ｘ線分析による分析に加えて、同時に多量の材質調査が可能な方法（ＡＲ法及びＣＲ法）を適用することで、8,000 点を越える遺物についても迅速かつ効果的な調査を実施できた。

正確性：蛍光Ｘ線分析法とレーザーラマン分光分析法に加え、可視分光分析法や非破壊微小点Ｘ線回折分析など、複数の分析法を併用することで、精度の高い材質調査を行うことができた。

継続性：分析装置を改良したことにより、多くの遺物の材質・構造調査のデータを継続的に取集することが可能となった。埋蔵環境調査に関しては、模擬古墳での暴露試験を行うことで継続的なデータの収集が可能となった。

２．定量的評価

観点	発表件数	論文等数	研究集会開催件数			
判定	A	A	B			

判定理由

発表件数　　：目標件数 2 件を大きく上回る 14 件を達成した。
論文等数　　：目標件数 2 件を大きく上回る 7 件を達成した。
研究集会開催件数：目標件数 1 件を達成した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査研究事業を当初計画どおり順調に遂行しただけでなく、目標を大きく上回る発表・論文等数を達成することができた。ラマン分光分析に関しては、顔料、ガラス、石製品などの無機質遺物に加えて、炭化紙資料などの有機質遺物についてもデータを蓄積することができた。埋蔵環境調査に関しては、鷹島海底遺跡に設置した暴露試験のデータ回収を継続するとともに、模擬石室に本年度設置した暴露試験についてもデータ回収が進み、埋蔵環境が金属製遺物の腐食に及ぼす影響について解明するための貴重なデータが得られた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各種の調査機器を応用することで、より多様な遺物の調査を可能とし、漆製遺物や塗装材料などの分析法の実用化に漕ぎ着けた。さらに、埋蔵環境中での金属製遺物や木製遺物の劣化機構の解明を進めることができた。そして、中期計画の最終年度である 27 年度、目標であった出土木製遺物の保存に関する研究集会を開催できた。また、発表・論文等数でも目標を大きく上回った。以上のように、所期の目標を十分に達成していると認められる。ただし、構造調査の要であるＸ線透過撮影装置の老朽化が進んでおり、継続的な診断調査のためには早急な更新が不可欠である。次期中期計画でも、各種の分析手法を活用して出土遺物の診断調査を進め、考古遺物を安定した状態で保存・活用するための保存処理法の開発につなげていく予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4183
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	遺構の安定化方法を検討するための基礎データ収集（(1)－⑧－ウ）

【事業概要】土質遺構や装飾古墳の安定した公開・展示を行うことを目的とした環境調査、ならびに維持管理技術の開発的研究の一環として、遺跡を構成する土、石材及び空気における熱・水分・溶質移動を推定し、それらが形成する環境を予測する解析技術に関する研究、及び土質遺構露出展示、装飾古墳の公開・展示に関する実地試験に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、保存修復科学研究室研究員)

【主な成果】
・土質遺構の露出展示保存を実施している平城宮跡遺構展示館を研究対象として、外界気象条件や覆屋内温熱環境、析出物の種類や分布、水質に関する実測調査を行うとともに、土中と覆屋内空気における熱、水分及び酸素、溶質の移動を考慮した同時移動解析を行った。
・石室保護施設が完成したガランドヤ古墳では、石室内での結露発生を抑制する換気や熱源の運用方法について検討した。さらに、同じ日田市に所在する穴観音古墳と法恩寺山 3 号墳の 2 基の装飾古墳で外界気象条件と石室内温熱環境に関する実測調査を行い、ガランドヤ古墳と併せて封土の状態や墳丘表面の被覆状況が石室内温熱環境に及ぼす影響について検討した。
・塩析出への対策が喫緊の課題となっている大分市元町石仏では、外界気象条件と覆屋内部の温熱環境の実測調査、及び 26 年度から継続して、季節毎に析出する塩の種類と分布、地下水の水質について調査を実施した。また石仏内部、露頭における熱水分移動解析を行い塩析出の要因について検討した。

【年度実績概要】
・平城宮跡遺構展示館では、覆屋内部および遺構周辺地盤の熱水分移動モデルを作成し、解析解から塩析出を抑制する手法について検討した。その結果、南棟周辺地盤への雨水の浸透を抑制すること、南棟の換気回数を減少させることが塩析出の抑制に対しては非常に効果的であることが示唆された。また南棟周辺地盤における水分移動のモデルを作成し、あわせて溶存酸素移動を計算することで地盤内の酸化還元環境を求めるモデルを作成した結果、地盤の酸化還元環境は地下水位変化に支配されることを明らかにした。
・ガランドヤ古墳は恒久的な石室保存施設が完成したため、石室内部の温熱環境が大きく変化した。夏季の外気由来の結露を抑制することが課題であるため、外気の相対湿度が 65%以下の時のみ換気を実施し、石室内における結露発生の有無について観察を行った。その結果、7 月から 8 月は外気の気温がきわめて高いため、相対湿度が 65%以下であっても絶対湿度としては相当量の湿度となった。一方で、石室内は熱容量が極めて大きな空間であるため、石材表面温度の上昇が緩慢であり、外気由来の結露が発生した。今後は熱源などを使用して石材表面温度の上昇を促進する手法を検討する。
・元町石仏では露頭内部の熱水分移動解析を行い、冬季から春先にかけて石仏表面付近まで石材の含水率が増加する一方で、石材表面温度が低いことが示唆された。従って、この時塩析出の可能性がもっとも高いこととなり、塩析出による石材劣化の目視観察結果と調和的な結果を得た。





（上）ガランドヤ古墳奥壁の結露による濡れ
（下）地層境界で析出する塩（遺構展示館）

【実績値】
発表件数：８件（①～②）
論文等数：５件（③）
（参考値）
調査実施回数：９回　平城宮跡遺構展示館（3 回）、ガランドヤ古墳（2 回）、元町石仏（4 回）

【備考】
発表
① 桑原範好、鉾井修一、脇谷草一郎、小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」日本建築学会近畿支部、27.6.27
② 脇谷草一郎、桑原範好、鉾井修一、小椋大輔、高妻洋成「平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究―遺構周辺地盤の酸化還元環境に関する検討―」日本文化財科学会第 32 回大会、27.7.12　ほか 6 件
論文
③ Soichiro Wakiya, Noriyoshi Kuwabara, Shuichi Hokoi, Daisuke Ogura “Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site” Advanced Materials Research Vol.1126, pp.39-52 2015。ほか 4 件

【書式Ｂ/研・セ】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　4183

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：遺跡の公開・活用が重要視される近年の社会・文化状況において、適切な環境下で遺跡の安定性を維持しつつ、観覧等の公開・活用に資する技術の研究・開発が今まさに求められている。
独創性：本研究では、整備後に生じる遺構の劣化を予測し、それを予め回避するために適切な環境の制御を行うことで、遺構保存を実現することを目的としており、土や石材の強化処置を主とする既往の手法とは異なる新たな取り組みである。
発展性：遺構を取り巻く環境は様々であるが、乾湿の繰り返しや塩類析出などの遺構で生じる劣化は熱、水分、溶質移動によって引き起こされる普遍的なものである。したがって、本研究から得られた知見は汎用性に富んでおり、広範な分野にわたる様々な遺構への応用が可能である。
効率性：フィールド調査で使用する機材や調査手法は、異なる環境下にある多種多様な遺構で使用可能なものであることから、機器類の導入経費や運用面において効率は高い。
継続性：各調査フィールドにおいて調査の最終的な目標（長期的な目標）、及び各年の短期的な目標を明確に設定し、各地方公共団体の文化財担当者とも目標を共有しながら、長期的な文化財保護行政の一環としての調査研究という位置づけを得て事業を継続している。
正確性：恒常的な高湿度環境など、継続的な環境調査は過酷な条件下で行われることが多いが、それらに対する耐久性を備えた測定器具類を選定しており、得られたデータは充分な正確性を有する。また、研究は常に実測調査と数値解析の両者を並行して進めており、数値解析のみの結果で保存方法を検討するのではなく、解析結果と実測調査結果を常に比較対照して検討することで、正確な解析モデルの構築を行っている。

２．定量的評価

観点	発表件数	論文等数				
評定	A	A				

判定理由
発表件数：目標値である２件を大きく上回った。
論文等数：目標値である２件を大きく上回った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各調査フィールドでの調査研究事業を当初の計画通り順調に遂行することができ、その成果発表は目標を大きく上回った。27 年度は 26 年度までの土中の熱、水分移動に加え、溶存酸素や溶質移動についても解析の検討対象として調査研究を行うことができた。28 年度はこれらの実測調査を行い解析モデルの精度を高める。また、土中に埋蔵されている金属製遺物や木製遺物の腐食は土壌の温度、溶存酸素濃度（酸化還元環境）、含水状態に大きく影響されることから、遺物の腐食についても解析モデルに取り込んで、埋蔵環境の推定や現地保存法の検討に発展させていく予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今次中期計画期間の最終年度である27年度は、発表等の件数が目標を大きく上回り、26年度までの実測調査・解析等を継続しつつ、平城宮跡遺構展示館を中心にデータの蓄積と解析モデルの構築、さらにその解析結果から現在進行中の劣化を抑制する方法を検討するなど、中期計画全体として所期の目標を十二分に達成したと言える。一方で、ガランドヤ古墳や元町石仏では27年度に保護施設の改修が行われるなど、遺跡を取り巻く環境が変化し続けていることから、28年度以降も引き続き遺跡周辺の環境に関する実測調査、劣化状態の調査を実施する予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4211

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財デジタル画像形成に関する調査研究((2)-①)

【事業概要】

本研究では、着色仏画、彩色壁画・油彩画・日本画などを対象とし、文化財研究に資するデジタル画像の形成方法及びその応用のための手法（表示・出力）を開発し、広範な活用の方向性を研究する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	広領域研究室長　小林　公治

【スタッフ】

山梨絵美子（部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、城野誠治（広領域研究室専門職員）、早川泰弘（分析科学研究室長）江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）

【主な成果】

- 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵」第 17・18 巻の光学調査（カラー分割・近赤外線分割）を実施した。
- 奈良国立博物館との共同研究について、「天台高僧像「智顗」」、「聖徳太子及天台高僧像」十幅の光学調査（カラー分割・近赤外線）を実施した。
- 研究所修復プロジェクトの一環として、三の丸尚蔵館において西瓜図・厩図屏風の光学調査（全図・部分カラー・近赤外線）を、また日本銀行貴賓室において天井綴の全図撮影を実施した。
- 研究所文化遺産国際協力センターによる選定保存技術プロジェクトの一環として、日本国内各地において、玉鋼製造・錺金具制作・刀鍛冶・苧麻績み・藍製造・そうこう技術・宇陀紙制作・邦楽器弦製作・檜皮葺・苧麻引き・粗苧製造・うるし掻き技術・建具制作・竹籤製作・たたら製鉄・漆かき道具製作の撮影を実施した。
- 在外日本古美術品保存修復協力事業の一環としてポーランド・ブロツワフ国立博物館所蔵「秋野蒔絵硯箱」の撮影を実施した。
- 研究所保存修復プロジェクトの一環として、サントリー美術館において、「四季花鳥図屏風」の撮影を実施した。
- 研究所保存修復プロジェクトの一環として、佐野市立吉澤記念美術館において伊藤若冲著「菜蟲譜」の彩色調査を実施した。
- 研究所プロジェクトの一環として、三式戦「飛燕」の撮影を実施した。
- 研究所保存修復プロジェクトの一環として、三の丸尚蔵館において「萬国絵図」の全図・部分撮影を実施した。
- 研究所プロジェクトの一環として、サントリー美術館において、「小倉山蒔絵硯箱」の撮影、厳島神社において「平家納経」の撮影を実施した。
- 平等院の依頼を受け、鳳凰堂内須弥壇、鳳凰堂内彩色、鳳凰堂内須弥壇の撮影を実施した。
- 長崎県の依頼を受け、聖母マリア像の光学調査（カラー・蛍光・近赤外線）を実施した。
- 岡田美術館の依頼を受け、「鳳凰図・孔雀図」の撮影を実施した。
- 下記する成果品の他、データは画像処理を行った上で、記憶媒体に記録して保存している。

【年度実績概要】

- 27 年度は長期的に継続して実施している宮内庁三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵」の第 17 巻及び 18 巻について、本プロジェクトによるデジタル画像形成とその成果画像の検討も加えた保存修復科学センタープロジェクトによる蛍光 X 線分析とを一連の作業として実施することができた。
- 研究所内プロジェクトの一環として、国内各地での伝統技術記録のための撮影、また保存修復事業による作品の作業記録撮影を行なった。
- 外部機関からの依頼に応じ、様々な貴重な文化財の画像記録撮影や光学調査を実施した。
- 調査成果については 3 冊の報告書として発刊することができた。
- 成果の一部については、カレンダー用画像として利用することで、成果を広くアピールすることができた。

【実績値】

光学調査件数　5 件
撮影件数　9 件
調査成果の公表数　4 件（備考①～④）

【備考】

① 城野誠治ほか「東京文化財研究所カレンダー2016」B3 東京文化財研究所編　27 年 12 月
② 城野誠治ほか「東京文化財研究所カレンダー2016」B5 東京文化財研究所編　27 年 12 月
③ 早川泰弘・城野誠治「平等院鳳凰堂須弥壇の金属部材の材料調査」『平等院鳳凰堂内光学調査報告書』 pp. 4-7 東京文化財研究所　28 年 3 月
④ 早川泰弘・城野誠治「四季花鳥図屏風の彩色材料調査」『四季花鳥図屏風 光学調査報告書書』 pp. 148-153 東京文化財研究所　28 年 3 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4211
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	B	B	B	B

判定理由
適時性：所内外の幅広い要望に応じ、またカレンダーといった形も含め、迅速な調査成果の公表に努めてきた。
独創性：本プロジェクトのデジタル画像形成方法は、長年の実地経験と画像形成技術、また文化財関係では国内では当研究所が唯一保有する機材に基づくもので、他機関や画像専門家の追随を許さない独自性の高いものであると言える。
発展性：以前に比べ、時代地域を超えた様々な文化財を対象として実施している。
効率性：非常勤職員ごとに担当業務を割り振るなど、調査成果が効率的に報告できるように進めている。
継続性：本プロジェクトの業務は複数年度にまたがって実施しているものも多く、成果も継続的に公表している。
正確性：デジタル画像の形成に当たっては対象とする文化財の実態・現状の正確な記録化を念頭に行なうと共に、手間のかかる画像の整理作業を効率的に進めることで、その成果を早急に確実に公表している。

２．定量的評価

観点	光学調査件数	撮影件数	調査成果の公表数			
評定	A	A	A			

判定理由

光学調査件数　：プロジェクト計画である2機関との共同研究を始め、所内外の様々な依頼に機敏に対応して多くの調査を実施した。特に、27年度は奈良国立博物館との共同研究にて「聖徳太子及天台高僧像」十幅などの光学調査を実施する等、時間と労力のかかる作業に取り掛かった中で、充分な調査を実施することができた。
撮影件数　：所内外の要請に応じ、できる限りの鷹揚なスケジュール調整を行なうことによって極めて多くの撮影依頼をこなし、例年に増して充分な撮影を実施した。
調査成果の公表数：所内外の業務依頼者に対し、迅速な適宜成果の報告を行なっていることに加え、印刷報告書のみならずカレンダーにて公表する等、多様な報告方法でかつ充分な調査成果の公表を行なうことができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	定性的評価については様々な要望に応じた調査を適宜速やかに実施でき、またその対象も従来に比べより広く発展させることができた。さらに撮影件数はもとよりいくつもの報告書作成を行ない、定量的評価でも充実した内容でかなり多くのまとまった件数の実績を上げることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27 年度は継続的に行なってきた共同研究プロジェクトに加え、有形文化財・無形文化財など様々な対象について積極的な撮影を実施することができた。また依頼者に対する成果報告も適宜行なっていることから、所定の目標を達成していると評価する。新たな中期計画が始まる 28 年度以降にはより意義深い調査の実施や方法的検討に努めたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4221
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の測量･探査等に関する研究（(2)－②）

【事業概要】文化財保護に資する研究を主眼として、発掘調査の際の測量・計測による記録方法の高度化、非破壊的手段である探査による地下遺構の把握、その他遺跡を対象とした各種の研究法の開発と試験、活用方法の検討を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦

【スタッフ】金田明大(埋蔵文化財センター主任研究員)、西村康((財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長、客員研究員)・西口和彦(客員研究員)

【主な成果】(1)三次元レーザースキャナーによる文化財計測の精緻化と迅速化を更に進め、応用研究を進めた。
(2)SfM（複数画像から撮影位置と方向を復原する技術）/MVS（前述の複数画像を利用した三次元形状計測データ生成技術）の実用化と精度検証を達成し、実践に移した。
(3)UAV（無人飛行艇）をプラットフォームとした各種遺跡調査システムを試行した。
(4)アレイ式地中レーダー・多チャンネル式電磁探査機・磁気探査機の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。
(5)発掘調査記録の迅速化及び精緻化を目的とした簡便な手法の検討を重ねた。
(6)窯業生産資料の広域編年と流通に関連する研究を推進した。
(7)各地方公共団体等の依頼により、計測及び探査を実施した。

【年度実績概要】

(1)千葉県船塚古墳、奈良県薬師寺東塔などで計測試験をおこない、好成績を上げた。また、ＬｉＤＡＲ(ライダー)(レーザー・レーダー)技術の検討により、日本における遺跡周辺地形の計測手法の開発に着手した。

(2) SfM 及び MVS 技術を用いて、前年度実用化した、一般に普及しているデジタルカメラとコンピュータを用いた極めて安価かつ迅速な三次元計測手法により、以下の調査等を実施した。
平城宮・京、金沢城をはじめ、複数の遺構で計測を行った。加えて、計測データの多様な活用方法について検討し、研究会を開催した（参加者 66 名)。

(3)前年度実用化した小型 UAV による安価な空中写真計測システムにより、SfM/MVS 技術を用いた高精度遺構計測が可能となったが、今年度は改正航空法に関連する対応・対策を講じ、UAV の研究会での発表を行った。
また、改正航空法に関連する対応や、UAV の研究会での発表を行った。

(4)平城宮跡、大阪城等でアレイ式地中レーダー機器を試験した。また、遺跡に柔軟に対応可能な走査方法の検討と器具の製作を行った。各地で課題となっている城郭の石垣の維持管理と崩壊の防止のため、その原因解明を目的として探査の機器を開発し、試験的な探査を行った。

(5)発掘調査記録の標準化と効率化を主眼として、簡易な方法による遺構断面の土色や遺物の色彩計測を試み、その成果を学会にて発表した。

(6)考古学の方法論である型式論や流通論の向上に資するための基礎研究として、窯業生産資料、特に古代土器生産・流通の研究方法を検討した。識別子による分類や製作技術の検討、情報収集と分析を試行した。

(7)平城京、東大寺、薬師寺、興福寺、岩屋山古墳、大和郡山城（以上奈良県)、金沢城（石川県)、大阪城真田丸推定地（大阪府)、五塚原古墳、井ノ内車塚古墳（京都府)、船塚古墳（千葉県）などの遺構、鳥取県出土銅鐸、平城宮・京出土土器などの遺物の計測を行い、三次元データ等を収集した。


薬師寺東塔探査風景

【実績値】
文化財探査件数：10 件
三次元計測件数：約 100 件（遺構 24 ヵ所、遺物 80 点以上）
発表件数　　：14 件（①～③）
論文等件数　　：9 件（④・⑤）
(参考値)
色彩計測試験　：10 回以上

【備考】
発表
①金田明大 八尾純子　石松智子「遺構および遺物の簡易色彩計測に関する初歩的検討」『日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集』360-361　27.7.11
②金田明大 ナワビ矢麻　西口和彦　石松智子　長江真和 「複数探査手法を用いた可児市大萱古窯跡弥七田窯の検討」『日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集』296-297　27.7.11
③金田明大「SfM/MVS による遺構の計測」第１回文化財方法論研究会　28.1.16 他 11 件
論文等
④Akihiro Kaneda, Kazuhiko Nishiguchi, Yama Nawabi, Yoshiro Watanabe.　Archaeological prospection of kiln sites in the Samurai era　Archaeologia Polona 53: 299-303、2015 .2015.09
⑤Akihiro Kaneda, Yama Nawabi, Hiroshi Yamaguchi. APPLICATION OF STRUCTURE FROM MORTION IN JAPANESE ARCHAEOLOGY.　The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences.2015.09　他 7 件

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4221
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	B	B

判定理由
適時性：計測・探査は文化財研究及び保護において基礎的な分野であり、必要性も高いため、各方面からの需要が極めて多く、予定外の突発的な調査要請も少なくない。それらに即応して成果を上げた。
独創性：機器等を改良して文化財に特化した手法を確立し、新しい手法として普及を図る段階にまで押し上げた。
発展性：既存の調査・研究の蓄積との連携に配慮しながら、地方公共団体等で簡便かつ廉価に導入可能な方法を開発しており、今後これらの手法が基礎的な記録手段として広範に普及していくと考えられる。
効率性：遺跡・遺物の詳細なデータを従来の数十分の一の時間と労力で計測・記録し、なおかつ低コストで実現できる方法の完成をほぼ達成しつつある。
継続性：独法化以前からの研究資産・研究水準を引き継ぎつつ、不断の技術改良と現在の文化財研究及び保護に要求される水準に沿った研究を進め、成果を上げている。
正確性:レーザースキャナーやSfM/MVSを利用した計測技術は精度が高く､得られる三次元データの信頼性にも優れる。

２．定量的評価

観点	文化財探査件数	三次元計測件数	発表件数	論文等件数		
評定	A	A	A	A		

判定理由
文化財探査件数：遺跡保存に関する探査要請への緊急対応等で、目標の5件を大きく上回った。
三次元計測件数：依頼件数が急増するなかで極めて多数の案件に対応しており、目標の5件を大きく上回った。
発表件数：目標件数2件を大きく上回った。
論文等数：目標件数2件を大きく上回った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計測等件数では目標を大きく上回り、計測技術としては、より廉価な計測技術を確立した上でＳｆＭの研究会を開催し、多数の参加者へ研究成果の紹介と実際の使用法のレクチャーを行うなど、予想以上の成果を上げている。28年度は、研究会で構築した研究者ネットワークを中心に、新たな技術の普及に努めたい。 探査件数は目標を大きく上回り、探査技術のより高精度で迅速な手法の確立と複数の手法を確立する可能性への道筋をつけることができた。文化財の分野では、計測、探査とも今後の発展が期待される分野であり、28年度以降、現在普及の壁となっている課題を解決しながら各方面への技術移転を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新技術を導入し対象となる文化財の種類に即した独自の改良を加えることにより、計測、探査を始めとする発掘調査及び遺物調査技術について、導入ならびに利用コストの低い方法を開発し、地方公共団体等に広範な普及を図る可能性を示したことで、27年度の目標以上の成果を達成していると評価できる。また、連携研究等により人材育成や技術の移転を進め、他機関における研究の活性化と人材の育成に貢献することで、高まりつつある技術に対する注目と期待に応えることができ、今次中期計画について所期の目標を十二分に達成できたと言える。 一方、研究体制や研究環境は十分に整備されているとは言い難い。特に、本来の目的であり、調査研究の根幹をなす基礎研究の比重が相対的に低下する傾向にある。27年度でデータ収集等の大半を終了する予定であった事業について、外的要因により28年度も継続するものがある。また、文化財の記録は文化財研究の基礎であり、今後もその重要性に変わりはない。従って、28年度以降は研究体制・環境の整備が図られるよう要望を強めるとともに、文化財保護行政に資する研究を推進するという観点から、これまでに達成し得られた技術成果を、地方公共団体等へ移転し普及させる方向性に重点を置いていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4231
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	年輪年代学研究（(2)－③）

【事業概要】
出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資する。とりわけ、奈良文化財研究所で開発、実用化したマイクロ X 線ＣＴを用いた調査手法は貴重な文化財の非破壊調査に有効であるため、調査対象の拡充と活用を図り、これらの研究成果を公表する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】
大河内隆之(埋蔵文化財センター主任研究員)、星野安治(年代学研究室研究員)、伊東隆夫(京都大学名誉教授、客員研究員)、光谷拓実(客員研究員)、藤井裕之(奈良県教育委員会日々雇用職員、客員研究員)、児島大輔(大阪市立美術館学芸員、客員研究員)

【主な成果】
出土遺物、建造物、美術工芸品といった多分野にわたる 26 件の木造文化財を対象とした年輪年代調査及び樹種同定調査を行った。また、デバイスの交換により高解像度・高出力化が図られたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、同装置による調査対象拡大に向けた非破壊検査を行った。そして、これらの調査・研究成果の一部を論文等、学会等において発表した。

【年度実績概要】
・12 件の出土木製遺物、7 件の木造建造物、6 件の木造美術工芸品、1 件の自然木について、年輪年代調査と樹種同定調査を実施した。
・このうち国宝薬師寺東塔の解体修理に伴う調査では、年輪数が多く、部材表面でデジタル画像による非破壊年輪計測ができる 250 点以上の部材を悉皆的に調査した。当初材だけでなく中近世の修理部材についても対象とし、薬師寺東塔の建立年代、及び建立後の修理の経過を推定する資料を得た。
・標準年輪曲線の年代的・地域的拡充を行うため、全国各地の基礎データの蓄積を継続したが、27 年度は特に山陰・北陸地方のデータを充実させることができた。
・デバイスの交換により高解像度・高出力化が図られたマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いて、既存の装置では不得手であった保存処理済出土木製遺物への応用を行うとともに、漆塗りの櫛等の非破壊での三次元構造把握などに一定の成果を得た。
・マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた非破壊での樹種識別を目指し、現生木での基礎的な検討を行った。
・継続的におこなっている年輪年代標本の調査では、収蔵標本の現状把握とリスト作成をおこなった。
・以上の調査・研究成果の一部を、論文等、及び学会等において発表した。日本文化財科学会における発表では、日本文化財科学会第 9 回ポスター賞を 2 件受賞している。


年輪年代学用大型木材標本収蔵状況

【実績値】
調査件数：26 件
論文等：3 件（①～③）
発表等：3 件（④～⑥）

【備考】
論文等
①大河内隆之「年輪年代学的視点から見た黎明期国産ヴァイオリンの木材利用について－鈴木政吉工場製作品を中心に－」『奈良文化財研究所紀要 2015』27.6
②星野安治「木の年輪で作った年代を測るものさし－年輪年代学の成果－」『遺跡の年代を測るものさしと奈文研』27.7
③星野安治、児島大輔、光谷拓実「木造二天王立像（国〈文化庁保管〉）の年輪年代調査」『MUSEUM 東京国立博物館研究誌』（査読有）27.8
学会等発表
④大河内隆之「虫糞や虫粉を用いた放射性炭素年代測定に関する新たな試み」日本文化財科学会第 32 回大会、2015.7
⑤大河内隆之、安江恒「年輪年代学の視点から見た鈴木政吉工場製ヴァイオリンの年代測定と産地推定」日本文化財科学会第 32 回大会、2015.7（日本文化財科学会第 9 回ポスター賞受賞）
⑥鈴木伸哉、大山幹成、星野安治「X 線 CT を用いた東北地方民家所蔵漆器の非破壊年輪計測と産地推定」日本文化財科学会第 32 回大会、2015.7（日本文化財科学会第 9 回ポスター賞受賞）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4231
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	A	A	B

判定理由
適時性：出土木製遺物の年代決定、あるいは建造物や木彫像の解体修理等、各地方自治体の文化財担当部署の要請に迅速に対応することができたほか、全国各地の様々な分野からの要望に時機を逃さず的確に応え、年輪年代情報を提供することができた。
独創性：デバイスを更新したマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置を用いた出土漆塗り櫛の三次元構造解析などは、製作技術解明などの上でこれまでにない、文化財科学分野での最先端をいく独創性の高いものである。
発展性：標準年輪曲線の地域的な拡充を行うことにより、暦年代測定と同時に年輪年代学的な手法を用いた木材の産地推定を可能にすべく、データを蓄積している。
効率性：デジタル画像による調査手法の活用により、従来に比較して、きわめて多くの点数を効率よく調査できている。
継続性：標準年輪曲線の拡充を行うため、全国各地の年輪データを収集しているが、27 年度は収蔵標本の再整理をおこなうとともに、26 年度から継続している中国地方のうち特に山陰と、それに加えてさらに北陸地方におけるデータについても充実させることができた。
正確性：年輪年代測定で得られる 1 年単位の年代は、他の多くの自然科学的年代測定の中でも際立って精度が高く、正確性の高いものである。

２．定量的評価

観点	調査件数	論文等数	発表等数			
評定	B	A	A			

判定理由
調査件数：考古・建築・美術など、多岐にわたる分野において 26 件の文化財調査を実施した。
論文等数：目標の2件を上回った。
発表等数：目標の2件を上回った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	全国の文化財担当者から寄せられる様々な分野の調査要請に的確に対応するとともに、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の多角的活用により新たな構造解析手法を生み出すなどし、目標を上回る論文数等や学会から一定の評価を得た発表等、所期の目標を上回る成果が得られているため。 28年度以降は調査・研究の一層の効率化を図ることで、さらに増加すると予想される要望に適切に応えられる体制を整えたい。また、能力の向上したマイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の多角的活用をさらに進めることで、より一層充実した調査・研究成果に繋げたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査･研究事業を順調に遂行できているうえに､所期の目標を上回る成果を挙げることができたため。中期計画の当初に想定していた以上の要請に対応するとともに､構造解析において独創的な分野を開拓するなど、めざましい研究成果が得られている。 28 年度以降は、年輪データの蓄積、マイクロフォーカスＸ線ＣＴ装置の多角的活用といった継続的かつ発展性のある調査・研究事業をこれまで以上に推進するとともに、発掘調査や建造物・美術工芸品の修理事業等にも即応できる体制をさらに充実することで研究に適時性をもたせ､従前の正確性を高めることで、質的にも量的にも豊かな成果を上げていきたい。また、そうした成果を論文等で公表することで、年輪年代学による文化財の調査の必要性と重要性について認知度を高めていく予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4241

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	動植物遺存体による環境考古学的研究（(2)－④）

【事業概要】

遺跡から出土する動植物遺体の調査を実施して、古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにする。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】

山崎　健(環境考古学研究室研究員)、松崎哲也（アソシエイトフェロー)、松井　章(客員研究員)、菊地大樹(京都大学人文科学研究所特別研究員 PD、客員研究員)、丸山真史(東海大学海洋学部講師、京都市埋蔵文化財研究所、客員研究員)、上中央子(客員研究員)

【主な成果】

震災復興事業に対する支援を行うとともに、各地の動植物遺存体の分析を進め、その研究成果を学会で発表した。また、研究の基礎となる標本を継続的に収集・作製するとともに、３次元計測による骨格図譜を公開した。

【年度実績概要】

・磯草貝塚（宮城県)、金井東裏遺跡（群馬県)、保美貝塚（愛知県)、藤原宮跡、興福寺（以上、奈良県)、和歌山城跡（和歌山県)、東名遺跡（佐賀県）などの遺跡から出土した動物遺体や骨角製品を分析して、発掘調査報告書を作成した。

・藤原宮跡大極殿院、平城宮東院地区、平城京跡右京一条二坊四坪、西大寺旧境内で、古環境復原の調査を行った。

・東日本大震災の復興事業に伴う調査を支援し、有機質遺物の現場マニュアルとして『現場のための環境考古学（携帯版)』を作成して、配布した。

・現生標本の収集と公開では、ウシサワラといった貴重な標本を作製するとともに、貝類目録を作成して刊行した。また、遺跡から出土することの多い哺乳類（ヒト、イヌ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、ウマ）の主要骨格部位について、三次元計測による立体的な骨格図譜を奈良文化財研究所のウェブページで公開した。

・研究成果の発信として、日本動物考古学会、日本人類学会、生き物文化誌学会などの学会で研究発表を行った。

・研究成果の社会還元や普及事業として、海外研究者を招いた環境考古学の講演会を開催した。



３次元骨格図譜の Web ページ

【実績値】

論文等数：8 件（①・②）
発表件数：7 件（③・④）

【備考】

論文

①山崎健「埋蔵文化財における動植物標本の現状と課題」『学術の動向』20-5、27.5
②山崎健「農耕開始期における漁撈活動の変化―伊勢湾奥部を事例として―」『日本考古学』39、27.5　ほか 6 件

発表

③山崎健「動物遺体から見た文化誌」生き物文化誌学会第 13 回学術大会、27.6
④山崎健・松崎哲也「宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体」日本動物考古学第３回大会、27.7　ほか 5 件

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 4241
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	B	B	B	B

判定理由
適時性：地方公共団体からの要請を受け、発掘調査や整理作業、報告書作成において環境考古学に関する協力や助言を行い、動物遺存体の分析も数多く担当した。また、現場マニュアルを配布して、緊急性の高い震災復興事業に伴う発掘調査を支援した。
独創性：非接触三次元レーザースキャナーによる現生骨格標本のデジタルアーカイブ化を実施した。とくに、遺跡から出土することの多い哺乳類の主要骨格部位について、三次元計測による立体的な骨格図譜を奈文研 Web ページで公開し、これまで行われていなかった標本活用方法を広く提供した。
発展性：幅広い時代や地域の動植物遺存体の調査研究を進めて、動植物利用の歴史を明らかにした。
効率性：一定の精度を確保しながら分析方法を工夫することで、緊急性を要する復興支援に対応しながら、全国からの調査研究の要請にも対応した。
継続性：研究の基礎となる現生標本を、継続的に収集・作製・管理した。
正確性：復興調査支援を含む地方公共団体からの多数の要請にもかかわらず、いずれの調査においても精度を確保して対応した。

２．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
評定	A	A				

判定理由
論文等数：当初の目標 2 件を大きく上回る論文等を、査読誌を含む刊行物上で発表した。
発表件数：当初の目標 2 件を大きく上回る発表を、学会や研究会において行った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	緊急性を要する復興支援に従事しながら他の地方公共団体からの要請にも応えつつ、幅広い地域や時代の動物遺存体の調査研究を進め、研究の基礎となる標本の収集を継続的に実施し、さらに、遺跡から出土することの多い哺乳類の立体的な骨格図譜を公開し、新たな標本活用方法を提供したことと、論文や発表の件数が目標を大きく上回っていることによる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間の最終年度にあたる 27 年度も、復興事業に対する支援を継続しながら、多くの学会や研究会などで講演や研究発表を行って、所期の目標を十分に達成している。また、これまで継続してきた三次元計測による立体的な骨格図譜を奈文研 Web ページで広く公開して、新たな標本活用方法を提供することで、一部、目標以上の成果も得られた。従って、所期の目標を十二分に達成しているといえる。以上のことを踏まえて、28 年度以降も現生標本の収集を進めるとともに、Web ページの更新・拡充を図る予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4311

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究((3)－①)

【事業概要】

博物館、美術館、図書館などの屋内環境におけるカビの予防、対策のみならず、寺社等の歴史的建造物や古墳環境などの屋外に近い、環境管理が難しい場所での制御方法についても検討を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	生物科学研究室研究員　佐藤嘉則

【スタッフ】

犬塚将英（主任研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、吉田直人（保存科学研究室長）、佐野千絵（副センター長）、岡田健（センター長）、小野寺裕子（研究補佐員）、藤井義久（京都大学教授・客員研究員）、間渕創（三重県立博物館学芸員・客員研究員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】

(1) 環境制御が難しい古墳環境において、浮遊菌の継続モニタリング調査をもとに設定した管理基準値を基に運用し、その効果や課題についての評価を行った。
(2) 博物館、美術館、図書館などの屋内環境において、保存環境の浮遊菌、付着菌、害虫生息状況を調査し、対策に関する基礎研究を実施した。
(3) 微生物の即時的なモニタリング手法として、新たな浮遊微生物分析機器を用いた評価手法の開発や ATP 測定法を応用した付着微生物量の評価手法の開発のための調査研究を実施した。
(4) 歴史的木造建造物を対象とした新しい殺虫処置である温風処理法についての基礎研究を実施した。
(5) フォーラムの開催、研修講師、寄稿を通じて、普及・教育活動を行った。

【年度実績概要】

(1) ある装飾古墳の観察室において、浮遊菌数で 1,000 生菌数/m^3 という数値を設定し、基準を超過した際に除菌清掃作業を行うといった、モニタリングと IPM に基づく対策とを連動させた管理体制を実践的に試行し、微生物制御が機能するかを調査したところ、これまでの曖昧な判断基準がより的確にかつ学術的に根拠のあるものとなり、管理手法に関する新しい考え方の一例を示すことができた。
(2) 博物館、美術館、図書館において、実際に虫菌害があった保存環境を調査対象とし、微生物及び文化財害虫の分布調査及びその対策についての検討を行い、近年の虫菌害被害の傾向と対策についての研究を進めた。被害事例の多くは、誤った IPM に基づく管理への変更（薬剤使用のみ中止）が発生原因であったことから、正しい文化財 IPM の教育普及が今後の継続的な課題として認識できた。
(3) これまでの培養に時間を要する微生物モニタリングでは、すぐに現状を把握することが不可能であったため、近年開発された即時性のある浮遊微生物分析機器を導入し、従来法との比較検討や適応可能性についての基礎研究を実施した。同様に、即時性のある ATP 測定法を応用した付着微生物量の評価手法の開発に向けた基礎研究を実施し、研究成果を学会や学術誌等で報告した。
(4) 虫害を受けた歴史的木造建造物において、化学薬剤を用いない環境低負荷型の温風殺虫処理法についての基礎研究を実施した。特に、処理が木材や彩色塗装に与える影響等について、試験用の試行装置を用いて基礎データを集積した。
(5) 臭化メチルの使用全廃 10 年に際して、文化財等の総合的有害生物管理（IPM）に関するフォーラムの開催（27 年 7 月）、文化庁主催の研修での講演（27 年 10 月、27 年 11 月の２回）、専門向け報告書（臭化メチル全廃から 10 年：文化財のＩＰＭの現在）や一般向け雑誌（機関紙『CLEAN LIFE』環境文化創造研究所）への寄稿を通じて、文化財 IPM の取り組みに関する教育普及を行った。
(6) 5 年計画の最終年度として、上記の成果を含む、これまでの調査研究成果を総括した報告書を刊行した。



古墳環境における微生物モニタリング調査

【実績値】

論文等　1 件（①）ほか 2 件、研究発表等　2 件（②、③）ほか 2 件、報告書等：2 件（④、⑤）、研究会：1 回

【備考】

① 間渕創、佐藤嘉則：博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の活用について、「保存科学」55、pp.103-113　28 年 3 月
② 佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、矢島國雄、木川りか：虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移、文化財保存修復学会 37 回大会、27 年 6 月 27 日、28 日
③ 小野寺裕子、小峰幸夫、木川りか：低酸素濃度殺虫法―25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討―、文化財保存修復学会 37 回大会、27 年 6 月 27 日、28 日
④ 「臭化メチル全廃から 10 年：文化財のＩＰＭの現在」、東京文化財研究所、27 年 12 月
⑤ 「文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究」、東京文化財研究所、28 年 3 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4311
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	A	A	A

判定理由
適時性：臭化メチルの使用全廃 10 年に際して、文化財 IPM に関するフォーラムの開催と研修での講演と専門向け報告書や一般向け雑誌への寄稿は、教育普及の点において、適時性があるといえる。
独創性：浮遊菌数で一定の基準値を設定し、基準を超過した際に除菌清掃作業を行うといった、モニタリングと IPM に基づく対策とを連動させた管理体制は、従来のリスク評価に用いられてきた基準値の概念を変えるものであり、独創性のある成果の発信ができたといえる。
発展性：大型の木造建造物への温風殺虫処理法は国内でも例がなく、化学薬剤を用いないため環境低負荷型の殺虫処理法であり、昨今の地球環境問題への適応を鑑みると、その基礎研究は今後の発展性が高い研究課題といえる。実際の建造物で適応可能な段階まで、基礎研究成果が集積されており、今後の展開が期待される。
効率性：年度内の業務計画を綿密に立てたこと、反復的な作業を外部に委託し新規性の高い研究に時間的投資をしたこと、科研費など外部予算と連動させながら、客員研究員他の大きな協力を得る枠組みを構築したことで、少ない人員で効率よく成果をあげることができたといえる。
継続性：幅広い研究課題を展開しつつも、プロトタイプとなりうる事例や課題については、定期・継続的な調査等を行うことができた。ある古墳環境のモニタリング調査は、５ヵ年に渡り継続したことで一定の成果を得ることができたことから、継続性のある調査研究を遂行したといえる。
正確性：実験データや成果の取りまとめに際しては、単独で行うことはなく、複数のスタッフ間で十分に審議し、議論を経たものを公表することで、正確性と客観性が担保されるように努めた。

２．定量的評価

観点	論文等	研究発表等	報告書等	研究会		
評定	B	B	A	S		

判定理由
論　文　等　：所期の目標の通り、成果を報告することができた。
研究発表等：所期の目標の通り、成果を十分に発表することができた。
報 告 書 等　：研究会参加者のニーズに応じる形で、2冊の報告書を刊行することができた。これまでの調査研究成果を総括する上で、質及び量的に充分であり、所内外の関係者に有益な情報を提供することができた。
研　究　会　：博物館・美術館・資料館等関係者、大学関係者等200名の参加があり、所期の目標130人を遙かに上回り、有意義な研究会を開催することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	屋内環境におけるカビの予防・対策では、保存環境の浮遊菌、付着菌、害虫生息状況を調査し、対策に関する基礎研究を実施することができ、寺社等の歴史的建造物については、新しい殺虫処置である温風処理法についての基礎研究を実施し、今後の展開につなげた。古墳環境では、浮遊菌の継続モニタリング調査をもとに設定した管理基準値を運用し、その効果や課題についての評価を行うと同時に、即時的なモニタリング手法として、浮遊菌分析機器を用いた方法やATP測定法を応用した方法の開発のための調査研究を実施した。教育普及においても、フォーラムの開催、研修講師、寄稿を通じて活動を行った。以上から、所期の計画以上の成果をあげ、業務を遂行することができたといえる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化について、中期計画初年度の東日本大震災に伴う津波被災文化財等のカビ被害の基礎研究や初期対応の在り方について、国内外への論文成果の発信や国際シンポジウム等の開催などの成果をあげた。この間、継続して古墳環境における長期的なモニタリング調査を実施し、最終年度に合理的な対策を提案することができた点において、計画的に研究を遂行することができたといえる。また、教育普及においても、中期計画の最終年度に適時性のあるテーマでフォーラムを開催し報告書を刊行するなど、５ヵ年の研究成果などを計画的に発信することができたといえる。

【書式B/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4321

(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の保存環境の研究((3)－②)

【事業概要】

高温・低温など最近の異常気象は文化財を展示収蔵する施設内の環境にも影響を与え、様々な問題を生じている。環境データや材料の水分特性など基本的なデータを用いた環境シミュレーションを行い、文化財の保管環境を考慮した博物館の省エネ化に関する研究を行う。また、展示ケース等から放散する汚染ガス対策の研究を行い、文化財収蔵空間で使用可能な材料を選択する試験法の試案をまとめる。総合的に文化財の保存環境の向上に資する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　吉田直人

【スタッフ】

佐野千絵（副センター長）、呂俊民（客員研究員）、石崎武志（東北芸術工科大学教授・客員研究員）、北原博幸（トータルシステム研究所長・客員研究員）、間渕創（三重県総合博物館学芸員・客員研究員）、古田嶋智子（客員研究員）、石井恭子（研究補佐員）

【主な成果】

(1) ファン付テスト用展示ケースを用いて多チャンネル温湿度測定を実施し、シミュレーションとの整合性を検討した。
(2) ファン付清浄化ユニットを付けたテスト用展示ケースを用いて、吸着剤を利用した場合と、換気による場合の清浄化試験を行い、ガス濃度実測結果とシミュレーションから清浄化手法を比較検討し、検討手法を確立した。
(3) 展示ケースの空気環境清浄化に関する研究会を開催した。
(4) 本研究で得られた成果を国内の博物館・美術館等施設における環境改善に活用した。
(5) 中長期計画最終年度にあたり、報告書を作成した。

【年度実績概要】

(1) ファン付テスト用展示ケースによる多チャンネル温湿度測定とシミュレーションの整合性検討

・ファン付テスト用展示ケースを恒温恒湿室に設置し相対湿度に内外差を設けて、換気率を変えた場合、調湿剤を設置した場合のケース内の温湿度分布を実測した。またテスト用展示ケース内の気流を可視化し、解析し、シミュレーションとの整合性について検討した。
・換気率が上昇すると予想通りにケース外周の影響を受ける結果を得た。一方、予想を超えて、木質展示床の乾燥程度が、ケース内の相対湿度推移に影響を及ぼし、調湿剤の能力を定量的に検証する必要があることが新たにわかった。気流は設計したとおりに生じており、文化財周辺の流速を設計通りに抑えることができた。


ファン付展示ケース

・展示ケースにファン付ユニットを付設することで湿度調整、空気清浄化が行えることが明確になり、博物館等の文化財保存に有効な手段であることが実測とシミュレーションから判断できた。

(2) ファン付清浄化ユニットを付けたテスト用展示ケース試験とシミュレーションの整合性

・木質展示床をガス発生源とするテスト用展示ケース内で、ファン付清浄化ユニットに吸着剤を設置しケース内で空気を循環させ吸着剤により汚染物質を除去する清浄化方法と、ファンを利用して室内大気と交換し換気による清浄化を図る方法について、ケース内ガス濃度推移を実測した。また展示床を放散源に設定して、ケース内濃度推移についてシミュレーションを実施した。
・ケース内で空気を循環させ吸着剤により汚染物質を除去する方法が有効であることが分かった。また、室内大気が清浄であれば、換気による清浄化も有効であることが分かった。
・展示ケースの清浄化手法について定量的に検討でき、博物館等における文化財の保存に有益な成果が得られた。

(3) 研究会の開催

・「実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価」の研究会を開催し、放散ガスの種類と量、設置したファンによる気流性状、清浄化手法とケース内の濃度予測、清浄化事例と手法の提案について検討した結果を報告した(28年2月15日、発表者：4名、参加者数：135名)。

(4) 本研究で得られた成果を速やかに国指定文化財公開のための環境調査や環境改善のための助言に生かした。
(5) 27年度は中長期計画の最終年度にあたるため、23～27年度の研究成果報告書を作成した。

【実績値】

学会発表　3件（①、②、③）、論文発表　2件（④、⑤）、研究会　1回（⑥）、（参考値）報告書1件（⑦）

【備考】

① Tomoko Kotajima,Toshitami Ro,Chie Sano “Changing Gas Concentration in a Display Case using Low Emission Materials” 12th International Conference-Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments, 28年3月3-4日,バーミンガム
② 古田嶋智子、呂俊民、林良典、須賀政晴、佐野千絵：美術館博物館展示ケースの空気環境に関する研究　その2：実験用展示ケースの温湿度推移と分布、日本建築学会大会[関東]、27年9月4-6日、平塚
③ 佐野、古田嶋、呂：展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価、文化財保存修復学会大会、27年6月27日、京都
④ 呂、古田嶋、林、須賀、佐野：試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測、『保存科学』、28年3月
⑤ 佐野、古田嶋、呂：展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与、『保存科学』、28年3月
⑥ 研究会　「実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価」、28年2月15日、東京文化財研究所
⑦ 「文化財の保存環境の研究」23～27年度研究成果報告書、28年3月

【書式Ｂ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4321

（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	A	B	A

判定理由

適時性：重要な文化財は展示ケース内での保管が推奨されるが、相対湿度安定のために気密性が高くなるように作られた展示ケース内には文化財に影響を与える汚染ガスも滞留する。清浄化技術の提案と各手法の評価は博物館等からのニーズも高く、正確性の高い研究を実施できた。

独創性：これまでケース内で空気を循環させる目的で設置されたファンを、換気にも利用できるように提案し清浄化を試みた点で、新規性の高い研究を実施できた。

発展性：得られた成果は、改築・改修、設備更新等、文化財を守る建物や設備に幅広く応用可能で、成果は速やかに公開されており、国内全体の保存の状況を改善する研究成果とすることができる。

効率性：研究協力について公示して応募してきた展示ケース製作会社と共同し作った実験用展示ケースを用いて、製作会社の各種試験機器や設備も利用しつつ研究を実施した点で、時間的投資、人的投資、設備的投資いずれも効率が良く研究を実施できた。

継続性：展示ケース製作会社と共同で研究を進めることで、シミュレーションでネックとなっていたCADが利用でき、さまざまな条件設定でシミュレーションを行って、研究を継続した。

正確性：校正された機器、センサー等を用いて測定を行った。展示ケース内の濃度推移についてはサンプリングによる影響も補正しており、計測値の正確性は高い。

２．定量的評価

観点	学会発表	論文発表	研究会			
評定	A	B	A			

判定理由

学会発表：26年度までの研究成果及び27年度の研究成果を、内容に応じて選択した学会でいずれのテーマも１本以上を速やかに発表した。これまでの研究成果を総括する上で有意義な学会発表を行うことができた。

論文発表：27年度の研究成果をすみやかに公開しており、研究が効率的に実施された。

研 究 会：展示ケース製作会社との共同研究の内容を検討協議して研究会を実施した。博物館・美術館の学芸員への参加に加えて、公開性を重視し、建築会社、展示デザイン会社、吸着剤メーカー、展示ケース製作会社等の参加も多く、研究機関及び各社の専門家と質の高い有益な研究交流が達成できた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	博物館・美術館や文化財を保管する展示ケース等の保存上の問題点を、根拠となる測定データを実測から得るとともに、コンピュータシミュレーションも活用し、展示ケース内の濃度予測や清浄化技術の評価を確立し、段階的な清浄化手法の提案を行った。博物館等からの要求の高い清浄化技術について、正確に、かつ効率良く実施できた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画の最終年度として、温熱シミュレーション、展示ケース内汚染ガス濃度推移シミュレーション、気流解析を行い、整合性を確認し、提案した清浄化技術のバックデータを正確に収集できた。これらの成果は美術館・博物館の環境改善に役立てることができるため、研究成果をすみやかに、国内外の学会や研究会で公開し、当所の技術力を国内外にアピールするとともに、充実した基礎研究ができた。 次期中期計画では、照明の大転換を主題とした研究を進めるが、空気清浄化手法についてプロジェクト成果をまとめた「空気清浄化マニュアル」（仮）を提案し、研究会や研修等で成果普及を図る予定である。

【書式B/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4331

(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究((3)－③－ア)

【事業概要】

小型可搬型機器によるその場分析、及び非破壊非接触技術による診断・解析手法の確立と実資料への応用を行う。絵画や彩色文化財に使われている顔料・染料の同定や褪色の評価、あるいは金属製文化財の材質調査や腐食生成物の分析などに関する調査手法の確立を行い、調査結果の蓄積と成果公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

【スタッフ】

犬塚将英（主任研究員）、吉田直人（保存科学研究室長）、佐藤嘉則（研究員）、三浦定俊（文化財虫菌害研究所・客員研究員）、城野誠治（企画情報部専門職員）、佐野千絵（副センター長）、岡田健（センター長）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】

(1) 新たな小型可搬型調査機器の導入を図り、分析対象資料を拡大したその場分析を実施した。
(2) その場分析で得られた分析結果の信頼性を担保する目的で、分析精度向上に関する検討を実施した。機器の改良を図るとともに、分析用標準試料の整備、定量計算のための条件設定などを検討した。
(3) 科学的調査データの蓄積と解析を目的に、これまでに実施した絵画や工芸品等に関するデータ解析を進め、論文投稿・学会発表を行うとともに、調査報告書2冊を刊行した。

【年度実績概要】

5年計画の最終年度として、以下に示す成果を得た。

(1) 小型可搬型機器によるその場分析
- 可搬型の蛍光X線分析装置、X線透過撮影装置、可視分光分析装置、デジタルマイクロスコープなど複数の機器を活用し、四季花鳥図屏風（サントリー美術館）、万国絵図屏風（宮内庁三の丸尚蔵館）、平等院鳳凰堂内彩色（平等院）、等の彩色・構造調査を実施した。
- 新たに導入した可搬型FT-IRと他の可搬型機器を併用して、染織品（五島美術館、金沢能楽美術館など）の金属糸の材料・構造調査を行った。
- 新たに導入した可搬型イメージングプレート現像機を活用し、伊豆長八美術館、サントリー美術館等でX線透過撮影による構造調査を行った。



サントリー美術館でのX線透過撮影調査

(2) その場分析の高精度化
- 可搬型蛍光X線分析装置の安定性・安全性を向上させるために機器・架台の改良を行うとともに、染織品の金属糸分析のための標準試料の整備と高精度定量計算の検討を行った。
- 有機質材料のその場分析のために、可搬型FT-IR分析装置による標準試料データの蓄積を図った。
- 可搬型イメージングプレート現像機を用いて、高解像度X線透過撮影の検討を行った。

(3) 調査研究成果に関する報告書
- これまでに実施した絵画や工芸品等の調査結果に対し、論文2件、学会発表2件の公表を行った。また、これまでに光学調査を実施した重要文化財四季花鳥図屏風（サントリー美術館）、及び平等院鳳凰堂内彩色に関する光学調査報告書を刊行した。

【実績値】

論文等　　2件（①、②）
学会発表等　2件（③、④）
報告書等　　2件（⑤、⑥）

【備考】

論文等

① 武田裕子、早川泰弘：国宝「阿弥陀聖衆来迎図」の彩色材料に関する調査、保存科学55、28年3月
② 犬塚将英、早川泰弘：X線透過撮影による伊豆長八の作品の調査、保存科学55、28年3月

発表

③ 早川泰弘　城野誠治、三宅秀和：永青文庫所蔵　洋人奏楽図屏風の彩色材料調査、日本文化財科学会第32回大会、27年7月11日、12日
④ 神居文彰、早川泰弘、荒木恵信：国宝平等院鳳凰堂内　西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元，文化財保存修復学会第37回大会、27年6月27日、28日

報告書

⑤「四季花鳥図屏風　光学調査報告書」、28年3月
⑥「平等院鳳凰堂内　光学調査報告書」、28年3月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4331
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	A	A

判定理由
適時性：最先端の小型可搬型機器を的確に導入し、安全性向上への改善を加えながら作品調査へ適用した。
独創性：複数の小型可搬型機器を駆使した多面的な情報による作品の評価を行った。
発展性：美術史学・金属学・染織史学等における新たな研究展開が見込める。
効率性：少人数の研究体制でありながら、数多くの調査を実施し、目標値を超える研究成果を挙げた。
継続性：同一手法による調査を継続することで、多くの作品を同一の基準に基づいて比較検討できる。
正確性：複数の調査手法を取り入れ、機器のトレーサビリティーを確保することで科学的客観性を担保している。

２．定量的評価

観点	論文等	学会発表等	報告書等			
評定	B	B	B			

判定理由
論文等：研究成果が 2 件掲載され（保存科学誌）、目標値を達成した。
学会発表等：研究発表を 2 件行い（日本文化財科学会、保存修復学会）、目標値を達成した。
報告書等：研究調査報告書（非売品）を 2 冊刊行し、目標値を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査研究の質・量ともに所期の目標を達成した。基礎的研究から応用的研究に至るまでの幅広い研究を少人員で効率的に進めている。27 年度は中期計画の最終年度として、科学調査データの一層の蓄積を進めるとともに、研究成果の公開（論文投稿・学会発表及び調査報告書の刊行）を積極的に推進した。より高精度な調査を実現するために、調査機器や分析条件等についてさまざまな検討や改善を行い、作品を所蔵する博物館・美術館、社寺等からの信頼も高まっている。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本中期計画では、その場分析の高度化と研究成果の蓄積・公開に努め、他機関にはない小型可搬型機器の充実を図るとともに、調査報告書については 27 年度 2 冊、本中期計画では全 8 冊を刊行することができた。小型可搬型機器によるその場分析と、研究室内での精密機器による高精度分析の両者を高いレベルで実践している機関は他になく、当所の技術力・信頼性を向上することができ大きな成果があった。一方で、調査データや画像等の蓄積が着実に進んでいる反面、未公表の調査データも膨大に存在する。今後は所有する調査結果をできる限り公開することに努めるとともに、美術史学・金属学・染織史学等関連分野の研究者との連携を一層深め、科学的調査に立脚した新たな研究展開を模索していきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4332
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等（(3)－③－イ）

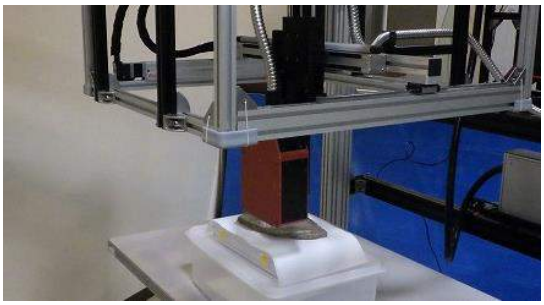
【事業概要】
ミリ波イメージング及びテラヘルツ分光イメージングにより文化財を対象とした測定に必要となるデータを収集するための基礎実験を行う。さらに、文化財に用いられている材料のテラヘルツ分光スペクトルの収集を行う。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美(以上、保存修復科学研究室研究員)、降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)

【主な成果】
新規に導入されたテラヘルツ波イメージング装置の試験測定を行い、文化財資料の測定を実施し画像を取得した。26 年度より引き続き収集した染料のテラヘルツ標準スペクトルの収集を行った。

【年度実績概要】
・国内で初めて生産されたテラヘルツ波イメージング装置に文化財の測定に使用できるよう改良を施した。
・　新規に導入し改良を施したテラヘルツ波イメージング装置を用いて、木材、漆喰、漆などの標準サンプルに対する試験測定を行い、性能の確認を行った。
・テラヘルツ波イメージング装置を用いて、中国内モンゴル自治区大召寺壁画片（フフホト市立博物館蔵）の測定を実施し、イメージング画像を取得した。
・26 年度より継続して収集していた染料の標準試料を用いて、染料のテラヘルツ標準スペクトルを収集した。



新規導入のテラヘルツ波イメージング装置
(ケーブルの取り回し、プローブの固定など文化財を測定するために改良を加えている。)

【実績値】
発表件数：4 件（①～④）
論文件数：4 件（⑤～⑧）

【備考】
発表
①犬塚将英・高妻洋成・杉岡奈穂子・福永香・碇智之「テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査」、文化財保存修復学会第 37 回大会発表要旨集、27.6.27-28
②金旻貞・高妻洋成「マイクロＸ線ＣＴを用いた絵画の層構造調査－層構造調査へのテラヘルツ波イメージング技法の基礎調査－、日本文化財科学会第 32 回大会、27.7.11-12
③高妻洋成「テラヘルツイメージング技術の文化財非破壊診断技術への応用」、2015 International Symposium on Consevation of East Asian Cultural Heritage in Nara、27.8.27-28
④高妻洋成・杉岡奈穂子・犬塚将英・福永香・建石徹「文化財・美術品への THz 波イメージング技術の応用」、一般社団法人レーザー学会学術講演会第 36 回年次大会、27.1.9-11
論文
⑤犬塚将英・高妻洋成・杉岡奈穂子・福永香・碇智之「テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造調査」、文化財保存修復学会第 37 回大会発表要旨集、27.6.
⑥金旻貞・高妻洋成「マイクロＸ線ＣＴを用いた絵画の層構造調査－層構造調査へのテラヘルツ波イメージング技法の基礎調査－、日本文化財科学会第 32 回大会発表要旨集、27.7.
⑦高妻洋成「テラヘルツイメージング技術の文化財非破壊診断技術への応用」、2015 International Symposium on Consevation of East Asian Cultural Heritage in Nara、27.8.
⑧高妻洋成・杉岡奈穂子・犬塚将英・福永香・建石徹「文化財・美術品への THz 波イメージング技術の応用」、一般社団法人レーザー学会学術講演会第 36 回年次大会資料集、28.1.

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4332
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由

適時性：絵画等の支持体および下地の層構造を有する文化財に対する非破壊調査法として開発され、劣化の進む壁画等の調査に有効な手段となりつつある。
独創性：漆喰壁画の下地および壁体表面の構造調査に適用し、画像の取得に成功した。
発展性：新規に導入した国産初のテラヘルツ波イメージング装置を用いることで、より安全で精度の高い計測とデータ解析が可能となり、さらなる解析手法の開発と可視化技術の向上が期待できる。
効率性：国産の装置を導入したことで、装置の維持管理が容易になり、細かな改良等の迅速な展開が可能となった。
継続性：テラヘルツ波イメージングの解析手法を改善したことで、壁画等の絵画の層構造に関するデータの蓄積が可能となり、継続的にデータを集積することが可能となった。
正確性：テラヘルツ波を利用することで、絵画等の支持体および下地の層構造を正確に可視化することができた。

２．定量的評価

観点	発表件数	論文件数				
評定	A	A				

判定理由
発表件数：目標値である発表件数2件を上回った。
論文件数：目標値である論文件数2件を上回った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新規に導入した国産初のテラヘルツ波イメージング装置を用い、さらに装置に改良を加えたことにより、壁画や絵画の下地などの層構造を正確に可視化し、それらのデータを継続的に蓄積することができるようになり、文化財の調査技術・解析手法のさらなる発展・効率化を図ることができ、さらに、26年度に目標として掲げていた、染料の標準スペクトル収集についても27年度に実施できた。また、発表・論文件数は目標を上回ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	26 年度策定した事業計画を予定通りに実施して、テラヘルツ波イメージング装置の改良と文化財への適用を実現できた。また、26 年度予定を変更した染料のテラヘルツ分光標準スペクトル収集も、27 年度は予定通り行った。以上のことから、今中期計画期間の事業は所期の目標を達成しているといえる。この様な成果を踏まえて、28 年度以降さらなる解析手法の開発と可視化技術の向上を図り、データの継続的な集積を進めていく予定である。

【書式B/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4341
(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究((3)－④)

【事業概要】
屋外に位置する木造建造物及び石造文化財を対象に、文化財劣化要因となる周辺環境の影響評価手法や劣化診断手法を確立する。また、木造建造物の修復材料について実験室及び現地曝露試験による評価を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】
早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、岡田健（センター長）

【主な成果】
(1) 石造文化財では、祇園橋（天草市）において天草砂岩製の石材の残存状況と周辺環境の影響に関する調査、大湯環状列石（鹿角市）など北東北の石造遺構のうち、既に保存処理された石材の保存状態に関する追跡調査などを実施した。
(2) 木造建造物では加賀市内神社（中嶋神社、稲荷神社）において材質の違いによる覆屋内環境と本体の保存状態の違いについて調査を終了した。
(3) 26年度までに得られた成果について論文及び学会発表を行った。

【年度実績概要】
(1)石造文化財の調査研究
・砂岩の劣化機構解明と周辺環境影響に関する調査（祇園橋）（調査日：27年6月24日）
祇園橋で見られる天草砂岩の劣化には、長崎出島でも見られた板状剥離に加えて蜂の巣状風化が主に視られる。周辺にある石切場でも調査を進めたところ、雨水が直接かからず蒸発が盛んな場所で石膏の析出が確認されるとともに、モース硬度やエコーチップ硬度計による硬度が低下するなど表面脆弱化がおきていることが確認できた。
・既修理物件の保存状態に関する追跡調査（寒冷地の石造遺構）
（調査日：27年5月26～28日）
石造文化財の修復事例として27年度は寒冷地の石造遺構をとりあげ、過去の保存修理およびメンテナンス手法、現況に関する調査を行った。調査地：大湯環状列石（鹿角市）、伊勢堂岱遺跡（北秋田市）、御所野遺跡（一戸町）。
(2)木造建造物の調査研究
・材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査（中嶋神社、稲荷神社）
（調査期間：24年10月～27年12月）
ガラス張りの透明な覆屋（稲荷神社）と従来からある木板の雪囲い（中嶋神社）で、覆屋内の温湿度・照度・紫外線強度の調査を、約1年分の比較可能なデータを取ることができ27年12月で終了した。


国指定史跡・伊勢堂岱遺跡で保存処理された後に露出展示が続けられている、環状列石を構成する石材

【実績値】
論文等：3件（①～③）
発表件数：4件（④～⑦）

【備考】
論文等
① 朽津信明、渡邉尚恵、佐多麻美、森井順之：屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究　『保存科学』55　pp.1-10　28年3月
② 朽津信明、久住有生、前川佳文、早川典子：漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察　『保存科学』55　pp.27-36　28年3月
③ Masayuki MORII: Monitoring system for preservation of the Usuki stone Buddha by volunteer and scientific supports　ISSM2015　pp.39-44　National Science Museum, Korea　27年10月
発表
④ 朽津信明、森井順之、犬塚将英、佐藤嘉則、日高翠、木川りか、尾崎源太郎、岡田健：石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査　文化財保存修復学会第37回大会　京都工芸繊維大学　27年6月27日
⑤ 朽津信明、森井順之、西山賢一：砂岩製文化財の表面風化形態について　日本応用地質学会平成27年度研究発表会　京都大学宇治キャンパス　27年9月24、25日
⑥ 森井順之：磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム専門家会議　奈良春日野国際フォーラム甍～I・RA・KA～　27年8月26日
⑦ Masayuki Morii, Shinobu Yamaji, Hironobu Ito, Takeo Yamamura and Tetsushi Toyoda：Reconstruction of the shelter for Buddhist image carved on tuff cliff　23rd ISCS Meeting, Edhinburgh　The British Geological Survey　27年5月20日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4341
（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
評定	A	A	B	A	B	

判定理由
適時性：既に樹脂等で強化された石造文化財は、次期修理において何をすべきかについて所有者・管理者の関心が高く、劣化要因及び保存環境に関する調査研究は常に求められる。
独創性：砂岩の剥離現象に対して周辺環境、特に水分移動に着目して劣化機構を解明しようとしているところに独創性が認められる。
発展性：材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査は、近年オリジナルを保存することが多い建造物の内外に描かれた壁画について、より良い保存環境条件の提案に役立つなどの応用性が期待できる。
継続性：屋外文化財の劣化状態と周辺環境の相関については、問題点の把握がより正確に行えるよう１年以上の調査期間を確保している。
正確性：覆屋内の環境については温度・湿度・照度・紫外線強度データロガーを用いた計測、剥離片の状態についてはエコーチップ、モース硬度、色差など規格化された手法により正確性を担保している。

２．定量的評価

観点	論文数	発表件数				
評定	A	A				

判定理由
論文数：26 年度までの研究成果を中心に論文にまとめられ、十分な成果公表ができたと言える。
発表件数：各種学会発表において屋外文化財の風化現象の解明やその対策について研究結果を発表し、当初の目標を十分に達成できたと言える。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	次期修理において何をすべきかについて所有者・管理者の関心が高い屋外文化財について、劣化要因及び保存環境に関する調査研究成果を出すことができた。特に出島旧石倉や祇園橋など、天草砂岩で見られる表面劣化機構の解明については高い独創性を有するとともに、材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査については、近年オリジナルを保存することが多い建造物壁画についてより良い保存環境条件の提案に役立つなど、応用性が期待できる研究を進めることができた。また、学会発表や論文等により、今まで得られた成果の公表も十分に行えた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	5 年計画の 5 年目として、まとめとなる研究成果を得ることができた。石造文化財については、天草砂岩の劣化機構の解明を行うことができ、とくに雨水と蒸発のバランスに関する考察については、類似した劣化現象が見られる他の文化財に研究を発展させていくことができた。材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査では、今後の保存対策に役立てるために十分なデータを得ることができた。また、今後につながる課題も多く見つけられた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4342
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財の防災計画に関する研究((3)－④)

【事業概要】
自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】
森井順之（主任研究員）、岡田健（センター長）

【主な成果】
(1) 宝積寺九重石塔（大山崎町）の修理に併せて、現在の三次元形状を解析するなかで、過去の倒壊や積み直しに関する様々な情報が得られた。
(2) 震災の痕跡を伝える震災遺構に関して、既存の事例として根尾谷断層（本巣市）や野島断層（淡路市）における取り組みに関して調査を行った。
(3) 26 年度に実施した石灯籠の振動台実験結果について発表し、成果の公表に努めた。

【年度実績概要】
(1) 宝積寺九重石塔（大山崎町）の修理にあわせた調査（調査日：27 年 4 月 21 日、6 月 5 日）
京都府指定有形文化財・宝積寺九重石塔は阪神淡路大震災のあと塔の傾きが大きくなったことから、周辺の立入規制をかけて安全対策を行っていた。保存修復科学センターでは以前に三次元形状計測を実施していたが、27 年度石塔が解体修理されることとなり、三次元形状計測データの拡充及び解体後の部材の調査を行うことができた。その結果、積み直しが複数回あったことや積み直し時に石材を当初と違う向きで設置していたことなど、傾きが生じた原因について明らかとなった。
(2) 震災痕跡の保存状態に関する調査（実施日：27 年 12 月 16 日、28 年 1 月 15 日）
東日本大震災の震災遺構について議論されているいま、保存方法に関して将来問い合わせがある可能性があるため、既に指定を受けている震災遺構の保存に関する調査を開始した。27 年 12 月は特別天然記念物根尾谷断層（本巣市）の断層崖トレンチ展示施設、28 年 1 月は天然記念物野島断層（淡路市）の断層保存館において調査を行った。根尾谷断層の断層崖トレンチ展示施設では施設完成後水害で水没しており、その後の水害対策などについて多くの知見を得た。また、野島断層保存館では断層崖を覆屋内で保存しているが、外光が入る場所でも現在では植物の発生が見られないなど、保存管理の効果を確認した。
(3) 26 年度研究成果の公表
26 年度実施した石灯籠実物大模型の振動台実験結果をまとめ、「石灯籠の地震対策に関する評価」として日韓共同研究報告書に掲載した。


宝積寺九重石塔の解体作業

【実績値】
論文等数　1 件（①）、発表件数　1 件（②）

【備考】
論文等
① 森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一：石灯籠の地震対策に関する評価　『日韓共同研究報告書 2015』pp. 59-70　東京文化財研究所／大韓民国国立文化財研究所　27 年 6 月
発表
② 安井佑佳、森井順之、中川貴文、花里利一：仏像の耐震対策に関する研究　EDEM を用いた実物大実験の解析　2015 年度日本建築学会大会学術講演会　東海大学　27 年 9 月 4 日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4342

（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
評定	B	B	B	B		

判定理由

適時性：東日本大震災における南三陸町防災庁舎などの震災遺構について、将来保存方法に関する問い合わせの可能性を見据え、既存の震災遺構の保存に関して理念や方法に関する調査を開始した。

独創性：石灯籠の地震対策については研究例が無く、本研究成果が今後の地震対策に与える影響は大きい。

発展性：石塔の解体修理で得られたデータは、五輪塔や層塔等多くの石造文化財に応用可能である。

継続性：東日本大震災において震災遺構の問題は長期化が予想されるなか、慎重に調査研究を進めた。

２．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
評定	B	B				

判定理由

論文等数：26 年度実施した実物大石灯籠の振動台実験の成果を中心に論文にまとめられ、十分な成果公表ができたと言える。

発表件数：以前に実施した乾漆像模型の振動台実験の結果について、数値解析による評価を行った結果について発表を行うことができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	阪神淡路大震災で傾きが大きくなったと言われる宝積寺九重石塔の調査から、石塔の構造安定性に関する様々なデータが得られ、他の石造文化財についても役立つ結果を得ることができた。また、東日本大震災関連では、2031 年まで宮城県が県有化をすすめている南三陸町防災庁舎など震災遺構の問題が出てきたことに対応し、既にある震災痕跡について保存の理念や展示方法について多くの情報を得ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究では、中期計画策定時に想定していなかった東日本大震災の発生を受け、災害発生時の対応とその結果への検証を経て、具体的な事例をもって将来にわたる防災対策の構築を行うことになった。その中で、被災地復興が長期化する中で、被災文化財一時保管施設の保存環境について有効な情報提供を行うことができた。また、これから問い合わせが予想される震災遺構についても、既にある震災遺構の保存理念や方法に関する系統立てた調査を開始した。石造文化財の構造安全性に関する調査では、26年度の実物大石灯籠を使った実験に加えて実際の石塔の解体修理で得られたデータなど、最終年のまとめとして多くの情報を得ることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4351
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究((3)－⑤)

【事業概要】我が国ではこれまで和紙、糊、膠、漆、顔料などの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これら文化財に使用される伝統技術及び材料や保存修理で使用する合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催する。

【担当部課】保存修復科学センター　【プロジェクト責任者】伝統技術研究室長　北野信彦

【スタッフ】朽津信明（修復材料研究室長）、吉田直人（保存科学研究室長）、早川典子（主任研究員）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（生物科学研究室研究員）、佐野千絵（副センター長）、本多貴之（明治大学理工学部専任講師・客員研究員）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長）

【主な成果】

27 年度は中期計画の 5 年目の最終年度にあたり、表装裂資料のデータベース化を終了させるとともに、文化財建造物の塗装彩色調査と修理に関する基礎資料の蓄積を図り、その調査実績を各所における塗装修理作業に役立てた。これまでの塗装彩色に関する調査報告の英文翻訳版を作成した。27 年度の研究テーマとして、建造物塗装修理材料としての日本産漆に関する研究会を開催した。また、本プロジェクトの取り組みと同じ理念と方法で実践している韓国国立文化財研究所の復元技術研究室の研究員の来訪を受け、それぞれの取り組みを報告する研究交流会を開催した。

【年度実績概要】

(1)平成 21 年度から継続して進めた表装裂資料のデータベース化を終了させ、広く利用できるような目録を完成させた。

(2)文化財建造物に使用する漆塗料の劣化状態の調査に関する悉皆調査を進めるとともに、Py-GC/MS 分析による塗装材料の性質の調査を行った。このような調査実績を日光東照宮陽明門、輪王寺三仏堂、旧鶴岡警察署庁舎などで実施されている塗装彩色修理の施工作業に役立てた。

(3)研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積して作業を完了させた。

(4)本プロジェクトが取り組んできた文化財建造物の旧塗装彩色の調査と修理協力に関する研究会内容を纏めた和文ブックレット刊行物『建築 文化財における塗装材料の調査と修理』『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』の英語版の完全原稿を作成し、作業を完了させた。

(5)「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」として、28 年 1 月 26 日（火)に「第 9 回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会」を開催した（於当研究所)。報告：1. 文化財建造物の塗装彩色修理と漆塗装：北野信彦（東京文化財研究所)、2. 文化財建造物への日本産漆 100%使用に向けて：清永洋平(文化庁)、3. 岩手県浄法寺における漆生産の現状と課題：中村裕（日本うるし掻き技術保存会)、4. 日光東照宮修復の歴史と日本産漆の使用：佐藤則武（日光社寺文化財保存会）5. 総合討論

(6)「日韓における文化財建造物の塗装彩色研究の動向」として、27 年 10 月 20 日（火）に日韓文化財研究交流協議会を開催した（於当研究所)。報告：1. 日本における塗装彩色の歴史と修理に向けた取り組み：北野信彦（東京文化財研究所)、2. 韓国における丹青の研究動向：鄭 惠泳（韓国文化財研究所)、3. 韓国の漆の研究現状：張 誠允〔韓国文化財研究所〕：4. 総合討論



文化財建造物における漆塗装の劣化状態調査

【実績値】

発表数：報告書 1 冊 (①)、論文数 2 件（②、③)、研究発表件数　2 件（④、⑤)
研究会数：2 回 （参加者数：日韓文化財研究交流協議会 24 名、文化財における伝統技術及び材料に関する研究会：36 名)

【備考】

① 『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書 2015 年度』東京文化財研究所、28 年 3 月 24 日
② 北野信彦：陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巣籠鶴」の科学調査、大日光 85、p. 20-27、日光東照宮、27 年 8 月 31 日
③ 北野信彦：当世具足の塗装技術に関する科学調査、甲冑武具研究 191、p. 2-24、日本甲冑武具研究保存会、27 年 8 月 31 日
④ 北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫：日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査、第 37 回文化財保存修復学会、京都工芸繊維大学、27 年 6 月 27 日
⑤ 北野信彦、犬塚将英、本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年：日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理、第 37 回文化財保存修復学会、京都工芸繊維大学、27 年 6 月 28 日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4351
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	B	A

判定理由
適時性：日光東照宮陽明門、旧鶴岡警察署庁舎などの文化財建造物で実施されている塗装彩色修理施工、27 年 2 月 24 日の文化庁文化財部による「国宝・重要文化財（建造物）の塗装修理における漆の使用方針について（通知）」に関連した漆塗装の劣化悉皆調査を実施し、文化庁の施策に貢献した。
独創性：過去の塗装材料や彩色材料の調査方法として、Py-GC/MS 分析法をさらに応用して、日光東照宮陽明門東壁壁画の油彩画修理への協力、近代建造物塗料に関する調査を進め、当該分野に寄与することができた。
発展性：本プロジェクトでは特に風雨に晒されて劣化が著しい文化財建造物の塗装彩色の修理や、脆弱な漆塗料や有機質材料を伴う複合材料の資料を研究対象としている。これらの材質・技法に関する分析調査やその結果を考慮した手板試料の劣化促進実験を伴う基礎調査結果の蓄積は、今後国内のみならず、韓国などの海外においても同様の劣化が著しい文化財の保存修復方法の策定処に応用できるものと考える。
効率性：これまで開発した分析手法は、基本的には現有施設と人員を使用することで比較的多くの分析試料について短期間に結果を導き出すこと、この結果を実際の保存修復作業の現場にも生かせることを確認した。
継続性：実際の文化財建造物における塗装彩色修理は、タイトな期間内に比較的安価で効率よく、最大の効果を持って実施することが求められる。本プロジェクトの成果は幾つかの修復の現場の作業に効率よく反映させており、このアプローチ法を広く定着させる人材育成プログラム策定に寄与することが可能である。また、表装裂資料のデータベース化を 7 年間継続して進め、完了することができた。
正確性：本プロジェクト研究については、多方面の分野の研究者や技術者が係わっており、絶えず意見交換を行って正確性を高める努力をしている。特に調査結果を実際の国指定文化財である文化財建造物の塗装彩色修理などの施工に反映させる場合には、各種専門委員会に諮問した上で施工に適応されるシステムが構築されている。

２．定量的評価

観点	発表数	研究会				
評定	A	B				

判定理由
発表数：報告書 1 冊刊行、論文 2 件、研究発表 2 回を実施し、中期計画最終年度に、これまでの研究を総括的に公開する場として、所内外の関係者に非常に有用な発表を数多く実施できた。
研究会：2 回開催し、当初計画の通り達成することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財建造物に使用する屋外塗装や彩色材料の歴史資料に関する調査研究や物性･耐候性試験を行い、実際の塗装修理の現場の施工に役立てた。絹などの表具裂見本のデータベース化、文化財の修復材料などに関して有益な基礎的知見を収集することができた。さらにこの成果の一部を研究会や通じて公表するとともに今後広く当該取り組みを海外にも伝える英文翻訳も実施して目標値を満たしたのでＢと判断した。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本プロジェクトで実施している手法や調査結果が修理現場で応用される事例が増加している。そのため、中期計画で実施した取り組みは有効性があることが明らかになった。すなわち、中期計画の目標を達成したといえる。

【書式B/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4352

(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化財修復材料の適用に関する調査研究((3)－⑤)

【事業概要】文化財修復においては、使用する材料及び手法の適切な適用が修復後の作品の状態を大きく左右する。本プロジェクトでは、文化財の種類を問わず修復に用いられる材料について、修復現場での具体的な使用を念頭に材料の分析及び評価を行い、個々の材料について分野にとらわれず横断的な研究を行うことで、最適な使用方法や使用条件の確立を目指す。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室研究員）、佐野千絵（副センター長）、岡田健（センター長）、本多貴之（明治大学講師・客員研究員）、酒井清文（客員研究員）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、山下好彦（任期付研究員）、大河原典子（鎌倉女子大学講師・客員研究員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】
(1) 絵画修復材料に関する化学分析、クリーニング方法の検討実験を行った。
(2) 建造物等修理材料の現地曝露試験とその評価を行った。
(3) 工芸品の調査として、染織品及び漆芸品についての調査・分析をし、評価方法について検討した。

【年度実績概要】
(1)　絵画修復材料に関する科学分析及びクリーニング方法の検討実験
・ 過去に文化財に使用されたセロテープの除去を目的として、強制劣化試験及び各種溶媒による除去方法の検討を行った。また、酵素による合成樹脂の除去について、現場適用と同時に従来の材料との併用方法についても検討した。
・ 日本画で見られる緑青焼けについて、裏打ち紙の分析を行うことで劣化の状態を確認した。緑青焼け部分からは対照試料よりも有意に銅イオンが検出され、紙のセルロースへの関与が明示された。
・ 文化財修復に用いられるフノリについて調製条件による物性の差異を科学的に評価し、特に水の硬度による影響について重点的に研究を行った。
(2)　建造物等修理材料の現地曝露試験とその評価
・ 厳島神社において、大鳥居修理材料について現地曝露試験を行い、28年度における修復に使用するために適切な材料の選択を行った。さらにそれら材料の改良及び評価試験を継続中である。
・ 臼杵磨崖仏で現地に設置している石材の修理材料について、剥離強度試験を乾燥条件及び湿潤条件下で行い、適切な使用方法の検討を行った。
(3)　工芸品の評価方法についての検討
・ 染織文化財について、地入れに使用されたタンパク質の存在の有無を非破壊分析できることを確認した。また、各種染料の可視光スペクトルの基礎測定を行った。
・ 漆文化財については、硬化性の改良を検討した。銅触媒を用いることで、硬化性を失った漆を同じ反応機構で硬化させることに成功した。また、温湿度条件に関しても、従来よりも低温や低湿度などの環境で硬化することを確認した。


染織品の分析

【実績値】
論文　1件（①）、発表　11件（②-⑫）、報告書1件

【備考】
論文
① 小川歩、早川典子：テトラクロロ銅（Ⅱ）酸カリウム二水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討、保存科学55号、pp.11-26、28年3月

発表
② Noriko Hayakawa: Scientific Approaches for Adhesives in the Conservation of Japanese Paintings, The Institute of Conservation, University of London, 27年4月9日
③ 早川典子、大村卓也、原由宇稀、楠京子、貴田啓子、本多貴之：フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響-温度・種・水の硬度-、文化財保存修復学会第37回大会、京都工芸繊維大学、27年6月28日
④ 酒井清文、楠京子、早川典子、山中勇人、川野辺渉：ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響、文化財保存修復学会第37回大会、京都工芸繊維大学、27年6月28日
⑤ 小川歩、山下好彦、早川典子：麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用、日本文化財科学会第32回大会、東京学芸大学、27年7月11日-12日
⑥～⑫Keiko Kida, Yasuhiro Oka, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa: Effect of malachite corrosion on the moleculer weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk, 10th International Symposium on Weatherability, 27年7月2日　　ほか6件

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4352
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	B	A

判定理由
適時性：現在実際に修復されている作品に即し、即時性・緊急性の高いテーマ設定をしており、必要性・公共性が高い研究を行った。また、国際学会においても成果を報告し、かつ国内材料と海外の材料の比較についても現地調査をし、国際性の高い成果を得ている。
独創性：修復材料に関しての科学分析を現地調査と常に緊密に関連付けながら遂行しており、従来にはない視点で研究を進めることができている。
発展性：文化財の修復材料を横断的に扱うことで、俯瞰的・網羅的に研究を遂行できており、材料同士の相関のみならず文化財修復全体を視野に入れて発展させていくことが可能になる。
効率性：所内の横断的なメンバーにより研究を分担し、他機関からの調査派遣依頼等に基づき研究を推進しており、効率よく推進することを可能とした。
継続性：文化財修復材料に関する基礎的研究と現場への適用研究との両者を連携づけ、十分な成果を得られている。
正確性：複数の分析手法、多岐にわたる修復材料を網羅し、科学的客観性を確保している。

２．定量的評価

観点	論文件数	発表件数				
評定	B	B				

判定理由
論文件数：雑誌『保存科学』に、修理技術者の技術と材料に関する報告を掲載し、目標の件数を達成した。
発表件数：膠、豆糊、和紙、クリーニング方法について文化財修復学会で報告し、さらにイギリスIconやマテリアルライフ学会等において発表し、目標の件数をクリアした。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財修復に使用されている材料について、広範囲に網羅した研究を行い、それぞれについて科学的な分析評価を行うことで現場での問題点を具体的に解明し、かつ改善方法について提示することができた。実際の修復現場で、これらの成果が具体的に活用され始めており、基礎研究を遂行しながら、具体性、発展性の高い研究を行うことができており、今後は、さらに修復現場における適用性の高い研究へと発展することが可能である。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき、文化財修復現場での適用を念頭に材料の精査を遂行できている。また、27 年度は材料のみならず修復現場で材料に関連した技術や、材料の劣化現象の解明等まで含めて成果を得ており、26 年度よりも研究を深めることができている。 中期計画最終年度である 27 年度において、その成果についての報告書も刊行した。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4361

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	近代の文化遺産の保存修復に関する研究((3)－⑥)

【事業概要】

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	近代文化遺産研究室長　中山俊介

【スタッフ】

朽津信明（修復材料研究室長）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、石田真弥（アソシエイトフェロー）、佐野千絵（副センター長）、小林芳妃（研究補佐員）、山府木碧（研究補佐員）、小堀信幸（船の科学館・客員研究員）、横山晋太郎（客員研究員）、長島宏行（日本航空協会・客員研究員）、堤一郎（中央大学非常勤講師・客員研究員）

【主な成果】

(1) 産業遺産の保存と修復：産業遺産の保存理念と修復理念に関して、海外事例も含めた各種産業遺産の現地調査を行い、その結果をもとに研究会を実施した。
(2) 屋外展示物：屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機等の文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外曝露試験を行い、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。
(3) 建造物・構造物：佐渡金銀山遺跡、長崎県端島（軍艦島）、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉、原爆ドーム、足尾銅山遺跡等、史跡指定地内に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。
(4) 報告書：26 年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

【年度実績概要】

(1)産業遺産の保存と修復：
・産業遺産の保存と修復に関する理念の研究を目的として専門家と共同で調査研究を行った。また、海外の専門家を招き、28 年 1 月 15 日に産業遺産の保護に関する保存・修復理念についての研究会を開催した（於東文研）。国内の専門家を交え、報告と討論を実施し、成果を挙げることができた。
・フランス及びイギリスにおいて、産業遺産の保存と修復に関する現地調査を実施した。

(2)屋外展示物：
・屋外展示されている鉄道車両や航空機などの、金属を主体とする文化財の防錆対策のために試験片を作成し、日本国内の 6 ヵ所において曝露実験を実施し、塗装の劣化と屋外環境との相関について調査を実施した。

(3)建造物・構造物：新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市韮山反射炉、山口県萩市の反射炉や長崎県長崎市端島(軍艦島)、原爆ドーム、更には足尾銅山跡の各施設等、史跡指定地内の建造物や構造物の保存と修復に関する現地調査を実施し、現状を把握するとともに、具体的な修復手法に関する討論を実施した。

(4)報告書：26 年度実施した研究会『洋紙の保存と修復』をまとめた報告書及び 25 年度発行した『テキスタイルに関する保存と修復』の英語版を制作し配布した。

(5)その他：航空機関連の設計図面、明治後期から大正期・昭和初期にかけて記録された関連資料などの保存の一環としてデジタル化を行うなど貴重な資料を後世に遺すべく現地で状態を調査し保存手法の研究を実施した。また、無形文化遺産部と共同で技術の伝承に必要となる道具の保存に関する調査研究を実施し研究会にて発表した。

【実績値】

論文等　3 件（①～③）、発表件数　5 件（④～⑧）、報告書刊行数　2 件（⑨、⑩）

【備考】

論文等
①中山俊介：洋紙の保存と修復、洋紙の保存と修復、pp. 5-10、28 年 3 月
②中山俊介：近代文化遺産としての道具の保存、無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書、pp. 47-52、27 年 9 月
③中山俊介：道具の保存と活用、無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）報告書、 pp. 7-13、28 年 3 月

発表
④中山俊介：近代文化遺産の保存理念と修復理念、近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会、東京文化財研究所、28 年 1 月 15 日
⑤中山俊介：近代文化遺産の保存と修復について、シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義」、東京大学安田講堂、27 年 7 月 28 日
⑥中山俊介：(基調報告)近代文化遺産の保存と修復−産業遺産を中心に−、全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会 2015 愛知研修大会、勝川パレッタ会議室、27 年 11 月 6 日
⑦中山俊介：道具の保存と活用、無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）、東文研セミナー室、27 年 11 月 11 日
⑧中山俊介：「韮山反射炉本体の修復に向けて」、第 5 回伊豆の国市世界遺産シンポジウム、韮山時代劇場大ホール、28 年 3 月 5 日

報告書
⑨『洋紙の保存と修復』、東京文化財研究所、28 年 3 月
⑩『Conservation and restoration of modern textile』、東京文化財研究所、28 年 3 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　4361
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	独創性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：産業遺産が続けて世界遺産登録される中、保存や修復の理念がきちんと確立していない現状を踏まえ、保存や修復理念の確立及び手法や材料の研究を積極的に行った。
独創性：これまで確立されていない産業遺産の保存や修復に関する理念について、国内外の産業遺産についてその保存と修復手法に関する調査研究を実施することができた。
発展性：産業遺産の保存と修復はこれからますます事例が増えることが予想され、保存及び修復理念を早期に確立し、現場における適要が期待される。
効率性：テーマを絞ることで高い専門性を持った研究者や技術者との交流も生まれ今後の情報収集にも大いに寄与する体制が構築できた。
継続性：屋外保存された金属製文化財の維持に最も必要である塗装の耐久性及び防錆効果に関する研究のために行っている曝露実験は長期にわたる金属製文化財保存の維持に貢献する。
正確性：これまでに実施した現地調査の結果、現場にて劣化状態を観察し、これまでに得た知見・知識をもとにそれに適した修復手法の選択を行った。

２．定量的評価

観点	論文等	発表件数	報告書刊行数			
評定	B	B	B			

判定理由
論文等：洋紙の保存と修復に関する論文と無形文化遺産部と共同で研究を実施した技術の伝承に関する道具の保存に関する調査の論文などを発表し、当初計画の目標を達成した。
発表件数：27年度調査した産業遺産の保存と修復理念に関する調査結果、また、技術伝承に必要となる道具の保存に関する調査、航空機の保存に関する調査結果などの成果を4件発表し当初計画の目標を達成した。
報告書刊行数：洋紙の保存と修復に関する調査研究成果をまとめた報告書及び26年度に刊行したテキスタイルの保存と修復に関する報告書の英語版の2冊刊行し当初計画の目標を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	近代文化遺産の保存・修復と活用について、各種の現地調査を実施することができた。その現地調査を通じて、現状の把握、解決すべき問題点等も新たに把握することができた。世界遺産登録された国宝富岡製糸場、史跡高島炭坑跡等産業遺産の保存と修復に関してその理念に注目しながら現地を調査研究し、その結果に基づいて研究会を開催し多くの貴重な知見を得ることができ、また新たなる研究者との連携も可能となった。また、無形文化遺産部と共同で実施した技術伝承に必要となる道具の保存と活用に関しての調査研究では、必要とされる道具の製造を取り巻く環境が非常に厳しい時代となっていることが明らかになり、何らかの手だてを講じる必要があることが確認されたのと同時に、既に文化遺産と位置付けられるような道具に関して、保存していく手法の模索が必要であることも確認された。更に今後の修復材料の開発、修復技法の開発に関する重要な成果を得ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	産業遺産の保存理念と修復理念に関する調査研究及び研究会を通じて今中期計画の５年目として当初の計画とおり調査研究を順調に遂行することができた。それに加えて屋外保存されている金属製文化財の保存手法の調査研究、技術伝承に必要となる道具の保存と活用に関する調査研究を実施し現状を把握することができた。28 年度から始まる新たな中期計画に向けて、産業遺産の保存と修復理念等の調査研究をさらに深めていく必要がある。それとともに、近代文化遺産の特徴である、多種多様な材料に関する基礎的な調査研究も続けていく必要がある。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 4411

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力((4)－①)

【事業概要】我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施し、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（副センター長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、吉田直人（保存科学研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、酒井清文（客員研究員）、宇高健太郎（日本学術振興会特別研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、加藤雅人（国際情報研究室長）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、楠京子（アソシエイトフェロー）、大河原典子（鎌倉女子大学講師・客員研究員）、前川佳文（絵画保存修復士・客員研究員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】
クリーニング効果の期待できる酵素群の利用に関する研究を継続実施し、キトラ古墳壁画では漆喰の再構成のための修復材料の検討を行った。修理施設の生物・温湿度環境モニタリングを行ない、安全な保存環境の維持を図った。劣化原因調査で採取された両壁画由来の微生物株について整理と公的機関への寄託についての準備を行った。高松塚古墳壁画の色料について、奈良文化財研究所と共同で調査を行った。

【年度実績概要】
○高松塚古墳壁画
・生物・環境調査：修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量、また温湿度推移のモニタリングを継続し、安定した保存環境の維持に努めた。また、適切な空調制御方法を検討するための、現状のプロセス解析を行うシステムを構築した。
・高松塚古墳の微生物分離株を保存していくため、菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルの作成を進め、公的機関への寄託を開始した。
・修復研究：壁画のクリーニング方法として、酵素の使用方法に関して、現場での作業性の向上を検討し、適用した。また、表面の再結晶部分についての継続的な確認も行っている。
・材料技法調査：色料の分析調査を継続的に実施している。奈良文化財研究所との共同によって可視反射スペクトル測定等を行った。
○キトラ古墳壁画
・生物・環境調査：キトラ古墳に由来する微生物株についても、高松塚古墳由来の微生物株と並行して、基本台帳と DNA シークエンスデータファイルの作成を進め、公的機関への寄託を開始した。
・修復研究：漆喰の再構成を行うために、修復材料の検討を行った。28 年度の展示公開に向けて、最終的な色や再構成手法の確認を行った。また、表面のクリーニングのために酵素の使用を検討し、汚れの状態によって異なるクリーニング手法を適用することを確認し、現場適用をした。
・材料技法調査：これまでに取得した可視反射スペクトルデータ等の整理、解析を行った。
○その他
・27 年 10 月 31 日～11 月 8 日に実施された文化庁による国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して研究員（4 人）を派遣し協力した。
・福岡県うきは市所在の装飾古墳群での環境観測を継続した。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、27 年 5 月 14 日、9 月 17 日、11 月 30 日、28 年 2 月 23 日の 4 回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

【実績値】
研究報告 1 件

【備考】
学会発表 1 件
木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹：キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間（16 年～25 年）の微生物相と考察、日本文化財科学会第 32 回大会（H27.7.11-12 東京学芸大学）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 4411
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	適時性
評定	B	B	A	B	B	B

判定理由
適時性：石室が発掘された 16 年度から埋め戻しされた 25 年度までのキトラ古墳内微生物相の推移について取りまとめた結果を学会発表するなど、作業の進展状況の精査、記録、公表を適切に行った。
独創性：両古墳の石室等から採取された微生物株は、今後の古墳環境における生物劣化研究に資する重要な資源であり、将来に残し、活用するために公的機関への寄託を開始した。
発展性：酵素によるクリーニング手法の開発など、他の文化財への応用が期待できる。
効率性：害虫、微生物、温湿度のモニタリングを継続することにより、問題点の迅速な発見と対処を行うことができ、安定した環境の維持を実現した。
正確性：客観的な調査データをもとに適切な材料選択を行い、修復作業に反映させることができた。

２．定量的評価

観点	研究報告					
評定	B					

判定理由
微生物調査結果に関する重要な成果の公表を1件行った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	両古墳壁画の文化財としての価値を守り続けるために必要な調査研究を継続して行ない、またその成果を適宜公表してきた。 材料調査と修復作業との連携、修理施設の環境改善に関する文化庁・奈良文化財研究所との連携、将来における高松塚古墳壁画の保存活用に向けての奈良文化財研究所の考古学調査との連携も適切に図られている。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	高松塚古墳壁画は「将来的には、カビ等の影響を受けない環境を確保した上で現地に戻す」という保存方針のもと、またキトラ古墳壁画は展示施設の完成を控え、着実に修復やそのための材料の検討が進んでいる。両壁画が保管されている高松塚古墳壁画修理施設において生物被害を防ぎ、また適切な温湿度を維持するためのモニタリングも継続し、安定した保存環境の実現に大きく寄与している。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4412
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力((4)－①)

【事業概要】我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施し、文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的な協力を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 玉田芳英

【スタッフ】
廣瀬覚、降幡順子、青木敬、林正憲(以上、都城発掘調査部主任研究員)、大谷育恵(考古第一研究室アソシエイトフェロー)、金宇大（考古第二研究室アソシエイトフェロー)、前川歩(遺構研究室研究員)、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長)、中島義晴（文化的景観研究室主任研究員)、高橋知奈津（遺跡整備研究室研究員)、高妻洋成(埋文センター保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、同研究員)、杉岡奈穂子(同アソシエイトフェロー)、辻本与志一(同客員研究員)、石橋茂登（企画調整部飛鳥資料館学芸室長）若杉智宏(同研究員)、井上直夫(同写真室再雇用職員)、栗山雅夫(同技術職員)

【主な成果】文化庁が進める国宝高松塚古墳壁画の保存・活用に関する事業が円滑かつ適正に遂行するよう協力した。キトラ古墳では、史跡整備にむけて、仮設保護覆屋解体作業の立会調査や解体後の記録作業を実施した。また、古墳の保存、活用、整備の方向性を検討にするにあたり、技術的な支援・協力を行った。

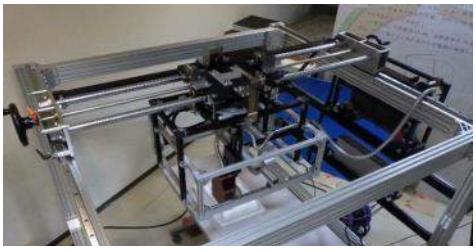
【年度実績概要】

○高松塚古墳

・石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、石室解体作業の選択型三次元動画作成を行った。また、目地漆喰の保管兼展示用の台座を作成は、①南壁石－東壁石 1 間、②北壁石－東壁石 3 間、③北壁石－西壁石 3 間の 3 点について、三次元レーザー計測で形状を記録し、同データを用いて作成した。また台座作成とともに、保管する際に漆喰の剥落および粉状化を防ぐため、漆喰表面に樹脂を塗布し仮強化処置を行った。
・壁画の保存修復（劣化原因）について、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、分光分析による顔料調査、試験板を用いた紫外線蛍光スキャニングの安全性評価などを実施した。
・石室解体に伴う発掘調査時の埋戻し、及び仮整備工事の状況に関する図面類、写真の整理・収集を行い、壁画修理後における整備の基本方針検討のための基礎資料を作成した。
・27 年 10 月・11 月の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際し、解説員として研究員（のべ 10 人）を派遣した。

○キトラ古墳

・発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、発掘調査の三次元動画作成準備を行った。
・墳丘整備前に墳丘部分、整備後には周辺地形も含め、三次元レーザー測量を実施し、記録化した。
・墳丘および周辺の整備工事に伴う立会調査を実施し、完成後に写真撮影を行った。
・墳丘および周辺の整備内容につき、助言を行った。
・国営飛鳥歴史公園(キトラ周辺地区)内に建設予定の体験学習館の展示内容につき、会議に 14 回出席し、資料提供と助言を行った。
・キトラ古墳天文図につき、国立天文台の研究者と共同研究を実施し、観測年代等につき、新たな分析結果を得た。その成果を基に飛鳥資料館で展示を行い、『キトラ古墳天文図星座写真資料』を作成、刊行した。
・報告書未掲載の出土遺物である骨片 19 箱分について、クリーニング、強化処置、接合などの保存処理を実施した。
・出土遺物の定期的な点検作業、環境モニタリングを実施した。


壁画保存修復のためのテラヘルツ測定予備実験

【実績値】発表件数：7 件（論文等 4 件①～③⑦、講演会等 2 件④⑤、展示 1 件⑥）

【備考】

①廣瀬覚「高松塚古墳の墳丘調査の意義－今後の調査・整備にむけて－」『第 26 回考古学研究会東海例会資料集』(28 年 2 月)
②犬塚将英・高妻洋成・杉岡奈穂子・福永香・碇智文「テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造」『文化財保存修復学会第 37 回大会研究発表要旨集』pp.332-333（27 年 6 月）
③Junko Furihata、「Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan」『UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings』(27 年 6 月)
④石橋茂登、齋藤正晴「古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ」中之島フェスティバルタワー12F アサコムホール（27 年 10 月 18 日）
⑤石橋茂登、井上直夫、髙柳雄一「プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～」多摩六都科学館サイエンスエッグ（27 年 11 月 8 日）
⑥飛鳥資料館『キトラ古墳と天の科学』(27 年 10 月)
⑦『キトラ古墳天文図星座写真資料』(28 年 3 月)

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4412
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	B	A	A

判定理由
適時性：キトラ古墳の整備・体験学習館の開館を 28 年度に控え、27 年度は立会調査および記録作業や展示内容に関する指導助言の実施等において、質量ともに従来を大きく上回った。
独創性：当研究所の独自性を活かし、保存科学、考古学の双方の立場から、壁画古墳の保存・整備・活用に助言を行った。また、キトラ古墳に関する調査研究の蓄積を活かし、飛鳥資料館における展示公開（特別展「キトラ古墳と天の科学」（27 年 10 月 9 日～11 月 29 日）を開催し、写真資料集を刊行した。
発展性：壁画・装飾古墳や緊急性を有する文化財の保存・活用に対する新たな方向性を示すことができた。
効率性：立会調査での指示等により、キトラ古墳周辺の整備作業を迅速に実施することができた。
継続性：整理作業・分析調査を継続的に遂行し、今後の高松塚古墳・キトラ古墳の保存・活用にむけ、貴重な成果を得た。
正確性：発掘調査の成果を再現動画の作成や古墳整備に正確に反映させることができた。特に 27 年度は、調査研究成果の蓄積を活かし、国立天文台と共同でこれまでとは異なる角度からキトラ古墳天文図の検討を行うなど、さらに正確な調査研究を進めた。

２．定量的評価

観点	論文数					
評定	B					

判定理由
発表件数：当初予定の 7 件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化庁の要請に基づき、随時、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用について、適切な技術的協力を行った。特に、キトラ古墳の整備・体験学習館の開館を28年度に控え、27年度はキトラ古墳周辺の整備活用に向け、質量ともに従来を大きく上回る立会調査、記録作業、専門的知識・技術に基づく協力等を実施した。また、調査研究の成果を講演会、展示、刊行物等によって積極的に公表した。27年度は特に、キトラ古墳天文図についての調査研究およびその成果の公表を国立天文台と共同で実施するなど、これまでの調査研究成果の蓄積に異なる角度から検討を加え、予想を上回る貴重な調査研究成果を得ることができ、その成果の公開活用も特に積極的に行った。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画の 5 年間における調査および技術的協力により、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用事業に迅速かつ適切に対応し、中期計画の目的を達成することができた。今次中期計画では、古墳の整備・公開・活用面に資する調査研究、技術協力、指導助言等を特に積極的に実施し、大きな成果を得た。高松塚古墳・キトラ古墳等の装飾古墳の保存・活用について、保存科学、考古学等の多方面から長年にわたり調査研究を実施してきた当研究所ならではの経験・蓄積を活かし、今後も引き続き次期中期計画を実施するための見通しを得ることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 4421

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力((4)－②)

【事業概要】国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の整備工事にともなう調査

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 玉田芳英

【スタッフ】

廣瀬覚、降幡順子、青木敬、林正憲、西山和宏(都城発掘調査部主任研究員)、和田一之輔（考古第一研究室研究員)、川畑純、清野陽一（以上、考古第三研究室研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、金宇大（考古第二研究室アソシエイトフェロー)、福嶋啓人(遺構研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(企画調整部写真室再雇用職員)、飯田ゆりあ(同アソシエイトフェロー)、高妻洋成(埋文センター保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、同研究員)、杉岡奈穂子(同アソシエイトフェロー)、辻本与志一(株式会社文化財保存・埋文センター客員研究員)、中島義晴（文化遺産部主任研究員)、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（同研究員)、石橋茂登（企画調整部飛鳥資料館学芸室長)、若杉智宏(同研究員)

【主な成果】

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の整備にともない、パネル内容や体験学習館の展示内容につき助言等を行った。また、整備工事に伴い発掘調査と工事立会を実施した。発掘調査地は 26 年度の飛鳥藤原 184 次調査区の南側にあたり、平安時代以降と推定される遺構を確認した。

【年度実績概要】

・国営飛鳥歴史公園(キトラ周辺地区)内に設置予定の解説パネルの内容につき、資料提供と助言を行った。
・国営飛鳥歴史公園(キトラ周辺地区)内に建設予定の体験学習館の展示内容につき、国土交通省飛鳥歴史公園事務所が行う会議に 14 回出席し（定例会 5 回、分科会 6 回、実行委員会等 3 回)、資料提供と助言を行った。
・公園予定地の整備事業にともなう発掘調査と工事立会を行った。

調査地は明日香村南西部の檜隈寺跡が所在する丘陵上に位置する。27 年度は、①飛鳥藤原第 184 次発掘調査区の南側にあたる檜隈寺周辺の発掘調査、②檜隈寺東方の雨水排水溝設置、檜隈寺北方の「情報案内施設」へいたる園路の設置、檜隈寺東南の「体験工房」周辺の舗装に伴う掘削、公園予定地内の植栽、電灯とベンチ設置、境界杭設置、以上の工事に伴い立会を実施した。

調査地：①(発掘調査)檜隈寺回廊の東南方。26 年度の飛鳥藤原第 184 次調査区の南側。
②立会檜隈寺東方の雨水排水溝、「情報案内施設」周辺の園路、「体験工房」周辺の舗装、公園予定地内の植栽箇所、電灯設置場所ならびに配電経路、ベンチ設置場所、境界杭設置場所
調査期間：27 年 6 月 15 日～28 年 3 月 18 日
調査面積：①18 ㎡　②4,527 ㎡
調査成果：発掘調査で調査区の北東部分で原位置から移動した礎石 1 点、平安時代以降の柵の柱穴 2 基を確認した。また、礎石が位置する調査区南壁際で礫と瓦を多量に包含する溝を確認した。
出土遺物：瓦、土器、礎石



発掘調査区全景 遺構検出状況(南西から)

【実績値】

調査日数　51 日
(参考値)
出土遺物　軒丸瓦 3 点、軒平瓦 2 点、丸平瓦 コンテナ 5 箱、礎石 1 点
記録作成数　遺構実測図 4 枚、写真(4×5)12 枚、デジタル写真 18 枚、デジタルメモ写真 632 枚

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　4421
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：28 年度開館予定の公園整備のパネルや展示施設に対し専門的な助言等を行った。また、発掘調査等により国営公園整備事業の事前調査として迅速に対応した。
独創性：公園整備・展示施設設置のために協力を行った。また発掘調査等により文献資料に乏しい檜隈寺について、発掘調査により新たな知見を得た。
発展性：今後の檜隈寺周辺の実態解明に対し、貴重な資料を得た。
効率性：緊急性の高い開発事業の事前調査として迅速に対応するため、最小限の人数と期間で必要な調査成果を得られるよう、入念な準備を行うとともに適切かつ効率的に調査を実施した。
継続性：公園整備に対する資料提供や助言を継続的に行った。檜隈寺周辺の全体像復元にかかわる継続的な調査を実施した。
正確性：今後の調査研究に資するよう、遺構・遺物の地域的・年代的特性を踏まえ、正確かつ的確な記録を作成した。

２．定量的評価

観点	調査日数					
評定	B					

判定理由
当初の計画通り、緊急性の高い開発事業に随時、適切に対応し、のべ51日間の発掘調査及び立会調査を行った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に対し、随時・適切な技術的協力を行った。奈良・平安時代における檜隈寺の歴史、檜隈寺周辺の実態解明について重要な資料を得た。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の５年間における、国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に対し、随時・適切に資料提供、専門的助言、技術的協力を行い、檜隈寺の全体像復元、歴史の解明に向けて貴重な資料を得るなど、中期計画の目標を着実に達成することができた。文献資料に乏しい檜隈寺周辺の研究の蓄積を加えることができた。

【書式B/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①)		
【事業概要】 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、併せて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。			
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀
【主な成果】 館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後・収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を学会・研究会・学術雑誌・ 書籍等に発表・公開した。			
【備考】 ・学会研究等発表件数：88 件 ・論文等掲載数： 103 件 ・小山弓弦葉工芸室長が、『「辻が花」の誕生―〈ことば〉と〈染織技法〉をめぐる文化資源学』(東京大学出版会、24 年 3 月刊行）により、第 12 回(27 年度)日本学術振興会賞と、第 12 回（27 年度）日本学士院学術奨励賞を受賞した。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	科学研究費の獲得により、調査研究を基礎とした研究成果を特集展示など社会的な関心に対応しつつ順次公開し、所蔵品の管理や展示・外部への貸出等研究以外の業務に多くの時間を割きながらも研究成果の蓄積を果たしており、過去に比べて遜色のない成果をあげている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	研究計画に基づき、順調に進捗している。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-2

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）特別調査「法隆寺献納宝物」（第 37 次）（(5)-①）

【事業概要】東京国立博物館では、法隆寺献納宝物について、昭和 54 年より、法隆寺献納宝物の調査を館内及び館外の専門研究者とともに共同で行ってきた。本事業は全ての研究者に対して、画像や概要など研究のための情報を提供することを目的とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀

【主な成果】

(1)前年に引き続き、古今目録抄の調査を実施し、報告書を刊行した。

・古今目録抄（聖徳太子伝私記）の翻刻のための調査を行った（27 年 8 月 25・26 日、12 月 10 日）
（客員研究員・奈良大学文学部教授　東野治之、早稲田大学文学学術院教授　新川登亀男）
報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 37　古今目録抄下表・裏』を刊行した。

(2)通年にわたって法隆寺献納宝物の染織品調査を行い、本格修理のための事前準備をすることができた。
（25 件）法隆寺宝物館で保管する上代裂のうち、「I-337-1　白地朝顔文描絵布襪残欠」（正倉院伝来）ほか 25 件について調査を行い、これに基づいて本格修理を行った。



「I-337-1　白地朝顔文描絵布襪残欠」修理前



修理後

【備考】

(1) 古今目録抄（聖徳太子伝私記）調査日数　3 日
報告書：『法隆寺献納宝物特別調査概報 37　古今目録抄下表・裏』（28 年 3 月 31 日発行）

(2) 染織品調査「白地朝顔文描絵布襪残欠」（正倉院伝来）ほか調査件数 25 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	法隆献納宝物の各種作品に関して、継続的な調査を実施することができた。また、古今目録抄については、計画どおり概報を刊行できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間中、法隆寺献納宝物の絵画、書跡、金工の各種作品を様々な観点から調査し、得られた新たな知見を概報刊行等により継続的に公表するなど、中期計画における「有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う」という観点を達成することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)　特別調査「書跡」第 13 回（(5)－①）

【事業概要】当館の収蔵品・寄託品の中で、奈良時代から江戸時代におよぶ書跡・典籍、古文書などを調査する。その成果は、総合文化展の展示や目録の刊行等によって公開しており、図版目録として『日本書跡篇和様 I』、『古写経篇』などを刊行している。27 年度は、法隆寺宝物館の未整理品調査で新たに見つかった 150 点余りの幡の芯板の中で、木簡を転用したとみられるもの、及び古写経などを対象とした。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋裕次

【主な成果】

(1) 新たに見つかった幡の芯板は、幡本体の上部に芯として入れられた板である。調査では、形状と大きさによって全てを分類し、墨書の有無などを確認した。その結果、10 点ほどに墨書が確認され、他にも切り込みなどから木簡状の木製品と考えられるもの、墨書がどうか要検討のものが数点あった。そこで、名称、制作年代、形状、形式、寸法、材質、文字等について調書を作成した。

(2) これらの木簡は、法隆寺献納宝物中に伝来する幡との関係や、その書風などにより、飛鳥時代末から奈良時代の前半にかけて制作されたと考えられる。したがって、伝来品としては、最古の部類に属する木簡として、古代の法隆寺の歴史を検討する上で、極めて貴重な資料であるといえる。



調査研究の様子

(3) 古写経は名称、制作年代、形状、寸法、奥書等、出典、料紙などの調査を行った。固着してほとんど開披ができない状態の 5 巻については、経文の書風などより、いずれも奈良時代 8 世紀の写経とみられるため、今後の本格修理によって、全貌を明らかにし、研究を進めて、展示・公開の向上に寄与する予定である。

【備考】
調査件数：幡の芯板 150 件、古写経 8 件
調査日数：3 日間
調査人員：のべ 24 名（東京国立博物館、九州国立博物館、奈良文化財研究所）
調書作成：37 枚

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各機関の同じ専門分野の研究者が集まることで、最新の研究成果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究の推進及び展示・公開に寄与するところが大きい。27年度は未整理の資料を対象として、詳細な調査を行い、所期の目標を達成できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って、計画どおり作品調査を実施することにより、研究を推進し、その成果が展示・公開の向上に寄与するという所期の目標を達成している。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)　特別調査「工芸」第７回（(5)－①）

【事業概要】東京国立博物館における文化財のうち、金工・陶磁・漆工・染織・刀剣・甲冑等工芸分野の特別調査。独立行政法人国立文化財機構の国立博物館 3 館及び文化庁・東京文化財研究所の工芸担当者が集まり、同じ専門分野の研究者が同時に作品調査を行う。複数の専門家の目で同時に同じ作品を調査することにより、精度の高い成果が得られる。また各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有できる。今後の研究の進展や、展示内容の向上に結びつけることを目的とする。なお、担当研究員の体調や他業務を鑑み、27 年度は陶磁・染織の調査会を行うこととなった。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1) 陶磁（27 年 8 月 7 日（金）～8 日（土）　2 日間）

京都国立博物館にて、文化庁が所蔵する日本・中国の陶磁器を含めて、3 館（東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館）が所蔵する作品の相互活用に関する調整・意見交換を行った。また、京都国立博物館所蔵の中国陶磁、及び近年寄贈となった松井コレクションの中国陶磁の調査を行った。調査点数は 2 日間でおよそ 50 点余り。参加者は、伊藤嘉章京都国立博物館副館長、降矢哲男研究員（京都国立博物館）、酒井田千明アソシエイトフェロー（九州国立博物館）、今井敦文化庁主任文化財調査官、三笠景子研究員（当館）　以上 5 名

(2) 染織（28 年 3 月 22 日（月）、30 日（水）、31 日（木）　3 日間）

東京国立博物館には、大倉集古館が所蔵する能装束・能道具が 217 件寄託されている。その多くは江戸時代中期から江戸時代後期の製作で、一部、安土桃山時代から江戸時代初期のものも含まれている。備前藩池田家がかつて所蔵されていた大名家の能装束として資料価値の高いこれらの資料の悉皆調査を 27 年度より 3 ヵ年行うこととした。27 年については、3 日間で 35 件を調査した。参加者は、遠山記念館学芸員・水上嘉代子氏（客員研究員）、共立女子大学教授・田中淑江氏（客員研究員）、東京文化財研究所・菊池理予研究員、工芸室長・小山弓弦葉、同研究員・三田覚之、同非常勤職員・宮本いづみ　以上 6 名



大倉集古館所蔵能装束の調査

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各機関の陶磁・染織の専門分野の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有し、議論を深めることができた。今後の研究推進及び展示公開に寄与するところが大きい。また分野ごとに分かれて作品調査を実施するため効率性も高く、相当数の作品を調査することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化庁及び京都国立博物館が所蔵する陶磁の各種作品を様々な観点から調査した。また、平成27年度に寄託を受けた大倉集古館所蔵の能装束調査を通して、大名家における能装束の実態についてさまざまな知見を得た。それらの調査成果を工芸史研究ならびに当館の展示に反映させるべく、中期計画の「有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）特別調査「彫刻」第5回((5)-①)

【事業概要】

社寺等所蔵の仏像、 神像彫刻を調査し研究報告論文活動に結び付け、あるいは寄託増加や特別展等の企画につなげて展示の質の向上を図った。

27年度は、東京国立博物館所蔵の法隆寺献納宝物のうち伎楽面（33点）の新規撮影を行うとともに、作品調査による研究会を開催し、宮内庁正倉院事務所及び文化庁の職員と意見交換を行い、活用の道を探った。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　丸山士郎

【主な成果】

(1)27年10月27日～29日、28年1月25日～26日の2度にわたり、伎楽面の新規撮影を行った（撮影：列品管理課登録室主任・藤瀬雄輔）。通常、法隆寺宝物館の展示室に保管・展示されるため、展示ケースの改修をしている 27年度は、カラーフィルムの乏しかった伎楽面の新規撮影が実施可能で、破損の甚だしい 3 点を除く、全ての伎楽面についてデジタル撮影データが得られた。

(2)28年1月29日、独立行政法人国立文化財機構所属の彫刻担当者を中心に、作品調査による研究会を開催し、伎楽面の表現、技法、保存・管理についての調査研究を行った。参加者は、丸山士郎（企画課特別展室長）、淺湫毅（学芸企画部博物館教育課講座室長）、竹内奈美子（列品管理課貸与・特別観覧室長）、三田覚之（学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員）、西木政統（学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）、津田徹英（東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブズ研究室長）、皿井舞（東京文化財研究所企画情報部主任研究員）のほか、西川明彦（宮内庁正倉院事務所保存課長）、奥健夫（文化庁文化財部美術学芸課主任文化財調査官）、川瀬由照（文化庁文化財調査官）、井上大樹（文化庁文化財調査官）である。

(3)研究成果は、今後の展示計画に活かすとともに、論文や執筆や図録等の作成をしていく予定である。



伎楽面調査風景

【備考】

撮影回数：2回（5日間）
研究会回数：1回
研究会参加者数：11名
調査作品数：33点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	伎楽面の新規撮影は、展示ケースの改修を行っている27年度しか行えず、破損の甚だしいものを除いて全点のデジタル撮影データが得られたことに加え、伎楽面の取り扱いにおける有識者を交えての意見交換が行えたことで、今後の調査研究及び展示・活用の可能性がひろがったことにより、おおむね所期の目的は達成できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画通り順調に進行している。次期中期計画以降、論文の執筆や図録等を作成し成果を公表する必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-6

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)油彩画の材料・技法に関する共同調査（(5)－①）

【事業概要】

本研究は東京藝術大学との共同研究で 20 年度から開始し、24 年度に継続の手続きを行い、続行しているものである。東京国立博物館所蔵の油彩画約 150 件の中から、明治期を中心とした約 50 件を調査対象としている。東京藝術大学大学院油画保存修復研究室はこれまで大学所蔵の明治期油彩画について調査研究を続け、多数の成果を公表している。この度の共同調査の目的は、高精細デジタルカメラを使用した顕微鏡写真、普通光写真、赤外線写真、紫外線蛍光写真、透過デジタルＸ線写真、蛍光Ｘ線分析等の科学的調査を通し、当館所蔵の油彩画に使用された材料と技術に関するデータ構築を行い、これまで藝大が集積したデータと比較を可能にすることである。それによって、今後我が国の初期油彩画の技法的解明、あるいは歴史的解明が一層進展するものと考える。28 年度に再び継続の手続きを予定している。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室長　土屋裕子

【主な成果】

(1)A-11305「興津富士」、A-11308「森」、A-11306「海景」、A-11307「上野大仏」、A-11306「海景」、A-11250「西村茂樹像」のＸ線透過撮影（28 年 2 月 16 日）
A-11306「海景」、A-11250「西村茂樹像」の調書作成（28 年 3 月 11 日）
A-11306「海景」、A-11250「西村茂樹像」の調書作成（28 年 3 月 18 日）

(2)高橋源吉の一連の作品を調査することにより、当該作家の作画技法や材料についてより詳しい情報を得ることができた。また、「上野大仏」については、作品の詳細な観察などにより、「鎌倉大仏」というこれまでの名称には誤りがあることが判明した。プロトデータなどへの反映を行なう予定である。

(3)光学調査を基にした作品のデータおよび新知見などの所見は今後『MUSEUM』で発表の予定である。また、今回の調査で名称の変更が必要となったものについては、手続きを行なうこととする。



「西村茂樹像」の状態調査作業

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は、博物館側担当者のスケジューリングに困難があったこと、藝大の研究室においても、請負の修理作業で時間がとりにくかったという理由などがあり、調査回数及び点数が限定されたが、館内の光学機器での調査も進め、確実にデータ蓄積を行なっている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	一連の調査によって徐々に東京藝術大学の同時期の作品群及び他館が収蔵する作品との比較研究が可能になってきている。特にＸ線透過画像、デジタル顕微鏡画像などの詳細なデータ間の比較によって、作品の特性のみならず、関係性などについても新たな検討ができるデータが整いつつある。また、作品の高精細画像は、展示の際に使用するパネルや、館内職員が執筆する『MUSEUM』の図表に利用されるなど、中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。課題となるのは、研究の公開部分であるため、引き続き、契約を更新し、28年度からはこれまでの結果を積極的に発表していきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7）東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査（(5) －①）

【事業概要】東京国立博物館所蔵の仏教絵画を対象として、東京文化財研究所が持つ高精度のデジタル画像調査技術による共同調査を行い、仏教絵画の価値認識を深め、劣化しない長期保存可能な最高レベルの記録を作成し、作品の保護に寄与することを目指す。

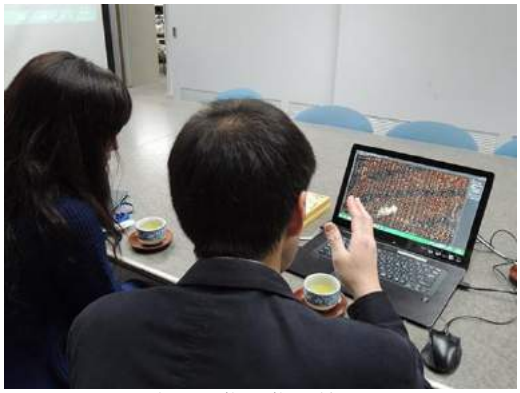
【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長　田沢裕賀

【主な成果】

(1) 26 年度に東京文化財研究所が高精細デジタル画像撮影を行った「孔雀明王像 A-11529」について、TIFF 高精細画像を受け入れ、調査成果の共有化を図った。また、当館・東京文化財研究所両施設研究員による検討会を開催し、撮影画像をもとに用いられた技法を詳細に観察、検討し、今後の平安仏画の美的表現の研究・公開に資するに足る重要な資料を得た。

(2) 当プロジェクトによって既に調査を行った物件のうち、「普賢菩薩像 A-1」について、得られたデータと検討に基づいて、論文（小林達朗（東京文化財研究所）「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416 号）を発表した。

(3) 来年度以降出版物で調査成果を公開する準備を行った。



孔雀明王像画像の検討

【備考】

検討会回数　1 回（28 年 1 月 29 日　於東京文化財研究所）

論文発表　1 件　小林達朗（東京文化財研究所）「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416 号、27 年 8 月、pp. 1-15

作成データ量　TIFF 高精細画像　50 点（全図・分割 22 点、部分図 28 点）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	共同研究に関しては、高精細画像をもとに細緻な装飾表現に関して検討を行い、小林達朗（東京文化財研究所）「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416号研究に示されるように論文として発表できる段階まで研究精度が高まった。一方これまで、年度末に行ってきた次年度調査作品の高精細デジタル画像撮影に関しては、次年度の早い時期での撮影として調整中である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って東京国立博物館所蔵の平安仏画を対象として高精細デジタル画像撮影技術を用いた調査と研究が行われ、研究成果が論文により公開された。また次年度以降、一般向けに公表される準備もなされている。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-8

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）創立 150 周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究((5)－①)

【事業概要】34 年度の東京国立博物館創立 150 年へ向けて、『東京国立博物館 150 年史』を編纂するために、業務文書や刊行物等を収集、整理し、今後の編纂事業の基礎資料として内容の調査を行う。27 年度は館内から収集した文書類の目録作成に加え、館内各所で保管されている文書類の確認と目録化を進め、保存措置を講じる。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室長 井上洋一

【主な成果】

(1)収集した文書類の整理・目録化・保存措置（27 年 4 月 7 日～28 年 3 月 29 日：週に 1～2 日）

資料保管室（資料館 3 階）に収集した約 8,500 件の館史関係文書類について調査し、目録(仮)を完成した。混在する刊行物の抜き出しを行い、目録と対応するための付箋挿入をするなど整理を進めた。また、ダンボール箱に入っていた文書類を一部中性紙箱へ入れ替えするなど、保存措置を講じた。以上は、資料整理アルバイト 1 名を雇用し、東京国立博物館百五十年史編纂室員とともに作業を行った。

(2)東京国立博物館百五十年史編纂ワーキング打合せの実施(27 年 6 月 12 日ほか)

『150 年史』編纂のためのワーキング打合せを実施した。編纂物の内容の方針を決定した。

(3)館史の内容に即した文書類の整理・確認

a)臨時全国宝物取調局関係資料（27 年 6 月 2・3 日ほか)

明治 20 年代に実施した臨時全国宝物取調に関する資料の調査を行った。古写真紙焼き約 4,000 枚、ガラス原版約 1,400 枚の現状確認と目録化を進めた。また、館内各所に保管される関係資料の確認を行った。

b)東京国立博物館平常展（総合文化展）展示室構成資料（27 年 11 月 13 日ほか)

歴代の平常展の展示室構成資料を収集し、変遷表を作成するとともに、関連調査を進めた。変遷表については、平常展(総合文化展)のリニューアルに向けた参考資料として提出した。

(4)文書類のデジタル撮影・デジタル化（27 年 4 月 13 日～30 日ほか)

館史資料のデジタル撮影を進めるとともに、『東京国立博物館百年史』編纂の際に用いられた資料・原稿等の PDF 化を進めた。

(5)目録の館内公開（27 年 7 月 22 日）

目録化の終わった文書類の目録(資料保管室分約 8,500 件、資料館地下収蔵庫保管分約 2,500 件)と、これまで公開していなかった館史資料（2,431 件）とあわせて、同一エクセルファイルの目録を作成した。その目録を東京国立博物館内部ガルーン上にて公開しはじめた。

(6)問い合わせへの対応（27 年 7 月 24 日ほか)

館内・館外からの館史に関する問い合わせに対応した。

【備考】(1)収集した文書類の整理：55 日間実施
(2)編纂ワーキング打合せ：6 回実施
(3) a)臨時全国宝物取調局関係資料の整理・確認：16 日間実施
b)東京国立博物館平常展（総合文化展）展示室構成資料の整理・確認：10 日間実施
(4)文書類のデジタル撮影：13 日間実施 550 カット撮影、資料・原稿等デジタル化：31 件約 500 点
(5)目録の館内公開：約 13,431 件の目録公開
(6)問い合わせ対応：5 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	26年度より継続的に収集した文書類の整理・目録化・保存措置について進めることができた。また、作成した目録を館内で公開し、個別の調査にも発展的に利用可能となった。展示構成の変遷表作成においては、収集・整理した文書類のデータを活用することができた。引き続き、館内各所に所在する文書類の収集整理を課題とするとともに、それらの文書類を『150年史』編纂に有効に活用できるようにするとともに、ほかの事業にも役立つようなデータ作成を行っていく。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	目録を館内公開したことにより文書類の活用が可能となり、館史に関わるさまざまな作業に対応できるようになったことから、中期計画に対する進捗状況は順調である。次年度以降も引き続き文書類の整理を進めるとともに、さらなる活用を図っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-9

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】21 年度東京国立博物館に一括寄贈された約 1 万件に及ぶ板谷家伝来資料について、デジタル撮影、データ整理を行い、データベース作成・公開への準備を進める。また、各古文書・絵画資料の画題や原本、伝来等について調査するとともに、板谷家作品を所蔵する機関にて現存作品調査を実施。これにより伝来資料について、資料そのものと現存作品との比較という両面から理解を深め、その成果を公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課長 田沢裕賀

【主な成果】

(1) 作品調査

東京国立博物館所蔵の板谷家伝来資料について、約 480 点（5,000 カット）の撮影を終了するとともに、並行して新たな知見の整理、絵画資料の調査を行った。また板谷家関連の作品調査として、27 年 8 月 17 日に埼玉・個人宅にて、板谷家歴代の作品 37 点の調査を行った。8 月 18 日には、東京・根津美術館で、板谷家が画流のもとと考えていた南都・春日関連の作品調査を、紙の博物館にて板谷絵所が模写したと伝えられる『若一王子縁起絵巻』模本の調査を行った。28 年 1 月 28 日には、祐天寺調査を行った。

また、週 1 回を原則として整理した作品の画題等を検討する研究会を開催した。

これによって、板谷家伝来資料中に今まで確認されていなかった江戸城障壁画下絵や、オランダ国王に贈られた屏風の下絵などが含まれていることが確認され、資料としての重要性が明らかとなった。

(2) 展覧会開催

28 年 1 月 2 日～2 月 14 日東京国立博物館平成館企画展示室を会場として、板谷家における絵画の制作活動と関わりのある下絵類を合わせ、屏風一双を含んだ 15 件によって、特集「江戸幕府御用絵師板谷家の仕事」を開催し、これらの成果を一般向けに紹介した。

(3) 報告書刊行

23 年度から 27 年度までの調査成果をまとめた報告書「板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究」を作成・刊行した。

(4) データベース公開

23 年から調査した板谷家伝来資料 172 件を試行としてデータベース公開し、その利用性と内容を検討して 28 年 6 月、約 2,000 件を公開する準備を行った。



根津美術館での調査

【備考】

科学研究費補助金事業 5 年計画の 5 年目
館外調査 3 回
研究会 35 回
平成 23～27 年度科学研究費補助金研究成果報告書「板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究」刊行（28 年 3 月 31 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	板谷家は幕府御用絵師でありながら、作品の存在や活動状況はあまり明らかとなっていなかったが、板谷家作品の所在や、板谷家伝来資料に作品制作の状況を示す資料が多く含まれていることが確認されるなど、本調査によって新たな知見が多く得られた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に沿った調査を実施し、板谷家伝来資料の重要性を示す多くの資料を確認し、それらをもとに、御用絵師の実態を報告書の刊行、当初の予定を上回る2回の展示を通して広く示すことができた。 一方で、作品の保存状況から、調査撮影できなかった資料もあった。この中には正本としての作品が現存するものの下絵の可能性があるものも含まれている。今後これらを修理し継続的に調査することでより多くの成果が期待できる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-10

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10)中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)（(5)－①）

【事業概要】本研究は日本における古代中世の大画面説話画の中でも、画題として比較的早い時期から成立し、多く描かれた主題のひとつである聖徳太子絵伝について、現存諸作品の詳細な調査に基づき、社会的・文化的・宗教的な動向や、他の説話画制作の状況も踏まえた上で、どのように図様が展開したのかを明らかにしようとするものであり、あわせてデジタル画像による最新版の画像資料データベースを作成することを目指している。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎

【主な成果】

(1)　27 年 11 月 6 日及び 28 年 1 月 21 日、茨城県坂東市の妙安寺にて重文　聖徳太子絵伝 4 幅　鎌倉時代・14 世紀の調査及び撮影を行った。

(2)　当館カメラマンによる高精細デジタル撮影を行うことで、妙安寺本の資料画像を整備することができた。

(3)　他の説話画研究の一環として、当館に寄託されている志度寺縁起が修理に入るのを機会に、寄託の 2 幅分に加え、その他の 5 幅についても蛍光Ｘ線による顔料分析を行い、特に白色顔料について鉛系とカルシウム系の顔料の使用傾向に、幅によって違いのあることが分かり、中世の説話画制作における顔料使用の状況を知る上で貴重な情報を得ることができた。(27 年 10 月 27 日～29 日、12 月 14 日～16 日)



妙安寺での調査・撮影

【備考】
科学研究費補助金事業の 5 年計画の 4 年目
現地調査：2 箇所（各箇所 2 回）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初は35ミリ判相当のデジタル1眼レフカメラのみでの撮影を行っていたが、今回から館の映像作製室で使用している中判相当の8千万画素のデジタルカメラによる撮影を行うことにした。そのことにより、画像精度や色調整精度が向上し、画像資料としての質をより向上させることができた。また、関連説話画研究として、志度寺縁起の顔料分析を詳細に行い、貴重な情報を得られるなど重要な成果があった。このことは、説話画研究のみならず、中世絵画の顔料の使用に関する実情を知る上で、今後の研究の進展に結びつく端緒を開くことができる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査を実施し、撮影や作品情報の収集について、精度を高めることができ、その要領をつかむことができた。また、当館に寄託されている縁で、修理に際し、志度寺縁起全６幅の顔料分析を実施でき、白色顔料の使用傾向に関するまとまった情報を得られたことは、太子絵伝のみでなく広く説話画、中世絵画の表現・技法を考える上で、当初計画を超える収穫であった。28年度の調査でも可能な限り反映していく計画である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-11

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11)模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)((5)－①)

【事業概要】本研究は模写資料を調査することによって、書の受容や鑑賞の歴史を明らかにしようとするものである。東京国立博物館の蔵する模写資料の調査を実施し、写真撮影をして、ホームページ上で画像を公開する。また関連作品の調査、関連資料のデータ収集を行なうことから、個別研究も進めていく。東京国立博物館においては、模写資料に関する展示を企画し、模写を通じた鑑賞を提示するとともに、多様な鑑賞のあり方を示す。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	東京国立博物館百五十年史編纂室・主任研究員　恵美千鶴子

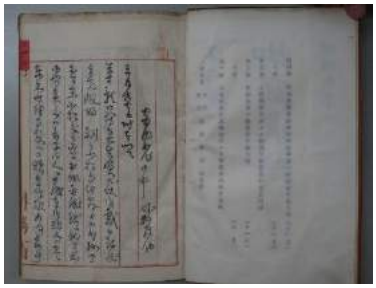
【主な成果】

(1) 東山御文庫(御物)の原本調査(27 年 10 月 28 日)
勅封御物である書跡の原本調査を実施した。近衛家に代々伝わった書跡で、近衛家熙ほか様々な模本が残されているものである。当館に伝わる関連の模本を前もって調査した。この原本調査では、透き写しの有無や原装丁の検討などできたが、特に表具は、当館所蔵作品との関連性が確認できた。

(2) 九州国立博物館での調査(27 年 10 月 17 日)
九州国立博物館において模写資料の調査を実施した。

(3) 大阪歴史博物館にて調査(28 年 3 月 11 日)伝藤原行成筆の書跡を調査。
藤原行成の筆跡の受容史を検討するために新たな知見を得ることができた。

(4) 厳島神社との調整(27 年 9 月 1 日)
厳島神社には国宝「平家納経」の模本作成に関わる文書類が保管されている。その文書類の調査のための事前調整を厳島神社担当者と行なった。


関連データ収集のための
宮内庁公文書の撮影

(5)模写資料のデジタル撮影と画像公開(27 年 8 月 10 日ほか)
東京国立博物館が所蔵する模写資料のデジタル撮影を行ない、画像管理システムに登録、ホームページ上で公開をし始めた。また、大阪歴史博物館の調査においてもデジタル画像での撮影を実施した。

(6)成果の公開
学術雑誌『ビオ・シティ』において、模写資料を中心に研究した書の受容や鑑賞の歴史に関する小論文を発表した。また、藤原行成の筆跡の受容史については、その研究成果を、28 年度の東京国立博物館の展示（特集「藤原行成の書　その流行と伝称」28 年 8 月～9 月）で広く公開する予定である。

【備考】
・学術研究助成基金助成金の 3 年計画の 3 年目
・調査回数 17 回
・デジタル画像撮影点数 156 点、ホームページ上画像公開点数 524 点
・関連データ入力点数 2,316 点
・論文発表件数
「藤原行成の尊重　直筆の記録『敦康親王初覲関係文書』」ほか計 4 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度も継続的に模写資料の調査と撮影を進めることができ、これまでに撮影したデジタル画像をホームページ上で公開しはじめることができた。研究成果は、学術雑誌にて定期的に発表することができ、その集大成を28年度の展示（特集）として予定することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査を実施することができた。また、27年度は研究内容の集約に努め、日々の業務の中で随時調査研究を進めるということが効率的・継続的に進められ、着実に成果を得られることができた。引き続き研究を進めるとともに、研究成果の公開を実施していきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-12

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12）博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)-①）

【事業概要】
本研究は、幕末期における西欧の博物館との接触から、維新後における博物館の創設を経て、帝室博物館の成立に至る明治期を中心とした博物館史を、世界史的な視野で再構成するための基礎的な資料調査と研究を、特に所蔵品の流通に着目して行おうとするものである。
対象地域としてドイツ、イギリス、オーストラリアを選び、三ヵ年にわたって当時の文書や交換・寄贈された文化財を調査する。　あわせて、館史資料の撮影を進め、館史資料の公開・共有を目指す。

【担当部課】	学芸研究部調査研究課	【プロジェクト責任者】	考古室長　白井克也

【主な成果】
(1) 館史資料の調査
過去２ヵ年で撮影した『列品録』『重要雑録』『動物録』の高精細デジタル画像を、元の冊子別に整理するとともに、『重要雑録』『動物録』について項目一覧表を作成した。
主に『列品録』の英国・ドイツ等の関係記事の釈読を進め、実物の『列品録』の調査も実施して内容を確認した。
(2) 目録類、『例規録』の高精細デジタル撮影を行った。
(3) 列品調査
ライプツィヒ民族学博物館からの寄贈品について 27 年 6 月 3 日（水）に調査した。
グラスゴー博物館寄贈品と、クリストファー・ドレッサー寄贈品について、グラスゴー博物館ユーピン・チュン氏と共同で 28 年 1 月 29 日（金）に調査した。
(4) 聞き取り調査
27 年 5 月 26 日（火）にスコットランド国立博物館のロジーナ・バックランド氏に、同館所蔵の日本関係作品の由来についてインタビューした。
27 年 6 月 10 日（水）に東京大学の梶野絵奈氏に、明治時代の日本における西洋楽器や、当時の欧米における楽器産業と万博のかかわりについてインタビューした。
(5) 現地調査
国内調査として 27 年 6 月 22 日（月）に九州国立博物館で、同館に管理換された旧列品（ドイツのライプツィヒ民族学博物館寄贈品ほか）を調査した。
国内調査として 28 年 2 月 10 日（月）に北海道大学で、ウィーン万博出品写真帳を調査した。
海外調査として 27 年 7 月 19 日（日）～25 日（土）に英国のスコットランド国立博物館、ポロックハウス、バレルコレクション、グラスゴー博物館で、東博との交流にかかわる文書調査と作品調査を実施した。
海外調査として 27 年 12 月 14 日（月）に韓国・国立中央博物館で、総督府博物館当時の資料を調査した。
海外調査として 28 年 2 月 22 日（土）～27 日（土）にオランダのアムステルダム国立美術館で、明治期の日本美術の入手経緯と現在の展示状況を調査した。
(6)　メンバーと研究協力者による勉強会，公開研究会を開催し、館史資料を釈読し、調査成果や今後の方針を確認した。公開研究会については成果を報告書としてまとめた。

【備考】科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 3 年目
勉強会回数　9 回　　聞き取り調査回数　4 回
現地調査回数　5 回
デジタル撮影枚数　7,000 コマ
公開研究会実施　28 年 3 月 17 日「明治期博物館の国際的な文化財交換」（報告書『平成二十七年度成果報告　公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」』として刊行）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27 年度予定していた現地調査、館史資料のデジタル撮影・釈読などを滞りなく終えることができたうえ、国内外の関連分野の研究者との意見交換などにより、今後の研究の展望をひらくことができた。 特に、館史資料の記述を補う海外の文書を得ることができ、交換の経緯を解明できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27 年度は予定していた調査・撮影を滞りなく終えるとともに日本の西洋音楽史などとの連携にも成功した。さらに、研究成果の公開も行うことができ、これらの成果は東京国立博物館百五十年史の編纂にも資するものであり、中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を着実に実施することができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-13

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13）能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】能狂言面は能楽の道具として芸能史研究の中で注目されてきた。一方、美術史ではその卓越した造形は認知されているものの、美術史研究に必要な基礎データ、多角度からの写真、制作年代や作者、伝来を特定できる基準作例が乏しいため、美術史的手法を用いた研究はほとんどされていない。本研究では多くの優れた能狂言面を調査し、基礎データの収集、多角的、総合的な分析・検討から制作年代・作者等の客観的判断基準を見出し、その美術史的研究方法を確立することを目指す。研究成果をもとに、能狂言面を美術史、特に日本彫刻史の中に位置付けることを最終目標とする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部付　浅見龍介

【主な成果】

(1)調査

27 年 4 月 23 日三井記念美術館、27 年 4 月 24 日東京国立博物館
27 年 5 月 26・27 日東京国立博物館、27 年 5 月 28 日三井記念美術館
27 年 6 月 24 日東京国立博物館
27 年 7 月 13 日京都国立博物館、27 年 7 月 14 日京都・北村美術館所蔵、27 年 7 月 22 日東京国立博物館
27 年 8 月 23 日東京国立博物館　関係資料調査
27 年 9 月 12 日東京国立博物館、27 年 9 月 25 日東京国立博物館
27 年 10 月 8 日奈良・天河弁財天社（京都国立博物館内修理工房にて）、27 年 10 月 22・23 日三井記念美術館
27 年 12 月 18 日奈良・奈良豆比古神社、奈良・正福寺、奈良・柳生八坂神社（奈良国立博物館にて）
28 年 1 月 23・24 日宮城・瑞巌寺
28 年 2 月 21・22 日京都国立博物館　壬生寺所蔵能・狂言面調査　個人所蔵（京都国立博物館寄託）能面調査
関係資料調査で京都・金戒光明寺にある面打井関十郎（河内）一族の墓を調査し、そこに記された伝記を記録した。
また、東京国立博物館では所蔵面について蛍光Ｘ線調査に着手した。

(2)調査の結果得られた知見

写真、データを蓄積し、18 世紀の代表的な面打大野出目家の洞白・洞水についてその面裏の彫りの特色から作者の特定がおおよそ可能であることがわかってきた。

(3)調査研究の成果の公表

・展示
　27 年 6 月 9 日～7 月 20 日　特集陳列「日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情」　京都国立博物館
　27 年 7 月 7 日～10 月 4 日　特集陳列「能面　女面の表情」　東京国立博物館
・講演会
　27 年 6 月 20 日　土曜講座「京都周辺の古面」浅見龍介
・講座
　27 年 5～7 月　3 回　江東区古石場文化センター講座「能面―刻み込まれた日本人の美意識」　浅見龍介

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 2 年目
調査回数：19 回
リーフレット：特集陳列「日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情」４ページ

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	ほぼ毎月調査を実施し、データ、写真を大量に蓄積できた。調査体制、調書作成、撮影について記述内容、調査手順等が安定してきたので、今後の出張調査を順調に行なう見込みがついた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	美術史分野で能狂言面の調査研究を中核に据えることは極めて少ない。28年度は東京国立博物館所蔵の金春家伝来面全点を展示する特集陳列を開催し、図録を制作する予定である。調査の成果を公表し、研究の活性化、一般の関心を集めることも期待でき、中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-14

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14)　博物館における文化財の情報資源化に関する研究（科学研究費補助金）((5)－①)

【事業概要】本研究は、博物館が収集した文化財と関連する資料（図書・文書など）の分析と整理、データ化を行い、文化財との相互の関連付けを行うことで、これらを一元的に管理し、必要なときに引き出して活用できる博物館アーカイブズを構築する。さらに他の研究機関と情報の共有化を図るため、情報資源を新しい枠組みでとらえ直し、相互利用を可能とする資料の情報資源化の方法論を、実践をとおして研究する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　高橋裕次

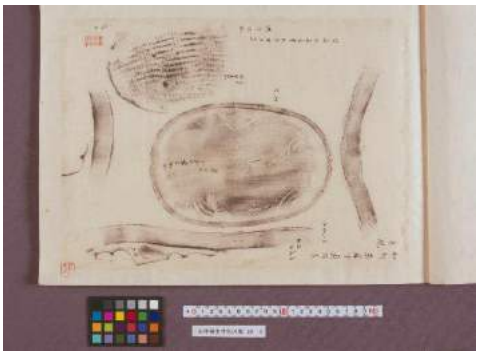
【主な成果】

(1) 文化財に関連する目録類、図書、各種文書など基礎資料をまとめた総合リストについて、各資料の作成時期、保管の状況を考慮した上で、資料群としてのまとまりを尊重しながら、分類を行った。

(2) 文化財とそれを取り巻く資料との相互の関連付けを行う際に、博物館の機能との関わりのなかで作成された資料を、文化財の活用という観点からとらえ直すという具体的な方針を打ち出した。

(3) 博物館の収蔵品の基礎となった草創期における「壬申検査」、「博覧会」などの目録類を分析して、文化財がどのように利用されていたかを検討した。また、所轄官庁の変更などにともない移管された文化財や図書の変遷を伝える公文書の分析を行い、それぞれの文化財や図書、公文書が相互に関連していることを明らかにした。

(4) 研究の成果を統合データベースに反映させる過程で、文化財の情報資源化の方法論を研究するための基礎作業をさらに進めることができた。



壬申検査宝物図集

【備考】
科学研究費補助金の４年計画の２年目
調査件数　約 5,000 件
デジタル撮影件数　82 件
公文書テキストデータ化　約 800 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京国立博物館百五十年史の編纂に向けた作業のなかで、文化財の情報資源化という観点から、MLA連携（ミュージアム（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）が連携して、情報資源のアーカイブ化等の課題を共有すること）を見据えた統合データベースの構築を目指している。計画的に調査・研究を行い、所期の目標を達成した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って調査研究を実施することができた。また本プロジェクトは、科学研究費補助金として実施している事業であり、4ヵ年計画の2年度目として、計画に従って着実に進め、所期の目標を達成している。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-15

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15）古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究（学術研究助成基金助成金）((5)-①)

【事業概要】本研究は我が国において伝来、また出土した染織作品を通じ、広く古代東アジア世界における染織文化の実像を明らかにしようとする試みである。これまで日本染織史の分野で研究されてきた作品を国際的な文化交流の枠組みで捕らえなおし、我が国に伝来した染織作品がもつ意義の大きさを明らかにしたい。また、考古遺物に付着した繊維を詳細に検討することで、現在では形の失われた作品の遺存状態や織物などの種類や仕様等を通して現存作品と比較検討し、古代東アジアにおける染織品の使用法についても、その実態の解明を目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	客員研究員　澤田むつ代

【主な成果】

(1)主な調査

・群馬県埋蔵文化財センターにおける金井東裏遺跡出土品調査。同遺跡より出土した甲冑に付着する繊維の詳細な観察に基づく調査を行なった。この甲冑は榛名山の火山噴火の火砕流により被災した人物の遺体が着装した状態で出土したものであり、古墳時代における甲冑着用の実態を知るうえで極めて貴重な遺物である。

・法隆寺献納宝物を含む法隆寺伝来の染織品調査(本格修理作品 25 件に対する事前調査)、通年。

(2)主な調査成果

・冑の錣と頬当に付着した繊維の分析から、織物の用途について考察した。その結果、錣と頬当には内貼裂として平絹(平組織の絹織物)が使われていることがわかった。さらに錣と頬当の周囲の縁にも、縁裂として織目の細かい平絹(経糸は緯糸に比べてかなり細い)が使われていることがわかった。

甲(よろい・挂甲)については、内側に三種類の平絹と組紐が付着していることがわかった。以上の付着状況を検討した結果、1 種類は挂甲の内貼裂、他の 2 種類は衣服の可能性が高いと判断された。古墳出土の短甲や挂甲には表面にワタガミ緒の平絹が付着する例はあっても、内貼裂を施している例はこれまで確認されたことがなく、はじめての例として、大きな調査成果であった。また、挂甲には綴じ糸として二間組の組紐が用いられていることがわかった。



上代裂の調査及び修理風景

(3)主な調査成果の発表

・28 年度に刊行を予定する金井東裏遺跡の発掘調調査報告書刊行のため、遺物に付着する織物や組紐等の調査結果と考察等について執筆した。

・法隆寺献納宝物を含む法隆寺伝来の染織品修理の成果については『MUSEUM』で 2 回の報告を行なった。

【備考】

学術研究助成基金助成金の 3 年計画の 2 年目

(1)調査回数：金井東裏遺跡ほか 8 件

(2)論文等の成果物：沢田むつ代「法隆寺伝来・上代裂―平成二十三年度修理の成果」、『MUSEUM』658、東京国立博物館、27 年 10 月。沢田むつ代「古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例」（『文化財と技術』第 7 号、27 年 12 月。ほか 7 件

(3)講演会等の回数：2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画していた国内調査は概ね遂行することができ、金井東裏遺跡出土品調査に於いては新発見があった。ただし、海外調査は１件のみであったため、28年度は国内外について調査の機会を拡充させたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。28年度は報告書の刊行も視野にいれ、より調査研究の機会を拡充させたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-16

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16）法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)((5)－①)

【事業概要】法隆寺献納宝物として東京国立博物館が所蔵する法隆寺伝来の上代裂（じょうだいぎれ　古代の織物）を中心に、献納宝物及び正倉院宝物の歴史的・文化的背景を造形の側から明らかにするとともに、現在バラバラの状態で保管されている上代裂について、本来作品として仕立てられていた当時の組み合わせを作品調査に基づいて明らかにする。また未解明な部分が多い法隆寺裂の全体像（数量・技法・文様）についても作品調査と写真撮影によってテータベース化を図る。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課研究員　三田覚之

【主な成果】

(1)学会発表実績

・東京国立博物館研究員・三田覚之、「百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品」、27 年 10 月 16 日、国際シンポジウム「古代仏塔舎利荘厳と東アジア仏教文化」、於ソウル古宮博物館

(2)論文発表実績

・東京国立博物館研究員・三田覚之（沢田むつ代氏と共著)、「法隆寺伝来・上代裂　綾幡足と錦残欠等―平成 22 年度修理の成果―」、27 年 4 月、MUSEUM 第 655 号、東京国立博物館、査読あり
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「法隆寺伝来　描絵綾天蓋垂飾」、27 年 6 月、MUSEUM 第 656 号、東京国立博物館、査読あり
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品―法隆寺献納宝物の脚付鋺と法隆寺五重塔の舎利瓶を中心に―」、27 年 10 月、MUSEUM 第 658 号、東京国立博物館、査読あり
・東京国立博物館研究員・三田覚之、「多武峯伝来　十一面観音菩薩立像について」、28 年 2 月、MUSEUM 第 660 号、東京国立博物館、査読あり

(3)公私立博物館等に対する援助・助言

・東京国立博物館研究員・三田覚之、「古代仏教彫刻展」における光背断片の復元図作成協力、27 年 9 月 24 日～11 月 15 日、韓国　国立中央博物館

(4)国内調査実績

法隆寺献納宝物の染織品調査（本格修理作品 25 件に対する事前調査)、通年



上代裂の調査及び修理作業風景

【備考】

学術研究助成基金助成金事業の　3 年計画の 2 年目
(1)学会発表回数：1 回(2)論文発表回数：4 回
(3)公私立博物館等に対する援助・助言回数：1 回(4)調査回数：1 回（25 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	学会発表と論文発表については年度計画を上回る成果を出すことができた。ただし、本務に専念する時間が予想より多く、国内及び海外における調査を十分に行なうことができなかった。28年度では調査にあたる機会を拡充し、研究成果を高めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って、調査並びに学会発表及び論文発表を通じての研究成果公表を継続的に実施することができた。次期中期計画期間では調査にあたる機会を拡充し、研究成果を高めたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-17

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	17）多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5)-①)

【事業概要】

多数尊から構成される仏教尊像とは、複数の像から構成される一群の像で、例えば四天王、六観音、八部衆（二十八部衆）、十大弟子、十二神将、十六羅漢などをここでは指す。これらは、同時代の作品でも作品間での変化をつけるためか、その形姿や持物などには様々なバリエーションがある。しかしそれらがどのような典拠（古典作品、図像、儀軌等）に基づき、どのように組み合わされているのかなどに関しては不明確といえる。また一群の作例の場合、工房における分担製作の実態も不明な点が多い。本研究では、上記のごとく不明な点が多くのこされている多数尊より構成される尊像群について、図像的典拠と工房における分担製作の視点から、あらためて調査研究し、分析を行おうというものである。本年度は４年計画の最終年次である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課教育講座室長 淺湫　毅

【主な成果】

(1)神奈川県立金沢文庫調査（27 年 7 月 3 日～5 日）
　三重県伊賀上野市・仏勝寺調査（27 年 11 月 23 日）
　イタリア・ベネチア東洋美術館調査（27 年 12 月 11 日～18 日）
(2)金沢文庫では宝城坊（日向薬師）所蔵の十二神将立像 12 躯の調査を行い、新たな知見を得ることができた。
　仏勝寺調査では同寺所蔵の十二神将立像 12 躯の調査を行い、新たな知見を得ることができた。
　ベネチア調査では同館所蔵の十二神将立像 2 躯の調査を行い、新たな知見を得ることができた。
(3)宝城坊十二神将、仏勝寺十二神将、ベネチア十二神将の調査で得られた写真資料と新たな知見は、過去３ヵ年に行った調査の成果とともに、28 年 3 月末日発行の本科研報告書において公表した。
　また、26 年度までに行った調査の成果をもとに以下の論考・口頭発表を行った。
　［論考］
　・淺湫毅「明恵上人と仏師湛慶をめぐる物語」『鳥獣戯画　京都高山寺の至宝』展図録（27 年 4 月発行）
　・淺湫毅「大倉集古館蔵「伝法蓮房坐像」の像主について」『ＭＵＳＥＵＭ　659 号』(27 年 12 月発行)
　［口頭発表］
　・淺湫毅「寒河江の仏像の先進性」『寒河江市市民大学（さくらんぼ大学)』(27 年 10 月 17 日)
　・淺湫毅「よろいをまとった仏たち」『東京国立博物館月例講演会』(28 年 1 月 23 日)
　［報告書］
　・『科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）報告書　多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から-』(28 年 3 月発行)

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 4 年目
調査 3 回
論考 2 編
口頭発表 2 回
報告書 1 冊

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	ほぼ予定どおりに調査および資料の収集を行うことができた。またその結果を順調に公表することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査」に沿った調査研究を実施することができた。また、東京国立博物館で開催した特別展、総合文化展等において、その成果を順調に反映することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-18

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	18）海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】1939 年以降海外で開催された日本古美術展について一覧化を進めるとともに、文化庁所蔵資料のデータ化及び主要な展覧会の資料を収集・整理することにより、海外における日本観とその変遷を考察・研究する基礎資料を整備する。

【担当部課】	学芸企画部企画課	【プロジェクト責任者】	国際交流室長　鬼頭智美

【主な成果】

(1)米国ニューヨーク公立図書館、メトロポリタン美術館アーカイブ、ジャパン・ソサエティにて、図書・文献写真資料を調査、一部複写・収集し、関係展示を視察した。(27 年 4 月 19 日～21 日)

・米国ナショナル・ギャラリー、スミソニアン・アーカイヴ、フリア美術館及びフィラデルフィア美術館にて、文献・写真資料調査を行い、戦後の「日本古美術展」について詳細資料を収集、日本美術担当学芸員に面談調査を行った。(27 年 9 月 8 日～14 日)

・スイス・チューリヒ美術館、リートベルク美術館にて、関係文献資料及び写真資料の閲覧調査・複写を行った。

・京都・国際日本文化センターにて、関係展覧会図録を調査、主要なものを複写した（27 年 11 月 30 日～12 月 2 日)。

・京都国際日本文化センターにて、当該展覧会図録を閲覧・調査、一部複写を行った。(27 年 10 月 8 日)

・米国・サンフランシスコアジア美術館より研究者を招へい、同館日本美術展についての発表と関係資料の提供を受けた。(28 年 1 月 31 日～2 月 5 日)

・米国シアトル美術館・ワシントン大学附属図書館にて、図書・文研写真資料を調査、必要分を複写・収集し、関係展示を視察した。(28 年 2 月 15 日～21 日)

・東博内文化庁分室所在資料の調査・複写を進めるとともに、関係者への面談調査を実施した。

・26 年度収集した資料を含め、展覧会ごとに整理分類を進めた。

(2)米国での調査により、メトロポリタン美術館、ナショナル・ギャラリー、フリア美術館、シアトル美術館等が主催した戦後の巡回展や各館で開催された日本古美術展の原資料にあたることができ、各展覧会について詳細を知ることができた。さらに各展覧会関係資料の所在が明らかになり、今度の研究に役立つ情報と人脈を得ることができた。

・スイスでの調査により、1969 年チューリヒ美術館開催の「日本美術」展について、関係写真・図面を複写、カタログを入手したが、書簡から開催経緯と 1970 年大阪万博との関係が明らかになった。また、リートベルグ美術館での調査で、「日本彫刻展」図録を入手する一方、1993 年の「能」展の関係資料により、開催経緯及び出品作品修復の経緯と国内所蔵品との関係が明らかになり、今後も現地の学芸員から引き続き協力を得ることとなった。

(3)調査資料を基に、展覧会一覧表を加筆・修正し、より充実した内容に更新、Web 公開データとして整理を進めた。

・東京国立博物館総合文化展英文解説及び国際シンポジウムの企画・構成に成果を反映した。

【備考】

科学研究費補助金事業・学術研究助成基金助成金の 3 年計画の 2 年目
展覧会図録 34 タイトルのデジタル撮影、展覧会の作品リスト 20 件程度のデータ整理、既存資料目録作成
学会研究会等発表数 2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東京オリンピックを控え、わが国の文化への理解促進と普及の必要性が高まる中、海外における日本美術発信の一形態としての日本美術展覧会について概観することは適時性があり、また当館150年史編纂に向けて関係資料入手と関係先とのネットワーク形成を確実にした。これまで海外日本古美術展覧会を全て網羅した一覧表はなかったため、リスト作成・更新ができたことは意義深い。本調査により、概ね関係資料の所在が明らかになり、主要な展覧会については概要を把握する一方、調査先各館で開催地ならではの原資料を収集し、当該資料ひいては日本美術関係資料全体への関心を高め、各機関とより密接な協力関係を築くことができた。既存資料のデータ化・複写も確実に進んでおり、28年度はリストの完成と主要美術展関係資料所蔵先の把握と、それらの情報の公開の見通しが立った。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	所期の目標であったアメリカ、スイスでの資料収集が順調に進み、また 26 年度来収集した資料のデジタル化も予定通り進み、全体展覧会リスト及び資料所蔵情報の公開に向けて着実に成果が上がっており、中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-19

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	19）日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究（科学研究費補助金）（(5)-①）

【事業概要】本研究は、日本国内外の機関や個人コレクターが所蔵する日本染織コレクション蒐集の経緯や来歴、構成内容を網羅的に調査し、近代以前は蒐集されることがなかった日本染織が古美術品としての価値観を形成していく過程を考察するものである。染織史研究者の間では研究対象とならなかった江戸時代以降の袈裟類・裂類を中心に各所蔵先において染織コレクションの全容が分かる調査を行い、近代における日本内外の日本染織の動向を追跡する。本調査研究によって日本染織の価値が理解されないままに離散する危機のある日本内外のコレクションに価値付けがなされ、現在、美術史の１分野として位置付けられる染織文化史研究が、どのような価値観を基盤として確立されたのかが実証される。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

【主な成果】

(1) 調査概要

・ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムにて、同機関に所蔵・寄託される日本東洋染織 176 件を調査（27 年 8 月 17 日～26 日）

・女子美術大学美術館にて、同館に所蔵される日本染織 27 件を調査（27 年 10 月 8 日～9 日）

・ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムにて、同機関に所蔵される野村正治郎関連染織 16 件を調査（27 年 12 月 1 日）

・サンフランシスコのデ・ヤング美術館にて、同館に所蔵される野村正治郎関連染織 25 件を調査（27 年 12 月 3 日～4 日）

・ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館にて、同館に所蔵される日本染織 2 件を調査（27 年 12 月 28 日）

・女子美術大学美術館にて、同館に所蔵される日本染織 18 件を調査（28 年 3 月 28 日～29 日）

(2) 調査の結果得られた知見

・ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアム及びサンフランシスコのデ・ヤング美術館の調査を行い、これまでの調査と合わせて見ることにより、両機関における日本染織コレクションの全貌がほぼ把握できた。

・ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館については、26 年度行った調査と合わせて見ることにより、同館に所蔵される日本仏教染織については全貌を把握することができた。

・女子美術大学美術館に所蔵される日本染織については、事前に研究会を行い、数年度にまたがって順次調査を行うこととなった。27 年度においては、長尾美術館旧蔵品についてその来歴に関する知見を得た。

(3) 調査研究の成果

26 年度までの東京国立博物館所蔵「大彦」小袖コレクションの悉皆調査を元に得られた知見を特集陳列「呉服商「大彦」の小袖コレクション（27 年 6 月 2 日～8 月 2 日）で展示、情報公開した。



女子美術大学美術館での調査風景（27 年 10 月 8 日）

【備考】科学研究費補助金事業の 5 年計画の 1 年目
調査実施機関：4 機関　調査日数：15 日　調査作品数：264 件　関連展覧会：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	初年度ということで、その方法論や進め方などを研究分担者と確認しながら、慎重に調査を進めることができた。26年度まで自主的に進めてきた当館所蔵日本染織コレクションの調査研究については、その成果を特集陳列という形で発表することができた。28年度以降は、27年度の調査方法に改善を加えつつ、多岐多数にわたる日本染織の調査を精力的に進めることが必至であると確認した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。 28年度以降は、調査団を2～3チームに分けて、調査の進行を加速させ、さらなる調査データの集積に努めたい。また、27年度の調査結果は、28年度中に『MUSEUM』など、研究誌に発表の予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-20

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	20）絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費補助金）（(5)－①）

【事業概要】
本研究は、絵巻の研究を従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付属情報から捉え直し、推進する。研究にあたっては、絵巻の伝来、鑑賞歴に関わる情報を収集・蓄積した上で、絵巻が今日に至るまでにどのような軌跡を経て伝世したのかという、各作品の通時的な歴史性に配慮し、絵巻という媒体全体を視野に入れた総合的な分析を行うことを最終的な目標として設定する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室研究員 土屋貴裕

【主な成果】
(1) 古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化
本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップし、27 年度はおよそ 15 タイトルの文献資料から約 3,000 件の記事を抜き出し、その一部をデータ化した。
(2) 東京国立博物館所蔵絵巻模本の調査
絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理を行った。27 年度は幕末の狩野派、及び復古やまと絵師による模本など約 20 件の調査を行うことができた。
(3) 調査・研究の展示での公開
上記の調査・研究を踏まえ、以下の展示として成果の一部を公開した。
・特集「鳥獣戯画と高山寺の近代－明治時代の宝物調査と文化財の記録－」東京国立博物館特別 1 室　27 年 4 月 28 日 ～ 6 月 7 日
・特集「春日権現験記絵模本Ⅱ―神々の姿―」東京国立博物館特別 1 室　27 年 9 月 1 日 ～ 10 月 12 日


特集「鳥獣戯画と高山寺の近代－明治時代の宝物調査と文化財の記録－」展示風景

【備考】
科学研究費補助金事業の 4 年計画の 1 年目
(1) 絵巻伝来関係資料の抜き出し件数　約 3,000 件
(2) 絵巻模本の調査件数　約 20 件
(3) 展示への反映　2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文献資料記載絵巻関係資料の抜き出しとデータ化、絵巻模本の調査という、本研究推進にあたっての基礎作業を着実に進めることができた。あわせて、調査・分析を展覧会という形で一般向けに行うことができたのは大きな成果と言える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画にのっとった研究を遂行し、成果を展示に反映させることができた。28年度も引き続き、継続的に研究を進めたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-21

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	21）東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金）((5)－①)		
【事業概要】東京国立博物館所蔵写真資料データベースは、東京国立博物館が所蔵する幕末から昭和初期にかけて撮影された紙焼き写真をデジタル化し、広く一般に公開することを目的とする。現在「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」としてホームページ上で公開しているデータは、18～21 年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付によって作成された。 本事業では、上記のデータベース作成事業を引き継ぎ、従来の紙焼き写真に加え、東京国立博物館が所蔵するガラス乾板を含めた全写真資料について調査とデジタル化を行い、データベースの充実を計る。			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課長　富田　淳

【主な成果】

(1)ガラス乾板の調査及び紙焼き写真のデータ整理

①ガラス乾板については、四切写真約 3,600 枚とキャビネ写真の約 5,000 枚の法量（縦、横、厚さ、重さ）、墨書等文字の項目について、27 年 6 月～12 月に東京国立博物館にて調査した。

②紙焼き写真について、約 2,000 枚について既成画像を元に公開用データを作成した。

(2)ガラス乾板について、膜面返しやレタッチ、オペーク、マスキングなど加工処置が施された乾板が多いことがわかった。

(3)27 年度調査したガラス乾板と、焼付け写真は「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」において公開する。



ガラス乾板の調査風景

【備考】

科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目

・「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」（http://dbs.tnm.jp/kaken/oldphotos.html）　において年度内に約 5,500 件を公開した。

・調査回数：56 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	紙焼き写真については予定していた件数を公開用データ化することができたが、ガラス乾板については予定していた調査件数を達成しなかった。今後は調査項目を検討し、さらに多分野に寄与できるデータを構築できるよう努めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査」に沿った調査を継続的に実施することができた。今後は作業手順を見直し、さらなる効率化を計りたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-22

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	22）中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容（学術研究助成基金助成金）((5)-①)

【事業概要】社寺縁起絵は、神社仏閣の由来や霊験を描き出した説話画で、日本仏教興隆の祖である聖徳太子の絵伝を淵源とする祖師高僧伝絵とともに、鎌倉時代に盛んに制作された。本研究では社寺縁起絵、高僧伝絵の最盛期とも言える鎌倉時代の作例と、その構造を権力基盤の強化に利用した近世初期公武権力による作例を比較し、中世から近世へ至る絵画制作の「場」の実態と歴史的位置付けを明らかにする。そのため、東京国立博物館収蔵品の調査、関連資料のデータ化、社寺縁起絵や高僧伝絵に登場する聖地の現地踏査を行ない、これらの成果発表として特集展示を開催する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　瀬谷愛

【主な成果】

(1) 初年度となる 27 年度は、館蔵品・寄託品を主たる調査対象とした。特に「一遍聖絵」を中心に取り上げ、関連する「遊行上人縁起絵」「因幡堂縁起絵巻」「石清水八幡曼荼羅図」（東京・大倉集古館)、「融通念仏縁起絵」（京都・清涼寺)、「熊野曼荼羅図」（クリーブランド美術館）などの作品調査、善光寺（27 年 5 月 28 日）熊野（27 年 10 月 3 日～6 日)、菅生岩屋・大山祇神社（27 年 10 月 31 日～11 月 1 日）などの現地踏査を行なった。一遍が遊行した重要聖地を実際に踏査することにより、作品制作の背景となる信仰と人のネットワークの広がりを実感し、新知見を得ることができた。

(2) 27 年度の研究成果発表としての特集「一遍と歩く－一遍聖絵にみる聖地と信仰」（本館 2 階特別 1・2 室、27 年 11 月 3 日～12 月 13 日）では、当館が所蔵する国宝「一遍聖絵」巻第 7 と近世木挽町狩野絵師による模本、善光寺、熊野、石清水八幡宮など関連する聖地、信仰の絵画、彫刻、考古遺物を展示した。会期中、月例講演会（27 年 11 月 7 日）には責任者とともに薄井和男氏（神奈川県立歴史博物館館長、時宗文化財調査団）を招聘し、300 人の来場者があった。また責任者が行なったギャラリートーク（27 年 12 月 1 日）には 200 人の来場者があった。いずれも総合文化展に関する事業としては異例の来場者を達成し、研究成果を広く伝えることができた。

(3) (2) とほぼ同時期に遊行寺宝物館、神奈川県立歴史博物館、神奈川県立金沢文庫で開催された特別展「一遍聖絵」と連携し、会期中、「一遍と歩こう」スタンプラリーを開催し、のべ 5,699 人が参加した。台紙は一般向け解説書の意味合いを持たせ、「一遍聖絵」に関する平易な解説、一遍の遊行年表を掲載し、作品と背景への理解、普及を促進できた。

(4) (2) 開催期間中に、上記 3 館と連携してシンポジウム「一遍聖絵の全貌」を東京国立博物館平成館大講堂で開催し、研究報告者、パネリストとして研究成果を発表した。本シンポジウムは日本史、美術史、建築史など学際的に「一遍聖絵」を読み解くもので、その成果は、28 年度に高志書院より刊行を予定。



ギャラリートーク風景
（12 月 1 日）

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 1 年目
作品調査：31 件、現地踏査：5 回、学会研究会展覧会等発表数：3 件、論文解説等印刷物：「ふたつの第七巻」(「国宝一遍聖絵」展図録、遊行寺宝物館、27 年 10 月 9 日)、他 2 件。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度の主たるテーマとして取り上げた「一遍聖絵」は、時宗開祖一遍の生涯を綴った絵巻であるが、二祖他阿真教の伝記とあわせて語られる「遊行上人縁起絵」に比べて同系の絵巻、模本が圧倒的に少なく、これまで当館所蔵の木挽町模本についても一般に知られてこなかった。本研究では聖絵から木挽町模本への流れ、聖絵の圧倒的独自性、その制作背景について、作品比較と現地踏査によって新知見を得ることができた。論文形式の成果発表としては28年度に刊行を予定している。31年に時宗は他阿遠忌を迎えることから、今後数年にわたり時宗関連文化財の研究は一層の進展が望まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査」に沿った調査研究を実施し、その成果を特集等に反映させることができた。初年度は「一遍聖絵」をテーマとしたが、28年度はこれに加えて密教系縁起絵伝と八幡縁起へと対象を広げていく予定である。初年度の成果をもとにより積極的な調査研究を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-23

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	23)「月次祭礼図摸本」総合復元研究（科学研究費補助金　研究代表者：愛知県立芸術大学　岩永てるみ）((5)-①)

【事業概要】「月次祭礼図模本」（東京国立博物館）は室町時代（15 世紀頃）に描かれた屏風絵を江戸時代に写したもので、原本はすでに失われている。本図は祇園会などの祭礼描写が丁寧で、洛中洛外図との関連性への関心から美術史的注目も一段と高いが、模本という制約によって本来の絵画表現は不明な点が多かった。本研究は、技法、歴史、美術史、材料の各分野からの専門知識や研究成果を総合して、原本の図像復元を目標に絵画分析を行う学際研究である。失われた原本図像を復元し、その過程で得られる各分野の研究成果を集約することで、中世と近世の狭間にある本図の表現や成立背景について解明を試みる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　瀬谷愛

【主な成果】

(1) 初年度となる 27 年度は、2 度の研究会（27 年 6 月 8 日、12 月 17 日）が行われた。本プロジェクトには製作技術者の他に歴史・美術史の各分野から研究者が参加しており、画材、画風の検討が重ねられた。

(2) 東京国立博物館において作品調査（27 年 11 月 17 日）が行われた。「月次祭礼図模本」6 幅（A-2425、江戸時代・19 世紀）の他、同時代の屏風として参照すべきと考えられる「浜松図屏風」6 曲 1 双（A-11533、室町時代・16 世紀）の調査も行われ、比較検討をすることができた。複数名の異なる視点からみた作品調査により、「浜松図屏風」の金雲が金のほか青や茶などで彩色を施した「瑞雲」であることが確認され、雲霞表現の広がりについて新たな検討課題が見つかるなどの収穫があった。



「月次祭礼図模本」6 幅のうち第 4～6 幅

【備考】
科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目
研究会：2 回、作品調査：2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「月次祭礼図模本」は、多くの現存作例がある「洛中洛外図屏風」の原初的な作品として知られ、模本でありながら極めて価値の高い文化財である。「洛中洛外図屏風」には時節を問わず歴史・美術史各分野の研究対象として注目度が高い。本プロジェクトはその淵源となる作品の復元を学際的に試みており、その基礎となる作品調査と意見交換により多くの知見を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3ヵ年のプロジェクトのうち基礎的な考察を行う初年度が終わり、中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査」に沿った調査研究を実施することができた。28年度は具体的な復元図案の制作に入る。プロジェクト本体が愛知県立芸術大学にあって研究会の日程が合わず参加できないことがあるため、28年度以降は独自の研究を進めて情報提供するなど、プロジェクトへの貢献度を高めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-24

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	24）工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―（科学研究費補助金　研究代表者：東京藝術大学　赤沼潔）（⑤－①）

【事業概要】
日本各地及び中国など東アジアに残る鋳型の遺物と鋳造製品を調査分析し、そこから得られた情報に基づいて実際に製作を試みることによって、我国に伝わる真土型鋳造法の歴史的変遷と地域あるいは時代による技術材料的な特性を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	神庭信幸

【主な成果】
(1) 第１回調査会：27 年 6 月 19 日、東京芸術大学において、真土鋳造技術の現状確認、日本及び中国各地に残る鋳型に関する遺跡についてその所在地と遺物、先行研究について検討を実施した。

(2) 第２回調査会：28 年 1 月 18 日から 23 日まで中国北京市において保利芸術博物館、安陽市において中国社会科学院考古研究所及び殷墟遺跡、西安市において周原博物館及び周原遺跡、兵馬俑博物館を訪ね、遺跡・博物館・研究所などに保管されている関連遺物の調査を実施した。


鋳型焼成工程の一例


安陽市中国社会科学院考古研究所での調査

【備考】
科学研究費補助金事業の３年計画の１年目
調査会：２回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	第2回調査により中国における鋳造技術研究の進捗状況を確認できた。特に内型の文様の形成法について西周青銅器において貼り付け技術などが確認できた点は大きな成果である。調査結果の分析によって他にも同類の事例が確認できる可能性がある。出土した鋳型の科学分析が必要であり、我が国の遺物の実検を行うことも今後の課題であり、28年度以降はその結果との比較研究を進める必要がある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。また、我が国で出土した鋳型の遺物に関する報告書を精査して、本研究の推進に必要な先行研究を抽出し、実物遺跡の調査結果と合わせて、再現実験の準備を進めている。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-25

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	25）武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費補助金　代表者：国立歴史民俗博物館　上野祥史）（(5)－①）

【事業概要】古墳時代は、象徴的な器物の授受を通じて、王権中枢が地域社会との関係を構築した時代である。5 世紀の古墳時代中期には、武器と武具とを組み合わせた武装具が王権から地域社会（首長）へと配布される象徴的器物であった。本研究は、武装具が古墳に集積する現象に注目し、古墳時代中期社会の特質を描き出すことを目的とする。典型的な事例として、奈良県円照寺墓山 1 号墳の出土資料を取り上げ、出土した武装具の調査・実測を経て全体像を分析し、武装具が集積することの意味を「王権」「地域」「東アジア」という 3 つの視座から検討する。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【主な成果】

古墳時代中期における武装具集積の典型資料の調査及び研究会を実施し、27 年度は次のような研究成果があった。

1　東京国立博物館所蔵資料を整理して、基礎情報を提示するために実測調査を進めた。
2　調査情報を基礎として、「武装具の集積現象」を比較検討し、研究を推進した。
3　27 年 10 月の平成館考古展示室リニューアル公開に伴う展示室計画に反映させた。

①　実施概要

1）　27 年 5 月 20 日～23 日、7 月 29 日～8 月 1 日、8 月 12 日～15 日、9 月 9 日～12 日、11 月 18 日～21 日、12 月 24 日～27 日、28 年 2 月 3 日～7 日、3 月 2 日～4 日に東京国立博物館において、調査及び研究会を開催し、円照寺墓山 1 号墳出土資料の整理・実測調査を進めた。

2）　調査資料の際はアルバイトを雇用して、実測図の作成等の資料化を推進した。

②　成果・知見等　：東京国立博物館における研究会で、分析結果の研究報告を行い、論点の整理とその共有化を図り、これまでの調査成果の確認と問題点を検討・分析した。

③　成果の公開等　：28 年 3 月 5 日に、国立歴史民俗博物館と共同研究会を開催し、研究成果の発表・公開を行い、問題点を議論した。




調査(左）及び研究会(右）風景（26 年 12 月 25・27 日）

【備考】科学研究費補助金事業の 4 年計画の 3 年目

○調査･研究会回数（日数）：8 回（29 日間)、3 回（3 日間）
　・調査対象･件数　：　奈良県円照寺墓山 1 号墳出土資料（約 80 件）
○主な学会等発表等　：　国立歴史民俗博物館国際シンポジウム『古代日韓交渉の実態-朝鮮半島の倭系甲冑からみた日韓相互交渉-』国立歴史民俗博物館、28 年 3 月 5 日
○論文等公開　：　上記他 1 件
○共同公開研究会　：　1 件（国立歴史民俗博物館国際シンポジウム:「古代日韓交渉の実態（朝鮮半島の倭系甲冑からみた日韓相互交渉)」28 年 3 月 5 日、国立歴史民俗博物館）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究計画の達成度については、調査回数は十分であり、東京国立博物館所蔵資料の列品整理としても顕著な成果が挙がっている。27年度はさらに国立歴史民俗博物館との共同研究会の開催し、26年度に引き続き国際性を加えることができた。28年度は、より研究予算運用の効率性・適時性を高め、研究会をさらに充実して研究精度の向上を図り、さらに発展性・独創性の拡充と確立を図り、公開に向けた準備を進める所存である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報の整理・資料化、また論文発表・講演等を通じた当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として、十分な蓄積を行ったと考えられる。改良・改善点は、より高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることを目標として、次期中期計画期間の成果へ反映させる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4511-26

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	26)三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究（科学研究費補助金代表者：奈良県立橿原考古学研究所　水野敏典）((5)-②)

【事業概要】古墳時代前期を代表する遺物である「三角縁神獣鏡とは何か」について三次元計測技術を応用して製作技法から考えることを目的とする。舶載三角縁神獣鏡と仿製三角縁神獣鏡の対比を中心に、それを取り巻く倭鏡、中国鏡、銅鐸の同一文様をもつ青銅器を分析対象として、量産技法から相互関係を分析する。そのための手段として精密三次元計測データによる客観的で詳細な分析を用いる。

そして、肉眼観察では扱うことが不可能であった青銅器表面の微細な鋳型の傷や、面的な変形、収縮についての新しい情報を得ることで、これまでにない製作技法の解明を進める。さらに、青銅器製作技術から「舶載」と「仿製」三角縁神獣鏡の技術的系譜を明らかにすることも目的とする。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【主な成果】

1　既存データを用いた研究成果を発表・公開した。

2　今後の活用に向けて、X 線 CT 画像データ等の利用方法等を検討した。

3　27 年 10 月の平成館考古展示室リニューアル公開に伴うハンズオン用模型作成に反映させた。

①　実施概要

1）　東京国立博物館所蔵資料の既存調査データ・写真の整理・分析、及びデータ利用方法の開発を行った。

2）　新規に古代出雲歴史博物館・八尾市所蔵資料などの三次元計測を行った。

②　成果・知見等　：既存データ（東京国立博物館所蔵主要古墳出土銅鏡：科学研究費補助金 基盤研究(A)課題番号 25284161･平成 18 年度～平成 21 年度、基盤研究(A)課題番号 25284161･平成 14 年度～平成 16 年度)の分析・写真の整理を行い、今後の研究資料の整備を図った。

②　成果の公開等　：第 32 回日本文化財科学会で、同型鏡技法における研究成果を発表した。



○三次元計測データの画像分析、及び X 線 CT データを併用した正射投影図作成用画像
（左：奈良県久度３号墳・大阪府和泉黄金塚古墳[J-36931-25]出土画文帯神獣鏡、右：埴輪 犬[J-20711]）

【備考】科学研究費補助金事業の 4 年計画の 3 年目

○調査回数（日数）　:3 回(3 日間)

・調査件数　：約 5 件

・主な調査･分析資料　：三角縁神獣鏡・日本列島製漢式鏡、埴輪 犬（東京国立博物館蔵）

○研究会回数（日数）　:1 回（1 日間）

○主な学会等発表等　：古谷 毅･水野敏典･奥山誠義･北井利幸･柳田明進「三次元計測からみた上牧久渡 3 号墳出土の画文帯神獣鏡」『日本文化財科学会第 32 回大会　研究発表要旨集』日本文化財科学会、27 年 7 月 11 日

○論文当公開　：上記他 2 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	研究計画の達成度については、調査・データ分析の質をさらに高める必要がある。28年度からは研究予算運用の効率性・適時性を高め、研究会で分析視角に関する発展性・独創性の拡充・確立を図り、さらに調査と分析手法の開発を進める所存である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報の発表等を通じて、当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として蓄積は実施できたと思われる。改良・改善点は今後の計画遂行とより高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることを目標として、次期中期計画期間の成果に反映させる予定である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4511-27

業務実績書

中期計画の項目	４ 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	27）木彫像の樹種識別技術の高度化（科学研究費補助金　研究代表者：森林総合研究所　安部久）((5)-①)

【事業概要】
木彫像の樹種判別に非破壊分析手法、顕微手法を応用した精密分析手法を導入することにより、種レベルでの正確な樹種を特定する研究。

【担当部課】	学芸研究部保存修復課	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　　和田浩

【主な成果】
(1)これまでの調査成果を一般向けに分かりやすくまとめ、シンポジウム「仏像と木の交流-古代一木彫像の樹種をめぐって-」として開催し、成果の公開を行った(27年5月16日)。
(2)The 22nd International Wood Machining Seminar(第22回国際木工機械セミナー(開催地：カナダケベック))にて成果発表を実施した(27年6月14日～17日)。
(3)近赤外分光法による樹種識別についての研究成果を論文にまとめて発表した(27年7月)。
(4)山梨県南アルプス市に所在する円通院(27年9月14日)、慈眼寺(27年9月15日)、上宮八幡神社(27年9月16日)、若宮八幡神社(27年9月16日)が所蔵する木彫像の写真撮影、採寸、調書作成、木片採取を行い、近赤外分光法による計測を実施した。
(5)ラトゲン文化財研究所(ドイツ)においてStefan Rohrs副所長と協議を行い、文化財に対する光学的調査技術に関する最新に知見を得ることができた(27年9月30日)
(6)岩手大学が所蔵する木彫像の写真撮影、採寸、調書作成、木片採取を行い、近赤外分光法による計測を実施した(27年10月28日)。
(7)第31回近赤外フォーラム(開催地：つくば市)にて成果発表を実施した(27年11月25～27日)。
(8)第66回日本木材学会大会(開催地：名古屋市)にて成果発表を実施した(28年3月27～29日)。


南アルプス市における木彫像の調査

【備考】
科学研究費補助金事業の3年計画の3年目
・論文：安部久、渡辺憲、石川敦子、能城修一、藤井智之、岩佐光晴、金子啓明、和田浩「近赤外分光法を用いた木彫像用材の非破壊的な樹種識別 -木材標本を用いた分析-」(『木材保存』41(4)pp.162-170、27年7月)　他1件
・シンポジウム開催と発表：1回
・学会発表：3回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は特に成果発表に関して充実した内容と回数を実現できた。また、南アルプス市においては木彫像を直接近赤外分光計測できた実例を充実させることができた。調査回数及び成果発表回数の双方を考慮すると研究の結果としては高い評価を与えられるべきと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って調査研究を実施することができた。なお、国内外で近赤外分光分析法を用いて木彫像の樹種判別に挑み、成功した実例はこれまで存在しない。本研究は特に、カヤ、ヒノキの判別を非破壊的に実施できる手法をほぼ確立している。多くの木彫像は、そこからの木片採取が不可能であり、本研究の成果は今後の計測事例を飛躍的に向上させる可能性を持つものと考える。同手法をさらに発展的に応用して東アジア地域全体における木彫像の用材に関する研究へと将来的には進展させていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
館蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となり得る文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　伊藤嘉章

【主な成果】

館蔵品、寄託品、それらの関連品及び今後収集・展示の対象となり得る文化財と、その周辺領域に関して、美術史、歴史学、考古学、博物館学、保存科学等の各見地から調査研究を実施し、各種学会等・学術誌等でその成果を発表した。特別展覧会、特別展観、特集陳列等でもそれらの成果を示し、図録等での発表を行い、シンポジウム、講演会によりその成果を公開した。



琳派 400 年記念国際シンポジウム



文化遺産防災国際シンポジウム

【備考】
・研究会等の発表
呉孟晋「中国近現代絵画於日本的情況」（香港中文大学文物館「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画」展専題講座 27 年 5 月 9 日）ほか
・学術雑誌他出版物に論文等を掲載
山本英男「桃山画壇を生きる―狩野派絵師の攻防」（特別展覧会図録「桃山時代の狩野派」総論　27 年 4 月ほか）

・学会、研究会等発表件数：16 件

・論文等掲載件数：34 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品・寄託品を中心に京都の伝統文化に関わる文化財に重点を置き研究を進めた。 特別展覧会・平常展との関連を重視しつつ、学会等の動向に留意しつつ研究を進めた。 Ｘ線ＣＴ、３Ｄプリンターなどの博物館科学機器を活用した新たな研究を進め、その成果を展示等にも反映させた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	従来の成果を活かし、広く一般への還元を図るなど、研究計画にも基づき、順調に推移している。新たに導入された博物館科学機器の活用なども積極的に進めており、より総合的な調査研究となるよう進めている。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4512-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）訓点資料としての典籍に関する調査研究((5)－①)

【事業概要】

漢文を訓読するために施された、「訓点」とよばれる読みを表すための記号は、時代や地域によりかなりの多様性があることが指摘されており、その大半は仏典である。主に平安時代から鎌倉時代を中心とした仏典に付された訓点により、当時の日本人がどのように本文を訓読していたか、あるいは日本語の有り様が判明する。当館では、「守屋コレクション」に代表される、国内でもトップレベルの典籍を数多く収蔵することから、専門の学識者を客員研究員に迎え、それらの調査研究を行うことにより、得ることのできた成果を展示や講演、あるいは論文など、博物館における事業へと還元する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡

【主な成果】

(1)調査のスタッフに大阪大谷大学教授の宇都宮啓吾氏（日本語学）を客員研究員として迎え、27 年９月１日をはじめ、28 年３月 26 日までに計 10 回の調査を行い、重要な部分は写真撮影を行った。調査作品は、「宋版華厳疏巻第三十二」「宋版清凉国師礼賛文」（以上、いずれも館蔵品）、国宝「漢書楊雄伝第五十七」（寄託品、国宝）など、およそ 20 件におよんだ。

(2)とくに、「漢書楊雄伝第五十七」は、天暦２年（948）の藤原良佐による加点奥書がしめすように、文中の随所に訓点が施されており、詳細な調査を行った結果、朱点・墨点・白点・黄点・角点による３種類の訓点が確認された。これらの訓点は加点時期をほぼ同じくし、ごく初期の訓点は固定化されておらず、我が国での漢文訓読が試行錯誤の様相を呈していたことが明らかとなった。

(3)こうした研究の結果として、資料としての重要性が可視的に示されたため、27 年度、「漢書楊雄伝第五十七」を当館において購入することができた。また、26 年度より継続して調査を進めていた国宝「玉篇　巻第二十七前半」（寄託品）は、解題を付した書籍を 28 年度、勉誠出版より刊行する予定である。



「漢書楊雄伝第五十七」（国宝）巻末部分

【備考】

・調査回数　10 回
・調査件数　約 20 件
・撮影コマ数　約 100 カット
・研究成果の公開（出版）　１回（予定）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査回数10回は、平均すればおよそ月１回のペースで行われていたことになる。また、件数20件は、調査対象がいずれも巻子や本といった時間を要するものである点を勘案し、当初の目標は十分に達成していると判断した。調査結果の作品購入への反映や、予定ではあるが成果の公開など、ほかの博物館事業との連携を図ることができた点も加味している。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続実施している本事業において、調査回数及び件数ともに、例年とほぼ同じ数値であるため、中期計画に対する進捗状況は順調であると判断した。当該分野は、非常に高い専門性を必要とするため、後進の育成が大きな課題となっている。28年度以降は、博物館資料を活用する意味でも、若手の研究者たちを交えた調査、意見交換なども視野に入れるべきかと考える。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)特別調査「彫刻」((5)-①)
【事業概要】京都国立博物館収蔵の彫刻作品及び京都周辺社寺の仏像の調査研究、撮影	
【担当部課】 学芸部	【プロジェクト責任者】 浅見龍介

【主な成果】

(1)調査

4 月 17 日　河内長野市・金剛寺　大黒天立像　ＣＴ調査、ファイバースコープによる像内墨書銘調査（博物館内）
4 月 27・28 日　京都市・上徳寺　阿弥陀如来立像　調査、撮影（現地）
6 月 16 日　京都市・上徳寺　阿弥陀如来立像　ＣＴ調査（博物館内）
8 月 27 日　木津川市・鷲瀧寺　薬師如来坐像及び両脇侍像、地蔵菩薩立像　調査、撮影（現地）
8 月 31 日　京丹後市・縁城寺　千手観音立像、大日如来坐像、阿弥陀如来立像、持国天立像（現地）
9 月 10 日　京都市・西来院　蘭渓道隆坐像　ＣＴ調査（博物館内）
10 月 29 日　京都市・市川車僧保存会　深山正虎坐像　ＣＴ調査、ファイバースコープによる像内墨書銘調査（博物館内）
12 月 1～4 日　河内長野市・金剛寺　大日如来坐像　光背附属小仏 34 躯のうち 16 躯　調査、撮影　（博物館内）
1 月 8 日　八幡市・円福寺　達磨坐像　調査、撮影（現地）
1 月 28 日　京都市・知恩寺　阿弥陀如来立像　ＣＴ調査

(2)成果

金剛寺の大黒天立像は、本体に建武三年の銘記、台座に延元元年の銘記を発見した。ともに 1336 年。
上徳寺の阿弥陀如来立像は唇に水晶を嵌めた稀少な作で、新発見である。
市川車僧保存会の深山正虎坐像は、ファイバースコープ調査により仏師清水隆慶の作であることが初めてわかった。

(3)展示

金剛寺の大黒天立像、市川車僧保存会の深山正虎坐像を展示し、解説に新知見を盛り込んだ。
円福寺の達磨坐像、縁城寺の諸像は 28 年度に展示する予定。ＣＴ調査で得た映像を始めとする成果は、論文として公表する予定である。





上徳寺　阿弥陀如来立像　唇（水晶製）

【備考】

(1)調査回数：13 回
(2)
・知恩寺・阿弥陀如来立像の調査成果は、京都国立博物館編『社寺調査報告書　知恩寺』（28 年 3 月刊）に収録した。
・ＣＴ及びファイバースコープ調査の成果は、京都国立博物館土曜講座「科学機器による仏像の調査研究」（28 年 2 月 20 日）で公表した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新発見が多く、調査の成果は著しい。特にＣＴ調査は現状では九州・東京の国立博物館と当館にほぼ限られており、学界に寄与するところは大きい。ただし、27年度は論文、報告として公表することがやや少なかった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品の調査・研究」は順調に行われた。調査件数は着実に積み上げ、館の資料を蓄積することができた。今後ＣＴ映像の解析、文献との突き合せなどを行い報告、論文としてまとめたい。 28年度は調査件数を維持しつつ、成果の公表をなるべく迅速に行うようにする。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)出土伝世古陶磁に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
日本国内で出土・伝世した陶磁器について、総合的に調査を実施し、博物館の所蔵品・寄託品の充実を図ると共に、最新の調査・研究成果を展示や講演会などに反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸室研究員　降矢　哲男

【主な成果】
(1) 調査
・福井市愛宕坂茶道美術館の所蔵品調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。
・近畿地方の江戸時代から続く旧家の所蔵品の調査を行い、調書を作成すると同時に記録写真の撮影を行った。（詳細は処理番号 4532-4 参照）。
・15 世紀から 16 世紀を中心とした日本海交易で用いられた陶磁器について、特に中国地方や北陸地方の当該時期の遺跡から出土した貿易陶磁器を中心に、出土傾向を調べるために数量カウントや写真撮影等を行った。
・京都市内や兵庫県内（3 件約 500 点）などの個人コレクションの陶磁器を調査し、その内容把握や写真撮影を行った。
(2) 成果内容
・福井市愛宕坂茶道美術館において、近年寄贈された陶磁器、特に茶道具を中心とした作品の調査を実施した。いずれも近代になって、福井県内のコレクターによって収集されたものが寄贈された。器形や年代、産地等についても多岐に及んでいるが、茶道具として用いるために集められたものであり、収集家の個性や地域性などを探る上で、一つのその傾向や蒐集経路などについての知見を得ることができた。そして、個人コレクションの調査により、一部寄贈を含む、数十点から百点ほどの作品の寄託を受ける予定であり、館蔵品で網羅されていない時期や産地の作品の展示が可能となり、平常展の内容をより充実したものとすることができる。
また、研究会を企画、運営し、その成果を多くの研究者に問うことにより、研究成果をより精緻なものにすることができると同時に、日々の研究成果を広く一般に公開できた。


愛宕坂茶道美術館調査風景

【備考】
(1) 調査回数 15 回
・主な研究発表
①「茶の湯と考古学」、企画展「まちを掘る」講演会、さかい利昌の杜、27 年 10 月 4 日
②「中世の喫茶文化－出土する茶道具の様相とその価値観－」、2015 発掘徳島講演会、レキシルとくしま、27 年 12 月 19 日　ほか 1 件
・主な論文執筆
①「茶の湯と朝鮮陶磁」『高麗美術館館報』第 101 号、高麗美術館、27 年 5 月 1 日
②「新たな発想と創造－桃山陶－」『目の眼』8 月号（通巻 467 号）、目の眼、27 年 8 月 1 日ほか 5 件
・研究成果の公表など
①第 36 回日本貿易陶磁研究集会「中世山陰と東アジア－貿易陶磁からみる日本海交易－」（米子市文化ホール、27 年 9 月 26・27 日）の開催企画、運営及びシンポジウム司会

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎データを蓄積していくことが本プロジェクトの根本である。27年度は複数の事例の調査を行うことができ、調査回数についても15回行うことができた。こうした基礎データの蓄積とともに、研究成果の公表を研究者のみならず、一般に向けた講演会等で公表できたことは、26年度と比べても非常に有意義であったといえる。27年は調査成果を蓄積し、その成果を公表していくだけでなく、調査の過程で展示を大幅に拡充できるだけの寄託品を受け入れられることとなったことは、大きな成果といえる。このことにより、大規模な展覧会や講演会などの博物館事業の内容を充実させていくことに繋がることが期待できる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画においては、着実に調査を進め、多くの基礎データの蓄積を行い、研究発表や展示を通じて、研究成果を着実に還元してきている。また、基礎データの収集を通じて、館蔵品や寄託品を充実させることもできた。 28年度以降も、基礎データの蓄積を継続して進めていくとともに、従来の蓄積データを照らし合わせながら研究を行い、さらなる成果の結実に結び付けていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4512-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5）特別調査「漆工」((5)－ ①)

【事業概要】
寺院、博物館、美術館、個人宅で収蔵されている漆器について、熟覧のうえ、採寸や調書作成を行い、デジタルカメラによる簡易記録写真撮影を行った。この基本作業を通じて作品を評価し、調査した作品のうちの少なからぬ点数を、特別展覧会への出品や当館への寄託、寄贈に結びつけることができた。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　永島　明子

【主な成果】
①27 年 4 月 24 日、京都市内の個人宅で、日本製、中国製、琉球製の漆器の調査を行った結果、戦前の京都で流通していた古物としての漆器の傾向を知ることができた（唐物の改造など）。
②27 年 4 月 28 日、神戸市内の個人宅で、日本製、朝鮮製の漆器の調査を行った結果、南蛮漆器の優品の発見があり、この作品を含め、14 件の漆器を寄託品として受け入れることができた。
③27 年 5 月 15 日、個人蔵の茶道具を調査し、唐物 2 件を寄託品として受け入れることができた。
④27 年 6 月 19 日、午前、個人所蔵者が当館へ持参した漆器の調査を行い、このうち 3 件を寄託品として受け入れることができた。
⑤27 年 6 月 19 日、午後、大和文華館で、筒の調査を行い、秋の琳派展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。
⑥27 年 7 月 16 日、東京国立博物館にて、硯箱の調査を行い、秋の琳派展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。
⑦27 年 9 月 17 日、個人所蔵者が当館へ持参した漆器の調査を行い、このうち 4 件を寄託品として受け入れることができた。
⑧27 年 10 月 13 日、琳派展の展示作業の過程で、畠山美術館の硯箱を熟覧する機会を得て、光琳蒔絵と言われる蒔絵の特徴の一端を把握することができた。
⑨27 年 10 月 26 日、琳派展の展示作業の過程で、藤田美術館の硯箱を熟覧する機会を得て、光琳蒔絵と言われる蒔絵の特徴の一端を把握することができ、また鉛板象嵌部分の保存状況についても学ぶことができた。
⑩27 年 11 月 4 日、妙心寺の僧堂、天授院の飯塚桃葉作の厨子などを調査し、このうち 1 点を寄託品として受け入れることができた。
⑪27 年 11 月 10 日、知恩寺にて、日本製、中国製の漆器を調査し、社寺調査報告書に掲載する情報を集めることができた。
⑫28 年 1 月 20 日、相国寺塔頭・大明光寺蔵の食籠を調査し、28 年度の禅展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。
⑬28 年 1 月 22 日、大徳寺にて重書箱（経箱）を調査し、28 年度の禅展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。
⑭28 年 1 月 25 日、萬福寺にて、隠元隆琦所用と伝わる漆器類を調査し、次年度の禅展のために、東京国立博物館のみに出陳さる品（当館には出陳されない品）も含めて、より充実した作品解説を執筆することができた。
⑮28 年 1 月 31 日、鎌倉国宝館にて円覚寺蔵の香合を調査し、28 年度の禅展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。
⑯28 年 2 月 12 日、大阪市立美術館にて、大仙院蔵の中国製の盆の調査を行い、28 年度の禅展のためにより充実した作品解説を執筆することができた。



萬福寺蔵、伝隠元隆琦所用の蒔絵衣桁とその部分
（東京国立博物館の臨済禅展に出陳予定）

【備考】
上記以外の調査を含め、1314 カットの撮影を行い、寄託品 22 件、寄贈品 3 件を受け入れることができた。また 27 年度の刊行物では、琳派展図録、社寺調査報告書などに成果を発表した。
上記のほか、大阪の旧家にて、延べ 36 日間で 389 件の漆器等を調査し、3020 カットの撮影を行い、寄贈品 127 件を受け入れたが、これについては別途「近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)」として報告する。
27 年度は海外調査費を取得しなかったため、国内調査のみである。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国立博物館への信頼を基に調査の機会を与えられ、これを最大限に活かし、収蔵品の拡充や特別展覧会でのより分かりやすい効果的な展示に結びつけることができた。28年度以降も引き続き責任をもって取り組んでいきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査の結果を収蔵品や展覧会に結びつけることこそ、博物館の根源的な業務であり、本プロジェクトも中期計画に則って順調に進捗している。海外からの依頼もあるが、これについては予算と時間の確保が課題である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査・研究（(5)－①）

【事業概要】収蔵品、寄託品、それらの関連品、今後に収集・展示の対象となりうる文化財を調査し、併せて保存、展示、公開に関する研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　内藤栄

【主な成果】収蔵品、寄託品、それらの関連品、今後に収集・展示の対象となる可能性がある文化財について、研究員がそれぞれの専門分野の立場から調査を実施した。その調査に基づく研究の成果は、展示会場に掲示したパネル解説や、各種刊行物に掲載の論文、館内外での講座等に反映された。以下に 27 年度の調査と研究成果の一部を挙げる。

(1) 購入 4 件、寄贈 2 件、寄託 7 件を受け入れるにあたり、綿密な調査に基づく調書を各担当研究員が作成した。

(2) 客員研究員及び調査員の助言を仰ぐための文化財調査会を、26 回実施した。
- 薬師寺所蔵の渤海国書写ともいわれる華厳経の調査（27 年 4 月 9 日）
- 当館所蔵の善光朱印経と呼ばれる一切経の零巻を調査（28 年 3 月 4 日）　など



27 年 10 月 3 日、館蔵の正倉院文書、東寺文書、額安寺文書等の調査

(3) (2)以外の外部の識者を交えた文化財調査を、適時に実施した。
- 金剛峯寺所蔵の雑阿含経（五月十一日経）を調査（27 年 9 月 2 日）
- 国内外の研究者からなるグループとともに、「神聖ローマ帝国期古文書と日本古代中世文書の比較史的研究」を調査（27 年 10 月 3 日）
- 園城寺所蔵の金光明経文句を調査（27 年 10 月 27 日、28 年 3 月 8 日）
- 当館寄託品の隅寺心経を総合的に調査（27 年 12 月 11 日）　など

(4) 館外における文化財（収蔵品、寄託品、それらの関連品等）の調査を、43 回実施した。
- 個人コレクターの邸にて、奈良時代の写経や中世の仏画を中心とした多数の文化財を調査（27 年 9 月 4 日）
- 東大寺での経巻聖教調査に参加（27 年 6 月 3 日、9 月 17 日・18 日、28 年 1 月 20 日・21 日）　など

(5) 外部機関が主宰する研究プロジェクト 7 件に、当館から延べ 9 名の研究員が参画した。
- 大阪大学「5～9 世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」
- 九州大学「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」　など

(6) 各研究員の研究成果の一端を、当館の季刊誌「奈良国立博物館だより」、特別展会期中の新聞連載での展示品解説に発表した。

【備考】
論文等：湯山賢一「『摂関家旧記目録』の筆者は藤原忠実か―摂関家再興の象徴―」（田島公編『近衛家名宝からたどる宮廷文化史　陽明文庫が伝える千年のみやび』、笠間書院、28 年 3 月 31 日）　他 30 件
口頭発表：57 件　　文化財調書作成数：13 件　　奈良国立博物館だより掲載記事：10 件　　新聞寄稿件数：11 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品、寄託品、それの関連品の調査と研究は、博物館研究員の根幹をなす事業である。27年度も、各研究員がそれぞれの専門の立場から、館内での各自の文化財調査と外部識者を交えての調査を数多く実施し、また必要に応じて（多くは先方からの要請により）館外の文化財を調査する機会もあった。調査件数、調査結果を反映させた研究発表件数とも、数値は例年から大幅な増加とはなっていないため、この評定とする。今後、文化財調査の質と研究内容を向上させていくためには、研究員各自のスキルアップが欠かせず、そのためにも文化財に触れる時間を多く確保しなければならないため、他の業務の効率化が求められる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に掲げられた「文化財に関する調査及び研究の推進」は、日常的な文化財調査に基づき、その成果を研究論文、口頭発表等で堅実に公表しており、順調に達成されていると言える。今後も、現状に満足することなく、新たな研究手法の模索等を継続していく必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究((5)-①)

【事業概要】仏教絵画の制作当初の姿を復元的に描く模写制作に際し、現状では変色や剝落によって肉眼の観察のみでは判別できなくなっている料絹・料紙や顔料などの素材について、事前に高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器等を用いた光学的調査を入念に実施し、そこで得られたデータを模写制作に活用・公開する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 当館と東京文化財研究所との共同研究による光学的調査の成果データに基づいて制作が進められてきた国宝信貴山縁起絵巻の復元模写（文化庁蔵）について調査及び研究会を実施した。
- 信貴山縁起絵巻の復元模写について高精細デジタルカメラを用いたカラー画像撮影及び蛍光 X 線を用いた顔料分析を実施し、その成果に基づいて国宝原本との詳細な比較検討を行う研究会を開催した（28 年 1 月 7 日）。
- 復元模写及びその調査・研究会の成果を 28 年 4 月から開催予定の特別展「国宝　信貴山縁起絵巻」の展示並びに図録上等において公表するための準備を進めた。

(2) 愛知県立芸術大学が進める重要文化財大仏頂曼荼羅（当館蔵）の復元模写制作の基礎資料を提供するために、同作品に対する光学的調査及び検討会を行った。
- 当館光学調査室において蛍光 X 線分析器を用いた大仏頂曼荼羅の顔料調査を実施（27 年 6 月 4 日）。
- 高精細デジタルカメラを用いた大仏頂曼荼羅のカラー画像・近赤外線画像撮影を実施（27 年 9 月 28 日）。
- 愛知県立芸術大学において制作途中の大仏頂曼荼羅復元模写を実査し、光学的調査で得られたデータに基づく顔料等の復元について詳細な検討を行った（28 年 1 月 22 日）。



蛍光 X 線分析器を用いた大仏頂曼荼羅（当館蔵）の顔料調査風景

【備考】
調査回数：3 回（信貴山縁起絵巻復元模写調査 1 回、大仏頂曼荼羅調査 2 回）
調査作品数：2 件（信貴山縁起絵巻復元模写 3 巻、大仏頂曼荼羅 1 幅）
研究会開催件数：2 件（信貴山縁起絵巻復元模写研究会 1 回、大仏頂曼荼羅研究会 1 回）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	平安絵巻の代表的な国宝信貴山縁起絵巻の復元模写制作というまたとない機会に、当館と東京文化財研究所の共同研究という形で最新の光学機器を用いた調査を実施した結果、そこで得られた精度の高い調査データをもとに当初の彩色復元が可能となり、復元模写の完成につなげることができた。ここで得られた光学的調査の成果及び復元模写の実物については、28年度に当館で開催予定の特別展「国宝　信貴山縁起絵巻」の展示及び展覧会図録において公開する予定である。さらに平安仏画の名品である重要文化財大仏頂曼荼羅（当館蔵）を愛知県立芸術大学が復元模写制作するにあたり、同大学と共同で精度の高い各種の光学的調査を実施し、そこで得られた成果に基づいて制作当初の顔料を復元的に考察し、復元模写制作につなげることができた。28年度も、現在継続中の復元模写制作に寄与するデータが得られるよう、引き続き同作品に対する追加の光学的調査を実施する計画である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	信貴山縁起絵巻と大仏頂曼荼羅という当館を代表する館蔵・寄託品について復元模写を制作するにあたり、過去に継続的に共同研究を実施してきた東京文化財研究所及び愛知県立芸術大学とともに精度の高い光学的調査を実施し、その成果に基づいて研究会等を重ねながら彩色等の復元的考察を加え、着実に復元模写制作に寄与することができた。27年度は中期計画の最終年度に当たるが、次期中期計画においても現在制作途中の大仏頂曼荼羅復元模写、さらに新たに当館の寄託品である滋賀・観音正寺蔵絹本著色千手観音像の復元模写制作が愛知県立芸術大学によって行われることから、これに寄与するデータが得られるよう引き続きこれまでと同様の光学的調査を実施する計画である。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）平安時代の大般若経の総合的調査と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(学術研究助成基金助成金）（(5)－①）

【事業概要】平安時代に日本で書写された『大般若波羅蜜多経』（略して「大般若経」とも）の網羅的な調査を通じて、当該期における写経の形態的特徴を明らかにするとともに、写経遺品から得られる情報を歴史学の研究資料として利用するための基盤を構築しようとするものである。平安時代のなかでも 9～11 世紀のものは情報の共有が不足しているため、本研究ではその時代に書写された『大般若波羅蜜多経』の基礎データの蓄積に重点を置く。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	企画室長　野尻忠

【主な成果】

(1) 「安倍小水麻呂願経」（貞観 13 年〈871〉願文）の研究

26 年度に引き続き、「安倍小水麻呂願経」と呼ばれる大般若経を調査し、写真撮影した。特に 27 年度は、慈光寺以外に所在する僚巻に重点を置いて調査を進め、また外部の研究者に依頼して同経の国語学的な分析を実施した。以上の成果を受け、本経が発願された背景、書写の場（地域）、書写に参加した人々の階層や人数などについて考察を深めた。

・27 年 4 月 16 日、台東区立書道博物館において、巻第百七十を調査した。同館では、あわせて奈良時代末の大般若経と時代不詳の般若心経を調査した。

・4 月 17 日、「安倍小水麻呂願経」を今に伝えた慈光寺（埼玉県ときがわ町）の現地踏査を実施した。

・5 月 15 日、埼玉県立歴史と民俗の博物館が所蔵する「安倍小水麻呂願経」の僚巻 2 巻を調査、写真撮影した。また、同日、慈光寺所蔵「安倍小水麻呂願経」152 巻のうち、未調査だった 10 巻を調査、写真撮影した。

・5 月 16 日、大東急記念文庫（東京都世田谷区）において、巻第四百五十二と巻第六百を調査した。同文庫では、あわせて奈良時代末の大般若経と時代不詳の般若心経を調査した。

・6 月 12 日、調書の整理時に問題となった箇所につき、原本の追加調査を実施した。

・9 月 14 日・15 日と 10 月 26 日の 3 日間にわたり、外部の研究者（国語学）とともに全巻の訓点を調査した。

・11 月 6 日、根津美術館（東京都港区）において、巻第四百を調査した。

・11 月 20 日・27 日、調書の整理、及び原本の追加調査

(2) (1)以外の平安時代古写経・大般若経関連遺品の研究

・4 月 13 日、安楽寿院所蔵の仁寿 3 年（853）発願の大般若経を調査、写真撮影した。

・4 月 16 日、サントリー美術館において、奈良時代から江戸時代までの多数の経巻・聖教を調査した。

・5 月 1 日、大般若経（長屋王願経／和銅経）を外部の研究者 2 名とともに調査した。

・10 月 30 日、大宝院（三重県津市）において、平安時代の紺紙経巻を調査した。

(3) 研究成果に基づく講演等

・4 月 7 日～9 日、大般若経を含む平安時代の古写経について、一般の来館者向けに解説した。

・4 月 25 日、公開講座「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」にて講演した。

・11 月 8 日、埼玉県立歴史と民俗の博物館において、「慈光寺伝来の法華経と大般若経について」と題して講演した。

・5 月 13 日、大般若経を含む平安時代の古写経について、大学院生向けに解説した。

【備考】

論文等：「概論　まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」（『まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展』、奈良国立博物館、27 年 4 月 7 日）　他 4 件　　調査及び研究の回数：15 回　　講演会等：6 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は当初の計画どおり、慈光寺以外に所在する「安倍小水麻呂願経」の調査を順調に実施し、総合的な研究へと進む基盤ができた点が評価できる。しかし、各方面への調査及び外部識者との合同調査によって予想以上に多くのデータが採取され、その整理が追いついておらず、報告書のとりまとめに時間を要している。順調に進んだ点と進んでいない点を勘案し、27年度は左の評定とする。28年度は調査とデータ整理とのバランスを取りながら、歴史学研究の資料として耐えうる報告書の作成を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、前回の中期計画期間に実施した奈良時代の『大般若波羅蜜多経』に関する総合的研究を踏まえ、そのノウハウを生かして平安時代の『大般若波羅蜜多経』を調査し、研究を推進しようとするものである。研究の性格上、世間に注目され新聞記事に取り上げられるような成果は出にくいが、当館の仏教美術研究の蓄積の上に立ってこそ成し遂げられるものであり、中期計画は着実に達成できていると言える。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4513-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）仏教工芸の総合的調査((5)-①)

【事業概要】　仏教工芸の総合的な調査・研究を行い、成果を公表する。対象は館蔵品、寄託品、一時預かり品をはじめ、展覧会等に際して借用した作品に及ぶ。また、展覧会の出品候補となる作品や、当館の所在する奈良周辺の文化財など、各所の文化財についても積極的に調査を実施し、基礎情報の蓄積に励む。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室長　清水　健

【主な成果】

(1)展覧会に関する調査

・特別展「国宝信貴山縁起絵巻―朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝―」の事前調査を実施し、朝護孫子寺所蔵の仏教工芸品、及び関連資料を調査・熟覧した（27 年 7 月 24 日、12 月 1 日、28 年 1 月 29 日、2 月 13 日)。

・特別陳列「伊豆山神社の歴史と美術」の事前調査を実施し、同社所蔵の仏教工芸品を調査・熟覧した(27 年 8 月 6 日、11 月 27 日)。

・特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」にて借用した文化財について、光学調査を含む調査を実施し、法隆寺所蔵・伝橘夫人念持仏厨子の扉絵等の鮮明な近赤外線画像を撮影し（27 年 9 月 9 日)、会期末に公表した。

・特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」にて借用した文化財（薬師寺東塔水煙）について、鋳造技法等を検討する研究会を行った(27 年 9 月 7 日)。

(2) 経常調査、その他の調査

・科学研究費　基盤研究（A）「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」（研究代表者・湯山賢一）による文化財の調査を実施した(27 年 4 月 5 日、28 年 1 月 17 日、2 月 16 日)。

・中国・上海博物館にて同館所蔵の唐鏡を調査・熟覧をした(27 年 12 月 10 日)。

・収蔵する仏教工芸品について調査を実施した。



朝護孫子寺調査(扁額)



朝護孫子寺調査(湯釜)

【備考】

・調査　　25 回（うち客員研究員・調査員による調査は 9 回、海外調査 1 回)

・研究会　 1 回

・清水　健「秋田県の鏡像」、平成 27 年度後三年合戦沼柵公開講座「清原氏と平安のかがみ―秋田県の鏡像と後三年合戦―」（於・雄物川コミュニティセンター）資料集、27 年 8 月 2 日

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初の計画に基づき、概ね予定通りの成果を上げている。一層調査の機会や対象を増加させ、調査手法を多様化させる必要性があると考えられる。28年度以降は奈良周辺の寺社の調査を引き続き重点的に行うとともに、奈良周辺の仏教工芸を相対的に捉えるためにも、国内外の諸地域に対象を広げていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づいて、着実に調査を実施し、順調に成果を上げている。調査成果は、展覧会図録を筆頭に、紀要、その他の刊行物、講演等によって随時公表しており、展覧会内容の充実や研究資源の蓄積にも繋がっている。今後は一層量的、質的に調査研究を充実させることによって、仏教工芸に関する資料・情報の充実に努め、国内外に成果を発信していきたい。 28年度以降は、30年度に展覧会を控える春日信仰に関する工芸品の調査、神仏習合に関する工芸品、及び上代工芸の調査研究に力を入れていきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4513-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)古墳・古墓出土品の調査と研究（(5)-①）

【事業概要】当館所蔵の五條猫塚古墳（奈良県五條市）出土品の再整理作業を通じて五世紀の大陸・列島間の文化交流の考究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室長　吉澤　悟

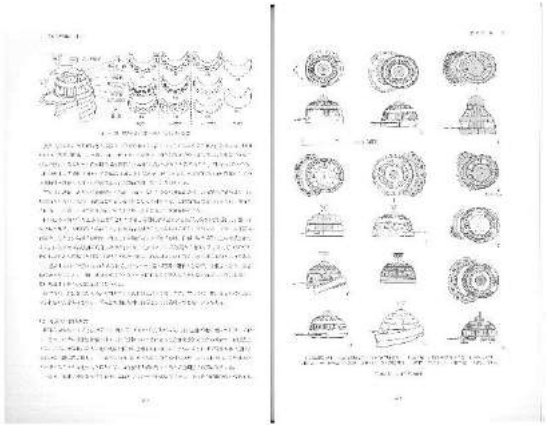
【主な成果】

これまで継続的に進めてきた五條猫塚古墳出土品の再整理報告書の作成を行った。全体で三分冊の構成を計画しており、すでに「写真図版編」（25 年）、「報告編」（26 年）が完成し印刷が終了している。
今回はその最後の考察と総括にあたる「総括編」（当初計画の名称は「考察編」）の製作を行った。これまでの整理作業で当館内に蓄積・保管したデータをもとに、外部の研究者を交えて研究会を組織し、各遺物の考察論考と総括的評価の論考を編集し、発行した。

【備考】

成果品：「五條猫塚古墳の研究・総括編」奈良国立博物館発行　27 年 12 月 28 日

※「五條猫塚古墳の研究・写真図版編」、「同・報告編」はすでに印刷済みであるが、三冊揃っての頒布とするために未公表である。今般の「総括編」をもって頒布を開始する。



『五條猫塚古墳の研究　総括編』

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	古墳出土品の調査と研究に関する精度の高い論考を集めて「総括編」を発行することができた。 今回の発行をもって『五條猫塚古墳の研究』は三分冊が揃い、報告書の発行事業を完遂することができた。報告書発行によってこれまで蓄積・保管されたデータを総括し、広く発信することができた意義は大きいと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査・研究の成果を報告書のかたちで公開でき、中期計画における「有形文化財の保存・活用を促進する」ことが達成できたと考える。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4514-1

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究((5)-①)

【事業概要】
収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財を調査研究し、あわせて保存・展示・公開に関する調査研究を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　小泉惠英

【主な成果】
収蔵品・寄託品・それらの関連品及び今後収集・展示の対象となりうる文化財と、それらに関連する資料等について、美術史学・歴史学・考古学・博物館学・保存科学等の多様な見地から調査研究を行い、その成果を様々な展示に反映させ、また学会・研究会ならびに学術雑誌・書籍等でも発表・公開した。

【備考】
様々な研究成果を以下のような展覧会に反映させた。
・開館10周年記念特別展「戦国大名-九州の群雄とアジアの波涛-」
・開館10周年記念特別展「大英博物館展-100のモノが語る世界の歴史-」
・開館10周年記念特別展「美の国　日本」
・開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン 守りぬかれたシルクロードの秘宝」
・トピック展示「柿右衛門―受け継がれる技と美―」
・トピック展示「新羅王子がみた大宰府」
・トピック展示「祈りのかたち 八幡」



トピック展示「祈りのかたち八幡」
大分県立歴史博物館での「法華経絵」の調査の様子



トピック展示「祈りのかたち八幡」
フィールドワーク（撮影作業）の様子

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	研究員の様々な調査研究を通し、博物館活動としての資料収集、調査・研究、公開が一体となり、極めて充実したものとなった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査研究に基づき館蔵品・寄託品の計画的収集や魅力ある展示活動を展開するなど、計画は順調に進捗している。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4514-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究（(5)－①）

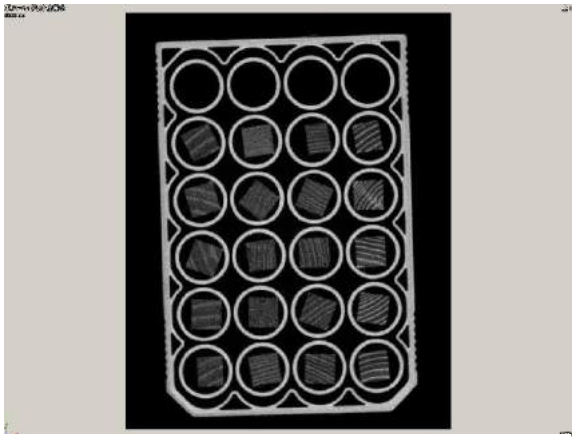
【事業概要】
Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【主な成果】

ＣＴを使った研究は“文化財の内部構造を探る”ことから“材質を推定する”方向へ研究を進めた。ＣＴ撮影の立方体の最小単位であるボクセル（デジタルデータの単位）の輝度情報や断面画像のパターンを使い、木材の樹種を推定する研究を進めた。その結果、仏像に使用される代表的な10種類の木口断面パターンから、99.9%の確率で樹種を推定することができた。

公開シンポジウム「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」を開催し、成果集として報告書を発行した。（27年12月19日）



木材標準資料のＸ線ＣＴ像

【備考】
調査件数　　10 件
調査回数　　100 回
学会研究会等発表数　6 件　うち、日本文化財科学会　4 件
論文掲載数　　2 件　Ｘ線ＣＴを核にした文化財研究の新基盤
シンポジウム口頭発表：5 件、ポスターセッション：34 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
Ａ	展示品・収蔵品と標準資料を比較しながら多くの資料を調査することができた。また、ＣＴ調査の結果から非接触・非破壊で樹種などの材質推定できることが判明した。 ＣＴデータを用いたパターン分析による樹種同定はこれまでになく、その上、高い確率で樹種を推定することが可能になった等、非常に高い効果が得られた。 28年度もさらに、多くの調査を実施しながら非接触・非破壊による材質推定を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
Ａ	当初計画に沿って研究内容の水準を保ちながら順調に調査研究を遂行できた。また、研究をまとめたシンポジウムを開催することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4514-3

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究((5)－①)

【事業概要】
茶の湯を彩るさまざまな道具の世界を館蔵品を中心に紹介するトピック展示「茶の湯を楽しむ」は、文化交流展における重要テーマのひとつとして位置づけ、20 年度以来これまでに 6 回開催してきた。このトピック展示は今後もさまざまな観点から展開を行う予定である。今後のテーマ立案のため、日本の中世から近世にかけて制作された茶道具（とくに陶磁器、漆器、金工、染織など）の基礎的な調査を実施する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　酒井田千明

【主な成果】

(1) 27 年度の茶の湯をテーマとした文化交流展のトピック展示として「田中丸コレクションの茶陶」を 27 年 10 月 14 日～12 月 20 日にかけて開催した。本展覧会は、国内屈指の陶磁コレクションの一つである（一財）田中丸コレクションのなかから、江戸時代に九州各地の窯で生産された茶道具に着目したものである。本展覧会に先立ち、同コレクションが所蔵する唐津焼、高取焼、上野焼、伊万里焼、鍋島焼、薩摩焼の茶陶器の調査研究を実施し、近世の九州において誕生し、発展した茶道具の様相を明らかにした。


「田中丸コレクションの茶陶」展より

(2) 27 年度は上記以外にも、特別展及び文化交流展において茶の湯をテーマとした展示に注力した。
開館 10 周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」では、近世の九州・山口の大名家における茶の湯の受容について調査研究を行い、各大名家に伝来する茶道具を紹介した。

文化交流展においては、27 年 10 月 14 日～11 月 23 日まで「唐物と室町水墨画」展を開催し、室町将軍家において受容された、中国から請来された唐物の茶道具と水墨画を紹介した。
28 年 1 月 19 日～4 月 17 日まで「芦屋鋳物師の世界」を開催し、室町時代に活躍した芦屋鋳物師の活動に着目し、芦屋釜や鐘等貴重な作品を紹介した。
文化交流展の基本展示室においても、年間を通じて、唐物の茶碗や茶入、高麗茶碗など多岐に亘る茶道具を紹介した。
これらの展示に先立ち、東京国立博物館が所蔵する茶道具の調査研究を行い、各時代における茶道具の受容について認識を改める機会となった。

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館において、対外交流の窓口として九州を経て輸入された唐物の茶道具や高麗茶碗の調査研究は必須である。また、中近世に九州で誕生し、展開した芦屋釜や唐津焼を始めとする九州陶磁の茶道具の調査研究も重要である。27年度はこれらの調査を進め、開館10周年記念としてその成果を広く紹介する機会に恵まれた。28年度は、中近世の大名家における茶の湯の受容についてさらなる調査を進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	前述のとおり、27年度は、特別展と文化交流展共に、茶の湯をテーマとした展示を充実させることができた。特に、トピック展示「田中丸コレクションの茶陶」においては、国内屈指の陶磁コレクションである（一財）田中丸コレクションのなかから、九州各地の窯で作られた茶陶の名品に着目し、公開した。近世の九州陶磁の調査研究及び展示は、九州の地にある当館において取り組むべき重要な課題の一つである。27年度の成果を踏まえて、今後も継続的に調査研究を進めていきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-1 特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」に関する調査研究（(5)-②）

【事業概要】特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」（27年3月17日～27年5月17日）はインド、コルカタのインド博物館が所蔵する仏教美術の名品を通して、仏教美術の誕生からその後の展開までをたどる展覧会である。本事業は展覧会開催に向けた出品作品に関する基礎的な調査・研究と、会期中に実施した展示作品の細部の検討を含む。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　　丸山　士郎

【主な成果】

(1)作品調査

・展示期間中には、展示作品の詳細な観察を行い、事前調査において課題となっていた点（人物表現の変遷、地域的特徴、石材選択と加工技術など）を再検討した。
・展覧会終了後の撤収作業に際しては、事前調査で課題となっていた浮彫や石彫の製作技法などについて、若干の検討を行った。
・新たに得られた知見を、来日したインド博物館学芸員を交えて検討した。

(2)主な成果

・人物表現の技法等について、特にガンダーラ美術におけるロリアン・タンガイの位置づけを明確にすることができた。
・石彫の製作技法の詳細を確認するとともに、いくつかの作品については製作時の状況を詳しく考察することができた（例えば、小塔の石材を転用し仏足石を作り出すプロセスの復元など）。
・成果をインド博物館の学芸員と共有し、新たな調査・研究活動への枠組みをつくることができた。



弥勒菩薩坐像
（コルカタ・インド博物館所蔵）

【備考】

・上記 3 件の調査を実施。
・成果の一部は、4 月 11 日（土）に実施した記念講演会「インドの仏―古代初期から密教まで」（講師：小泉惠英）において紹介した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会開幕前の事前調査に加え、会期中に展示作品の追加調査と検討を行ったことで、初期の仏教美術とその後の展開について、より実証的な知見を得ることができた。またその成果を記念講演会やギャラリートークに反映することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿った調査研究を実施することができた。特に出品作品の調査・研究成果をふまえて、適切かつ分かりやすい展示を実現することができ、「インドの仏」展は目標人数を大きく上回る来館者を得た。また今回得られた知見は、東洋館での平常展示にも活かせるものと見込まれる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-2「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究((5)-②)		
【事業概要】特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」　(27 年 7 月 11 日～ 9 月 23 日) に関する調査研究			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室 主任研究員・品川欣也

【主な成果】

(1) 調査

・特別展出品作品の所蔵機関などに対する作品情報の聞き取り、作品の展示方法や保存状況などについて調査を行った。ルーブル美術館（27 年 5 月 14 日）など。

・特別展出品作品については、展示および撤収に際して各所蔵機関のクーリエらと、また会期中は日本のエジプト学者と研究動向などについて情報交換を行なった。

(2) 調査の結果得られた知見・発見等

・出品された個人コレクション（アル・タニコレクション）はこれまで未周知の作品であり、青色彩文土器の成立と展開を考えるうえで新たな知見を深めることができた。

・出品作品の裏面や底面など普段観察できない箇所や細部について知見を深めることができた。

(3) 調査・研究の成果をどようにに展示、講演会出版物等に反映させたか

・記念講演会「遺跡に見る古代エジプトの女王・王妃たち：発掘調査の現場から」近藤二郎(早稲田大学文学学術院教授、本展監修)、図録「クレオパトラとエジプトの王妃展」および展示・ブログなどで成果を反映させた。



作品調査(ルーブル美術館)



作品点検風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまでの調査成果を特別展に伴う各事業に反映させることができただけではなく、当館とエジプト学ならびに各博物館・美術館関係者との人的交流も深めることができた。その結果、未周知の作品について新たな知見を得ることができたと同時に最新のエジプト学の知見を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿った調査研究を実施することができた。とくに出品作品の研究成果をふまえて、従来のエジプト展とは異なる最新の研究成果に基づいた特別展を開催することができた。また今回の特別展で得られた知見は、当館の所蔵資料の調査研究ならびに総合文化展にも活用することができると考える。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-3 特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究
27 年 10 月 27 日～28 年 2 月 21 日に開催された特別展「始皇帝と大兵馬俑」の展示を充実させるための調査研究。20 世紀最大の考古学発見ともいわれる兵馬俑の魅力、および兵馬俑に象徴される秦・始皇帝のなしとげた歴史的大事業の数々を適切に示すため、展示品および関連展示の調査を通して、より安全かつ効果的な展示手法・構成の検討を行う。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　川村佳男

【主な成果】

(1)秦始皇帝陵博物院など中国陝西省にある展覧会出品候補作品の所蔵館において、作品状態の詳細とともに、どのような支持具があればさらに魅力的な展示が実現可能かを調査して、より安全かつ効果的な展示手法を検討した。

(2)報告書の写真・図版・記載だけではわからない作品の詳細を実査することで、形態・製作技法などに関する実態を確認するとともに、新知見を得ることができた。これにより、作品解説などの執筆にかかる、より確実で詳細なデータを入手できた。

(3)作品の保存状態と展示状況を把握することで、特別展会場において適切な作品配置や安全対策を検討することができた。



借用する土器の実測調査



兵馬俑レプリカのサンプル視察

【備考】
調査回数：2 回、関連原稿の発表件数：16 件、関連講演回数：20 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示予定作品の調査機会を得たことで、作品の形状・材質だけでなく、保存状態や所蔵館における現在の展示状況なども調査を実施したことで、作品のより良い展示手法を検討できることとなった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。また、ワーキンググループのメンバーのみならず、環境保存担当者や外部の関係者とともに役割分担を明確にしつつ、ともに調査することで、展覧会準備を学術・安全・展示効果などのさまざまな面から多角的に効率よく進めることができた。 調査の成果は、展示会場における作品展示・図録・音声ガイド・広報など幅広い範囲でたいへん有効に活用することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-4　特別展「生誕 150 年　黒田清輝－日本近代絵画の巨匠」に関する調査研究((5)-②)		
【事業概要】特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」に関する調査研究 28 年 3 月 23 日～5 月 15 日に開催した特別展特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」の展示を充実させるための調査研究。近代美術史において極めて大きな位置を占める黒田清輝の画業を適切に示すため、展示作品の作品調査により、照明効果を勘案した展示手法、展示構成の検討を行う。			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室長　松嶋　雅人

【主な成果】

(1)作品調査

展覧会出品作品の所蔵機関、所蔵者への出品交渉を兼ねた作品調査を実施し、作品に関わる情報の聞り取り調査、作品の保存状況、展示状況などの調査を行った。

前田育徳会（27 年 6 月 3 日）
三菱一号館美術館（27 年 6 月 29 日）
鹿児島県歴史資料センター黎明館（27 年 8 月 18 日）
早稲田大学 會津八一記念博物館（27 年 9 月 8 日）
宮城県・個人宅（27 年 11 月 7 日）

(2)主な成果

・作品の所蔵展示施設における展示状況を調査し、作品の画面詳細を調査することで、展示における効果的な配置、照明設計を検討する必要な情報を得ることができた。
・作品調査ならびに作品情報収集の結果を受けて、展覧会会場における効果的な作品配置や照明効果の検討を行い、十全な展示の想定が可能となった。



特別展「黒田清輝」展示風景

【備考】
27 年度は 5 回の調査を行なった。
28 年 3 月に発行する特別展の図録に研究成果を発表する予定である。
実績値　記者発表会 1 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	効率的に作品調査を行い、作品の現状における展示状況も把握できたことで、作品の詳細情報を得ることとともに、その成果を取り入れた黒田清輝の画業と作品に対する鑑賞者の理解を深める展示を想定することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展の開催に向け、中期計画に沿った調査研究を実施することができた。特に当館担当者だけでなく、本展ワーキンググループの共同により、作品調査ならびにその内容の検討の成果によって、本展覧会において、より適切な展示を可能とする材料を得ることができたため、調査内容を元に、特別展開催に向けて、鑑賞者の理解を深める展示を十全に検討、準備することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-5

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-5　特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」（28 年 4 月 12 日～28 年 6 月 19 日）で出品される文化財は、アフガニスタン国内の 4 つの遺跡で発掘され、かつてバクトリアと呼ばれた同国北部の古代文化を代表する貴重な考古資料である。本事業は展覧会開催に向けて実施するバクトリアの歴史と出品作品に関する基礎的な調査・研究である。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　丸山　士郎

【主な成果】
①調査・研究の内容
・同展は 18 年に始まった国際巡回展であり、各国で製作されてきた展覧会図録では、特にこの十年間に出版された研究成果が反映されていない。そこで、バクトリアの文化の基礎となったヘレニズム文化に関する人類学的研究や、ベグラムの出土物に関する編年研究など、近年に出版された成果を収集したうえで、展示作品とそれらが示す前 3 世紀～3 世紀頃のバクトリアの歴史について検討を加えた。
・九州国立博物館での開催（28 年 1 月 1 日～28 年 2 月 14 日）にともなう展示作業および撤収作業に合わせて、出品作品の詳細な観察と、九博・東博の担当者による検討を実施した。
・バクトリアに展開したヘレニズム文化の特徴を把握するため、大英博物館等に展示されているヘレニズム期の資料を比較資料として見学した。
②主な成果
・最新の研究成果を部分的にではあるが、図録や展覧会場での解説に反映させることができた。
・金細工やガラス器、石製品などを詳細に観察できたことで、特に製作技法について新たな知見を得ることができた。
・調査研究の成果をアフガニスタン国立博物館の学芸員と共有し、新たな調査・研究活動への枠組みをつくることができた。



エピダウロス（ギリシア）の劇場。
アイ・ハヌムと同時期の建築をとどめる同遺跡は、重要な比較材料



裏面の観察から、金製留金の製作技法をさぐる



削りとられた碑文の痕跡。
壺の使用状況とその背景について物語る資料

【備考】・上記 3 件の調査を実施。
・成果の一部は、展覧会図録等のほかに、28 年度に開催予定の記念講演会やギャラリートークでも紹介する。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会開幕前の事前調査によって最新の研究成果を把握し、また展示作品の詳細な観察と検討を実施できた。その結果、特に展示作品の製作技法についての新しい知見を得ることができた。調査・研究の成果を展覧会図録や会場での展示・解説パネル等に反映することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展開催に向けて、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査研究」に沿った調査研究を実施することができた。特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝」では、適切かつ分かりやすい展示と、日本や東アジアも視野に入れた解説を準備することができている。また今回の調査で得られた知見は、東洋館での関連作品の展示にも活かすことができる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-6

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-6 特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」に関する調査研究((5)-②)		
【事業概要】 特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」(28 年 6 月 21 日～9 月 19 日開催予定）に関する調査研究。 出品候補作品を調査し、調査の成果を特別展の展示等の運営に生かす。			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸研究部調査研究課考古室長　白井克也

【主な成果】

(1) 調査先・調査日

ギリシャ各地の展覧会出品機関（キクラデス博物館，古代アゴラ博物館，アクロポリス博物館，ミュケナイ考古学博物館，パトラ考古学博物館，オリンピア考古学博物館，オリンピック歴史博物館，イラクリオン考古学博物館，レムノス考古学博物館，テッサロニキ考古学博物館，ペラ考古学博物館，テラ先史博物館，ピレウス考古学博物館，アテネ碑文博物館，アテネ国立考古学博物館）で、出品予定作品の形状・材質・法量・保存状態・現地での展示方法を調査するとともに，先方の担当者と意見交換を行った。

あわせてミュケナイ遺跡，オリンピア遺跡，クノッソス宮殿，アクロポリスの丘などの遺跡を視察し，出品作品の本来置かれた状況を確認した。

ギリシャ政府の文化スポーツ省において，東京における展示の方針を伝えるとともに，ギリシャ政府の委員と展示の方法や作品の意義，留意点などについて意見交換を行った。

（28 年 2 月 25 日～3 月 6 日）



古代アゴラ博物館での調査風景

(2) 主な成果

実物の細部形状や保存状態を確認し、展示方法や、必要な支持具等について材質・大きさ・強度などの仕様について、必要な知見を得た。

現地の担当者と意見交換し、作品の製作背景に関して理解を深めるとともに、作品の輸送・展示・保存に関する知見を得た。

【備考】
現地調査 1 回
報道発表会 1 回
28 年度に実施する特別展において成果を公表する予定。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	現地において作品を調査することができ、新石器時代からヘレニズム・ローマ時代に至るギリシャ美術の製作について知見を深めることができ、また作品の輸送・展示等に必要な知見を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展の開催に向け、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1-7

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-7 特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
28 年 9 月 13 日～12 月 11 日に開催予定の特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」の展示を充実させるための調査研究。滋賀県甲賀市の櫟野寺に伝わる 3m を超す大観音を含めた 20 躯を安全に輸送し、効果的な展示をするための検討を行う。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課特別展室長　丸山　士郎

【主な成果】
(1) 事前調査
　展覧会出品作品の選定と、それらの保存状態の確認のための調査を実施した。また、作品修理担当の美術院、輸送担当の日本通運および共催者の読売新聞社の担当者とともに、櫟野寺にて作品の事前修理と安全に輸送するための検討を行った。

(2) 主な成果
　作品の保存状態を確認し、輸送・展示に必要な修理について検討した。28 年 5 月に 7 日程度かけて表面彩色の剥落止めを中心に修理を実施することを決めた。狭い厨子に入った像高が 3 メートルを超す十一面観音菩薩坐像は、厨子内で木枠に固定する方法を検討し、次回調査までに木枠のおおよその図面を作成することにした。
　展覧会図録の作品解説等に執筆するための観察も行い、作品調書や写真の作成を行い、記者発表資料や一般の雑誌等に展覧会や作品の紹介文を執筆した。


櫟野寺調査風景

【備考】
・27 年度は 2 回の調査を行なった。
・28 年度に発行する特別展の図録に研究成果を発表する予定である。
・実績値　記者発表会 1 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	事前に作品調査を行い、作品の保存状態や輸送方法を検討することによって安全に作品を展示することができる。また、出品作品の全てについて新規写真撮影を終えたので、作品解説や図録作製を効率的に行うことができる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展の開催に向け、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-1-8

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-8 臨済禅師 1150 年、白隠禅師 250 年違諱記念「禅―心をかたちに」に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】
臨済禅師 1150 年、白隠禅師 250 年違諱記念「禅―心をかたちに」(28 年 10 月～11 月開催予定)に関する調査研究出品候補作品を中心に、各所有者の所有する作品を調査し、出品作品の選定・解説執筆に役立てる。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	列品管理課長　救仁郷秀明

【主な成果】
(1)調査先・調査日
・高知県立歴史民俗博物館にて絵画分野の作品 1 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 4 月 14 日)
・広島・佛通寺にて絵画彫刻書跡分野の作品 15 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 5 月 28 日)
・大阪・南宗寺にて絵画分野の作品 3 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 6 月 11 日)
・静岡・方広寺にて絵画彫刻書跡分野の作品 7 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 8 月 19 日)
・大分・見星寺にて絵画分野の作品 3 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 8 月 26 日)
・大分・月桂寺にて絵画分野の作品 3 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 8 月 26 日)
・浜松・方広寺にて絵画分野の作品 1 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 10 月 21 日)
・静岡・成道寺にて絵画分野の作品 1 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 11 月 17 日)


広島・佛通寺での調査

・東京・祥雲寺にて絵画分野の作品 3 件を調査、未見の作品に関する知見を得た（27 年 11 月 27 日）
・富山・国泰寺にて彫刻分野の作品 1 件を調査、未見の作品に関する知見を得た(27 年 12 月 21 日)
(2)　主な成果
・大分・見星寺ではこれまで未紹介の白隠作品が見つかり、出品候補作品に追加することができた。
・従来、借用困難とみられていた大分・月桂寺の所蔵品を調査することができ、借用への道筋をつけることができた。
・東京・祥雲寺では出品候補作品以外の作品も調査し、未紹介の近世肖像画に関する知見を得た。

【備考】
・27 年度は 10 回の調査を行なった。
・28 年度に作成する特別展の図録に研究成果を発表する予定である。
・実績値　記者発表会 1 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査を行なうことにより、未知の作品を発見し、出品候補作品の幅を広げることができた。 出品依頼と調査をなるべく同時に進めることに努め、効率化を図ることができた。 未見の作品を調査することにより、画像などでは得られない作品の細部や、色調・技法の詳細、保存状態についての知見を得ることができ、作品解説の執筆に役立てることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展の開催に向け、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に、普段はほとんど一般に公開されない寺院所蔵の文化財に調査の光をあて、特別展に出品作品として取り込むことができた。日本の文化として海外でよく知られられている禅、茶の湯、水墨画、禅画を主要テーマとする本展の準備を通じて、全国の臨済宗・黄檗宗各派の寺院との良好な協力関係を築く拠点を確保し、文化財の調査研究、それらの借用・展示に資する所蔵者との信頼関係を醸成することができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-1-9

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-9 特別展「春日大社－千年の至宝」に関する調査研究((5)-②)		
【事業概要】 特別展「春日大社－千年の至宝」(29 年 1 月～3 月開催予定)に関する調査研究 出品候補作品を中心に、各所有者の所有する作品を調査し、出品作品の選定・解説執筆に役立てる。			
【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室・貸与特別観覧室長 竹内奈美子
【主な成果】 (1)　調査先・調査日 春日大社にて、本殿特別公開を視察し、絵画・工芸分野の作品調査を行なった。(27 年 4 月 16～17 日) 春日大社にて、勧進宝物特別公開を視察し、工芸分野の作品調査を行なった。(5 月 30 日) 絵画分野の新出作品を発見し、東京国立博物館にて調査を行なった。(7 月 27 日) 九州国立博物館にて、絵画分野の出品予定作品の調査を行なった。(10 月 22 日) 春日大社にて春日若宮おん祭を視察し、奈良国立博物館にて絵画分野の作品調査を行なった。 (12 月 16 日～17 日) (2)　主な成果 実見調査により保存状態の詳細を確認し、展示方法の検討に必要な情報を得た。 細部観察を行なうことにより、作品の細部表現の差異などについて知見を深め、展示構成の検討に活かされた。 実見調査により形状・制作技法の詳細を確認し、作品についての理解を深め、解説執筆に必要な情報を得た。 今まで紹介されていない春日権現験記絵模本を発見できた。 春日大社主催のシンポジウムにて、ワーキンググループメンバーが講演し、調査研究の成果の一部を発表した。			
【備考】 28 年度に作成する特別展図録に研究成果を発表する予定である。			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	実見調査を行うことにより、出品作品の選定や、展示構成、展示方法の検討に大いに資する情報を得た。特に27年度は出品作品の選定がはかどり、展示構成が具体的に固まった。また実見調査によって得られた作品情報は、28年度に作品解説等展覧会図録原稿を執筆する際にも、必要不可欠のものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度の特別展の開催に向け、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究（(5)－②）

【事業概要】東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に文部省より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群より形成されている。漢籍には医学館が旧蔵していた医学書、本草書などで、主に明、清版からなっている。また洋書は、蕃書調所、開成所、長崎東衙官許等の旧蔵書で、医学、地質学、植物学、辞書などがまとまっている。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋裕次

【主な成果】

漢籍には、経年によって劣化や綴じ糸の欠失しているものが多く、必要に応じて糸綴じなどの手当を行った。調査では、図書館システムに入力したデータをもとに書誌学的情報を確認した上で、デジタル撮影を実施した。

調査対象のうち、「太平聖恵方」は、宋の太宗が勅命によって天下の有効な処方を集め、分類編纂した著作である。尾張藩所蔵の中世の写本を、医学館の多紀元悳が書写し、さらに再度校訂を加えながら写したもので、医学館の考証学的事業の成果がうかがえる資料の一つである。

【備考】

漢籍　修理　84 冊
　　デジタル撮影　51 冊（3,353 カット）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	効率的に漢籍の調査を行い、その現状と活用に向けた状況の把握ができた。詳細な情報をもとに、今後、資料館での閲覧業務及び本館での展示において、利用者や鑑賞者の理解を深めることができるようにつとめたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「所蔵品・寄託品に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って、漢籍の調査並びにその内容の検討を行い、修理とデジタル撮影によって、利用者へのサービス向上を図ることができた。28 年度は、洋書の調査を充実させ、計画に従って着実に進行し、所期の目標を達成したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)東洋民族資料に関する調査研究((5)-②)

【事業概要】東京国立博物館が所蔵する約 3,500 件の東洋民族資料を対象として、総合的な調査研究を行う。従来の台帳の記載内容を踏まえながら形状、材質のほかに、旧蔵者がつけた札や箱書きの内容や保存状態など実際の観察を通してしか分からない情報を、画像とともに一括してデータベース化する。これにより、研究・陳列・保管・修理などに必要な基礎情報をより充実した形で整備する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男

【主な成果】

(1)東京国立博物館で 27 年 4 月 14 日に台湾のパイワン族の民族資料を、11 月 17 日にオセアニア及び台湾全般の民族資料を、11 月 24 日にクリスを始めとするインドネシアの武器を調査し、28 年 2 月 1 日～4 日にかけて台湾の民族資料全般の調査を台湾の中央歴史語言研究所の陳光祖氏とともに実施した。また、28 年 2 月 6 日から 13 日にかけてパプアニューギニアで現地の民族資料の調査を行った。

(2)オセアニア・インドネシア・台湾の民族資料調査で得られた新知見や基本情報は、東京国立博物館のデータベースとともに、東洋館 13 室における展示の題箋やキャプションに反映させることで、展示内容をさらに充実させることができた。

(3)これまでの調査成果に基づいて、28 年 1 月 13 日～4 月 10 日まで東洋館 13 室で「台湾　パイワン族の木彫」を展示することができた。また、28 年度の 28 年 7 月 5 日～10 月 10 日にかけて東洋館 13 室で開催予定である特集「クリス　神秘なるインドネシアの武器」の展示案及び 11 月 15 日～12 月 25 日まで平成館企画室で開催予定である特集「南太平洋の生活文化」の展示案を猪熊研究員とともに作成した。



「台湾　パイワン族の木彫」の展示



パプアニューギニアにおける現地調査の様子

【備考】

調査回数：5 回（うち海外調査 1 回)。作品調査件数：225 件。関連展示回数：4 回。撮影点数：約 350 カット。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館内における調査に加えて、館外での調査は26年度も実施したが、27年度は初めてパプアニューギニアで現地調査を猪熊研究員・井出研究員とともに実施した。これにより28年度に予定されている展示では100年近く前に当館へ将来された展示品が、現地で現在どのように使われているのか画像パネルなどで示すことが可能となる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画全体を通して、台湾のパイワン族及びインドネシアのクリスといった個別のテーマで調査を進め展示に結びつけるとともに、特集「南太平洋の生活文化」といった台湾とオセアニアを含む地域横断的な展示案を作成することができた。28年度以降も「東洋民族資料に関する調査研究」を継続して、当館における調査の成果と館外、なかでも現地での調査の成果を融合させることで、展示の内容をさらに充実させることが期待される。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究((5)-②)

【事業概要】2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災によって津波被害に遭った文化財の保存修復についての保存環境、安定化処理、本格修理に関する調査研究を行い、被災資料の保全を図るとともに今後想定される自然災害に対する有効な手立てを開発することを目的として実施する。

【担当部課】	保存修復課	【プロジェクト責任者】	神庭信幸

【主な成果】

(1)陸前高田市立博物館内の環境を調査し、問題点については環境改善を実施した。

27 年 7 月 27 日～28 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
27 年 9 月 7 日～8 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
27 年 10 月 21 日～22 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
27 年 11 月 29 日～30 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
27 年 12 月 16 日～17 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
28 年 1 月 18 日～19 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施
28 年 2 月 25 日～27 日　陸前高田市立博物館にて環境調査・改善を実施



漆工品の CT 調査

(2)陸前高田市立博物館が所蔵する工芸資料及び美術資料の安定化処理を実施した。

陸前高田市立博物館所蔵の工芸資料(10 件)の安定化処理を実施
陸前高田市立博物館所蔵の美術資料(1 件)の安定化処理を実施

(3)成果を学会で発表し、刊行した出版物に掲載した。

27 年 4 月 14 日　International Symposium on Advances of Protection Devices for Museum Exhibits（北京）にて研究発表
27 年 6 月 27 日　文化財保存修復学会にて研究発表(3 件)
27 年 9 月 20 日　日本文化財科学会公開講演会シリーズ『文化遺産と科学』にて研究発表
27 年 11 月 25 日　中韓日連携災害地研修会にて研究発表（2 件）
28 年 1 月 4 日～2 月 21 日　文部科学省エントランスにて被災文化財のレスキューについて展示発表

(4)出版物

28 年 3 月　研究成果物として「安定化処理」を出版し、一時保管環境を担当。

【備考】

(1)環境調査及び改善：7 回
(2)安定化処理：11 件
(3)学会発表：8 件
(4)出版物: 1 冊（28 年 3 月刊行）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	環境調査回数：7 回(14 日間)、工芸資料の安定化処理件数：10 件、美術資料の安定化処理件数：1 件、学会発表件数：8 件、出版物数：1 冊など、安定化処理件数あるいは研究発表は当初の目標を超え、十分に達成している。なお、安定化処理及び一時保管環境にはまだ多くの克服すべき課題があり、今後はそれらの課題に対して集中的な研究を実施していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画における「有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究」の中でも被災文化財の保存修復、文化財防災に関する調査研究を着実に実施することができた。特に油彩画、水彩画、漆工品など美術工芸品に対する安定化処理、及び仮設の施設を利用した被災資料の一時保管環境の改善に関して、当初の予定通りに進行し、成果の公表を積極的に行うことができた。次期中期では油彩画、革製品、漆工品に関して安定化処理技術の確立を目指す。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)神像表現における物語性の調査研究（学術研究助成基金助成金）((5)-②)

【事業概要】本研究は、多くの神像は固有の物語（伝承・信仰）を背景に製作されたという視点に立つもので、表情や仕草を読み解き、姿にこめられた意味を探ることを目的にする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室長　丸山士郎

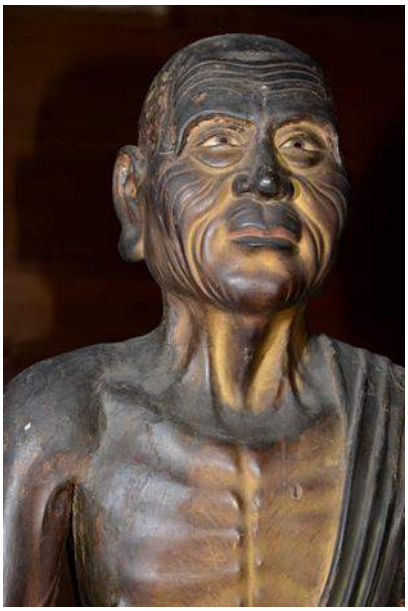
【主な成果】

(1)島根・赤穴八幡宮の八幡三神像
調査日　28 年 1 月 29 日
鎌倉時代の写実的作品である本像についての調査を行った。

(2)和歌山・金剛峰寺の八大童子立像の調査を行った。
調査日　28 年 3 月 11 日
鎌倉時代の人物表現の最高傑作である運慶作の本像についての調査を行った。

(3)奈良・大報恩寺の快慶作の十大弟子立像
調査日　28 年 3 月 6 日
同様に鎌倉時代の人物表現の最高傑作である快慶作の本像についての調査を行った。

(4)広島・南宮神社神像群
調査日　28 年 1 月 26 日
26 年度論文を執筆した南宮神社神像群についても追加の調査を実施した。
鎌倉時代の神像とそれに表現的につうじる人物像についての調査を実施し、神を造形化する上での表現上の工夫についての知見を得ることができた。



大報恩寺所蔵
十大弟子立像

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 4 年目
調査回数：4 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は各地の鎌倉時代の神像に関連する彫刻について広く調査を実施することができた。鎌倉時代の神像は、仏教彫刻における人物像の表現と似るところが多く、27年度の調査でも多くの資料を得ることができた。今後、鎌倉時代における神像表現の特質について検討を進める。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	25年度は広島・南宮神社の神像群、26年度は静岡・南禅寺の神像群や東北地方の仏像、26年度は鎌倉時代の神像群についての調査を行い、その成果を論文の発表や展示に反映するなど、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-6

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究（学術研究助成基金助成金）（(5)－②）

【事業概要】自然観察によって自然の原理や根源を求めていこうとする動向は、我が国においては博物学として江戸時代にすでにその兆しがみられた。江戸幕府による本草学や博物学の興隆は、江戸中期、特に享保年間（1716～36)以降と考えられてきたが、本事業ではその萌芽の時期を江戸初期すなわち 17 世紀に求めるべく、狩野探幽筆「草花写生図」及び狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図」「鳥写生図」などを調査するものである。これら膨大な写生図を検証することで、江戸初期に幕臣や御用絵師らによって、自然観察や諸産物の集成といった科学的視点が牽引されたことを示し、享保年間以降の本草学や博物学の興隆の導入期の様相を明らかとする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	貸与特別観覧室主任研究員 小野真由美

【主な成果】

(1)27 年 9 月 9 日・10 日・16・17 日、東京国立博物館にて狩野常信筆「鳥写生図」8 巻の調査を行い、撮影・注記の判読を完了した。また 4 月 25 日、6 月 22 日・23 日、国文学研究資料館にて稲葉家文書『永代日記』のマイクロフィルム閲覧し、狩野探幽と幕府大老・稲葉正則の交友に関する記事を調査した。その他、根津美術館にて江戸時代の諸派の作品調査を行った。

(2)常信筆「鳥写生図」の調査によって、江戸初期に鳥類への関心がきわめて高かったことが被写体の人脈から明らかになった。また絵師が優れた写生を行うとともに、鳥類の特徴を豊かな語彙によって注記していることを確認し、当時の色彩や形態についての語彙を画論にみる彩色法とを照合し、絵師の精緻な記述と描写を確認できた。そして、稲葉家文書『永代日記』の記事から、江戸時代にもっとも早く写生図を手がけた絵師・探幽が、オランダ文化を摂取し得た背景を見出した。

(3)常信筆「鳥写生図」の注記翻刻をふくむ目録は、情報は国立情報学研究所の Researchmap における資料公開に公開した。探幽の写生図を含む 25 年度からの研究成果については、東京国立博物館において特集展示「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」を開催し、広く一般に公開し、リーフレット・研究論文・月例講演会・ギャラリートークを行った。





特集展示「江戸の写生図」展示風景

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 3 年目
作品調査：5 件、研究会：2 回、論文:3 件、講演会：1 回、展示：1 回
刊行物：「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」(9 月 29 日、東京国立博物館・精興社)
雑誌取材：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	江戸初期の写生図には、日本ではじめて描かれた動植物がふくまれており、本事業で初めてその全容が明らかとなった。また特集展示として広く作品を公開し、講演会やギャラリートークを行ったことは、研究成果を一般に普及するための効率性の観点からも評価に値する。27年度は最終年度にあたるが、3年間にわたり継続して調査した成果を広く公開したことで、美術のみならず諸分野、特に薬学史や園芸史からの関心が高かった。これは適時性や独創性のみならず、本事業の正確性を証左するものと言える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	3年にわたる調査研究の最終年として、探幽・常信の写生図制作の全体像を示すことができた。まとめの年となったため、調査回数は少なかったが、写生図の美術品として価値とともに、自然史における重要性を示すことができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)東京藝術大学付属図書館蔵後藤家文書の調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)-②)

【事業概要】本プロジェクトは、「刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察」と題し、東京藝術大学附属図書館所蔵の「後藤家文書」の調査などによって、近世において最大の刀装飾具流派であった後藤家の鑑定活動と、同家の作品の価値付けの様相を具体的に捉えることを研究目的にする。同家は室町幕府に仕えたとされる後藤祐乗を祖とし、その子孫は豊臣秀吉、江戸幕府に仕え、宗家は幕末の十七代の典乗（光則）までに及んだ。後藤家は刀装具の制作とともに祖先の作品の鑑定も行い、その結果は後藤家文書の「極帳」という鑑定控に記録していた。本プロジェクトでは、極帳の撮影及びその内容の検討を行い、現存作品との照合を可能な限り進め、近世における工芸品の価値付けの実際を考察する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課保存修復室研究員 酒井元樹

【主な成果】

本プロジェクトは、研究期間が 24 年度から 27 年度であり、27 年度はその最終年度にあたるため、元禄 17 年（1704）正月から元治元年（1864）12 月までの 160 年間に、11 代通乗（光寿）から 17 代典乗（光則）が書き記した極帳 365 冊（約 20,000 丁。表紙・裏表紙を除く。）について、26 年度までに蓄積した鑑定記録のデータなどをもとに極帳全体の歴史的位置付けと後藤家における鑑定の様相について考察を行った。主な成果は以下のとおりである。

(1) 後藤家による折紙の発行は慶長 12 年（1607）の 6 代栄乗（正光、正房）によるものを最古として、その発行件数が寛永 10 年代の後半から急速に増加し、13 代延乗（光孝）が当主の時代であった 18 世紀後半には年間の発行枚数が最も多く、140 通程の折紙が発行されていたことが分かった。また、鑑定された作者の名などを刀装具に直接銘を切る「極銘」も 13 代延乗の頃より急増していることが分かった。
(2) 大量、かつ多種の回答形式をもつ鑑定活動を正確に記録するため、極帳の記録は極めて高度かつ理論的に編纂されていることが分かった。
(3) 極帳には鑑定された作品の情報とともに依頼者も併記されており、刀装具を売買していたと思われる商人のほか、高家、奏者番など高位の武士が多数を占めるなどの一定の傾向が認められた。
(4) 当館収蔵の刀装具のうち 28 件について極帳との照合を行うことができ、その刀装具の記録は極めて克明になされていることが分かった。

こうした成果を踏まえ、同家の鑑定活動の歴史的位置付けを図るならば、折紙の発行が急増した寛永 10 年代後半は江戸幕府では殿中儀礼や格式が規定されつつあった時期にあたり、鑑定依頼者が幕府の儀礼に関与する高家・奏者番の武士が多く、後藤家の刀装具が刀剣の献上や下賜の際に刀装に付随し、あるいは正式な場で身につけられる性格のものであったことを考慮すると、同家の鑑定は美術品としての評価であるとともに武家儀礼・格式の影響を強く受けていたことが推測され、これは近世独特の価値付けの様相を呈しているとの結論に至った。

【備考】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 4 年目
古伝書の調査のため、島根・和鋼博物館で調査を行った。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	後藤家の鑑定活動の概要がおおむね正確に把握でき、極帳の記載に符合する刀装具を多数発見し、同家の鑑定活動を日本史全体の動向と僅かながら結びつけることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に後藤家の刀装具の鑑定活動に理解が得られ、その様相について歴史的位置付けを行えた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8）中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5)-②)

【事業概要】中世から近代までの日本絵画を照らす照明の状況を大きな指標と捉え、まず＜現代の展示空間における光＞が、どのような状況にあるのかを把握する。そして制作された当時、絵画がどのように受容されていたのかを考察しながら、＜歴史的な光＞を先進的照明機器によって復元することで、絵画の展示の手法を拡張しようとするものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室長 松嶋雅人

【主な成果】

(1)下記の調査、実験を行った。

・鳥獣戯画展での輝度分布計測 11 箇所を実施し、照明設計を客観的に評価することができた(27 年 4 月 23 日)

・ルーブル美術館ランス分館の現地調査により画像では確認しにくい室内の照明設計の観察を行なうことができた(27 年 7 月 8 日)

・ベルリンラトゲン文化財研究所にて博物館照明の評価手法に関する協議を行ない、最新情報を収集することができた(27 年 9 月 30 日)

・法隆寺宝物館の展示ケース改修に伴う照明器具の調査として輝度分布計測 7 箇所、分光分布計測 5 箇所を実施し、照明設計を客観的に評価することができた(27 年 10 月 15 日)

・京都国立博物館平成知新館の展示照明について輝度分布計測 22 箇所を実施し、照明設計に関する客観的な情報を収集することができた(27 年 11 月 16 日)

(2)文化財照明における諸データを収集したことで、先進的 LED 照明、有機 EL 照明等の照明機器の効果的な仕様作製に関連付けすることができた。(27 年 4 月～12 月)

(3)展示、出版物等への反映。

・上記調査結果の知見をもとに、有機 EL 照明による文化財照明について学会発表を行い、論文を発表した。

・平成館特別展展示室、考古展示室、及び法隆寺宝物館の照明器具改修に上記調査結果を反映させた。(27 年 4 月～28 年 3 月)



特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」における有機 EL 照明（OLED）実験

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 3 年目

(1)調査回数　5 回

・論文　和田浩、矢野賀一、松嶋雅人、土屋貴裕「博物館展示に用いる OLED 照明器具の開発」(『2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集』、pp.66-67)、他 2 件

(3)展示への反映

特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」特別展「始皇帝と大兵馬俑」特別展「黒田清輝―近代日本絵画の巨匠」、及び考古展示室リニューアル、宝物館リニューアルにおける調査研究成果を踏まえた照明器具の導入。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27 年度は、既存展示環境の現状把握を行い、先進的照明器具を有効に利用し、美術史、展示デザイン、保存科学の各分野を統合した調査研究を行い、各観点における種々の実験、計測を実施できたことで、実証的で、より先進的な展示環境を構築する諸資料を収集することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画における「アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に、本調査研究により、現状における展示室等の展示環境の調査を十全に行うことができ、さらに各種の先進照明器具の検討を実施したことで、諸出版物に研究成果を公表し、特別展、展示室リニューアルなど、さまざまな展示への反映も行うことができ、広く調査研究の成果を示すことができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-9

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9）東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)－②)

【事業概要】
本研究は、刺繍により仏教尊像や仏教的主題を表した「繍仏」について、日本中世～近世期を中心に、同時期の中国・朝鮮半島など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の調査に基づいて図像・技法・様式を分析することで、仏教絵画史及び染織史の観点から同時代繍仏を総合的・体系的に捉えることを目的とするものである。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	広報室長　伊藤信二

【主な成果】
(1)　国内所在の繍仏作品の実見調査を実施した。主な作品は以下のとおり
- 27 年 6 月 4 日　　刺繍釈迦三尊図　（山梨・久遠寺所蔵）
- 27 年 6 月 5 日　　刺繍阿弥陀三尊来迎図（山梨・九品寺）
- 27 年 8 月 8 日　　刺繍十羅漢図（福岡・個人蔵）
- 27 年 8 月 9 日　　刺繍釈迦誕生図（長崎・最教寺）
- 27 年 11 月 21 日　刺繍両界曼荼羅図（福井・西福寺）
- 27 年 11 月 22 日　刺繍釈迦涅槃図（石川・弘願院）、刺繍阿弥陀三尊図（西福寺）

(2)　山梨・久遠寺所蔵の刺繍釈迦三尊図は、中尊釈迦如来、及び脇侍の騎獅文殊菩薩、騎象普賢菩薩のいわゆる釈迦三尊図が刺繍であらわされた作品であり、本調査とは別にプロジェクト責任者が調査に係わった結果、25 年に山梨県指定文化財に指定された。今回改めてより詳細な事件調査と写真撮影を実施し、本件の刺繍技法が極めて緻密であり、また使用される色糸の数も多彩であり、また仏教絵画の画像としてみても、画風が整っていることから、現存する中世繍仏の中でも初期に属すると判断されることなどが確認された。



刺繍釈迦三尊図
山梨・久遠寺

【備考】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 3 年目
作品実見調査 12 箇所、15 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本中世～近世期の繍仏を中心に、同時期の中国など東アジアの作例をも視野に収めつつ、現存作例の所在を網羅するという作業は従来ほとんど行われてこなかったこともあり、本研究の意義は大きい。27 年度は日本国内の繍仏作品を多く調査し、中世繍仏としては極めて稀少な作例である山梨・久遠寺の作品についてその重要性を確認した。その他涅槃図など近世の大型作品についても調査を実施した。調査の過程でまだ広く存在が知られている繍仏作品の情報にも接することができたため、28 年度ではそうした未発掘の作品も精力的に調査したい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に研究開始から 3 年度目にあたる 27 年度は、国内の現存作例について極力調査を実施することに努めたが、重要作例についての作品調査もあわせて着実に進めることができた。本研究は当初の研究計画に則り概ね順調であり、基本的な研究基盤を整えつつある。また、調査によって得た詳細情報を整理し作成した基礎データ及びデジタル画像は、繍仏を東アジア仏教美術史に体系的に位置づける本研究にとって極めて重要な情報と考える。28 年度以降も引き続き繍仏に関する作品実験調査及びデータ集積を進め、最終年度としてそのまとめを行う予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-10

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10)極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）((5)-②)

【事業概要】
厚さ１㎜に満たない青銅製容器が、戦国時代（前５世紀）以降の中国で急速に普及していった。その製作技術を 3D スキャン、蛍光Ｘ線元素分析装置などの光学機器の使用を含む多角的な分析と製作実験により解明することで、中国金属工芸史の再構築につながる基盤研究を実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課平常展調整室主任研究員 川村佳男

【主な成果】
当館及び泉屋美術館・和泉市久保惣記念美術館が所蔵する中国考古の極薄青銅器について、26 年度までに計測した蛍光Ｘ線分析データ・3 次元計測データ・ＣＴスキャンの画像をそれぞれ解析するとともに、新たな知見の整理を行った。蛍光Ｘ線分析器で得られたデータの定量分析を実施したに際しては、26 年度までに東京藝術大學で実験的に鋳造した銅・錫・鉛の比率が既知のサンプルをあらかじめ測定することで、誤差を最小限まで抑えることに成功した。成果の一部は日本考古学協会 27 年度大会において「古代中国の極薄青銅器にみる製作痕分析－３次元計測、蛍光Ｘ線分析を踏まえて一」というタイトルで発表した。
また、27 年 6 月 9 日から 13 日にかけて、陝西歴史博物館、岐山県博物館、宝鶏青銅器博物館、陝西省考古研究院、西安市文物保護研究院、浙江省嘉興博物館において、28 年 1 月 21 日には上海博物館において、極薄青銅器の熟覧調査を行った。28 年 2 月 17 日から 18 日にかけて、西安市文物保護研究院と秦始皇帝陵博物院において、製作痕跡の熟覧調査を実施する。


岐山県博物館での調査


西安市文物保護研究院での調査

【備考】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 3 年目
調査回数：3 回（すべて海外調査)。作品調査件数：25 件。学会発表回数：1 回。撮影点数：約 200 カット。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本考古学協会の大会で調査の成果を発表するとともに、予定していた中国における極薄青銅器の現地調査を実施することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	春秋・戦国時代から漢時代にかけての極薄青銅器を対象にして、日本国内の博物館・美術館のみならず中国でも製作技法の調査を実施することができた。28年度以降は魏晋南北朝時代から宋時代にかけての響銅と極薄青銅器を対象にして、製作技法の比較研究を実施する計画である。25年から継続してきた本研究により、28年度以降の新たな研究計画を実施する重要なデータを得ることができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-11

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)－②）

【事業概要】本研究では高雄曼荼羅（京都・神護寺所蔵）の重要性を考え、その研究推進を図るために、最先端の撮影技術を用いた高精細デジタル画像及び赤外線画像の撮影を全面的に行う。さらに新たな高雄曼荼羅研究の端緒と成せるよう、研究者それぞれが絵画・彫刻・工芸等の専門性を生かし、空海と彼を取りまく仏教美術を考察するのに重要と思われる観点を取り上げて調査・研究を行うものである。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	副館長　松本伸之

【主な成果】

(1)京都・東寺講堂諸像の調査
調査日　27 年 12 月 10 日
　空海が造像に直接関わり、密教の世界観を立体で表した東寺講堂諸像 21 体について須弥壇上での調査を実施し、高雄曼荼羅の表現との関連を調査し、写真撮影も行った。

(2)京都・醍醐寺の密教美術の調査
調査日　27 年 12 月 21 日～22 日
　空海の孫弟子にあたる聖宝が京都郊外に開いた醍醐寺の密教美術の調査を実施し、絵画・彫刻・書跡・工芸についての作品調書、写真撮影を行った。

(3)その他
調査日　28 年 2 月 1 日～7 日
　インドのサールナート、ラージキル、パトナ博物館、ニューデリー国立博物館、マトゥラー博物館で、仏教を開いた釈迦に関する遺跡や、密教美術についての調査を実施した。

上記の調査により高雄曼荼羅の原点であるインドの作品、高雄曼荼羅同様に空海が製作に関わった作品（東寺講堂）、そして空海以降の作品の調査を実施することが出来た。今後は、それらの中で高雄曼荼羅がどのように位置づけられるかを検討していく必要がある。


ニューデリー国立博物館所蔵　菩薩像

【備考】
科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 2 年目
海外調査：1件
国内調査：2 箇寺

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	高雄曼荼羅を起点とした時間的、空間的な広がりを持った作品の調査を実施することができた。特に東寺講堂諸像は高雄曼荼羅ときわめて関係が深い作品で、研究遂行上重要な資料となる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。28年度はこれまでの成果を踏まえつつ報告書を作成する。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-12

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	12)ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究((5)-②)（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

【事業概要】科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金により全５年度にわたって実施される調査研究の第２年度。26 年度に引き続き、バハレーン王国において、初期ディルムン時代の墳墓を発掘調査した。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　後藤　健

【主な成果】

27 年度の調査研究は 28 年 1 月より 2 月半ばまでバハレーン王国において実施された。

(1) バハレーン本島内陸部にあるワーディー・アッ=サイル古墳群において、初期ディルムン時代の高塚式古墳大小２基を考古学的に発掘調査し、墳丘・主体部の構築方法を明らかにするとともに、被葬者の遺体等を回収した。

(2) 26 年度の発掘で出土した被葬者遺骨１体を精査した結果、おおよその身長と性別等が判明した。

(3) 本遺跡の南方に位置するバハレーン本島南部のジャブリー山の踏査において、同国では初めての鍾乳洞を発見し、内部の計測を行なった。歴史的文化財としての意義を 28 年度以降に検討する予定である。

(4) 以上の成果を取りまとめ、バハレーン王国文化庁に提出した。

(5) 26 年度に引き続き日本西アジア考古学会、日本オリエント学会等の国内学会で成果を報告するとともに、27 年度は Seminar for Arabian Studies など国外の専門学会で報告し、また 28 年度以降に *Arabian Archaeology and Epigraphy* などの専門誌に概報を寄稿予定。



古墳の発掘調査風景(2/16)



古墳主体部における埋葬人骨の精査(2/16)



日本人会を対象とした現地見学会(2/12)

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 5 年計画の 2 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度の調査研究では、26年度に引き続き調査対象である古代遺跡の詳細が明らかにされつつあるので、所期の目的は概ね達成されつつあると考えられる。28年度にはより多くの古墳を発掘調査し、データの蓄積を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿って継続的に調査研究を実施することができた。特に、調査研究の対象であるワーディー・アッ=サイル古墳群はバハレーンで最古の古墳群（前2200～前2050年頃）であるが、デンマークによる小規模な調査以外、本格調査が実施されたことはない。本調査研究により、空白の時代を埋める知識が新たに得られる可能性が極めて高い。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-13

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	13）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究（科学研究費補助金）（(5)－②）

【事業概要】東京国立博物館が収蔵する写真資料のうち、清朝末期に文物、史跡の撮影を行った岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の写真資料に焦点をあて、文献資料の調査及び実地調査によって、現状との比較、写真が撮影された行程、未詳な被写体、被写体が選択された背景を明らかにし、当時における写真撮影の実態を解明する。その成果は、博物館のウェブ上で公開中の「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」に反映させるとともに、特集陳列によって写真資料を一般に公開する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	列品管理課登録室アソシエイト・フェロー　関紀子

【主な成果】

(1)岡倉天心・早崎梗吉、塚本靖の中国調査のうち、北京から趙州及び北京から太原までの道程を実地調査し、写真が撮影された場所を特定した。

①大同から北京までの行程を調査（27 年 6 月 21 日～25 日）
　大同：平城故城城壁、後魏永固陵遺跡、天鎮県：慈雲寺、懐安県：昭化寺
　張家口：大境門長城、張家口堡、北京：居庸関、八達嶺、明十三陵

②大同から太原・文水・交城・平遥までの行程を調査（27 年 9 月 14 日～22 日）
　太原：崇禅寺、双塔寺（永祚寺）、寿寧寺、恵明寺、華塔寺、晋祠、天龍山石窟、文水県：寿寧寺
　交城県：天寧寺、永寧寺、離相寺、平遥県：清虚観、双林寺、鎮国寺、慈相寺、代県：雁門関
　朔州市：仏宮寺、渾源県：懸空寺、大同：雲岡石窟、華厳寺、善化寺

③趙州から保定までの行程を調査（27 年 11 月 12 日～19 日）
　正定県：隆興寺、天寧寺、広恵寺、臨済寺、開元寺、崇因寺、大唐清河郡王紀功載政之頌碑、南城門、滹沱河
　趙州：柏林寺、安済橋、陀羅尼経幢、永通橋、
　定州：開元寺（料敵塔）、漢中山王墓、行唐県：封崇寺
　曲陽県：北嶽廟、修徳塔、文昌塔、保定府
　　：蓮池書院、大慈閣

(2)実地調査により、現在では失われた史蹟や姿を変えた被写体を確認することができた。



白塔寺塔
（明治 26 年）



現在の白塔寺塔
（27 年 11 月）

【備考】
科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目
(1)調査回数：3 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度計画をほぼ達成した。今後は、28年度計画の特集展示「清国踏査游記―関野貞・塚本靖が撮影した史跡写真」の開催にむけて、調査で得られた知見や画像の整理を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	予定していた調査地をほぼ踏査し、中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。28年度も計画を達成できるよう、実地調査の効率化を図りたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-14

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	14)古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究（学術研究助成基金助成金）((5)-②)

【事業概要】古墳時代は前方後円墳を中心とした葬送儀礼に、武器・武具･馬具(以下､武装具)が大きな比重を占める時代である。古墳文化は日本古代国家形成期における社会の安定と成長に重要な役割を果たしたとみられる。一方、日本列島の武装具は古代北東アジア諸地域の影響下に成立し、刀剣や装飾の主体性・卓越性などに特色がある。

本研究は、副葬品・形象埴輪を中心に古墳文化武装具の古代東アジア諸地域相互における位置を明確化する。また、武装具形埴輪や古代武装具との比較・検討から、日本列島の武装具と東アジア武装具の性格と政治･文化史的意義を分析して、日本列島における原始･古代武装具研究の総合化と歴史的意義を解明するための研究基盤を確立する。

【担当部課】	学芸研究部列品管理課	【プロジェクト責任者】	列品管理課主任研究員　古谷　毅

【主な成果】

1　各地方の主要古墳出土埴輪及び武装具資料を調査し、基礎的情報の整備を進めた。
2　調査情報を基礎に「古墳時代武装具関係資料」を比較検討し、政治･文化史的意義の研究を推進した。
3　27 年 10 月の平成館考古展示室リニューアル公開に伴う展示室計画に反映させた。

①　実施概要　：27 年 5 月 23 日、6 月 13 日～14 日、9 月 19 日～21 日、11 月 13 日～15 日、28 年 1 月 9 日～11 日、28 年 2 月 11 日～14 日、3 月 19 日～21 日に、東京国立博物館、韓国国立慶州博物館、同大邱博物館、及び福岡県嘉麻市、大分県大分市、兵庫県西宮市、大阪府高槻市、群馬県伊勢崎市において、資料調査及び研究会･会議を実施･開催した。
②　成果・知見等　：研究会で調査成果の分析・研究報告を行い、調査成果の確認と問題点を検討・分析した。
③　成果の公開等　：韓国・慶北大學校における公開共同研究会で、研究成果を発表した。



資料調査(左･中) 及び共同研究会(右) 風景〔左:大分市、中：伊勢崎市、右：慶北大學校〕

【備考】学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 1 年目

○調査･研究会回数(日数)：6 回(延べ 15 日間)・7 回 (延べ 4 日間)
・主な調査･分析資料　：福岡県沖出古墳出土埴輪(嘉麻市教育委員会蔵)、大分県亀塚古墳出土埴輪(大分市教育委員会蔵)、大阪府今城塚古墳出土埴輪(高槻市立今城塚古代歴史館蔵)、群馬県赤堀茶臼山古墳出土埴輪(伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館蔵)、慶北大學校所蔵武装具資料など
○主な学会等発表等　：古谷 毅「武装具形埴輪のモデルと伝統性」『古代韓日古墳研究交流會』韓国･慶北大學校、28 年 2 月 13 日
○論文等公開　：上記他 2 件
○共同公開研究会　：1 件（慶北大學校共同研究会:「古代韓日古墳研究交流會」28 年 2 月 13 日、韓国・慶北大學校）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	研究計画の達成度・公開性については、調査・研究会開催回数はほぼ目標を達成し、韓国･慶北大學校との共同研究会の開催で国際性を加えることができた。28年度はより研究予算運用の効率性・適時性を高め、研究会をさらに充実を図ると共に、東京国立博物館所蔵資料(列品)整理を進め、本研究精度の向上と発展性・独創性及び公開性の拡充・確立を図る所存である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	有形文化財の収集・保管に関しては、列品の整理・分析及び学術的評価に関する十分な考古学的情報の整理・資料化と、研究会等を通じた当館における文化財(列品)の公開に資する調査・研究として、十分な蓄積を行ったと考えられる。また、中期計画における「所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査」に沿った調査研究を実施し、その成果を東洋館における展示及び解説に反映させることもできた。改良・改善点は、より高度な効率性・適時性及び発展性・独創性の確立を図ることと、東京国立博物館所蔵資料の列品整備を目標として、次期中期計画へ反映させる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-15

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	15）古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金）((5)-②)

【事業概要】本研究は、後のユダヤ教、キリスト教に引き継がれるヤハウェ一神教を確立させた古代イスラエルの民間における宗教実態を実証的に解明し、旧約聖書に基づく古代イスラエル宗教史の理解の盲点を補うことを目的とする。具体的には、中期青銅器時代第 II 期（前二千年紀中葉）から鉄器時代第 IIA 期（前一千年紀中葉）にいたるパレスチナ諸遺跡で発見されている墓の遺構及び副葬品を調査研究の対象とし、それらを地域別、時代別に分類しつつ、古代イスラエルにおける葬制とそこに表れる他界観、さらには旧約聖書が禁じた死者儀礼の実態の解明を目指す。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚 拓造

【主な成果】

○海外での調査・研究（イスラエルでの現地調査、27 年 8 月 5 日～23 日）

・ゼロール遺跡の埋葬遺構や関連遺物に関する現地調査を 26 年度内に終えることができたため、27 年度はレヘシュ遺跡の発掘調査から、本研究に関連する各時代の社会的背景を探ることに焦点を当てた。

・発掘調査で出土した建築遺構が新バビロニア帝国の海外拠点であった可能性を導き出し、帝国支配化の社会についての新たな知見を得ることができた。

・調査成果や得られたデータの検討会を現地で実施した。グンナー・レーマン教授（ベングリオン大学）など、現地の著名な研究者とともに出土遺構の解釈について検討を加えた。

○国内での調査・研究（天理大学考古学・民俗学専攻、天理大学付属天理参考館での資料調査、27 年 12 月 26 日～28 日）

・26 度に引き続き、1960 年代に実施されたゼロール遺跡の発掘調査記録（調査日誌、写真、図面）を整理しデジタル化した。

○調査・研究の成果

・旧約聖書が成立し古代イスラエルの「オフィシャルな」宗教が確立する時代の居住地を発掘したことで、文献史料からはうかがい知ることのできなかった社会の側面を復元することができた。

・ゼロール遺跡の石棺墓出土状況等について、あらたな情報を得ることができた。

○調査・研究成果の発信

・調査研究の成果は Tel Rekhesh Project のウェブサイトで　公表しているほか、学会発表や講演を通して、学会と社会の双方に発信している。



バビロニア時代の大型建築の一部の建築と考えられる遺構

【備考】

科学研究費補助金事業の 3 年計画の 3 年目

調査件数：2 件、学会研究会等発表数：2 件、論文 2 件、新聞取材：1 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	レヘシュ遺跡の発掘調査によって鉄器時代末期（おそらく新バビロニア時代）の居住地を確認したこと、ゼロール遺跡の墓地に関する新たな情報を得たこと、この2つの成果により、古代イスラエル人の他界観に大きな影響を与えたと考えられる鉄器時代の社会について、その一端を解明するという当初の目的を達成することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	26年度に引き続き、ゼロール遺跡とレヘシュ遺跡の考古資料を収集、検討し、中期計画における「日本及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。また、当時の宗教実態を出土資料から実証的に探り、旧約聖書に基づく古代イスラエル宗教史の理解の盲点を補うという学術的な目的も達成することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-16

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	16）5～9 世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金　研究代表者：大阪大学　藤岡穣)((5)-②)

【事業概要】
本プロジェクトは大阪大学教授の藤岡穣氏が研究代表者の科学研究費補助金による研究である。5～9 世紀の中国・韓国・日本の金銅仏について、蛍光Ｘ線、マイクロスコープ撮影、Ｘ線ＣＴスキャン等の科学的調査によって製作技法を検討し、様式と技法の両面からその製作地、さらには製作年代の推定を導き出すことを目的としている。これら東アジアの金銅仏、とりわけ小金銅仏は、その可動性ゆえに製作地を離れて伝来しているものが少なくない。本プロジェクトの前段階として、大阪大学では「科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究」という科学研究費補助金による調査を行い、淺湫も研究分担者として参加した。同研究は半跏思惟像を中心に 6～7 世紀の東アジアの小金銅仏について調査するものであった。その結果、これらの中に本来の製作地を再検討すべき作例が多くあることが判明したが、本研究はこれを継承発展させ、5～9 世紀の東アジア金銅仏研究において新たな基盤を築くことを目的としている。27 年度は 4 年計画の第 3 年次である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部博物館教育課教育講座室長 淺湫　毅

【主な成果】
(1)東京国立博物館法隆寺献納宝物金銅仏調査（27 年 7 月 7 日～9 日）
韓国国立中央博物館「大仏像展」出品作品調査（27 年 11 月 1 日～3 日）
国際シンポジウム「金銅仏の制作技法の謎にせまる」（於：大阪大学）への参加（27 年 12 月 12 日）
(2)献納宝物調査においては蛍光 X 線分析による、古代金銅仏の金属成分比に関する新たな知見を得ることができた。
中央博調査では韓国の金銅仏に関して、新たな知見をえるとともに、韓国の研究者と情報交換することができた。
シンポジウムでは、国内外の研究者と、古代東アジアの金銅仏に関する議論をおこなうことができた。
(3)上記の研究において得られた成果は、東京国立博物館東洋館における中国・朝鮮金銅仏の展示および解説、ギャラリートーク等に反映している。


韓国国立中央博物館における調査風景

【備考】
科学研究費補助金事業の 4 年計画の 3 年目
調査２回
シンポジウム参加１回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	大阪大学藤岡穣氏を中心とする全体的な計画としては、順調に計画通り行われている。 個人的にも、調査・シンポジウム等順調に参加することができた。また、東京国立博物館東洋館で行っている「博物館でアジアの旅」をはじめとする、アジアの金銅仏の展示に、その成果を反映することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施し、その成果を東洋館における展示及び解説に反映させることもできた。なお、全体的な計画、研究分担者としての個人的な計画ともに順調に遂行している。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-17

業務実績書

中期計画の項目	４ 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	17)東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金　研究代表者：成城大学　岩佐光晴)((5)-②)

【事業概要】日本に於ける木彫技法の変革や鎌倉時代新様式の確立に伴う用材観の変化及び形成に関する調査研究、及びその用材観に東アジア世界が及ぼした影響に関する調査研究を行う事業である。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

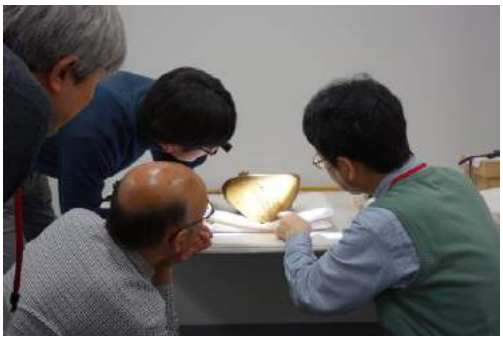
【主な成果】

(1)これまでの調査成果を一般向けに分かりやすくまとめ、シンポジウム「仏像と木の交流-古代一木彫像の樹種をめぐって-」として開催し、成果の公開を行った(27 年 5 月 16 日)。

(2)山梨県南アルプス市に所在する円通院(27 年 9 月 14 日)、慈眼寺(27 年 9 月 15 日)、上宮八幡神社(27 年 9 月 16 日)、若宮八幡神社(27 年 9 月 16 日)が所蔵する木彫像の写真撮影、採寸、調書作成、木片採取を行うことができた。

(3)島根県立石見美術館にて企画展「祈りの仏像-石見の地より-」に陳列中である新発見の木彫像「観音菩薩立像」(奈良時代、島根・圓福寺蔵)について、画像だけでは確認しにくい細部の観察を行うことができた(27 年 10 月 18 日)。

(4)京都国立博物館にて保管中の木彫像を調査し、28 年度以降の調査作品の選定を行った(28 年 1 月 6 日)。



京都国立博物館における木彫像の調査

【備考】
・科学研究費補助金事業の 4 年計画の 4 年目
・論文：安部久、渡辺憲、石川敦子、能城修一、藤井智之、岩佐光晴、金子啓明、和田浩「近赤外分光法を用いた木彫像用材の非破壊的な樹種識別 -木材標本を用いた分析-」(『木材保存』41(4)pp. 162-170、27 年 7 月)、他 3 件
・調査回数：6 回
・シンポジウム開催：1 回
・シンポジウム来場者：約 200 名

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	一木彫像が集中して伝来する寺社に注目し、現地調査を実施したが、一木彫像制作における地方と中央との関係を考察する上でも重要な視点となりうることを認識した。さらに、非破壊による樹種同定の確立に向けて、関連するデータ収集を推進した。これまでの調査研究を幅広く国民に還元することを目的として一般向けの公開シンポジウム「仏像と木の交流」を27年5月に成城大学で開催し、200 名に及ぶ参加者を得た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を継続的に実施することができた。特に24年度においては、中国での実地調査により、「柏」のみならず「楠」においても、中国と日本とでは漢字表記と実際の樹木とで認識の違いがあること27年度においては一木彫像制作における地方と中央との関係を考察する上でも重要な視点となりうること等の認識が得られ、公開シンポジウム「仏像と木の交流」においてそれらの成果を広く公表することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-18

業務実績書

中期計画の項目	４ 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	18)東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究（科学研究費補助金　研究代表者：筑波大学　守屋正彦）（(5)-②）

【事業概要】
東アジアの人々の間には、儒教に基づく礼拝空間における形象が共通の視覚イメージの一つとなっており、またそれに関わる漢詩文も思想の背景として今日まで共有されている。儀式のあり方、礼拝の諸像の形式や配置、また唱道する詩文や作法などの視点から、東アジアに遍在する礼拝の「かたち」の表象を解釈することによって、地域間や民族間の文化の多様性を明らかにする。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	出版企画室長　勝木言一郎

【主な成果】
27 年度は、儒教の影響を受けた仏教経典、そしてそれに基づいてつくられた図像に関する調査研究に重点を置いた。

(1)敦煌文書に記された父母恩重経の研究
父母恩重経は父母に対する孝道を説く仏教経典であるが、近年の学説では唐代に中国で撰述された偽経とする見方が有力である。そこで敦煌文書に関する文献に徴し、父母恩重経や父母恩重経講経文について調査を進め、敦煌地区における父母恩重経の受容を考察した。

(2)敦煌における父母恩重経変相の図像学的研究
敦煌画に関する文献および画像の資料に徴し、父母恩重経変相の図像を分析した。また敦煌文書の父母恩重経による図像の解釈を行なった。その成果の一部として、「敦煌における父母恩重経変相の図像に関する一考察―「孝」の受容と展開―」と題する論文を『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究論文集』に発表した。

(3)中国における父母恩重経変相の比較考察
父母恩重経変相について敦煌と重慶大足の作例をそれぞれ比較し、中国の西北部と西南部における父母恩重経の受容の相違を明らかにした。

【備考】
科学研究費補助金事業の 4 年計画の 2 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は敦煌文書の中にも儒教との関連の深い文献がかなり多く認められ、中国の仏教石窟への儒教美術の受容にまで考察が進んだ。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に 26 年度は中国儒教美術に関するデータベースの構築、27 年度は中国の儒教文化が西域にまで浸透していた形跡を確認するなどの成果が得られた。28 年度は日々の業務との連携を図りながら、研究を継続していく予定である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-19

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	19）唐・宋時代の陶磁器に関する絵画資料の収集と分析（西田記念東洋陶磁史研究助成金）((5)－②)

【事業概要】本研究は、中国・唐（618～907）及び宋時代（960～1279）の陶磁器の展開を再考するにあたり、器物に関連する絵画資料の集成を目的とするものである。器物が描かれた絵画資料を網羅的に集め、唐磁・宋磁再考の一助としたい。各時代によって、描くテーマによって、さらに描き手個人の思想が映し出されることによって、描かれた器物の姿はそれぞれに異なり、多くはフィクションとしてとらえるべきであるが、紙や布、壁画など媒体・形式を問わず、またそのテーマが唐・宋時代に関連するものについては制作年代、制作地域を問わず、広く収集することにより、その時代にしかありえない器物のあり方及び人々の器物に対する意識の変遷を検証する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課東洋室研究員　三笠景子

【主な成果】

(1)特集「描かれた器物」　東洋館８室　27 年６月 30 日～８月２日

東京国立博物館には器物を描く絵画と描かれた器物の両方を豊富に所蔵しており、それらを対比的に展示することができる数少ない博物館の一つである。このコレクションの特性を生かし、絵画とそこに描かれた器物を同時に展示し、新しい視点によって絵画、器物それぞれを展観した。主要展示作品のうち、中国・元の任仁発筆と伝わる琴棋書画図には豊富な器物が登場するが、それらの造形的特徴から器物は主に宋時代に流行したかたち、元～明初にみとめられるかたちが混在している。このように器物作品を通じて、絵画の制作背景を再考するという契機を示した。



東洋館８室　特集「描かれた器物」展示風景

(2)國華作品紹介「東京国立博物館所蔵唐三彩倚坐女子俑」執筆（28 年度刊行予定）

東京国立博物館所蔵の唐三彩倚坐女子俑は 1983 年に個人より寄贈されたものであるが、これまで博物館以外では主立って紹介される機会が少なかった。世界的にも比較的数多く現存する三彩女子俑のなかで、実は本作品は極めて精緻な作行きをみせる。本稿では近年中国国内において発掘調査及び研究が進む壁画墓の資料等に基づいてその位置づけについて再考を試みた。

【備考】
論文１本
調査２件（28 年２・３月）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで中国陶磁研究の視点だけで捉えてきた作品の造形的特徴やその年代観について、絵画資料及び金銀器、漆器等他材料の工芸作品を検討材料に加えることにより、考察の幅が大きく広がり、器物の変遷を捉えるうえで貴重な機会となった。引き続き研究、考察を続け、28年度につなげたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に特集「描かれた器物」をきっかけに、日本伝世の中国陶磁、茶の湯という特殊な文化的背景によって伝えられてきた中国陶磁、また近代の「鑑賞陶器」という視点で集められた中国陶磁について、あらためて考え直す機会を得たことは今後の研究において改善すべき大きなポイントとなった。また、28年2月及び3月に行った作品調査の成果を含め、次の考察に活かしたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4521-20

業務実績書

中期計画の項目	４ 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	20）七仏薬師信仰とその造像に関する研究（メトロポリタン研究助成金）((5)-②)

【事業概要】本研究は、七仏薬師信仰とその造像について、主に図像及び宗教的機能の観点から改めて検討を行い、古代から中世への変容を明らかにするものである。七仏薬師は薬師経典の諸訳にみえ、造像例は奈良時代から史料に確認されるが、平安時代、天台宗を中心に一般化するといわれている。しかし、従来の研究は光背の化仏としてあらわれることが多い古代の事例に集中しており、平安時代以降、とりわけ天台系の七仏薬師造像についてはほとんど言及されておらず、成立背景についても不明な点が多い。そこで、古代・奈良時代末から平安時代前期における動向の理解に立ちつつ、中世・平安時代から鎌倉時代にかけての実態と比較検討を行い、七仏薬師の信仰及び造像の特質と変容について考察を試みる。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統

【主な成果】

(1)27 年 6 月 7 日～8 日、七仏薬師如来像の代表的な遺例である滋賀・鶏足寺像について実地調査を行った。同像は現存作例のなかでも本格調査に恵まれておらず、複数の専門家を交えた実査によって貴重な基礎データが得られた。

(2)七仏薬師の造像例に関する文献史料を収集した。とりわけ、天台宗(青蓮院流)における七仏薬師修法の記録として重要な『七仏薬師法代々日記』(曼殊院本）の複写を東京大学史料編纂所から入手し、データベースとして整理できたことは今後の研究を進めるうえでも必要になるものである。

(3)研究成果は、随時論文執筆や講演会などで発表したが、鶏足寺像の考察についても今後発表予定である。



滋賀・鶏足寺での調査



滋賀・鶏足寺所蔵七仏薬師如来像

【備考】

調査回数：2 回

論文等：西木政統「岩手・黒石寺薬師如来坐像と像内銘記」(『ＭＵＳＥＵＭ』659、27 年 12 月)、他 1 件

講演会：第 634 回れきはく講座「比叡山延暦寺根本中堂の薬師如来像とその模刻」(大津市歴史博物館、27 年 10 月 31 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究において、もっとも期待された滋賀・鶏足寺像の実査が行えたことに加え、文献史料の収集及び整理も順調に進んでいるため、おおむね所期の目的は達成できた。現存作例のうち、千葉・松虫寺及び岩手・赤沢薬師堂では諸般の事情から詳細な調査が行えなかったが、既刊の研究書や展覧会出陳時のデータを入手・参照することでその欠を補うことができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施し、論文執筆や講演会等の発表によりその成果を公開することができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4521-21

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	21) 仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金　研究代表者：大正大学　加島勝)((5)－②)

【事業概要】隋文帝が仁寿元年（601）から3度にわたり中国全土に起塔した仁寿舎利塔の起塔地と関係遺物に関する現地調査を実施し、これにより得られた基礎資料を美術史、考古学、歴史学、保存科学を専門とする研究者が協働で、(1)起塔地の隋時代以前の歴史、(2)舎利荘厳における儒仏道の習合的意味、(3)仁寿舎利塔の受容史、という新しい観点から総合的に分析し、従来不明な点が多かった仁寿舎利塔の信仰と荘厳の全体像の具体的な解明を目的としている。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

【主な成果】

(1) ギメ東洋美術館(フランス)、ベルリン国立博物館アジア美術館(ドイツ)が所蔵する舎利容器の調査を行い、実測、撮影などを通じて画像だけでは得ることのできない重要な情報を収集することができた(27年8月9日～16日)。

(2) 京都大学小椋大輔准教授の研究室が管理する擬似石室を京都大学桂キャンパスにて現地調査し、遺物が埋蔵されていたと想定される環境や周辺情況に関しての協議を実施した。通常は地中に埋蔵された施設であり内部を観察できるのは非常に貴重な機会であるところ、調査を実現することができ、その結果発掘される前の遺物の状況に関する貴重な情報も収集することができた(27年11月2日)。

(3) 東大寺ミュージアムにおいて東大寺金堂鎮壇具を中心に関連作品を調査し、画像だけでは確認しにくい細部の観察を行なうことができた(28年1月11日)。

(4) 奈良国立博物館において開催中の「春日若宮おん祭り」展に出品された「春日神鹿舎利厨子」「四方殿舎利厨子」等を中心に関連作品を調査し、画像だけでは確認しにくい細部の観察を行うことができた(28年1月11日)。

(5) 湖北省、河南省、安徽省において、仁寿舎利塔の起塔地についての調査を行い、詳細な位置情報を収集することができた(28年2月16日～25日)。



京都大学における擬似石室の調査

【備考】
科学研究費補助金事業の4年計画の4年目
調査回数：5回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は調査回数も充実したものとなり、その結果、仁寿舎利塔の信仰と荘厳が美術史、考古学、歴史学的見地からどのように意味付けられるのかについて、研究分担者及び調査先の研究者との十分な協議を重ねることができた。外部への情報公開という点については年度内に報告書をまとめ、28年度以降に機会を見つけて出版物等の形態で一般的にも公開できるよう準備を始めている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。特に隋文帝が中国全土に起塔した仁寿舎利塔の起塔地と関係遺物に関する研究についてはこれまで中国国内でも系統立った調査報告が存在せず、本研究のような規模での調査は他に類をみない。現在、中国各所での規制が厳しくなる中で、これまでに集積できた起塔地に関する情報群は非常に大きな価値を持つものとなった。将来的に、古代中世中国の舎利容器に関する総合的調査研究として発展させていくための基盤研究を実施できたものと考える。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4532-1-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-1 特別展覧会琳派誕生 400 年記念「琳派　京を彩る」に関する調査研究((5)-③)		
【事業概要】 特別展覧会「琳派　京を彩る」(10 月 10 日～11 月 23 日）に関わる調査研究			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　山川　暁

【主な成果】

(1)26 年度より引き続き、当館研究員・非常勤研究員・調査員とともに琳派関連文献及び作品の調査・研究を行い、展覧会の企画趣旨を　1. 時系列に沿った琳派の展開と代表的な芸術家の紹介　2. 絵画のみにとどまらない諸工芸へと広がる琳派のデザイン的特質の紹介　の二点に絞り、その成果を展示及び展覧会図録として発表した。京都文化研究を掲げる京都国立博物館において琳派は重要な研究分野であり、本展覧会の準備によって基礎資料の集成が図られた。

(2)27 年は本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯に土地を拝領して 400 年にあたることを記念し、京都全域において「琳派 400 年祭」が挙行された。本展はその中核となる展覧会として、京都府・京都市・京都博物館連絡協議会・社寺・学校教育機関とも連携協力し、京都の地で誕生した琳派という芸術様式の再認識の機会として機能した。関西地方での大規模な琳派展は初めてであったこともあり、広く関心を喚起することができた。その成果は 32 万を超える来館者数からもうかがえる。

(3)会期中毎日、琳派デザインの特質を体験的に理解できる、スタンプを用いて扇面画を作成するワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を、京博ナビゲーター（当館教育普及ボランティア）による教育事業として行い、1 万 5 千人を超える来館者が参加した。アンケートには、来館者の琳派理解に大きく寄与したことがうかがえるコメントが散見された。

(4)作品調査の中で琳派の重要作家である尾形光琳・乾山の合作になる「銹絵寒山拾得図角皿　二枚」の購入の可能性が浮上し、展覧会に先だって収蔵品に加えることができた。

【備考】

・他機関での作品調査・写真撮影　　35 回
・論文等　　福士雄也「『琳派』になりたがった画家たち―画風の継承とその意味」(27 年 10 月　ほか 3 本)
・学会発表等　　福士雄也「琳派―『継承』と『変奏』の諸相」(27 年 7 月ジャポニスム学会例会　ほか 1 回)
・講演等　　京都ミュージアムズ・フォー連携連携フォーラム「琳派を飾る―展覧会から見えるもの―」(27 年 10 月ほか 44 回)
・テレビ・ラジオ取材・放送　24 件
・新聞・雑誌など紙媒体掲載　444 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	琳派作品に関する調査及び研究の成果をとりまとめ、特別展覧会の展示及び図録等の諸解説によって、琳派の系譜とその特質を分かりやすく紹介するとともに、琳派のもつデザイン的な特徴が体験的に理解できるよう、教育プログラムを作成しワークショップを開催した。また、調査の成果を作品購入に結び付け、琳派を生み出した京都にとって重要な作品を収蔵品に加えた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	四百年前に京都で誕生した琳派について、数多くの作品情報及び関連資料を蓄積することができた。近世の京都文化研究の基礎作業の一環として中期計画の観点を達成することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4532-1-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-2 臨済禅師 1150 年、白隠禅師 250 年違諱記念「禅-こころをかたちに-」に関する調査研究((5)-③)

【事業概要】
臨済禅師 1150 年、白隠禅師 250 年違諱記念「禅―心をかたちに―」（28 年 4 月 12 日～5 月 22 日開催、東京国立博物館・日本経済新聞社との共催）の調査研究

臨済宗及び黄檗宗の源流に位置づけられる臨済義玄、日本における臨済宗中興の祖である白隠慧覚の遠諱にちなみ開催される展覧会として、
(1)臨済宗・黄檗宗の十五派本山の所蔵する文化財を中心に、可能な限り、調査と写真撮影を行う。
(2)共催館である東京国立博物館とともに、合同会議を行い、各分野における出品作品の候補を絞り込む。
(3)調査を通じ、得ることのできた知見を刊行する図録に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡

【主な成果】
(1)臨済宗・黄檗宗の十五派本山とその塔頭や末寺を含め、大分県の見星寺や京都府の大徳寺など、およそ 30 箇所で 90 点ほどの作品調査と写真撮影を行った。特に見星寺の調査では、新出となる白隠慧覚の「慧可断臂図」、仙厓義凡の「龍図」が発見された。
(2)東京国立博物館及び京都国立博物館の展覧会担当者による合同会議を 8 回行い、各分野の担当研究員より集約された出品希望作品を基に、展示リストの確定を行った。これにより、両館のキャパシティーをはるかに上回る 500 点にのぼる当初の候補作品を、最終的に 307 点まで絞り込んだ。
(3)展覧会にあわせ刊行される図版目録では、全 307 点のカラー図版、これらの詳細な作品解説に加え、各分野の担当研究員による各論 9 篇を掲載する予定である。


白隠慧覚筆
「慧可断臂図」


仙厓義凡筆「龍図」

【備考】
・調査件数　約 90 点
・撮影コマ数　約 200 カット
・会議の開催　8 回
・成果の公表　1 件（図版目録『禅―心をかたちに―』、28 年 4 月刊行予定）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日本文化で重要な位置を占める禅というものを、「心をかたちに」という副題のもと、臨済宗・黄檗宗の寺院に伝わる仏教美術を広く調査し、特別展覧会として構築した。そのための調査、あるいは会議を積み重ねた。調査による撮影はアーカイブの充実や成果を含めた図書の刊行など、ほかの博物館事業に及ぼす効果も大きいことが期待できるなど、当初の目的を十分に達成している。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「京都文化を中心とした有形文化財の調査・研究」を順調に達成している。調査撮影のみならず、リストの確定や出品交渉など、展覧会の開催にいたる諸作業を滞ることなく実施できたため、中期計画に対する進捗状況は順調であると判断した。特に今回のような寺院関連の展覧会の場合、文化財所有者との関係を、借用のみで終わらせてしまうのではなく、保存や修理も視野に入れた包括的で継続性のあるものにする必要があると感じる。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4532-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究((5)-③)

【事業概要】京都国立博物館では長年にわたり京都とその周辺の古社寺伝来の文化財の調査（悉皆調査）を継続的に行っているが、27 年度は左京区百万遍の知恩寺の文化財調査の追加調査とその整理作業を行った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室長　宮川　禎一

【主な成果】

京都市・知恩寺の調査

(1) 知恩寺調査は、同寺の意向と協力もあり、精度の高い調査を完遂することができた。同寺の宝物台帳を基礎としながらも、悉皆調査を行うことで寄進状等それ以外の文化財も発見し、補完することができた。本調査の成果は、『社寺調査報告書　27』(28 年 3 月 31 日）として刊行した。

(2) 本調査の最大の成果として、阿弥陀堂阿弥陀如来立像の総合的調査が挙げられ、その概要は下記の通りとなる。
27 年 5 月 12、13 日にファイバースコープによる像内調査及び像内納入品取り出しを行った。
像内の内刳り面のほぼ全体に紺紙金泥種子陀羅尼を貼り付けていることがわかった。また、像底部にあった納入品（巻子 5 巻、遺骨、歯、毛抜き、摺仏など）を取り出した。摺仏は鎌倉時代のもの、毛抜きは鉄地銀象嵌を施したものであった。



阿弥陀堂阿弥陀如来立像の像内納入品を取り出す様子

27 年 7 月 31 日　取り出した納入品のうち巻子の展開を光影堂に依頼。虫喰が甚大なため展開は一巻の二紙にとどまった。紙本金泥の『阿弥陀経』であった。
27 年 11 月 10～11 日の 2 日間、知恩寺方丈で漆工・染織作品の追加調査と撮影を行った。
28 年 1 月 28 日　大殿阿弥陀如来立像　Ｘ線ＣＴによる像内調査。頭部と体部に巻子状の納入品のあることがわかった。また、玉眼のおさえ方に特色が見られた。快慶作という説があるが、その検証の手掛かりになり得る発見である。

【備考】

社寺調査報告 27(知恩寺)1 冊（28 年 3 月 31 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業については、継続性を重視しており、補完調査を行うことで正確性についても従来以上のものになったと考えている。特に、知恩寺阿弥陀堂阿弥陀如来立像の総合調査に関しては、本格調査に入るのは当館が初めてであり、京都大学大学院人間・環境学研究科協力講座研究経費等の外部資金を活用して万全の調査態勢で調査を行い、それが画期的な発見に繋がった点は評価される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「文化財に関する調査及び研究の推進」を達成している。京都国立博物館の社寺調査は法人化以前から継続してきた事業である。従来、調査を行った寺院が他にもあり、時間の不足等で報告書刊行に至っていないものがあったが、27年度の知恩寺の文化財調査と報告書の作成はその責任を果たすためのものであった。28年度以降も、新規調査先の検討を行うと同時に、残余の報告書未刊行寺院の追加調査を実施し、報告刊行を行うことで、速やかに成果の社会への還元を図ることとする。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)京都の幕末史料に関する調査研究（(5)-③）

【事業概要】京都国立博物館の収蔵資料のうち坂本龍馬関係資料は特別に注目度の高い作品といえる。この研究は 28 年秋に予定している特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」に関する事前調査である。京都国立博物館では約 10 年前の 17 年に「龍馬の翔けた時代」という特別展覧会を開催したが、その後にも龍馬に関わる新たな資料の発見が続いている。この研究は京都関連の坂本龍馬関係資料の調査を通じて新たな展覧会の企画を充実させることを目的とした調査研究である。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室　宮川禎一

【主な成果】

(1)　京都国立博物館が所蔵する龍馬の刀として有名な「陸奥守吉行」に関しては最新のスキャナーによってデジタル画像化した結果、直刃ではなくその下に丁子乱れの本来の刃紋があることが明らかとなり、龍馬が兄にあてた手紙のなかで「粟田口忠綱くらいに褒められた」との記述と合致することが明白となった。よって諸説のあった本当に龍馬の刀か否かの問題に結論がでたとしてよい。

(2)　札幌の坂本本家の引き払いに際して高知県立坂本龍馬記念館が坂本家伝来龍馬関係資料を受けとったのだが、それに同行して作品調査を行った。昭和前半の坂本弥太郎書付などから京都国立博物館の所蔵する刀銘埋忠明寿が伝えられていた島村衛吉（龍馬の親戚）の刀ではなく、本来坂本龍馬が所蔵していた刀であることが明白となった。

(3)　近年発見の龍馬書簡草稿として知られている「越行の記」（個人蔵）の裏書にある「林市郎右衛門」なる人物が滋賀県の近江塩津の林家の先祖であることが判明し、京都龍馬会との共同調査によってその林家から土佐藩士北添佶馬など龍馬に関わる人物の書状などが新たに発見された。また龍馬が福井からどの経路で京都に帰ってきたのかも明らかとなった。

(4)　高知県の展示施設で坂本龍馬の江戸修行時代を示す「北辰一刀流長刀兵法目録」が収蔵されていることが明らかになり、その内容を精査検討し、さらに他の剣術免状と比較した結果、道場主であった千葉定吉の手になる免状であることが明らかとなった。この発見については京都国立博物館を会場に所蔵者主催で記者発表を行い、宮川が作品説明を行った。その結果、広く報道されて国民の興味を集めた。

(5)　札幌市在住の坂本家子孫宅から坂本龍馬所用の脇差一口が高知県立坂本龍馬記念館との共同調査によって見出すことができた。これまで 80 年以上行方不明であった資料であるので貴重な発見となった。



札幌で再発見された龍馬の脇差

【備考】
・(4)の「北辰一刀流長刀兵法目録」については 27 年 11 月 7 日(土)に京都国立博物館 4 階大会議室において記者発表を行い、翌日の新聞紙面や TV によって広く報道された。
・特別展覧会「没後 150 年　坂本龍馬」の開催が 28 年 10 月 15 日～11 月 27 日で開催することが決まった（読売新聞社共催)。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度に予定している特別展覧会「坂本龍馬」についてその準備としての資料調査を行って展示内容を充実させたとともに、話題性ある資料の掘り起こしが進んだことによって、展覧会の集客の向上に資する調査が行えた。その成果はまた図録の充実にも反映できるものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「京都文化を中心とした有形文化財の調査・研究」を順調に達成している。文化財の調査研究の推進に関して、特別展覧会の作品調査を兼ねて行い、新たな資料の掘り起こしが着実に進んでおり、展覧会の内容充実に反映できる。28年度は特別展覧会の年度となるのでより一層の作品の精査が進められる予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4532-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)（(5)-③)

【事業概要】科学研究費補助金（基盤研究(B)）「幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎家コレクション」の一環として、大阪府貝塚市の旧家へ赴き、江戸時代の家屋と5つの土蔵に伝えられた大量の文化財を、清掃、調査し、所蔵者の意志のもと寄贈先を検討し、当館への寄贈分は、当館搬入後、燻蒸をしたうえで本格清掃を施し、受贈手続きを経て、収蔵品として整備した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　永島　明子

【主な成果】

大阪府貝塚市の廣海惣太郎家は、江戸時代後期に米穀や肥料の問屋として身を起こし、幕末には大型和船を所有する廻船問屋として活躍した後、仲買、株式投資、銀行経営などに転じて、その資本により近代産業の発展に寄与した商家のひとつである。

当館では 24 年度に当家での調査を開始し、26 年度までに、書画、陶磁、金工、漆工、木竹工、人形、考古作品について、すでに 364 件の収蔵品と 124 件の備品の寄贈を受けてきた。しかし、当家に伝わる大量の文化財の全容を把握するには至らず、効率のよい調査や清掃と安全な運搬を目指して科学研究費補助金を申請し、27 年度より採用された。

この研究費を用い、27 年度は述べ 109 日間、学生アルバイトや美術輸送会社の作業員を含めた述べ 393 人を動員し、絵画 3 件、陶磁 201 件（前年度調査分も含む)、漆工・木竹工 127 件、考古 5 件、歴史資料 8 件の計 344 件の収蔵品と、当館の教育事業や茶会等のイベントで用いる 147 件の備品の受贈を実現した。

これまでの調査を通じ、当家の歴代当主が、同時代の画家や工芸家のパトロンの役割を担ったようすが窺われ、特に四代惣太郎は、明治時代後半から大正期に、表千家を支える地方数寄者のひとりとして大量の茶道具を蓄積したことがわかった。また、当時の実業家の常として、ほかの大商人や華族（京都の公家を含む）と親戚づきあいがあり、贈答や形見分けなどで品物が行き来した形跡も見受けられた。科学研究費補助金の支給は 29 年度まで予定されており、今後の調査においても美術品を巡る人的ネットワークがより具体的に解き明かされることが期待される。全ての調査を終え、寄贈希望の品が博物館の収蔵品として整備された暁には、寄贈顕彰を兼ねた展覧会を企画し、本プロジェクトの成果を広く一般市民に公開する予定である（29 年度中の実現を目標とする)。


土蔵内における作品探索


現地での簡易清掃作業


陶磁調査風景


寄贈予定品の梱包


博物館での燻蒸


燻蒸後の本格清掃


洗濯した包み布のアイロンかけ


寄贈者へお披露目

【備考】科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目
27 年度は、陶磁器 110 件の調査と約 1100 カットのメモ撮影が実施され、漆工、木竹工 389 件の調査と 3020 カットのメモ撮影が実施された。絵画、書跡、歴史資料、考古の調査も行われたが、染織、金工の調査については、28 年度以降に実施予定である。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	科学研究費補助金申請時の研究計画に沿っておおむね順調に進捗している。ただし、限られた研究員で複数のプロジェクトを回している関係上、調査が行われなかった分野もあり、28年度以降に確実に進められるよう担当研究員と協力していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	近畿圏の旧家に伝わった有形文化財の基礎的かつ総合的な調査を通じて、当該地域の歴史のみならず、京都文化の広がりをもとらえられたことで、中期計画における「京都文化を中心とした有形文化財の調査研究」を順調に達成している。この成果を展覧会に仕立てるべく、およそ計画通りにプロジェクトが進められており、28年度は当館での図録用撮影も行う予定である。29年度中に展覧会を実現することが目標である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4532-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)実作例に基づく日本の宮廷および調度の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)((5)-③)

【事業概要】一般には目に触れる機会がほとんどない日本の伝統的な宮廷装束及び調度について所蔵調査を行い、基礎的な情報を記載した調書を作成する作業により、宮廷の物質文化の実像に可能な限り迫る。その成果を報告書や展示として紹介し、日本民族が培った美意識を広く伝える。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　山川　曉

【主な成果】

研究開始年度である 27 年はまず、京都国立博物館が所蔵する歴史に分類される作品群のうち、宮廷装束及び調度の悉皆調査に手をつけ、調書を作成するとともにその位置づけの有職関係文献からの考察を行った。併せて、明治時代の台帳など、劣化が懸念される資料のデジタル化を行うとともに、現存する宮廷関係作品のデジタル・データベースを作成すべく、諸文献から他機関所蔵作品のリスト化を開始した。

研究成果を盛り込み、染織展示室において「宮廷の装束」と題したテーマ展示を行った。



宮廷の装束　展示風景

【備考】

学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 1 年目

・京都国立博物館所蔵する歴史分野作品の調査（調書作成・デジタル画像の撮影）

第一回　27 年 8 月 24 日～26 日　　調査件数　53 件

第二回　28 年 3 月 8 日～9 日　　調査件数　98 件

・関係紙資料のデジタル化：822 データ

・他機関所蔵作品のリスト：2 機関　34 件

・平成知新館名品ギャラリー染織展示室　宮廷の装束（28 年 2 月 3 日～3 月 13 日）：展示作品数　22 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	資料のデジタルデータ化は確実に進んでいる。27年度の調査成果を一部反映し、展示という形で公開することができた。28年度は調査回数を増やしていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	京都文化の根幹を成す宮廷に関わる研究であり、中期計画における趣旨に即した調査研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4532-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)((5)-③)

【事業概要】科学研究費補助金の若手研究（Ｂ）による事業。大正から昭和にかけて数多く中国書画が日本に将来された背景を、「京都学派」の漢学者にして書画鑑定に秀でた長尾雨山（1864～1942）の業績を再検証することにより明らかにする。膨大な書簡や詩文稿、書画作品など雨山に関する一次資料の整理と調査を核とし、断片的な紹介にとどまっていた雨山の業績と思想を総合的に理解するための基礎的研究とする。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品管理室主任研究員　呉　孟晋

【主な成果】

27 年度は 3 ヵ年計画のうちの初年度にあたるため、京都近郊に在住する長尾雨山の遺族が所蔵する、未整理文献資料や書画作品の全容を把握することに努めた。これらの資料は、この時機を逃すと散逸の可能性があった。

(1) 資料、作品の一部を京都国立博物館に適宜搬入して、目録を作成した。作成にあたっては、京都国立博物館調査員と職員、及び大学院美術史学系の博士課程満期修了者 2 名の協力を得て、全体量がおおよそ見えてきた段階に至った。資料数は 27 年 12 月末時点で約 4,400 点に上った。

(2) 資料の主な内訳は、雨山の手元に知人から届いた書簡や、雨山が漢詩や作品に附す跋文作成のための草稿であったことが判明した。雨山の著書は、子息の正和氏が雨山の講演原稿を編集した『中国書画話』(筑摩書房、1965 年)のみであり、これらの資料のなかには、雨山の文芸活動を明らかにする内容のものも多数含まれている。

(3) 京都国立博物館では昭和 60 年度に長尾雨山コレクションの一部を受託しており、その作品群のなかに今回整理の資料と関連する作品もあった。たとえば、「寿蘇会」関連資料について。大正年間に雨山は富岡鉄斎たちと複数回、中国文人の代表格である北宋の蘇軾の誕生日を祝う雅宴である「寿蘇会」を開催したが、そのときに配布されたと思われる蘇軾の肖像が、雨山が所蔵していた作品から複製されていたことがわかった（図 1、2)。今回の資料群は、大正から昭和初期にかけて、これまで不明な部分が多かった日本における中国文化を愛好する知識人の活動を解明する手がかりとして、重要な価値を有するといえる。



「寿蘇会」記念色紙（今回調査の資料のうち）



伝陳洪綬筆蘇軾像（京都国立博物館短期寄託品）

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 1 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまで不明であった長尾雨山関連資料の全体量が明らかになった。また、一部の資料についてはその資料的価値についての研究を進めつつある。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	長尾雨山の中国絵画受容における業績の再検証は、中期計画における所蔵品・寄託品並びに京都文化に関する調査研究を展開する内容であり、着実に調査研究の成果を蓄積することができた。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-1-1

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-1 特別展「白鳳」に関する調査研究（(5)-④）		
【事業概要】特別展「白鳳」に関する調査研究			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　内藤　栄

【主な成果】

(1)薬師寺金堂において月光菩薩立像（国宝）の調査を行い、安全な輸送方法を検討した。文化財の３Ｄ計測に実績のある株式会社アコードのスタッフに同席を願い、身体の突起部をかわす梱包部材の作成方法を検討した。(27 年 4 月 3 日、同 8 日)　この調査を通して脆弱な箇所を把握し、輸送方法の具体策を得ることができた。

(2)奈良文化財研究所において、薬師寺金堂基壇及び周辺から出土した遺物を調査した。詳細な寸法を計測し、このうちのガラス製品が薬師三尊像の月光菩薩像と日光菩薩像の瓔珞の寸法と一致することを確認し、当初この部分がガラスや貴石によって荘厳されていたことを推測した。

(3)以上の調査は特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』図録の総論、各論、コラム、作品解説等で反映させた。

(4)『白鳳』展の会期中、法隆寺の橘夫人念持仏厨子の赤外線撮影を行い、従来にはない鮮明な映像を入手することができた。(9 月 9 日)　その映像は館内のパネルで紹介したほか、新聞各紙にも紹介された。

(5)『白鳳』展の会期中、金銅仏、薬師寺東塔水煙の相輪部材などの材質調査を順次行った。

(6)公開講座の講師に特別観覧の機会を設け、それを講演会に反映させた。



白鳳展の輸送のための調査
（国宝・月光菩薩立像〔奈良・薬師寺金堂〕）

【備考】

・調査回数　５回

・調査・研究の成果を反映させた刊行物

内藤栄「総論　白鳳の美術」（特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』総論、27 年 7 月 18 日）

岩井共二「中国彫刻と白鳳仏」（特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』各論、27 年 7 月 18 日）

吉澤悟「古墳の終焉と火葬のはざま」（特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』各論、27 年 7 月 18 日）

野尻忠「古代律令法と七世紀の展開」（特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』各論、27 年 7 月 18 日）

・調査・研究の成果を反映させた講演会、講座等

パネルディスカッション「白鳳文化の時代背景～激動の時代と仏教～」（白鳳フォーラム、於：東大寺総合文化センター、27 年 7 月 25 日）

夏季講座（於：奈良県文化センター、27 年 8 月 18 日～20 日）

公開講座（於：奈良国立博物館講堂、27 年 8 月 8 日、22 日、9 月 5 日、19 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	仏教美術及び奈良を中心とした文化財について展示、調査研究を行う当館にとって、白鳳文化を紹介する本展覧会はそれにふさわしい内容である。 また、展覧会に関する調査研究により得られた知見を展示や刊行物、公開講座等に反映することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧会に関する調査研究を通じて、当館の中期計画である仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を実施することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4543-1-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-2 特別展「第 67 回正倉院展」に関する調査研究（(5)-④）		
【事業概要】　特別展「第 67 回正倉院展」に関する調査研究			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	工芸考古室長　清水　健

【主な成果】

(1) 宝物についての調査・研究

・展覧会に先立ち、宮内庁正倉院事務所の協力により、宝物に関する正確かつ最新の情報を、宝物調書の閲覧、宝物の詳細な写真の提供などによって入手し、展覧会図録や会場の題箋、パネル等に反映させた。
・正倉院、正倉院宝物についての研究成果を、展覧会図録所収の解説、コラム(「宝物寸描」)、3 回の公開講座、及び学術シンポジウムを通じて公表した。また新聞紙面等を通じて、研究員の日頃の研究成果を反映した最新の知見等をコラム、コメントのかたちで披瀝した。
・研究員全員による宝物についての研究会を実施した。
・作業の合間等に、宝物の実見に努めた。

(2) 展示環境についての調査・研究

・文化財の適切な展示環境を考究するため、展覧会の会期中及び前後の詳細な温湿度データ、塵埃のデータを収集し、分析した。
・観覧者の多数集まる展覧会における適切な観覧者への情報提供について考究するため題箋やパネルの大きさ、設置位置、言語、情報の内容等について検討し、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。
・作品の照明について外部専門家と意見を交換して、効果的な照明を会場にて試み、有識者の意見や、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。
・観覧者の多数集まる展覧会における適切な動線の設定について考究するため、展示品やパネル等の配置、展示品への誘導方法について検討し、有識者の意見や、アンケート等を通じて観覧者の発する情報を収集した。

(3) その他、検討会等

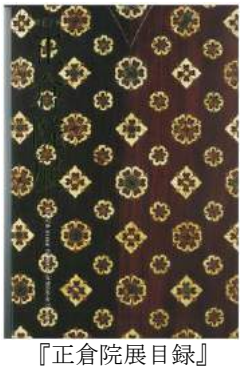
・文化財の安全な梱包・輸送のための検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。
・文化財の安全かつ魅力的な展示についての検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。
・文化財の展示環境についての検討会を、宮内庁正倉院事務所とともに行った。

【備考】

・宝物に関する事前調査　5 回
・内部研究会　2 回
・公開講座　3 回　清水　健「正倉院の仏具とその収納箱」(27 年 11 月 3 日)ほか
・正倉院学術シンポジウム　1 回
・出前授業（京都美術工芸大学）　1 回
・新聞連載(宝物紹介・読売新聞)　5 回
・『平成 27 年　正倉院展目録』(日・英)
奈良国立博物館　27 年 10 月 23 日
日本語篇所収／北澤菜月「撥鏤尺をめぐって」、田澤　梓「海と山の鏡に関する一考察」ほか



正倉院学術シンポジウム 2015
(奈良県新公会堂)



『正倉院展目録』
(日本語篇)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初の計画に基づき、概ね順調に成果を上げている。研究員各自が高い意識をもって宝物の研究に取り組み、展覧会図録等を通じて成果を公表している。27年度より始まった宮内庁正倉院事務所との文化財の安全な梱包・輸送のための検討会、及び文化財の安全かつ魅力的な展示についての検討会は今後継続し、各課題について一層の追究に努めてゆきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に基づき着実に成果を上げている。宝物に関する調査研究は、日々更新される成果を踏まえて着実に前進しており、最新の成果を広く一般に伝えることが達成されている。また宝物の展示環境等に関する研究も進展しており、宝物への負荷や観覧者の不満は年を追って解消されていっている。今後は一層のデータ・情報の収集や、質の高い学術情報の普及が望まれる。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-1-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-3 特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」に関する調査研究（(5)-④）

【事業概要】28 年 4 月 9 日～5 月 22 日を会期として開催を計画している特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に出陳予定の文化財について、高精細デジタルカメラによるカラー画像・近赤外線画像の撮影を伴う予備調査を実施し、その成果に考察を加えつつ展示内容や展覧会図録に反映できるように準備を進める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 信貴山境内において霊宝館・千手院・護摩堂を中心に彫刻・絵画・書跡・工芸･考古部門に分かれて信貴山展出陳候補文化財の予備調査を 5 回実施した。
(2) 彫刻部門を中心に大阪・意満寺所蔵毘沙門天立像について基礎調査及び展覧会図録掲載用の写真撮影を実施。
(3) 絵画部門を中心に信貴山展出陳予定の奈良・安楽寺所蔵融通念仏縁起絵の基礎的調査を実施。
(4) 工芸部門を中心に、彦根城博物館、奈良・談山神社において信貴山展出陳文化財の基礎的調査を実施。
(5) 書跡部門を中心に、国立公文書館、宮内庁書陵部、七ツ寺、叡山文庫、陽明文庫、大覚寺の文書･聖教調査を実施。
(6) 信貴山朝護孫子寺の祭事「毘沙門天王二十八使者守護善神練り行列」の視察とともに信貴山境内の調査を行い、展覧会図録掲載用の写真撮影を行った。
(7) 信貴山縁起絵巻について、高精細デジタルカメラを用いたカラー画像・近赤外線画像の分割撮影、蛍光Ｘ線分析器を用いた顔料調査、透過光による近赤外線写真・顕微鏡写真撮影を伴う詞書文字修正箇所の調査を実施した。



信貴山縁起絵巻詞書の透過光による近赤外線写真撮影風景

【備考】
信貴山展出陳文化財の予備調査　合計 19 回実施
刊行物　特別展図録『国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－』(28 年 4 月 9 日刊行予定)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に出陳予定の文化財について基礎調査を実施し、写真撮影を実施することができた。調査成果を当館客員研究員・調査員とともに学芸部内で検討を重ね、展示及び展覧会図録への掲載に向けて着実に準備を進めた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特別展「国宝 信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に出陳予定の国宝信貴山縁起絵巻について着実に基礎的調査を進めた。特に信貴山縁起絵巻について高精細デジタルカメラを用いたカラー画像・近赤外線画像の分割撮影、蛍光Ｘ線分析器を用いた顔料調査、透過光による近赤外線写真・顕微鏡写真撮影を伴う詞書文字修正箇所の調査等、最新の光学機器を用いた調査を実施し、平安絵巻の名品に関する全く新しい知見を得ることできた。その成果は信貴山展の展示及び展覧会図録において公表する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4543-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究（(5)-④）

【事業概要】
展覧会への借用品及び館蔵・寄託品、また館外の寺社等において所蔵される作品のなかから、南都に伝来した古代・中世の彫刻作品につき、調書を作成し、詳細な記録写真を撮影し、データの収集・蓄積に努める。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　岩田茂樹

【主な成果】
(1) 館内外において多数の作品の調査・撮影を行った。作品名は以下のとおり。
(2) いずれの作品についても、調査の結果、学術的に重要な知見が得られた。
(3) 特別展や名品展における図録の解説や題箋執筆、また公開講座での報告等に新知見を反映させることができ、新たな解説を行うことができた。

［調査対象作品］
法華寺文殊菩薩坐像（27 年 6 月 11・12 日／12 月 2 日）／春光寺薬師如来立像（6 月 17 日）／法隆寺橘夫人念持仏（7 月 9 日）／薬師寺聖観世音菩薩立像（7 月 21 日）／法隆寺観音菩薩立像（8 月 17 日）／法隆寺文殊普賢菩薩立像（8 月 31 日）／信貴山朝護孫子寺毘沙門天立像ほか（8 月 7 日）／興福寺仏頭（8 月 24 日）／薬師寺月光菩薩立像（9 月 9 日）／法輪寺虚空蔵菩薩立像（9 月 14 日）／室生寺二天王立像（10 月 22 日）／室生寺帝釈天坐像（10 月 30 日）／意満寺毘沙門天立像（28 年 1 月 8 日）

［調査の成果］
法華寺文殊菩薩像については、Ｘ線透過撮影の結果、像内納入品の存在が初めて知られた。薬師寺聖観世音菩薩立像・月光菩薩立像は、蛍光Ｘ線調査の結果、現状では肉眼で見えない鍍金の存在が確認された。法隆寺観音菩薩像については、製作工房を同じくする作品の同定が行えた。法隆寺文殊普賢菩薩像については、造像当初の一具の組み合わせにつき、新たな知見が得られた。室生寺二天王立像は、これまで全く知られていなかった平安時代初期（9 世紀）の作であることがわかった。信貴山朝護孫子寺及び意満寺の仏像調査によって、優れた作品の所在が確認され、28 年 4 月開催予定の特別展「信貴山縁起絵巻」に出陳し、公開する。


奈良・法華寺文殊菩薩像 調査風景

【備考】
(1) 調査回数　15 回
(2) 刊行物等　岩田茂樹他「作品研究　法華寺・文殊菩薩坐像」（『鹿園雑集』18 号、28 年 3 月 31 日発行：、同論考において法華寺文殊菩薩坐像の形状・構造・像内納入品の状況等につき詳しく報告し、同像の彫刻史上の意義について論じた。他 1 件
(3) 特別展「開館 120 年記念　白鳳　―花ひらく仏教美術―」の図録解説や題箋解説に成果を反映させた。
(4) 公開講座　岩田茂樹「白鳳の童形仏とその周辺」（27 年 9 月 19 日、於．奈良国立博物館）において、法隆寺観音菩薩像及び文殊普賢菩薩像についての新知見を紹介した。他 1 件
(5) 「室生寺に持国天・増長天像」（日本経済新聞社、27 年 10 月 1 日）など、新聞報道は多数（『白鳳』展会期中に連載など）。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査回数、その成果反映の回数のいずれをとっても26年度を凌駕し、かつその成果を28年度の展覧会へも反映させることができた。Ｘ線透過撮影によって確認された法華寺文殊菩薩坐像の像内納入品や、調査によって新たに発見された室生寺二天王立像など、27年度の調査で得られた知見は、彫刻史上でも大きな意義を持つものである。なお改善点としては、調査の成果を、複数の研究員が学術論文発表できることがより望ましいかと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	南都に伝来した古代・中世の彫刻作品について、継続して調書の作成、記録写真の撮影を行ったことにより、データの収集・蓄積が十分にできた。また、調査・研究から学術的に重要な知見が得られる等、中期計画期間内に大きな成果を得ることができた。なお、改善点は年度計画に対する総合評価の欄に記したものと同様。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵)、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究（(5)-④)

【事業概要】東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づいて、当館が所蔵および保管する仏教絵画を中心とする美術作品について、高精細デジタルカメラや蛍光 X 線分析器など最新の光学機器を用いた文化財調査を実施し、合わせてデジタルコンテンツの作成をおこなうものである。上記の調査を通じて、色料や基底材など作品に用いられる素材の情報や、制作技法に関する情報、補彩・補絹など補修箇所に関する情報を大量・精緻に蓄積し、報告書等でその成果を広く公表することで、美術史的研究や将来の修理に資することも視野に入れている。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 東京文化財研究所で国宝聖徳太子及び天台高僧像の光学的調査成に関する研究会を実施し、その成果報告書の編集方針の確認及び追加調査計画を協議した（27 年 5 月 14 日)。
(2) 聖徳太子及び天台高僧像の奈良博寄託分 7 幅について高精細デジタルカメラを用いたカラー画像・近赤外線画像の追加撮影を実施（27 年 8 月 24～27 日)。調査データに基づく研究会を実施し、報告書の内容について協議を行った。
(3) 透過Ｘ線によるデジタル画像撮影用のアクリルパネルを当館光学調査室に設置し、聖徳太子及び天台高僧像の当館寄託分について透過Ｘ線撮影を実施した（27 年 12 月 24 日)。
(4) 上記の調査で得られた画像データの分析を行い、その成果を盛り込んだ調査報告書第 1 冊（全 3 分冊のうち）を年度内に刊行した。


高精細デジタルカメラを用いた聖徳太子及び天台高僧像の近赤外線画像撮影風景

【備考】
調査回数 2 回（27 年 8 月 24 日～27 日、 12 月 24 日)、調査作品数　1 件（聖徳太子及び天台高僧像 7 幅)
研究会開催件数　2 件(27 年 5 月 14 日、 8 月 26 日)、刊行物　報告書『聖徳太子及び天台高僧像 第 1 冊』28 年 3 月刊行

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	16年度から継続的に実施してきた東京文化財研究所との共同研究「文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究」に基づき、平安仏画を代表する名品である国宝聖徳太子及び天台高僧像について光学的調査の実施及び成果報告書の年度内刊行に向けた編集作業を計画どおり進めることができた。本作品に対する調査で得られた近赤外線画像及び透過Ｘ線画像については28年度において刊行予定の第2冊・第3冊報告書において公表する計画である。これら精度の高い調査データは美術史研究や現在計画中の保存修理に際して重要な基礎資料となることが期待される。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	16年度から協定を結んで進められてきた東京文化財研究所との共同研究に基づき、着実に成果を挙げることができた。27年度は平安仏画を代表する聖徳太子及び天台高僧像の調査報告書刊行に向けて追加の光学的調査及び編集作業を着実に進めることができ、報告書を中期計画最終年度の本年度内に第1冊を刊行した。続く第2冊・第3冊を28年度に刊行予定で編集作業を進めている。東京文化財研究所との共同研究は次期中期計画においても引き続き継続する計画であり、すでに光学的調査を実施した国宝信貴山縁起絵巻について顕微鏡写真撮影等の追加調査を実施し、29～30年度にかけて各年度に1冊ずつ分冊の形で合計3冊の調査成果報告書を刊行する計画である。また今後は、これまでの個々の作品調査や研究から一歩踏み込んで、彩色の施された文化財に関する総合的な研究と情報の共有という広い枠組みの中で検討を重ねることで、更なる進展を図りたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4543-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)伊豆山権現立像（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究（(5)-④）

【事業概要】
仏教美術に関する文化財の調査及び研究の一環として、奈良文化財研究所の協力のもと静岡・伊豆山神社所蔵の銅造伊豆山権現立像に関する自然科学的及び美術史学的研究を行い、その成果を特別陳列「銅造伊豆山権現像修理記念 伊豆山神社の歴史と美術」に反映させる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	列品室員　山口隆介

【主な成果】
(1)25 年度から２箇年にわたって、銅造伊豆山権現立像のＸ線ＣＴスキャン・蛍光Ｘ線分析・Ｘ線回折による材質調査及び劣化調査と、その後のクリーニング及び安定化処置を実施した。また、上記の調査と保存処置を踏まえた検討会を、奈良文化財研究所の担当研究員と実施した(年５回)。
(2)静岡・伊豆山神社にて所蔵品の調査撮影を実施した(27 年８月５日～6 日)
所蔵品の全体像を把握することができ、また実査にもとづく調書の作成及び高精細デジタルカメラによる写真撮影を行うことができた。
(3)大磯町郷土資料館にて神奈川・高来神社所蔵の神像群の調査撮影を実施した(27 年９月４日)
伊豆山権現像の関連作品として重要な高来神社所蔵の神像群について、実査にもとづく調書の作成及び高精細デジタルカメラによる写真撮影を行うことができた。
(4)以上の成果をもとに、特別陳列「銅造伊豆山権現像修理記念 伊豆山神社の歴史と美術」を企画立案し、実施した。また、同展の展覧会図録において、銅造伊豆山権現像の自然科学的及び美術史学的な調査の結果とそこから得られた知見を報告した。さらに、展覧会に出陳した個々の作品について、未紹介の像内銘記を翻刻し、従来の年代観を一部修正するなど、より充実した作品解説と展示題箋を執筆することができた。なお、奈良文化財研究所の協力により、展覧会会場の特設スペースにおいて銅造伊豆山権現像の像内構造を明らかにした３Ｄ映像を放映し、あわせて３Ｄプリンターで作製した模型の展示を行ったことも大変有益であった。


展覧会にかかる事前調査と写真撮影
(27 年８月５日 於熱海市立伊豆山郷土資料館)

【備考】
(1) 27 年度実施した調査の回数：5 回
(2) 論文等：山口隆介「伊豆山をめぐる信仰と美術」(特別陳列図録『銅造伊豆山権現像修理記念 伊豆山神社の歴史と美術』総論　28 年２月５日)、他１件
(3) その他調査・研究の実績等：公開講座「伊豆山権現像の成立と展開－保存修理の知見を踏まえて－」(於奈良国立博物館講堂　28 年２月 13 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	仏教美術に関する文化財の展示活動の中核に据えている当館にとって、これに関連する多彩かつ魅力的な展示の企画立案・実施は、社会的要請がもっとも多い業務のひとつである。こうした認識のもと、過去の特別展で銅造伊豆山権現立像(静岡・伊豆山神社蔵)を拝借したのを契機として、奈良文化財研究所との連携研究で当該作品の保存修理を実施し、その成果を展覧会に結びつけた本プロジェクトは、博物館における調査研究とその成果の公表の理想的なかたちといえる。また、当館内での美術史学的な研究にとどまらず、奈良文化財研究所との連携研究によって自然科学的な視点も踏まえた多角的な調査研究を実現したことにより、最新の成果が広く内外に提示できた点も大変有益であった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別陳列「銅造伊豆山権現像修理記念 伊豆山神社の歴史と美術」の企画立案から実施に至るまでの過程における調査研究は、「文化財に関する調査及び研究の推進」という中期計画に沿うものであり、その点において順調に実績を積み重ねている。28年度以降も将来の企画展示の充実を図るべく、他機関とも積極的に連携しながら、調査研究を継続し、着実な成果を挙げていきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4543-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費補助金）((5)－④)

【事業概要】当館はこれまでに「春日社」や「春日信仰」をテーマにした数々の展覧会を開催してきたが、春日大社の式年造替（27～28 年）及び春日大社創建 1250 年（平成 30 年）を目前に控えたこの時期に、改めてこれを総合的に研究する事業である。各分野の研究員がそれぞれの専門的立場からプロジェクトに参画し、展示に向けた個別遺品の調査に留まらず、類似の遺品全体を系統的に調べ上げ、丹念に情報収集する形で研究を進める。本研究による成果は、近年当館で毎年開催している特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」や、平成 30 年に予定している特別展「創建 1250 年記念　春日大社展（仮）」に反映する計画である。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	部長　内藤　栄

【主な成果】27 年度は、以下に掲げるいくつかのテーマから春日信仰にアプローチした。その成果の一部は、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 御旅所―」（27 年 12 月 8 日～28 年 1 月 17 日）や、各研究員が関わった刊行物、あるいは口頭発表等に反映された。

(1) 春日曼荼羅に関する研究

・27 年 6 月 10 日～16 日に当館研究員 3 名をイギリスへ派遣。現地時間 11 日にはイーストアングリア大学美術館において同館所蔵の春日鹿曼荼羅をはじめとする日本仏画を調査し、翌 12 日には大英博物館において、同館所蔵の春日社寺曼荼羅、春日地蔵曼荼羅等の日本仏画を調査した。

(2) 春日若宮社経及び厨子に関する研究

・根津美術館において、同館所蔵の大般若経厨子を、27 年 4 月 5 日と 28 年 2 月 16 日の 2 度にわたり調査した。

・説話文学会研究会「女院と尼僧の信仰の軌跡―根津美術館蔵『春日若宮大般若経』をめぐって」（27 年 9 月 27 日、会場：根津美術館）に研究員 2 名を派遣した。

(3) 鹿島社・香取社に関する研究

・千葉県立美術館で開催の特別展「香取神宮」（会期：27 年 11 月 17 日～28 年 1 月 17 日）に出陳の文化財を調査した（28 年 1 月 17 日）。

・茨城県立歴史館で開催の特別展「茨城の宝Ⅰ」（会期：28 年 2 月 6 日～3 月 21 日）に出陳の鹿島神宮所蔵の文化財（剣、鞍、神輿、狛犬等）を調査した（28 年 2 月 26 日、3 月 20 日）。

(4) 銅鏡に関する研究

・春日大社末社金龍社神体の禽獣葡萄鏡を 3D 計測した（28 年 3 月 1 日）。

・香取神宮（千葉県香取市）に研究員を派遣し、同神宮所蔵の大型の海獣葡萄鏡を 3D 計測した（28 年 3 月 18 日）。

(5) その他

・昭和 40 年代の発掘調査で当館敷地内の春日塔跡から出土した品を順次、整理し、写真撮影した（年間を通じて）。

・春日大社の依頼を受け、現在式年造替が進む本殿前に安置されていた 8 軀の狛犬を調査し（12 月 1 日、28 年 1 月 20 日）、各像の作られた年代が推定されるに至った。この調査成果は、28 年 3 月 24 日付で新聞各社より報道された。

【備考】科学研究費補助金事業の　3 年計画の 2 年目

論文等：清水健「神仏と人の織りなす造形」(『日本美術全集 11　テーマ巻②　信仰と美術』、小学館、10 月 23 日)　他 6 件　　研究発表等：10 件　　調査及び研究の回数：11 回　　新聞掲載等：6 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展覧事業等の他業務の合間を縫って、数多くの春日信仰関連の遺品を調査することができている。なかでも、銅鏡2面の3D計測や春日大社本殿の狛犬調査は特筆される成果であった。しかし、当初の計画からすると調査の実施回数は少なめであり、海外調査も2回の予定がイギリスへの1回に留まったため左の評定とする。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	プロジェクトは順調に推移し、中期計画に掲げられた「文化財に関する調査及び研究の推進」を順調に達成した。27年度に実行できなかったもう一回の海外での文化財調査は、28年度上半期の実施を予定しているところである。28年度下半期には研究を取りまとめ、報告書の刊行を予定しているため、報告書編集に注力できる体制を早急に整える必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4543-6

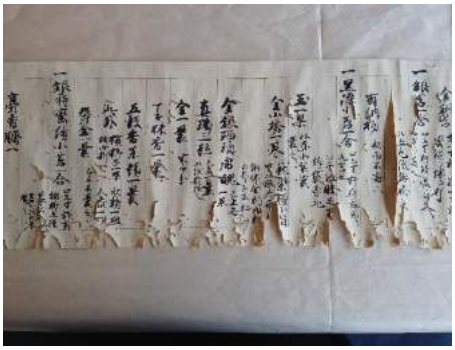
業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	6)真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（学術研究助成基金助成金）((5)-④)		
【事業概要】真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	情報サービス室員　斎木涼子

【主な成果】

(1)・購入した史料・論文集等により、院政期の密教法会に関する新たな知見を得た。また今後調査すべき聖教・文書について検討を行った。

(2)・『醍醐寺文書聖教目録』を確認し、研究テーマに関連し詳細な調査が必要と思われる史料（聖教）を検討した。
・目録よりピックアップした醍醐寺所蔵の聖教の閲覧を醍醐寺に申請し、醍醐寺霊宝館において、担当者立ち会いの下、調査を行った（27 年 8 月 20 日）。



醍醐寺における聖教調査の様子

・醍醐寺における調査により、発表されている一部史料の誤読の訂正ができた。また、未発表聖教の確認・解読を行う事ができた。

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 2 年計画の 1 年目
調査回数：１回
論文：「円宗寺結縁灌頂―御願寺仏事の変転―」『畿内の古代学』Ⅴ、雄山閣、28 年 4 月出版予定
講演：奈良国立博物館サンデートーク「平安時代の密教修法」（27 年 7 月 21 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査日数については、先方の都合等により当初予定より少なくなったものの、満足できる調査結果を得ることができた。また、新たに入手した図書・資料等により、講演・講座の内容をより正確かつ充実したものにすることができた。また、それらの図書・資料により、今後の新たな検討素材などを得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	従来、着目・紹介されることの少なかった寺院聖教の調査を開始することができた。また調査結果、新たな資料の検討結果を反映した成果を公表することができ、28年度以降も引き続き公表予定がある。なお、27年度実施回数が不十分であった調査等については、28年度の実施で十分補えるものである。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-1-1

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)-1　特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究((5)-⑤)		
【事業概要】 近年、中国陝西省内では発掘調査と資料公開が進んだことで、始皇帝及び秦について全面的な見直しをする時期にきているといえる。本研究ではこれら最新の発掘成果を整理し、出土資料から秦のなりたちと始皇帝時代の実像について再検証する。			
【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展主任研究員　市元　塁
【主な成果】 ・27 年 6 月 8 日～13 日に中国陝西省において資料調査を実施した。なかでも宝鶏市においては、北方遊牧文化とのつながりを示す金製品や、楚など南方地区に由来する文化財を調査したことで、秦を取り巻く多元的な社会構造の一端を明らかにすることができた。また、9 月には秦始皇帝博物院において兵馬俑を詳しく調査する機会を得て、これにより、兵馬俑の制作に時期差が存在することや、設計規格においても複数の系統が存在するとの見通しをたてることができた。27 年度までの成果については、展覧会図録『始皇帝と大兵馬俑』(共著)として上梓し、また同題の展覧会を開催した。  陝西省宝鶏市での調査風景			
【備考】 論文等： 図録「特別展　始皇帝と大兵馬俑」　「始皇帝と大兵馬俑　兵馬俑の設計規格とその理念」 図録「特別展　始皇帝と大兵馬俑」　コラム「兵士や軍馬ではない兵馬俑」			

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中国西方の小国であった秦が、統一国家を築くまでの過程を出土資料によって示すことができた。またその成果を展覧会及び図録によって、広く公開することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各地の文化財所蔵機関の全面的な協力、また東京国立博物館との連携を経て、中期計画記載の「アジアを中心に世界等の交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究」という視点に即した特別展にかかる調査を限られた時間のなか、遂行することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-1-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-2　特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】

28 年度に、戦後の日本画、なかでも風景画に大きな足跡を残した文化勲章受章者・東山魁夷（1908-1999 年）の画業を、代表作を通して紹介する。

東山が描き続けた清澄かつ深い情感に富む風景画は、日本人の自然観や心情までも反映する普遍性を有するものとして高く評価され、20 年には「生誕 100 年　東山魁夷展」が、東山作品多数を所蔵する東京国立近代美術館などで開催された。国民的画家として知られる東山の展覧会は、これまで首都圏、関西圏や記念館のある長野県などで開かれることが多く、九州の国公立館として初の本格的東山魁夷展となる。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　臺信祐爾

【主な成果】

(1) 27 年 7 月 21 日に、長野県長野市・長野県立信濃美術館東山魁夷館で開催中の特別展「日展三山」出品作品調査及び担当学芸員との協議を実施した。
27 年 7 月 22 日に千葉県市川市東山魁夷記念館にて展示作品調査を実施した。
27 年 7 月 27 日に奈良県奈良市・唐招提寺にて関係者と協議及び御影堂にて障壁画調査を実施した。
随時、展示に関わる協議を、本展監修者と重ねた。
本展準備のため、28 年 2 月 8 日～11 日に、唐招提寺御影堂障壁画の状態確認と梱包作業を実施した。
(2) 障壁画を実際の配置のまま、自然光で観察し、効果的な照明についての参考となる情報を得ることができた。
(3) 唐招提寺御影堂障壁画の点検作業を通じて、日本の風景を彩色で描く第一期障壁画から、中国の山水を水墨で描く第二期障壁画への画風の展開をよりよく理解することができた。



唐招提寺御影堂内部

【備考】

※作品の調査研究　所蔵機関にて 4 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	東山魁夷が描いた風景画作品の制作の過程及びその背景を、東山が残した大量の文章などに関するさまざまな調査から確認することができた。また東山魁夷の絵画作品研究の第一人者尾崎正明氏（茨城県立近代美術館長）に監修の協力を得ていることから、学術的にも正確かつ高水準な研究成果を、本展の作品選定にも反映させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	20世紀に活躍した現代日本画家であり、戦前のベルリン大学留学経験を含む国際的な視野と活躍を見せた東山魁夷に関する調査研究を実施することで、中期計画に挙げられた「アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う」という観点を実証的に展開することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-1-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)-3　特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開　鳥獣戯画―」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」（28 年 10 月 4 日～11 月 20 日）に関する調査研究。
平安から鎌倉にかけて、京都・高山寺を拠点に活躍した明恵上人に焦点を当て、彼の激動の生涯を彩る様々な作品を展示し、ひいては鎌倉仏教の旺盛な状況を紹介する特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」に向けて、内容について検討するとともに候補作品の出陳交渉を進める。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室研究員　森實　久美子

【主な成果】
・28 年度開催予定の特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」の出陳交渉を進めるとともに、各所蔵者の協力を得ながら展示予定作品の現地調査を実施し、輸送計画及び展示計画の立案に有効なデータを得ることができた。特に 27 年 9 月 20 日～23 日までの 4 日間には高山寺において作品の状態確認も含めて調査を行い、大きな収穫を得た。

【備考】
・主たる出陳者である高山寺と密に連絡交渉を行い、展示内容について相互に意見交換を行った。特に、高山寺における定例の文書調査に加わって調査を行い、詳細な知見を得ることができたことは意義深かった。
・東京国立博物館にて、特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」を調査し、図録からでは確認しにくい細部の観察を行うことができた。
・調査実施先
京都・高山寺、京都国立博物館、奈良国立博物館、山口・神上寺、大阪・久米田寺、国立歴史民俗博物館、京都・仁和寺、大谷大学博物館、天理大学附属天理図書館、大阪歴史博物館、韓国・国立中央博物館ほか



奈良国立博物館における調査風景

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	作品の調査により、出陳作品の精査及び展示計画の立案に有効なデータを得ることができた。準備作業も予定通り進んでおり、28年度の作業計画策定に向けての準備も順調である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「アジアを中心に世界等の交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う」という目標のもと、高山寺の所蔵品や明恵ゆかりの品ばかりでなく、当該期の中国（南宋）や朝鮮半島（高麗）との交流を示す作品についての調査研究も行った。研究成果を展示に反映させることができるよう作品調査を精力的に進め、その調査成果を輸送・展示作業の安全性を高めることにも活かしていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-2

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究((5)－⑤)

【事業概要】
当館がコンセプトに掲げているアジアとの交流について、関係諸国との様々な形での研究活動を進め、これを展覧会や研究報告の形などで示していく。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	課長兼文化交流展室長　河野一隆

【主な成果】
27 年度は開館 10 周年の節目にあたり、特別展「美の国　日本」の開催など当館の原点である「日本文化の形成を、アジア史的観点から捉える。」といった当館基本のコンセプトに立ち返り、第 1 回目の特別展と同じく韓国・中国からの作品の出陳を前提とした調査を実施した。本展で対象とした作品は、中国・揚州市の煬帝墓と韓国・公州市の百済武寧王陵であった。いずれも、日本との深い結び付きをもつ作品で展示効果も高いものである。

(1) 煬帝墓

煬帝は『隋書』倭国伝に「海西の菩薩天子」と記され巡幸先の揚州で不慮の死を遂げた。24 年に建築現場で磚室墓が見つかり、墓誌から煬帝を葬った墓所であることが判明した。数多くの副葬品のうち、対象としたのは 4 点の獅嚙環付金具である。これらは隋代の工芸品の代表格で、隋文化の我が国への影響を考える上でも格好の資料と言える。本品については、27 年 7 月に揚州市文物考古研究所を訪問して遺跡と遺物の実見調査を行った。


煬帝墓の調査

(2) 百済武寧王・王妃陵

百済第 25 代の王である武寧王は、古代日本とのつながりも強く、当館でも 26 年度に開催した「古代日本と百済の交流―大宰府、飛鳥そして公州・扶餘―」でも、墓誌の出陳をはじめとして大きく扱ったものである。1971 年に公州市宋山里古墳群から発見された磚室墓は、武寧王ならびに王妃を葬った墓で、金製の冠飾は王家に相応しい風格を備えたものである。本品については、国立公州博物館と韓国国立中央博物館とに分けて保管されており、それぞれの機関を訪問して調査を行った。

両機関での調査の成果は、特別展「美の国　日本」の展覧会図録及び展示に活用し、両者とも日本では初めての公開であり、大きな話題と反響を得た。

このほか、将来の特別展への布石として、メキシコにおけるビオンボの調査や中国瀋陽故宮博物院の調査を行った。


武寧王陵の冠の調査



特別展「美の国　日本」の展示風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	10周年記念に相応しく、韓国の国宝、中国の一級文物を調査・借用できた。それにより、日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究の計画を充分に達成し、「美の国　日本」の特別展に活用して大きな成果をあげることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画の「世界との交流」という観点から捉えた調査研究として、特別展につながる大きな成果をあげている。また、タイを中心とする東南アジアに加えて、26年度の特別展「古代日本と百済の交流」など、近年、韓国・中国との文化交流に焦点を当てた研究も着実に積み重ねられつつある。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（(5)－⑤）

【事業概要】本研究は、中世～近世初期における対馬宗氏領国の特質を、日本列島の政治史、とりわけ中央政権との関連性のなかで連続的にとらえ、もって日本・朝鮮両国の国境地域に存立する宗氏領国の主体性・従属性のありかたを明らかにしようとするものである。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　荒木和憲

【主な成果】

4月～6月期は、27年度の主たる研究課題である「環玄界灘地域」（九州―対馬―朝鮮）の戦争と平和に関する研究を進めた。なお、当該研究課題に関しては、所属機関変更後も継続的に取り組み、学会報告に結実した（「室町・戦国期の対馬と壱岐―海域の秩序をめぐる政治史」、九州史学会大会日本史部会、12月）。その成果の一部は単著『対馬宗氏の中世史（仮）』（吉川弘文館より刊行予定）に反映させた。

種別	元号	年	月	日	発出	署判	宛名	本文	典拠	刊本
	永禄	7	7	11	仙岩[有馬晴純]		名護屋新三郎・波多津伯耆守・向江対馬守・日高大和守・浪崎右衛門亮[隈崎]・値賀式部大輔	御札被見候、御室[波多真芳]豊州[大友宗麟]に被差遣候節、大小被下置之由に候、殊に尊重最仮名並御字拝領、千秋万歳目出候、従後室被加冠日、御書被持候之条、日地大農此時に候、猶期書可略候、恐々謹言、	松浦拾風土記	北波多村史（通）655
	永禄	7			義調		御つほね[波多真芳]	至松浦慈雲庵御便之時）其御かた堺目御とりみだしのよしうけ給候、如何ニおはしまし候や、尤細々申まいらせべく処に海路ゆへうち過候、御心もとなく申候まゝ、只今飛脚申付候、委御返事待入候、尚かさね＼／申候、すゑかしく、　あまり物ならず候へ共油布	諸家引着109	北波多村史99
	永禄	7			義調？盛円？		御つほね[波多真芳]	其後は海路ゆへ連々申おくれ候、仍其かた堺目とり乱のやう風聞申候間、ふと飛脚申付られ候、いかがおはしまし候や、御心もとなく申候、さだめて程なく静謐申べく候、御悦申まいらせべく候、すゑかしく、　あまりかすかにおはしまし候へ共細一端候、	諸家引着111	北波多村史101
	永禄	8	3	9	義調		日高大膳亮・立石和泉守・立石三河守・保利次郎左衛門尉・秋山源六・内山備前守・井手善左衛門尉・松雲軒	〈瑞泉使仁被渡候時〉岸岳御取乱之由申来候条、態以飛脚申入候、如何御座候哉、尤至松浦雖可申渡候、実否不分明候間、先以申候、此由絡々仁可預御心得候、猶彼使可申候条、閣筆候、恐々謹言、（松雲軒：裏一字几下　白綿布一端）	諸家引着137	
	永禄	8	3	9	盛円		日高大膳亮	至岸岳御取乱之由申来候条、態以飛脚被申渡候、如何御座候哉、早々於松浦雖可被申渡候、実否然々不承候間、先以被申候、此由各江御心得賴存候、委曲彼使可被申候条、不能細筆候、恐々謹言、	諸家引着138	
	永禄	8	4	21	盛円		籠手田左衛門大夫	壱州松浦〇（公＋心）劇之由風聞候条、態以飛脚被申渡候、如何御座候哉、無御心許候、殊隣嶋之事候間、別而無油断被存候、御調儀不及申候、自然相替之儀候者可被仰渡候、猶彼者可申候、恐々謹言、	諸家引着141	
	永禄	8	4	21	義調		松浦肥前守	〈浜口源右衛門尉御便之時〉其後者久令無音候、心外之至候、仍壱州松浦諸乱之由承候、如何御座候哉、兼御心許候、隣嶋之儀之事候之条、可然之様御調略之儀、万端干要候、就者只今飛脚被申付候、猶彼者可申達候条、令省略候、恐々謹言、	諸家引着138	
	永禄※	8	5	1	義純・義貞		有浦四郎左衛門尉嚴御宿所	近年者依不慮之弓箭、連々不申承候、心外之至候、仍後室（真芳）同鎮（波多鎮）于今地御之御立柄、不及是非次第候、於彼御進退者、御寄合中可依御存分事候歟、各被仰談、早速可被遂御本意御調達、可目出候、殊日高甲斐守方・同義田因幡守方（鶴田）・同越前守方、無別儀由候之条、幸之儀候、可有御相談候、猶連綿可申通候之条、先省略候、恐々謹言、	有浦文書187号	松浦党有浦文書　北波多村史105
	永禄	8	6	7	義調		日高甲斐守[善]	〈従松浦松雲軒便之時〉態預御便者候、祝着之至候、今程其境静謐之由候、弥御分別専一候、仍松浦肥前守殿依筋目被仰談候由承候、必於御入国者急度御祝儀可申入候、殊縦筋二端被懸御意候、次花席二枚進入候、誠軽微之至候、委松雲軒可有演説候、恐々謹言、	諸家引着144	

1 / 319

中世壱岐・松浦関係史料データベース

【備考】

学術研究助成基金助成金事業の3年計画の3年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究の期間は25～27年度の3ヵ年であり、27年度が最終年度にあたる。27年度の主たる研究課題は、「環玄界灘地域」（九州―対馬―朝鮮）の戦争と平和の様相を明らかにすることである。4～6月期においては、26年度までに収集した史料の分析を進め、12月の学会報告に結実した。研究の進捗状況は概ね良好である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究は、日本と朝鮮との国境地域に存立する対馬宗氏領国（対馬藩）の具体的様相を明らかにしようとするものであり、中期計画1-4-(5)-⑤「アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う」の趣旨に即したものである。研究の進捗状況は概ね良好である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4) 契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)((5)-⑤)

【事業概要】唐滅亡後の東アジアにあって、中国北方に覇をとなえた遊牧民族国家の契丹（遼）は、唐から中国文化や仏教を継承する一方、契丹文字を創出するなど文化的な自立を示している。契丹による、こうした国家形成における重層性を考えるために、当時の社会構造を視覚的に示す、内蒙古自治区内所在の契丹（遼）壁画墓壁画を、高精細画像で記録・集成し、公開のための環境整備と新しい展示手法を検討する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　臺信祐爾

【主な成果】

(1) 27 年 4 月 19 日～25 日に、臺信祐爾特任研究員、市元塁主任研究員、秋山純子研究員及び京都大学工学部井手亜里研究室関係者 2 名が、内蒙古博物院で遼代耶律弘世壁画墓（1087 年）剥ぎ取り壁画の高精細画像（RGB 及び赤外線画像）を作成するとともに、携帯型蛍光 X 線分析装置を用いての顔料分析を実施した。
27 年 9 月 2 日～26 日に、臺信特任研究員が、内蒙古博物院で 27 年度撮影の高精細画像データベース（壁画作品ごとにデータ処理を加えた高精細画像ファイル）を内蒙古博物院と共有するとともに、現在開発中の博物館展示環境に応用可能な展示用モデル（ビューワー）について協議した。

(2) 上記展示用モデル（ビューワー）について開発を完了した。



遼代壁画墓剥ぎ取り壁画の高精細画像作成の様子



壁画の顔料分析の様子

(3) 本研究のまとめとして、内蒙古博物院の塔拉院長及び杜暁黎研究員を招き、遼代壁画墓研究の現状と、壁画剥ぎ取り及び保存修復の実際について、また京都大学井手亜里教授に高精細画像作成計画策定と安全管理の実際及び高精細画像データ利用の実例について、そして臺信が博物館におけるヴァーチャルな空間の生成及び展示用モデル（ビューワー）開発とデータベースの現状について発表するシンポジウムを 28 年 2 月 27 日に、当館研修室で実施した。

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 3 年目

- 現地調査及び協議　2 回、シンポジウム　1 回
- 27 年 5 月 23 日に、第 2 回京都大学 - ボルドー大学共催シンポジウム第 2 分科会文化財科学において、遼代壁画墓壁画高精細画像作成の現状と博物館展示環境における画像利用の見通しに関する招待講演を、臺信特任研究員がフランス語で担当した。
- 27 年 8 月 25 日～26 日に、文化庁の補助事業「ミャンマー連邦共和国の文化遺産のデジタル保存展示に関する拠点交流事業」の一部として、ヤンゴン大学化学部で実施された文化遺産デジタル化セミナーで、遼代壁画墓高精細画像作成の現状と博物館展示環境における画像利用の今後の見通しに関する招待講演を、臺信特任研究員が英語で担当した。

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	壁画墓内部空間をヴァーチャルに再現することによって、来館者が現存壁画の原位置を確認し、高精細画像を呼び出して細部まで観察できる展示用モデル（ビューワー）を作成した。耶律弘世壁画墓発掘関連の情報は、内蒙古博物院から提供を受けており、その正確性は群を抜いている。博物館の来館者にも高精細画像を見てもらうことで、最新の研究成果の一端を広く公開する契機となる、独創的な取り組みといえる。調査時の壁画の状態を正確に記録することで、将来起こりうる状態変化を確認したり修理計画を前もって準備できることなどが期待されている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館が、内蒙古博物院をはじめとする内蒙古自治区の研究機関と長期間にわたって培ってきた信頼関係があってこその研究であった。高精細画像を生成･収集し展示に活用するという当初の目標が充分に達成された。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-5

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)水中遺跡の保存・活用に関する調査研究（文化庁受託事業）((5)-⑤)

【事業概要】我が国は、海外との交流によって歴史文化を育んできた。この直接の担い手が船であるが、近年、長崎県鷹島神崎の海底遺跡から沈没した元寇船が発見されるなど、海中には多くの船体や遺跡が存在すると思われる。こうした水中遺跡は、海外との交流を語る貴重な文化遺産であるが、水中という特殊な立地条件にあるため、その調査や保存活用の手法が確立されていない。そこで水中遺跡の保存活用について国内外の取組みについて調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【主な成果】

(1) 諸外国の水中遺跡に関する取り組みを調査するため、フランスの国立水中考古学研究所（27 年 5 月）、アメリカで水中文化遺産のマネージメントを行っているアメリカ合衆国国立公園局、他４ヵ所（27 年 8 月と 28 年 1 月）、韓国の国立海洋文化財研究所から水中発掘課長の招聘（27 年 5 月）及び韓国において現地調査（28 年 3 月）を実施した。これらの調査を通して各国の水中文化遺産に関する先進的な取組みについて学び、日本でも同様の取り組みを応用する可能性を探ることができた。

(2) 漁師など市民による情報の提供から水中遺跡のおよその範囲の確定に至るプロセスを検証するため、27 年 10 月 1 日～10 日に福岡県新宮町相島、また 27 年 10 月 21 日～30 日に沖縄県宮古郡多良間村において音波探査装置や水中ロボットを使用して遺跡発見のための探査を行い、海底の遺物を確認した。得られたデータをもとに、遺物の広がる範囲の確定を行うことができた。地元の小・中学校で調査の様子と水中文化遺産保護の重要性などについてプレゼンを行い、また、新聞やテレビなどにも広く取り上げられた。

(3) 水中遺跡から引き揚げられた遺物の展示手法や水中遺跡の活用を検討するため、海外の博物館や国内の水中遺跡や遺物の展示が行われている博物館などの現地調査を実施した。特にフランスやアメリカで発掘が行われた船やその遺物の展示を視察し、担当者などとの面談を通して効果的な展示方法を学ぶことができた。また、国内では神奈川県・宮城県・和歌山県などで海事文化遺産の活用方法を視察・検証した。

(4) 地方自治体で行う水中文化遺産の保護と活用の取組みを支援するため、26 年度調査を行った鹿児島県奄美大島の倉木崎海底遺跡について 27 年 8 月 28 日～29 日に現地でシンポジウムと遺跡説明会を実施した。27 年 11 月 30 日に沖縄県多良間村において 27 年度行われた調査の完了報告を村民向けに行った。また、26 年度から引き続き長崎県松浦市の鷹島海底遺跡において遺物の保存・活用方法や遺跡の現位置保存について検討と助言を行っている。

(5) 受託事業の中間報告と 27 年度事業報告書の執筆、及び 28 年度の調査・研究対象を特定するため、諸外国の水中文化遺産のマネージメント形式や法律、日本近海の海難・海事資料、日本の水中遺跡の現状などに関する資料の収集を行った。



多良間沖海底で発見された金属製の箱
（10 月　水中ロボットで撮影）

【備考】
文化庁の取り組み：水中遺跡調査検討委員会会議(3 回)、文化財担当員協力者会議(1 回)、研究会(6 回)
調査件数　計 12 回（海外調査 4 回、国内水中遺跡探査 2 回、国内水中遺跡の展示・活用事例調査 6 回）
発表件数　3 件（鹿児島県宇検村倉木崎海底遺跡シンポジウム、沖縄県多良間村調査成果発表会、他）
報告件数　1 件『水中遺跡の保存活用に関する調査研究 3』（文化庁事業報告書）
取材　　15 件 新聞（読売・朝日・西日本 他）・テレビ 4 局（NHK・RKB 他）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度計画していた研究や課題について予定通り実施することができた。特にアメリカの訪問を通して今後の日本の水中文化遺産の取り組みについて取り入れることが可能な具体的な例を学ぶことができた。また、メディアからも想定以上に多くの取材依頼を受けた。28年度は、イタリアや中国などを訪問、調査も引き続き進めていく予定である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は、当事業の中間年度であり、これまでの基礎的な情報の集積から今後の具体的な方向性を示す調査研究へと移行していくために十分な成果を得た。28年度からは、これまでの調査で得られた結果をもとに、日本の水中文化遺産保護の取り組みを決定していくための詳細な情報の分析と、これまでに示された課題を克服していくための調査・研究が必要となる。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-6

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6) 平成 20 年度に開催した特別展「工芸のいま　伝統と創造」の成果を基礎とした、九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究((5)－⑤)

【事業概要】
九州・沖縄における伝統工芸作家の創作活動についての継続的調査研究である。無形文化財としての伝統技術と、そこから生まれる新たな創作について、それぞれの作家の取り組みを調査する。これまで調査を行ってきた作家の調査を継続するとともに、新たな作家を調査対象に加えていく。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田あゆみ

【主な成果】
(1)27 年 5 月 27 日に第 50 回記念西部伝統工芸展の作品を調査し、情報収集を実施した。27 年は 50 回記念であり、現代作家の作品とあわせて伝統工芸各分野の名品も同時に紹介され、伝統工芸の伝承と新しい取り組みについて取材するよい機会を得た。
(2)27 年 5 月 31 日に久留米絣人間国宝・松枝玉記生誕 110 周年講演会に参加し、併せて九州の染織作家の活動について情報収集を実施した。
(3)27 年 10 月 11 日に福岡県久留米絣の普及活動について取材し、情報収集を実施した。
(4)27 年 11 月 5 日に沖縄県立博物館・美術館において開催された展覧会資料を調査し、那覇市首里の紅型制作について情報収集を実施した。同日、琉球芭蕉紙の鈴木芭蕉布工房、NPO 法人沖縄県工芸産業協働センター、琉球漆工藝舎等の作家から現在の活動についての取材を行った。
(5)27 年 12 月 6 日に沖縄県大宜味村喜如嘉の芭蕉布制作について人間国宝・平良敏子氏の記録映画会及び講演会（沖縄 県立博物館・美術館）に参加し、情報収集を実施した。同日、琉球漆器の老舗「紅房（べんぼう）」出身の作家が開催した展覧会にて、琉球漆器技術の保存と新たな創造について調査を行った。紅房は漆器工業組合(昭和 6 年～18 年)を引き継ぐ形で昭和 23 年、株式会社紅房としてスタートし、県外からのデザイナーを迎え新しい琉球漆器のスタイルを確立したが、現代生活の中に漆器を使う機会が少なくなったことに加え、長引く不況で 13 年に惜しまれながらも廃業した。
(6)27 年 12 月 19 日に福岡県大牟田市倉永に所在する日本刀製作・研磨工房の「四郎國光（しろうくにみつ）」にて、刀剣の製作と研磨について調査を行った。「四郎國光」は、天明 6 年（1786）創業の九州を代表する刀剣工房であり、伝統工芸の伝承について情報収集を行った。また、時代の変化に柔軟に対応した職掌の変化についても多くの知見が得られた。
(7)28 年 1 月 8 日に「有田焼創業 400 年記念十三代今右衛門×十四代柿右衛門展」のギャラリートークに参加し、今右衛門窯及び柿右衛門窯の活動について情報収集を行った。


「四郎國光」工房外観

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新たな作家を対象に新規の調査を実施することができた。また、伝統工芸と産業化の問題、後継者の育成に係る課題などの状況を理解することができた。調査対象を広げるだけでなく分野横断型の情報共有と情報整理が課題である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初目標は達している。将来、本プロジェクトを展覧会につなげ、九州沖縄の伝統工芸の活性化のための一助とするために、伝統工芸作家及び作家が属する団体との信頼関係を深め、主体的に本プロジェクトに関わってもらうよう調査活動を継続する。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（(5)-⑤）

【事業概要】本研究は美術史的視点に立脚して、13～18 世紀のタイにおける異文化の受容とその展開を探り、文化交流の実相を浮かび上がらせることを目的とする。タイにおける異文化の受容と変容を明らかにするために、交易品に着目してその関係資料を横断的に調査する。これまでに知られていた資料の理解を深め、新出資料も加えた基礎資料集成を行うとともに、それぞれの資料について正しい評価を行う。これにより、タイ王国芸術局と情報共有し、資料の活用を進めるものである。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田あゆみ

【主な成果】

27 年はこれまでの調査研究を報告書にまとめるため､以下のことに注力した。

(1)　26 年度に開催した調査研究の中間報告セミナーの内容をまとめ、タイ国側と情報共有するため英訳を行った。本研究はタイ芸術局と協力し進めてきたもので、両者で情報を補完することにより、各種文化財についての認識を改める機会となった。

(2)対外交易品としてインド更紗・ヨーロッパ更紗に着目し、タイと日本に伝わった更紗を比較検討することで、それぞれの流通と受容の傾向について理解を深めることができた。本研究の成果は報告書として公開した（28 年 3 月 31 日発行）ほか、大谷大学博物館における公開講座（28 年 3 月 17 日）を通して広く普及することができた。

(3)本研究の成果は、27 年度科学研究費補助金「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合的研究」にも有効に活用されている。



成果報告書に掲載した九博所蔵端物切本帳

【備考】

科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 4 年目

論文等：原田あゆみ「タイの弥勒菩薩像－仏教説話にあらわされた弥勒の功徳－」報告書『タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－』(28 年 3 月 31 日)

発表等：原田あゆみ「大谷大学所蔵パーリ語貝葉写本の包裂について」大谷大学真宗総合研究所主催 公開講演会「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」(28 年 3 月 17 日)

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初は、研究期間を24年度から26年度の3年間と設定していたが、日本学術振興会に研究期間の延長を申請し、承認された。そのため、27年はこれまで収集してきたデータの整理に注力し、研究成果の公開に努めた。本研究はタイ芸術局との信頼関係の下に進められ、情報公開や意見交換を行うなど相互補完的に研究成果を蓄積することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に対する進捗状況はほぼ順調である。本研究成果を、27年度新たに採用された科学研究費補助金「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合的研究」の調査研究に継続させた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8)トピック展示「有田焼創業 400 年記念展　旧家の生活を彩った器―古伊万里―」に関する調査研究((5)-⑤)

【事業概要】
江戸時代初期に日本初の磁器として誕生し、世界を魅了した有田焼は、28 年（2016 年）に創業 400 年を迎える。本展覧会はこれを記念して 28 年度に開催するトピック展示である。有田焼は創業からまもなくして海外輸出されたことにより、国内向けと海外向けの製品が受容層それぞれの文化や生活の違いに応じて誕生し、別々に、ときには影響し合いながら様式展開していった。本展覧会では、公家、大名家、豪商など国内の旧家ゆかりの作品と、欧州の城館や宮殿を彩った名品を紹介し、国内と海外それぞれの生活を彩った古伊万里の特徴や魅力の違いに注目する。特に国内向け製品については、全国各地への流通に着目し、地域ごとの製品の伝播や需要の違いについて、貴重な伝来品や古文書、出土資料の展示を通して紹介する。江戸時代に日本と世界を舞台に花開いた有田焼の大いなる魅力に迫る。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　酒井田　千明

【主な成果】

(1) これまで、古伊万里の伝来品では、公家では京都・冷泉家、大名家では仙台・伊達家や佐賀・鍋島家等、豪商では酒田・本間家や須坂・田中本家等で調査研究を実施した。
(2) 流通については、北前船による日本海航路、最上川舟運、阿武隈川舟運、奥州街道、大笹街道等に関する調査を実施し、資料を収集した。
(3) 生産者に関わる資料として、有田の金ケ江家文書、酒井田家文書、陶器商に関わる資料として伊万里・前川家文書の調査を実施した。
(4) 出土資料については、京都・公家屋敷跡、江戸・大名家屋敷跡の資料の調査を実施した。



冷泉家伝来古伊万里　18 世紀　冷泉家時雨亭文庫所蔵



伊達家伝来古伊万里　17～18 世紀　仙台市博物館所蔵

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査は計画どおり順調に進んでいる。28年度は、秋の展覧会開催に向けて調査を継続し、展覧会の展示と図録の刊行においてその成果を公表する。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「アジアを中心に世界等の交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究」を実施し、進捗状況は順調である。本研究の成果を28年度秋の展覧会とその図録に公表し、今後も本研究テーマの継続的かつ長期的な調査研究を行っていきたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4554-9

業務実績書

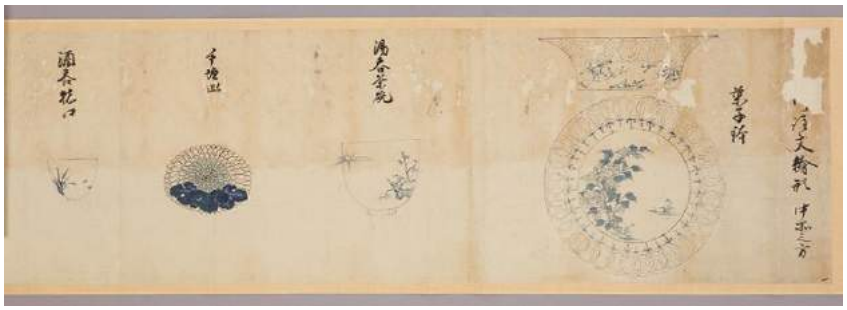
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	9)酒井田家文書にみる大名家からの御注文品に関する研究（公益信託　西田記念東洋陶磁史研究助成基金）((5)-⑤)

【事業概要】
江戸時代より肥前（現佐賀県）・有田で窯業を営む、柿右衛門窯の当主酒井田家には 70 件を超える文書（以下酒井田家文書）が伝わる。その内容は佐賀藩からの注文の指示や陶磁器商人からの注文書、あるいは窯の運営に関する証文等多岐に亘る。これらは酒井田家の動向に限らず、江戸時代の窯業地有田の様子を示す歴史資料としても貴重なものである。本研究では皿山代官を通じて指示のあった佐賀藩主鍋島家及び将軍家に調進した品物の注文書や他の大名家からの注文書に着目し、御注文品の実態について明らかにすることを目標としている。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　酒井田　千明

【主な成果】

(1)酒井田家の承諾を得て、酒井田家文書 74 件を一括資料として九州国立博物館でお預かりし、状態確認と目録作成を実施した。
(2)全件の写真撮影を実施した。
(3)研究計画に沿って御注文書の解読を進めた。



酒井田家文書　御注文絵形　19 世紀

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は文書全件の目録作成と写真撮影を主に実施し、研究計画に沿って御注文書の解読を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「アジアを中心に世界等の交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究」を実施し、進捗状況は順調である。今後も本研究テーマの継続的かつ長期的な調査研究を行っていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-10

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	10）出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）((5)-⑤)

【事業概要】
本研究は、世界各地に伝存する中国・明時代の彫漆器のうち、特に在銘・出土遺品の調査を通じてその様式や特質を明らかにし、いまだ判別の難しい明代彫漆器の制作地や編年を正しく捉えることを目的とする。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	資料登録室主任研究員　川畑憲子

【主な成果】
27 年度は、計画していた調査を進めて調査データを整理し、28 年度に向けて新たな検討課題について考察を進めることに努めた。

具体的には、国内外に所蔵される明代彫漆器及び関連作品について、さらに広範囲に、作品調査を行った。
27 年度、調査に訪れたおもな所蔵先は、上海博物館、浙江省博物館、安吉博物館、個人（東京）、個人（京都）などである。調査では、明代彫漆器のみならず、宋代、元代などの彫漆器も合わせて調査することができ、当初の計画よりも多くの貴重な作例データを集積することができた。さらには、調査データをもとに国内外の研究者と議論を交わし、研究を深めることができた。
また、文献資料をあらためて博捜し、他の遺物や他の出土事例とも合わせて検討し、彫漆器の制作地及び制作年代について、これまでの定説を再検討することができた。



牡丹堆朱香合（上海博物館）

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 1 年目
調査回数　　国内 2 ヵ所　海外 3 ヵ所
収集資料数　漆器ほか　約 200 点

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画通りに研究を進めることができ、28 年度の総括に向けて、調査データを整理し、新たな検討課題について考察を進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における、「アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究」を達成することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4554-11

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	11）日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合的研究（科学研究費補助金）((5)-⑤)

【事業概要】
日本とタイとの関係は深く、先学が示したさまざまな史料が両国の長い歴史を裏付けている。
これまでタイにおいて美術品を中心とした交易資料の調査を行い、併行して日本関係資料の発掘にも力を注いできた。本研究は、これまで知られてきた史料を、新出の交易・文化交流資料から見直し、日本とタイにおける文化交流の実相を再構築することを目的とする。また、これまで続けてきたタイにおける日本美術、日本におけるタイ美術の悉皆調査を継続させ、資料そのものに関する正しい評価を行い、共有できるデータベースを公開することで、これまで埋もれていた資料の活用を図る。さらに、本研究の成果を、29 年の日タイ修好 130 周年記念特別展において紹介するなど、日タイ文化交流の進展に資することを最終目的とする。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	特別展室長　原田　あゆみ

【主な成果】
本研究は、九州国立博物館が中心となり、日本各地の研究機関、タイ文化省芸術局、研究協力者と連携して調査研究を行っている。

(1)　国内の調査では、各地の博物館に関係資料に関する情報提供を依頼し、情報蒐集に努めている。
27 年 9 月 22 日～23 日に九州国立博物館および柳川・立花家史料館においてタイ関係資料の調査を日タイ合同で行った。

(2)　27 年 11 月 22 日～23 日に静岡大学、静岡市教育委員会の協力を得て、静岡・浅間神社において、山田長政資料の調査、研究会を行った。現地調査の実施により、浅間神社および静岡市文化財資料館の資料について、29 年の日タイ修好 130 周年記念特別展への出陳を検討した。

(3)　平戸におけるタイ関係資料の調査を 28 年 2 月 3 日に、松浦史料博物館、是心寺、最教寺霊宝館で行った。

(4)　本プロジェクトチームの調査により、タイにおいて日本刀は、その束や鞘を美しく装飾し上層位の持物として伝わっただけではなく、交易品としての日本刀が、タイ社会において深く受容され、権威の象徴としての「日本刀」が新たに創造されていたことが明らかになった。27 年 11 月 17 日、18 日にスミソニアン博物館において、タイ王室から海外に贈られたとされる日本刀の調査を行い、タイにおいて日本刀が受容され、新しい意義付けがなされていたことについて検討した。



大谷大学貝葉写本の包裂と同じタイ更紗（バンコク国立博物館蔵）

(5)　28 年 1 月 18 日～19 日、バンコク国立博物館において、タイにおける日本美術に関する調査を行った。タイ側協力者と合同で調査について報告し、情報の共有化を図った。また、27 年度における調査研究の問題点や課題を洗い出し、28 年度の調査について対処体制を整えた。

(6)　タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）の調査研究成果を本研究に継続させることができた。

【備考】
科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目
研究会等実施回数：2 回
国内調査実施回数：4 回（静岡、平戸、福岡）
海外調査実施回数：3 回（タイ、ベトナム、アメリカ）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究はタイ芸術局との信頼関係の下に進められ、情報公開や意見交換を行うなど相互補完的に研究成果を蓄積することができている。27年度は、タイ側の人事異動に伴う、人的・時間的制約の中で、静岡市や柳川市との協力を得て効率的に共同調査を行えた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度も、予定していた国内・海外調査をほぼ行うことができた。国内外の協力者および協力機関は本事業に対して協力的で、両者の信頼関係は良好に築かれているため、28年度にかけて順調に調査研究を進めることが可能である。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4561-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)博物館の環境保存に関する研究((5)－⑥)

【事業概要】東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し、今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　高橋裕次

【主な成果】

26 年度に引き続き、展示環境に関する調査研究の内、展示ケース内の湿度環境について特殊な要件を実現するための手法に関する研究と現存の照明器具(蛍光灯、ハロゲンランプ)及び次世代型照明器具(LED、OLED)の比較評価と、次世代型照明器具を効果的かつ安全に導入するための研究を中心に実施した。具体的な成果は下記のとおり。

(1)平成館考古展示室の改修に伴い、窒素封入方式による低酸素濃度維持機能をもつ展示ケースを新規に製作し、酸素濃度のモニタリング機能等を強化したことで、展示室開館時に十分な低酸素濃度環境を維持する状況を実現できた(27 年 10 月)。

(2)平成館考古展示室の壁面ケースについて、新たに調湿機能を付加し、調湿剤交換等のメンテナンス性も向上したケースを実現した。従来よりも安定した温湿度環境を実現できた(27 年 10 月)。

(3)法隆寺宝物館の改修に伴い、太子絵伝の展示ケースへ設置する LED 照明器具の検証実験を実施し、輝度計測等による客観的な評価による照明器具の選択手法の確立を進めることができた(27 年 10 月)。

(4)第 34 回日本展示学会研究大会東京大会にて「展示ケース内蔵型下部照明器具の開発事例と評価」として研究成果発表を実施した(27 年 6 月 21 日)。

(5)文化財保存修復学会第 37 回大会にて「OLED を用いた展示照明」として研究成果発表を実施した(27 年 6 月 27 日)

(6)文化財保存修復学会第 37 回大会にて「歴史的建造物における展示環境改善の取り組み-風除室の効果の検証-」として研究成果発表を実施した(27 年 6 月 27 日)

(7)2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良にて「博物館展示に用いる OLED 照明器具の開発」として研究成果発表を実施した(27 年 8 月 27・28 日)

(8)2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良にて「博物館における温湿度環境の評価方法とその活用」として研究成果発表を実施した(27 年 8 月 27・28 日)



法隆寺宝物館における展示照明実験

【備考】
学会発表：5 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	特に、博物館用照明器具に関しては次々と新規の製品が市場に出ている。また、国内的には蛍光灯からLED他への移行が今後急速に進むという状況から、博物館用照明器具に関する研究は急務であると考えている。そのような背景において、上記成果を比較的短期間で積み上げた点については高い評価を与えられるべきものと考えている。また、幾度の展示室改修を通して、展示環境の安全性を構築するための理論を十分に蓄積できたものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究」に沿った調査研究を継続的に実施し、その成果を東京国立博物館における実際の環境の向上に結びつけることができた。さらに成果についても積極的に学会他で公開しており、社会的にも十分に貢献できたものと考える。こうした基盤的研究を軸として、本館他の大規模な改修計画をより理想的に実施できるように発展させたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4561-2

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2) 被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金　研究代表者：筑波大学　松井敏也)((5)-⑥)

【事業概要】研究全体を通して、被災資料の情報収集調査、施設の空気室調査、資料汚染ガス調査、汚染空気室の改質調査研究を実施する。被災資料の情報収集調査として、災害発生時の取り扱いに関して災害対策プログラムに関する資料収集などを国内外で実施する。また、研究成果を関連学会等で公表する。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課環境保存室長　和田浩

【主な成果】

(1)福島県の被災資料収蔵施設の現状について調査を実施し、直面する課題等について協議を実施した(27 年 6 月 25 日)。

(2)研究分担者による進捗状況の報告会を開催し現在直面する課題、今後の展開についての協議を行った(27 年 6 月 26 日)。

(3)日本包装学会において、梱包資材に関する研究発表を行い、会場にて各資材から放散するガス成分に関する研究を実施している研究者との情報交換も行い今後の研究展開に有益な情報を得た(27 年 7 月 2 日)。

(4)国際シンポジウム「2015 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Nara」において研究チーム全体の成果発表を行った(27 年 8 月 28 日)。

(5)国立民族学博物館にて公開フォーラム「世界の博物館 2015」に参加し、園田直子教授、日高真吾准教授と、特に発展途上国における博物館の防災を含めた環境保存や取組みに関しての協議及び情報収集を行い、今後の研究展開に有益な情報を得た(27 年 11 月 3 日)。

(6)「人と防災未来センター」にて 1995 年に発生した阪神淡路大震災の記録及び記録の公開手法に関する調査を実施し今後の研究展開に有益な情報を得た(27 年 11 月 6 日)

(7)神戸大学震災文庫に保管されている阪神淡路大震災関連の文献の調査を実施し今後の研究展開に有益な情報を得た(27 年 11 月 13 日)。

(8)立命館大学歴史都市防災研究所にて京都市内における防災体制の確立に向けた取組みに関しての調査を実施し今後の研究展開に有益な情報を得た(27 年 11 月 19 日)。

(9)大阪大学石塚裕子特任助教と被災博物館を含む震災遺構の活用手法に関して協議を行い、今後の研究展開に有益な情報を得た (27 年 11 月 29 日)。

(10)ドレスデン美術館(ドイツ)において博物館のリスクマネジメントを担当する研究者と協議を行い、ドイツにおける博物館の防災、減災に関する最新の情報と研究動向を得ることができた(28 年 2 月 3 日)。



福島県の被災文化財一時保管施設における調査

【備考】

・科学研究費補助金事業の 5 年計画の 2 年目

・学会発表：「Development of deterioration prediction diagnosis using Acoustic Emission」Toshiya Matsui (No,2)、Yosuke Atomi 2 Authors(2015 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Nara、pp.102-103、27.8.28､奈良春日野国際フォーラム甍) 他 1 件

・調査回数：9 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各施設への聞き取り調査によって「汚染ガス」を指標の一つとして捉えた上で、被災博物館等の施設及び被災資料の評価手法を確立しようという試みは世界的にも類を見ない切り口を持つものであることが分かった。また、被災前の対処として、地域全体での避難先共有化や日常的に遠隔地に収蔵庫を設置するなどの防災体制等、今後の国内における防災体制を考える上での重要な実例を収集することができ、順調といえる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究」に沿った調査研究を継続的に実施し、特に国内外の施設調査によって得た知見を基に、博物館の防災、減災に関する研究を進め、現場レベルへ具体的に応用可能な環境管理手法を導き出す方向性を確立することができたと考える。また、現状では専門家に対する情報公開等は進んでいるが、一般向けの普及活動等がやや手薄になっている。28年度以降ではそうした取組みを強化したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4562-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
プロジェクト名称	1)修復文化財に関する資料収集及び調査研究((5)-⑥)		
【事業概要】文化財保存修理所で実施されている修復・模写文化財の資料収集及び調査研究			
【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原　嘉豊

【主な成果】

(1)情報の収集と調査

・27 年度、文化財保存修理所の工房に搬入された新規の修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理計画書」に基づき、113 件のデータを収集し、「修復文化財データベース」に登録した。

・京都国立博物館研究員により 11 回行った修理工房の巡回のほか、適宜、修理技術者とともに実施した調査を通じ、文化財の構造や使用材料、内部納入品・銘文調査など、修理中にのみ得られる情報を収集、分析した。

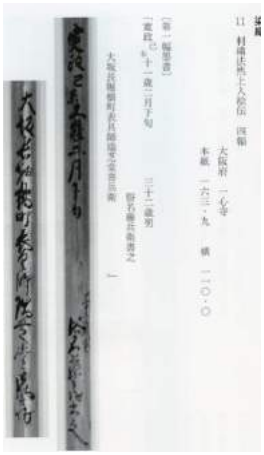
(2)情報の整理

・26 年度に修理が完了し、搬出を終えた修復文化財に関して、修理工房より提出された「修理解説書（報告書)」に基づき、1,378 件のデータを「修復文化財データベース」上で更新し、整理作業を行った。

(3)情報の共有

・24 年度に修理が完成した文化財 93 件に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告集』第 13 号(28 年 2 月 29 日発行)に掲載した。

・修理時の調査により発見された銘文 12 件を「銘文集成」として同書に報告した。



「修理報告書」13 銘文集成（部分）

【備考】

(1)データ収集件数　113 件
　巡回回数　11 回

(2)データベースの追加更新件数　1,378 件

(3)報告書　1 冊（修理報告 93 件、銘文報告 12 件を含む）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存修理所で行われる修復文化財情報の収集・整理については、データのデジタル化処理方法等、将来的な情報の応用に対する発展性を見据えて継続的に実施してきた事業であり、効率性・正確性を担保しつつ順調に実施されている。『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告集』第13号は、28年2月に刊行し、諸研究機関に送付を済ませている。28年度計画も27年度に準じて実施するが、得られた知見を元にした研究の活性化が望まれる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、法人化以前から継続してきた事業であり、中期計画でもその重要性に鑑みて継続性を重視している。文化財保存修理所に搬入される修復文化財の多寡は他律的条件であるため定量的評価になじまないものであるが、ほぼ安定した件数で推移しており、所期の目標は順調に達成している。今後の最大の改善点としては、一時期停頓していた『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』の刊行速度を速め、修復次年度に報告刊行という速やかな情報公開を実現することにある。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4562-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）文化財の保存・修復ならびに復元模写に関する調査研究((5)-⑥)

【事業概要】
修理を実施している文化財について、その保存修復に関する調査研究を修理事業者と協力して行い、また、復元模写事業を行うことで文化財の保全と公開に役立てる。あわせて、調査研究の過程で得ることのできた貴重な情報を蓄積し、学術的な利用のみならず、最適な修理方針の策定など、今後の保存修復事業にも活用する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　大原　嘉豊

【主な成果】
(1) 博物館が実施した社寺調査事業の一環として行われた知恩寺阿弥陀堂阿弥陀如来立像の総合的調査において、胎内から発見された納入品のうち、7 月に巻子の展開を修理業者（光影堂）に依頼した。それが「紙本金字阿弥陀経」と判明したが、虫喰が甚大なため展開の方法や今後の本格修復の在り方について種々の課題を検討した。
(2) 博物館と模写修理事業者（六法美術）とによって、当館館蔵扇面貼交屏風のうち「山水図」の復元模写を実施し、紙質調査と技法調査を行った。
(3) 国宝「釈迦金棺出現図」について、27 年 12 月に博物館と模写修理事業者（六法美術）に京都工芸繊維大学佐々木良子当館調査員を加えて、蛍光Ｘ線分析装置と分光分析装置による顔料調査が行われた。



修理事業者による復元模写

【備考】
・調査項目　3 項目
（知恩寺阿弥陀堂阿弥陀如来立像胎内納入品…虫損紙本文化財の修復方針の在り方、扇面貼交屏風…紙質・技法、国宝「釈迦金棺出現図」…顔料）
・外部資金の導入
知恩寺阿弥陀堂阿弥陀如来立像胎内納入品…京都大学大学院人間・環境学研究科協力講座研究経費、「山水図」復元模写…清風会研究支援経費、釈迦金棺出現図…メトロポリタン東洋美術研究センター助成金（大原嘉豊研究代表）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度事業の最大の特色は、屏風に貼り込まれた扇面画をもとの扇面に再現するという理念をもとに復元模写事業を行うことで技法の問題に取り組んだことにあり、独創性について自負がある。これに限らず、将来的に館蔵品以外の文化財修理に関しても応用することのできる発展性を意識した研究を蓄積している。また、外部資金を導入して研究の活性化を図っているが、特に館蔵以外の寄託品を含めた文化財についてはこの種の措置の必要性が高く、今後も継続を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修理事業者を含めて綿密な調査、検討を重ね、文化財の保存と公開のため、参考となる情報を蓄積するなど、順調に成果を上げている。積極性という点では27年度からは顕著な改善を図っており、復元模写という新規事業は、作品観察の視点を広げることから若手研究員に主体的参加を求めており、かつ一般の観覧にも資する所が大きい点から、今後も定期的に行うべく28年度以降の計画に反映させるようにしている。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4563-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究((5)-⑥)

【事業概要】館内施設（展示室・展示ケース・収蔵庫等）の環境が文化財に与える影響の調査・分析を目的とする。主に次の 3 点の調査を継続的に実施した。蓄積されたデータの分析と情報共有を行うことで保存環境の向上を計った。
(1)　温湿度センサーを用いた館内施設の温湿度調査
(2)　展示ケース内に浮遊する塵埃調査（電子顕微鏡を用いた塵埃の観察）
(3)　文化財害虫トラップの設置及び回収

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】
(1)　展示室・展示ケース各所に無線機能付き温湿度センサーを設置した。24 時間リアルタイムモニタリングによる温湿度データの蓄積を行い、展覧会ごとの報告書へ整理した。また、収蔵庫については、温湿度データロガーやデジタル温湿度計を用いて、定期的なモニタリングと温湿度データ回収を実施した。これらの調査から得たデータを分析し、展示や保管時の文化財環境の保持や改善につなげている。
(2)　正倉院展の終了後、展示ケース内から塵埃を回収し電子顕微鏡による観察を行った。観察結果を基に、単位面積当たりの塵埃量を測定し気密性に関する調査を行っている。塵埃の混入量が多いと判断されるケースについては、気密性向上のためのメンテナンスを実施した。
(3)　展示室や収蔵庫、文化財保存修理所等の館内の各施設に、文化財虫害調査用トラップを設置した。トラップは 150 箇所に設置し、2 ヵ月に 1 回の頻度で交換を行った。回収したトラップは外部業者に調査委託を行い、捕獲された文化財害虫の種類や頭数の把握を行った。この情報をデータとして蓄積することで、害虫の発生が予見される箇所等の忌避対策や殺虫処理を実施している。また、害虫の侵入対策や清掃についても実施に努めた。
学芸部内の保存修理指導室員及び総務課環境整備係員等により構成される､｢奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」を月に 1 回の頻度で開催した。以上に記載した調査内容と結果を基礎とし、保存環境に関する課題点や改良案について議論を重ねた。


無線機能付き温湿度センサーの設置状況

【備考】
(1)展示室内温湿度調査：135 箇所
(2)展示ケース内粉塵調査：25 箇所
(3)文化財虫害生息状況調査：150 箇所
・「奈良国立博物館環境整備委員会保存環境に関するワーキンググループ」：11 回開催

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	26年度に引き続き、調査の実施やデータの蓄積を実施した。また、調査で得られた結果を基礎に、ワーキンググループでの情報共有や議論を通し、保存環境の保持と改善に取り組むことができた。今後、取得データの精度向上も視野に入れながら、保存環境の保持や改善が円滑な体制を整えたいと考えている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	継続的なモニタリングや調査を実施し、データの蓄積を着実に行っている。28年度について、取得データの精度向上も視野に入れながら着実な調査を実施したい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4563-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)収蔵品・寄託品等の文化財修理の観点からの調査研究（(5)－⑥）

【事業概要】本事業では、以下の 3 点の内容について実施した。
(1) 修理方法を記録し将来の文化財修理に反映するため、館蔵品や寄託品の保存状態の調査を実施する。その内容を保存カルテとして記録した。
(2) 館蔵品や寄託品の修理を実施するにあたり、事前に修理文化財の保存状態を詳細に調査した。また、調査結果を基に修理調書を作成した。
(3) 修理中の文化財から得られた材質や銘文等の情報について、調査・分析を実施した。その結果を当館の研究紀要への掲載などを通しデータの蓄積を計った。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】
(1) 館蔵品や寄託品の貸与の際、館蔵品や寄託品の保存状態を詳細に観察し、そこで得られた情報を基に保存カルテを作成した。また必要に応じて光学調査を実施し、作品データの蓄積に努めた。
(2) 館蔵品や寄託品の修理を行う場合、詳細な観察や光学調査を実施した。保存カルテ記載にされた情報と調査結果を参考に修理調書を作成し、館内鑑査の後に修理方針を策定した。
(3) 修理中の文化財から得られた木片は、京都大学生存圏研究所との協定に基づき樹種同定を実施した。この調査は、共同研究の一環としても位置づけられている。また、修理中に発見された銘文については、当館研究員が翻刻を行っている。これらの調査成果は、当館の研究紀要等に掲載し広く公表を行う予定である。
保存カルテや修理調書を基に修理した文化財は、修理後の 28 年度冬に開催される特集展示「新たに修理された文化財」にて公表する予定である。



採取した材質調査試料片

【備考】
(1) 保存カルテ作成件数：総計 100 件
（内訳　絵画：40 件、書跡：16 件、彫刻：14 件、工芸：14 件、考古：16 件）
(2) 修理調書作成件数：総計 12 件
（内訳　絵画：5 件、書跡：2 件、彫刻：2 件、工芸：1 件、考古：2 件）
(3) 材質調査及び銘文調査件数：11 件
（内訳　材質調査実施件数：10 件、銘文調査実施件数：1 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財修理所の修理技術者と密な連携を取り、修理に伴う文化財の調査を行うことができた。保存カルテの作成は修理時の修理調書へと反映され、修理方針の策定に掛かる基礎情報として用いている。また、材質や銘文の調査についても実施し、掲載に向けた準備を実施している。今後、これらの調査成果を含む修理成果報告書の作成を計画しており、データの取得と蓄積をより正確に実施したいと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当館は文化財修理所を併設していることから、修理事業は重要な位置づけとなっている。本事業は、修理に関わる基礎データの収集と公表を兼ねることから、今後の修理計画の指針となる。28年度についても、継続した調査を実施したいと考えている。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4563-3

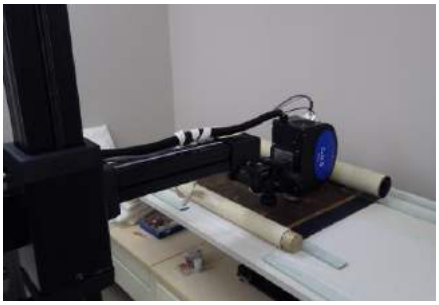
業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3)収蔵品・寄託品等の保存科学の観点からの調査研究((5)-⑥)

【事業概要】
本事業では、以下の 2 点の内容について実施した。
(1)　館蔵品や寄託品について、修理前や修理中などに光学調査（Ｘ線透過撮影・蛍光Ｘ線分析）を実施し、修理方針に反映させた。
(2)　文化財修理所での修理中の文化財について、当館の研究員と工房の技術員が共同で光学調査を実施し、その情報を修理へ反映した。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	保存修理指導室長　鳥越俊行

【主な成果】
(1)　館蔵品や寄託品の修理等の際に、Ｘ線透過撮影を実施し内部構造の把握を行った。この調査は、彫刻作品や漆工品などの文化財について実施している。また、蛍光Ｘ線分析装置を用いた材質分析として、彫刻作品の材質や絵画の顔料を分析した。これらの光学調査から、修理方針の策定へ情報を反映させると共にデータの蓄積も同時に行うことが可能となった。
(2)　館蔵品や寄託品の修理前や修理中において、当館の研究員と工房の技術者が共同でＸ線透過撮影及び蛍光Ｘ線分析などの光学調査を行い、これらの調査で得られた結果を修理へ反映させることができた。



蛍光Ｘ線分析の様子

【備考】
調査件数
（Ｘ線透過撮影調査回数：4 件、蛍光Ｘ線分析実施回数：3 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	館蔵品や寄託品の修理等の際に、内部構造や保存状態・材質情報に関する情報を取得するため光学調査を実施した。修理状況により年度ごとに増減はあるが、着実に調査を行うことができ、修理調書への反映から、修理方針決定のための重要な情報源となっている。28年度についても継続して調査を行いたいと考えている。また、データの蓄積についても継続して実施していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修理方針の策定や修理に伴い着実な調査を実施することができた。28年度も継続して実施し、着実なデータ収集に努めたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4564-1

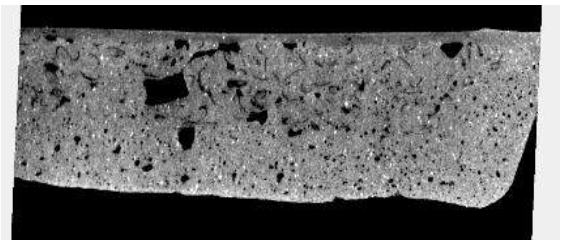
業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）文化財の材質・構造等に関する共同研究（(5)－⑥）

【事業概要】
文化財を解体することなく内部構造を立体的に調査する方法の開発を目指す。当館において、古代の金属製品鋳造技術の解明のため鋳造鋳型のＣＴ調査を中心とした総合的な実験を行う。弥生時代の土製鋳型についてＣＴ撮影を行い、粘土内部の空隙の大きさや体積について検証を行う。またこの土製鋳型のＣＴデータを参考に鋳型を作製、鋳造実験を行い構造技法の解析を行う。本研究の報告は学会などで公表する。さらに、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	課長　今津節生

【主な成果】
(1)　春日市須玖タカウタ第５次遺跡出土の土製鋳型片及び筑前町東小田峰遺跡出土鋳型片についてＣＴ調査を行った。(27 年 5 月 1 日)
(2)　ＣＴデータを基に鋳型の中に散在する空間を可視化したことで、真土に添加した有機物が焼結してできた空間の形状と分布を認識し、これが注湯時のガス抜きに寄与していることがわかった。さらにこの空間について、欠陥・介在物解析モジュールを用いて鋳型の中に散在する閉鎖空間の体積を計測し、鋳型毎に空間の体積ヒストグラムを比較することによって、土製鋳型のガス抜き構造の違いを明瞭にすることができた。
また、真土に添加された有機物の種類を検証するため鋳型の再現実験を行い、その資料についてもＣＴ調査を行った。その結果、空間の中で微細かつ円形または球形をしているものについては、添加物の種類に関わらず粘土に含まれること、モミなど特定の物質を添加すると、体積ヒストグラムにおいて特徴的なピークとして現れることがわかった。
(3)　この成果について、日本文化財科学会やＣＴシンポジウムなどで研究発表を行った。


タカウタ第５次遺跡出土の土製鋳型片のＣＴ像

【備考】
調査・研究　件数：120 件、回数：600 回
学会研究会等発表件数：14 件（日本文化財科学会 10 件、文化財保存修復学会 4 件）
今津節生ら「X 線 CT を用いた鋳型の構造調査」日本文化財科学会第 32 回大会（27 年 7 月 11、12 日開催）
シンポジウム件数：1 件（「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」九州国立博物館 10 周年記念シンポジウム（27 年 12 月 19 日開催））

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	Ｘ線ＣＴ・３Ｄデジタイザは、短時間でデータを取得できるので、時間的投資効果が大きい。また、Ｘ線ＣＴでは文化財内部の構造を約 0.2 ㎜、３Ｄデジタイザでは 0.02 ㎜の高精度で記録することができる。本調査によって、非破壊で文化財の構造調査や三次元計測、三次元造形の文化財への応用性を発展させることができた。当館では年間 600 回の調査を行い、数多くの成果を得ることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初計画にそって研究内容の水準を保ちながら、順調に調査を遂行することができた。引き続き、外部資金を積極的に活用しながら研究を継続したい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-2

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館における文化財保存修復に関する研究（(5)－⑥）

【事業概要】
当館の文化財保存修復施設の機能と利点を生かし、西日本地域の大学で装潢技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【主な成果】
(1) 27 年 8 月 17 日（月）～21 日（金）の 5 日間実施した。
(2) 九州産業大学 2 名、佐賀大学 1 名、別府大学 1 名、広島市立大学 2 名、吉備国際大学 1 名の計 5 大学 7 名が参加した。
(3) 当館文化財保存修復施設を使用している一般社団法人国宝修理装潢師連盟(国の認定する選定保存技術保存団体)の協力が得られたことにより、少人数で実践的な研修を実施することができた。
(4) 本研修の実施により、修理技術者の育成に寄与すると共に、参加学生の文化財保護への理解を深めることができた。



研修風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	修復技術者の育成は、公共の財産である文化財を後世に伝えていくために不可欠である。また、育成は継続的に行う必要があり、毎年実践的な研修を少人数で継続している本研修は、適時性や継続性が高い。大学で保存修復の基礎教育を受けた学生を対象に実践的な研修の場を提供できる機関は、極めて少ない。また、研修日を大学の夏季休暇中に設定しており、学生が参加しやすい状況も作っている。加えて当館には、装潢文化財の修理技術を持つ技術者が常駐しており、効率性、正確性の高い研修が実施できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	17年度より少数で実践的な研修を継続して行っている。参加者及び参加者の所属する大学からも好評を得ている。そのため、中期計画における「有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究」を行う目標を達成している。28年度以降も引き続き同様の研修を実施する予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3）博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究（(5)－⑥）

【事業概要】
本研究の目的は、我が国の博物館等におけるＩＰＭ（総合的有害生物管理）普及のための地域共働システムづくりである。本研究では、地元ＮＰＯ法人や市民ボランティアとの共働による研修会の開催及び大学・専門研究機関・地域文化施設の連携によるＩＰＭ研修プログラム確立を通し、ＩＰＭの社会的理解度を深めつつ、博物館等におけるＩＰＭを軸にした自立的地域共働システムづくりを目指すものである。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　本田光子

【主な成果】
(1) 継続的に行ってきたミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）の募集に関して、これまで受講していない地域の博物館学芸員を積極的に受け入れることで、さらにＩＰＭの普及に努めた。
・ 27年度新たに受け入れた地域：北海道、群馬県、富山県、香川県
・ 27年度新たに受け入れた博物館・美術館・資料館・図書館・文書館等：10館

(2) 参加申込受付開始日に定員 20 人のところ 80 人以上の応募があり、前年同様、学芸員・市民の関心の高さがうかがえた。
地域や館種を超えた新たな受講生が加わり、ミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）の内容をより充実したものに検討する材料を得られた。
基礎編に続く、技術編、実践編においても、新しい館の参加があり、基礎編だけでなくさらに次の段階を望む受講生が多いことがわかった。

(3) 市民ボランティア、地元ＮＰＯ法人が研修の補佐をした。受講生との交流で普段取り組んでいるＩＰＭに関して、新たな視点を持つことができたので、今後の活動に生かしていきたい。


ミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）における温湿度計取扱い実習

【備考】
ミュージアムＩＰＭ研修開催回数・・・・3回
ミュージアムＩＰＭ研修参加者数・・・・58人
・ミュージアムＩＰＭ研修（基礎編）：　29人
・ミュージアムＩＰＭ研修（技術編）：　16人
・ミュージアムＩＰＭ研修（実践編）：　13人
学会研究会等発表：2件
「開口部における文化財害虫の発見とその対応」文化財保存修復学会（27 年 6 月 27 日）
「事例報告１　九州国立博物館におけるＩＰＭ研修について」27 年度公開承認施設担当者会議（27 年 11 月 5 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまでミュージアムＩＰＭ研修の基礎編、技術編、実践編について内容を改良し、続けて行ってきた。年を重ねるごとに受講希望者が増え、全国的にＩＰＭに取り組む館が増えてきたことが伺える。研修を積み重ねて開催してきたが、その成果が少しずつ現れていると考えられる。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度が最終年度であるが、ＩＰＭ研修としての研修の一つのあり方を示すことができた。その結果、中期計画における「有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究」という計画を達成することができた。今後も引き続きＩＰＭの普及のため研修を継続していく予定であるが、地域に根ざしたＩＰＭを展開するべく、この研修が一つのきっかけとなるよう内容を精査していきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）((5)-⑥)

【事業概要】
本研究では、弥生時代～古墳時代の墳墓の埋葬施設（室、槨、棺）への赤色顔料の塗布について、その種類や塗布範囲の調査を行い、時期差や地域差、階層差の有無を検討することを目的とする。これまで墳墓から出土する赤色顔料の使用方法については、塗布や散布、敷かれたなどと言われることがあるが、使用対象が木棺や遺骸といった有機物であることが多く、実際にはその使用方法は明確でない。ここでは、石棺や甕棺などの腐朽しない棺を主な調査対象とし、これらの点について検討を行うものである。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	保存修復室主任研究員　志賀智史

【主な成果】
(1) 福井県坂井市に所在する古墳時代前期中頃の牛ケ島石棺の調査を行い、石棺内面に朱が塗布されていた可能性が高まった。
(2) 発掘中の福岡県久留米市高三潴遺跡と福岡県みやこ町三ツ塚古墳で石棺の調査を行い、九州での赤色顔料使用状況を把握できた。
(3) 26 年度に引き続き、赤色顔料の塗布・付着が明瞭な木棺の痕跡が残る城の山古墳（新潟県胎内市）の報告書作成のため、赤色顔料使用の様相が不明な東日本の古墳について調査を行い、その位置付けを行った。
(4) 調査遺跡数は、山形 3 件、福井 1 件、愛知 2 件、福岡 2 件、鹿児島 1 件の合計 9 件となった。
(5) 個人が所蔵する赤色顔料とその関連資料について、整理に着手した。


石棺の調査風景

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 3 年目
・ポスター発表
「ベンガラ粒子の形態からみた北関東の前期古墳出土の丹塗土器について」
日本文化財科学会第 32 回大会（27 年 7 月 11 日～12 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	出土赤色顔料を考古学的に検討する研究はほとんど行われておらず、責任者が毎年継続して調査を行い、少しずつその様相が明らかになりつつあり、適時性、独創性、継続性が極めて高い研究である。また、毎年調査を継続している関係で、短時間で正確に効率良く調査を行うことができ、効率性や正確性が高い調査を行うことができている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	既存資料の調査だけでなく、発掘現場での新出資料の調査にも恵まれた。中期計画における「保存環境・保存修復における調査・研究」を達成できたと考える。28年度は最終年度に当たるため、これまでの調査成果を元に本研究を纏める予定である。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-5

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）((5)-⑥)

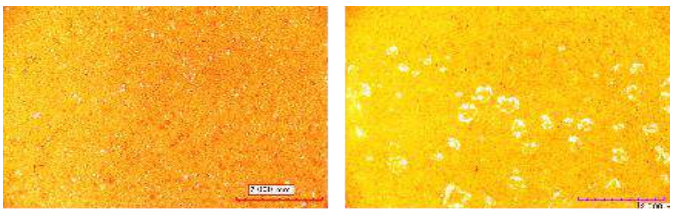
【事業概要】近年の研究結果から、文化財建造物には漆や膠以外に油性塗料が用いられていたことがわかっている。一方で、油性塗料の性質に関する研究は漆や膠と比べ十分であるとはいえない。そこで、より実用性の高い油性塗料の開発を目的とした調査研究を開始した。具体的には、油性塗料の塗膜の形成実験と劣化に関する実験を行った。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫

【主な成果】

(1) 実験内容

油性塗料（荏胡麻油）の塗膜の形成について、酸化促進剤の添加量の変化による塗膜の乾燥過程を観察した。(塗膜形成速度と塗膜表面の亀裂) また、塗膜は紫外線によって大きなダメージがあることがわかっている。そこで、油性塗料が固化した塗膜の紫外線による劣化 (膜厚の減少や彩色の退色、表面成分の変化、劣化生成物発生の有無) について検証した。実験試料は酸化促進剤の添加量を変化させたもの、色料として天然顔料を混ぜ合わせたものを作製した。



鉛丹添加試料の表面
（左：実験前　右：紫外線 120 時間照射後）

(2) 実験結果

(2) -1 酸化促進剤の添加量の変化による油性塗料の乾燥過程の観察

・酸化促進剤なし：酸化促進剤を添加しなかった塗料は乾燥に非常に長い時間がかかり、表面は塗膜が形成されても、内部は乾燥していないことがわかった。

・酸化促進剤あり：酸化促進剤を添加した塗料は、添加量に応じて塗膜の形成速度が速いことがわかった。一方で酸化促進剤が多くなると、乾燥が早すぎるため塗膜の収縮が発生し塗膜全体に細かなクラックが発生することがわかった。

(2) -2 強制劣化試験による塗膜の変化

・油性塗料が固化した塗膜に紫外線を 120 時間照射した結果、膜厚の減少、彩色の退色、表面成分のステアリン酸鉛の発生が確認された。これによって油性塗料が固化した塗膜の特性を理解することができた。

・劣化試験後の実験試料の中で色料として鉛丹を添加した試料の表面から白色物質が発生した。白色物質について調査した結果、この物質は炭酸鉛であること、また湿度 60%以上の環境下で発生することがわかった。白色物質の発生は実際に油性塗料によって施工が行われた神社等でも発生しており、発生メカニズムがわかったことは今後の対策を立てる上で大きな成果であるといえる。

(3) 実験結果は学会等で発表を行ったほか、実際の寺社仏閣への施工に関しても意見提供を行った。

【備考】

学術研究助成基金助成金事業の 2 年計画の 2 年目
調査・研究の回数：5 回
学会研究会等発表総数：1 件
27 年 8 月 27～28 日「マイクロＸ線ＣＴスキャナを用いた彩色文化財の構造調査」
2015 International Symposium on Conservation of East Asian Cultural Heritage in Nara

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	実験サンプルを作製し乾燥及び強制劣化試験を行った。27年度は経過観察中である。近年、油性塗料で施工されたことを確認できた寺社仏閣色の数は増加しており、研究に関する適時性と発展性は高い。27年度は塗膜の形成実験や劣化による様々な変化を検証したことによって、油性塗料、油性塗膜の特徴に関する知見を得ることができた。27年度の結果は学会発表等を行い、成果を公表した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	油性塗料の保存と活用の向上に関する調査・研究を行い、塗料の性質と特徴を検証することができた。特により長持ちする塗装を考えるために劣化による影響についての成果が得られたことで、実際の施工に役立つ研究を行うことができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-6

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6）みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）((5)-⑥)

【事業概要】
未曾有の大災害や地域の文化財の盗難が懸念されている昨今、館同士のみならず地域と一体となって対策を講じ危機を乗り越える強さを備えたミュージアム機能の強化が求められている。九州山口ミュージアム連携事業実行委員会（事務局：長崎県文化振興課）・各県立拠点館・地域市民と連携協力し、各地のミュージアムが地域の文化・文化財をまもる拠点となるように、関係職員と地域市民が共に防災危機管理能力を高めることのできる研修プログラムを策定する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	特任研究員　本田光子

【主な成果】
（1）東北・関東・東海・関西地域において被災地・防災先進地の調査情報収集を計５回行い、九州山口各県から延べ100名が参加して、文化財の伝統的な危機管理方法や、先進的取り組み事例を学び、参加者で課題を共有した。
・関東：伝統的な危機管理法及び最新の防災取り組みや被災文化財修復を学んだ。（27年7月6日～8日：20名）
・関西（和歌山）：和歌山県の防災取り組みと市民による自主的な防災取り組みを学んだ。（27年8月17日～19日：17名）
・東海：東海地震に備えた防災対策及び避難訓練と文化財の悉皆調査について調査した。（27年10月26日～28日：17名）
・関西（神戸・大阪・奈良）：阪神淡路大震災と文化財の防災危機管理について調査した。（27年12月9日～12日：21名）
・東北：東日本大震災の被災施設と文化財の現況及び市民参加の保全活動を学んだ。（28年1月6日～8日：25名）
（2）全体合同会議（協力者会議・ワーキング会議・実行委員の合同会議）を２回開催して２件の事例発表とともに、会議形式で文化財の危機管理に関して議論を行い、地域防災計画への文化財の記載や、動産文化財の悉皆調査の重要性について課題を共有した。（27年6月15日：62名、28年1月25日：52名）
（3）繰り返しの実施と工夫を要する市民向けワークショップ関係の研修プログラムと、健康被害対策についての講義を計２回先行的に試行し、参加者による討論によって改善点を抽出することができた（27年11月29日～30日：16名、28年1月25日：39名、2月29日：27名、3月13日～14日：13名）。
（4）地域防災計画策定会議を２回実施、地域防災計画への文化財事項の記載充実のための課題を共有した（27年8月20日：9名（長崎県）、27年10月14日：7名（東京都））。
（5）調査情報収集レポート及び全体会議や研修試行会の記録を報告書として刊行した。


研修試行会の様子

【備考】
・調査情報収集：5回（参加者計100名）
・「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業全体合同会議：2回（出席者計114名）、事例発表件数：2件
・研修試行会：4回（参加者計95名）
・地域防災計画調査策定会議：2回（参加者計16名）
・みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム事業報告書：１冊800部（28年3月22日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	頻発する大規模災害を受け文化財の防災への関心が高まる中、危機管理の手法とその共有が喫緊の課題となっており、本研究には適時性があるといえる。また、九州・山口8県との県域を越えた連携協力及び市民の参加を得るという取り組みは他に例がなく、独創的である。 さらに当館での取り組みを通して、九州山口地域の県域・館種を超えたネットワーク構築が強力に進んでおり、発展性もある。本研究に対する関心の高さは、九州博物館協議会大会でも取り上げられたこと等から明らかになった。今後は、研修プログラムの見直しと事業終了後の継続実施を目指して、研究を進めていきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	26年度より取り組んでいる本研究は、危機管理や防災といったその内容の適時性とともに、県域を越えた連携協力及び市民の参加型といった取り組み方法の独創性から、これまでにない成果や活用性が得られた。28年度も引き続き外部資金を積極的に活用しながら研究を継続し、広く研究成果が活用されるように進展させたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-7

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（学術研究助成基金助成金）((5)－⑥)

【事業概要】
近年、文化財の科学調査が一般的に行われるようになってきた。しかし文化財は脆弱な材質、構造のものが多く、文化財の科学調査は調査のための作品移動の機会をなるべく少なくし、短時間に非破壊で行うことが求められる。これまでは制限がある中で部分的な分析が主流であったが、文化財を総合的に理解するには面的な広がりで捉える調査が必要である。そこで本研究では文化財の科学調査に面的な手法を導入した有効な調査法を検討する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室研究員　秋山純子

【主な成果】
(1)「絹本著色羅漢図」（九博所蔵）の赤外線撮影を行い、分光スペクトル分析及び蛍光Ｘ線分析も同時に実施した。（27 年 5 月 14 日）
裏彩色（重ねて彩色）がある場合、赤外線画像ではどのように写るのか検証することにより、赤外線画像による彩色材料の把握に役立てるための情報を得ることができた。
(2)「阿弥陀三尊像」（九博所蔵・南宋時代）の赤外線撮影を行い、分光スペクトル分析も同時に実施した。（27 年 6 月 25 日）
彩色はあまり残っていないが中国絵画に対しても調査を行うことができた。
(3)「博物図譜」（香川ミュージアム保管）画帖 13 帖の調査を行った。（27 年 9 月 2 日～3 日）
この調査により、今後「博物図譜」の調査の方向性を検討することができた。
(4)「博物図譜」（香川ミュージアム保管）画帖 13 帖の赤外線撮影及び科学分析を行った。（28 年 2 月 5 日）
(5) 中国：内蒙古博物院にて壁画の彩色材料の科学分析を行った。（27 年 4 月 19 日～26 日）その結果、壁画に使用されている彩色材料を推測でき、赤外線画像と照らし合わせることで、今後の彩色調査に有効な情報を得ることができた。


「絹本著色羅漢図」の赤外線画像

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 4 年計画の 1 年目
調査回数 5 回（国内 4 回、国外 1 回）
学会発表等
「赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究３」日本文化財科学会（27 年 7 月 12 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	いわゆる美術工芸品の彩色材料だけでなく、壁画や歴史資料といった文化財に対し、彩色材料の検討を行うことができた。今後は顔料だけでなく、染料や合成顔料といった彩色材料に対して、赤外線撮影と科学調査の組み合わせを検討していきたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	これまでの美術工芸品の調査だけにとどまらず、広く文化財に使用されている彩色材料の検討をすることができた。引き続き、28年度以降は無機顔料だけでなく、染料や合成顔料といった彩色材料を視野に入れた調査を進めていきたい。彩色材料を広く調査することにより、この調査法の有効性が広がることにつながると思われる。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4564-8

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	8)彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費補助金）((5)－⑥)

【事業概要】
歴史的木造文化財建造物の劣化要因として、虫害などの生物劣化は大きなウェイトを占める。従来、文化財建造物が木材害虫であるシバンムシなどによって顕著な被害を受けた場合には、修理にあわせて建物全体のガス燻蒸処理が実施されてきた。ガス燻蒸は、比較的短時間で部材内部に生息する虫まで駆除できるという点で、現時点で唯一の有効な方法である反面、燻蒸剤は毒ガスであるため、作業者や観光客の安全確保のために厳重な対策が必要となる。また、施工後放出される有毒ガスの周辺環境に対する影響も懸念される。本研究では、人体や環境に対して安全で、かつ有効な殺虫処理として、既に欧州などで小型の文化財について実績のある調湿温風による殺虫をとりあげ、これを漆などの彩色を施した日本の大型建造物に適用する手法を確立する。

【担当部課】	学芸部博物館科学課	【プロジェクト責任者】	環境保全室長　木川りか

【主な成果】
(1)プロトタイプチャンバー（約 30㎥）の試作と試験：研究分担者の京都大学農学研究科・藤井義久教授の研究室にて、研究協力者の北原博幸氏の協力のもと、気密・断熱性を確保し、調湿温風を発生・循環できるチャンバー及び、その制御プログラムを試作し、ある程度の大空間で正確に殺虫条件として望まれる温度湿度制御が可能かどうか試験を実施した。その結果、昇温、昇湿についてはほぼプログラム通りの制御が実現された。降温については、外気をうまく取り入れる方法によって、温度を下げる工夫が必要となり、空気取り入れ口を設置した結果、状況が改善された。殺虫に必要な温度（60℃）、かつ木材が乾燥しないような湿度（約 60%RH）については問題なく制御できるプロトタイプのチャンバーとなった。


試作されたチャンバー内の測定用検体の様子

(2)彩色層を毀損しないための安全処理条件の明確化：調湿温風処理による彩色層・木部における含水率とひずみ分布を測定し、彩色層を毀損しないための安全処理条件を明確化する。温風処理中の含水率変化を抑制することで、彩色層の毀損は原理的に免れる。試作したプロトタイプチャンバーの中で、調湿条件とひずみとの関係を明らかにするために測定を実施し、継続している。（京都大学にて測定）


調湿温風による山笠基部の処理

(3)上記原理とプログラムを使用した小規模処理装置の試作と山笠基台部の処理：上記で試作した制御プログラムと方法を用いて、彩色がない山笠基台部の竹、縄部の調湿温風処理を目的に小規模装置を試作し、処理対象となる無地の木材、縄などを用いて影響試験を実施した。また、実地に装置が機能することが確かめられたので、山笠基台部の調湿温風による殺虫処理を実施した。（27 年 12 月）

(4)実地（大規模）試験を念頭においた設計と準備：本研究では、建物処理でもエネルギー効率を向上させ電力駆動としたシステムとするため、現在装置の仕様と断熱方法を検討している。

【備考】　科学研究費補助金事業の 3 年計画の 1 年目
研究打ち合わせ 5 回（京都大学（27 年 6 月 9 日）、東京文化財研究所（27 年 7 月 29 日）、日光（27 年 8 月 28～29 日）、京都大学（27 年 11 月 20 日）、京都大学（28 年 1 月 20 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度に計画していたプロトタイプ装置の試作、諸条件のなかでの木材のひずみの測定が実施され、また試作したシステムやプログラムが実用的に働くことを確認できたため、進捗状況は順調である。28年度はさらに詳細な測定と屋外での大きな規模の処理をめざした検討を進めたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	プロトタイプのシステムが無事稼動したのを受け、28年度以降は建造物規模の実地での処理が可能なシステムの試作をめざし、エネルギー効率のよい電力駆動のシステム構成、断熱性・気密性についても設計の専門家とともに検討を行い、文化財塗膜に影響の少ない処理条件を実現できる装置の試作に臨みたい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)博物館環境デザインに関する調査研究((5)-⑦)

【事業概要】東京国立博物館における文化財の展示／観覧環境のデザインについて調査・研究し、今後の展示／観覧環境のデザイン向上を目的として実施する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	企画課デザイン室長　木下史青

【主な成果】

(1) 27年10月14日にリニューアルオープンの平成館 考古展示室のため、本館・平成館の＜館内案内・誘導サイン＞及び展示室内の＜展示解説サイン＞について、多国語（4言語 ：日英中韓、2言語：日英）での整備を行った。

(2) 平成館改修工事にともなって拡張された、本館・平成館連絡通路の明るさ感向上のため、拡張部の天井部段差に＜ＬＥＤ照明による間接照明＞をデザインし、適切な照明器具の設置工事を行った。 ＜ポスター掲示板＞や新設の＜平成館誘導サイン＞の視認性が改善し、また空間の快適性が向上した。

(3) 考古展示室の「江田船山古墳 銀象嵌銘大刀」の展示スペースに、＜スペースプレーヤー（ライティングダクト設置用映像投影機器）＞を設置し、大刀の象嵌意匠（花・魚・馬・鳥）を壁面へ投影することにより、展示作品鑑賞への誘導効果について検証した。



本館→平成館への誘導サイン


本館平成館連絡通路の天井間接照明


考古展示室スペースプレーヤー設置

【備考】

他館展示／観覧環境のデザイン調査：これまでの国内外の博物館・美術館での事例・環境デザインを調査し、特に27年度においては平成館・考古展示室リニューアルオープンの参考とした。

調査先／平等院ミュージアム鳳翔館（京都・宇治)、那覇市立壺屋焼物博物館、松戸市立博物館、山形：山形美術館、山形県立博物館、本間美術館、東京：森美術館(リニューアル)、ソウル：韓国国立中央博物館、韓国国立現代美術館、サムソン美術館リウム、韓国国立民俗博物館、公州：韓国国立公州博物館、等

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度は平成館 考古展示室のリニューアルにおいて、各種サイン、照明等において調査研究の成果を反映させることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究」に沿った調査研究を実施し、展示等に反映させることができた。引き続き次期中期計画においては、国際化対応への推進が期待される。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2）博物館教育に関する調査研究((5)―⑦)

【事業概要】総合文化展及び特別展に関連した様々な教育普及事業の実施並びに、参加者に対するアンケート等を通して、博物館教育事業の理論と実践に関する調査研究を行った。また、学校の教員を対象とした研修のなかで、教育普及プログラムについての研究会を行った。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小林　牧

【主な成果】

(1)本館地下、19 室及び東洋館 2 室、6 室「みどりのライオン」におけるアクティビティやワークショップ、並びスクールプログラムの運営を通して、さまざまな来館者のニーズにそったプログラムの開発とより効果的な運営に関する研究を行い、ファミリーワークショップや大人向けのワークショップ、スクールプログラムなど、多様なユーザーに向けたプログラムを展開することができた。また、それらの運営とアンケート調査によって、さらに知見と考察が深まった。

(2)教育的展示「親と子のギャラリー　ミイラと古代エジプトの神々」において、凸版印刷株式会社との連携により、ＩＴ技術を使ったワークシートの研究と制作を行った。

(3)スマートフォンによる公式ガイドアプリ「トーハクなび」におけるユーザーログを集積・解析し、外国人を含むより広いターゲットに向けた情報のあり方、発信の仕方、さらにそのための的確なシステムのあり方について、調査・研究を行った。これらの調査と、通常の学校向けプログラムの実践を通して得た知見をもとに、学校団体向けのアプリの開発を行った。

(4)触れる展示、ハンズオン企画の調査・研究を行い、考古展示室リニューアルに伴ってハンズオン展示を開始した。

(5)全国高等学校美術工芸教育研究会の教員を対象とした研修において、博物館における鑑賞教育のあり方について意見交換を行った。

(6)小･中・高等学校の教員を対象とした研修において、博物館における教育プログラムを立案する研究会を実施し、討議のなかで意見と情報の交換を行った。

(7)ボランティア組織のマネジメント及びボランティアによる事業の開発等について調査・研究を行った。



埴輪のハンズオン模型

【備考】

発表：1 回　「東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題」ボランティア室長　鈴木みどり
27 年 7 月 5 日　文化庁主催「第 9 回　企画・展示セミナー」

調査：各種教育事業における参加者調査のほか、教員研修会　アンケート調査　3 回、トーハクなび　ログ解析　27 年 10 月～3 月

成果物：考古展示室ハンズオン展示（27 年 10 月、28 年 3 月に設置）、トーハクなび学校版アプリ（28 年 3 月納品、28 年 6 月運用開始予定）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	レクチャーから体験型プログラムまで、幅広い教育事業の実践や、ボランティア組織の運営を通じて、博物館教育についての研究を行うことができた。その結果、考古展示室におけるハンズオン企画や、学校向けアプリなど新規プログラムの開発という成果を得られた。博物館教育の現場ならではの、調査・実践・検証という、切れ目のない研究活動を行うことができた。スマートフォンアプリの充実や、幅広い層に対応するプログラムの開発などにより、進化する情報課社会への適応、多様化する来館者に対するサービスの提供という、館全体の課題の実現にも寄与することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館教育に関しては、中期計画に沿って順調に進んでいる。時代の変化に対応しつつ、より多様化する来館者対して適切なプログラムを提供し、よりよい鑑賞体験が実現するよう、28 年度以降も取り組んでいきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究((5)－⑦)

【事業概要】東京国立博物館における収蔵品管理システムの開発を通じて、資料情報と学芸業務の有機的な関連について調査研究し、博物館における効果的・効率的な情報の管理及び蓄積、活用のための環境構築に資することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	情報管理室長　村田良二

【主な成果】

(1)収蔵品管理システムについて、作品検索、総合文化展管理、鑑査会議管理、貸与管理、修理予定・履歴管理の各機能を継続的に運用し、随時改善を重ねて機能を向上させた。
(2)ユーザ向けのオンラインヘルプを一部改訂した。作業を実施する観点でのわかりやすさを検討し、よりわかりやすいヘルプを作成できた。
(3)ユーザ認証の方法について調査を行い、権限管理等の開発がより容易な認証フレームワークに移行することができた。
(4)総合文化展の展示作業において用いる題箋作成のためにデータをダウンロードする機能を改善し、作業効率向上に役立てた。
(5)旧字や日本語以外の漢字が作品名等に用いられた場合に、正しく印刷出力するための方法について調査し、PDF 出力の代替として HTML による出力を検討し、試験的に実装した。
(6)個人情報保護及び不必要な情報へのアクセス制限の観点から、人物・団体に関するデータの表示画面で、ユーザがログインしていない場合には詳細情報を表示しないよう変更した。
(7)京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館のデータベース担当者との間で、データの統合的な検索や相互バックアップについて意見交換し、実施に向けて検討を進めた。



収蔵品管理システム（オンラインヘルプ）

【備考】

収集データ件数　219,041 件
（内訳）
作品データ件数　210,903 件
平常展データ件数　4,109 件
鑑査会議データ件数　84 件
貸与データ件数　1,375 件
修理データ件数　2,570 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	収蔵品の効果的・効率的な管理のためのシステムを継続的に開発でき、学芸業務に欠かせないツールとして着実に発展させることができた。オンラインヘルプの改訂により使い勝手を全体として向上させることができ、ユーザ認証機能やアクセス権限等の見直しにより、現在求められる情報セキュリティ水準に対応することができた。旧字・外国語等の対応において、博物館固有の問題について調査し、知見が得られた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画について、順調に進行している。26年度の全体的なプログラム見直しにより、追加の機能や改修を行うことが容易になっていることが確認できたため、28年度以降も漸進的な改良を継続する。特に、作品情報の入力・編集画面を見なおしてよりわかりやすく、一貫したデータ整備に役立つインターフェースを検討する。また、ユーザ認証機能の改善をさらに進め、館内業務システムとアカウント情報を連携させる。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-4

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4）凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
館蔵文化財のデジタル・アーカイブを活用した、新たな公開手法を凸版印刷株式会社と共同で研究する。
19 年度から「国宝　聖徳太子絵伝」「国宝　灌頂幡」「重要文化財　洛中洛外図　舟木本」「土偶」「十一面観音菩薩立像」「伊能忠敬の日本図」「エジプトのミイラ」の高精細デジタル・アーカイブを作成し、それらを素材としてミュージアムシアターにおけるコンテンツの公開を実施している。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部長　井上洋一

【主な成果】
(1) 26 年度にデータ取得及びコンテンツ制作に着手した「パシェリエンプタハのミイラ」(TJ-1835) について、当館及び外部研究者の監修のもとに、ミュージアムシアターの新規ＶＲコンテンツ「東博のミイラ―デジタル解剖室へようこそ」を制作し、27 年 7 月から 10 月に公開した。
(2)新たに列品 2 件（重文 色絵月梅図茶壺・国宝 八橋蒔絵螺鈿硯箱）についてＸ線ＣＴスキャナーを使用して 3 次元データを取得し、作品の材質、構造等について新たな知見を得た。
(3)上記データをもとに、当館研究員の監修により、新コンテンツ「日本工芸の名宝 色絵月梅図茶壺・八橋蒔絵螺鈿硯箱」を製作し、28 年 1 月から公開した。
(4)既に取得した作品のデータを元にしたコンテンツの内容の修正について監修し、下記のとおり公開した。
・　「江戸城と寛永寺」
・　「伊能忠敬の日本図」



ミュージアムシアターのＶＲコンテンツ
「東博のミイラ
―デジタル解剖室へようこそ」

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	計画どおりにデータの取得と新コンテンツの制作、公開が行われ、年度計画における文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究を充分に達成することが出来た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画を順調に達成している。凸版印刷との共同研究を継続しており、新規に導入した３ＤＣＴスキャナーの利用を含めた作品データの蓄積と調査研究への活用を進めるとともに、その成果をもとにした新シアター向けのコンテンツを公開することができた。引き続き、研究対象の選定と方法について協議を進め、新たな素材に関する研究とデータ及びコンテンツ制作に取り組む。

【書式B/博】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 4571-5

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5) 聴力障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築(学術研究助成基金助成金)((5)－⑦)

【事業概要】聴覚に障害をもつ児童・生徒の博物館での学習や鑑賞の困難さの特徴を示し、その具体的解決方法としての鑑賞プログラムを構築することを目的とする。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	博物館教育課長　小林牧

【主な成果】

聴覚障害をもつ児童・生徒への特別支援教育及び、国内外の美術館・博物館で行われているバリアフリー化、ユニバーサル化事業の調査を行うとともに、当館で実施するプログラムにおいて、聴覚障害者のモニター調査を行った。

(1)美術館博物館における聴覚障害者への対応の遅れと、その解決法について意見交換を行った。
調査：川崎市立日本民家園、ちひろ美術館、富士美術館、刀剣美術館

(2)国内外の美術館・博物館で聴覚障害に限らず、障害者に対応しているプログラムや設備、ツールに関する調査、情報収集した。

(3)音声認識して即時的に文字データ化する聴覚障害者のための支援アプリ「UDトーク」のモニター調査を体験型プログラム（ワークショップ「能の裏側体験」27年9月17日）と座学のプログラム（講演会「日本美術が面白くなる様々な見方」27年10月10日）について実施した。

(4)補聴器の性能を高める聴覚障害者のための磁気ループ（ヒアリングループ）を導入し、東京国立博物館での教育普及事業で試行、モニター調査を行った。



東京国立博物館でのワークショップにおけるモニター調査
聴覚障害者支援アプリ「UDトーク」によって、タブレット端末に表示される音声を見ながらプログラムに参加するモニター（右手前）

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の2年計画の2年目
博物館における教育事業の聴覚障害者のモニター調査　3回　　のべ9人
美術館等調査回数　4回
特別支援教育施設等調査回数　4回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	美術館・博物館における教育普及事業に聴覚障害者が参加するための方策について検討し、モニター調査を実施し、問題点や改善点について具体的な検討を行った。東京国立博物館での聴覚障害者を対象とした支援の実践に大きく近づいた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究は、概ね研究計画に沿ったかたちで順調に進められたと考える。博物館という場をいかした実践的プログラムの開発の手がかりをつかみ、その実施の第一歩を踏み出すことができた。今後、東京国立博物館におけるプログラムにおいて、実践を重ねることによって、聴覚障害者への支援の方法と参加しやすいプログラムの開発を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-6

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6) ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析（学術研究助成基金助成金）((5)－⑦)

【事業概要】
ミュージアムにおける「鑑賞者開発（Audience Development)」の実証的な研究である。鑑賞者開発は、芸術団体と人々の関係強化を目指した考え方で、英国を中心に研究・導入されているが、ミュージアムにおける実証研究はいまだ発展途上にある。そこで申請者は、インターネットやモニタリング調査、海外比較等をもとに我が国ミュージアムにおける鑑賞者開発のモデルを構築し、それを実際のミュージアム事業と連動させることにより、ミュージアムにおける鑑賞者開発の先駆的な実証研究になりうると考え、本研究を計画した。研究を通して我が国ミュージアムに最適な鑑賞者開発の在り方を明らかにし、将来的にはミュージアムへの多様化するニーズを満たし、ミュージアムの社会的価値を増進することにつなげていきたい。

【担当部課】	総務課	【プロジェクト責任者】	総務課係長　関谷　泰弘

【主な成果】
(1)英国ミュージアム調査
27 年 7 月 26 日～8 月 3 日にかけて、英国ロンドン及びオックスフォードの主要ミュージアムにてインタビュー調査を実施。
(2)米国ミュージアム調査
28 年 2 月 29 日～3 月 8 日にかけて、米国ワシントン DC、クリーブランド及びニューヨークの主要ミュージアムにてインタビュー調査を実施。
(3)論文発表
26 年の鑑賞者開発イベントにおける調査結果をまとめ、研究論文として発表。
(4)国際学会口頭発表
(3)の論文の内容をもとに、国際博物館協会・広報マーケティング部会（ICOM-MPR）2015 アルメニア大会にて口頭発表（27 年 10 月 25 日)。
(5)論文集における発表
26 年度の国際博物館協会・広報マーケティング部会（ICOM-MPR）2014 台湾大会における口頭発表を発展させ再構築し、同大会の論文集にて発表。


自然史博物館（ロンドン）で視察した若者向けイベント Friday　Late の様子

【備考】
学術研究助成基金助成金事業の 3 年計画の 2 年目
(1)メールインタビュー2 件を含め、合計 7 ミュージアムの回答を得ることができた。
(2)合計 5 ミュージアム、1 機関より回答を得ることができた。
(3)東京国立博物館における若者向けミュージアム・イベント「博物館で野外シネマ」を事例とした鑑賞者開発の研究、関谷泰弘、文化経済学、第 12 巻、第 2 号、27 年、62-75 ページ.（査読有）
(4)Cultivating Museum Visits in Young Audiences: A case study on audience development at the Tokyo National Museum, Yasuhiro Sekiya, ICOM-MPR 2015, Almenia Conference, 2015.（査読有）
(5)Challenge to Change; A Case Study of Branding of the Tokyo National Museum, Yasuhiro Sekiya, Museum Branding-Redefining Museums for the 21st Century selected papers from the ICOM MPR 2014 Conference, pp.194-211, 2015.（査読有）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
C	海外調査及び研究発表は当初予定通り実施でき、一定の成果を上げたと言える。一方、27年度に実施予定の事業のうち、国内調査及び過去に実施した調査の分析作業が完了しておらず、最終年度の28年度は、実施ペースを上げる必要がある。年度当初に調査を実施し、夏ごろをめどに分析を進め、年末ごろまでには研究発表を行いたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	28年度は、本研究の最終年度であり、インターネット調査と合わせて、過去に実施した調査を分析し、論文としてまとめる予定。27年度の調査は目標に達しなかったが、研究成果としては、26、27年度合わせて研究発表2回、論文発表2回とすでに当初の目標を達成しており、研究全体としては順調である。本研究により我が国における鑑賞者開発の発展の方向性はある程度見えてきているので、本研究を発展させる形で次回も継続して科学研究費が獲得できるように成果を上げていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-7

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)　藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費補助金　研究代表者：奈良県立橿原考古学研究所　今尾　文昭）((5)－⑦)

【事業概要】
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館が所蔵する藤ノ木古墳出土品をはじめ 11 件（3,000 点以上）の国宝等国指定文化財を対象に、照度・大気・振動・温湿度等の展示・収蔵環境の調査と非接触高精度三次元形状計測及び透過 X 線撮影検査による微細物理的検査との相関性について研究し、適正保管・管理・公開を促進するための計画の指針（試案）を検討する。

【担当部課】	学芸企画部	【プロジェクト責任者】	学芸企画部特別展室 主任研究員　品川欣也

【主な成果】

(1)調査
東京国立博物館にて銅鐸などの三次元形状計測を行った。(27 年 11 月 18 日、12 月 10 日など)
三次元計測を行ったデータの解析処理を行い、またフォトスキャンなど新たな計測方法について検討を行った（28 年 3 月 28 日)。

(2)調査の結果得られた知見・発見など
作品の高精度な三次元計測データが得られ、今後の適正保管・管理・公開を促進するための基礎データとすることができた。

(3)調査・研究の成果
28 年度の特集「親と子のギャラリー　美術のうら側探検隊」に計測データを解析して得られた画像データを展示に使用予定。


三次元計測風景

【備考】
科学研究費補助金事業の 4 年計画 3 年目

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本研究課題の対象資料(藤ノ木古墳出土品)の比較検討資料として、基礎的なデータの集積を行い、年度計画における文化財を活用した効果的な展示に関する調査を、達成することが出来た。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画に沿った調査研究を実施することができた。とくに本研究課題は新しい計測機器及び方法(非接触高精度三次元形状計測及び透過X線撮影検査)を用い、文化財の適正保管・管理・公開を促進するための基礎資料が構築できた。

【書式Ｂ/博】　施設名 東京国立博物館　処理番号 4571-8

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究
プロジェクト名称	8)「シーボルト旧蔵本」の修理およびデジタル化による公開事業((5)-⑦)

【事業概要】安政６年（1859 年）にドイツ人医師シーボルトが再来日したときに携えてきた洋書、及び滞留中に収集した洋書で、「シーボルト献納本」ともよばれる。明治２年（1869 年）に長子アレキサンダー・シーボルトが外務省に寄贈した後、同 17 年（1884 年）に農商務省博物館の所管となり、現在にいたったもので、約 300 冊を数える。西欧の日本に対する深い関心が知られる内容のものが少なくない。貴重図書として保管されてきたこれらの図書を修理し、詳細調査によって画像データベースを作成し、その学術的意義を明らかにするとともに公開、活用することを目的とする。なお、26～27 年度に公益財団法人図書館振興財団の助成を得て実施した。

【担当部課】	学芸研究部	【プロジェクト責任者】	保存修復課長　髙橋裕次

【主な成果】

①　シーボルトが来日後まもなく作成した目録をもとに作成したデータベースの内容を、当館の所蔵するシーボルト旧蔵本の書誌学的調査に基づいて更新した。また収集した資料や、台帳などの基礎データによって、目録中の書誌情報を分析し、その全貌を明らかにするための研究を進めることができた。

②　シーボルト献納本を永く保存・活用するための修理とデジタル撮影を実施した。修理によって安全な取り扱いが可能にした。修理の方針や、その過程を伝える画像などを、当館のウェブ上で公開した。

③　当初の姿を伝える残す修理の様子や、保存箱の作成手順などをウェブ上で公開したことで、貴重図書に対する博物館の取り組みを広く伝えることができた。



修理前



修理後

【備考】

調査件数　308 冊
修理件数　115 冊
デジタル撮影件数　92 冊（26,000 カット）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	26～27年度に公益財団法人図書館振興財団の助成を得て実施した事業であり、当館が所蔵する308冊について調査を行い、一部のものについては、修理やデジタル撮影を行い、公開、活用に寄与する事業を効率よく進めることができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究」に沿った調査研究を実施することができた。公益財団法人図書館振興財団の助成事業は、27年度で終了するが、28年度においても、「シーボルト旧蔵本」を含む洋書の調査を充実させ、計画に従って着実に進行し、所期の目標を達成したい。

【書式Ｂ/博】　　施設名 京都国立博物館　　処理番号 4572-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）文化財情報に関する調査研究((5)-⑦)

【事業概要】
当館のウェブサイトや文化財情報システムなど、運用中のコンテンツの問題点の検討や機構内共通システムの運用に対する対応、博物館システムの発展的整備の方向性など、文化財情報に関する諸般の調査研究を実施する。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	上席研究員　浅見　龍介

【主な成果】

(1) 各種アーカイブのデータベースや博物館ネットワーク等について検討する情報システム検討会を隔月で開催し、博物館システムの整備方針を定めた。

(2) 各種調査から寄託・寄贈まで、極めて高度な保護を求められる博物館特有の個人情報管理のあり方と、公共機関として求められるセキュリティ管理のあり方、一方で研究機関としてのアーカイブ公開のあり方等について調査・検討を進めた。

(3) デジタル化の推進に伴う情報容量の増大にあわせ、機器・設備の改善や増強を計画した。

(4) 科学調査機器の整備にあわせ、研究系サーバの能力強化や仮想化技術の導入を進めた。

(5) 文化財防災に関わる機能強化のため、災害下における通信機能の維持や作品に関わる重要データの取り扱いについて、調査・検討を進めた。



文化財情報システム（検索条件）

【備考】
・情報システム検討会　　6 回
・情報システム調査　　6 回

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館情報システム・ネットワークの整備を推進するとともに、文化財情報や画像ストレージの整備・将来計画の検討などを通じ、文化財情報の調査研究を推進できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通じて対応を要する事項を整理し、喫緊の問題から順次検討を行って改良を継続している。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4572-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究((5)-⑦)

【事業概要】
26 年 9 月の平成知新館オープンとともに活動を開始した京博ナビゲーター（ボランティア）は、館内のミュージアム・カートやレファレンスコーナーで活動している。ミュージアム・カートでは、展示作品に関連するハンズ・オン教材を用いて来館者と対話を行っている。27 年度からは特別展を平成知新館にて実施することになったため、特別展に合わせたミニワークショップも行った。本事業は、ミュージアム・カートやミニワークショップの実践を行うとともに、来館者の主体的な興味・関心を引き出すためには、どのような手法や教材が最も有用かについて調査研究を行う。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【主な成果】
(1)27 年度は 26 年から継続して 151 人が京博ナビゲーターとして登録､それぞれ月に 1 回程度来館し、館内で活動を行った。朝は防災センターの職員が朝礼を行い、夕方は学芸部の研究員が交代で終礼を担当した。通常時の活動では、ナビゲーターは 26 年度の研修をもとに、ミュージアム・カートに設置されたハンズ・オン教材を用いて来館者と交流した。
(2)特別展に関連したミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」「禅ワークショップ（仮）（28 年度事業)」実施に向けた研修会を 12 回行った。「琳派デザインに挑戦！」は開館日の毎日（39 日間）実施し、合計で 15,841 人の体験者があった。


琳派デザインに挑戦！

(3)名品ギャラリーの特集陳列「日本の仮面」､「さるづくし」に合わせて仮面や猿根付の複製を新たに作成し、追加でででカートに設置した。これらの複製はＣＴスキャナー等、当館の科学調査機器を利用して制作した。特集陳列「獅子と狛犬」期間中にはレファレンスコーナーにおいて人気投票を実施し、対話のきっかけづくりとした。28 年度に向け、カートに追加する教材（刀装具・甲冑・鏡・玉眼・蒔絵手板）を作成した。


根付複製

(4)ナビゲーター同士の交流、職員とボランティア相互の理解を深めるために､「ナビゲーター感謝会」を行った。
(5)活動によって、子どもだけでなく大人もハンズ・オン教材に熱中することが分かった。来館者からは「本で読んでも分からなかったことが分かった」「話ができたのが楽しかった」などの意見があり、近年増加している海外の旅行者にも好評である。展示を見るだけでなく、人同士の対話する場を設けることが、来館者の興味・関心を増大させるのに大いに役立つことが分かった。この活動はナビゲーター自身の生涯学習の場としても機能している。
(6)ミュージアム・カートや京博ナビゲーターについて、他館からの視察があった（栃木県美術館、岡山県立美術館、豊田市教育委員会、石橋美術館、九州国立博物館)。
(7)活動中の見守りは教育室スタッフが中心となって行っているが、土日祝日は目が届きにくく、ボランティアとの意思疎通に影響が出始めているため、限られた人員でどのように運営を継続するかが課題となっている。

【備考】
・ナビゲーター登録：151 人　・ミュージアム・カート活動日数：260 日
・カートに設置したハンズ・オン教材：14 件　・28 年度に向けて制作したハンズ・オン教材：5 件
・ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」：39 日 15,841 人
・ナビゲーターに向けた研修会：12 回　・感謝会：1 回
・外部視察：5 件　・テレビ取材：NHK「趣味どき！国宝に会いにいく」

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初計画では名品ギャラリーの展示に合わせたミュージアム・カートの活動を継続する予定であったが、27年度より特別展を平成知新館で行うことになり、特別展に関連した活動を実施する必要が生じた。そのためナビゲーターに向けた研修を行い、通常活動とは別に新規ワークショップを実施した。また28年度以降にカートに追加する教材5件を制作した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平成知新館の開館に向け、24年度より本研究を開始し、26年度より調査研究の成果を実際に事業にて展開し、27年度はその内容の更新・拡大と現中期期間において、調査研究の成果を生かした新たな取り組みを実行することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 京都国立博物館　処理番号 4572-3

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究((5)-⑦)

【事業概要】本事業は、高精細デジタル複製を学校に持ち込んで訪問授業を行い、子ども達が文化財に親しむきっかけを作る活動である。京都国立博物館は21年に訪問授業を開始し、26年にはNPO法人京都文化協会・京都市教育委員会と共に「文化財に親しむ授業実行委員会」を立ちあげた。訪問授業で講師をつとめるのは大学生ボランティアの「文化財ソムリエ」であり、子ども達が学ぶだけでなく、実践を通じた大学生の学びの場としても機能している。本事業は、複製を軸として博物館、教員、大学生が交流することで互いに学び合い、新たな活動領域や価値観を獲得する試みである。その成果は訪問授業や教員への情報提供に反映するほか、論文、研究発表等で公開することを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室研究員　水谷亜希

【主な成果】

(1)文化財ソムリエ6期生6名を新たに採用し、計19名が活動した。27年度は22回のスクーリングを博物館にて実施、絵画担当の研究員が作品に関する勉強会を行ったほか、教育室研究員の助言のもと、文化財ソムリエが授業の進め方、内容を検討した。27年7月には「文化財の複製を用いた授業に関する交流会」を行い、学校教員と意見交換を行うとともに、過去の授業例の紹介や複製の取り扱いレクチャーを行った。以上の訪問授業に関わる活動のほか、こどもひかりプロジェクトが主催する東北地方での活動に参加、27年10月には京都にこどもひかりユース（大学生ボランティア）を招き、互いの活動紹介や意見交換を行った。

(2)スクーリングでは、文化財ソムリエが主体的に考え、行動できるよう議論を促した。また絵画担当研究員が作品解説を行うことで、専門性の高い内容を学んだ上で、授業内容を検討することができた。教員との交流会では、学校教育と博物館教育の違いを再認識するとともに、互いのスキルを活かす方法について有意義な意見交換を行うことができた。また、こどもひかりプロジェクトへの参加は、他地域の大学生や他分野の博物館職員との交流の場となり、文化財ソムリエのモチベーションを大いに高める効果があった。

(3)スクーリングでの準備に基づき、京都市内への訪問授業7回を行った。また、交流会に出席した教員による複製を活用した授業が5回実施された。27年度は琳派400年記念に関連し、京都市中学校総合文化祭においても、琳派をテーマにした制作が行われ、交流会に参加した教員の経験が反映された。琳派関連の生徒作品を展示した会場では文化財ソムリエによる「おしゃべり鑑賞会」を実施した。さらに生徒の作品集を実行委員会で発行・配布した。特別展覧会「琳派―京を彩る―」の期間中には「描こう風神雷神」を行い、文化財ソムリエがプログラムの補助を行った。



文化財ソムリエによる
おしゃべり鑑賞会

(4)複製を使った活動や鑑賞教育に関して、他館の調査7件（愛媛県美術館等）を行い、28年度の論文発表に向けて資料・情報の整理を行った。

【備考】・文化財ソムリエ：19人　・スクーリング：22回
・教員との交流会：1回29人　・こどもひかりユースとの交流会：1回23人
・訪問授業：7回658人（小学校4回、中学校3回）　・教員による授業5回約857人（中学校5回）
・おしゃべり鑑賞会：2回63人　・描こう風神雷神：1回22人
・こどもひかりプロジェクトの体験イベント：2回256人
・「RIMPA創造展　作品集」の発行：500部　・テレビ取材：MBS毎日放送「美の京都遺産」
・他館調査：7件　・助成金：平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業　4,552,000円

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	本活動はノウハウの蓄積や文化財ソムリエの成長に伴い、年々内容が深まっている。27年度はこれまでの活動に加え、琳派400年記念に関連して児童・生徒の作品制作・展示・作品集の刊行や鑑賞会も行われた。また、交流会をもとに教員による授業が実施されたことで、訪問授業に加えて857人もの生徒に学習の機会を提供することができ、質・量ともに大変充実したものとなった。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	21年度より開始した高精細複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究は、これまでの活動の蓄積を生かし、年々内容を深めると共に活動も多様になっており、外部との協力・交流も広がりを見せている。27年度はその内容の更新・拡大と現中期計画期間において、調査研究の成果を生かした新たな取り組みを実行することができた。

【書式Ｂ/博】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 4573-1

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1)歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究（(5)-⑦）

【事業概要】
奈良を中心とした寺社の歴史や伝統行事に関する情報を集め、「世界遺産学習」をはじめとする教育プログラムに反映させられるか検討を行い、重要度の高い情報、適切な内容を発信する仕組みを考える。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	教育室長　谷口耕生

【主な成果】

(1) 世界遺産学習の実施対象を全国から来館する小中高校生に拡大することを目的としてプログラム改定作業を進め、奈良の文化財の保存・公開に当館が果たしてきた歴史的役割を子供たちにわかりやすく伝える方法などについて検討を重ねた。

(2) 奈良教育大学・奈良市教育委員会・奈良県立万葉文化館とともにESDコンソーシアム文化遺産教育ワーキンググループを立ち上げ、博物館施設を活用して地域社会への関心を高めるための方策について協議を重ねた。

(3) 同ワーキングで提言された展示と密接に関連するクラフト教材活用及びワークショップの実践として、白鳳展関連の夏休みの親子イベント「水煙チョコ鋳造体験　白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう」を開催し、合計 34 名の小学生がチョコ作りという体験を通じて白鳳時代の鋳造技術への理解を深めた。



「水煙チョコ鋳造体験
白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう」
実施風景

【備考】
・「世界遺産学習」で来校した小学校　37 校

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「世界遺産学習」を中心とした子供向けのプログラムを検討し、仏教美術を中心とする当館のオリジナリティを持たせた文化財学習が実施できた。さらに「世界遺産学習」を中心とした子供向けの教育・普及活動の充実により、ボランティアガイドの育成・充実にも貢献し、来館者向け解説サービスの向上にも繋がっている。「世界遺産学習」は、 内容を随時検証し、より正確で分かりやすい内容を継続的に検討していくことによって、その継続性と質の確保に努めている。学芸部職員による研修や勉強会を通じて、内容の修正を行い、正確性を確保した。 プログラムの見直しにあたり、ESDワーキングあるいは職員とボランティアの間で情報の検討を通じて、「世界遺産学習」 の精度が向上し、来校する学数も所期の目標に達している。この数値を維持するためにも今後とも検討を重ねていく必要があり、それらの成果が来館者サービスの向上につながるものと考える。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画期間中、歴史、伝統文化の教育事業として 継続して行ってきた 「世界遺産学習」は 一定の成果を上げた。 28年度は、「世界遺産学習」をユネスコが提唱するESD（持続的開発のため教育）一環として位置づけ、教育機関などとの連携により方法論の検討を行い「世界遺産学習」の質的向上を目指す。

【書式Ｂ/博】　　施設名 奈良国立博物館　　処理番号 4573-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2)文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究((5)-⑦)

【事業概要】当館が活動範囲とする仏教にかかわる歴史と美術について、展覧会や調査研究事業と連動した情報収集を行い、そこにデジタル技術を適切に取り入れることにより、データの継続的な作成・データベースの構築・情報資源の公開ならびに共有へと展開させる。その際には実践に即した方法論を鍛え、文化財の保存活用に資するアーカイブズの形成・発展にも寄与することを目指す。

【担当部課】	学芸部	【プロジェクト責任者】	資料室長　宮崎幹子

【主な成果】デジタル撮影の安定的な稼働を目指して、撮影機材、撮影環境、保存用ストレージ、体制等の整備を引き続き行い、多数の文化財を撮影した。館内の情報システムや公開用データベースのデータ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んだ。

・写真撮影としては、特別展「まぼろしの久能寺経に出会う－平安古経展－」及び「白鳳－花ひらく仏教美術－」の開催と連動して、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の文化財の撮影を多数行った。平安古経展では、修理の完了した久能寺経の新規撮影が叶い、また白鳳展では全国各地の白鳳時代の金銅仏の出陳にともなって、これらの写真撮影を実施することが出来た。中でも薬師寺月光菩薩立像の撮影は特筆に値する。これらによって、当館における文化財写真アーカイブズの更なる充実を図ることが可能となった。

・新たに館蔵のガラス乾板のデータベースを作成し、館内での公開を実施した。このデータベースは、館内で進めているガラス乾板の保存活用の成果の一つである。ガラス乾板の整理作業は、デジタル化、ガラス乾板の保存処置（カビや埃の除去)、畳紙・保存箱への納入、新たな専用キャビネットへの排架とが連動したもので、館内の貴重な資料の保存活用と情報公開が同時に目指された活動であり、今後も継続して行う計画である。

・奈良地域の文化財の画像公開を目的とする「奈良地域関連資料画像データベース公開事業」において、奈良女子大学附属図書館と学術協力の協定を締結している。27 年度はこの事業の一環として、寄託品の春日宮曼荼羅（南市町自治会）の撮影を実施し、画像提供を行った。

・収蔵品・画像データベースから画像の無償ダウンロードが可能なように、システムの改修を行った。これにより、利用者はインターネットから直接画像をダウンロードすることが可能となり、画像データの利用促進に貢献するものと期待される。

・地下回廊において仏像写真展「大和のほとけたち－奈良博写真技師の眼－」を引き続き実施するなど、当館における文化財写真撮影とアーカイブズ形成の成果を一般に広めることにも継続して取り組んだ。

【備考】
(1)画像撮影件数　2,896 件
(2)データ登録件数（画像データベースへの個別登録）　5,418 件

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平安時代の経典や白鳳時代の金銅仏など、学術的に重要でありながら調査と撮影の機会を充分に得ることが難しかった分野について、調査を実施し、質の高い画像を取得して、公開へと繋げていることの意義は非常に大きい。さらに、画像の無償ダウンロードは、高品質の画像を、利用者に活用しやすいかたちでの情報提供を目指しており、調査研究の成果を幅広い層に向けて還元していくという意義が大きい。人員と予算が限られる現在のような体制の中で、意義が大きく幅広い活動を展開できた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画に則り、文化財の保存・活用そして研究の基盤として機能するべく、文化財アーカイブズ形成に継続的に取り組むことができた。 デジタル撮影については現在のところ安定的な稼働を実現できており、また仏教美術分野では国内唯一と言っていい貴重な画像コレクションの維持管理を遂行できている。 なお、館内での処理から最終的な情報公開までの一連の流れについて、今後とも人材及び機材の確保を含めた長期的な展望や現在行っているカラー・近赤外線・透過Ｘ線のデジタル撮影にとどまらず、ＣＴ撮影についてもデジタル化を実現すべく、機材・設備の整備が必要となる。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4574-1

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	1）NHK と共同で実施する、高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた研究（(5)－⑦）

【事業概要】
テレビの世界ではフルハイビジョンが主流だが、その４倍の画素数の４Ｋテレビという高画質のテレビが近年シェアを伸ばしている。当館では開館以来、この４Ｋのさらに４倍の密度を有する８Ｋというスーパーハイビジョンシステムによる映像を、世界で唯一の常設施設として公開してきた。このスーパーハイビジョンの質感と臨場感に優れた特性を、文化財の保存と活用のために、魅力的なコンテンツ制作と、コストも考慮した新しいシステムの調査研究を推進する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展室主任研究員　市元塁

【主な成果】
(1) 26 年度の調査、協議を踏まえ、27 年 7 月 28 日～8 月 5 日にかけて宗像大社沖津宮及び辺津宮にて神宝及び祭祀遺跡の撮影を実施し、これをもとに新番組「神やどる島　宗像沖ノ島」を作製することができた。九州国立博物館のスーパーハイビジョンシアター用映像としては初の動画映像（空撮含む）を導入し、これまでにない臨場感によって沖ノ島祭祀の空間を表現することができた。番組は、27 年 10 月 6 日から九州国立博物館文化交流展示室内のスーパーハイビジョンシアターにおいて公開を開始した。
(2) 27 年 12 月以降、スーパーハイビジョンシアターの多言語対応について、赤外線通信や、飛行機の座席のように、座席横に設置したイヤホンから放送を聞く方法などについて初歩的な調査を実施し、その有用性と問題点について明らかにすることができた。
(3) 28 年 3 月 4 日に東京で開催されたシンポジウム「8K から∞へ～超高精細映像のゆくえ～」で当館のスーパーハイビジョンをめぐる取り組みを発表した。


宗像大社神宝館での撮影風景

【備考】
・スーパーハイビジョンシアターの多言語放送化については、日英中韓での導入を検討しており、低コストでの実現に向けて模索中である。
・報告「国立博物館のスーパーハイビジョン」シンポジウム「8K から∞へ～超高精細映像のゆくえ～」28 年 3 月 4 日（東京）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の文化交流展示室では、宗像大社の全面的な協力のもとで、沖ノ島関連の展示を通年で実施している。普段は立ち入ることのできない沖ノ島のすがたを展示室内において紹介することは、来館者の展示鑑賞の理解促進にとってきわめて重要な作用をもたらす。その手段として、肉眼と同等水準の画質を提供できる８K映像はもっとも有効な手段であり、本研究では、沖ノ島をおとずれたときの空気感・臨場感の追及に注力した。その結果、空撮を含む動画によって、沖ノ島の祭祀空間を多面的にとらえなおすことができ、沖ノ島という祭祀空間のすがたをより実地に近い形で提供できることができた。また立ち入りが厳しく制限されている沖ノ島のいまのすがたを記録することができた。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	17年度に作製した沖ノ島の映像は、祭祀の時系列的な解説に力点をおいた。本作はそれと方向性を異にし、沖ノ島は立ち入りが厳しく制限された祭祀の島であることをふまえ、沖ノ島のいまのすがたを記録することに注力した点に特徴がある。中期計画における「文化財を活用した効果的な展示」に関する調査・研究を達成できたと考える。当館では、この沖ノ島関連の2番組を効果的に使い分けることで、沖ノ島に対する理解をいっそう深めていきたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4574-2

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	2) 特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】
特別展ごとに、観覧者に展示内容をよりよく理解してもらうため、教育普及プログラムを実施する。27 年度は、「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」「大英博物館展―100 のモノが語る世界の歴史―」「美の国　日本」「黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」「始皇帝と大兵馬俑」の 5 つの特別展において、教育普及プログラムを実施した。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【主な成果】体験コーナーや解説パネルの設置、ワークショップやイベントの実施をそれぞれの特別展にあわせて行った。アンケートでは「体験を通して展覧会を楽しめた」「わかりやすかった」などの高評価を得た。

(1)特別展「戦国大名」では、「戦国大名の手紙」をテーマに、楮と雁皮の原料と紙を触れる体験、手紙の包み方「切封」体験、花押制作体験の 3 箇所のコーナーを展示室内に設けた。また、子どもの日のイベントとして、出品作品の兜をペーパークラフトで作るワークショップ「手づくり兜を作ろう」を行った。展覧会関連史跡を巡るウォーキングイベント「歴史学者と行く！ 岩屋城探訪」を企画したが、天候不良のため中止となった。

(2)特別展「大英博物館展」では、展示室内に 2 箇所の体験コーナーを設けた。「楔形文字を書いてみよう」では、世界最古の文字を、葦ペンを使って粘土に書く体験、「アストロラーベを使ってみよう」では、中世ヨーロッパの天体観測機器「アストロラーベ」の北部九州版を制作し、実際に使うことで展示を見るだけではわからないアストロラーベの魅力を体験してもらうことができた。子ども向けのプログラムとしてジュニアガイドを製作し、近隣の小学 5～6 年生に事前配布したほか、来館した小中学生に配布した。親子、一般を対象にしたイベント「夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム」を計 5 回実施した。また、プロモーションビデオを製作し、展覧会を周知した。

(3)特別展「美の国　日本」では、日本独自の製作技法や、大陸から伝わり日本で発達した技法を紹介するコーナー「技あり日本！」を設置。3D プリンタで出力した銅鐸や銅鏡を触れるコーナー、漆の技法「蒔絵」をパネルや動画、道具で紹介、葦手絵をパネルで紹介した。

(4)特別展「黄金のアフガニスタン」では、展示室の外に出土した衣装の装飾と衣装を再現し、試着体験コーナーを設けた。展示室内では、金属に浮き彫りされた魚のヒレが動く作品を再現し、ヒレが動く様子を体験してもらった。また、アフガニスタンや展覧会について楽しく学べるこどもガイドを製作し、近隣の小学 5～6 年生に事前配布したほか、来館した小中学生に配布した。



「美の国　日本」体験コーナー

(5)特別展「始皇帝と大兵馬俑」では、展覧会に興味を持ってもらうようなクイズや始皇帝の生涯を紹介する読みものを盛り込んだジュニアガイドを製作した。また、展示室内では体験コーナー「秦の単位で身体測定」を実施し、秦の単位で数字が表記してある身長計と体重計を設置して来館者に体験してもらった。

【備考】「歴史系博物館と科学系博物館の連携プロジェクト－「大英博物館展」教育普及事業における北部九州版アストロラーベの製作及び活用への取り組み」－『東風西声　九州国立博物館紀要　第 11 号』（28 年 3 月 31 日）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	展示理解を深め、展示を楽しむためのバラエティに富んだプログラムを各特別展で実施し、子どもから大人まで幅広い年齢層から高い評価をいただいた。それぞれの展覧会で必要とされる知識や期待される情報を適時に提供できた。巡回展でも他館では実施していない展示室内での体験コーナーやワークショップなど、独創性に富んだ内容を実施することができた。27年度は科学系博物館とのプログラム共同開発も行い、他館と連携という観点で発展性も見込まれる。ただし、効率性、継続性については担当者の能力に依存する面があり、今後改善が必要である。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	教育普及プログラムの調査・研究は、全ての特別展において、計画的に実施されている。特別展のアンケートでも7割以上が「楽しんだ」と回答し、高い評価を得ており、来館者から満足度、期待度も高い。それにより、中期計画における「歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動に関する調査・研究」は充分に達成できたと考える。28年度はアンケートでの意見を踏まえ、さらに調査研究を進めたい。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4574-3

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	3) 学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発((5)－⑦)

【事業概要】
現在、13 種類の「きゅうぱっく」を準備し（各 2 セット、計 26 セット)、学校や社会教育団体等への貸出を行っている。今後の新規ぱっく開発を見据えて、現在ある「きゅうぱっく」の有効な活用法に関する実践事例を収集するとともに、教員研修や出前授業を通して博物館の活用や「きゅうぱっく」に関する情報を発信し、利用の普及を図る。

【担当部課】	交流課	【プロジェクト責任者】	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎

【主な成果】
「きゅうぱっく」を活用した実践事例や博物館を活用した授業作りに関する指導案を収集することで、今後の新規ぱっくの開発の方向性について検討した。教員向けの研修会を新規に立ち上げるなど、「きゅうぱっく」に関する情報発信・利用の普及を図った。また、既存アイテムの充実及び更新を進めた。

【備考】
(1)「きゅうぱっく」利用報告書を元に、学校現場が「きゅうぱっく」を利用して改善が必要と感じている部分や追加してほしい内容等をキット別に集計することで、今後の新規キット開発に向けた調査・検討を引き続き行った。また、多くの「きゅうぱっく」を活用した指導案や学習プリント等の資料を収集した。

(2)県下全域から 40 名の教諭が参加して、当館を会場に実施した福岡県教育センターのキャリアアップ講座において、博物館を活用した実践事例を含む具体的な指導案を多数収集するとともに、「きゅうぱっく」の活用について周知を図った。

(3)新規事業として当館主催の教職員向け研修会「博物館活用術!」を 4 回実施し、「きゅうぱっく」の活用について周知を図った。

(4)太宰府市立太宰府中学校の「総合的な学習の時間（飛梅タイム)」の歴史探訪講座に職員を派遣する出前授業を行った。また、春日市立須玖小学校、那珂川町立岩戸小学校、福岡市立西畑小学校にも「きゅうぱっく」を利用した出前授業を行うことで、児童生徒の反応を検証した。

(5)現在、新たな取り組みとして、3D プリンタで再現した銅戈を提供しているが、今後は青銅で再現した銅戈をパックするよう準備を進め、現状の経年劣化したアイテムを更新し、利用者の期待に応えた。


「きゅうぱっく」を利用した授業

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	「きゅうぱっく」の貸出については、75件と26年度よりやや増加し、特別支援学校等の館内利用も定着してきており、概ね順調である。出前授業での活用や教員研修に関する新規事業を立ち上げることで、有効な学習教材として認知されるよう情報発信に努めた。 今後は、収集した多くの実践事例を精査し、オリジナルの指導案等の形で公開するなどの活用方法を検討するとともに、「きゅうぱっく」の内容を充実させたいと考えている。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動に関する調査・研究」は充分に達成できたと考える。例えば、カリキュラムに「きゅうぱっく」の活用や、来館時の「きゅうぱっくを活用した体験活動」が位置づけられている学校があるなど、学校教育との連携が深化している。学校の要望に応えるために、的確な時期の情報発信や教員研修の充実、積極的な受け入れを進めるとともに、内容の充実・新規ぱっくの開発・作製が求められている。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-4

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	4)文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究（(5)－⑦）

【事業概要】開館 10 周年を迎える 27 年度は、文化交流展示室のリニューアルを行う。文化交流展示室は来館者のニーズに合わせて自由動線を基本としていたが、展示テーマ・ストーリーがわかり難い点が指摘されてきた。そこで、展示構成をよりわかりやすくする点を主眼にサインや題箋の改善、映像や会場模型の導入などを行うものとする。

【担当部課】	展示課	【プロジェクト責任者】	課長　楠井隆志

【主な成果】

(1) 文化交流展示室改善に関する全研究員、非常勤職員が参加する検討会は 23 年度より実施してきた。リニューアル実施年度にあたり、展示課・企画課研究員を中心に、より具体的な立案を行い、意見交換を重ねた。
(2) リニューアルの設計・施工に関しては、プロポーザル方式により丹青社が選定され、頻繁に検討を重ねた。図面上だけでなく、現場でのモックアップも繰り返し実施し、検討と改良を加えた。
(3) 5 つに分かれる展示テーマをよりわかりやすく示すために、色と数字を強調したサインを採用し、4 階文化交流展示室エントランスでのイメージグラフィックの提示や、展示室中央における模型を活用したガイダンスの作成、展示テーマを端的に示す映像放映を導入した。解説題箋にも展示テーマを色分けにより表記した。
(4) 展示室中央のボード裏に「きゅーはくの絵本」コーナーを新たに設置した。子供にも親しみやすい内容を目指し、当館で刊行した絵本を手にとってみることができるとともに、それに関する作品を展示するケースを設けた。
(5) 27 年 10 月 17 日開催の開館 10 周年記念式典にあわせ、計画のリニューアルを完了した。
(6) リニューアルの内容は、さまざまな媒体を活用して周知広報に努めた。



展示室中央の映像・展示室模型



色・数字による展示テーマの表示

【備考】
リニューアルに関する設計・施工業者との打ち合わせ　11 回
印刷物：当館季刊情報誌『アジアージュ』での紹介記事、リニューアル案内チラシ
新聞取材：6 件（西日本新聞、産経新聞、他）　テレビ取材：6 件（ＴＮＣ、ＦＢＳ、他）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	開館10周年という節目の年に、文化交流展示室の課題を整理・改善したリニューアルを実施することができた。来館者アンケートでも、展示構成がわかりやすくなったという意見がみられ、効果があったことを裏付けるものである。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	調査・研究成果をよりわかりやすい形で明示する取り組みがなされた。リニューアルの成果について来館者の動向調査やアンケート調査等を通じてよりニーズを把握し、さらなる改善を図っていく必要がある。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4574-5

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	5)高等学校所蔵考古資料の調査研究((5)－⑦)

【事業概要】
日本各地の高等学校には様々な考古資料が保管されている。収蔵資料の多くは、教員や地元有志からの寄贈、構内遺跡出土品、歴史系クラブ活動の調査資料品などである。いずれも高校がその地域において知の集積地として機能していたことを示し、収蔵資料の実態把握は、考古学上重要であるばかりでなく、近現代の社会史的あるいは教育史的意義を有する。しかしながら、学校によっては管理者が不在であったり、知識不足から活用がなされなかったりと、各種の問題を抱え、資料の活用が進んでいない。本研究は、高等学校が所蔵する考古資料の更なる活用にむけて、全国的な調査を実施し、その成果を展示等の博物館機能を通じて広く公開していくものである。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	文化交流展室主任研究員　市元塁

【主な成果】
(1)27 年 4 月 20 日に長野県松本市の松商学園高等学校の考古資料を調査し、保管・活用状況を明らかにした。
(2)27 年 4 月 28 日に佐賀県立小城高等学校の考古資料を小城市教育委員会のご協力のもと調査し、基本台帳を作製した。
(3)27 年 6 月 18 日に福岡県立朝倉高等学校の考古資料を調査し、保管・活用状況を明らかにした。
(4)27 年 6 月 25 日に鞍手町歴史民俗資料館を訪問し、福岡県内の高校考古資料に関する情報収集を実施した。
(5)27 年 7 月 14 日に佐賀県立小城高等学校を訪問し、前回作製した基本台帳をもとに、より詳細に個々の資料を調査した。その結果、特に 1960 年代末から 70 年代初頭にかけての同校郷土史研究部の活動を示す資料が充実して保管されていることを明らかにした。
(6)27 年 8 月 15 日に第 2 回全国高等学校考古学フォーラムを開催し、現在の高校における考古学的活動事例を収集した。また現役高校教員による座談会を開催して、高等学校における考古資料の扱いに関する課題を整理した。
(7)27 年 9 月 15 日に千葉県習志野市の東邦大学付属東邦中高等学校を訪問し、同校考古部の活動状況を調査した。
(8)27 年 10 月 1 日に秋田県立大舘鳳鳴高等学校の考古資料を秋田県教育委員会のご協力のもと調査し、保管・活用状況や現在の部活動の実態を明らかにした。
(9)28 年 1 月 28 日に福岡県立嘉穂高等学校、嘉穂東高等学校の考古資料を調査し、保管・活用状況を明らかにした。


秋田県立大舘鳳鳴高等学校での調査風景

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新規の調査を多く実施することができた。また、当館の調査研究を契機のひとつとして、全国で学校所蔵文化財に対する関心が高まり、様々な企画展や調査が進められたことを明記したい。とはいえ、こうした学校所蔵文化財の認識はいまだ限定的であり、関心も低く、現に8月に開催したフォーラムの聴講者数は26年度の第1回フォーラムが100人であったのに対し、今回は50人未満であった。広報予算が確保できず、十分に周知させることができなかったことが要因と考える。28年度も開催予定なので、特に広報の充実を図りたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画における「歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動に関する調査・研究」は充分に達成できたと考える。例えば27年度の調査においては、調査対象校がおかれた自治体との連携が比較的円滑に行えた。その手法は28年度にも継承していきたい。また28年度は、27年度までの成果を含めたトピック展示を開催する予定であり、今後も継続して調査研究を実施する予定である。

【書式Ｂ/博】　　施設名 九州国立博物館　　処理番号 4574-6

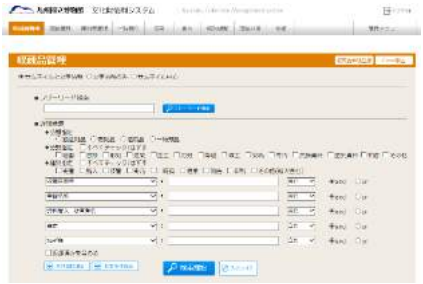
業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	6)文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究((5)－⑦)

【事業概要】
収蔵品をはじめとする文化財情報のデータベース化の基盤となるシステムの構築と安定的運用、写真(画像)資料の永久的保管と撮影機材の整備を図る。

【担当部課】	学芸部文化財課	【プロジェクト責任者】	課長　冨坂　賢

【主な成果】
(1) 収蔵品情報・画像資料の永久的保管を実現するため、バックアップ体制や障害耐性を十分に実装したハードウェア機器を導入した。
(2) 新収蔵品システムの運用を開始した。26 年度に制作されたプロトタイプを元に館内で議論を重ね、幾度かの運用テストを踏まえて本稼働に至り、全体的なアクセシビリティを向上させた。28 年度への課題として、データそのものの整備を進めることで引き継ぐデータの正確性を保証し、運用効率を高めることが挙げられる。
(3) 26 度採用された文化財データベース専任アソシエイトフェローが総務省主催の情報システム統一研修に 2 度参加し、より専門性を高め当館に成果を還元した。
(4) 27 年 10 月より写真撮影専任のアソシエイトフェローが着任し、撮影及び写場の機材整備・画像データの管理をより効率的にできるようになった。27 年 12 月には実際に館所有の機材・写場の大型ストロボ等機材を用いて宗家文書の撮影を行い、当館での撮影体制の構築に向けて準備を進めることができた。
(5) 撮影・機材整備の打ち合わせのため、27 年 10 月に京都国立博物館、27 年 11 月に奈良国立博物館に訪問し、他館の持つ撮影技術や機材の工夫などのノウハウを得ることができた。27 年 12 月には奈良文化財研究所にて行われた文化財写真研修に参加し、埋蔵文化財の野外撮影など新たな技術を習得することができた。
(6) 27 年 11 月 4 日に、Profoto 社主催の機材展示会及びセミナーに参加し、撮影機材選定のための情報収集を行った。また赤外線撮影用に保有するデジタルバックセンサーの改造、写場大扉に小扉を設置することにより大扉の開閉による写場内の温湿度変化や撮影作業の負担を抑えるなど、環境改善を図った。
(7) ポジフィルム・マイクロフィルムの物理的な保管環境の改善を図るため、保管場所を一般執務エリアから写場機材庫内にある防湿庫へ移動を行った。写場の環境はＩＰＭ定期的実施や温湿度の管理などがなされており、収蔵庫の環境とほぼ同等であるためフィルム原版の安定的保管には適している。



新収蔵品システム画面

【備考】

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	撮影の専任アソシエイトフェローを配置し、文化財機構間での連携のうえ館内で文化財撮影の実施・保管体制を確立することができた。新たな収蔵品管理システムの運用を開始し、収蔵品の管理効率を上げるとともに画像を管理するための基盤を構築した。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	予算・人的資源を最大限に活用し、文化財の保存・活用そして研究の基盤としての文化財情報の整備に計画的に着手した。これにより、中期計画における「有形文化財の管理にかかる研究」を行い、目標を達成することができた。28年度は新任の撮影技師による文化財の撮影を進めつつ、これを管理・活用する体制を整える。

【書式Ｂ/博】　施設名 九州国立博物館　処理番号 4574-7

業務実績書

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進
プロジェクト名称	7)潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究((5)-⑦)

【事業概要】平成 25 年に行った調査によると、当館に一度も来館したことがない人の割合は、年齢別では若い世代が最も多い結果となった。そこで、新たな来館者層開拓のため、考古学を通して当館の魅力を知ってもらう「きゅーはく女子考古部」を発足させる。また博物館が提供するプログラムを来館者が実施するこれまでのプログラムと違い、本研究は当館考古担当研究員が顧問となり参加者自らが活動内容を決める新たな方法を採用する。

【担当部課】	学芸部企画課	【プロジェクト責任者】	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【主な成果】

27 年 7 月から 28 年 3 月まで毎月 1 回活動した本プロジェクトでは、体験を通した活動により参加者が考古学の魅力を発見するとともに、部員それぞれがソーシャルメディアなどを通じて外部に発信をした。また、メディアの露出も多数あり、当館の魅力を十分発信することができた。

(1) 27 年 7 月のオリエンテーションでは、これまでの当館の考古関係プログラムやワークショップ等を紹介した。また、参加者の中から部長、副部長を決め、翌月以降の活動計画を立てた。

(2) 27 年 8 月は考古学入門講座として当館の文化交流展示室を考古担当研究員が案内するとともに、バックヤードツアーとして、保存修復施設等を見学し、文化財保存について学んだ。

(3) 27 年 9 月は考古学者の仕事体験の一環として福岡県桂川町の天神山古墳を訪れ、測量体験を行うとともに、王塚装飾古墳館を訪問し装飾古墳について学んだほか、土器を実際に触って質感や重さなどを体験した。

(4) 27 年 10 月は板付遺跡を訪問し、弥生時代の生活体験をした。その後、金隈遺跡を訪問し、弥生時代の埋葬文化や甕棺の変遷について学んだ。

(5) 27 年 11 月は弥生時代の住居跡が復元してある平塚川添遺跡にて、古代からある食材を使い、火おこしなど古代の調理方法で料理を作った。また、狩猟体験として、弓矢を使う体験をした。

(6) 27 年 12 月は弥生時代の衣装や装身具についてのレクチャーの後、弥生時代の服、貫頭衣を作った。また、貝や植物を使って古代アクセサリー作りも行った。

(7) 28 年 1 月は当館所蔵の「鬼瓦」「草葉文鏡」「文様磚」の 3D データから作った実物の縮小版から型を取り、チョコレートを作った。

(8) 28 年 2 月は当館展示中の資料や図録などを元に、土器づくりを行った。

(9) 28 年 3 月は年間の活動発表の場として、「きゅーはく女子考古部サミット」を開催し、広く一般に考古学の魅力を伝えるワークショップや衣装体験、女子考古部と顧問のディスカッションを行った。



古代衣装＆アクセサリー作り

【備考】

論文：「潜在的利用者とつくる新しい博物館の活用について－『きゅーはく女子考古部』の活動を通して－」
『東風西声　九州国立博物館紀要　第 11 号』(28 年 3 月 31 日)
取材：30 件（うち新聞 10 件、テレビ 5 件、ラジオ 2 件、情報誌 2 件、ウェブ：11 件）

年度計画に対する総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	参加者へのアンケート調査では、回答があった14名の全員がこの活動についてSNSやブログで発信したと答えた。また、13名が活動日以外に当館を訪れたと回答した。また、新聞、若者向けの雑誌やWEBなど多数のメディア露出により、九州のみならず全国にもあらゆる世代に向けた情報発信ができた。ただし、年9回の活動は短いという意見や、座学を増やして欲しいとの意見もあり、改善しながら28年度も継続して活動を行いたい。

中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	潜在的利用者に対しての当館のアピールは十分行えた。また、新たな手法として行った参加者自身が活動内容を決める活動も、順調に実施できた。これにより、中期計画における「教育活動等に関する調査・研究」を行い、目標を達成することができた。28年度は新たな参加者を募り、さらに発信を続けていきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5111

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究発信（(1)－① ）

【事業概要】文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国においての文化財保存・修復事業を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	主任研究員　江村知子

【スタッフ】

川野邊渉（センター長）、山内和也（地域環境研究室長）、友田正彦（保存計画研究室長）、加藤雅人（国際情報研究室長）、境野飛鳥（アソシエイトフェロー）、草薙綾（研究補佐員）、長谷川泉（研究補佐員）、橋本広美（研究補佐員）、半戸文（事務補佐員）、二神葉子（企画情報部情報システム研究室長）

【主な成果】

(1)世界遺産委員会、ICOMOS 年次総会、ICCROM 理事会等の国際会議に出席し、文化財保護に関する国際情報収集を行い、『世界遺産用語集』を刊行した。
(2)アメリカにおける動産文化財の保護および文化遺産国際協力について、ゲッティセンターにおいて調査を行った。
(3)国内で選定保存技術に関する調査を実施し、国内外に情報発信を行い、報告書を刊行した。
(4)文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たに 1 冊刊行した。

【年度実績概要】

(1)国際会議等出席

文化財保護の国際動向を把握し、情報収集を行い、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。
27 年 6 月 28 日～7 月 8 日　世界遺産委員会（ドイツ、ボン）
27 年 10 月 26 日～29 日　ICOMOS 年次総会（福岡）
27 年 11 月 18 日～20 日　第 29 回ICCROM 理事会（イタリア、ローマ）
世界遺産委員会については、事前から進めていた世界遺産一覧表記載への推薦及び保全状況報告の対象となる物件の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。また国内で疑問を寄せられることの多い世界遺産関連の専門用語についてまとめた用語集を 1 冊刊行した。
ICOMOS年次総会と ICCROM理事会では、国際情報の収集に努め、各国の専門家と情報交換を行った。


ICCROM理事会の審議の様子（ローマ）

(2)文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究

諸外国の中でも全世界の文化財を保有し、独自の方法で保護しているアメリカの現状を把握するため、国内外の関係者から聞き取り調査を行うとともに、下記の日程で調査を実施した。
27 年 12 月 14 日～18 日　ゲッティ保存修復研究所、ゲッティ美術館

(3)選定保存技術に関する調査

紙や漆に関する国際研修参加者や、海外の文化財関係機関からも関心の高い日本の選定保存技術について調査を行った。広く国内外に発信していくために、錺金具（京都）、宇陀紙（奈良）、漆掻き用具製作（青森）、玉鋼製造（島根）など 15 種類の技術について調査を実施した。また、日本の文化財の保存修復技術および日本の文化についての理解を促進するために、カレンダーを作成し、海外約 40 ヵ国の文化行政機関等をはじめ、国内外に配付した。
また各種の技術の中から 27 年度は金属に関するものをまとめた報告書 1 冊を刊行した。

(4)対訳法令集シリーズの刊行

27 年度はメキシコについて、文化財保護法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして 1 冊刊行した。

【実績値】

国際会議出席 3 回、海外調査 1回、国内調査 15 回、研究発表 1 回（①）、刊行物発行 3 冊（法令集1冊（②）、世界遺産用語集 1 冊(③)、選定保存技術に関する報告書（④））

【備考】

研究発表：①二神葉子「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」企画情報部研究会、27 年 4 月 21 日、
刊行物　：②各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ（28 年 3 月 31 日）、③『世界遺産用語集』(28 年 3 月 31 日)、④選定保存技術に関する報告書Ⅰ（28 年 3 月 31 日）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　5111
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
評定	A	B	B	B	B	

判定理由
適時性：文化遺産保護の最新の国際動向を把握し、情報を必要とする関連組織や関係者に迅速に提供している。選定保存技術に関する調査は調査先や関係先の協力を得て、当初の予定を上回る数の調査を実施することができ、情報を集約して今日的緊急課題を明らかにし、国内外に積極的に情報発信をに行った。
独創性：国際動向と国内状況に鑑みながら様々な専門分野に対応し、当研究所独自のネットワークを活用して情報収集と発信を行うことができた。
発展性：幅広く収集した情報を、所内外の調査研究活動及び文化遺産保護に関する業務において利用できる。
効率性：国内外のネットワークを通じて、最小限の従事者・規模で大きな成果を得た。
継続性：情報収集は継続して行うことでその利用価値が高まる。またホームページや刊行物などによる情報発信についても評価が高く、継続する意義が認められた。

２．定量的評価

観点	国際会議出席	海外調査	国内調査	研究発表	刊行物発行	
評定	B	B	A	B	B	

判定理由
国際会議出席：３回の会議に出席して最新の国際情報収集を行い、国際協力のネットワークを強化した。
海外調査：アメリカでの調査を実施し、これまでの調査成果と合わせて今後の調査研究業務に活用できる情報を収集することができた。
国内調査：調査関係先の協力のもと、当初の予定（10ヵ所）よりも多い15ヵ所での調査を実施することができた。
研究発表：世界遺産委員会の報告、最新の国際動向及び今後の課題について発表し、情報共有に努めた。
刊行物発行：３冊の刊行物により、専門性の高い情報を広く利用できるような形式で公開することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	当初計画の通り、文化財保護に関する国際情報の収集・分析を行い、適切かつ迅速に情報発信を行った。国内外において充実した研究交流とネットワークの強化が実施できた。また国内の選定保存技術の調査を積極的に進め、効果的に情報発信を行った結果、海外また国内からも高い評価を得ることができ、28年度に向け発展的に継続するための基盤整備ができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国際会議への参加や成果公開を通じて、国内外の研究ネットワーク強化を推進できている。28年度においても国際情勢と国内状況に鑑みながら、国際会議等に参加するとともに、文化財保護に関する国内及び海外調査等を行い、独創的で総合的な研究に発展させていく予定である。

【書式Ｂ／研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5211
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究（(2)－①－ア）

【事業概要】国際共同研究を通じて東アジア諸国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進することを目的として、中国・敦煌莫高窟壁画及び陝西省墳墓壁画の保護のための共同研究を実施する。

【担当部課】	保存修復科学センター・ 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田健 地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】早川泰弘（保存修復科学センター分析科学研究室長）、吉田直人（保存科学研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、高林弘実（京都市立芸術大学講師・客員研究員）、渡辺真樹子（絵画修復家・客員研究員）、皿井舞（企画情報部主任研究員）、津村宏臣（同志社大学准教授・客員研究員）、

【主な成果】
5ヵ年計画の最終年度として、壁画文化財等の保護に関する研究について実績をあげた。
(1)敦煌研究院保護研究所と共同で、莫高窟第 285 窟で壁画の環境に関する調査を実施した。
(2)陝西歴史博物館及び陝西省考古研究院等で隋・初唐期の壁画について調査を行った。。
(3)研究成果を国内学会及び中国で開催された 2 つの国際シンポジウムで発表した。
(4)敦煌研究院の若手研究者の研修を行った。
(5)莫高窟第 285 窟研究の成果を総括する報告書を作成するとともに、中国での評価会を開催した。

【年度実績概要】
(1)莫高窟第 285 窟において調査を行い、26 年度に引き続き、洞窟内で発生する風（空気流）によって飛ぶ微小な砂の挙動と壁画の劣化との関係についてデータを取得し、考察を行った（27 年 8 月 22 日、23 日）。
(2)陝西省考古研究院と連携し、現存例は少ないものの、技法・絵画表現において大きな変革期となる隋・初唐の墳墓壁画について調査を行い、第 285 窟の次の研究課題について考察した（27 年 10 月 21 日）。
(3)環境研究に関する成果を日本建築学会（2 件）、国際学会（1 件）、材質分析研究に関する成果を日本文化財科学会、保存修復学会（各 1 件）、保存に関する成果を国際学会（1 件）、データベースに関する成果を国際学会（1 件）で発表した。
(4)敦煌研究院保護研究所の研究員 1 名を招聘し、文化財の生物劣化とその対策に関する講義と関西地区の文化遺産等についての視察を通して研修を行った（27 年 11 月 10 日～11 月 28 日）。
(6)5 ヵ年計画の最終年にあたり、17 年度に始まり 10 年に及んだ莫高窟第 285 窟の調査研究を総括するため、これまでの成果を日中 2 ヵ国語の報告書としてまとめ、併せて敦煌研究院において総括の成果会を報告開催した（28 年 3 月 12 日）。


敦煌研究院での成果報告会

【実績値】
調査研究回数　2 回　（敦煌莫高窟調査：8 月 1 回 3 人、環境計測。西安市壁画視察：10 月 1 回 1 人）
発表件数　学会発表数　4 回(①～④)　国際シンポジウム発表数　3 回(⑤～⑦)、論文等件数　1 件(⑧)
研修実施人数　1 回 1 名、報告書件数　2 冊(⑨)

【備考】
① 三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民：敦煌莫高窟第 285 窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響、平成 27 年度日本建築学会近畿支部研究発表会（大阪）　27 年 6 月 27 日
② 岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強：敦煌莫高窟第 285 窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法、文化財保存修復学会第 37 回大会（京都）、27 年 6 月 28 日
③ 中田愛乃、高林弘実、岡田健、蘇伯民、崔強：(口頭) 敦煌莫高窟第 285 窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究、日本文化財科学会第 32 回大会（東京）、27 年 7 月 12 日
④ 箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、岡田健、蘇伯民：敦煌莫高窟第 285 窟の壁画の劣化と外気流入との関係、日本建築学会大会（関東）学術講演会、27 年 9 月 6 日
⑤ Akane Mikayama, Shuichi Hokoi, Daisuke Ogura, Ken Okada, Bomin Su: Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang. 6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, (Turin, Italy), June 15, 2015
⑥ 岡田健、津村宏臣：（口頭発表）知識科学としての敦煌データベース、2015 Dunhuang Forum:International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment、敦煌研究院（敦煌）、27 年 8 月 25 日
⑦ 岡田健：(口頭発表) 石窟壁画研究ノート―失われた壁画の記憶、第 2 回曲江壁画論壇―壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として、曲江芸術博物館（西安）、27 年 10 月 23 日
⑧ 岡田健、渡辺真樹子、高林弘実、蘇伯民、崔強：敦煌莫高窟第 285 窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法、保存科学 55、pp.139-149、28 年 3 月
⑨ 敦煌莫高窟第 285 窟研究―壁画材料劣化メカニズムの解明、東文研/敦煌研究院、28 年 3 月、日文中文各 1 冊

【書式Ｂ／研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　5211

（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	B	B	A

判定理由

適時性：1980 年代、国交正常化後の文化交流の象徴的事業として始められた敦煌壁画の保護に関する日中共同研究は、四半世紀の長きにわたり相互の文化財研究と保存のための人材育成に貢献し続けてきた。日中関係の歴史を尊び、未来を展望する意味において、改めてその貢献の重要さが認識される。

独創性：窟内の微風に起因する砂の衝突による壁画の劣化という新たな観点からの研究は、具体的な壁画の劣化状態と微風の観測、及び建築環境学のシミュレーション研究を合体させたもので、石窟保護の研究においては画期的な手法を提供するものであり、高い独創性があると考えられる。

発展性：６世紀半ばの敦煌壁画に関する調査研究は、７世紀の朝鮮半島・日本を含む東アジア地域における壁画文化の発展に関する研究につながるものであり、本研究の成果をもとに、続く隋・初唐時代の壁画の研究を進め、我が国の法隆寺金堂壁画、高松塚・キトラ古墳壁画へ繋がる研究の基盤を構築することができた。

効率性：調査内容と参加人員を厳選し、効率よく実施している。

継続性：長期にわたって共同研究を積み重ね、若手研究者の研修を実施して日本の文化財科学研究や文化財保護の理念についても理解を深めてもらい、若手研究者同士の信頼関係構築にも注意を払い、次期中期計画における共同研究の内容と方法について議論してきたが、27 年度をもって一応の区切りとすることになった。

正確性：自然科学的手法による論理的な検証方法の採用により、壁画の造営工程の研究に正確性を与えた。

２．定量的評価

観点	調査研究回数	発表件数	研修実施人数	報告書件数		
評定	B	A	B	B		

判定理由

調査研究回数：当初の計画通りに実施した。

発表件数　：中期計画最終年度にあたり、長期の共同研究を総括する場として国内学会や国際シンポジウム等多様な方法で多数発表できた。

研修者人数　：当初の計画通り招聘し実施した。

報告書件数　：当初の計画通り最終年度としての報告書を日中２ヵ国語で作成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27年度は、18年以来10年にわたり実施してきた敦煌莫高窟第285窟の調査研究を総括し、今後の新たな研究展開のための準備を進めることを目指した。25年度以来実施している窟内の微風に起因する砂の衝突による壁画の劣化に関する研究において最終的な成果をまとめるとともに、壁画材料及び制作技法の研究をまとめ、第285窟における壁画制作の面から見た造営工程の解明に、一定の法則性を見いだすことができた。国内外の学会発表、敦煌研究院が主催するものを含む国際シンポジウムで広範な内容について成果発表を行った。敦煌研究院保護研究所生物研究室の若手研究員受け入れは短期間ながら保存修復科学センター研究員による生物科学及び文化財環境に関する集中的な講義を行い、環境を含む様々な要因を考慮して生物による劣化対策を講じる方法について研修を行い、成果をあげた。敦煌研究院において第285窟の共同研究に関する総括報告会を開催し、評価を得た。会議に合わせ日中２ヵ国語による報告書2冊を作成し、配布した。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来壁画は、図像研究や考古学研究、美術史の様式論によって価値の判断がなされ、物理的な修復の材料と技術によって保存の方法が検討されてきたが、両者は常に別々の研究領域として存在してきた。10年間に及ぶ敦煌莫高窟第285窟での壁画研究は、前後2期の中期計画を通じて、制作材料と技法という観点から壁画表現を客観的に評価し、自然科学分析と丹念な考察によってその劣化メカニズムを理論化し、科学的に当初の色彩を復原しようとする試みを実現したものであり、考古学・美術史・文化財科学及びその他の研究領域を包含し、文化財研究としての新たな方法を構築し、中国文化遺産保護に貢献するという所期の目的以上の成果を十分に達成することができた。さらに陝西省考古研究院との連携のもと、より広範な東アジア全域に対する視点をもって壁画研究を継続する基盤を作った。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　5212

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	韓国及び日本の石造文化財を対象にした保存修復のための共同研究（(2)－①－イ）

【事業概要】
韓国・国立文化財研究所（韓文研）と共同研究を行い、保存修復技術に関する情報共有を進める。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	修復材料研究室長　朽津信明

【スタッフ】
早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、岡田健（センター長）

【主な成果】
「文化財の保存環境及び保存修復技術研究」に関する日韓共同研究合意書に基づく韓文研保存科学研究室との共同研究において（27 年度で第 4 期 5 年目）、韓国側研究者との研究交流により双方の研究発展を図っている。27 年度は、以下の内容を実施した。
(1)　7 月に東京文化財研究所地階会議室でワークショップを開催し、両国の研究者による発表及び討議を行った。
(2)　7 月に日本国内での現地調査を実施した。
(3)　ワークショップでの発表内容については韓日共同研究報告書として刊行した。

【年度実績概要】
(1)　ワークショップの開催（日本）（27 年 7 月 8 日）
・27 年度は日本側が開催する順番であり、27 年 7 月 8 日に東京文化財研究所地階会議室にてワークショップを開催した。日本側からは、「日本における石塔の地震対策」（朽津）、「石灯籠の地震対策に関する評価」（森井）の発表を行った。韓国側も石造文化財の保存技術や石塔の修理に関して 4 名の発表があった。
(2)　共同調査の実施
・調査日：27 年 7 月 6 日、7 日（日本）
ワークショップに先立ち、日本における石塔の地震対策事例として明導寺七重石塔（湯前町）などを訪問し共同調査を実施した。また、老神神社（人吉市）など木造建造物覆屋でも共同調査を行った。
(3)　報告書の刊行
・27 年度に開催したワークショップでの発表内容を報告書「2015 年度日韓共同研究報告書」（27 年 7 月刊行）にまとめた。



重要文化財・明導寺七重石塔
における共同調査

【実績値】
報告書：1 件（①）

【備考】
報告書
①　2015 年度日韓共同研究報告書　東京文化財研究所／韓国・国立文化財研究所　27 年 7 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5212
（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
評定	A	B	B	B		

判定理由
適時性：ワークショップにおける各発表者の発表内容をすみやかに報告書にまとめ、屋外文化財に関わるその他の研究者に向けて公表することができたことは、高い成果である。
発展性：今年は石造文化財の構造安定性がテーマであり、石造文化財の劣化と環境について共同研究を行っていた以前と比べて、石造文化財の総合的な保存対策について議論を進めることができた。
効率性：日韓ともに国内事業で多忙な中で共同研究成果をあげるため、一度の調査で複数の調査対象地をまわることで効率的な調査に努めた。
継続性：毎年１回のワークショップを日韓交互に開催することにしており、事務的負担を軽減しながら持続的に共同研究を進めている。

２．定量的評価

観点	報告書					
評定	B					

判定理由
報告書：ワークショップの発表内容を中心に報告書としてまとめることができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	日韓共同研究合意書に基づく本調査研究において、27 年度は日本側でワークショップを実施し、石造文化財の構造安定性について日韓研究者の議論及び情報共有を行うことができた。また、両国における調査研究は時間的な制約がある中、効率的に調査対象地を回ることができ、石塔の地震対策について把握することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画通りにワークショップを行い、最終年度の27年度には報告書も出版できた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5213
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（(2)－①－ウ）

【事業概要】
ASEAN 諸国を中心とする東南アジア及びその周辺地域は、多くの貴重な文化遺産を有し、我が国との文化的交流も緊密であるが、文化遺産保護体制や専門技術の水準において未だ課題を抱えている国が少なくない。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
川野邊渉（センター長）、山下好彦（任期付研究員）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）、山田大樹（アソシエイトフェロー）、増渕麻里耶（アソシエイトフェロー）、北川瑞季（研究補佐員）、近藤洋（研究補佐員）

【主な成果】
(1)ASEAN 域内 5 ヵ国の専門家を招聘し、研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」を開催した。
(2)カンボジアでは、タネイ遺跡保存整備計画策定支援を継続し、諸国際会合に参加した。
(3)ブータンでは、伝統的版築造建造物保存に向けた現地協議を行った。
(4)ミャンマーでは、伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップを開催した。
(5)インドネシアでは、パダン歴史地区復興に関する住民参加型セミナーを開催した。

【年度実績概要】
(1)・インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマーの各国より遺跡保護専門家を招聘し、考古・建築遺跡等の調査や保存整備活用における技術的課題を中心とする事例発表と討議からなる研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」を当研究所地下セミナー室にて開催した（27 年 11 月 13 日）。また、富岡製糸場、保渡田古墳群及びかみつけの里博物館を視察し、担当者との意見交換を行った（27 年 11 月 14 日）。
(2)・アプサラ機構の担当部局とともに、タネイ遺跡保存整備計画策定のための記録作業として、遺跡の三次元写真測量を実施し、これに関する技術移転を行った（27 年 5 月 26 日～6 月 2 日）。
・アンコール遺跡保存国際調整委員会第 24 回技術会議に参加し、上記作業の成果報告を行ったほか（27 年 6 月 4 日）、同第 22 回本会議（27 年 12 月 3 日）、第 25 回技術会議（27 年 12 月 4 日）にも参加し、国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
・タネイ遺跡内設置の気象観測装置につき、機材メンテナンス、データ回収、バッテリー・センサー交換等を同機構担当者と共に実施した（27 年 12 月 4 日）。


タネイ遺跡における
三次元写真測量作業

・タネイ遺跡のリスクマップ作成のため、同機構担当者と共に危険個所評価手法等に関する調査及びワークショップを実施した（28 年 2 月 14 日～15 日）。
(3)・ブータンの伝統的版築造建造物保存に関し、内務文化省文化局遺産保存課職員らによる集落調査の進捗状況及び成果につき報告を受けるとともに、調査方法及び今後の計画等に関し意見交換を行った（27 年 12 月 21 日～23 日）。
(4)・ミャンマーのバガン漆博物館において、伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップを開催した（28 年 1 月 14 日～15 日）。また、現地での関連調査を実施した。
(5)・インドネシア西スマトラ州パダン歴史地区復興支援に向けた住民参加型ワークショップを、文化教育省、州政府、市政府、ブンハッタ大学等と共同開催した。また、現状の問題点や今後の展望等につき市長らと協議を行った（27 年 8 月 24 日～27 日）。

【実績値】
海外調査（専門家派遣）6 回、専門家招聘　1 回、研究会開催　2 回、報告書作成　4 冊（①～④）

【備考】
報告書作成
①東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成 27 年度成果報告書　28 年 3 月
②「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会報告書（日英併記）28 年 3 月
③Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat（インドネシア語）27 年 8 月
④Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat”（インドネシア語）28 年 3 月
国際会議・学会報告
・佐藤桂「3D Documentation at Ta Nei temple」（アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第 24 回技術会議、27 年 6 月 4 日、アプサラ機構本部）
・佐藤桂、友田正彦、江面嗣人、青木孝義、冨永善啓、宮本慎宏「ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究　その 5　版築職人への聞き取り調査」（日本建築学会大会学術講演会　27 年 9 月 4 日、東海大学）
・マハラジャンアキララル、脇田祥尚、竹内泰、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀、中尾謙太「インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009 年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その 8」（日本建築学会大会学術講演会　27 年 9 月 5 日、東海大学）
・竹内泰、脇田祥尚、友田正彦、佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀「インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009 年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その 9」（日本建築学会大会学術講演会　27 年 9 月 5 日、東海大学）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5213
（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	A	B

判定理由
適時性：ASEAN 諸国において、協力相手国のニーズに応じた支援活動を継続的に実施するとともに、今後の協力事業の方向性を見極めるための研究会を企画・開催したことで、有用な成果を得ることができた。
独創性：カンボジアで試行した三次元写真測量の技術は、他の遺跡においても現状記録として有効かつ簡便な手法として応用可能である。また、ミャンマーでは、日本の伝統技術を活かした漆工芸分野の支援事業を実施した。
発展性：アプサラ機構によるタネイ遺跡保存整備事業の進展に合わせて、適切な技術支援を継続しながら、今後も発展的に協力事業を行っていく予定である。また、ミャンマーの漆工芸分野における保存は既存の蓄積がない分野であり、今後多くの新知見を得られることが期待される。
効率性：所内の専門人材を中心に実施しており、現地機関との協力、他事業との連携も通じて効率的に事業効果を上げることができた。既存の調査データや機材・設備を有効に活用して調査研究を実施している。
継続性：いずれも 26 年度からの実施内容を発展的に継続しており、現地機関への技術移転等も着実に実施しつつ、新規の調査研究項目を加えてきている。
正確性：外部資金事業との連携も図りつつ、計画以上に事業を実施した。

２．定量的評価

観点	海外調査	専門家招聘	研究会開催	報告書作成		
評定	A	B	A	A		

判定理由
海外調査：当初予定 4 回のところ 6 回の現地派遣を実施した。
専門家招聘：ASEAN 域内 5 ヵ国より専門家を招聘し、情報共有とともに協力ネットワークの構築を図ることができた。
研究会開催：東南アジア地域の遺跡保存をめぐる技術的課題をテーマとした研究会を開催し、域内及び多国間連携も視野に入れた今後の展望等について意見交換することができた。さらに、インドネシアでは 2009 年の震災後から継続的に実施してきた支援事業のまとめとして、住民参加型ワークショップを開催し、今後の展望を得ることができた。
報告書作成：研究調査や協力事業の内容を取りまとめた報告書を当初予定を上回る数刊行し、成果の公開と普及を図ることができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	カンボジアにおいては､現地機関主体による遺跡保存整備を技術面で支援するという基本的考え方のもと、必要な現地作業を実施することができた。 ブータンでは、26 年度まで継続してきた協力事業のフォローアップを実施し、今後の展望を含め、着実な進捗を得ることができた。 ミャンマーでは、漆工芸保存分野での調査研究の促進が今後も期待される。 招聘研究会では、地域横断的な技術的課題克服のための意見交換を行うことができ、専門家及び関係者間での情報共有を促進し、今後に向けた方向性を示すことができた。 インドネシアでの歴史的街区復興支援をさらに進めることができた。 以上の事から所期の目標以上の成果をあげることができたと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	カンボジアにおいてはタネイ遺跡保存整備に関する協力事業を引き続き実施し、アプサラ機構への技術移転及び研究交流をさらに促進している。また、ミャンマーにおいては、外部資金事業とも連携しながら文化遺産保存修復協力の成果を着実に挙げるとともに、専門家交流を通じた連携を強化してきた。28 年度計画においては、更に地域横断的な連携協力も視野に入れつつ協力を実施していきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 5214

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力
プロジェクト名称	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査（(2)－①－ウ）

【事業概要】
カンボジア・アンコール遺跡群（西トップ遺跡）において、建築学的・考古学的・保存科学的調査を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋

【スタッフ】
森本 晋(国際遺跡研究室長)、影山悦子(国際遺跡研究室アソシエイトフェロー)、佐藤由似(国際遺跡研究室研究補佐員)、大林 潤（遺構研究室研究員)、高妻洋成（保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎(保存修復科学研究室研究員)、田村朋美(保存修復科学研究室研究員)

【主な成果】
(1)総合的成果としては、南祠堂の再構築が完了し、国際調整委員会アドホック委員の現地視察等を終了した。27 年度後半には次の目標である北祠堂の解体準備に着手し、一部解体を開始した。
(2)考古学的調査としては、西トップ遺跡周辺の小規模な発掘調査を実施し、周辺部の往事の環境復元に資する成果を得た。
(3)建築学的調査に関しては、再構築に際しての地盤強度試験等を行い、再構築に使用する基壇改良土の検討を行った。

【年度実績概要】
(1)引き続き南祠堂の解体修復を継続し、27 年度後半に再構築を終了した。その後ユネスコ・アドホック委員の視察を受け、了承を受け、南祠堂解体修復を完了した。
(2)北祠堂の解体修復に着手した。まず 26 年度実施した３Ｄ測量の成果図を元に、北祠堂各部材に番付を施し、順次上層石材から解体を始めた。今回は各層ごとに西仮組場に部材をまとめ、仮組を併行して行いながら解体を進め、工期の短縮に努めている。同時に北側散乱石材にも番付を付し、移動を始めた。
(3)西トップ遺跡の東側道路周辺に２ヵ所、南側窪地に１ヵ所の計 3 ヵ所に発掘調査区を設け、東側道路の構造と雨期の運河としての活用状況、南側窪地の深さや構築状況を調査し、往事の周辺環境の復元に資する成果を得た。
(4)南祠堂の再構築に当たっては基壇土の改良をどのように行うかが問題となった。ユネスコ・アドホック委員の諮問も受け、ジオテキスタイルを使用するとともに、基壇土を改良して版築を行うこととした。


写真１　完成前の最終仕上げ


写真２　南祠堂完工写真

【実績値】
・調査回数 3 回（遺跡東側で 2 回、南側で 1 回）
・論文数 2 件（①②）
・成果報告数 2 件
(アンコール遺跡群国際調整会議技術委員会 27 年 6 月 4～5 日､27 年 11 月 28 日ユネスコ現地調査時の報告(口頭発表))
・公刊図書数 2 件
　西トップ遺跡　パンフレット（28 年 2 月）の刊行（発行数 2,000 部）（③）
　西トップ遺跡の調査修復に関する年次報告書 南祠堂解体報告３ 28 年 2 月刊行（④） 計 2 件

【備考】
①杉山洋・石村智・佐藤由似「西トップ遺跡の調査と修復」『奈良文化財研究所紀要 2016』28.6（予定）
②杉山洋「カンボジアにおける青銅鏡について」『東南アジア考古学』第 29 号　28.1
③『西トップ遺跡　パンフレット』28.2
④『西トップ遺跡調査修復中間報告 南祠堂解体編３』28.2

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　5214
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：カンボジアの西トップ遺跡はいずれもその保存が国際社会によって切望されており、それに貢献する本事業は適時性にかなっている。
独創性：この事業は当該地では初めての調査修復という、調査と修復を同列に位置付けた新たな修復の形を取っている。その点、多くの修復活動が行われている当該地においても独創的な手法として評価されている。
発展性：南祠堂の再構築を行い、その手法は今後、北祠堂と中央祠堂の調査修復に、方法論的に発展継承されていく。
効率性：当該地に於ける修復事業の中では、際だって小規模な人員と予算で行っている修復活動である。しかし適切な人員配置と機材配置を実践することによって、最小規模で最大の効果を上げうる調査修復を試みている。
継続性：今後北祠堂と中央祠堂へと調査修復は続いていく計画であり、継続して調査と研究が進む予定である。
正確性：修復に当たっては３Ｄ測量等の最新測量手法を用い、各段階での詳細な記録を残している。また修復に当たっては、建築学、地質学など関係諸方面の学識経験者からの指導をいただきながら、正確性を担保している。

２．定量的評価

観点	調査回数	論文数	成果報告数	公刊図書数		
評定	B	B	B	B		

判定理由
調査回数　：南祠堂周辺で3回の発掘調査を行い、目標値を達成した。
論文数　　：2編を発表し目標値を達成した
成果報告数：年2回開催の国際会議で経過と成果を報告した。予定通りの報告となった。
公刊図書数：27年は今後増加が予想される来訪者向けのパンフレットを発行1冊発行した。毎年1冊の解体報告書を刊行する予定で、予定通り『西トップ遺跡調査修復中間報告 南祠堂解体編３』を上梓した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	西トップ遺跡の調査修復事業は、文化復興を進めるカンボジアへの国際文化協力として、適時性を有するとともに、2020 年度まで修復工事を継続する予定であり、発展性・継続性も担保されている。また予算の執行に際しては、最大限の効果を発揮するように配慮して執行を行っており、効率性の上でも配慮した予算執行となっている。 以上、各項目に沿った評価においても、順調にかつ効率的に事業が推移していると判断した。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27 年度に南祠堂の解体再構築を行うという当初計画に沿った内容となった。中期計画ではこの５年間で南祠堂の解体再構築と、北祠堂の解体再構築の着手の予定であり、いずれも中期計画最終年度の実績として予定通りの実施状況となった。ただ南祠堂の解体再構築に当たっては予定以上の日数を費やす結果と成っており、今後の北祠堂・中央祠堂の解体再構築では、南祠堂解体再構築で培った技術・手法を最大限生かして、計画通りの効率的な事業実施画が臨まれる。 以上、南祠堂の解体・再構築の完了と北祠堂の解体再構築への着手という当初中期計画通りの事業推移であり、順調と判断した。

【書式B/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5215
(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力
プロジェクト名称	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業((2)－①－エ)

【事業概要】西アジア諸国等の文化財の保護・保存修復に関する協力・支援事業の一環として、特に内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、紛争後の自国民の手による文化財保護事業の確立のための手法を検討するとともに、適切な支援を行なう。また、併せて周辺地域（特にキルギス、タジキスタン、イラン等）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】久米正吾（アソシエイトフェロー)、山田大樹（アソシエイトフェロー)、山藤正敏（アソシエイトフェロー)、近藤洋（研究補佐員)、間舎裕生（慶応大学非常勤講師・客員研究員)、古川尚彬（首都大学東京都市環境学部特任助教・客員研究員)、谷口陽子（筑波大学准教授・客員研究員)

【主な成果】
(1)アフガニスタン･イラク：バーミヤーン遺跡における保護の在り方や日本の協力、イラク等の戦争･紛争後の文化遺産復興の在り方ついて検討を行なった。アフガニスタン前年度活動の報告書の作成・刊行を実施した。
(2)西アジア周辺諸国の文化遺産の調査研究・保護への協力等：キルギス、イラン、カザフスタンにおいて実施した。

【年度実績概要】
(1)アフガニスタン
・『バーミヤーン遺跡保存事業第12次ミッション概報』(英) 刊行（備考欄①)
・シンポジウム「紛争と文化遺産－紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興－」開催および発表「文化遺産の破壊、そして復興：日本の文化遺産国際協力(山内)」（発表1)：28年1月24日(開催後に備考欄③刊行)
・「バーミヤーン遺跡の大仏再建に関する研究会」開催（日本イコモス国内委員会と共催)：27年7月22日(研究会に伴い備考欄④刊行)



「紛争と文化遺産」シンポジウムの様子

(2)西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等
・キルギス：ユネスコ文化遺産保存信託基金事業による共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力および人材育成ワークショップの開催：27年10月2日～10日、23年度から26年度までの調査成果をまとめた報告書を刊行（備考欄②)、第21回東アジア･中央アジア分科会における発表「キルギス共和国における博物館をめぐる課題（山内)」（発表2)：27年7月13日
・イラン：27年度トルコ文化研究センター研究会における発表「イランの建築と文化（山内、山田）」武庫川女子大学（発表3）： 27年6月4日、イランにおける文化遺産視察および関係機関との意見交換についてまとめた報告書を刊行（日/英)：27年7月/27年9月（備考欄⑤/⑥)、中央アジア歴史都市会議における発表「Preservation as the Sustainable Historic District（山田)」（発表4)：27年9月30日
・カザフスタン：シルクロード世界遺産登録調整会議への出席：27年11月
・エジプト：JICA事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力

【実績値】
海外派遣回数:3回、海外派遣者数：3名、招聘者数：2名
ワークショップ回数：1回、発表件数：4件、報告書件数：6件（①～⑥)

【備考】
①『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013:11th mission』27年12月
②『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡―2011～2014年度―』28年3月
③シンポジウム報告書『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』28年3月
④『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』27年7月
⑤『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』27年8月
⑥『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』27年9月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　5215
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	A	B	A	B

判定理由
適時性：世界各地で紛争・災害・開発等によって危機にさらされている文化遺産（アフガニスタン、イラク、シリア等）を保護する活動は緊急かつ不可欠であり、またその文化遺産復興においては、当事国及び海外諸国と協調して取り組むべき国際的課題である。
独創性：我が国の人的・技術的・学術的資源及び国際的ネットワークを基盤とし、適切に本事業を実施している。
発展性：当該国の専門家の人材育成と技術移転を図ることによって、持続性のある文化遺産保護活動を支援しており、当該国と国際的な文化遺産専門家間交流の促進を図り、将来的な展開の基礎を構築している。また、シリアやイラクなど現在紛争下にある地域の将来的な復興の礎となる文化遺産復興支援に手法についての検討、提言を行っている。
効率性：国内外の他機関との連携や人的・設備的資源を横断的に活用することによって、十分な効率性を図っている。
継続性：当該国側からの具体的な要請内容に基づいて人材育成・技術移転事業を展開しており、当該国による持続的な文化遺産保護活動の促進に寄与している。
正確性：西アジア地域及びその周辺諸国（キルギス、イラン、カザフスタン）に計３回の海外派遣を行い、適切に事業を展開している。

２．定量的評価

観点	海外派遣回数	海外派遣人数	招聘者数	ワークショップ回数	発表件数	報告書件数
評定	B	B	B	B	B	A

判定理由
海外派遣回数：イラン、キルギス、カザフスタンに計３回の海外派遣を実施している。
海外派遣者数：適切かつ多様な専門家を派遣し、文化遺産国際協力活動に貢献している。
招聘者数：イラク及びアフガニスタンからの専門家の２名の招聘を通じて、我が国の文化遺産を通じた国際協力の在り方を熟考するシンポジウムを開催し、専門家間の国際的交流の促進にも大きく寄与している。
ワークショップ回数：UNESCO 日本信託基金と併せて、当事国（キルギス）の要請のある分野に配慮し、９日間にわたるワークショップ（現地からの受講者８名）を１回開催している。
発表件数：活動成果等については、国内外の学会等において積極的な公表を実施している。
報告書件数：27年度は５ヵ年の最終年度として、これまでの成果のまとめに注力し、バーミヤーン関連報告書やキルギス報告書など計6冊を刊行し、これまでの本事業を総括した成果物を多数刊行できた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	情勢の安定しないアフガニスタン･イラクから専門家を計2名6日間に渡って招聘し、シンポジウムを行い、紛争下及び紛争後の地域における日本国の文化遺産協力の枠組みを熟考する機会を設けた。また、バーミヤーン東大仏の再建問題を巡る研究会を開催し、バーミヤーン遺跡の保護の今後の在り方について議論を深めた。その他、中央アジア・コーカサス地域等ではユネスコ文化遺産保存日本信託基金と連携して継続的に事業を展開し、当該諸国への技術移転を確実に行うと同時に、国際ワークショップ等を通じて専門家間の交流を促進させ、国際ネットワーク形成にも大きな貢献を果たした。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	５ヵ年の最終年としての成果のまとめに注力する等、当該年度計画を十分に達成したことから順調と判断した。また、人材育成、技術移転、調査研究、国際ネットワーク形成等の計画の主要素がバランスよく進展し、西アジア諸国等における文化遺産に係る国際協力の推進が確実に実行している。一方で、アフガニスタン及びイラクに関しては、治安情勢が厳しいこともあり、人員の派遣が難しい。しかし、当該国の要請に応じて、臨機応変に対応しながら、人材育成・技術移転等の協力を実施している。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5216

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（(2)－①－オ）

【事業概要】ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。また、時代幅については、6～8 世紀を基軸におき、紀元前後から 13 世紀の壁画を主な対象とする。

【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田　健 文化遺産国際協力センター地域環境研究室長 山内和也

【スタッフ】
山藤正敏（文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）、藤澤明（帝京大学文化財研究所・客員研究員）

【主な成果】
(1) タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復報告書：同プロジェクト最終年度である 27 年度は、26 年度までに保存修復のみならず展示及び一般公開まで実現したフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業について報告書を作成した。

【年度実績概要】
(1) タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復報告書

・27 年 5 月 13 日及び 7 月 13 日、タジキスタン国立古代博物館において実施したフルブック遺跡出土イスラーム壁画断片の保存修復と展示のためのマウント作業に関する報告書作成に向けて、ミッション参加者・執筆者が一堂に会して、報告書の構成・内容について話し合い、詳細を決定した。
・27 年 8 月～28 年 2 月、上記の通り 2 度開催された編集会議に基づいて、原稿の執筆及び報告書の編集作業を進め、壁画修復ミッションの総括を行った。この結果、本プロジェクトの最終報告書の刊行に至った（備考欄①）。



『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』報告書表紙

【実績値】
報告書件数：1 件（①）、発表件数：1 件（②）

【備考】
① 『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』28 年 2 月
② 小川絢子・藤澤明・成田朱美・増田久美・島津美子・山内和也「タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復―壁画断片群のマウント処置と展示―」文化財保存修復学会第 37 回大会ポスター発表、27 年 6 月 28 日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　5216
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	B	B	B

判定理由
適時性：壁画の保存修復は、アジア諸国共通の緊急課題であり、本研究は国際的ニーズに応えるものである。
独創性：ユーラシアの壁画を技術・文化・技法の観点から横断的に研究する本プロジェクトは極めて革新的である。
発展性：27 年度は、専らフルブック出土壁画断片の保存修復に関する報告書の作成に専念した。この報告書は、壁画断片の修復から博物館における展示まで一連の作業を精確に記載したものであり、今後同類のプロジェクトを新たに展開する上で、大きな布石となったといえる。
効率性：報告書作成に当たって、保存修復ミッションにおける担当者ごとに執筆を分担し、各執筆者が他の執筆部分を相互に査読することにより、個人への作業負担の集中を防いだ。また、こうした配慮により報告書の記述の統一性・適格性がより高まった。
継続性：26 年度までの研究成果を総括した報告書の作成により、今後新たな調査研究を行う上での基礎が構築された。
正確性：報告書刊行にあたり、本プロジェクトにおいて実施した各ミッションのデータが適切に整理された。

２．定量的評価

観点	報告書件数	発表件数				
評定	B	B				

判定理由
報告書件数：タジキスタン国立古代博物館所蔵のフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業に関する包括的な報告書を刊行した。
発表件数：タジキスタン国立古代博物館所蔵のフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復並びに展示について成果を公開した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	現地治安情勢などにより海外派遣及び壁画研究会の開催は見送られたものの、過去3年間で実施したミッションを総括する体系的な報告書を刊行できた。今後あらたに事業を実施する際に基礎的参考資料として依拠できる本報告書の刊行により、ユーラシア壁画の調査研究ならびに保存修復の発展に十分寄与できた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画５年目として、本プロジェクトは所期の目的をおおむね達成することができた。27 年度は本プロジェクト最終年度であり、これまでの成果を総括する必要があった。タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復は本プロジェクトの中核をなすものであり、これに関する最終報告書刊行により、今後の当該分野の発展に積極的に寄与することができた。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5311

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	国際研修「紙の保存と修復」((3)－①)

【事業概要】　日本の紙本文化財の取扱いや修復には専門の知識や経験が必要であるにも関わらず、それらの文化財を所蔵する海外の美術館・博物館では専属の専門家が措置されていないことが多い。また近年では、和紙をはじめとする日本の伝統的な修復材料や技術が、欧米の文化財修復に応用され関心が高まっている。しかし、これらの情報や経験を得る機会はほとんど提供されていないのが現状である。本事業では、日本国内において文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）と共同で英語を用いた国際研修会を、メキシコ合衆国内おいては ICCROM 及び INAH（メキシコ国立人類学歴史機構）と共同でスペイン語を用いた国際研修を開催し、広く海外に技術移転を行っている。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】加藤雅人（国際情報研究室長）、江村知子（主任研究員）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、小田桃子（アソシエイトフェロー）、木原山奈々（前研究補佐員）、後藤里架（研究補佐員）、鳴原由美（研究補佐員）、山之上理加（研究補佐員）、早川典子（保存修復科学センター主任研究員）、今城裕香（研究支援推進部企画渉外係主任）、鈴木絢香（アソシエイトフェロー）、荒木晶（事務補佐員）、小田切真梨（事務補佐員）

【主な成果】

和紙を使用した紙本文化財の保存修復に関する研修を行った。

(1)日本国内研修：日本の紙本文化財修復に使用する材料、道具、美術史、日本の文化財修復制度に関する講義。巻子修復、和綴じ冊子作製、掛軸・屏風の取り扱い実習。和紙製造現場及び紙本文化財関連施設の見学。

(2)メキシコ研修：紙本文化財修復に使用する道具・材料、技術に関する講義。デンプン糊調製、和紙を用いた裏打ち、和紙を用いた強化、欠失部の補修に関する実習。

【年度実績概要】

(1)日本国内研修

タイトル：国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
場所：東京文化財研究所、その他
期間：27 年 8 月 31 日～9 月 18 日
参加者国名：オーストラリア、ベルギー、ルーマニア、ブラジル、スリランカ、オーストリア、アイルランド、ロシア、オランダ、アメリカ
内容：[講義]加藤雅人「日本の文化財保護と装潢修理技術」、「紙の基礎」、早川典子「日本画修復に使われる接着剤について」、大久保純一「浮世絵版画の歴史と作品の保存状態について」、田中重己・田中宏平「刷毛」。
[実習、その他]巻子修復、冊子綴じ、掛軸・屏風取り扱い、所内見学、討論。
[見学]名古屋市（名古屋城）、美濃市（美濃竹紙工房）、京都市（修復材料・道具店、岡墨光堂（修復工房）


実習風景

(2)メキシコ研修

タイトル：ICCROM-LATAM プログラムにおける International Course on Paper Conservation in Latin America
場所：メキシコ国立人類学歴史機構
期間：27 年 11 月 4 日～20 日
参加者国名：ポルトガル、ベリーズ、チリ、コロンビア、キューバ、メキシコ、ウルグアイ、ベネズエラ
内容：
研修前半（日本人講師による）[講義] 加藤雅人「日本の文化財保護と装潢修理技術」、「紙の基礎」、楠京子「装潢修理技術に使用する接着剤」、嘉門一彦「装潢修理技術」、「装潢分野で用いる道具」、「修復前調査」
[実習] 和紙や糊などを用いた裏打ち、補強、補修など。
研修後半（日本国内研修に参加経験のあるメキシコ、スペイン、アルゼンチンの講師による）[講義・実習] 日本の材料、道具、技術の欧米の文化財修復への応用

(3)INAH 職員の招聘

メキシコ研修プログラムの一環として INAH の職員を招聘し、26 年度 27 年 3 月から 27 年 6 月までの約 4 ヵ月間、日本の紙本文化財修復の材料及び技術を欧米の文化財修復に応用するための研究及び技術移転を行った。

【実績値】

研修会開催数：2 回、国内研修参加者数：10 名、メキシコ研修参加者数：8 名、国内研修参加者満足度：100%

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　5311
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
評定	A	A	A	A	A	

判定理由
適時性：海外の美術館・博物館、修復関係者からの常に要望が高く、例年開催していることから適時性が高い。
独創性：伝統技術、材料科学、歴史学などの様々な専門家による講義及び実習を備え、かつ紙漉現場などの実地学習をも備えた研修は当研究所独自のものである。
発展性：日本の紙文化財だけでなく海外の文化財の修復にも応用が可能である。帰国後のフォローも行っている。さらに参加者が帰国後に報告会、シンポジウム、ワークショップなどで報告することで知見・経験が共有されている。
効率性：プログラム編成や旅程を工夫することで、限られた費用と期間で最大限の研修効果を得ることができた。
継続性：参加者から好評を得ており、既に 20 年以上の歴史を持つが常に各国からの要望も高いため今後も継続していくことが望まれる。

２．定量的評価

観点	研修会開催数	国内研修 参加者数	メキシコ研修 参加者数	研修 参加者満足度		
評定	B	B	B	S		

判定理由
研修会開催数、国内研修参加者数、メキシコ研修参加者数：予定通り完了した。
研修参加者満足度：国内研修でのアンケート及び討論を通して、全員から満足度100%と極めて高い評価を得た。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本国内における研修とともに、メキシコにおいても研修を行い、修復技術の移転を行うことができた。両研修ともに、参加者から高い評価を得た。また、近年では、過去の参加者からの推奨による応募も多くあることから、本研修の有用性、効果が確認できる。よって、所期の目標を上回る成果を達成できたと判断した。 研修開催後のアンケートの他、他の事業等の現地調査時に受けた相談、要望などをもとに更に改善を加えつつ継続していく予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中期計画期間内において、継続的に国内外における研修を国際機関等と共催することにより、海外の文化財保護関係者への日本の修復技術の移転を推進し、目標を達成することができた。常に高い参加者満足度を得た。 単なる修復技術の移転にとどまらず日本文化の発信にもつながる本プロジェクトによる研修は、海外の諸専門家から恒常的に必要とされており、次期中期計画においても同様の研修事業を行う必要がある。そのため、次期中期計画においても同様の計画の元に遂行する予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 5312

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	在外日本古美術品保存修復協力事業((３)－①)

【事業概要】日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで本事業は、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的とする。併、国内外の学会等において修復技術や材料に関する研究発表を行い、保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化を図る。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【プロジェクト責任者】	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【スタッフ】加藤雅人（国際情報研究室長)、江村知子（主任研究員)、山下好彦（任期付研究員)、楠京子（アソシエイトフェロー)、山田祐子（アソシエイトフェロー)、小田桃子（アソシエイトフェロー)、早川典子（保存修復科学センター主任研究員)、小林達郎（企画情報部文化形成研究室長)、今城裕香（研究支援推進部管理室企画渉外係)、鈴木絢香（アソシエイトフェロー)

【主な成果】
・国内外の学会において、4 件の研究発表を行った。
・漆工芸品 1 作品の修復を完了し、所蔵館に返還した。
・掛軸 5 作品を輸入し、修復を開始した。
・漆工芸品 1 作品を輸入し、共同研究を開始した。
・今後の修復候補作品選定のため、漆工芸品及び絵画の調査を行った。

【年度実績概要】
(1)作品修復
・ブロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵　五十嵐道甫作秋野蒔絵硯箱　１合　修復完了。
・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　瀑布渓流図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。
・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　遊女禿図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。
・日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵　月下秋景図　絹本着色　掛軸 1 幅　修復中。
・ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　親鸞聖人絵伝　掛軸 4 幅　修復中。
・ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア（オーストラリア）所蔵　般若図　掛軸 1 幅　修復中。

(2)共同研究
・ドレスデン国立美術館-陶磁器資料館（ドイツ）所蔵　染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶の修復方法に関する共同研究

(3)調査
・インディアナポリス美術館（アメリカ）において修復候補作品（絵画）選定のための調査を行った（28 年 2 月 8 日～12 日)。
・アルゼンチン文化省文化遺産局にて現況に関する聞き取り調査、国立東洋美術館にて現況に関する聞き取り調査および保存修復展示環境等の調査（28 年 2 月 27 日～3 月 4 日）
・イギリス王室コレクション（イギリス）にて修復候補作品（漆工芸品）選定のための調査を行った（28 年 2 月 15 日～19)。


輸入時のコンディションチェック

【実績値】
発表件数　：4 件　（備考①②③④)
修復作品数：完了 1 点、修復中 5 点(1)

【備考】
①加藤雅人、「Karibari: The Japanese Drying Tecnique」、Adapt &Evolve ICON Conference 2015、University of London (London、United Kingdom)、27 年 4 月 9 日～10 日
②楠京子、山田祐子、加藤雅人、「キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告、文化財保存修復学会第 37 回大会、京都工芸繊維大学（京都府京都市)、27 年 6 月 26 日～27 日
③楠京子、山田祐子、加藤雅人、「シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』修復事例報告」、文化財保存修復学会第 37 回大会、京都工芸繊維大学（京都府京都市)、27 年 6 月 26 日～27 日
④山田祐子、加藤雅人、楠京子、「絹本、紙本の修復に使用される補彩絵具の変色」、文化財保存修復学会第 37 回大会、京都工芸繊維大学（京都府京都市)、27 年 6 月 26 日～27 日

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 5312
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
評定	A	A	B	B	A	

判定理由
適時性：近年日本の修復技術・材料に対する海外からの注目が集まっており、適時性が高い。
独創性：日本美術品についての専門的な修復技術・知識を用いる本事業は、当研究所の知見を活かした事業である。
発展性：本事業で行った修復事業の成果を国内外で発表することで、情報を各方面に還元することができる。
効率性：最小限の員数及び限られた時間の中で、大きな成果を得ることができた。
継続性：作品修復、また修復処置に対する助言等、海外の博物館美術館からの要望が高く、継続に値する。

２．定量的評価

観点	発表件数	修復作品数				
評定	B	B				

判定理由
全て計画件数通りに遂行することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	海外1件、国内3件の発表を行い、多くの質疑応答や問い合わせを受けた。今後も定期的、継続的に研究発表を行う予定である。また、計画通りに1件の作品の修復を完了させ、5件の作品を輸入し修復を開始した。今後も同数程度の修復を継続できるよう、次期修復作品の調査および情報収集を継続する予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国内外で行った研究発表への反響が大きく、本事業成果の一端を確認することができた。特に海外で行った研究発表については国内でもその情報を共有し、本事業の成果を国内に還元することができた。今後も、海外における本事業の成果を広く発信し、国内外の反応を本事業に反映させる予定である。また、内容をより充実させるために、国内外において、材料及び技術の情報収集及び研究を続ける必要がある。本事業は海外からの評価も高く継続が望まれているため、次期も同様に事業を行う。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　5321

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際業務の推進
プロジェクト名称	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力（(3)―②）

【事業概要】

ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業に協力する。27 年度は集団研修「木造建造物の保存と修復」（アジア太平洋諸国から 16 名）と「文化遺産ワークショップ」（ブータンで実施）の各事業に関して、研修の講師派遣、現地指導等、全面的に協力した。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	国際遺跡研究室室長　森本　晋

【スタッフ】

林　良彦（文化遺産部）・西山和弘（都城発掘調査部）・杉山洋・中村一郎・影山悦子（以上、企画調整部）

【主な成果】

・集団研修「木造建造物の保存と修復」ではアジア太平洋諸国 15 ヵ国、15 名の研修生に対して、日本の木造建造物の評価・記録化と保存修復手法関する研修を行った。
・個別テーマ研修「博物館等における文化財の管理と展示活用」では、3 ヵ国、6 名の研修生に対して、考古遺物の記録と記述に関する研修を行った。
・ブータンで実施された「文化遺産ワークショップ」に研究員 1 名を講師として派遣し、ブータン人専門家 20 名に対して文化財写真に関する研修を行った。
・奈良で開催された国際会議「木造文化財の保存理念を再考する」に研究員 1 名を派遣した。

【年度実績概要】

・集団研修「木造建造物の保存と修復」（27 年 9 月 1 日～10 月 1 日、アジア太平洋諸国から 15 名参加）の実施に協力し、講義、「日本の木造建造物の価値判断基準と修復手法」「木造建造物の記録・記述 Ⅰ・II」「修復手法実習」を担当した。
・個別テーマ研修「博物館等における文化財の管理と展示活用」（27 年 11 月 10 日～12 月 8 日、ネパール、スリランカ、モルジブの 3 ヵ国から 6 名参加）の実施に協力し、講義、「文化遺産の記録管理の実態Ⅰ　考古遺物の調査と分類」「文化遺産の記録・記述の実習Ⅰから III」を担当した。
・「文化遺産ワークショップ」（ブータンで開催、27 年 10 月 26 日～31 日）の実施に協力し、当研究所の研究員 1 名を講師として派遣し、ブータン人専門家 20 名に対して文化財写真に関する研修「文化遺産の写真記録とデジタルデータの管理・活用」において講義と実習を行った。
・奈良で開催された国際会議「木造文化財の保存理念を再考する　アジアの木造建造物の価値の所在と真実性概念」に研究員 1 名を派遣した。



個別テーマ研修の状況



文化遺産ワークショップでの講義

【実績値】

研修件数　3 件（うち集団研修 1 件、個別テーマ研修 1 件、ワークショップ 1 件）
講師派遣数　1 名（ブータン）
担当講座数　16 件（うち集団研修 4 件、個別テーマ研修 4 件、ワークショップ 8 件）

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　5321
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：文化財に関する保存技術や写真技術に関する研修依頼が、外国から多く寄せられている、ユネスコアジア文化センターや国際協力機構等からの研修協力依頼に対して、適時迅速に対応したと考える。
独創性：当研究所が担当した研修の講座はいずれも、国内外においても当研究所が独自に優れた技術を開発してきた内容のものであり、独創性ある研修を提供できたと考える。
発展性：27 年度は当研究所の多年に渡る調査研究を活かした「木造建造物の保存と修復」に関する研修を担当し、また、近年要望の高い「文化財写真」の研修を実施することができた。
効率性：ユネスコアジア文化センターが実施する研修への協力については、研修の企画段階から先方と綿密な情報交換を行い、研修内容の効率化を行った。
継続性：当研究所は、ユネスコアジア文化センター奈良事務所の発足以来、文化遺産の保存、特に埋蔵文化財と建造物に関する保存の研修への協力を続けており、継続性のある事業と考えている。
正確性：当研究所が提供する研修内容はいずれも国内外の水準に照らしても高度な内容を有しており、世界的に見ても高い水準のものであると考えている。

２．定量的評価

観点	研修件数	講師派遣数	開講講座数			
評定	B	B	B			

判定理由
研修件数：集団研修1件、個別テーマ研修1件、ワークショップ1件に講師を派遣したので、当初の計画を満たしており十分な達成度と考える。
講師派遣数：現地で研修・指導を行うのに十分な能力のある研究員を派遣したので、十分に成果を達成できたと考える。
開講講座数：集団研修1件（4講座）に加え、個別テーマ研修1件（4講座）、ワークショップへの講師派遣1名（8講座）と、いずれにおいても多くの部分を当研究所が担当した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業はその適時性・独創性・発展性・効率性・継続性・正確性のいずれの観点においても十分な成果を達成している。さらに事業内容に見ても研修回数・講師派遣数・開講講座数において十分以上の成果を達成した。28年度計画については、27年度の内容を踏まえ、研修実施機関ともよく協議しつつ、研修の内容の向上に努めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は総合評価において十分な成果を達成しており、中期計画における予定通りの結果を得られていることから、順調に実施されていると考える。今後は、27 年度までの実施内容を踏まえ、新たな中期計画の目標を達成するのに必要な課題がまだ残されていないかを十分に検討しながら、その目標達成に努めることとしたい。

【書式B/研・セ】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 5411

(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進
プロジェクト名称	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進（4）

【事業概要】アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、無形文化遺産保護関連の研究情報収集を継続し、体系的文献サーヴェイ、専門家会合を実施し、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究を促進する。また、消滅の危機に瀕した無形文化遺産の保護のための現地調査やワークショップを実施する。さらに国際会議への出席やユネスコとの連携を通じて、無形文化遺産保護を中心とした国際的動向の情報収集を図る。

【担当部課】	－	【プロジェクト責任者】	所長　荒田明夫

【スタッフ】
大貫美佐子(副所長(兼)研究担当室長)、児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、野嶋洋子(アソシエイトフェロー)、サンドロヴィッチ・ティムール(前アソシエイトフェロー)、牧野美保(前アソシエイトフェロー)、薗田郁(アソシエイトフェロー)

【主な成果】
文化庁受託事業「平成27年度無形文化遺産保護パートナシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成27年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金」による事業を通じ、国単位での体系的文献サーヴェイ及びその成果に基づく国際専門家会合、データベースの拡充を実施し、また、消滅の危機に瀕する無形文化遺産保護の現状・方策や法制度に関する現地調査やワークショップを開催した。

【年度実績概要】
(1)無形文化遺産保護に関する国際的調査研究動向についての情報収集とアジア太平洋地域における研究促進を目的として、下記の4事業を実施した。
①国毎の無形文化遺産保護研究の情報収集と分析(17ヵ国)(受託)
②上記①に基づく国際専門家会合の実施(キルギスタン・ビシュケク 27年12月8～9日)(受託)
③上記①で収集した研究情報の新規追加により、無形文化遺産研究データベースを拡充(受託)
④無形文化遺産関連の国際会議への出席、及び現地調査等を通じた情報収集や関係構築(受託)


スリランカ事業総括の議論

(2)アジア太平洋地域における危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査研究として、下記の3事業を実施した。
①東南アジアにおける無形文化遺産保護に関する法制度研究：国際研究ワークショップの開催(富山　27年12月17～19日)(受託)
②紛争後の国家における危機に瀕する伝統的手工芸の研究(スリランカ)(補助金)
スリランカから参加者を招き、事業総括のためのワークショップ(富山　27年12月19～20日)を開催し、地方における工芸復興の取組みについて共有、議論を行った。
③ベトナム・ドンホー版画を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究(補助金)
過去3年間にわたる調査研究の総括として、研究論文を含む報告書をデジタル版として作成した。


高岡市の工房で質問する専門家等

(3)我が国の知見を活用した無形文化遺産保護の充実
①上記(1)②の国際専門家会合の討論者として、成城大学民俗学研究所の研究者を招いた。
②上記(2)①・②において、地方自治体(富山県・高岡市・京都市)の行政官や工芸家を発表者として招き、無形文化遺産保護の取り組みや復興の優良事例について共有した。
受託事業の詳細は処理番号8045を参照。

【実績値】
実施事業件数　7件；招聘数　延べ40名(国内研究者の海外派遣延べ3名、及び用務先が海外の場合を含む。)
海外派遣数　延べ11名；刊行物　2件（①～②）
(参考値)　ウェブサイトアクセス件数　　7,504件(27年4月1日～28年3月31日)
　　データベースアクセス件数　　2,288件(27年4月1日～28年3月31日)

【備考】刊行物　①「スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト」報告書(日本語版)(28年2月27日)；②「Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)」(28年3月)

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号 5411
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：地域的紛争や途上国の多いアジア太平洋地域において、無形文化遺産保護は喫緊の課題である。消滅の危機に瀕した無形文化遺産の保護に向けた専門家会合やワークショップを通じて、この課題に取り組むことができた。
独創性：無形文化遺産は研究領域として新しく、研究者・専門機関間の国際的ネットワーク形成が求められる。IRCI はその活動を通して、アジア太平洋地域における連携強化と調査研究・保護の活性化を目指している。
発展性：着実に情報収集・調査を進めており、次段階への基盤形成ができた。危機遺産関連の事業は 27 年度が最終年度であるが、事業終了後の持続的保護プランについても議論できた。
効率性：国内外の機関・研究者と連携して活動することにより、限られた人員のなか、効率的に事業を推進することができた。文献サーヴェイでは当初の計画を上回る 17 ヵ国での情報を収集できた。
継続性：当事国との関係も強化され、現地連携機関と十分な調整のもと活動できた。ただし文科省補助金の削減により、一部事業の活動を変更して実施した。
正確性：事業単位での計画書及び半年毎の経過報告報告書作成により的確に事業を管理・実施し、所期の目標を達成することができた。

２．定量的評価

観点	実施事業件数	招聘数	海外派遣数	刊行物		
評定	B	B	B	B		

判定理由
実施事業件数：外部機関・研究者との連携を通じて効率的に事業を遂行することにより、計画通り実施することができた。
招聘数：IRCI 及び連携機関のネットワークを活用することにより、計画通り研究者・専門家を招聘することができた。
海外派遣数：効果的・効率的に事業を実施するために、IRCI 研究員に加え外部研究者や協力機関に調査を依頼することで、予定通り事業を遂行することができた。
刊行物：計画通り出版をおこなうことができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	危機遺産関連の事業(ベトナム・スリランカ)では予算削減に併せて実施計画を一部変更したが、全事業について、国内外の協力機関・研究者と連携して活動を実施することにより、所期の目標を達成することができた。また専門家会合・ワークショップでは次年度以降の実施方針や改善策、最終成果を見据えた議論ができた。27年度の成果を踏まえ、28年度事業の改善と一層の充実を図っていく。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	23 年 10 月の設立以来、IRCI では限られた予算・人員のなか、無形文化遺産保護のための基礎的調査研究を推進してきた。一連の活動を通して、アジア太平洋地域における無形文化遺産の調査研究センターとしての基盤を整えることができたと評価できる。特に中期計画期間の 25 年度以降は多年度にわたる事業を継続し、アジア太平洋地域における情報収集、専門家会合・ワークショップの開催により成果を蓄積すると同時に、多地域からの参加、海外研究機関との連携強化が着実に進んだ。研究情報収集に関しては 26 年度にデータベースの公開を開始し、その後各地の研究機関との連携により、収録情報が充実しつつある。また危機に瀕する無形文化遺産保護のための調査研究事業においても、伝統工芸復興の国際協力として成果を挙げた。28 年度以降は新たな中期計画のもと、着実な事業実施とその一層の充実を図るとともに、IRCI の知名度向上に努める。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6111

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化財情報基盤の整備((１)－①)

【事業概要】

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システムの面から文化財に関する専門的アーカイブの充実、データベースの充実を支援する。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】

山梨絵美子（部長）、津田徹英（文化財アーカイブズ研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、小山田智寛（研究補佐員）、高橋佑太（研究補佐員）

広報委員（情報システム部会）：

川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）　各部門情報システム部会員：平出秀文（研究支援推進部管理室長）、中濱拓郎（契約係長）、皿井舞、飯島満（無形文化遺産部長）、吉田直人（保存修復科学センター保存科学研究室長）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長）

【主な成果】

(1)所内ネットワークシステムの日常管理業務を行った。

(2)センタースイッチ、フロアスイッチの更新及び双方を接続するケーブルの追加を行った。また、無線 LAN のアクセスポイントを追加し、アクセスポイントを制御するサーバを新たに設置した。

(3)大容量ストレージ構築のための基本的なシステムを導入した。

(4)日常管理及び機器の適切な更新により所内ネットワークシステムの安定的運用を行うことができた。また、機器更新における高い費用対効果により、長期にわたり懸案となっていた大容量ストレージの導入に着手することができた。

【年度実績概要】

(1)所内ネットワークシステムを安定的に運用するため、ネットワーク接続やソフトウェアの利用等の状況のモニタリング、ウィルス対策ソフトウェアの更新を含む日常管理業務を行った。また、国立文化財機構の情報化委員会からの情報システムセキュリティ対策に関連した設定変更等の要請にも速やかに対応した。

(2)設置から 10 年近く経過していたセンタースイッチを更新した。センタースイッチの更新に関連して、東京文化財研究所の現在の庁舎新営時から敷設されていた、センタースイッチとフロアスイッチをつなぐ光ケーブルをメタルケーブルに変更することによって、接続速度を下げることなく選定可能な機器の価格を大きく下げられることがわかった。そこで、両スイッチを接続するケーブルとしてメタルケーブルを追加し、併せてフロアスイッチも更新した。更新する機器やケーブルが増え、ケーブルの敷設工事が新たに発生したものの、更新・追加費用の総額は、従来の光ケーブルを使ってセンタースイッチのみを更新する場合に比べて半分未満となった。そのため、所内ネットワークシステムの安定的な運用をコストの大幅な削減と両立する形で実現することができた。

(3)無線 LAN による接続状況を調査し、必要な位置にアクセスポイントを追加して接続の改善を図った。また、26 年度導入した仮想サーバに無線 LAN アクセスポイント制御のためのサーバを設置することで、運用の安定化を図ることができた。

(4)高精細画像情報を主な対象とする大容量ストレージの運用を可能とする基本的なシステムを導入した。これは、費用対効果の高いセンタースイッチ・フロアスイッチを導入したことにより、導入着手が可能となったものである。大容量ストレージはその導入が懸案となっていたものの、これまで検討されていたストレージは必要な容量全体を一度に導入するタイプのものであったため、費用も高額であった。しかし、今回導入に着手したシステムはストレージサーバを追加しても全体を 1 台のストレージとして認識させることが可能であり、また機種を特定しないことから、徐々にストレージサーバを追加し容量を増やしていくことができる。



ストレージサーバ

【実績値】

ネットワーク機器更新　1 件

大容量ストレージ基本システム構築　1 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6111
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	発展性		
評定	B	B	B	A		

判定理由
適時性：適切な時期に機器及びシステムを更新することができた。
効率性：センタースイッチとフロアスイッチを接続するケーブルの種類を光からメタルに変更することにより、接続速度を下げることなく選定可能な機器の価格を大きく下げることができた。光ケーブルは撤去せず残しておくことで、今後の更新の際に状況が変化し、光ケーブルでの運用に戻す必要がある場合でも対応可能にした。
継続性：継続的にネットワークシステムを運用することができた。
発展性：基本的なシステムを導入し、今後ストレージサーバの追加によって大容量ストレージに発展させることが可能な基礎を構築した。

２．定量的評価

観点	ネットワーク機器更新	大容量ストレージ構築				
評定	B	A				

判定理由
ネットワーク機器更新:予定通りセンタースイッチを更新することができたため。
大容量ストレージ構築：当初の計画にはなかったものの、節約により大容量ストレージ運用のための基本的なシステムを追加することができたため。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	情報システムの整備については、老朽化したネットワーク機器の更新及び大容量ストレージの基本システムの導入によりセキュリティの強化及び高速化、経費の縮減が図られた結果、適時性、効率性、継続性、発展性が向上したと判断した。28年度以降も、ネットワークの安定運用と効率化、利便性の向上を図り、また他の関連施設の状況についても広く調査した上で、蓄積した文化財調査研究情報の公開のための環境を整備する。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	情報システムの整備については、セキュリティの強化及び接続速度の高速化を図るに当たり、利便性を保った上でより効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新をさらに進めた。次期中期計画においても、現有のスタッフの能力を最大限に活用し、各部・センターのエンドユーザの意見を適宜取り入れることは調査研究遂行の上で有益であり、かつ費用対効果の高い機器の導入とその安定的な運用に努める。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6112
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化((1)－①)

【事業概要】
無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。第 1 期中期計画（17 年度終了）の事業案策定後の購入・寄贈にかかるアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　飯島　満

【スタッフ】
高桑いづみ(無形文化財研究室長)、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長)、石村智（主任研究員)、菊池理予(研究員)、今石みぎわ(研究員)、佐野真規（アソシエイトフェロー)、橋本かおる（研究補佐員）

【主な成果】
　無形文化遺産部所蔵資料の内、映像資料に関しては、26 年度に引き続き、旧芸能部の年代に作成された映像資料の媒体変換を実施した。
　アナログ音声資料に関しては、オープンリールとカセットテープについて、収録内容の確認を含めた整理を行った。

【年度実績概要】
　映像資料については、再生不可となることが危惧される Hi8（ハイエイト）を中心に媒体変換を行い、ＤＶＤ22 枚を作成した。
　音声記録のデジタル化は、26 年度に引き続き、1960 年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ 109 本（約 74 時間）についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
　カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
　無形文化遺産関連の映像資料 362 枚（作成ＤＶＤ140 枚・作成ＢＤ222 枚）を所蔵資料として新たに登録した。



兵庫県三原郡南淡町亀岡八幡神社「阿万の風流踊」平成 4 年 9 月 15 日
（Hi8 から媒体変換した動画資料より）

【実績値】
媒体転換済みテープ（音声資料）109 本
ＤＶＤ・ＢＤ（映像資料）362枚

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6112
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	発展性		
評定	A	B	A	B		

判定理由
適時性：無形文化遺産部は、旧芸能部時代に収録された Hi8（ハイエイト）規格のデジタルテープを相当数保管しているが、この Hi8 は 23 年 9 月に再生機の出荷を終了した規格であり、早急な媒体変換は課題のひとつであった。民俗芸能を中心とする 1990 年代の貴重な映像資料を、対処可能な時期にデジタル化できた意義は大きい（28 年度も継続）。
独創性：他の公的機関では所蔵されていない資料の恒久的な利用に向け、処理をおこなっている。
継続性：アナログ資料の継続的な媒体変換とともに、資料整理も着実にすすめている。
発展性：将来の資料公開に備え、資料の蓄積に努めている。

２．定量的評価

観点	媒体変換済みテープ（音声資料）	ＤＶＤ・ＢＤ（映像資料）				
評定	B	B				

判定理由
媒体変換済みテープ：一ヵ月に処理できるのはオープンリールテープ 10 本ほど（約 10 時間）であり、十分である。
ＤＶＤ・ＢＤ（映像資料）：ＤＶＤ、ＢＤともに例年なみの枚数を登録できた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	定性的評価、定量的評価ともに、これまでの水準を維持していることに加え、早急な媒体変換が必要とされていたメディア（Hi8）についても、デジタル化作業に着手できた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	音声・映像資料のデジタル化事業は、従来の水準を維持している。一方で、ここ数年オープンテープやＶＨＳ等の旧式メディアの寄贈依頼が増えており、整理作業が追い付かなくなってきている。音声資料については、媒体変換をＣＤ納品ではなくＨＤＤ納品に移行しつつあるが、より一層の効率化を図る必要がある。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6113
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	文化財に関するデータベースの充実((1)－①)

【事業概要】
　文化財情報の特性について具体的な資料の研究に基づいて検討を加え、それに最も適した電子化・情報化の方法を探り実際のデータベース入力を進める。

【担当部課】	企画調整部	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山洋

【スタッフ】
森本晋（文化財情報研究室長）

【主な成果】
　文化財情報の電子化に関する研究を基にして改良を継続している各種データベースについて、業務用とともに公開用についても、データの充実を図った。文化財情報の整理・分析に地理情報システム（GIS）を活用する研究を継続して行い、成果を学会で発表している。

【年度実績概要】

・文化財情報電子化の研究として文化財の記述における用語の問題を扱い、成果を 27 年 11 月 13 日に「文化研究への科学技術の応用に関する国際研究会」(IWASTCS) で発表した。GIS の技術を活用した考古情報の整理分析に関する調査研究を行い、成果を 27 年 10 月 10 日に地理情報システム学会で発表した。資料調査として関連学会の中でも重要な「考古学におけるコンピュータの応用と数量的方法（CAA）に 27 年 3 月 30 日から 4 月 3 日の間参加した。

・文化財情報データベースの充実として、従来より進めている遺跡、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像、考古関連雑誌論文情報補完の各データベースに関して、データの入力・更新をおこなうとともに、新規に和同開珎データベースを作成した。



和同開珎データベース

【実績値】
研究発表件数　2 件（①、②）

（参考値）
データベース件数　27 年度末　ただし（　）内は 26 年度末の値
　全文 213,772（213,667）、木簡 164,282（159,834）、抄録 91,042（84,562）、写真 575,087（542,402）、遺跡 480,021（479,239）、航空写真 1,381,527（1,374,612）、図面画像 263,444（172,123）、考古関連雑誌論文情報補完 88,075（71,891）

【備考】
研究会発表
①村尾吉章・森本晋・藤本悠・清野陽一・玉置三紀夫「地理情報標準に準拠した時間属性定義の拡張」『日本地理情報システム学会第 24 回研究発表大会予稿集』27.10.10
②Mamoru SHIBAYAMA, Susumu MORIMOTO, Creating Archaeo-Ontology based on the Archaeological Inventory（口頭発表） IWASTCS2015, 27.11.13

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6113
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性 ： 逐次刊行される発掘調査報告書の記述内容を参照してデータ入力を進めており、適時性は十分にある。
独創性 ： 当研究所が独自にデータベースを設計・開発して、研究業務に資するとともに、公開も進めており独創性が高い。
発展性 ： データベースに関する調査研究を進めながら、新規のデータベース開発も行っており、発展性がある。
効率性 ： データベースの種類を増やしつつ、入力件数も増やしており、効率性は増している。
継続性 ： 各種データベースを最新情報に従って更新しながら、公開サービスを継続して提供しており成果が高い。
正確性 ： データの入力・更新に際しては、典拠資料の調査を行っており、正確性は担保されている。

２．定量的評価

観点	研究発表件数					
評定	B					

判定理由
研究発表件数 ： 継続的な研究の成果を年間1件ないし2件、早期に公表するという予定を満たしており、目標を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	本事業は、定性的な観点（適時性・独創性・発展性・効率性・継続性・正確性）のいずれにおいても、十分な水準を維持しており、また、定量的な観点も基準を満たしている。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各データベースについて、データの充実を着実に進めており、新規データベースの開発も行うことができた。全体として当初計画通りに進捗して所期の目標を達成している。今後も、確実なデータによる個々のデータベースの充実を進めるとともに、新規データベースの開発を行っていく。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6121

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	被災文化財関連情報に関するデータの蓄積・分析及び情報発信((１)－②)

【事業概要】
被災文化財関連情報に関するデータベースの充実とアーカイブ機能の更新と拡張を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
山梨絵美子（部長)、皿井舞（主任研究員)、橘川英規（研究員)、安永拓世（研究員)、福永八朗（アソシエイトフェロー)、小山田智寛（研究補佐員)、
文化財レスキュー旧事務局・日報担当：
岡田健（保存修復科学センター長)，皿井舞（主任研究員)，久保田裕道（無形民俗文化財研究室長)，菊池理予（無形文化遺産部研究員)，今石みぎわ（無形文化遺産部研究員)，森井順之（保存修復科学センター主任研究員)，江村知子（文化遺産国際協力センター主任研究員）吉原大志（アソシエイトフェロー)、佐野真規（アソシエイトフェロー)、

【主な成果】
(1)2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良において「東日本大震災レスキュー活動日報の分析および将来に向けた提案」と題してポスター発表を行った。
(2)被災文化財レスキュー日報の様式について現場経験を踏まえての改善点について協議した（27 年 6 月 22 日)。

【年度実績概要】
(1)東日本大震災救援活動の日報と写真についてこれまで行ってきた協議を踏まえ、2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良において「文化財研究情報アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」と題してポスター発表を行った。
(2)26 年までに協議を行いモデル版を作成した被災文化財レスキュー日報の様式について現場経験を踏まえての改善点について協議した（27 年 6 月 22 日)。



発表風景

【実績値】
成果発表件数：ポスター発表　1 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6121
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：23 年の東北地方太平洋沖地震の発生から 4 年が経過したに過ぎず、東海・東南海地震の発生が近いとされている現在、文化財レスキュー事業に関する情報を整理・公開することは時宜にかなっている。
独創性：扱っているのは文化財レスキュー事業事務局としての業務を通じて収集したデータで、他にない情報である。
発展性：文化財レスキュー事業における活動に関してまとめることで、将来起こりうる大災害への対応に関して活用可能な情報とすることが可能である。
効率性：情報の蓄積・整理・公開については主に職員が担当していることから、外部委託等の支出なく実施している。
継続性：当該事業は東日本大震災以降継続して実施している。
正確性：情報発信にあたっては、複数の職員が確認し正確性の確保に努めている。

２．定量的評価

観点	成果発表件数					
評定	B					

判定理由
成果発表件数：国際学会の場でポスター発表を行うことができたため。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	定性的、定量的評価いずれについても所期の目標を達成していると判断した。新しい中期計画による28年度以降についても、引き続き、文化財レスキュー事業で蓄積した情報を中心とした情報の分析と関係者間での共有、発信を継続する。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財レスキュー事業に関する情報をまとめ、関係者間での共有のための仕組みを構築するとともに、成果を公開することができた。新しい中期計画による28年度以降も資料の蓄積や共有、発信を行うことで、文化財レスキュー事業に関する分析を行うことで、今後の文化財防災に役立つ資料を提供していく。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6131
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	専門的アーカイブの充実（資料閲覧室運営）((1)－③)

【事業概要】文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりを踏まえ、①受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、②閲覧室で月・水・金の週 3 回の一般利用者へ所蔵資料の提供、③データベースの作成、検索システムの構築・ウェブサイト上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英

【スタッフ】山梨絵美子（部長）、二神葉子（情報システム研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、田所泰（アソシエイトフェロー）、吉田千鶴子（東京芸術大学非常勤講師・客員研究員）、片山まび（東京藝術大学准教授・客員研究員）、久保田裕道(無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長)、早川泰弘(保存修復科学センター分析科学研究室長)、

【主な成果】
(1)文字情報・画像資料のデジタル化と目録化を継続しておこなった。
(2)明治・大正期刊行の雑誌類のデジタル化を継続しておこなった
(3)より広く当研究所の情報を発信するために国内外の機関との連携を模索した。
(4)資料閲覧室の公開・運営を行った。

【年度実績概要】
(1)・当研究所が架蔵する展覧会図録の韓国語データ入力を行った。
　・当研究所が架蔵する美術館・博物館等の館報の入力を行った。
　・東京美術倶楽部と共同研究を行い、戦前刊行分の売り立て目録のデータ入力を行った。
(2)・貴重書(山中商会の売り立て目録)のデジタル化を行い、公開準備をすすめた。
(3)・英国セインズベリー日本藝術研究所採録の日本美術および同研究に関する英語文献・記事情報を「東京文化財研究所総合検索」で利用できるようにした。
　・27 年 6 月に皿井主任研究員、田中副所長がアメリカ・ゲッティ研究所に赴き、連携内容を協議した。
　・27 年 5 月、7 月、28 年 3 月に国立西洋美術館と連携内容を協議し、図録情報の OCLC 搭載のための協議を行った。
　・JAL プロジェクトの一環として日本に招聘された海外日本美術史料専門家（司書）との意見交換会を行い、当研究所のアーカイブシステムのモニタリングを行った（27 年 11 月 18 日)。
　・英国セインズベリー日本藝術研究所採録の日本美術および同研究に関する英語文献・記事情報を「東京文化財研究所総合検索」で利用できるようにし、併せて、2 月には田中副所長と津田室長が現地に赴き運用面での協議を行った。
(4)・資料閲覧室を公開・運営した（合計 134 日、利用者のべ 954 人)。
　・文化遺産国際協力センターが架蔵していた図書を搬入し、資料閲覧室で一元管理・公開を行うようにした。



ウェブサイトにおける東京文化財研究所 総合検索

【実績値】
・資料受入数：和漢書 1,306 件、洋書 33 件、展覧会図録・報告書等 4,264 件、雑誌 1,580 件（合計 7,183 件）
・データベース公開件数：「東京文化財研究所　統合検索」(25 件のデータベースの横断総合検索)
・閲覧室利用状況：公開日総数 134 日・年間利用者合計 954 人

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6131
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	A	B	B	A

判定理由
適時性：研究活動の透明性が要請される昨今の情勢を踏まえつつ、国内外の研究機関との連携を進めることで、研究所の活動と研究成果を広く周知することができた。
独創性：文化財情報に特化して汎用性のある情報のデータベース化を行った。
発展性・効率性: 国内外の研究機関との連携を進めることで、研究所のもつ文化財情報を広く発信し、接し得る機会を増やすことができた。
継続性：文字情報・画像資料のデジタル化と目録化を継続的に行い、文化財の研究情報を広く提供するとともに、あわせて資料閲覧室としての公共性と特性に沿った運営を行い、週３回、一般利用者へ所蔵資料の提供を行った。
正確性：貴重書のデジタル化を行うことで、画像での資料公開により内容の正確性を確保するようにつとめた。

２．定量的評価

観点	資料受入数	データベース公開件数	閲覧室利用者数			
評定	B	A	B			

判定理由
資料受入数：和漢書 1,306 件、洋書 33 件、展覧会図録・報告書等 4,264 件、雑誌 1,580 件（合計 7,183 件）
データベース公開件数：「東京文化財研究所　統合検索」（25 件のデータベースの横断検索）
閲覧室利用状況：公開日総数 134 日・年間利用者合計 954 人

いずれも適切なものと判断する。特に文化財情報に関連した25件のデータベースについて内容を充実させるとともに、それらを横断して検索できる「総合検索」の公開を行うことで、量的に充分な成果をあげることができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	実施計画に沿って遂行することができた。特により広く当研究所の情報を発信するために英国セインズベリー日本藝術研究所と研究文献情報の相互提供をすすめ、アメリカ・ゲッティ研究所、国立西洋美術館、国立国会図書館など国内外の連携を前向きに協議することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画にもとづいて文化財研究の専門機関としての汎用性のある情報をデータベース化し、業務に密着した特徴のあるデータ整理を行い、その公開を行うことができた。また、資料閲覧室としての公共性と特性に沿った運営を行うことができた。これら今中期計画の達成を踏まえて、次期中期計画では、当研究所が行う文化財の調査・研究成果を集約し、専門性の高い資料や情報の蓄積・整理、データベースの継続的拡充を行い、レファレンスを充実させてゆきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6132

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	図書の収集・整理・公開・提供((1)-③)

【事業概要】

奈良文化財研究所内における調査・研究及び外部の研究者並びに一般の利用者の調査・研究に資するため、文化財に関する図書・雑誌資料を積極的に収集・整理し、公開・提供を実施する。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　津田保行

【スタッフ】

渡　勝弥（連携推進課長補佐)、伊藤久美、山内章子、中西晶子、堀内千嘉、永岡美和、久保純子（以下、文化財情報係事務補佐員）

【主な成果】

・考古学分野を中心とした図書及び逐次刊行物を収集した。
・資料の情報をデータ化し、データベースに蓄積してインターネットに公開した。
・資料を研究員への貸出及び閲覧室において一般利用者に閲覧提供を行った。

【年度実績概要】

・資料の収集・整理・保管・提供

購入及び寄贈により発掘調査報告書を始めとした歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心とする資料の収集を行い、目録の整備を行った。また、国立情報学研究所が構築している総合目録データベース(NACSIS-CAT)へのデータ登録を行い、所外の利用者への情報提供を行った。

故障続きだった図書自動貸出返却装置を更新したことにより貸出返却処理速度が向上した。

・利用者サービス:

閲覧室において一般利用者に資料を閲覧提供すると共に、遠隔地からの図書利用については、国立情報学研究所が行っている NACSIS-ILL 及び公共図書館を通じて文献複写・現物貸借サービスを行った。

【実績値】

受入数：

購入図書	861 冊
寄贈図書	7,587 冊
雑誌	1,188 タイトル
写真	9,173 点

利用者サービス：

一般利用者数	443 人
利用冊数	2,654 冊
来館者複写件数	1,435 件

遠隔利用：

複写受付件数	570 件
貸借貸出冊数	164 冊

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6132
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
評定	B	B	B	B	B	

判定理由
適時性：閲覧請求のあった資料等の提供及び購入希望の資料を積極的に収集・整理・提供を行った。
発展性：図書自動貸出返却装置を更新したことにより貸出返却処理が向上した。
効率性：セルフサービスにより貸出返却処理をスムーズに行った。
継続性：資料の収集・整理・公開・提供を滞ることなく遂行した。
正確性：収集した資料を適切に整理し、適切な場所への保管を行った。

２．定量的評価

観点	受入数	利用者 サービス	遠隔利用			
評定	B	B	B			

判定理由
・受入数：購入図書861冊、寄贈図書7,587冊、雑誌1,188タイトル、写真9,173点
・利用者サービス：一般利用者数443人、利用冊数2,654冊、来館者複写件数1,435件
・遠隔利用：複写受付件数570件、貸借貸出冊数164冊
いずれも十分な内容であると判断する。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	資料の収集方針及び整理方法については変更することなく継続性を維持することが最優先であり、27年度も適切な収集・整理を行ったことにより資料及びデータの蓄積を行うことができた。 また、閲覧室も閉室することなく一般利用者に資料の閲覧提供を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間中において滞ることなく資料の収集・整理を継続的に行えた。また、仮庁舎への引っ越し期間以外は閉室せずに一般利用者へのサービスを継続できた。

【書式Ｂ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　6211

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行（(2)-①）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を発行する。

【担当部課】	東京文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　亀井　伸雄

【主な成果】
・『年報』2014 年度版（27 年 6 月 30 日）
・『概要』2015 年度版
・『東文研ニュース』年 3 回
・エントランスロビーパネル展示の実施
・『平成 26 年版　日本美術年鑑』　B5 版(28 年 3 月)
・『美術研究』416 号（27 年 8 月）
・『美術研究』417 号（28 年 1 月）
・『美術研究』418 号（28 年 3 月）
・『無形文化遺産研究報告』第 10 号（28 年 3 月）
・『第 10 回無形民俗文化財研究協議会報告書』(28 年 3 月)
・『保存科学』55 号（28 年 3 月）



『美術研究』418 号表紙



『第 10 回無形民俗文化財研究協議会報告書』表紙



『保存科学』55 号表紙

【実績値】
刊行物数：12 件
『東京文化財研究所年報』2014 年度版　刊行部数 500 部
『東京文化財研究所概要』2015 年度版　刊行部数 2,700 部
『東文研ニュース』58 号　刊行部数 2,500 部、同 59,60 号　刊行部数各 1,600 部
『平成 26 年版　日本美術年鑑』刊行部数・配布部数各 600 部
『美術研究』416 号～418 号　行部数各 400 部、配布部数各 380 部
『無形文化遺産研究報告』第 10 号　28 年 3 月
『第 10 回無形民俗文化財研究協議会報告書』28 年 3 月
『保存科学』55 号（28 年 3 月）印刷部数 650 部、配布部数 485 部

【備考】

【書式Ｂ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6211

（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
評定	B	B	B	B		

判定理由
適時性：刊行物を予定数通り刊行し、ロビー展示も年度計画に従って行うことができた。
効率性：定期刊行物について配布先の見直しを行うことで印刷部数を削減し、経費削減に努めた。
継続性：継続的に刊行物を作成した。
正確性：定期刊行物は校正をそれぞれ実施することで、情報の正確性を維持した。

２．定量的評価

観点	刊行物数					
評定	B					

判定理由
刊行物数：26 年度に引き続き、適切な部数を刊行することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	年度計画通り定期刊行物を作成した。『日本美術年鑑』については、美術界年史、美術展覧会、美術文献目録を収録して、遺漏なく斯界の動向の記録に努め、『美術研究』では論文、翻訳論文、展覧会評、研究資料のそれぞれにおいて国内外の文化財研究に資するよう充実を図った。『保存科学』第55号については、これまでの査読者1名から2名に変更し、厳正な査読を経ることで、自然科学の学術誌としての一定の水準を維持したまま発刊することができた。ロビー展示ではこれまで近代文化遺産研究室が保存修復などにかかわった案件のうち、代表的な事例について紹介し、文化遺産保護の黒子的存在といえる保存修復技術と新たな技術開発の現状理解を図ることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27 年度は中期計画最終年度にあたり、中期計画どおり定期刊行物の作成を順調に実施することができた。また、各研究プロジェクトの総括的な研究成果を多く公表することができた。 次期中期計画においても、引き続き、学術誌としての一定の水準を保ちながら刊行する計画である。また、より効果的な情報発信の方法について検討し、ウェブサイトその他インターネットによる情報発信との連携にも努める。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 6221

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平成 27 年度オープンレクチャー((2)－②)

【事業概要】企画情報部の美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　山梨絵美子

【スタッフ】

二神葉子（情報システム研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、津田徹英（文化財アーカイブス研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、中野照男（成城大学特任教授・客員研究員）、三上豊（和光大学教授・客員研究員）、近松鴻二（学習院大学非常勤講師・客員研究員）、吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師・客員研究員）

【主な成果】

(1)第 49 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した。
(2)参加者数：247 人、アンケートによる満足度：84.2%（回収率：71.7%）
(3) 4 講演中の 3 つは講演内容を踏まえて、28 年度以降『美術研究』に論文として掲載を予定。

【年度実績概要】

(1)企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に、「古典の日」とも連動して開催している。本年はその 49 回目を迎えた。「モノ／イメージとの対話」を統一テーマに掲げ、金曜日と土曜日の午後、2 日間連続で開講した。

第 1 日目:27 年 10 月 30 日（金）午後 1：30～4：30　東京文化財研究所地下セミナー室
「仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰」皿井舞（企画情報部主任研究員）
「十世紀の画師たち」増記隆介（神戸大学大学院准教授）
第 2 日目:27 年 10 月 31 日（土）午後 1：30～4：30　東京文化財研究所地下セミナー室
「与謝蕪村の絵画に見る和漢」安永拓世（企画情報部研究員）
「池大雅の山水図を考える」吉田恵理（静岡市美術館学芸課係長）

(2)2 日間でのべ 247 人が聴講した。聴講者にアンケートを実施したところ、177 人から回答を得た。満足度に関する答結果は、「たいへん満足した」73 人、「おおむね満足した」76 人、「普通だった」11 人、「不満が残った」4 人、無回答 13 人。アンケート回答者の 84.2%から満足度との回答を得た。

(3)4 講演のうち 3 件については、28 年度刊行の『美術研究』に講演内容を踏まえて掲載発表することが『美術研究』編集会議で承認された。



オープンレクチャーの開講（第 1 日目）

【実績値】

参加者数　247 人
満足度　　84.2%（回収率：71.7%）

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6221
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	正確性		
評定	B	B	A	B		

判定理由

適時性：東京文化財研究所と外部講演者の研究の最新の状況を、「古典の日」にもちなんで広く一般に公表し、時宜にかなうものとなった。
独創性：それぞれの研究成果を単に公表するのではなく、「モノ／イメージとの対話」という独自の統一のテーマで括ることで独創性を打ち出しつつ、これまで培われ・蓄積されてきた成果の公表を行い、それぞれに調査・研究への展望を示して、来聴者の満足度をアンケート集計結果から得ることができた。
継続性：企画情報部オープンレクチャーとして、毎年途切れることなく第 49 回目の開催を行うことができた。
正確性：講演は、作品に即した実査にもとづく所見を 26 年度更新した映写機器を用い、詳細な添付資料とともに聴講者に提示し、講演で取り上げた作品とその内容が正確に伝わるように心がけた。

２．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
評定	B	A				

判定理由
参加者数：両日で会場定員を超える聴講者を得た。
満足度：聴講者アンケートによる満足度は84.2%に達した。最新の研究成果を広く公表する場として、専門性や独創性の高い講演を２日間にわたり開催した中で、４講演を通し聴講者の高い満足を得ることができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	専門的論文の下地となりうる充実した最新の研究成果にもとづく講演を行い、会場定員を超える多くの聴講者を得、アンケートを実施し高い満足度を得ることができた。 28年度も文化財に関する調査・研究に基づく最新の成果・新知見を、時宜に適応しながら公表し、聴講者数、満足度においても目標値を満たすことを目指したい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今期中期計画の趣旨に添いつつ、計画通り毎年度途切れることなくオープンレクチャーを実施し、所期の目的を達成した。次期中期計画においても、文化財に関する調査・研究に基づく最新の成果・新知見を公開講演という同様の形態で一般に公表・還元することを継続したい。

【書式B/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 6231
(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	ウェブサイトの運用((2)－③)

【事業概要】研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図る。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	情報システム研究室長　二神葉子

【スタッフ】
山梨絵美子（部長）、津田徹英（文化財アーカイブズ研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、小山田智寛（研究補佐員）、高橋佑太（研究補佐員）
広報委員（情報システム部会）：川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）　各部門情報システム部会員：平出秀文（研究支援推進部管理室長）、中濱拓郎（契約係長）、皿井舞（企画情報部主任研究員）、飯島満（無形文化遺産部長）、吉田直人（保存修復科学センター保存科学研究室長）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター国際情報研究室長）

【主な成果】
(1)　活動報告（和英）や研究会等の開催情報などの広報、及び文化財アーカイブズ研究室と連携しての文献や写真などの所蔵資料、研究成果の発信に関する手法の検討を行った。また、データベース・アーカイブの構築・発信に関する成果発表を行った。
(2)　ウェブサイトの更新を随時実施し、レイアウトやメニュー構成などデータへのアクセス方法を改善した。また、WordPressによるデータベースを26年度に引き続き随時整備・公開した。さらに、それらの更新情報をソーシャルネットワークサービス（SNS）により発信した。
(3)　データベースの整備・公開及び英訳により、国内外からの調査研究情報へのアクセスが容易となった。

【年度実績概要】
(1)・広報の手法、所蔵資料や研究成果の情報の発信手法の検討は、情報システム研究室及び文化財アーカイブズ研究室を中心に随時行った。また「文化財研究情報アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み」の表題で平成27年8月27日・28日に開催された「2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良」で報告した。
(2)・26年度に引き続き、WordPressによるデータベースの構築、既存コンテンツのWordpressデータベース化及び既存データベースへのデータの追加を実施した。さらに、従来は外部サーバで運用されていた、当研究所が構築に関与したデータベースを所内サーバに移行した。
・「白馬会関係新聞記事」「黒田清輝作品集」「活動報告（日本語版、英語版）」をデータベース化し公開した。また、「『美術画報』所載図版データベース」「黒田清輝日記」へのデータ入力を完了した。
・上記のアーカイブ・データベースは、所蔵資料などを含めた総合検索システムと連携し、横断検索を可能とした。このことで、関連する事象を各種の資料から一度に抽出することが可能となり、調査の効率が改善された。
・「神楽マップ」「無形文化遺産の記録所在情報データベース」「東京都民俗芸能マップ」「311復興支援無形文化遺産情報ネットワーク」の4件の無形文化遺産関連のデータベースについて、所内の仮想サーバに移行し、当研究所での運用を可能とした。
・Facebook及びTwitterによるウェブサイトの更新情報の発信を継続して実施した。
(3)・横断検索及びデータベース相互の関連付けを26年度に引き続きいっそう強めることで、美術界を中心とする文化財に関する動向を詳細に知ることを可能とした。日本美術年鑑所載物故者記事及び日本美術年鑑所載美術界年史彙報について、記載された人名への物故者記事のリンクと、物故者記事においては、当該の人物に関連した美術界年史彙報の記事の一覧が自動生成されるようにした。
・セインズベリー日本藝術研究所の協力を得てデータベース検索画面を英語化した。また「尾高鮮之助調査撮影記録」の地名表記を英語化し、国外の利用者の便を図った。

【実績値】
シンポジウム報告件数　1件
データベース公開数（外部）　4件（備考欄①～④）
データベース移行数　4件（備考欄⑤～⑧）
(参考値)
ウェブサイトアクセス件数　1,941,504件（訪問者数）

【備考】①「白馬会関係新聞記事」
②「黒田清輝作品集」
③「活動報告（日本語版）」
④「活動報告（英語版）」
⑤「神楽マップ」
⑥「無形文化遺産の記録所在情報データベース」
⑦「東京都民俗芸能マップ」
⑧「311復興支援無形文化遺産情報ネットワーク」

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　6231
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	A	A	A

判定理由
適時性：現在、ウェブサイトによる情報公開は必須であり、海外への発信力も求められている。そのような需要に対し、いち早く対処することができた。
独創性：Wordpressによる研究情報のデータベースには新規性があり、その活用が独創的であるといえる。また、東京文化財研究所が所蔵する一次資料は他にないものである。
発展性：Wordpressによる研究情報のデータベースはテキストのみならず画像も扱うことが可能なため、今後も多様なデータを検索可能な形で公開することができる。
効率性：ウェブサイトの大きな変更は外部委託しているが、週2回程度来所して所員と協議しながら作業を実施し、短時間で目的に適合したウェブサイトを構築できている。データベース構築では外部委託は最小限にとどめ、ほとんどは職員が対応することで費用対効果が大きく向上している。
継続性：ウェブサイトの更新は複数の職員があたっているが、毎回の作業の進捗状況について書面によって情報共有することで、継続的なデータ更新作業を行うことができている。
正確性：データの公開にあたっては、外部に公開する前に所内限定で公開したうえで複数の職員により内容を確認し、繰り返し精査したうえで外部公開を行っている。

２．定量的評価

観点	シンポジウム報告件数	データベース公開数	データベース移行数			
評定	B	A	A			

判定理由
シンポジウム報告件数：情報発信に関する取り組みについて国内外に向けて発信することができたため。
データベース公開数　：データを作成した部局から公開を依頼されたデータベースを全て公開した。また、これまでも公開されていたもののデータベースではなかった情報をデータベース化し、当該データへのアクセス数が大きく向上するなど、研究情報の外部発信がいっそう促進されたため。
データベース移行数　：従来、別々の外部サーバで公開していた無形文化遺産関連の４件のデータベースについて、仮想サーバの活用により物理サーバの台数を増やすことなく、また、滞りなく所内サーバへの移行と運用を実現できたため。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブサイトの運用については、適時性、効率性、継続性、独創性、発展性、正確性が認められた。また、Wordpressによるデータベースに関しては、テキスト・画像によるデータベースを横断検索可能な形で4件公開することができた。さらに、従来は外部サーバで公開していた4件のデータベースを所内に移行することができた。加えて、これまでの調査研究の成果を国際シンポジウムで発表することができた。したがって実績の総合評価も初期の目標を上回る成果が認められると結論した。28年度以降も、データベースの構築と更新、データベース化が可能な情報のデータベース化に加え、データベースの文化財及びその保護への活用という観点から調査研究を実施していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブサイトの情報へのアクセスの利便性向上、データの充実、速やかな更新を実施することができた。ウェブサイトのアクセス件数もこれまで以上に増加している。このような実績から、27年度までの中期計画の実施状況は初期の目標を大きく上回ると考えた。次期中期計画においても、情報資料の収集・整備及び発信は継続される。多くのデータベースの公開など、当研究所の広報・研究成果の公開をより効果的に実施するための業務を実施していくとともに、高精細画像を含む情報共有の仕組みについて引き続き研究を実施していきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6232

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実（(２) －①②③）

【事業概要】文化財に関する調査研究に基づく成果について、定期的な刊行物を発行する。公開講演会、現地説明会等の開催により、積極的に公開・提供する。研究所の事業・研究成果をはじめ、催し物案内など様々な広報を実施する。新たな情報発信をすべく更なる内容の検討を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】

(1)紀要等 2 点、ニュース 2 種 8 点、合計 10 点を刊行した。

(2)公開講演会は、例年実施している公開講演会（奈良）を 2 回、東京講演会を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会等を 3 回開催した。いずれも多くの参加者があり、日頃の当研究所研究成果を一般に発信できた。

(3)発掘調査に伴う現地説明会等を 3 回実施した。

(4)全国遺跡報告総覧を公開した。　(5)3D Bone Atlas Database を公開した。　(6)古代地名検索システムを公開した。

【年度実績概要】

(1)・「奈良文化財研究所紀要 2015」27.6 月刊、3,000 部、「奈良文化財研究所概要 2015」27.9 月刊、2,700 部
・奈文研ニュース「No.57」27.6 月刊、「No.58」27.9 月刊、「No.59」27.12 月刊、「No.60」28.3 月刊、各 3,000 部
・埋蔵文化財ニュース「No.162―現生木年輪年代標本リスト―」、「No.163―環境考古学 11 貝類標本リスト―」、「No.164―埋蔵文化財から防災・減災を目指したの新たな取り組み―」、「No.165―2014 年度埋蔵文化財関係統計資料―」各 28.3 月刊、各 2,500 部

(2)公開講演会等　※満足度 A(大変満足)、B(おおむね満足)、C(あまり満足でない)
・第 116 回公開講演会　27 年 6 月 20 日(土)　来場者数 200 人　平城宮跡資料館資料館　講演者数 3 名
　アンケート結果＝回収数 114 人　回収率 57.0% 満足度 A＝81 人(87.1%)/B＝11 人(11.8%)/C＝1 人(1.1%)
・第 117 回公開講演会　27 年 11 月 7 日(土)　来館者数 190 人　平城宮跡資料館講堂　講演者数 3 名
　アンケート結果＝回収数 118 人　回収率 62.1% 満足度 A＝93 人(92.1%)/B＝8 人(7.9%)/C＝0 人(0%)
・第 7 回東京講演会「発掘以降から読み解く古代建築」27 年 10 月 25 日(土)　聴講者数 345 人
　有楽町朝日ホール　講演者数 6 名
　アンケート結果＝回収数 162 人　回収率 47.0% 満足度 A＝115 人(92.7%)/B＝9 人(7.3%)/C＝0 人(0%)
・飛鳥資料館春期特別展「はじまりの御仏たち」記念講演会　27 年 5 月 9 日(土)　参加者数 88 人
　飛鳥資料館講堂　講演者数 1 名
　アンケート結果＝回収数 59 人　回収率 67% 満足度 A= 59 人(100%)/B＝0 人(0%)/C＝0 人(0%)
・飛鳥資料館秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」連動企画講演会　27 年 11 月 8 日(日)　参加者数 151 人
　多摩六都科学館（東京都）　講演者数　3 名　主催　多摩六都科学館・奈文研
・飛鳥資料館秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」記念講演会　27 年 10 月 31 日(土)　参加者数 126 人
　明日香村中央公民館　講演者数　4 名（総合討議　講演者+4 名　計 8 名）
　アンケート結果＝回収数 82 人　回収率 65% 満足度 A＝71 人(87%)/B＝5 人(6%)/C＝0 人(0%)/無回答 6 人(7%)

(3)発掘調査現地説明会等
・飛鳥藤原第 186 次（藤原宮大極殿院）発掘調査 1,548 ㎡ 現地説明会 27 年 10 月 12 日(月)　参加者 1,112 人
　アンケート結果＝回収数 278 人　回収率 25.0% 満足度 A＝123 人(45.5%)/B＝139 人(51.9%)/C＝7 人(2.6%)
・平城第 559 次(興福寺中室・経蔵・鐘楼)　発掘調査 835.5 ㎡ 現地説明会 27 年 12 月 20 日(日)　参加者 1,200 人
　アンケート結果＝回収数 248 人　回収率 20.6% 満足度 A＝134 人(54%)/B＝109 人(44%)/C＝5 人(2%)
・平城第 552 次（平城京朱雀大路跡）発掘調査 756 ㎡ 現地見学会 28 年 3 月 5 日(土)　参加者 680 人
　アンケート結果＝回収数 342 人　回収率 50.3% 満足度 A＝192 人(56.1%)/B＝148 人(43.3%)/C＝2 人(0.6%)

(4)全国 21 の国立大学が連携して取り組んだ全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトを奈良文化財研究所企画調整部が引き継いで運用を開始。奈良文化財研究所のホームページから、全国遺跡報告総覧として公開を開始した。

(5)環境考古学研究室の松井章前埋蔵文化財センター長を中心として現生動物の骨格標本を精力的に収集し、菊地大樹客員研究員との共同研究により三次元計測による立体的な骨格図譜データベースを作成し、奈良文化財研究所のホームページから公開を開始した。

(6)史料研究室渡辺晃宏室長の科研費補助金の研究成果として古代地名検索システムを作成し、奈良文化財研究所のホームページから公開を開始した。

【実績値】

(1)刊行数：紀要 1 点、概要 1 点、奈文研ニュース 4 点、埋蔵文化財ニュース 4 点、計 4 種 10 点
(2)(3)講演会等開催回数：9 回（公開講演会等開催 6 回、現地説明会等開催 3 回）
（参考値）ウェブサイトアクセス件数：605,211 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6232
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	A	A	B	B

判定理由
適時性：調査研究の成果を適時に刊行できた。発掘調査成果など広く一般に公開し、その必要性に答えることができた。利用度の高い貴重な学術資料をインターネット上で公開した。
独創性：公開は、当研究所の調査・研究内容の新規性及び卓越性を持たせ実施することができた。奈良文化財研究所ならではの独創的なデータベースを公開した。
発展性：聴講者、参加者は、多数かつ多種にわたり様々な分野への影響が期待される。多方面においての利用が見込まれ、今後の活用が期待される。
効率性：各種ベータベースをインターネットで公開することにより、利用者における調査・研究の大幅な負担の削減が予想される。
継続性：継続的な定期刊行物として刊行できた。様々な媒体を活用して、調査・研究成果の継続的な公表を行った。奈良文化財研究所のサーバから公開することにより、恒久的な提供と維持が可能である。
正確性：アンケート結果に見られるように多数が満足する正確性を持った内容であった。長年の調査・研究の成果をデータベース化したものである。

２．定量的評価

観点	刊行数	講演会等 開催回数				
評定	B	B				

判定理由
刊行数：当初の計画通りに刊行することができた。
講演会等開催回数：公開講演会、現地説明会等ともに予定どおり実施できた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定期刊行物は、研究成果を公表するものとして計画的に刊行できた。また、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を専門家だけでなく、一般の方にもわかりやすい形での刊行に努めた。 公開講演会については6回実施、現地説明会等については3回実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対して行ったアンケートでは、9.5割以上の方から「大変満足である」または「おおむね満足である」という結果を得た。 「ウェブサイトの充実」としては、一般には入手し難い利用価値の高いデータベースを複数公開できたことは賞賛に値する。かなりの成果であると認められる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	紀要、概要、ニュースの刊行は計画通りに順調に実施できた。 公開講演会、現地説明会等の開催は計画どおり所期の目標を達している。 今後も、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握を図る。さらに事業広報を充実させることにより参加者数の増加と満足度の向上を図る。最終年度として、講演会の講演者やその内容をさらに検討し、参加者の満足度を高められた。 特に、一般には入手し難い利用価値の高いデータベースを複数公開できたことは賞賛に値し、ウェブサイトの充実としてはかなりの成果であると認められる。今後も継続していく。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6311

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡資料館、飛鳥資料館、藤原宮跡資料室における展示公開((3)－①②③)

【事業概要】平城宮跡に関する理解促進、ならびに当研究所が行う平城宮・京の発掘調査及び研究の成果公開や情報発信のため、平城宮跡資料館において常設展・企画展を実施する。飛鳥資料館第１、第２展示室の常設展示の維持管理を行うとともに、展示の手直しを適宜行う。都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）庁舎に併設された藤原宮跡資料室及びエントランスにおいて、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部、飛鳥資料館、都城発掘調査部（藤原）	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山洋、学芸室長　石橋茂登、都城発掘調査部長 玉田芳英

【スタッフ】加藤真二、中川あや、中村玲（以上、展示企画室）、梶原孝次（連携推進課）、西田紀子、若杉智宏、小沼美結（以上、飛鳥資料館）、尾野善裕、清野孝之、西山和宏、降幡順子、山本崇、森川実、廣瀬覚、和田一之輔、諫早直人、大澤正吾、川畑純、清野陽一、大林潤、前川歩、大谷育恵、金宇大、山本亮、福嶋啓人(以上、都城発掘調査部)、井上直夫、栗山雅夫、飯田ゆりあ（以上、企画調整部写真室）

【主な成果】

(1) 平城宮跡資料館にて、夏のこども展示「平城京〝ごみ〟ずかん-ごみは宝-」、秋期特別展「地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－」を開催した。
(2) 飛鳥資料館常設展示室の展示内容を部分的に改装した。
(3) 飛鳥資料館にて、春期特別展「はじまりの御仏たち」、夏期企画展　第 6 回写真コンテスト応募作品展「ひさかたの空－いにしえの飛鳥想ふ－」、秋期特別展「キトラ古墳と天科学」、冬期企画展「飛鳥の考古学 2015 - 飛鳥の古墳調査最前線 - 」を開催した。また、明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」に参加した。
(4) 藤原宮跡資料室にて、常設展示及び発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の促進を図った。

【年度実績概要】

(1)・夏のこども展示「平城京〝ごみ〟ずかん-ごみは宝-」平成 27 年 7 月 11 日～9 月 23 日
27 年で 3 回目となる夏の子供向け展示。本年は、平城宮・京跡で出土した遺物のうち、不要になってごみとして捨てられたものや、ごみ捨て場、リサイクルなどに焦点を当てて紹介した。関連イベントとして、ギャラリートーク「ゴミドコさんとハカセの〝ごみ〟トーク」、親子ワークショップ「平城京すごろくを作ろう！」を開催した。
・秋期特別展「地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－」27 年 10 月 17 日～11 月 29 日
本年で 9 回目となる年に一度の木簡の実物展覧会。本年は平城宮跡造酒司出土木簡の重要文化財指定を記念した展示を行った。関連イベントとして、ギャラリートークを行った。
(2) 飛鳥資料館の第 1 展示室、第 2 展示室、特別陳列室の展示品を部分的に変更した。
(3) ・春期特別展「はじまりの御仏たち」27 年 4 月 24 日～6 月 21 日
出土品を中心に飛鳥時代のさまざまな小仏像を展示した。記念講演会 1 回、ギャラリートークを 5 回実施した。
・夏期企画展 第 6 回写真コンテスト応募作品展「ひさかたの空－いにしえの飛鳥想ふ－」27 年 7 月 28 日～9 月 13 日
写真教室を 27 年 9 月 14 日に開催した。入賞作品を配した「うちわ」を作成し会場で配布した。
・秋期特別展「キトラ古墳と天科学」27 年 10 月 9 日～11 月 29 日
飛鳥資料館開館 40 周年を記念し、キトラ古墳天文図を中心として中国式星座の世界と古代の天の科学を紹介した。記念講演会 1 回、ギャラリートーク 4 回、関連イベントを 2 回実施した。
・冬期企画展「飛鳥の考古学 2015 - 飛鳥の古墳調査最前線 - 」28 年 1 月 29 日～3 月 6 日
飛鳥の終末期古墳にスポットを当て、最新の調査成果を含めて紹介した。
・明日香村活性化事業「飛鳥光の回廊」27 年 8 月 29 日～30 日
前庭にろうそく約 2,000 本を並べて可能な限り点灯し、夜間無料開館した。
(4) 藤原宮跡資料室にて、通年にわたり常設展示を実施した。速報展示コーナーにて、藤原宮大極殿院（182 次調査）・藤原宮東方官衙北地区（183 次調査）・檜隈寺瓦窯（181-4 次調査）の出土遺物を展示した。また、飛鳥寺出土文字瓦の特集展示を行い、記者発表を行った。橿原市の解説ボランティアによる土日開館を実施した。各地の博物館等の要請に応じ、当調査部保管遺物ならびに模型・模造品などの貸与・作成を行った。

【実績値】平城宮跡資料館：入館者数 105,334 名（目標値 85,300 名）、開館日数 307 日。特別展 1 回、企画展 1 回（ミニ展示 4 回）。
飛鳥資料館：入館者数 42,749 名（目標値 48,800 名）、開館日数 320 日。特別展 2 回、企画展 2 回（講演会等 11 回）。
藤原宮跡資料室：来室者数：10,933 名（目標値 4,509 名）、開室日数：360 日。

【備考】
①『平城京〝ごみ〟ずかん-ごみは宝-』27.7.11、フルカラー16 頁、5,000 部刊行。
②『地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－』27.10.17、フルカラー16 頁、7,000 部刊行。
③中川あや「出土品の認識、理解につながるハンズオン展示の実践」『奈良文化財研究所紀要 2015』27.6
④飛鳥資料館研究図録第 62 冊『はじまりの御仏たち』27.4.24、2,000 部刊行。
⑤うちわ「ひさかたの空－いにしえの飛鳥想ふ－」27.7、3,000 部作成。
⑥飛鳥資料館図録第 63 冊『キトラ古墳と天の科学』27.10.9、3,000 部刊行。
⑦飛鳥資料館カタログ第 33 冊『飛鳥の考古学 2015』28.1.29、2,000 部刊行。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6311
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	A	B	A	B

判定理由
適時性：平城宮跡資料館秋期特別展では、27 年度に平城宮造酒司出土木簡が重要文化財指定を受けたのを記念して、代表的な指定木簡を一堂に公開する展示を開催した。造酒司出土の各種遺物などもあわせて総合的に造酒司を紹介する内容で、27 年度にふさわしい展示が実施できたといえる。
独創性：平城宮跡資料館夏期企画展では対象を子供としたため、現代の生活ともかかわる「ごみ」をテーマとして、従来の歴史的な情報提供型ではなく、クイズや体験展示など盛り込んだ参加型のオリジナリティのある展示とした。
発展性：平城宮跡資料館の従来の企画展・特別展に比して小規模なミニ展示を 4 回開催した。予算や準備時間を小規模に抑えられ、かつ来館者には変化のある資料館展示を印象づけることができるため、今後もミニ展示という枠で様々な展示が行ないやすくなるという点で応用性が期待できる。
効率性：平城宮跡で行われるイベントと連動して夜間開館を行い、普段資料館に来館しない層へ効率よく資料館の存在をアピールすることができた。
継続性：平城宮跡資料館夏期企画展は過去 2 ヵ年度好評であった子供向け展示を 27 年度も開催した。秋期特別展の地下の正倉院展は年間を通じて最も来館者が獲得できる、平城宮跡ならではの人気の高い展示であり、27 年度で 9 回目の開催となる。いずれの展覧会も、26 年度以前とコンテンツは全く変えて、来館者の満足度を高める努力をしている。
正確性：企画展・特別展ともに、出土品を管理、研究する都城発掘調査部の協力の下に行なっており、展示構成立案段階、リーフレット入稿前に都城発掘調査部員に入念に内容確認してもらうことで、学術的正確性を担保している。

２．定量的評価

観点	入館者数	開館日数	特別展開催数	企画展開催数		
評定	B	B	B	A		

判定理由
入館者数：目標値 136,809 名に対して、実際の入館者数 159,016 名（達成率 116.2%）。
開館日数：例年同様に計画通り、3 施設とも公開できた。
特別展開催数：目標値（年 3 回）を達成した（達成率 100%）。
企画展開催数：目標値（年 2 回）を達成した（達成率 150%）

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	定性的評価、定量的評価、いずれの観点からも、当初の目標を達成し、十分な成果を上げることができた。企画展等、講演会等の企画を目標以上に盛んに開催し、図録類を積極的に刊行することで集客力をあげる努力をしているとともに、平城宮跡資料館で４回開催した特別展・企画展とは別の時宜を得たミニ展示や飛鳥資料館での常設展示の一部更新など、展示の企画や方法を工夫する運営を行っている点が評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	平城宮跡資料館においては、22 年のリニューアルオープン以降、地下の正倉院展、発掘速報展、また、25 年以降は夏のこども展示も連続的に実施しており、27 年度も充実した内容の展示を行なった。開催数の達成はもちろん、平城宮跡にかかわる多彩なコンテンツを、様々な層の来館者に楽しんでもらえる様な展示内容を提供できたという点で、量のみならず質的にも所期の目標を十分に達成していると判断する。飛鳥資料館においては、常設展示を毎年一部分ずつ更新することで、中期的にはかなりの更新がなされてきた。3 施設において、文化庁や地方自治体、あるいは他館との協力を積極的に行っており、研究成果の公開や飛鳥の歴史と文化を発信するためにさまざまな工夫をしている点が評価でき、全体としては順調といえる。 今後はより分かり易い展示や外国語対応などを重視していく必要があろう。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6411

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化庁平城宮跡管理事務所の運営への協力（(4)－①）

【事業概要】

文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種事業、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力する。

【担当部課】	研究支援推進部	【プロジェクト責任者】	研究支援課長　今西康益

【スタッフ】

江川　正(宮跡等活用支援係長)、三本松俊徳(宮跡等活用支援係係員)

【主な成果】

(1)文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等における連携協力、文化庁の各種事業、発掘調査等の連絡調整及び文化庁施設の維持管理及び修繕等に対して提案、助言、連絡調整等協力し、文化庁の平城宮跡等整備事業に協力した。

【年度実績概要】

(1)文化庁平城宮跡等管理事務所の文化庁施設の公開・活用等に対し、以下のとおり積極的に協力した。

○文化庁が実施する各種事業及び発掘調査等に係る連絡調整

○宮跡内施設（建物、諸設備、工作物等）の整備、維持管理及び修繕等に係る文化庁への助言

	件名		件名
1	平城宮跡高圧配電線路設備改修	19	宮内省安全施設(ポストコーン)修理
2	東院庭園中央建物屋根檜皮改修	20	大極殿・朱雀門基壇等クリーニング
3	平城宮跡草刈工事	21	東院庭園苑路柵修理
4	大極殿及び朱雀門風鐸損傷の修理	22	遺構展示館駐車場舗装修理
5	宮内省東（復原東大溝）の橋修理	23	遺構展示館南棟屋外排水改善
6	宮跡内外灯の本設への切替工事	24	平城宮跡内水路改善
7	朱雀門消防訓練の実施にかかる協力	25	平城宮跡北辺境界調査
8	遺構展示館駐車場出入り口植栽の剪定	26	遺構展示館警備員詰所更新
9	大極殿免震装置点検	27	宮内省施設(ＷＣ)照明改修
10	東院庭園植栽の補植	28	東院庭園井戸ポンプ更新
11	東院庭園池循環設備保守点検業務	29	水路転落防止柵設置
12	大極殿院水路漏水対応	30	遺構表示植栽剪定
13	平城宮跡内施設等修繕計画	31	侵入防止柵修理・更新
14	平城宮跡地等整備、修繕等（27 年度実施分）の調整について	32	防犯通信整備
15	遺構展示館駐車場電線管修理	33	平城宮跡西側県道沿い植栽剪定
16	大極殿高御座クリーニング	34	大極殿・朱雀門塗装修理
17	佐紀池囲障改修	35	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務
18	宮内省進入防止柵修理	36	東院西南部苑路応急修理

○住民等からの要望や意見の文化庁への取次ぎ

・平城宮跡への来訪者、利用者、近隣住民等からの防火、防犯、植生及び運営等の意見

【実績値】

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6411
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	正確性				
評定	B	B				

判定理由
適時性：緊急性の高い事案に対して、提案、助言及び協力等を適時行った。
正確性：現在の状況及び過去の経緯等に基づいた、提案、助言及び協力等を適切に行った。

２．定量的評価

観点						
評定						

判定理由

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化庁平城宮跡管理事務所が行う文化庁施設の公開・活用等に積極的に協力し、文化庁の要請に応じ、文化庁施設の整備、維持管理及び修繕等に対して適時、的確に対応している。次年度計画については、平城宮跡の国営公園化を見据え、国等が行う、保存管理、公開活用事業についても協力していく。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化庁管理事務所が行う文化庁施設の公開・利用等の連絡、文化庁の各種事業、発掘調査等の連絡調整、文化庁施設の整備、維持管理及び修繕等の相談に対して適切に対応できている。また、文化庁施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても現況に基づいた維持管理の提案、助言協力等が適切に行われている。今後は、平城宮跡の国営公園化を見据え、国等が行う、保存管理、公開活用事業についても協力していく。

【書式Ｂ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 6412
（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力（(4)－①）

【事業概要】
(1)国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力を行う。
(2)文化庁と国土交通省が行う平城宮跡等の公開・活用事業への協力を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
神野 恵、芝 康次郎、浦 蓉子、青木 敬、小田裕樹、丹羽崇史、今井晃樹、林 正憲、石田由紀子、中川二美、馬場 基、山本祥隆、桑田訓也、箱崎和久、鈴木智大、大橋正浩、村山聡子、坪井久子、山本 崇、清野孝之、森崎一貴、清野陽一、西山和宏、福嶋啓人、前川　歩（以上、都城発掘調査部）、林 良彦、番 光（以上、文化遺産部）、小池伸彦、高妻洋成、脇谷草一郎（以上、埋蔵文化財センター）、津田保行、今西康益、江川　正、三本松俊徳（以上、研究支援推進部）

【主な成果】
(1)第一次大極殿院の建物復原研究のため、所内検討会を開催し記録集を作成した。また、これまでの検討から復原研究報告書の作成を進めた。
(2)文化庁や国土交通省が開催する会議等や平城宮跡内における整備に対して、専門的・技術的な援助・助言を行った。
(3)12 年度までに奈文研が行った平城宮跡の整備についての報告書を刊行した。

【年度実績概要】

(1)国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力
・所内検討会を 3 回開催し、発掘遺構のほか復原建物に用いる飾金具に関する検討を深めた。
・大極殿院の復原諸建物について、扉や窓といった細部形式の検討を進め復原案に反映させた。
・27 年度に行った上記の検討会の記録を冊子として発行した(①)。
・27 年度の検討成果を奈文研紀要に発表した（②)。
・これまでの検討成果について、資料をまとめ、復原調査報告書の作成を進めた。


第一次大極殿院建物復原に関する所内検討会
（発掘現場での検討）

(2)文化庁や国土交通省が行う平城宮跡等の公開・活用事業への協力
・文化庁が開催する「平城宮跡及び藤原宮跡等の保存整備に関する検討委員会」に出席し、平城宮跡及び藤原宮跡の発掘調査について発表し助言を得、研究に反映した。
・平城宮跡内の整備・管理工事にあたり、発掘調査や立会調査を行って記録を作成した。

(3) 昭和 45 年度から 12 年度までに奈文研が行った平城宮跡の整備についての報告書『平城宮跡整備報告書』を刊行した。

【実績値】
・検討会開催数　3 回　（第一次大極殿院建物復原に関する所内検討会）
・論文数等：4 件（①～④）

（参考値）
・平城宮跡内の整備工事に伴う立会調査出動件数：19 件 92 日
・文化庁や国土交通省が開催する会議等への出席：1 回

【備考】
①『第一次大極殿院復原検討会記録 13』（内部資料）28 年 3 月
②中川二美「鬼瓦の分布からみた平城宮の造営　－第一次大極殿院の復原研究 20－」『奈文研紀要 2016』28 年 6 月（予定）
③村山聡子「古代建築の柱間装置の仕様　－第一次大極殿院の復原研究 21－」『奈文研紀要 2016』28 年 6 月（予定）
④『平城宮跡整備報告書』(28 年 3 月)

【書式Ｂ】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　6412

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	A	B	B

判定理由
適時性：必要な検討を適時に行い、復原設計に反映させた。頻繁な立会調査への迅速な対応も含め、文化庁や国土交通省の各種要請に対し、的確に対応することができた。
独創性：遺構と遺物の精緻な観察や分析、さらにそれらをもととした精緻な検討を行った。
発展性：『平城宮跡整備報告書』等の刊行により、今後の平城宮跡の整備・活用に資する基礎的資料をまとめた。
効率性：事前に研究室内での検討を行い、所内検討会の論点を整理して議論の効率化を図った。頻繁で過密なスケジュールの立会調査等にあたり、事前打ち合わせ等を通じて、作業効率の向上に努めた。
継続性：所内検討会の継続的開催、及び継続的な資料の収集や分析を、立会調査も含めて行った。
正確性：精緻な研究や分析に基づきつつ、復原案を検討した。各種の対応や助言は的確に行った。

２．定量的評価

観点	検討会開催数	論文数等				
評定	B	B				

判定理由
検討会開催数：目標回数 3 回を達成した。
論文数等：目標件数 3 件以上を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・第一次大極殿院の復原研究を計画通り行い成果を得た。また、検討会記録を当初計画通りに刊行した ・整備に伴う立会調査等を、遅滞なく適切に行うことができた。 ・『平城宮跡整備報告書』を刊行し、平城宮跡における整備の事例をまとめることができた。世界遺産に登録されている平城宮跡の整備についてまとめた初めての本格的な文献であり、今後は世界遺産委員会等への説明資料としての利用も期待できる。 以上より、定性的評価、定量的評価ともに成果が認められる。 28 年度以降も、第一次大極殿院の装飾的細部や形式について、より具体的な形態の検討を行ってゆく予定である。また今後も研究の成果をわかりやすく公表できるよう、さらに工夫をしていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・中期計画最終年度に『平城宮跡整備報告書』を刊行し、平城宮跡における整備の事例をまとめることができた。また、国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力ため、復原研究を着実に進めた。・文化庁と国土交通省が行う平城宮跡の公開・活用事業に関連する会議等に参加した。 ・文化庁や国土交通省が行う平城宮跡整備工事等への立会調査等を遅滞なく行った。 なお、第一次大極殿院の建物復原研究では、実際に建物を建てるために細部形式の検討が必要になっている。27 年度は扉や窓の形式の検討をおこなったが、今後も遅滞なく細部形式の検討を行っていきたい。また、これらの研究の成果を報告書としてまとめ、全国の遺跡整備に資する研究を継続して実施していきたい。 平城宮跡全体の整備に対しても、文化庁や国土交通省と連携を図りながら、これまでの整備のノウハウを活かし、よりよい保存・整備・活用ができるよう尽力したい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6413

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力((4)－①)

【事業概要】

国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設とその展示に対して、助言・協力を行う。

【担当部課】	飛鳥資料館	【プロジェクト責任者】	学芸室長　石橋茂登

【スタッフ】

西田紀子(学芸室研究員)、若杉智宏(学芸室研究員)、小沼美結（アソシエイトフェロー）

【主な成果】

(1) 国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳体験学習館（仮称）の展示に資する奈文研所蔵・保管資料の中から協議に基づき展示に用いる資料を選定し、体験学習館に搬入して展示する作業に協力した。

(2) 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）と協力して国営飛鳥歴史公園事務所と展示内容について助言・協力を行った。

【年度実績概要】

(1) 飛鳥資料館及び都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）が保管しているキトラ古墳関連の出土品、土層断面剥ぎ取り、レプリカ、再現品、陶板などの中から、文化庁・国土交通省と協議の結果、土層断面剥ぎ取りと陶板を体験学習館の展示に供することとなり、当該資料を提供した。

(2) 国営飛鳥歴史公園事務所から提示された体験学習館及び公園内解説パネル案、展示品の模型類、映像資料などについて、学術的内容に関する助言と資料提供を、文化庁とともに、都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）と協力して行った。協議等は計 17 回行い、ＶＴＲ収録の立ち会いを２回、模型製作時の工場での監修を２回、体験学習館の建設現場の視察を行った。



建設中の体験学習館

【実績値】

協議等回数　計 17 回、VTR 収録立ち会い２回、模型製作監修２回

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6413
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	A	B	A

判定理由
適時性：28 年度開館予定にむけ国土交通省と受託業者が具体的な展示内容や建物・内装を製作する作業が進む中で、状況に応じて必要な情報や資料を提供し、展示、解説の内容について学術的な側面から協力することができた。
独創性：キトラ古墳、国営飛鳥歴史公園内檜隈地区の発掘調査と研究を行った実績のもと、他機関ではできない協力を行った。
発展性：当研究所の知見を踏まえた展示が行われることで、広く研究成果を周知し、今後の活動に資することが期待できる。
効率性：高い頻度で文化庁、当研究所、国営飛鳥歴史公園事務所及び関連の業者等が対面して協議したことで、効率的に情報を共有し、問題点を理解し対応することができた。
継続性：当研究所の長年にわたる調査研究成果を活かした協力ができた。このプロジェクトを継続してきたことにより築いた各機関の協力体制によって、円滑な協議等の実施と、具体的な展示模型やパネルなどの製作が行われた。
正確性：文化庁及び実際に調査研究を担った当研究所が情報提供したことにより、正確な情報を活かすことができた。

２．定量的評価

観点	協議等回数					
評定	B					

判定理由
協議等回数：頻繁に協議等を行うことで有効な協議や情報提供等を行うことができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	体験学習館の展示を作り上げていく過程で、その都度必要とされる情報を適時的に提供し、展示における内容の正確性についても有効な協力を行うことができた。28年度の開館に向けて順調に進行しており、これまでの調査研究に携わってきた当研究所の特性を最大限に活かした業務であると評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今次中期計画では国土交通省の要請に基づき、随時、適切な協力を行ってきた。特に、キトラ古墳体験学習館の開館を 28 年度に控え、27 年度は体験学習館での展示内容に関して、質量ともに従来を大きく上回る展示品や情報の提供、助言、校閲、監修など多方面の協力を実施した。高松塚古墳・キトラ古墳等の保存・活用について、保存科学、考古学等の多方面から長年にわたり調査研究を実施してきた当研究所ならではの経験・蓄積を活かした協力であり、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力の成果を迅速に反映させて充実した内容とすることができた。次期中期計画では開館後の公開活用の面で、さらに緊密な協力をしてゆくことが期待される。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6414

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報発信機能の強化
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力（(4)-①）

【事業概要】

国土交通省が建設予定の平城宮跡展示館・詳覧ゾーンに関して、展示品の選定や展示内容の企画立案と、それらを効果的に行うための展示評価、類似展示施設の状況調査を実施する。

【担当部課】	企画調整部展示企画室	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山洋

【スタッフ】

加藤真二(展示企画室長)、中川あや(展示企画室研究員)、中村　玲(展示企画室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

(1) 展示評価のための展示室簡易模型製作、インタビュー調査、ワークショップを実施した。
(2) 世界遺産隣接型展示施設や注目される展示手法をとる展示施設等の視察調査を実施した。
(3) 詳覧ゾーン基本設計の展示内容を一部修正し、展示候補品を再選定のうえ、リストと資料カードを作成した。

【年度実績概要】

(1) 26 年度にまとめた詳覧ゾーン基本設計案の課題等を克服するため、展示評価を、展示評価の専門家とともに実施した。展示室簡易模型は、26 年度展示案を原寸の 50 分の１サイズで立体化したもので、平面図やパースのみでは把握しづらい展示空間の有効性などを検証するために作成した。この検証により得られた改善点を反映した簡易模型も作成した。インタビュー調査は、２つの簡易模型を用いて、観覧時の印象や子供の行動を想定してもらうもので、育児経験者を対象に実施した。ワークショップは、詳覧ゾーン展示の展示手法について意見交換する目的で、様々な分野の展示業務従事者を対象に実施した。



展示業務従事者ワークショップの様子
（手前が簡易模型）

(2) 平城宮跡展示館と同様の世界遺産隣接型の展示施設について、展示施設と遺跡双方の関連づけ、外国人対応の内容・表現等について調査を実施した。この他、露出展示、バリアフリー、映像の多用、文献の展示、大型模型の展示等の注目される展示手法をとる展示施設について、学芸員への聞き取りも行いながら、設置の意図・開館後の問題点などについて情報を収集した。

(3) (1)と(2)の調査成果をふまえ、詳覧ゾーン基本設計展示案の見直しを行い、展示内容を修正した。修正を反映した平面図を作成した。具体的な展示手法の検討の過程では、コーナーごとにラフスケッチを作成した。平面図、ラフスケッチは展示企画協力のもと専門業者が行った。また、新規の展示内容に基づいて、展示候補品を選定し、リストと資料カードを作成した。
詳覧ゾーン以外のゾーン（公園案内ゾーン、ガイダンスゾーン）の展示計画案について専門的な見地から指導を行い、展示構成について詳覧ゾーンとのバランスや関連性について検証した。

【実績値】

(参考値)
展示評価簡易模型２点、インタビュー調査１回（回答数 11 件)、ワークショップ１回（参加者８名）
他の展示施設の視察調査９施設
詳覧ゾーン平面図１点、コーナーラフスケッチ 27 点
展示候補品リスト１式、資料カード 199 件
国土交通省地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所平城分室との定例会８回
展示評価専門家との打ち合わせ７回
展示業者との打合わせ９回

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6414

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	A	B	A	A

判定理由

適時性：28 年 1 月より開始した実施設計をスムーズに進められるような各種調査をそれまでに実施し、当該段階にふさわしい適切な修正を行うことができた。

独創性：展示室の簡易模型を用いた調査やワークショップによって、従来の平面図上の検討では見えてこなかった視点が得られ、利用者の興味を一層引きつつ、観覧しやすい新たな展示案を提案することができた。

発展性：27 年度に行った様々な調査・検討成果を即座に模型や平面図に反映したことで、28 年度の実施設計を効率よく進められる素地が整った。

効率性：27 年度は 4 月～12 月の間、展示業者が未定であったため、奈文研側で平面図やラフスケッチを業者に依頼して作成し、滞ることなく展示案検討作業を効率よく進めることができた。

継続性：28 年度の実施設計と、実施設計完了後におこなう展示準備では、27 年度に引き続き展示評価をおこなう予定である。展示評価は施設開館まで一貫性のある調査が重要であり、27 年度は 28 年度につながる制作途中評価の調査を行うことができた。

正確性：国交省、奈文研、展示業者（27 年 1 月～）の三者が関わる業務であり、検討過程の詳細や、決定事項の情報共有を齟齬なく行うため、打ち合わせ議事録の正確な資料化をおこなった。

２．定量的評価

観点						
評定						

判定理由

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	詳覧ゾーンの実施設計の開始に向けて、27 年度当初より各種調査を滞りなく行い、迅速に展示内容をブラッシュアップすることができた。また、28 年 1 月より連携を始めた実施設計担当展示業者とも、情報共有を速やかに行い、スムーズに実施設計を開始することができた。さらに、展示評価、視察調査の成果をもとに、基本設計の課題を具体的に改善した図面、模型を作成、これらを実施設計に反映させることができた。これにより、28 年度の実施設計にも順調に進むことができる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	25～27 年度は、基本設計と実施設計の間の空白期間で、当初は基本設計の見直しが計画されていなかったが、この三ヵ年、展示評価や視察調査を継続的に実施してきており、基本設計での課題を克服するための大幅な内容変更を行うことができた。基本設計の見直しを三ヵ年かけて行ったことにより、来館者にとって平城宮跡についてよりわかりやすく、魅力的な内容で、かつ、観覧しやすい内容になったと考える。次期中期計画初年度となる 28 年度は、実施設計が 6 月に完了し、以降は展示施工に入る。その段階では、具体的な展示文章や画像などの内容吟味や、効果的な演示手法について、内容詳細を固めていく予定である。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 6421
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
プロジェクト名称	平城宮跡解説ボランティア事業の実施、平城宮跡防災・防犯パトロール「平城宮跡みまもり隊」への参加、ＮＰＯ法人等への支援（(4)－②③④）

【事業概要】
平城宮跡への来訪者に当研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化財に対する理解を深めてもらうため、平城宮跡資料館や遺構展示館、東院庭園、朱雀門、第一次大極殿の復原建物等の案内・解説を行う平城宮跡解説ボランティアを運営する。平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に関して、平城宮跡みまもり隊へ参加することにより、平城宮跡内でのマナー向上や防災・防犯に寄与する。平城宮跡で活動するＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークに対して当研究所施設を活動の場所として提供、文化財に関する学習会等への講師派遣等の支援を行う。

【担当部課】	研究支援推進部連携推進課 研究支援課	【プロジェクト責任者】	連携推進課長　津田保行 研究支援課長　今西康益

【スタッフ】加藤真二(展示企画室長)、中川あや(展示企画室研究員)、中村玲(企画展示室アソシエイトフェロー)、梶原孝次(連携推進課課長補佐)、江川　正(宮跡等活用支援係長)、三本松俊徳(宮跡等活用支援係係員)

【主な成果】
(1)平城宮跡の解説をより多くの来訪者に効率よく行い、文化財への理解を大いに広げることができた。
(2)平城宮跡来訪者に平城宮跡内でのマナーの向上や防災･防犯活動を行っていることを理解してもらうことができた。
みまもり隊の活動が近隣住民、来訪者に浸透した結果、一般人の参加者が 26 年度を上回った。
(3)ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークへの支援を行った。

【年度実績概要】
(1)・定点解説のほか、予約及び当日受付した来訪者を対象に「ツアーガイド」として宮跡内散策に同行し解説を行った。
・活動者に対しては、当研究所が主催する専門研修及び他機関の文化財に関するボランティアガイドが解説する場に赴き、臨地研修を実施した。
・活動拠点でもある平城宮跡資料館において、企画する展示ごとに展示趣旨の解説を、その都度当研究所研究員によって実施した。
(2)・平日は平城宮跡内を巡回し、火災や宮跡内にある看板等の毀損予防のパトロール活動を行った。月 1 回の土日のボランティア活動では、平城宮跡来訪者に防犯メッセージが書かれたティッシュペーパーの配布や声かけを行い、マナー向上や防災・防犯意識を高める活動を行う等、事務局として連絡調整を行った。
・年 2 回、文化庁平城宮跡管理事務所、国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所平城分室、奈良県、奈良市、所轄警察署及び所轄消防署の行政機関やＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークによる連絡会議を開催しパトロール活動の報告を行った。
(3)・ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークに対して、活動場所、講師の派遣、資料の提供など、積極的な活動支援を行った。
・「平城宮跡クリーン大会」、「子ども歴史教室」を共催で実施するとともに、「平城宮跡歴史講座」、「遺跡見学会」、「平城宮跡探検隊」等を後援し、年間を通して連続した支援ができた。

【実績値】
(1)平城宮跡解説ボランティア登録数：133 名
(参考値)
(1)・ボランティア解説を受けた来場者延べ人数：80,407 人
・解説活動日数：306 日　　・解説活動者延べ人数：3,777 人(1 日当たり：12.34 人)
・解説ボランティアに対する学習会等回数：4 回
平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修：1 回、平城宮跡資料館秋期特別展の展示研修：1 回、
講演形式専門研修：1 回、臨地ガイド研修：1 回
(2)・平均参加者数：11.17 人　　・一般参加者数：16 人
(3)当研究所が支援し、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークが実施した主な事業名称、回数、活動場所、参加者数
・「平城宮跡クリーン大会」、1 回開催、平城宮跡内、参加者数 220 名（27 年 4 月 11 日）
・「子ども歴史教室」、1 回開催、平城宮跡資料館講堂・平城宮跡内、参加者数 14 名
（27 年 8 月 1 日）
・「平城宮跡歴史講座」（講演会）、3 回開催、平城宮跡資料館講堂、参加者数 525 名
（27 年 5 月 24 日、9 月 27 日、28 年 1 月 24 日）
・「遺跡見学会」、1 回開催、参加者数 18 名（講師派遣）（27 年 10 月 5 日）
・「平城宮跡探検隊」、1 回開催、参加者数 50 名（27 年 11 月 1 日）
・「木簡に出会う　平城京を巡るツアー」、1 回開催、参加者数 40 名（28 年 3 月 6 日）

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　6421
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
評定	B	B	B	B	B	

判定理由
適時性：平城宮跡解説ボランティア事業では、来訪者の様々な知識需要・必要性に対し、その場にて十分な対応ができた。時期によって異なる事案（行楽シーズン、花火等）に対して、啓発の方法・パトロール開始時間等を変更して活動を行った。
発展性：平城宮跡解説ボランティア事業においては、多種多様な層の来訪者へ解説ができ、海外からの来訪者に対しての反響は大きかった。また、ＮＰＯ法人等への支援を通じて、子どもたち等の体験学習が実施された。
効率性：解説ガイド申込の際に、来訪者へのアドバイスなど行うことで、解説に係る時間的・人的投資は、効率よくできた。また、ＮＰＯ法人等への支援を通じて、当研究所の施設を有効かつ効果的に使用し、参加者への広報・成果発表につながった。
継続性：年間を通して、平城宮跡解説ボランティア事業はとぎれず継続した解説者の配置を行うことができた。平城宮跡防災・防犯パトロールにおいては、毎月の活動日をあらかじめ設定し、定期的に行うことにより、参加者が欠員することなく、継続的に事業を行うことができた。ＮＰＯ法人への支援は、ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークが 13 年 11 月に認証されて以降、継続的に実施されてきた。
正確性：平城宮跡解説ボランティア事業においては、研修で得た知識・経験を基に正確な情報を伝えることができた。

２．定量的評価

観点	平城宮跡解説ボランティア登録数				
評定	B				

判定理由
平城宮跡解説ボランティア登録数：平城宮跡のガイドに必要な人数は確保されている。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	ガイドに必要なボランティアを確保し、解説ボランティアに対しては、特別展など展示内容の講習会や公開講演会への参加を通して、登録ボランティアの知識を高め、解説ボランティアガイドを行うにあたっては、来訪者に対し文化財の理解を広めることに大いに貢献した。 平城宮跡防災・防犯パトロールについては、一般参加者数が26年度を上回っており、従来の関係行政機関・NPO法人等だけで行う活動ではなくなってきている。27年度以降については、従前の方法に加えて、新たな試み(所内、展示公開施設及び公開講演会等での周知)を実施することにより、一般の参加者を増加させる。 ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワークが実施する子ども歴史教室、平城宮跡探検隊、平城宮跡歴史文化講座等への講師派遣、活動場所提供等の支援を行い、協力することによりその活動の活性化に貢献した。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	解説するボランティアへの学習・研修の機会を提供し、そのレベル向上につなげ、広報による解説受講者数の増加を図ることなど、ボランティア運営の積極的な実施ができた。今後もこのペースを維持し、当研究所の情報発信、さらには平城宮跡の公開活用につながるよう力を注ぐ。 次期中期計画期間においては、新しく解説ボランティアを募集し、研修を行うことによって、登録ボランティアの育成を行う。 平城宮跡防災・防犯パトロールにおいては、行政機関・ＮＰＯ法人等以外の一般参加者数が増加しており、みまもり隊の活動が平城宮跡の利用者や近隣住民に浸透したと思われるため、今期中期計画は、予定通りに実施できた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7111

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言（(1)―①）

【事業概要】地方公共団体等の実施する文化財の収集、保管、展示に対して援助するために、指導助言を行う。

【担当部課】	企画情報部	【プロジェクト責任者】	企画情報部長　山梨絵美子

【スタッフ】二神葉子（情報システム研究室長）、小林公治（広領域研究室長）、塩谷純（近・現代視覚芸術研究室長）、小林達朗（文化形成研究室長）、皿井舞（主任研究員）、安永拓世（研究員）、橘川英規（研究員）、城野誠治（専門職員）、福永八朗（アソシエイトフェロー）、田所泰（アソシエイトフェロー）、

【主な成果】

各研究員の専門的知識を活かして、地方公共団体等の行う文化財の収集、保存、展示に対して指導、助言を行った。

【年度実績概要】

27 年度は以下の組織等において指導助言を行った。

・京都国立近代美術館作品収集委員会　1 件
・小杉放菴記念日光美術館・碧南市立藤井達吉現代美術館・萬鉄五郎記念美術館、多和英子 vs 放菴・達吉・鉄五郎展実行委員会　1 件
・東京国立近代美術館　海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業　実行委員会　1 件
・千葉県美術館資料審査委員会　1 件
・岩手県立美術館美術品収集評価委員会委員会　1 件
・佐倉市立美術館運営協議会委員会　1 件
・公益信託　倫雅美術奨励基金運営委員　1 件
・茨城県近代美術館美術資料審査委員会委員会　1 件
・愛知県美術館美術品収集委員会委員会　1 件
・小杉放庵記念日光美術館評議員会　1 件
・秋田県立美術館アドバイザー会議　1 件
・迎賓館の改修に関する懇談会委員　1 件
・東京国立近代美術館　海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業　実行委員会　1 件
・豊島区美術品等収集・活用委員会　1 件
・横須賀市美術館収集委員会　1 件
・静岡県立美術館研究活動評価委員会　1 件
・静岡県立美術館美術館専門委員会　1 件
・静岡県文化・観光部文化局富士山世界遺産課　1 件
・岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課　1 件



海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業

【実績値】

指導助言件数　19 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　7111
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性	発展性		
評定	B	B	B	B		

判定理由
適時性：依頼先の求めに応じて時宜を得て対処することができた。
継続性：複数の委員が複数年にわたって継続的に委嘱されており、助言の継続性が認められる。
正確性：求められている件について的確な助言をすることができた。
発展性：提示した助言がよりよい文化財の保存や活用に反映された。

２．定量的評価

観点	指導助言件数					
評定	B					

判定理由
指導助言件数：26 年度同様、充分かつ適切な助言を行うことができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	助言数とその内容において充分な業務を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	今中期計画期間において、地方公共団体等に対して継続的に指導助言を行うことができたことから、所期の目標を達成できたと考える。このことを踏まえ、次期中期計画では、当研究所が行う文化財の調査・研究成果を集約し、専門性の高い資料や情報の蓄積・整理、データベースの継続的拡充を行い、レファレンスを充実させてゆきたい。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7112

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言((1)－①)

【事業概要】

地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・活用などの事業に対し助言を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長　飯島　満

【スタッフ】

高桑いづみ(無形文化財研究室長)、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長)、石村智（主任研究員)、菊池理予(研究員)、今石みぎわ(研究員)

【主な成果】

27 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁文化財部伝統文化課への助言を始め、以下の助言を行った。

【年度実績概要】

27 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。

・国際芸術交流支援事業（文化庁）への助言　1 件
・日本芸術文化振興会への助言　1 件
・東京都武蔵野市への助言　1 件
・静岡県川根本町への助言　1 件
・岐阜県岐阜市への助言　2 件
・一般財団法人日本青年館への助言　1 件
・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言　1 件
・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への助言　1 件
・早稲田大学演劇博物館への助言　1 件
・東京都歴史文化財団への助言　1 件

【実績値】

助言件数　11 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　7112
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
評定	B	B	B			

判定理由
適時性・継続性・正確性：古典芸能、民俗芸能、民俗技術等の無形文化遺産の調査・保存・活用に関わる各種委員会等に継続的に委嘱されており、的確な助言を行うことができた。

２．定量的評価

観点	助言件数					
評定	B					

判定理由
助言件数：継続的に委嘱されている委員会への出席を含め、助言の件数はほぼ例年通りであり、十分である。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼が寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間、地方公共団体等の公的機関が行った無形文化遺産の保存・伝承・活用等に対し、継続的に助言を定期的に行い、所期の目標を達することができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7113

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言((1)－①)

【事業概要】

地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助するために、文化財の修復及び整備に関する調査・助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田　健

【スタッフ】

中山俊介（近代文化遺産研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、佐野千絵（保存科学研究室長）、早川泰弘（分析科学研究室長）、犬塚将英（主任研究員）、早川典子（主任研究員）、森井順之（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、山下好彦（任期付研究員）、楠京子（アソシエイトフェロー）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、大河原典子（鎌倉女子大学専任講師・客員研究員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】

27 年度は、修復の手法、修復材料、事前調査などに関する指導助言をおこなった。対象は建造物、美術工芸品、史跡、歴史資料等である。

【年度実績概要】

(1)27 年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝比叡山延暦寺根本中堂、国宝宝厳寺唐門、国宝日光東照宮陽明門、国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）、国宝醍醐寺文書聖教、国宝平等院鳳凰堂、国宝島津家文書、国宝二条城障壁画、国宝円覚寺洪鐘、重要文化財菅尾磨崖仏、史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳、史跡楠明重定古墳、史跡塚花塚古墳、史跡竹原古墳、重要文化財通潤橋、史跡小田良古墳、東大寺所蔵重要文化財紙本著色東大寺大仏縁起、史跡石人山古墳、史跡薬師堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡日野江城、史跡清戸迫横穴、重要文化財羅漢寺石仏、史跡下馬場古墳、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡韮山反射炉、史跡萩反射炉、史跡高島炭坑跡、特別史跡原爆ドーム、国宝富岡製糸場西置繭所、史跡桜京古墳、史跡北代遺跡、重要文化財スタンホープ印刷機、重要文化財横利根閘門給排水機、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財厳島神社反橋、重要文化財厳島神社荒胡子神社、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財旧弘前偕行社、重要文化財泉穴師神社、神奈川県立博物館所蔵重要文化財十王図。

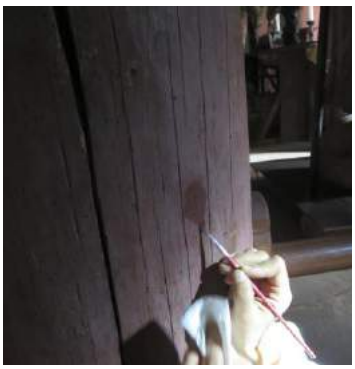
油汚損関連案件（東大寺、教王護国寺、当麻寺、立石寺、山寺、羽黒山五重塔、善寶寺、若松寺、慈恩寺等）。

(2)地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

古賀市船原古墳、山元町合戦原遺跡、泉涌寺所蔵絹本著色蝦蟇鉄拐図、水俣市北園上野古墳群、醍醐寺文書聖教、泉穴師神社、絵金屏風、大山崎町宝積寺石造塔、小豆島町石造文化財、臼杵市内キリシタン遺跡、町田市西谷戸横穴墓群、鎌倉市扇ヶ谷周辺遺跡出土資料、東京都指定文化財候補地の史跡整備、鹿嶋市龍蔵院仏画、日本航空協会所蔵「飛燕」修復、日本郵船所有「氷川丸」、横浜市「日本丸」、安楽寺多宝小塔、鎌倉市大倉幕府周辺遺跡出土漆器、京都市平安京跡出土資料、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機。



国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉大仏）事前調査



汚損事故により付着した油の除去のためのテスト作業

【実績値】

調査・助言件数　77 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7113
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
評定	A	B	B			

判定理由
適時性：文化財の所有者である地方公共団体等の多数の要請に対して、迅速かつ的確な調査・助言を実施した。
継続性・正確性：文化財の保存・修理・活用等に関して行われる調査・助言は、保存・展示環境等の変化に応じて継続的に実施することが必要な場合もあり、現場における継続的な環境調査や作品に関する各種非破壊検査等の結果をもとに客観的で正確な指導助言を行った。

２．定量的評価

観点	調査・助言件数					
評定	B					

判定理由
調査・助言件数：例年と同様、必要かつ十分な調査・助言を実施することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査・保存・整備・活用を行っていく上で、科学的調査が果たす役割は年々高まっている。地方公共団体等の実施するこれらの事業に対して、的確な調査を行い、その調査結果に基づいた助言を行った。非破壊・非接触の科学的調査機器を主として活用し、調査対象の文化財にできる限りリスクを与えることのないよう配慮した。さらに、27年度は油による被害など人的要因による文化財の汚損などへの対応に関して現場において調査を行い、それに基づいた助言を行うなど、多様な調査・助言への依頼に対し、適切な機器を活用し、的確に対応することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通じ、地方公共団体や大学、研究機関等からの要請に応じ当所が持つ専門的知識を提供し指導助言を行ったことで、各地に残る文化財の保存に役立っている。指導・助言の依頼内容は多岐にわたり、調査対象作品の大きさや状態によって、調査場所や調査内容も異なる。作品を所蔵する博物館・美術館あるいは社寺等での調査を実施することも多く、現場で予期しない困難に直面することも少なくない。27 年は意図的に文化財を汚損させるような事例が発生し、それに対する対応がかなりの件数に登った。また、東日本大震災関連の破損に対する指導助言も概ね一段落し、これまでどちらかといえば後回しにされてきた案件に関して 28 年度以降対処することになる。それらの対処も含め東文研が有する科学調査技術の信頼性を高め、より高度な調査を安全に実施できるように、調査技術の一層の向上を図る。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7114

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言((1)－①)

【事業概要】

文化財の虫菌害に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	生物科学研究室研究員　佐藤嘉則

【スタッフ】

犬塚将英（主任研究員)、吉田直人（保存科学研究室長)、佐野千絵（副センター長)、岡田健（センター長)、小野寺裕子（研究補佐員)、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】

文化財の虫菌害に関する、国や地方公共団体等からの要請に対して、専門的な見地から対策等に関する指導・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。

【年度実績概要】

文化財の虫菌害対策に関する要請に対して指導・助言を行った。主な相談先は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復関係機関等であった。対応件数は、32 の相談先から合計で 36 件であり、7 件については虫菌害の現地調査等のより細かな解析を実施したものが含まれる。

虫菌害の内容は、文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多岐にわたり、環境は屋内のみならず屋外環境におかれた文化財についての事柄もあった。対象も多岐にわたり、鳥類、両生類、爬虫類、小型の哺乳類などの小動物、昆虫類、カビや細菌などの微生物から、地衣類、藻類、草本類といった光合成生物にも及び、広範囲の対象に対応した。また、津波被災文化財など災害に伴う水損資料の処置に関する事柄もあった。

博物館、美術館、図書館などでは、IPM に基づく管理体制への変更が進められている状況にあって、単に予算の削減のため定期的な殺虫殺菌燻蒸処置の中止となった館が、その後数年を経て虫菌害の被害が出てくるという事例が数件あった。これについては、近年の傾向として問題視していかなければならないのと同時に、正しい文化財 IPM の教育普及が今後の喫緊の課題として浮彫となった。



文化財展示収蔵施設（公立の公文書館）でのカビ被害調査

【実績値】

指導助言件数　：36 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7114
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
評定	A	B	B	B	B	

判定理由

適時性：文化財の虫菌害は、被害の拡大を防ぐことが最優先となる場合が多いため、緊急性を伴う対応が必要となるが、すべての要請に対して、優先的かつ迅速に対応することができたといえる。
発展性：要請に対する課題解決を通して、近年の生物被害の傾向や現場の要望を捉えることができ、需要主導型の新規研究課題への展開が期待される。
効率性：現地での調査や分析試験を伴う場合が多く、多大な時間と労力を要するが、少数のスタッフで役割分担をし、最大限の成果を出したといえる。
継続性：毎年、様々な質・内容の要請があるが、それぞれの現場にとって重要な課題であることを認識し、継続してできる限りの対応をしたといえる。
正確性：指導・助言を行う上で、正確な状況を知ることが不可欠であるため、必要と判断される場合には現地調査を実施する、あるいは、電子媒体を通じて、写真や文面などから、状況をできる限り正確に把握した上で、適切な指導・助言ができるよう努力したといえる。

２．定量的評価

観点	指導助言件数					
評定	B					

判定理由
指導助言件数：多くの相談案件数に対し、すべて指導・助言等を行った。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	国や地方公共団体等からの要請等は時期を問わず、常に緊急性を伴っているが、その都度、他の業務との調整を行いながら優先的かつ迅速に対応することができ、27年度受けた事案については、過失等なく解決できた点で、一定の成果を挙げたといえる。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間において、国や地方公共団体等文化財からの虫菌害に関する要請に対して助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献し、所期の目標を達成することができた。虫菌害の被害については、現場での対策と併せて、教育普及といった広報活動が予防策として重要である。虫菌害の被害の絶対数を減らし、本業務の人的・時間的負担を今後軽減していくためにも、28年度以降からは、広報活動にも重点を置きながら進めていくことが必要であると考えられる。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 7115

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言((1)－①)

【事業概要】

地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用等の事業に対する支援として、文化財の材質・構造に関する調査・助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

【スタッフ】

犬塚将英（主任研究員)、吉田直人（保存科学研究室長）

【主な成果】

27 年度は、蛍光Ｘ線分析・Ｘ線回折分析・可視反射分光分析等による材質調査、及びＸ線透過撮影による構造調査など、以下に示す調査・助言を実施した。

【年度実績概要】

27 年度に実施した文化財の材質・構造に関する調査・助言は以下のとおりである。

・調査作品（所蔵先、調査月）

(1)材質調査（15 件）
- 漆工品（東慶寺、27 年 4 月）
- 青銅鏡（祐天寺、27 年 4 月）
- 彫刻像（長瀧寺、27 年 4 月）
- 銅造仏（文化庁、27 年 4 月）
- 金工品（名古屋城、27 年 7 月）
- 金工品（平等院、27 年 8 月）
- 洋風画（長崎大司教区、27 年 10 月）
- 漆工品（首里城、27 年 11 月）
- 文書類（東京都公文書館、27 年 11 月）
- 天井画（祐天寺、27 年 11 月）
- 日本画（沖縄県、27 年 12 月）
- 日本画（岡田美術館、28 年 1 月）
- 陶磁器・工芸品（沖縄県、28 年 1 月）
- 彫刻像（文化庁、28 年 2 月）
- 日本画（文化庁、28 年 2 月）

(2) 構造調査（5 件）
- 鏝絵・塑像（松崎町振興公社、27 年 5 月）
- 仏像（大津市歴史博物館、27 年 11 月）
- 出土遺物（明治大学博物館、27 年 12 月）
- 絵画（愛知芸術文化センター、27 年 12 月）
- 刀剣（刀剣博物館、28 年 1 月）



伊豆長八美術館（松崎町）での鏝絵の構造調査

【実績値】

調査・助言件数　20 件

【備考】

上記の材質・構造調査について、調査終了後には全て調査報告書を依頼者及び作品所蔵者に提出している。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7115

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
評定	A	B	B			

判定理由
適時性：所蔵先の地方公共団体・社寺等からの要請に的確に応じ、迅速に調査・助言を実施した。
継続性及び正確性：保存・修理・活用等に関して材質構造調査の継続的な実施を希望する所蔵者も現れてきた。
科学的調査に基づいた客観的評価による保存・修理・活用が行われつつある。

２．定量的評価

観点	調査・助言件数					
評定	B					

判定理由
調査・助言件数：例年以上に、必要な調査・助言を実施することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財の調査・保存・整備・活用を行っていく上で、科学的調査が果たす役割は年々高まっている。所蔵先からの要請に応じて的確かつ迅速に調査を行い、その調査結果に基づいた助言を行った。小型可搬型機器を積極的に活用し、非破壊・非接触の調査により文化財の安全に十分配慮した調査を実施するよう心掛けた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画最終年度として、地方公共団体・博物館美術館・社寺等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用等に関して、東文研がこれまでに培ってきた科学的調査技術を活用した調査・助言を行った。また、年々、調査依頼件数も増える傾向にあり、当研究所が有する科学調査技術の信頼性が高まってきたことを示している。今後も、調査をより安全に実施できるように、調査技術の一層の向上を図るよう努める。

【書式B/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7116
(様式1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言((1)－①)

【事業概要】文化財施設による国宝･重要文化財などの展示・収蔵・借用に係る館内環境調査を行い、報告書を作成・提出する。また、文化財を扱う施設からの保存環境等に関する相談に対して、必要な援助や助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存科学研究室長　吉田直人

【スタッフ】
佐野千絵（副センター長)、岡田健（センター長)、石井恭子（研究補佐員）

【主な成果】
国指定品の収蔵、展示を予定する43館を対象とした環境調査を行い、報告書を作成した。
また、全国の多くの文化財施設等からの保存環境に関する相談に対して、必要な対応を行った。

【年度実績概要】
27年度は、次の43館に対して環境調査を行い、報告書を作成・提出した。

兵庫陶芸美術館、新潟県立万代島美術館、弘前市立博物館、島根県立美術館、佐野市郷土博物館、豊田市美術館、鈴鹿市考古博物館、香雪美術館、宇和島市立伊達博物館、桑名市博物館、京都市元離宮二条城、渋谷区立松濤美術館、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、頼山陽史跡資料館、静岡市立登呂博物館、千葉県立美術館、安芸高田市歴史民俗博物館、致道博物館、荒川豊蔵資料館、久能山東照宮博物館、大分市歴史資料館、飯能市郷土館、秋田県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、遊行寺宝物館、八幡市立松花堂庭園・美術館、台東区立書道博物館、千葉県立中央博物館大多喜城分館、兵庫県立美術館、稲沢市荻須記念美術館、島田市博物館、富山県水墨美術館、東京藝術大学大学美術館、石橋財団アートリサーチセンター、北海道博物館、彦根城博物館、さくら市ミュージアム、壬生町歴史民俗資料館、沖縄県立博物館・美術館、石川県立歴史博物館、米沢市上杉博物館、ふくやま美術館、岡崎市美術博物館

また、全国の博物館、美術館、社寺、その他文化財収蔵施設の保存環境、及び新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、必要に応じた現地調査なども適宜行った。



パッシブインジケーター法
による空気環境調査

【実績値】
調査・助言件数　660件
(参考値)
環境調査報告書作成数　47通
保存環境に関する相談　施設数126館　相談件数のべ　660件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7116
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：新築・改築施設や所有者以外による国指定品の公開や保存にあたり、適切な環境であるかどうかを十分かつ客観的な調査データに基づいて判断し、必要に応じて改善のための迅速な助言・指導を行っている。
独創性：第三者機関として公正かつ客観的な環境評価を行っている。
発展性：数多くの環境に関する相談内容から、早急な解決を要する保存管理上の問題点を抽出し、当所としての研究課題としてきた。
効率性：簡便かつ正確な環境評価が確保される手法によって調査を行っている。
継続性：環境管理はあくまで施設職員によるものであるとの観点から、自ら行うことが可能な環境評価や改善方法についての助言・指導に努めている。
正確性：環境評価や助言・指導は常に客観的な調査結果に依拠して行っており、必要であれば精密調査の進言や現地に赴いての実情把握も行っている。

２．定量的評価

観点	調査・助言件数					
評定	B					

判定理由
調査・助言件数：調査依頼や相談に対して適切に対応し、環境管理や維持、改善に資することができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	新築・改築施設や所有者以外による国指定品の公開や保存にあたり、客観的な環境調査を行なった上で報告書を作成した。 保存環境に関する相談に対しては、施設の構造や設備も勘案しながら、継続的かつ確実な環境改善と維持のための助言を行った。今後も、この業務を通して得られた経験や知見を、保存環境に関する研究シーズ探索に活かしていく予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	博物館等に対して環境に関する援助・助言を行うとする中期計画に沿って、すべての依頼に対して適切な評価を行い、安全な文化財の保存と展示に資することができた。

【書式Ｂ】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7117

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助((1)－①)

【事業概要】

地方公共団体からの要請に応じて、特別史跡平城宮跡やその周辺、寺院跡等の重点地区における小規模開発に対し、奈良時代を中心とした各時代の土地利用の実態把握や、遺構面の深度の把握等を目的として発掘調査を実施する。また同上地域において、発掘調査に及ばない小規模開発に対し、遺構面の深度の把握や開発による遺構破壊の有無の確認を目的として立会調査を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部(平城)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺　晃宏

【スタッフ】

林正憲（都城発掘調査部主任研究員)、芝康次郎（考古第一研究室研究員)、丹羽崇史・小田裕樹(以上、考古第二研究室研究員)、石田由起子（以上、考古第三研究室研究員)、鈴木智大・海野聡(以上、遺構研究室研究員)、浦蓉子（考古第一研究室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

・地方公共団体からの要請に基づき、平城宮・京跡における小規模開発に伴う発掘調査・立会調査を実施した。
・緊急性を要する状況に適切に対応し、効率的な調査を実施した。
　平城宮・京跡に関する基礎的資料を継続的に蓄積することができた。
・地方公共団体に対し、調査成果を迅速に伝達し、文化財保護行政に資する情報として共有した。また、紀要を通じて調査成果を公表し、学術的情報として公表した。

【年度実績概要】

・発掘調査の概要
　調査件数合計 6 件。延べ日数 52 日。
　調査面積合計 485 ㎡
　調査の概略は下表の通り

次数	遺跡名	調査期間		面積	主な遺構・調査下見
547 次	法華寺旧境内	27 年 4 月 1 日	～ 4 月 28 日	292 ㎡	法華寺中軸線近くに位置する奈良時代の大型掘立柱建物の他、土坑などを確認した。
548 次	平城宮北方	27 年 4 月 13 日	～ 4 月 22 日	98 ㎡	大型の掘立柱建物 1 棟を確認したが、調査区外に伸びるため規模は確定できなかった。
549 次	平城宮北方	27 年 5 月 7 日	～ 5 月 11 日	30 ㎡	古代の瓦を転用した瓦暗渠、小穴などを検出したが、時期の特定には至らなかった。
556 次	平城京右京三条一坊九坪	27 年 7 月 27 日	～ 7 月 28 日	4 ㎡	顕著な遺構なし。
558 次	平城京左京一条二坊九坪	27 年 8 月 24 日	～ 9 月 8 日	25 ㎡	重複する奈良時代の土坑 4 基の他、地鎮に関わる可能性のある小土坑を確認した。
562 次	平城宮北方	27 年 12 月 7 日	～ 12 月 15 日	36 ㎡	整地土及び奈良時代の遺構面を確認した。
564 次	西大寺旧境内	28 年 3 月 14 日	～ 3 月 18 日	20 ㎡	顕著な遺構なし。

・立会調査の概要
　立会件数合計 35 件。延べ日数 65 日。
　遺構面の深度に関する情報を蓄積し、また遺構保護に尽力した。

【実績値】

終了報告書：7 件

(参考値)

出土遺物：瓦片 52 箱(うち軒丸瓦 4 点、鬼瓦 1 点、施釉塼 2)、土器片 7 箱
記録作成数：実測図 25 枚(A2 判)、遺構写真 40 枚(4×5)、デジタル写真約 600 枚

【備考】

『奈良文化財研究紀要 2016』(28 年 6 月予定)

【書式Ｂ】
（様式2）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　7117

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：奈良県及び奈良市からの緊急性の高い要請に対し、的確に対応した。また調査成果を終了報告書として迅速に地方公共団体に伝達し、文化財保護行政に資する情報を提供した。
独創性：従前の調査の蓄積を踏まえて、質の高い調査を行うことができた。
発展性：平城宮・京の実態解明に資する基礎データを蓄積することができた。
効率性：緊急性の高い要請に対し、日程・予算等の効率化によって適切に対応した。
継続性：平城宮・京地域の遺構に関するデータを、継続的に蓄積した。
正確性：円滑な文化財保護行政の実施に協力し、正確な調査を実施した。

２．定量的評価

観点	終了報告書					
評定	B					

判定理由
終了報告書：目標件数６件を達成した。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	・地方公共団体の要請に迅速に対応しつつ、継続的な学術調査を、正確に実施することができた。 ・調査成果を、直ちに地方公共団体に提供し、文化財保護行政の円滑な実施に協力した。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間を通じ、地方公共団体からの要請に応じて、特別史跡平城宮跡やその周辺等の重点地区における発掘調査や立会調査を随時継続的に行い、土地利用の実態把握や、遺構面の深度の把握、遺構破壊の有無の確認等を積み重ね、データの蓄積を継続的に進めた。これらにより、中期計画の所期の目標を達成した。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7118

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言((1)－①)

【事業概要】飛鳥・藤原地域は、我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究では、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行い、その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組む。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長　玉田芳英

【スタッフ】尾野善裕（考古第二研究室長)、清野孝之(考古第三研究室長)、西山和宏、森川実、廣瀬覚、降幡順子、山本崇(以上、都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人、和田一之輔（以上、考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、川畑純、清野陽一（以上、考古第三研究室研究員)、大林潤、前川歩（以上、遺構研究室研究員)、山本亮(考古第三研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫（企画調整部写真室再雇用職員)、栗山雅夫(企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室アソシエイトフェロー)

【主な成果】

藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は 15 件あり、主に工事に伴う事前調査や立会である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮及び飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積した。

【年度実績概要】

藤原宮跡及び飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査及び立会への援助・助言の事業は 15 件あった。

次　数	調　査　地	調査原因	発掘面積	調査期間	概　要
185-1 次	山田寺跡	擁壁建設	6.25 ㎡	27.5.19～31	遺構面まで達せず
185-4 次	藤原宮跡	試掘調査	3.8 ㎡	27.6.4～6.8	古代の遺構面を検出
185-6 次	藤原宮跡	住宅建設	54 ㎡	27.8.3～26	建物 1 棟、土坑 2 基検出
185-7 次	藤原京右京八条二・三坊	住宅建設	81 ㎡	27.10.13～11.20	西二坊大路、八条条間路を検出
185-8 次	川原寺跡	橋梁建設	84 ㎡	28.1.12～19	古代の遺構面を検出
185-9 次	川原寺跡	工事立会	775 ㎡	27.11.24～12.10	遺構面まで達せず
185-10 次	奥山廃寺跡	住宅建設	8 ㎡	27.12.14～18	古代の溝、整地土を検出
185-11 次	本薬師寺跡	工事立会	31 ㎡	28.1.12～25	遺構面まで達せず
185-12 次	藤原宮跡	工事立会	1.1 ㎡	28.1.22･2.26	遺構面まで達せず
185-13 次	藤原宮跡	住宅建設	6 ㎡	28.2.23	古代の流路を検出
185-14 次	藤原宮跡	工事立会	9.7 ㎡	28.3.3	遺構面まで達せず
185-15 次	甘樫丘	工事立会	26.4 ㎡	28.2.17～2.18	遺構面まで達せず
185-16 次	奥山久米寺	住宅建設	71 ㎡	28.3.15～16	遺構面まで達せず
185-17 次	高松塚古墳周辺	工事立会	139.9 ㎡	28.3.8～17	遺構面まで達せず
185-19 次	藤原宮跡	工事立会	613.8 ㎡	28.3.27～30	遺構面まで達せず

以下 185-7 次調査の成果を述べる。

藤原京右京八条二・三坊において調査を行い、藤原京西二坊大路、同東西両側溝、八条条間路、同南側溝を検出した。西二坊大路の路面幅は両側溝心々で 16.9ｍである。また、西二坊大路路面の下層で、先行西二坊大路東側溝の可能性がある南北溝を検出した。藤原京の実態解明に向けた重要なデータを蓄積した。



（185－7 次　藤原京西二坊大路西側溝　北から見る）

【実績値】

論文等数：3 件(①～③)

（参考値）

出土遺物（185-1～19 次の合計）：木器・木製品 2 箱、土器・土製品コンテナ 17 箱、金属製品 2 箱、石器・精製品 1 箱、軒瓦 8 点、丸･平瓦コンテナ 18 箱

記録作成数（185-1～19 次の合計）：遺構実測図 19 枚、写真（4×5）109 枚、デジタル写真 179 枚、デジタルメモ写真 686 枚。

援助・助言数：15 件

【備考】

論文等

①「藤原宮跡の調査-第 185-6 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28 年 6 月(予定)

②「藤原京右京八条二・三坊の調査-第 185-7 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28 年 6 月(予定)

③「奥山廃寺跡の調査-第 185-10 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28 年 6 月(予定)

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7118
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	B	B	B	B	B

判定理由
適時性：開発行為に対する緊急の事業に対応し、地方公共団体の文化財保護行政に適切に協力した。
独創性：我が国古代国家成立期の舞台であり、6 世紀末から 8 世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった飛鳥・藤原地域において、古代国家の具体像を復元すべく調査研究を行った。
発展性：今後の飛鳥・藤原地域の実態解明に資するに関する遺跡情報を将来に向けて蓄積した。
効率性：開発事業に対する緊急の事業に効率的に対応し、今後の研究に活かすための調査成果を得た効率的に調査を実施した。
継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集と蓄積のために、規模の大小に関わらず、調査を継続した。
正確性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報を、遺跡のもつ地域性や時代性、遺跡の内容および性格の特性を踏まえ、正確に資料化した。

２．定量的評価

観点	論文等数					
評定	B					

判定理由
論文等数：27 年度公表が必要な３件の事業について公表ができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	27年度における開発行為に対する緊急の事業等、年間15件の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の埋蔵文化財行政に対して援助・助言を行った。これらの調査を通して藤原京及び飛鳥地区の遺跡のデータを継続的収集し、今後の研究に生かすことができるデータを蓄積することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の５年間を通じ、開発事業に伴う事前調査等に迅速に対応し、地方公共団体の埋蔵文化財行政に適切な助言・援助を行った。飛鳥・藤原地域において、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行い、その成果を刊行物等で随時、公開した。これらにより、中期計画の目標を達成した。 飛鳥･藤原地域の調査研究成果を蓄積することにより、次期中期計画に向けた見通しを得ることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7119

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（(1)－①）

【事業概要】

地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し協力・助言を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。

【年度実績概要】

主な協力・助言

・「法隆寺金堂壁画　保存活用調査委員会」委員
・元興寺文化財研究所専門委員
・文化遺産国際協力コンソーシアム運営委員会委員
・史跡ガランドヤ古墳保存整備委員会委員（大分県日田市）
・奈良市文化財保護審議会委員（奈良県奈良市）
・橿原市菖蒲池古墳調査検討委員会委員（奈良県橿原市）
・郡上市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（岐阜県郡上市）
・松坂城跡整備検討委員会委員（三重県松阪市）
・名勝多賀大社奥書院庭園保存管理計画策定委員会委員（滋賀県多賀町）
・三内丸山遺跡発掘調査委員会委員（青森県）
・島根県古代文化センター客員研究員（島根県）
・茨木市史編さん委員会委員（大阪府茨木市）
・国史跡伊勢国分寺跡保存整備検討委員会委員（三重県鈴鹿市）
・史跡出雲国府跡発掘調査指導委員会委員（島根県）
・古代官道調査委員会委員（兵庫県）
・埋蔵文化財事業運営協議会委員（愛知県）
・千石コレクション調査研究委員会委員（兵庫県）
・松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会保存処理専門部会委員（長崎県松浦市）
・水中遺跡調査検討委員会委員（文化庁）
・東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会委員
・金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員（石川県）
・「文化遺産の保護に資する研修 2015（集団研修）-木造建造物の保存と修復-」にかかる講師（福岡県）
・特別史跡三内丸山遺跡発掘調査委員会指導（青森県）
・平成 27 年度埋蔵文化財保護行政基礎講座講演（文化庁）
・歴史館所蔵資料の調査指導（岡山県）
・平成 27 年度職員専門研修の講師（高知県）
・船山第 1 号墳埋蔵文化財調査に係る写真撮影指導（愛知県豊川市）

【実績値】

(参考値)

協力・助言実施件数

(出張依頼を受けた件数：373 件（委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等））

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7119
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
評定	B	B	B			

判定理由
適時性：地方公共団体の要請に応じ、実施業務に適時・適切に対応した。
継続性：就任した委員会等では、多くが継続的な委員会であり、再任・任期の延長によって専門的・技術的な助言を行ってきた。
正確性：的確な協力・助言により事業の順調な実施を実現させた。

２．定量的評価

観点						
評定						

判定理由

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、的確に協力・助言を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画において、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・修復事業や、建造物の調査、修復事業について、各担当機関から専門的な協力・助言を求められ、特に東日本大震災関連の委員会において、適時・適切に対応し、所期の目標を達成することができた。当研究所に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　7121

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施（(1)―②）

【事業概要】

地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について，共同研究及び受託研究を実施する。

【担当部課】	東京文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　亀井伸雄

【スタッフ】

【主な成果】

地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について，これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし，共同研究及び受託研究を行った。

【年度実績概要】

地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。

・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務
・高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査
・文化遺産国際協力コンソーシアム事業
・第 39 回世界遺産委員会審議調査研究事業
・文化遺産国際協力拠点交流事業
・エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務
・ユネスコ日本信託基金事業「バガン建築遺産保存のための技術支援」に係る委託
・絵金屏風の保存修理に関する調査研究
・高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究
・日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討
・国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究
・美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究事業
など

このほか、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所，一般財団法人日本航空協会，鎌倉市，金沢箔技術振興研究所，公益財団法人徳川記念財団と計 5 件の共同研究を行った。

【実績値】

（参考値）

受託研究件数：21 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7121
（様式2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性			
評定	B	B	B			

判定理由
適時性：地方公共団体等の要請に応じて，研究課題を的確に遂行した。
発展性：多様な研究課題に対応するため，これまで蓄積した調査・研究の成果を活かして取り組んだ結果，発展的な成果を得ることができた。
正確性：研究課題の実施に対し，正確な調査データを得るため，現地調査等綿密な調査を行った。

２．定量的評価

観点						
評定						

判定理由

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	地方公共団体等からの依頼に対し，これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし，的確な受託研究等を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	地方公共団体等からの受託研究の依頼に対し，中期計画に基づき，文化財に関する知見や調査成果を活かし，的確に対応した。 多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより，文化財に関する調査・研究の中核として，我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものと考える。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7122

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究を実施（(1)－②）

【事業概要】
地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、共同研究及び受託研究を実施する。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

【主な成果】
地方公共団体等か行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、受託研究等を行った。

【年度実績概要】

地方公共団体等が行った文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。
- 平成２７年度横手市増田地区伝統的建造物詳細調査業務委託
- 若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査
- 北口本宮冨士浅間神社建造物総合調査
- 京都市の文化的景観保存計画策定調査
- 薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）
- 薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査
- 興福寺防災工事に伴う発掘調査
- 朱雀大路緑地水路部（左京三条一坊一・二・七・八坪）遺跡発掘調査
- 興福寺中室・経蔵・鐘楼発掘調査
- 平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査
- 第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託
- 平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査
- 長門鋳銭所出土木簡の保存処理を経ての総合的研究
- 特別史跡藤原宮跡（吉井宅）試掘調査、本発掘調査
- 本薬師寺跡、藤原京右京八条二・三坊（山口宅）発掘調査
- 史跡　川原寺跡に隣接する県道「大和郡山明日香自転車道線」の発掘調査
- 国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務
- 特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務
- 国宝　薬師寺東塔　顔料等分析調査業務委託（第Ⅱ期）
- 鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究
- 群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査
- 国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する研究
- 喜界町出土金属製遺物の保存処理
- 平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業
- 神明遺跡出土銅鐸に関する保存科学的研究
- 国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務
- 波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析
- 保美貝塚出土動物遺体分析業務
- 愛知県美術館所蔵作品のテラヘルツイメージングによる診断調査
- 平成２７年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業）
- 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画

このほか、宗教法人東大寺・奈良県立橿原考古学研究所、公益財団法人鳥取県教育文化財団、県教育委員会等と分担して 20 件の連携研究を行った。

【実績値】
(参考値)受託研究件数：31 件

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 7122
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性			
評定	B	A	B			

判定理由
適時性：地方公共団体等の要請に応じて、実施業務に適時・的確に対応した。
発展性：実施業務は多様であり、全国の地方公共団体等の今後の業務にとって、発展的な成果をあげた。
正確性：実施業務に対し、文化財保護法に基づき正確な調査等を実施した。

２．定量的評価

観点						
評定						

判定理由

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	地方公共団体等からの依頼に対し、これまで当研究所が培ってきた研究成果、調査技術等を活かし、的確な受託研究等を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画期間において、地方公共団体等からの受託研究に迅速、かつ的確に対応した。 今後も我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく他機関と共同して、積極的に研究等に取り組んでいく。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7131
(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力((1)－③)

【事業概要】
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査等について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行う。

【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部部長 玉田芳英

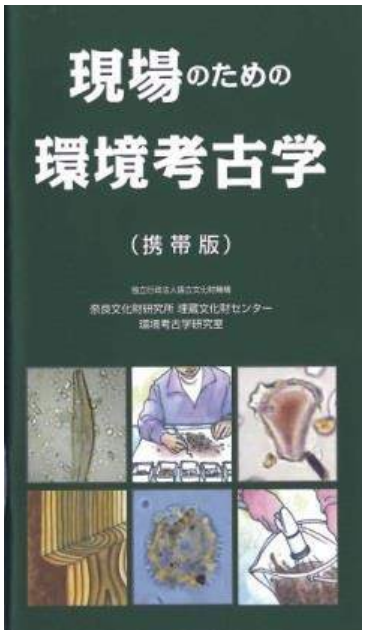
【スタッフ】
青木　敬・林　正憲・廣瀬　覚(以上、都城発掘調査部主任研究員)、小田裕樹（考古第二研究室研究員)、芝康次郎(考古第一研究室研究員)、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、田村朋美、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員)、山﨑　健(環境考古学研究室研究員)、渡辺伸行(神戸市立上野児童館長・客員研究員)、津田保行（研究支援推進部連携推進課長）

【主な成果】
東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を反映させた発掘調査に係る整理作業への効果的な支援や報告書作成に係る支援を行った。

【年度実績概要】
（1）現地に以下の通り派遣した。
○　波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市：縄文時代貝塚）
・　整理指導：27 年 7 月 21 日～22 日
○　合戦原遺跡（宮城県山元町：古墳時代横穴）
・　保存処理指導：27 年 7 月 13 日、8 月 21 日、9 月 14 日、11 月 2 日、12 月 24 日、28 年 1 月 30 日
○　桜井Ｄ遺跡（福島県南相馬市：弥生～平安時代集落）
・　保存処理指導：11 月 2 日

また、地方公共団体等の要請に迅速に対応できるよう、他の業務を調整して本事業への即時対応を最優先とする派遣準備者を一定期間、各 2 名配置し、発掘調査支援の準備を行った。

（2）発掘調査支援として、以下の刊行物を配布した。
○　『現場のための環境考古学（携帯版)』
・　被災３県に計 700 部を配布



『現場のための環境考古学(携帯版)』

（3）その他、以下の取り組みを行った。
○　波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市）で発掘された動物遺存体について、受託調査研究により分析を行った。
○　岩手県宮古市及び陸前高田市にて、28 年度の支援内容に関する協議を行った。

（4）東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議に以下の通り出席した。
○　東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議（27 年 7 月 14 日、28 年 1 月 29 日、3 月 23 日）
○　東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係る派遣専門職員会議（27 年 4 月 24 日、10 月 29 日）

【実績値】
刊行物配布数：700 部（『現場のための環境考古学（携帯版)』)
現地派遣者数：のべ 10 人日、派遣準備者数：のべ 276 人日
(参考値)
発表件数：１件①、論文等：１件②

【備考】
①山崎健・松崎哲也「宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体」（日本動物考古学会第 3 回大会、27 年 7 月）
②奈良文化財研究所「迅速化のための技術　奈良文化財研究所による支援」『東日本大震災の復興と埋蔵文化財支援（中間報告）』（文化庁文化財部記念物課、28 年 3 月）

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7131
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	B	A	B	B	B	B

判定理由
適時性：復旧・復興事業に伴う緊急性の高い発掘現場での保存処理や、発掘調査の整理作業及び報告書作成に対し、地方公共団体からの要請に応え、即時かつ適切に対応した。
独創性：研究所が独自の能力を有する分野で、適切に支援できた。また、発掘調査現場で即時に対応できる携帯版のハンドブックを配布し、奈文研が蓄積してきた技術を発掘調査支援として公開した。
発展性：27 年度は緊急性の高い古墳壁画の保存処理に係る一連の作業を新たに行うとともに、一方で高度な専門性が要求される環境考古学分野等の整理作業及び報告書作成を支援する等、今後の発掘調査支援方法の選択肢を一層広げることができた。
効率性：現地での保存処理や、整理作業及び報告書作成等も含めた包括的な発掘調査支援を行うことで、短期間での調査完了を可能とした。
継続性：研究所内で複数名の担当を決め、各種会議等に出席して関係諸機関との連携を進めることで、今後も継続的に支援要請に即応できる体制を整備し、支援体制の一層の強化も推し進めることができた。
正確性：現地での作業を行うことによって、保存処理や整理作業、報告書刊行へ向けた整理指導等、多様な支援内容に正確に応えることができた。

２．定量的評価

観点	刊行物配布数	現地派遣者数	派遣準備者数			
評定	B	B	B			

判定理由
刊行物配布数：環境考古学に関する携帯版のハンドブックを配布し、奈文研が蓄積してきた技術を発掘調査支援として公開するとともに、発掘調査現場で即時に対応できるよう被災３県に配布することによって、効果的な発掘作業と効率的な整理作業が可能となった。
現地派遣者数：地方公共団体等からの要請に基づき、現地に延べ 10 人日の派遣を行った。
派遣準備者数：地方公共団体等からの要請に迅速に対応できるよう、本事業への即時対応を最優先とする派遣準備者を一定期間各２名、のべ 276 人日配置し、発掘調査支援の

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	地方公共団体からの要請に応じた適切な活動を実施するとともに、26年度に引き続き、整理作業や報告書作成に向けて、独自に蓄積してきた専門的技術の導入を適切に行う等、より効率的に調査成果をまとめることができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画の５年間を通じ、被災地の地方公共団体からの要請に応じ、適宜適切かつ効率的な支援を行うことにより、東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査等について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を行うという目標を達成することができた。 次期中期計画に向け、さらに実効性の高い支援方法を検討すると共に、調査の効率性を高める技術を開発し、案件に応じた柔軟な対応をより可能とする体制を構築するための着実な成果を上げることができた。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7211

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	文化財担当者研修（(2)－①）

【事業概要】

地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員等に対する研修を実施する。

研修受講者のうち平均 80%以上の者から「有意義だった」、「役にたった」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部 研究支援推進部総務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長　杉山　洋 総務課長　　臣守　常勝

【スタッフ】

加藤真二(企画調整室長)、南　幸一(総務課課長補佐)、桑原隆佳(総務係長)

（研修内容に応じ、研究所の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。）

【主な成果】

遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修 13 課程・特別研修 2 課程の研修を実施し、延べ 177 名が受講した。

研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

【年度実績概要】

専門研修 13 課程・特別研修 2 課程を実施し、延べ 177 名が受講した。

また、研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。

課題	期間	定員	応募者	受講者	満足度
建築遺構調査課程	27.6.　8～ 6.12	12	8	8	100%
災害痕跡調査課程	27.6.15～ 6.19	10	8	8	100%
建造物保存活用基礎課程	27.6.22～ 6.26	15	21	20	100%
報告書作成 1(編集基礎)課程	27.7.　6～ 7.10	10	26	14	100%
報告書作成Ⅱ(応用制作)課程	27.7.13～ 7.17	10	19	10	100%
遺跡情報記録調査課程	27.9.　8～ 9.11	15	11	10	100%
木器・木製品調査課程	27.9.14～ 9.18	15	11	11	100%
三次元計測課程	27.9.28～10.2	10	9	9	100%
保存科学基礎Ⅰ(金属製遺物)課程	27.10.　6～10.15	10	6	6	100%
保存科学基礎Ⅱ(木製遺物)課程	27.10.15～10.23	10	6	6	100%
文化財写真課程	27.12.　8～12.18	15	13	13	100%
遺跡等環境整備課程	28.1.12～ 1.22	12	14	14	100%
保存科学Ⅲ(応急処置)課程	28.2.15～ 2.19	10	9	9	100%
三次元ワークショップ	28.1.16～1.17	--	23	23	--
埋蔵文化財デジタル写真研修	28.3.8～3.11	--	16	16	100%
合計	--	154	200	177	100%



保存科学基礎Ⅰ(金属製遺物)課程実習風景



木器･木製品調査課程講義風景

【実績値】

研修実施回数　15 課程（目標値：14 課程）

受講者数　延べ 177 人（目標値：延べ 164 人）

受講者の満足度　100%

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7211
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
評定	A	A	B	B	A	A

判定理由
適時性：災害痕跡調査課程、遺跡等環境整備課程、保存科学基礎Ⅲ(応急処置)課程など、公共性、緊急性が特に高い研修を行い、これへの対応を行った。
独創性：いずれの研修も当研究所以外では実施できず、なおかつ最新の知見を盛り込むことで、研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性を実施した。
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上に対応した。
効率性：基本的に 5 日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を実施した。
継続性：文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和 49 年より継続しており、のべ受講者数も 9,146 人となった。
正確性：所員のほか、各分野の第１人者、文化庁記念物課の文化財調査官などが講師を務めており、最新の研究成果に基づく、精度の高い研修を行えた。

２．定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
評定	B	B	A			

判定理由
研修実施回数　：当初の予定より多く 15 課程を実施した。
受講者数　　：目標値である延べ 164 人に対し、延べ 177 人と目標値を上回った。
受講者の満足度：目標値の 80%に対し、100%が『有意義だった』あるいは『役に立った』と回答している。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	27 年度も、仮設庁舎で研修を実施したが、当初予定していた 14 課程の内 13 課程、追加で実施した 2 課程、合計 15 課程を実施できた。 受講者数については、年度計画の延べ 164 人に対して 177 人と当初定員比 108%の達成率となり、目標値を上回ることができた。受講者の満足度についても、目標 80%に対して 100%の満足度を示し、実施回数、受講者数、満足度ともに目標以上の成果を上げることができた。 また、研修内容についても三次元ワークショップや埋蔵文化財デジタル写真研修等の実務研修を加えることで一層の充実を図り、受講者の評価からも目標を上回る成果を上げたと言える。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	仮設庁舎での満足とは言い難い研修環境下の研修でありながら、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立ったと思う』との回答が 100%という結果であった。 このため、中期計画全体として、必要性に対応した質量とともに充実した内容が確保されて実施できたと判断している。 今後も本研究所では、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財源事情のなか、費用対効果も十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7221

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修((2)－②)

【事業概要】「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は、全国の文化財施設で資料保存を担当する職員が、資料保存に関する基本的な知識や技術を習得し、現場における保存環境の向上に資することを目的として開催するものである。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】早川泰弘（分析科学研究室長）、吉田直人（保存科学研究室長）、佐藤嘉則（研究員）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、朽津信明（修復材料研究室長）、早川典子（主任研究員）、佐野千絵（副センター長）、國本麻里奈（研究補佐員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】

文化財保存施設の学芸員や地方公共団体の文化財行政担当者などを対象とし、自然科学的見地に基づいた文化財保存に関する基礎的な知識や方法論を会得するための第 32 回「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を開催した。受講者全員より「満足した」との評価を得た。また、上記研修受講経験者を対象とした「保存担当学芸員フォローアップ研修」を 1 回開催した。

【年度実績概要】

(1)第 32 回「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」
（27 年 7 月 13 日～24 日、受講者 32 名、於東文研）

［カリキュラム構成］

文化財保存概論、資料の材質・構造、文化財公開施設の設計、防災・防犯
生物被害（概論、カビ、虫、害虫同定実習）
保存環境各論（温湿度、照明、室内空気汚染、大気汚染、空気環境測定）
劣化と保存各論（日本画、油絵、写真、近代文化財、屋外資料、紙資料、考古・民俗資料、修復材料）
埼玉県立さきたま史跡の博物館におけるケーススタディ実習



「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」

(2)「保存担当学芸員フォローアップ研修－水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響－」
（27 年 7 月 6 日、参加者 107 名、於東文研）

［プログラム］

水俣条約の概要　（保存修復科学センター副センター長　佐野千絵）
LED 照明の歴史と現状（保存科学研究室長　吉田直人）
LED 照明による日本刀剣展示への影響（公益財団法人日本美術刀剣保存協会博物館事業課　久保恭子）
国立西洋美術館における LED 照明による展示の実際　（国立西洋美術館学芸課　川瀬佑介）
写真資料への影響（東京都写真美術館保存科学研究室　山口孝子）

【実績値】

「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」
実施期間：　2 週間(目標値：2 週間)　(①)
研修受講者数：　32 名(目標値：25 名)
受講者の満足度：100%

【備考】

① 第 32 回保存担当学芸員研修　プログラム

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　7221
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
評定	A	B	A			

判定理由
適時性：基礎を重視しつつ、かつ水俣条約による水銀規制に伴う今後の文化財保存への影響など、最新の情報を取り込んだ構成によって研修を実施した。
発展性：勤務館で数年以上の経験を積み、施設の状況に精通した学芸員が主に受講しており、研修で得た知見を効率的かつ発展的に応用している
継続性：「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は 30 年以上にわたって毎年実施しており、現役学芸員が文化財保存のための環境管理を学ぶ希少な機会として重要視されている。

２．定量的評価

観点	実施期間	研修受講者数	受講者の満足度			
評定	B	A	S			

判定理由
実施期間：目標値である2週間の期間で研修を行った。
研修受講者数：目標値である25名を上回る32名の受講生を得た。
受講者の満足度：受講者からのアンケート結果により、全員から「満足」と極めて高い評価を得た。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初計画に沿って実施し、目標値も達成した。アンケート結果では受講者全員より「満足」との評価を得た。受講生に対しては、フォローアップ研修等を通じて、保存に関する最新情報を提供し、また環境改善に関する相談を受けるなど、研修後のフォロー体制も充実している。受講生からは研修内容に対する提言も受けており、現役学芸員が自然科学に立脚した資料保存を学ぶ希少な機会として期待の大きい本研修の一層の充実に努めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	中期計画どおり、最終年度である 27 年度まで順調に進捗した。これまでも、受講者からのアンケート結果や意見を参考に、常に内容の改善を図ってきた。27 年度以降も継続して当研修を実施し、現場学芸員による良好な保存環境の維持管理に資するとともに、双方向のコミュニケーションによって、保存上の問題点の抽出、研究のためのシーズを見出す場ともしたい。

【書式Ｂ/研・セ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7231
（様式１）

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進((2)－③)

【事業概要】
平成 7 年 4 月より東京藝術大学と連携してシステム保存学コースを開設し、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の 2 講座から成る。6 名の所員が連携教員として授業を開講している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	佐野千絵（教室主任、副センター長）

【スタッフ】
朽津信明（修復材料研究室長）、北野信彦（伝統技術研究室長）、中山俊介（近代文化遺産研究室長）、早川典子（主任研究員）、佐藤嘉則（研究員、27 年 10 月 1 日より参加）、内田優花（東京藝術大学大学院教育研究助手・研究補佐員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【主な成果】
保存環境計画論、修復計画論、修復材料学特論、保存環境学特論をシラバスに則り開講した。また文化財保存学演習（文化財保存学専攻修士課程 1 年対象）を 1 コマ担当した。
修士課程 2 年の学生に対して修士論文指導をおこなった。
平成 28 年度博士課程（前期）入学試験を行い、1 名の合格者を決定した。

【年度実績概要】
連携教員は、27 年 9 月末まで保存環境学講座を佐野千絵連携教授、木川りか連携教授、朽津信明連携准教授の 3 名、修復材料学講座を北野信彦連携教授、中山俊介連携教授、早川典子連携准教授の 3 名が担当した。27 年 10 月 1 日より連携教員を変更し、保存環境学講座を佐野千絵連携教授、朽津信明連携教授、佐藤嘉則連携准教授、修復材料学講座を北野信彦連携教授、中山俊介連携教授、早川典子連携准教授で担当した。スタッフとして東京藝術大学経費で、内田優花が参加した。
27 年度開講した授業及び担当教員は以下のとおりであった。
保存環境計画論（前期、火曜 1 限）　2 単位　佐野千絵
修復計画論　　（前期、木曜 1 限）　2 単位　北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明
修復材料学特論（前期、木曜 2 限）　2 単位　北野信彦・中山俊介・早川典子・朽津信明
保存環境学特論（後期、火曜 1 限）　2 単位　佐野千絵・佐藤嘉則・朽津信明
上記の授業の他に、文化財保存学演習（6 月 2 日）題目：「劣化した洋紙の保存と修復」（担当：中山　場所：東京文化財研究所）を実施した。
このほかシステム保存学研究室修士2年の学生に対して、前期・水曜日に英語論文の輪講を行った（担当教員：早川典子、佐野）。修士論文指導を行った（主査：早川典子、副査：佐野、北野）。修士 2 年生の修士論文要旨タイトルは以下のとおりである：「文化財修復に用いられる漆材料の劣化解析と硬化性・接着性の向上に関する試み」。修士 2 年生はマテリアルライフ学会、日本文化財科学会に研究成果を発表し、『保存科学』に報文 1 本を著した。また研究成果が認められ、東京藝術大学美術学部工芸家漆芸教室において学生・教員向けの研究授業を実施した。26 年 3 月既卒者も照明学会誌に修士研究成果から報文 1 本を著した。


実習（中山俊介 連携教授）

28 年度東京藝術大学大学院美術研究科博士課程（前期）入学試験を実施し、27 年 9 月 19、20 日に入学試験及び面接を実施して、合格者 1 名を決定した。
28 年 3 月に協定書の見直しを迎えたが、これまでの教育成果が有意義であったと理解され、28 年度以降 5 年間の協定書を更新した。

【実績値】
開講時間：　前期　火曜 1 限、木曜 1 限、木曜 2 限　/　後期　火曜 1 限
開講回数：90 分×15 回
受講者数：40 名
(参考値)学生による研究成果の学会発表　2 件（①、②）、論文　1 件（③）

【備考】
開講時間　1 限　9：00～10：30　　2 限　10：40～12：10　　開講回数　計 4 コマ　各 2 単位
受講者数内訳　保存環境計画論（19 名）、修復計画論（7 名）、修復材料学特論（7 名）、保存環境学特論（7 名）
① 小川歩・早川典子、銅錯体触媒による高乾燥性漆材料の開発とその耐久性評価、マテリアルライフ学会大会、27 年 7 月、群馬県太田市、②小川歩・早川典子、麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用、日本文化財科学会大会、27 年 7 月、小金井市、③小川歩・早川典子、テトラクロロ銅(Ⅱ)酸カリウム二水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討、『保存科学』、55 号、28 年 3 月

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　7231

（様式 2）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	B	B	A	B	B	B

判定理由

本務において得た正確な知識、技術、最新情報やデータを基に、授業を展開している。

適時性：水俣条約による水銀利用規制など、最新の情報を含む授業を展開した。

独創性：修士課程学生のテーマ設定において保存修復現場のニーズに直結した課題を取り上げるよう指導し、得られた研究成果の新規性を重視して指導を行った。

発展性：修士学生の研究成果は美術学部内で高く評価され、修復技術者養成のみならず、工芸科で実施した研究授業を通して作家を目指す学生にも研究成果を広めることができた。

効率性：大学内での開講と当所内での授業とを組み合わせて学生及び当所員の負担に配慮して開講した。

継続性：多数の受講者が毎年授業を受けており、教育成果が広く認められている。

正確性：授業内容は保存修復倫理に基づいた正確な知識・技術・経験が盛り込まれている。

２．定量的評価

観点	開講時間	開講回数	受講者数			
判定	B	B	S			

判定理由

開講時間：文化財保存学専攻の他の授業と重ならず、また当所の業務時間への影響を最小限とした開講時間を設定しており、きわめて効率的である。

開講回数：文部科学省の定めた 2 単位（90 分×15 回）を満たしており、修了必要単位数として重視されている。

受講者数：開講している授業はシステム保存学専攻の学生は必修、その他の学生に対しては選択科目であり、開講している各講座の受講者数の予定は各 1 名である。実績として学年全員が出席している授業もあり、達成率は 120%以上である。これは、連携教員による授業成果に大きな期待が寄せられているためと推測される。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	所員の経験や知識から得た正確な情報や技術を基に授業を展開している。次世代の文化財保存修復を担う若い学生の基礎を作る重要な教育普及事業であり、その影響力は極めて高い。また東京藝術大学との連携は距離・時間の点で効率的であり、当所の教育に関する大学からの期待と評価は高い。修士 2 年生は 2 学会で異なる内容の研究成果発表を行い、報文をまとめ、また研究成果が大学内で高い評価を受け工芸科の授業で研究授業を行った点で、27 年度は目標を超える達成があった。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	第3期中期計画では修士学生の受け入れの再開を目指し、初年度は準備、2年目に入試の再開、3年目に学生受け入れを再開し、4年目には受け入れ再開後初の修士修了生を出した。最終年度の27年度も充実した教育を行い2名の修士修了生を出し、当初の計画通り順調に遂行することができた。 第 4 期中期計画が始まる 28 年度に向け、協定書の更新を行い、修士学生 1 名の受け入れを予定している。新中期計画を前に教員交代を行い、さらに幅の広いさまざまな教員を文化財保存学の教育に生かすことで、文化財保存学専攻に所属する学生全体への教育の質を上げ、保存修復技術・倫理について質の向上に資する。

【書式Ｂ/研・セ】　　施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 7232

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進（(2)－③）

【事業概要】

京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科との協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長　松村恵司

【スタッフ】

小野健吉（副所長）、杉山洋（企画調整部長）、玉田芳英、渡邉晃宏、尾野善裕、馬場基、前川歩（以上、都城発掘調査部）、中島義晴、惠谷浩子、高橋知奈津(以上、文化遺産部)、高妻洋成、小池伸彦、山﨑健(以上、埋蔵文化財センター)

【主な成果】

京都大学大学院人間・環境学研究科において 6 名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において 3 名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して、大学院生の研究指導を行った。

なお、平成 27 年度の受入学生数は京都大学 76 名、奈良女子大学 7 名であった。

その他、奈良大学との協定を締結し、4 名の研究職員が非常勤講師として、学部生の教育を行った。

【年度実績概要】

京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野(客員)〕、奈良女子大学大学院人間文化研究科及び奈良大学文学部における 27 年度の実施状況については、以下のとおりである。

京都大学大学院人間・環境学研究科

①小野健吉
「環境構成論１」学部生 12 名、「庭園文化論１」修士課程 19 名、
「庭園文化論２」修士課程 12 名、「文化遺産学特別演習」博士課程１名

②玉田芳英
「原始古代精神文化論１」修士課程 2 名、「文化遺産学演習５Ａ」修士課程 2 名、
「文化遺産学演習５Ｂ」修士課程 1 名

③高妻洋成
「保存科学論１」修士課程 5 名、「文化遺産学演習６Ａ」修士課程 1 名、
「文化遺産学演習６Ｂ」修士課程 1 名、「共生文明学研究Ⅱ」修士課程 1 名、
「共生文明学特別研究Ⅰ」博士後期課程 1 名、「共生文明学特別研究Ⅱ」博士後期課程 1 名

④尾野善裕
「遺物調査法論２」修士課程 3 名、「文化遺産学演習１Ｂ」修士課程 3 名

⑤馬場　基
「史料学論１」修士課程 2 名、「文化遺産学演習３Ａ」 修士課程 2 名、
「文化遺産学演習３Ｂ」修士課程 2 名　（この他、後期より研究生１名受入（留学生））

⑥山﨑　健
「環境考古学論２」修士課程 3 名、「共生文明学特別研究Ⅱ」博士後期課程 1 名

奈良女子大学大学院人間文化研究科

⑦小池伸彦
「文化財学の諸問題Ⅰ」博士後期課程 2 名、「文化財学の諸問題Ⅱ」博士後期課程 2 名

⑧渡邉晃宏
「歴史資料論Ⅰ」博士後期課程 2 名、「歴史資料論Ⅱ」博士後期課程 1 名

奈良大学文学部

⑨中島義晴、惠谷浩子、高橋知奈津、前川　歩
「文化財修景学」学部生 62 名

【実績値】

受入学生数(延べ人数)：京都大学 76 名、奈良女子大学 7 名、奈良大学 62 名

【備考】

【書式Ｂ/研・セ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7232
（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
評定	B	A	B	B		

判定理由
適時性：本務において得た最新の研究成果などをもとに、研究指導を行った。
発展性：連携大学院における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。
継続性：1996 年から京都大学との大学院連携をはじめ、毎年多くの受講者があり、十分な成果が認められた。
正確性：協定に基づき、計画的に実施できた。

２．定量的評価

観点	受入学生数					
評定	B					

判定理由
受入学生数（延べ人数）：京都大学76名、奈良女子大学7名、奈良大学62名。多くの学生を受け入れることができた。

３．総合的評価

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、予定通り寄与することができた。

４．中期計画の実施状況の確認

評定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	連携大学院協定に基づき、今中期計画期間においても計画的かつ継続的に実施できた。今後も、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与するため、学生に対して研究指導を実施していく。

【書式A】　施設名 国立文化財機構　処理番号 7140

中項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
事業名	文化財防災ネットワーク推進事業（(1)-④）		
【年度計画】今後可能性が指摘されている巨大地震等大規模災害が発生した際に、各地域における文化財等の防災や被災した文化財等の救出・修復等の適切な処置を行うための体制を整備する。			
担当部課	本部事務局	事業責任者	事務局長　栗原祐司

【実績・成果】
・文化遺産防災ネットワークは、27年度にも新規の１団体の加盟を得て徐々に拡大している。
・被災文化財等救援活動の円滑化と平時における防災減災対策を図ることを目的として、救援活動、地方自治体等における連携体制構築の状況、文化財管理状況に関する情報収集のため、現地調査、会議参加、研究会参加、文化財救出活動参加、聞き取り調査を日本国内約30ヶ所で実施し、問題点を調査して対策を検討した。
・非常災害時における文化財等のレスキューについて普及・啓発を行うとともにその担い手となる人材を育成するために、文化財行政および博物館関係者、一般市民向けの公開シンポジウムを実施した。
・被災文化財等に対して保存科学等に基づく救出プロセスの構築、保管環境、安定化処置法ならびに修復方法に関する調査研究として、漆工芸品、油彩画、アクリル画、イラスト等に関する先進的安定化処理技術の開発も進めることができた。なお、9月上旬に発生した鬼怒川決壊による常総市における行政文書水損に際しては、災害発生時の応急対応や被災資料のトリアージ等について、調査・指導・助言等を行った。

【補足事項】
＜会議＞
文化遺産防災ネットワーク有識者会議（11月5日 会場：国立科学博物館、3月10日　会場：東京国立博物館）
文化遺産防災ネットワーク推進会議（11月5日 会場：国立科学博物館、3月11日　会場：東京国立博物館）
※11月5日は合同会議
＜研修・研究会等＞
陸前高田学校（7月27日～8月2日　会場：陸前高田市　NPO-JCP（文化財保存支援機構）共催）
安定化処理研修（ワークショップ）（8月18日　場所：陸前高田市立博物館）
国立文化財機構アソシエイトフェロー研修（9月28日～9月30日、会場：福島大学、東北大学災害科学研究所ほか）
地域防災計画研究会（11月3日　会場：兵庫県民会館）
日中韓文物防災学術検討会（11月24～28日　会場：上海博物館、北川曲山鎮地震遺跡、四川大地震記念館）
文化財等防災ネットワーク研修（11月18日～20日　会場：国立民族学博物館、奈良文化財研究所）
文化財等防災ネットワーク研究集会（11月17日　会場：奈良文化財研究所）
被災文化財等保全活動の記録に関する研究会（28年1月29日　会場：東京文化財研究所）ほか
＜シンポジウム等＞
公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災Ⅰ」（6月14日　会場：九州国立博物館）
被災文化財レスキューに関する展示（27年12月28日～28年2月19日 会場：文科省、同2月22日～3月13日 会場：東京国立博物館）
公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災Ⅱ」（28年1月24日　会場：九州国立博物館）
第２回全国史料ネット研究交流集会（28年3月19日～20日、会場：郡山市市民プラザ）
「文化遺産防災国際シンポジウムー文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性ー」および研究会（12月12日・13日　会場：京都国立博物館）
講演会「文化財を災害から守る―文化財防災の過去・現在・未来―」および関連パネル展示（12月6日　会場：けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK））
＜研究論文＞
吉原大志「文化財等の災害対策をめぐる地域体制整備の現状について」（『保存科学』55号、pp.151-160）ほか

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 26年度に引き続き、着実に体制整備を進め、先進的安定化処理技術の開発にも進展があった。また、27年度途中で発生した災害についてもネットワークと経験を活用し、適切な指導・助言等が行われた。

【中期計画記載事項】地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　A	【判定根拠、課題と対応】 26年度に事業を立ち上げ、27年度も研修・研究会・シンポジウムなどを多数開催し、地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を強化するとともに、文化財行政および博物館関係者および一般向けに活発な情報発信を行った。実際に発生した災害についても、蓄積したノウハウによる協力・助言を実施しており、ネットワークの維持発展とともに、積極的な活用がなされ、中期計画を確実に実施した。

【受託】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　8001

（様式３）

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平成 27 年度増田地区伝統的建造物群詳細調査業務委託（受託）((1)－③)		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	文化遺産部長　林良彦

【スタッフ】

箱崎和久(都城発掘調査部遺構研究室長)、西山和宏(同部主任研究員)、海野聡、鈴木智大(同部研究員）、番　光（文化遺産部研究員）

【年度実績概要】



佐藤又六家主屋

秋田県横手市増田は横手市南部に所在する在郷町である。道路に面して妻入りの町家が立ち並び、内部に左官技術の粋を凝らせた内蔵を持つ特異な町並みで、平成 25 年に重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

2 ヵ年継続の最終年度となる本受託事業は、増田伝統的建造物群保存地区に所在する旧松浦千代松家、佐藤又六家の 2 件の町家についての詳細調査である。これらの町家はすでに伝統的建造物群保存地区の特定物件として保護されているが、横手市では建造物の指定を行い、さらに手厚く保護を図ろうとしている。

27 年度は主として佐藤又六家について主屋、文庫蔵の実測調査、調査票作成、写真撮影等を行い、調査報告書の原稿を提出した。調査の結果、主屋は明治初年頃の建築で、文庫蔵は江戸時代に遡ると思われる遺構であることなどが判明し、松浦千代松家とともに報告書を刊行した。

地方の特異な民家建築の姿が明らかになるとともに、地方行政が行う文化財保護施策に寄与する調査であると評価できる。

【実績値】

調査票 20 枚、実測野帳 36 点、デジタル写真 1,200 点、報告書刊行 2 冊

【受託経費】

3,295 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8002

（様式３）

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	若桜町若桜地区伝統的建造物群保存対策調査（受託）（(1)－③）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	文化遺産部長　林良彦

【スタッフ】

箱崎和久(都城発掘調査部遺構研究室長)、西山和宏(同部主任研究員)、海野聡、鈴木智大(同部研究員）、番　光（文化遺産部研究員）

【年度実績概要】



若桜町の町並み

鳥取県若桜町は鳥取県東部にある山間の町で播磨、但馬地方に通じる結節点として宿場町が栄え、また、周辺の材木の集散地としても栄えた。若桜町ではこの町並みを重要伝統的建造物群保存地区として後世に伝えようと平成 27 年度から文化庁の補助を受けて保存対策調査に乗り出し、奈良文化財研究所が調査事業を行っている。

２ヵ年継続の初年度となる本受託事業は、保存地区と目される地区内に残る伝統的建造物の把握（1 次調査）を行い、続いて代表的な伝統的建造物の各戸調査（2 次調査）や環境物件として地区に残る水路網等を調査した。調査票作成、写真撮影、実測調査の成果をまとめ、調査報告書の原稿を提出した。調査の結果、材木の産地として比較的新しい時期まで伝統的な様式による建築が建てられていることなどが判明した。

地方行政が行う文化財保護施策に寄与する調査であると評価できる。

【実績値】

調査票 60 枚、実測野帳 70 点、デジタル写真 2,400 点

【受託経費】

3,000 千円

【受託】
（様式３）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8003

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	北口本宮冨士浅間神社建造物総合調査（受託）（(1)－③）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	文化遺産部長　林良彦

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部遺構研究室長）、西山和宏（同部主任研究員）、海野聡、鈴木智大（同部研究員）、番　光（文化遺産部研究員）

【年度実績概要】



北口本宮冨士浅間神社拝殿

北口本宮冨士浅間神社は山梨県富士吉田市にあり、近世には富士山信仰の高まりとともに庶民の信仰を集めた。室町時代から江戸時代初期までの本殿 3 棟はすでに重要文化財に指定され、保存の措置が執られている。今回神社から受託した社殿の調査は、宝永の富士山噴火以降の江戸時代中期に整備された社頭を飾る幣拝殿、神楽殿、中門、手水社、社務所、摂社等のもので、いずれも江戸の富士講の信者が資金集めをして建設された近世社寺建築の典型的な例である。

本受託事業においては、現地調査に 6 度赴き、調査票作成、写真撮影、実測調査、類例調査等を行い、調査報告書を刊行した。調査の結果、北口本宮冨士浅間神社の社殿群は近世社寺として非常に高い価値を持つことが判明し、文化財としての保存に向かうことが確認できた。

所有者の文化財的な価値の把握とその後の行政を含めた保護施策に寄与する調査であると評価できる。

【実績値】
調査票 11 枚、実測野帳 50 点、デジタル写真 1,500 点

【受託経費】
5,525 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8004
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査研究の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業「大洋州島しょ国の文化遺産保護に関する拠点交流事業」((1)－④－3)		
【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	無形文化遺産部長　飯島　満

【スタッフ】高桑いづみ（無形文化財研究室長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（主任研究員）、菊池理予（研究員）、今石みぎわ（研究員）、佐野真規（アソシエイトフェロー）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、山藤正敏（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・フィジー・南太平洋大学をカウンターパートとした研究交流では、27 年 12 月 6 日～15 日の日程でフィジー・ガウ島において、気候変動が有形・無形の文化遺産に及ぼす影響を調べるための現地調査を行った。調査には日本側から、久保田裕道・石村智・佐野真規・山藤正敏に加え、研究協力者の宮本加奈（南太平洋大学産学連携研究員）が参加し、フィジー側からはジョエリ・ベイタヤキ博士（南太平洋大学）とエリア・ナコロ氏（フィジー博物館考古室長）が参加した。現地では、6 つの集落を対象に、現地住民からの聞き取り調査と、現地踏査を行った。

・上記の共同研究に加え、周辺の大洋州島しょ国の現状調査のため、石村智・北川瑞季（文化遺産国際協力センター研究補佐員）が 28 年 1 月 8 日～17 日の日程でサモア独立国を訪問した。現地ではユネスコ大洋州事務所の高橋暁氏、サモア国政府教育・スポーツ・文化省のマゲレ・マゲレ大臣、JICA サモア事務所のスタッフらと意見交換を行い、同国のユネスコ無形文化遺産条約の取り組み、サモア国立博物館の改修とサモア文化センターの設立について話し合いを行った。




フィジー・ガウ島における気候変動が文化遺産に及ぼす影響についての現地住民からの聞き取り調査の様子

【実績値】
学会等発表　1 件（第 33 回日本オセアニア学会研究大会・総会（28 年 3 月 18-19 日）「気候変動と文化遺産」）
論文等発表　1 件（日本オセアニア学会ニューズレターNo. 112（28 年 3 月）「気候変動と文化遺産」）

【受託経費】
4,509 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8005

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
青木敬（都城発掘調査部主任研究員)、中村一郎(企画調整部写真室主任)、栗山雅夫（同技術職員)、鎌倉綾・飯田ゆりあ(同技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査の経緯

国宝薬師寺東塔解体修理事業に伴う発掘調査。

26 年度調査の際に取り外した基壇敷石等の石材個別の詳細を明らかにするため、創建時の姿を留める等、特に重要と考えられる石材を抽出し、図面及び写真等の記録化作業を実施した。



敷石写真撮影風景（西から）

・調査期間

26 年 5 月 25 日～27 年 7 月 6 日

・記録化作業の対象とした石材と点数

基壇敷石（基壇外装材からの転用含む)、柱座飼石、裏込転用石材等、計 63 点

・調査所見

創建当初から敷石として用いられ、後世の改変等をほとんど受けていないと考えられる敷石数点を確認した。これら敷石は、正方形を呈するものと長方形を呈するものとに大別され、さらにサイズにより前者は 2 種類以上、後者は 3 種類以上に細分できることが明らかとなった。こうした多様なサイズの敷石からなること等を踏まえ、創建時の東塔基壇が四半敷だった可能性は低いと判断した。このほか、敷石には基壇外装羽目石を転用した例や、階段踏石ないしは葛石を転用した考えられる個体も認められた。

石材の記録化を通して敷石等は、チョウナ削り及びチョウナ叩きによって調整していること、工具痕からみてチョウナには最低２種類が存在すること、刃こぼれの痕跡から少なくとも３点の敷石については、同一工人の手になると推定できること等、敷石製作時の様相の一端も復元することができた。



基壇敷石裏面に残る工具痕

【実績値】
論文等数：1 件
①青木敬・金田明大・今井晃樹・芝康次郎・海野聡・村田泰輔・米川裕司（奈良県立橿原考古学研究所)・佐々木芽衣（同左)『薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報』(28 年 3 月)

(参考値)
記録作成数：実測図 67 枚(A3 判)、デジタル写真約 120 枚

【受託経費】
700 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8006

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査（受託）（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】

青木敬（都城発掘調査部主任研究員）、小池伸彦（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長）、村田泰輔（同アソシエイトフェロー）、金田明大(同主任研究員)、中村一郎(企画調整部写真室主任)、栗山雅夫（同技術職員）、飯田ゆりあ・鎌倉綾(以上、同技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査の経緯

国宝薬師寺東塔解体修理事業に伴う発掘調査。

26 年度に実施した国宝薬師寺東塔解体修理事業に伴う発掘調査成果に基づき、基壇内及び基壇外周部における代替地盤支持事に伴う事前発掘調査を行い、地下遺構の存否等を明らかにすること等を目的とした。奈良県立橿原考古学研究所との共同調査である。

・調査期間

27 年 7 月 7 日～9 月 24 日

・調査面積

23.2 ㎡

・基本層序

基壇：版築層（約 1.1m）、掘込地業（約 0.5～0.7m）、伽藍造成前の堆積土

基壇周辺：表土、明治修理以前（近世～近代）の遺物包含層、２次整地土(基壇外周部の諸施設構築に伴う整地土)、１次整地土（伽藍造営時の整地土)、伽藍造成前の堆積土（青灰色粘質土）



東塔基壇俯瞰全景（上が北）

・主な検出遺構

基壇：掘込地業（総地業）

基壇周辺：掘込地業（総地業)、杭跡（創建期)、足場（明治修理、中世以前)、土坑（中世以前の廃棄土坑）

・主な出土遺物

金属製品（鉄釘、銅釘)、木製品、種実、ガラス製品、銭貨（和同開珎 6 点)、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器等。

・調査所見

薬師寺東塔には掘込地業が伴うことを確認した。掘込地業は基壇外周にまで及び、基壇規模よりもひと回り大きな方形を呈することが判明した。基壇中央部掘込地業の底面付近から和同開珎が出土し、出土状態及び 26 年度調査における和同開珎出土位置等を踏まえると、東塔基壇は構築に際して数次にわたる地鎮め供養が行われたと考えられる。

【実績値】

論文等数：2 件

①青木敬・金田明大・今井晃樹・芝康次郎・海野聡・村田泰輔・米川裕司（奈良県立橿原考古学研究所)・佐々木芽衣（同左)『薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報』(28 年 3 月)

②青木敬・金田明大・今井晃樹・芝康次郎・米川裕司（奈良県立橿原考古学研究所)・佐々木芽衣（同左)「薬師寺東塔の調査―第 554 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』(28 年 6 月予定)

報道発表等件数：2 件

(参考値)

出土遺物：瓦片 11 箱(うち軒丸瓦 6 点、軒平瓦 9 点)、土器片 1 箱、木製品 8 点（加工棒等)、凝灰岩片 9 点

記録作成数：実測図 18 枚(A2 判)、遺構写真 20 枚(4×5)、デジタル写真約 700 枚

【受託経費】

1,992 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8007

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	興福寺防災工事に伴う発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
林正憲（都城発掘調査部主任研究員)、石田由起子（考古第三研究室研究員)、海野聡（遺構研究室研究員)、中村一郎（企画調整部写真室主任)、栗山雅夫（同技術職員)、鎌倉綾（同技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査の経緯
興福寺境内における防災工事に伴う発掘調査。

・調査期間
27 年 7 月 21 日～12 月 4 日

・調査面積
合計 132.4 ㎡（計 10 箇所において調査を実施）

・基本層序
工事の箇所によって異なるが、概ね以下の通り。
表土、造成土、中世の包含層（鎌倉時代及び室町時代の焼土層含む)、奈良時代の整地層、地山。
掘削深度は工事の設計上影響が及ぶ範囲で、地表下 40～90㎝程度。
遺構検出は主に掘削底面で行った。


中金堂と講堂の間の調査区（東から）

・主な検出遺構
中金堂と講堂の間に設定した東西約 53m×南北約１mの調査区では、
①調査区東端にて、経蔵西側で検出された玉石敷の西端を検出した。
②調査区中央部では中金堂と講堂を結ぶ玉石敷を検出した。ただし、東西両端は後世の溝によって壊されており、本来の幅は不明（残存幅は 1.4m)。また、この玉石敷の両側では地山に含まれる礫を利用しながら、さらに小礫を用いた小礫敷が形成されている。
③調査区西側では鐘楼に伴うと考えられる玉石敷と、中金堂北側を巡ると思われる玉石敷の見切り石を検出した。
この他の調査区では、顕著な遺構は確認されなかった。

・主な出土遺物
土器・瓦・鉄製品などが出土した。
土器：中世の土器や陶器が中心。
瓦：中世を中心とする丸・平瓦、軒丸瓦、軒平瓦のほか、奈良時代の施釉瓦や水波文磚が出土した。
鉄製品：釘や環状鉄製品が出土した。

・調査所見
興福寺境内の各所における造成や整地の状況を明らかにした。
そのうち、中金堂周辺部では鎌倉時代や室町時代の焼土層も確認できたことから、興福寺の焼損と再興の歴史の一端を明らかにすることができた。
また、中金堂と講堂の間の調査区では、創建当初の可能性が高い玉石敷等の遺構を確認することができた。

【実績値】
論文等数：１件
①桑田訓也ほか「興福寺境内の調査－平城第 553 次・第 559 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』28 年 6 月（予定）
(参考値)
出土遺物：瓦片 49 箱(うち軒丸瓦 6 点、軒平瓦 14 点、施釉瓦 3 点)、土器片１箱、金属製品 2 点、石製品１点、壁土 3 点
記録作成数：実測図 18 枚(A2 判)、遺構写真 24 枚(4×5)、デジタル写真約 300 枚

【受託経費】
2,261 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8008

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	朱雀大路緑地水路部（左京三条一坊一・二・七・八坪）遺跡発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】

箱崎和久(遺構研究室長)、林正憲（都城発掘調査部主任研究員)、桑田訓也・山本祥隆（以上、史料研究室研究員)、浦蓉子・大谷育恵（以上、考古第一研究室アソシエイトフェロー)、中村一郎(企画調整部写真室主任)、鎌倉綾（同技能補佐員)、小池伸彦（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長)

【年度実績概要】

・調査の経緯

水路付け替え等の工事に伴う発掘調査。

・調査期間

27 年 7 月 8 日～7 月 31 日

・調査面積

合計約 650 ㎡

Ａ区：約 620 ㎡（東西 7～9m×南北約 78m）

Ｂ区：約 30 ㎡（東西約 57m×南北約 0.5m）

・基本層序

Ａ区：①表土

②平城第 522 次調査の埋め戻し土

③茶褐色～黄灰色のシルト質土を主体とする整地土

④灰白色砂などを主体とする整地土とみられる層

⑤地山

Ｂ区：①表土

②茶褐色真砂土（北新大池護岸工事に伴う整備盛土）

③地山



Ａ区南半の遺構検出状況（北から）

・主な検出遺構

Ａ区：南北方向の柱穴列２条、単独の柱穴１基

Ｂ区：顕著な遺構なし

・主な出土遺物

Ａ区：奈良時代の瓦片、古墳時代から奈良時代にかけての土師器片・須恵器片

Ｂ区：顕著な遺物なし

・調査所見

本調査では、平城京左京三条一坊一坪における土地利用の様相やその変遷を考察するためのデータを得た。

Ａ区において、奈良時代に属する遺構を確認した。特にＡ区南半で検出した柱穴列は奈良時代の整地土層（＝③層）で覆われており、平城遷都前後に当該地で操業していた鉄鍛冶工房群に関わる遺構である可能性も考えられる。

また、同じくＡ区南半で検出し③層に覆われる単独の柱穴は、上記柱穴列と重複している。これは、当該地において平城遷都前後という限られた期間中にも建物の建て替えなどがおこなわれた可能性を示唆するものである。

【実績値】

(参考値)

出土遺物：丸瓦片 2 点、平瓦片 6 点、和同開珎 6 点、金属製品 6 点（鉄釘等)、ガラス小玉 1 点

記録作成数：実測図 17 枚(A2 判)、遺構写真 10 枚(4×5)、デジタル写真約 220 枚

【受託経費】

2,306 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8009

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	興福寺中室・経蔵・鐘楼発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
神野恵・林正憲（以上、都城発掘調査部主任研究員)、桑田訓也（都城発掘調査部史料研究室研究員)、大橋正浩（都城発掘調査部アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
・調査の経緯
境内整備事業に伴う発掘調査。

・調査期間
27 年 10 月 2 日～28 年 1 月 15 日

・調査面積
合計 841.5 ㎡（うち中室 350.5 ㎡、経蔵 406 ㎡、鐘楼 85 ㎡）

・基本層序
基壇上：表土、近代以降の盛土、基壇土
遺構検出は基壇土上面で行った。
基壇周囲：近代以降の盛土、中近世の整地土、古代の整地土（一部）
遺構検出は、各整地土の上面で行った。
なお、調査前、経蔵と鐘楼は基壇状の高まりが残存し、地表に礎石の上面が露出していた、中室の北半でも礎石の上面が地表に露出していた。


中室・経蔵全景（北から）

・主な検出遺構
礎石建物３棟（古代～近世)、南北溝１条（中世～近代)、東西溝３条（古代)、玉石敷３条（古代）など。

・主な出土遺物
奈良時代から近代までの土器・陶磁器類、瓦が多く出土した。中室の北端では、ほぼ完形の奈良火鉢が出土した。

・調査所見
興福寺中室・経蔵・鐘楼の礎石や基壇外装を検出した。とくに中室創建時基壇外装は、非常に良好に残存していた。
中室・経蔵は、創建当初の建物規模を確認した。これらの建物は、中金堂や南大門と同様に、再建の際にはその位置や規模を踏襲していることがわかった。経蔵は、平城京の大寺院では初めて、その全容を発掘調査で確認することができた。また中室は、西室と全体規模はほぼ同じであるものの、柱配置は異なることが明らかとなった。
経蔵・鐘楼の北で、東西方向の石組溝と玉石敷を、経蔵の西では、南北方向の玉石敷を検出した。これらは経蔵や鐘楼と、講堂など周囲の建物との関係を考える上で重要な新知見といえる。石組溝は講堂周辺の排水のための溝、玉石敷は僧房と講堂など建物間を結ぶ通路の可能性がある。
平城京を代表する大寺院の伽藍中枢部における空間利用のあり方を知る上で、貴重な情報を得ることができた。

【実績値】
論文等数：2 件
「興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査（平城第 559 次)」『奈文研ニュース№60』(28 年 3 月)
「興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査－平城第 559 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』(28 年 6 月予定)
報道発表等数：2 件
記者発表（27 年 12 月 18 日)、現地見学会（27 年 12 月 20 日)
(参考値)
出土遺物：瓦片 495 箱(うち軒丸瓦 210 点、軒平瓦 153 点、鬼瓦 5 点)、土器片 15 箱、金属製品 51 点（鉄釘等)、石製品 9 点、羽口片 3 点、鋳型片 2 片、凝灰岩 26 箱
記録作成数：実測図 55 枚(A2 判)、遺構写真 60 枚(4×5)、デジタル写真約 1700 枚
現地見学会来場者数：約 1,200 人

【受託経費】
14,315 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所　　処理番号 8010

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（受託）（(1)－⑥－ア）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員）、浦蓉子（考古第一研究室アソシエイトフェロー）、鈴木智大（遺構研究室研究員）、丹羽崇史（考古第二研究室研究員）

【年度実績概要】

・調査の経緯
　共同住宅建設に伴う事前調査。調査地は平城京左京二条二坊十一坪東西中軸線上に位置する。

・調査期間
　28 年 1 月 12 日～3 月 31 日

・調査面積
　330 ㎡（東西 10m×南北 33m）

・基本層序
　表土（10～20 ㎝）、耕作土（約 10 ㎝）、床土（約 25 ㎝）、灰褐色砂質土（約 15 ㎝）、包含層（約 10 ㎝）、黒褐色砂質土（整地土）・明黄褐粗砂（地山）。遺構検出は黒褐色砂質土上面で行った。

・主な検出遺構
　整地土、掘立柱建物 4 棟、掘立柱塀 6 条など。

・主な出土遺物
　瓦・土器類


柱穴の検出及び断ち割り状況（下部の木片は礎盤。抜き取り痕跡上部の粘土は、建て替えの際の再整地）

・調査所見
　従前の調査（279 次等）で検出していた建物に続く部分をはじめとする多くの遺構を確認した。また、3 時期以上にわたる遺構の濃密な重複関係が確認され、坪の中心部における土地利用の様相が明らかになった。さらに、比較的軟弱な地盤に対し、入念な整地を行って土地利用を展開していること、建物を建て替える際も粘土等により突き固めるなどの、丁寧な地業を行っていることなども確認した。
　これらの様相から、当該地域の平城京内における重要性を明らかにし、古代の土木工法等についても新たな知見を得ることができた。

【実績値】
論文等数：1 件
「左京二条二坊十一坪の調査－平城第 563 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』（28 年 6 月予定）

（参考値）
出土遺物：瓦片 100 箱（うち軒丸瓦 30 点、軒平瓦 13 点、施釉瓦 15 点）、土器片 16 箱、木製品 4 箱（部材片・加工棒等）、柱根・礎盤 21 点
記録作成数：実測図 54 枚（A2 判）、遺構写真 40 枚（4×5）、デジタル写真約 2100 枚

【受託経費】
6,934 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8011

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）試掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部部長　玉田芳英

【スタッフ】大澤正吾（考古第二研究室研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

・個人住宅の建て替えに伴い、特別史跡現状変更の可否を判断するための予備調査として、藤原宮跡の試掘調査を行った。調査地は、既往の調査から藤原宮外濠 SD145 の存在が予想される箇所である。
・調査区は、宅地の中庭部分に南北幅 1.8m×東西 1.0m の調査区（中庭側調査区）と、畑に面する箇所に 2.0m×1.0m の調査区（畑側調査区）を設定した。
・試掘調査の結果、古代の遺構面が遺存しているものと考えられたため、本調査が必要であると判断された。
・調査期間は平成 27 年 6 月 4 日から 6 月 8 日まで、調査面積は 3.8 ㎡である。

調査地：藤原宮跡
調査期間：27 年 6 月 4 日～6 月 8 日
調査面積：3.8 ㎡
調査成果：遺構面の確認
出土遺物：土器、瓦など



中庭側調査区掘削状況（西から）



畑側調査区掘削状況（西から）

【実績値】
出土遺物：土器 1 箱、瓦 1 箱
記録作成数　遺構実測図 1 枚、デジタルメモ写真 43 枚

【受託経費】
136 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8012
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）本発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部部長　玉田芳英

【スタッフ】森川実（都城発掘調査部主任研究員)、清野陽一（考古第三研究室研究員)、前川歩（遺構研究室研究員)、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー)、井上直夫(企画調整部写真室再雇用職員)、栗山雅夫(企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

・橿原市醍醐町における、個人住宅新築による特別史跡の現状変更の可否を判断するための発掘調査。藤原宮北面外濠付近で、宮外濠の北肩が確認できる可能性があった。
・基本層序は上位から表土、褐色土、青灰色土（水田土壌)、黄褐色土、暗褐色土。古代の遺構検出面は現地表下約 1.1m（暗褐色土上面）にあたり、これより上位の褐色土は近世から近代にかけての盛土、青灰色土は近世以降の水田土壌であった。
・暗褐色土上面で東西方向の耕作溝（近世）多数と、調査区北西部において古代の掘立柱建物の一部とみられる柱穴３基を検出したほか、調査区西壁沿いにて古代の土坑２基を検出した。確認した掘立柱建物は東南隅にあたり、調査区外（北側および西側）へと延びる。
・藤原宮外濠は調査区内では確認できず、調査区のすぐ南側に位置している可能性が高い。

調査地：特別史跡藤原宮跡
調査期間：27 年 8 月 4 日～23 日
調査面積：60 ㎡
調査成果：古代の掘立柱建物 1 棟、土坑 2 基など
出土遺物：瓦 1 箱、土器 1 箱



飛鳥藤原第 185-6 次調査区全景（北から）

【実績値】
遺構実測図 2 枚、写真（4×5）23 枚、デジタル写真 23 枚、デジタルメモ写真 45 枚
瓦 1 箱、土器 1 箱

【受託経費】
1,007 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8013

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	本薬師寺跡、藤原京右京八条二・三坊（山口宅）発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部部長　玉田芳英

【スタッフ】
西山和宏（都城発掘調査部主任研究員)、諫早直人（考古第一研究室研究員)、大澤正吾（考古第二研究室研究員)、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー)、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員)、飯田ゆりあ（同アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
・個人住宅の建て替えに伴う事前の発掘調査である。調査地は、本薬師寺跡および藤原京西二坊大路、八条条間路の推定地である。
・藤原京西二坊大路、西二坊大路東側溝、同西側溝、八条条間路、八条条間路南側溝を検出した。西二坊大路の規模は両側溝心々で 16.9m である。また、先行西二坊大路東側溝の可能性がある南北溝と、本薬師寺第 2 次調査で検出した SD201 に相当するとみられる斜行溝を検出した。
・そのほか、平安時代後半頃の南北溝、東西溝、土坑などを検出した。
・調査期間は平成 27 年 10 月 13 日～11 月 20 日、調査面積は 81 ㎡である。

調査地：本薬師寺跡、藤原京右京八条二・三坊、藤原京西二坊大路・八条条間路
調査期間：27 年 10 月 13 日～11 月 20 日
調査面積：81 ㎡
調査成果：西二坊大路、西二坊大路東側溝、同西側溝、
　　八条条間路、八条条間路南側溝など
出土遺物：土器、瓦、木製品など



藤原京西二坊大路東側溝、八条条間路南側溝、下層南北溝（先行西二坊大路東側溝か）完掘状況（北西から見る）

【実績値】
出土遺物：土器 7 箱、瓦 2 箱、木製品 1 箱
記録作成数　遺構実測図 8 枚、写真（4×5）78 枚、デジタル写真 117 枚、デジタルメモ写真 451 枚

【受託経費】
2,865 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8014

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	史跡　川原寺跡に隣接する県道「大和郡山明日香自転車道線」の発掘調査（受託）((1)－⑥－ア)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　玉田芳英

【スタッフ】西山和宏（都城発掘調査部主任研究員）、諫早直人（考古第一研究室研究員）、大澤正吾（考古第二研究室研究員）、山本亮（考古第三研究室アソシエイトフェロー）、栗山雅夫（企画調整部写真室技術職員）、飯田ゆりあ（同アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

本調査は、飛鳥川架橋工事に伴い実施したものである。調査地は史跡川原寺隣接地にあたり、遺構の有無と土層の堆積状況を確認した。

調査地：高市郡明日香村大字川原
調査期間：平成 28 年 1 月 12 日～1 月 19 日
調査面積：84 ㎡
調査成果：
・地表下２m強で飛鳥川の河川氾濫に伴う堆積層とみられる砂礫層を確認した。顕著な遺構は検出できず、遺構面は飛鳥川の氾濫により大きく削平を受けていると考えられる。
・近代以降の盛土中の礫層から、川原寺の創建期以降の特徴をもつ瓦が多数出土した。周辺から持ち込まれた客土の可能性が考えられる。
・出土遺物：瓦、土器



調査区全景（北西から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　　丸平瓦４箱、土器１箱
記録作成数　遺構実測図７枚、デジタル写真 30 枚、デジタルメモ写真 35 枚

【受託経費】
1,014 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8015

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	京都市の文化的景観保存計画策定調査（（１）－⑦）		
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　林良彦
【スタッフ】惠谷浩子（景観研究室研究員）			

【年度実績概要】

・「京都の文化的景観」の報告書目次案を作成するとともに、計 111 件の候補地を挙げ、内 39 件の台帳を作成した。なお、これに伴い、研究会を３回開催し、現地調査を 15 回実施した。

・「京都の文化的景観」の報告書の目次案を作成し、「京都の文化的景観」研究会において報告するとともに、各メンバーからの意見を集約し、修正作業を進めた。なお、研究会の議事録も作成した。

・「京都岡崎の文化的景観」の普及啓発として、巡回パネル展用のパネル 13 枚を作成した。また、重要文化的景観の選定記念のパンフレット（12 ページ）の執筆・編集も行った。

・「北山杉の林業景観」に関する資料収集を行った。調査報告書の目次案を作成した。研究会を１回開催し、住民向けの勉強会では講師を務めた。なお、研究会の議事録も作成した。

・「京都の文化的景観」、「京都岡崎の文化的景観保存計画書」、「北山杉の林業景観」の調査や普及啓発事業、研究会の実施のため、京都市等との協議をのべ 11 回行った。



「京都岡崎の文化的景観」パネル展の様子



「京都の文化的景観」研究会の開催

【実績値】
候補地台帳：39 点
パネル製作：13 枚
パンフレット：1 点
現地調査：15 回
研究会：3 回
デジタル写真：835 点

【受託経費】
1,207 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8016

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝薬師寺東塔顔料等分析調査業務委託（第Ⅱ期）（受託）（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、杉岡奈穂子(保存修復科学研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

○　前年度行った同受託事業の第Ⅱ期である。国宝薬師寺東塔の初重堂内荘厳に用いられている木部材（身舎天井裏板・身舎支輪裏板）に創建当初と思われる彩色部の顔料・有機染料及び展色材などについて、以下のような分析手法を用いて使用されている材料を明らかにすることを目的とし、分析を行った。

分析方法（非破壊調査を原則として行った。）

・蛍光 X 線元素分析
・可視分光分析
・デジタルアーカイブスキャニング（紫外・可視・近赤外）
・テラヘルツイメージング
・X線回折分析

・　調査の結果、彩色部の顔料および有機染料の推定を行うとともに、3 種類の波長域の異なる光源で詳細な画像データを得ることができた。



天井裏板等のデジタルアーカイブスキャニング
(薬師寺に大型スキャナを持ち込み、可視光線、赤外線、紫外線による詳細画像を撮影した。)

【実績値】

実績報告書 1 件
「国宝薬師寺東塔顔料等分析調査業務委託（第Ⅱ期)」2016.3

【受託経費】

703 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8017

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究（受託）((1)－⑧－イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】小池伸彦（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長)、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長)、金田明大(埋蔵文化財センター主任研究員)、中村一郎（企画調整部写真室主任)、村田泰輔（埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
鳥取県出土弥生時代青銅器について計測および材質の調査を実施した。
（１）三次元計測：全ての対象資料について三角法レーザースキャナーによる三次元計測を行った。
（２）X 線撮影：X 線を用いた鋳造状態等の調査を行った。
（３）ICP 分析：ICP 分析により成分の定量分析、鉛同位体比分析を行った。
（４）拓本：採取可能な資料に対して拓本の作成を行った。
（５）写真撮影：対象物の写真撮影を行った。
（６）表面観察による成果：詳細な資料の観察を実施した。この結果、銅剣の関近くに、魚を表現した線刻があることが明らかとなった。



観察で明らかになった魚の線刻

【実績値】
三次元計測・X 線撮影・写真撮影・表面観察：17 点
ICP 分析：11 点
拓本作成：11 点

【受託経費】
3,399 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8018

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査（受託）（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
田村朋美（保存修復科学研究室研究員）

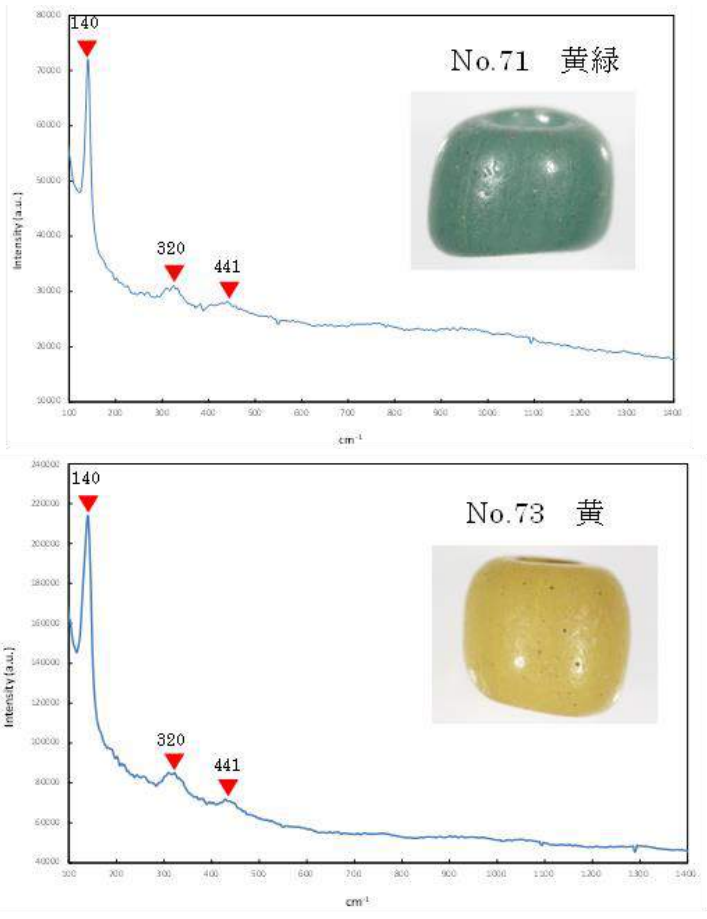
【年度実績概要】

○　本事業の対象は、群馬県金井東裏遺跡出土のガラス小玉である。この遺跡は６世紀初頭の榛名山の噴火の際の火山灰や火砕流に埋もれた「甲を着た古墳人」が発見された希有な遺跡である。この火砕流に埋もれた「古墳人」が装身具としてガラス小玉を身に着けていた。本事業では、この「古墳人」が身に着けていたガラス小玉の分析調査を実施するとともに、これらの人骨などとほぼ同時期の祭祀遺構及び古墳から出土したガラス小玉についても併せて分析を行った。

・　27年度調査では、当遺跡から出土したガラス小玉のうち、前年度分析調査を実施しなかった破片資料20点についてエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（エダックス社製 EAGLEⅢ）を用いて測定を実施した。測定結果は測定資料と近似する濃度既知のガラス標準試料を用いて補正した理論補正法（Fundamental Parameter method、以下ではFP法）により、検出した元素の酸化物の合計が100％になるように規格化した。その結果、調査を実施した破片資料のうちカリガラス製のものが１点含まれていることが明らかとなった。その他の18点は、ソーダガラスであった。なお、１点は鋳型法で製作されたガラス小玉の破片であったため、異なる種類のガラスが混合されている可能性を考慮して、材質判定は行わなかった。

・　また、当遺跡からは黄色及び黄緑色のガラス小玉が60点（破片含む）出土している。これらについて顕微鏡観察を実施すると、内部に黄色不透明粒子が散在していることが分かる。27年度は、これらの黄色不透明粒子の材質を明らかにするため、蛍光Ｘ線分析により黄色不透明粒子部分の定性分析を実施した。測定の結果、これらの黄色粒子部分からは鉛（Pb）及び錫（Sn）が強く検出された。これらの元素を主成分とする物質であることを示唆する結果が得られた。

・　さらに、このような蛍光Ｘ線分析の結果を踏まえて、黄色不透明粒子の結晶構造の同定を目的として、黄緑色ガラス小玉１点（No.71）及び黄色ガラス小玉（No.73）について、ラマン分光分析を実施した。物質に特定波長の励起レーザーを照射すると、物質に含まれる化合物に固有のラマンスペクトルが得られる。測定の結果、いずれも錫酸鉛（$PbSnO_3$）に特徴的なラマンスペクトルが得られた。上述の蛍光Ｘ線分析法による元素分析の結果と総合して、同色の他の資料に含まれる黄色不透明粒子についても錫酸鉛（$PbSnO_3$）であると推察できる結果が得られた。



黄色不透明粒子のラマンスペクトル

【実績値】
実施報告書：１件
『平成 27 年度 群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査実施報告書』2015.10
分析点数：80 点

【受託経費】
125 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8019

業務実績書（受託事業）

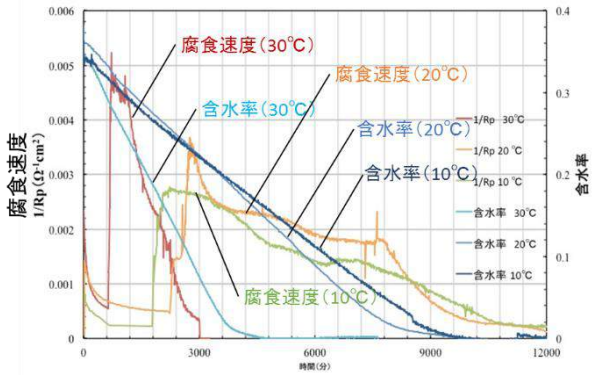
中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する研究（受託）（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

○　宗像市に所在する田熊石畑遺跡では、弥生時代中期前半頃の 6 基の墳墓全てから、計 15 点の銅剣、銅矛及び銅戈の青銅製品が出土している。しかし、墓域には未だ発掘調査が行われていない墳墓が存在し、これまでの調査結果から、それらの墳墓にも青銅製品が埋蔵されている可能性が非常に高い。

25 度及び 26 年度は現地に環境調査機材を設置して、外界気象条件と土中の埋蔵環境（土壌温度と含水率、及び土中の酸素濃度）について実測調査を実施した。27 年度は引き続き環境調査を行うとともに、室内実験から埋蔵環境下における金属製遺物の腐食速度について検討した。



含水率変化に伴う腐食速度変化（炭素鋼）

一般に金属製遺物の腐食に対しては雰囲気温度と土壌含水率、及び土壌含水率によって支配される遺物周辺の溶存酸素濃度が大きく影響をおよぼす。そこで、室内実験では埋蔵環境として土壌の含水率、温度を可変数として、これらの値を変化させてそれぞれの条件下における金属の腐食速度を測定した。金属試料としては青銅と参照試料として炭素鋼を用い、腐食速度の測定はポテンショスタットを用いたインピーダンス法によって行った。

・　実験の結果、土壌含水率が高い状態では金属試料の腐食は緩慢に進行し、やがて土壌の乾燥にともない含水率が低下すると腐食速度が急激に上昇することが明らかとなった。その後、さらに土壌含水率が低下すると腐食速度は再び緩慢となった。土壌間隙水中の溶存酸素の拡散はきわめて緩慢であるため、土壌含水率が高い状態では金属試料表面の溶存酸素が枯渇することにより実験開始直後は腐食速度が緩慢であったと考えられる。一方で、土壌含水率が低下するのにともない気相酸素が土壌内部まで侵入すると、金属試料周辺の溶存酸素濃度が増加するため、腐食速度が急激に増加したと考えられる。さらに土壌の乾燥が進行すると金属の腐食に必要となる水が枯渇するため腐食は再び緩慢になったと考えられる。今後は室内実験結果から、埋蔵環境下における金属製遺物の腐食速度のモデル化を行うとともに、埋蔵環境を推定するモデルを構築し、これらを組み合わせることで遺跡の整備や埋め戻しによる遺物の埋蔵環境変化及び埋蔵環境下での腐食速度の推定を試みたい。

【実績値】
事業報告書：1 件
『国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する研究』2016. 3

【受託経費】
408 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 8020

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	喜界町出土金属製遺物の保存処理（受託）（(1)－⑧－イ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

○　本事業の対象は、近年、喜界町の発掘調査で出土した古代・中世期の金属製遺物である。これらの金属製遺物は、南西諸島においては貴重な出土事例であり、できうる限り今ある状態で保存していくために保存処理を実施していく必要がある。

・　27年度事業の対象は、川尻遺跡および崩リ（くずり）遺跡出土の鉄製品である。本事業では保存処理に先立って、材質分析（蛍光Ｘ線分析、Ｘ線回折分析）と詳細な状態調査（写真撮影、肉眼観察、顕微鏡観察、Ｘ線ラジオグラフィ）を実施し、劣化状態の調査結果に基づいて、以下の保存修理を行った。



27 年度保存処理遺物
（左上：川尻遺跡出土鉄製品（処理前）、川尻遺跡出土鉄製品（処理後））
（右上：崩リ遺跡出土鉄製品（処理前）、崩リ遺跡出土鉄製品（処理後））

・　まず、鉄製遺物の表面に付着している砂粒子や錆ぶくれを形成している褐鉄鉱などの腐食生成物を、メス、竹串、グラインダー、超音波研磨装置、エアーブレイシブなどを用いたクリーニングにより除去した。

・　次に、脆弱化している遺物を強化するため、アクリル樹脂（パラロイドＢ72）５％アセトン・トルエン溶液を減圧含浸した。減圧下に置くことが困難な脆弱遺物については、注射器による注入、及び筆などを用いた塗布を実施した。これらの作業を必要に応じて複数回繰り返し行った。

・　保存処理が完了した金属製遺物は、低湿度環境下で保管することが望ましいため、ガスバリア袋内に脱酸素乾燥剤を同封のうえ密封した。密封状態のまま、専門業者により喜界町教育委員会埋蔵文化財センターの収蔵庫まで輸送した。

【実績値】
実施報告書：１件
『平成 27 年度 喜界町出土金属製遺物の保存修理報告書』28.3
保存修理点数：18 点

【受託経費】
1,447 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8021

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業（受託）（(1)－⑧－ウ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

降幡順子(都城発掘調査部主任研究員)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、保存修復科学研究室研究員)

【年度実績概要】

平城宮跡遺構展示館では奈良時代の土遺構を昭和 40 年代前半から露出展示している。展示館は南北 2 棟から主に構成され、北棟では掘立柱建物跡を、南棟では磚積基壇建物跡を露出展示している。北棟では主として遺構や盛土表面での塩析出による劣化が、南棟では磚や石材表面での塩析出や、常に湛水状態にある雨落ち溝での褐色沈殿物による汚損が顕著な劣化として挙げられる。27 年度は 26 年度から継続して環境調査および遺構の劣化状態調査を月毎におこない、劣化の発生・進行に対して環境がおよぼす影響について検討した。また、遺構展示館覆屋および地盤の熱水分移動性状を考慮して遺構地盤における熱水分移動のモデル化をおこない、モデルを用いた解析から塩析出による劣化を抑制する方法について検討した。さらに地盤における水分移動および溶質としての溶存酸素移動を考慮して地盤内の酸化還元状態を求めるモデルを作成し、遺構面深度から浸み出す地下水の酸化還元状態の推定をおこなった。以下に研究結果の概要を記す。

1) 平城宮跡遺構展示館の露出展示遺構において生じている劣化は、a)湿潤・乾燥による土壌の崩落、b)豪雨時に館内へ浸入する雨水による土壌の浸食、c)蘚苔類による汚損、d)塩析出による多孔質材料の破壊、e)含水酸化鉄沈殿による汚損であることをあきらかにした。
2) 遺構面で析出する塩は CaSO4 (Gypsum) と Na2SO4 (Thenardite) で、前者は南北両棟で通年認められたのに対して、既往研究から多孔質材料の破壊におよぼす影響がきわめて大きいと言われる後者は冬期に南棟でのみ析出が認められた。南北両棟は空調設備の有無、換気量の多寡が異なり、南棟の館内気温は概ね外気と同様の推移を示すことから、Na2SO4 の析出に対しては南棟の冬期の気温低下と換気によって遺構土壌からの水分蒸発が促進されることが大きく影響していることをあきらかにした。
3) 展示館内の温熱環境と遺構土壌の水分移動に関してモデル化をおこない、解析により塩析出を抑制する方策を検討した結果、周辺地盤に浸透する雨水の量を減ずること、南棟の換気回数を減ずることで、塩析出による遺構の劣化を大幅に抑制し得ることを示した。
4) 含水酸化鉄沈殿による汚損が顕著な南棟周辺の地盤では、地下水は概ね通年還元的で、夏期を除く期間は地下水面が遺構面よりも上方にあることをあきらかにした。したがって、還元状態の鉄が地下水中には溶存しており、鉄を含んだ地下水が夏期を除く期間に遺構面に浸み出し、鉄が遺構面で再び酸化沈殿することで汚損が生じていることをあきらかにした。一方、豪雨時に遺構面へ浸出した水によって沈殿が排出されたことから、遺構面で同様の水分流を再現することで沈殿による遺構の汚損を抑制し得ることを示した。
5) 地盤の酸化還元状態は地下水位変化に支配されることから、地盤内の地下水位変化を求めるモデルを作成した。また、酸化還元状態を支配する溶存酸素の移動をあわせて計算し地盤の酸化還元状態を検討した結果、沈殿生成の観察結果に良く対応する結果が得られた。

【実績値】

事業報告書：1 件

『平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業報告』2016.3

研究発表：4 件

①桑原範好・鉾井修一・脇谷草一郎・小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究」日本建築学会近畿支部研究報告、2015.6

②脇谷草一郎・桑原範好・鉾井修一・小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究－遺構周辺地盤の酸化還元環境に関する検討－」日本文化財科学会第 32 回大会、2015.7

③桑原範好・鉾井修一・脇谷草一郎・小椋大輔「平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の保存のための環境設計」2015 年度日本建築学会大会、2015.9

④Soichiro Wakiya, Noriyoshi Kuwabara, Shuichi Hokoi, Daisuke Ogura “Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site” 20th Thermophysics、2015.10

論文：1 件

Soichiro Wakiya, Noriyoshi Kuwabara, Shuichi Hokoi, Daisuke Ogura “Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site” Advanced Materials Research Vol.1126, pp.39-52 2015

【受託経費】

2,509 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8022

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

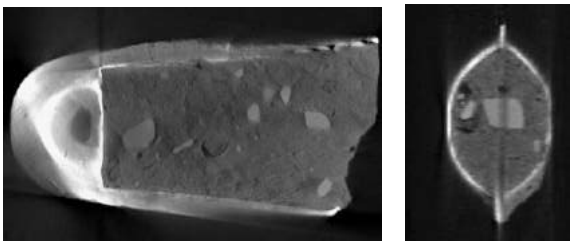
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	神明遺跡出土銅鐸に関する保存科学的研究（受託）（⑧－ウ）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】

脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

神明遺跡出土銅鐸は内部に土砂が詰まった状態で発見されたものである。銅鐸の内外表面には土砂がサビとともに強固に付着し、全く文様を観察することができない状態であった。保存修復科学研究室では、クリーニングに先立ち、Ｘ線透過撮影およびＸ線ＣＴ撮影を行い、銅鐸内の土砂中の内容物の確認と形状の確認、さらには銅鐸の劣化状態の調査を行った。その後、筆、竹串、メス、グラインダ等を用いて慎重に銅鐸内外の土砂を除去し、銅鐸表面の文様の表出を行った。その結果、身の表面に田の字状の格子目文を施す４区袈裟襷文、身の下部と鰭に鋸歯文、鈕の上部に流水文を確認することができた。これらの文様構成と鈕の形状から扁平鈕式古段階に比定され、弥生時代中期後半に製作されたものと推定される。



X 線 CT によるクリーニング前の断面画像

また、発見時に回収された破片から採取した金属試料を ICP 発光分析と鉛同位体比分析に供した結果、主成分としては銅 94%、スズ 1.3%、鉛 1.3%であること、鉛同位体比分析の結果から中国前漢鏡の領域にあることが明らかとなった。クリーニング後、ベンゾトリアゾールによる安定化処理とアクリル樹脂による強化処置を施し、破片の接合を行なった。

【実績値】

調査報告書１件

神明遺跡出土銅鐸に関する保存科学的研究調査報告書、2016.2

【受託経費】

290 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8023

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務（受託）　((1)－⑧－ウ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
降幡順子（都城発掘調査部主任研究員）、脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

○　大分県日田市に位置する史跡ガランドヤ古墳１号墳は、装飾が描かれた奥壁などの石材表層で剥離や析出物が認められる。このような装飾の劣化の主たる要因は、石材表面における結露の発生と考えられる。従って、石材の劣化を抑制し、装飾を保存するためには、結露の発生を抑制することが重要である。

　ガランドヤ古墳１号墳では、前年度コンクリート製の保護施設が完成し天井石が屋根で覆われたことから、石室石材では冬季の天井石内側表面での結露発生リスクが大きく軽減され、夏季の外気由来の結露発生が結露の主要因と考えられた。


石室床面で発生した結露

・　27 年度は保護施設内における石材表面での結露抑制方法として換気設備の運用方法について検討した。すなわち、外気の温度・湿度を測定すると同時に、外気の相対湿度が 65%を上回ったときには保護施設内空気と外気の換気を停止し、65%以下の間は常に換気することとして石室石材表面での結露発生の状況を観察した。

・　調査の結果、コンクリート製保護施設およびその内部の空間はきわめて熱容量が大きな空間となっていることから、夏季に積極的な換気を行っても内部の石材の温度上昇は極めて緩慢であり、上記の閾値で換気を制御した場合でも外気から持ち込まれた湿気が石室内部および保護施設内側表面において結露する様子が観察された。また、結露の発生は８月に豪雨が観測された際に特に顕著であることから、この時期に石材表面温度の上昇を促す熱源の使用が効果的であると考えられた。

・　また、ガランドヤ古墳２号墳は封土が一部残存する一方で、天井の一部が欠損した状態にある。石室内への雨水の浸入を防ぐため、現在２号墳は防水シートで覆われているが、石室内の温湿度測定の結果から石室内石材表面で結露が発生しているものと推察された。そこで、２号墳の仮整備を実施するに際しては、石室直上については雨水の浸入を防ぎつつ外気との換気を確保する必要がある一方で、封土に対して雨水を完全に遮断した場合、封土が塑性を失い崩落すると懸念されることから、石室直上の範囲に対して屋根を設けることとして、その他の領域に対しては雨水の浸透を許す方法を検討した。

【実績値】
事業報告書：1 件
『国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務』2016.3

【受託経費】
403 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8024

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	波怒棄館(はぬきだて)遺跡出土の動物遺存体の分析（受託）((2)－④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室研究員　山崎　健

【スタッフ】
松崎哲也(環境考古学研究室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

○　波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市）から出土した動物遺存体の分析を行い、15,593 点の動物遺存体を同定し、以下の成果が得られた。

・　現場採集資料は魚類が大部分を占めており、貝類、哺乳類などは少なかった。種類や部位などを同定した資料は総計 6,330 点にのぼり、貝類 14 点、魚類 5,999 点、鳥類 42 点、哺乳類 275 点である。最も多かったのはマグロ属で 4,429 点である。

・　水洗選別資料（4㎜資料）は、種類や部位などを同定した資料は総計 14,011 点にのぼり、貝類 4,645 点、魚類 8,921 点、爬虫類 8 点、鳥類 58 点、哺乳類 379 点である。貝類で最も多かったのはイガイで、次いでムラサキインコ、スガイ、レイシガイなどが含まれる。魚類で最も多かったのはマグロ属で、次いでカツオやマダイなどが含まれる。哺乳類や鳥類は少なかった。

・　波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体は、貝類・魚類が多く、鳥類・哺乳類が少ないことが特徴である。貝類は 72 分類群を同定した。イガイ、ムラサキインコ、スガイといった岩礁域に生息するものを中心として、砂泥底に生息するアサリなどが混じる組成となっている。魚類は 37 分類群を同定した。マグロ属、カツオなどの回遊魚と沿岸に生息するマダイやアイナメ属などが非常に多く含まれている。マグロ属の椎骨には、石器や骨角器が嵌入した状態で出土したものが 15 点確認され、それ以外に刺突を受けたような痕跡が残されているものが見つかっている。鳥類は 10 分類群を同定した。キジ科やミズナギドリ科、カラス科などが少量出土している。哺乳類は 15 分類群を同定した。ニホンジカやイノシシの他に、イヌやノウサギといった中型哺乳類がわずかに含まれている。



作業風景

【実績値】
分析点数：15,593 点

【受託経費】
5,545 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8025

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	保美貝塚出土動物遺体分析業務（受託）((2)－④)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室研究員　山崎　健
【スタッフ】			

【年度実績概要】

○　保美貝塚（愛知県田原市）から出土した動物遺存体の分析を行い、498 点の動物遺存体を同定した。動物遺存体の保存状態は良好であり、カットマークやイヌの咬み跡といった痕跡も確認でき、以下の成果が得られた。

・　ニホンジカ、イノシシ、イヌなどの多数の哺乳類を同定し、狩猟活動が盛んであったことを明らかにした。

・　ニホンジカやイノシシといった大型哺乳類が多く出土した。保美貝塚ではこれまでに石鏃が多量に出土していることが知られ、活発な狩猟活動がおこなわれたと考えられる。
　渥美半島では、縄文時代晩期に吉胡貝塚、伊川津貝塚、保美貝塚に大規模な貝層が形成される。近年の調査で吉胡貝塚や伊川津貝塚は晩期前半にピークを迎えるが、保美貝塚は晩期後半にピークを迎えることが明らかとなってきた。これまでの保美貝塚の発掘調査では多量の動物遺存体が出土していたが、正式な報告がほとんどないために、動物資源利用の実態は不明であった。今回分析したものは、全国的に出土事例の少ない縄文時代晩期後半の生業活動を検討する上で貴重な資料といえる。



作業風景

【実績値】
分析点数：498 点

【受託経費】
298 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8026

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究（受託）（(３）－③－ア）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

【スタッフ】
城野誠治（企画情報部専門職員）

【年度実績概要】

本受託事業は栃木県佐野市からの委託により実施したものである（受託期間：27 年 4 月 30 日～28 年 3 月 31 日）。

佐野市立吉澤記念美術館が所蔵する伊藤若冲「菜蟲譜」に関し、22 年から 25 年にかけて実施された光学的調査によって取得した高精細デジタル画像の有効活用を図り，取得成果の公開を進めることを目的に，佐野市立吉澤記念美術館と協力して，「菜蟲譜」巻子の複製を製作することで最適な高精細デジタル画像の提示方法，印刷方法等に関する調査研究を行った。

・高精細デジタル画像による複製製作にあたり、その質感をできる限りオリジナルに近づける目的で、光学調査によって得られた高精細画像から「菜蟲譜」に使われている絹糸の太さ、本数などを調べ、それにできるだけ近い印刷用の絵絹を新たに製作した。
・この絵絹にインクジェットプリンタでの印刷を行うためには、絵絹表面に無色透明のコーティングを施す必要があり、その濃度・厚さ等を検討した。コーティングによって絵絹の硬さも影響を受けてしまうため、絵絹に適度の水を通すことで、最適な硬さ・表面状態の絵絹に仕上げた。
・表面コーティングが施された絵絹に当研究所所有のインクジェットプリンタでテスト印刷を実施した。インクは所定の濃度で定着し、擦れや水濡れが生じてもインクの滲みや剥落がほとんど生じないことを確認した。
・全 12m にわたる「菜蟲譜」の高精細画像について、当研究所所有のインクジェットプリンタによって上記の絵絹に印刷を施した。
・「菜蟲譜」では絵絹裏面に置かれている肌裏紙が着色されており、それが絵画の発色に大きな効果を与えている。数種類の着色を施した肌裏紙を製作し、テスト印刷した絵絹裏面に置いて、表面からの見えに与える影響を調べ、適切な肌裏紙の選定を行った。
・インクジェットプリンタによって印刷された絵絹、選定した肌裏紙を使い、巻子への仕立てを行い、「菜蟲譜」複製の完成をみた。

【実績値】
受託研究報告書　28 年 3 月
「菜蟲譜」複製品（巻子 1 巻）　28 年 3 月

【受託経費】
1,610 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8027

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	Ｘ線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査（受託）（（３）－③－ア）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	主任研究員　　犬塚将英

【スタッフ】
高妻洋成（奈良文化財研究所保存修復科学研究室長）、杉岡奈穂子（奈良文化財研究所保存修復研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

本調査研究では、愛知文化芸術センター所蔵のピカソ作の絵画《青い肩かけの女》について、Ｘ線透過撮影による光学調査を実施した。

今回調査を実施した《青い肩かけの女》は、ピカソのいわゆる「青の時代」（1901-1904）の期間に描かれた作品である。決して裕福とは言えなかった当時のピカソの作品の特徴として、一度別の絵が描かれたキャンバスの上に描かれた作品が多いことが知られている。このことはＸ線透過撮影により、様々な「青の時代」の作品について、絵画表面で鑑賞することができる絵画とは別のモチーフが発見されていることからも明らかにされてきた。本調査研究では、これまでに絵画表面で鑑賞することができる絵画とは別の絵画の有無が確認されていない愛知文化芸術センター所蔵の《青い肩かけの女》について、別の絵画の有無と絵画の構造に関する調査を行うために、27 年 12 月 27 日にＸ線透過撮影による光学調査を実施した。この調査でのＸ線透過撮影では、イメージングプレートを用いた。そして 27 年 11 月に東京文化財研究所に導入した可搬型現像装置を持ち込み、それぞれの撮影の度にイメージングプレートの現像を行い、Ｘ線透過画像を確認しながら調査を進めた。

Ｘ線透過撮影とは別に、《青い肩かけの女》に関しては、テラヘルツ分光分析や近赤外線撮影等の他の手法による光学調査も実施されている。これらの調査結果と、本調査研究で得られたＸ線透過画像とを比較することにより、別の絵画の有無、絵画の構造、制作技法に関する考察を行った。



愛知芸術文化センターでの調査の様子

【実績値】
受託研究報告書　28 年 3 月

【受託経費】
326 千円

【受託】　　施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8028

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	愛知県美術館所蔵作品のテラヘルツイメージングによる診断調査（受託）((3)－③－イ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

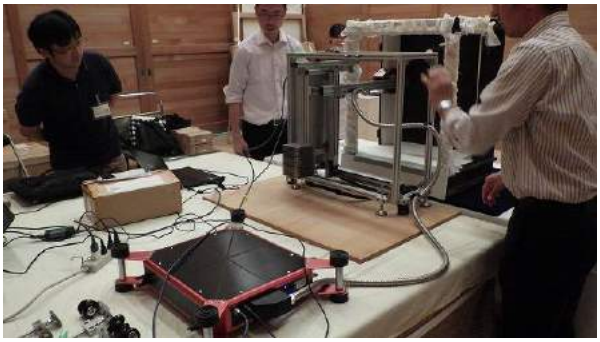
【スタッフ】

脇谷草一郎、田村朋美(以上、保存修復科学研究室研究員)、杉岡奈穂子(保存修復科学研究室アソシエイトフェロー)
福永香（埋蔵文化財センター客員研究員）

【年度実績概要】

○　愛知県美術館では寄託されている木村定三コレクションのひとつである黒漆厨子の修理が実施されている。同作品の外面は黒漆で塗装され、内面は絹本著色の絵画で装飾されている。この厨子の修理を実施するにあたり、内部背面の絵画の状態を診断する必要が生じた。このような板材に絹本が貼られたものの深さ方向の構造調査にはテラヘルツイメージングが適している。前年度は黒漆厨子を測定できるように装置の改良を加え、厨子の模型を作製して測定の模擬実験を実施し、奥行きのある黒厨子の内部および背面を安全にイメージングすることが可能となった。

・　本年度は、この改良したテラヘルツイメージング装置を用いて、黒漆厨子の測定を行い、絹絵の浮きや剥離箇所などを明瞭に可視化することができた。



黒漆厨子のテラヘルツ波イメージング測定風景
(愛知県美術館の収蔵庫にテラヘルツ波イメージング装置を持ち込み、改良した XY ステージを用いて測定を行った。)

○　また、同美術館にはピカソ作の「青い肩掛けの女」が所蔵されている。青の時代の作品と呼ばれる作品群のひとつとされているものである。青の時代の作品は、すでに絵が描かれていたキャンバスを塗り潰して、新たに製作されたものが多く、赤外線やX線を用いた調査でこれら青の時代の作品群について、その下層の絵の存在が明らかとなっている。

・　同美術館所蔵の作品に対して、下層に絵が存在するか否かを調査するためにテラヘルツ波イメージングを実施したところ、明瞭な下層の絵画を可視化することはできなかった。東京文化財研究所との共同調査（東文研受託）で、X線透過試験を行い、さらに奈文研による赤外線撮影を実施したところ、下層に明瞭な絵画は存在していないことが明らかとなった。東文研と奈文研が共同して調査をすることで、きわめて良好な成果を上げることができたことを特筆したい。

【実績値】

事業報告書 1 件
「愛知県美術館所蔵作品のテラヘルツイメージングによる診断調査」28.3

【受託経費】

193 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8029

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	絵金屏風の保存修理に関する調査研究（受託）（(3)－⑤）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
朽津信明（修復材料研究室長）、早川典子（主任研究員）、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長）、山田祐子（アソシエイトフェロー）、楠京子（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

燻蒸事故により汚損された絵画の保存修復に関して、調査研究を行った。
これは、通常の汚損事故とは異なり、文化財に使用すべきでない燻蒸材料を使用した結果、化学反応によって作品に使われていた色料が変色・変化をした状況で、作品のみならず作業者の安全を図るため、当研究所が事故当事者である熊本市現代美術館との契約において実施するもので、この結果をもとに修理技術者が慎重な作業を行っている。

27 年度作業の概要は以下のとおり：
(1) クリーニング終了後の作業方針についての検討への協力
株式会社修護によってクリーニング、裏打ち取り替え、下地作製までの工程が完了している対象作品全 5 幅について、熊本市現代美術館、高知県教育委員会、香南市、絵金蔵、所蔵者が今後の方針を検討するための助言と予備的試験を行った。
26 年度までの検討により、黒変した緑青については、徐々に緑に戻る傾向があるため、これを長期的に待つこととし、絵画表面をサポートするため変色部分に緑色に染めた和紙を貼る、という方針について検討した。これについて、香南市で 2 回の説明会（6 月、12 月）、修護アトリエで 1 回の検討会（10 月、１月）を開催した。
(2) 今後の保存環境に関する考察と協力
所蔵者を含め、関係者の理解のもと、修理が完成する 28 年度中に保存環境に関する助言を行うことになったため、収蔵施設である絵金蔵の保存環境に関する検討を始めた。



修理方針に関する検討会（10 月 13 日）

【実績値】

【受託経費】
173 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8030

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）((4)－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田　健

【スタッフ】

佐野千絵（副センター長)、早川泰弘（分析科学研究室長)、朽津信明（修復材料研究室長)、北野信彦（伝統技術研究室長)、吉田直人（保存科学研究室長)、犬塚将英（主任研究員)、佐藤嘉則（研究員)、早川典子（主任研究員)、森井順之（主任研究員)、酒井清文（客員研究員)、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長)、加藤雅人（国際情報研究室長)、山田祐子（アソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)、大河原典子（鎌倉女子大学講師・客員研究員)、前川佳文（絵画修復家・客員研究員)、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長)

【年度実績概要】

○生物及び環境関連研究

・修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量、また温湿度推移のモニタリングを継続し、安定した保存環境の維持に努めた。また、適切な空調制御方法を検討するための、現状のプロセス解析を行うシステムを構築した。
・高松塚古墳の微生物分離株は、劣化要因の調査や漆喰壁からのカビの除去試験などで利用されたのち、アンプルとして保存されており、貴重な資源となっている。これらの微生物株を今後も確実に保存していくため、菌株のデータ集、基本台帳やシークエンスデータファイルの作成を進め、かつ公的機関への寄託を開始した。
・福岡県うきは市珍敷塚古墳及び日岡古墳で装飾古墳の保存環境調査を継続実施した。珍敷塚古墳では保護施設の改修を視野に入れた温湿度調査を継続した。日岡古墳では、冬季に発生する保存施設内壁の結露対策として断熱工事が行われることに備えて、同施設の壁面温度の計測を行った。

○修復関連研究

・高松塚古墳壁画のクリーニング方法として、酵素の使用方法に関して、現場での作業性の向上を検討し、適用した。また、表面再結晶部分の確認も継続して行っている。

○材料技法研究

・奈良文化財研究所との共同により、高松塚古墳壁画に関する色料の分析調査を継続的に実施している。可視反射スペクトル測定を継続して行ない、これまでの膨大なデータとともに解析作業を進めている。

○研究所古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議の開催

・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、27 年 5 月 14 日、9 月 17 日、11 月 30 日、28 年 2 月 23 日の 4 回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。

【実績値】

【受託経費】

44,101 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8031

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	４　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）((4)－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（副センター長)、早川泰弘（分析科学研究室長)、朽津信明（修復材料研究室長)、北野信彦（伝統技術研究室長)、吉田直人（保存科学研究室長)、犬塚将英（主任研究員)、佐藤嘉則（研究員)、早川典子（主任研究員)、森井順之（主任研究員)、川野邊渉（文化遺産国際協力センター長)、加藤雅人（国際情報研究室長)、山田祐子（アソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)、大河原典子（鎌倉女子大学講師・客員研究員)、前川佳文（絵画修復家・客員研究員)、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長)

【年度実績概要】
○生物環境関連研究
・キトラ古墳石室が発掘された 16 年から石室の埋戻しが行われた 25 年までの期間にわたる微生物の調査結果を踏まえ、微生物相の推移についてとりまとめを行った結果を学会において発表した。
・キトラ古墳に由来する微生物株についても、高松塚古墳由来の微生物株と並行して、基本台帳と DNA シークエンスデータファイルの作成を進め、公的機関への寄託を開始した。
・キトラ古墳壁画を保管している高松塚古墳壁画修理施設内の温湿度モニタリングを継続して行ない、安定した環境の維持に努めた。

○修復関連研究
・漆喰の再構成を行うための修復材料の検討を継続して行った。28 年度の壁画展示公開に向けて、最終的な色や再構成手法の確認を行った。また酵素による表面のクリーニングを、汚損物質の種類や状況に応じた条件のもとで実施した。

○材料技法研究
・奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳壁画に関する色料の分析調査を継続的に実施しており、これまでに取得した膨大な分析データの整理を継続している。

【実績値】
学会発表 1 件
木川りか、喜友名朝彦、立里臨、佐藤嘉則、佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹：キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間（平成 16 年～25 年）の微生物相と考察、日本文化財科学会第 32 回大会　27 年 7 月 11 日-12 日　東京学芸大学

【受託経費】
36,394 千円

【受託】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8032

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査（受託）((4) －①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　岡田健

【スタッフ】
佐野千絵（副センター長）

【年度実績概要】

本調査研究は、文化庁からの受託事業である。

高松塚古墳壁画は、「恒久保存方針」が 17 年度に決定され、それに基づき 19 年度に石室ごと解体され、現在国営飛鳥歴史公園内にある国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設において、10 年を目途に修理作業が進められている。修理後の当分の間の保存の在り方については、古墳壁画の保存活用に関する検討会において議論が重ねられ、26 年 3 月には「高松塚古墳壁画修理後の当分の間の保存の在り方について」（以下「修理後の保存方針」という。）が決定された。恒久保存方針及び修理後の保存方針は、「将来的には、カビ等の影響を受けない環境を確保した上で現地に戻す」ということについて共通しており、特に修理後の保存方針においては、「壁画・石室の保存管理・公開を行うための施設」の在り方についても検討することとされている。

本調査においては、高松塚古墳壁画修理後の当分の間の保存・展示の在り方について調査を行い、古墳壁画の保存活用に関する検討会での議論に資することを目的とする。当研究所に与えられた任務は、主に保存科学、文化財科学の見地から日本国内の展示事例を調査し、その成果を高松塚古墳壁画の保存・展示の望ましい形を提案するための検討作業に資することである。

27 年度は、26 年度の日本国内の装飾古墳の展示事例に関する調査に続き、中国及びイタリアにおける展示事例を調査し、保存・展示に関する考え方を整理し、文化財の展示設計に経験のある専門会社に委託し、具体的な展示方法を示す資料を作成し、古墳壁画の保存活用に関する検討会（第 18 回：27 年 12 月 22 日、第 19 回：28 年 3 月 22 日）に報告した。

作業の実績

(1) 事例調査

国外において、原所在地から移動して保存・公開されている古墳壁画の対象として調査を実施した。その内容は、a) 発見・発掘された後に原所在地（古墳、発掘遺跡等）から移動して現在の施設に保管・展示されるに至る考え方、b)現在の保管・展示環境における保存と公開の履歴、c)展示効果・保存環境等の課題、である。

中国：陝西省考古研究院、西安市長安区郭新荘村韓休墓発掘現場、同研究院涇渭基地（収蔵施設）、陝西省文物保護研究院、咸陽市文物保護センター、陝西歴史博物館、西安曲江藝術博物館、漢陽陵博物館、西安交通大学（27 年 6 月 15 日～18 日）、河北省博物館（27 年 6 月 20 日）。陝西省考古研究院において、壁画保存に関して報告会を開催し、相互の情報交換を行った。

イタリア：ポンペイ遺跡、エルコラーノ遺跡、ナポリ国立考古学博物館他（27 年 9 月 7 日～11 日）

(2) 展示設計会社によるプランの作成

国宝・重要文化財の展示設計に経験のある丹青研究所に依頼して、現在の高松塚古墳壁画の石材及び壁画の保存状態を考慮し、保存環境の要素を第一に、墳墓壁画としての価値を表現しうる展示設計について検討させ、古墳壁画の保存活用に関する研討会での議論に供するための資料を作成した。

(3) ワークショップの開催

美術史学・考古学・文化財保存学等の専門家を招へいし、(2) で作成した展示案についての意見を徴集し、より完成度の高い展示設計資料の作成を図った。

(4) 報告書作成

調査の成果をもとに「古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査事業報告書」を作成し、文化庁に提出した。



陝西省考古研究院壁画修復室：ハニカム板に固定された唐時代の壁画

【実績値】
受託研究報告書「古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査事業報告書」　28 年 3 月

【受託経費】
6,550 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8033

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）((4)－①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部部長　玉田芳英

【スタッフ】
林正憲、廣瀬覚、降幡順子、青木敬(以上、都城発掘調査部主任研究員)、前川歩(遺構研究室研究員)、大谷育恵(考古第一研究室アソシエイトフェロー)、杉山洋（企画調整部長)、石橋茂登（企画調整部飛鳥資料館学芸室長)、若杉智宏(同研究員)、井上直夫（企画調整部写真室再雇用職員）、中村一郎（同主任）、栗山雅夫（同技術職員）、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（同研究員)、中島義晴（文化遺産部景観研究室主任研究員)、高妻洋成(埋文センター保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、同研究員)、杉岡奈穂子(同アソシエイトフェロー)、辻本与志一(株式会社文化財保存・埋文センター客員研究員)

【年度実績概要】
・石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、26 年度に引き続き、目地漆喰の保管兼展示用の台座を作成した。27 年度は、①南壁石－東壁石１間、②北壁石－東壁石３間、③北壁石－西壁石３間の３点について、三次元レーザー計測で形状を記録し、同データを用いて台座を作成した（写真参照)。また台座作成とともに、保管時の漆喰の剥落および粉状化を防ぐため、漆喰表面に樹脂を塗布し仮強化処置を行った。
・石室解体に伴う発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、27 年度より新たに石室解体作業の選択型 3 次元動画制作に着手した。27 年度は動画製作の上で必要となるモデル 2 本（①古墳の構造に関するモデル、②解体前の石室に関するモデル）の作成を行った。
・石室解体に伴う発掘調査時の埋戻し、および仮整備工事の状況に関する図面類、写真の整理・収集を行い、壁画修理後における整備の基本方針検討のための基礎資料を作成した。
・壁画の保存修復（劣化原因）について、デジタルアーカイブスキャニングによる記録画像、分光分析による顔料調査、試験板を用いた紫外線蛍光スキャニングの安全性評価などを実施した。
・27 年 10 月・11 月の高松塚古墳壁画修理施設の一般公開に際し、解説員として研究員（のべ 10 人）を派遣した。
・壁画の劣化が問題化して以降の過去の新聞記事を整理し、資料集として製本した。



台座シリコーン型の形合わせ

【実績値】
①廣瀬覚「高松塚古墳の墳丘調査の意義－今後の調査・整備にむけて－」『第 26 回考古学研究会東海例会資料集』(28 年 2 月)
②犬塚将英・高妻洋成・杉岡奈穂子・福永香・碇智文「テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造」『文化財保存修復学会第 37 回大会研究発表要旨集』pp.332-333(27 年 6 月)
③Junko Furihata、「Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan」『UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings』(27 年 6 月)

【受託経費】
54,510 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8034

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原）	【事業責任者】	都城発掘調査部部長　玉田芳英

【スタッフ】

廣瀬覚、降幡順子、青木敬、林正憲(以上、都城発掘調査部主任研究員)、前川歩（遺構研究室研究員）金宇大（考古第二研究室アソシエイトフェロー)、高妻洋成(埋文センター保存修復科学研究室長)、脇谷草一郎、田村朋美(以上、同研究員)、杉岡奈穂子(同アソシエイトフェロー)、辻本与志一(株式会社文化財保存・埋文センター客員研究員)、中島義晴（文化遺産部主任研究員)、内田和伸（文化遺産部遺跡整備研究室長)、高橋知奈津（同研究員)、石橋茂登（企画調整部飛鳥資料館学芸室長)、若杉智宏(同研究員)、井上直夫(企画調整部写真室再雇用職員)、栗山雅夫(同技術職員)

【年度実績概要】

・キトラ古墳の整備、国営飛鳥歴史公園(キトラ周辺地区)内に建設予定の体験学習館の開館にむけ、墳丘及び周辺地域の立会調査と記録作業を随時に行い、墳丘及び周辺の整備工事完成後に完成写真の撮影を実施した。
・体験学習館の展示内容につき、資料提供と助言を行った。
・報告書未掲載資料の歯牙及び人骨片 87 箱のうち、19 箱分について保存処置を実施し、仮保管ケースを作成した。
・出土品の保管に関して、遺物の定期的な点検作業、環境モニタリング及び安全な保管に関する措置を講じた。
・墳丘整備前の記録として、墳丘部分の三次元レーザー測量を実施した。
・墳丘整備後の記録として、墳丘及び周辺地形の三次元レーザー測量を実施した。
・キトラ古墳天文図について分析を行い、その調査成果を、飛鳥資料館平成 27 年度秋季特別展「キトラ古墳と天の科学」で紹介するとともに、『キトラ古墳天文図星座写真資料』を作成、刊行した。
・発掘調査成果の整理・活用にかかる事業として、発掘調査の三次元動画作成準備を行った。



キトラ古墳墳丘整備後

【実績値】

論文数等５（①～⑤）

①飛鳥資料館『キトラ古墳と天の科学』（平成 27 年 10 月）
②若杉智宏「古代東アジアの天文図」『キトラ古墳と天の科学』飛鳥資料館　平成 27 年 10 月
③若杉智宏「キトラ古墳天文図」『キトラ古墳と天の科学』飛鳥資料館　平成 27 年 10 月
④若杉智宏「キトラ古墳と天文図の描き方」（講演会「キトラ古墳と天の科学」（平成 27 年 10 月 31 日）於・明日香村中央公民館）
⑤『キトラ古墳天文図星座写真資料』（平成 28 年 3 月）

【受託経費】

21,669 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8035

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）((1)－①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　川野邊渉

【スタッフ】
井内千紗、狩野麻里子、川嶋陶子（以上、アソシエイトフェロー)、河野輝美（事務補佐員）

【年度実績概要】
文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するための分科会を計 13 回開催した。文化遺産保護に関する国際協力の活動を広報するため、研究会開催のほか、文化遺産国際協力のＰＲ小冊子等を制作した。さらに、アセアン＋3 文化遺産フォーラム 2015 の開催や他国の支援実施体制に関する調査を実施した。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催
・運営委員会を 2 回開催し、活動方針等を協議したほか、28 年 3 月には活動報告のための総会を開催した。
・企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計 13 回開催した。

Ⅱ．情報収集と情報発信
・研究会「危機の中の文化遺産」、「文化遺産保護の国際動向」を開催した。
・広報活動のため、コンソーシアムパンフレットをリニューアルするとともに、国際協力ＰＲのための小冊子を制作した。また、ウェブサイトについても企画、デザインなどリニューアルを行った。
・ウェブサイト上の文化遺産国際協力事業のデータベースに登録されている情報の精査を行った。

Ⅲ．文化遺産国際フォーラムの開催
・アセアン＋3 文化遺産フォーラム 2015「東南アジア諸国と共に歩むー多様な文化遺産の継承と活用」を開催した（文化庁、国際交流基金アジアセンターと共催）。

Ⅳ．文化遺産国際協力の推進に資する調査
・上記Ⅲで招聘した中国、韓国の専門家を対象に、国際協力の実施状況に関するヒアリング調査を行った。
・韓国を対象に政策や支援体制に関する実地調査を行った。
・欧州各国の文化遺産国際協力の政策や体制に係る基本情報を収集した。
・過去にコンソーシアムが実施した計 25 ヶ国を対象とする国際協力調査を総括し、調査の活用実態等を検証した。
・インターネット上での文化財不法取引に関する情報を収集した。



フォーラムでのタイ文化大臣による基調講演の様子

【実績値】
運営委員会の開催：2 回、総会の開催：1 回、分科会の開催：(企画分科会 4 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、欧州分科会 1 回、アフリカ分科会 1 回、中南米分科会 1 回) 合計 13 回、研究会の開催：2 回、国際フォーラムの開催：1 回

(成果物ドキュメント名) ①報告書『第 17 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 危機の中の文化遺産 報告書』(日本語　28 年 3 月　300 部) ②報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム平成 27 年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』(日本語　28 年 3 月　300 部) ③パンフレット『アセアン+3 文化遺産フォーラム 2015 東南アジア諸国と共に歩むー多様な文化遺産の継承と活用ー実施報告』(日本語　28 年 3 月　200 部) ④パンフレット「文化遺産国際協力コンソーシアム」(日英併記、27 年 12 月　2000 部) ⑤小冊子「文化遺産の国際協力」(日英併記　27 年 12 月　2000 部)

【受託経費】
43,898 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8036
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5 文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	第 39 回世界遺産委員会審議調査研究事業(受託)((1)-①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長 川野邊渉

【スタッフ】二神葉子(企画情報部情報システム研究室長)、境野飛鳥(文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー)、増渕麻里耶(アソシエイトフェロー)、原本知実(客員研究員)

【年度実績概要】

当該事業では文化庁からの委託により、27 年 6 月 28 日から 7 月 8 日までドイツ・ボンで開催された第 39 回世界遺産委員会に関連して次の項目を実施した。

(1) イコモスによる推薦物件に関する勧告内容の分析(27 年 5 月中旬～6 月中旬)

・世界遺産一覧表記載物件の保全状況(議題 7)及び世界遺産一覧表推薦物件の審査(議題 8)に関して、イコモスによる評価と決議案の日本語での要約を作成した。

(2) 世界遺産委員会対処方針作成支援(27 年 4 月上旬～6 月中旬)

・審議文書公開に先立ち、新規推薦予定物件関連の情報を収集・要約した。
・議題 8 について、イコモスの評価の要点やその妥当性、物件自体の特徴に関してコメントを作成した。その際、当該物件や推薦国に関する知識を持つ専門家にも情報提供を依頼した。
・議題 7 の委員会での審議予定物件に関しても、議題 8 と同様にコメントを作成した。

(3) 世界遺産委員会での情報収集と議事概要の作成(27年6月下旬～7 月中旬)

・第 39 回世界遺産委員会に参加し、本会議の全議題で発言国・団体ごとに発言内容を記録した。
・作業指針に関する作業部会に参加、議事を記録した。
・我が国が推薦した「明治日本の産業革命遺産」の審議では、審議終了直後に議事録を文化庁関係者と共有、報道発表資料作成を支援した。
・上記の記録を議事概要として会期終了 1 週間後に提出した。



第 39 回世界遺産委員会　審議の様子

(4) 審議における議論の内容及び決議の分析と提言、報告書作成(27 年 7 月下旬～10 月末)

・議題 7、8 に関して(3)で作成した議事録を要約、(1)で作成した審議文書要約、決議要約とともにまとめた。
・本会議での審議全体についてまとめた。
・我が国が委員国を務めた 24 年以降の世界遺産委員会を概観、今後の世界遺産関連の活動について提言した。

以上を報告書とした。報告書は関係者間での情報共有のため、地方自治体の文化財や世界遺産担当部局にも送付した。

【実績値】

作成報告書数 1 件
『平成 27 年度文化庁委託 第 39 回世界遺産委員会審議調査研究事業』27 年 10 月

【受託経費】

5,280 千円

【受託】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　8037

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業（ミャンマー）（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】

川野邊渉（センター長)、山下好彦（任期付研究員)、佐藤桂（アソシエイトフェロー)、楠京子（アソシエイトフェロー)、増渕麻里耶（アソシエイトフェロー)、山田大樹（アソシエイトフェロー)、北川瑞季（研究補佐員)、橋本広美（研究補佐員)、前川佳文（客員研究員)、小野健吉（奈良文化財研究所副所長)、杉山洋（企画調整部長)、森本晋（国際遺跡研究室長)、影山悦子（アソシエイトフェロー)、佐藤由似（研究補佐員)

【年度実績概要】

ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業

文化庁より委託された本事業では、同国文化省考古・国立博物館局を相手国拠点とし、有形文化遺産の保護に関する専門家交流及び技術移転・人材育成への協力を行った。26 年度に引き続き、歴史的建造物、壁画・漆芸等の工芸、考古学遺跡・遺物の三分野に焦点を当て、現地への専門家派遣及び日本への同国専門家招聘等を通じて、調査や保存修復の手法を技術移転し、専門的人材の育成に協力しようとするものである。27 年度の実施内容は以下の通りである。なお、考古分野は奈良文化財研究所への再委託により実施したほか、建造物研修は公益財団法人文化財建造物保存技術協会の協力を得て実施した。

・27 年 6 月 14 日～23 日：壁画保存専門家 2 名をバガンに派遣し、No.1205 寺院の堂内環境調査、屋根損傷状態調査、壁画の崩落個所応急処置を行った。また、考古局職員 3 名を対象に、壁画の損傷原因に関する討議や壁画修復時の調査記録方法、修復材料の調整方法等に関する実習からなる研修を行った。
・27 年 6 月 29 日～7 月 11 日：建築保存専門家 4 名をマンダレー及びインワに派遣し、考古局職員ほか 11 名を対象に第 4 回木造建造物保存研修を実施した。バガヤ僧院での現場実習では、破損状況や取替材に関する調査のほか、総合的観察記録の演習等を行った。
・27 年 11 月 19 日～26 日：考古学、遺跡整備等の専門家 3 名を派遣し、ピィ考古学フィールドスクール及びシュリクシェトラ遺跡にて遺跡の整備と活用に関するワークショップを開催した。



修復材料調整の実習風景

・27 年 11 月 22 日～12 月 6 日：建築保存専門家 4 名をマンダレーに派遣し、考古局職員ほか 12 名を対象に第 5 回木造建造物保存研修を実施した。マンダレー王宮内墓所の木造層塔 2 基に関する修理計画策定調査を中心に現場実習と研修総括を行った。
・28 年 1 月 7 日～18 日：壁画保存専門家 6 名と金属分析及び計測の専門家各 1 名をバガンに派遣し、No.1205 寺院の壁画に関する調査、実測、応急的保存処置等を行ったほか、考古局職員を対象に顔料分析や漏水調査手法等に関する研修を行った。
・27 年 7 月 28 日～8 月 6 日：上記木造建造物保存研修に参加している考古局職員 3 名および考古局マンダレー支局長の計 4 名を日本に招聘し、文化財建造物保存修理に関する研修を行った。当研究所ほかでの座学のほか、神奈川・山梨・京都・奈良・兵庫・広島の各府県にて修理工事現場を含む実地研修を行った。
・28 年 2 月 14 日～22 日：文化省の考古学専門家 2 名を日本に招聘し、遺跡の整備と活用に関する研修を奈良文化財研究所ほかにて行った。

なお、平成 25 年度から 3 年間の事業成果については、『平成 25-27 年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書』(28 年 3 月）として刊行した。

【実績値】

専門家派遣　5 回、招聘　2 回、研修・ワークショップ　7 回、報告書　1 冊

【受託経費】

15,863 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8038

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業（ネパール）（受託）（(2)－①－ウ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　川野邊渉

【スタッフ】

友田正彦（保存計画研究室長）、山田大樹（アソシエイトフェロー）、佐藤桂（アソシエイトフェロー）、北川瑞季（研究補佐員）、近藤洋（研究補佐員）、古川尚彬（客員研究員）、飯島満（無形文化遺産部長）、久保田裕道（無形民俗文化財研究室長）、石村智（主任研究員）

【年度実績概要】

ネパールにおける文化遺産被災状況調査

文化庁より委託された本事業の目的は、27 年 4 月 25 日に発生した大地震で被災した同国の文化遺産に関し、技術的支援を行うとともに、今後の復興過程において必要とされる情報の蓄積を図り、併せて同国の文化遺産担当職員の専門的対応能力強化にも資することである。

27 年度の実施内容は以下の通りである。なお、被災文化遺産建造物の構造学的調査分析は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、被災歴史的街区の空間利用等に関する調査は東京大学先端科学技術研究センター西村幸夫研究室にそれぞれ再委託して実施した。



被災したカトマンズ王宮の一部

・27 年 9 月 14 日～28 日：建築・都市・構造・無形分野の専門家計 7 名をネパールに派遣し、文化省や UNESCO カトマンズ事務所など歴史遺産の保護に関わる主要な機関との協議を行うとともに、世界遺産の構成資産であるカトマンズ、パタン、バクタプルの旧王宮や、同暫定リストに記載されている郊外の集落であるサンクー、キルティプル、コカナ等を調査し、今後の本格調査のための対象物件・地域や調査手法等を検討した。また、カトマンズ最大の祭礼であるインドラジャトラ祭などの無形文化遺産についても調査した。

・27 年 10 月 31 日～11 月 5 日：建築構造専門家 2 名をネパールに派遣し、現地での材料実験に関する打合せや被災建造物の基礎構造に関する調査等を行った。

・27 年 11 月 21 日～12 月 8 日：建築・構造・都市・無形分野の専門家計 20 名をネパールに派遣し、主にカトマンズ・ダルバール広場及びコカナ集落での調査を実施した。カトマンズでは、建築被災状況調査、構造解析用の 3D 計測や常時微動計測等を実施したほか、緊急的保護対策として、倒壊建物から回収された部材の整理・格納を試行するとともに、記録手法の検討を行い、現地職員へのワークショップ（現地より 12 名が参加）も実施した。一方、コカナでは、地元住民組織と連携しながら、町並みを構成する建物の被災状況、形態変容、構造のほか、無形文化遺産や水質等も含めた多角的調査を実施した。

・27 年 12 月 23 日～28 日：構造専門家 3 名をカトマンズに派遣し、材料実験に関する打合せ等を行った。

・28 年 3 月 7 日～27 日：建築専門家 4 名をカトマンズに派遣し、伝統的建築材料の製作技術、調査対象建物の文化的価値評価のほか、倒壊建物からの回収部材整理の継続作業等を行った。

・28 年 2 月 3 日～9 日：文化･観光･民間航空省考古局長、ハヌマンドカ王宮博物館発展委員会事務局長、UNESCO カトマンズ事務所文化担当官の 3 名を日本に招聘し、「2015 年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー」及び事業打合せ等を行った。当研究所会議室で開催したセミナーには、文化遺産保護専門家や国際協力関係者などが参加し、地震後の状況や復興対応等に関する情報共有と本事業の進捗報告を含む意見交換等を行った。

事業成果については、その概要を収録した、『平成 27 年度文化庁委託文化遺産保護国際貢献事業「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」報告書』（28 年 3 月）を刊行した。

【実績値】

専門家派遣　5 回、招聘　1 回、研究会　1 回、報告書　1 冊

【受託経費】

20,800 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8039

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ日本信託基金事業「バガン建築遺産保存のための技術支援」に係る委託（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】

【年度実績概要】

本事業は、ミャンマーのみならず東南アジアを代表する仏教遺跡群の一つである同国バガン遺跡における保存管理水準の向上と体制強化に資するため、これを担当する文化省考古・国立博物館局（DoA）に対する技術支援を行うことを目的として、26 年より 2 年間にわたり、ユネスコ・バンコク事務所により実施された。具体的には、①遺跡インベントリーの更新、②遺跡保存状態評価手法の確立、③これらを通じた人材育成・技術移転を内容とする。

本研究所の受託内容はこのうち、主に②に関連し、特に建造物の構造的側面に焦点を絞ることとなった。総数 3,000 を超える遺跡の全体について簡便に保存状態を把握するための標準的フォーマットとして、「簡易状態評価シート」を作成するとともに、保存状態に問題があると判定された建造物を対象に行われる次のステップとして、「詳細状態評価ガイドライン」を作成した。後者については、ケーススタディとして、同遺跡群における祠堂建築として標準的な規模・形式を有し、劣化状態においても典型的状況を示している建造物として、ピャーサーシュウェグー（No.1249 Phya-sa-shwe-gu）寺院を対象とする詳細状態評価作業を試行し、その結果をガイドラインに反映させた。


ピャーサーシュウェグー寺院

なお、上記の作業はユネスコ・コンサルタントのフランス・イタリア・イラン・ミャンマーの各国専門家および DoA バガン支局と共同で実施し、当研究所は計画策定、専門家チームの統括、調査結果のとりまとめ等を担当した。主な実施スケジュールは下記の通りである。

・27 年 6 月 10 日～20 日：バガンにおいて、上記寺院の詳細状態評価のための技術的調査を行った。具体的には、組積壁のリバウンドハンマー試験、超音波試験、壁面亀裂の観察・記録、内視鏡による壁体内部構造調査、基礎構造確認のための発掘調査、強度試験用の煉瓦試料採取等を実施した。また、ヤンゴンのミャンマー技術者協会実験室にて、煉瓦試料の強度試験実施に関する協議等を行った。堂内環境調査、屋根損傷状態調査、壁画の崩落個所応急処置を行った。
・27 年 9 月 26 日～10 月 3 日：バガンの同寺院において、補足調査として、壁体の変形計測作業を DoA スタッフへの研修を兼ねて実施した。また、簡易状態評価シート及び同マニュアル、詳細状態評価ガイドラインの各内容について、国際専門家チームメンバーと協議した。
・27 年 12 月 6 日～8 日：ヤンゴン市庁舎講堂にてミャンマー建築家協会主催セミナーで事業内容等に関する講演を行った後、バガン考古博物館にて事業最終ワークショップに参加した。エイ・ミン・チュー文化大臣、DoA 局長ほかへ、事業成果のプレゼンテーションを行った。

【実績値】
専門家派遣　3 回

【受託経費】
11,273ＵＳドル

【受託】
(様式 3)

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8040

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究（受託）((2)－①－ウ)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　友田正彦

【スタッフ】
山下好彦（任期付研究員）

【年度実績概要】

ワールドモニュメント財団より受託した本事業は、26 年より同財団が保存事業を開始したミャンマー・マンダレー市所在のシュエナンドー僧院に関し、その漆工部分の保存修復手法の検討に資することを目的とする。

19 世紀に建造されたこの建物は、ミャンマーの木造建築を代表するとともに、内外装に漆箔やガラスモザイク等の伝統的漆工技法が用いられている点でも貴重な文化遺産である。今回の研究では、この建物に用いられた漆工技法と損傷状態について調査し、修復に向けた基礎資料とすることを目指した。ミャンマー産の伝統的な漆芸材料の使用を前提に、僧院の環境や構造を考慮して現状維持修復とする基本条件のもと、修復処置を検討した。

１．事前調査

修復材料に関する事前調査を日本とマンダレーで行った。日本では修復用材料の選定や製造を行った。漆材料は、産地と採取時季が異なる 6 種を比較し、モンユア産の雨季に採取された生漆を選定した。漆の希釈に用いる溶剤は、7 種類を比較し、希釈性能と現地での入手可能性からペトロレウムエター60-80℃を選択した。膠材料は、ミャンマー産の水牛皮から作った膠は接着力が弱いため、現地でも入手可能な鹿角から膠を製造した。ミャンマーと日本の伝統的漆接着剤 4 種の比較調査結果から膠漆を、膠も比較調査から 20%水溶液に明礬 0.3%を加えて使用することとした。

２．現地での試験的修復作業（27 年 8 月 16 日～9 月 10 日）

建物の内外部から 1 ヵ所ずつ、技法的特徴が顕著で、損傷が著しい部位を試験的修復の対象箇所として選定した。

・修復前記録：対象箇所の修理前写真を撮影後、対象箇所の技法・材料及び損傷状況を調査した。次に、対象箇所と周囲の技法と損傷の特徴的な部分につき、拡大写真を撮影した。
・修復工程：堂内丸柱については、①毛棒によるドライクリーニング、②膠漆含侵による剥落止め、③際錆、④ウェットクリーニング、⑤漆箔の剥落止めと補強、の順に行った。外面小壁については、①クリーニング、②3%膠水溶液による漆箔の強化、③20%膠水溶液による漆箔の剥落止め、④膠漆含侵による漆箔の強化、⑤際錆、の順に行った。


膠漆による剥落止め

・追加実験：漆箔が剥落して木地が露出した木材に対し、溶剤で希釈したミャンマー産漆を 3 回塗布して木地固めを行った。処理した材は、堂内外の 2 ヵ所にて 1 年間の経過観察を行うこととした。

【実績値】
専門家派遣　1 回

【受託経費】
1,248 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8041

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 27 年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託)((2)－①－ウ)		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　高妻洋成

【スタッフ】
脇谷草一郎、田村朋美（以上、保存修復科学研究室研究員)、杉山洋（企画調整部長)、森本晋（企画調整部国際遺跡研究室長)、今井晃樹（都城発掘調査部主任研究員)、和田一之輔（都城発掘調査部研究員)、影山悦子（企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー)、佐藤由似（企画調整部国際遺跡研究室研究補佐員)、杉山淳司（京都大学生存圏研究所教授)、Thi Ngoc Bich（ベトナム林業大学教授)、Le Xuan Phuong（ベトナム林業大学講師)、Bui Minh Tri（ベトナム都城研究センター所長)、Nguyen Van Anh（ベトナム都城研究センター研究員)

【年度実績概要】

（１）平成 27 年 9 月 23 日～30 日の期間、ベトナム林業大学 Le Xuan Phuong 講師および Thi Ngoc Bich 教授とともにカンボジア及びラオスを訪問した。
　カンボジア・アンコールホテルにおいてワークショップを開催し、木製文化財の保存修復に関して研究発表と意見交換を行った。また、カンボジアで出土しアンコールワット周濠において水中保管されている出土丸木舟の保管状況を視察した。一方、ラオス国立博物館においては、水浸出土木製遺物の保存に関する国際連携を提唱するためのワークショップを行った。



カンボジアにおけるワークショップ

（２）平成 28 年 1 月 21 日に京都大学生存圏研究所において「Conservation of Archaeological Waterlogged wood in Southeast Asia（東南アジアにおける出土木製遺物の保存)」と題する研究会を実施し、海外からはベトナムより 2 名、インドネシアより 2 名、カンボジアより 1 名およびラオスより 1 名を招聘した。
　高妻が基調報告を行った後、各国より出土木製遺物の保存の現状と課題について報告を行った。総合討議では具体的な保存の問題に関する協議を行うとともに、今後の連携について意見を交換した。



京都大学生存圏研究所における研究会

【実績値】
研究集会等開催件数：3 件
Seminar on Conservation of Archaeological Waterlogged Wood（2015.9.25、カンボジア・アンコールホテル、参加者 20 名）
Seminar on Conservation of Archaeological Waterlogged Wood（2015.9.29、ラオス国立博物館、参加者 50 名）
Conference of Conservation of Archaeological Waterlogged Wood in Southeast Asia（2016.1.21、京大生存圏研究所、参加者 50 名）
発表件数：3 件
①Y. Kohdzuma, “Conservation of Archaeological Waterlogged Wooden Relics in Japan”, Seminar on Conservation of Waterlogged Wood, Cambodia, 2015.9.25
②Y. Kohdzuma, “Conservation of Archaeological Waterlogged Wooden Relics in Japan”, Seminar on Conservation of Waterlogged Wood, Laos, 2015.9.29
③Y. Kohdzuma, “Networking for International Cooperation on Conservation of Archaeological Wooden Relics”, Conference of Conservation of Archaeological Waterlogged Wood in Southeast Asia, Kyoto, 2016.1.21

【受託経費】
5,599 千円

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 8042
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	ユネスコ日本文化遺産保存信託基金事業「シルクロード世界遺産登録に向けた支援」に係る委託（受託）（（２）－①－エ・オ）		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
久米正吾（アソシエイトフェロー）、山田大樹（アソシエイトフェロー）、山藤正敏（アソシエイトフェロー）、間舎裕生（慶應義塾大学非常勤講師・客員研究員）

【年度実績概要】
当事業は、ユネスコ・日本文化遺産保存信託基金の受託を受け、中央アジア 5 ヵ国が目指すシルクロード関連遺産の世界遺産一括登録への支援を目的とするものである。27 年度は以下の事業を実施した。

（１）ワークショップの実施
27 年 10 月 2 日から 10 日にかけて考古･建築遺産を対象とした文化遺産ドキュメンテーション技術の向上と遺産のマネジメントプラン作成に向けたワークショップをキルギス南部のウズゲン市で開催した。ワークショップでの実施項目は以下の通りである。

・GNSS（衛星測位システム）受信機と GIS（地理情報システム）ソフトウェアを用いた遺跡分布図の作成手法
・小型 UAV（無人航空機）による航空写真と 3 次元モデル生成ソフトウェアを用いた考古遺跡の地形測量や建築遺産の高精細 3 次元モデル作成
・文化遺産マネジメントプラン作成の模擬演習


小型 UAV 実習の様子

（２）国際会議への参加
11 月 23 日から 27 日にかけて、カザフスタン、アルマトイで開催されたユネスコ主催による「第 4 回シルクロード世界遺産登録調整会議」に参加し、本事業の概要及びこれまでの成果について公表した。また、キルギス、ウズベキスタン、カザフスタンを主たる経路とする新たなシルクロード世界遺産登録構想（「フェルガナ―シルダリヤ回廊」）についての提案を行った。

【実績値】
報告書 1 件：
①『UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project “Support for documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage Serial and Transnational Nomination in Central Asia(Phase II)” UNESCO Workshop on Archaeological Survey in Uzgen, the Kyrgyz Republic, 2015 (2-10 October)』2015 年 12 月
発表 1 件：
②Kazuya YAMAUCHI「Review of the results of the UNESCO/Japanese FIT project “Support of documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage serial and transnational nomination in Central Asia”, 2011-2014」『Fourth Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads』2015 年 11 月
③ワークショップ参加人数：計 7 名

【受託経費】
2,635 千円

【受託】　施設名　東京文化財研究所　処理番号　8043

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務（受託）((3)－①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
川口雄嗣（アソシエイトフェロー)、田島さか恵（アソシエイトフェロー)、栗原浩邦（事務補佐員)、松田泰典（大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト JICA 専門家テクニカルチーフアドバイザー・客員研究員）

【年度実績概要】

当事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、主としてエジプト国大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）における人材育成に係る以下の業務を行った。(1)計画策定支援、(2)研修支援、(3)専門家派遣支援

(1)専門家全体会議を 1 回（28 年 2 月 8 日）開催し、本プロジェクトが実施した研修の計画全体について意見交換を行った。

(2)本格化した保存修復分野の研修のほか、保存科学分野や予防保存分野などの部門横断的な研修を引き続き支援するため、必要な教材・資機材についての助言、資料作成支援、翻訳、語彙集の作成、及び本邦研修について研修協力機関とのアレンジを含めた全般的な調整を行った。※（）内は開催時期と参加人数

＜現地研修（計 14 回）＞
「第 2 回パピルス研修」(27 年 4 月、16 名)
「染織品（有機物）研修」(27 年 5 月、11 名)
「第 3 回木材研修」(27 年 5～6 月、14 名)
「第 2 回保存修復材料学研修」(27 年 5～6 月、11 名)
「第 4 回彩色文化財研修」(27 年 8 月、13 名)
「第 2 回文化財の診断技術・分析法研修」(27 年 8 月、11 名)
「無機物Ⅰ（金属）研修」(27 年 8 月、10 名)
「無機物Ⅲ（金属）研修」(27 年 9 月、10 名)
「第 4 回木材研修」(27 年 10 月、14 名)
「第 5 回マネージメント計画策定研修」（平成 27 年 10 月、4 名)
「無機物Ⅰ、Ⅱ（非金属）研修」(27 年 11 月、8 名)
「第 5 回保存科学概論」(27 年 11 月、12 名)
「第 2 回石材研修」(28 年 1 月、10 名)
「第 4 回学術研究シンポジウム」(28 年 2 月、約 300 名)


無機物Ⅰ（金属）研修の様子

＜本邦研修（計 3 回）＞
「第 1 回石材研修」(27 年 5 月、6 名)
「第 4 回保存修復材料としての和紙研修」(27 年 5～6 月、2 名)
「第 5 回保存修復材料としての和紙研修」(27 年 6 月、2 名)

(3)上記研修の講師としての JICA 派遣専門家の推薦と研修支援、研修協力機関との調整を行った。また、現地に派遣されている JICA 長期及び短期専門家の活動に対し継続的な支援を行った。

以上のほか、GEM-CC の運営体制や研修資機材の調達と管理についての助言等を行った。

【実績値】
報告書　2 件
①『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務実施報告書（上半期分)』27 年 10 月 16 日
②『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）業務完了報告書』28 年 3 月 18 日

【受託経費】
26,486 千円

【受託】　　施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8044
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	５　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修（エジプト国別研修)」コースに係る委託契約（受託）((3)－①)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
川口雄嗣（アソシエイトフェロー)、田島さか恵（アソシエイトフェロー)、栗原浩邦（事務補佐員）

【年度実績概要】
当事業は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託を受け、「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト」における本邦研修「保存修復材料としての和紙研修（第 4 期)」を実施したものである。本研修は、全 4 回実施した本邦研修のうちの第 4 期研修であり、2 名の GEM-CC スタッフを対象に実施した。

①研修期間
27 年 6 月 8 日～17 日

②研修講師
加藤雅人（当研究所文化遺産国際協力センター国際情報研究室長）
楠　京子（当研究所文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）
山田祐子（当研究所文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー）

③研修内容
GEM-CC の有機物ラボにて作製したパピルスの裏打ちサンプルを用いた各種物性試験を行った。最終日にはデータ整理・分析・解析を行うとともに、研修総括を実施した。また、JICA 担当者や関係者も交えて研修評価会を行い、修了証授与式を執り行った。


糊漉し作業


物性試験（剥離）

当事業は第 1 期～第 4 期までの一連の研修シリーズとして、GEM-CC の有機物ラボの中核となる保存修復家を育成する枠組みとして開始した。第 1 期では、掛軸の修理事例紹介や修理装潢技術に用いられる修復材料についての知見を得、第 2 期、第 3 期では第 1 期より選抜された 2 名の研修員が実際に修復工房にて裏打ち等の装潢技術の技術移転及び上達を図った。その後、一連の研修の総括として、第 4 期研修ではこれまで学んできた日本の装潢技術を、パピルスをはじめとしたエジプトの遺物の保存修復に応用するため、その事前準備となる様々な物性試験方法やデータの分析・解析方法について指導した。これらの試験を行うことにより、日本とは環境の異なるエジプトにおいて、実際にパピルス遺物の保存修復に日本の装潢技術の応用を図る上で必要となるであろう条件を検討することができ、GEM-CC における水平展開や、将来的に彼ら自身が実施することとなるアクションプランのデザインを考える上でも有益となった。

【実績値】
報告書　1 件
業務完了報告書　27 年 8 月 19 日

【受託経費】
666 千円

【受託】　施設名　アジア太平洋無形文化遺産研究センター　処理番号　8045
(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	5　文化財保護に関する国際協力の推進		
【事業名称】	平成 27 年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム(受託)(4)		
【担当部課】	―	【事業責任者】	副所長　大貫美佐子

【スタッフ】
児玉茂昭(アソシエイトフェロー)、野嶋洋子(アソシエイトフェロー)、サンドロヴィッチ・ティムール(前アソシエイトフェロー)、牧野美保(前アソシエイトフェロー)、薗田郁(アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
(1) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究の情報収集
①アジア太平洋地域の 17 ヶ国において、国単位での体系的文献サーヴェイを実施した。現地研究者・研究機関に協力依頼することにより、現地語文献についても収集が可能となった。
②上記①で収集した情報を、研究データベース「Research Database on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region」に追加し、情報量を充実させた。
③国際会議への出席や現地調査を通じ、無形文化遺産保護に関する国際的調査研究の動向についての情報収集とネットワーク構築を行った。
a. 国際会議
・中国 C2 センター(CRIHAP)第 4 回運営理事会(中国・北京、曲阜　27 年 3 月 31 日～4 月 1 日)
・第 3 回無形文化遺産分野 C2 センター調整会議(中国・貴陽　27 年 7 月 6～8 日)
・韓国 C2 センター(ICHCAP)運営理事会(韓国・ソウル　27 年 10 月 27 日)
・イコモス総合国際会議(福岡・東京　27 年 10 月 24 日～11 月 3 日)
・Regional Symposium for the Development of Post-Graduate Degrees Focusing on Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (バンコク　27 年 11 月 2～3 日)
・3rd Singapore Heritage Science Conference (シンガポール　28 年 1 月 25～26 日)
・イコモスコロキアム(パリ　28 年 3 月 4 日)
b. 現地調査
・ミャンマー・ラオス・タイ(27 年 10 月 31 日～11 月 10 日)
・ベトナム・カンボジア(28 年 2 月 15～25 日)


マッピング事業国際専門家会合


ミャンマーにおける法制度の実態調査

(2) 国際専門家会合の開催
①マッピング事業国際専門家会合(ビシュケク　27 年 12 月 8～9 日)：上記(1)①のサーヴェイデータを基に無形文化遺産保護の方法論・実践について議論するため、キルギスタンで国際専門家会合を開催した。
②「第四回 IRCI 運営理事会」(アゴーラリージェンシー堺　27 年 9 月 25 日)：26 年度事業報告、次期中期計画、28 年度事業計画について審議の上承認された。
(3) 研修の開催
「IRCI 2nd International Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region」(富山　27 年 12 月 17～19 日)：大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究事業の一環として、九州大学法学研究院協力のもと、ラオス・ミャンマー・ベトナム・カンボジアより参加者を招いて研究ワークショップを開催し、各国法制度の現状と課題について議論を深めた。
(4) IRCI ウェブサイト
26 年度に引き続き定期的更新を行い、これまでの 8 言語(日本語・英語・タイ語・ベトナム語・タミル語・シンハラ語・クメール語・ラオ語)での情報公開に加え、新たにミャンマー語・ヒンディー語・ウルドゥ語を追加した。

【実績値】
海外調査回数 2 回　　国際会議出席回数 7 回
国際会議開催回数 3 回(海外 1 回(ビシュケク)、国内 2 回(理事会、ワークショップ))
ウェブサイトアクセス件数 7,504 件(27 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日)
データベース登録件数 1,267 件、閲覧件数 2,288 件(27 年 4 月 1 日～28 年 3 月 31 日)
刊行物「Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)」(28 年 3 月)

【受託経費】
51,455 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8046
（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査（受託）((4)－①)		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
箱崎和久・神野 恵・馬場 基・山本 崇・林 正憲・石田由紀子・丹羽崇史・鈴木智大・芝 康次郎・桑田訓也・海野 聡・中川二美・大谷育恵・大橋正浩・村山聡子・坪井久子（以上、都城発掘調査部）、林 良彦・番 光（以上、文化遺産部）、小池伸彦・脇谷草一郎・村田泰輔（以上、埋蔵文化財センター）、窪寺 茂（客員研究員　建築装飾技術史研究所長）、津田保行（以上、研究支援推進部）

【年度実績概要】

国土交通省による第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討の 6 年目。奈良時代前期（Ⅰ－2 期）の第一次大極殿院を構成する、南門、東楼・西楼、築地回廊の各建物、及び大極殿院の地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。所内復原検討会は、復原建物の金具の類例収集を中心に、計 3 回開催した。これらの検討の内容を収録した『第一次大極殿院復原検討会記録 13』（内部資料）を刊行した。また、これまでの検討内容をまとめ、報告書を刊行するための準備を進めた。


第 62 回検討会
（27 年 6 月 30 日）

諸施設の検討
・かねてより大極殿院中軸線の東西対称位置に井戸が存在した可能性が指摘されていたため、礫敷広場内の発掘調査を都城発掘調査部がおこなった。遺構の検討は現地でおこない、奈良時代前半（Ⅰ－2 期）には井戸が存在しない可能性が高いとの結論を得た（第 63 回検討会）。

金具の検討
・全国の発掘調査報告書から、出土建築金具の事例を収集するとともに、奈文研所蔵の出土金具について成分分析をおこない、金具の仕様等について検討した（第 62,64 回検討会）。
・報告書では情報が不十分な事例について、遺物を実見し、実測および写真撮影をおこなった（兵庫県豊岡市）。

木部の検討
・現存建築や絵画資料、出土遺物の検討から、復原建物の扉および窓の仕様を決定した（内部検討）。
・東西楼の類例として、出雲大社観祭楼及び廻廊の現地調査をおこない、通柱と腰組の納まり等について、復原原案の妥当性を確認した（島根県出雲市）。

報告書の作成
・前年度までの検討の内容を報告書として刊行すべく、原稿執筆および各種資料の整理や編集作業を進めた。

【実績値】
・第一次大極殿院復原検討会：3 回（第 62～64 回）
・類例調査：2 回（国内 2 回）
・論文等数：2 件（①、②）
①中川二美「鬼瓦の分布からみた平城宮の造営…―第一次大極殿院の復原研究 20―」『奈良文化財研究所紀要 2016』奈文研（28 年 6 月予定）
②村山聡子「古代建築の柱間装置の仕様…―第一次大極殿院の復原研究 21―」同上
・報告書等数：1 件（③）
③『第一次大極殿院復原検討会記録 13』（28 年 3 月）（内部資料）

【受託経費】
35,398 千円

【受託】
（様式 3）

施設名　奈良文化財研究所　　処理番号　8047

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目	６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信		
【事業名称】	平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査（平城宮第一次大極殿院西面回廊、平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路・三条条間北小路の発掘調査）（受託）（(4)－①）		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】
神野恵・今井晃樹・林正憲（以上、都城発掘調査部主任研究員）、桑田訓也（史料研究室研究員）、鈴木智大（遺構研究室研究員）、大橋正浩、浦蓉子（以上、アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

＜平城宮第一次大極殿院西面回廊の発掘調査＞

・調査の経緯
　平城宮第一次大極殿院回廊整備に伴う事前調査。
・調査期間
　27 年 12 月 14 日～28 年 2 月 2 日
・調査面積
　225 ㎡（東西 17m×南北 15m）
・主な検出遺構
　第一次大極殿院内庭部礫敷、一本柱塀など

・調査所見
　従前の調査による、第一次大極殿院内庭部の舗装の様相や、区画施設の位置・規模等を確認・追認し、整備に資する情報を得ることができた。



朱雀大路西側溝検出状況

＜平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路・三条条間北小路の発掘調査＞

・調査の経緯
　国土交通省による朱雀大路周辺整備に伴う事前調査。
・調査期間
　27 年 12 月 16 日～28 年 3 月 31 日
・調査面積
　796 ㎡（南区 440 ㎡（東西 20m×南北 20m及び東西 8m×南北 5mの拡張区）、北区 356 ㎡（東西 20m×南北 17.8m））

・主な検出遺構
　朱雀大路西側溝、三条条間北小路南北側溝、右京三条一坊一坪坪内道路など

・主な出土遺物
　土器類、瓦類、銭貨（和同開珎・万年通宝）、土馬、木簡
・調査所見
　朱雀大路西側溝を合計 40m分確認した。これにより、朱雀大路の側溝心々距離がおよそ 74mであることを確認した。また、瓦の出土状況等から右京三条一坊一坪には遮蔽施設がなく、坪内東西道路が設けられていたことを明らかにした。これは朱雀大路を挟んだ左京側と東西対称の構造であり、朱雀門前には東西 260m南北 140mに及ぶ広場的機能を持ち得る空間が広がっていたことを明らかにした。

【実績値】
論文等数：2 件
「第一次大極殿院西面回廊の調査－平城第 561 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』（28 年 6 月予定）
「平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路・三条条間北小路の調査－平城第 552 次」『奈良文化財研究所紀要 2016』（28 年 6 月予定）

（参考値）
出土遺物：瓦片 194 箱（うち軒丸瓦 20 点、軒平瓦 10 点）、土器片 21 箱、銭貨 5 点、金属製品 3 点、木製品 27 箱（人形・加工棒等）、木簡 52 点以上、臼玉 30 点、子持勾玉 1 点
記録作成数：実測図 45 枚（A2 判）、遺構写真 108 枚（4×5）、デジタル写真約 1700 枚

【受託経費】
37,561 千円

【受託】
（様式 3）

施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8048

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討（受託）((１）－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】佐藤嘉則（研究員)、犬塚将英（主任研究員)、古田嶋智子（客員研究員)、藤井義久（京都大学教授・客員研究員)、北原博幸（客員研究員)、原田正彦（(公財）日光社寺文化財保存会)、福岡憲（(公財）文化財建造物保存技術協会)、小野寺裕子、(研究補佐員)、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長)

【年度実績概要】

歴史的木造建築物の被覆燻蒸処理は、一度にほぼ確実に害虫を駆除できる反面、安全対策上の制約が多い。また、大規模な処理に対しては、近い将来に対応できる業者・技術者がいなくなる恐れがあること、予防工事が別途必要になること、日光のような冷涼な気候では実施期間が夏の短い期間に限定されるなどの課題も多くある。さらに日光には甲虫駆除対策の必要な建築物が他にも多数あることからも、他の生物劣化（シロアリ食害や腐朽）も含めて、包括的かつ長期的に繰り返し実施できる殺虫方法で、さらに有効で安全な手法で、経済的にも妥当な方法の確立が求められている。

本共同研究は、これらの事情を背景として、被覆燻蒸の代替策として、「湿度制御下での温風処理（以下、温風処理)」に着目し、その効果と日光の木造建築物への適用可能性について調査や検証実験を通して評価しようとするものである。

27 年度は、主に温風処理のためのプロトタイプとなる装置の制作と材料への影響評価実験を実施した。プロトタイプの装置製作は客員研究員である藤井義久氏の研究室（京都大学）において進めた。プロトタイプの装置では、気密性・断熱性を確保し、調湿温風を発生・循環させる機器が付属したチャンバーの制作と内部温湿度の制御を行うプログラムの制作を行った。さらに制作した装置を用いて、殺虫に必要な温度条件と材料に影響を及ぼさない湿度の同時制御が可能かどうか実測試験を実施した。その結果、昇温、昇湿については、ほぼプログラム通りに制御することができたが、降温については、制御が困難であった。そこで、外気を効率的に取り入れる操作を加えたところ、降温の制御が可能となり、殺虫に必要な温度を一定時間維持しながら、木材の含水率を変化させないような湿度を維持するプロトタイプの装置が完成した。現在、プロトタイプの装置を使用し、温風処理が漆や顔料塗膜に与える影響についてさらに解析を進めている。

基礎試験に加え、プロジェクトメンバー内での情報共有や今後の研究計画を協議することを目的とした会議を、27 年 6 月、8 月、11 月、28 年 1 月の合計４回実施した。



大型装置による実験（27 年 6 月）



日光における建物の調査（27 年 8 月）

【実績値】
・国内研究打ち合わせ　4 回（27 年 6 月、8 月、11 月、28 年 1 月）

【受託経費】
16,200 千円　（ただし、26 年 4 月 1 日から 29 年 3 月 31 日までの 3 ヵ年の経費とする）

【受託】
（様式 3）

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8049

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	文化財展示収蔵施設等の ATP 調査における留意点の検討（受託）（（１）－①）		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　岡田健

【スタッフ】
佐藤嘉則（研究員）、小野寺裕子（研究補佐員）、木川りか（九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長）

【年度実績概要】

微生物の清浄度の迅速検査方法として近年、食品工場などで広く用いられるようになった ATP 測定法を、文化財分野でも展示収蔵環境等での清浄度判定などに利用する研究が進められている。本受託研究では、公益財団法人文化財虫菌害研究所からの依頼を受け、展示収蔵環境等での ATP 測定法による測定時の留意点などについて基礎的な検討を行うことを目的とした。基礎的な検討としては、文化財展示収蔵施設等での清浄度判定やカビの検出を簡易迅速に行うために問題となる事項を整理して、実際の使用に際しての注意点などを列挙した。以下に具体的な成果を記載する。

(1) あるブロンズ製の作品の表面は、培養法による付着菌測定では菌集落が確認されないが、ATP 量が高く出る現象が認められていた。この点について、ブロンズを含む各種の金属テストプレートを用いた試験によってその原因の追究を行い、ATP 測定時の注意点としてまとめた。
(2) 試料採取の際の水分量によって、継時的に ATP 量が増大することが懸念されたが、その点についても検証実験で確認し、実際の調査の際には、試料採取時の水分量に留意する点についても考慮する必要があることを記載した。
(3) ATP 測定に用いる綿棒の初期 ATP 量の相違を主要な試料採取用綿棒の製品ごとに評価した。中には、滅菌済みでも初期 ATP 量が高いものもあり、本調査に不向きの製品も見出すことができた。
(4) ATP 量と ATP と AMP 量の両者を測定できる２種類の製品について、清浄度調査に向いているもの、あるいはカビ等の微生物の生死判定に向いているもの、など実用に向けた情報の整理を行った。



文化財展示収蔵施設での ATP 測定

これらの基礎的な研究成果と合わせて、実際にある文化財展示収蔵施設にて現地調査を行い、現場での ATP 測定法の実用可能性について検討を行い、その評価を行った。以上の成果を報告書にまとめ、公益財団法人文化財虫菌害研究所と共有した。本成果については、28 年度学術論文にまとめ、広く公開することを目指している。

【実績値】
・現地調査　1 回（27 年 4 月）
・報告書　1 件：受託研究報告書「文化財展示収蔵施設等の ATP 調査における留意点の検討」28 年 3 月

【受託経費】
621 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8050

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	国宝　平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務（受託）((１）－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	分析科学研究室長　早川泰弘

【スタッフ】

早川典子（主任研究員)、山下好彦（文化遺産国際協力センター任期付研究員)、城野誠治（企画情報部専門職員）

【年度実績概要】

本受託事業は京都府からの委託により実施したものである（受託期間：27 年 9 月 1 日～28 年 3 月 31 日)。

国宝平等院鳳凰堂須弥壇について、漆塗膜の剥落や木地の劣化を防止するとともに適切な保存処置方法及び使用材料を選定することを目的とし、破損状況等を詳細に調査したうえで、一部破損の著しい部位において保存処置を実施し、その結果に基づいて須弥壇全体の修理計画案を策定した。

平等院鳳凰堂須弥壇は漆塗で螺鈿・ガラス・金工品等による装飾が施されているが、螺鈿とガラスのほとんどは既に欠失し、須弥壇高欄の朱漆塗膜と須弥壇基部の金平塵が蒔かれた塗膜は劣化と剥離が著しく進行している。

須弥壇の構造や損傷の特殊性から、須弥壇全体に関する保存処置方法及び材料を選定するためには、須弥壇の一部について実際に処置作業を行ってみる必要があり、須弥壇南階段西側の須弥壇と高欄の一部について、保存処置を実施した。まず、対象箇所の高精細画像撮影を実施し、その画像上に損傷状態を詳細に記録し、現時点での損傷マップを作製した。損傷状態に応じた処置方法及び材料に関する検討を行った上で、作業箇所を決定し、処置作業を実施した。使用した材料は、伝統的な漆や膠材料等だけに限定し、合成樹脂等の人工材料を使うことなく作業を完了した。

この保存処置作業の結果からは、須弥壇全体の保存処置についても漆や膠等の伝統的材料を中心としたもので実施可能であると判断でき、須弥壇全体の修理計画案を策定した。

【実績値】

受託調査報告書　28 年 3 月

【受託経費】

592 千円

【受託】
(様式 3)

施設名　東京文化財研究所　　処理番号　8051

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理および調査研究（受託）((１）－①)		
【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	主任研究員　森井順之

【スタッフ】
犬塚将英（主任研究員)、早川典子（主任研究員)、早川泰弘（分析科学研究室長)、藤澤明（帝京大学講師・客員研究員)

【年度実績概要】
高徳院国宝銅造阿弥陀如来坐像（鎌倉市）において、クリーニング及び各種調査事業を宗教法人高徳院より受託した。主な事業項目は
・クリーニング及び損傷状態調査
・金属状態調査
・常時微動測定調査
・気象環境調査
・免震装置調査
・記録写真撮影
からなり、閑散期である 28 年 1 月 13 日から 3 月 10 日までの日程で実施した。

作業の実績
(1) クリーニング及び損傷状態調査
28 年 1 月 23 日～2 月 9 日の 2 週間で、尊像表面および胎内の損傷状態や埋め金・鋳土などの残存状況を調査した。その後、28 年 2 月 10 日～2 月 24 日で乾式および高圧洗浄によるクリーニングを行うとともに、高徳院職員が今後行うメンテナンス項目に関して指導助言を行った。
(2) 金属状態調査
28 年 1 月 24 日～2 月 9 日の 2 週間で、表面にある様々な錆びについて、デジタル顕微鏡、可搬型蛍光 X 線分析装置、可搬型 X 線回折分析装置を用いた表面状態、構成元素、結晶構造について把握を行った。
(3) 常時微動測定調査・免震装置調査
28 年 2 月 22 日～24 日で、尊像の構造安定性を確認するために必要な情報のひとつである固有周期を調べるため、常時微動測定調査を行った。また、尊像は昭和 30 年代に免震装置が取り付けられているが、主要な構成要素であるステンレス板の状態確認をあわせて実施した。
(4) 気象環境調査
保存修理期間中足場上に気象ステーションを設置し、温湿度・気圧・風向風速などの調査を行った。風向風速の結果から典型的な海山循環のサイクルが確認でき、海塩粒子など尊像表面の錆に影響する物質が尊像まで到着しやすいことが確認できた。
(5) 記録写真撮影
尊像の保存修理前後についてわかりやすいデータとして、詳細な写真撮影を行った。
(6) 報告書作成
調査の成果をもとに受託研究報告書を作成し、宗教法人高徳院に提出した。


修理前写真撮影

【実績値】
受託研究報告書　28 年 3 月

【受託経費】
27,241 千円

【受託】　　施設名 東京文化財研究所　　処理番号 8052

(様式 3)

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究事業（受託）((1)- ②)		
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　川野邊渉

【スタッフ】
加藤雅人（国際情報研究室長)，江村知子（主任研究員)，境野飛鳥（アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】
本事業では、文化庁の委託により、2 ヵ年の予定で修理技術者等の現況調査を行い、今後の修理技術人材等の育成を、適切かつ効率的に行うための方針や方法等を検討するための基礎資料となる調査を行った。
前年度行われた国・都道府県・市区町村を対象とした調査結果の一部である修理業者等一覧を元に、事業者と修理技術者それぞれに関して、修理技術者の雇用状況などと、修理技術者の履歴を中心にアンケート調査を実施し、その傾向を分析した。

(1) 調査（アンケート）内容の決定
文化庁の委託内容に基づいて、調査項目の検討をし、アンケートを作成した。

(2) インターネットを使用したアンケート
匿名性を確保することでアンケートの収集率を向上させることを目的に、インターネットホームページでのアンケートを作成し、実施した。

(3) アンケート結果のとりめとめ
アンケートを回収して集計及び傾向の分析を行った。

【実績値】
報告書　1 冊
「美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究事業報告書」(28 年 3 月)

【受託経費】
2,944 千円

【受託】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　8053

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	長門鋳銭所出土木簡の保存処理を経ての総合的研究（受託）(1)－②		
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【事業責任者】	都城発掘調査部副部長　渡辺晃宏

【スタッフ】

渡辺晃宏（都城発掘調査部副部長）、馬場基（都城発掘調査部主任研究員）、桑田訓也・山本祥隆（都城発掘調査部史料研究室研究員）、高妻洋成（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員）、星野安治（埋蔵文化財センター年代学研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室主任）

【年度実績概要】

山口県下関市に所在する長門鋳銭所跡から平成 22 年に出土した木簡数百点（推定）のうち 50 点について、科学的な保存処理を実施した上で釈文を確定し、その歴史的な意義を明らかにするための事業である。

調査は概ね以下の手順で行った。

①保存処理前の状態（水漬け状態）について、肉眼による文字の釈読および木の形状や加工の観察などを行い、それらを踏まえた調書（記帳）を作成。
②同上について、可視光線（カラー）、赤外線の 2 種類の写真をデジタルカメラで撮影。データは、奈文研と下関市教育委員会の双方に保管している。
③同上について、釈文の検討を最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、釈文案を作成。
④同上について、埋蔵文化財センター年代学研究室において、顕微鏡観察による樹種の絞り込み及び同定を実施。50 点中 13 点については、委託主体と相談の上で切片を採取しプレパラートを作成した。
⑤①～④の終了後、埋蔵文化財センター保存修復科学研究室において、科学的な保存処理を実施。保存処理方法は、木簡の状況に応じて高級アルコール法と真空凍結乾燥法の適切な方を選択した。
⑥保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施。
⑦同上について、③と同じ要領で釈文を再検討し、最終的に釈文を確定。



天平二年銘木簡

以上の調査の結果、天平二年（730）の紀年銘をもつ文書木簡、人名や日付が記された付札など、銭貨鋳造の現場管理・運営の様相を彷彿とさせる豊かな内容が読み取れ、全国有数の古代官衙遺跡出土木簡群であることを明確にできた。また木簡の樹種はスギの割合が高いことなども判明した。長門鋳銭所跡出土の個々の木簡の釈読を確定してその歴史的価値を明らかにする一方、貴重な資料を確実に後世に残すための最善の科学的保存処理を実施することができた。

具体的な調査成果については、委託主体である下関市教育委員会に業務完了報告書の形で報告した。成果の公表については、平成 28 年秋開館予定の下関市新博物館（仮称）の展示に反映される予定である。

【実績値】

保存処理 50 点
記録作成 146 点（可視光線写真 50 点、赤外線写真 50 点、記帳 46 点）

【受託経費】

2,544 千円

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 8054

（様式 3）

業務実績書(受託事業)

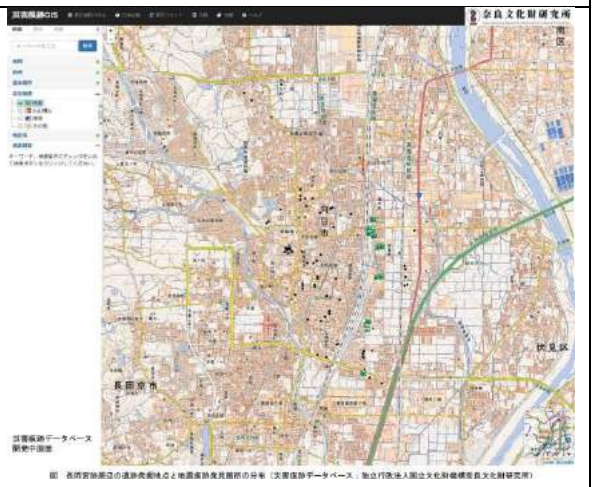
中期計画の項目	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
【事業名称】	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（受託）（(1)－②）		
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　難波洋三

【スタッフ】

津田保行(研究支援推進部連携推進課長)、小池伸彦(遺跡・調査技術研究室長)、森本　晋(企画調整部国際遺跡研究室長)、渡辺晃宏(都城発掘調査部副部長)、金田明大(埋蔵文化財センター主任研究員)、山崎　健(環境考古学研究室研究員)、脇谷草一郎(保存修復科学究室研究員)、星野安治(年代学研究室研究員)、村田泰輔(遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー)、高田祐一(企画調整部文化財情報研究室研究員)

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」に基づき、「考古資料および文献資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開」という研究課題を設定して、26 年度からの 5 ヵ年計画で進めている。これは、全国の大学や関係機関からなる「地震・火山噴火予知研究協議会」からの依頼による受託事業である。この予知協議会に設置された「史料・考古部会」では、地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の資・史料を収集・調査・分析・活用し、低頻度で発生する大規模な地震や火山噴火現象等の理解・解明に資することがその役割となっている。そのなかで当研究所は、主として災害痕跡の考古・地質学的データの収集とデータベース構築・公開を担っており、本年度の主たる実績は以下の通りである。



開発中の災害痕跡ＧＩＳデータベース画面
(長岡京跡(京都府)を中心とした災害痕跡)

・発掘調査報告書の該当データ抽出作業、資料収集・整理

前年度に続いて新潟県の約 11,700 件余の発掘地点(4,200 遺跡)に加え、北海道・沖縄を除く 44 都道府県についても 402 件の痕跡記録を確認した。このうち約 800 件の地震、火山噴火等に係る災害痕跡を抽出した。また、寒川旭氏（産業総合研究所嘱託）が収集した全国の地震痕跡データの整理を継続している。

・データデータ入力

前年度に設定したデータベースを構成する項目、項目ごとの情報型（文字情報、画像情報、ID 化情報等）に従い、12,000 件余りのデータをエクセルに入力した。

・災害痕跡データベース構築とＧＩＳシステムの開発

エクセルデータの一部を試験的にデータベースとＧＩＳシステムに搭載し動作確認を行った。また、ＧＩＳシステム開発のために、国土地理院情報検索システムの導入・産業総合研究所地質情報システムとの連動性確保・地質データ入力構造構築・検索形式仮設定などを実施、運用テストに着手した。

・発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

前年度に引き続き、平城宮・京（以上、奈良県）、青谷上寺地遺跡等（鳥取県）の発掘調査で検出された地震痕跡等について現地調査を行い、現地指導と共に土層剥ぎ取り等を行った。

・災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画成果報告シンポジウムでの成果報告（平成 28 年 3 月 14～16 日）。

【実績値】

実施報告書：1 件

「考古資料および文献資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開」『災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画平成 27 年度成果報告書』2016.3.

論文等：1 件

①小池伸彦・村田泰輔「考古学における地殻災害研究の今後」『地殻災害の軽減と学術・教育』学術会議叢書 22、日本学術協力財団編・発行、2016.1.31.

【受託経費】

8,380 千円

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9110

大項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置		
中項目	1　一般管理費の削減		
事業名	(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化		

【年度計画】
1)共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。
2)国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。
3)機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
1)共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア、財務会計システム、人事給与統合システム、web給与明細システムの運用を継続した。
2)国立博物館各館及び各研究成果公開施設における27～31年度の展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。
3)業務の効率的な運用と情報共有化のため、機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web給与明細システム「U-PHS HR」、また、これら各システムの基盤となるネットワーク「機構VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。

【補足事項】
3)・グループウェア「サイボウズ」は、耐障害性向上のため、アプリケーションサーバとストレージサーバとを分けた構成とした。(28年1月11日運用開始)。
・グループウェア「サイボウズ」のバックアップサーバー（奈良文化財研究所に設置予定）については、ネットワークの設定変更は完了したが、「ガルーン４」へのアップグレードとハードウェアの構成変更があったため、安定稼動確認後の作業とし、28年4月以降の作業予定とした。
・グループウェア「サイボウズ・ガルーン4」27年度利用ユーザ数(26年度も同数)
機構全体　1,000
内訳：本部事務局・東京国立博物館230、京都国立博物館100、奈良国立博物館60、九州国立博物館150、東京文化財研究所150、奈良文化財研究所250、アジア太平洋無形文化遺産研究センター20、予備40

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 共通的な事務の一元化による業務の効率化として、必要な業務システムは既に稼動しており、適切に運用を継続することができた。

【中期計画記載事項】中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、必要な業務システムの運用を適切に継続することで、共通的な事務の一元化による業務の効率化を順調に達成している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9120

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(2)計画的なアウトソーシング

【年度計画】以下の業務の外部委託を継続して実施する。
(東京国立博物館)
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
・資料館業務の一部
・施設内店舗業務
(京都国立博物館)
・看視案内業務及び設備保全業務の一部
・受付・案内・警備業務、売札業務及び清掃業務
(奈良国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務
・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
(九州国立博物館)
・建物設備の運転・管理業務等
・警備業務、看視案内業務及び清掃業務
(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)
・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課 京都国立博物館総務課 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課 東京文化財研究所研究支援推進部 奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。
・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、託児業務、ロケーション撮影対応業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
・東京国立博物館及び文化財研究所の施設管理運営業務（展示等企画を除く）、展示場における来館者応対等業務について27年度から民間競争入札の対象外となったため一般競争入札を実施した。

【補足事項】・外部委託が可能な業務については、民間委託を進めている。
・また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約等の実施により、業務の効率化を図っている。
・2件の民間競争については、26 年6月の内閣府官民競争入札等管理委員会において、実施状況が良好であり終了プロセスの基準を満たしていることが認められ、27 年度からは民間競争入札の対象外となった。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	年度計画通り外部委託を実施している。

【中期計画記載事項】中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画通り外部委託を実施している。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9130

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(3)　使用資源の減少

【年度計画】
・省エネルギー
1)光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。
（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）
・廃棄物減量化
1)使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。
・リサイクルの推進
1)廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
・日常の節電節水の周知徹底、クールビズ・ウォームビズの推進、冷暖房の省エネ運転等を行った。
・廃棄物削減では、両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用を引き続き行い、会議での iPad 活用による文書のペーパーレス化を実施した。
・リサイクルの実施（廃棄物の分別収集，リサイクル業者への古紙売り払い，再生紙の発注等）
使用資源の推移等

光熱水料金　（千円）

事項	26 年度	27 年度	差額	増減率
電気料	549,706	477,210	△72,496	△13.19%
水道料	89,418	86,297	△3,121	△3.49%
ガス料	186,427	141,057	△45,370	△24.34%
計	825,551	704,564	△120,987	△14.66%

主な減少要因：法隆寺宝物館の環境整備工事のための一時休館、黒田記念館の休館。
熱源、動力源のガスボイラーの稼働時間の効率的な短縮。

廃棄物排出量　(kg)

事項	26 年度	27 年度	差額	増減率（%）
一般廃棄物	241,900	225,151	△16,749	△6.92%

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
光熱水料	14.66%減	年間1.03%減	A		1.58%減	3.90%減	2.18%減	1.39%減

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	光熱水料金及び廃棄物排出量の大幅な削減を達成したほか、省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル推進の取組状況も良好である。

【中期計画記載事項】中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。
なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。
このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。
具体的には下記の措置を講じる。
(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化
(2)計画的なアウトソーシング
(3)使用資源の減少
・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)
・廃棄物減量化
・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	中期計画に従って光熱水料金及び廃棄物排出量の大幅な削減を達成したほか、省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクル推進の取組状況も良好である。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9140

中項目	1　一般管理費の削減
事業名	(4)自己収入の増大

【年度計画】

独立行政法人整理合理化計画(19年12月24日閣議決定)の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。

1)機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。

2)機構全体において、寄附金400件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】

1)定量的目標を設定した自己収入については、下表のとおり 32.71%となり、目標を上回った。

（単位：千円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
自己収入目標額	926,001	936,743	947,609
自己収入実績額	968,819	1,194,914	1,243,162
増　加　率	5.91%	29.04%	32.71%

※受託研究・受託事業を除く。

※自己収入目標額は、26 年度の目標額から 1.16%増加した場合の額。

※増加率は、26 年度の目標額に対する増加率。

2)下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成 27 年度
寄附金	400 件	577 件
科学研究費補助金	76 件	114 件

【補足事項】

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
自己収入増加率	32.71%	1.16%増	S		8.17%減	2.72%減	5.91%増	29.04%増
寄附金件数	577 件	350 件	A		393	438	486	561
科研費採択件数	114 件	76 件	A		76	88	95	107

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	自己収入及び寄附金ともに目標を大幅に上回ることができた

【中期計画記載事項】中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

(1)共通的な事務の一元化による業務の効率化

(2)計画的なアウトソーシング

(3)使用資源の減少

・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減)

・廃棄物減量化

・リサイクルの推進

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　A	自己収入及び寄附金ともに目標を大幅に上回ることができた

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9210

中項目	2　給与水準の適正化等		
事業名	給与水準の適正化等		
【年度計画】 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平
【実績・成果】 ・人事給与統合システムが20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により、人件費に関する計画を円滑により詳細に企画・立案することができた。 ・地域手当については、国の動向と当機構の人件費状況を勘案し、また人件費総額が増加しないよう人事配置や外部資金等を活用した上で国と同水準の率とすることを決定した。 ・また、次期中期目標期間の人事計画として人件費管理方法の一元化、新規採用可能数枠を設定することによる管理の徹底、過去の現員数推移などから適切な定数の設定を課題にあげ、検討を開始した。 ・役職員の報酬額については、毎年度、総務省の実施している「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）、平成15年9月9日策定」において、個別の額を公表しており、また、法人ウェブサイト上においても掲載している。今後も引き続き公表することとしている。			
【補足事項】 ・福利厚生費（法定外福利費（レクリエーション経費を除く））は15,538千円である。また、運営交付金からのレクリエーション経費の支出はない。なお、国と異なる諸手当はない。 ・27年度のラスパイレス指数は事務・技術職員が98.3、研究職員が99.3となっており、その水準維持に努めた。			

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 人件費シミュレーションを行い、27年度についても概ね順調に人件費に関する計画を遂行できた。
【中期計画記載事項】国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成 23 年度まで継続するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。 　なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 対国家公務員指数については、中期計画期間中を通して適正な水準で推移してきたこと、人件費改革については、給与制度及び人事配置等人事上の措置等により順調に削減を実施した。次期中期目標に向け、中長期的な人事計画の策定・実行することにより適正な人件費水準を維持する。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 9310

中項目	3　契約の適正化の推進
事業名	契約の適正化の推進

【年度計画】
1)契約監視委員会を実施する。
2)施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　栗原　祐司

【実績・成果】
1)「独立行政法人における調達等合理化契約の取組の推進について（27 年 5 月 25 日総務大臣決定)」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 27 年度に締結した契約の点検・見直しを行った。
　第 1 回契約監視委員会（27 年 12 月 1 日開催）
　第 2 回契約監視委員会（28 年 6 月 22 日開催予定）
2）奈良文化財研究所平城宮資料館については、随契事前確認公募を実施した。
東京国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン・黒田記念館カフェ、正門プラザ（ミュージアムショップ））、京都国立博物館（南門カフェ、平成知新館（ミュージアムショップ・レストラン））、奈良国立博物館（ミュージアムショップ・レストラン）、奈良文化財研究所（ミュージアムショップ）については、既に企画競争を実施済み。
今後も、賃貸借期間終了時に順次企画競争を実施予定である。
3)・28 年 1 月に内部チェックマニュアルとして「調達事務マニュアル」を作成した。
・28 年 2 月に機構内の会計系職員を対象とした研修を行った。（26 人が参加）
・より多くの競争参加業者を募るため、公告期間をこれまでの「10 日間以上」から自主的措置として 20 日間以上確保するように引き続き努めている。
・列品等修理契約について、修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約は企画競争を実施している。

一般競争入札件数

年度	26 年度	27 年度	増減
件数	169 件	160 件	△9 件

【補足事項】東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務、東京国立博物館の展示場における来館者対応等業務について、官民競争入札管理委員会において良好な実施結果が得られることが認められ、27年度から市場化テスト終了プロセスへ移行した上で事業を実施することが了承されたため、27年度からは一般競争入札にて契約を行った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
一般競争入札件数	160 件	－	－		132	136	171	169

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	計画どおり取組を実施している。

【中期計画記載事項】「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進することにより、合理的な調達を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、引き続き企画競争等、競争性と透明性を確保した契約方式により実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画どおり取組を実施している。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 9411

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
1)月例講演会等の他、当館主催や外部利用による講演会を実施した。
2)撮影件数増加のためインターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）への登録を継続した。
3)若年の新規来館者の獲得を目指した「博物館で野外シネマ」では、26年度に引き続き6,000人超の来館者を得ることができた。また、「博物館でアジアの旅」では、アジア民族楽器の演奏会を東洋館の展示室内で行うなど、新たな展示の楽しみ方を示すことができた。

【補足事項】
○企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用(それに伴う収入増)を図った。
・企業等のパーティーによる収入は、4件25,744千円となった。
・撮影による収入は、286件26,518千円となった。(26年度実績255件28,281千円)
○撮影件数の更なる増加のため
・インターネットロケーション検索サイト（ロケなび！）の申し込みプランを23年8月より更改(掲載写真増、間取り図追加)したところ、撮影件数が大幅に増加した。
・ロケ担当者からのニーズに対応するため、ロケハン（撮影下見）用の案内シートを各施設の開館状況に応じて更新した。
・ロケスタッフへのきめ細かな対応と、更なるサービス向上の一環として、ロケ弁（弁当）業者の斡旋を引き続き実施した。また台東区からロケ弁当業者の情報を提供してもらうことで、より手厚いサービス提供を図った。
○来館者に展示観覧と合わせてコンサート等を楽しんでいただけるよう、イベントの開催時間を開館時間中に設定することに努めた。
○重要文化財である表慶館を特別展が開催されていない時期にユニークベニューとして積極的に活用し、大型イベントの誘致に成功した。
○27年7月より業務効率化・民間の接客対応サービスのノウハウを取り入れることを目的として撮影業務を民間企業に業務委託した。
○今後とも企業等のパーティー、講堂・茶室貸出しが増えるよう方策を検討したい。



キルギス・コムズの調べ（東洋館１室）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	652件	－	－		618	637	676	664
うち有償利用件数	434件	－	－		341	342	393	402

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり施設の有効活用を進めることができたため。

【中期計画記載事項】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 案件ごとに適宜判断を行いながら、保有資産の外部への貸出を進めることができ中期計画を順調に実施することができた。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 9412

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長　植田義雄 学芸部長　伊藤嘉章

【実績・成果】
1)展覧会に関する講演会、土曜講座、特別シンポジウムを開催した。
2)庭園や茶室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。また、外部団体等の講演会・研修会等への貸出を積極的に行った。
3)来館者の拡大を目的としたコンサート等のイベントを開催し、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
○庭園
・2015日伊オペラ国際共同制作「道化師」を開催した。(参加者数800名)
・大琳派祭プロジェクションマッピング「美の継承」を開催した。(参加者数8,184名)
・27年12月15日～28年1月31日にイルミネーションの点灯を行った。閉館後は庭園のみ無料で入場できるようにした。


2015日伊オペラ国際共同制作「道化師」

○茶室
・特別展覧会「琳派　京を彩る」開会式当日に茶席を設けた。(参加者数300名)
・茶会、撮影会等での貸出を行った。
○講堂
・「土曜講座」、「夏期講座」、「京都・らくご博物館」を開催した。
・「国際博物館の日シンポジウム」を開催した(参加者数100名)
・「音燈華コンサート」を開催した。(参加者数157名)
・「クリスマス・ロマンチック・コンサート」を開催した。(参加者数80名)
○平成知新館グランドロビー
・琳派400年記念特別イベント「コシノジュンコ　琳派の世界」(ファッションショー)を開催した。(参加者数900名)
・クリスマス・ハンドベルコンサートを開催した。(参加者数230名)


音燈華コンサート

○会場提供
・庭園：京もの工芸品「琳派フェア」、商品カタログの撮影
・講堂：当館研究員による展覧会等の解説、VR映像鑑賞会、京都市内博物館施設連絡協議会、琳派400年記念プロジェクションマッピング委員会講演、映画の復元と保存に関するワークショップ実行委員会講演、日本今様謌舞楽会講演、京都漱石の會講演
・明治古都館：「カルティエ　ロワイヤル」、将棋対局「叡王戦」
・平成知新館グランドロビー：京都ライオンズクラブ交流会、日本人の忘れ物知恵会議交流会、京都商工会議所交流会、「ブレゲ　プライベートサロン in 京都2015」、21世紀鷹峯フォーラム「つくるフォーラム公募説明会」
・平成知新館大会議室：京都文化協会　スタディツアー、国宝修理装潢師連盟　資格試験・講習会

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	112件	―	―		42	59	28	63
うち有償利用件数	104件	―	―		35	46	25	57

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	庭園や講堂、平成知新館グランドロビーを利用した講演やコンサート、イベント等を積極的に開催した。

【中期計画記載事項】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画に沿って、順調に講堂、会議室等の貸与を実施している。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　9413

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課渉外室企画推進係	事業責任者	係長　石田義則

【実績・成果】(博物館4施設)
1)公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
2)小学生を対象に世界遺産学習を実施した。
3)地元自治体等と連携し、敷地内でコンサート等のイベントを実施した。

【補足事項】
1)講座・講演会
公開講座(14回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(92回)、特別鑑賞会(9回)、文化財保存修理所特別公開等
2)世界遺産学習(36校)
3)イベントの実施
・講堂：白鳳展親子鑑賞会、第67回正倉院展親子鑑賞会、特別陳列「お水取り」関連企画『お水取り「講話」と「粥」の会』、文化財保存修理所特別公開、お水取り展鑑賞とお松明
・地下回廊：「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」、「ほとけさまの切り絵をつくろう！」
・仏教美術資料研究センター：関野ホール特別無料公開（27年6月30日～7月16日、9月25日～10月22日、11月10日～12月6日、28年3月15日～3月31日）
・庭園・茶室：案内ツアー（2回）、庭園・茶室特別無料公開（27年6月30日～7月16日、9月25日～10月22日、11月10日～12月6日、28年3月15日～3月31日）、「おん祭と春日信仰の美術」茶会
○会場提供
・講堂：能楽学会「世阿弥忌セミナー」、NHK文化センター神戸教室「美術館散歩」、奈良・人と自然の会「ジョイントコンサート“チェコの調べと共に”」、奈良ひとまち大学「白鳳期の仏像をディープに楽しむ」、奈良県知事公室国際課「第6回東アジア地方政府会合エクスカーション参観者への展示品等の説明」、文化財防火ゼミナール等
・地下回廊：ワークショップ「仏像あたまを作っちゃおう！かぶっちゃおう！」
・仏教美術資料研究センター：コンサート「言霊と音霊の夜会」、「DEPAPEPE 雨男vs野外シリーズ2015」
・庭園：コンサート 音燈華「フラリーパッド」、音燈華「ジェスカ・グランペール」
・茶室：茶会
・敷地内：なら燈花会、野点の茶会、奈良県柿の日消費拡大イベント、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃絵等


「ほとけさまの切り絵をつくろう！」(地下回廊)


文化財防火ゼミナール

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	117件	―	―		144	139	144	117
うち有償利用件数	33件	―	―		28	39	43	34

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 国内のみならず地方公共団体を通じたアジア地域の参加者を対象とする催し等にも会場提供を行い、博物館の認知及び、施設の有効活用ができた。

【中期計画記載事項】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり順調に施設を有効利用し成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 9414

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
(博物館4施設)
1)講座・講演会等を開催する。
2)講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3)国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課	事業責任者	交流事業室事務主査　岩橋神奈子

【実績・成果】
1)文化交流展示や特別展に関連する講座・講演会等を開催した。
2)ミュージアムホール、エントランス、研修室、茶室等において、館主催事業及び各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室、茶室の貸出を行った。
3)「アジア交流博物館長サミット」や「九博能」等のイベントを開催した。また、ミュージアムコンサートや茶道体験等を継続的に開催し、施設の有効活用を促進した。

【補足事項】
(博物館4施設)
1)
・文化交流展（トピック展）関連イベント
トピック展示「新羅王子がみた大宰府」
関連講演会（27年11月3日、194人参加）等を開催した。
・特別展関連イベント
開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連記念講演会「正倉院あぜくら通信九州版」（27年10月24日、220人参加）等を開催した。


「新羅王子がみた大宰府」
関連講演会

2)
・主催イベント
開館10周年記念アジア人形劇フェスティバル（期間：27年8月8日、9日、26日、27日、29日、30日、11月21日、22日、参加者数：4,859人）等を開催した。
・各種団体主催イベント
ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展
1,095日の軌跡（27年4月1日～4月19日、5,603人参加）を開催した。
・施設の利用実績　計　392件（うち　有償 118件）
ミュージアムホールの利用　102件（うち　有償　9件）
研修室の利用　169件（うち　有償　82件）
茶室の利用　41件（うち　有償　20件）
その他（エントランスホール　外）　63件（うち　有償　0件）
撮影利用　17件（うち　有償　7件）


アジア人形劇フェスティバル
「スバエク・トム」公演

3)
・国際交流イベント及び日本文化の紹介
アジア交流博物館長サミットや留学生イベント、さいふごま大会を開催した。
・コンサート等の開催
「ミュージアムコンサート」、「カフェコンサート」、「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」を定期的に開催した。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	392件	－	－		264	246	269	321
うち有償利用件数	118件	－	－		90	86	122	120

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	展示と関係のある講演会やワークショップを開催したほか、開館10年記念イベントを数多く開催し、施設の有効利用を行った。

【中期計画記載事項】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画どおり、施設の有効利用の推進を図るため、利用のための条件整備を進め、本来業務に支障のない範囲で会議やイベントのための貸与を行った。

【書式Ａ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 9415

中項目	4　保有資産の有効利用の推進		
事業名	保有資産の有効利用の推進		
【年度計画】 （文化財研究所2施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。			
担当部課	研究支援推進部長	事業責任者	島崎正弘
【実績・成果】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを27年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。			
【補足事項】  第49回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」			

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	186件	－	－		196	181	177	164
うち有償利用件数	7件	－	－		12	20	23	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 会議・セミナーのための会議室・セミナー室の有料貸付を引き続き実施したため。
【中期計画記載事項】保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。	
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会議・セミナーのための会議室・セミナー室の貸与等を中期計画期間内において継続して実施したため。

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 9416

中項目	4　保有資産の有効利用の推進
事業名	保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所 2 施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	研究支援推進部長　島田健治

【実績・成果】

施　設　名	平成27年度
平城宮跡資料館　講堂	103件　（内　有償貸与 17件）
平城宮跡資料館　小講堂	118件　（内　有償貸与 12件）
飛鳥資料館　講堂	16件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	19件　（内　有償貸与 14件）
合　　計	256件　（内　有償貸与 43件）

・一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、ウェブサイト上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。

・上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

【補足事項】
平成26年度実績

施　設　名	平成26年度
平城宮跡資料館　講堂	108件　（内　有償貸与　3件）
平城宮跡資料館　小講堂	115件　（内　有償貸与　9件）
飛鳥資料館　講堂	28件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	35件　（内　有償貸与 14件）
合　　計	286件　（内　有償貸与 26件）

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
施設の有効利用件数	256件	―	―		1,449	1.328	1.142	286
うち有償利用件数	43件	―	―		52	68	37	26

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	・有償利用件数が26年度より増加した。 ・28年度以降については、現状を分析し、その結果をもとに新たな試みを実施し、有償利用件数を増加させる

【中期計画記載事項】
保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議･セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	・今中期計画において、26年度以降は寄宿舎施設の取り壊しのため、有償利用件数が減少しているが、寄宿舎施設以外の施設については増加傾向にあり、順調といえる。特に27年度については利用件数が大幅に増加している。次期中期計画でも、新たな試みを実施し、有償利用件数を増加させる。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9510

中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(1)理事長のマネジメント強化

【年度計画】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行う。　・監事監査を行う。　・内部監査を行う。
2)内部統制の推進に関連する諸規程の整備・見直しを行う。
3)リスクマネジメントの実施
・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。・危機管理マニュアルの見直し等を随時行う。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
1)モニタリングの実施
・自己点検評価を行い、『平成26年度　独立行政法人国文化財機構自己点検評価報告書』を作成(27年6月)し、評価結果をウェブサイトで公開した。外部評価委員からの意見等を踏まえ、評価のしやすさに配慮して自己点検評価報告書を作成した。
・監事による定期監査(27年6月17日)を行ったほか、臨時監査を奈良文化財研究所(28年2月22日)、京都国立博物館（28年2月23日)を対象に行った。
・内部監査を、27年10月29日～11月27日の日程で、本部事務局及び各施設を対象に順次行った。
2)内部統制の推進に関連する諸規程の整備・見直しを行う。
・内部統制の推進に関する規程として独立行政法人国立文化財機構内部統制規程、また関連して独立行政法人国立文化財機構公益通報者保護規程を整備した。(いずれも28年3月25日制定、28年4月1日施行)
3)リスクマネジメントの実施
・独立行政法人国立文化財機構リスク管理規程を整備した。(28年3月25日制定、28年4月1日施行)
・情報システム管理・セキュリティ対策の一環として関連する諸規程の見直しを行い、情報セキュリティ強化ため、関連規程を改正し、情報セキュリティ対策基準を作成した。
・危機管理マニュアルの見直しの結果、京都国立博物館危機管理マニュアルを27年7月に改訂した。

【補足事項】
1)・定期監査は、業務の監査（機構の業務運営状況、調査研究活動の実施状況等の監査）及び会計の監査（決算の状況、契約の状況等の監査）を行った。
・臨時監査は、業務及び会計についての実地監査を、物品購入に関する手続きの流れ及び帳票、関係書類の確認に重点を置いて実施した。
3)・危機管理マニュアルの見直しの結果、京都国立博物館以外の施設では改訂の必要が無かった。



『平成 26 年度　独立行政法人国立文化財機構
自己点検評価報告書』



独立行政法人国立文化財機構ウェブサイト
26年度評価結果のページ

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり必要な規程を整備することができ、また評価・監査等についても予定通り実施することができた。

【中期計画記載事項】理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、自己点検評価、監事監査及びモニタリングを適切に行うことができ、中期計画を達成した。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 9520

中項目	5　内部統制の充実・強化
事業名	(2)外部有識者による事業評価

【年度計画】
1)運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
2)職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平

【実績・成果】
1)運営委員会(27年7月30日)、外部評価委員会(研究所・センター調査研究等部会：27年4月20日、博物館調査研究等部会：4月28日、総会：5月29日)を実施し、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。
2)(各種研修について詳細は処理番号0230参照)

【補足事項】



運営委員会
(27年7月30日)



外部評価委員会研究所・
センター調査研究等部会
(27年4月20日)



外部評価委員会総会
(27年5月29日)

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
―	―	―	―		―	―	―	―

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	運営委員会、外部評価委員会を予定通り実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができた。

【中期計画記載事項】
外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年1回以上の事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させることができ、中期計画を順調に達成した。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 9530

中項目	5　内部統制の充実・強化		
事業名	(3)情報セキュリティ対策の向上と改善		
【年度計画】 1)政府機関における情報セキュリティ対策を踏まえ、情報セキュリティポリシーの見直しを行うとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講ずる。 2)情報セキュリティについて定期監査等を実施する。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村守平
【実績・成果】 1)・「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準(平成26年度版)」(26年5月19日、情報セキュリティ政策会議)を踏まえ、情報セキュリティ関係規程等の見直しを行い、改正等（28年1月22日改正・制定、28年4月1日施行）を行った。併せて各施設の関連規則等についても見直しを行い、28年3月に改正等を行った（28年4月1日施行）。 ・28年1月22日に改正した独立行政法人国立文化財機構情報システム・セキュリティ管理規程の詳細として「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」を28年3月25日に作成し、28年4月1日からの運用開始に向けて体制の整備を進めた。 ・各施設が管理・運用する情報システム・ネットワークへの情報セキュリティ対策は、機構全体の方針・基準の基に、当該施設が検討・実施している。 2)・保有個人情報管理監査を、奈良文化財研究所(28年2月22日)、京都国立博物館(28年2月23日)を対象に実施した。 ・情報システム監査を、九州国立博物館を対象に実施した。(28年3月4日) ・情報システム自己点検・評価について、情報セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。(27年4月) ・監査法人による監査の一環として、システム監査を実施した。(27年12月)			
【補足事項】 1)・情報セキュリティ関係規程等の改正にあたっては、情報化委員会の下に設置したセキュリティポリシー見直しWGを27年度3回（第2回：10月19日、第3回：12月21日・22日、第4回：28年2月15日・16日・19日）開催し、素案作成作業を進めた。 ・耐障害性向上のための各施設用VPNルータ予備器の設置について、27年度中の設置を目指して、各施設用VPNルータ予備器の準備を進めたが、提供元の都合により整わなかったため、28年度4月以降の設置予定となった。 2)・27年度情報システム監査は、システム・ネットワークの全面的な契約更新があった九州国立博物館を対象に実施した。 ・監査法人によるシステム監査では特に指摘事項はなかった。			

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 政府統一基準を踏まえた情報セキュリティ関連規程見直しの結果、改正等を行い、28年度の施行に向けて体制整備を進めることが出来た。また、情報セキュリティ水準の維持・向上のため監査の実施や、機器の更新・導入などにより、所期の目標を充分達成している。
【中期計画記載事項】 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	
【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 政府の方針を踏まえた情報セキュリティ対策について、規程等の見直しと対策の実施を行っており、中期計画を達成することができた。

【書式A】　　施設名　本部事務局　　処理番号　0110

大項目	Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項
中項目	1　施設・設備に関する計画
事業名	施設・設備に関する計画

【年度計画】

別紙のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

施設・設備に関する計画

（単位：百万円）

施設・整備の内容	予定額	財　源
東京国立博物館 法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事	109	施設整備費補助金
京都国立博物館 本館（明治古都館）免震改修等工事	170	施設整備費補助金
奈良国立博物館 なら仏像館免震展示ケース等整備工事	1,085	施設整備費補助金
奈良文化財研究所 本庁舎地区再開発計画の推進	1,556	施設整備費補助金
合　計	2,920	

担当部課	本部事務局　環境整備課	事業責任者	課長　若林　賢一

【実績・成果】（東京国立博物館）

・法隆寺宝物館の観覧環境向上のため、空調設備等の諸設備の更新及び展示機能充実のための展示ケース、照明器具を更新した。（28年3月完了）また、26年度補正予算においても法隆寺宝物館の諸設備を更新し完了した。（28年3月完了）

（京都国立博物館）

・27年度に本館の保存活用計画と基本計画を策定した。第一段階として、本館改修の免震が施工可能か確認のため埋蔵文化財調査を実施。併せて東収蔵庫の減築整備を行う。

（奈良国立博物館）

・なら仏像館の観覧環境及び展示機能充実のため、内装、照明・空調設備及び展示ケース・展示台を更新した。展示ケース及び展示台は今後起こりうる地震に対応すべく免震機能を有するものとしている。（28年4月完了予定）

（奈良文化財研究所）

・埋蔵文化財発掘調査のため工期を延長した旧庁舎取壊工事を27年5月に完了した。
・埋蔵文化財発掘調査成果に基づき新庁舎建設の変更設計を実施した。（28年3月完了）
・新庁舎建設工事の着工に向けて現場事務所設置等の準備工事を実施した。（28年3月完了）

【補足事項】

（東京国立博物館）

・本館の収蔵環境、展示環境の改善のために仮設収蔵庫の建設を28年度より開始する。

（京都国立博物館）

・2階以下の工房が仮工房への移転後、文化財保存修理所改修二期工事を27年度に実施済み。（27年11月）

（奈良文化財研究所）

・新庁舎の建設を28年度より開始する。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 当該年度実施予定の施設整備費補助金事業等、計画に沿った整備が実施されているため。

【中期計画記載事項】

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙４のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

（別紙４）　施設・設備に関する計画

施設・整備の内容	予定額（単位：百万円）	財　源
国立文化財機構施設整備費	19,189	施設整備費補助金

（脚注）金額については見込みである。また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修（更新）等が追加されることがあり得る。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、施設整備費補助金事業等による展示、収蔵の環境整備を実施することができた。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0210

中項目	2　人事計画に関する計画		
事業名	(1)　職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討		
【年度計画】 職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村　守平
【実績・成果】 26年度から職員の能力や業績等をより適切に評価できるように、新たな評価制度の検討を開始した。 27年度においては、新評価制度導入に向けたスケジュール案、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を開始し、関係会議での意見交換を行い役員会において周知した。			
【補足事項】 ・評価者・被評価者研修等を実施し、28年10月から試行を行い29年4月に本格実施する予定である。 ・評価制度案の概要は以下のとおりとした。 ○導入目的は職員一人一人の主体的な能力開発、計画的な人材育成、組織の成長・発展に繋がることを目的とする。 ○評価対象者は研究職員を含む常勤職員とする。 ○職務行動と業績評価に分けて職員の職務及び職位に対応した評価項目にしたがって評価を実施する。 ○評価期間は4月から翌年3月までを1期として、4月～9月の半期を前期として中間評価を実施する。 ○目標管理型の評価制度とし、評価者と評価対象者の面談や評価結果のフィードバックを評価者に義務付ける。 ○評価結果については主に人材育成に活用し、職員個人の成長、組織の発展に繋げる。なお、給与等の査定に活用するが、直結させるものではない。			

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 27年度中の実施には至らなかったが、評価制度の概要、実施までのスケジュール等を定め、導入することが決定された。今後は評価者研修などを通じて評価の目的等の理解を図るとともに、個人と組織の成長・発展に繋げられる形骸化しない制度とすることが課題である。

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 職員の能力や業績を適切に人事・給与に反映させるためだけではなく、職員の能力開発等人材育成にも活用できる人事評価制度の導入を検討し、決定した。以上により、中期計画を概ね順調に達成できた。今後は評価者研修などを通じて評価の目的等の理解を図るとともに、個人と組織の成長・発展に繋げられる形骸化しない制度とすることが課題である。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0220

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(2)　大学との人事交流

【年度計画】
近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村　守平

【実績・成果】
〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び滋賀医科大学から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・機構内での人材育成及び人事の活性化を図るため、本部及び各施設間において人事異動を行った。
・27年度においても台東区と相互の人事交流を行った。

〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を６人採用した。
・機構内での人事交流並びに幹部職員の育成を図るため、各施設間において人事異動を実施した。
・研究休職制度を利用し、海外の研究機関に１人を派遣している。

【補足事項】
・事務系職員において、各施設の近隣大学との交流数が6法人あり、優秀かつ多様な人材を確保した。また、人事交流者数は年々減少してきているものの、これはプロパー職員の採用、人材の育成が進んできたものであり、計画に対し順調に成果をあげている。
・研究系職員においては、文化庁との交流は双方向で実施できているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。しかし、国、地方からの受入れる際、退職手当の通算ができない場合が多く、人事交流の障壁となっている。
・また、地方公共団体より事務系2名、研究系1名を研修生として受け入れ、交流の促進を行った。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	事務系においては、各施設の近隣大学等6法人と人事交流を実施した。前年と比して交流者数は減少したが、交流が必要なポスト、業務等を勘案したものであり、さらにはプロパー職員の採用、人材の育成が進めてきたものである。引き続きプロパー職員の人材育成を進めながら、近隣大学等から優秀かつ多様な人材を確保していく。

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	交流機関、交流者数ともに年々減少しているが、ポスト、業務等を勘案の上、必要性を検討し、効率的に優秀かつ多様な人材の確保を実施した。また、機構外だけでなく機構内における配置転換等により人事を活性化し中堅職員や幹部職員候補の育成を図ることができた。以上の通り、中期計画を順調に達成出来た。今後は、人事交流とともにプロパー職員の採用・人材の育成を計画的に実施していく。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0230

中項目	2　人事計画に関する計画		
事業名	(3)　職員の資質向上		
【年度計画】各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。			
担当部課	本部事務局　総務企画課	事業責任者	課長　木村　守平

【実績・成果】

・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員やその他の職員を対象とした各種研修（8件）、施設系、会計系、人事系を対象とした分野研修（4件）及びハラスメント等の倫理に関する研修（2件）を行った。
・また、試行ではあるが、本部・東京国立博物館を対象に公募式の英会話研修を実施した。
・その他、他機関等外部研修の機会を利用して、職員の職務遂行能力の発展に寄与した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	27年7月8日～10日	26年度以降の新任職員等	41名
接遇研修	27年7月9日	26年度以降の新任職員等	41名
個人情報保護についての研修（講習）	27年7月8日	26年度以降の新任職員等、本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所職員及び近隣独立行政法人職員	約80名
個人情報管理研修（e-learning）	28年2月5日～3月7日	機構全職員	機構全職員
コンプライアンス教育及び研究倫理教育研修	28年1月26日他	競争的資金の運営・管理に関わる者及び広く研究活動に関わる者	約70名
ハラスメント防止に関する研修・講演会	27年7月8日	26年度以降の新任職員等、ハラスメント防止等委員会委員及び相談員等	約80名
産業医による講習会	27年7月9日	26年度以降の新任職員等、本部事務局、東京国立博物館、東京文化財研究所職員及び近隣独立行政法人職員	約80名
会計事務研修会	28年2月1日～2日	機構内の会計系職員	25名
施設系職員研修会	27年7月30日～31日 28年3月3日～4日	機構内の施設系職員	延べ19名
人事担当者連絡会	27年6月22日～23日	機構内の人事系職員	14名
個人番号（マイナンバー）管理研修	27年10月28日	マイナンバー事務取扱者	22名
英会話研修（試行実施）	27年10月26日～28年3月31日	一部施設（本部事務局・東京国立博物館）公募型選抜者	4名
文化財防災事業アソシエイトフェロー研修	27年9月28日～30日	文化財防災事業に関わるアソシエイトフェロー及び機構内職員	15名

【補足事項】

・新任職員及び人事交流者に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び業務要領を修得させ、新任職員等の資質の向上を図ることができ、さらには新任職員等を対象とした接遇研修の企画及び実施により、修得した知識等（お客様からの苦情への対応方法等）を業務に反映させた。
・ハラスメント防止を目的とした研修・講演会を開催し、外部講師による専門的見地からのアドバイスによりハラスメントに対する理解を深め、発生防止に向けた意識の向上を図った。
・文化財防災ネットワーク補助事業により、主にそれに関わるアソシエイトフェローを対象に、講義、見学、活動状況発表などの研修を実施した。
・個人情報保護・管理等、マイナンバー管理研修を実施し、個人情報の取扱いについて理解を深め、意識の高揚を図った。
・英会話研修については、英会話学校との提携により実施。27年度は一部施設における試験的実施であるので、研修結果を検証し、今後の機構全体での展開に繋げる。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
研修機会の提供	13 件	－	－		6	6	5	7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	対象者を限定したものを含めて、機構全体の研修プログラムを12件実施した。試行段階ではあるが、英会話研修を実施し、今後の機構全体での語学研修プログラムの検討を開始した。専門的な研修についても引き続き検討が必要である。

【中期計画記載事項】

①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：　B	中期計画通りに新任職員を対象とした集合研修、全職員を対象とした個人情報、ハラスメント等の倫理等の研修を実施した。また、会計、施設、人事と事務部門の専門的な能力開発研修を実施し、諸研修の機会を提供した。

【書式A】　施設名 本部事務局　処理番号 0240

中項目	2　人事計画に関する計画
事業名	(4)　非公務員化のメリットを活かした制度設計

【年度計画】
非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村　守平

【実績・成果】
・19年度から人事交流または国立大学法人等職員採用試験に頼らず機構が独自に採用できる制度を導入している。当制度を活用し27年度においては、事務職員2名の採用の他、技能・労務職員2名の採用を行った。
・20年度から常勤の研究職員に準じた人事制度（アソシエイトフェロー制度）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う者又は専門的知識を有する者を採用することが可能となった。27年度は当制度を利用し、東京国立博物館で4名、京都国立博物館で1名、奈良国立博物館で2名、九州国立博物館で3名、東京文化財研究所で4名、奈良文化財研究所で9名及びアジア太平洋無形文化遺産研究センターで2名の25名を採用した。
・また、27年10月には上記アソシエイトフェローの給与制度を抜本的に見直し、旧制度における昇給、昇格並びに諸手当等を一部廃止するなどよりわかりやすい年俸制度に変更し、28年4月から採用される者に適用する。
・26年度から導入した機構の専門的分野・事項を取り扱う職として専門職制度を創設し、27年度においては出版企画分野に1名、国際交流分野に1名の計2名を採用した。また、国際化対応のため国際交流分野に1名を採用することの検討に着手した。
・上記から27年度の機構独自の採用人数は事務職員2名、技能・労務職員2名、専門職2名、アソシエイトフェロー25名の計31名となった。

【補足事項】
・機構が独自に定める戦略的かつ柔軟な採用方法を実施することは、多様な人材の確保を可能にすることはもとより、最良の母集団形成及び専門知識、特殊技術並びに技能を持つ優れた人材の確保を可能にし、将来の機構の人事戦略に大きく寄与するものである。

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
機構独自の採用	31 人	－	－		18	19	19	44

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 ・26年度から導入した専門職制度により27年度は新たに出版企画分野において人材の確保を行ない、国際交流分野（英語圏）の採用の検討に着手した。 ・事務職員については26年度に引き続き2名の新規採用を行った。 ・アソシエイトフェローについては給与制度の抜本的制度改正に取り組み、よりわかりやすい年俸制度を策定した。

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 　中期計画に基づき、以下の取組を着実に実施した。 専門職制度の導入により、専門的分野・事項を取り扱う人材の確保を行った。また、事務職員については従来、国立大学法人等職員採用試験からの採用のみだったものを、独自に採用方法を定め、採用時期、試験方法など柔軟に実施できるようにした。 　アソシエイトフェロー制度については、給与制度の見直しを実施し、より柔軟な採用を可能にした。 　専門職については、キャリアパスを明確にするとともに機構として必要とする専門性について検討が必要である。 　次期中期目標における人事計画で具体的な人事配置や育成方針を明確にする必要がある。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 0250

中項目	2　人事計画に関する計画		
事業名	(5)　計画的な人材の確保・育成の推進		
【年度計画】 専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。			
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　木村　守平
【実績・成果】 ・高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、26年度から専門職制度を創設し、27年度には国際交流分野（アジア圏）1名、出版企画分野1名を採用し、東京国立博物館に配置した。また、近畿地区において国際交流分野（英語圏）の採用・配置の検討に着手した。			
【補足事項】 ・上記専門職制度で採用・配置される職員は、契約期間の定めがない職員である。			

【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
専門スタッフの配置	2人	－	－		1	0	1	0（採用内定は1人）

【年度計画に対する総合評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 東京オリンピック・パラリンピックに向けて外国語対応並びに情報発信に対応する2分野の人材の確保を実施した。今後は、31年開催のICOM京都大会を視野に人材の確保及び配置について検討する必要がある。

【中期計画記載事項】
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：　B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間において、新たに専門職制度を創設し、国際交流分野と出版企画分野に人材を確保・配置した。 今後、専門職については、キャリアパスを明確にするとともに機構として必要とする専門性について検討が必要である。

Ⅲ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	１２０，２７０（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建物	建築面積		２２，４３８
	延面積		７２，２２２
展示館	展示面積	計	１８，１９９
	収蔵庫面積	計	７，８３６
	本館	建	６，６０２
		延	２２，４１６
		展示面積	６，５７３
		収蔵庫面積	４，０２８
	東洋館	建	２，８９２
		延	１２，５３１
		展示面積	４，２５０
		収蔵庫面積	１，３７３
	平成館	建	５，５４２
		延	１９，４０６
		展示面積	４，４７１
		収蔵庫面積	２，１１９
	法隆寺宝物館	建	１，９３５
		延	４，０３１
		展示面積	１，４６２
		収蔵庫面積	２９１
	表慶館	建	１，１３０
	※休館中	延	２，０７７
		展示面積	１，１７９
		収蔵庫面積	－
	黒田記念館	建	７２４
		延	１，９９６
		展示面積	２６４
		収蔵庫面積	２５
	その他	建	３，６１３
		延	９，７６５

【京都国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	５３，１８２		
建物	建築面積		１３，５１７
	延面積		３１，８２８
展示館	展示面積	計	５，６５７
	収蔵庫面積	計	５，４２１
	平成知新館(新平常展示館)	建	５，５６８
		延	１７，９９７
		展示面積	３，５８７
		収蔵庫面積	２，７１０
	明治古都館(特別展示館)	建	３，０１５
		延	３，０１５
		展示面積	２，０７０
		収蔵庫面積	８０３
	旧管理棟	建	５９０
		延	１，９５４
	資料棟	建	４１４
		延	１，１２５
	文化財保存修理所	建	７２８
		延	２，８５６
	技術資料参考館	建	１０１
		延	３０４
	東収蔵庫	建	１，０８４
		延	１，９９６
		収蔵庫面積	１，４１２
	北収蔵庫	建	３１０
		延	６８２
		収蔵庫面積	４９６
	その他	建	１，７０７
		延	１，８９９

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	７８，７６０		
建物	建築面積		６，７６９
	延面積		１９，１１６
展示館	展示面積	計	４，０７９
	収蔵庫面積	計	１，５５８
	なら仏像館(本館)	建	１，５１２
		延	１，５１２
		展示面積	１，２６１
	青銅器館(本館付属棟)	建	３４１
		延	６６４
		展示面積	４７０
	東新館	建	１，８２５
		延	６，３８９
		展示面積	８７５
		収蔵庫面積	１，３９４
	西新館	建	１，６４９
		延	５，３９６
		展示面積	１，４７３
	仏教美術資料研究センター	建	７１８
		延	７１８
	文化財保存修理所	建	３１９
		延	１，０３６
	地下回廊	延	２，１５２
		収蔵庫面積	１６４
	その他	建	４０５
		延	１，２４９

【九州国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	１６６，４７７		
			（法人　１０，７９８ 県　１５５，６７９）
建物	建築面積		１４，６２３
	延面積		３０，６７５
			（法人　９，３００ 県　５，７８０ 共用　１５，５９５）
展示館	展示面積	計	５，４４４
			（法人　３，８４４ 県　１，３７５ 共用　２２５）
	収蔵庫面積	計	４，５１８
			（法人　２，７４４ 県　１，３３５ 共用　４３９）

【東京文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

土地面積	４，１８１	
建物	建築面積	２，２５８
	延面積	１０，５１６

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　(㎡)

	土地面積	建物	
本館地区	８，８６０	建築面積 延面積	現在、建替中
平城宮跡資料館地区	(文化庁所属の国有地を無償使用)	建築面 延面積	１３，３２８ ２１，３９５
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	２０，５１５	建築面積 延面積	６，０１６ ９，４７７
飛鳥資料館地区	１７，０９３	建築面積 延面積	２，６５７ ４，４０４

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

土地・建物　　(㎡)

建物	建築面積 延面積	２４４．６７ ２４４．６７
総室数		４室

※建物は大阪府堺市より借用。

Ⅳ　財務諸表

平成２７年度

（第９期事業年度）

財　務　諸　表

独立行政法人国立文化財機構

目　　次

１．貸借対照表

２．損益計算書

３．キャッシュ・フロー計算書

４．行政サービス実施コスト計算書

５．利益の処分に関する書類

６．注記事項（重要な会計方針等）

７．附属明細書

貸 借 対 照 表

平成28年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科目	金額		科目	金額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ　流動資産			Ⅰ　流動負債		
現金及び預金		3,674,411,668	預り寄附金		1,153,227,853
たな卸資産		63,336,650	未払金		2,421,820,176
立替金		17,386,368	未払費用		93,892,786
前払費用		10,725,008	前受金		33,930,355
未収金		737,770,429	預り金		180,218,236
その他の流動資産		6,092,895	その他の流動負債		1,746,838
流動資産合計		4,509,723,018	流動負債合計		3,884,836,244
Ⅱ　固定資産			Ⅱ　固定負債		
1有形固定資産			資産見返負債		
建物	86,083,672,978		資産見返運営費交付金	3,027,577,066	
減価償却累計額	−32,060,203,764	54,023,469,214	資産見返寄附金	133,868,527	
構築物	4,091,361,487		資産見返物品受贈額	27,215,045	
減価償却累計額	−2,387,000,595	1,704,360,892	資産見返その他補助金	116,682,515	
機械・装置	700,849,030		建設仮勘定見返運営費交付金	25,746,894	
減価償却累計額	−261,018,201	439,830,829	建設仮勘定見返施設費	2,372,924,730	
車両運搬具	61,757,278		建設仮勘定見返寄附金	27,810,000	
減価償却累計額	−49,722,617	12,034,661	資産見返負債合計	5,731,824,777	
工具器具備品	7,535,272,797		引当金		
減価償却累計額	−4,925,577,522	2,609,695,275	退職給付引当金	6,916,414	
収蔵品		111,168,696,191	その他の固定負債		
土地		44,410,675,104	長期未払金	26,159,698	
建設仮勘定		2,425,853,424	固定負債合計		5,764,900,889
有形固定資産合計		216,794,615,590	負債合計		9,649,737,133
2無形固定資産			（純資産の部）		
ソフトウエア		123,467,327	Ⅰ　資本金		
電話加入権		4,233,600	政府出資金		104,713,813,740
その他の無形固定資産		1,637,023	資本金合計		104,713,813,740
無形固定資産合計		129,337,950			
			Ⅱ　資本剰余金		
3投資その他の資産			資本剰余金		141,131,718,017
保証金		320,000	損益外減価償却累計額（−）		−35,111,684,167
投資その他の資産合計		320,000	損益外減損損失累計額（−）		−3,376,800
固定資産合計		216,924,273,540	資本剰余金合計		106,016,657,050
			Ⅲ　利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金		630,809,100
			目的積立金		4,002,276
			積立金		279,841,009
			当期未処分利益		139,136,250
			（うち当期総利益139,136,250円）		
			利益剰余金合計		1,053,788,635
			純資産合計		211,784,259,425
資産合計		221,433,996,558	負債純資産合計		221,433,996,558

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は1,925,200,597円であります。

（注）当期の運営費交付金による財源措置が手当されない賞与の見積額は220,360,537円であります。

損益計算書

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,375,624,819	
業務経費			
調査研究業務費	1,239,262,413		
情報公開業務費	135,898,765		
研修業務費	12,353,062		
国際研究協力業務費	100,854,599		
展示出版業務費	116,180,973		
展覧業務費	1,966,988,561		
教育普及業務費	68,495,301		
受託業務費	595,185,288	4,235,218,962	
減価償却費		661,762,104	8,272,605,885
一般管理費			
人件費	883,188,481		
一般管理経費	1,176,244,136		
減価償却費	87,672,810	2,147,105,427	
財務費用		1,370,260	
雑損		69,488	2,148,545,175
経常費用合計			10,421,151,060
経常収益			
運営費交付金収益		6,620,494,900	
受託収入			
政府関係・地方自治体受託収入	527,673,080		
その他受託収入	74,251,665	601,924,745	
入場料収入		1,090,121,158	
展示事業等附帯収入		425,770,211	
財産利用収入		277,167,517	
寄附金収益		319,209,139	
施設費収益		196,369,775	
その他補助金収益		168,829,908	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	659,538,445		
資産見返寄附金戻入	31,245,825		
資産見返物品受贈額戻入	5,181,645		
資産見返その他補助金戻入	19,089,215		
建仮見返運営費交付金戻入	1,963,500		
建仮見返施設費戻入	77,798,880	794,817,510	
財務収益			
受取利息		53,945	
雑益		25,886,960	
経常収益合計			10,520,645,768
経常利益			99,494,708
臨時損失			
固定資産除却損			6,417,179
その他臨時損失			143,316,000
			149,733,179
臨時利益			
資産見返運営費交付金戻入			6,154,835
資産見返物品受贈額戻入			8,538
施設費収益			58,233,600
建仮見返施設費戻入			85,082,400
			149,479,373
当期純利益			99,240,902
前中期目標期間繰越積立金取崩額			3,018,609
業務拡充積立金取崩額			36,876,739
当期総利益			139,136,250

（注） ファイナンス・リース取引が損益に与える影響額は1,986,355円であり、当該損益を除いた当期総利益は137,149,895円であります。

キャッシュ・フロー計算書

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	−4,113,781,867
業務支出	−4,958,776,749
科学研究費支出	−273,903,568
消費税等支払額	−94,169,200
運営費交付金収入	8,440,731,000
科学研究費収入	266,647,743
展示事業等収入	1,465,583,907
財産利用収入	269,531,989
受託収入	619,577,846
寄附金収入	795,743,730
その他補助金による収入	224,284,927
その他の業務収入	2,139,312
小計	2,643,609,070
利息の受取額	354,305
利息の支払額	−1,517,457
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,642,445,918
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	450,000,000
有形固定資産の取得による支出	−6,241,482,707
無形固定資産の取得による支出	−55,118,213
施設費による収入	3,043,047,269
投資活動によるキャッシュ・フロー	−2,803,553,651
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	−34,935,463
財務活動によるキャッシュ・フロー	−34,935,463
Ⅳ　資金減少額	−196,043,196
Ⅴ　資金期首残高	3,870,454,864
Ⅵ　資金期末残高	3,674,411,668

（注記事項）

（1）資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	3,674,411,668 円
資金期末残高	3,674,411,668

（2）重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	2,413,402,297
工具器具備品	34,130,242
合計	2,447,532,539

行政サービス実施コスト計算書

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	8,272,605,885	
一般管理費	2,147,105,427	
財務費用	1,370,260	
雑損	69,488	
臨時損失	149,733,179	10,570,884,239
（控除）		
受託収入	−601,924,745	
入場料収入	−1,090,121,158	
展示事業附帯収入	−351,424,990	
財産利用収入	−277,167,517	
寄附金収益	−319,209,139	
財務収益	−53,945	
雑益	−25,886,960	
資産見返寄附金戻入	−31,245,825	−2,697,034,279
Ⅱ　損益外減価償却相当額		4,120,331,897
Ⅲ　損益外除売却差額相当額		28,498,962
Ⅳ　引当外賞与見積額		14,058,159
Ⅴ　引当外退職給付増加見積額		−94,399,012
Ⅵ　機会費用		
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	137,990,902	
政府出資等の機会費用	0	137,990,902
Ⅶ　行政サービス実施コスト		12,080,330,868

（注記）

・引当外退職給付増加見積額には、国からの出向職員にかかる者が11名、4,735,105円が含まれております。

・国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和39年5月29日付条例第36号）により計算しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、平成28年4月1日付け事務連絡「「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を受けた平成27事業年度財務諸表における行政サービス実施コスト計算書の機会費用算定の取扱いについて（留意事項）」（総務省行政管理局、財務省主計局法規課公会計室）に基づき、0%で計算しています。

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		139,136,250
当期総利益	139,136,250	
Ⅱ　積立金振替額		634,811,376
前中期目標期間繰越積立金	630,809,100	
目的積立金	4,002,276	
Ⅲ　利益処分額		
積立金		773,947,626

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

当事業年度より、改訂後の「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」（平成27年1月27日改訂）並びに「独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解に関するＱ＆Ａ」（平成28年2月改訂）（以下、独立行政法人会計基準等という）を適用して、財務諸表等を作成しております。

ただし、「独立行政法人会計基準」第４３（注解３９）の規定については、「独立行政法人通則法の一部を改正する法律」の附則第8 条により経過措置を適用していることから、経過措置終了まで、現行セグメント区分に基づくセグメント情報の開示を行っております。

また、「独立行政法人会計基準」第８１（注解６０、注解６１）の規定については、経過措置を適用していることから、改訂前の第８１（注解６０）を適用しております。

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

２．減価償却の会計処理方法

（１）有形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物	２年～５８年
構築物	２年～６３年
機械・装置	２年～１７年
車両運搬具	２年～　７年
工具器具備品	２年～２０年

また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第８７）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

（２）無形固定資産（リース資産を除く）

定額法により行っております。なお、機構内利用のソフトウエアについては、機構内における利用可能期間（５年）に基づいております。

（３）リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

３．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

役職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、当事業年度の引当外賞与見積額から前事業年度の同見積額を控除した額を計上しております。

４．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

運営費交付金による財源措置のない有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の退職給付に備えるため、当事業年度末に係る自己都合要支給額を計上しております。

その他の役職員の退職給付については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、会計基準第３８に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金（期末自己都合要支給額）の当期増加額に基づき計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

（１）貯蔵品等･･･最終仕入原価法を採用しております。

（２）未成受託研究支出金･･･個別法による低価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

（１）国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用の計算方法

国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和３３年１月７日付大蔵省管財局長通知蔵管第１号）及び堺市行政財産の目的外使用に関する条例（昭和３９年５月２９日付条例第３６号）により計算しております。

（２）政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

平成 28 年 4 月 1 日付け事務連絡「「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入を受けた平成２７事業年度財務諸表における行政サービス実施コスト計算書の機会費用算定の取扱いについて（留意事項）」(総務省行政管理局、財務省主計局法規課公会計室)に基づき、0%で計算しています。

８．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．固定資産の減損

該当なし

Ⅲ．重要な債務負担行為

東京国立博物館法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事	193,162,320 円
京都国立博物館本館収蔵庫改修工事	84,129,300 円
奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事	176,197 円

奈良文化財研究所本庁舎建替工事	56,736,928円
合　　計	334,204,745円

Ⅳ．金融商品関係

１．金融商品の状況に関する事項

当機構は、資金運用については短期的な預金に限定しております。また、活動資金は事業収入及び運営費交付金等によりまかなっているため、資金調達はありません。

２．金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

（単位：円）

	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
(1)現金及び預金	3,674,441,668	3,674,441,668	―
(2)未収金	737,770,429	737,770,429	―
(3)未払金	(2,421,820,176)	(2,421,820,176)	―

（注１）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券等に関する事項

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）負債に計上されているものは、（　）で示しております。

Ⅴ．賃貸等不動産関係

当機構は、東京都その他の地域において、賃貸等不動産を保有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

Ⅵ．資産除去債務関係

石綿（アスベスト）関係

当機構では、石綿関連法令により使用等が規制されている石綿が、奈良文化財研究所収蔵庫３棟の天井材、東京国立博物館黒田記念館の床材に使用されております。

これらの石綿は全て封じ込め済みであり、建物の解体時に石綿の除去義務が発生しますが当該資産の具体的な解体計画はなく、今後も、現状のまま継続的に使用する予定であります。加えて計画策定には国による認可及び予算措置が必要であり機構単独の意思決定ではなし得ない状況にあるため、資産除去債務を合理的に見積ることができません。このため、貸借対照表に資産除去債務を計上しておりません。

Ⅶ．退職給付に係る注記

１．採用している退職給付制度の概要

当機構では、運営費交付金による財源措置のない有期雇用職員（アソシエイトフェロー）の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用しております。当該制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

２．確定給付制度

（１）簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

（単位：円）

区　　分	平成27年4月1日～28年3月31日
期首における退職給付引当金	9,292,782
退職給付費用	6,340,942
退職給付の支払額	△8,717,310
期末における退職給付引当金	6,916,414

（２）退職給付に関連する損益

（単位：円）

区　　分	平成27年4月1日～28年3月31日
簡便法で計算した退職給付費用	6,340,942

附　属　明　細　書

第9期

自：平成27年 4月 1日
至：平成28年 3月31日

独立行政法人　国立文化財機構

第９期　附属明細書

自：平成27年 4月 1日
至：平成28年 3月31日

１．　固定資産の取得、処分、減価償却費（「第８７　特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第９１　資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失累計額の明細

２．　たな卸資産の明細

３．　有価証券の明細

４．　長期貸付金の明細

５．　長期借入金及び債券の明細

６．　引当金の明細

７．　退職給付引当金の明細

８．　資産除去債務の明細

９．　法令に基づく引当金等の明細

１０．　保証債務の明細

１１．　資本金及び資本剰余金の明細

１２．　積立金の明細

１３．　目的積立金の取崩しの明細

１４．　運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

１５．　運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

１６．　科学研究費補助金の明細

１７．　役員及び職員の給与の明細

１８．　セグメント情報

１９．　主な資産、負債、費用及び収益の明細

1. 固定資産の取得、処分、減価償却費(「第87 特定の償却資産の減価に係る会計処理」及び「第91 資産除去債務に係る特定の除去費用等の会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)及び減損損失累計額の明細

(単位:円)

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
							当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産(償却費損益内)	建物	2,495,868,492	86,962,008	6,624,090	2,576,206,410	1,268,202,603	141,216,214	0	0	0	1,308,003,807	
	構築物	148,349,317	3,780,000	1,987,988	150,141,329	83,256,563	11,478,676	0	0	0	66,884,766	
	機械・装置	37,328,754	8,579,628	0	45,908,382	9,276,359	2,680,205	0	0	0	36,632,023	
	車両運搬具	53,111,067	1,747,224	0	54,858,291	42,868,860	5,262,379	0	0	0	11,989,431	
	工具器具備品	4,596,859,746	435,541,133	38,595,076	4,993,805,803	3,170,661,487	555,511,202	0	0	0	1,823,144,316	
	計	7,331,517,376	536,609,993	47,207,154	7,820,920,215	4,574,265,872	716,148,676	0	0	0	3,246,654,343	
有形固定資産(償却費損益外)	建物	83,593,214,485	407,047,104	492,795,021	83,507,466,568	30,792,001,161	3,716,982,551	0	0	0	52,715,465,407	
	構築物	3,970,570,812	0	29,350,654	3,941,220,158	2,303,744,032	175,982,290	0	0	0	1,637,476,126	
	機械・装置	666,577,833	0	11,637,185	654,940,648	251,741,842	70,486,062	0	0	0	403,198,806	
	車両運搬具	6,959,360	0	60,373	6,898,987	6,853,757	137,993	0	0	0	45,230	
	工具器具備品	2,458,721,882	7,750,000	36,441,555	2,430,030,327	1,754,916,035	156,743,001	0	0	0	675,114,292	
	計	90,696,044,372	414,797,104	570,284,788	90,540,556,688	35,109,256,827	4,120,331,897	0	0	0	55,431,299,861	
非償却資産	工具器具備品	93,936,016	17,500,651	0	111,436,667	0	0	0	0	0	111,436,667	
	収蔵品	106,981,935,494	4,186,760,697	0	111,168,696,191	0	0	0	0	0	111,168,696,191	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	451,638,660	2,139,059,544	164,844,780	2,425,853,424	0	0	0	0	0	2,425,853,424	
	計	151,938,185,274	6,343,320,892	164,844,780	158,116,661,386	0	0	0	0	0	158,116,661,386	
有形固定資産合計	建物	86,089,082,977	494,009,112	499,419,111	86,083,672,978	32,060,203,764	3,858,198,765	0	0	0	54,023,469,214	
	構築物	4,118,920,129	3,780,000	31,338,642	4,091,361,487	2,387,000,595	187,460,966	0	0	0	1,704,360,892	
	機械・装置	703,906,587	8,579,628	11,637,185	700,849,030	261,018,201	73,166,267	0	0	0	439,830,829	
	車両運搬具	60,070,427	1,747,224	60,373	61,757,278	49,722,617	5,400,372	0	0	0	12,034,661	
	工具器具備品	7,149,517,644	460,791,784	75,036,631	7,535,272,797	4,925,577,522	712,254,203	0	0	0	2,609,695,275	
	収蔵品	106,981,935,494	4,186,760,697	0	111,168,696,191	0	0	0	0	0	111,168,696,191	
	土地	44,410,675,104	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	451,638,660	2,139,059,544	164,844,780	2,425,853,424	0	0	0	0	0	2,425,853,424	
	計	249,965,747,022	7,294,727,989	782,336,722	256,478,138,289	39,683,522,699	4,836,480,573	0	0	0	216,794,615,590	
無形固定資産(償却費損益内)	ソフトウエア	449,859,964	81,684,782	17,333,400	514,211,346	390,744,019	33,286,238	0	0	0	123,467,327	
	計	449,859,964	81,684,782	17,333,400	514,211,346	390,744,019	33,286,238	0	0	0	123,467,327	
無形固定資産(償却費損益外)	ソフトウエア	2,600,777	0	0	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
	計	2,600,777	0	0	2,600,777	2,600,777	0	0	0	0	0	
無形固定資産(非償却)	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	特許権仮勘定	0	628,200	0	628,200	0	0	0	0	0	628,200	
	その他無形固定資産	0	1,008,823	0	1,008,823	0	0	0	0	0	1,008,823	
	計	7,610,400	1,637,023	0	9,247,423	0	0	3,376,800	0	0	5,870,623	
無形固定資産合計	ソフトウエア	452,460,741	81,684,782	17,333,400	516,812,123	393,344,796	33,286,238	0	0	0	123,467,327	
	電話加入権	7,610,400	0	0	7,610,400	0	0	3,376,800	0	0	4,233,600	
	特許権仮勘定	0	628,200	0	628,200	0	0	0	0	0	628,200	
	その他無形固定資産	0	1,008,823	0	1,008,823	0	0	0	0	0	1,008,823	
	計	460,071,141	83,321,805	17,333,400	526,059,546	393,344,796	33,286,238	3,376,800	0	0	129,337,950	
投資その他の資産	保証金	320,000	0	0	320,000	0	0	0	0	0	320,000	
	長期前払費用	114,548	0	114,548	0	0	0	0	0	0	0	
	計	434,548	0	114,548	320,000	0	0	0	0	0	320,000	

2. たな卸資産の明細

（単位:円）

種　　類	期首残高	当　期　増　加　額		当　期　減　少　額		期末残高	摘　要
		当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	26,911,839	26,692,199	0	18,166,722	0	35,437,316	
未成受託研究支出金	0	0	27,899,334	0	0	27,899,334	
計	26,911,839	26,692,199	27,899,334	18,166,722	0	63,336,650	

3. 有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

4. 長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

5. 長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

6. 引当金の明細

当該年度は退職給付引当金以外の引当金を計上していないため、記載を省略しております。

7. 退職給付引当金の明細

（単位:円）

区　　分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　要
退職給付債務合計額	9,292,782	2,370,944	4,747,312	6,916,414	
退職一時金に係る債務	9,292,782	2,370,944	4,747,312	6,916,414	
退職給付引当金	9,292,782	2,370,944	4,747,312	6,916,414	

8. 資産除去債務の明細

当該年度は資産除去債務を計上していないため、記載を省略しております。

9. 法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

10. 保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

11. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位:円）

区　　分		期　首　残　高	当期増加額	当期減少額	期　末　残　高	摘　　要
資　本　金	政府出資金	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
	計	104,713,813,740	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	34,716,457,045	407,047,104	0	35,123,504,149	施設費による特定資産の取得
	目的積立金	469,592,463	45,750,000	0	515,342,463	目的積立金による収蔵品等の取得
	運営費交付金	15,899,638,811	1,573,273,000	0	17,472,911,811	運営費交付金による収蔵品の取得
	寄附金等	202,357,850	162,085,400	0	364,443,250	
	贈　与	87,483,099,970	2,423,342,911	0	89,906,442,881	寄贈品の受け入れ
	収蔵品編入	4,497,601	7,560,037	0	12,057,638	
	損益外固定資産除売却差額	−1,692,699,387	−570,284,788	0	−2,262,984,175	出資財産の除却 政府出資により取得した特定資産の除却
	計	137,082,944,353	4,048,773,664	0	141,131,718,017	
	損益外減価償却累計額	−31,238,480,035	−4,120,331,897	−247,127,765	−35,111,684,167	出資財産の減価償却相当
	損益外減損損失累計額	−298,034,861	0	−294,658,061	−3,376,800	減損した出資財産の除却
	差引計	105,546,429,457	−71,558,233	−541,785,826	106,016,657,050	

12. 積立金の明細

（単位:円）

区　　分	期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	期 末 残 高	摘　　要
通則法44条1項積立金	141,786,007	138,055,002	0	279,841,009	当期積立額 138,055,002円
前中期目標期間繰越積立金	633,827,709	0	3,018,609	630,809,100	当期取崩し額 3,018,609円
業務拡充積立金	0	86,629,015	82,626,739	4,002,276	当期積立額 86,629,015円 当期取崩し額 82,626,739円
計	775,613,716	224,684,017	85,645,348	914,652,385	

（注記）

1 通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成26年度利益処分によるものです。

2 前中期目標期間繰越積立金の当期減少額は、受託研究費購入資産に係る減価償却費相当分等に係る取崩しによるものです。

3 業務拡充積立金の当期増加額は、当期未処分利益のうち以下の理由で経営努力認定を受けたため、目的積立金を積み立てたものです。

①東京国立博物館において展覧会事業等により生じた利益	14,827,167 円
②京都国立博物館において展覧会事業等により生じた利益	71,801,848 円

4 業務拡充積立金の当期減少額の内訳は次のとおりです。

収蔵品購入に係る資本剰余金振替額	38,000,000 円
工具器具備品等購入に係る資本剰余金振替額	7,750,000 円
研究図録制作や展示室用消耗品購入等に係る経費相当分取崩し額	36,876,739 円

13. 目的積立金の取崩しの明細

（単位:円）

区分		金　　額	摘　　要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金取崩額	3,018,609	
	業務拡充積立金取崩額	36,876,739	
計		39,895,348	

（注記）

1　前中期目標期間繰越積立金取崩額の内訳は次のとおりです。

ファイナンスリース損益に係る取崩し額	924,483 円
受託研究費及び使途不特定寄附金購入資産に係る減価償却相当分取崩し額	2,094,126 円

2　業務拡充積立金取崩額の内訳は次のとおりです。

東京国立博物館の研究図録等制作等に係る取崩し額	14,827,167 円
京都国立博物館の展示室環境整備等に係る取崩し額	22,049,572 円

14. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

(1)運営費交付金債務の増減の明細　　(単位:円)

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小計	
23年度	1,567,130	0	1,567,130	0	0	0	1,567,130	0
24年度	24,790,840	0	24,790,840	0	0	0	24,790,840	0
25年度	42,423,762	0	6,394,962	36,028,800	0	0	42,423,762	0
26年度	247,707,477	0	57,670,045	13,559,738	15,563,694	160,914,000	247,707,477	0
27年度	0	8,440,731,000	6,530,071,923	497,671,877	628,200	1,412,359,000	8,440,731,000	0
合計	316,489,209	8,440,731,000	6,620,494,900	547,260,415	16,191,894	1,573,273,000	8,757,220,209	0

(2)運営費交付金債務の当期振替額の明細

①平成23年度交付分　　(単位:円)

区分		金額	内容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	1,567,130	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 1,567,130円 (一般管理費 1,567,130円) イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:該当なし ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	1,567,130	

②平成24年度交付分　　(単位:円)

区分		金額	内容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	0	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 該当なし イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:該当なし ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
会計基準第81第4項による振替額		24,790,840	会計基準第81第3項による振替額を採用した経費:財源として予定されていたが、期間終了時に未執行であった退職手当24,790,840円を振替額として収益化
合計		24,790,840	

③平成25年度交付分　　（単位:円）

区　　分		金 額	内　　容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	6,394,962	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 6,394,962円 （一般管理費　2,500,000円、調査研究事業費 3,894,962円） イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:　36,028,800円 （調査研究事業費　36,028,800円 ） ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	36,028,800	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	42,423,762	

④平成26年度交付分　　（単位:円）

区　　分		金 額	内　　訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	57,670,045	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 57,670,045円 （一般管理費　5,360,501円、調査研究事業費　30,524,687円、展覧事業費　21,784,857円） イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:　190,037,432円 （一般管理費　15,563,694円、陳列品購入費　160,914,000円、 調査研究事業費　11,649,218円、展覧事業費　1,910,520円 ） ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	13,559,738	
	建設仮勘定見返運営費交付金	15,563,694	
	資本剰余金	160,914,000	
	計	247,707,477	

⑤平成27年度交付分　　（単位:円）

区　　分		金 額	内　　訳
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	2,774,204,460	①業務達成基準を採用した経費:人件費のうちの退職手当及び事業部門の経費並びに管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 2,774,204,460円 （退職手当　296,380,472円、調査研究事業費　929,190,016円、 情報公開事業費　203,967,817円、研修事業費　16,552,568円、 国際研究協力事業費　160,193,589円、展示出版事業費　96,534,980円、 展覧事業費　1,055,770,551円、教育普及事業費 15,614,467円） イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:　1,852,458,733円 （陳列品購入費　1,412,359,000円、調査研究事業費　323,806,640円、 情報公開事業費　9,588,337円、研修事業費　879,120円、 国際研究協力事業費　4,348,198円、展示出版事業費　9,325,076円、 展覧事業費　79,566,582円、教育普及事業費12,585,780円 ） ③運営費交付金収益化の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	440,099,733	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	1,412,359,000	
	計	4,626,663,193	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	3,755,867,463	①期間進行基準を採用した経費:人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費、管理部門の経費(特に指定するものを除く)及び減価償却費 ②当該業務に係る損益等 ア)損益計算書に計上した費用の額: 3,755,867,463円 （役職員給与　2,659,010,531円、法定福利費　353,616,501円、一般管理費　743,240,431円） イ)自己収入に係る収益計上額:該当なし ウ)固定資産の取得額:　57,572,144円(一般管理費) ③運営費交付金収益化額の積算根拠 期間が経過したので、財源と予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	57,572,144	
	建設仮勘定見返運営費交付金	628,200	
	資本剰余金	0	
	計	3,814,067,807	
合　計		8,440,731,000	

(3)運営費交付金債務残高の明細

当該年度は運営費交付金債務残高を計上していないため、記載を省略しております。

15. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

15－1 施設費の明細

（単位:円）

区　　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
東京国立博物館 法隆寺宝物館展示機能 充実整備等工事	406,963,000	0	364,777,229	42,185,771	
京都国立博物館 本館収蔵庫改修工事	99,978,000	55,080,000	0	44,898,000	
京都国立博物館 緊急屋根等漏水補修工事	132,534,748	0	42,269,875	90,264,873	
奈良国立博物館 なら仏像館免震展示ケース等 整備工事	433,867,245	430,056,000	0	3,811,245	
奈良文化財研究所 本庁舎建替工事	1,683,993,336	1,610,549,850	0	73,443,486	
計	2,757,336,329	2,095,685,850	407,047,104	254,603,375	

(注)その他の内訳は、施設費収益:254,603,375円です。

15－2 補助金等の明細

（単位:円）

区　　分	当期交付額	左の会計処理内訳			摘　　要
		建設仮勘定見返補助金	資産見返補助金	収益計上	
国立文化財機構 文化芸術振興費補助金	158,440,940	0	15,172,812	143,268,128	
東京国立博物館 文化芸術振興費補助金	16,674,541	0	0	16,674,541	
京都国立博物館 文化芸術振興費補助金	3,887,239	0	0	3,887,239	
アジア太平洋無形文化 遺産研究センター 政府開発援助ユネスコ活動費補助金	5,000,000	0	0	5,000,000	
計	184,002,720	0	15,172,812	168,829,908	

(注)収益計上の内訳は、その他補助金収益:168,829,908円です。

16. 科学研究費補助金の明細

（単位:円）

区　　分	当　期　受　入　額	件　数	摘要
科学研究費 基盤研究（Ｓ）	（ 19,520,000 ） 5,856,000	2	
科学研究費 基盤研究（Ａ）	（ 70,561,611 ） 19,191,369	40	
科学研究費 基盤研究（Ｂ）	（ 83,312,311 ） 24,921,900	78	
科学研究費 基盤研究（Ｃ）	（ 30,965,925 ） 9,289,778	35	
科学研究費 挑戦的萌芽研究	（ 4,650,000 ） 1,395,000	7	
科学研究費 若手研究（Ａ）	（ 16,500,000 ） 4,950,000	6	
科学研究費 若手研究（Ｂ）	（ 23,036,336 ） 6,930,000	27	
科学研究費 研究活動スタート支援	（ 1,100,000 ） 330,000	1	
科学研究費 奨励研究	（ 1,100,000 ） 0	2	
研究成果公開促進費 学術図書	（ 3,600,000 ） 0	2	
研究成果公開促進費 データベース	（ 6,400,000 ） 0	2	
特別研究員奨励費	（ 5,901,560 ） 1,481,174	6	
計	（ 266,647,743 ） 74,345,221	208	

（注）当期受入額は間接経費相当額を記載し、直接研究費相当額は外数として（　　）書きで記載しております。

17. 役員及び職員の給与の明細

（単位:千円，人）

区　分	報酬又は給与		退職手当	
	支給額	支給人員	支給額	支給人員
役員	（ 3,840 ） 48,978	（ 3 ） 3	（ 0 ） 0	（ 0 ） 0
職員	（ 819,881 ） 2,597,741	（ 465 ） 329	（ 9,053 ） 296,047	（ 19 ） 17
合計	（ 823,721 ） 2,646,719	（ 468 ） 332	（ 9,053 ） 296,047	（ 19 ） 17

（1） 支給人員数は、報酬又は給与については平成27年4月～平成28年3月の平均支給人員数を記載しております。
また、退職手当については総支給人員数を記載しております。

（2） 役員報酬基準の概要　　理事長　984,000円（報酬月額）
理事2名　834,000円（報酬月額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、理事80,000円、監事120,000円を月額として支給しております。

（3） 役員退職手当基準の概要　　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

（4） 職員給与基準の概要　　職員の給与は、基本給及び諸手当としております。
基本給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程等に基づき支給しております。

（5） 職員退職手当基準の概要　　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

（6） 非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

（7） 上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

（8） 中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

18. セグメント情報　（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

独立行政法人 国立文化財機構

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	計	法人共通	合　計
Ⅰ事業費用，事業収益及び事業損益										
事業費用										
業務費	2,160,191,088	931,102,968	842,417,648	1,349,199,467	1,147,051,992	1,711,844,349	77,089,005	8,218,896,517	53,709,368	8,272,605,885
人件費	983,965,936	300,723,084	269,735,813	335,652,224	553,378,095	912,066,741	17,242,373	3,372,764,266	2,860,553	3,375,624,819
業務経費	1,085,170,548	408,901,728	530,438,083	838,876,269	533,431,115	728,002,880	59,549,524	4,184,370,147	50,848,815	4,235,218,962
調査研究業務費	317,110,881	127,866,682	73,843,633	262,913,468	129,355,983	287,297,355	8,246,914	1,206,634,916	32,627,497	1,239,262,413
情報公開業務費	0	0	0	0	59,299,114	76,599,651	0	135,898,765	0	135,898,765
研修業務費	0	0	0	0	3,545,827	8,807,235	0	12,353,062	0	12,353,062
国際研究協力業務費	0	0	0	0	72,271,762	28,582,837	0	100,854,599	0	100,854,599
展示出版業務費	0	0	0	0	10,279,398	105,901,575	0	116,180,973	0	116,180,973
展覧業務費	722,656,245	267,004,432	445,327,573	532,000,311	0	0	0	1,966,988,561	0	1,966,988,561
教育普及業務費	40,694,191	14,030,614	11,266,877	2,503,619	0	0	0	68,495,301	0	68,495,301
受託業務費	4,709,231	0	0	41,458,871	258,679,031	220,814,227	51,302,610	576,963,970	18,221,318	595,185,288
減価償却費	91,054,604	221,478,156	42,243,752	174,670,974	60,242,782	71,774,728	297,108	661,762,104	0	661,762,104
一般管理費	507,043,764	478,768,719	189,706,743	182,773,854	246,849,553	215,864,257	14,208,784	1,835,215,674	311,889,753	2,147,105,427
人件費	167,004,545	89,819,744	89,177,928	55,521,095	141,321,501	122,507,651	6,662,449	672,014,913	211,173,568	883,188,481
一般管理経費	306,998,831	380,172,647	82,751,659	109,897,587	104,610,993	90,165,706	7,446,421	1,082,043,844	94,200,292	1,176,244,136
減価償却費	33,040,388	8,776,328	17,777,156	17,355,172	917,059	3,190,900	99,914	81,156,917	6,515,893	87,672,810
財務費用	0	0	0	449,374	273,863	647,023	0	1,370,260	0	1,370,260
雑損	0	54,761	10,740	0	3,987	0	0	69,488	0	69,488
事業費用計	2,667,234,852	1,409,926,448	1,032,135,131	1,532,422,695	1,394,179,395	1,928,355,629	91,297,789	10,055,551,939	365,599,121	10,421,151,060
事業収益										
運営費交付金収益	1,518,437,753	540,221,589	541,621,660	1,137,104,560	1,001,377,943	1,530,816,570	34,456,000	6,304,036,075	316,458,825	6,620,494,900
受託収入	5,684,000	0	0	41,458,871	258,798,061	226,307,833	51,454,662	583,703,427	18,221,318	601,924,745
入場料収入	554,557,574	194,709,634	218,197,990	118,989,130	0	3,666,830	0	1,090,121,158	0	1,090,121,158
展示事業等附帯収入	201,452,054	92,155,867	60,253,344	22,031,659	15,333,475	33,809,163	0	425,035,562	734,649	425,770,211
財産利用収入	150,524,679	87,836,199	25,699,576	4,095,194	2,956,302	6,055,567	0	277,167,517	0	277,167,517
寄附金収益	56,241,111	29,566,239	131,093,224	34,532,704	40,168,084	23,656,329	0	315,257,691	3,951,448	319,209,139
施設費収益	42,185,771	135,162,873	3,811,245	0	0	15,209,886	0	196,369,775	0	196,369,775
その他補助金収益	53,833,405	18,209,416	4,329,713	10,448,436	19,546,051	20,147,646	6,827,191	133,341,858	35,488,050	168,829,908
資産見返負債戻入	124,094,992	310,006,825	60,020,908	167,560,476	58,110,904	68,110,490	397,022	788,301,617	6,515,893	794,817,510
財務収益	7,698	559	278	0	0	479	0	9,014	44,931	53,945
雑益	1,424,324	6,253,053	102,746	551,791	16,321,502	1,233,544	0	25,886,960	0	25,886,960
事業収益計	2,708,443,361	1,414,122,254	1,045,130,684	1,536,772,821	1,412,612,322	1,929,014,337	93,134,875	10,139,230,654	381,415,114	10,520,645,768
事業損益	41,208,509	4,195,806	12,995,553	4,350,126	18,432,927	658,708	1,837,086	83,678,715	15,815,993	99,494,708
Ⅱ臨時損失等										
臨時損失	2,889,975	2,605,026	0	0	0	144,238,178	0	149,733,179	0	149,733,179
臨時損失計	2,889,975	2,605,026	0	0	0	144,238,178	0	149,733,179	0	149,733,179
臨時利益	2,889,975	2,605,026	0	0	0	143,984,372	0	149,479,373	0	149,479,373
臨時利益計	2,889,975	2,605,026	0	0	0	143,984,372	0	149,479,373	0	149,479,373
当期純利益	41,208,509	4,195,806	12,995,553	4,350,126	18,432,927	404,902	1,837,086	83,424,909	15,815,993	99,240,902
目的積立金取崩額	14,827,167	22,059,611	0	243,320	758,693	2,006,557	0	39,895,348	0	39,895,348
当期総利益	56,035,676	26,255,417	12,995,553	4,593,446	19,191,620	2,411,459	1,837,086	123,320,257	15,815,993	139,136,250
Ⅲ行政サービス実施コスト										
業務費用										
損益計算書上の費用	2,670,124,827	1,412,531,474	1,032,135,131	1,532,422,695	1,394,179,395	2,072,593,807	91,297,789	10,205,285,118	365,599,121	10,570,884,239
（控除）自己収入	−962,532,402	−408,170,143	−440,747,209	−216,502,897	−323,993,715	−270,680,905	−51,454,662	−2,674,081,933	−22,952,346	−2,697,034,279
業務費用合計	1,707,592,425	1,004,361,331	591,387,922	1,315,919,798	1,070,185,680	1,801,912,902	39,843,127	7,531,203,185	342,646,775	7,873,849,960
損益外減価償却相当額	1,240,240,843	1,432,982,570	520,244,452	477,573,697	114,484,419	331,406,452	0	4,116,932,433	3,399,464	4,120,331,897
損益外除売却差額相当額	41,646	8,164,862	0	0	0	20,292,454	0	28,498,962	0	28,498,962
引当外賞与見積額	2,957,922	4,262,755	714,739	804,544	−4,827,445	5,495,747	861,659	10,269,921	3,788,238	14,058,159
引当外退職給付増加見積額	−26,143,016	14,295,368	5,951,215	−11,516,025	−45,745,949	−22,298,850	968,904	−84,488,353	−9,910,659	−94,399,012
機会費用										
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	0	0	0	0	0	137,200,902	790,000	137,990,902	0	137,990,902
政府出資又は地方公共団体等の機会費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
行政サービス実施コスト	2,924,689,820	2,464,066,886	1,118,298,328	1,782,782,014	1,134,096,705	2,274,009,607	42,463,690	11,740,407,050	339,923,818	12,080,330,868
Ⅳ総資産										
流動資産	919,272,217	428,613,277	401,085,104	519,954,987	420,918,640	489,930,659	75,109,848	3,254,884,732	1,254,838,286	4,509,723,018
固定資産	93,243,644,766	53,499,685,972	30,894,679,450	26,435,009,409	5,823,973,887	6,981,680,556	1,075,673	216,879,749,713	44,523,827	216,924,273,540
建物	16,245,724,130	17,479,547,026	5,689,485,336	8,844,007,865	2,854,522,888	2,880,032,654	0	53,993,319,899	30,149,315	54,023,469,214
収蔵品	48,967,609,286	25,197,647,978	20,423,967,484	16,472,496,876	0	106,974,567	0	111,168,696,191	0	111,168,696,191
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	0	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	1,197,523,350	1,750,594,068	906,216,426	659,524,668	319,450,999	2,472,673,335	1,075,673	7,307,058,519	14,374,512	7,321,433,031
総資産計	94,162,916,983	53,928,299,249	31,295,764,554	26,954,964,396	6,244,892,527	7,471,611,215	76,185,521	220,134,634,445	1,299,362,113	221,433,996,558

（注）

1．事業の種類の区分方法及び事業の内容

（1）東京国立博物館
我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（2）京都国立博物館
平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（3）奈良国立博物館
仏教美術を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

（4）九州国立博物館
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。
なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

（5）東京文化財研究所
美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

（6）奈良文化財研究所
遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

（7）アジア太平洋無形文化遺産研究センター
アジア太平洋地域の無形文化遺産について調査・研究を行っております。

2．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は365,599,121円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

3．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益、施設費収益、その他補助金収益であります。
なお、事業収益のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は381,415,114円であり、すべて本部事務局に係る収益であります。

4．総資産のうち共通の項目に含めた金額は1,299,362,113円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

19. 主な資産、負債、費用及び収益の明細

19－1 未払金の明細 （単位：円）

取引先	未払金の内訳	金額
株式会社大林組	法隆寺宝物館展示ケース改修・修繕 照明器具製作 他	104,065,560
日本電設工業株式会社	法隆寺宝物館空調改修に伴う電気設備工事他	91,951,200
㈱谷口建築設計研究所	京都国立博物館東収蔵庫他改修設計業務	55,080,000
㈱日本設計関西支社	奈良文化財研究所本庁舎新営（建築）変更設計業務（完成払）	51,366,824
アズビル・三冷・太平 東京国立博物館共同企業体	東京国立博物館施設保守管理業務（1～3月）他	40,673,502
（一社）公共建築協会	京都国立博物館本館免震改修他基本計画検討等業務	38,880,000
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所	京都国立博物館本館免震改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査一式（完成払）	29,049,300
島津サイエンス西日本(株)奈良営業所	走査型電子顕微鏡 一式他	25,387,368
㈱総合設備計画	奈良文化財研究所本庁舎新営（設備）変更設計業務（完成払）	20,260,800
㈱三ツワフロンテック	可搬型蛍光X線分析装置（S1 TracerⅢ-SD）他	20,186,820
その他		1,944,918,802
合計		2,421,820,176

19－2 資産見返運営費交付金の明細 （単位：円）

区分	金額
建物	1,239,589,966
構築物	39,323,656
機械・装置	36,632,021
車両運搬具	10,147,402
工具器具備品	1,579,368,846
ソフトウエア	121,326,352
差入敷金・保証金	180,000
その他無形固定資産	1,008,823
合計	3,027,577,066

19－3 建設仮勘定見返施設費の明細 （単位：円）

区分	金額
京都国立博物館本館収蔵庫改修工事	55,080,000
奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事	430,056,000
奈良文化財研究所本庁舎建替工事	1,887,788,730
合計	2,372,924,730

平成２７年度

決　算　報　告　書

独立行政法人国立文化財機構

平成27年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館事業				京都国立博物館事業				奈良国立博物館事業				九州国立博物館事業			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入																
運営費交付金	1,689,412,000	1,689,412,000	0		1,140,360,000	1,140,360,000	0		663,177,000	663,177,000	0		1,862,032,000	1,862,032,000	0	
施設整備費補助金	109,521,000	406,963,000	297,442,000	（注記）1	170,500,000	232,512,748	62,012,748	（注記）1	1,084,763,000	433,867,245	−650,895,755	（注記）1	0	0	0	
文化芸術振興費補助金	0	53,833,405	53,833,405	（注記）2	0	18,209,416	18,209,416	（注記）2	0	4,329,713	4,329,713	（注記）2	0	10,448,436	10,448,436	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
展示事業等収入	565,728,000	907,602,657	341,874,657	（注記）4	213,679,000	380,955,312	167,276,312	（注記）4	300,288,000	304,253,934	3,965,934		192,146,000	145,667,774	−46,478,226	（注記）4
受託収入	0	5,684,000	5,684,000	（注記）5	0	0	0		0	0	0		0	41,458,871	41,458,871	（注記）5
その他寄附金等	0	116,075,777	116,075,777	（注記）6	0	176,293,639	176,293,639	（注記）6	0	127,314,639	127,314,639	（注記）6	0	40,336,559	40,336,559	（注記）6
計	2,364,661,000	3,179,570,839	814,909,839		1,524,539,000	1,948,331,115	423,792,115		2,048,228,000	1,532,942,531	−515,285,469		2,054,178,000	2,099,943,640	45,765,640	
支　出																
運営事業費	2,255,140,000	2,675,887,832	420,747,832		1,354,039,000	1,786,804,605	432,765,605		963,465,000	1,085,684,016	122,219,016		2,054,178,000	2,174,187,026	120,009,026	
管理経費	348,781,000	385,976,462	37,195,462		160,678,000	256,572,038	95,894,038		151,441,000	147,136,714	−4,304,286		100,649,000	202,017,280	101,368,280	
人件費	155,056,000	159,946,871	4,890,871		79,260,000	85,647,321	6,387,321		76,967,000	79,948,501	2,981,501		41,681,000	43,442,343	1,761,343	
一般管理費	193,725,000	226,029,591	32,304,591	（注記）7	81,418,000	170,924,717	89,506,717	（注記）7	74,474,000	67,188,213	−7,285,787		58,968,000	158,574,937	99,606,937	（注記）11
業務経費	1,906,359,000	2,289,911,370	383,552,370		1,193,361,000	1,530,232,567	336,871,567		812,024,000	938,547,302	126,523,302		1,953,529,000	1,972,169,746	18,640,746	
人件費	800,628,000	778,245,949	−22,382,051		234,289,000	219,620,092	−14,668,908		188,050,000	192,100,003	4,050,003		225,119,000	226,311,940	1,192,940	
調査研究事業費	272,332,000	392,136,150	119,804,150	（注記）8	185,400,000	214,865,149	29,465,149	（注記）8	44,051,000	79,385,646	35,334,646	（注記）8	477,269,000	476,710,708	−558,292	
情報公開事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
研修事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
国際研究協力事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
展示出版事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
展覧事業費	773,504,000	1,043,709,503	270,205,503	（注記）9	769,422,000	1,079,136,751	309,714,751	（注記）9	570,923,000	655,794,776	84,871,776	（注記）9	1,239,077,000	1,254,150,380	15,073,380	
教育普及事業費	59,895,000	75,819,768	15,924,768	（注記）10	4,250,000	16,610,575	12,360,575	（注記）10	9,000,000	11,266,877	2,266,877	（注記）10	12,064,000	14,996,718	2,932,718	（注記）10
施設整備費	109,521,000	406,963,000	297,442,000	（注記）1	170,500,000	232,512,748	62,012,748	（注記）1	1,084,763,000	433,867,245	−650,895,755	（注記）1	0	0	0	
文化芸術振興費	0	53,833,405	53,833,405	（注記）2	0	18,209,416	18,209,416	（注記）2	0	4,329,713	4,329,713	（注記）2	0	10,448,436	10,448,436	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
受託事業費	0	4,709,231	4,709,231	（注記）5	0	0	0		0	0	0		0	41,458,871	41,458,871	（注記）5
計	2,364,661,000	3,141,393,468	776,732,468		1,524,539,000	2,037,526,769	512,987,769		2,048,228,000	1,523,880,974	−524,347,026		2,054,178,000	2,226,094,333	171,916,333	

（注記）

1. 平成26年度予算の平成27年度への繰越及び平成27年度予算の平成28年度への繰越の差額によるものであります。
2. 文化庁による美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業及び地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業によるものであります。
3. 文部科学省による消滅の危機に瀕したアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究事業によるものであります。
4. 展示事業等収入の差額は、入場者数が大幅に増減したこと等によるものであります。
5. 受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。
6. 文化財保存活用基金及び賛助会等の寄附金によるものであります。
7. 一般管理費の差額は、施設整備等に係る経費が見込より増加したことによるものであります。
8. 調査研究事業費の差額は、寄附金等による文化財修理や調査研究によるものであります。
9. 展覧事業費の差額は、寄附金等による収蔵品購入費及び展示環境整備費の増加によるものであります。
10. 教育普及事業費の差額は、寄附金等による資産購入、事業拡充によるものであります。
11. 一般管理費の差額は、寄附金等による開館記念事業に伴うものであります。
12. 一般管理人件費の差額は、退職手当の予算計上区分の相違によるものであります。
13. 事業費の差額は、寄附金等による事業拡充によるものであります。
14. 事業費の差額は、予備費として見込んでいた予算を他の事業費に振替えたことによるものであります。
15. 一般管理費及び調査研究事業費の差額は、予備費として見込んでいた予算を振替えたことによるものであります。
16. 展示事業等収入の差額は、科学研究費補助金間接経費収入等が当初見込みより増えたことによるものであります。

平成27年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	東京文化財研究所事業				奈良文化財研究所事業				アジア太平洋無形文化遺産研究センター事業				共　通			
	予算額	決算額	差　額	備考	予算額	決算額	差　額	備考	予算額	決算額	差　額	備考	予算額	決算額	差　額	備考
収　入																
運営費交付金	1,029,445,000	1,029,445,000	0		1,589,280,000	1,589,280,000	0		27,199,000	27,199,000	0		439,826,000	439,826,000	0	
施設整備費補助金	0	0	0		1,555,767,000	1,683,993,336	128,226,336		0	0	0		0	0	0	
文化芸術振興費補助金	0	20,054,623	20,054,623	（注記）2	0	34,811,886	34,811,886	（注記）2	0	1,827,191	1,827,191	（注記）2	0	35,488,050	35,488,050	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	0	0		0	0	0		0	5,000,000	5,000,000	（注記）3	0	0	0	
展示事業等収入	15,810,000	33,094,343	17,284,343	（注記）16	34,983,000	44,765,583	9,782,583	（注記）16	0	0	0		0	779,580	779,580	（注記）4
受託収入	18,000,000	258,798,061	240,798,061	（注記）5	8,000,000	254,207,167	246,207,167	（注記）5	0	51,454,662	51,454,662	（注記）5	0	18,221,318	18,221,318	（注記）5
その他寄附金等	0	45,515,852	45,515,852	（注記）6	0	67,576,132	67,576,132	（注記）6	0	0	0		0	222,631,132	222,631,132	（注記）6
計	1,063,255,000	1,386,907,879	323,652,879		3,188,030,000	3,674,634,104	486,604,104		27,199,000	85,480,853	58,281,853		439,826,000	716,946,080	277,120,080	
支　出																
運営事業費	1,045,255,000	1,094,241,900	48,986,900		1,624,263,000	1,689,135,018	64,872,018		27,199,000	29,657,914	2,458,914		439,826,000	446,317,360	6,491,360	
管理経費	170,982,000	204,009,346	33,027,346		208,198,000	214,913,247	6,715,247		13,499,000	11,124,000	−2,375,000		439,826,000	446,077,127	6,251,127	
人件費	77,673,000	114,701,647	37,028,647	（注記）12	112,816,000	99,502,427	−13,313,573	（注記）12	6,087,000	6,662,449	575,449		181,558,000	198,258,204	16,700,204	
一般管理費	93,309,000	89,307,699	−4,001,301		95,382,000	115,410,820	20,028,820	（注記）7	7,412,000	4,461,551	−2,950,449	（注記）15	258,268,000	247,818,923	−10,449,077	
業務経費	874,273,000	890,232,554	15,959,554		1,416,065,000	1,474,221,771	58,156,771		13,700,000	18,533,914	4,833,914		0	240,233	240,233	
人件費	415,604,000	419,641,712	4,037,712		643,611,000	685,326,103	41,715,103		11,370,000	12,214,467	844,467		0	240,233	240,233	（注記）2
調査研究事業費	246,590,000	228,757,125	−17,832,875		441,832,000	511,311,450	69,479,450	（注記）8	2,330,000	6,319,447	3,989,447	（注記）15	0	0	0	
情報公開事業費	80,373,000	94,932,804	14,559,804	（注記）13	94,374,000	102,334,616	7,960,616		0	0	0		0	0	0	
研修事業費	1,041,000	3,545,827	2,504,827	（注記）13	11,394,000	9,686,355	−1,707,645	（注記）14	0	0	0		0	0	0	
国際研究協力事業費	117,143,000	130,293,112	13,150,112	（注記）13	39,044,000	34,758,767	−4,285,233	（注記）14	0	0	0		0	0	0	
展示出版事業費	13,522,000	13,061,974	−460,026		185,810,000	130,804,480	−55,005,520	（注記）14	0	0	0		0	0	0	
展覧事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
教育普及事業費	0	0	0		0	0	0		0	0	0		0	0	0	
施設整備費	0	0	0		1,555,767,000	1,683,993,336	128,226,336		0	0	0		0	0	0	
文化芸術振興費	0	20,054,623	20,054,623	（注記）2	0	34,811,886	34,811,886	（注記）2	0	1,827,191	1,827,191	（注記）2	0	35,488,050	35,488,050	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	0	0	0		0	0	0		0	5,000,000	5,000,000	（注記）3	0	0	0	
受託事業費	18,000,000	258,679,031	240,679,031	（注記）5	8,000,000	252,951,356	244,951,356	（注記）5	0	51,302,610	51,302,610	（注記）5	0	18,221,318	18,221,318	（注記）5
計	1,063,255,000	1,372,975,554	309,720,554		3,188,030,000	3,660,891,596	472,861,596		27,199,000	87,787,715	60,588,715		439,826,000	500,026,728	60,200,728	

（注記）

損益計算書の計上金額と決算金額の集計区分の相違の概要

（1）博物館収蔵品の取得支出1,773,358,400円は決算報告書上、展覧事業費に表示されております。

（2）有期雇用職員に係る人件費は損益計算書上、人件費として計上されておりますが、決算報告書上、各事業経費に表示されております。

一般管理費	91,216,630円	展示出版事業費	18,316,990円
調査研究事業費	408,691,704円	展覧事業費	214,349,525円
情報公開事業費	50,782,244円	教育普及事業費	34,726,785円
国際研究協力費	58,753,116円		

（3）損益計算書に計上されている一般管理費人件費のうち3,862,088円、一般管理経費のうち242,321,699円、調査研究事業費のうち619,800円、展覧事業費のうち7,799,788円は決算報告書上、施設整備費に計上されております。

（4）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち240,233円、業務費人件費のうち56,109,589円、調査研究事業費のうち103,592,847円、教育普及事業費のうち3,887,239円は決算報告書上、文化芸術振興費に計上されております。

（5）損益計算書に計上されている一般管理経費のうち23,870円、調査研究事業費のうち4,976,130円は決算報告書上、政府開発援助ユネスコ活動費に計上されております。

平成27年度　決算報告書

（単位：円）

区　　分	合　計			
	予 算 額	決 算 額	差　額	備 考
収　入				
運営費交付金	8,440,731,000	8,440,731,000	0	
施設整備費補助金	2,920,551,000	2,757,336,329	−163,214,671	
文化芸術振興費補助金	0	179,002,720	179,002,720	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	5,000,000	5,000,000	（注記）3
展示事業等収入	1,322,634,000	1,817,119,183	494,485,183	（注記）4・16
受託収入	26,000,000	629,824,079	603,824,079	（注記）5
その他寄附金等	0	795,743,730	795,743,730	（注記）6
計	12,709,916,000	14,624,757,041	1,914,841,041	
支　出				
運営事業費	9,763,365,000	10,981,915,671	1,218,550,671	
管理経費	1,594,054,000	1,867,826,214	273,772,214	
人件費	731,098,000	788,109,763	57,011,763	
一般管理費	862,956,000	1,079,716,451	216,760,451	（注記）7・11
業務経費	8,169,311,000	9,114,089,457	944,778,457	
人件費	2,518,671,000	2,533,700,499	15,029,499	
調査研究事業費	1,669,804,000	1,909,485,675	239,681,675	（注記）8・15
情報公開事業費	174,747,000	197,267,420	22,520,420	（注記）13
研修事業費	12,435,000	13,232,182	797,182	
国際研究協力事業費	156,187,000	165,051,879	8,864,879	
展示出版事業費	199,332,000	143,866,454	−55,465,546	（注記）14
展覧事業費	3,352,926,000	4,032,791,410	679,865,410	（注記）9
教育普及事業費	85,209,000	118,693,938	33,484,938	（注記）10
施設整備費	2,920,551,000	2,757,336,329	−163,214,671	
文化芸術振興費	0	179,002,720	179,002,720	（注記）2
政府開発援助ユネスコ活動費	0	5,000,000	5,000,000	（注記）3
受託事業費	26,000,000	627,322,417	601,322,417	（注記）5
計	12,709,916,000	14,550,577,137	1,840,661,137	

平成２７年度

（第９期事業年度）

事　業　報　告　書

独立行政法人国立文化財機構

目　次

１．国民の皆様へ

２．法人の基本情報
(1) 目的、業務内容、沿革、設立に係る根拠法、主務大臣、組織図その他法人の概要
(2) 事務所の所在地
(3) 資本金の状況
(4) 役員の状況
(5) 常勤職員の状況

３．財務諸表の要約
(1) 要約した財務諸表
　① 貸借対照表
　② 損益計算書
　③ キャッシュ･フロー計算書
　④ 行政サービス実施コスト計算書
(2) 財務諸表の科目

４．財務情報
(1) 財務諸表の概要
　① 資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析
　② セグメント総資産の経年比較・分析
　③ セグメント事業損益の経年比較・分析
　④ 積立金の申請、取崩内容等
　⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析
(2) 重要な施設等の整備等の状況
　① 当事業年度中に完成した主要施設等
　② 当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
　③ 当該事業年度中に処分した主要施設等
(3) 予算及び決算の概要
(4) 経費削減及び効率化に関する目標及びその達成状況
　① 経費削減及び効率化目標
　② 経費削減及び効率化目標の達成度合いを測る財務諸表等の科目（費用等）の経年比較

５．事業の説明
(1) 財源の内訳
　① 内訳（補助金、運営費交付金、借入金、債券発行等）
　② 自己収入の明細（自己収入の概要、収入先等）
(2) 財務情報及び業務の実績の説明

６．事業等のまとまりごとの予算・決算の概況
(1) 平成27年度事業等のまとまりごとの予算・決算の概況（博物館）
(2) 平成27年度事業等のまとまりごとの予算・決算の概況（研究所・センター及び共通）

独立行政法人国立文化財機構　平成 27 年度事業報告書

１．国民の皆様へ

私ども独立行政法人国立文化財機構（以下「機構」といいます。）は、平成 19 年 4 月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合されて設立されました。国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的とし、歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

博物館においては、前年度に引き続き 398 万人という多くのお客様をお迎えすることができました。平常展示において東京国立博物館 75 万人、京都国立博物館 21 万人、奈良国立博物館 10 万人、九州国立博物館 41 万人と、四館で 146 万人ものお客様にご来館いただいたことに加え、「始皇帝と大兵馬俑展」（東京国立博物館 48 万人）、「琳派　京を彩る」展（京都国立博物館 33 万人）、「第 67 回正倉院展」（奈良国立博物館 22 万人）、「美の国日本」展（九州国立博物館 16 万人）など特別展示も盛況でした。

研究所・センターにおいては、東京文化財研究所では国内の有形・無形文化財の調査研究に加え、国外での文化遺産保存修復協力事業を継続実施し、奈良文化財研究所では平城宮跡及び藤原宮跡の発掘調査を継続実施するとともに、ウェブサイトなどでの情報発信にも力を入れました。アジア太平洋無形文化遺産研究センターでは引き続きアジア太平洋地域における無形文化遺産の調査研究を推進しました。

施設整備の面では、東京国立博物館法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事や奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事等に予算措置頂き、老朽設備の改修や観覧環境の向上を図ることができました。

今後は継続中の奈良文化財研究所本庁舎建替工事の外、老朽化の著しい建物や設備の整備を計画的に進めるとともに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、国内外の皆様に日本の文化財の魅力を発信できる環境の整備を進めて参ります。

私ども機構は、国の文化財行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命の下、引き続き、文化財の保存と活用、またそのための基礎研究と最先端の研究という四つの大きな柱を機能させ、更なる活性化を推進して参ります。

私どもの事業実施に、引き続き皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。

２.法人の基本情報

(1) 目的、業務内容、沿革、設立に係る根拠法、主務大臣、組織図その他法人の概要

① 法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規定する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

② 業務内容

当機構は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

1）博物館を設置すること。
2）有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
3）前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
4）第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
5）文化財に関する調査及び研究を行うこと。
6）前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
7）文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
8）第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
9）第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
10）前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③ 沿革

平成19年4月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立
平成23年10月　アジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置

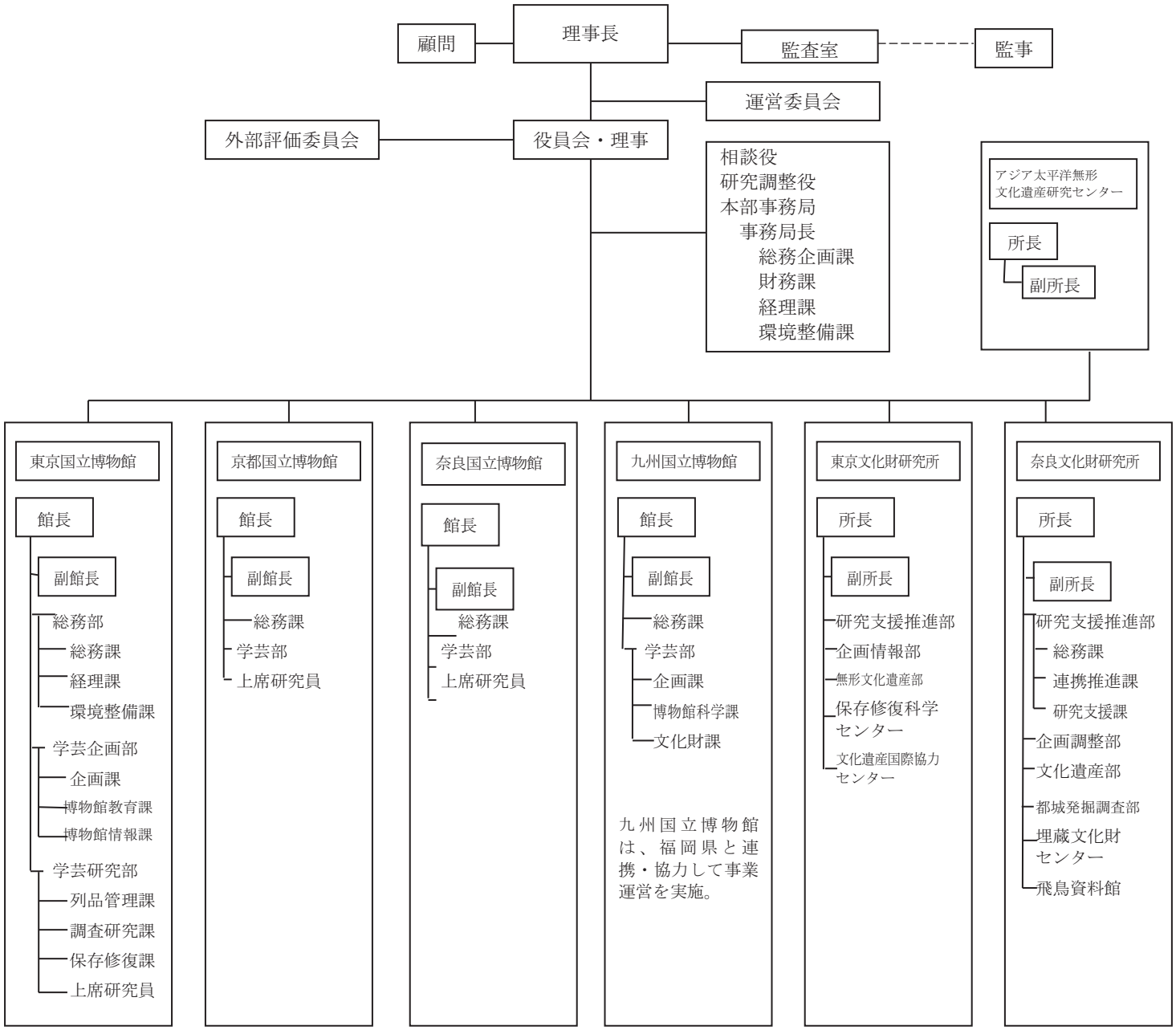
④ 設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成11年法律第178号）

⑤ 主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁文化財部美術学芸課）

⑥ 組織図（平成 28 年 3 月 31 日現在）



⑦ その他法人の概要

機構は、ともに文化財の保存及び活用という同一の目的を有する独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所の二つの法人の統合により、平成 19 年 4 月に発足いたしました。

統一的なマネジメントの下で、貴重な国民的財産である文化財の保存・活用を一層効果的かつ効率的に推進するため、各施設はそれぞれ次のような役割を果たしています。

1）東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

2）京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

3）奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

4）九州国立博物館

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

5）東京文化財研究所

我が国の文化財の研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで多様な手法により行い、成果を積極的に公表・活用するとともに、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流等を実施する国際協力の拠点としての役割を担っています。

6）奈良文化財研究所

平城宮跡に隣接し、遺跡・建造物・庭園等の土地に結びついた文化財及び南都諸大寺及び近畿周辺を中心とした古社寺等における文化財の保存・活用を図るために発掘・調査・研究を行うとともに、全国各地の発掘調査等に対する協力・助言等を行っています。

7）アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域における危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査活動や、無形文化遺産保護の国際的動向に関する情報収集と配信を行っています。

(2) 事務所（従たる事業所を含む。）の所在地

本部：東京都台東区上野公園 13－9

支部：東京都台東区上野公園 13－9（東京国立博物館）
東京都台東区上野公園 13－43（東京文化財研究所）
京都府京都市東山区茶屋町 527（京都国立博物館）
奈良県奈良市登大路町 50（奈良国立博物館）
奈良県奈良佐紀町 247－1（奈良文化財研究所）
福岡県太宰府市石坂 4－7－2（九州国立博物館）
大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 堺市博物館内
（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

(3) 資本金の額及び出資者ごとの出資額(前事業年度末からのそれぞれの増減を含む)

（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	104,714	0	0	104,714
資本金合計	104,714	0	0	104,714

(4) 役員の氏名、役職、任期、担当及び経歴

役 職	氏 名	任 期	担 当	経　歴
理事長 (常勤)	佐々木丞平	自 平成19年4月1日 至 平成29年3月31日		昭和45年4月　京都府教育委員会 昭和47年4月　文化庁入庁 昭和56年4月　京都大学 平成　3年3月　京都大学文学部教授 平成12年4月　京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月　京都大学 大学文書館長 平成17年3月　退職 平成17年4月　(独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長） 平成19年3月　退職（統合のため）
理　事 (常勤)	松村 恵司	自 平成23年10月1日 至 平成29年3月31日	文化財の調査・研究・保存修復、ナショナルセンター機能担当	昭和52年10月　奈良国立文化財研究所 昭和62年10月　文化庁入庁 平成　7年4月　奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長 平成18年4月　(独)文化財研究所奈良文化財研究所都城発掘調査部上席研究員・考古第一研究室長 平成20年4月　(独)国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部長 平成21年4月　文化庁文化財部文化財鑑査官 平成23年3月　退職
理　事 (常勤)	池原 充洋	自 平成26年4月1日 至 平成29年3月31日	総務、財務、危機管理担当	昭和57年4月　文部省入省 平成11年7月　文部科学省初等中等教育局特殊教育課長 平成16年1月　文化庁長官官房国際課長 平成18年4月　文部科学省研究開発局参事官 平成22年7月　文部科学省大臣官房国際課長 平成24年4月　国立大学法人埼玉大学理事・事務局長
理　事 (非常勤)	渡邉 妙子	自 平成26年7月1日 至 平成29年3月31日	対外広報担当	昭和31年4月　株式会社国連社 昭和32年6月　株式会社第一銀行 昭和41年8月　財団法人佐野美術館 平成12年6月　財団法人佐野美術館長　現在に至る
監　事 (非常勤)	久留島典子	自 平成27年4月1日 至 平成27年度財務諸表承認日		昭和56年4月　東京大学史料編纂所助手 平成　4年4月　東京大学史料編纂所助教授 平成11年4月　東京大学史料編纂所教授　現在に至る 平成14年 4月　東京大学総長特任補佐 平成25年4月　国立大学法人東京大学史料編纂所長 平成27年4月　国立大学法人東京大学副学長　現在に至る 国立大学法人東京大学附属図書館長 現在に至る
監　事 (非常勤)	中元 文徳	自 平成26年7月1日 至 平成27年度財務諸表承認日		昭和50年3月　監査法人中央会計事務所 平成14年4月　中央青山監査法人顧問 平成16年4月　国立大学法人金沢大学監事 平成21年4月　熊本学園大学会計専門職大学院専任教授 現在に至る 平成22年11月　石川県公立大学法人評価委員会委員 現在に至る 平成24年4月　国立大学法人総合研究大学院大学監事 現在に至る 平成25年4月　相模原市包括外部監査人　現在に至る

(5) 常勤職員の数（前事業年度末からの増減を含む。）及び平均年齢並びに法人への出向者数

常勤職員は平成27年度末現在338人（前期末比6人増）、平均年齢は45歳（前期末に同じ）です。このうち、国等からの出向者は11人、民間からの出向者は0人、平成28年3月31日退職者は△17人です。

３.財務諸表の要約

(1) 要約した財務諸表

① 貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

資産の部	金　額	負債の部	金　額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	3,674	未払金	2,422
未収金	738	その他	1,463
その他	98	流動負債合計	3,885
流動資産合計	4,510		
		固定負債	
固定資産		資産見返負債	5,732
有形固定資産		その他の固定負債	33
建物	54,023	固定負債合計	5,765
収蔵品	111,169	負債合計	9,650
土地	44,411	純資産の部	
工具器具備品	2,610	資本金	104,714
建設仮勘定	2,426	資本剰余金	106,017
その他	2,156	利益剰余金	1,054
無形固定資産	129	純資産合計	211,784
固定資産合計	216,924		
資産合計	221,434	負債純資産合計	221,434

② 損益計算書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日　（単位：百万円）

	金　額
経常費用(A)	10,421
業務費	
人件費	3,376
業務経費	4,235
減価償却費	662
一般管理費	
人件費	883
一般管理経費	1,176
減価償却費	88
その他	1
経常収益(B)	10,521
運営費交付金収益	6,620
受託収入	602
入場料収入	1,090
展示事業等収入	426
財産利用収入	277
寄附金収益	319
施設費収益	196
資産見返負債戻入	795
その他	196
臨時損失(C)	－150
臨時利益(D)	149
前中期目標期間繰越積立金取崩額(E)	3
業務拡充積立金取崩額(F)	37
当期総利益(B－A＋C＋D＋E＋F)	139

③ キャッシュ・フロー計算書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	2,642
人件費支出	－4,114
運営費交付金収入	8,441
自己収入等	3,641
その他の支出	－5,328
その他収入	2
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	－2,804
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	－35
Ⅳ資金増加額（又は減少額）(D＝A＋B＋C)	－196
Ⅴ資金期首残高(E)	3,870
Ⅵ資金期末残高(F＝D＋E)	3,674

④ 行政サービス実施コスト計算書

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日　　（単位：百万円）

	金　額
Ⅰ業務費用	7,874
損益計算書上の費用	10,571
（控除）自己収入等	－2,697
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	4,120
Ⅲ損益外除売却差額相当額	28
Ⅳ引当外賞与見積額	14
Ⅴ引当外退職給付増加見積額	－94
Ⅵ機会費用	138
Ⅶ行政サービス実施コスト	12,080

(2) 財務諸表の科目の説明

①貸借対照表

現金及び預金　　：現金、銀行預金（定期預金含む）

未収金　　：受託事業実施のための立替金、施設利用料の未受領分など

その他（流動資産）　：販売用図録などのたな卸資産、前払保険料、前払費用など

有形固定資産　　：土地、建物、大型研究機器、車両、収蔵品など長期にわたって使用する固定資産で無形固定資産以外のもの

建設仮勘定　　：建設中の建物の建設等のため支出した相当額など

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など

その他（固定資産）　：保証金、長期前払費用

運営費交付金債務　：運営費交付金のうち翌年度に繰り越すものの相当額

未払金　　：退職給付（アソシエイトフェローを除く）、購入代金などの未払金で１年以内に支払期限が到来するもの

その他（流動負債）　：住民税納付のための給与控除預り金など

資産見返負債　　：運営費交付金などにより取得した固定資産（償却資産）の取得額のうちの未償却額

その他（固定負債）　：リース長期未払金など

政府出資金　　：国から出資された土地、建物等の相当額

資本剰余金　　：運営費交付金、施設費、目的積立金、寄附金などで取得した建物、収蔵

品の相当額

利益剰余金　　：剰余金の累計額

②損益計算書

業務費　　：業務の実施に要した経費

人件費　　：給与、賞与、法定福利費等の経費

減価償却費　　：固定資産の取得額をその耐用年数にわたって費用として配分する経費

運営費交付金収益等：運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した相当額

資産見返負債戻入　：固定資産の償却時に当該資産の見返勘定を戻入したことによる収益

臨時損失　　：固定資産除却損

臨時利益　　：運営費交付金及び寄附による備品の除却により資産見返運営費交付金等を戻入したことによる利益

前中期目標期間繰越積立金取崩額：前中期目標期間に受託研究費で取得した研究機器の当該年度の減価償却費相当額

③キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：通常業務の実施に係る資金の状態。サービス提供等による収入、原材料、商品又はサービス購入による支出、人件費支出等

投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態で、固定資産の取得・売却等による収入・支出

財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等

④行政サービス実施コスト計算書

業務費用　　：損益計算書における一切の費用から運営費交付金、施設整備費補助金等の国からの措置に基づく収益を控除した相当額

損益外減価償却相当額：建物などで減価に対応すべき収益の獲得が予定されないとされた資産の減価償却費相当額（損益計算書には反映されていないが、減価償却累計額は貸借対照表に反映）

損益外除売却差額相当額：上記のような建物などを除売却した場合の損益計算書には反映されない除売却損相当額

損益外減損損失相当額：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額

引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額：財源措置が運営費交付金により行われる場合の賞与引当金増加見積額・退職給付引当金増加見積額（損益計算書には反映されていないが、貸借対照表に注記）

機会費用　　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の相当額を市場で運用すると仮定した場合に得られたと考えられる運用益相当額

４.財務情報

(1) 財務諸表の概要

① 資産、負債、経常費用、経常収益、当期総損益、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

主要な財務データの経年比較　（単位：百万円）

区　　分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
資産	206,245	220,156	220,058	220,040	221,434
負債	15,189	15,469	9,747	8,780	9,650
利益剰余金（又は繰越欠損金）	691	752	778	1,000	1,054
純資産	191,056	204,687	210,311	211,260	211,784
経常費用	8,908	8,746	9,257	10,154	10,421
経常収益	8,946	8,820	9,280	10,377	10,521
当期総利益	44	67	31	225	139
業務活動によるキャッシュ・フロー	664	1,171	2,056	1,988	2,642
投資活動によるキャッシュ･フロー	867	2,206	－5,310	－3,277	－2,804
財務活動によるキャッシュ・フロー	－14	－13	－14	－34	－35
資金期末残高	5,098	8,462	5,193	3,870	3,674

（資産）

平成27年度末現在の資産合計は、2,214億34百万円と前年度比13億94百万円（0.6%）増加しました。これは、前年度にしゅん工した工事の支払等により現金預金が36億74百万円と同6億46百万円（15.0%）減少したこと、収蔵品、土地、建設仮勘定を除く有形固定資産について減価償却額が新規取得額を上回り、差引39億2百万円（6.2%）の減少となったこと、国から別途措置頂いた予算による購入や寄贈により収蔵品が1,111億69百万円と同41億87百万円（3.9%）増加したこと、継続中の工事により建設仮勘定が24億26百万円と同19億74百万円（437.1%）増加したことが主な要因です。

（負債）

平成27年度末現在の負債合計は、96億50百万円と前年度比8億70百万円（9.9%）増加しました。これは、前年度に比べ工事に係る未払金が少なく、期末での未払金計上額が24億22百万円と同9億7百万円（27.3%）減少したこと、中期目標期間終了に当り運営費交付金債務を全額収益化したため、前年度比3億16百万円（100.0%）減少したこと、大口の寄附等により預り寄附金が11億53百万円と同3億11百万円（36.9%）増加したこと、建設仮勘定等増加に伴い資産見返負債が57億32百万円と同18億73百万円（48.5%）増加したことが主な要因です。

（純資産）

平成27年度末現在の純資産合計は、2,117億84百万円と前年度比5億24百万円（0.2%）増加しました。これは、資本剰余金が1,060億17百万円と同4億70百万円（0.4%）増加したこと、利益剰余金が10億54百万円と53百万円（5.3%）増加したことによるものです。資本剰余金の増加は、収蔵品の寄贈等による増加40億49百万円、損益外減価償却累計額による減少38億73百万円等によるものです。利益剰余金の増加は、当期未処分利益の前年度比減少額85百万円、前年度利益の積立金繰入1億

38 百万円、前中期目標期間繰越積立金の取崩し 3 百万円等によるものです。
平成 26 年度利益処分において、展覧会事業等による利益として東京国立博物館 15 百万円、京都国立博物館 72 百万円の目的積立金が承認されました。文化財購入や展覧会場整備等の経費として使用いたしました。

（経常費用）
平成 27 年度の経常費用は、104 億 21 百万円と前年度比 2 億 67 百万円（2.6%）増加しました。
人件費は、42 億 59 百万円と同 2 億 77 百万円（7.0%）増加しました。国の一般職の職員の給与に関する法律の改正に準じ、東京、奈良、九州地区において地域手当支給率を見直したこと等により、給与が同 1 億 51 百万円（4.0%）増加したこと、定年退職者の退職手当が同 1 億 26 百万円（71.1 %）増加したことによるものです。
物件費は、業務経費が同 1 億 12 百万円（2.6%）減の 42 億 35 百万円、一般管理経費が 66 百万円（6.0%）増の 11 億 76 百万円となりました。一般管理経費の増加は、施設整備費補助金工事の影響により、消費税額が 1 億 45 百万円と同 1 億 1 百万円（232.0%）増加したことが主な要因です。

（経常収益）
平成 27 年度の経常収益は、105 億 21 百万円と前年度比 1 億 44 百万円（1.4%）増加しました。入場者数増により入場料収入が同 59 百万円（5.8%）増の 10 億 90 百万円、イベント等への建物貸付により財産利用収入が同 43 百万円（18.1%）増の 2 億 77 百万円となった一方、展示事業等附帯収入は同 28 百万円（6.2%）減の 4 億 26 百万円となりました。展示事業等附帯収入は微減となりましたが、前年度に京都国立博物館平成知新館開館等による一時的な収入増加があったことが主な要因として挙げられます。運営費交付金収益は同 1 億 5 百万円（1.6%）減の 66 億 20 百万円、資産見返負債戻入は同 41 百万円（5.4%）増の 7 億 95 百万円と、いずれも前年度から大きな増減はありませんでした。

（当期総利益）
以上による経常利益 99 百万円に、臨時損失 1 億 50 百万円と臨時利益 1 億 49 百万円を差し引きし、前中期目標期間繰越積立金取崩額 3 百万円及び目的積立金取崩額 37 百万円と合わせて、平成 27 年度の当期総利益は前年度比 86 百万円（38.1%）減の 1 億 39 百万円となりました。臨時損失、臨時利益ともに前年度比 1 億 47 万円ほど増加していますが、これらは奈良文化財研究所本庁舎新築工事に伴い取り壊した旧庁舎を除却したことが主な要因です。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）
平成 27 年度の業務活動によるキャッシュ・フローでは、収入が 26 億 44 百万円と前年度比 6 億 55 百万円（33.0%）増加しました。これは、支出面で業務支出が 49 億 59 百万円と同 4 億 95 百万円（9.1%）減少したこと、収入面で運営費交付金収入が 84 億 41 百万円と同 2 億 2 百万円（2.5%）、その他補助金収入が 2 億 24 百万円と同 2 億 4 百万円（986.8%）増加したことが主な要因です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成 27 年度の投資活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 28 億 4 百万円と前年度比 4 億 73 百万円（14.4%）減少しました。これは、定期預金の預入による支出が無くなり同 7 億 50 百万円（100.0%）減少したこと、施設費による収入が 30 億 43 百万円と同 1 億 71 百万円（5.3%）減少したことが主な要因です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成 27 年度の財務活動によるキャッシュ・フローでは、支出が 35 百万円と前年度比 1 百万円（3.0%）増加しました。当該区分は、リース債務の支払による支出のみであり、同支払の増加によるものです。

② セグメント総資産の経年比較・分析

セグメント総資産の経年比較　（単位：百万円）

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
東京国立博物館	89,950	89,786	92,548	93,585	94,163
京都国立博物館	42,128	51,806	56,092	54,385	53,928
奈良国立博物館	30,667	30,512	31,725	31,607	31,296
九州国立博物館	26,850	26,443	26,610	26,660	26,955
東京文化財研究所	6,774	6,605	6,508	6,216	6,245
奈良文化財研究所	6,171	6,016	5,897	6,092	7,472
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	4	56	66	78	76
共　通	3,701	8,932	611	1,417	1,299
合　　計	206,245	220,156	220,058	220,040	221,434

総資産は 2,214 億 34 百万円と、前年度比 13 億 94 百万円（0.6%）増加しました。

以下、施設毎に概況について報告いたします。

東京国立博物館においては 941 億 63 百万円と、同 5 億 77 百万円（0.6%）増加しました。主な資産としては、建物が 162 億 46 百万円と同 8 億 3 百万円（4.7%）減少、収蔵品が 489 億 68 百万円と同 23 億 72 百万円（5.1%）増加しました。

京都国立博物館においては 539 億 28 百万円と、同 4 億 56 百万円（0.8%）減少しました。主な資産としては、建物が 174 億 80 百万円と同 12 億 58 百万円（6.7%）減少、収蔵品が 251 億 98 百万円と同 9 億 75 百万円（4.0%）増加しました。

奈良国立博物館においては 312 億 96 百万円と、同 3 億 11 百万円（1.0%）減少しました。主な資産としては、建物が 56 億 89 百万円と同 5 億 4 百万円（8.1%）減少、収蔵品が 204 億 24 百万円と同 1 億 47 百万円（0.7%）増加しました。

九州国立博物館においては 269 億 55 百万円と、同 2 億 95 百万円（1.1%）増加しました。主な資産としては、建物が 88 億 44 百万円と同 4 億 27 百万円（4.6%）減少、収蔵品が 164 億 72 百万円と同 6 億 93 百万円（4.4%）増加しました。

東京文化財研究所においては 62 億 45 百万円と、29 百万円（0.5%）増加しました。主な資産としては、建物が 28 億 55 百万円と同 93 百万円（3.2%）減少しました。

奈良文化財研究所においては 74 億 72 百万円と同 13 億 79 百万円（22.6%）増加しました。主な資産としては、建物が 28 億 80 百万円と同 2 億 95 百万円（9.3%）減少しました。その他の固定資産が 24 億 73 百万円と同 15 億 35 百万円（163.8%）増加しましたが、これは本庁舎新築工事に伴う建設仮勘定の増加分となります。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、総資産が 76 百万円となりま

した。建物は借用しており、資産のほとんどは現金預金及び未収金となります。

共通は、機構本部事務局その他の資産であり、12 億 99 百万円と同 1 億 18 百万円（8.3%）減少しました。昨年度と比べ施設整備費補助金に関する未収金が減り、資産の大半は現金預金となります。

③ セグメント事業損益の経年比較・分析

セグメント事業損益の経年比較　（単位：百万円）

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
東京国立博物館	69	20	2	25	41
京都国立博物館	－185	5	2	72	4
奈良国立博物館	－10	0	1	－0	13
九州国立博物館	16	35	－3	15	4
東京文化財研究所	51	10	4	6	18
奈良文化財研究所	－35	1	0	5	1
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	2	1	0	2	2
共通	130	2	18	98	16
合　　計	38	74	23	223	99

事業損益は 99 百万円の利益と前年度比 123 百万円（55.3%）減少しました。

以下、施設毎に概況について報告いたします。

東京国立博物館においては 41 百万円の利益と同 17 百万円(67.3%)増加しました。これは、事業費用が 26 億 67 百万円と同 63 百万円（2.3%）減少、事業収益が 27 億 8 百万円と同 47 百万円（1.7%）減少したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 9 億 84 百万円と同 30 百万円（3.2%）増加、一般管理人件費が 1 億 67 百万円と同 17 百万円（9.0%）減少しました。業務人件費の増加は補助金事業実施による有期雇用職員経費の増加、一般管理人件費の減少は退職手当の減少が主な要因です。物件費は、調査研究業務費が 3 億 17 百万円と同 62 百万円(24.2%)増加、展覧業務費 7 億 23 百万円と同 91 百万円（11.2%）減少、教育普及業務費 41 百万円と同 10 百万円（20.1%）減少、受託業務費が 5 百万円と同 11 百万円（69.1%）減少、一般管理経費が 3 億 7 百万円と同 11 百万円（3.4%）減少しました。調査研究事業費の増加は補助金事業実施による経費増加が主な要因です。事業収益については、運営費交付金収益が 15 億 18 百万円と同 16 百万円（1.0%）減少、受託収入が 6 百万円と同 10 百万円（62.7%）減少、入場料収入が 5 億 55 百万円と同 23 百万円（4.3%）増加、展示事業等附帯収入が 2 億 1 百万円と同 11 百万円（5.1%）減少、財産利用収入が 1 億 51 百万円と同 17 百万円（9.9%）減少、寄附金収益が 56 百万円と同 27 百万円（92.3%）増加、施設費収益が 42 百万円と同 60 百万円（58.5%）減少、その他補助金収益が 54 百万円と同 30 百万円（127.5%）増加しました。入場料収入の増加は総合文化展入場者数の増加、展示事業等附帯収入の減少は友の会・パスポート収入の減少、財産利用収入の減少はイベント等の建物貸付収入の減少が主な要因です。

京都国立博物館においては、4 百万円の利益と同 68 百万円（94.2%）減少しました。これは、事業費用が 14 億 10 百万円と同 25 百万円（1.8%）減少、事業収益が 14 億 14 百万円と同 93 百万円（6.2%）減少したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 3 億 1 百万円と同 18 百万円（5.5%）減少、一般管理人件費が 90 百万円と同 1 百万円（2.0%）増加しました。業務人件費の減少は退職手当の減少が主な要因です。物件費は、調査研究業務費が 1 億 28 百万円と同 6 百万

円（4.7%）減少、展覧業務費が 2 億 67 百万円と同 1 億 28 百万円（32.4%）減少、教育普及業務費が 14 百万円と同 2 百万円（12.1%）減少、一般管理経費が 3 億 80 百万円と同 90 百万円（31.2%）増加しました。展覧業務費の減少は、平成知新館開館関連経費の減少、一般管理費の増加は施設整備費補助金による修繕費等の増加が主な要因です。事業収益については、運営費交付金収益が 5 億 40 百万円と同 2 億 62 百万円（32.7%）減少、入場料収入が 1 億 95 百万円と同 42 百万円（27.4%）増加、展示事業等附帯収入が 92 百万円と同 4 百万円（4.6%）減少、財産利用収入が 88 百万円と同 57 百万円（188.4%）増加、寄附金収益が 30 百万円と同 11 百万円（26.4%）減少、施設費収益が 1 億 35 百万円と同 35 百万円（35.5%）増加、その他補助金収益が 18 百万円と同 3 百万円（19.2%）増加しました。入場料収入の増加は共催展入場者数の増加、展示事業等附帯収入の減少は刊行物売払代の減少、財産利用収入の増加は建物貸付料の増加が主な要因です。

奈良国立博物館においては、13 百万円の利益と同 13 百万円（2,939.2%）増加しました。これは、事業費用が 10 億 32 百万円と同 31 百万円（3.1%）、事業収益が 10 億 45 百万円と同 45 百万円（4.4%）それぞれ増加したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 2 億 70 百万円と同 40 万円（0.1%）減少、一般管理人件費が 89 百万円と同 2 百万円（2.0%）増加しました。物件費は、調査研究業務費が 74 百万円と同 13 百万円（21.7%）増加、展覧業務費が 4 億 45 百万円と同 4 百万円（0.9%）減少、教育普及業務費が 11 百万円と同 2 百万円（22.5%）増加、一般管理経費が 83 百万円と同 22 百万円（35.8%）増加しました。調査研究業務費の増加は寄附金による文化財修理の増加が主な要因です。事業収益は、運営費交付金収益が 5 億 42 百万円と同 27 百万円（5.2%）増加、入場料収入が 2 億 18 百万円と同 21 百万円（8.7%）減少、展示事業等附帯収入が 60 百万円と同 5 百万円（8.2%）減少、財産利用収入が 26 百万円と同 1 百万円（5.4%）増加、寄附金収益が 1 億 31 百万円と同 60 百万円（84.1%）増加、施設費収益が 4 百万円と同 17 百万円（81.9%）減少、その他補助金収益が 4 百万円と同 3 百万円（243.3%）増加しました。入場料収入の減少は自主企画展入場料収入の減少、展示事業等附帯収入の減少は企画・監修料の減少、財産利用収入の増加は特別観覧料等の増加が主な要因です。

九州国立博物館においては 4 百万円の利益と、同 11 百万円（71.9%）減少しました。これは、事業費用が 15 億 32 百万円と同 97 百万円（6.7%）増加し、事業収益が 15 億 37 百万円と同 86 百万円（5.9%）増加したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 3 億 36 百万円と同 21 百万円（6.5%）増加、一般管理人件費が 56 百万円と同 47 万円（0.8%）減少しました。業務人件費の増加は寄附金やその他補助金事業実施のための有期雇用人件費の増加が主な要因です。物件費は、調査研究業務費が 2 億 63 百万円と同 15 百万円（6.2%）増加、展覧業務費が 5 億 32 百万円と同 29 百万円（5.2%）減少、教育普及業務は 3 百万円と同 2 百万円（162.3%）、受託業務費は 41 百万円と同 27 百万円（186.0%）増加、一般管理経費は 1 億 10 百万円と同 55 百万円（101.8%）増加しました。一般管理経費の増加は開館 10 周年記念事業に伴う経費が主な要因です。事業収益は、運営費交付金収益が 11 億 37 百万円と同 2 百万円(0.2%)増加、受託収入が 41 百万円と同 27 百万円(186.0%)増加、入場料収入が 1 億 19 百万円と同 15 百万円（14.1%）増加、展示事業等附帯収入が 22 百万円と同 1 百万円(5.2%)減少、財産利用収入が 4 百万円と同 12 万円(3.1%)増加、寄附金収益が 35 百万円と皆増、その他補助金収益が 10 百万円と同 9 百万円

（639.6%）増加しました。入場料収入の増加は平常展入場料及び共催展入場料収入の増加によるものです。

東京文化財研究所においては 18 百万円の利益と、同 12 百万円（190.2%）増加しました。これは、事業費用が 13 億 94 百万円と同 1 億 84 百万円（15.2%）増加、事業収益が 14 億 13 百万円と同 1 億 96 百万円（16.1%）増加したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 5 億 53 百万円と同 91 百万円(19.8%)増加、一般管理人件費が 1 億 41 百万円と同 10 百万円（7.8%）増加しました。いずれも退職手当が増加の主な要因です。物件費は、調査研究業務費が 1 億 29 百万円と同 28 百万円（27.1%）増加、情報公開業務費が 59 百万円と同 15 百万円（34.2%）増加、研修業務費が 4 百万円と同 1 百万円（15.6%）減少、国際研究協力業務費が 72 百万円と同 23 百万円（24.5%）減少、展示出版業務費が 10 百万円と同 2 百万円（17.2%）増加、受託業務費が 2 億 59 百万円と同 33 百万円（14.6%）増加、一般管理経費が 1 億 5 百万円と同 23 百万円（28.7%）増加しました。調査研究業務費の増加は寄附金や補助金事業による経費の増加、情報公開業務費の増加は重点的な事業実施、国際研究協力業務費の減少は国際情勢による事業の一部延期等が主な要因です。事業収益は、運営費交付金収益が 10 億 1 百万円と同 92 百万円（10.1%）増加、受託収入が 2 億 59 百万円と同 33 百万円（14.6%）増加、展示事業等附帯収入が 15 百万円と同 13 万円（0.8%）減少、財産利用収入が 3 百万円と同 6 万円（1.9%）減少、寄附金収益が 40 百万円と同 37 百万円（1,063.4%）増加、その他補助金収益が 20 百万円と同 9 百万円（92.4%）増加しました。

奈良文化財研究所においては、1 百万円の利益と、同 4 百万円（86.8%）減少しました。これは、事業費用が 19 億 28 百万円と同 20 百万円（1.0%）減少、事業収益が 19 億 29 百万円と同 24 百万円（1.2%）減少したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 9 億 12 百万円と同 1 億 15 百万円（14.4%）増加、一般管理人件費が 1 億 23 百万円と同 1 百万円（1.0%）増加しました。業務人件費の増加は退職手当が主な要因です。物件費は、調査研究業務が 2 億 87 百万円と同 23 百万円（8.7%）増加、情報公開業務費が 77 百万円と同 18 百万円（18.9%）減少、研修業務費が 9 百万円と同 34 万円（3.7%）減少、国際研究協力業務費が 29 百万円と同 3 百万円（10.0%）増加、展示出版業務費が 1 億 6 百万円と同 7 百万円（6.3%）減少、受託業務費が 2 億 21 百万円と同 7 百万円（3.0%）減少、一般管理経費が 90 百万円と同 1 億 35 百万円（60.0%）減少しました。調査研究業務費の増加は寄附金や補助金事業実施による経費の増加、情報公開業務費の減少はシステム導入経費の減少、一般管理経費の減少は施設整備費による修繕費の減少が主な要因です。事業収益は、運営費交付金収益が 15 億 31 百万円と同 63 百万円（4.3%）増加、受託収入が 2 億 26 百万円と同 7 百万円（3.2%）減少、入場料収入が 4 百万円と 45 万円（13.9%）増加、展示事業等附帯収入が 34 百万円と同 6 百万円（15.8%）減少、財産利用収入が 6 百万円と同 28 万円(4.8%)増加、寄附金収益が 24 百万円と同 14 百万円(134.9%)増加、施設費収益が 15 百万円と同 99 百万円（同 86.7%）減少、その他補助金収益が 20 百万円と同 9 百万円（80.7%）増加しました。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターにおいては、2 百万円の利益となりました。これは、事業費用が 91 百万円と同 1 百万円（1.3%）増加、事業収益が 93 百万円と同 1 百万円（1.6%）増加したことの差し引きによります。

共通は、機構本部事務局その他の損益で 16 百万円の利益と、同 82 百万円（83.9%）

減少しました。これは、事業費用が 3 億 66 百万円と同 62 百万円（20.6%）増加し、事業収益が 3 億 81 百万円と同 20 百万円（5.0%）減少したことの差し引きによります。事業費用のうち人件費は、業務人件費が 3 百万円と皆増、一般管理人件費が 2 億 11 百万円と同 35 百万円（20.0%）増加しました。物件費は、調査研究業務費が 33 百万円と同 13 百万円（28.6%）減少、受託業務費が 18 百万円と皆増、一般管理経費が 94 百万円と同 19 百万円（25.8%）増加しました。受託業務費は国立のアイヌ文化博物館（仮称）設立準備室支援業務に係るものです。事業収益は、運営費交付金収益が 3 億 16 百万円と同 15 百万円（4.7%）減少、展示事業等附帯収入が 73 万円と同 7 万円（9.1%）減少、寄附金収益が 4 百万円と同 4 百万円（2,607.6%）増加、その他補助金収益が 35 百万円と同 26 百万円（42.4%）減少しました。

④ 積立金の申請、目的積立金の取崩内容

当期未処分利益 1 億 39 百万円については、経常利益 99 百万円のうち施設別に過去 5 年平均経常利益を上回る額を目的積立金として申請する予定です。

目的積立金取崩は、前中期目標期間において自己収入により取得した償却資産に関する減価償却費相当額など 3 百万円、平成 26 年度利益処分として承認された目的積立金のうち展示会場整備等の役務費や消耗品費に相当する額 37 百万円を計上しております。

⑤ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
業務費用	6,962	6,463	6,847	7,780	7,873
損益計算書上の費用	8,910	8,801	9,282	10,157	10,570
（控除）自己収入等	－1,948	－2,338	－2,434	－2,377	-2,697
損益外減価償却相当額	2,843	2,882	3,265	3,617	4,120
損益外除売却差額相当額	55	35	151	1	28
損益外減損損失相当額	1	－	295	－	－
引当外賞与見積額	－29	5	21	－1	14
引当外退職給付増加見積額	48	105	－76	－97	-94
機会費用	1,970	1,207	1,398	922	138
行政サービス実施コスト	11,850	10,697	11,900	12,222	12,080

平成 27 年度の行政サービス実施コストは 120 億 80 百万円と、前年度比 1 億 42 百万円（1.2%）減少しました。これは、業務費用が 78 億 73 百万円と同 93 百万円（1.2%）、損益外除売却差額相当額が 28 百万円と同 28 百万円（3,483.1%）、引当外賞与見積額が 14 百万円と同 15 百万円（2,184.4%）、引当外退職給付増加見積額がマイナス 94 百万円と同 3 百万円（3.1%）と増加した一方、損益外減価償却相当額が 41 億 20 百万円と同 5 億 3 百万円（13.9%）、機会費用が 1 億 38 百万円と同 7 億 84 百万円（85.0%）減少したことによる差し引きです。

(2) 重要な施設等の整備等の状況

① 当事業年度中に完成した主要施設等

＜東京国立博物館＞

法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事

＜京都国立博物館＞
緊急屋根等漏水補修工事

② 当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充
＜京都国立博物館＞
本館収蔵庫改修工事
＜奈良国立博物館＞
なら仏像館免震展示ケース等整備工事
＜奈良文化財研究所＞
本庁舎建替工事

③ 当事業年度中に処分した主要施設等
該当なし

(3) 予算及び決算の概要

①国立文化財機構（過去５ヵ年の推移）　（単位：百万円）

区　分	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
《収入》											
運営費交付金	7,941	7,941	7,602	7,366	8,392	8,392	8,239	8,239	8,441	8,441	
施設整備費補助金	4,792	4,414	6,884	10,273	2,854	6,830	2,990	3,157	2,921	2,757	
文化芸術振興費補助金	－	－	－	－	－	5	－	205	－	179	文化庁補助金交付決定
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	－	－	－	－	－	10	－	8	－	5	文部科学省補助金交付決定
展示事業等収入	1,188	1,318	1,309	1,587	1,322	1,240	1,323	1,730	1,323	1,817	入場料収入増等
受託収入	26	507	26	634	26	625	26	541	26	630	当初見込外契約の増加
その他寄附金等	－	241	－	200	－	172	－	790	－	796	賛助会等
合　計	13,947	14,421	15,821	20,060	12,594	17,274	12,578	14,670	12,710	14,625	
《支出》											
運営事業費	9,129	8,952	8,911	8,856	9,714	9,720	9,562	10,288	9,763	10,982	
・人件費	3,119	3,116	3,078	2,806	2,781	2,900	3,101	3,137	3,250	3,322	
・業務経費	6,010	5,836	5,833	6,050	6,933	6,820	6,461	7,151	6,513	7,660	
（一般管理費）	833	917	811	681	801	607	1,008	832	863	1,080	記念事業等による
（調査研究事業費）	1,297	1,440	1,167	1,481	1,955	1,776	1,309	1,772	1,670	1,909	寄附金等による事業増
（情報公開事業費）	169	147	133	201	187	161	181	211	175	197	寄附金等による事業増
（研修事業費）	18	16	13	18	20	13	20	14	12	13	
（国際研究協力事業費）	245	178	265	163	224	152	214	175	156	165	
（展示出版事業費）	187	196	259	213	185	151	160	157	199	144	他経費へ振替
（展覧事業費）	3,206	2,846	3,138	3,229	3,485	3,896	3,493	3,891	3,353	4,033	寄附金等による事業増
（教育普及事業費）	55	96	47	64	76	64	76	99	85	119	寄附金等による事業増
施設整備費	4,792	4,414	6,884	10,273	2,854	6,830	2,990	3,157	2,921	2,757	
文化芸術振興費	－	－	－	－	－	5	－	205	－	179	
政府開発援助ユネスコ活動費	－	－	－	－	－	10	－	8	－	5	

受託事業費	26	512	26	620	26	611	26	539	26	627	
合　　計	13,947	13,878	15,821	19,749	12,594	17,176	12,578	14,197	12,710	14,551	

(4) 経費削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

① 経費削減及び効率化目標

機構においては、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き 5 年期間中で一般管理費 15%以上の削減を目標としております。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じています。

1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化

2) 使用資源の減少

・省エネルギー（5 年期間 5%の減少）

・廃棄物減量化（使用資源の節減と廃棄物の減量に引き続き努める）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

3) 施設有効使用の推進

・施設の利用推進

4) 民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直し、民間開放の推進

・各施設の警備・清掃業務についての民間委託の推進

・来館者サービスを中心とした業務の見直し、民間委託の推進

5) 競争入札の推進

・契約業者の競合を推進することによる経費の効率化

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等による経費の効率化

② 経費削減及び効率化目標の達成度合いを測る財務諸表等の科目（費用等）の経年比較

一般管理費の経年比較　（単位：百万円）

区　分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間									
	金額	比率	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度	
			金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
一般管理費	932	100%	917	98.4%	681	73.1%	607	65.1%	832	89.3%	1,080	115.9%

※比率は対前中期目標期間終了年度

※平成 27 年度は施設整備費補助金の影響により消費税負担額が 1 億 45 百万円と例年に比べ高額であったことに加え、寄附金や自己収入財源による一般管理費支出が 2 億 64 百万円あり、これらを除いた一般管理費は 6 億 71 百万円となる。前中期目標期間終了年度の金額 9 億 32 百万円のうち寄附金や自己収入財源を除いた額は 8 億 58 百万円となり、同額に対する平成 27 年度一般管理費比率は 78.2%となる。

5. 事業の説明

(1) 財源の内訳

① 内訳（補助金、運営費交付金、借入金、債券発行等）

機構の経常収益は 105 億 21 百万円で、その内訳は、運営費交付金収益 66 億 20 百万円（62.9%）、受託収入 6 億 2 百万円（5.7%）、入場料収入 10 億 90 百万円（10.4%）、展示事業等附帯収入 4 億 26 百万円（4.0%）、財産利用収入 2 億 77 百万円（2.6%）、寄附金収益 3 億 19 百万円（3.0%）、施設費収益 1 億 96 百万円（1.9%）、その他補助金収益 1 億 69 百万円（1.6%）、資産見返負債戻入 7 億 95 百万円（7.6%）等です。

② 自己収入の明細（自己収入の概要、収入先等）

機構では、年間を通じて博物館を開館し、収蔵品を観覧に供する外、年複数回の特別展覧会を開催し、今年度は 10 億 90 百万円の入場料収入を得ています。この外に展示事業等附帯収入として 4 億 26 百万円を得ています。主な内訳としては、年間パスポート販売 1 億 16 百万円、ミュージアムショップやレストランの販売手数料収入 71 百万円、科学研究費補助金間接経費収入 74 百万円などです。また財産利用収入として 2 億 77 百万円を得ています。主な内訳としては、文化財画像利用等に伴う版権・特許権使用料 59 百万円、ショップやレストラン等の建物年間貸付料 54 百万円、講堂等の建物貸付料 70 百万円などです。

(2) 財務情報及び業務の実績の説明

ア 調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること、及び文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 12 億 39 百万円です。その財源は、運営費交付金 7 億 58 百万円及び自己収入等 4 億 81 百万円です。

イ 情報公開事業

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の方が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 36 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 36 百万円等です。

ウ 研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、及び保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としています。

事業に要した費用は 12 百万円です。その財源は、運営費交付金のみです。

エ 国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 1 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 1 百万円等です。

オ 展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること、及び研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としています。

事業に要した費用は 1 億 16 百万円です。その財源は、運営費交付金 1 億 2 百万円及び自己収入等 14 百万円です。

カ 展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施すること、及び国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことを目的としています。

事業に要した費用は19億67百万円です。その財源は、運営費交付金9億71百万円及び自己収入等9億96百万円です。

キ 教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと、及び教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としています。

事業に要した費用は68百万円です。その財源は、運営費交付金19百万円及び自己収入等49百万円です。

ク 受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としています。

事業に要した費用は5億95百万円です。その財源は、受託収入のみです。

６．事業等のまとまりごとの予算・決算の概況

(1)平成27年度事業等のまとまりごとの予算・決算の概況（博物館）　（単位：百万円）

区　分	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
《収入》 運営費交付金	1,689	1,689	1,140	1,140	663	663	1,862	1,862	
施設整備費補助金	110	407	171	233	1,085	434	0	0	
文化芸術振興費補助金	0	54	0	18	0	4	0	10	文化庁補助金交付決定
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	
展示事業等収入	566	908	214	381	300	304	192	146	入場料収入増等
受託収入	0	6	0	0	0	0	0	41	当初見込外契約の増加
その他寄附金等	0	116	0	176	0	127	0	40	賛助会等
合　計	2,365	3,180	1,525	1,948	2,048	1,533	2,054	2,100	
《支出》 運営事業費	2,255	2,676	1,354	1,787	963	1,086	2,054	2,174	
・人件費	956	938	314	305	265	272	267	270	
・業務経費	1,299	1,738	1,040	1,482	698	814	1,787	1,904	
（一般管理費）	194	226	81	171	74	67	59	159	記念事業等による
（調査研究事業費）	272	392	185	215	44	79	477	477	寄附金等による事業増
（情報公開事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	
（研修事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	

（国際研究協力事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	
（展示出版事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	
（展覧事業費）	774	1,044	769	1,079	571	656	1,239	1,254	寄附金等による事業増
（教育普及事業費）	60	76	4	17	9	11	12	15	寄附金等による事業増
施設整備費	110	407	171	233	1,085	434	0	0	
文化芸術振興費	0	54	0	18	0	4	0	10	
政府開発援助ユネスコ活動費	0	0	0	0	0	0	0	0	
受託事業費	0	5	0	0	0	0	0	41	
合　　計	2,365	3,141	1,525	2,038	2,048	1,524	2,054	2,226	

(2)平成27年度事業等のまとまりごとの予算・決算の概況（研究所・センター及び共通）（単位：百万円）

区　　分	東京文化財研究所		奈良文化財研究所		ｱｼﾞｱ太平洋無形文化遺産研究ｾﾝﾀｰ		共通		差額理由
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	
《収入》 運営費交付金	1,029	1,029	1,589	1,589	27	27	440	440	
施設整備費補助金	0	0	1,556	1,684	0	0	0	0	
文化芸術振興費補助金	0	20	0	35	0	2	0	35	文化庁補助金交付決定
政府開発援助ユネスコ活動費補助金	0	0	0	0	0	5	0	0	文部科学省補助金交付決定
展示事業等収入	16	33	35	45	0	0	0	1	科研間接経費収入増等
受託収入	18	259	8	254	0	51	0	18	当初見込外契約の増加
その他寄附金等	0	46	0	68	0	0	0	223	賛助会等
合　　計	1,063	1,387	3,188	3,675	27	85	440	717	
《支出》 運営事業費	1,045	1,094	1,624	1,689	27	30	440	446	
・人件費	493	534	756	785	17	19	182	198	
・業務経費	552	560	868	904	10	11	258	248	
（一般管理費）	93	89	95	115	7	4	258	248	施設整備経費増加等
（調査研究事業費）	247	229	442	511	2	6	0	0	寄附金等による事業増
（情報公開事業費）	80	95	94	102	0	0	0	0	寄附金等による事業増
（研修事業費）	1	4	11	10	0	0	0	0	寄附金等による事業増
（国際研究協力事業費）	117	130	39	35	0	0	0	0	他経費へ振替等
（展示出版事業費）	14	13	186	131	0	0	0	0	他経費へ振替等
（展覧事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	
（教育普及事業費）	0	0	0	0	0	0	0	0	
施設整備費	0	0	1,556	1,684	0	0	0	0	
文化芸術振興費	0	20	0	35	0	2	0	35	
政府開発援助ユネスコ活動費	0	0	0	0	0	5	0	0	
受託事業費	18	259	8	253	0	51	0	18	
合　　計	1,063	1,373	3,188	3,661	27	88	440	500	

以　上

Ⅴ　評価

独立行政法人国立文化財機構の
平成２７年度における業務の実績に関する評価

平成２８年９月

文部科学大臣

様式1－1－1　中期目標管理法人　年度評価　評価の概要

1. 評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象事業年度	年度評価	平成 27 年度（第 3 期）
	中期目標期間	平成 23～27 年度

2. 評価の実施者に関する事項				
主務大臣		文部科学大臣		
	法人所管部局	文化庁文化財部	担当課、責任者	美術学芸課、萬谷宏之
	評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、信濃正範

3. 評価の実施に関する事項
・政策評価に関する有識者会議国立文化財機構ワーキングチーム委員とともに東京国立博物館に赴き展示、収蔵、保存・修復の状況について調査した（平成 28 年 7 月 26 日）。 ・監事ヒアリングを実施し、監査の実施状況について確認するとともに法人の業務運営に係る意見交換を行った（平成 28 年 7 月 21 日）。 ・ワーキングチームに評価結果案を諮り、意見を聴取した（書面審議）。 ・法人ヒアリングを実施し、27 年度自己評価及び第3期中期目標期間自己評価（実績）について説明を受けるとともに意見交換を行った（平成 28 年 7 月 20 日）。

4. その他評価に関する重要事項
特になし。

5. 国立文化財機構ワーキングチーム　委員名簿	
坂　井　　秀　弥	奈良大学文学部教授（専門分野：考古学）
佐　野　　みどり	学習院大学文学部教授（専門分野：日本絵画史）
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授（専門分野:保存科学）
竹　本　　幹　夫	早稲田大学文学部教授（専門分野:演劇学）
筑　紫　　みずえ	㈱グッドバンカー代表取締役社長
丸　山　　伸　彦	武蔵大学人文学部教授（専門分野：染織史）
宮　島　　博　和	公認会計士

様式1－1－2 中期目標管理法人 年度評価 総合評定

1. 全体の評定							
評定 （S、A、B、C、D）	B：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。	（参考）本中期目標期間における過年度の総合評定の状況					
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		業務の質の向上	A	A	A	B	B
		業務運営の効率化	A	A	A		
		財務内容の改善等	A	A	A		
評定に至った理由	項目別評定の一部にAがあるが、Bが大半を占めており、C以下はない。また、全体の評定を引き下げる事象もなかったため、Bが相当であると判断した。						

2. 法人全体に対する評価	
法人全体の評価	東京、京都、奈良、九州の四つの国立博物館は、国民共有の貴重な財産である有形文化財を収集し、適切な環境で保管し又必要な修復等を行っている。平常展は来館者数、陳列替等の計画値を達成しており、また特別展も計画回数以上に開催し、目標数を上回る来館者の実績が上がっている。これらの活動を支える調査研究、教育活動、情報の発信等も所期の成果を挙げているものと認められる。 東京及び奈良の文化財研究所は、文化財に関する基礎的・体系的及び科学的・先端的な調査研究や文化遺産の総合的研究を行うとともに、新たな調査手法の研究開発等を継続して行っている。いずれの調査研究も、年度計画に従い着実に実施されていると認められる。さらに、これらに関する情報・資料の収集・整備及び成果の公開並びに国際協力の推進についても、計画に従い着実に実施されている。 アジア太平洋無形文化遺産センターは、日本国政府とユネスコの協定に基づく活動を計画的に実施している。 業務運営の効率化、財務内容の改善、施設・設備に関する計画及び人事に関する計画については、年度計画に従い着実に実施されている。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	特に全体の評価に影響を与える事象は無かった。

3. 項目別評価における主要な課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	特になし。
その他改善事項	特になし。
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし。

4. その他事項	
監事等からの意見	特になし。
その他特記事項	○有識者コメント ・定量的評価に加えて定性的評価への言及が増えていることを歓迎する。 ・総合的に評価の妥当性を検証しており、丁寧な評価になっている。 ・博物館においては、収蔵品を有効に活用した平常展示のリニューアルや、わかりやすく面白さを伝える展示手法の採用、文化財の保存に関したコーナーなど、機構全体の努力はおおいに評価される。 ・全体的に良好な状態にあり、業務運営は順調である。わが国の文化行政を牽引する国立博物館・文化財研究所の任務は十二分に果たされていると評価出来る。 ・講演会等の参加者、ボランティア、、キャンパスメンバーズ加入校、賛助会、友の会・パスポート加入者など、順調に数を増やし目標数を達成している点は評価できるが、その数自体はまだ十分

	な数に至っているとはいえず、賛助会などの認知度を上げ一層の支援者の増加へとつなげてほしい。 博物館の構想として、アソシエイトフェローに何を期待しどのような役割を実際に果しえているのかを検証し、全体の職員に対してアソシエイトフェローが占める割合は適切であるかがの検討もなされるべきである。 ・学術成果の電子ファイルによる公開を進めてほしい。紙媒体の成果物は、収蔵スペースに余裕のある公的機関以外は保存の上で困難が伴う。

※1 S：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。A：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。B：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。C：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。D：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

※2 平成25年度評価までは、文部科学省独立行政法人評価委員会において総合評定を付しておらず、項目別評価の大項目について段階別評定を行っていたため、この評定を過年度の評定として参考に記載することとする。

様式1－1－3　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定総括表

中期目標（※1）		年度評価（※2） 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	項目別調書No.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項								
収蔵品の収集		A	A	A	B	B	1－1－(1)	－
収蔵品の管理、保存		A	A	A	B	B	1－1－(2)	－
収蔵品の保存技術の向上		A	A	A	B	B	1－1－(3)	－
展覧事業の充実		A	A	A	B	B	1－2－(1)	－
教育活動の充実		A	A	A	B	B	1－2－(2)	－
快適な観覧環境の充実		A	A	A	B	B	1－2－(3)	－
文化財情報の発信と広報の充実		A	A	A	B	B	1－2－(4)	－
収蔵品等の調査研究成果の公表		A	A	A	B	B	1－3－(1)	－
専門家等との学術・人物交流		S	A	A	B	B	1－3－(2)	－
文化財保存修理に関する人材育成		A	A	A	B	B	1－3－(3)	－
収蔵品の貸与		A	A	A	B	B	1－3－(4)	－
公私立博物館・美術館等に対する援助・助言		A	A	A	B	B	1－3－(5)	－
調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の状況	文化財に関する基礎的・体系的な調査研究	A	A	A	B	B	1－4－(1)	－
	文化財の研究に関する調査手法の研究開発				B	B	1－4－(2)	－
	文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究				B	B	1－4－(3)	－
	国・地方公共団体の要請に基づく調査研究				B	B	1－4－(4)	－
	有形文化財の収集等に関する調査研究				B	B	1－4－(5)	－
国際協力に関する研究基盤の整備	文化財保護に関する国際協力	A	A	A	B	B	1－5－(1)	－
保存修復に関する研究基盤の整備		A	A	A				
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護		A	A	A	B	B	1－5－(2)	－

中期目標（※1）		年度評価（※2） 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	項目別調書No.	備考
情報基盤の整備充実	情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	A	A	A	B	B	1－6	－
調査研究成果の公開・提供		A	A	A				
公開施設の運用		A	A	A				
地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A	A	A	A	B	1－7	－
中核的文化財担当者の研修、若手研究者の育成		A	A	A				
項目評定		A	A	A	B	B	－	－
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項								
一般管理費の削減		A	A	A	B	B	2－1	－
給与水準の適正化等		A	A	A	B	B	2－2	－
契約の適正化の推進		－	－	－	B	B	2－3	－
保有資産の有効活用の推進		－	－	－	B	B	2－4	－
内部統制の充実・強化		A	A	A	B	B	2－5	－
項目評定		A	A	A	B	B	－	－
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項								
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	自己収入の増加	A	A	A	A	A	3－1	－
	固定的経費の節減				B	B	3－2	－
項目評定		A	A	A	B	B	－	－
Ⅳ．その他の事項								
施設・整備に関する計画		－	－	－	B	B	4－1	－
人事に関する計画		A	A	A	B	B	4－2	－
項目評定		－	－	－	B	B	－	－

※1評価項目については中期目標の事項毎に基づく。ただし、平成23年度から平成25年度までの事項については、中期目標より評価事項が結合・細分化されているため、左側に旧事項名、右側に26年度以降の事項名を記載している。
※2平成23年度から平成25年度までの評定については、「文部科学省所管独立行政法人の業務実績評価に係る基本方針」（平成14年3月22日文部科学省独立行政法人評価委員会）に基づく。
　また、平成26年度以降の評定については、「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準」（平成27年6月文部科学大臣決定）に基づく。詳細は下記の通り。

平成23年度から平成25年度までの評定	平成26年度以降の評定
S：特に優れた実績を上げている。（法人横断的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）	S：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。
A：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調に、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上）	A：中期目標管理法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 120%以上とする。）。
B：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満）	B：中期計画における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 100%以上 120%未満）。
C：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満）	C：中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%以上 100%未満）。
F：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。）	D：中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の 80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(1)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (1)収蔵品の収集				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵品件数（件）	(東博)	実績値	－	－	113,897	114,362	115,653	116,268	116,932
	(京博)	実績値	－	－	6,621	6,708	6,721	7,109	7,532
	(奈良博)	実績値	－	－	1,831	1,834	1,862	1,877	1,883
	(九博)	実績値	－	－	453	474	493	512	525
	(4館計)	実績値	－	－	122,802	123,378	124,729	125,766	126,872
文化財購入費（百万円）	(東博)	実績値	－	－	0	106	124	140	226
	(京博)	実績値	－	－	48	22	0	227	798
	(奈良博)	実績値	－	－	102	27	40	262	140
	(九博)	実績値	－	－	569	719	727	727	609
	(4館計)	実績値	－	－	719	874	891	1,356	1,773
寄託品件数（件）	(東博)	実績値	－	－	2,689	2,563	2,519	3,064	3,072
	(京博)	実績値	－	－	6,013	5,914	5,892	6,001	6,112
	(奈良博)	実績値	－	－	1,945	1,951	1,994	1,984	1,987
	(九博)	実績値	－	－	1,219	1,238	1,081	795	885
	(4館計)	実績値	－	－	11,866	11,666	11,486	11,844	12,056

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	1,100,000	1,100,000	530,000	1,238,500	1,410,000
決算額（千円）	720,023	874,185	891,828	1,356,326	1,773,358
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は、4国立博物館の年度当初の文化財購入費の予算額を計上している。
※決算額は、4国立博物館の文化財購入費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	*評定*	B
1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （1）国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務にそって収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （1）－1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 （東京国立博物館） 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （京都国立博物館） 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （奈良国立博物館） 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。 （九州国立博物館） 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （1）－1 適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 （1）－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・収蔵品件数 ・文化財購入費 ・寄託品件数 〈評価の視点〉 ○購入、寄贈、寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P1～8 1(1)-1、1(1)-2 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P1～33 1-(1)収蔵品 ＜主要な業務実績＞ 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数 126,872 件 27 年度新収品 1,106 件（うち購入 43 件、寄贈 563 件、編入 500 件） ※26 年度新収品 1,037 件 ・文化財購入費 1,773 百万円 ※26 年度 1,356 百万円（416 百万円増） ・寄託品件数 12,056 件 27 年度新規寄託 367 件、返却 155 件。 ※26 年度 11,844 件（212 件増） 各指標の詳細はアウトプット情報を参照。 購入 ・文化財購入費として特殊要因経費で措置されていた 910 百万円を、経常経費として確保することできた。購入件数は 43 件（26 年度購入件数 47 件）であった。 ・購入文化財のうち代表的なものは、唐時代に双鉤填墨という方法で精巧に複製した「紙本攝王羲之尺牘（妹至帖）」（九博）、住吉物語の最古現存本の「住吉物語絵巻断簡」や、ほかに世界に 3 例しか現存しない拓版画という技法の伊藤若冲の「玄圃瑤華」（東博）、唐時代の写本である国宝「漢書楊雄伝第五十七」（京博）など。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P1～8 1(1)-1、1(1)-2 ＜評定と根拠＞ 評定：A 4館とも、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 内容や件数について、以下のとおり購入・寄贈・寄託それぞれについて大きな成果を挙げることができたためA評定とした。 文化財購入予算として 26 年度特殊要因として措置されたものを経常経費化することがかない、寄附金の活用や積立金により購入件数・質ともに高水準の実績を上げることができた。 寄贈については、個人等からの大量の寄贈（東博・京博）など、計 563 件もの受入があり、質・量ともに順調である。 寄託については、九州国立博物館での金工分野での積極的な受け入れなどの結果、全体として昨年度より国宝や重要文化財の新規受入を含む 212 件の増加となった。社寺の改修に合わせた寄託受入や、社寺におけるデジタル複製品への入れ替えに伴う原品保存としての寄託など、博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋がっていることは評価できる。 しかしながら中期計画や年度計画の目標を大きく達成したとは言いがたい。特に九博については、外の3館とくらべると収蔵品件数が少なく、前年度からの増加量は小さい。 ○収蔵件数の変動 九博 H26：512 件→H27：525 件（＋13） 京博 H26：7,109 件→H27：7,532 件（＋423） 奈良博 H26：1,877 件→H27：1,883 件（＋6） 東博 H26：116,268 件→H27：116,932 件（+664） 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特殊要因として措置されていた文化財購入予算を経常経費化し、寄附金や積立金も活用することで購入件数・質ともに高水準の実績が上げられてい

	収集する。（1）－2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。			寄贈 ・帝国博物館の初代総長の九鬼隆一に関する歴史資料 73 点の一括寄贈や西アジアの作品を中心とするコレクション、狩野山雪筆「双龍図」等の価値の高い作品の寄贈を受けた。（東博） ・344 件一括での寄贈受入があった。江戸時代から続いている商家の方からの寄贈で、分野は多岐にわたっており、寄贈を前提とした調査は 28 年度も続く予定である。（京博） ・書跡分野では、国風文化の書における優品である「彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）伝藤原行成筆」、歴史資料分野では、「中原高句麗碑拓本」「丹陽新羅赤城碑拓本」等、優品 8 件の寄贈を受けることができた。（九博） 寄託 ・中国絵画を中心とした 99 件のまとまったコレクションを受託した。これらは当館収蔵の須磨コレクションに関連する作品群であり、展示及び調査研究に寄与するものとなった。（京博） ・装飾経の名品である浅草寺経（国宝 法華経）の一部（10 巻のうち 2 巻）の寄託を受けた。（奈良博） ・金工分野で、日本・中国・朝鮮半島の幅広い時代の作品を網羅する「南善吉旧蔵鏡鑑資料」82 件の寄託を受けた。（九博）	＜課題と対応＞ 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、更に寄贈や寄託の充実を図っていきたい。	る。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント 収蔵品や寄託品件数、寄贈品件数の増減については、相手のあることであり、定量的な評価になじまないため定量的な指標による目標を設定していない 。前年度に比べると収蔵品の件数は増加していることから 、A でよいのではないか。

4. その他参考情報

特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(2)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (2)収蔵品の管理、保存				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
保存カルテ作成件数（件）	（東博）	実績値	－	－	1,187	1,594	1,492	1,721	1,432
	（京博）	実績値	－	－	249	215	253	204	102
	（奈良博）	実績値	－	－	130	127	120	115	100
	（九博）	実績値	－	－	107	91	94	75	91
	（4 館計）	実績値	－	－	1,673	2,027	1,959	2,115	1,725

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	4,792,204	6,883,691	2,853,965	2,990,365	2,920,551
決算額（千円）	4,413,828	10,273,364	6,829,529	3,156,912	2,757,336
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	111	110	110	105	104

※予算額は、決算報告書・施設整備費の予算額を計上している。
※決算額は、決算報告書・施設整備費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、各年度間の繰越等によるものである。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （2）収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (2)－1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (2)－2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (2)－1 収蔵品の管理・保存 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (2)－2 施設の環境整備 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 保存カルテ作成件数 〈評価の視点〉 ○収蔵品の写真・管理データを蓄積することにより、収蔵品の保存・管理の徹底に努めたか。 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P9～16 1(2)-1、1(2)-2 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P34～35 1-(2)収蔵品の管理・保存 ＜主要な業務実績＞ (2)－1 収蔵品の現状を確認の上作成したデータ（写真・テキスト）を蓄積してデータベース化し、展示・研究等の業務に活かした。（4館）収蔵品の修理や列品貸与の際の点検時等に作成している保存カルテについて、作成・蓄積を継続して行った。（4館） ・保存カルテ作成件数 1,725 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・寄託品の確認作業を定期的に行った。（4館） ・文化財情報システム（業務システム）について、運用を継続し、収蔵品データを更新した。（東博・京博・奈良博） なお、九州国立博物館においては、27年度より新しい「文化財情報システム」の運用を開始し、出入りの多い借用品や画像の取り扱いデータを安定的かつ適切に継承するためのシステムを構築した。（九博） (2)－2 展示場、収蔵庫等において、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的に実施した。（4館） ・IPM（総合的有害生物管理）活動に関して、市民ボランティアや地元 NPO 法人と連携して実施した。（九博） ・殺虫殺徴処置として、調湿温風処理、低温処理を 27 年度新たに導入した。（九博） ・明治古都館（本館）の免震補強や設備の改修に向けた基本計画を策定した。（京博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P9～16 1(2)-1、1(2)-2 ＜評定と根拠＞ 評定：B 収蔵品の管理・保存は、4館とも徹底した取り組みがなされており、データの蓄積、文化財情報システム、保存カルテ作成件数の推移を含め順調である。また、九州国立博物館では、「文化財情報システム」を構築し運用を開始するなど、改善に努めている。 展示場、収蔵庫の環境についても、IPM の実施・徹底、温湿度管理等により、対応がなされている。 九州国立博物館では、非接触で取得した3次元データを3D プリンタで出力し、複製品展示や触れる展示として活用している。これは文化財の適切な保存と利活用という相反する要素を、デジタル技術で両立させるものである。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 収蔵品の管理・保存は、4館とも徹底した取り組みがなされており、データの蓄積、文化財情報システム、保存カルテ作成件数の推移を含め順調である。また、九州国立博物館では、「文化財情報システム」を構築し運用を開始するなど、改善に努めている。 実績としては、 ・保存カルテ作成件数 1,725 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・寄託品の確認作業を定期的に行った。（4館） ・文化財情報システム（業務システム）について、運用を継続し、収蔵品データを更新した。（東博・京博・奈良博） なお、九州国立博物館においては、27 年度より新しい「文化財情報システム」の運用を開始し、出入りの多い借用品や画像の取り扱いデータを安定的かつ適切に継承するためのシステムを構築した。（九博） 展示場、収蔵庫の環境についても、IPM の実施・徹底、温湿度管理等により、対応がなされている。 以上のことから、収蔵品の管理・保存及び施設の環境整備という目標において、達成できていると判断されるのでB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○委員コメント ・定量的評価がしにくい項目であるが、各館において収蔵品の管理・保存、施設の環境整備が適切におこなわれていることは評価される。

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(3)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)収蔵品の保存技術の向上				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
修理件数（本格修理）（件）	（東博）	計画値	－	－	40	40	40	40	40
		実績値	－	－	106	95	93	78	86
		達成度	－	－	265.0%	237.5%	232.5%	195.0%	215.0%
	（京博）	計画値	－	－	10	10	10	10	10
		実績値	－	－	10	13	15	11	12
		達成度	－	－	100.0%	130.0%	150.0%	110.0%	120.0%
	（奈良博）	計画値	－	－	8	9	9	9	8
		実績値	－	－	11	9	8	9	11
		達成度	－	－	137.5%	100.0%	88.9%	100.0%	137.5%
	（九博）	計画値	－	－	15	15	15	21	19
		実績値	－	－	19	20	17	23	22
		達成度	－	－	126.7%	133.3%	113.3%	109.5%	115.8%
	（合計）	実績値	－	－	146	137	133	121	131

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000
決算額（千円）	140,047	144,144	145,147	126,341	167,180
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	48	47	46	45	43

※予算額は、年度当初の文化財修理費の予算額を計上している。
※決算額は、文化財修理を外注した決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、契約差額である。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)収蔵品の保存技術の向上に努めること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)－1修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)－1 収蔵品の修理 ① 計画的な修理及びデータの蓄積 ② 科学的な技術を取り入れた修理	〈主な定量的指標〉 ・修理件数(本格修理) 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 〇緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施したか。 〇文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行ったか。 〇計画的な収蔵スペースの確保が図られたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P17～25 1(3)-1、1(3)-2、1(3)-3 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P36～57 1-(3)収蔵品の修理 ＜主要な業務実績＞ (3)－1 4館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行い、修理件数は当年度の目標値を上回った。 ・修理件数(本格修理) 131 件 詳細はアウトプット情報を参照。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。(4 館) ・作品の劣化予防のため 543 件の応急修理を実施するなどの取組みを行っている。(東博) ・X線 CT スキャナー(東博)やマイクロフォーカスX線CTシステム(京博)、X線透過撮影(奈良博)や蛍光X線分析(九博)など、全館で最新の科学機器を文化財の修理に活用している。 (3)－2 文化財保存修理所等の整備・充実に向けた検討を行い、必要に応じて改善を実施した。(京博・奈良博・九博) ・京都国立博物館文化財保存修理所の改修工事は、二期工事と、関連する電気設備及び機械設備の改修工事が完了した。 ・奈良国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、加湿装置の部品を交換した。 ・九州国立博物館の保存修復施設については、室内温湿度環境の改善のため、ペアガラスの上に新たにガラスを張り付けるなどして遮熱性と断熱性を高めた。また、保存修復施設の蛍光灯を全て LED 照明に交換し、交換の労力を省くとともに省エネ化を図った。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P17～25 1(3)-1、1(3)-2、1(3)-3 ＜評定と根拠＞ 評定:B 緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、寄附金や助成金を活用しており、各館とも目標値以上の修理を実施することができた。 文化財保存修理所の整備・充実についても、京都国立博物館文化財保存修理所改修工事が完了し、九州国立博物館の保存修復施設については、室内温湿度環境の改善を含め、順調である。 博物館にとって収蔵品・寄託品の増加への対応は喫緊の課題であり、収蔵スペースの確保については、各館とも安全かつ効率的な収納について検討を継続し、対応している。 ＜課題と対応＞ 京都国立博物館文化財保存修理所の設備である燻蒸庫が老朽化のため損傷し、使用できない状況のため、今後改修を検討している。	〈評定に至った理由〉 収蔵品の修理については、定量的な指標である修理件数(本格修理)の達成度をみると、全体では170.1%と A 評定の基準を満たしている。各館ごとにみると、東博が 215%、京博が 120%、奈良博が137.5%、九博が 115.8%であり、定量的指標から目標を上回った。 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実について、京博、奈良博、九国博の修理所の修復等を実施した。 収蔵スペース確保や基本設備の充実について、東博は収蔵棚を新設し、京博は温室度のモニタリングシステムによるデータの蓄積、九博は写場の整備を行うことにより目標を達成されたと考えられ、目標を上回るようなものではなかったため、当該評定をB評定とした。 〈摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 京都国立博物館文化財保存修理所の設備である燻蒸庫が老朽化のため損傷し、使用できない状況のため、改修が検討されていることは、「国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。」の整備という観点に寄与するものと評価される。 〈その他事項〉 特になし。 〇有識者コメント ・人的資源の将来にわたっての確保に向けての施策が必要。 ・収蔵スペースの確保、燻場庫の老朽化などの問題は喫緊の課題であり、解決に向けて計画的に取り組んでいただきたい。 ・より迅速な文化財修復体制の強化が望まれる。
	(3)－2国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。	(3)－2国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。					
	(3)－3収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。	(3)－3収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。		(3)－3 収蔵スペースの確保、及び調査研究のための基本設備の充実について検討・実施し、機器の導入を進めた。 ・東京国立博物館の東洋民族の収蔵庫に収納棚を新設した。 ・京都国立博物館平成知新館にて「環境モニタリングシステム」を活用し、温湿度を即時にモニタリングし、データ蓄積することにより環境維持・改善に役立てている。 ・九州国立博物館では、前年度に引き続き写場の整備に取り組み、写場への出入りをスムーズに行えるように整備(小扉設置)を行った。		

4. その他参考情報

特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－（1）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （1）展覧事業の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博物館の年間総来館者数(人)	（東博）	実績値	―	―	1,756,590	1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508
	（京博）	実績値	―	―	239,767	234,540	148,429	539,134	653,336
	（奈良博）	実績値	―	―	469,463	450,235	461,690	476,993	455,859
	（九博）	実績値	―	―	712,594	1,107,036	727,603	804,663	884,128
	（合計）	実績値	―	―	3,178,414	3,347,505	2,660,010	3,734,433	3,987,831
平常展来館者数(人) ※基準値は、前中期目標期間実績の年度平均 ※	（東博）	計画値	―	362,470	362,470	362,470	362,470	362,470	362,470
		実績値	―	―	324,597	416,430	484,429	587,528	747,944
		達成度	―	―	89.6%	114.9%	133.6%	162.1%	206.3%
	（京博）	計画値	―	171,110	―	―	―	96,981	123,089
		実績値	―	―	―	―	―	265,791	205,526
		達成度	―	―	―	―	―	274.1%	167.0%
		実績値	―	―	―	―	―	―	※1,699
	（奈良博）	計画値	―	118,032	118,032	118,032	118,032	94,338	69,610
		実績値	―	―	130,839	145,914	122,075	92,147	95,208
		達成度	―	―	110.9%	123.6%	103.4%	97.7%	136.8%
	（九博）	計画値	―	380,690	380,690	380,690	380,690	380,690	380,690
		実績値	―	―	358,366	460,525	349,848	357,362	412,621
		達成度	―	―	94.1%	121.0%	91.9%	93.9%	108.4%
	（合計）	実績値	―	―	813,802	1,022,869	956,352	1,302,828	1,462,998
平常展陳列替件数(件)	（東博）	計画値	―	―	4,000	4,000	5,800	5,800	5,500
		実績値	―	―	4,914	6,989	5,708	5,506	6,930
		達成度	―	―	122.9%	174.7%	98.4%	94.9%	126.0%
	（京博）	計画値	―	―	―	―	―	700	700
		実績値	―	―	―	―	―	693	1,145

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	2,105,668	2,037,862	2,955,208	2,255,032	1,942,926
決算額（千円）	2,125,773	2,354,675	3,004,190	2,534,914	2,266,497
参考決算額（千円）	854,149	1,769,673	2,081,253	2,219,371	1,966,989
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、展覧事業費予算額から文化財購入費予算額を控除した額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、展覧事業費決算額から文化財購入費決算額を控除した額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、ディスプレイ費等の損益計算書・展覧事業費の費用額を計上している。
（平成 23 年度の予算額と決算額の差額は、決算において「その他業務費」の勘定に916,492 千円を計上していることによる。
平成 24 年度以降は、「その他業務費」の勘定を廃止し、展覧事業費等の各事業に費用計上している。）

		達成度	―	―	―	―	―	99.0%	163.6%
	（奈良博）	計画値	―	―	400	400	70	80	180
		実績値	―	―	481	465	130	208	286
		達成度	―	―	120.3%	116.3%	185.7%	260.0%	158.9%
	（九博）	計画値	―	―	1,100	1,100	1,100	800	600
		実績値	―	―	1,373	1,195	1,157	1,027	1,513
		達成度	―	―	124.8%	108.6%	105.2%	128.4%	252.2%
平常展陳列総件数(件)	（東博）	計画値	―	―	5,500	6,500	7,500	7,500	7,200
		実績値	―	―	7,394	9,190	8,824	8,161	8,911
		達成度	―	―	134.4%	141.4%	117.7%	108.8%	123.8%
	（京博）	計画値	―	―	―	―	―	1,000	1,000
		実績値	―	―	―	―	―	980	1,438
		達成度	―	―	―	―	―	98.0%	143.8%
	（奈良博）	計画値	―	―	700	700	500	475	600
		実績値	―	―	1,092	814	632	675	620
		達成度	―	―	156.0%	116.3%	126.4%	142.1%	103.3%
	（九博）	計画値	―	―	1,700	1,700	1,700	1,000	700
		実績値	―	―	2,417	2,416	2,750	1,904	2,628
		達成度	―	―	142.2%	142.1%	161.8%	190.4%	375.4%
平常展外国語パネルの設置数(%)	（東博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	96%	97%	100%	100%	100%
		達成度	―	―	120.0%	121.3%	125.0%	125.0%	125.0%
	（京博）	計画値	80%	―	―	―	―	80%	80%
		実績値	―	―	―	―	―	100%	100%
		達成度	―	―	―	―	―	125.0%	125.0%
	（奈良博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	89%	100%	91%	100%	100%
		達成度	―	―	111.3%	125.0%	113.8%	125.0%	125.0%
	（九博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	94%	87%	85%	92%	92%
		達成度	―	―	117.5%	108.8%	106.3%	115.0%	115.0%
特別展来館者数(人)	（東博）	実績値	―	―	1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564
	（京博）	実績値	―	―	239,767	234,540	148,429	273,343	446,111
	（奈良博）	実績値	―	―	338,624	304,321	339,615	384,846	360,651
	（九博）	実績値	―	―	354,228	646,511	377,755	447,301	471,507
	（合計）	実績値	―	―	2,364,612	2,324,636	1,703,658	2,431,605	2,524,833
特別展開催回数(回) ※海外展を	（東博）	計画値	3～4	―	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4
		実績値	―	―	7	9	8	8	6
		達成度	―	―	175.0%	225.0%	200.0%	200.0%	150.0%

※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

含む	（京博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	6	5	3	2	3
		達成度	―	―	200.0%	166.7%	100.0%	100.0%	100.0%
	（奈良博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	3	3	3	3	4
		達成度	―	―	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	133.0%
	（九博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	5	4	5	5	4
		達成度	―	―	166.7%	133.3%	166.7%	166.7%	133.4%
	（合計）	実績値	―	―	21	21	19	18	17
海外展回数(回)	（東博）	実績値	―	―	1	2	1	1	1
	（京博）	実績値	―	―	2	0	0	0	0
	（奈良博）	実績値	―	―	0	0	0	0	1
	（九博）	実績値	―	―	1	0	1	0	0
	（合計）	実績値	―	―	4	2	2	1	2

※全館休館期間における庭園開放の来館者数

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	評定 B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (1)展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (1)展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1)展覧事業の充実 東京、京都、奈良、九州4館それぞれの特色を活かし、国内はもとより、海外からも国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。 ①－1平常展 展観事業の中核と位置づけ、各国立博物館の特色を十分発揮した特集陳列等を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。 ①－2展示説明の充実	〈主な定量的指標〉 ・平常展来館者数 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展外国語パネルの設置数 ・特別展開催回数 ・特別展来館者数 〈その他の指標〉 ・博物館の年間総来館者数 ・特別展来館者数 ・海外展回数 〈評価の視点〉 ○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとしたか。また、観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫したか。 ○（平常展）展覧事業の中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示としたか。 ○（平常展）作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付したか。また、海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を８０％以上設置したか。 ○（特別展）我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示としたか。また、個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成したか。さらに展覧会来館者数の満足度を把握し、改善を図ったか。 ○（海外展）海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P26～49 2(1) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P133～149 a ＜主要な業務実績＞ ・博物館の年間総来館者数 27 年度合計 398 万 7,891 人 ※26 年度 373 万 4,433 人（約 25 万人、6.8%増） 内訳はアウトプット情報を参照 （平常展） ・平常展来館者数 1,462,998 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展外国語パネルの設置数 それぞれアウトプット情報を参照 ・特別展会場である明治古都館改修に伴い、平常展示館「平成知新館」において特別展覧会を開催することとなり、平常展の展示計画を大幅に変更した。（京博） ・平成館 1 階の考古展示室を 27 年 10 月にリニューアルオープンした。（東博） ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（4 館） （特別展） ・特別展来館者数 2,524,833 人 ・特別展開催回数 19 回（海外展含む） 内訳はアウトプット情報を参照 ・東京国立博物館の特別展「始皇帝と大兵馬	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P26～49 2(1) ＜評定と根拠＞ 評定：A ・博物館の年間総来館者数は、今中期目標期間中最高値の 3,987,891 人を記録した。この来館者数は国民のニーズを踏まえて質の高い展示等を実施したことを反映している。 特に、特別展のみならず、展覧事業の中核である平常展の入館者を大幅に伸ばしていることは評価できるものであり、A 評定とした。 （平常展） 各館の特色を十分に活かし、テーマ別、時代順等の展示を行った。 ・平常展来館者数については、東京国立博物館において、前年度より約 16 万人増かつ目標値の倍以上の 747,944 人もの来館者を得た。また、平成知新館開館2年目である京都国立博物館でも計画を大きく上回る来館者数を達成するなど入館者数を伸ばすことができた。 ・平常展陳列替件数については、4館で目標値を大幅に上回るなど、順調な結果となっている。 京都国立博物館では明治古都館の改修に伴い、平成知新館での平常展開催期間は短くなったが、来館者のニーズにあわせて新たな特集陳列を企画するなど、柔軟な展示計画を行い、目標値を大幅に上回った。 また、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。	＜評定に至った理由＞ 定量的な指標である来館者の満足度調査では平常展の平均が 78.7%、特別展の平均が 82.9%となっている。満足度に関する目標値は、年度計画・中期計画において設定しないため、その達成度を数値化することはできないが、次期中期目標では前中期目標期間の実績を上回ることを指標としている。すなわち、見込評価時点では平常展の満足度が 73%以上、特別展の満足度が 82%以上と想定しているが、これを1つの基準とし平成 27 年度の実績と比較すると、それぞれこれを上回っており、一定の成果を上げていると評価できる。 これは、東博、京博、奈良博、九博それぞれの特色を活かし国内はもとより海外からも国立博物館を来館したくなるような魅力のある平常展や特別展をアンケート等はじめニーズや動向を踏まえて企画した結果だと評価できる。 また、展示説明の充実という点では、平常展外国語パネルの設置数を増やすなど増加傾向にある外国人来館者に対応する取組は評価でき目標を達成していると考えられる。 しかしながら、定量的指標の達成度合いと定性的指標（来館者満足度）の実績を総合的にみると満足度が 120%以上に達しているとは言い難く目標を大きく上回るものではないと考えられるため B 評定が相当と判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・自己評価Aについて、定性的的観点からBとすることは誤りとは言えないが、展示の質にも関連した定

			②特別展

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－（2）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （2）教育活動の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第3号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
講演会、ギャラリートークの参加者数(人)	（東博）	計画値	－	－	7,830	7,830	7,830	7,830	7,790
		実績値	－	－	12,664	13,193	15,777	14,419	18,080
		達成度	－	－	161.7%	168.5%	201.5%	184.2%	232.1%
	（京博）	計画値	－	－	2,638	2,380	1,860	3,120	3,300
		実績値	－	－	1,450	3,150	2,062	4,596	4,845
		達成度	－	－	55.0%	132.4%	110.9%	147.3%	146.8%
	（奈良博）	計画値	－	－	2,450	2,600	2,600	2,650	2,650
		実績値	－	－	3,006	3,454	3,219	3,525	3,974
		達成度	－	－	122.7%	132.8%	123.8%	133.0%	150.0%
	（九博）	計画値	－	－	2,030	3,100	3,100	3,100	5,500
		実績値	－	－	7,833	8,354	7,276	4,694	6,212
		達成度	－	－	385.9%	269.5%	234.7%	151.4%	112.9%
	（合計）	実績値	－	－	24,953	28,151	28,334	27,234	33,111
キャンパスメンバーズ加入校数(件)	（東博）	実績値	－	－	37	38	43	44	48
	（京博）	実績値	－	－	30	30	29	29	29
	（奈良博）	実績値	－	－	28	27	26	27	27
	（九博）	実績値	－	－	28	24	24	24	25
	（合計）	実績値	－	－	123	119	122	124	129
ボランティア数(人)	（東博）	実績値	－	－	169	170	169	173	173
	（京博）	実績値	－	－	64	45	45	210	214
	（奈良博）	実績値	－	－	87	121	114	110	157
	（九博）	実績値	－	－	355	308	287	352	352
	（合計）	実績値	－	－	675	644	615	845	896
賛助会等加	（東博）	実績値	－	－	292	332	379	414	464

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	55,238	46,592	75,943	75,898	85,209
決算額（千円）	95,876	63,571	63,499	99,237	118,694
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	51	49	49	47	44

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部博物館教育課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。

入件数(件)	（京博）	実績値	－	－	375	353	336	351	362
	（奈良博）	実績値	－	－	65	68	70	73	74
	（合計）	実績値	－	－	732	753	785	838	900
友の会・パスポート加入者数	（東博）友の会	実績値	－	－	1,802	1,570	1,586	2,145	2,041
	パスポート	実績値	－	－	17,672	16,569	16,474	20,302	18,157
	ベーシック	実績値	－	－	－	－	－	1,038	2,789
	小計	実績値	－	－	19,474	18,139	18,060	23,485	22,987
	（京博）パスポート※	実績値	－	－	2,667	3,064	2,295	6,522	7,108
	（奈良博）パスポート※	実績値	－	－	2,615	2,486	2,598	3,162	3,591
	（九博）友の会	実績値	－	－	117	196	141	192	206
	パスポート	実績値	－	－	3,093	4,224	4,633	4,990	5,571
	小計	実績値	－	－	3,210	4,420	4,774	5,182	5,777
	（合計）	実績値	－	－	27,966	28,109	27,727	38,351	39,463

※機構内で統一するため、京都国立博物館では 24 年 4 月より、奈良国立博物館では 24 年 1 月より、「友の会」から「パスポート」へ名称変更した。（会費・特典等に変更無し）

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (2)教育活動の充実 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (2)教育活動の充実 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (2) 教育活動の充実 日本の歴史・伝統文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業を実施する。 ①学習機会の提供 ②－1 ボランティア活動の支援 ②－2 博物館支援者の増加 ③大学との連携	〈主な定量的指標〉 ・講演会、ギャラリートークの参加者数 〈その他の指標〉 ・キャンパスメンバーズ加入校数 ・ボランティア数 ・賛助会等加入件数 ・友の会・パスポート加入者数 〈評価の視点〉 ○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成したか。 ○ボランティアを支援したか。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ったか。 ○大学との連携事業等を実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P50～71 2-(2) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P59～99 2-(2) ＜主要な業務実績＞ 学習機会の提供 特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ファミリー向けプログラムや小中学生向けワークショップなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。 ・講演会、ギャラリートークの参加者数 33,111 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・キャンパスメンバーズ加入校数 129 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・平成館考古展示室のリニューアルに伴い新たなハンズオンコーナーを設け（東博）、訪問授業「文化財に親しむ授業」（京博）、世界遺産学習事業（奈良博）を実施した。また、館外における体験プログラム「きゅーはくきゃらばん」（九博）等を被災地支援のため福島県、宮城県、秋田県でも実施した。 ボランティア活動の支援 各館でボランティアの自主企画等を支援し、研修を行うことなどにより活動を充実させた。 ・ボランティア数 896 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・ボランティア「京博ナビゲーター」による新規事業として、特別展覧会に関連するミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」を会期中毎日実施した。（京博） ・ボランティア通信誌「BRIDGE（ブリッジ）」を 3 ヶ月毎に発行した。（奈良博） 博物館支援者の増加	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P50～71 2-(2) ＜評定と根拠＞ 評定：B 講座・講演会をはじめ、ハンズオンコーナーの新設や、体験型プログラムなど多様なプログラムを各館で提供し、目標を大きく上回る参加者を得ている。 また、教育普及活動において、被災地支援につながる活動も実施した。 講演会、ギャラリートークの参加者数については、順調に目標を達成している。 キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、前年度より加入校を増やすことが出来た。 ボランティア数については昨年度より増加した。また、その活動も支援した。 賛助会等加入件数については、順調に加入者数が増え、支援者の増加となっている。友の会・パスポート加入者数については展覧会の来館者数増加に伴って増加している。また、平常展無料会員の取り組みも成果を上げている。 企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 大学との連携事業等については、各種の事業を継続して実施している。	〈評定に至った理由〉 中期計画で定めた目標の達成度について、学習企画の提供や博物館支援者の増加、大学との連携がなされているかという視点で以下の取り組みについて定量的指標を用いて評価した。 ①講演会、ギャラリートークの参加者数は、目標が達成され、増加している。 H26：4,596 人→H27：4,845 人 ＊4館合計 ②キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、前年度より加入校が増加している。 H26：124 人→H27：129 人 ＊4館合計 ③ボランティア数は増加している。またその活動についての支援も行われている。 H26：414 人→H27：464 人 ＊4館合計 ④賛助会等加入件数については、加入者数が増加しており、支援者の増加となっている。 H26：845 人→H27：896 人 ＊4館合計 ⑤友の会・パスポート加入者数については展覧会来館者数の増加に伴って増加している。また、平常展無料会員の取り組みにおいても成果が上がっている。 【賛助会等加入件数】 H26：838 人→H27：900 人 【友の会・パスポート加入者数】 H26：38,351 人→H27：39,463 人 こうした館が主催する講演会やギャラリートーク、ボランティアによる教育機会の充実は、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するものと評価できる。以上のことから中期計画の目標は達成できていると考えられるのでB評定とした。 以上より、中期計画の目標は達成できていると考えられるのでB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・外国語による解説パネルについては、外国人の著しい増加に対応するため、設置の速度をさらに上げることが望まれる。この点は次項にも関連する。

				各種会員制度によるリピーターの拡大、及び支援者の増加に努めた。 ・賛助会等加入件数 900 件 ・友の会・パスポート加入者数 39,463 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・26 年度に導入したベーシック会員（平常展無料会員）は2年目にして倍以上の 2,500 人を上回った。（東博） ・上野文化施設地区共通入場券を 26 年度に引き続き発売することや（東博）、広報協力（京博・奈良博・九博）を実施し、博物館の認知度向上につなげた。 大学との連携 ・インターンシップ事業を継続して実施した。（東博・奈良博・九博） また、博物館実習の受け入れや放送大学での授業（九博）や大学への客員教授等の派遣（京博・奈良博）を行った。	＜課題と対応＞ 特になし	

4. その他参考情報

特になし。

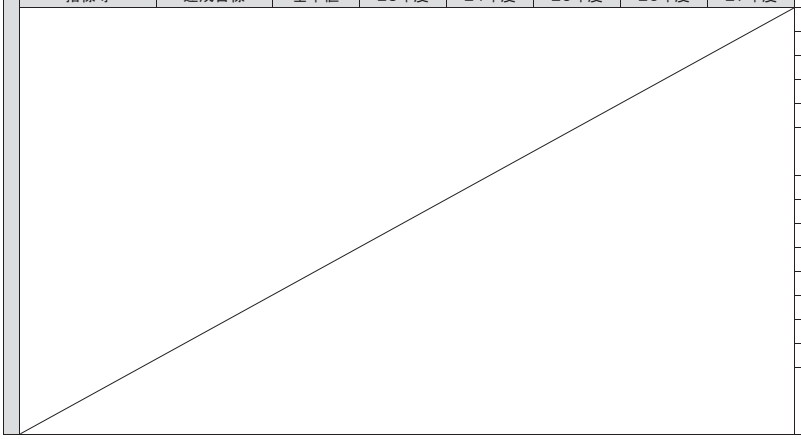
様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－(3)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (3)快適な観覧環境の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	20,000	29,500	29,000	60,000	55,000
決算額（千円）	19,003	35,015	28,950	61,970	43,491
参考決算額（千円）	18,049	22,330	20,533	34,962	42,121
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	85	86	84	84	84

※予算額は個別に計上することができないため、年度当初の平常展印刷費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、平常展印刷費の決算額を計上している。(3 館は展覧平常印刷費勘定、九博は展覧平常消耗品費勘定を使用しているため合算額)
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の平常展に要するチラシ、パンフレット等の作成費を計上している。(3 館は展覧平常印刷費勘定、九博は展覧平常消耗品費勘定を使用しているため合算額)
※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (3)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (3)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (3) 快適な観覧環境の提供 ①施設・設備等の充実 ② 来館者満足度調査及び利用者に配慮した運営 ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した観覧環境の提供を行ったか。 ○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行ったか。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P72～84 2(3) 平成27年度自己点検評価報告書 統計表 P100 2-(3) ＜主要な業務実績＞ 施設のバリアフリー化、各種案内の充実等により、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。 ・多言語(6～7 言語)による案内パンフレットの製作・配布を行った。(4館) ・特別展音声ガイドの貸出を行った。(4館) ・平常展音声ガイドは4言語(京博)、3言語(九博)での提供を行った。 ・スマートフォンアプリ「トーハクなび」(日・英)を引き続き提供し、システムの更新等を行った。さらに、「今日のオススメ」作品ガイド機能を搭載した。ダウンロード件数も順調に伸びている。(東博) ・平常展及び各特別展において来館者アンケートを実施し、その結果を観覧環境改善に活かした。(4館) ・混雑対策として、入場待ち来館者向けのテントの設置(東博・京博・奈良博)、ウェブ等で混雑状況・待ち時間情報の提供等を行った。(4 館) さらに、駐車場空き情報も提供した。(九博) ・ミュージアムショップのリニューアルおよび太宰府天満宮の参道に九州国立博物館のアンテナショップを新設した。(九博) ・ミュージアムショップと協力し、オリジナルグッズの開発を行った。(4館) ・特別展に関連したメニューを提供した(4館) ・軽食を提供するケータリングカーを特別展	＜自己評価書参照箇所＞ 平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P72～84 2(3) ＜評定と根拠＞ 評定:B 各館施設のバリアフリー化は一定の水準に達しており、更に、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく、検討・工夫を継続して行っている。 来館者アンケートを実施し、随時館の運営に反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズ等を踏まえ展覧会ごとに観覧料金及び開館時間の弾力化などに取り組んだ。 ミュージアムショップ・レストランにおいて、オリジナルグッズの開発や、特別展に関連したメニューを提供するなどの取組みを行った。特に九州国立博物館では、アンテナショップの新設等の新たな取り組みを行い、サービスを改善している。 ＜課題と対応＞ 混雑対策については、引き続き検討を重ね、待ち時間等を含めた観覧環境が更に快適になるよう工夫していく。	〈評定に至った理由〉 中期目標で設定した目標を①施設整備等の充実、②利用者の満足度に対する配慮、③ミュージアムショップやレストラン等の館環境の充実という観点から以下の業務実績について検討した。 各館施設のバリアフリー化は一定の水準に達しており、更に、我が国を代表する施設として多様な来館者に対応すべく、来館者アンケートを実施し、随時館の運営に反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズ等を踏まえ展覧会ごとに観覧料金及び開館時間の弾力化などに取り組むなど検討・工夫が継続して行われており評価できる。 また、ミュージアムショップ・レストランにおいて、オリジナルグッズの開発や、特別展に関連したメニューを提供するなどの取組みを行った。特に九州国立博物館では、アンテナショップの新設等の新たな取り組みを行い、サービスの改善に努めている点など評価できる。 以上のことから中期目標を達成していると考えられるためB評定が妥当であると考えられる。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 現状では混雑対策として、入場待ち来館者向けのテントの設置(東博・京博・奈良博)とウェブ等での混雑状況・待ち時間情報や(4 館)駐車場空き情報の提供(九博)を引き続き行いながら方策を検討することが妥当であると考えられる。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント 継続的に努力されていることがうかがえる。

					期間中常設とした。（東博）		

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－（4）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （4）文化財情報の発信と広報の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第7号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件)	（東博）	計画値	－	－	3,000	1,000	1,000	300	－
		実績値	－	－	1,468	776	550,305	79	484
		達成度	－	－	48.9%	77.6%	55030.5%	26.3%	－
	（京博）	計画値	－	－	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績値	－	－	2,165	2,732	2,682	5,536	5,966
		達成度	－	－	108.3%	136.6%	134.1%	276.8%	298.3%
	（奈良博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	5,297	4,924	7,615	5,154	3,875
		達成度	－	－	176.6%	164.1%	253.8%	171.8%	129.2%
	（九博）	計画値	－	－	1,000	1,000	200	500	－
		実績値	－	－	2,146	1,450	62	776	－
		達成度	－	－	214.6%	145.0%	31.0%	155.2%	－
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件)	（東博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	6,000	8,000
		実績値	－	－	10,566	9,566	9,865	10,720	12,513
		達成度	－	－	352.2%	318.9%	328.8%	178.7%	156.4%
	（京博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	3,580	2,713	4,525	4,927	8,222
		達成度	－	－	119.3%	90.4%	150.8%	164.2%	274.0%
	（奈良博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	6,103	4,960	4,648	5,478	4,237
		達成度	－	－	203.4%	165.3%	154.9%	182.6%	141.2%
	（九博）	計画値	－	－	500	500	2,000	1,000	1,000
		実績値	－	－	4,441	2,142	1,512	1,167	1,090
		達成度	－	－	888.2%	428.4%	75.6%	116.7%	109.0%

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額（千円）	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額（千円）	80,513	33,364	22,966	17,397	20,702
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	64	63	58	56	55

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の文化財情報の発信と広報の経費を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課、学芸企画部博物館情報課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の人数を計上している。

ウェブサイトアクセス件数(件)	（東博）	実績値	―	―	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460
	（京博）	実績値	―	―	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
	（奈良博）	実績値	―	―	722,249	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057
	（九博）	実績値	―	―	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391
	「e 国宝」	実績値	―	―	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265

(※)東京国立博物館、九州国立博物館では、既存フィルムのデジタル化はほぼ完了している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	〈主な定量的指標〉 ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数 ・収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数 〈その他の指標〉 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 ○収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成したか。また、公開データ件数を増加させたか。 ○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させたか。 ○計画的な広報・情報提供を行ったか。 ○積極的な広報活動に努めたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P85～106 2(4) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P101～113 2-(4) ＜主要な業務実績＞ ①デジタル化の推進 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化について、目標値を定めて実施した。(京博・奈良博) ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数 アウトプット情報を参照 ※東京国立博物館と九州国立博物館では既存フィルムのデジタル化がほぼ完了しているため、目標値を定めなかった。なお、東京国立博物館の実施件数は新規撮影フィルムのデジタル化である。 ・国宝・重要文化財の高精細画像(e国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e 国宝」を継続して公開した。(4館) ・デジタル化を進めている館蔵ガラス乾板のデータベースを新規作成し、館内での閲覧可能な環境を整えた。(奈良博) ②博物館関係資料の収集及び発信、レファレンス機能の強化	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P85～106 2(4) ＜評定と根拠＞ 評定:B 収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化については、順調に実施しており、可能なものから随時公開をしている。 資料の収集・レファレンス機能の強化については、各館とも積極的な取組を行っており、撮影件数実績は4館とも目標値を上回っている。 広報については、各館とも多様なメディアを通して積極的に行っている。 ウェブサイトの充実については、4館とも各種の取組みを行っており、いずれの館もアクセス件数は昨年度より増加している。 特に、東京国立博物館では 26 年末に導入したスマホ版ウェブページの取組等の結果、アクセス数を大幅に伸ばすことができた。 ＜課題と対応＞ 収蔵品等に関するデジタル化件数について、中期計画にて「目標値を設定する」としていたが、東京国立博物館・九州国立博物館で中期目標期間中に既存フィルムのデジタル化が完了したため、第 4 期中期計画では、両館とも既存フィルムのデジタル化については、目標値を設定しないこととした。	〈評定に至った理由〉 中期計画では文化財情報の発信と広報の充実があげられている。デジタル化という観点からすると収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化については、可能なものから随時公開されている。東博、九国博においては既存フィルムのデジタル化は完了しており評価される。 資料の収集・レファレンス機能の強化については、各館とも積極的な取組を行っており、撮影件数実績は4館とも目標値を上回っている。 ＊( )内数値は前年度比 【東博】 計画 8,000 件 実績 12,513 件 (156.47%) 【京博】 計画 3,000 件 実績 8,222 件 (2747%) 【奈博】 計画 3,000 件 実績 4,237 件 (141.2%) 【九博】 計画 1,000 件 実績 1,090 件 (1097%) ウェブサイトの充実については、4館とも各種の取組みを行っており、いずれの館もアクセス件数は昨年度より増加している。 【東博】 実績 6,724,460 件 【京博】 実績 3,172,381 件 【奈博】 実績 1,112,057 件 【九博】 実績 2,217,391 件 【e 国宝】 実績 1,788,265 件 東京国立博物館では 26 年末に導入したスマホ版ウェブページの取組等の結果、アクセス数が大幅に伸びている。 東博アクセス件数 6,724,460 件(4,248,437 件) ＊( )内 H26 年度数値 先に述べた文化情報の発信と広報については目標を達成していると考えられるため当該評定をBとする。
(4)文化財情報の発信と広報の充実 文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。 ②美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する	(4)文化財情報の発信と広報の充実 ① デジタル化の推進 ②博物館関係資料の収集及び発信、レ					

		情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。 ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。 ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。 ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。	ファレンス機能の強化 ③ 広報計画の策定と情報提供 ④ 広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 ⑤ ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。		・収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影を計画どおり実施して関連データを整備・蓄積し、また、図書資料等の収集を継続的に行い、レファレンスに供した。(4館) ・収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数 アウトプット情報を参照 ・利用者サービスの向上のため収蔵品画像データの無償ダウンロードのサービスを開始した(28 年 3 月)。(奈良博) ③広報計画の策定と情報提供 概要や年報(機構)、年間スケジュールのリーフレット、ポスター・チラシの作成・配布(4館)を計画的に行い、情報提供を行った。特に、九州国立博物館では、文化交流展の PR 映像を作成し、テレビ CM の放送や街頭スクリーンでの上映を行った。 ④広報印刷物、ウェブサイト等の活用及びマスメディアとの連携強化等による積極的な広報活動 各種広報印刷物の発行、ウェブサイト・モバイルサイトによる情報提供、メールマガジンの配信、SNS の活用等を行うとともに、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 ⑤ウェブサイトアクセス件数の向上を図る。 ウェブサイトの内容の充実を図り、アクセス件数(アウトプット情報を参照)の向上を図った。		〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 収蔵品等に関するデジタル化件数について、中期計画にて「目標値を設定する」としていたが、東京国立博物館・九州国立博物館で中期目標期間中に既存フィルムのデジタル化が完了しており、第 4 期中期計画では、両館とも既存フィルムのデジタル化については、目標値は設定されていないが、新資料等のデジタル化については、コンスタントに継続して頂きたい。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(1)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3. わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (1)収蔵品等の調査研究成果の公表				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第6号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額(千円)	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額(千円)	23,155	28,023	26,246	21,319	20,533
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、紀要等調査研究に係る印刷物作成の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 （1）収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 （1）収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化 （1） 調査研究の成果の発信 （東京国立博物館、京都国立博物館） 1）文化財修理報告書を刊行する。 （奈良国立博物館、九州国立博物館） 1）文化財修理に関する印刷物を刊行する。 （東京国立博物館） 1）「東京国立博物館情報アーカイブ」等を運用し、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2）紀要・図版目録等を刊行する。 3）法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4）研究誌『MUSEUM』を刊行する。（年 6 回） （京都国立博物館） 1）研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 2）社寺調査報告書等を刊行する。 （奈良国立博物館）	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 〇各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表したか。また、各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P107～110 Ⅰ3(1) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P190～231 c-③～⑥ ＜主要な業務実績＞ 博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を発行した。 ・研究誌「Museum」を 6 回、研究紀要を 1 冊、特別展等図録を 9 冊、調査概報と図版目録を各 1 冊発行し、その他のリーフレット等や増刷 16 件も発行した。（東博） ・研究紀要を 1 冊、特別展覧会等図録を 3 冊、社寺調査報告書を 1 冊刊行した。（京博） ・特別展等図録を 9 冊刊行した。（奈良博） ・研究紀要を 1 冊、特別展等図録を 10 冊刊行した。（九博） ・東京国立博物館・京都国立博物館で文化財修理報告書を発行した。 ・例年行っている特集印刷物（リーフレット）PDFファイル版のウェブサイト公開については、27 年度は 3 件公開した。（東博）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P107～110 Ⅰ3(1) ＜評定と根拠＞ 評定：B 研究紀要、展覧会図録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等について、多数刊行し、調査研究成果の公表を順調に行った。 印刷物PDFファイル版のウェブサイト公開等の取り組みを行った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	〈評定に至った理由〉 博物館における調査研究成果を広く博物館関係者に発信するため、収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物の発行やこうした刊行物の電子書籍化及びインターネットによって公開されていることから目標は達成されていると考えられる。 よって、当該評定はB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 〇有識者のコメント ・刊行物のウェブサイトへの公開がさらに望まれる。

		1）研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2）入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。 3）東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、報告書を刊行する。 （九州国立博物館） 1）研究紀要『東風西声』を刊行する。 2）保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。				

4. その他参考情報

特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－（2）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3. わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 （2）専門家等との学術・人物交流				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
海外研究者招へい数（人）	（東博）	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	16	11	21	47	83
		達成度	―	―	266.7%	183.3%	350.0%	783.3%	1383.3%
	（京博）	計画値	―	―	5	5	3	2	2
		実績値	―	―	21	3	0	2	2
		達成度	―	―	420.0%	60.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	（奈良博）	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	20	7	9	9	13
		達成度	―	―	333.3%	116.7%	150.0%	150.0%	216.7%
	（九博）	計画値	―	―	3	3	4	4	4
		実績値	―	―	21	3	16	35	51
		達成度	―	―	700.0%	100.0%	400.0%	875.0%	1275.0%
	（合計）	実績値	―	―	78	24	46	93	149
研究員派遣数（人）	（東博）	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	48	34	41	18	47
		達成度	―	―	800.0%	566.7%	683.3%	300.0%	783.3%
	（京博）	計画値	―	―	6	6	15	15	15
		実績値	―	―	25	15	19	14	17
		達成度	―	―	416.7%	250.0%	126.7%	93.3%	113.3%
	（奈良博）	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	19	17	8	13	20
		達成度	―	―	316.7%	283.3%	133.3%	216.7%	333.3%
	（九博）	計画値	―	―	4	4	4	4	4

		実績値	―	―	56	60	87	82	77
		達成度	―	―	1400.0%	1500.0%	2175.0%	2050.0%	1925.0%
	（合計）	実績値	―	―	148	126	155	127	161

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額（千円）	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額（千円）	5,050	6,452	1,370	991	22,587
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	56	55	53	51	49

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の国際シンポジウム開催に要する旅費等を計上している。
※従業人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (2)国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (2)文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化 (2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (4館共通) 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (18 人:東京 6、京都 2、奈良 6、九州 4) 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (31 人:東京 6、京都 15、奈良 6、九州 4) 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4)ICOM(国際博物館会議)大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (東京国立博物館) 1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2)アジア国立博物館協会(ANMA)理事会、、IEO(国際展覧会オーガナイザー会議)等の国際会議へ参加する。 (奈良国立博物館) 1)学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。 (九州国立博物館) 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。	(主な定量的指標) ・海外研究者招へい数 ・研究員派遣数 (その他の指標) 特になし (評価の視点) ○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施したか。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P111～114 Ⅰ3(2) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P156～183 c-① ＜主要な業務実績＞ 海外研究者の招へい、研究員の海外派遣を通して、海外の博物館・研究者との交流を行った。 ・海外研究者招へい数 149 人 ・研究員派遣数 161 人 内訳はアウトプット情報を参照 ・国際シンポジウムを東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館で各 1 回開催した。 ・国際研究集会(奈良博)、招聘者による講演会(東博、九博)を実施した。 ・第 5 回アジア国立博物館協会理事会・定期大会に参加し、情報交換を行った。(東博) ・国際展覧会オーガナイザー(IEO)会議に研究員を派遣し、欧米の主要美術館・博物館の展覧会担当責任者との意見交換を実施した。(東博) ・学術交流協定に基づく研究員の交流を継続して行った。(東博、奈良博、九博) ・フランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結した(28 年 3 月)。(京博)	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P111～114 Ⅰ3(2) ＜評定と根拠＞ 評定:B 海外研究者招へい数は、外部資金活用等により、4館とも目標値を上回った。 研究員派遣数は、4館で目標値を上回っており、順調である。 国際シンポジウムや国際研究セミナー等を各館で実施し、また、第 5 回アジア国立博物館協会理事会・定期大会やIEO会議への参加により、情報交換とネットワークの強化を実現している。 瀋陽故宮博物院の研究者を招聘し、専門的な内容の講演会を実施し、今後の学術協定の締結や特別展開催に向け、有意義なものとするなど、交流を推進できた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	〈評定に至った理由〉 国際シンポジウムや国際研究セミナー等が各館で実施されており、第 5 回アジア国立博物館協会理事会・定期大会やIEO会議への参加により、情報交換とネットワーク強化が実現されている点は評価できる。 定量的指標である海外研究者招へい数及び研究員派遣数をみるといずれも計画値の 100%以上を示しており、その多くはA評定の基準である120%を上回っている。 以上、中期計画の目標は達成していると評価されることからB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・定量的指標は目標値を高く超えている。外部資金活用等が理由であり、そのこと自体は評価される。しかしながら、計画値の積算方法の見直しは必要であろう。

4. その他参考情報

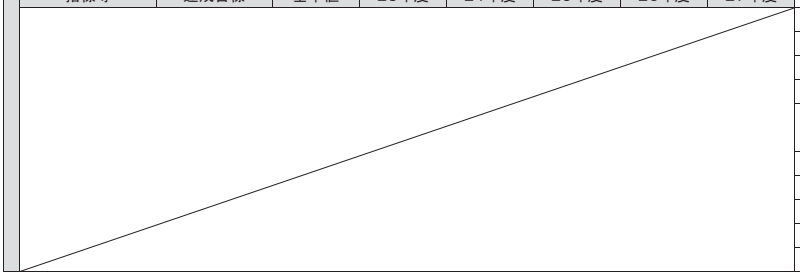
特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(3)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3. わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (3)文化財保存修理に関する人材育成				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第6号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	―	―	―	―	―
決算額（千円）	―	―	―	―	―
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	48	47	46	45	43

※研修テキストなどはコピー機を利用して作成しており外注額が少額のため、予算額・決算額は個別に計上することができない。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (3)国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (3)保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化 (3) 保存修理事業者への研修プログラム (4館共通) 1）保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施したか。 ○業務の効率化について、教材作成作業等の効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。 ○受益者負担の妥当性・合理性があるか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P115～118 Ⅰ3(3) ＜主要な業務実績＞ 保存修理事業者を対象とする研修会を、関係機関と連携協力して実施した。 ・文化財保存修理所内の工房と連携し研修会を行った。また、修理所内の工房の視察を受け入れ情報交換を行った。（京博・奈良博） ・NPO法人ミュージアムサポートセンターと連携しIPM普及のための連絡会議や研修会を実施した。また、文化財保存交流セミナーを実施した。（九博） ・インターンシップの受け入れを行った。（4館） 【業務の効率化について】 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館では、関係者を対象とした、文化財保存修理所内の工房視察や、各工房技術者との情報交換等が主であり、主催者側が用意した教材に沿って行われるものではないため、一般的な研修とは異なる。また、専用の研修施設もない。 【受益者負担の妥当性・合理性について】 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館における当該研修の受講料は無料である。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P115～118 Ⅰ3(3) ＜評定と根拠＞ 評定：B ・諸機関や修理工房と連携し、セミナーや研修、情報交換等を効率的に行った。 ・インターンシップの受け入れを行い、人材育成を行った。 研修の実施にあたり、当該業務は効率化されている。 研修の目的は、文化財保護に必要な人材の育成である。よって、これらの研修の受講を必要とする者の参加を促進し文化財保護に必要な知識・技術等の普及を図るため、受講料無料は妥当と考える。 ＜課題と対応＞ 特になし。	〈評定に至った理由〉 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館では、関係者を対象とした、文化財保存修理所内の工房視察や、各工房技術者との情報交換等が主な研修であり、目的は、文化財保護に必要な人材の育成である。また、実施に当たっては関係機関と連携協力されている点も評価できる。 また、これらの研修の受講を必要とする者の参加を促進し文化財保護に必要な知識・技術等の普及を図るため受講料が無料となっている点も妥当であり評価される。以上のことから、中期計画の目標を達成していると考えられるためB評定とした。 ＊参考 【インターンシップ】 登録数 13 人、延回数 51 回、延人数 1,913 人 【保存修理事業者向け研修】 ＊H26→H27 東博 回数 2→1 回 参加者数 37→ 18 人 京博 回数 2→2 回 参加者数 87→126 人 奈博 回数 4→6 回 参加者数 67→ 74 人 九博 回数 9→7 回 参加者数 175→179 人 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント。 ・人的資源の将来にわたっての確保に向けての施策が必要。

4. その他参考情報

特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(4)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3. わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (4)収蔵品の貸与				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第3号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文化財の貸与件数(件)	(東博)	実績値	―	―	905	1,295	1,137	1,130	991
	(京博)	実績値	―	―	429	304	626	582	303
	(奈良博)	実績値	―	―	118	102	135	149	145
	(九博)	実績値	―	―	119	113	143	101	90
	(合計)	実績値	―	―	1,571	1,814	2,041	1,962	1,529
貸与先件数(件)	(東博)	実績値	―	―	129	159	123	115	134
	(京博)	実績値	―	―	74	71	82	82	77
	(奈良博)	実績値	―	―	37	37	35	47	36
	(九博)	実績値	―	―	26	44	32	30	26
	(合計)	実績値	―	―	266	311	272	274	273

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	15,608	14,813	14,232	14,070	13,881
決算額（千円）	10,633	21,904	21,261	16,234	16,723
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	評定　B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (4)国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (4)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化 (4) 収蔵品の貸与 (4館共通) 1）国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1）国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1）長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2）海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・文化財の貸与件数 ・貸与先件数 〈評価の視点〉 ○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書　個別表 P119～122　Ⅰ3(4) 平成 27 年度自己点検評価報告書　統計表 P114～115　3(4) ＜主要な業務実績＞ 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数　1,529 件 ・貸与先件数　273 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・考古資料相互貸借事業を 1 博物館 1 資料館（東京国立博物館）、2 博物館（奈良国立博物館）を相手方として、それぞれ実施した。 ・展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制など貸与先の環境と作品の状態を確認した上で貸出を行っている。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書　個別表 P119～122　Ⅰ3(4) ＜評定と根拠＞ 評定：B 貸与先からの要請に4館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数は、昨年度より減少したものの、貸与先件数は維持した。海外への貸与も行っている。また、考古資料相互貸借事業も継続して行っている。 ・貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮し貸出を行っている。 ＜課題と対応＞ 特になし。	〈評定に至った理由〉 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況や貸与先の環境を見極めて行う必要があることから、貸与件数や貸与先件数の増減を根拠として単純に評価することはできないが、ほぼ前年度と同水準で維持されていることから貸与が中期計画の目標どおり行われていることが認められる。 以上のことから、当該評定をB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント。 ・考古資料については、出土した地元での展示に対する要望があり、さらに活発に行われることを期待したい。

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(5)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3. わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第3号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
公私立博物館等に対する援助・助言件数(件)	(東博)	実績値	－	－	126	85	114	119	139
	(京博)	実績値	－	－	91	65	43	29	65
	(奈良博)	実績値	－	－	98	67	71	58	58
	(九博)	実績値	－	－	97	109	64	57	67
	(合計)	実績値	－	－	412	326	292	263	329

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	－	－	－	－	－
決算額（千円）	－	－	－	－	－
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※公立博物館・美術館に対する援助・助言に係る外注額が少額なため、予算額・決算額は個別に計上することができない。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (5)全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (5)公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化 (5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1)新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。 (九州国立博物館) 1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2)公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのIPM(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数 〈評価の視点〉 〇公私立博物館等に対する援助・助言を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P123～126 Ⅰ3(5) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P116～124 3(5) ＜主要な業務実績＞ 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数 329 件 内訳はアウトプット指標に掲載 当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。(4 館) また、新規貸与館 8 館に対する環境調査(東京国立博物館)、美馬市寺町防災交流センターで開催の「お帰り古郷へ－奈良国立博物館所蔵郡里廃寺跡出土品たち－」への展示指導(奈良国立博物館)や「古文書保存基礎講座」「ミュージアムIPM研修」(九博)等も行った。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P123～126 Ⅰ3(5) ＜評定と根拠＞ 評定:B 公私立博物館等から4館への要請に対して例年多数の助言・協力を行っており、27 年度においても昨年度を大幅に上回った。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 中期計画の目標に基づき、国立博物館4館は文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を実施しており、その成果として、博物館関係者等の情報交換・人的ネットワークの形成等に寄与していると判断されるためB評定とした。 ＊参考 公私立博物館等から4館への要請に対して例年多数の助言・協力を行っており、27 年度においても昨年度を大幅に上回った。 東博 H26:119→H27:139 (116.8%) 京博 H26:29→H27:65 (224.1%) 奈博 H26:58→H27:58(100%) 九博 H26:57→H28:67(117.5%) 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報

特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書(国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項)

1. 当事務及び事業に関する基本情報

1－4－(1)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(東文研)	実績値	―	―	15	13	11	18	17
	(奈文研)	実績値	―	―	51	73	67	64	102
	(合計)	実績値	―	―	66	86	78	82	119
学会、研究会での発表件数(件)	(東文研)	実績値	―	―	21	22	21	24	22
	(奈文研)	実績値	―	―	32	36	45	22	56
	(合計)	実績値	―	―	53	58	66	46	78

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額(千円)	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (1)文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 〇中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 〇それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ ・平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P127～180 4(1) ・平成27年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 27 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。うち主要な研究テーマは以下のとおり。 ・文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究(東文研) ・我が国の記念物に関する調査・研究(奈文研) ・無形文化財の保存・活用に関する調査研究(東文研) ・藤原宮跡の発掘調査(大極殿院)(奈文研) ・平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査(奈文研) ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等(奈文研) ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究(奈文研) ・東大寺東塔院跡の発掘調査(奈文研) ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究(奈文研) ・遺構の安定化方法を検討するための基礎データ収集(奈文研) 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究(東文研) 当研究所の刊行物一覧の内容精査を行い、遺漏刊行物についての情報を収集することで、個々の刊行物について把握し、その一覧をウェブサイトで公開した。併せて、公開レベルを確認し、公開可能なものについては端末上での閲覧ができるための準備を進めた。 ・東大寺東塔院跡の発掘調査(奈文研) 鎌倉時代再建時の基壇規模が判明するとともに、塔本体の柱配置を復元するための情報を得た。また、奈良時代創建時の塔基壇の一部が鎌倉時代再建時の塔基壇の中に良好な状態で遺存していることを確認し、さらに再建時の回廊の位置をほぼ特定し、これらの成果を論文、報道発表、現地説明会において発表した。 ・我が国の記念物に関する調査・研究(奈文研) 「平成27年度 遺跡整備・活用研究集会」を開催し、遺跡の活用においてデジタルコンテンツを用いている自治体やコンテンツ制作会社等から情報収集を行うとともに、最先端の研究、代表的な事例に関する発表および総合討議からなる研究集会を開催した。 ・学術雑誌等への論文掲載数 119 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 78 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	＜自己評価書参照箇所＞ ・平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P127～180 4(1) ＜評定と根拠＞ 評定:B 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与した。 特に「東大寺東塔院跡の発掘調査」では、従来からの調査研究の蓄積による複雑な遺構の状況の詳細な理解、状況の変化に応じた臨機応変で適切な調査方法の選択、レーダー探査の活用、学際的研究の総括など、独自の取り組みによって著しい成果を上げた。なお、今回の発掘調査は東大寺・奈良県立橿原考古学研究所との共同調査であり、地域圏との円滑な共同調査の実践例としても重要である。 「我が国の記念物に関する調査・研究」では、AR(CGを用いた拡張現実)技術など最新のデジタルコンテンツを用いた研究集会において、全国の自治体におけるシステム普及の現状や最新技術の情報収集、課題等を共有することができ、今後の遺跡活用の発展に大きく寄与した。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って設定した研究テーマ 27 件について調査研究が実施されており、それらの成果物としての学術雑誌等への論文掲載件数及び学会、研究発表件数は前年度よりも高い実績値が示されている。 ＊論文掲載件数(2研究所) H26年度:82件 → H27年度:119件 発表件数(2研究所) H26年度:46件 → H27年度:78件 こうした数値の変動は、それぞれの調査研究が、計画に沿って適切に実施され、国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究が推進した結果と考えられ、研究等に関する外部資金獲得に寄与している点も評価できる。 よって、当該評定については、B評定が相当であると判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 〇有識者コメント ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。

4. その他参考情報

特になし。

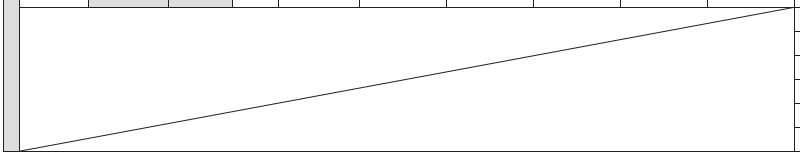
様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(2)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究開発				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	2	0	0	1	0
	（奈文研）	実績値	－	－	31	24	14	20	11
	（合計）	実績値	－	－	33	24	14	21	11
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	1	1	1	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	39	49	17	19	12
	（合計）	実績値	－	－	40	50	18	19	12



②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額（千円）	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (2)文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P181～190 4(2) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 以下4件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 ・文化財デジタル画像形成に関する調査研究（東文研） ・文化財の測量・探査等に関する研究（奈文研） ・年輪年代学研究（奈文研） ・動植物遺存体による環境考古学的研究（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化財デジタル画像形成に関する調査研究（東文研） 長期的に継続して実施している宮内庁三の丸尚蔵館所蔵「春日権現験記絵」の第 17 巻及び 18 巻について、デジタル画像形成とその成果画像の検討も加えた蛍光 X 線分析とを一連の作業として実施することができた。また、外部機関からの依頼に応じ、様々な貴重な文化財の画像記録撮影や光学調査を実施することができた。 ・文化財の測量・探査等に関する研究（奈文研） 開発した SfM/MVS 技術の実用化と精度検証を行い、また計測データの多様な活用方法について検討し、研究会を開催した。UAV（無人飛行艇）等各種遺跡調査システムの試行、アレイ式地中レーダー・多チャンネル式電磁探査機等の試験を行い、必要な機器の開発を進めた。 ・年輪年代学研究（奈文研）	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P181～190 4(2) ＜評定と根拠＞ 評定：A 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。 さらに、以下のような顕著な成果があったため、評定をAとした。 「文化財の測量・探査等に関する研究」においては、SfM/MVS 技術を活用し調査を行うとともに、研究会を開催し、今後の新技術の普及に貢献した。また、各種遺跡調査システムの試行及び各種機器の試験を行うことで、探査技術のより高精度で迅速な手法の確立と複数の手法を確立する可能性を示した。 また、「年輪年代学研究」では、マイクロフォーカスX線CT装置を用い、構造解析において独創的な分野を開拓するなど、目覚しい成果を挙げた。 ＜課題と対応＞ 特になし	評定　B 〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って設定した研究テーマ4件について適切に調査研究が実施されており、文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与したと考えられる。 なかでも「年輪年代学研究」では、マイクロフォーカスX線CT装置を用いた構造解析において独創的な分野を開拓するなど、目覚しい成果が挙げられた。 定量的な指標は設定されていないが目標は達成されていると考えられるため当該評定をB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント。 ・新技術を利用した調査手法の開拓は実験的な段階とはいえ、国立機関ならではの高度な学術的成果であり、A評価が妥当ではないか。

					マイクロフォーカスX線CT装置を用いた独自の分析手法により、出土漆塗り櫛の三次元構造解析など独創的な分野を開拓するなど独自の成果を上げ、論文や学会において発表した。また、各自治体からの多岐にわたる調査要請に的確に対応し、成果を上げた。 ・学術雑誌等への論文掲載数 11 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 12 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。		

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1 中期目標管理法人 年度評価 項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(3)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 (3)文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	18	14	14	18	15
	（奈文研）	実績値	－	－	5	2	3	3	2
	（合計）	実績値	－	－	23	16	17	21	17
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	18	17	23	20	31
	（奈文研）	実績値	－	－	12	2	3	0	0
	（合計）	実績値	－	－	30	19	26	20	31

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額（千円）	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。（小項目1－4－(1)(2)(3)は個別に計上できないため。）
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (3)最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 (3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P191～206 4(3) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 10 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 主要な研究テーマは以下のとおり。 ・文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究(東文研) ・ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等(奈文研) ・周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究(東文研) ・文化財の防災計画に関する研究(東文研) ・文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究(東文研) ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究(東文研) 主な研究成果は以下のとおり。 ・周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究(東文研) 石造文化財では、祇園橋(天草市)において天草砂岩製の石材の残存状況と周辺環境の影響に関する調査、大湯環状列石(鹿角市)など北東北の石造遺構のうち、既に保存処理された石材の保存状態に関する追跡調査などを実施した。木造建造物では加賀市内神社(中嶋神社、稲荷神社)において材質の違いによる覆屋内環境と本体の保存状態の違いについて調査を終了した。 ・文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究(東文研) 表装裂資料のデータベース化を終了させるとともに、文化財建造物の塗装彩色調査と	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P191～206 4(3) ＜評定と根拠＞ 評定:B 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与した。 特に、「周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究」において、屋外文化財については、劣化要因及び保存環境に関する調査研究成果を出すことができた。特に出島旧石倉や祇園橋など、天草砂岩で見られる表面劣化機構の解明については高い独創性を有するとともに、材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査については、近年オリジナルを保存することが多い建造物壁画についてより良い保存環境条件の提案に役立つなど、応用性が期待できる研究を進めることができた。また、学会発表や論文等により、今まで得られた成果の公表も十分に行うことができた。 「文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究」では、文化財建造物に使用する屋外塗装や彩色材料の歴史資料に関する調査研究や物性・耐候性試験を行い、実際の塗装修理の現場の施工に役立てた。絹など	〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って設定した研究テーマ 10 件について適切に調査研究が実施されており、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究としての課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与したと考えられる。 主な例としては、「周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究」が挙げられる。屋外文化財の劣化要因及び保存環境に関する成果が出されている。特に出島旧石倉や祇園橋等に使用されている天草砂岩に見られる表面劣化機構の解明については高い独創性を有している。また、材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査については、近年オリジナルを保存することが多い建造物壁画における保存環境条件が提案されるなど、応用性が期待できる研究が推進されている。これらの成果については、研究会や論文等で公表されており評価できる。 定量的な指標は設定されていないが目標は達成していると考えられるため当該評定をB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・調査研究成果が外部資金の獲得につながっており評価される。 ・文化財研究所等との連携の充実は評価に値する。

				修理に関する基礎資料の蓄積を図り、その調査実績を各所における塗装修理作業に役立てることができた。 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究(東文研) 産業遺産の保存と修復に関して、海外事例も含めた各種産業遺産の現地調査を行い、その結果をもとに研究会を実施した。また、佐渡金銀山遺跡、長崎県端島(軍艦島)、山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉、原爆ドーム、足尾銅山遺跡等、史跡指定地内に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。 ・学術雑誌等への論文掲載数 17 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 31 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	どの表具裂見本のデータベース化、文化財の修復材料などに関して有益な基礎的知見を収集することができた。さらにこの成果の一部を研究会や通じて公表するとともに今後広く当該取り組みを海外にも伝える英文翻訳を実施することができた。 ＜課題と対応＞ 特になし	

4. その他参考情報

特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－（4）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 （4）国・地方公共団体の要請に基づく調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	7	4	13	3	22
	（合　計）	実績値	－	－	7	4	13	3	22
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	2	2	3	4	9
	（合　計）	実績値	－	－	2	2	3	4	9

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000
決算額（千円）	512,338	619,805	626,105	568,065	652,884
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、文化芸術振興費 0 千円(1－7に計上している文化財防災ネットワーク推進事業を除く)、政府開発援助ユネスコ活動費0千円、受託収入 26,000 千円であり、当初の受入見込みになかった受託事業等が多数あるため、予算額の欄には、決算報告書の文化芸術振興費補助金、政府開発援助ユネスコ活動費、受託収入の収入決算額の合計額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、受託事業費、文化芸術振興費補助金(1－7に計上している文化財防災ネットワーク推進事業を除く)、政府開発援助ユネスコ活動費受託事業費の支出決算額の合計額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価
				業務実績	自己評価	
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 （4）国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 （4）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 （4）高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P209～212 4(4) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 6 件の研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 研究テーマは以下のとおり。 ・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（東文研） ・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（奈文研） ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力（奈文研） 主な研究成果は以下のとおり。 ・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（東文研） クリーニング効果の期待できる酵素群の利用に関する研究を継続実施し、キトラ古墳壁画では漆喰の再構成のための修復材料の検討を行った。修理施設の生物・温湿度環境モニタリングを行ない、安全な保存環境の維持を図った。劣化原因調査で採取された両壁画由来の微生物株について整理と公的機関への寄託についての準備を行った。高松塚古墳壁画の色料について、奈良文化財研究所と共同で調査を行った。 ・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（奈文研） 文化庁の要請に基づき、随時、高松塚古	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P209～212 4(4) ＜評定と根拠＞ 評定：B 設定した研究テーマは、中期計画に沿ったものである。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施され、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、文化庁、国土交通省の要請に応じて、保存措置等のために必要な調査・研究を迅速かつ適切に実施した。 特に、「文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力」について、東京文化財研究所では、両古墳壁画の文化財としての価値を守り続けるために必要な調査研究を継続して行ない、またその成果を適宜公表してきた。材料調査と修復作業との連携、修理施設の環境改善に関する文化庁・奈良文化財研究所との連携、将来における高松塚古墳壁画の保存活用に向けての奈良文化財研究所の考古学調査との連携も適切に図ることができた。 また、奈良文化財研究所では、キトラ古墳の整備・キトラ古墳壁画体験館 四神の館の開館を 28 年度に控え、キトラ古墳周辺の整備活用に向け、質量ともに従来を大きく上回る立会調査、記録作業、専門的知識・技術に基づく協力等を実施した。また、キトラ古墳天文図についての調査研究及びその成果の公	評定　B 〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って設定した研究テーマ6件について調査研究が実施されており、それらの成果物としての学術雑誌等への論文掲載件数及び学会、研究発表件数は前年度よりも高い実績値が示されている。 ＊論文掲載件数（2研究所） H26年度：3件 → H27年度：22件 発表件数（2研究所） H26年度：4件 → H27年度：9件 こうした数値の変動は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究が適切に実施された結果、推進した成果であると考えられ、研究等に関する外部資金獲得に寄与している点も評価できる。 よって、当該評定については、B評定が相当であると判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント。 ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。

					墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用について、適切な技術的協力を行った。また、キトラ古墳に関する調査研究の蓄積や国立天文台との共同研究の成果を活かし、飛鳥資料館における展示公開（特別展「キトラ古墳と天の科学」（27 年 10 月 9 日～11 月 29 日）を開催し、写真資料集を刊行した。 ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力（奈文研） 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の整備にともない、パネル内容やキトラ古墳壁画体験館　四神の館の展示内容につき助言等を行った。また、整備工事に伴い発掘調査と工事立会を実施した。発掘調査地は 26 年度の飛鳥藤原 184 次調査区の南側にあたり、平安時代以降と推定される遺構を確認した。 研究テーマ数には「6.情報資料の収集・整備および調査研究成果の発信」における国交省等への協力についてに関するものも含む。 ・学術雑誌等への論文掲載数 22 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 9 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	表を国立天文台と共同で実施するなど、これまでの調査研究成果の蓄積に異なる角度から検討を加え、予想を上回る貴重な調査研究成果を得ることができ、その成果の公開活用も積極的に行った。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(5)	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4. 文化財に関する調査及び研究の推進 (5)有形文化財の収集等に関する調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東博）	実績値	―	―	91	92	134	126	116
	（京博）	実績値	―	―	72	60	30	34	34
	（奈良博）	実績値	―	―	29	31	22	22	27
	（九博）	実績値	―	―	48	35	21	24	20
	（合計）	実績値	―	―	240	218	207	206	197
学会、研究会での発表件数（件）	（東博）	実績値	―	―	72	65	76	104	102
	（京博）	実績値	―	―	18	32	10	25	16
	（奈良博）	実績値	―	―	16	32	21	39	51
	（九博）	実績値	―	―	43	76	35	23	34
	（合計）	実績値	―	―	194	205	142	191	203

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	597,470	577,268	1,283,989	686,536	956,171
決算額（千円）	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、4博物館の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4博物館の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 (5)有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる以下の調査・研究を進める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧に係る調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P213～344 4(5) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ ・各博物館とも、調査研究の成果を踏まえた特別展や特集陳列などの展示を実施した。 ・板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究 板谷家は幕府御用絵師でありながら、作品の存在や活動状況はあまり明らかとなっていなかったが、板谷家作品の所在や、板谷家伝来資料に作品制作の状況を示す資料が多く含まれていることが確認されるなど、科学研究費による本調査によって新たな知見が多く得られた。(東博) ・東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究 油彩画、水彩画、漆工品など美術工芸品に対する安定化処理、及び仮設の施設を利用した被災資料の一時保管環境の改善に関して、当初の予定通りに進行し、成果の公表を積極的に行うことができた。(東博) ・近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究 京都国立博物館では、京都とその周辺の古社寺伝来の文化財調査を継続的に行っており、27 年度はX線CT等科学調査機器を使用も含め、知恩寺所蔵文化財の追加調査を行い、従前の成果と併せて社寺調査報告書 27 として公表した。(京博) ・平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究 来館者の主体的な興味関心を引き出すための手法や教材について京博ナビゲーターの実践を通して調査研究を行い、その成果を反映して新たなハンズオン教材を作成した。(京博) ・南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究 館内外において多数の彫刻の調査・撮影を行った。調査の結果、X 線透過撮影により法華寺文殊菩薩坐像の像内納入品の存在の発見や蛍光 X 線調査により肉眼では見えない薬師寺聖観世音菩薩立像・月光菩薩立像の鍍金の存在を確認するなど新たな知見が得られた。(奈良博) ・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 ・日タイ間の文化交流に関する資料収集と総合的研究 九州国立博物館が中心となり、日本各地の研究機関、タイ文化省芸術局、研究協力者と連携して調査研究を行った。これにより、日本とタイにおける交易・文化交流資料の情報を共有し、また意見交換などを通して、相互に研究成果を蓄積することができた。(九博) ・収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する 文化財保存修理所で修理された木造彫刻作品について、京都大学生存圏研究所との共同研究として機種同定調査を実施した。(奈良博) ・みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム 東北・関東・東海・関西の被災地、防災先進地の取り組みを調査情報収集し、当館が中心となって、九州・山口 8 県の連携協力、および市民参加型による地域の文化財を守るネットワークを構築するための研修プログラムを策定した。(九博) ・水中遺跡の保存・活用に関する調査研究 我が国の歴史文化を育んだ海外交流の担	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P213～344 4(5) ＜評定と根拠＞ 評定:B 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進めた。 ・板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究においては、新たな知見が多く得ることができ、調査研究の成果を報告書の刊行と特集展示に結びつけることができた。 ・京都国立博物館では、社寺調査を長年にわたり継続して実施しており、昭和 55 年から社寺調査報告書を刊行し、文化財の調査成果を公表してきている。平成 27 年度の知恩寺で 85 社寺を数え、京都の社寺の文化財の調査研究を順次すすめることにより、展覧会の基礎資料になるなど、展示事業にも結びついている。 ・「収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する」については、調査で得られた所見は保存カルテ、修理調書に反映され、修理仕様を決定するための基礎的資料となった。また、修理した文化財は次年度に特集展示「新たに修理された文化財」で修理の成果を公開している。 ・水中遺跡の保存活用に関する研究は、我が国で今後、保存活用の技術と制度の確立が求められている事項であり、重点的に取り組んだ。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 国立博物館4館それぞれが調査研究の成果をふまえた特別展や特集陳列などの展示を実施した。東博は江戸幕府御用絵師(板谷家)、京博は知恩寺、奈良博は南都の古代・中世の彫刻、九博は水中遺跡や防災関係の展示を行っており、いずれも有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国の文化の向上に寄与していると考えられ評価できる。なお、以下のように新たな取組も行われており、今後の進展が期待される。 ①みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム 東北・関東・東海・関西の被災地、防災先進地の取り組みを調査情報収集し、九博が中心となって、九州・山口 8 県の連携協力、および市民参加型による地域の文化財を守るネットワークの構築に寄与している。当該枠組みについては、熊本地震に際しても機能しており評価される。 ②水中遺跡の保存・活用に関する調査研究 貴重な文化遺産である水中遺跡を保存活用するための先進的な取り組みを、海外の視察などを通して調査研究されており、国内にある海事文化遺産の活用方法について、新たな知見が得られている点は評価できる。 また、学術雑誌等への論文掲載数や・学会、研究会での発表件数といった指標からも前者は前年度と同様、後者はそれ以上の水準を保たれている。 以上のことから、目標は達成していると考えられるためB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・「水中遺跡の保存・活用に関する調査研究」については、日本の水中遺跡の調査研究は、海外と比較して立ち遅れているため、文化財機構(特に九博)が日本における水中遺跡の調査研究機関として果たす役割は大きく、現在文化庁で進められている水中遺跡の調査研究に応じた恒常的な機関の設置が望まれている。 また、奈文研が行っている埋蔵文化財の発掘調査報告書をデジタル化して公開する「全国遺跡報告総覧」は、これまでの膨大な埋蔵文化財調査の成果の活用において、大きな意味をもっており、今後も事業を継続・拡充する必要がある。 ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。

					い手である船は、遺跡として海中に多く存在する。こうした貴重な文化遺産である水中遺跡を保存活用するための先進的な取り組みを、海外の視察などを通して調査し、国内にある海事文化遺産の活用方法を検証した。（九博） ・学術雑誌等への論文掲載数 197 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 203 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。		

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－5－（1）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 5. 文化財保護に関する国際協力の推進 （1）文化財保護に関する国際協力				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	2	3	2
	（奈文研）	実績値	－	－	0	2	1	0	0
	（合　計）	実績値	－	－	0	2	3	3	2
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	2	8	11	14	23
	（奈文研）	実績値	－	－	2	2	2	0	0
	（合　計）	実績値	－	－	4	10	13	14	23

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	244,894	265,375	223,876	213,739	156,187
決算額（千円）	177,711	163,407	152,350	175,015	165,052
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際研究協力事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、国際情勢により事業の実施が困難であるため予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。 （1）研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （1）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。 （2）国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 （3）文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （1）文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国において文化財の保護事業を推進する。 （2）国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 （3）文化財保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 〈評価の視点〉 〇情報の収集・分析及びその提供を行い、国際協力のネットワークを構築したか。 〇アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P345～364 5(1) ～ (3) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ ・世界遺産委員会（ドイツ）、ICOMOS 年次総会（福岡）等の国際会議に出席し、文化財保護に関する国際情報収集を行った。また、文化財保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、対訳法令集シリーズを新たにメキシコについて 1 冊刊行した。（東文研） ・敦煌研究院保護研究所と共同で、莫高窟第 285 窟の調査を行い、洞窟内で発生する風（空気流）によって飛ぶ微小な砂の挙動と壁画の劣化との関係についてデータを取得し、考察を行った。10 年に及んだ莫高窟第 285 窟の調査研究を総括するため、これまでの成果を日中２ヵ国語の報告書としてまとめ、併せて敦煌研究院において総括の成果会を報告開催した。また、陝西省考古研究院と連携し、技法・絵画表現において大きな変革期となる隋・初唐の墳墓壁画について調査を行い、次の研究課題について考察した。（東文研） ・カンボジアでは、タネイ遺跡保存整備計画策定支援を継続し、諸国際会合に参加した。ブータンでは、伝統的版築造建造物保存に向け、調査方法及び今後の計画等に関し意見交換を行った。また、ミャンマーでは、バガン漆博物館において伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップを開催した。インドネシアでは、パダン歴史地区復興に関する住民参加型セミナーを開催した。各国より遺跡保護専門家を招聘し、考古・建築遺跡等の調査や保存整備活用における技術的課題を中心とする研究会を開催した。（東文研） ・アフガニスタンにおいて、バーミヤーン遺跡における保護の在り方や日本の協力ついて検討を行なった。また、イラク等の戦争･紛争後の文化遺産復興の在り方ついて検討した。西アジア周辺諸国においては、キルギス、イラン、カザフスタンにて文化遺産の調査研究・保護への協力等を実施することができた。（東文研） ・「紙の保存と修復」では、国内研修として、日本の紙本文化財修復に使用する材料等に関する講義、掛軸・屏風等の取り扱い実習、和紙製造現場及び紙本文化財関連施設の見学を実施した。メキシコ研修として、紙本文化財修復に使用する道具等に関する講義、和紙を用いた裏打ち等の補修に関する実習を実施した。（東文研） ・在外日本古美術品保存修復協力事業として、国内外の学会において海外で1件、国内で3件の研究発表を行った。所期の計画通りブロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵品1件の作品の修復を完了させ、日本技術美術博物館 Manggha（ポーランド）所蔵品ほか5件の作品を輸入し修復を開始することができた。また、ドレスデン国立美術館−陶磁器資料館（ドイツ）所蔵の漆工芸品 1 作品を輸入し、同館と共同研究を開始した。（東文研） ・ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力として、集団研修 1 件（4 講座）、個人テーマ研修 1 件（4 講座）に加え、ワークショップへの講師派遣 1 名（8 講座）を行った。また、奈良で開催された国際会議「木造文化財の保存理念を再考する」に研究員 1 名を派遣した。（奈文研） ・カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ遺跡の建築学的・考古学的・保存科学的調査について、総合的成果としては、南祠堂の再構築が完了し、国際調整委員会アドホック	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P345～364 5(1) ～ (3) ＜評定と根拠＞ 評定：B 文化財保護に関する国際協力に関して、事業を有機的・総合的に展開し、文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与した。 ・世界遺産委員会を初めとする国際会議に出席するなど、文化財保護に関する国際情報の収集・分析を行い、適切かつ迅速に情報発信を行った。国内外において充実した研究交流とネットワークの強化が実施できた。また国内の選定保存技術の調査を積極的に進め、効果的に情報発信を行った結果、海外また国内からも高い評価を得ることができ、28 年度に向け発展的に継続するための基盤整備ができた。 ・カンボジアにおいては、現地機関主体による遺跡保存整備を技術面で支援するという基本的考え方のもと、必要な現地作業を実施することができた。ブータンでは、これまで継続してきた協力事業のフォローアップを実施し、今後の展望を含め着実な進捗を得ることができた。インドネシアでの歴史的街区復興支援をさらに進めることができた。また、招聘研究会では地域横断的な技術的課題克服のための意見交換を行うことができ、専門家及び関係者間での情報共有を促進し今後に向けた方向性を示すことができた。 ・ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力では、当研究所の多年に渡る調査研究を活かした「木造建造物の保存と修復」に関する研修を担当し、また、近年要望の高い「文化財写真」の研修を実施することができた。文化財に関する保存技術や写真技術に関する研修依頼が、外国から多く寄せられている、ユネスコアジア文化センターや国際協力機構等からの研修協力依頼に対して、適時迅速に対応できた。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 東文研、奈文研の2研究所では、中期計画に則して中国（敦煌）、カンボジア（タネイ遺跡）等のアジア圏における文化財を通して各国の調査研究機関等と情報の収集、人的交流が行われている。また、文化財保護の支援も積極的に実施されている。 このほか、世界遺産委員会やICOMOS等の国際会議に出席し、文化財保護に関する国内外において研究交流とネットワークの構築とその強化に寄与していると考えらる。 さらに学術雑誌等への論文掲載数、学会、研究会での発表件数について、前者は前年度並の水準、後者は前年度以上の数値が得られており、国内外の研究機関等と協力し、文化財の保護制度や施策、調査研究が適切に行われた表れだと考えられる。 以上のことから、目標は達成していると考えられるためB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 〇有識者コメント。 ・計画的かつ継続的に取り組まれており、我が国の国際貢献に寄与している。

					ク委員の現地視察等を終了した。また、次の目標である北祠堂の解体準備に着手し、一部解体を開始した。考古学的調査としては、西トップ遺跡周辺の小規模な発掘調査を実施し、周辺部の往事の環境復元に資する成果を得た。建築学的調査に関しては、再構築に際しての地盤強度試験等を行い、再構築に使用する基壇改良土の検討を行った。（奈文研） ・学術雑誌等への論文掲載数 2 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 23 件 内訳はアウトプット情報を参照		

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－5－（2）	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 5. 文化財保護に関する国際協力の推進 （2）アジア太平洋地域における無形文化遺産保護				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条　第5号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	0	1	1	1	1
学会、研究会での発表件数（件）	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	2	6	1	0	3
ウェブサイトアクセス件数（件）※	（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）	実績値	－	－	※1,838	5,289	5,454	6,200	7,504

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	8,600	8,600	8,600	8,600	8,600
決算額（千円）	45,048	62,653	66,475	76,093	68,911
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	1	1	1	1	1

※予算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの当初予算額を計上している。
※決算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの受託事業費等の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、当初の受入見込みになかった受託事業等があったことによる。
※従事人員数は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤研究職員の人数を計上している。

※23 年 12 月 16 日サイト開設

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。 (2)平成23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (4)23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (4)アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究拠点として、同地域における危機に瀕した無形文化遺産の保護に向けた現地調査やワークショップを実施する。また、無形文化遺産保護の分野の研究データ及び同地域の研究機関や研究者についての総合的な情報収集を行うための国際会議を開催し、その成果についてデータベースを構築し、共有する。さらに国際会議への出席やユネスコとの連携を通じて、無形文化遺産保護を中心とした国際的動向の情報収集を図る。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 ○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P365～366 5(4) 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～240 共通資料 c-②～⑧ ＜主要な業務実績＞ 文化庁受託事業「平成 27 年度無形文化遺産保護パートナシッププログラム」及び文部科学省補助金「平成 27 年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金」による事業を通じ、国単位での体系的文献サーヴェイ及びその成果に基づく国際専門家会合、データベースの拡充を実施し、また、消滅の危機に瀕する無形文化遺産保護の現状・方策や法制度に関する現地調査やワークショップを開催した。 ・学術雑誌等への論文掲載数 1 件 ・学会、研究会での発表件数 3 件 過年度についてはアウトプット情報を参照	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P365～366 5(4) ＜評定と根拠＞ 評定:B 危機遺産関連の事業(ベトナム・スリランカ)では予算削減に併せて実施計画を一部変更したが、全事業について、国内外の協力機関・研究者と連携して活動を実施することにより、所期の目標を達成することができた。アジア太平洋地域における情報収集、専門家会合・ワークショップの開催により成果を蓄積すると同時に、多地域からの参加、海外研究機関との連携強化が着実に進んだ。研究情報収集に関しては 26 年度にデータベースの公開を開始し、その後各地の研究機関との連携により、収録情報が充実しつつある。また危機に瀕する無形文化遺産保護のための調査研究事業においても、伝統工芸復興の国際協力として成果を挙げた。本事業の成果を受け、ベトナム政府はドンホー木版画技術の無形文化遺産条約における代表的一覧表への記載を目指すこととなり、またその伝統的技術の継承に貢献するためのコミュニティミュージアムの設立の検討に入った。 一連の活動を通して、アジア太平洋地域における無形文化遺産の調査研究センターとしての基盤を整えることができたと評価できる。 ＜課題と対応＞ 特になし。	〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って、ベトナムやスリランカをはじめとしたアジア太平洋地域の消滅の危機に瀕する無形文化財遺産保護の現状・方策や法制度に関する現地調査やワークショップが開催されており、その結果、海外研究機関との連携が進みデータベースの収録情報が充実したほか、伝統工芸の復興や技術の継承に寄与している点が評価できる。 学術雑誌等への論文掲載件数は前年度並の水準、学会、研究会での発表件数やウェブサイトアクセス件数等は前年度以上の数値が得られており、アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究や情報の発信が適切に行われた表れだと考えられる。 以上のことから、目標は達成していると考えられるためB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報

特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－6	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 6. 情報資料の収集・整備および調査研究成果の発信				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
平城宮跡資料館来館者数	計画値		85,214	－	85,300	85,300	85,300	85,300	85,300
	実績値		－	－	132,295	124,515	108,896	109,188	105,334
	達成度		－	－	155.1%	146.0%	127.7%	128.0%	123.5%
飛鳥資料館来館者数	計画値		45,589	－	48,800	48,800	48,800	48,800	48,800
	実績値		－	－	42,479	38,854	41,736	38,096	42,749
	達成度		－	－	87.0%	79.6%	85.5%	78.1%	87.6%
藤原宮跡資料室来館者数	計画値		4,509	－	4,400	4,509	4,509	4,509	4,509
	実績値		－	－	2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
	達成度		－	－	67.5%	210.9%	174.5%	187.6%	242.5%
（合計）	実績値		－	－	177,745	172,879	158,501	155,745	159,016
ウェブサイトアクセス件数(件)	（東文研）	実績値	－	－	1,314,541	(*1) 1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504
	（奈文研）	実績値	－	－	457,154	425,044	447,563	525,886	605,211
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	1	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	0	0	9	4	3
	（合　計）	実績値	－	－	0	0	10	4	3
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	2	1	1	0	0
	（合　計）	実績値	－	－	2	1	1	0	0

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	355,938	391,581	372,224	340,626	374,079
決算額（千円）	343,275	414,774	312,413	367,691	341,134
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	89	87	89	89	89

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費及び展示出版事業費予算額の合計額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費及び展示出版事業費決算額の合計額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数に、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの研究職員の人数を加えた人数を計上している。

＊1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24 年 10 月～25 年 2 月のアクセスログが消失したことから、
アクセス件数は不明である。ログが保存されている 7 ヵ月間のアクセス件数 717,919 件の月平均を 12 倍した値を、参考値として記載している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価 業務実績	法人の業務実績・自己評価 自己評価	主務大臣による評価
6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信 国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信（前文略） （1）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 （2）文化財に関する調査・研究に基づく	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信 以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 （1）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 （2）文化財に関する調査・研究に基づく	〈主な定量的指標〉 ・前中期計画期間年度平均来館者数（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く） 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 〇ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ったか。また、文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ったか。 〇公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行ったか。また、ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図った	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P367～398 6 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P184～241 共通資料 c-②～⑧,d ＜主要な業務実績＞ （1） ・保守期限切れを迎えるネットワーク機器の更新を実施し、無線 LAN のアクセスポイントを追加した。また、仮想サーバを導入した。（東文研） ・遺跡、写真、報告書抄録、航空写真、図面画像、考古関連雑誌論文情報補完のデータベースについてデータの入力・更新を行うとともに、新規に和同開珎データベースを作成した。（奈文研） ・「神楽マップ」「無形文化遺産の記録所在情報データベース」「東京都民俗芸能マップ」「311 復興支援無形文化遺産情報ネットワーク」の 4 件の無形文化遺産関連のデータベースについて、所内の仮想サーバに移行し、当研究所での運用を可能とした。（東文研） （2） ・図書の収集・整理・公開・提供行った。（東文研）（奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。（東文研）（奈文研） ・第 49 回企画情報部オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した。（東文研） ・公開講演会は、例年実施している定例公開講演会（奈良）を 2 回、特別講演会（東京）を 1 回、飛鳥資料館特別展記念講演会等を 3 回開催した。発掘調査に伴う現地説明会等を	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P367～398 6 ＜評定と根拠＞ 評定：B ウェブサイト、刊行物、研究成果公開施設における展示等により、調査・研究成果の発信を順調に行うことができた。 ・老朽化したネットワーク機器の更新及び大容量ストレージの基本システムの導入によりセキュリティの強化及び高速化、経費の縮減が図ることができた。（東文研） ・データベースへの入力と更新を継続し、新規のデータベースの公開をするなど、専門的アーカイブの拡充と文化財に関するデータベースを充実させた。 ・オープンレクチャー、講演会、現地説明会を行った。定例講演会に加え特別講演会を各 1 回開くなど、積極的に開催した。 ・全国 21 の国立大学が連携して取り組んだ全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトを引き継いで、奈良文化財研究所のホームページから、「全国遺跡報告総覧」として公開を開始するなど、一般には入手し難い利用価値の高いデータベースを複数公開できたことは大きな成果であり、アクセス数向上にも繋がった。（奈文研） ・平城宮跡資料館、飛鳥資料館では、特別展のみならず企画展を目標以上に実施し、藤原宮跡資料室でも通年の速報展示を実施し、展示を充実させた。 また、来館者数については平城宮跡資料	評定　B 〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って、ウェブサイトや刊行物、研究成果公開施設における展示等による、研究成果の発信について、計画どおりに実施されおり評価できる。 研究成果公開施設の展示については、特別展や企画展の開催数を増やし、速報展を実施するなど充実されている。また、国立天文台との共同研究の成果も盛り込まれており、他研究機関との連携という点でも評価される。 なかでも、奈文研においては、国立大学との連携が前身である「全国遺跡報告総覧」がHP上で公開され、これまで入手が困難であった利用価値の高いデータをより広く多くの人が容易に入手することが可能となったことは評価できる。 定量的な指標をみると研究成果公開施設の来館者数の目標達成度は、平城宮跡資料館：125%、飛鳥資料館：87.6%、藤原宮跡資料室 242.5%であり、全体では 159%を示している。 また、その他の指標である論文掲載件数や学会での発表件数は前年度並の水準を維持しており、ウェブサイトアクセス件数は増加している。 上記の取り組みの成果が定量的指標に反映されていると考えらえる。 以上より、目標に則して適切に事業が実施され、指標からも目標は達成していると考えられるので当該評定はB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 28 年度に開館するキトラ古墳壁画体験館 四神の館については、来館者数の満足度の獲得するために他機関と連携による相乗効果の創出が望まれる。

		成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 （３）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。 （４）文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研	成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図る。 （３）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。 （４）文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び奈良文化	か。 ○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ったか。また、来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保したか。 ○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力したか。また、ボランティアへの活動支援を行ったか。	3回実施した。（奈文研） ・ウェブサイトの更新を随時実施し、レイアウトやメニュー構成などデータへのアクセス方法を改善した。（東文研） ・ウェブサイト内へ新規に3つのデータベース（全国遺跡報告総覧、3D Bone Atlas Database、古代地名検索システム）を公開した。（奈文研） （３） ・平城宮跡資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 秋期特別展「地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－」など特別展を開催し、企画展・講演会を目標以上に開催した。（奈文研） ・飛鳥資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」など特別展を開催し、企画展・講演会を目標以上に開催した。（奈文研） ・藤原宮跡資料室における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 発掘調査の速報展示などを通年で実施した。（奈文研） （４） ・「国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力」では、展示評価のための展示室簡易模型製作、インタビュー調査、ワークショップを実施した。また、世界遺産隣接型展示施設や注目される展示手法をとる展示施設等の視察調査を実施し、これらの成果を実施設計に反映させることができた。（奈文研） ・「国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内のキトラ古墳壁画体験館　四神の館の建設への協力」では、国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳壁画体験館　四神の館の展示に用いる資料を奈文研所蔵・保管資料の中から協議に基づき選定し、キトラ古墳壁画体験館　四神の館に搬入して展示する	館、藤原宮跡資料室では目標値を大きく上回った。 飛鳥資料館の来館者数については、目標を下回ったが、飛鳥の意義、重要性を来館者に伝えるため、特別展2回、企画展2回、講演会・ギャラリートーク9回、イベント2回を開催し、奈良文化財研究所あるいは飛鳥の歴史的な地域の特性を活かした展示を行った。 また、飛鳥資料館開館40周年を記念した秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」では、文化庁との共催により、キトラ古墳天文図を中心として中国式星座の世界と古代の天の科学をわかりやすく紹介し好評を博した。さらに、国立天文台との共同研究を実施し、その成果を発表するとともに、報道およびドキュメンタリー番組においてもその成果を広く公開した。 また、東京の多摩六都科学館との連動企画講演会も行い、関東方面へも広く伝えることができた。 ・平城宮跡展示館（仮称）詳覧ゾーンの実施設計の開始に向けて、様々な調査・検討成果を即座に模型や平面図に反映したことで、28 年度の実施設計を効率よく進められる素地が整った。 ・キトラ古墳壁画体験館　四神の館の開館を28 年度に控え、キトラ古墳壁画体験館　四神の館での展示内容に関して、質量ともに従来を大きく上回る展示品や情報の提供、助言、校閲、監修など多方面の協力を実施した。高松塚古墳・キトラ古墳等の保存・活用について、保存科学、考古学等の多方面から長年にわたり調査研究を実施してきた当研究所ならではの経験・蓄積を活かした協力であり、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力の成果を迅速に反映させて充実した内容とすることができた。	〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・ウェブサイトなどの充実は特筆される。今後も拡大が期待される。

		究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。		作業に協力した。また、文化庁とともに解説パネル案、展示品の模型類、映像資料などについて、学術的内容に関する助言と資料提供を行った。（奈文研） ・学術雑誌等への論文掲載数 3 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 0 件 内訳はアウトプット情報を参照	<課題と対応> 飛鳥資料館の来館者数が目標値に達しなかったことは課題だが、展覧会の内容や展示方法の工夫、常設展示の一部更新などを行うことで魅力ある資料館に変える取り組みを継続するとともに、28 年度に開館するキトラ古墳壁画体験館　四神の館との連携を図り、相乗効果により来館者数の増加に努める。	

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－1　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報					
1－7	1. 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 7. 地方公共団体への協力等による文化財保護への貢的向上				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
埋蔵文化財担当者研修	課程数（課程）	計画値	－	－	13	14	9	15	14
		実績値	－	－	13	24	9	15	15
		達成度	－	－	100.0%	171.4%	100.0%	100.0%	107.1%
	受講者数（人）	計画値	－	－	160	160	117	190	164
		実績値	－	－	136	156	138	171	177
		達成度	－	－	85.0%	97.5%	117.9%	90.0%	107.9%
保存担当学芸員研修	研修期間（週）	計画値	－	－	2	2	2	2	2
		実績値	－	－	2	2	2	2	2
		達成度	－	－	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	受講生数（人）	計画値	－	－	25	25	25	25	25
		実績値	－	－	27	30	30	31	32
		達成度	－	－	108.0%	120.0%	120.0%	124.0%	128.0%
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	6	5	0	0	0
	（合計）	実績値	－	－	6	5	0	0	0
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	2	0
	（奈文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（合計）	実績値	－	－	0	0	0	2	0

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	17,806	13,140	19,665	20,472	12,435
決算額（千円）	15,684	17,515	13,432	198,831	171,673
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	89

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修事業費の決算額を計上している。（26 年度決算額には、文化財防災ネットワーク推進事業 184,653 千円を含み、27 年度決算額には同 158,441 千円を含む。）
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価 業務実績	法人の業務実績・自己評価 自己評価	主務大臣による評価
7 地方公共団体への協力等による文化財保護の貢的向上 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の貢的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するための実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の貢的向上 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の貢的向上に寄与する。 また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 （1）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 （2）文化財に関する	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の貢的向上 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の貢的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 （1）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 （2）文化財に関する	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・埋蔵文化財担当者研修 ・保存担当学芸員研修 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 〈評価の視点〉 〇文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ ・平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P399～431 7 ・平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P130～131 7 ＜主な業務実績＞ 協力・助言については、以下のような内容で1,196 件実施した。 ・文化財の収集、保管に関する指導助言（東文研）19 件 ・無形文化遺産に関する助言（東文研）11 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研）77 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文研）36 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研）20 件 ・美術館・博物館等の環境調査と援助・助言（東文研）660 件 ・地方公共団体が行う平城京域の発掘調査等への協力・援助（奈文研）4 件 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研）360 件 ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力（奈文研）9 件 研修に関して主な実績は以下のとおり。 ・文化財担当者研修（奈文研） 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、最新の知見を盛り込んだ専門研修 15 課程	＜自己評価書参照箇所＞ ・平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P399～431 7 ＜評定と根拠＞ 評定:B 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、多岐にわたる領域について、文化財に関する多数の協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行った。 「文化財担当者研修」では、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する 15 課程の研修を実施し、人材の要請に貢献した。 「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」では、自然科学に立脚し、また「現場で役立つ」ことを主眼とした資料保存のための研修会として 30 年以上実施しているが、単に"継続"しているだけではなく、資料保存を取り巻く諸状況の進歩や変化に対応し、また、批判も含めた参加者からのフィードバックを毎回カリキュラム構成に反映させていることから、満足度も非常に高いものである。受講者からのアンケート結果により、全員から「満足」との極めて高い評価を得ることができた。 中期計画外で実施した事業については以下のとおり。 ・東日本大震災の被災地の地方公共団体か	評定　B 〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って、地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、当該機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、多岐にわたる領域の文化財について多数の協力や助言が円滑かつ積極的になされており評価できる。 中期計画外の事業であるが、東日本大震災の被災地の地方公共団体の要請に応じた活動が実施され、文化財の防災ネットワークの体制整備や強化なされた点も評価できる。 以上の成果が、以下に述べる定量的指標に表れている。 定量的な指標をみると、2研究所が主催する埋蔵文化財担当者研修受講者数、保存担当学芸員研修受講者数の目標達成度はいずれも 100%以上の数値であり、学術雑誌等への論文掲載数や学会、研究会での発表件数と同様に前年度並の水準が維持されている 以上のことから当該評定をB評定が妥当であると判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 〇有識者コメント。 継続的にとりくみ。着実に成果をあげている。

		高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。	高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。		の研修を実施し、延べ 177 名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。 ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（東文研） 各地の文化財施設で資料保存を業務とする学芸員や行政担当者などを対象として、第 32 回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を開催した。受講者からのアンケート結果により、全員から「満足」との評価を得た。 中期計画外で以下の事業を実施した。 ・東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、現地派遣を波怒棄館遺跡（宮城県気仙沼市）、合戦原遺跡（宮城県山元町）、桜井D遺跡（福島県南相馬市）において実施した。また、発掘調査支援として、被災3県に『現場のための環境考古学（携帯版）』を配布した。（奈文研） ・「文化財防災ネットワーク推進事業」を継続して実施し、研修やシンポジウムを実施した。（本部） ・学術雑誌等への論文掲載数 0 件 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 0 件 内訳はアウトプット情報を参照	らの要請に応じた適切な活動を実施するとともに、昨年度に引き続き、発掘調査にかかる整理作業や報告書作成に向けて、独自に蓄積してきた専門的技術の導入を適切に行う等、より効率的に調査成果をまとめることができた。 ・文化財防災ネットワーク推進事業については、体制整備を進め、防災に関するネットワークの構築の強化に努めた。 ＜課題と対応＞ 特になし。	

4. その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－2　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2－1	2. 業務運営の効率化に関する事項 1. 一般管理費の削減		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報） 22 年度実績値に対する 27 年度実績値の減少（増加）率
一般管理費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間で15%削減	932,061	917,667	680,932	606,818	832,235	1,079,716	15.84%増（運営費交付金財源による支出は 21.84%減）
業務経費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間で5%削減	6,915,703	4,918,593	5,369,179	6,213,253	6,319,081	6,580,389	4.85%減
光熱水量	電気量（kwh）	実績値	中期目標期間で5%削減	25,860,045	25,114,550	24,277,289	25,749,324	26,425,896	24,981,029	3.40%減
光熱水量	ガス量（㎥）	実績値	中期目標期間で5%削減	1,475,110	1,725,133	1,583,761	1,912,122	1,904,708	1,888,670	28.04%増
光熱水量	水道量（㎥）	実績値	中期目標期間で5%削減	145,792	147,403	148,672	153,108	148,365	143,070	1.87%減
廃棄物排出量（kg）		実績値	－	273,407	255,976	245,438	238,041	241,900	225,151	17.65%減

※基準値は 22 年度実績

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
1 一般管理費等の削減 業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費についても5%以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。 なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費削減を図ること。	1 一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。 なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を削減する。 このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的	1 一般管理費の削減 (1)共通的な事務の一元化による業務の効率化 1)共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を引き続き図る。 2)国立博物館各館における翌年度以降の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。 3)機構共通のネットワーク及びシステムにより、業務の効率的な運用及び情報の共有化を引き続き推進する。 (2)計画的なアウトソーシング (3) 使用資源の減少 ・省エネルギー 1)光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 (エネルギー使用量は、5 年計画期間中に 5%削減) ・廃棄物減量化	〈主な定量的指標〉 ・一般管理費(物件費)の削減状況 ・業務経費費(物件費)の削減状況 ・光熱水料金 〈その他の指標〉 ・廃棄物排出量 〈評価の視点〉 ○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を行ったか。 ・共通的な事務の一元化を図ったか。 ・計画的なアウトソーシングを図ったか。 ・エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ったか。 ・廃棄物の減量化を図ったか。 ・リサイクルの推進を図ったか。 ○競争性のある契約への移行を推進したか。また、民間競争入札等の推進を図ったか。 ○一般管理費の削減は順調に進められたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P486～489 ＜主要な業務実績＞ 共通的な事務の一元化による業務の効率化、計画的なアウトソーシング、使用資源の減少に努めた。詳細は以下のとおり。 ○中期目標期間中の業務の効率化 ・共通的な事務の一元化 機構内で共通のグループウェアや財務会計システム、人事給与システムを本部主導で運営した。 平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P486 参照 ・計画的なアウトソーシング 個別表 P487 参照 ・エネルギー使用量 個別表 P488、上記指標参照 ・廃棄物の減量化 個別表 P488 参照 ○競争性のある契約への移行 個別表 P491 参照 ○一般管理費の削減 一般管理費(物件費)について、決算報告書による平成 26 年度支出額は 832,235 千円、平成27年度支出額は1,079,716千円であり、247,481 千円(29.74%)の増加となっている。 これは、平成27年度の特殊要因予算として、京都国立博物館の本館保存改修調査費 44,000 千円が措置されたこと。寄附金による財源 23,317 千円、目的積立金取崩による財源 8,607 千円と各財源による支出が増加した。 また、九州国立博物館が開館 10 周年を迎え記念式典等に 39,540 千円を支出したこ	＜自己評価書参照箇所＞ 平成27年度自己点検評価報告書 個別表 P486～489 ＜評定と根拠＞ 評定:B 効率化について、可能なものについて実施済である。 平成 26 年度と比較したエネルギー使用量については、冷暖房の省エネ運転や施設の改修に伴う効率化等により全種類で削減された。引き続き削減に取り組んで行く。 競争性のある契約への移行については、特殊な契約を除き実施済であり、性質上代替品が存在しない文化財の購入を除いた場合目標を達成している。 一般管理費の削減についても、当該年度の特殊要因を除き順調に進んでいる。また、事業費の削減についても計画どおり順調に削減している。 ＜課題と対応＞ 特になし	評定	B
						〈評定に至った理由〉 一般管理費については、平成 27 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成 22 年度より 15.8%増となっている。これは、自己収入財源の支出が増加したためである。自己収入財源は平成 22 年度の 74,406 千円より190,002 千円(255.36%)増加した264,408 千円と 3.6 倍になっている。しかし、運営費交付金財源は平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円(21.84%)減少し、670,306 千円であり抑制されている。 業務経費については、平成 27 年度は平成 22 年度より 10.87%増となっている。これは、文化財購入費・修理費予算の 1,590,277 千円が削減対象外とされ、平成 26 年度より 910,000 千円が予算措置されたためである。業務経費は 633,724 千円(15.19%)の減となっている。共通的な事務の一元化及び、計画的なアウトソーシングについても平成 26 年度実績の通り取り組みの推進が認められる。 また、競争性のある契約への移行の推進及び民間競争入札等の推進については平成 26 年度の契約額全体における競争性のある契約額の割合が基準値より 13%減となっており、これらの取り組みが推進されていることが認められる(評価項目2－3の主要な経年データ参照)。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により 平成 22 年度と平成 27 年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については19%減、ガスについては5%減となっており、所期の目標が達成されている。 ○基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館:正門プラザのオープン(平成 26 年 4 月～)、黒田記念館の展示再開(平成 27 年 1 月～)、上島珈琲店(黒田記念館にて営業)の通年営業(平成 25 年 9 月 4 日から営業開始) ・京都国立博物館:平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館:なら仏像館休館(平成 26 年 9 月～)のため減(ガスのみ) ・奈良文化財研究所:平成26年1月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成23年10月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により 平成 22 年度と平成 27 年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については 19%減、ガスについては 5%減となっており、所期の目標が達成されている。 ○基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館:正門プラザのオープン(平成 26 年 4 月～)、黒田記念館の展示再開(平成 27 年 1 月～)、上島珈琲店(黒田記念館にて営業)の通年営業(平成 25 年 9 月 4 日から営業開始) ・京都国立博物館:平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館:なら仏像館休館(平成 26 年 9 月～)のため減(ガスのみ) ・奈良文化財研究所:平成26年1月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成23年10月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 以上のことから、所期の削減目標は達成できていると考えられるので当該評定は B 評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。	

	にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 (1)共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)計画的なアウトソーシング (3)使用資源の減少 ・省エネルギー(エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減) ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進	1)使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。 ・リサイクルの推進 1)廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。	○事業費の削減は順調に進められたか。	と、消費税納付額が 145,001 千円と 85,429 千円増加したことが主な要因である。 平成 22 年支出額 932,061 千円に対しては、147,655 千円(15.84%)の増加となっている。 消費税について、平成 22 年度は 132,880 千円還付され、平成27年度は145,001千円納付していることから、平成 27 年度支出額から特殊要因として消費税納付額 145,001 千円を控除した 934,715 千円と比較した場合は、2,654 千円(0.28%)の増加となる。 平成 27 年度の支出が増加している原因は自己収入財源の増加である。自己収入財源は、平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円増加し 264,408 千円と約 3.6 倍となっている。 運営費交付金財源は、平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円(21.84%)減少し 670,306 千円である。 ○事業費の削減 業務経費(物件費)について、決算報告書による平成 26 年度支出額は 6,319,081 千円、平成 27 年度支出額は 6,580,389 千円であり、261,308 千円(4.14%)の増加となっている。 これは、平成27年度の特殊要因予算として、文化財研究所の研究機器整備費 80,000 千円が措置されたこと。前年度からの繰越による財源 266,707 千円、寄附金による財源 433,674 千円、目的積立金取崩による財源 74,020 千円と合計 854,401 千円の各財源による支出が増加した。また、自己収入額は今中期目標期間で最も多い 1,817,119 千円であり、自己収入予算額 1,322,634 千円を 494,485,千円超過したなど財源の多様化による支出増が主な要因である。 業務経費(物件費)について、決算報告書による平成 22 年支出額は 6,915,703 千		年 4 月～)、黒田記念館の展示再開(平成 27 年 1 月～)、上島珈琲店(黒田記念館にて営業)の通年営業(平成 25 年 9 月 4 日から営業開始) ・京都国立博物館:平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館:なら仏像館休館(平成 26 年 9 月～)のため減(ガスのみ) ・奈良文化財研究所:平成26年1月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成23年10月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により 平成 22 年度と平成 27 年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については 19%減、ガスについては 5%減となっており、所期の目標が達成されている。 ○基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館:正門プラザのオープン(平成 26 年 4 月～)、黒田記念館の展示再開(平成 27 年 1 月～)、上島珈琲店(黒田記念館にて営業)の通年営業(平成 25 年 9 月 4 日から営業開始) ・京都国立博物館:平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館:なら仏像館休館(平成 26 年 9 月～)のため減(ガスのみ) ・奈良文化財研究所:平成26年1月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成23年10月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 以上のことから、所期の削減目標は達成できていると考えられるので当該評定は B 評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。

					円、同平成 27 年度支出額は 6,580,389 千円であり、335,314 千円(4.85%)の減少となっている。 これは、効率化対象の事業費は予定どおり削減されたが、平成 23 年度より文化財購入費・文化財修理費予算 1,590,277 千円が削減対象外とされたこと及び平成 26 年度より文化財購入費として 910,000 千円が予算措置されたことが主な要因である。 平成 22 年度運営費交付金収入は 8,192,326 千円であり、一般管理費財源 857,654 千円と人件費財源 3,162,333 千円を控除した 4,172,339 千円が業務経費財源となっている。平成 27 年度では、運営費交付金収入は 8,440,731 千円であり、一般管理費財源 670,306 千円と人件費財源 3,321,810 千円を控除した 4,448,615 千円が業務経費財源となっており、特殊要因として文化財購入費 910,000 千円を控除すると 3,538,615 千円と 633,724 千円(15.19%)の減少となる。		〈その他事項〉 特になし。

4．その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－2	2．業務運営の効率化に関する事項 2．給与水準の適正化等		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
対国家公務員指数	事務・技術職員	実績値	－	96.9	94.0	96.5	97.0	97.1	98.3	
	研究職員	実績値	－	98.3	98.4	97.7	98.4	98.5	99.3	
財政支出割合	実績値		－	91.3%	91.3%	91.7%	89.5%	89.5%	89.6%	
累積欠損金（円）	実績値		－	―	0	0	0	0	0	
法定外福利費（千円）	実績値		－	15,030	14,917	13,559	13,171	13,918	15,538	

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
2 給与水準の適正化等 給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。総人件費についても、平成23年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。	2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。 なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。	2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また人件費改革の取り組みについて、今後の独立行政法人制度の見直し等を踏まえて検討する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・対国家公務員指数 ・財政支出割合 ・累積欠損金 ・法定外福利費 〈評価の視点〉 ○対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組水準を公表したか。 ○給与水準の高い理由及び講ずる措置（法人の設定する目標水準を含む）が、国民に対して納得の得られるものとなっているか。 ○法人の給与水準自体が社会的な理解の得られる水準となっているか。 ○国の財政支出割合の大きい法人及び累積欠損金のある法人について、国の財政支出規模や累積欠損の状況を踏まえた給与水準の適切性に関して検証されているか。 ○法人の福利厚生について、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性及び国民の信頼確保の観点から、必要な見直しが行われているか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P490 ＜主要な業務実績＞ ○対国家公務員指数の検証と公表 対国家公務員指数の状況 事務・技術職員 98.3 研究職員 99.3 給与水準の比較指標では、事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準と言える。また、検証結果、取組実績等を法人ウェブサイトにおいて公表している。 ○給与水準が高い理由及び講ずる措置 給与水準の比較指標では、事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、給与水準は適正である。 また、地域を勘案した場合、国家公務員を上回っているが、これは人事異動に関連する諸手当の割合が国家公務員の割合よりも高いことが要因となっていると推察される。 引き続き適正な給与水準を維持する。 ○法人の給与水準 独立行政法人通則法第 50 条の 10 第 3 項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定しており、その水準は対国家公務員に準じている。 ○国の財政支出割合と累積欠損金を踏まえた給与水準の検証 平成 27 年度財政支出割合 89.6% 平成 27 年度累積欠損金 なし ○法人の福利厚生の見直し 平成 27 年度法定外福利費 15,538 千円 （法定福利費を含む福利厚生費 485,919 千円） レクリエーション経費の支出はない。また、国家公務員と異なる諸手当はない。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 総括表 P490 ＜評定と根拠＞ 評定：B ・対国家公務員指数を事務・技術職員で 1.7 ポイント、研究職員で 0.7 ポイント下回っている。公表についても行なっている。 ・給与水準の比較指標では、対国家公務員指数を下回っており、給与水準は適正である。 ・人事院勧告等に準拠し、給与規程等の改定を実施した。 ・支出予算の総額に占める国からの財政支出割合は 89.6%と 50%を上回っているが、給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正である。 ・法定外福利費の支出内訳は法律に基づく健康診断経費、産業医の委託費用、職員研修費等、最低限必要なものであり、適正な支出と考える。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 給与水準の比較指標では、事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準と言える。また、検証結果、取組実績等を法人ウェブサイトにおいて公表している点も評価される。 支出予算の総額に占める国からの財政支出割合については、89.6%と 50%を上回っているが、給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考えられる。法定外福利費の支出内訳は法律に基づく健康診断経費、産業医の委託費用、職員研修費等、最低限必要なものであり、これらの支出については、適正だと考えられる。 また、法定外福利費については必要最低限なものであり、適正な支出と考えられる。 以上のことから、給与水準については所期の目標どおり適切に処理されているため、B評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報

特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2－3	2. 業務運営の効率化に関する事項 3. 契約の適正化の推進		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
一般競争入札	件数（件）	実績値	－	199	132	136	171	169	160	
	金額（千円）	実績値	－	2,009,789	3,438,898	5,135,513	4,206,183	10,028,154	3,521,258	
企画競争・公募等	件数（件）	実績値	－	36	39	34	31	53	35	
	金額（千円）	実績値	－	324,789	241,360	236,781	338,031	365,428	363,309	
上記競争性のある契約の合計	件数（件）	実績値	－	235	171	170	202	222	195	
	金額（千円）	実績値	－	2,334,578	3,680,258	5,372,293	4,544,214	10,393,583	3,884,567	
随意契約	件数（件）	実績値	－	81	69	80	63	80	72	文化財購入 33/72 件
	金額（千円）	実績値	－	1,103,603	983,703	1,190,924	1,051,603	1,523,640	1,995,894	
競争性のある契約のうち、一者応札・応募となった契約	件数（件）	実績値	－	87	66	74	84	103	96	
	金額（千円）	実績値	－	783,429	1586,048	3,115,671	1,745,254	1,940,909	2,143,029	

※基準値について、上位 4 項目は 22 年 4 月公表の随意契約等見直し計画による。
競争性のある契約のうち、「一者応札・応募となった契約」の基準値は平成 22 年度実績による。（参考：平成 22 年度　競争性のある契約の合計　217 件　2,114,321 千円）

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
3 契約の適正化の推進 契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年5月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに、外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること	3 契約の適正化の推進 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（平成 27 年5月 25 日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化推進することにより、合理的な調達を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、引き続き企画競争等、競争性と透明性を確保した契約方式により実施する。	3 契約の適正化の推進 1）契約監視委員会を実施する。 2）施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・一般競争入札等件数 〈評価の視点〉 ○契約方式等、契約に係る規定類について、整備内容や運用は適切か。 ○契約事務手続きに係る執行体制や審査体制について、整備・執行は適切か。 ○「随意契約等見直し計画」の実施・進捗状況や目標達成に向けた具体的取組状況は適切か。 ○再委託の必要性等について、契約の競争性、透明性の確保の観点から適切か。 ○一般競争入札等における一社応札・応募の状況はどうか。その原因について適切に検証されているか。また検証結果を踏まえた改善方策は妥当か。 ○法人の目的・事業に照らし、会費を支出しなければならな	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P491 ＜主要な業務実績＞ 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 27 年度に締結した契約（委員会開催時見込みの契約も含む。）の点検・見直しを行っている。また、「平成 27 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画（平成 27 年 7 月 31 日）」を制定し、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組んでいる。本年度は競争性のない随意契約の一層の見直しとして、文化財購入に係る契約を除いた同契約について、件数割合 20%、金額割合 5%を超えないことを目標として設定し、件数割合は目標より低い 16.7%であったが、金額割合は僅かに目標を超えた 5.4%であった。 ・契約監視委員会を 2 回実施した。 ・施設内店舗の貸付・業務委託について、企画競争を実施した。 ・東京国立博物館・東京文化財研究所の民間競争入札 2 件については、平成 26 年 6 月 17 日の内閣府官民競争入札等監理委員会において、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針」（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監理委員会）に基づき、終了プロセスへの移行が了承された。よって、平成 27 年度以降の事業については、平成 26 年度に一般競争入札にて契約を行った。 ○契約方式等、契約に係る規程類整備 規程は整備されている。 ○再委託の適切性	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 総括表 P491 ＜評定と根拠＞ 評定：B 契約方式等、契約に係る規程類整備については、特殊な契約を除き順調に整備等がなされている。その他の事項についても、適切に対応している。 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が 27 年度に締結した契約（委員会開催時見込みの契約も含む。）の点検・見直しを行っている。また、「平成 27 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画（平成 27 年 7 月 31 日）」を制定し、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組んでいる。本年度は競争性のない随意契約の一層の見直しとして、文化財購入に係る契約を除いた同契約について、件数割合 20%、金額割合 5%を超えないことを目標として設定し、件数割合は目標より低い 16.7%であったが、金額割合は僅かに目標を超えた 5.4%であった。 会費については、最低限の会費支出となっており、特に問題はない。	〈評定に至った理由〉 契約の適正化の推進について、「平成 27 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画（以下、「調達等合理化計画」という）」を制定し、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組まれている。調達等合理化計画のとおり、競争性のない随意契約によらざるを得ない文化財購入に係る契約を除いた競争性のない契約の一層の見直しが行われている。文化財購入を除いた、契約全体に対する随意契約について、件数割合 20%、金額割合 5%を超えないことを目標としており、結果は、件数割合で 16.7%、金額割合で目標値をわずかに超えた 5.4%であったが、許容範囲内と考えられる。 ＊文化財購入を除く随意契約＝（随意契約−文化財購入契約） 文化財購入を除く、契約全体に対する随意契約の割合＝文化財購入を除く随意契約/（文化財購入を除く随意契約＋競争性のある契約） また、一者応札・応募案件に係る改善方策についても、従来どおり多くの競争参加業者を募るために広告期間を 10 日から自主的に 20 日以上確保したほか、応札・応募を行わなかった業者に対して理由の聞き取りを行うなど削減を目指した取り組みを着実に行っており、契約監視委員会において全て妥当であるとの評価が得られている。 こうした取組みの結果、H27 年度は1件の契約が競争性のある契約に移行された。このほか、調達に関するガバナンスの徹底について、随意契約に関する内部統制を確率するために法人内に調達合理化等検討会を設置し、事前に点検を受けることとしており、H27年度は23件全てにおいて実施されている。 不祥事発生の未然防止・再発防止のために調達事務について、内部チェックマニュアルとして「調達

				い必要性が真にあるか（特に長期間にわたって継続してきたもの、多額のもの） ○会費の支出に見合った便宜が与えられているか、また、金額・口座・種別等が必要最低限のものとなっているか。（複数の事業所から同一の公益法人等に対して支出されている会費については集約できないか） ○監事は、会費の支出について、本見直し方針の趣旨を踏まえ十分な精査を行っているか。 ○公益法人等に対し（年 10 万円未満のものを除く。）を支出した場合には、四半期ごとに支出先、名目・趣旨、支出金額等の事項を公表しているか。	当法人においては、再委託の実績は無い。 ○随意契約等見直し計画 ○一般競争入札等の検証・改善 詳細は、上記報告書 P491 参照 ○会費の必要性 ○会費支出による便宜等 ○監事による会費の精査 該当する 10 万円以上の会費は、公益財団法人日本博物館協会の維持会員会費の 1 件のみ、平成 27 年度支出額は 235 千円である。これは、中期目標で定めた「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与する」ことを実現すため、同協会の主催する「全国博物館会議」に参画している。監事においても精査されている。 ○公益法人に対する支出の公表 独立行政法人国立文化財機構のホームページ内「法人情報」、「法令等に基づく公表事項」において公表している。	＜課題と対応＞ 特になし	事務マニュアル」を作成し、機構内の会計系職員 26 人を対象とした研修が行われている。 加えて、調達等合理化計画及び自己評価結果について、ホームページで公表されている。 以上より本評価を行うにあたり、調達等合理化計画に基づき、着実に取組みがなされていることから法人の自己評価のとおり B 評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

４．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則 ④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則 ⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則 ⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則 ⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項 ⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項 ⑩契約情報公表に必要な事項に関する取扱

⑪独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項
⑫独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項
⑭標準型プロポーザル方式の実施要項
⑮公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項
⑯調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑰研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑱広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式
⑲情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式
⑳独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて
㉑平成27年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画
【審査体制】
①　内部のチェック体制
各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。
東京国立博物館における 1 千万円を超える物品調達の場合の例
[購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同主任チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定　（必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁）
[予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁
[一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結]
[物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成]
[支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い]
②内部でのチェック対象案件の抽出方法
各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
2－4	2. 業務運営の効率化に関する事項 4. 保有資産の有効利用の推進		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ									
評価対象となる指標		達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
施設の有効利用件数（件）	実績値	－	－	2,698	2,604	2,436	1,615	1,715	茶室、講堂等の貸出及び撮影利用

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
4 保有資産の有効利用の推進 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。	4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。	4 保有資産の有効利用の推進 （博物館4施設） 1）講座・講演会等を開催する。 2）講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 3）国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。 （文化財研究所2施設） セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・施設の有効利用件数	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P492～497 平成 27 年度自己点検評価報告書 統計表 P132 ＜主要な業務実績＞ 【実物資産の保有状況】 平成 27 年 4 月 1 日現在 東京国立博物館 土地120,270㎡、建物(延面積)72,222㎡ 京都国立博物館 土地53,182㎡、建物(延面積)31,828㎡ 奈良国立博物館 土地78,760㎡、建物(延面積)19,116㎡ 九州国立博物館 土地166,477㎡(うち九博10,798㎡) 建物(延面積)30,675㎡(うち九博9,300㎡) ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有している。また、建物のうち 15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地4,181㎡、建物(延面積)10,516㎡	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P492～497 ＜評定と根拠＞ 評定：B 実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用されている。また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行っている。 ＜課題と対応＞ 特になし。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 定量的な指標である施設の有効利用件数をみると前年度比 106.2%を達成しており、実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用されている点は評価できる。 また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も積極的に行われている。 以上より中期計画に沿って事業が適切に行われ、保有資産の有効利用が推進されているという点で目標は達成されていると判断されるので当該評定はB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。	

				奈良文化財研究所 土地46,468㎡、建物(延面積)35,276㎡ 保有資産の有効利用の推進 27年度の貸付総件数は1,715件に上り、多数の貸付が実施されている。 詳細は上記自己点検評価報告書参照		
			〈評価の視点〉 ○実物資産について、保有の必要性、資産規模の適切性、有効活用の可能性等の観点からの法人における見直し状況及び結果は適切か。 ○見直しの結果、処分等又は有効活用を行うものとなった場合は、その法人の取り組み状況や進歩状況等は適切か。 ○「勧告の方向性」や「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」、「独立行政法人の宿舎見直しに関する実施計画」等の政府方針を踏まえて、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等とされた実物資産について、法人の見直しが適時適切に実施されているか（取り組み状況や進捗状況等は適切	○展示棟、研究施設、事務所、収蔵品倉庫、資料館等として全ての建物を使用しており、博物館・研究所としての任務を遂行するために必要不可欠である。そのため見直しは行っていない。 ○見直しは行っていない。 ○職員宿舎は所有していない。九州国立博物館における民間住宅の借上げ宿舎については、平成 26,28,30 年度の 2 年ごとに 3 回の使用料見直しを実施する計画となっている。廃止等とされた実物資産はない。		

				か） ○実物資産について、利用状況が把握され、必要性等が検証されているか。 ○資産の活用状況等が不十分な場合は、原因が明らかにされているか。その理由は妥当か。 ○実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取り組みは適切か。 ○金融資産について、保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模は適切か。 ○資産の売却や国庫納付等を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。 ○資産の運用状況は適切か。 ○資金の運用体制の整備状況は適切か。 ○資金の性格、運用方針等の設定主体及び規定内容を踏まえて、法人の責任が十分に分析されているか。	○減損対象資産の利用状況は毎年度調査しており、全ての資産が使用されており減損の兆候はない。 ○該当なし。 ○博物館・研究所の本来業務以外にも、講堂・会議室の貸与、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対しても積極的な貸出しを行い、適切に施設の有効利用を図っている。 ○現金及び預金の平成 27 年度末残高は約 37 億円であり、そのほとんどは施設整備費等の未払金に充てるものである。 ○該当なし。 ○大口定期預金として、平成 26 年 3 月 31 日～平成 28 年 3 月 30 日(365 日)2 億円の運用を適切に行っている。 ○適切に整備されている。 ○独立行政法人国立文化財機構会計規程第27条において、出納命令役は，業務の執行に支障がない範囲で，法令で定められた安全資産により余裕金の運用をすることができると定めている。 また、東京国立博物館余裕金運用取扱要項において、余裕金の運用は運営会議の議を経て、館長が決定すること。運用の対象を		

					寄附金、入場料等自己収入、その他館長が定める資金とすること。資金繰計画の作成を要すること。運用方法は、国債等、独立行政法人通則法第47条に指定する有価証券、預金等とすること。債権の発行者等の経営状況の把握することを定めている。		
				○貸付金、未収金等の債権について、改修計画が策定されているか。改修計画が策定されていない場合、その理由は妥当か。	○貸付金はない。 未収金（建物、収蔵品画像使用料等）の管理は、独立行政法人国立文化財機構債権管理要項に基づき実施している。使用後精算する建物使用料、外国からの後払いの収蔵品画像使用料等の少額の未収金が大半のため、回収コスト等も考慮しながら実施している。 ・平成 27 年度末の未収金 258 件、737,770 千円。（うち 474,248 千円が文化庁等の受託収入に係る未収金） ・平成 28 年 6 月 17 日現在の長期未収金 15 件 3,407 千円。（8 件 724 千円は平成 28 年 8 月までに回収予定、7 件 2,683 千円は継続して督促を実施中）		
				○回収計画の実施状況は適切か。 ⅰ）貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額やその貸付金等残高に占める割合が増加している場合、ⅱ）計画と実績に差がある場合の要因分析が行われているか。	○同要項に基づき、未収金の債権管理を帳簿により行い、回収計画、督促状況等を記録している。滞留管理としての管理、保全手続きについても定めている。		
				○回収状況等を踏まえ回収計画の見直しの必要性等の検討が行われているか。	○回収状況は良好であり未回収額も少額であることから、当面は見直しの計画はない。		
				○特許権等の知的財産について、法人における保有の必要性の検討状況は適	○特許権3件（研究技法関係）と商標権15件（ロゴマーク等）を保有している。取得費用がいずれも少額であるため財務諸表上の資産計上はしていないが、権利として管理して		

				切か。 ○検討の結果、知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取り組み状況や進捗状況等は適切か。	いる。研究継続の必要性から研究技法関係特許の保有は必要であり、ロゴマーク等の商標権も運営上の支障となる他者の使用を未然に防止するために必要である。 なお、特許権は当然収入につながるものであれば活用するが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 取得特許件数3件 ①壁画漆喰層剥離用ワイヤソー装置及び壁画漆喰層剥離方法（22.3.5 登録：東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ②文化財用表打ち材料及びそれを用いた文化財修復方法（22.12.10 取得：東京文化財研究所） ③フノリ抽出物の精製方法（26.7.18 取得：東京文化財研究所） ○機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」に基づき対応することになる。 ○機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」により整備されている。 ○研究成果の結実として特許権取得をしている。当機構における特許権取得は、パテント収入を目指すためではなく、研究継続の必要性から防衛的な対抗特許として保有することを主眼としているため、特別な取組みは行っていない。		

4．その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－2 中期目標管理法人 年度評価 項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－5	2．業務運営の効率化に関する事項 5．内部統制の充実・強化		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
5 内部統制の充実・強化 （1）法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。	5 内部統制の充実・強化 （1）理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。	5 内部統制の充実・強化 （1）理事長のマネジメント強化 1）モニタリングの実施 ・自己点検評価を行う。 ・監事監査を行う。 ・内部監査を行う。 2）リスクマネジメントの実施 ・リスク管理の必要に応じて、関連する諸規程の整備・見直しを行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P498～500 ＜主要な業務実績＞ （1） ・自己点検評価、監事監査、内部監査を行った。詳細はその他参考情報参照。 ・監査室を設置した。（27 年 4 月） ・内部統制に関する規程を整備した。（28 年 3 月） ・リスク管理に関する規程を整備した。（28 年 3 月） ・公益通報者保護に関する規程を整備した。（28 年 3 月） ・危機管理マニュアルの見直しを随時行い、見直しの結果 1 施設で改訂を行った。 （2） ・運営委員会、外部評価委員会を実施した。 詳細はその他参考情報参照。 ・職員研修等については、４－２人事に関する計画参照。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P498～500 ＜評定と根拠＞ 評定：B すべての項目に対し順調に実施した。 詳細は、その他参考情報に記載のとおり。 ＜課題と対応＞ 特になし	評定	B
（2）外部有識者も含	（2）外部有識者も含	・危機管理マニ				〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って内部統制の充実・強化が適切に図られている。そのため、理事長のマネジメント強化という点では自己点検評価、監事監査、内部監査によるモニタリングが実施されている。リスクマネジメントという点においては危機管理マニュアルの見直しが随時行われている。このほか、外部有識者による事業評価や職員研修の実施されている点も評価できる。情報セキュリティーの点においても監査や対策が講じられるなど目標は遂げられていると判断できる。 以上より当該評定はB評定が妥当であると判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。		

	めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。 （3）管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。	めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。 （3）管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	ュアルの見直し等を随時行う。 （2）外部有識者による事業評価 1）運営委員会、外部評価委員会を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2）職員の資質向上を図るため各種研修を実施する。 （3）情報セキュリティ対策の向上と改善 1）政府機関における情報セキュリティ対策を踏まえ、情報セキュリティポリシーの見直しを行うとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講ずる。 2）情報セキュリティについて定期監査等を実施する。	〈評価の視点〉 ○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行ったか。また、事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させたか。 ○法人の長がリーダーシップを発揮できる環境は整備され、実質的に機能しているか。 ○法人の長は、組織にとって重要な情報等について適時的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底しているか。 ○法人の長は、法人の規模や業種等の特性を考慮した上で、法人のミッション達成を阻害する課題（リスク）のうち、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握・対応を行っているか。	（3） ・政府の方針を踏まえ、情報セキュリティ関連規程の改正等を行うとともに、「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」を作成し、体制整備を進めた。 ・情報セキュリティについて定期監査等を実施した。 ・ネットワーク環境等の見直しについて、検討を継続した。 ○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行った。運営委員会を1回と外部評価委員会を3回（部会2回、総会1回）行い、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。 ○運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行った。また、理事長の勤務地（京博）と本部の所在地（東博）が離れていることから、21 年度に「相談役」を本部に置くこととし、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。方針の決定に当たっては「運営委員会」などの評価及び提言を十分検討するとともに、方針決定後は速やかに実施するように留意した。また、各施設間で調整を図る必要がある課題については、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」にて協議を行っている。 ○日常の報告や役員会（27 年度開催回数：7 回）を通じて報告を受けることにより情報収集し、役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組を行っている。また、法人内グループウェアを継続して運用し、さらなる周知を図っている。 ○役員会（27年度開催回数：7回）や各種会議を通じて、情報収集しリスクを把握し、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握をしている。その把握を元に役員会で指示し、対応を行っている。 把握している重要なリスクは以下の通りである。 ・適切な人員の確保 業務の拡充・拡大にもかかわらず、人件費削減などにより人員の補充が困難であり、職員の負担が		

					過大となっている。身分的に不安定な任期付きの非常勤職員やアソシエイトフェローによる対応には限界があり、文化財の取扱・展示・調査研究等に必要な専門知識や技術の継承が困難になりつつある。 ・大規模自然災害等への対応（耐震化等） ・文化財の破損・盗難・劣化等 ・収蔵庫の不足 ・電力逼迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温湿度管理		
				○その際、中期目標・計画の未達成項目（業務）についての未達成要因の把握・分析・対応等に着目しているか。 ○法人の長は、内部統制の現状を的確に把握した上で、リスクを洗い出し、その対応計画を作成実行しているか。 ○監事監査において、法人の長のマネジメントについて留意しているか。 ○監事監査において把握した改善点等について、必要に応じ、法人の長、関係役員に対し、報	○未達成項目については役員会において各施設長から聴取するなど、常に状況等を把握するよう努めている。またその対応についても、その都度協議している。27 年度実績において、未達成項目はなかった。 ○リスクについては役員会において各施設長から聴取するなど常に把握し、リスクへの対応計画などについては役員会において協議し、最終的に理事長の判断により実施時期、実施期限などを定めている。また、その進捗状況等については役員会にて随時報告している。 把握している内部統制のリスクは以下の通りである。 ・競争的資金にかかる不正防止 ・個人情報の管理 ・ハラスメント防止 ・情報システム管理・セキュリティ対策 把握しているリスクについては、関連する規程等を27 年度に整備し、リスクに対応できる体制を整えるとともに、監査・研修等の実施により状況の確認及び職員への周知等を図っている。 ○監事は、役員会その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、財務及び業務についての状況を調査し、法人の長のマネジメントについて留意している。 ○監査終了後に報告書を提出している。また 27 年度第3回役員会においてその結果を報告している。よって、役員会での報告により理事長及び役員が内容について認識した。監事が役員会・国立文化		

				告しているか。その改善事項に対するその後の対応状況は適切か。 ○職員研修等を実施したか。 ○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組んだか。また、情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施したか。	財機構7施設連絡協議会等に出席することにより、監事の要望事項が法人の運営に適切に反映されるよう確認を行った。 また、27 年 4 月より独立した組織として監査室を設置し、監事の業務を補佐することにより、監事機能の強化を図った。 ○職員研修等については、4－2人事に関する計画参照 ○情報セキュリティに配慮して各システム・ネットワークの運用を継続した。特に人事給与統合システムへのマイナンバー業務対応のための追加システム導入にあたっては、必要な情報セキュリティ水準の確保・維持に注力した。「独立行政法人における情報セキュリティ対策の推進について」対応のための関連規程改正については、セキュリティポリシー見直しWGを 27 年度 3 回開催して素案作成作業を進め、情報化委員会にて審議した。また、保有個人情報管理監査を 2 回、情報システム監査を 1 回、監査法人による監査の一環としてのシステム監査を 1 回それぞれ実施した。さらに、情報システム自己点検・評価を、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施した。		

4．その他参考情報
特になし。

様式1－1－4－2　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
3－1	3．財務内容の改善に関する事項 1．自己収入の増加		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
自己収入増加率	計画値	－	－	1.16%	1.16%	1.16%	1.16%	1.16%	※受託研究・受託事業を除く。 ※自己収入増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。
	実績値	－	－	△8.17%	△2.72%	5.91%	29.04%	32.71%	
	達成度	－	－	90.78%	96.16%	104.70%	127.56%	131.19%	
寄附金（件）	計画値	－	－	226	226	226	350	400	
	実績値	－	－	393	438	486	561	577	
	達成度	－	－	173.89%	193.81%	215.04%	160.29%	144.25%	
科学研究費採択件数（件）	計画値	－	－	76	76	76	76	76	
	実績値	－	－	76	88	95	107	114	
	達成度	－	－	100.00%	115.79%	125.00%	140.79%	150%	

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	A
入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 1 自己収入の増加 入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。	管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。	1 一般管理費の削減 （4） 自己収入の増大 独立行政法人整理合理化計画（19 年 12 月 24 日閣議決定）の方針に基づき設定した外部資金の活用及び自己収入の増大に向けた定量的目標の達成を、引き続き目指す。 1）機構全体において、入場料収入（共催展を除く）及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。 2）機構全体において、寄附金 400 件及び科学研究費補助金 76 件の確保を目指す。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・自己収入増加率 ・寄附金件数 ・科学研究費採択件数 〈評価の視点〉 ○短期借入金は有るか、有る場合はその額及び必要性は適切か。 ○重要な財産の処分に関する計画は有るか。有る場合は計画に沿って順調に処分に向けた手続きが進められているか。 ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は明らかにされているか。 ○また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は法人の業務運営に問題等があることによるものか。 ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公益上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないか。 ○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画は妥当か。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表P489 ＜主要な業務実績＞ ○該当なし。 ○該当なし。 ○当期総利益 139,431 千円は、入場料収入と財産利用収入の増加により生じている。 ○問題等はない。 ○利益剰余金は、現金ではない前中期目標期間繰越積立金 630,514 千円、平成 26 年度の目的積立金 4,002 千円、平成 23～26 年度の積立金 279,841 千円、当期未処分利益 139,431 千円の合計 1,053,788 千円であり、過大なものとはなっていない。 ○該当なし。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表P489 ＜評定と根拠＞ 評定：A 自己収入増加率は、主要な経年データ記載のとおり博物館の入館者数の増加により、前年度実績を大きく上回り、達成度が 131.19%となった。また、寄附金 577 件及び科学研究費採択件数も目標値を大幅に上回って達成率が 150%であり、A評定とした。 ＜課題と対応＞ 特になし	〈評定に至った理由〉 中期目標期間の自己収入に関する各指標の達成度は、自己収入増加率が 131%、寄付金件数が 144%、科学研究費採択件数が 150%となっている。A 評定の基準（定量的指標）である 120%以上の実績を上げており、当該評定はA評定が妥当であると判断した。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント ・目標値を上回っており、「A」評訂は適切である。	

			○当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証が行われているか。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるか。	○該当なし。			
			○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合、運営費交付金が未執行となっている理由が明らかにされているか。	○該当なし。			
			○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析が行われているか。	○該当なし。			
			○いわゆる溜まり金の精査において、運営費交付金債務と欠損金等との相殺状況に着目した洗い出しが行われているか。	○該当なし。			
			○中期目標期間を超える債務負担は有るか。有る場合は、その理由は適切か。	○該当なし。			
			○積立金の支出は有るか。有る場合は、その使途は中期計画と整合しているか。	○該当なし。			

4. その他参考情報

特になし。

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
3－2	3. 財務内容の改善に関する事項 2. 固定的経費の節減		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価		
入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。	評価項目2－1 「2. 業務運営の効率化に関する事項 1. 一般管理費の削減」に同じ。	評価項目2－1 「2. 業務運営の効率化に関する事項 1. 一般管理費の削減」に同じ。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 評価項目2－1 「2. 業務運営の効率化に関する事項 1. 一般管理費の削減」に同じ。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P486 ＜主要な業務実績＞ 評価項目2－1「2. 業務運営の効率化に関する事項 1. 一般管理費の削減」に同じ。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P486 ＜評定と根拠＞ 評定：B 動力源のガスボイラーの省エネ運転や建物の一時休館のため、目標値以上に削減している。 ＜課題と対応＞ 特になし	評定	B
						〈評定に至った理由〉 一般管理費については、平成 27 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成 22 年度より 15.8%増となっている。これは、自己収入財源の支出が増加したためである。自己収入財源は平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円（255.36%）増加した 264,408 千円と 3.6 倍になっている。しかし、運営費交付金財源は平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円（21.84%）減少し、670,306 千円であり抑制されている。 業務経費については、平成 27 年度は平成 22 年度より 10.87%増となっている。これは、文化財購入費・修理費予算の 1,590,277 千円が削減対象外とされ、平成 26 年度より 910,000 千円が予算措置されたためである。業務経費は 633,724 千円（15.19%）の減となっている。共通的な事務の一元化及び、計画的なアウトソーシングについても平成 26 年度実績の通り取り組みの推進が認められる。		

						また、競争性のある契約への移行の推進及び民間競争入札等の推進については平成 26 年度の契約額全体における競争性のある契約額の割合が基準値より 13%減となっており、これらの取り組みが推進されていることが認められる（評価項目2－3の主要な経年データ参照）。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により 平成 22 年度と平成 27 年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については 19%減、ガスについては 5%減となっており、所期の目標が達成されている。 〇基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館：正門プラザのオープン（平成 26 年 4 月～）、黒田記念館の展示再開（平成 27 年 1 月～）、上島珈琲店（黒田記念館にて営業）の通年営業（平成 25 年 9 月 4 日から営業開始） ・京都国立博物館：平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館：なら仏像館休館（平成 26 年 9 月～）のため減（ガスのみ） ・奈良文化財研究所：平成 26 年 1 月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 〇平成 23 年 10 月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報

特になし。

様式1－1－4－2　中期目標管理法人　年度評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4－1	4. その他業務運営に関する重要事項 1. 施設・設備に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
				業務実績	自己評価	評定	B
1 施設・設備に関する計画 各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。	1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。	1 施設・設備に関する計画 以下のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。 ・東京国立博物館法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事（予定額）109 百万円 ・京都国立博物館本館（明治古都館）免震改修等工事（予定額）170 百万円 ・奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事（予定額） 1,085 百万円 ・奈良文化財研究所本庁舎地区再開発計画の推進（予定額） 1,556 百万円 （合計）2,920 百万円 ※いずれも施設整備費補助金を財源とする。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○施設及び設備に関する計画はあるか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P501 ＜主要な業務実績＞ 東京国立博物館法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事（予定額）109 百万円は、一部工事の遅延により平成 28 年 4 月に竣工した。 京都国立博物館本館（明治古都館）免震改修等工事（予定額）170 百万円は、東収蔵庫改修設計、埋蔵文化財発掘調査等を実施した。予定額の一部を繰越し、平成 28 年度に改修工事を実施予定である。 奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事（予定額）1,085 百万円は、工事の遅延により平成 28 年 4 月に竣工した。 奈良文化財研究所本庁舎建替工事（予定額）1,556 百万円は、埋蔵文化財調査の結果を踏まえ、設計見直しを行った。	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P501 ＜評定と根拠＞ 評定：B 埋蔵文化財調査の結果、見直しが必要になった奈良文化財研究所本庁舎建替工事以外は、計画どおりに進捗している。 ＜課題と対応＞ 奈良文化財研究所本庁舎建替工事については、埋蔵文化財調査の結果を考慮した工事計画とする必要があり、建築位置等を変更するための設計見直しを行った。	〈評定に至った理由〉 中期目標に沿って施設・整備の老朽化の程度を勘案し、以下に挙げる施設整備が工事の遅延等があったものの計画的に着手された点は評価できる。 東博は法隆寺宝物館展示機能充実整備、京博は本館（明治古都館）免震改修、東収蔵庫改修設計、これに係る埋蔵文化財発掘調査、奈博はなら仏像館免震展示ケース等整備を実施している。 奈文研は本庁舎建替工事のための埋蔵文化財調査の結果を踏まえ、設計見直しを行った。 奈文研や京博では工事に伴う埋蔵文化財の事前確認調査で重要の遺跡（京博については史跡の拡張部）が確認されており、前者は本調査、後者は確認調査が実施され、長期的にみると遅れることになったている。しかし、これらは予測が不可能なものであり、今回の遺跡の確認状況からすると法人の責めに帰すものではないと考えられる。こうした不測の事態にも関わらず、文化財保護法に則り設計変更が行われるなど年度でできる限りの最大限のことが実施されており評価される。 以上より、施設・整備に関する計画に沿った整備が推進できているという点では目標を達成していると考えられるためB評定とした。 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。

4. その他参考情報
東京国立博物館法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事 （経緯）工事の一部が設計修正等の必要から遅延し、収蔵品の移転等が平成 28 年 4 月となった。 京都国立博物館本館（明治古都館）免震改修等工事 （経緯）平成 27 年度中に設計業務が完了し、仮設収蔵庫を解体する予定であった。しかし、基本設計・実施設計が平成 28 年 3 月末に完了となり工事契約が遅れることとなった。 奈良国立博物館なら仏像館免震展示ケース等整備工事 （経緯）本事業の実施に当たり、当初予定としては平成 27 年 4 月初旬に入札公告を行い、6 月末に施工者決定、7 月初旬から工事を実施し、翌 28 年 3 月末の工事完了としていた。しかし、入札手続きの遅延により工事契約の着工及び完了が遅れることとなった。（官報等公告手続きを経て、競争参加資格確認資料等の提出期限である 5 月中旬において、参加業者が 1 社のみであったことから、再度入札手続きを要することとなった。それにより、官報掲載手続き・入札公告期間など、約 1 ヶ月半追加日数を要した。）

1. 当事務及び事業に関する基本情報			
4－2	4. その他業務運営に関する重要事項 2. 人事に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
人事交流者数（人）	事務系職員	実績値	－	－	70	65	57	51	53	
	研究系職員	実績値	－	－	30	32	32	32	32	
研修件数（件）	実績値		－	－	6	6	6	7	13	

3. 各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	年度計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価 業務実績	法人の業務実績・自己評価 自己評価	主務大臣による評価
2 人事に関する計画 人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。 また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。	（1）方針 ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。 （2）人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 13，087百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。	2 人事計画に関する計画 （1）職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討する。 （2）近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。 （3）各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。 （4）非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。 （5）専門スタッフの配置などの計画的な人材の確保・育成に向け、検討を進める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・人事交流者数 ・研修件数 〈評価の視点〉 ○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ったか。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を行ったか。 ○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行ったか。 ○適切に人員配置等を推進したか。 ○人事に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。 ○人事管理は適切に行われているか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P502～506 ＜主要な業務実績＞ （1） ○能力や業績を反映できる人事・給与制度の検討・導入 平成 26 年度から職員の能力や業績等をより適切に評価できるように、新たな評価制度の検討を開始し、平成 27 年度においては、新評価制度導入に向けたスケジュール案、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を開始し、関係会議での意見交換を行い役員会において周知した。 ○人事交流の促進、研修 平成 27 年度人事交流者数 （機構内施設間交流を含む） 事務系職員　53 名 研究系職員　31 名 この他に地方公共団体から事務系 2 名、研究系 1 名の研修生を受け入れ、交流の促進を図った。 平成 27 年度研修件数及び参加者数 新任職員を対象とした研修 3 件（延べ 162 名） その他職員を対象とした研修 個人情報保護研修　2 件（全職員） コンプライアンス教育及び研究倫理教育研修　1 件（70 名） 分野別事務専門研修 4 件（延べ 80 名） 英会話研修　1 件（4 名） ハラスメント研修　1 件（約 80 名） 文化財防災事業アソシエイトフェロー研修　1 件（15 名） この他に他機関で実施する研修職員を参加させ、職員の能力開発に寄与した。 ○専門スタッフの計画的な確保・育成 任期付職員制度の活用 平成 23 年度　任期付専門員　1 名採用 平成 25 年度　任期付専門職員 1 名採用 高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、専門職制度を創設し、平成 26 年度においては国際交流部門に 1 名を内定・配置することを決定し、平成 27 年度においては出版企画部門に 1 名採用・配置した。 （2） ○適切な人員配置等の推進 適切な人員配置を推進した。 ○人事計画の進捗状況、適切な人事管理 人事計画の進捗は比較的順調に進んでいる。 ・常勤職員等の計画的な採用状況 平成 27 年度においては、事務系において新規に 2 名を採用し本部及び施設に配置	＜自己評価書参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P502～506 ＜評定と根拠＞ 評定：B （1） ・新たな評価制度の検討を開始し、具体的に日程、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を役員会において周知した。 ・例年と同程度の人事交流を実施した。交流機関等と真に必要な交流ポストを選択し、集中的に優秀かつ多様な人材を確保した。また、研修についても例年以上の 13 件の研修を提供し、新たな育成研修も実施した。 ・引き続き、任期付職員制度を活用しつつ、平成 26 年度に創設した契約期間に定めのない専門的人材の確保策としての専門職制度を活用して新たに出版企画部門に 1 名の採用・配置を行った。 （2） ・限られた人員数の中において、適材適所の人員配置に努めた。 ・事務系・研究系ともに計画通りの新規職員を採用できた。 ・専門職制度の創設を行い、専門的人材の確保を行った。 ・アソシエイトフェロー制度を活用し、優れた専門的知識等を有する者を採用・配置を行った。 ・人事交流を通じて効率的に優秀かつ多様な人材を確保できた。また、機構内の人事交流を活性化することにより中堅職員の育成、幹部職員候補の育成を図ることができた。 ＜課題と対応＞ （1） ・新たな評価制度を導入・実施していくにあたり、能力、業績を評価するだけでなく、その評価結果を人材育成に活用し、いかに組織の発展につなげられるかを検討しながら行っていく必要がある。 ・人事交流については、受入が中心となっており、双方向の人事交流の増加に向けた施策が行えるよう検討する。また、研究系職員の交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。研修については、OJT をより効果的に行なうための研修プログラムを効率的に実施する必要あるが、退職手当の通算等の問題もあるため、検討	評定：B 〈評定に至った理由〉 中期計画に沿って、新たな人事評価制度の検討開始や人事交流が実施されている。人事交流は効率的に優秀かつ多様な人材を確保できるうえ、人事交流が活性化することにより中堅職員の育成、幹部職員候補の育成を図ることができるためこうした取組みは評価できる。 事務系・研究系ともに計画通りの新規職員が採用されている点や専門職制度の創設を行い、専門的人材の確保やアソシエイトフェロー制度を活用し、優れた専門的知識等を有する者を採用・配置が実施されている点も評価できる。 定量的に指標をみると、人事交流者数や研修件数は前年度比でみるといずれも 100%以上となっており、上記の取組みが適切に行われた結果の表れだと考えられる。 以上のことから目標は達成できていると考えられるので、B評定が相当と判断した。 ＊参考 人事交流（事務）H26：51 人→H27：53 人（104%） 同　上（研究）H26：32 人→H27：32 人（100%） 研 修 件 数　H26：7 人→H27：13 人（186%） 〈指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策〉 特になし。 〈その他事項〉 特になし。 ○有識者コメント。 ・学芸員や研究職は博物館における文化財の保存・活用の基礎をなすものであるから、常勤職員についての人件費の抑制が学芸員・研究職の人員配置、技術の継承、年齢構成などに支障をきたさないように、今後の人事計画を立てる必要がある。 ・アソシエイトフェローが占める割合は適切であるかの検討が必要である。

					した。また、研究系においては適性・能力、年齢構成及び業務の効率化、技術の継承等を総合的に勘案し、6 名を採用した。また、平成 26 年度に創設した高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保するための専門職制度により、新たに出版企画部門に 1 名を配置した。 平成 20 年度において、有期雇用職員の人事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とし、平成 27 年度においては、より戦略的、柔軟的な採用活動が行えるよう給与および人事制度を改正した。 平成 27 年度においては、25 名を採用した。 ・人事交流の実績 「人事交流の促進、研修」　を参照	が必要である。さらには、専門的な研修や国際化に対応するための研修等についても検討する必要がある。 （2） ・ニーズに応じた有期雇用職員制度の創設、改正を実施してきたが、現在ある複数の制度を整理する必要がるある。 ・必要に応じ、組織の見直しについても検討する。 ・平成 27 年度に改正したアソシエイトフェロー制度について、活用状況や課題点を洗い出し、必要に応じて修正を行っていく。 ・人事交流については、事務系職員において双方向の人事交流の増加に向けた施策が行えるよう検討する必要がある。	

４．その他参考情報
特になし。

独立行政法人国立文化財機構の
第３期中期目標期間の終了時の
業務の実績に関する評価

平成２８年９月
文部科学大臣

様式１－２－１　中期目標管理法人　中期目標期間評価　評価の概要

１．評価対象に関する事項		
法人名	独立行政法人国立文化財機構	
評価対象中期目標期間	実績評価	第３期中期目標期間
	中期目標期間	平成 23～27 年度

２．評価の実施者に関する事項				
主務大臣		文部科学大臣		
	法人所管部局	文化庁文化財部	担当課、責任者	美術学芸課　萬谷宏之
	評価点検部局	大臣官房	担当課、責任者	政策課、信濃正範

３．評価の実施に関する事項
・政策評価に関する有識者会議国立文化財機構ワーキングチーム委員とともに東京国立博物館に赴き展示、収蔵、保存・修復の状況について調査した（平成 28 年 7 月 26 日）。 ・監事ヒアリングを実施し、監査の実施状況について確認するとともに法人の業務運営に係る意見交換を行った（平成 28 年 7 月 22 日）。 ・ワーキングチームに評価結果案を諮り、意見を聴取した（書面審議）。 ・法人ヒアリングを実施し、27 年度自己評価及び第3期中期目標期間自己評価（実績）について説明を受けるとともに意見交換を行った（平成 28 年 7 月 20 日）。

４．その他評価に関する重要事項
特になし。

５．国立文化財機構ワーキングチーム　委員名簿	
坂　井　　秀　弥	奈良大学文学部教授（専門分野：考古学）
佐　野　　みどり	学習院大学文学部教授（専門分野：日本絵画史）
園　田　　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授（専門分野：保存科学）
竹　本　　幹　夫	早稲田大学文学部教授（専門分野：演劇学）
筑　紫　　みずえ	㈱グッドバンカー代表取締役社長
丸　山　　伸　彦	武蔵大学人文学部教授（専門分野：染織史）
宮　島　　博　和	公認会計士

様式１－２－２　中期目標管理法人　中期目標期間評価　総合評定

１．全体の評定		
評定 （S、A、B、C、D）	B：全体としておおむね中期目標における所期の目標を達成していると認められる。	（参考）見込評価 B
評定に至った理由	項目別評定の一部にAがあるが、Bが大半を占めており、C以下はない。また、全体の評定を引き下げる事象もなかったため、Bが相当であると判断した。	

２．法人全体に対する評価	
法人全体の評価	東京、京都、奈良、九州の四つの国立博物館は、国民共有の貴重な財産である有形文化財を収集し、適切な環境で保管し又必要な修復等を行いながら、平常展等において計画的な展示を行っている。特別展も計画回数以上に開催しており、目標数を上回る来館者の実績が上がっている。これらの活動を支える調査研究、教育活動、情報の発信等も所期の成果を挙げているものと認められる。 東京及び奈良の文化財研究所は、文化財の保存・修復・公開等に関する科学的・技術的な進展や文化遺産の総合的研究に資すること等を目的に、これらに関する基礎的・体系的及び科学的・先端的な調査研究を行うとともに、新たな調査手法の研究開発等を継続して行っている。いずれの調査研究も、所期の目標を達成すべく計画的に実施されていると認められる。さらに、これらに関する情報・資料の収集・整備及び成果の公開並びに国際協力の推進についても、計画に従い着実に実施されている。 平成 23 年度に開設されたアジア太平洋無形文化遺産センターは、日本国政府とユネスコの協定に基づく活動を計画的に実施している。 業務運営の効率化、財務内容の改善、施設・設備に関する計画及び人事に関する計画については、中期計画、年度計画に従い着実に実施されている。
全体の評定を行う上で特に考慮すべき事項	東日本大震災において未曾有の文化財被害が発生し、文化財レスキュー事業をはじめ被災地の要請に応じて被害対策や発掘調査への協力等を積極的に行った。これら非常時における経験を踏まえ、全国規模で巨大地震等の大規模災害に備え、各地域における文化財の防災対策や、被災した文化財の救出・修復等の処置を適切に行うネットワークを構築することを目的として、平成 26 及び 27 年度に文化庁の補助事業により、法人全体で「文化財防災ネットワーク推進事業」を実施することとした。これらの実績を評価し、〈地方公共団体への協力等による文化財保護への質的向上〉に関する項目別評定はAとしたが、これをもって全体の評定を押し上げるまでには至らないと判断した。

３．課題、改善事項など	
項目別評定で指摘した課題、改善事項	特になし。
その他改善事項	特になし。
主務大臣による改善命令を検討すべき事項	特になし。

４．その他事項	
監事等からの意見	特になし。
その他特記事項	○有識者コメント ・多様化する業務に対して従来の人的体制では対応しているが、予算規模の縮小に伴う人件費・事業費の抑制は限界にきていると考えられ、文化立国を標榜し、日本文化を海外へ発信するためにも、現行の予算や体制について方針を変更するなど検討がなされるべきである。また、この評価指標・評価の方法についても検討の余地があるのではなかろうか。 ・東京オリンピックの開催は、第三期の目標設定時には予想されていなかった事態であるので、これに対応して、設定目標の変更を模索すべきではないか。また多言語化・バリアフリー化については一層の注力が必要かと考えられる。 ・業務全体が多様化する一方で、予算や人的体制などきびしくなるなかで、法人全体がおおいに努力しながら、業務を遂行しており大いに評価される。 ・博物館・研究所としての通常業務はもとより、東日本大震災発生直後から被災地対応、防災対策に積極的に取り組まれている。それぞれの活動において成果を挙げられていることは大いに評価される。 ・定量的指標が「A」評定の基準を超えていても全体を「A」とする根拠にはならないとされている事項があり、慎重に評価された結果と理解される。一方で、定量的評価の設定が適切であったのか、いかに定性的評価をすればよいのか、という課題が残される。 ・目標達成事業の評価（100～120%）を「B」評定とする判定方法は、かなりわかりにくい。目標達成は「A」とし、それを基準値として、目標を一定程度上回るものを「S」、達成できなかったものをその程度に応じ「B」以下としてはどうか。また、定性評価についての評価基準については、定量評価の方法の援用ではなく、別に定めるべきではなかろうか。

※　S：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。A：中期目標管理法人の活動により、全体として中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。B：全体としておおむね中期計画における所期の目標を達成していると認められる。C：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。D：全体として中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

1－2－3　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定総括表

中期目標（※1）		年度評価（※2） 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	中期目標期間評価 見込評価	期間実績評価	項目別調書No.	備考
Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項										
収蔵品の収集		A	A	A	B	B	B	B	1－1－(1)	－
収蔵品の管理、保存		A	A	A	B	B	B	B	1－1－(2)	－
収蔵品の保存技術の向上		A	A	A	B	B	B	B	1－1－(3)	－
展覧事業の充実		A	A	A	B	B	B	B	1－2－(1)	－
教育活動の充実		A	A	A	B	B	B	B	1－2－(2)	－
快適な観覧環境の充実		A	A	A	B	B	B	B	1－2－(3)	－
文化財情報の発信と広報の充実		A	A	A	B	B	B	B	1－2－(4)	－
収蔵品等の調査研究成果の公表		A	A	A	B	B	B	B	1－3－(1)	－
専門家等との学術・人物交流		S	A	A	B	B	B	B	1－3－(2)	－
文化財保存修理に関する人材育成		A	A	A	B	B	B	B	1－3－(3)	－
収蔵品の貸与		A	A	A	B	B	B	B	1－3－(4)	－
公私立博物館・美術館等に対する援助・助言		A	A	A	B	B	B	B	1－3－(5)	－
調査研究の目的・内容の適切性／調査研究の実施状況／調査研究の成果の状況	文化財に関する基礎的・体系的な調査研究	A	A	A	B	B	B	B	1－4－(1)	－
	文化財の研究に関する調査手法の研究開発				B	B	B	B	1－4－(2)	－
	文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究				B	B	B	B	1－4－(3)	－
	国・地方公共団体の要請に基づく調査研究				B	B	B	B	1－4－(4)	－
	有形文化財の収集等に関する調査研究				B	B	B	B	1－4－(5)	－
国際協力に関する研究基盤の整備	文化財保護に関する国際協力	A	A	A	B	B	B	B	1－5－(1)	－
保存修復に関する研究基盤の整備		A	A	A						
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護		A	A	A	B	B	B	B	1－5－(2)	－

中期目標（※1）		年度評価（※2） 23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	中期目標期間評価 見込評価	期間実績評価	項目別調書No.	備考
情報基盤の整備充実	情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信	A	A	A	B	B	B	B	1－6	－
調査研究成果の公開・提供		A	A	A						
公開施設の運用		A	A	A						
地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築	地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A	A	A	A	B	A	A	1－7	－
中核的文化財担当者の研修、若手研究者の育成		A	A	A						
項目評定		A	A	A	B	B	B	B	－	－
Ⅱ．業務運営の効率化に関する事項										
一般管理費の削減		A	A	A	B	B	B	B	2－1	－
給与水準の適正化等		A	A	A	B	B	B	B	2－2	－
契約の適正化の推進		－	－	－	B	B	B	B	2－3	－
保有資産の有効活用の推進		－	－	－	B	B	B	B	2－4	－
内部統制の充実・強化		A	A	A	B	B	B	B	2－5	－
項目評定		A	A	A	B	B	B	B	－	－
Ⅲ．財務内容の改善に関する事項										
予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	自己収入の増加	A	A	A	A	A	B	B	3－1	－
	固定的経費の節減				B	B	B	B	3－2	－
項目評定		A	A	A	B	B	B	B	－	－
Ⅳ．その他の事項										
施設・整備に関する計画		－	－	－	B	B	B	B	4－1	－
人事に関する計画		A	A	A	B	B	B	B	4－2	－
項目評定		－	－	－	B	B	B	B	－	－

※1評価項目については中期目標の事項毎に基づく。ただし、平成23年度から平成25年度までの事項については、中期目標より評価事項が結合・細分化されているため、左側に旧事項名、右側に26年度以降の事項名を記載している。
※2平成23年度から平成25年度までの評定については、「文部科学省所管独立行政法人の業務実績評価に係る基本方針」（平成14年3月22日文部科学省独立行政法人評価委員会）に基づく。
また、平成26年度以降の評定については、「文部科学省所管の独立行政法人の評価に関する基準」（平成27年6月文部科学大臣決定）に基づく。詳細は下記の通り。

平成23年度から平成25年度までの評定	平成26年度以降の評定
S：特に優れた実績を上げている。（法人横断的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）	S：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上で、かつ質的に顕著な成果が得られていると認められる場合）。
A：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調に、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上）	A：中期目標管理法人の活動により、中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の120%以上とする。）。
B：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満）	B：中期目標における所期の目標を達成していると認められる（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の100%以上120%未満）。
C：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満）	C：中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%以上100%未満）。
F：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。）	D：中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める（定量的指標においては対中期計画値（又は対年度計画値）の80%未満、又は主務大臣が業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずる必要があると認めた場合）。

1－2－4－1　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(1)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (1)収蔵品の収集				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第 2 号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵品件数（件）	(東博)	実績値	－	－	113,897	114,362	115,653	116,268	116,932
	(京博)	実績値	－	－	6,621	6,708	6,721	7,109	7,532
	(奈良博)	実績値	－	－	1,831	1,834	1,862	1,877	1,883
	(九博)	実績値	－	－	453	474	493	512	525
	(4館計)	実績値	－	－	122,802	123,378	124,729	125,766	126,872
文化財購入費（百万円）	(東博)	実績値	－	－	0	106	124	140	226
	(京博)	実績値	－	－	48	22	0	227	798
	(奈良博)	実績値	－	－	102	27	40	262	140
	(九博)	実績値	－	－	569	719	727	727	609
	(4館計)	実績値	－	－	719	874	891	1,356	1,773
寄託品件数（件）	(東博)	実績値	－	－	2,689	2,563	2,519	3,064	3,072
	(京博)	実績値	－	－	6,013	5,914	5,892	6,001	6,112
	(奈良博)	実績値	－	－	1,945	1,951	1,994	1,984	1,987
	(九博)	実績値	－	－	1,219	1,238	1,081	795	885
	(4館計)	実績値	－	－	11,866	11,666	11,486	11,844	12,056

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	1,100,000	1,100,000	530,000	1,238,500	1,410,000
決算額（千円）	720,023	874,185	891,828	1,356,326	1,773,358
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は、4国立博物館の年度当初の文化財購入費の予算額を計上している。
※決算額は、4国立博物館の文化財購入費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （1）国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務にそって収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受け入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （1）－1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 （1）－2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・収蔵品件数 ・文化財購入費 ・寄託品件数 〈評価の視点〉 ○購入、寄贈、寄託の受け入れにより、各館の特色に沿った体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期目標期間実績補足資料 P1～2 ＜主要な業務実績＞ 4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」（東博・九博）、「陳列品鑑査会」（京博・奈良博）での審議を経て行っている。 ・収蔵品件数　126,872 件（27 年度末） 23 年度新収品 701 件（うち購入 34 件、寄贈 176 件、編入 491 件） 24 年度新収品 576 件（うち購入 26 件、寄贈 153 件、編入 397 件） 25 年度新収品 1,351 件（うち購入 23 件、寄贈 513 件、編入 815 件） 26 年度新収品　1,037 件（うち購入 47 件、寄贈 484 件、編入 506 件） 27 年度新収品　1,106 件（うち購入 43 件、寄贈 563 件、編入 500 件） ・文化財購入費　1,773 百万円（27 年度） ・寄託品件数　12,056 件（27 年度末） 各指標の内訳はアウトプット情報を参照。 購入 ・文化財購入費は、23 年度の東京国立博物館の東洋館、25 年度の京都国立博物館の平成知新館のリニューアル開館に向けた準備のため購入経費が確保できなかった。しかしながら、26 年度に特殊要因運営費交付金 910 百万円が措置され、27 年度に経常経費化された。さらに、寄附金の活用にも努めている。	＜評定と根拠＞ 評定：B 4館とも、各館の収集方針に従い、国指定文化財を含む価値の高い文化財を多数収集した。 各館の特色に沿ったコレクションの形成をバランスよく行っており、収蔵品件数は、購入のほか寄贈の受け入れ等により順調に増加している。 購入について、文化財購入予算の確保に苦慮してきたところであるが、これまで継続してきた予算要求等が、26 年度特殊要因として実現し、27 年度には経常経費として予算措置がされた。このことにより、中期期間後半は安定的な文化財購入予算が確保できた。さらに寄附金の活用にも努めた結果、購入件数・質ともに順調である。 寄贈については、個人収集家等への積極的な働きかけをおこなった結果、個人等からの大量の寄贈（東博・京博）の受入があるなど、継続的に受入れており順調である。 寄託については、社寺等が自ら収蔵庫や展示施設を整備し寄託を解除することによる減少がある中で、積極的な受け入れ努力の結果、全体としては寄託品件数を維持している。また、社寺の改修に合わせた寄託受入や、社寺におけるデジタル複製品への入れ替えに伴う原品保存としての寄託など、博物館が担うべき文化財保存の役割を果たしつつ、文化財の調査を通じて所蔵者との良好な関係を継続することにより、博物館における展示及び調査研究の充実に繋げることができている。	＜評定に至った理由＞ 東京国立博物館（以下「東博」という。）、京都国立博物館（以下「京博」という。）、奈良国立博物館（以下「奈良博」という。）及び九州国立博物館（以下「九博」という。）は、それぞれの収集方針に沿って有形文化財の収集を行っている。 また、収集は、規程に従い審議を経て行っており、収集した文化財についても内容を公表していることから、透明性を確保しつつバランスのとれたコレクションを形成していることが認められる。 平成 23 年度から 26 年度までの 4 年間に、4 館全体で収蔵品は 3,533 件増加した。 収蔵品の増加事由の内訳は、購入が 130 件、寄贈が 1,326 件、編入が 2,209 件である。館ごとの増加数の内訳は、東博が 3,010 件、京博が 525 件、奈良博が 50 件、九博が 79 件である。東博の増加数が著しいが、これは計画的に行っている資料整理に基づく編入の成果が大きい。次いで京博の増加数が多いが、これは平成 26 年度に行った旧家調査に基づく一括寄贈の成果が大きい。平成 26 年度に購入予算が増加され、購入件数が前年度に比して倍増した。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。	＜評定に至った理由＞ 東京国立博物館（以下「東博」という。）、京都国立博物館（以下「京博」という。）、奈良国立博物館（以下「奈良博」という。）及び九州国立博物館（以下「九博」という。）4館における収蔵品の収集は、各館の収集方針に沿って計画的かつ適時適切に受け入れられており、バランスのとれたコレクションとなっていることは評価される。 また、収集にあたっては、審議が経られ、その内容については公表され透明性が確保されている。 平成23年度から27年度までの5 年間に、4 館全体で収蔵品は4,770 件増加した。その内訳は、、購入が 173 件、寄贈が 1,889 件、編入が 2,708 件である。 館ごとの収蔵品の増加数の内訳は、東博が 3,674 件、京博が 948 件、奈良博が 96 件、九博は 92 件増加している。 東博の増加が著しく、これは計画的な資料編入によるものである。京博の増加数が多いが、これは平成 26 年度に行った旧家調査に基づく一括寄贈の成果が大きい。このほか、平成 26 年度に購入予算が増加され、購入件数が前年度に比して倍増した。 以上、収蔵品等の増加やバランスのとれた収蔵品等の蓄積や受け入れが行われていると認められることからB評価と判断した。

			寄贈 ・寄贈については、上記のとおり、毎年度多数の寄贈を受けている。 寄託 ・コレクション等まとまった作品群の受託もあり、26 年度と 27 年度と連続して件数を増加させることができた。また、25 年度、26 年度と連続して減少数が大きかった九州国立博物館においても 27 年度は増加に転じた。	＜課題と対応＞ 文化財の調査等を通じた所蔵者との良好な関係の維持・発展により、更に寄贈や寄託の充実を図っていきたい。	＜今後の課題＞ 平成 23 年度から 26 年度までの 4 年間に、4館全体で寄託品は131件減少した。 所有者の意志に基づき寄託品の数値が変動するのはやむを得ず、当該評価項目においては参考値として取り扱うことが適当であるが、京博、奈良博及び九博は、収蔵品より寄託品のほうが多い場合もあり、展示活動においては重要な要素となっている。その意味において、平成 25 年度、26 年度と連続して減少数が大きい九博は、その影響を評価し、必要に応じて対策をとられるよう留意されたい。 ＜その他事項＞ 文化財保護法第 48 条第 1 項に基づく重要文化財の所有者に対する出品の勧告、又は同第 5 項に基づく国立博物館からの申出に基づく重要文化財の出品の承認によるものが寄託品に含まれており、その件数は次のとおりである。文化財保護法において国立博物館が担うべきミッションが果たされているものと認められる。 （平成 26 年度末における重要文化財の勧告出品及び承認出品） 東京国立博物館：勧告出品 127 件、承認出品 16 件、計 143 件 京都国立博物館：勧告出品 160 件、承認出品 55 件、計 215 件 奈良国立博物館：勧告出品 149 件、承認出品 32 件、計 181 件 九州国立博物館：勧告出品 6 件、承認出品 3 件、計 9 件 合計：勧告出品 442 件、承認出品 106 件、計 548 件 ○有識者コメント	＜今後の課題＞ 京博、奈良博、九博の3館は収蔵品のうち寄託品が占める割合が大きい。寄託品は所有者の意思によって解除される場合があるため、寄託品が大部分を占める展示構成は非常に不安低だといえる。 今後は、寄託品の所有者と良好な関係を今後も保ちつつ、計画的に文化財が購入されるよう望まれる。 ＜その他事項＞ 特になし。

						・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・学術的にも重要かつ貴重な資料が購入されており、寄贈件数も順調に伸びている。寄託については、参考値程度と認め、年度毎の増減にはあまりこだわるべきではない。 ・充分に達成されていると判断される。	

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(2)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (2)収蔵品の管理、保存				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第 2 号	業務に関連する政策・施策	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第 2 号	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 27 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
保存カルテ作成件数(件)	(東博)	実績値	―	―	1,187	1,594	1,492	1,721	1,432
	(京博)	実績値	―	―	249	215	253	204	102
	(奈良博)	実績値	―	―	130	127	120	115	100
	(九博)	実績値	―	―	107	91	94	75	91
	(4 館計)	実績値	―	―	1,673	2,027	1,959	2,115	1,725

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	4,792,204	6,883,691	2,853,965	2,990,365	2,920,551
決算額(千円)	4,413,828	10,273,364	6,829,529	3,156,912	2,757,336
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	111	110	110	105	104

※予算額は、決算報告書・施設整備費の予算額を計上している。
※決算額は、決算報告書・施設整備費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、各年度間の繰越等によるものである。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （2）収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 （2）－1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 （2）－2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 保存カルテ作成件数 〈評価の視点〉 ○収蔵品の写真・管理データを蓄積することにより、収蔵品の保存・管理の徹底に努めたか。 ○展示場、収蔵庫の老朽化対策や温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P2～3 ＜主要な業務実績＞ 施設の老朽化対策、耐震対策として、各施設にて改修工事や収蔵庫の利用開始を行った。 主なものは以下のとおり。 ・23 年度：東洋館収蔵庫に稼動棚を設置し、利用開始（東博） ・25 年度：収蔵庫ガス消火設備工事完了（奈良博） ・26 年度：25 年度まで建替工事と内装工事を行っていた平成知新館の収蔵庫等の利用開始（京博） ・27 年度：法隆寺宝物館改修工事完了（東博） 収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くため、以下の取組みを行った。 ・収蔵品の現状を確認の上作成したデータ（写真・テキスト）を蓄積してデータベース化し、展示・研究等の業務に活かした。（4館） 収蔵品の修理や列品貸与の際の点検時等に作成している保存カルテについて、作成・蓄積を継続して行った。（4館） ・保存カルテ作成件数 1,725 件（27 年度） 詳細はアウトプット情報を参照。 ・文化財情報システム（業務システム）について、システムを改修しつつ、運用を継続し、収蔵品データを更新した。（4館） ・展示場、収蔵庫等において、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的に実施した。（4館）	＜評定と根拠＞ 評定：B 施設の老朽化対策、耐震対策として、改修工事や新設工事を計画的かつ速やか実施し、収蔵品と人の安全を守る施設・設備を整備した。 収蔵品の管理・保存は、4館とも徹底した取り組みがなされており、データの蓄積、文化財情報システム、保存カルテ作成件数の推移を含め順調である。また、展示場、収蔵庫の環境についても、IPM（総合的有害生物管理）の実施・徹底、温湿度管理等により、対応がなされている。26 年度に新システムによる温湿度モニタリングを導入するなど改善を重ねている。 ＜課題と対応＞ ―	評定　B ＜評定に至った理由＞ 東博、京博、奈良博及び九博（以下単に「4 館」という。）において収蔵品の保存・管理が適切に継続されていることが、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。 修理や貸出の際に作成する保存カルテを含め、保存・管理する文化財のデータの蓄積が着実に行われており、今後の修理計画等に関する基本的情報として共有されることが可能となっている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・中核的拠点として、収蔵品の管理・保存業務に関する知識を共有するという点で、各館の連繋が重要である。 ・定量的評価になりにくい項目だけに評価が難しいかもしれないが、各館において展示場及び収蔵庫の環境管理等が適切に行われていることは、より強調されてよいと思われる。 ・京都国立博物館の常設展示スペースの改修完了など、管理・保存に関わる計画が粛々と実行されたことは高く評価出来る。 ・国内最高の水準にあると判断される。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 東博、京博、奈良博及び九博（以下単に「4 館」という。）において収蔵品の保存・管理が適切に継続されていることが、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。 修理や貸出の際に作成する保存カルテを含め、保存・管理する文化財のデータの蓄積が着実に行われており、今後の修理計画等に関する基本的情報として共有されることが可能となっている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・定量的評価がしにくい項目であるが、各館において収蔵品の管理・保存、施設の環境整備に改善を重ねていることは評価される。

4．その他参考情報

特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－1－(3)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 1．歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)収蔵品の保存技術の向上				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第 2 号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 27 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
修理件数(本格修理)(件)	(東博)	計画値	―	―	40	40	40	40	40
		実績値	―	―	106	95	93	78	86
		達成度	―	―	265.0%	237.5%	232.5%	195.0%	215.0%
	(京博)	計画値	―	―	10	10	10	10	10
		実績値	―	―	10	13	15	11	12
		達成度	―	―	100.0%	130.0%	150.0%	110.0%	120.0%
	(奈良博)	計画値	―	―	8	9	9	9	8
		実績値	―	―	11	9	8	9	11
		達成度	―	―	137.5%	100.0%	88.9%	100.0%	137.5%
	(九博)	計画値	―	―	15	15	15	21	19
		実績値	―	―	19	20	17	23	22
		達成度	―	―	126.7%	133.3%	113.3%	109.5%	115.8%
	(合計)	実績値	―	―	146	137	133	121	131

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	140,000	140,000	140,000	140,000	140,000
決算額(千円)	140,047	144,144	145,147	126,341	167,180
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	48	47	46	45	43

※予算額は、年度当初の文化財修理費の予算額を計上している。
※決算額は、文化財修理を外注した決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、契約差額である。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)収蔵品の保存技術の向上に努めること。	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承 (3)収蔵品の保存技術の向上に努めること。	〈主な定量的指標〉 ・修理件数(本格修理) 〈その他の指標〉 〈評価の視点〉 ○緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施したか。 ○文化財保存修理所の整備・充実のための取組を行ったか。 ○計画的な収蔵スペースの確保が図られたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P3 ＜主要な業務実績＞ 収蔵品の保存技術の向上のため、収蔵品の修理を継続して行い、科学機器の導入と活用、文化財保存修理所の整備を実施した。 ・4館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行い、修理件数はほぼ毎年度、目標値を上回った。 修理件数(本格修理) 131 件(27 年度) 内訳はアウトプット情報を参照。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した。(4 館) ・25 年度に調達をした大型垂直式X線断層撮影装置(東博)やマイクロフォーカスX線CTシステム(京博)の運用を 26 年度から開始、X線透過撮影(奈良博)や蛍光X線分析(九博)など、全館で最新の科学機器を計画的に導入し文化財の修理に活用している。 ・26 年度に、京都国立博物館文化財保存修理所の改修工事は、一期工事を完了し、電気設備及び機械設備の改修工事に着手し、27 年度に完了した。 ・26 年度に、京都国立博物館と奈良国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、フィルターを交換するなど改善した。 ・収蔵スペースの確保のため、改修工事等を行った(主なものは以下のとおり)。 ・26 年度より平成知新館収蔵庫の運用開始。(京博) ・23 年度に東洋館収蔵庫の改修工事を行い、27 年度にも収納棚を増設した。(東博)	＜評定と根拠＞ 評定:B 収蔵品の保存技術の向上のため、収蔵品の修理を継続して行い、科学機器の導入と活用、文化財保存修理所の整備を実施し、収蔵品の保存技術の向上に貢献した。 ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に本格修理を実施し、劣化予防の応急修理も行っている。また、最新の科学機器の導入と活用を全館で行い、計画的な修理へ役立てている。収蔵品等の修理においては、寄附金や助成金を活用しており、各館とも目標値以上の修理を継続して実施することができた。 ・文化財保存修理所の整備・充実についても、京都国立博物館文化財保存修理所改修工事の進捗を含め、順調である。 ・収蔵スペースついては、改修工事や新営工事や棚の増設の実施により、確保を図っている。各館とも安全かつ効率的な収納について配置等の検討を継続し、対応している。 ＜課題と対応＞ ・博物館にとって収蔵品・寄託品の増加への対応は喫緊の課題であり、中長期的に更なる収蔵スペースの確保が必須である。収蔵庫の改修や増設には多額の費用がかかることから、自己努力での実施に限界があるため、施設整備費獲得を目指す。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 26 年度までの間、4 館それぞれの文化財の修理計画に基づきながら、計画値を大きく上回る件数の本格修理が実施された。4 年間合計の計画達成率は 181%であり、特に東博の成果(達成率 233%)が全体に大きく寄与している。修理の費用を調達するため、民間の寄付金や助成金を獲得する取組も積極的に行われた。 保存・修理に際して必要な、最先端の科学的分析に必要な調査研究機器の調達も計画的に行われ、実際の修理等に活用されている。 保存・修理関係の施設については、文化財保存修理所の改修工事が順調に進行しているとともに、新たに開館した京博の平成知新館では、最新の環境モニタリングシステムの導入も行われている。 収蔵品、寄託品等の増加に対する収蔵スペースの確保については、限られた容積に最大限の工夫を施している。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されている。修理件数に関する定量的指標が、見込評価時点でA評定の基準 120%以上を大きく超えているが、本評価項目はその他の定性的評価を含め、全体の評定を行うこととなっており、法人の自己評価ではBとされている。修理件数の増加は、本項目の目標達成の水準をさらに高めているもの	評定 B ＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館それぞれの文化財の修理計画に基づきながら、計画値を大きく上回る件数の本格修理が実施された。5 年間合計の計画達成率は約 180%であり、特に東博の成果(達成率 229%)が全体に大きく寄与している。修理の費用を調達するため、民間の寄付金や助成金を獲得する取組も積極的に行われた。 保存・修理に際して必要な、最先端の科学的分析に必要な調査研究機器の調達も計画的に行われ、実際の修理等に活用されている。 保存・修理関係の施設については、文化財保存修理所の改修工事が順調に進行しているとともに、新たに開館した京博の平成知新館では、最新の環境モニタリングシステムの導入も行われている。 収蔵品、寄託品等の増加に対する収蔵スペースの確保については、限られた容積に最大限の工夫を施している。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されている。修理件数に関する定量的指標が、見込評価時点でA評定の基準 120%以上を大きく超えているが、本評価項目はその他の定性的評価を含め、全体

						と認められるが、自己評価の〈課題と対応〉において記載されている、収蔵品の増加に対応した収蔵スペースの確保の問題もあり、全体としてはB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・京博の文化財保存修理所の整備・充実は評価できる。他機関でも施設・機器の整備を適切に行うことが重要である。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・収蔵スペースの問題については、長期計画を立てておく事が望ましい。 ・保存修復に関する技術は高水準にあるが、この領域は絶対的な人的不足の問題が慢性化しつつあり、おおきな危惧を抱かざるを得ない。	の評定を行うこととなっており、法人の自己評価ではBとされている。修理件数の増加は、本項目の目標達成の水準をさらに高めているものと認められるが、自己評価の〈課題と対応〉において記載されている、収蔵品の増加に対応した収蔵スペースの確保の問題もあり、全体としてはB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・収蔵スペースの問題は、是非、喫緊の課題としてとりくんでいただきたい。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－(1)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (1)展覧事業の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第 12 条 第 2 号	業務に関連する政策・施策	12　文化による心豊かな社会の実現 12-2　文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

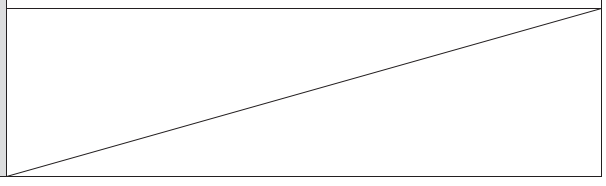
①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博物館の年間総来館者数(人)	(東博)	実績値	―	―	1,756,590	1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508
	(京博)	実績値	―	―	239,767	234,540	148,429	539,134	653,336
	(奈良博)	実績値	―	―	469,463	450,235	461,690	476,993	455,859
	(九博)	実績値	―	―	712,594	1,107,036	727,603	804,663	884,128
	(合計)	実績値	―	―	3,178,414	3,347,505	2,660,010	3,734,433	3,987,831
平常展来館者数(人) ※基準値は、前中期目標期間実績の年度平均	(東博)	計画値	―	362,470	362,470	362,470	362,470	362,470	362,470
		実績値	―	―	324,597	416,430	484,429	587,528	747,944
		達成度	―	―	89.6%	114.9%	133.6%	162.1%	206.3%
	(京博)	計画値	―	171,110	―	―	―	96,981	123,089
		実績値	―	―	―	―	―	265,791	205,526
		達成度	―	―	―	―	―	274.1%	167.0%
		実績値	―	―	―	―	―	―	※1,699
	(奈良博)	計画値	―	118,032	118,032	118,032	118,032	94,338	69,600
		実績値	―	―	130,839	145,914	122,075	92,147	95,208
		達成度	―	―	110.9%	123.6%	103.4%	97.7%	136.8%
	(九博)	計画値	―	380,690	380,690	380,690	380,690	380,690	380,690
		実績値	―	―	358,366	460,525	349,848	357,362	412,621
		達成度	―	―	94.1%	121.0%	91.9%	93.9%	108.4%
	(合計)	実績値	―	―	813,802	1,022,869	956,352	1,302,828	1,462,998
平常展陳列替件数(件)	(東博)	計画値	―	―	4,000	4,000	5,800	5,800	5,500
		実績値	―	―	4,914	6,989	5,708	5,506	6,930
		達成度	―	―	122.9%	174.7%	98.4%	94.9%	126.0%
	(京博)	計画値	―	―	―	―	―	700	700
		実績値	―	―	―	―	―	693	1,145
		達成度	―	―	―	―	―	99.0%	163.6%
	(奈良博)	計画値	―	―	400	400	70	80	180
		実績値	―	―	481	465	130	208	286

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	2,105,668	2,037,862	2,955,208	2,255,032	1,942,926
決算額（千円）	2,125,773	2,354,675	3,004,190	2,534,914	2,266,497
参考決算額（千円）	854,149	1,769,673	2,081,253	2,219,371	1,966,989
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、展覧事業費予算額から文化財購入費予算額を控除した額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、展覧事業費決算額から文化財購入費決算額を控除した額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、ディスプレイ費等の損益計算書・展覧事業費の費用額を計上している。
（平成 23 年度の予算額と決算額の差額は、決算において「その他業務費」の勘定に916,492 千円を計上していることによる。
平成 24 年度以降は、「その他業務費」の勘定を廃止し、展覧事業費等の各事業に費用計上している。）
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。



		達成度	―	―	120.3%	116.3%	185.7%	260.0%	158.9%
	（九博）	計画値	―	―	1,100	1,100	1,100	800	600
		実績値	―	―	1,373	1,195	1,157	1,027	1,513
		達成度	―	―	124.8%	108.6%	105.2%	128.4%	252.2%
平常展陳列総件数(件)	（東博）	計画値	―	―	5,500	6,500	7,500	7,500	7,200
		実績値	―	―	7,394	9,190	8,824	8,161	8,911
		達成度	―	―	134.4%	141.4%	117.7%	108.8%	123.8%
	（京博）	計画値	―	―	―	―	―	1,000	1,000
		実績値	―	―	―	―	―	980	1,438
		達成度	―	―	―	―	―	98.0%	143.8%
	（奈良博）	計画値	―	―	700	700	500	475	600
		実績値	―	―	1,092	814	632	675	620
		達成度	―	―	156.0%	116.3%	126.4%	142.1%	103.3%
	（九博）	計画値	―	―	1,700	1,700	1,700	1,000	700
		実績値	―	―	2,417	2,416	2,750	1,904	2,628
		達成度	―	―	142.2%	142.1%	161.8%	190.4%	375.4%
平常展外国語パネルの設置数(%)	（東博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	96%	97%	100%	100%	100%
		達成度	―	―	120.0%	121.3%	125.0%	125.0%	125.0%
	（京博）	計画値	80%	―	―	―	―	80%	80%
		実績値	―	―	―	―	―	100%	100%
		達成度	―	―	―	―	―	125.0%	125.0%
	（奈良博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	89%	100%	91%	100%	100%
		達成度	―	―	111.3%	125.0%	113.8%	125.0%	125.0%
	（九博）	計画値	80%	―	80%	80%	80%	80%	80%
		実績値	―	―	94%	87%	85%	92%	92%
		達成度	―	―	117.5%	108.8%	106.3%	115.0%	115.0%
特別展来館者数(人)	（東博）	実績値	―	―	1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564
	（京博）	実績値	―	―	239,767	234,540	148,429	273,343	446,111
	（奈良博）	実績値	―	―	338,624	304,321	339,615	384,846	360,651
	（九博）	実績値	―	―	354,228	646,511	377,755	447,301	471,507
	（合計）	実績値	―	―	2,364,612	2,324,636	1,703,658	2,431,605	2,524,833
特別展開催回数(回) ※海外展を含む	（東博）	計画値	3～4	―	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4
		実績値	―	―	7	9	8	8	6
		達成度	―	―	175.0%	225.0%	200.0%	200.0%	150.0%
	（京博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	6	5	3	2	3
		達成度	―	―	200.0%	166.7%	100.0%	100.0%	100.0%

	（奈良博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	3	3	3	3	4
		達成度	―	―	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	133.3%
	（九博）	計画値	2～3	―	2～3	2～3	2～3	2～3	2～3
		実績値	―	―	5	4	5	5	4
		達成度	―	―	166.7%	133.3%	166.7%	166.7%	133.3%
	（合計）	実績値	―	―	21	21	19	18	18
海外展回数(回)	（東博）	実績値	―	―	1	2	1	1	1
	（京博）	実績値	―	―	2	0	0	0	0
	（奈良博）	実績値	―	―	0	0	0	0	1
	（九博）	実績値	―	―	1	0	1	0	0
	（合計）	実績値	―	―	4	2	2	1	2

※全館休館期間における庭園開放の来館者数

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (1)展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとな	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (1)展覧事業の充実 我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を	〈主な定量的指標〉 ・博物館の年間総来館者数 ・平常展来館者数 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展外国語パネルの設置数 ・特別展来館者数 ・特別展開催回数 ・特別展来館者数 ・海外展回数 〈その他の指標〉 〈評価の視点〉 ○国民のニーズや学術的動向等を踏まえた質の高いものとしたか。また、観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫したか。 ○(平常展)展覧事業の	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P3～9 ＜主要な業務実績＞ 展覧事業については、毎年自己点検評価を行い、改善に取り組んだ。また、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化に関する平常展や特別展等を国内のみならず海外でも実施した。 概要は以下のとおり。 (平常展) ・平常展来館者数 1,462,998 人(27 年度) 内訳はアウトプット情報を参照 ・平常展陳列替件数 ・平常展陳列総件数 ・平常展外国語パネルの設置数 それぞれアウトプット情報を参照 ・前中期計画期間から工事を行っていた、新平常展示館「平成知新館」を 26 年 9 月に開館した。(京博) ・東洋館を 25 年 1 月に、黒田記念館を 27 年	＜評定と根拠＞ 評定：A 我が国の中核的拠点として、展覧事業については、毎年自己点検評価を行い、改善に取り組んだ。 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信するため、多岐に渡る調査研究の成果を踏まえた多様なテーマの平常展・特別展等(海外展含む)を実施し、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信した。また、これらについての理解促進に寄与するものとなるように、展示と解説に工夫をし、多言語化も実施した。 以上に加えて、各種の指標も順調に目標を達成しており、特に 27 年度には各種の取り組みの結果、展覧事業の中核である平常展の伸びもあり、総来館者数が 400 万人に迫るなど質・量共に顕著な成果があったためA評定とした。 (平常展) ・平常展来館者数については、各館の特色	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 26 年度までの間、4 館とも平常展及び特別展を計画的に実施した。 成果を示す定量的指標としては、平常展については来館者数、陳列替件数、陳列総件数及び外国語パネルの設置数を、及び特別展については開催回数を掲げている。 平常展の定量的指標の達成率については 4 館合わせて、来館者数が 116%、陳列替件数が 118%、陳列総件数が 130%、外国語パネルの設置件数が 118%を示しており、順調である。来館者の展示に関する満足度アンケート調査で上位の評価(「とても良かった」又は「良かった」)を付けた人は、4 年間平均で 73%となっており、概ね満足を得られているものと判断した。 以上のとおり平常展については、定	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館とも平常展及び特別展を計画的に実施した。成果を示す定量的指標としては、平常展については来館者数、陳列替件数、陳列総件数及び外国語パネルの設置数を、又、特別展については開催回数を掲げている。 平常展の定量的指標の達成率については、指標である来館者数、陳列替件数、陳列総件数でA評価となる 120%以上を示しているが、外国語パネルの設置件数が 119%であった。 特別展の定量的指標である開催回数の目標達成率については、4 館合わせて 150%以上の実績を示している。 定性的指標である来館者の満足度調査については、アンケート

	るように努めること。	開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。	中核として、各館の特色を十分に発揮した体系的・通史的な展示としたか。 ○（平常展）作品のキャプションについては、すべてに英語訳を付したか。また、海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を８０％以上設置したか。 ○（特別展）我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示としたか。また、個々の展覧会ごとに、展示内容・観覧環境を踏まえた目標入館者数を定め、それを達成したか。さらに展覧会来館者数の満足度を把握し、改善を図ったか。 ○（海外展）海外において展覧会を開催し、日本の歴史と伝統文化を紹介したか。	1月に、平成館考古展示室を27年10月にリニューアルオープンした。（東博） ・27年度の開館10周年に合わせ、文化交流展示室をリニューアルした。（九博） ・なら仏像館のリニューアルを計画し、進めた。（28年4月完了）（奈良博） ・定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。（4館） （特別展） ・特別展来館者数 ・特別展開催回数 内訳はアウトプット情報を参照 （海外展） ・海外展は毎年度実施した。 内訳はアウトプット情報を参照	を十分に発揮し、各種特集展示等の実施や広報等の成果により、今中期計画期間を通じて、大幅に増加させることができた。 特に、26年度に京都国立博物館で平成知新館が開館したことにより目標を大きく上回る来館者数を達成し、27年度には東京国立博物館において計画値（前中期目標期間実績の年度平均）の倍以上の約75万人の来館者数があった。なお、九州国立博物館で未達成の年が複数あったが27年度は来館者数が増加し目標を上回った。 ・平常展陳列替件数と平常展陳列総件数は、ほぼ全ての館と年度で目標値を大幅に超える実績を上げており、順調である。 ・平常展外国語パネルの設置数はいずれの館も安定的に目標を大きく上回っている。また、作品キャプション全てに英語訳を付しており順調である。 （特別展） ・基礎的な調査研究や調査、特別展に係る事前調査等の成果を踏まえて、展覧会を実施しており、我が国の博物館の中核的拠点にふさわしい質の高い展示としている。 ・特別展開催回数は、常に目標値を上回る実績を残した。 ・特別展来館者数は、多くの展覧会で目標値を上回り順調である。 ・特別展ではアンケートを実施し来館者の満足度を把握し、会期中の対応や次の展覧への改善へ活かした。 （海外展） ・毎年開催し、日本の歴史と伝統文化を海外で紹介できた。 ＜課題と対応＞ ・特別展については、一部予測を見誤った展覧会があったため、展示内容等を踏まえた適正な来館者数を目標に定めるよう精査していくことが必要である。	量的指標は計画値を達成するとともに、定性的評価の目安となる来館者のアンケート調査でも一定の満足度が得られているものと判断した。 特別展の定量的指標である開催回数の達成率については、4館合わせて152%を示しており、非常に順調である。特別展は来館者数の目標値を展覧会ごとに定めており、達成率に関する定量的指標の計画値は設けていない。平成23年度から26年度までの来館者数の目標値の達成率は、平成23年度が170%、24年度が145%、25年度が111%、26年度が127%となっており、4年間の全79回の特別展の来館者数の目標値の達成率は138%であった。4年間の館ごとの来館者数の目標値の達成率（平均）は、東博が123%、京博が156%、奈良博が126%、九博が190%であった。同じく4年間の来館者の満足度アンケート調査では、上位の評価（「とても良かった」・「良い」及び「良かった」・「まあまあ良い」）を付けた人は、東博の平均値で71%、京博の平均値で89%、奈良博の平均値で81%、九博の平均値で86%、4館全体の平均値で82%となっており、満足を得られているものと判断した。 以上のとおり特別展については、定量的指標である開催回数は計画値を上回って達成するとともに、来館者数も目標値を大きく上回っており、また、定性的評価の目安となる来館者のアンケート調査でも一定の満足度が得られているものと判断した。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。	調査の結果、5年間平均で平常展の平均が74%、特別展の平均が82%となっている。満足度に関する目標値は、中期計画・年度計画において設定していないため、達成度を測ることは出来ないが、次期中期目標では前中期目標期間の実績を上回ることを指標としている。即ち、見込み評価時点の満足度を1つの基準（平常展：73%、特別展：82%）として中期目標期間の実績と比較すればいずれも上回っており、成果として認められる。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、目標を達成しているが、大きく上回るものではないと考えられるためB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ パネル・キャプションの充実をはじめとした多言語化、外国人入館者の著しい増加とオリンピック開催を考慮すると、Wi-Fi環境も併せて早急な対応が望まれる。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○外部有識者コメント ・定量的及び定性的評価を総合的にみると、「A」評価でもよいのではないだろうか。 ・外国語のパネル・キャプションの充実は、外国人の入館者の著しい増加とオリンピック開催を考慮すると、さらに急ぐ必要がある。

						＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・評定に異論はないが、外国語のパネル・キャプションの設置は、外国人の入館者の著しい増加やオリンピック開催を考慮すると、さらに検討する余地がある。 ・特別展に関しては、定量的及び定性的評価が目標を高く上回っており、A評定としても良いのではないか。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・平常展の充実は博物館としてのあるべき姿を実現したものとして高く評価出来る。 ・特別展については年度毎に変動があるが、観覧者数のみを評価すべきではなく、内容主体の評価をすべき。観覧者が多すぎれば、見学しづらいはずであり、サービスは低下せざるを得ない。 ・大規模で社会的注目を集める展示事業は拡充の途にあるが、入館者数はあまり望めなくても、最新の研究を反映した展示を、たとえ小規模であっても補完的に推進すべきと考える。	

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－(2)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (2)教育活動の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第3号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成27年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

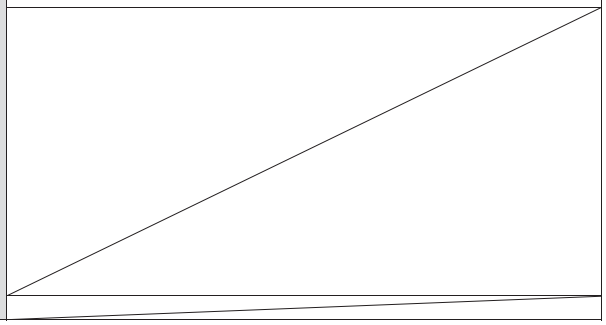
①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
講演会、ギャラリートークの参加者数(人)	(東博)	計画値	―	―	7,830	7,830	7,830	7,830	7,790
		実績値	―	―	12,664	13,193	15,777	14,419	18,080
		達成度	―	―	161.7%	168.5%	201.5%	184.2%	232.1%
	(京博)	計画値	―	―	2,638	2,380	1,860	3,120	3,300
		実績値	―	―	1,450	3,150	2,062	4,596	4,845
		達成度	―	―	55.0%	132.4%	110.9%	147.3%	146.8%
	(奈良博)	計画値	―	―	2,450	2,600	2,600	2,650	2,650
		実績値	―	―	3,006	3,454	3,219	3,525	3,974
		達成度	―	―	122.7%	132.8%	123.8%	133.0%	150.0%
	(九博)	計画値	―	―	2,030	3,100	3,100	3,100	5,500
		実績値	―	―	7,833	8,354	7,276	4,694	6,212
		達成度	―	―	385.9%	269.5%	234.7%	151.4%	112.9%
	(合計)	実績値	―	―	24,953	28,151	28,334	27,234	33,111
キャンパスメンバーズ加入校数(件)	(東博)	実績値	―	―	37	38	43	44	48
	(京博)	実績値	―	―	30	30	29	29	29
	(奈良博)	実績値	―	―	28	27	26	27	27
	(九博)	実績値	―	―	28	24	24	24	25
	(合計)	実績値	―	―	123	119	122	124	129
ボランティア数(人)	(東博)	実績値	―	―	169	170	169	173	173
	(京博)	実績値	―	―	64	45	45	210	214
	(奈良博)	実績値	―	―	87	121	114	110	157
	(九博)	実績値	―	―	355	308	287	352	352
	(合計)	実績値	―	―	675	644	615	845	896
賛助会等加入件数(件)	(東博)	実績値	―	―	292	332	379	414	464
	(京博)	実績値	―	―	375	353	336	351	368
	(奈良博)	実績値	―	―	65	68	70	73	74
	(合計)	実績値	―	―	732	753	785	838	906

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	55,238	46,592	75,943	75,898	85,209
決算額(千円)	95,876	63,571	63,499	99,237	118,694
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	51	49	49	47	44

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・教育普及事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部博物館教育課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。



友の会・パスポート加入者数	(東博)友の会	実績値	―	―	1,802	1,570	1,586	2,145	2,041
	パスポート	実績値	―	―	17,672	16,569	16,474	20,302	18,157
	ベーシック	実績値	―	―	―	―	―	1,038	2,789
	小計	実績値	―	―	19,474	18,139	18,060	23,485	22,987
	(京博)パスポート	実績値	―	―	2,667	3,064	2,295	6,522	7,108
	(奈良博)パスポート	実績値	―	―	2,615	2,486	2,598	3,162	3,591
	(九博)友の会	実績値	―	―	117	196	141	192	206
	パスポート	実績値	―	―	3,093	4,224	4,633	4,990	5,571
	小計	実績値	―	―	3,210	4,420	4,774	5,182	5,777
	(合計)	実績値	―	―	27,966	28,109	27,727	38,351	39,463

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (2)教育活動の充実 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (2)教育活動の充実 日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。	〈主な定量的指標〉 ・講演会、ギャラリートークの参加者数 〈その他の指標〉 ・キャンパスメンバーズ加入校数 ・ボランティア数 ・賛助会等加入件数 ・友の会・パスポート加入者数 〈評価の視点〉 ○講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の目標参加者数を達成したか。 ○ボランティアを支援したか。また、企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ったか。 ○大学との連携事業等を実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P9～10 ＜主要な業務実績＞ 学習機会の提供 特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ファミリー向けプログラムや小中学生向けワークショップなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。 ・講演会、ギャラリートークの参加者数 33,111 人（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・キャンパスメンバーズ加入校数 129 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・「アジアの占い体験」等の体験型プログラム（東博）、訪問授業「文化財に親しむ授業」（京博）、世界遺産学習事業（奈良博）、学校貸出キット「きゅうばっく」の提供（九博）等を継続的に実施した。 ボランティア活動の支援 各館でボランティアの自主企画等を支援した。 ・ボランティア数 896 人（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 大学との連携 ・インターンシップ事業を継続して実施した。（東博・奈良博・九博）また、博物館実習の受け入れ（九博）や大学への客員教授等の派遣（京博・奈良博）を行った。 博物館支援者の増加 各種会員制度によるリピーターの拡大、及び支援者の増加に努めた。	＜評定と根拠＞ 評定：B 子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会を提供するため、講座・講演会をはじめ、体験型プログラム、ワークショップ、小中学校への訪問授業、学校貸出キットなど多様なプログラムを各館で毎年度工夫しながら提供した。また、ボランティアの育成のため、研修やスクーリング等の実施を行い、人数も増やして教育活動の充実につなげている。さらに、次代の博物館事業を担う人材育成のため、大学との連携事業等を行っている。 ・講演会、ギャラリートークの参加者数については、順調に目標を達成している。 なお、23 年度の京都国立博物館については、平常展示館建替工事に伴う講堂閉鎖のため外部施設での講演会実施により、人数が目標より少なかったものの、その後は着実に人数を増やし、目標を達成した。 ・キャンパスメンバーズの加入校数については、継続的な取組みの結果、加入校数を維持している。 ・ボランティア数については、平成知新館開館もあり 26 年度に大幅に増加した。また、奈良国立博物館においても、27 年度より増員した。 ・賛助会等加入件数については、順調に加入者数が増えている。 ・友の会・パスポート加入者数については、新規の会員区分を設定するなど加入者増への取組みも実施している。また、展覧会の来館者数増加に伴って増加している。 以上のとおり、いずれの件数も順調に推移している。	＜評定に至った理由＞平成 23 年度から 26 年度までの間、4 館とも講演会等の教育活動及び博物館支援者を増加させる取組を計画的に実施した。 教育活動に関する定量的指標としている講演会等の参加者数については、平成 23 年度から 26 年度までの目標値の達成率は、平成 23 年度が 167%、24 年度が 177%、25 年度が 184%、26 年度が 163%となっており、4 年間の平均達成率は 173%であった。4 年間の館ごとの来館者数の目標値の達成率（平均）は、東博が 179％、京博が 113％、奈良博が 128%、九博が 249%であった。 また、教育活動に対するボランティア協力への支援については、3 館（東博、奈良博、九博）は継続的に実施しており、平成 26 年度から新たに京博でも開始した。 教育活動の一環として、博物館の支援組織として友の会、パスポート会員、賛助会員、キャンパスメンバーズ等の多様な制度を設け拡充に努めている。定量的指標の計画値・目標値は設定していないが、様々な制度について平成 22 年度末から平成 26 年度末の会員数の変動状況を示せば、東博が 8,528 会員（55%）の増、京博が 4,013 会員（139%）の増、奈良博が 675 会員（26%）の増、九博が 1,717 会員（49%）の増、4 館全体で 14,933 会員（61%）の増となっており、順調に成果を上げている。 以上については、自己評価書及び関	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館とも講演会等の教育活動及び博物館支援者を増加させる取組を計画的に実施した。 教育活動に関する定量的指標としている講演会等の参加者数については、平成 23 年度から 27 年度までの目標値の達成率は、平成 23 年度が 167%、24 年度が 177%、25 年度が 184%、26 年度が 163%、27 年度が 172%となっており、5 年間の平均達成率は 173%であった。5 年間の館ごとの来館者数の目標値の達成率（平均）は、東博が 190%、京博が 121%、奈良博が 132%、九博が 204%であった。 また、教育活動に対するボランティア協力への支援については、3館（東博、奈良博、九博）は継続的に実施しており、平成26年度から新たに京博でも開始した。 教育活動の一環として、博物館の支援組織として友の会、パスポート会員、賛助会員、キャンパスメンバーズ等の多様な制度を設け拡充に努めている。定量的指標の計画値・目標値は設定していないが、様々な制度について平成 22 年度末から平成 27 年度末の会員数の変動状況を示せば、東博が 8,084 会員（52%）の増、京博が 4,611 会員（160%）の増、奈良博が 1,105 会員（43%）の増、九博が

			・賛助会等加入件数 906 件（27 年度） ・友の会・パスポート加入者数 39,463 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・企業の協力による障がい者内覧会（東博）や広報協力（4 館）を実施し、博物館の認知度向上につなげた。	ている。 ・企業との連携については、共同企画や広報協力を実施し、博物館の認知度向上につなげている。 ＜課題と対応＞ ―	係資料によって具体的に説明されており、講演会等に関する定量的指標が、見込評価時点でA評定の基準120%以上を大きく超えているが、本評価項目はその他の評価指標や視点を含め全体で評定を行うこととなっており、法人の自己評価ではBとされている。定量的指標は、教育活動の一部を構成する指標として重要であるが、本指標がA評定の基準を達成しているという理由だけで全体をA評定とする根拠にはならず、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・事業全体に共通して言える事ながら、年をおって充実している印象があり、とくに講座の充実やサポート人口の増加は、目に見える成果として高く評価出来る。 ・大きな前進を感じる。	2,313 会員（66%）の増、4 館全体で 16,113 会員（61%）の増となっており、定量的指標がA評定の基準120%以上を大きく超えており評価できる。本評価項目はその他の評価指標や視点を含め全体で評定を行うこととなっており、法人の自己評価ではBとされている。各施設ごとにみると必ずしも 120%を達成しているわけではないため B 評価とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・継続的に努力されていることがうかがえる。

4．その他参考情報

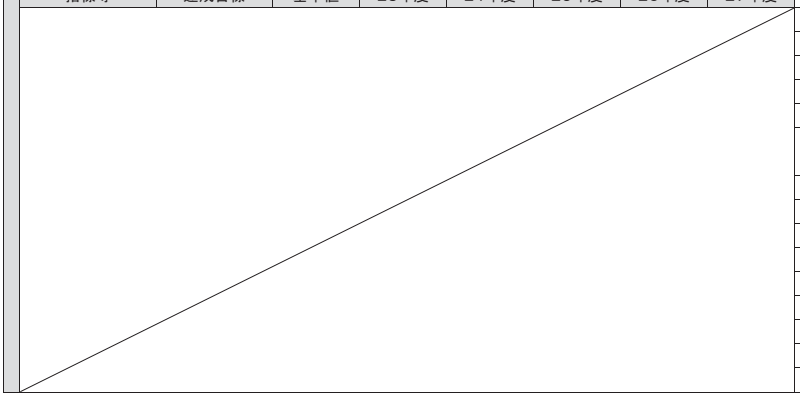
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－(3)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 (3)快適な観覧環境の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第2号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成27年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度



②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	20,000	29,500	29,000	60,000	55,000
決算額(千円)	19,003	35,015	28,950	61,970	43,491
参考決算額(千円)	18,049	22,330	20,533	34,962	42,121
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	85	86	84	84	84

※予算額は個別に計上することができないため、年度当初の平常展印刷費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、平常展印刷費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の平常展に要するチラシ、パンフレット等の作成費を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の総務部及び京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館の各総務課の常勤事務職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (3)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (3)快適な観覧環境の提供 国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した観覧環境の提供を行ったか。 ○利用者のニーズを踏まえ、観覧料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行ったか。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等のサービスを改善したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P10 ＜主要な業務実績＞ 観覧環境の整備として以下の取組みを行った。 施設のバリアフリー化、各種案内の充実等により、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。 主な整備状況は以下のとおり。 ・24 年度に、東洋館と本館のショップをリニューアルオープンした。(東博) ・25 年度に黒田記念館と表慶館のバリアフリー化工事を実施(東博)、また「ほじょ犬」専用トイレ設置をした。(九博) ・26 年度に開館した平成知新館はバリアフリーに配慮した施設として設計・建築し、館内に新たにミュージアムショップとレストランを設けた。(京博)同様に、正門プラザと黒田記念館内に新たにミュージアムショップを設置した。(東博) ・27 年度にミュージアムショップのリニューアルの実施および太宰府天満宮の参道に九州国立博物館のアンテナショップを新設した。また、東京国立博物館において軽食を提供するケータリングカーを特別展期間中常設とした。 ・多言語(6～7 言語)による案内パンフレットの製作・配布を行った。(4館) ・音声ガイドの貸出を行った。(4館) ・24 年度からスマートフォンアプリ「トーハクなび」(日・英)の提供を開始し、随時機能追加のバージョンアップを行った。ダウンロード件数も順調に伸びている。(東博) ・一部の特別展では、混雑緩和のため開館時間を延長した。(東博・九博)	＜評定と根拠＞ 評定：B 国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備として、バリアフリー化工事や設備充実を継続的に実施し、ミュージアムショップのリニューアルや、アンテナショップ・レストランの新設、託児所の設置等によるサービスの充実や多言語化による外国人対応、開館時間の延長などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えた。 来館者アンケートを実施し、館の運営やサービスに随時反映している。特に特別展の混雑対策には継続して取り組んでおり、来館者のニーズを踏まえた開館時間延長も行っている。 ＜課題と対応＞ 混雑対策については、引き続き検討を重ね、待ち時間等を含めた観覧環境が少しでも快適になるよう工夫していく。	評定：B ＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 26 年度までの間、4 館ともバリアフリー施設の整備及び展覧会を快適に鑑賞するためのサービスの改善に関する取組等を実施した。 見込評価の時点において、バリアフリー施設は、関係法令で推奨される水準に達しており、高齢や障がいのある来館者に対し、適当な環境とサービスが提供されていると認められる。 このほか、乳幼児及びその保護者や外国人を対象とするサービスや飲食サービスの改善にも努めているとともに、観覧のため長い待ち時間が生じる特別展については、ウェブサイト等で混雑状況等を広報するとともに、臨時の日除けテントや給水所等を設けるなどの対策をとっている。 来館者アンケートの集計結果は、ウェブサイトで公表されており、「もっと詳しい説明がほしい。」、「行列を予測し、予約制や整理券など混雑緩和の努力をしてほしかった。」、「照明が暗い」などのご意見もあるが、観覧環境をさらに改善するための課題を公表し、継続的な取組を行う意識が表れているものと認められる。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞	評定：B ＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館ともバリアフリー施設の整備及び展覧会を快適に鑑賞するためのサービスの改善に関する取組等を実施した。 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、アンテナショップのリニューアル等により、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。 バリアフリー施設は、関係法令で推奨される水準に達しており、高齢や障がいのある来館者に対し、適当な環境とサービスが提供されていると認められる。 このほか、乳幼児及びその保護者や外国人を対象とするサービスや飲食サービスの改善にも努めているとともに、観覧のため長い待ち時間が生じる特別展については、ウェブサイト等で混雑状況等を広報するとともに、臨時の日除けテントや給水所等を設けるなどの対策をとっている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められることから、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞

				・混雑対策として、入場待ち来館者向けのテントの設置（東博・京博・奈良博）、ウェブ等で混雑状況・待ち時間情報の提供等を行った。（4館）		なし。 <その他事項> なし。 ○有識者コメント ・評定に異論はないが、全体に展示デザインが洗練されてきていることは大いに評価される。 ・社会環境の加速度的な変化に対応できているが、特にデジタルデバイドへの配慮がなされねばならない。 ・バリアフリー化や外国語案内板の設置など施設面での充実は著しいが、特別展の待ち時間などはマイナス要因として評価せねばなるまい。 ・目標に向かって順調に前進していると判断される。	特になし。 ○有識者コメント ・継続的に努力されていることがうかがえる。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－2－（4）	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 2．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 （4）文化財情報の発信と広報の充実				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第7号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

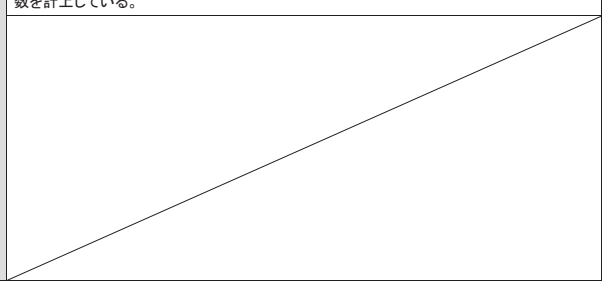
①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数(件)	（東博）	計画値	－	－	3,000	1,000	1,000	300	－
		実績値	－	－	1,468	776	550,305	79	484
		達成度	－	－	48.9%	77.6%	55030.5%	26.3%	－
	（京博）	計画値	－	－	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
		実績値	－	－	2,165	2,732	2,682	5,536	5,966
		達成度	－	－	108.3%	136.6%	134.1%	276.8%	298.3%
	（奈良博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	5,297	4,924	7,615	5,154	3,875
		達成度	－	－	176.6%	164.1%	253.8%	171.8%	129.2%
	（九博）	計画値	－	－	1,000	1,000	200	500	－
		実績値	－	－	2,146	1,450	62	776	－
		達成度	－	－	214.6%	145.0%	31.0%	155.2%	－
収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数(件)	（東博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	6,000	8,000
		実績値	－	－	10,566	9,566	9,865	10,720	12,513
		達成度	－	－	352.2%	318.9%	328.8%	178.7%	156.4%
	（京博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	3,580	2,713	4,525	4,927	8,222
		達成度	－	－	119.3%	90.4%	150.8%	164.2%	274.1%
	（奈良博）	計画値	－	－	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績値	－	－	6,103	4,960	4,648	5,478	4,237
		達成度	－	－	203.4%	165.3%	154.9%	182.6%	141.2%
	（九博）	計画値	－	－	500	500	2,000	1,000	1,000
		実績値	－	－	4,441	2,142	1,512	1,167	1,090
		達成度	－	－	888.2%	428.4%	75.6%	116.7%	109.0%
ウェブサイトアクセス件数(件)	（東博）	実績値	－	－	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460
	（京博）	実績値	－	－	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
	（奈良博）	実績値	－	－	722,249	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額（千円）	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額（千円）	80,513	33,364	22,966	17,397	20,702
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	64	63	58	56	55

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の文化財情報の発信と広報の経費を計上している。
※従事人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課、学芸企画部博物館情報課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の人数を計上している。



（九博）	実績値	－	－	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391	
「e 国宝」	実績値	－	－	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265	

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。 (4)文化財情報の発信と広報の充実 文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信 文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図るとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。 (4)文化財情報の発信と広報の充実 ①収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。 ②美術史・考古学・博物館学その他の	〈主な定量的指標〉 ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数 ・収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数 〈その他の指標〉 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 〇収蔵品等に関するデジタル化目標件数を定め、それを達成したか。また、公開データ件数を増加させたか。 〇情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させたか。 〇計画的な広報・情報提供を行ったか。 〇積極的な広報活動に努めたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P11 ＜主要な業務実績＞ 文化財情報の蓄積と発信の充実 ・デジタル化を推進し、収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化について、各館ごとに目標値を定めて実施し、可能なものから随時公開した。(4 館)また、国宝・重要文化財の高精細画像(e国宝)を継続して公開した。またiOS、Android それぞれのアプリ版「e 国宝」を継続して公開した。(4館) ・収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化件数 アウトプット情報を参照 ・収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影を計画どおり実施して関連データを整備・蓄積し、また、図書資料等の収集を継続的に行い、レファレンスに供した。(4館) ・収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データ整備件数 アウトプット情報を参照 ・東京国立博物館資料館では、レファレンス機能とサービスの充実や導線の改善を行った。(東博) 展示及び各種事業に関する、積極的な広報 ・概要や年報(機構)、年間スケジュールのリーフレット、ポスター・チラシの作成・配布(4館)を計画的に行い、情報提供を行った。 ・各種広報印刷物の発行、ウェブサイト・モバイルサイトによる情報提供、メールマガジン	＜評定と根拠＞ 評定：B 文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めた。 文化財情報の蓄積については、収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化は、4館とも順調に実施されており、可能なものから随時公開をしており、公開データ件数を増加させている。 なお、東京国立博物館と九州国立博物館では、既存フィルムのデジタル化は大半が既に完了しているため、件数は減少傾向である。 このため、東京国立博物館と 25 年度以降の九州国立博物館においては、デジタル化件数目標値設定にあたっては、各年度新規撮影予定のうち、フィルム撮影分について、そのフィルムを当該年度内にデジタル化する予定として、目標値設定をしていた。しかしながら、デジタル撮影への移行が各年度の計画策定時の想定以上に進んだため、撮影後にデジタル化する必要のあるフィルムの数がそもそも少ないという状況が多々あった。このため、目標値を下回っている年度があるが、デジタル化可能な分については全て実施(九博は 27 年度新規フィルム撮影無し)しており、当事業の目的は達成されている。加えて、撮影そのもののデジタル化が当初の想定以上に進んだことも、むしろプラス要因として評価する。 さらに、東京国立博物館では、25 年度に館	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から26 年度までの間、4 館とも収蔵品写真等のデジタル化、収蔵品に関するデータの整備、図書資料等の収集・公開及びインターネットによる情報発信等を計画的に実施した。 見込評価の時点において収蔵品写真等のデジタル化については、東博は保有フィルム分(約 32 万枚)を既に完了しており、東博を除く 3 館についても 4 年間の計画値を大きく超える実績値をあげており、全体として順調である。また、収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データの整備が計画値を大きく超えて実施されており、これらの成果は各館のウェブサイトでの画像検索サービス等に活用されている。 図書の収集活動は継続して行われており、新規入庫に関する情報も随時更新してウェブサイトで公表されている。 ウェブサイト等の活用については、東博がスマートフォン向けモバイルサイトを新たに公開したほか、各館ともコンテンツの充実に努めている。平成 22 年度末から 26 年度末の 4 年間のウェブサイトアクセス件数を比較すると、東博が約 72 万件(15%)の減、京博が約 89 万件(43%)の増、奈良博が約 43 万件(56%)の増、九博が約 44	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館とも収蔵品写真等のデジタル化、収蔵品に関するデータの整備、図書資料等の収集・公開及びインターネットによる情報発信等を計画的に実施した。 中期計画では文化財情報の発信と広報の充実があげられている。デジタル化という観点からすると収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化については、可能なものから随時公開されている。東博、九国博においては既存フィルムのデジタル化が当初の想定以上に進んでいる。 また、資料の収集・レファレンス機能の強化については、各館とも積極的な取組を行っている点も評価される。 ウェブサイトの充実については、4 館とも各種の取組みを行っており、いずれの館もアクセス件数は平成 22 年度時点と比べると大幅に増加しており、画像検索サービスや図書の情報、なかでも特に東博で平成 26 年末に導入されたスマートフォン向けのモバイルサイトの取組の結果、アクセス数が急激に伸びており、その貢献度は少なくな

	関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。 ③展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。 ④広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。 ⑤ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。		の配信、SNS の活用等を行うとともに、文化交流展のテレビCM等(九博)や、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。(4館) ・ウェブサイトのリニューアルや内容の充実を行い、アクセス件数(アウトプット情報を参照)を向上させた。また、スマートフォン対応のモバイルサイトを開発し、26 年 12 月より公開した。(東博)	内予算からの捻出によって、当初予定していなかった館史資料を中心とする 550,000 コマ(1,039 リール)のマイクロフィルムをデジタル化し、マイクロフィルムのデジタルをほぼ完了するなど、当事業の目的は達成されている。 発信の充実に関しては、e国宝をはじめウェブサイトの充実に努め、4館とも各種の取組みを行っており、いずれの館も今中期において大幅にアクセス件数を伸ばしている。特に、東京国立博物館では 26 年末に導入したスマートフォン版ウェブページの取り組み等の結果、大幅にアクセス件数を伸ばしている。 資料の収集・レファレンス機能の強化については、各館とも積極的な取組を行っており、撮影件数実績は4館とも目標値を上回っており、順調に推移している。 広報については、各館とも多様なメディアを通して積極的に行っている。 ＜課題と対応＞ 収蔵品等に関するデジタル化件数について、中期計画にて「目標値を設定する」としていたが、東京国立博物館・九州国立博物館で中期目標期間中に既存フィルムのデジタル化が完了したため、第 4 期中期計画では、両館とも既存フィルムのデジタル化については目標値を設定しないこととした。	万件(32%)の増、4 館全体で約 103 万件(11%)の増となっている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、収蔵品写真等のデジタル化や収蔵品・出品作品等の新規撮影及び関連データに関する定量的指標が、見込評価時点でA評定の基準 120%以上を大きく超えているが、本評価項目はその他の評価指標や視点を含め全体で評定を行うこととなっており、法人の自己評価ではBとされている。定量的指標は、文化財情報の発信と広報に関する活動の一部を構成する指標として重要であるが、本指標がA評定の基準を達成しているという理由だけで全体をA評定とする根拠にはならず、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 〇有識者コメント ・評定に異論はないが、デジタル資料の活用、ウェブサイトのさらなる活用が望まれる。 ・ウェブサイトのアクセス数の増加割合が意外と低いのではないか。そのような認識による課題設定が必要ではないか。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・ウェブサイトやデータベースの充実ぶりには目を瞠るものがある。アクセス数も総体的に飛躍しており、注目に値する。	いと考えられる。 東博アクセス件数　6,724,460 件 (4,248,437 件) ＊ () 内 H26 年度数値 以上のことから、文化情報の発信と広報については所期の目標を達成していると考えられるため当該評定をBとする。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 〇有識者コメント ・計画的にとりくみ、着実に実績をあげている。 ・デジタル資料の活用、ウェブサイトのさらなる活用が望まれる。

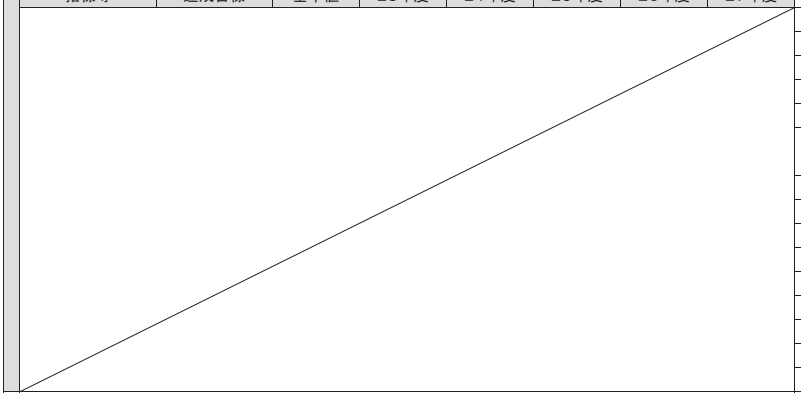
4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(1)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3．わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (1)収蔵品等の調査研究成果の公表				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第6号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成27年度行政事業レビューシート 事業番号

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度



②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額(千円)	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額(千円)	23,155	28,023	26,246	21,319	20,533
経常費用(千円)	－	－	－	－	－
経常利益(千円)	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト(千円)	－	－	－	－	－
従事人員数(人)	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、紀要等調査研究に係る印刷物作成の決算額を計上している。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価									
	中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
						評定	B	評定	B
	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 （1）収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 （1）収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 〇各種刊行物等で調査・研究の成果を広く公表したか。また、各種刊行物の電子書籍化、インターネットでの公開を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P11～12 ＜主要な業務実績＞ 博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を継続的に発行した。 中期期間中の主な刊行物は以下のとおり。 ・研究誌 「MUSEUM」（東博） ・研究紀要 「紀要」（東博） 研究紀要「学叢」（京博） 研究紀要「鹿園雑集」（奈良博） 研究紀要「東風西声」（九博） ・特別展等図録（4 館） ・調査概報（東博） ・図版目録（東博） ・文化財修理報告書（東博・京博） ・社寺調査報告書（京博） ウェブサイト公開 ・特集印刷物（リーフレット）PDFファイル版のウェブサイト公開（東博） ・研究紀要のPDFファイル版のウェブサイト公開（京博・奈良博） ・調査研究や修理に関するパネル展示を行った。（奈良博、九博、26 年度）	＜評定と根拠＞ 評定：B 調査研究成果を継続的に広く公開するため、研究誌、研究紀要を継続的に刊行し、展覧会図録、図版目録、文化財修理報告書やその他のリーフレット等を多数刊行しており順調である。 研究紀要や印刷物のPDFファイル版のウェブサイト公開や、パネル展示の実施など、多様な媒体での成果公表を行っている。 ＜課題と対応＞ —	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 26 年度までの間、4 館とも各年度の計画に沿って調査研究の成果を刊行した。 定期刊行物については、東博が『MUSEUM（隔月刊）』のほか『紀要』、『文化財修理報告』及び『法隆寺献納宝物特別調査概報』を各年 1 回、京博が『研究紀要 学叢』、『文化財保存修理所 修理報告書』を各年 1 回、奈良博が『研究紀要 鹿園雑集』を年 1 回、九博が『紀要 東風西声』を年 1 回それぞれ刊行している。このほか平成 23 年度から 26 年度の間に図版目録等不定期の刊行物を、東博が 5 件、京博が 2 件、九博が 22 件、合計で 29 件刊行した。 展覧会図録については、各館の特別展、特集陳列等においてそれぞれ刊行している。4 年間の刊行状況は、東博が特別展図録 27 件、特集陳列図録 7 件、その他の図録 9 件、計 43 件、京博が特別展図録 11 件、特別展観図録 2 件、その他の図録 1 件、計 14 件、奈良博が特別展図録 15 件、特別陳列図録 7 件、その他の図録 6 件、九博が特別展図録 16 件、海外展図録 2 件、トピック展示図録 21 件、計 39 件であった。4 館合計して 124 件の展覧会図録を刊行している。 刊行物の一部をウェブサイトで公開しているが、奈良博は研究紀要『庭園雑集』の全文、東博は特集陳列のリーフレット 5 点、京博は研究紀要『学叢』の創刊号（昭和 54 年）から第 23 号（平	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館とも各年度の計画に沿って調査研究の成果を刊行した。 定期刊行物及び不定期刊行物は各館から刊行されており、平成 27 年度は前者が 13 冊（東博 10 冊、京博 3 冊、奈良・九博 0 冊）、後者が 5 冊（東博・京博 1 冊、九博 3 冊）である。 結果、4 館合わせると定期刊行物が 66 冊、不定期刊行物が 34 冊刊行された 展覧会図録については、各館の特別展、特集陳列等においてそれぞれ刊行している。5 年間の刊行状況は、東博が特別展図録 33 件、特集陳列図録 10 件、その他の図録 25 件、計 68 件、京博が特別展図録 13 件、特別展観図録 3 件、その他の図録 1 件、計 17 件、奈良博が特別展図録 19 件、特別陳列図録 11 件、その他の図録 7 件、九博が特別展図録 21 件、海外展図録 2 件、トピック展示図録 25 件、計 48 件であった。4 館合計して 170 件の展覧会図録を刊行している。 以上より中期目標の「収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。」の目標は達成したと評価するが、上回るものとは言えず B 評定とした。

						成 13 年）まで（全文又は一部）が公開されている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 〇有識者コメント ・評定に異論はない。質の高い調査研究が行われていることは大いに評価される。 ・研究成果のウェブ公開や学術情報リポジトリの構築を、さらに推進すべきではないか。ウェブ公開できない場合は、合理的な理由や公開に関するポリシーも開示すべきではないか。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・刊行物はおおむね遅滞なく発行されており、内容の充実も著しい。	＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(2)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3．わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (2)専門家等との学術・人物交流				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

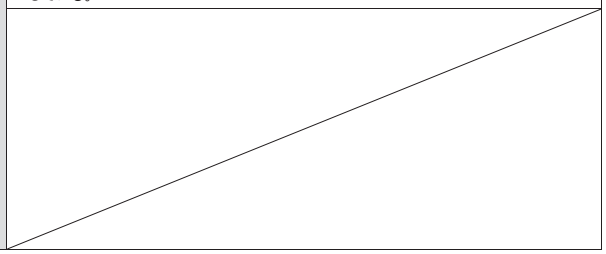
①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
海外研究者招へい数(人)	(東博)	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	16	11	21	47	83
		達成度	―	―	266.7%	183.3%	350.0%	783.3%	1383.3%
	(京博)	計画値	―	―	5	5	3	2	2
		実績値	―	―	21	3	0	2	2
		達成度	―	―	420.0%	60.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	(奈良博)	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	20	7	9	9	13
		達成度	―	―	333.3%	116.7%	150.0%	150.0%	216.7%
	(九博)	計画値	―	―	3	3	4	4	4
		実績値	―	―	21	3	16	35	51
		達成度	―	―	700.0%	100.0%	400.0%	875.0%	1275.0%
	(合計)	実績値	―	―	78	24	46	93	149
研究員派遣数(人)	(東博)	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	48	34	41	18	47
		達成度	―	―	800.0%	566.7%	683.3%	300.0%	783.3%
	(京博)	計画値	―	―	6	6	15	15	15
		実績値	―	―	25	15	19	14	17
		達成度	―	―	416.7%	250.0%	126.7%	93.3%	113.3%
	(奈良博)	計画値	―	―	6	6	6	6	6
		実績値	―	―	19	17	8	13	20
		達成度	―	―	316.7%	283.3%	133.3%	216.7%	333.3%
	(九博)	計画値	―	―	4	4	4	4	4
		実績値	―	―	56	60	87	82	77
		達成度	―	―	1400.0%	1500.0%	2175.0%	2050.0%	1925.0%
	(合計)	実績値	―	―	148	126	155	127	161

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	597,470	577,268	1,283,989	686,536	965,171
決算額(千円)	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
参考決算額(千円)	5,050	6,452	1,370	991	22,587
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	56	55	53	51	49

※予算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4国立博物館の調査研究事業費の決算額を計上している。
※参考決算額は、上記決算額のうち、4国立博物館の国際シンポジウム開催に要する旅費等を計上している。
※従業人員数は東京国立博物館の学芸企画部企画課及び京都国立博物館、奈良国立博物館の各学芸部、九州国立博物館の学芸部企画課の常勤研究職員の人数を計上している。



3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (2)国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (2)文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。	〈主な定量的指標〉 ・海外研究者招へい数 ・研究員派遣数 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施したか。また、職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関や国際会議等に派遣したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第3期中期期間実績補足資料 P12～13 ＜主要な業務実績＞ 海外研究者の招へい、研究員の海外派遣を通して、海外の博物館・研究者との交流を行った。 ・海外研究者招へい数 149人(27年度) ・研究員派遣数 161人(27年度) 内訳はアウトプット情報を参照 ・国際シンポジウム、国際研究セミナー、国際研究集会、招聘者による講演会を実施した。(4館) ・26年度に第8回日中韓国立博物館長会議を開催した。(東博) ・23年度、25年度、27年度アジア国立博物館協会理事会・定期大会(東博) ・学術交流協定に基づく研究員の交流を継続して行った。(東博、奈良博、九博) ・フランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結した(28年3月)(京博)	＜評定と根拠＞ 評定:B 国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術国流を図った結果、海外研究者招へい数と研究員派遣数は、東京国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館で常に目標値を上回っている。なお、京都国立博物館では、平成知新館開館準備に重点を置いたため24年度と25年度の招へい数と26年度の派遣数が目標値に届かなかったが、27年度は目標どおりに達成し、全体として順調である。 さらに、国際的な博物館の拠点として、国際シンポジウムや国際研究セミナー等を各館で実施し、また、23年度、25年度、27年度アジア国立博物館協会理事会・定期大会や第8回日中韓国立博物館長会議の開催への参加、学術交流協定に基づく交流の継続や、新規の学術交流協定の締結により、情報交換とネットワークの強化を実現している。 計画値と実績値の乖離があるが、計画値はあくまでも当初予算に基づくものであるため、少数を計画値に挙げざるを得ない。 しかし、実績値は共催展の事業予算や外部資金等による成果を加えたものであり、どうしても乖離してしまう結果となる。したがって計画値と実績値から数値による単純な評価はなじまないため評定をBとした。 ＜課題と対応＞ ―	評定 B	評定 B
					＜評定に至った理由＞ 平成23年度から26年度までの間、4館とも海外の研究者の招へい、海外の博物館等への研究員派遣及び国際シンポジウムの開催等を通じて、専門家等の学術・人物交流を行った。 定量的指標として、海外の研究者の招へい者数及び研究員の海外派遣者数の計画値を掲げている。 4年間の海外の研究者の招へい数の計画値は、4館合計で77人であるが、これに対し241人の実績(達成率313%)を挙げた。それぞれの実績値及び達成率は、東博が95人(396%)、京博が26人(173%)、奈良博が45人(188%)、九博が75人(536%)となっている。計画を大きく上回る実績を挙げた要因として、学術交流協定や特別展に基づく招へいが活発に行われたほか、国際シンポジウム等の開催、外部資金の獲得等が挙げられている。 4年間の研究者の海外派遣者数の計画値は、4館合計で106人であるが、これに対し557人の実績(達成率526%)を挙げた。それぞれの実績値及び達成率は、東博が142人(592%)、京博が73人(174%)、奈良博が57人(238%)、九博が285人(1781%)となっている。計画を大きく上回る実績を挙げた要因として、招へい事業と同様、学術交流協定や特別展に基づく出張が活発に行われたことが挙げられる。 4年間の国際シンポジウム等の開催状況は、国際シンポジウムを11	＜評定に至った理由＞ 平成23年度から27年度までの間、4館とも海外の研究者の招へい、海外の博物館等への研究員派遣及び国際シンポジウムの開催等を通じて、専門家等の学術・人物交流を行った。 定量的指標として、海外の研究者の招へい者数及び研究員の海外派遣者数の計画値を掲げている。 5年間の海外の研究者の招へい数の計画値は、4館合計で95人であるが、これに対し390人の実績(達成率411%)を挙げた。それぞれの実績値及び達成率は、東博が178人(593%)、京博が28人(165%)、奈良博が58人(193%)、九博が126人(700%)となっている。 5年間の研究者の海外派遣者数の計画値は、4館合計で137人であるが、これに対し678人の実績(達成率495%)を挙げた。それぞれの実績値及び達成率は、東博が149人(497%)、京博が90人(158%)、奈良博が77人(133%)、九博が285人(1,925%)となっている。 5年間の国際シンポジウム等の開催状況は、国際シンポジウムを14回、国際会議を1回、その他の催しを6回、計21回行われている。各館の開催状況は、東博が5回、京博が4回、奈良博が3回、九博が9回となって

						回、国際会議を 1 回、その他の催しを 5 回、計 17 回行われている。各館の開催状況は、東博が 4 回、京博が 3 回、奈良博が 2 回、九博が 8 回となっており、特に九博が積極的に取り組んでいる。 自己評価による評定はBとされているが、海外研究者の招へい数が313%の達成率を、また研究者の海外派遣者数が 526%の達成率を示しており、定量的指標のＡ評定の基準120%以上を大きく超えているため、法人の自己評価の妥当性を検討した。 計画値については、当初予算に基づく数値であることが自己点検評価報告書に記載されており、一応合理性が認められるが、実績値については、展覧会事業など他の事業(予算)や外部資金等による成果を加えた結果であり、計画値と実績値の単純な比較による評価は、予算面から見て合理性に欠ける面がある。この事情は、研究者の海外派遣においても同様である。したがって本項目については、定量的指標による単純な評価ではなく、法人の自己評価の結果を踏まえ、Ｂ評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ 定量的指標の計画値に対し実績値が大きく上回っている状況が 4 年間継続している。これは、計画値の積算根拠である予算に、実績を構成する事業の予算が加えられていないことが影響している。次期中期目標の期間においては、計画に対する実績の達	おり、特に九博が積極的に取り組んでいる。 いずれの定量的指標についても計画を大きく上回る実績を挙げている。 自己評価による評定はＢとされているが、定量的指標のＡ評定の基準 120%以上を大きく超えているため、法人の自己評価の妥当性を検討した。 計画値については、当初予算に基づく数値であることが自己点検評価報告書に記載されており、一応合理性が認められるが、実績値については、展覧会事業など他の事業（予算）や外部資金等による成果を加えた結果であり、計画値と実績値の単純な比較による評価は、予算面から見て合理性に欠ける面がある。この事情は、研究者の海外派遣においても同様である。したがって本項目については、定量的指標による単純な評価ではなく、法人の自己評価の結果を踏まえ、Ｂ評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・予算以外の競争的外部資金導入などで、大きな実績をあげていることは評価されるが、計画値の積算方法の見直しが必要であろう。

						成率を合理的に示すことができるよう、計画値の積算方法を見直すことが適当である。 ○有識者コメント ・評定に異論はない。計画値の算定に今後改善の余地がある。 ・達成率を鑑みて評価の妥当性を検証しており、丁寧な評価になっている。その検証結果も妥当と思われる。 ・予算以外に競争的外部資金導入などの努力の成果で、毎年大幅な増加を示している。	

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(3)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3．わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (3)文化財保存修理に関する人材育成				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第6号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	－	－	－	－	－
決算額(千円)	－	－	－	－	－
経常費用(千円)	－	－	－	－	－
経常利益(千円)	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト(千円)	－	－	－	－	－
従事人員数(人)	48	47	46	45	43

※研修テキストなどはコピー機を利用して作成しており外注額が少額のため、予算額・決算額は個別に計上することができない。
※従事人員数は4国立博物館の常勤保存修復担当職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
					評定 B	評定 B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施したか。 ○業務の効率化について、教材作成作業等の	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P13 ＜主要な業務実績＞ 国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与するため、NPOや文化財保存修理所内の工房との連携の下、保存修理事業者を対象とする研修会を、関係機関と連携協力して毎年度実施した。また、インターンシップの受け入れを行った。 【業務の効率化について】 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国	＜評定と根拠＞ 評定:B 国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与するため、諸機関や修理工房と連携し、セミナーや研修、情報交換等を効率的に行った。また、インターンシップの受け入れを行った。 なお、研修の目的は、文化財保護に必要な人材の育成である。よって、これらの研修の受講を必要とする者の参加を促進し文化財保護に必要な知識・技術等の普及を図るため、受講料無料は妥当と考える。	＜評定に至った理由＞ 平成23年度から26年度までの間、4 館とも文化財の保存修理の現場や経験を有する立場から、専門人材の研修を計画的に実施した。 4 館の研修プログラムの実施回数は 4 年間で 79 回、参加者数は 1,910 人となっている。各館の実施回数及び参加者は、東博が 8 回・169 人、京博が3回・139人、奈良博が７回・82人、九博が 8 回・214 人である。研修プログラムの内容は、東博が文化財保存	＜評定に至った理由＞ 平成 23 年度から 27 年度までの間、4 館とも文化財の保存修理の現場や経験を有する立場から、専門人材の研修を計画的に実施した。 4 館の研修プログラムの実施回数は 5 年間で 95 回、参加者数は 2,307 人となっている。各館の実施回数及び参加者は、東博が 9 回・187 人、京博が 15 回・682 人、奈良博が 32 回・402 人、九博が 8

(3)国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。	事業を実施する。 (3)保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。	効率化、研修施設の有効活用、施設管理業務の民間委託等の取組を行っているか。 ○受益者負担の妥当性・合理性があるか。	立博物館では、関係者を対象とした、文化財保存修理所内の工房視察や、各工房技術者との情報交換等が主であり、主催者側が用意した教材に沿って行われるものではないため、教材作成作業が必要なく一般的な研修とは異なる。また、専用の研修施設もない。 東京国立博物館の 26 年度事業では、NPO主催の専門家セミナーへの共催という形をとっており、館内の修理施設・展示施設を会場として提供している。教材はNPOが作成している。 【受益者負担の妥当性・合理性について】 京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館における当該研修の受講料は無料である。 東京国立博物館共催の専門家セミナーにおいても、東京国立博物館としては受講料を徴収していない。	＜課題と対応＞ さらなる内容の充実と参加者の増加を目指したい。	修復専門家を対象とした実践セミナー、京博が特別展における修理技術者の熟覧、奈良博が修理工房の修理技術者の研修会、九博が保存修理技術者等を対象としたセミナー・研修となっている。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・課題として「参加者促進を一層進める」の一文があるとよい。 ・国立博物館の研修事業による人材育成は大きな成果を挙げたと評価出来る。 ・現状の修理だけでも対応に限界がある。より一層の修復に関わる技術者の育成及び登用が強く望まれる。	回・214 人である。 研修プログラムの内容は、東博が文化財保存修復専門家を対象とした実践セミナー、京博が特別展における修理技術者の熟覧、奈良博が修理工房の修理技術者の研修会、九博が保存修理技術者等を対象としたセミナー・研修となっている。 以上より、中期目標として設定した「国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。」を達成していると考えられるためB評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

4．その他参考情報

特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(4)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3．わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (4)収蔵品の貸与				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第3号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文化財の貸与件数(件)	(東博)	実績値	―	―	905	1,295	1,137	1,130	991
	(京博)	実績値	―	―	429	304	626	582	303
	(奈良博)	実績値	―	―	118	102	135	149	145
	(九博)	実績値	―	―	119	113	143	101	90
	(合計)	実績値	―	―	1,571	1,814	2,041	1,962	1,529
貸与先件数(件)	(東博)	実績値	―	―	129	159	123	115	134
	(京博)	実績値	―	―	74	71	82	82	77
	(奈良博)	実績値	―	―	37	37	35	47	36
	(九博)	実績値	―	―	26	44	32	30	26
	(合計)	実績値	―	―	266	311	272	274	273

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	15,608	14,813	14,232	14,070	13,881
決算額(千円)	10,633	21,904	21,261	16,234	16,723
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、考古相互貸借事業の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。 (4)国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄与するため、以下の事業を実施する。 (4)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・文化財の貸与件数 ・貸与先件数 〈評価の視点〉 ○収蔵品の保存状況に配慮した貸与を実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第3期中期期間実績補足資料 P13 ＜主要な業務実績＞ 所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。 ・文化財の貸与件数 1,529件(27年度) ・貸与先件数 273件(27年度) 内訳はアウトプット情報を参照 なお、展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制など貸与先の環境と作品の状態を確認した上で貸出を行っている。	＜評定と根拠＞ 評定：B 国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、貸与先からの要請に4館が積極的に対応した結果、文化財の貸与件数、貸与先件数ともに、高い水準の件数を保っている。ただし、貸与先の事情にも左右されるものであるため、件数は変動がある。 また、考古資料相互貸借事業を毎年度実施した。(東博・奈良博) これらの貸与の際は、貸与先の環境と作品の状態を確認し、収蔵品の保存状況に配慮している。 ＜課題と対応＞ ―	評定 B ＜評定に至った理由＞ 平成23年度から26年度までの間、4館とも他の博物館の展覧会への出品等を目的とする収蔵品の貸与を行った。 4年間の所蔵品の貸与件数は5,601件、貸与先件数は829件となっている。1年あたりに平均にすると216件の貸与先に1,400件の所蔵品を貸与していることとなる。このほか依頼に応じて、寄託品の貸与に関する便宜供与を4年間で1,620件行った。 館ごとの所蔵品の貸与件数の内訳は、東博が4,181件、京博が959件、奈良博が214件、九博が247件である。また貸与先件数の内訳は、東博が499件、京博が184件、奈良博が96件、九博が86件である。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・評価に異論はないが、収蔵品のうち考古資料など出土した地域における展示が望まれるものについて、さらに活発に行われることを期待	評定 B ＜評定に至った理由＞ 平成23年度から27年度までの間、4館とも他の博物館の展覧会への出品等を目的とする収蔵品の貸与を行った。 年間の所蔵品の貸与件数は6,799件、貸与先件数は1,039件となっている。1年あたりに平均にすると208件の貸与先に1,360件の所蔵品を貸与していることとなる。このほか依頼に応じて、寄託品の貸与に関する便宜供与を5年間で1,952件行った。 館ごとの所蔵品の貸与件数の内訳は、東博5,120件、京博が1,116件、奈良博が281件、九博が282件である。また貸与先件数の内訳は、東博が589件、京博が231件、奈良博が114件、九博が97件である。 以上のことから「国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。」という中期目標を達成していると考えられるのでB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

						したい。 ・海外への貸与も含め、おおむね妥当な実績と評価出来る。貸与による損耗の問題についてはとくに言及がないが、当然念頭に置くべき事柄である。	

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－3－(5)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 3．わが国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 (5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第3号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成27年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
公私立博物館等に対する援助・助言件数(件)	(東博)	実績値	―	―	126	85	114	119	139
	(京博)	実績値	―	―	91	65	43	29	65
	(奈良博)	実績値	―	―	98	67	71	58	58
	(九博)	実績値	―	―	97	109	64	57	67
	(合計)	実績値	―	―	412	326	292	263	329

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	―	―	―	―	―
決算額(千円)	―	―	―	―	―
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	100	99	99	94	93

※公立博物館・美術館に対する援助・助言に係る外注額が少額なため、予算額・決算額は個別に計上することができない。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
					評定 B	評定 B
3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄	3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与 博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に 寄	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数 〈評価の視点〉 ○公私立博物館等に対する援助・助言を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P13 ＜主要な業務実績＞ 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。 ・公私立博物館等に対する援助・助言件数 329 件(27 年度) 内訳はアウトプット指標に掲載 当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等	＜評定と根拠＞ 評定：B 博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めつつ、公私立博物館等から4館への要請に対して例年多数の助言・協力を行っている。 なお、東日本大震災の発生直後の 23 年度は、文化財レスキュー事業を多数行った結果、特に援助・助言の件数が多くなっている。また、京都国立博物館においては 26 年度の平成知新館の開館に伴う業務の繁忙の影響により件数が大きく減少したが、27 年	＜評定に至った理由＞ 4館は、平成 23 年度から 26 年度までの間、全国の博物館等からの依頼に応じて、運営等に対する援助、助言を行った。4 年間の援助・助言件数は、4 館合わせて 1,293 件であり、1 年あたりの平均にすると 323 件となる。館ごとの内訳は、東博が 444 件、京博が 228 件、奈良博が 294 件、九博が 327 件となる。 依頼に基づく業務であり目標値を	＜評定に至った理由＞ 4館は、平成 23 年度から 27 年度までの間、全国の博物館等からの依頼に応じて、運営等に対する援助、助言を行った。5 年間の援助・助言件数は、4 館合わせて 1,629 件であり、1 年あたりの平均にすると324 件となる。館ごとの内訳は、東博が 583 件、京博が 293 件、奈良博が 352 件、九博が 394 件となる。

	与する。 (5)全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。	与するため、以下の事業を実施する。 (5)公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。		における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。(4館) なお、援助・助言の一環として東日本大震災の文化財レスキュー事業を行ない、放射能汚染立ち入り警戒区域でも文化財救出作業を含む活動を行った。	度には件数を回復させた。 <課題と対応> —	設定することがなじまないが、各館とも限られた人員の中で自館の業務を行いながら、専門的知見を広く活用する援助・助言に努めていると認められる。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 <今後の課題> なし。 <その他事項> なし。 ○有識者コメント ・国立博物館として各館共に十分な数値を挙げたと言える。	依頼に基づく業務であり目標値を設定することがなじまないが、各館とも限られた人員の中で自館の業務を行いながら、専門的知見を広く活用する援助・助言に努めていると認められる。「全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める」という中期目標を達成していると判断しB評定とした。 <今後の課題> 特になし。 <その他事項> 特になし。 ○有識者コメント ・東日本大震災に関連した事業も含まれており、評価される。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(1)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4．文化財に関する調査及び研究の推進 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成27年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(東文研)	実績値	—	—	15	13	11	18	17
	(奈文研)	実績値	—	—	51	73	67	64	102
	(合計)	実績値	—	—	66	86	78	82	119
学会、研究会での発表件数(件)	(東文研)	実績値	—	—	21	22	21	24	22
	(奈文研)	実績値	—	—	32	36	45	22	56
	(合計)	実績値	—	—	53	58	66	46	78

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額(千円)	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用(千円)	—	—	—	—	—
経常利益(千円)	—	—	—	—	—
行政サービス実施コスト(千円)	—	—	—	—	—
従事人員数(人)	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (1)文化財に関する基礎的・体系的な調	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得	<実績報告書等参照箇所> 第3期中期期間実績補足資料 P14～17 <主要な業務実績> 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 23年度21件 24年度23件 25年度27件 26年度26件 27年度27件	<評定と根拠> 評定:B 設定した研究テーマは、中期目標に沿ったもので適切ある。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施された。 文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価	評定 B <評定に至った理由> 東京文化財研究所(以下「東文研」という。)及び奈良文化財研究所(以下「奈文研」という。)は、中期計画に沿って文化財に関する基礎的・体系的な調査研究を継続的に行っている。 平成23年度から26年度までの間に、東文研は7件の研究テーマを、奈文研は15件の研究テーマを中期計画	評定 B <評定に至った理由> 東京文化財研究所(以下「東文研」という。)及び奈良文化財研究所(以下「奈文研」という。)は、中期計画に沿って文化財に関する基礎的・体系的な調査研究を継続的に行っている。 平成23年度から27年度までの間に、東文研は7件の研究テーマ

	の基盤の形成に寄与すること。 (1)文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。	査・研究の推進 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。	〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	(目的) 国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を推進することにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 (主な研究テーマ) ・文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究(東文研)(23～27 年度) ・我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究(東文研)(23～27 年度) ・無形文化財の保存・活用に関する調査研究(東文研)(23～27 年度) ・平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等(奈文研)(23～27 年度) ・飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等(奈文研)(23～27 年度) ・東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究(奈文研)(23～27 年度) ・アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力(奈文研)(23～26 年度) ・文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究(奈文研)(23～27 年度) ・遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集(奈文研)(23～27 年度) ・藤原宮跡の発掘調査(東方官衙北地区)(26 年度)(大極殿院)(27 年度)(奈文研) 研究内容の一例を挙げると、「遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集」では、25 年度には、土質遺構の露出展示を実施予定の平城宮跡遺構展示館を調査フィールドとして、覆屋内空気と遺構周辺地盤における熱・水分及び酸素等について同時移動解析を行い、遺構地盤の適切な含水状態を維持し塩類析出を抑制するための	等に係る業務の基盤形成に寄与した。 例えば、「遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集」では、国内外で解析・試験・実測調査・研究に基づき、埋め戻し保存法や、結露発生を抑制するための手法や、石材基質強化剤及び撥水剤使用の良否について検討している。これらは、継続的な研究の上に行われ、25 年度以降もさらに研究を深化させており、適切に実施しているといえる。また、「文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究」においては、27 年度に、東文研の開所以来の刊行物一覧の内容精査を行い、遺漏刊行物についての情報を収集することで、個々の刊行物について把握し、その一覧をウェブサイトで公開するなど大きな成果を挙げた。 ＜課題と対応＞ ―	に示された課題や文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に応じて設定し、継続して調査研究を行った。東文研の研究内容は、文化財に関する研究情報・資料学、近現代美術に関する交流史、美術の表現・技法・材料に関する多角的研究、無形文化財・無形民俗文化財の保存活用、無形文化遺産の国際研究交流であり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(57 件)、学会等での発表(88 件)において公開している。 奈文研の研究内容は、歴史資料、書跡、建築、庭園、文化的景観、平城京、飛鳥・藤原地域等に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(255 件)、学会等での発表(135 件)において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、上記については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。	を、奈文研は 15 件の研究テーマを中期計画に示された課題や文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に応じて設定し、継続して調査研究を行った。東文研の研究内容は、文化財に関する研究情報・資料学、近現代美術に関する交流史、美術の表現・技法・材料に関する多角的研究、無形文化財・無形民俗文化財の保存活用、無形文化遺産の国際研究交流であり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(74 件)、学会等での発表(110 件)において公開している。 奈文研の研究内容は、歴史資料、書跡、建築、庭園、文化的景観、平城京、飛鳥・藤原地域等に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(357 件)、学会等での発表(191 件)において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、「文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するもの」という中期目標を達成していると評価できる。よって、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント

				環境条件、及び保護施設としての覆屋の仕様について検討した。(奈文研) また、「文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究」においては、27 年度に、東文研の刊行物一覧の内容精査を行い、遺漏刊行物についての情報を収集することで、個々の刊行物について把握し、その一覧をウェブサイトで公開した。併せて、公開レベルを確認し、公開可能なものについては端末上での閲覧ができるための準備を進めた。(東文研) ・学術雑誌等への論文掲載数 119 件(27 年度) 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 78 件(27年度) 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。		・研究水準は極めて高く、研究内容は独創的である。単に数値のみの定量評価においても順調な伸びを示しているが、それ以上に定性的に評価出来る。	調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(2)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4．文化財に関する調査及び研究の推進 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究開発				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(東文研)	実績値	―	―	2	0	0	1	0
	(奈文研)	実績値	―	―	31	24	14	20	11
	(合計)	実績値	―	―	33	24	14	21	11
学会、研究会での発表件数(件)	(東文研)	実績値	―	―	1	1	1	0	0
	(奈文研)	実績値	―	―	39	49	17	19	12
	(合計)	実績値	―	―	40	50	18	19	12

②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額(千円)	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (2)文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (2)文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P18～19 ＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 23 年度 5 件 24 年度 4 件 25 年度 4 件 26 年度 4 件 27 年度 4 件 (目的) 文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 (主な研究テーマ) ・文化財デジタル画像形成に関する調査研究(東文研)(23～27 年度) ・文化財の測量・探査等に関する研究(奈文研)(23～27 年度) ・年輪年代学研究(奈文研)(23～27 年度) ・動植物遺存体による環境考古学的研究(奈文研)(23～27 年度) 研究内容の一例を挙げると、「文化財デジタル画像形成に関する調査研究」においては、脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財に対して最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究し、さらにその公開による広範な利用を目指して、24 年度は宮内庁三の丸尚蔵館との共同調査研究として春日権現験記絵、奈良国立博物館との共同調査研究として国宝當麻根本曼荼羅(當麻寺所蔵)他の調査・撮影を実施した。この他、経	＜評定と根拠＞ 評定:A 設定した研究テーマは、中期目標に沿ったもので適切ある。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施された。 文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進し、下記に代表される大きな成果を上げることができたことによりA評定とした。 例えば、「文化財デジタル画像形成に関する調査研究」においては、24 年度に国宝當麻根本曼荼羅(當麻寺所蔵)等へ最先端の光学調査を行うことによって得られた高精細画像や特殊撮影画像を分析研究した。さらにその公開による広範な利用を目指して、継続して実績を積み重ねている。また、ジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究のように新たな技術開発に関しても成果を上げている。 さらに「文化財の測量・探査等に関する研究」においては、SfM/MVS 技術を活用し三次元計測調査を行うとともに、研究会を開催し、今後の新技術の普及に貢献した。また、各種遺跡探査システムの試行及び各種機器の試験を行うことで、探査技術のより高精度で迅速な手法の確立と複数の手法を確立する可能性を示した。	評定 B ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財に関する調査手法の研究開発を継続的に行っている。 平成 23 年度から 26 年度までの間に、東文研は 1 件の研究テーマを、奈文研は 3 件の研究テーマを中期計画に示された課題や文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)に応じて設定し、継続して調査研究を行った。 東文研の研究内容は、絵画等のデジタル画像形成に関する研究開発であり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(3件)、学会等での発表(3 件)において公開している。 奈文研の研究内容は、文化財の測量・探査等、年輪年代学、動植物遺存体による環境考古学に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(89件)、学会等での発表(124 件)において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、上記については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞	評定 B ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財に関する調査手法の研究開発を継続的に行っている。 23 年度から 27 年度までの間に、東文研は 1 件の研究テーマを、奈文研は 3 件の研究テーマを中期計画に示された課題や「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)」に応じて設定し、継続して調査研究を行った。 東文研の研究内容は、絵画等のデジタル画像形成に関する研究開発であり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(3 件)、学会等での発表(3 件)において公開している。 奈文研の研究内容は、文化財の測量・探査等、年輪年代学、動植物遺存体による環境考古学に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載(100 件)、学会等での発表(136 件)において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められ、「文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。」という中期

				年変化で判読不能となったジアゾ式湿式青焼コピーの撮影による復元研究を行った。これらの研究は翌年度以降も継続され、大きな成果を上げている。 ・学術雑誌等への論文掲載数 11 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 12 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.３－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	＜課題と対応＞ ―	なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・評定に異論はない。奈文研の測量・計測技術、年輪年代学研究、環境考古学研究は、わが国における先端研究を牽引するものであり、大きな成果が上げられている。 ・研究の継続性の重要性を強調すべきである。 ・自己評価に記載されている成果の事例も含め、評価できる。 ・先進的な技術を取り入れ、常に高度な調査手法の開発に努めていると評価出来る。 ・研究環境の整備が求められる。	目標を達成しているが大きく上回るものではないと考えられるのでB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。 ・実績からみても、自己評価の評定Aが妥当ではないか。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(3)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4．文化財に関する調査及び研究の推進 (3)文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	―	18	14	14	18	15
	（奈文研）	実績値	―	―	5	2	3	3	2
	（合計）	実績値	―	―	23	16	17	21	17
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	―	―	18	17	23	20	31
	（奈文研）	実績値	―	―	12	2	3	0	0
	（合計）	実績値	―	―	30	19	26	20	31

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	684,064	576,783	656,845	607,986	690,752
決算額（千円）	781,760	764,853	822,463	596,804	746,388
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、3研究所の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。（小項目１－４－(1)(2)(3)は個別に計上できないため。）
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (3)最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (3)科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 〇中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 〇それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P19～21 ＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 23 年度 12 件 24 年度 9 件 25 年度 11 件 26 年度 10 件 27 年度 10 件 （目的） 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。 （主な研究テーマ） ・文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究（東文研）（23～27 年度） ・周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（東文研）（23～27 年度） ・文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究（東文研）（23 年度） ・伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（東文研）（23～24 年度） ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究（東文研）（23～27 年度） ・在外日本古美術品保存修復協力事業（23 年度、24～26 年度は「5. 文化財保護に関する国際協力の推進」で実施） ・ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び	＜評定と根拠＞ 評定：B 設定した研究テーマは、中期目標に沿ったもので適切ある。 また、それぞれの調査研究は、計画に沿って適切に実施された。 文化財の保存や修復の質的向上に寄与すべく、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を行い、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進した。例えば、25 年度の「文化財の放射線対策に関する研究」においては、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめ、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合における、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施した。 また、「周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究」において、中期計画最終年度の 27 年度に、まとめとなる研究成果を得ることができた。石造文化財については、天草砂岩の劣化機構の解明を行うことができ、とくに雨水と蒸発のバランスに関する考察については、類似した劣化現象が見られる他の文化財に研究を発展させていくことができた。材質の違いによる神社覆屋内の保存環境調査では、今後の保存対策に役立てるために十分なデータを得ることができた。また、今後につながる課題も多く見つけられた。	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究を継続的に行っている。 平成 23 年度から 26 年度までの間に、東文研は 8 件の研究テーマを、奈文研は 1 件の研究テーマを中期計画に示された課題や文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）に応じて設定し、継続して調査研究を行った。 東文研の研究内容は、カビ被害対策、博物館等の環境調査、文化財の劣化・防災対策、文化財の修復技術・材料等に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載（64 件）、学会等での発表（78 件）において公開している。 奈文研の研究内容は、ミリ波（30～300GHz）の電波を用いたイメージング技術に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載（13 件）、学会等での発表（17 件）において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、上記については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査研究を継続的に行っている。 平成 23 年度から 27 年度までの間に、東文研は 9 件の研究テーマを、奈文研は 1 件の研究テーマを中期計画に示された課題や「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」に応じて設定し、継続して調査研究を行った。 東文研の研究内容は、カビ被害対策、博物館等の環境調査、文化財の劣化・防災対策、文化財の修復技術・材料等に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載（79 件）、学会等での発表（109 件）において公開している。 奈文研の研究内容は、ミリ波（30～300GHz）の電波を用いたイメージング技術に関するものであり、これらに関する成果については、学術雑誌等への論文掲載（15 件）、学会等での発表（17 件）において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 「最新の保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法等の調査・研究を通じて文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。」という中期目標を達成していると考えられるのでB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 〇有識者コメント ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。東日本大震災に関連した実践的な調査研究も含まれており、評価される。

			装置の改良等（奈文研）（24～27 年度） ・文化財の防災計画に関する研究（東文研）（24～27 年度） ・文化財の放射線対策に関する研究（東文研）（25 年度） ・文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究（東文研）（25～27 年度） 一例を挙げると、「文化財の放射線対策に関する研究」においては、平成 25 年度は、(1)放射線量の測定方法、環境評価等に関する研究では、ワーキンググループ会議を 3 回開催し、放射線被害に関する危機管理マニュアル案を作成した。(2) 汚染状態の現状把握と除染方法等に関する研究では、福島県で現地調査を開催するとともに、ワーキンググループ会議を開催して、文化財の除染に関する基本的な考え方をまとめた。これらの結果に関して、プロジェクトチーム会議及び研究会で議論を行い、文化財を放射線から防御するための対策に関して基本的な考え方をまとめた。 ・学術雑誌等への論文掲載数 17 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 31 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.３－１「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	＜課題と対応＞ ―	＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 〇有識者コメント ・中核拠点としての使命を果たしている。 ・自己評価に記載されている成果の事例も含め、評価できる。 ・震災被害やその他の災害への対応をはじめ、わが国のみならず広く国際社会でも貢献出来る研究実績を供えている。 ・他の項目でも触れたように、保存修復に関わる領域には絶対的な人的不足の問題が慢性化しつつあり、おおきな危惧を抱かざるを得ない。	

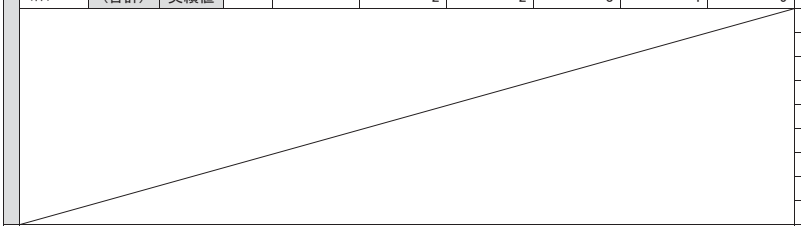
4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(4)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4．文化財に関する調査及び研究の推進 (4)国・地方公共団体の要請に基づく調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(東文研)	実績値	―	―	0	0	0	0	0
	(奈文研)	実績値	―	―	7	4	13	3	22
	(合計)	実績値	―	―	7	4	13	3	22
学会、研究会での発表件数(件)	(東文研)	実績値	―	―	0	0	0	0	0
	(奈文研)	実績値	―	―	2	2	3	4	9
	(合計)	実績値	―	―	2	2	3	4	9



②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	26,000	26,000	26,000	26,000	26,000
決算額(千円)	512,338	619,805	626,105	568,065	652,884
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、文化芸術振興費 0 千円(1－7に計上している文化財防災ネットワーク推進事業を除く)、政府開発援助ユネスコ活動費 0 千円、受託収入 26,000 千円であり、当初の受入見込みになかった受託事業等が多数あるため、予算額の欄には、決算報告書の文化芸術振興費補助金、政府開発援助ユネスコ活動費、受託収入の収入決算額の合計額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、受託事業費、文化芸術振興費補助金(1－7に計上している文化財防災ネットワーク推進事業を除く)、政府開発援助ユネスコ活動費受託事業費の支出決算額の合計額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	(見込評価)	(期間実績評価)
					評定 B	評定 B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (4)国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (4)高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定したか。 ○それぞれの調査・研究を計画に沿って適切に実施したか。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P21～22 ＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 23 年度 6 件 24 年度 5 件 25 年度 7 件 26 年度 6 件 27 年度 6 件 (目的) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 (主な研究テーマ) ・文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(東文研・奈文研)(23～27 年度) ・国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力(奈文研)(23～27 年度) ・農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力(奈文研)(25～26 年度) 研究テーマ数には「6.情報資料の収集・整備および調査研究成果の発信」における国交	＜評定と根拠＞ 評定:B 設定した研究テーマは、中期目標に沿ったもので適切である。 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、文化庁、国土交通省の要請に応じて、保存措置等のために必要な調査・研究を迅速かつ適切に実施した。 特に、「文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力」については、東京文化財研究所と奈良文化財研究所が協力して実施している。東京文化財研究所では、両古墳壁画の文化財としての価値を守り続けるために必要な調査研究を継続して行い、またその成果を適宜公表してきた。材料調査と修復作業との連携、修理施設の環境改善に関する文化庁・奈良文化財研究所との連携、将来における高松塚古墳壁画の保存活用に向けての奈良文化財研究所の考古学調査との連携も適切に図ることができた。また、奈良文化財研究所では、キトラ古墳の整備・キトラ古墳壁画体験館 四神の館の開館を28年度に控え、キトラ古墳周辺の整備活用に向け、質量ともに従来を大きく上回る立会調査、記録作業、専門的知識・技術に基づく協力等を実施した。また、キトラ古墳天文図についての調査研究及び成果の公表を国立天文台と共同で実施するなど、これまでの調査研究成果の蓄積に異なる角度から検討を加え、予想を上回る貴重な調査研究成果を	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、平成23年度から 26 年度までの間、文化庁、国土交通省、農林水産省の事業に関係する 7 件の調査研究を継続的に行っている。 文化庁の事業に関係するものとしては、東文研及び奈文研において、高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力を継続して行っている。 国土交通省の事業に関係するものとしては、奈文研において、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の調査及び保存活用並びに体験学習館の建設に関する協力、平城宮跡の復原・整備、平城宮跡展示館(仮称)の建設に関する技術的協力を継続して行っている。 農林水産省の事業に関係するものとしては、奈文研において、大和平野県営飛鳥工区 2 号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力を継続して行っている。 このほか、奈文研は地方公共団体の要請を受けて、平成 25 年度から東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査にたいする支援・協力を行った。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、上記については、自己評価書	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、平成 23 年度から 27 年度までの間、文化庁、国土交通省、農林水産省の事業に関係する 7 件の調査研究を継続的に行っている。 各調査研究については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されている。 文化庁の事業に関係するものとしては、東文研及び奈文研において、高松塚古墳及びキトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力を継続して行っている。 国土交通省の事業に関係するものとしては、奈文研において、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の調査及び保存活用並びに体験学習館の建設に関する協力、平城宮跡の復原・整備、平城宮跡展示館(仮称)の建設に関する技術的協力を継続して行っている。 農林水産省の事業に関係するものとしては、奈文研において、大和平野県営飛鳥工区 2 号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力を継続して行っている。 このほか、奈文研は地方公共団体の要請を受けて、平成 25 年度から東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査にたいする支援・協力を行った。 以上のような調査研究の成果

				省等への協力についてに関するものも含む。 ・学術雑誌等への論文掲載数 22 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 9 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。	得ることができ、その公開活用も積極的に行った。 <課題と対応> －	及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 <今後の課題> なし。 <その他事項> なし。 ○有識者コメント ・東日本大震災に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する、地方公共団体への支援・協力は、大いに評価されるべきものであり、今後も必要に応じて行う必要がある。 ・自己評価に記載されている成果の事例も含め、評価できる。 ・キトラ古墳・高松塚古墳についての恒常的な調査研究に加え、震災被害に対する救援・指導要請にも十分に対応している。 ・現状では人的に限界がある。近年の予算動向に鑑みると、人事面での補充には時間がかかるであろうが、調査・研究に関連する情報収集については即時体制を充実させ、当該組織が調査研究の拠点となるべく組織の構築を推進していただきたい。	は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、「国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施する」という中期目標を達成していると考えられるのでB評定が相当と判断した。 <今後の課題> 特になし。 <その他事項> 特になし。 ○有識者コメント ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。東日本大震災に関連した支援・協力も含まれており、評価される。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－4－(5)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 4．文化財に関する調査及び研究の推進 (5)有形文化財の収集等に関する調査研究				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東博）	実績値	－	－	91	92	134	126	116
	（京博）	実績値	－	－	72	60	30	34	34
	（奈良博）	実績値	－	－	29	31	22	22	27
	（九博）	実績値	－	－	48	35	21	24	20
	（合計）	実績値	－	－	240	218	207	206	197
学会、研究会での発表件数（件）	（東博）	実績値	－	－	72	65	76	104	102
	（京博）	実績値	－	－	18	32	10	25	16
	（奈良博）	実績値	－	－	16	32	21	39	51
	（九博）	実績値	－	－	43	76	35	23	34
	（合計）	実績値	－	－	194	205	142	191	203

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	597,470	577,268	1,283,989	686,536	956,171
決算額（千円）	654,394	716,198	953,078	1,174,915	1,163,098
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	100	99	99	94	93

※予算額は個別に計上することができないため、4博物館の決算報告書・調査研究事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、4博物館の決算報告書・調査研究事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、事業・収入等の状況により予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は4国立博物館の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定　B	評定　B
4 文化財に関する調査及び研究の推進 我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。 (5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。	4 文化財に関する調査及び研究の推進 貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。 (5)有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・外部資金の獲得 〈評価の視点〉 ○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧に係る調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与したか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P23～39 ＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究を実施した。 23 年度 88 件 24 年度 105 件 25 年度 138 件 26 年度 145 件 27 年度 132 件 （目的） 有形文化財の保存と活用を推進し、次世代に継承して、我が国文化の向上に資するため、その収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を進める （主な研究テーマ） ①収蔵品・寄託品等の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・館蔵品、寄託品等の調査研究（4館）（23～27 年度） ・特別展、共催展等の事前調査（4館）（23～27 年度） ・特別調査「書跡」、「工芸」、「彫刻」（東博）（23～27 年度） ・X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（九博）（23 年度） ・特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究（東博）（24 年度） ・X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析（九博）（24～27 年度） ・特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究（東博）（24～25 年度） ②アジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究	＜評定と根拠＞ 評定：B 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施した。 各博物館とも、日常の調査研究の成果を特別展や特集陳列などの展示に結びつけている。 例えば、九州国立博物館における「文化財の材質・構造等に関する共同研究」では、25 年度に火炎土器の三次元プリンタによる原寸大デジタル複製品を製作し、手に触れるハンズオン展示として活用するなど、最新技術と研究成果を展示に生かし、マスコミでも注目された。 また、綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）などの仏教美術の光学的調査研究を、東京文化財研究所と共同で毎年実施した他、25 年度の「特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査研究」が、東京国立博物館・東京文化財研究所・奈良文化財研究所他の共同事業である 26 年度開催の特別展として実を結ぶなど、機構内の共同研究を推進し、調査研究を行っている。 文化財の保存と公開という博物館の使命を持続するために保存環境やリスク回避などについての研究を行い、次世代へ継承するために各種の研究を続けている。公開に力点を置いた研究も行い、各館の特色を生かした有形文化財に関する調査研究と同時に、効果的な展示手法や博物館教育活動等に関する調査研究、文化財情報に関する各種データベース構築など、成果を上げており、次世代への継承及び我が国の文化の向上に寄与している。 また、奈良国立博物館の「伊豆山権現立像	＜評定に至った理由＞ 国立博物館 4 館は、収蔵品、寄託品及びそれらの関連品並びに今後の収集、展示活動に関する調査研究を継続的に行っている。 平成 23 年度から 26 年度までの間に、4 館で 476 件のテーマを設定し、調査研究を行っている。館ごとの内訳は、東博が 222 件、京博が 65 件、奈良博が 61 件、九博が 128 件となっている。 研究成果はそれぞれの展示及び教育活動に反映されるとともに、学術雑誌等への論文掲載（871 件）、学会等での発表（687 件）において公開している。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・自己評価に記載されている成果の事例も含め、評価できる。 ・収集した収蔵品については、十分な研究が実施されている。 ・近年、博物館の運営に関わる充実は図られているが、調査及び研究の基盤が若干低調気味であるように思われる。	＜評定に至った理由＞ 国立博物館 4 館は、収蔵品、寄託品及びそれらの関連品並びに今後の収集、展示活動に関する調査研究を継続的に行っている。 平成 23 年度から 27 年度までの間に、4 館で 608 件のテーマを設定し、調査研究を行っている。館ごとの内訳は、東博が 288 件、京博が 82 件、奈良博が 79 件、九博が 159 件となっている。 研究成果はそれぞれの展示及び教育活動に反映されるとともに、学術雑誌等への論文掲載（1,068 件）、学会等での発表（890 件）において公開している。 以上のことから「有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。」という中期目標を達成していると考えられるのでB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ ・水中遺跡については、現在文化庁で進められている水中遺跡の調査究に応じた恒常的な機関の設置が望まれており、国立文化財機構（特に九博）が果たす役割は大きいと考えられる。 また、奈文研の「全国遺跡報告総覧」は、これまでの膨大な埋蔵文化財調査の成果の活用において不可欠であり、今後も事業継続・拡充が必要である。

			・中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究（東博・奈良博・九博）（24～27 年度） ③京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博）（23～27 年度） ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究 ・鎌倉仏教とその造形に関する調査研究（京博）（23 年度） ・南都諸社寺等における文化財調査（奈良博）（23 年度） ・東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する（奈良博）（24～25 年度） ・綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する（奈良博）（26・27 年度） ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究 ・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究（九博）（23～27 年度） ⑥有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究 ・文化財の保存・修復・環境保存に関する調査研究（4館）（23～27 年度） ・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（九博）（23～26 年度） ・文化財の材質・構造等に関する共同研究（九博）（23～27 年度） ⑦文化財を活用した効果的な展示や、教育活動等に関する調査・研究 ・文化財情報に関する調査研究（4館）（23～27 年度）	（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究」においては、25 年度より奈良文化財研究所との連携研究で当該作品の保存修理を実施し、東京成果を 27 年度に特別陳列に結びつけた本プロジェクトは、博物館における調査研究とその成果の公表の理想的なかたちといえる。。 ＜課題と対応＞ —	<その他事項＞ なし ○有識者コメント ・水中遺跡については、現在文化庁で進められている水中遺跡の調査研究に応じた恒常的な機関の設置が望まれる。 また、奈文研の「全国遺跡報告総覧」は、これまでの膨大な埋蔵文化財調査の成果の活用において不可欠であり、今後の事業継続・拡充が必要である。 ・調査研究成果が外部資金獲得につながっており、評価される。

				・博物館教育に関する調査研究（4館）（23～27 年度） ・博物館環境デザインに関する調査研究（東博）（23～27 年度） ・九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究（九博）（23 年度） ・学術雑誌等への論文掲載数 197 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 203 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。			

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－5－（1）	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 5．文化財保護に関する国際協力の推進 （1）文化財保護に関する国際協力				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	―	―	0	0	2	3	2
	（奈文研）	実績値	―	―	0	2	1	0	0
	（合計）	実績値	―	―	0	2	3	3	2
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	―	―	2	8	11	14	23
	（奈文研）	実績値	―	―	2	2	2	0	0
	（合計）	実績値	―	―	4	10	13	14	23

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	244,894	265,375	223,876	213,739	156,187
決算額（千円）	177,711	163,407	152,350	175,015	165,052
経常費用（千円）	―	―	―	―	―
経常利益（千円）	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト（千円）	―	―	―	―	―
従事人員数（人）	88	86	88	88	88

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際研究協力事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・国際研究協力事業費の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、国際情勢により事業の実施が困難であるため予算額を組替えたことによる。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定　B	評定　B
5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。 (1)研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1)文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。 (2)国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。 (3)文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 〈評価の視点〉 ○情報の収集・分析及びその提供を行い、国際協力のネットワークを構築したか。 ○アジア地域を主とする諸外国において、文化財保護事業を進めたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P40～41 ＜主要な業務実績＞ 毎年度ごとに研究テーマを設定し、調査研究事業を実施した。 23 年度　7 件 24 年度　7 件 25 年度 10 件 26 年度 10 件 27 年度　8 件 主な事業は以下のとおり。 ・文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（東文研） ・中国の文化遺産の保存修復のための共同研究（東文研） ・東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（東文研） ・カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡の建築学的、考古学的、保存科学的調査（奈文研） ・西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（東文研） ・「紙の保存と修復」などの国際研修の実施。（東文研） ・ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力。（奈文研） ・24～27 年度に在外日本古美術品保存修復協力事業を実施（東文研、23 年度は「4(3)文化財の保存修復に関する科学的・先端的な調査」で実施。） ・学術雑誌等への論文掲載数２件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 23 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照	＜評定と根拠＞ 評定：B 我が国の国際貢献に寄与するため、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築により、情報の収集分析及びその提供を行い、各国の文化財法令対訳シリーズ等を継続的に刊行する等の実績を上げた。また、カンボジアや西アジア諸国等における文化財の保護への協力、国際研修などによる技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行っている。 国際協力事業については、カンボジアなどアジア地域を中心に文化財保存修復に積極的に協力し、国際的な文化財保護のネットワークを構築構築した。また、国際会議への参加や国際シンポジウムの開催等を継続的に行い、専門家間の交流や情報交換を推進した。 ＜課題と対応＞ ―	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財保護に関する国際貢献や協力に積極的に参画している。 平成 23 年度から 26 年度までの間に、文化遺産保護に関する国際情報の収集等に関する事業を 8 件、諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を 12 件実施した。 東文研が行っている文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信については、国際会議等への出席、各国の文化財法令対訳シリーズの刊行、シンポジウム・研究会の開催等を通じて行っている。国際会議は、ユネスコの世界遺産委員会、無形文化遺産政府間委員会のほか、文化財保護に関する国際機関の総会等に合わせて 12 回出席した。各国の文化財法令対訳シリーズの刊行は、4 年間に 8 カ国の文化財法令集を刊行した。このほか、国として文化財保護法制が定まっていないアメリカ合衆国における文化遺産保護について、15 か所の博物館や関係機関を訪問し実地調査を行った。 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転については、東文研が合わせて 10 件の調査研究テーマを、奈文研が合わせて 2 件の調査研究テーマをそれぞれ設定し、計画的に実施している。 東文研は、東南アジア・西アジアの文化遺産保存修復協力事業、中国・韓国との共同研究のほか、紙の保存と修復に関する国際研修や、外国の美術館等が所蔵している日本の古美術品の保存修復に協力する事業を継続して実施している。 奈文研は、カンボジア・アンコールワット遺跡群、ベトナム・タンロン皇城遺跡の発掘調査及び保存修復に継続して協力するとともに、ユネスコの関係機関が実施する国際研修への協力を行っている。 これらの研究成果は各事業に直接反映されるとともに、学術雑誌等への論文掲載（8 件）、学会等での発表（41 件）において公開している。 以上のような調査研究の成果は、外部資金の獲得にも繋がるなど評価でき、文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与するものと認められる。 また、上記については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・国際会議への積極的参画や協力体制など、国際貢献を果たしている。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・アジア地域の文化財保護活動への参画を主体として、学術交流を含む積極的な協力事業を展開した。 ・一定の貢献はされていると思われる。	＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、中期計画に沿って文化財保護に関する国際貢献や協力に積極的に参画している。 平成 23 年度から 27 年度までの間に、文化遺産保護に関する国際情報の収集等に関する事業を 8 件、諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を 12 件実施した。 東文研が行っている文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信については、国際会議等への出席、各国の文化財法令対訳シリーズの刊行、シンポジウム・研究会の開催等を通じて行っている。国際会議は、ユネスコの世界遺産委員会、無形文化遺産政府間委員会のほか、文化財保護に関する国際機関の総会等に合わせて 15 回出席した。各国の文化財法令対訳シリーズの刊行は、5 年間に 9 カ国の文化財法令集を刊行した。このほか、国として文化財保護法制が定まっていないアメリカ合衆国における文化遺産保護について、16 か所の博物館や関係機関を訪問し実地調査を行った。 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転については、東文研が合わせて 10 件の調査研究テーマを、奈文研が合わせて 2 件の調査研究テーマをそれぞれ設定し、計画的に実施している。 東文研及び奈文研の事業実施概要は以下のとおりである。 東文研は、東南アジア・西アジアの文化遺産保存修復協力事業、中国・韓国との共同研究のほか、紙の保存と修復に関する国際研修や、外国の美術館等が所蔵している日本の古美術品の保存修復に協力する事業を継続して実施している。 奈文研は、カンボジア・アンコールワット遺跡群、ベトナム・タンロン皇城遺跡の発掘調査及び保存修復に継続して協力するとともに、ユネスコの関係機関が実施する国際研修への協力を行っている。 これらの研究成果は各事業に直接反映されるとともに、学術雑誌等への論文掲載（10 件）、学会等での発表（63 件）において公開している。 以上のことから「国際貢献」という中期目標を達成していると考えられるためB評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・計画的かつ継続的にとりくみ、成果をあげている。

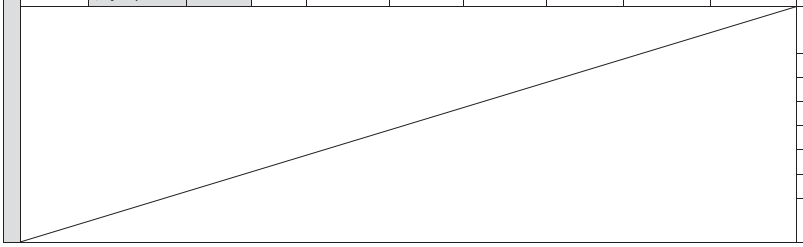
4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－5－(2)	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 5．文化財保護に関する国際協力の推進 (2)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット(アウトカム)情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学術雑誌等への論文掲載数(件)	(アジア太平洋無形文化遺産研究センター)	実績値	―	―	0	1	1	1	1
学会、研究会での発表件数(件)	(アジア太平洋無形文化遺産研究センター)	実績値	―	―	2	6	1	0	3
ウェブサイトアクセス件数(件)	(アジア太平洋無形文化遺産研究センター)	実績値	―	―	※1,838	5,289	5,454	6,200	7,504



②主要なインプット情報(財務情報及び人員に関する情報)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額(千円)	8,600	8,600	8,600	8,600	8,600
決算額(千円)	45,048	62,653	66,475	76,093	68,911
経常費用(千円)	―	―	―	―	―
経常利益(千円)	―	―	―	―	―
行政サービス実施コスト(千円)	―	―	―	―	―
従事人員数(人)	1	1	1	1	1

※予算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの当初予算額を計上している。
※決算額は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの受託事業費等の決算額を計上している。
※予算額と決算額の差額は、当初の受入見込みになかった受託事業等があったことによる。
※従事人員数は、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの常勤研究職員の人数を計上している。

※23 年 12 月 16 日サイト開設

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。 （2）平成23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。	5 文化財保護に関する国際協力の推進 文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 （4）23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 〇アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P42. ＜主要な業務実績＞ 23年10月にアジア無形文化遺産研究センターを設置し、同地域における無形文化遺産保護のため、以下のとおり事業を実施した。 文化庁受託事業及び文部科学省補助金により、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する情報収集と研究促進にむけたデータベース構築及び国際専門家会合、消滅の危機に瀕する無形文化遺産保護の現状・方策に関する現地での実態調査やワークショップを実施した。 特に、25 年度には、「無形文化遺産保護条約採択 10 周年記念シンポジウム」を開催した。 ・学術雑誌等への論文掲載数 1件（26 年度） ・学会、研究会での発表件数 3件（27 年度） ・科学研究費補助金 0 件（27 年度） 詳細はアウトプット情報を参照	＜評定と根拠＞ 評定：B 計画どおり23 年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設した。同地域における無形文化遺産保護のため、事業計画に従い基礎的な調査研究を実施した。海外調査では、当事国と緊密な関係を構築した上で具体的事例の保護に取り組むことができ、無形文化遺産保護のための国際協力が着実に進行している。国際的研究動向の情報収集、専門家会合、ワークショップにおいては、多地域からの新規参加者・連携機関の増加がみられ、年々国際的な連携体制が強化されている。研究情報収集に関しては 26 年度にデータベースの公開を開始し、その後各地の研究機関との連携により、収録情報が充実しつつある。 ＜課題と対応＞ ―	＜評定に至った理由＞ アジア太平洋無形文化遺産研究センター（以後単に「センター」という）は、日本国政府とユネスコが平成 22 年 8 月 30 日に締結した協定に基づき、平成 23 年 4 月 1 日に設立したユネスコの賛助するカテゴリー2 センターに区分される組織である。 このような設立の経緯があることから、センターの事業は、文化庁の委託費及び文部科学省の補助金を基盤として実施されており、国の施策と密接な関係を有している。 センターの主な役割は、アジア太平洋地域において危険にさらされている種々の無形文化遺産の保護に関する実践及び方法について調査研究を推進し、及び調整することとされている。文化庁委託事業「無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」においては、無形文化遺産保護に関する調査研究、ネットワークの構築、シンポジウムの開催等を行っている。また、事前に現地の専門家にアンケートを行うなど、当事国と関係構築に取り組んだ上で調査を行っている。 文部科学省の政府開発援助ユネスコ活動費補助金による事業においては、海外調査、国際会議等への出席、研修事業等を行っている。 いずれの事業についても、計画どおり実施したことが自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 〇有識者コメント ・東南アジア諸国を中心に着実な保護活動に従事している。	＜評定に至った理由＞ アジア太平洋無形文化遺産研究センター（以後単に「センター」という）は、日本国政府とユネスコが平成 22 年 8 月 30 日に締結した協定に基づき、平成 23 年 4 月 1 日に設立したユネスコの賛助するカテゴリー2 センターに区分される組織である。 このような設立の経緯があることから、センターの事業は、文化庁の委託費及び文部科学省の補助金を基盤として実施されており、国の施策と密接な関係を有している。 センターの主な役割は、アジア太平洋地域において危険にさらされている種々の無形文化遺産の保護に関する実践及び方法について調査研究を推進し、及び調整することとされている。 文化庁委託事業「無形文化遺産保護パートナーシッププログラム」においては、無形文化遺産保護に関する調査研究、ネットワークの構築、シンポジウムの開催等を行っている。また、事前に現地の専門家にアンケートを行うなど、当事国と関係構築に取り組んだ上で調査を行っている。 文部科学省の政府開発援助ユネスコ活動費補助金による事業においては、海外調査、国際会議等への出席、研修事業等を行っている。 以上のことから「無形文化遺産保護に寄与すること。」という中期目標を達成していると考えられるので、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－6	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 6．情報資料の収集・整備および調査研究成果の発信				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
平城宮跡資料館来館者数	計画値		85,214	－	85,300	85,300	85,300	85,300	85,300
	実績値		－	－	132,295	124,515	108,896	109,188	105,334
	達成度		－	－	155.1%	146.0%	127.7%	128.0%	123.5%
飛鳥資料館来館者数	計画値		45,589	－	48,800	48,800	48,800	48,800	48,800
	実績値		－	－	42,479	38,854	41,736	38,096	42,749
	達成度		－	－	87.0%	79.6%	85.5%	78.1%	87.6%
藤原宮跡資料室来館者数	計画値		4,509	－	4,400	4,509	4,509	4,509	4,509
	実績値		－	－	2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
	達成度		－	－	67.5%	210.9%	174.5%	187.6%	242.5%
（合計）	実績値		－	－	177,745	172,879	158,501	155,745	159,016
ウェブサイトアクセス件数(件)	（東文研）	実績値	－	－	1,314,541	(*1) 1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504
	（奈文研）	実績値	－	－	457,154	425,044	447,563	525,886	605,211
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	1	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	0	0	9	4	3
	（合計）	実績値	－	－	0	0	10	4	3
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	2	1	1	0	0
	（合計）	実績値	－	－	2	1	1	0	0

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	355,938	391,581	372,224	340,626	374,079
決算額（千円）	343,275	414,774	312,413	367,691	341,134
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	89	87	89	89	89

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費及び展示出版事業費予算額の合計額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・情報公開事業費及び展示出版事業費決算額の合計額を計上している。
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数に、アジア太平洋無形文化遺産研究センターの研究職員の人数を加えた人数を計上している。

＊1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24 年 10 月～25 年 2 月のアクセスログが消失したことから、
アクセス件数は不明である。ログが保存されている 7 ヵ月間のアクセス件数 717,919 件の月平均を 12 倍した値を、参考値として記載している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信 国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。	6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信（前文略） （1）文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。 （2）文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアク	〈主な定量的指標〉 ・前中期計画期間年度平均来館者数（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く） 〈その他の指標〉 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 ・ウェブサイトアクセス件数 〈評価の視点〉 ○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ったか。また、文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ったか。 ○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行ったか。また、ウェブサイトの充実を図るとともに、アクセス件数の向上を図ったか。 ○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P42～44 ＜主要な業務実績＞ 以下のとおり、継続的に情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信に取り組んだ。 ・ネットワーク機器の更新を逐次実施した。（東文研）（奈文研）また、26 年度には仮想サーバを導入した。（東文研） ・データベースについてデータの入力・更新と改善に継続的に取り組んだ。（東文研）（奈文研） ・図書の収集・整理・公開・提供を行った。（東文研）（奈文研） ・定期刊行物の刊行を行った。（東文研）（奈文研） ・23 年度の「第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」をはじめ、国際研究集会やオープンレクチャーを継続的に実施した。（東文研） ・公開講演会を実施するとともに、発掘調査に伴う現地説明会等を随時実施した。（奈文研） ・平城宮跡資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 特別展・企画展・ギャラリートークを開催した。（奈文研） ・飛鳥資料館における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 特別展・企画展・講演会を開催した。（奈文研） ・藤原宮跡資料室における展示公開 来館者数はアウトプット情報を参照 発掘調査の速報展示などを通年で実施した。（奈文研） ・文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛	＜評定と根拠＞ 評定：B 国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図り、社会へ還元した。 ・老朽化したネットワーク機器の更新を逐次実施すると共に、仮想サーバの導入等によりセキュリティの強化及び高速化、費用の縮減に努力し、適時性、効率性、継続性が向上した。 ・データベースへの入力と更新を継続し、新規のデータベースの公開をするなど、専門的アーカイブの拡充と文化財に関するデータベースを充実させた。 ・オープンレクチャー、講演会、国際シンポジウム、現地説明会を毎年度行った。定例講演会に加え特別講演会を開くなど、積極的に開催した。 ・26 年度にコンテンツの再配置を行った結果、閲覧が少なかったコンテンツの閲覧数を増加させたことや、アクセス方法の改善やデータベースの公開などの取り組みの結果、今中期期間においてアクセス数を大幅に向上させた。 ・平城宮跡資料館、飛鳥資料館では、特別展のみならず企画展を各年度の目標以上に実施し、展示を充実させた。 また、来館者数については平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室では目標値を大きく上回った。特に、藤原宮跡資料室では 24 年度より、土日開館を開始し、来館者数を増やすことに成功した。 飛鳥資料館の来館者数については、第 3	評定　B ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、文化財に関する図書・逐次刊行物の収集・公開、各種情報のデータベースの構築、調査研究の成果等に関する刊行、講演会、展示等を行っている。 平成 23 年度から 26 年度までの間の図書等の収集活動については、東文研が 6,997 冊／年、奈文研が 8,309 冊／年、計 15,306 冊／年増加し、蔵書数は平成 22 年度末に比べ約 11%増加し、東文研が約 26 万冊、奈文研が約 34 万冊となっている。公開に際しては、図書等の検索サービスの改良等を図り、レファレンスサービスの向上にも努めている。 平成 26 年度末現在でウェブサイトに公開している研究情報・資料に関するデータベースは、東文研が 26 種類（データ件数約 23 万）、奈文研が 20 種類（データ件数約 73 万）である。4 年間のウェブサイトのアクセス件数は、東文研が約 556 万回（年平均約 139 万回）、奈文研が約 185 万回（年平均約 46 万回）となっている。 定期刊行物として、東文研が年報、概要、ニュース、『日本美術年鑑』、『美術研究』、『無形文化遺産部研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』、『保存科学』の 9 件、奈文研が紀要、概要、ニュース、埋蔵文化財ニュースの 4 件を継続して刊行している。また、調査研究の成果に関する報告書等の刊行を、東文研は 4 年間で 159 件、奈文研は 105 件行った。	評定　B ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、文化財に関する図書・逐次刊行物の収集・公開、各種情報のデータベースの構築、調査研究の成果等に関する刊行、講演会、展示等を行っている。 平成 23 年度から 27 年度までの間の図書等の収集活動については、東文研が 7,034 冊／年、奈文研が 8,337 冊／年、計 15,371／冊増加し、蔵書数は平成 22 年度末に比べ約 14%増加し、東文研が約 27 万冊、奈文研が約 35 万冊となっている。公開に際しては、図書等の検索サービスの改良等を図り、レファレンスサービスの向上にも努めている。 平成 27 年度末現在でウェブサイトに公開している研究情報・資料に関するデータベースは、東文研が 26 種類（データ件数約 23 万）、奈文研が 20 種類（データ件数約 73 万）である。4 年間のウェブサイトのアクセス件数は、東文研が約 750 万回（年平均約 150 万回）、奈文研が約 246 万回（年平均約 49 万回）となっている。 定期刊行物として、東文研が年報、概要、ニュース、『日本美術年鑑』、『美術研究』、『無形文化遺産部研究報告』、『無形民俗文化財研究協議会報告書』、『保存科学』の 9 件、奈文研が紀要、概要、ニュース、埋蔵文化財ニュー

		セス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。 （３）平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。 （４）文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。	料館の展示の充実を図ったか。また、来館者数については、前期中期計画期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上を確保したか。 ○文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力したか。また、ボランティアへの活動支援を行ったか。	鳥・藤原宮跡等の復原・整備への協力では、専門的・技術的な援助・助言を行い、立会調査等も実施した。（奈文研） ・平城宮跡解説ボランティア事業では、専門研修に加え、他機関の文化財に関するボランティアガイドが解説する場での臨地研修などを実施した。（奈文研） ・「国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力」では、展示評価のための展示室簡易模型製作、インタビュー調査、ワークショップを実施した。また、世界遺産隣接型展示施設や注目される展示手法をとる展示施設等の視察調査を実施し、これらの成果を実施設計に反映させることができた。（奈文研） ・「国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内のキトラ古墳壁画体験館　四神の館の建設への協力」では、27 年度に国営飛鳥歴史公園事務所の依頼に基づき、キトラ古墳壁画体験館　四神の館の展示に用いる資料を奈文研所蔵・保管資料の中から協議に基づき選定し、キトラ古墳壁画体験館　四神の館に搬入して展示する作業に協力した。また、文化庁とともに解説パネル案、展示品の模型類、映像資料などについて、学術的内容に関する助言と資料提供を行った。（奈文研） ・学術雑誌等への論文掲載数３件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数０件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照	中期期間の目標を一度も越えることができなかったが、飛鳥の意義、重要性を来館者に伝えるため、特別展、企画展、講演会・ギャラリートークを開催し、奈良文化財研究所あるいは飛鳥の歴史的な地域の特性を活かした展示を行った。また、23 年度より写真コンテストを開催するなど、参加型の展示を行うといった工夫を試みた。さらに、キトラ古墳壁画の修理と保存管理の取組を紹介する展覧会として、26 年度に東京国立博物館を会場として特別展「キトラ古墳壁画」を開催し、25 日間で 119,268 人もの来館者を集めた。以上のように、飛鳥資料館では特別展等を目標値以上に開催し、また、奈良文化財研究所の研究成果を広く公開するため東京でも特別展を開催するなど、精力的な活動を行っており、総合的にみて、調査・研究成果の内容を広く一般的に理解を深めてもらうという中期計画の目的を達成している。 ・26 年度に平城宮跡第一次大極殿院復原のため記録集を刊行するなど、文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力した。 ・平城宮跡解説ボランティアに対しては、特別展など展示内容の講習会や公開講演会への参加により専門知識を高めるなど、ボランティアの活動を向上させた。 ・平城宮跡展示館（仮称）詳覧ゾーンの実施設計の開始に向けて、様々な調査・検討成果を即座に模型や平面図に反映したことで、28 年度の実施設計を効率よく進められる素地が整った。 ・キトラ古墳壁画体験館　四神の館の開館を 28 年度に控え、キトラ古墳壁画体験館　四神の館での展示内容に関して、質量ともに従来を大きく上回る展示品や情報の提供、助言、校閲、監修など多方面の協力を実施した。高松塚古墳・キトラ古墳等の保存・活用について、保存科学、考古学等の多方面	講演会の開催件数は、4 年間に東文研が 4 件（年平均 1 件）、奈文研が 22 回（年平均 6 件）であり、このほか東文研はシンポジウムを５回、奈文研は発掘調査の現地説明会を 26 回（年平均 7 回）それぞれ行った。 奈文研は、調査研究の成果を展示する施設として、平城宮跡資料館、飛鳥資料館、藤原宮跡資料室を運営しており、常設展示、企画展示を行っている。4 年間の各施設の来館者数は、平城宮跡資料館が約 47 万 5 千人（計画値約 34 万 1 千人、達成率 139%）、飛鳥資料館が約 16 万 1 千人（計画値約 19 万 5 千人、達成率 83%）、藤原宮跡資料室が約 2 万 9 千人（計画値約 1 万 8 千人、達成率 161%）、合計で約 66 万 5 千人（計画値約 55 万 4 千人、達成率 120%）となった。現時点で、飛鳥資料館は計画値に満たないが、全体としては目標を達成している。 このほか調査研究成果の公開の一環として、平城宮跡の来訪者への解説ボランティア事業を運営している。4 年間で、のべ 627 名（年平均 157 名）のボランティア登録者により、約 40 万人の来訪者への解説が行われた。 以上については、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められ、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント	スの 4 件を継続して刊行している。また、調査研究の成果に関する報告書等の刊行を、東文研は 4 年間で 159 件、奈文研は 105 件行った。 講演会の開催件数は、5 年間に東文研が 6 件（年平均 1 件）、奈文研が 27 回（年平均 5 件）であり、このほか東文研はシンポジウムを 6 回、奈文研は発掘調査の現地説明会を 18 回（年平均 4 回）それぞれ行った。 奈文研は、調査研究の成果を展示する施設として、平城宮跡資料館、飛鳥資料館、藤原宮跡資料室を運営しており、常設展示、企画展示を行っている。5 年間の各施設の来館者数は、平城宮跡資料館が約 58 万人（計画値約 42 万 7 千人、達成率 136%）、飛鳥資料館が約 24 万 4 千人（計画値約 20 万 4 千人、達成率 84%）、藤原宮跡資料室が約 3 万 9 千人（計画値約 2 万 2 千人、達成率 177%）、合計で約 82 万 4 千人（計画値約 69 万 3 千人、達成率 119%）となった。飛鳥資料館は計画値に達していないが、全体としては目標を達成している。 このほか調査研究成果の公開の一環として、平城宮跡の来訪者への解説ボランティア事業を運営している。5 年間で、のべ 760 名（年平均 152 名）のボランティア登録者により、約 40 万人の来訪者への解説が行われた。 以上の実績から「情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信」という中期目標を達成していると考えられるためB評定が相

				から長年にわたり調査研究を実施してきた当研究所ならではの経験・蓄積を活かした協力であり、文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力の成果を迅速に反映させて充実した内容とすることができた。 ＜課題と対応＞ 飛鳥資料館の来館者数が毎年目標値に達しなかったことは課題だが、交通アクセスの不便さをたびたび指摘されているところであり、交通インフラ整備や広い駐車場確保など、自力では容易に解決しがたい問題も多いが、展覧会の内容や展示方法の工夫、常設展示の一部更新などを行うことで魅力ある資料館に変える取り組みを継続するとともに、28 年度に開館するキトラ古墳壁画体験館　四神の館との連携を図り、相乗効果により来館者数の増加に努める。	・大臣評価に対する異論はない。奈文研の展示は、大変わかりやすい内容になっており、大いに評価される。 ・事例や数値を示した、具体的な評価になっている。 ・毎年多数の学術刊行物が出版された。可能であればWebデータベースを通じてのPDF形式での公開をさらに積極的に進められたい。	当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報					
1－7	1．国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する事項 7．地方公共団体への協力等による文化財保護への質的向上				
当該事業実施に係る根拠	独立行政法人国立文化財機構法 第12条 第5号	業務に関連する政策・施策	12 文化による心豊かな社会の実現 12-2 文化財の保存及び活用の充実	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

①主要なアウトプット（アウトカム）情報

指標等			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
埋蔵文化財担当者研修	課程数（課程）	計画値	－	－	13	14	9	15	14
		実績値	－	－	13	24	9	15	15
		達成度	－	－	100.0%	171.4%	100.0%	100.0%	107.1%
	受講者数（人）	計画値	－	－	160	160	117	190	164
		実績値	－	－	136	156	138	171	177
		達成度	－	－	85.0%	97.5%	117.9%	90.0%	107.9%
保存担当学芸員研修	研修期間（週）	計画値	－	－	2	2	2	2	2
		実績値	－	－	2	2	2	2	2
		達成度	－	－	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	受講生数（人）	計画値	－	－	25	25	25	25	25
		実績値	－	－	27	30	30	31	32
		達成度	－	－	108.0%	120.0%	120.0%	124.0%	128.0%
学術雑誌等への論文掲載数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（奈文研）	実績値	－	－	6	5	0	0	0
	（合計）	実績値	－	－	6	5	0	0	0
学会、研究会での発表件数（件）	（東文研）	実績値	－	－	0	0	0	2	0
	（奈文研）	実績値	－	－	0	0	0	0	0
	（合計）	実績値	－	－	0	0	0	2	0

②主要なインプット情報（財務情報及び人員に関する情報）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予算額（千円）	17,806	13,140	19,665	20,472	12,435
決算額（千円）	15,684	17,515	13,432	198,831	171,673
経常費用（千円）	－	－	－	－	－
経常利益（千円）	－	－	－	－	－
行政サービス実施コスト（千円）	－	－	－	－	－
従事人員数（人）	88	86	88	88	89

※予算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修事業費の予算額を計上している。
※決算額は個別に計上することができないため、決算報告書・研修事業費の決算額を計上している。（26 年度決算額には、文化財防災ネットワーク推進事業 184,653 千円を含み、27 年度決算額には同 158,441 千円を含む。）
※従事人員数は2文化財研究所の全常勤研究職員の人数を計上している。

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。 また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 （1）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 （2）文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・埋蔵文化財担当者研修 ・保存担当学芸員研修 ・学術雑誌等への論文掲載数 ・学会、研究会での発表件数 〈評価の視点〉 ○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P44～46 ＜主要な業務実績＞ 協力・助言については、以下のような内容で実施した。 総数の推移 23 年度 652 件 24 年度 699 件 25 年度 839 件 26 年度 1,335 件 27 年度 1,196 件 内訳の推移 ・無形文化遺産に関する助言（東文研） 23 年度 32 件 24 年度 25 件 25 年度 9 件 26 年度 13 件 27 年度 11 件 ・文化財の修復及び整備に関する調査・助言（東文研） 23 年度 228 件 24 年度 40 件 25 年度 44 件 26 年度 48 件 27 年度 77 件 ・文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）※文化庁受託経費からの件数（東文研） 23 年度 59 件 24 年度 50 件 参考：他施設における文化財レスキュー事業（被災文化財等救出作業支援）件数	＜評定と根拠＞ 評定：B 当初目標を順調に達成したのみならず、中期計画外で文化財レスキュー事業等の重要な事業を実施し成果を上げた。 我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、多岐にわたる領域について、文化財に関する多数の協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行った。 特に、東日本大震災後の文化財レスキュー事業については、通常業務がある中で、東京文化財研究所を中心に機構全体で取り組みを行ない、放射能汚染地区からの文化財の救出など、きわめて危険な任務を果たし、機構の存在意義を高め、ナショナルセンターとしての大きな貢献を果たしたといえる。 また、東日本大震災の被災地の地方公共団体からの要請に応じた適切な活動を実施するとともに、独自に開発した調査技術の導入を適切に行う等、より効率的な発掘調査を行うことができた。 さらに、文化財防災ネットワーク推進事業については、26年度から開始し、防災に関する国内外のネットワークの構築の基礎を築けた。 「文化財担当者研修」と「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を毎年度実施し、派遣自治体・受講者から高い満足度を得ており、人材の育成に貢献している。	評定 A ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、地方公共団体等への協力、連携大学院における教育研究、受託研究、専門家の研修等を行っている。 東文研は、地方公共団体等の依頼に応じて、無形文化遺産、文化財の保存・修復、生物被害、美術館等の環境調査等に関する指導・助言等を行っており、平成 23 年度から 26 年度までの 4 年間に 2,045 件（年平均 511 件）行った。依頼件数は毎年増加しており、23 年度が 319 件、24 年度が 345 件、25 年度が 465 件、26 年度が 916 件に達している。平成 22 年度の実績 159 件と比較しても著しく増加している。東日本大震災の被災文化財を救出する文化財レスキュー事業にも大きく貢献し、23 年度に 59 件、24 年度に 60 件対応した。 奈文研は、全国の史跡整備・復原事業、奈良県の平城京、飛鳥・藤原地区の発掘調査等に対する指導・助言等を行っており、平成 23 年度から 26 年度までの 4 年間に 1,541 件（年平均 385 件）行った。東日本大震災への対応においては、文化財レスキュー事業のほか、被災地の復興・復旧事業に伴う埋蔵文化財発掘調査への援助を行っている。 連携大学院については、東文研が東京芸術大学大学院修士課程（システム保存学コース）において、また奈文研が京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程及び奈良女子大学	評定 A ＜評定に至った理由＞ 東文研及び奈文研は、地方公共団体等への協力、連携大学院における教育研究、受託研究、専門家の研修等を行っている。 東文研は、地方公共団体等の依頼に応じて、無形文化遺産、文化財の保存・修復、生物被害、美術館等の環境調査等に関する指導・助言等を行っており、平成 23 年度から 27 年度までの 5 年間に 2,868 件（年平均 574 件）行った。依頼件数は増加傾向にあり、23 年度が 319 件、24 年度が 345 件、25 年度が 465 件、26 年度が 916 件、平成 27 年度が 823 件に達した。平成 22 年度の実績 159 件と比較しても著しく増加している。 奈文研は、全国の史跡整備・復原事業、奈良県の平城京、飛鳥・藤原地区の発掘調査等に対する指導・助言等を行っており、平成 23 年度から 27 年度までの 4 年間に 1,914 件（年平均 383 件）行った。東日本大震災への対応においては、文化財レスキュー事業のほか、被災地の復興・復旧事業に伴う埋蔵文化財発掘調査への援助を行っている。 文化財レスキューや連携大学院については、左記のとおりである。 研修については、地方公共団

		等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。		※文化庁受託経費以外も含む 23 年度 東京国立博物館 55 件、京都国立博物館 5 件、奈良国立博物館 6 件、九州国立博物館 8 件、奈良文化財研究所 55 件 24 年度東京国立博物館 8 件、京都国立博物館 2 件、九州国立博物館 3 件、奈良文化財研究所 6 件 ・所外経費による指導・助言 （文化財のカビ被害予防と対策、文化財の保存環境、文化財の材質及び劣化等に係る指導・助言）（東文研） 24 年度 230 件 ・地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言（奈文研） 23 年度 315 件 24 年度 337 件 25 年度 345 件 26 年度 384 件 27 年度 360 件 ・地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言（奈文研） 23 年度 5 件 24 年度 10 件 25 年度 7 件 26 年度 6 件 27 年度 4 件 ・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言（奈文研） 23 年度 13 件 24 年度 7 件 25 年度 10 件 26 年度 10 件 27 年度 0 件 ・文化財の収集、保存、展示に関する指導助言（東文研） 25 年度 25 件 26 年度 23 件 27 年度 36 件 ・文化財の虫菌害に関する調査・助言（東文	＜課題と対応＞ ―	大学院人間文化研究科博士後期課程において、それぞれ教育活動を行っている。 研修については、地方公共団体や公立博物館等の専門職員を対象に、東文研が博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、奈文研が埋蔵文化財担当者研修を、それぞれ継続して実施している。4 年間の研修の受講者数は、東文研の研修が 118 名（計画値の 118%）、奈文研の研修が 601 名（計画値の 96%）となっており、ほぼ計画どおり実施されている。 平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災においては、未曾有の文化財被害が発生し、国立文化財機構においても中期目標・中期計画で想定していない重要な業務が発生した。前述の文化財レスキュー事業や地方公共団体等の依頼に積極的に対応したほか、平成 26 年度には文化庁の補助事業に申請し、法人全体で「文化財防災ネットワーク推進事業」を実施することとした。これは、巨大地震等の大規模災害に備え、各地域における文化財の防災対策や、被災した文化財の救出・修復等の処置を適切に行うため、全国規模の文化財防災ネットワークを構築することを目的としており、平成 27 年度も継続して行っている。 平成 26 年 3 月に中央防災会議が定めた大規模地震防災・減災対策大綱には、様々な地域的課題への対応の項目に、文化財の防災対策を掲げ、国・地方公共団体による文化財の所在情報の充実、文化財保護部局等と防災関係機関等との情報共有を図る等の施策が挙げられている。当中期計画の認可時には想定されなかった「文化財防災ネットワーク推進事	体や公立博物館等の専門職員を対象に、東文研が博物館・美術館等保存担当学芸員研修を、奈文研が埋蔵文化財担当者研修を、それぞれ継続して実施している。5 年間の研修の受講者数は、東文研の研修が 150 名（計画値の 120%）、奈文研の研修が 778 名（計画値の 98%）となっており、ほぼ計画どおり実施されている。 見込評価時点では当中期計画の認可時には想定されなかった「文化財防災ネットワーク推進事業」の実施を理由に、東日本大震災における文化財救出等の実績や、地方公共団体等に対する援助件数の実績を鑑みて、中期計画の想定を上回る成果を挙げていることからＡ評定としたが、平成 27 年度もこれを継続していることから法人の自己評価はＢ評定であるところ、Ａ評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

				研） 25 年度 33 件 26 年度 37 件 27 年度 36 件 ・文化財の材質・構造に関する調査・助言（東文研） 25 年度 13 件 26 年度 15 件 27 年度 20 件 ・美術館・博物館等の環境に関する調査・助言（東文研） 25 年度 341 件 26 年度 780 件 27 年度 660 件 ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力（機構） 25 年度 12 件 26 年度 19 件 27 年度 9 件 研修に関して主な実績は以下のとおり。 ・文化財担当者研修（奈文研） 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、最新の知見を盛り込んだ専門研修 15 課程の研修を実施し、延べ 177 名が受講した。（課程数は 27 年度実績） アウトプット情報を参照 研修受講者全員に対するアンケート調査では、ほぼ全員から満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。 ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（東文研） 各地の文化財施設で資料保存を業務とする学芸員や行政担当者などを対象として、博物館・美術館等保存担当学芸員研修を開催した。受講者からのアンケート結果に		業」の実施を理由に、自己評定はAとされているが、本評価項目については、このほか東日本大震災における文化財救出等の実績や、地方公共団体等に対する援助件数の実績を鑑みて、中期計画の想定を上回る成果を挙げていると認めることは妥当であり、A評定とした。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・文化財機構全体として「文化財防災ネットワーク推進事業」を実施し、大きな成果を上げたことは、今後のわが国の文化財防災においてきわめて重要なことであり、A評定とすることにまったく異論はない。今後、全国各地の史料ネット団体の拡大・充実や、この事業を恒常的に行う常設の組織の設置を強く要望したい。 ・自己評価の妥当性を検証しており、丁寧な評価になっている。その検証結果も妥当と思われる。 ・震災被害への対応があるため、実績は年々増加の傾向にある。また大学院との連携等の教育事業への協力も実を挙げている。 ・現状の体制を今後も維持されることを期待する。	

				より、27 年度には全員から「満足」との評価を得た。 アウトプット情報を参照 中期計画に記載のない事項の実績として、文化財レスキュー以外に、以下の事業等を実施した。 ・東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を反映させた発掘調査への効果的な支援や報告書作成に係る支援を行った。同時に、高所リモート撮影等の奈文研の特性を踏まえた写真撮影等の技術について、地方公共団体等の要請を受け支援・協力を実施した。加えて、27 年度には発掘調査支援として、被災3県に『現場のための環境考古学（携帯版）』を配布した。（奈文研） ・26 年度に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置し、文化遺産防災ネットワーク推進会議を設立した。また、第3回国連防災世界会議の一部として、国内外の専門家54 名が参加した国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」を実施した。27 年度も事業を継続しネットワークの強化に努めている。（本部） ・学術雑誌等への論文掲載数 0 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・学会、研究会での発表件数 0 件（27 年度） 内訳はアウトプット情報を参照 ・外部資金の獲得 科学研究費助成事業による補助金・助成金の獲得件数については、全体の合計件数にて目標値設定している。詳しくは、項目別調書 No.3－1「自己収入の増加」を参照。 なお、項目別の科研獲得件数については、複数項目横断的なテーマが多いため、算出できない。		

４．その他参考情報
特になし。

1－2－4－2　中期目標管理法人　中期目標期間評価　項目別評定調書（業務運営の効率化に関する事項、財務内容の改善に関する事項及びその他業務運営に関する重要事項）

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－1	2．業務運営の効率化に関する事項 1．一般管理費の削減		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成28年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報） 22 年度実績値に対する 27 年度実績値の減少（増加）率
一般管理費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間で15%削減	932,061	917,667	680,932	606,818	832,235	1,079,716	15.84%増（運営費交付金財源による支出は 21.84%減）
業務経費（物件費）（千円）		実績値	中期目標期間で5%削減	6,915,703	4,918,593	5,369,179	6,213,253	6,319,081	6,580,389	4.85%減
光熱水量	電気量（kwh）	実績値	中期目標期間で5%削減	25,860,045	25,114,550	24,277,289	25,749,324	26,425,896	24,981,029	3.40%減
光熱水量	ガス量(㎥)	実績値	中期目標期間で5%削減	1,475,110	1,725,133	1,583,761	1,912,122	1,904,708	1,888,670	28.04%増
光熱水量	水道量(㎥)	実績値	中期目標期間で5%削減	145,792	147,403	148,672	153,108	148,365	143,070	1.87%減
廃棄物排出量(kg)		実績値	－	273,407	255,976	245,438	238,041	241,900	225,151	17.65%減

※基準値は 22 年度実績

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定 B	評定 B
1 一般管理費等の削減 業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。 なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。 このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き	1 一般管理費等の削減 中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。 なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。 このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き	（主な定量的指標） ・一般管理費（物件費）の削減状況 ・業務経費費（物件費）の削減状況 ・光熱水料金 （その他の指標） ・廃棄物排出量 （評価の視点） ○中期目標の期間中、一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を行ったか。 ・共通的な事務の一元化を図ったか。 ・計画的なアウトソーシングを図ったか。 ・エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%の削減を図ったか。 ・廃棄物の減量化を図ったか。 ・リサイクルの推進を図ったか。 ○競争性のある契約への移行を推進したか。また、民間競争入札等の推進を図ったか。 ○一般管理費の削減は順調に進められたか。 ○事業費の削減は順調に進められたか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P486～489 第 3 期中期期間実績補足資料 P46～48 ＜主要な業務実績＞ 共通的な事務の一元化による業務の効率化、計画的なアウトソーシング、仕様資源の減少に努めた。詳細は以下のとおり。 ○中期目標期間中の業務の効率化 ・共通的な事務の一元化 機構内で共通のグループウェアや財務会計システム、人事給与システムを本部主導で運営した。 最新の状況は平成 27 年度自己点検評価報告書 個別表 P487 参照 ・計画的なアウトソーシング 毎年度、計画的にアウトソーシングをおこなった。最新の状況は個別表 P488 参照 ・エネルギー使用量 使用量は主要な経年データ参照 平成 22 年度と平成 27 年度の比較では、電気量は 878,719 kwh(3.4%)、、水道量は 2,717 ㎥(1.87%)減少し、ガス量は 413,560 ㎥(28.04%)増加している。 平成 23 年 10 月のアジア太平洋無形文化遺産研究センター新設、平成 25 年 1 月の東京国立博物館東洋館リニューアルオープン、平成 25 年 9 月の東京国立博物館黒田記念館上島珈琲店新設、平成 26 年 4 月の東京国立博物館正門プラザ新設、平成 26 年 9 月の京都国立博物館平成知新館リニューアルオープンと平成 22 年度にはなかった新分野の研究センター新設、快適な観覧・保存環境の整備、お客様サービスの向	＜評定と根拠＞ 評定：B 効率化について、可能なものについて実施済である。 競争性のある契約への移行については、特殊な契約を除き実施済であり、性質上代替品が存在しない文化財の購入を除いた場合目標を達成している。 一般管理費の削減についても、特殊要因を除き順調に進んでおり、自己収入財源の比率が増加している。また、業務経費については、平成 26 年度より新規に文化財購入費の予算措置がされ業務の拡充となった。その他の運営費交付金財源による支出は計画どおり順調に削減している。 エネルギー使用量については、平成 22 年度には無かった施設の新設等があった東京国立博物館・京都国立博物館では必然的に増加しているが、奈良国立博物館・九州国立博物館、東京文化財研究所・奈良文化財研究所ではいずれも減少しており、順調といえる。 ＜課題と対応＞ －	＜評定に至った理由＞ 一般管理費については、平成 26 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成22年度より15.7%減となっており、平成 26 年度時点で目標を達成していることから中期目標期間終了時についても所期の目標を達成することが見込まれる。 業務経費については、平成 26 年度は平成 22 年度より 8.63%減となっており、平成 26 年度時点で目標を達成していることから中期目標期間終了時についても所期の目標を達成することが見込まれる。 共通的な事務の一元化及び、計画的なアウトソーシングについても平成 26 年度実績の通り取り組みの推進が認められる。 また、競争性のある契約への移行の推進及び民間競争入札等の推進については平成 26 年度の契約額全体における競争性のある契約額の割合が基準値より 19.3%増となっており、これらの取り組みが推進されていることが認められる（評価項目２－３の主要な経年データ参照）。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により平成22年度と平成26年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については 18%減、ガスについては 7%減となっており、平成 26 年度時点	＜評定に至った理由＞ 一般管理費については、平成 27 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成 22 年度より 15.8%増となっている。これは、自己収入財源の支出が増加したためである。自己収入財源は平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円（255.36%）増加した 264,408 千円と 3.6 倍になっている。しかし、運営費交付金財源は平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円（21.84%）減少し、670,306 千円であり抑制されている。 業務経費については、平成 27 年度は平成 22 年度より 10.87%増となっている。これは、文化財購入費・修理費予算の 1,590,277 千円が削減対象外とされ、平成 26 年度より 910,000 千円が予算措置されたためである。業務経費は 633,724 千円（15.19%）の減となっている。 共通的な事務の一元化及び、計画的なアウトソーシングについても平成 27 年度実績の通り取り組みの推進が認められる。 また、競争性のある契約への移行の推進及び民間競争入札等の推進については平成 27 年度の契約額全体における競争性のある契約額の割合が基準値より

		続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。 具体的には下記の措置を講じる。 （1）共通的な事務の一元化による業務の効率化 （2）計画的なアウトソーシング （3）使用資源の減少 ・省エネルギー（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減） ・廃棄物減量化 ・リサイクルの推進		上のための増加が主な要因である。特にガスについては、展示室等の大空間の冷暖房用エネルギーとして使用されているため増加が著しい。 使用量は、上記により東京・京都国立博物館では増加しているが、奈良・九州国立博物館、東京・奈良文化財研究所ではいずれも減少している。 ・廃棄物の減量化 減量は主要な経年データ参照 平成 22 年度と平成 27 年度の比較では、48,256 kg(17.65%)減量化している。 ・リサイクルの推進 古紙等のリサイクルを継続して行っている。 ○競争性のある契約への移行 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（27 年 5 月 25 日総務大臣決定）」に基づき、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、引き続き競争契約に移行している。 ○一般管理費の削減 決算報告書による支出額 主要な経年データ参照 平成 27 年度支出額は 1,079,716 千円であり、平成 22 年支出額 932,061 千円に対し 147,655 千円(15.84%)増加している。 消費税について、平成 22 年度は 132,880 千円還付され、平成 27 年度は 145,001 千円納付していることから、平成 27 年度支出額から特殊要因として消費税納付額 145,001 千円を控除した 934,715 千円と比較した場合は、2,654 千円(0.28%)の増加となる。 平成 27 年度の支出が増加している原因は自己収入財源の増加である。自己収入財源は、平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円(255.36%)増加し 264,408 千円		で目標を達成していることから中期目標期間終了時についても所期の目標を達成することが見込まれる。 ○基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館：正門プラザのオープン（平成 26 年 4 月～）、黒田記念館の展示再開（平成 27 年 1 月～）、上島珈琲店（黒田記念館にて営業）の通年営業（平成 25 年 9 月 4 日から営業開始） ・京都国立博物館：平成知新館開館（平成 26 年 9 月～）に伴う増加 ・奈良国立博物館：なら仏像館休館（平成 26 年 9 月～）のため減（ガスのみ） ・奈良文化財研究所：平成 26 年 1 月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成 23 年 10 月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 廃棄物の減量化については平成26年度は平成 22 年度より 11.52%の減であり、リサイクルが推進されていると認められる。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。 ○有識者コメント ・数値を示した、具体的な評価になっている。	13%減となっており、これらの取り組みが推進されていることが認められる（評価項目2－3の主要な経年データ参照）。 エネルギーの使用量については各施設において施設の開館等が発生していることから以下の条件により平成 22 年度と平成 27 年度の比較を行ったところ、電気については 11%減、水道については 19%減、ガスについては 5%減となっており、中期目標期間終了時についても所期の目標は達成されており評価できる。。 ○基準値となる平成 22 年度より稼動数が増減している以下の施設については比較対象としない。 ・東京国立博物館：正門プラザのオープン（平成 26 年 4 月～）、黒田記念館の展示再開（平成 27 年 1 月～）、上島珈琲店（黒田記念館にて営業）の通年営業（平成 25 年 9 月 4 日から営業開始） ・京都国立博物館：平成知新館開館(平成 26 年 9 月～)に伴う増加 ・奈良国立博物館：なら仏像館休館（平成 26 年 9 月～）のため減（ガスのみ） ・奈良文化財研究所：平成 26 年 1 月に旧庁舎より移転し、ガス設備を使用しなくなった。 ○平成 23 年 10 月より稼動したアジア太平洋無形文化遺産研究センターについては 24 年度の数値を参考として比較を行う。 以上より中期目標で定めた効率化が達成され、結果が目標を大きく上回るものではないと考えられることから、B評定とした。

				と約 3.6 倍となっている。 運営費交付金財源は、平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円(21.84%)減少し 670,306 千円である。 ○事業費の削減 主要な経年データ参照 業務経費（物件費）について、決算報告書,による平成 27 年度支出額は 6,580,389 千円、同平成 22 年度支出額は 6,915,703 千円であり、335,314 千円(4.85%)の増加となっている。これは、平成 23 年度より文化財購入費・文化財修理費予算 1,590,277 千円が削減対象外とされたこと及び平成 26 年度より文化財購入費として 910,000 千円が予算措置されたことが主な要因である。 平成 22 年度運営費交付金収入は 8,192,326 千円であり、一般管理費財源 857,654 千円と人件費財源 3,162,333 千円を控除した 4,172,339 千円が業務経費財源となっている。平成 27 年度では、運営費交付金収入は 8,440,731 千円であり、一般管理費財源 670,306 千円と人件費財源 3,321,810 千円を控除した 4,448,615 千円が業務経費財源となっており、特殊要因として文化財購入費 910,000 千円を控除すると 3,538,615 千円と633,724 千円(15.19%)の減少となる。			＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－2	2．業務運営の効率化に関する事項 2．給与水準の適正化等		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
対国家公務員指数	事務・技術職員	実績値		96.9	94.0	96.5	97.0	97.1	98.3	
	研究職員	実績値		98.3	98.4	97.7	98.4	98.5	99.3	
財政支出割合	実績値			91.3%	91.3%	91.7%	89.5%	89.5%	89.6%	
累積欠損金（円）	実績値			－	0	0	0	0	0	
法定外福利費（千円）	実績値			15,030	14,917	13,559	13,171	13,918	15,538	

※基準値は 22 年度実績

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定　B	評定　B
2 給与水準の適正化等 給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。 総人件費についても、平成23年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。	2 給与水準の適正化等 国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成23年度まで継続するとともに、平成24年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。 なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・対国家公務員指数 ・財政支出割合 ・累積欠損金 ・法定外福利費 〈評価の視点〉 〇対国家公務員指数について、現状を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組水準を公表したか。 〇給与水準の高い理由及び講ずる措置（法人の設定する目標水準を含む）が、国民に対して納得の得られるものとなっているか。 〇法人の給与水準自体が社会的な理解の得られる水準となっているか。 〇国の財政支出割合の大きい法人及び累積欠	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P48～49 ＜主要な業務実績＞ 〇対国家公務員指数の検証と公表 対国家公務員指数の状況 主要な経年データ参照 事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準と言える。また、検証結果、取組実績等を法人ウェブサイトにおいて公表している。 〇給与水準が高い理由及び講ずる措置 対国家公務員指数は事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、給与水準は適正である。 また、平成27年度については、地域を勘案した結果、国家公務員を上回ったが、これは人事異動に関連する諸手当の割合が国家公務員の割合よりも高いことが要因となっていると推察される。 〇法人の給与水準 独立行政法人通則法第 50 条の 10 第 3 項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定しており、その水準は対国家公務員に準じている。 〇国の財政支出割合と累積欠損金を踏まえた給与水準の検証	評定：B ・対国家公務員指数を事務・技術職員、研究職員ともに下回っている。公表についても毎年度行なっている。 ・対国家公務員指数を下回っており、給与水準は適正である。 ・人事院勧告等に準拠し、給与規程等の改定を実施した。 ・支出予算の総額に占める国からの財政支出割合は 50%を上回っているが、給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正である。 ・法定外福利費の支出内訳は法律に基づく健康診断経費、産業医の委託費用、職員研修費等、最低限必要なものであり、適正な支出と考える。 ＜課題と対応＞ ―	＜評定に至った理由＞ 給与水準について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞	＜評定に至った理由＞ 対国家公務員指数は事務・技術職員、研究職員ともに下回っている。公表についても毎年度行なわれている。また、対国家公務員指数を下回っており、給与水準は適正である。 人事院勧告等に準拠し、給与規程等の改定を実施した。 支出予算の総額に占める国からの財政支出割合は 50%を上回っているが、給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正である。 以上のことから中期目標期間で設定した「国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取組むとともに」という中期目標を達成していると考えられるのでB評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

		まない。	損金のある法人について、国の財政支出規模や累積欠損の状況を踏まえた給与水準の適切性に関して検証されているか。 〇法人の福利厚生について、法人の事務・事業の公共性、業務運営の効率性及び国民の信頼確保の観点から、必要な見直しが行われているか。	主要な経年データ参照 〇法人の福利厚生の見直し 主要な経年データ参照 レクリエーション経費の支出はない。 また、国家公務員と異なる諸手当はない。			

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－3	2．業務運営の効率化に関する事項 3．契約の適正化の推進		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
一般競争入札	件数（件）	実績値		199	132	136	171	169	160	
	金額（千円）	実績値		2,009,789	3,438,898	5,135,513	4,206,183	10,028,154	3,521,258	
企画競争・公募等	件数（件）	実績値		36	39	34	31	53	35	
	金額（千円）	実績値		324,789	241,360	236,781	338,031	365,428	363,309	
上記競争性のある契約の合計	件数（件）	実績値		235	171	170	202	224	195	
	金額（千円）	実績値		2,334,578	3,680,258	5,372,293	4,544,214	10,393583	3,884,567	
随意契約	件数（件）	実績値		81	69	80	63	80	72	
	金額（千円）	実績値		1,103,603	983,703	1,190,924	1,051,603	1,523,640	1,995,894	
競争性のある契約のうち、一者応札・応募となった契約	件数（件）	実績値		87	66	74	84	103	96	
	金額（千円）	実績値		783,429	1586,048	3,115,671	1,745,254	1,940,909	2,143,029	

※基準値について、上位 4 項目は 22 年 4 月公表の随意契約等見直し計画による。

競争性のある契約のうち、「一者応札・応募となった契約」の基準値は平成 22 年度実績による。（参考：平成 22 年度　競争性のある契約の合計　217 件　2,114,321 円）

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価			
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）	
					評定	B	評定	B
3 契約の適正化の推進 契約については、「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組を着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに、外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。	3 契約の適正化の推進 「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成27年5月 25 総務大臣決定）に基づく取組みを着実に実施し、「調達等合理化計画」に沿って、一層の競争性、公正性及び透明性の確保に努め、契約の適正化を推進することにより、合理的な調達を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、引き続き企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式により実施する。	（主な定量的指標） 特になし （その他の指標） ・一般競争入札等件数 （評価の視点） ○契約方式等、契約に係る規定類について、整備内容や運用は適切か。 ○契約事務手続きに係る執行体制や審査体制について、整備・執行は適切か。 ○「随意契約等見直し計画」の実施・進捗状況や目標達成に向けた具体的取組状況は適切か。 ○再委託の必要性等について、契約の競争性、透明性の確保の観点から適切か。 ○一般競争入札等における一社応札・応募の状況はどうか。その原因について適切に検証されているか。また検証結果を踏まえた改善方策は妥当か。 ○法人の目的・事業に照らし、会費を支出しなければならない必要性が真にあるか（特に長期	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P49～50 ＜主要な業務実績＞ 「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について（27年５月25日総務大臣決定）」に基づき、外部委員で構成された契約監視委員会を設置し、機構が27年度に締結した契約（委員会開催時見込みの契約も含む。）の点検・見直しを行っている。また、「平成27年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画（平成 27 年 7 月 31 日）」を制定し、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組んでいる。本年度は競争性のない随意契約の一層の見直しとして、文化財購入に係る契約を除いた同契約について、件数割合 20%、金額割合 5%を超えないことを目標として設定し、件数割合は目標より低い16.7%であったが、金額割合は僅かに目標を超えた 5.4%であった。 ・契約監視委員会を２回実施した。 ・施設内店舗の貸付・業務委託について、企画競争を実施した。 ・東京国立博物館・東京文化財研究所の民間競争入札２件については、平成 26 年６月 17 日の内閣府官民競争入札等監理委員会において、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針」（平成 26 年３月 19 日官民競争入札等監理委員会）に基づき、終了プロセスへの移行が了承された。よって、平成 27 年度以降の事業については、平成 26 年度に一般競争入札にて契約を行った。 ○契約方式等、契約に係る規程類整備	＜評定と根拠＞ 評定：B 契約方式等、契約に係る規程類整備については、特殊な契約を除き順調に整備等がなされている。その他の事項についても、適切に対応している。 会費については、最低限の会費支出となっており、特に問題はない。 ＜課題と対応＞ －	＜評定に至った理由＞ 契約に係る規程類及び契約事務手続きに係る執行・審査体制は「4. その他参考情報」欄の通り整備されており、随意契約等見直し計画に基づき外部有識者による契約監視委員会による契約の点検、見直しが行われていることから適切に整備・執行がされていると認められる。 随意契約等見直しについては、平成 22 年度より契約額全体に占める随意契約の割合が平成 26 年度では 19.2%減となっていることから適切に推進されていると認められる。 一般競争入札等における一者応札・応募については、競争性のある契約のうち一般応札・応募となった契約の割合が平成 22 年度から平成 26 年度までで 17.9%減となっていることから、適切に見直しが推進されていると認められる。 会費の必要性、会費支出による便宜等、監事による会費の精査等については自己評価書によって具体的に説明されており、「独立行政法人が支出する会費の見直しについて（平成 24 年3月 23 日行政改革実行本部）」に従い、適切に実施されている。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞	＜評定に至った理由＞ 契約の適正化の推進について、「平成 27 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画（以下、「調達等合理化計画」という）」を制定し、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組まれている。調達等合理化計画のとおり、競争性のない随意契約によらざるを得ない文化財購入に係る契約を除いた競争性のない契約の一層の見直しが行われている。文化財購入を除いた、契約全体に対する随意契約について、件数割合 20%、金額割合 5%を超えないことを目標としており、結果は、件数割合で 16.7%、金額割合で目標値をわずかに超えた 5.4%であったが、許容範囲内と考えられる。 ＊文化財購入を除く随意契約＝（随意契約-文化財購入契約） 文化財購入を除く、契約全体に対する随意契約の割合＝文化財購入を除く随意契約/（文化財購入を除く随意契約＋競争性のある契約） また、一者応札・応募案件に係る改善方策についても、従来どおり多くの競争参加業者を募るために広告期間を 10 日から自主的に 20 日以上確保したほ

		間にわたって継続してきたもの、多額のもの） ○会費の支出に見合った便宜が与えられているか、また、金額・口座・種別等が必要最低限のものとなっているか。（複数の事業所から同一の公益法人等に対して支出されている会費については集約できないか） ○監事は、会費の支出について、本見直し方針の趣旨を踏まえ十分な精査を行っているか。 ○公益法人等に対し（年 10 万円未満のものを除く。）を支出した場合には、四半期ごとに支出先、名目・趣旨、支出金額等の事項を公表しているか。	規程は整備されている。 ○契約事務手続き等に係る執行体制等 適切に整備・執行されている。 ○随意契約等見直し計画 主要な経年データ参照 ○再委託の適切性 当法人においては、再委託の実績は無い。 ○一般競争入札等の検証・改善 主要な経年データ参照 各施設において、競争契約を原則とし、規程に定めた適切な方法により調達契約等が実施されている。また、契約監視委員会が毎年度適切に実施されている。契約情報については、本部ウェブサイト「法人情報」において公開している。 ○会費の必要性 ○会費支出による便宜等 ○監事による会費の精査 平成 23 年度より、該当する 10 万円以上の会費は、公益財団法人日本博物館協会の維持会員会費の１件のみ、平成 27 年度支出額は 235 千円である。これは、中期目標で定めた「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与する」ことを実現すため、同協会の主催する「全国博物館会議」に参画している。監事においても精査されている。 ○公益法人に対する支出の公表 独立行政法人国立文化財機構のホームページ内「法人情報」、「法令等に基づく公表事項」において公表している。		○有識者コメント ・妥当と認められる。	か、応札・応募を行わなかった業者に対して理由の聞き取りを行うなど削減を目指した取り組みを着実に行っており、契約監視委員会において全て妥当であるとの評価が得られている。 こうした取組みの結果、H27 年度は１件の契約が競争性のある契約に移行された。このほか、調達に関するガバナンスの徹底について、随意契約に関する内部統制を確率するために法人内に調達合理化等検討会を設置し、事前に点検を受けることとしており、H27 年度は 23 件全てにおいて実施されている。 不祥事発生の未然防止・再発防止のために調達事務について、内部チェックマニュアルとして「調達事務マニュアル」を作成し、機構内の会計系職員 26 人を対象とした研修が行われている。 加えて、調達等合理化計画及び自己評価結果について、ホームページで公表されている。 以上より本評価を行うにあたり、調達等合理化計画に基づき、着実に取組みがなされていることから法人の自己評価のとおりＢ評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

４．その他参考情報
【契約に係る規程類】 ①独立行政法人国立文化財機構会計規程 ②独立行政法人国立文化財機構会計規程の特例を定める規程 ③独立行政法人国立文化財機構予算、決算及び出納事務取扱細則 ④独立行政法人国立文化財機構契約事務取扱細則 ⑤独立行政法人国立文化財機構施設等設計業務プロポーザル実施細則 ⑥独立行政法人国立文化財機構工事に関する競争参加資格審査委員会及び総合評価審査委員会に関する取扱細則 ⑦独立行政法人国立文化財機構における大型設備等の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項 ⑧独立行政法人国立文化財機構契約情報公表要項 ⑩契約情報公表に必要な事項に関する取扱 ⑪独立行政法人国立文化財機構修理契約委員会要項 ⑫独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会要項 ⑭標準型プロポーザル方式の実施要項 ⑮公募型及び簡易公募型プロポーザル方式の実施要項 ⑯調査の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑰研究開発の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑱広報の業務委託に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑲情報システムの調達に関する入札に係る総合評価落札方式 ⑳独立行政法人国立文化財機構における「企画競争・公募」ならびに「総合評価落札方式」に関するマニュアルについて ㉑平成27年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画 【審査体制】 ①内部のチェック体制 各施設に分任契約担当役を設置し、各施設において契約処理並びに適正な契約が行われているかをチェックする体制を整備している。特に随意契約の場合、契約が適正かを十分に精査し契約を行うよう本部から指導を行っており、また新たな随意契約を締結する場合は、調達合理化等検討会に事前報告し点検を受けることとしている。 東京国立博物館における１千万円を超える物品調達の場合の例 [購入依頼]：購入依頼者が所属課長の承認を得て購入依頼書を契約担当へ送付→契約担当係員チェック→同主任チェック→同係長チェック→経理課室長チェック→経理課長チェック→総務部長（分任契約担当役）決裁により発注を決定 （必要に応じ仕様策定等を実施：実施した場合は購入依頼と同様にチェック・決裁） [予定価格]：契約担当係員が予定価格調書を作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁 [一般競争入札]→[契約者決定]→[契約書作成]：契約担当係員が作成し、購入依頼と同様にチェック・決裁→[契約書締結] [物品の納品検収]：検査職員が物品の内容が契約と相違ないかチェック→[検査調書作成] [支払い]：契約担当係員が支払伝票を作成し、購入依頼と同様に係員から室長のチェック→経理課長（分任出納命令役）決裁し支払いを決定→経理課室長（分任出納役）→[契約者への支払い] ②内部でのチェック対象案件の抽出方法 各施設において契約された契約のうち、契約金額や案件等から抽出した契約に係る書類等を監事監査並びに内部監査においてチェックを実施し、適正な契約処理が行われているか等の確認を実施している。

１．当事務及び事業に関する基本情報			
２－４	２．業務運営の効率化に関する事項 ４．保有資産の有効利用の推進		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

２．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
施設の有効利用件数（件）		－	2,698	2,604	2,436	1,615	1,715	茶室、講堂等の貸出及び撮影利用

３．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定 B	評定 B
４ 保有資産の有効利用の推進 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。	４ 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。	（主な定量的指標） 特になし （その他の指標） ・施設の有効利用件数 （評価の視点） ○実物資産について、保有の必要性、資産規模の適切性、有効	＜実績報告書等参照箇所＞ 第３期中期期間実績補足資料 P50～51 ＜主要な業務実績＞ 【実物資産の保有状況】 平成 27 年４月１日現在 東京国立博物館 土地120,270㎡、建物(延面積)72,222㎡ 京都国立博物館 土地53,182㎡、建物(延面積)31,828㎡ 奈良国立博物館 土地78,760㎡、建物(延面積)19,116㎡ 九州国立博物館 土地166,477㎡(うち九博10,798㎡) 建物(延面積)30,675㎡(うち九博9,300㎡) ※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有、建物のうち 15,595 ㎡は共有面積である。 東京文化財研究所 土地4,181㎡、建物(延面積)10,516㎡ 奈良文化財研究所 土地46,468㎡、建物(延面積)35,276㎡ ○展示棟、研究施設、事務所、収蔵品倉庫、資料館等として全ての建物を使用しており、博物館・研究所としての任務を遂行する	＜評定と根拠＞ 評定：B 実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理され、有効に利用されている。また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も本来業務に支障のない範囲で積極的に行っている。なお、施設の有効利用件数 22 年度が 2,749 件、27 年度が 1,715 件であるが、大幅に減っているのは、奈良文化財研究所の本庁舎建替に伴い寄宿舎を廃止したため、約 1,200 件減少したことによるものであり、その他の貸出は順調なため、問題はない。 詳細はその他参考情報参照 ＜課題と対応＞ －	＜評定に至った理由＞ 保有資産の有効活用について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。 資金の運用体制の整備状況については、平成 22 年度に東博における運用体制を整備し、平成 23 年度に本部における運用体制を整備しており、本部、東博のいずれにおいても余裕金の運用を行う部署とは別の部署にて運用状況等確認することとしているなど十分な運用・管理体制が置かれていることが認められる。 （指摘事項、業務運営上の課題及び改善方策） 特になし。 ＜その他事項＞ 独立行政法人国立文化財機構本部事務局余裕金運用取扱要綱(抜粋) （運用の決定） 第2条 余裕金の運用は役員会の議を経て理事長が決定するものとする。 2 余裕金の運用の具体的な業務は出納命令役が行うものとする。	＜評定に至った理由＞ 保有資産の有効活用について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。 資金の運用体制の整備状況については、平成 22 年度に東博における運用体制を整備し、平成 23 年度に本部における運用体制を整備しており、本部、東博のいずれにおいても余裕金の運用を行う部署とは別の部署にて運用状況等確認することとしているなど十分な運用・管理体制が置かれていることが認められる。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

			活用の可能性等の観点からの法人における見直し状況及び結果は適切か。	ために必要不可欠である。そのため見直しは行っていない。		（本部事務局への報告） 第９条　本部事務局経理課（経理担当）は，余裕金の運用をしている場合はその運用状況等について，毎年９月末日と3月末日の状況を遅滞なく本部事務局財務課（予算・主計担当）に別表の余裕資金運用実績（状況）報告書により報告するものとする。	
			○見直しの結果、処分等又は有効活用を行うものとなった場合は、その法人の取り組み状況や進歩状況等は適切か。	○見直しは行っていない。			
			○「勧告の方向性」や「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等「独立行政法人の職員宿舎の見直し計画」、「独立行政法人の宿舎見直しに関する実施計画」等の政府方針を踏まえて、宿舎戸数、使用料の見直し、廃止等とされた実物資産について、法人の見直しが適時適切に実施されているか(取り組み状況や進捗状況等は適切か)	○職員宿舎は所有していない。九州国立博物館における民間住宅の借上げ宿舎については、平成 26,28,30 年度の 2 年ごとに 3 回の使用料見直しを実施する計画となっている。廃止等とされた実物資産はない。			
			○実物資産について、利用状況が把握され、必要性等が検証されているか。	○減損対象資産の利用状況は毎年度調査しており、全ての資産が使用されており減損の兆候はない。			
			○資産の活用状況等が不十分な場合は、原因が明らかにされているか。その理由は妥当か。	○該当なし。			
			○実物資産の管理の効率化及び自己収入の向上に係る法人の取り組	○博物館・研究所の本来業務以外にも、講堂・会議室の貸与、建物・庭園等を映画等のロケーションとして貸出すなど部外者に対			

			みは適切か。	しても積極的な貸出しを行い、適切に施設の有効利用を図っている。 実物資産については、平成 27 年度も同様に適正に管理し、有効活用に努める予定である。			
			○金融資産について、保有の必要性、事務・事業の目的及び内容に照らした資産規模は適切か。	○現金及び預金の平成 27 年度末残高は約 37 億円であり、そのほとんどは施設整備費等の未払金に充てるものである。			
			○資産の売却や国庫納付等を行うものとなった場合は、その法人の取組状況や進捗状況等は適切か。	○該当なし。			
			○資産の運用状況は適切か。	○大口定期預金として、平成 27 年 3 月 31 日～平成 28 年 3 月 30 日(365 日)2 億円の運用を適切に行っている。			
			○資金の運用体制の整備状況は適切か。	○適切に整備されている。			
			○資金の性格、運用方針等の設定主体及び規定内容を踏まえて、法人の責任が十分に分析されているか。	○独立行政法人国立文化財機構会計規程第27条において、出納命令役は，業務の執行に支障がない範囲で，法令で定められた安全資産により余裕金の運用をすることができると定めている。 また、東京国立博物館余裕資金運用取扱要項において、余裕資金の運用は運営会議の議を経て、館長が決定すること。運用の対象を寄附金、入場料等自己収入、その他館長が定める資金とすること。資金繰計画の作成を要すること。運用方法は、国債等、独立行政法人通則法第 47 条に指定する有価証券、預金等とすること。債権の発行者等の経営状況の把握することを定めている。 平成 27 年度も余裕資金の状況により、安全かつ有利な方法で運用を実施する予定である。			
			○貸付金、未収金等の	○貸付金はない。			

			債権について、改修計画が策定されているか。改修計画が策定されていない場合、その理由は妥当か。 ○回収計画の実施状況は適切か。 ⅰ）貸倒懸念債権・破産更生債権等の金額やその貸付金等残高に占める割合が増加している場合、ⅱ）計画と実績に差がある場合の要因分析が行われているか。 ○回収状況等を踏まえ回収計画の見直しの必要性等の検討が行われているか。 ○特許権等の知的財産について、法人における保有の必要性の検討状況は適切か。	未収金（建物、収蔵品画像使用料等）の管理は、独立行政法人国立文化財機構債権管理要項に基づき実施している。使用後精算する建物使用料、外国からの後払いの収蔵品画像使用料等の少額の未収金が大半のため、回収コスト等も考慮しながら実施している。 ・平成 27 年度末の未収金 258 件、737,770 千円。（うち 474,248 千円が文化庁等の受託収入に係る未収金） ・平成 28 年 6 月 17 日現在の長期未収金 15 件 3,407 千円。（8 件 724 千円は平成 28 年 8 月までに回収予定、7 件 2,683 千円は継続して督促を実施中） ○同要項に基づき、未収金の債権管理を帳簿により行い、回収計画、督促状況等を記録している。滞留管理としての管理、保全手続きについても定めている。 ○回収状況は良好であり未回収額も少額であることから、当面は見直しの計画はない。 平成 27 年度においても貸付金は実施しない予定、未収金等の債権については、同様に適切に管理する予定である。 ○特許権 3 件（研究技法関係）と商標権 15 件（ロゴマーク等）を保有している。取得費用がいずれも少額であるため財務諸表上の資産計上はしていないが、権利として管理している。研究継続の必要性から研究技法関係特許の保有は必要であり、ロゴマーク等の商標権も運営上の支障となる他者の使用を未然に防止するために必要である。 なお、特許権は当然収入につながるものであれば活用するが、維持費との兼ね合いが今後の課題である。 取得特許件数 3 件			

			        ○検討の結果、知的財産の整理等を行うことになった場合には、その法人の取り組み状況や進捗状況等は適切か。 ○特許権等の知的財産について、特許出願や知的財産活用に関する方針の策定状況や体制の整備状況は適切か。 ○実施許諾に至っていない知的財産の活用を推進するための取組は適切か。	①壁画漆喰層剥離用ワイヤソー装置及び壁画漆喰層剥離方法（22.3.5 登録：東京文化財研究所・奈良文化財研究所） ②文化財用表打ち材料及びそれを用いた文化財修復方法（22.12.10 取得：東京文化財研究所） ③フノリ抽出物の精製方法（26.7.18 取得：東京文化財研究所） ○機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」に基づき対応することになる。 ○機構で定めた「独立行政法人国立文化財機構発明及び商標取扱規程」により整備されている。 ○研究成果の結実として特許権取得をしている。当機構における特許権取得は、パテント収入を目指すためではなく、研究継続の必要性から防衛的な対抗特許として保有することを主眼としているため、特別な取組みは行っていない。			

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
2－5	2．業務運営の効率化に関する事項 5．内部統制の充実・強化		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定　B	評定　B
5 内部統制の充実・強化 （1）法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。 （2）外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。 （3）管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。	5 内部統制の充実・強化 （1）理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。 （2）外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。 （3）管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行ったか。また、事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させたか。 ○法人の長がリーダーシップを発揮できる環境は整備され、実質的に機能しているか。 ○法人の長は、組織にとって重要な情報等について適時的確に把握するとともに、法人のミッション等を役職員に周知徹底しているか。 ○法人の長は、法人の	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P51～52 ＜主要な業務実績＞ ○自己点検評価、監事監査、内部監査等を行った。毎年度、運営委員会を 1 回と外部評価委員会を 3 回（部会 2 回、総会 1 回）行い、その結果を機構の事業等の改善に反映させた。内部監査体制整備のため 27 年度より監査室を設置した。 ○運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行った。また、理事長の勤務地（京博）と本部の所在地（東博）が離れていることから、21 年度に「相談役」を本部に置くこととし、トップマネジメントとそれを支える体制を整えた。方針の決定に当たっては「運営委員会」などの評価及び提言を十分検討するとともに、方針決定後は速やかに実施するように留意した。また、各施設間で調整を図る必要がある課題については、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」にて協議を行っている。 ○日常の報告や役員会（毎年度 7 回）を通じて報告を受けることにより情報収集し、役職員に対するミッションの周知状況及びミッションを役職員により深く浸透させる取組を行っている。また、法人内グループウェアを継続して運用し、さらなる周知を図っている。 ○役員会（毎年度 7 回）や各種会議を通じて、情報収集しリスクを把握し、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握をし	＜評定と根拠＞ 評定：評定：B すべての項目に対し順調に実施した。 詳細は、その他参考情報に記載のとおり。 ＜課題と対応＞ －	＜評定に至った理由＞ 内部統制の充実・強化について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。詳細は以下の通り。 モニタリングの実施について、理事長の適切なリーダーシップのもと、リスクマネジメントについての検討、危機管理マニュアル等の見直しが随時行われているとともに、自己点検評価、監事監査、内部監査及び外部評価委員会による評価が行われている。 リスクマネジメントの実施について、役員会、運営委員会、連絡協議会等、理事長がリーダーシップを発揮できる体制が整備されており、それぞれが機能していると認められる。役員会、各種委員会により連絡調整と情報共有が行われており、役職員に周知していると認められる。さらに、法人内グループウェアを継続して運用しており、各施設の意思疎通も図られている。 中期目標・計画の未達成項目（業務）については、要因の把握・対応を行う体制が整備されていると認められる。 内部統制のリスクについては、リスクの把握・対応を行う体制が整備されていると認められる。 監事監査ついては、規程及び体制は整備されており、適切に実施されていると認められる。また、役員会等への出席を通して理事長のマネジメント	＜評定に至った理由＞ 内部統制の充実・強化について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。詳細は以下の通り。 モニタリングの実施について、理事長の適切なリーダーシップのもと、リスクマネジメントについての検討、危機管理マニュアル等の見直しが随時行われているとともに、自己点検評価、監事監査、内部監査及び外部評価委員会による評価が行われている。 リスクマネジメントの実施について、役員会、運営委員会、連絡協議会等、理事長がリーダーシップを発揮できる体制が整備されており、それぞれが機能していると認められる。役員会、各種委員会により連絡調整と情報共有が行われており、役職員に周知していると認められる。さらに、法人内グループウェアを継続して運用しており、各施設の意思疎通も図られている。 中期目標・計画の未達成項目（業務）については、要因の把握・対応を行う体制が整備されていると認められる。 内部統制のリスクについては、リスクの把握・対応を行う体制が整備されていると認められる。 監事監査ついては、規程及び体制は整備されており、適切に実施されていると認められる。また、役

			規模や業種等の特性を考慮した上で、法人のミッション達成を阻害する課題(リスク)のうち、組織全体として取り組むべき重要なリスクの把握・対応を行っているか。 ○その際、中期目標・計画の未達成項目(業務)についての未達成要因の把握・分析・対応等に着目しているか。 ○法人の長は、内部統制の現状を的確に把握した上で、リスクを洗い出し、その対応計画を作成実行しているか。	ている。その把握を元に役員会で指示し、対応を行っている。 把握している重要なリスクは以下の通りである。 ・適切な人員の確保 業務の拡充・拡大にもかかわらず、人件費削減などにより人員の補充が困難であり、職員の負担が過大となっている。身分的に不安定な任期付きの非常勤職員やアソシエイトフェローによる対応には限界があり、文化財の取扱・展示・調査研究等に必要な専門知識や技術の継承が困難になりつつある。 ・大規模自然災害等への対応(耐震化等) ・文化財の破損・盗難・劣化等 ・収蔵庫の不足 ・電力逼迫下における収蔵庫・展示室等の適切な温湿度管理 また、27 年度に内部統制及びリスク管理等に関する規程を整備した。 ○未達成項目については役員会において各施設長から聴取するなど、常に状況等を把握するよう努めている。またその対応についても、その都度協議している。各年度実績において、未達成項目はなかった。 ○リスクについては役員会において各施設長から聴取するなど常に把握し、リスクへの対応計画などについては役員会において協議し、最終的に理事長の判断により実施時期、実施期限などを定めている。また、その進捗状況等については役員会にて随時報告している。 把握しているリスクについては、関連する規程等を整備し、リスクに対応できる体制を整えるとともに、監査・研修等の実施により状況の確認及び職員への周知等を図っている。 ○監事は、役員会その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取		に留意していると認められる。なお、監事監査報告においては、特段改善を要する事項はない。 職員の資質向上・能力開発を目指し、多様な分野の職員研修が実施されている。 また、情報セキュリティについては水準向上のための取り組みや監査の実施が認められ、セキュリティ対策に重点を置いた自己点検・評価が行われている。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ なし。	員会等への出席を通して理事長のマネジメントに留意していると認められる。なお、監事監査報告においては、特段改善を要する事項はない。 職員の資質向上・能力開発を目指し、多様な分野の職員研修が実施されている。 また、情報セキュリティについては水準向上のための取り組みや監査の実施が認められ、セキュリティ対策に重点を置いた自己点検・評価が行われている。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

			○監事監査において、法人の長のマネジメントについて留意しているか。 ○監事監査において把握した改善点等について、必要に応じ、法人の長、関係役員に対し、報告しているか。その改善事項に対するその後の対応状況は適切か。 ○職員研修等を実施したか。 ○情報セキュリティに配慮した情報化・電子化に取り組んだか。また、情報セキュリティ対策の向上・改善のための定期監査等を実施したか。	し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、財務及び業務についての状況を調査し、法人の長のマネジメントについて留意している。 ○監査終了後に報告書を提出している。また役員会においてその結果を報告している。 よって、役員会での報告により理事長及び役員が内容について認識した。監事が役員会・国立文化財機構7施設連絡協議会等に出席することにより、監事の要望事項が法人の運営に適切に反映されるよう確認を行った。 また、27 年度に監査室を設置し、監事の業務を補佐することにより、監事機能の強化を図った。 ○職員研修等については、4－2人事に関する計画参照 ○情報セキュリティ水準の向上のための機器の更新、導入を行った。また、「独立行政法人における情報セキュリティ対策の推進について」の対応として、26～27 年度にかけて関連規程を見直し、28 年 1 月に改正等を行った。更にその詳細として、「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」を作成(28 年 3 月)し、体制整備を進めた。 また、保有個人情報管理監査、情報システム監査、監査法人による監査の一環としてのシステム監査をそれぞれ毎年度実施した。さらに、情報システム自己点検・評価を毎年度、セキュリティ対策の実施状況に重点を置いて実施している。			

４．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
3－1	3. 財務内容の改善に関する事項 1. 自己収入の増加		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2. 主要な経年データ

評価対象となる指標		達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
自己収入増加率	計画値	－	－	1.16%	1.16%	1.16%	1.16%	1.16%	※受託研究・受託事業を除く。 ※自己収入増加率は、自己収入基準額（前年度の目標額）に対する増加率。
	実績値	－	－	△8.17%	△2.72%	5.91%	29.04%	32.71%	
	達成度	－	－	90.78%	96.16%	104.70%	127.56%	131.19%	
寄附金（件）	計画値	－	－	226	226	226	350	400	
	実績値	－	－	393	438	486	561	577	
	達成度	－	－	173.89%	193.81%	215.04%	160.29%	144.25%	
科学研究費採択件数（件）	計画値	－	－	76	76	76	76	76	
	実績値	－	－	76	88	95	107	114	
	達成度	－	－	100.00%	115.79%	125.00%	140.79%	150%	

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
					評定　B	評定　B
入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 1 自己収入の増加 入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。	管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・自己収入増加率 ・寄附金件数 ・科学研究費採択件数 〈評価の視点〉 ○短期借入金は有るか、有る場合はその額及び必要性は適切か。 ○重要な財産の処分に関する計画は有るか。有る場合は計画に沿って順調に処分に向けた手続きが進められているか。 ○当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は明らかにされているか。 ○また、当期総利益（又は当期総損失）の発生要因は法人の業務運営に問題等があることによるものか。 ○利益剰余金が計上されている場合、国民生活及び社会経済の安定等の公益上の見地から実施されることが必要な業務を遂行するという法人の性格に照らし過大な利益となっていないか。 ○繰越欠損金が計上されている場合、その解消計画は妥当か。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P54～55 ＜主要な業務実績＞ ○該当なし。 ○該当なし。 ○当期総利益 139,431 千円は、入場料収入と財産利用収入の増加により生じている。 ○問題等はない。 ○利益剰余金は、現金ではない前中期目標期間繰越積立金 630,514 千円、平成 26 年度の目的積立金 4,002 千円、平成 23～26 年度の積立金 279,841 千円、当期未処分利益 139,431 千円の合計 1,053,788 千円であり、過大なものとはなっていない。 平成 23～27 年度の積立金については、平成 28 年度において国庫納付する予定である。 ○該当なし。	＜評定と根拠＞ 評定：A 自己収入増加率は、当初は増加が見られなかったが、主要な経年データ記載のとおり、毎年度改善している。特に 27 年度は、博物館の入館者数の増加により、今中期目標期間中最大の自己収入となった。また、寄附金及び科学研究費採択件数も毎年度目標値を上回っており、順調に推移している。 ＜課題と対応＞ ―	＜評定に至った理由＞ 自己収入の増加について、自己評価書及び関係資料によって具体的に説明されており、自己評価の客観性も認められる。＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ ○有識者コメント ・順調と認められる。	＜評定に至った理由＞ 中期目標期間の自己収入に関する定量的指標の達成度は、自己収入増加率が 110%、寄付金件数 177%、科学的研究費採択件数が 124%となっている。 自己収入増加率は、平成 23・24 年度が目標を下回っており、平成 25 年度から 27 年度の 3ヶ年は目標を上回った。 A評定の基準である定量的指標の 120%以上の実績をあげておらず、B評定が相当と判断した。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

			○当該計画が策定されていない場合、未策定の理由の妥当性について検証が行われているか。さらに、当該計画に従い解消が進んでいるか。	○該当なし。			
			○当該年度に交付された運営費交付金の当該年度における未執行率が高い場合、運営費交付金が未執行となっている理由が明らかにされているか。	○該当なし。			
			○運営費交付金債務（運営費交付金の未執行）と業務運営との関係についての分析が行われているか。	○該当なし。			
			○いわゆる溜まり金の精査において、運営費交付金債務と欠損金等との相殺状況に着目した洗い出しが行われているか。	○該当なし。			
			○中期目標期間を超える債務負担は有るか。有る場合は、その理由は適切か。	○該当なし。			
			○積立金の支出は有るか。有る場合は、その使途は中期計画と整合しているか。	○該当なし。			

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
3－2	3．財務内容の改善に関する事項 2．固定的経費の節減		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価

中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価	
			業務実績	自己評価	（見込評価）	（期間実績評価）
入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。 2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。	評価項目2－1 「2．業務運営の効率化に関する事項 1．一般管理費の削減」に同じ。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 評価項目2－1 「2．業務運営の効率化に関する事項 1．一般管理費の削減」に同じ。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P47～48 ＜主要な業務実績＞ 評価項目2－1 「2．業務運営の効率化に関する事項 1．一般管理費の削減」に同じ。	＜評定と根拠＞ 評定：B 建物の新設、単価上昇等の特殊要因を除外すると、目標値以上に削減している。 ＜課題と対応＞ ―	評定 B ＜評定に至った理由＞ 一般管理費について、平成 26 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成 22 年度より 15.7%減となっていることから中期計画における所期の目標を上回る成果と認められる。平成 26 年度時点で目標を達成していることから中期目標期間終了時についても所期の目標を達成することが見込まれる。 業務経費についても、平成 26 年度は平成 22 年度より 8.6%減となっており目標を達成していることから中期目標期間終了時についても所期の目標を達成することが見込まれる。 ＜今後の課題＞ なし。 ＜その他事項＞ 本項目については、他項目と内容	評定 B ＜評定に至った理由＞ 一般管理費については、平成 27 年度支出より消費税の増額分を差し引いた額と平成 22 年度支出を比較した場合、平成 22 年度より 15.8%増となっている。これは、自己収入財源の支出が増加したためである。自己収入財源は平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円（255.36%）増加した 264,408 千円と 3.6 倍になっている。しかし、運営費交付金財源は平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円（21.84%）減少し、670,306 千円であり抑制されている。 業務経費については、平成 27 年度は平成 22 年度より 10.87%増となっている。これは、文化財購入費・修理費予算の 1,590,277 千円が削減対象外とされ、平成 26 年度より 910,000 千円が予算措置

						が重複するものであるが、これは平成26 年度からの評価項目の設定が、「独立行政法人の目標の策定に関する指針」（平成 26 年 9 月 2 日決定）に基づくことによるものである。 「独立行政法人の目標の策定に関する指針」 Ⅱ　中期目標管理法人の目標について 3　中期目標の項目の設定について (3)評価に際しては、原則中期目標を設定した項目を評価単位として評価を実施する。 　なお、中期目標期間における実績評価（見込評価）の結果、当該機関に設定した目標の項目について改善が必要とされた場合は、当該評価結果を、次期中期目標期間における目標の項目の設定に適切に反映させる。	されたためである。業務経費は633,724 千円（15.19%）の減となっている。 　以上の指標から固定的経費の削減が図られていると認められることからB評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
4－1	4．その他業務運営に関する重要事項 1．施設・設備に関する計画		
当該項目の重要度、難易度	－	関連する政策評価・行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ								
評価対象となる指標	達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価								
	中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
				業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
						評定	B	評定	B
	1 施設・設備に関する計画 各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。	1 施設・設備に関する計画 施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙4のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 特になし 〈評価の視点〉 ○施設及び設備に関する計画はあるか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P55～56 ＜主要な業務実績＞ 平成 23～27 年度実績 東京国立博物館 ・改修工事中であった東洋館は、東日本大震災の影響により一部建築資材の破損を受けたが、平成 23 年度補正予算(予算額 162 百万円)により残工事を実施し、平成 25 年 1 月リニューアルオープンした。その他にも、本館、応挙館、九条館、柳瀬荘が小規模の被害を受けたが、同補正予算(予算額 13 百万円)により修繕を実施した。 ・平成 24 年度予算(予算額 614 百万円)により、黒田記念館耐震補強改修工事を実施し、平成 25 年 7 月竣工した。 ・平成 24 年度予算(予算額 59 百万円)により、表慶館バリアフリー化工事を実施し、平成 25 年 6 月竣工した。 ・平成 24 年度補正予算(予算額 874 百万円)により、資料館地階に大型X線CTスキャナーを平成 26 年 3 月設置した。 ・平成 24 年度補正予算(予算額 1,009 百万円)により、本館内装等改修工事を実施、正門プラザを新築した。 ・平成 25 年度補正予算(予算額 1,819 百万円)により、平成館特別展示室の改修を実施し、平成 27 年 3 月竣工し 10 月リニューアルオープンした。 ・平成 26 年度補正予算及び平成 27 年度予算(予算額 412 百万円)により、法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事を実施し、工事は平成 28 年 3 月に竣工、室内環境が安定した 4 月に収蔵品の移転を行った。 京都国立博物館	＜評定と根拠＞ 評定:B 埋蔵文化財調査の結果、見直しが必要になった奈良文化財研究所本庁舎建替工事以外は、計画どおりに進捗している。 ＜課題と対応＞ 施設整備費補助金により、平成知新館のリニューアルオープンをはじめ、正門プラザの新営、耐震改修、防災設備改修、バリアフリー化、展示室のリニューアル、研究用機器の整備等様々な施設・設備を整備することができた。 奈良文化財研究所本庁舎建替工事については、保存すべき重要な遺構が発見されたため、建物位置等の設計変更を実施し、平成 29 年度末竣工予定である。	＜評定に至った理由＞ 施設・設備の整備については、展覧会や文化財に対する十分な配慮を行う必要がある中で老朽化や耐震への対策を実施しているところであるが、やむを得ない事情により繰越が実施された事業については合理的な説明が行われており、適切に事業が実施されていると認められる。 また、奈良文化財研究所本庁舎建替工事については埋蔵文化財調査により遺構が発見されたが、法人の責に帰さない事由によるものであること、報道発表を行い発掘内容等について適切に説明を行っていることから適切に事業を実施していると認められる。 ＜今後の課題＞ 自己評価における課題と対応の通り、奈良文化財研究所本庁舎建替工事については、埋蔵文化財調査の結果を考慮した工事計画とするよう十分に検討すべきである。 ＜その他事項＞ ○有識者コメント ・奈文研本庁舎建替工事においては、文化財保護を旨とする国の機関であることから、重要な遺構の保存に配慮した工事計画とする必要がある。	＜評定に至った理由＞ 施設・設備の整備については、展覧会や文化財に対する十分な配慮を行う必要がある中で老朽化や耐震への対策を実施しているところであるが、やむを得ない事情により繰越が実施された事業については合理的な説明が行われており、適切に事業が実施されていると認められる。 事例としては、奈良文化財研究所本庁舎建替工事が挙げられる。埋蔵文化財調査により遺構が発見されたことにより設計変更が必要となったためである。法人の責に帰さない事由によるものであること、報道発表を行い発掘内容等について適切に説明を行っていることから適切に事業を実施していると認められる。 以上、見込評価から乖離しないことが認められたのでB評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。 ＜その他事項＞ 特になし。

				・平成 19 年度より建替工事を開始した平成知新館は、平成 25 年 7 月に竣工し、平成 26 年 9 月リニューアルオープンした。 ・平成 25, 26 年度予算(予算額 382 百万円)により、文化財修理所の緊急屋根等尼漏れ補修工事を実施し、平成 27 年 11 月竣工した。 ・平成 27 年度予算(予算額 171 百万円)により、明治古都館免震改修等工事に着手した。 奈良国立博物館 ・平成 24 年度予算(予算額 1,141 百万円)により、防災設備等改修工事を実施し、平成 26 年 3 月竣工した。 ・平成 25 年度予算(予算額 123 百万円)により、収蔵庫等免震工事を実施した。 ・平成 25 年度補正予算(予算額 167 百万円)により、なら仏像館外壁等補修工事を実施し、平成 27 年 3 月竣工した。 ・平成 25 年度補正予算及び平成 27 年度予算(予算額 1,524 百万円)により、なら仏像館免震展示ケース等整備工事を実施し、平成 28 年 4 月竣工した。 東京文化財研究所 ・平成 24 年度補正予算(予算額 90 百万円)により、水損文化財の保存修復研究拠点を整備した。 奈良文化財研究所 ・平成 24 年度補正予算(予算額 65 百万円)により、X線回折装置等を整備した。 ・本庁舎建替工事は、当初計画では平成 24～28 年度の 5 年間(予算額 6,945 百万円)で実施予定であったが、保存すべき重要な遺構が発見されたため、建物位置等の設計変更を実施し、平成 29 年度末竣工予定である。 ※いずれも施設整備費補助金を財源とする。				

4．その他参考情報
特になし。

1．当事務及び事業に関する基本情報			
4－2	4．その他業務運営に関する重要事項 2．人事に関する計画		
当該項目の 重要度、難易度	－	関連する政策評価・ 行政事業レビュー	平成 28 年度行政事業レビューシート 事業番号 0362

2．主要な経年データ

評価対象となる指標			達成目標	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	（参考情報）
人事交流者数（人）	事務系職員	実績値	－	－	70	65	57	51	53	
	研究系職員	実績値	－	－	30	32	32	32	32	
研修件数（件）	実績値		－	－	6	6	6	7	13	

3．各事業年度の業務に係る目標、計画、業務実績、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価							
中期目標	中期計画	主な評価指標	法人の業務実績・自己評価		主務大臣による評価		
			業務実績	自己評価	（見込評価）		（期間実績評価）
					評定	B	評定	B
2 人事に関する計画 人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。 また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。	(1)方針 ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。 ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。 ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。 (2)人員に係る指標 給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。 中期目標期間中の人件費総額見込額 13，087百万円 但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の	〈主な定量的指標〉 特になし 〈その他の指標〉 ・人事交流者数 ・研修件数 〈評価の視点〉 ○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ったか。 ○人事交流の促進、職員への研修機会の提供等を行ったか。	＜実績報告書等参照箇所＞ 第 3 期中期期間実績補足資料 P56～57 ＜主要な業務実績＞ 以下のとおり人事管理、人事交流等の実施を行った。 ○能力や業績を反映できる人事・給与制度の検討・導入 平成 20 年度から、勤務評定制度を実施しており、昇給及び勤勉手当に反映している。平成 26 年度から、より職員の能力や業績が適切に反映できるように、新たな評価制度の検討を開始し、平成 27 年度においては、新評価制度導入に向けたスケジュール案、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を開始し、関係会議での意見交換を行い役員会において周知した。 ○人事交流の促進、研修 人数は主要な経年データ参照 平成 27 年度においては、交流が必要なポスト等を検討し、プロパー職員の採用、育成等総合的勘案し交流を実施した。 この他に地方公共団体から事務系、研究系ともに研修生を受け入れ、交流の促進を図った。 前中期目標期間最終年度 平成 22 年度研修件数及び参加者数 新任職員、その他職員を対象とした研修 3 件（延べ 172 名） 施設系職員研修　1 件（10 名） ハラスメント研修 1 件（12 名） 接遇研修会　1 件（約 100 名） 第 3 期中期目標期間 平成 23 年度研修件数及び参加者数 新任職員、その他職員を対象とした研修	＜評定と根拠＞ 評定：B 人事管理、人事交流を適切に実施し、非公務員化のメリットを活かした。また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図った。 詳細は以下のとおり。 ・各年度において勤務評定制度を実施した。また、平成 26 年度から新たな評価制度の検討を開始し、平成 27 年度においては、具体的に日程、導入目的、評価対象、評価方法、評価結果の活用等の制度構築を役員会で周知した。 ・各年度において人事交流を実施した。交流機関等と真に必要な交流ポストを選択し、集中的に優秀かつ多様な人材を確保した。また、研修についても各年度平均して 5～7 件を提供し、平成 27 年度においては、新たな育成研修も含め 13 件を提供した。 ・引き続き、任期付職員制度を活用しつつ、平成 26 年度に創設した契約期間に定めのない専門的人材の確保策としての専門職制度を活用して国際交流部門、出版企画部門に各 1 名を採用・配置した。 ・限られた人員数の中において、適材適所の人員配置に努めた。 ・事務系・研究系ともに計画通りの新規職員を採用できた。 ・アソシエイトフェロー制度を活用し、優れた専門的知識等を有する者を採用・配置を行った。 ・人事交流を通じて効率的に優秀かつ多様な人材を確保できた。また、機構内の人事交流を活性化することにより中堅職員の育成、幹部職員候補の育成を図ることができた。	評定	B	＜評定に至った理由＞ 専門職制度の創設や、アソシエイトフェロー制度を活用し専門スタッフの計画的な確保を行ったことは、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討や、非公務員化のメリットを生かした制度の活用方法の検討が計画的かつ具体的に行われていると認められる。 近隣大学等との人事交流については、事務系職員、研究系職員ともに交流が実施されていることが認められる。これらの交流により、適切な人員配置の推進等が行われていることが認められる。 また、研修の実施にあたっては他機関で実施する研修への派遣も含め各種研修が実施され、今後の研修についても検討されていることから積極的な取り組みが認められる。 人事管理については、専門的な人材の確保に努めながら一般管理費や業務経費の削減を実現させていることから、計画的かつ適切な人事管理が行われていることが認められる。 ＜今後の課題＞ 高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材の確保・育成と効率的かつ効果的な運営の両立にあたって、機構においても様々な課題と対応が検討されているところである。常勤職員についての人件費の抑制が専門分野への人員配置、技術の継承、年齢構成などに支障をきたす恐れがないか	評定	B	＜評定に至った理由＞ 専門職制度の創設や、アソシエイトフェロー制度を活用し専門スタッフの計画的な確保を行ったことは、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討や、非公務員化のメリットを生かした制度の活用方法の検討が計画的かつ具体的に行われていると認められる。 近隣大学等との人事交流については、事務系職員、研究系職員ともに交流が実施されていることが認められる。これらの交流により、適切な人員配置の推進等が行われていることが認められる。 また、研修の実施にあたっては他機関で実施する研修への派遣も含め各種研修が実施され、今後の研修についても検討されていることから積極的な取り組みが認められる。 人事管理については、専門的な人材の確保に努めながら一般管理費や業務経費の削減を実現させていることから、計画的かつ適切な人事管理が行われていることが認められる。 中期目標として設定されている「適切な人事管理、人事交流」、「スタッフの計画的な配置、確保・育成」を達成できたと判断されるのでB評定とした。 ＜今後の課題＞ 特になし。

	合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。		3 件（延べ 168 名） 施設系職員研修　1 件（11 名） ハラスメント研修 1 件（約 200 名） 個人情報保護研修 1 件（102 名） 平成 24 年度研修件数及び参加者数 新任職員、その他職員を対象とした研修 3 件（延べ 168 名） 施設系職員研修　1 件（20 名） ハラスメント研修 1 件（約 230 名） 個人情報保護研修 1 件（約 600 名） 平成 25 年度研修件数及び参加者数 新任職員、その他職員を対象とした研修 3 件（延べ 124 名） 施設系職員研修　1 件（19 名） ハラスメント研修 1 件（約 70 名） 平成 26 年度研修件数及び参加者数 新任職員、その他職員を対象とした研修 4 件（延べ 168 名） 会計系職員研修　1 件（25 名） 施設系職員研修　1 件（延べ 19 名） ハラスメント研修 1 件（約 80 名） 平成 27 年度研修件数及び参加者数 新任職員を対象とした研修 3 件（延べ 162 名） その他職員を対象とした研修 個人情報保護研修 2 件（全職員） コンプライアンス教育及び研究倫理教育研修　1 件（70 名） 分野別事務専門研修 4 件（延べ 80 名） 英会話研修　1 件（4 名） ハラスメント研修 1 件（約 80 名） 文化財防災事業アソシエイトフェロー研修　1 件（15 名） この他に他機関で実施する研修に参加させ、職員の能力開発に寄与した。	＜課題と対応＞ ・新たな評価制度を導入・実施していくにあたり、能力、業績を評価するだけでなく、その評価結果を人材育成に活用し、いかに組織の発展につなげられるかを検討しながら行っていく必要がある。 ・人事交流については、受入が中心となっており、双方向の人事交流の増加に向けた施策が行えるよう検討する。また、研究系職員の交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。研修については、OJT をより効果的に行なうための研修プログラムを効率的に実施する必要あるが、退職手当の通算等の問題もあるため、検討が必要である。さらには、専門的な研修や国際化に対応するための研修等についても検討する必要がある。 ・ニーズに応じた有期雇用職員制度の創設、改正を実施してきたが、現在ある複数の制度を整理する必要がるある。 ・必要に応じ、組織の見直しについても検討する。 ・平成 27 年度に改正したアソシエイトフェロー制度について、活用状況や課題点を洗い出し、必要に応じて修正を行っていく。 ・人事交流については、事務系職員において双方向の人事交流の増加に向けた施策が行えるよう検討する必要がある。	検討し、今後の人事計画にその検討結果を反映させることが望まれる。 ＜その他事項＞ ○有識者コメント ・常勤職員についての人件費の抑制が継続するなかで、専門分野への人員配置、技術の継承、年齢構成などに支障をきたさないように、今後の人事計画を立てる必要がある。 ・これ以上の人件費の抑制は、将来に亘っての業務の質の維持という点で問題である。 ・アソシエイトフェロー計画が大きな成果を挙げているが、専任職員の欠を埋める代替措置として機能することを期待してはなるまい。	＜その他事項＞ 特になし。 ○有識者コメント ・専門分野は文化財の保存・活用の基礎をなすものであり、常勤職員についての人件費の抑制が専門分野への人員配置、技術の継承、年齢構成などに支障をきたさないように、今後の人事計画を立てる必要がある。 ・人件費の抑制が、専門分野の人材確保・育成に支障をきたすのではないかと懸念する。
		○専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行ったか。	○専門スタッフの計画的な確保・育成 任期付職員制度の活用 平成 23 年度　任期付専門員　1 名採用 平成 25 年度　任期付専門職員 1 名採用			

			○適切に人員配置等を推進したか。 ○人事に関する計画は有るか。有る場合は、当該計画の進捗は順調か。 ○人事管理は適切に行われているか。	高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、専門職制度を創設し、平成26年度においては国際交流部門に1名を内定・配置することを決定し、平成27年度においては出版企画部門に1名を採用・配置した。 併せて当該職の人事・給与制度の整備を行なった。 ○適切な人員配置等の推進 適切な人員配置を推進した。 ○人事計画の進捗状況、適切な人事管理 人事計画の進捗は比較的順調に進んでいる。 ・常勤職員等の計画的な採用状況 事務系においては平成 24 年度より機構独自の採用制度を整備し、下記のとおり採用し施設に配置した。 平成 25 年度採用者数　1 名 平成 26 年度採用者数　4 名 平成 27 年度採用者数　2 名 研究系においては適性・能力、年齢構成及び業務の効率化、技術の継承等を総合的に勘案し、下記のとおり採用した。 前中期目標期間最終年度 平成 22 年度採用数　13 名 第 3 期中期目標期間 平成 23 年度採用数　13 名 平成 24 年度採用数　8 名 平成 25 年度採用数　6 名 平成 26 年度採用数　4 名 平成 27 年度採用数　6 名 平成 26 年度において高度に優れた専門的技術を兼ね備えた人材を確保すべく、専門職制度を創設し、国際交流部門に 1 名を配置することが内定・配置することを決定し、平成 27 年度においては出版企画部門に 1 名採用・配置した。 平成 20 年度において、有期雇用職員の人			

				事制度（アソシエイトフェロー）を新たに整備し、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能としている。 前中期目標期間最終年度 平成 22 年度採用数　17 名 第 3 期中期目標期間 平成 23 年度採用数　18 名 平成 24 年度採用数　19 名 平成 25 年度採用数　17 名 平成 26 年度採用数　40 名 平成 27 年度採用数　25 名 ・人事交流の実績 「人事交流の促進、研修」　を参照			

４．その他参考情報
特になし。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会報告書

－平成 27 年度－

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会
平成 28 年 6 月

目次

1. 外部評価委員会報告

2. 外部評価委員会委員名簿

博物館調査研究等部会

研究所・センター調査研究等部会

はじめに

本委員会は、国立文化財機構（以下「機構」という。）における平成27年度事業及び自己点検評価について、研究所・センター調査研究等部会、博物館調査研究等部会、総会の3回に分けて開催し、評価の適正性や、各事業内容及び業務運営の効率化等について、外部有識者による評価を実施した。評価に当たっては、定性的・定量的評価を基に客観性のある評価に努めた。

総　評

（平成 27 度実績の概観）

・平成 27 年度も機構は、日本の文化財保護における中核的な組織として、基礎的なものから先端的なものまで、幅広く調査研究と業務を実施してきており、その実績は高く評価されるべきである。

・平成 27 年度の自己点検評価は、博物館、研究所、センターにおいて、かなり統一的な評価基準で行われるようになっており、改善が進められている。一方で、自己点検評価の記述方法で、施設及びプロジェクト間で精粗等の差異がみられる。次年度に向けて早い段階に当該年度報告書を自己点検することが望ましい。また、各機関の事業・活動の社会的効果がいかに達成されているか、その外部評価の在り方について、できるだけ定量的尺度で行うことは一見正当に思えるが、研究実績の定量化は容易でなく、また博物館の実績を来館者数偏重に導きかねない。来館者の満足度や教育的効果、機関とその職員の研究実績の社会的評価にも十分な光を当てたいと思う。

・収蔵品の整備については、購入のみならず寄贈・寄託も順調に進め、質・量ともに大きな成果を上げており評価に値する。

・博物館の 27 年度の総来館者数は、398 万人を超え、あと一歩で 400 万人に手が届く規模となった。4 年前の 23 年度と比較すると 26%の伸び率で、各館の日常的な努力の積み重ねによるものと高く評価する。

・ただし、特別展による来館者数は内容により異なるので、来館者の増加を特別展に頼るのは、博物館の恒常的な基本の活動とは思われない。館蔵品の日常的な活用を基本として多くの観覧者に歴史・伝統文化を伝えることを核とするのが、機構の役目と思われる。そうした認識に立ったときに、全館で平常展の来館者数が増加していることは特に評価できる。陳列替を繰り返して所蔵品をフルに活用しただけでなく、敷地全体の環境や年末年始等の季節要因、特別展とのリンク等、多様な観点から企画を練った努力の結果であろう。特に、東京国立博物館（以下「東博」という。）における平常展の来館者数が前年度比 127%、実数で 16 万人も増え、目標値比較では 2 倍に及ぶ約 75 万人となったことは、目を見張るものがある。

・各博物館とも、所蔵資料の貸出しや展示・企画への援助・助言を通して、全国の博物館との連携を進めている点は評価できる。しかし、さらに積極的な支援が必要で、収蔵品の貸与、あるいは企画展の巡回等、日本各地の博物館施設との連携をさらに強め、地方在住の

国民にも等しく文化遺産に接する機会を保証すべく、意を払う必要があるようだ。

・各博物館・研究所・センターとも、基礎研究の充実を含めて極めて多岐にわたる調査研究を活発に展開していることは高く評価できる。特に、東京文化財研究所（以下「東文研」という。）が手がける研修「紙の保存と修復」はその実績から世界的に抜群の評価を受けており、研究所の存在感をひときわ高めている。他の日本の得意分野での国際協働事業のモデルとして注目したい。また、奈良文化財研究所（以下「奈文研」という。）も東大寺東塔の基壇の調査は他機関との共同調査により成果を上げた。今後も続く東塔跡の調査体制の在り方は、全国へのモデル的な方向性を打ち出したという意味で特筆されるだろう。アジア太平洋無形文化遺産センター（以下「IRCI」という。）においても、ベトナム・ドンホー版画保護の取組等で成果を上げている。

・研究所施設、研究活動の公開を含め、一般向けの情報発信の必要性が以前に増して格段に強くなっていることに留意し、調査・研究の成果を、一般向けにわかりやすい形でさらに広く発信していただきたい。

・長年の課題であった、目的積立金を実現化させたことは、長い機構の努力による大きな成果として、高い評価を与えたい。これは法人自立の道を拓くもので、有効活用することはもちろん今後とも着実な取組を重ねて行かれることを期待したい。

・人事制度においては、機構独自の専門職制度を創設し、契約期間に定めの無い職員が採用されたことは大きな前進であると考える。この試みが、成功であったのか成果を注目したい。

（国立文化財機構をとりまく状況について）

・文部科学予算の低迷の中で機構の予算はわずかに増加を確保しているものの、諸外国に比べ文化関係予算が低調な我が国の現状は憂うべきである。「文化芸術立国」の実現を目指す我が国において、文化関係予算の充実は必須であり、国に対応を求めたい。一方、機構においても、必要十分な予算の確保と支援を得られるよう、文部科学省・文化庁や社会全般に対する情報発信や働きかけを積極的・持続的に展開することが望まれている。

・東博でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・職員定数は全く少ないと言わざるを得ず、国には、文化国家の責務として、博物館や研究所への理解を一層深め、財政的にも積極的な支援を期待したい。また、機構は、大変な努力により事業目標を順調に達成し、自己収入の増加を実現してきたが、単純な経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。

・地方における公立博物館の相次ぐ閉館や、社寺管理者の高齢化に伴う文化財保管の困難化の問題は相変わらず深刻である。国立博物館は、こうした文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、購入を積極的に進める必要に迫られている。そのためにも、相応の購入予算や収蔵スペースの新規確保のための予算措置が必要である。

・アソシエイトフェロー制度に関しては、契約期間に定めのある職員であり、今後、終身雇

用の専任化への移行は急務と思われる。この点に関しては、上述のとおり文化関係予算及び職員定数の少なさに起因するところでもあり、予算獲得の努力を継続しつつ、機構内での処遇とは限らぬまでも、他機関・機構とも協調の上、任期後は我が国の文化財保護継承の一翼を担える道筋を用意できる人事システムを望みたい。

・地震の被害を受けた熊本や東日本大震災の被害を受けた東北 3 県における文化財保護の質的向上は今後とも重要な課題であり、文化財防災ネットワークの推進、「文化財防災計画」策定への協力や防災減災対策の充実に、機構のノウハウを活用していただきたい。また、災害やテロに強い博物館づくりも課題になると考える。

（国立文化財機構の将来について）

・国民全体の将来のささやかな幸福、穏やかで安定した国のあり方を考えれば、文化財立国、ミュージアム立国が望ましく、現在急速に発展している一方で激動の社会に人々が苦しみあるいは困惑を深めているアジア諸国の将来のモデルにもなるようなミュージアム国家を実現するために、その最大のセンターとなる機構に十分な予算が与えられるべきである。

・「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を契機とした文化芸術立国の実現のために、2015 年 7 月に文化庁において「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」を定めている。このような状況の中、日本の文化、伝統、芸術を最も効果的にアピールする場として機構の役割は高まっており、日本の文化力を世界への発信に戦略的に取り組むことを望む。

・2019 年 ICOM（国際博物館会議）京都大会の先駆けとして、東博を中心とする国立博物館において、各種の国際会議や国際シンポジウムが開催されたことは、重要な意義があったと言える。今後、ICOM 京都大会開催に向けて、国立博物館には一層のリーダーシップが求められよう。

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

【博物館】

（概観）

・全体として新収品の点数も確保されており、購入のみならず寄贈・寄託も順調であったと判断でき、評価に値する。各館は、それぞれの持つ特徴を活かすべく、その方針に従い収集をしている。特に、購入において東博、京都国立博物館（以下「京博」という。）が、寄贈・寄託品の受入れ及び活用においては、東博、京博、九州国立博物館（以下「九博」という。）が大きな成果を上げたことを評価するとともに、奈良国立博物館（以下「奈良博」という。）を含め、各館の目玉ともなる作品が集められたのは喜ばしい。

・各館とも IPM（総合的病害虫管理）対策や耐震対策等に計画的に対応している。また、奈良博では新たに修理された文化財の陳列を行うなど、文化財修理技術に関して一般への啓蒙に取り組もうとする努力もなされている。

・限られた予算の中で、収蔵庫・展示室の環境や文化財の保存状況の調査、収蔵資料のデータベース化やデジタル化等、保存と継承に関する最も基礎的かつ重要な調査研究が適切に実施されており、全体として高く評価できる。良好な環境整備と伝統的修理技術の組合せによって、次代へ向けた資料の保存措置が取られている。

・Ｘ線ＣＴスキャナーや赤外線撮影等、調査・分析機器の活用が進んでいる。保存・修理に極めて有効であることはもちろんだが、新研究や新発見を生み出すツールでもあり、今後も成果が期待でき、整備のための一層の財源確保が強く望まれる。

（特記事項）

・京博で、国宝や重文の書跡等を収蔵したほか、尾形光琳・乾山合作の貴重な陶磁器の角皿は京博らしい収蔵品であり、同年度の特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」で公開し、活用を率先したことは称賛される。他の館もそれぞれに特色ある資料収集に成果を上げたことは特筆される。これらを積極的に公開してほしい。

・資料保存の基礎となる、保存カルテの作成や IPM の徹底化は重要な業務である。さらに、文化財情報システムでの資料公開は、国民への公開手段の一つとして重要である。こうした事業の推進には、新たなシステムの整備とともに、人的整備も必要である。

（希望事項）

・多くの人々への公開や活用の重要性からいえば博物館への寄贈・寄託に一層の力を入れていただきたい。

・緊急災害時の対応については、施設等について高い耐震強度を確保することが急務であり、予算が限られている中でどれだけ先行投資ができるかがカギとなる。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信【博物館】

（概観）

・4 博物館が、それぞれ館の特性や地域性を踏まえ、特別展、平常展、特集陳列等に工夫を凝らし、各館とも、各種展覧会を積極的に開催して国民による歴史・文化理解に資するのみでなく、新たな関心の醸成に努力している。それは来館者数に端的に表れており、総評でも述べたとおりである（p.1）。

・平常展は、来館者数及び出品数等、東博が前年を大きく上回る成果を上げたほか、他の博物館もおおむね前年度実績あるいは目標を上回る活動が展開されている。

・特別展については、多くの展覧会で目標値を上回る来館者を数え、中には 2 倍から 3 倍に達する特別展もあり、健闘ぶりがうかがえる。

・国外への発信として、東博によるアメリカ・フィラデルフィア美術館での海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」、奈良博による韓国・国立慶州博物館での 2015 年韓日修交 50 周年記念特別展「日本の古墳文化」が開催された点は高く評価する。特に後者は、政治的冷却状態がある中で、文化面で両国民による相互理解を育む上で、重要な取組である。

・最近の海外観光客（インバウンド）の急増に伴い、日本の文化、伝統、芸術を最も効果的にアピールする場として国立博物館の役割は高まっており、こうした中、外国語による解説パネルの設置は、各館ともに予定よりも早くほぼ 100%を達成したことは評価したい。日本語以外の解説パンフレット等も充実してきており、さらに、京博のような外国語による音声ガイドも、是非、各館で推進して頂きたいシステムである。

・講演会等のイベントには各館とも力を入れており、参加者は年を追うごとに増加傾向にある。各施設ともマンパワーに限りがあり、困難も多いだろうが、ボランティアを組み込んで体制を補強し、啓蒙的企画をさらに引き続き拡充していただきたい。

・次世代を担う子どもの博物館利用促進に向けた取組が行われており、国立博物館のソフト戦略として、子どもの博物館への関心が一層高まることを期待したい。

・今日の博物館において、ミュージアムショップやレストランの存在意義は大きく、各館で進めるオリジナルのグッズやメニューの開発や販売は、博物館ファンを増やす意味でも重要なものとなりつつある。27 年度は、九博でミュージアムショップのリニューアルや、レストランでの特別展メニューの提供、東博でケータリングサービスの実施等、新たな取組が行われたが、このような利用者に対しての快適な環境づくりと更なる魅力的な展開も必要なことである。

（特記事項）

・東博における平常展来館者数については、総評を参照（p.1）。

・東博の特別展「始皇帝と大兵馬俑」は目標の倍以上の来館者があった。10 体の兵馬俑に加えて多数のレプリカを展示する等の演出が効果的であった。

・京博の特別展覧会「琳派誕生 400 年記念 琳派 京（みやこ）を彩る」は、33 万人近い入

場者を集めた。時系列の作品展示に加えて工芸やデザインまで取り込み見応えがあった。
・奈良博の開館 120 年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」は、白鳳仏の優品を網羅して白鳳美術の日本各地への浸透とその優れた美を周知することに成功した。
・九博の開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」は、開館後の特別展と敢えて同じ名称にして 10 周年を記念し、正倉院宝物を含めた質の高い内容の展示品等で話題を呼んだ。
・東博は、聴覚障がい者の鑑賞開発に取り組むほか、文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートークを行うなど、学習機会の提供に努めたところを評価したい。また、京博は「文化財ソムリエ」「京博ナビゲーター」において、奈良博はボランティア活動を活用した「世界遺産学習」、九博はアジア諸国との文化交流に力を入れ成果を上げるとともに、潜在的利用者と作る新しい博物館像を模索しつつ、その開拓・発掘を目指し一定の成果を上げている。
・次世代を担う子どもの博物館利用促進に向けた取組として、九博では新たに「きゅーはくきゃらばん」「ナイトミュージアム」等が実施されており、今後に期待したい。
・東博に続き京博においても、公式キャラクターとして「トラりん」が登場したことは、お堅いと思われがちな国立博物館のイメージの柔軟化に一役買うものと思われる。

（希望事項）

・入館者と満足度の関連として、入館者が多いと混雑度が増し、アンケートの満足度が下がるという状況が顕著である。世界の他館の先進事例も参考にするなど、今後も入館待ちの人々を飽きさせない様々な改善策を講じてもらいたい。
・平常展、特別展それぞれに集客戦略を設定し来館者数の増加を目指す体制を構築し目標達成を図る仕組みが必要と思われる。来年度は来館者数の 400 万人越えを達成するよう、更なる努力を期待する。
・東博では、大規模な特別展が開催されているが、所蔵資料の性格とは全く異なり、かつ博物館職員の専門性を大きく超えたテーマの展覧会もある。この状況が職員の負担になっているとしたら、精選することも考えるべきだ。一方で、特別展が貴重な研究の場である場合は、積極的に開催することは好ましいので、綿密な体制で職員の過大な負担にならないよう、十分な検討がこれまで以上に必要なのではないか。
・特別展の中には、目標入館者数を下回る展示も見られる。目標値や入館料は妥当だったのか、広報は十分に行われていたのか、検証をしっかりして、次回に備えるべきだろう。
・若者を対象として、初等・中等教育の一環としての博物館利用についても、さらに展開していただきたい。
・大学との連携、インターンシップの導入や整備、ボランティアの多様な活用等、各館における一段の工夫とその結果としての成果を期待している。
・博物館の外国人対応はより積極的に取り組むべき課題と考えられるが、その実態を数量的にしっかりとらえる必要があろう。
・若者を対象とした、ウェブサイトを活用した更なる情報発信にも、今後期待したい。特に、

SNS 戦略をぜひとも加速させていただきたい。

・情報発信の実施に当たっては、発信業務の手間や、外国語で実施する必要性も踏まえて、継続していくための簡便なシステムを整備しておいた方がよい。また、職員の勤務条件への負担が過重にならないよう、配慮していただきたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化【博物館】

（概観）

・調査研究の成果の発信については、おおむね計画どおりに実行されている。特別展に伴う調査研究とその成果の図録への反映等は当然でのことながら、それを若年層も含めてより広範囲の観覧者に分かりやすく伝える工夫も期待したい。

・海外研究者の招聘等、研究交流の実施はおおむね計画以上の実績を上げ、国際シンポジウムも開催している。

・保存修理事業者への研修プログラムについては、おおむね計画通りに実施されている。インターンシップの整備、ボランティアの多様な活用も評価できるが、更なる工夫とその成果を期待したい。

・収蔵品の貸与については、おおむね計画通りに進められており、各博物館とも我が国における博物館の中核の施設として、所蔵資料の貸出しや展示・企画への援助・助言を通して、全国の博物館との連携を進めている点は評価できる。

・作品の保存維持に関する研究や関係者への助言について、全国の博物館等の中核としての機能を果たしていると判断でき、評価できる。

（特記事項）

・調査研究の成果の発信として、奈良博では入場無料ゾーンを活用するなどの工夫も施されている。

・公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進については、総会にて、地方の博物館がナショナルセンターである機構に期待する旨の意見が上がった。地方巡回展も含めて様々な要望が数多く出されたが、知恵を出し合いながら、効果的かつ効率的な協調が望ましい。

（希望事項）

・機構各機関の発行する研究紀要・報告書や年報・概要等のインターネットでの公開や、図書・資料等の研究者・市民への公開をさらに展開していただきたい。

・ナショナルセンターとして、国宝等各種の文化財情報や国内の諸博物館の展覧会・収蔵品情報等を、国内外に発信するリンク機能をもっと展開していただきたい。

・今までの画像提供とは異なった新技術、新思考による新しい枠組みが求められており、そのあたりの機能強化にしっかりと取り組んでいただきたい。

・日本の博物館の国際化のために、海外への多言語発信は重要となるし、海外の研究者・技術者への支援や交流も、更なる活性化が必要である。

・東博や九博で実施されているインターンシップ制度や、国内外の他博物館・美術館や大学の博物館学講座等に向けた専門知識・技術の発信や連携・協力の更なる充実を図り、地方の博物館現場等で働く学芸員への技術支援や研修、交流等も必要ではないか。

4　文化財に関する調査及び研究の推進【博物館・研究所・センター】

（概観）

・機構各施設において、限られた人員・予算の制約下で、幅広い内容の基礎的・先端的な文化財の調査・研究に取り組み、その実績を多くの報告書に反映させており、着実な成果を上げていることが認められる。また、各調査・研究の成果を、国民向けにわかりやすい形でさらに広く発信していただきたい。

・機構内の研究員にとどまらず、外部研究機関、外部研究者からの協力を得ることや共同調査により、調査、研究の質の向上が図れ、期待するところの相当の成果があった。

・博物館においては、各館は、その調査、研究を通して、多くの知見を得、それを企画展や平常展の展示に反映することができた。また、今後の展示や研究・教育普及事業の中に生かすことを目指している点も評価したい。さらには、特別展に係わる調査研究は当然として、それ以外の収蔵品についての基礎的研究や神社仏閣、個人の所蔵文化財の調査においても、各館は着実に実績を上げている。

・研究所・センターにおいては、研究事業の中でも、多様で独創的な研究が続けられている文化財保存環境のカビ被害対策と展示ケースに発する問題への取組は目を見張るものがあり、研究活動は更なる進展が期待される。

・科学研究費、民間研究助成、寄付金等の外部資金による研究費を獲得して、共同調査・研究を多面的に展開し、大きな成果を上げていることを、高く評価したい。外部資金の獲得には、さらに努めていただきたい。

（特記事項）

・東博では、考古展示室のリニューアルに伴い、ボランティアの支援によるハンズオン展示、IT 技術を使ったワークシートの開発、学校団体向けアプリの開発等が進められ、この研究成果が将来、全国の博物館で活用されることを期待したい。

・京博で開催された特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」において、「京博ナビゲーター」が教育普及事業に取り組み、好評を得たことは、市民参加型の博物館事業が重要であることを示したものといえる。

・奈良博では、館内の情報システムや公開用データベースのデータ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んでいる。それによって収蔵品・画像データベースから画像の無償ダウンロードが可能になった。研究者や教育者にとって、あるいは一般の人々にとっても重要な貢献であり特筆に値する。

・九博で展開された「みんなでまもる文化財 みんなをまもるミュージアム」は、市民が参加し地域との連携が図られたもので、文化財を災害被害や盗難から守る上で興味深く、独創的な取組であったと評価できる。

・九博においては、高等学校所蔵考古資料の所在調査が全国的な広がりを見せてきたと思われるが、その考古学分野でさらに、若い世代の女性利用者の開拓に向けて開始された「きゅうはく女子考古部」の活動実践は、大変ユニークな取組であり、マスコミ取材も多かっ

たことから情報発信効果もあり、若者女子の博物館への関心が高まることを期待したい。
・東文研と東博が連携して特別展「生誕 150 年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」を 28 年春に開催した。研究所の研究成果と博物館の公開発信機能が結びつき、大きな成功例を残すことができた。こうしたコラボレーションが機構全体の底上げにつながると考える。今後もこうしたチームプレーを期待したい。
・奈文研は、他機関と共同で実施する東大寺東塔の基壇の調査にて成果を上げている。今後も続く東塔跡の調査体制の在り方は、全国へのモデル的な方向性を打ち出したという意味で特筆されるだろう。
・IRCI は、ベトナム・ドンホー版画保護の取組等で成果を上げている。
・民俗文化財を含む無形文化遺産情報に関し、全国ネットワーク化、アーカイブの開発・公開を達成できたことは真に喜ばしく、熊本の震災復興の機会がその試金石となろう。

（希望事項）

・基礎的で地道な史跡・歴史資料・美術工芸・無形文化財・保存科学等の文化財に関する調査・研究事業についても、さらに積極的に推進し、その成果を発信していただきたい。
・各地方自治体と文化財の調査と保存において、大きな成果を上げており高く評価できるが、更なる研究の効率化のためには、機関ごとに、担当する地域や調査・研究の内容を分担し合っていくことが可能か、検討する余地はあると考える。
・近年は、博物館照明の LED 化が促進されているが、交換の手間が省かれ、省エネ化が図られるというメリットのほかに、資料保存上、本当に全く影響は無いのかどうかという点についても、研究を深めていただきたい。
・新しい技術の調査研究を充実させ進めることも重要であるが、過去から積み重ねられた文化財をとりまく技術等の検証も重要と考える。保存・展示に関する長い間の実績のある伝統技術の優れた部分はもっと評価して良いと考えるので、それらの研究も望みたい。
・少ない予算・定員のわりに大きな調査・研究成果を獲得していることの「費用対効果」を算定するための評価方法について、考えていただきたい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進【研究所・センター】

（概観）

・文化財の保存・修復事業や調査・研究・展示を通した国際協力の面では、文化財研究所ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており高く評価したい。特に、文化財の分析・調査・保存・修復技術は日本の技術が各国研究者に伝達され、根付いている。このことは国際貢献としてアジア各地から高く評価されている。さらに多様な国際協力の展開に今後とも期待するとともに、これには大きな予算措置が必要で、所属研究者の個人的努力のみに負うことなく、機構全体でより組織的に取り組むべきであろう。高い保存・修復技術を研究所・センターの使命として、アジア地域を中心とする文化財保護への技術支援と人材育成の更なる促進を図っていただきたい。

（特記事項）

・東文研は東南アジア並びに西アジア諸国の文化遺産の保存修復事業に大いに貢献しており、特にアフガニスタン等中東の戦地における文化財保護や文化財の歴史文化的意義の世界への発信について協力できたことは良かった。28 年 1 月のシンポジウム「紛争と文化遺産」は注目度も高く、内容、発信性ともに好結果をもたらした。

・東文研が手がける研修「紙の保存と修復」は、世界的に高い評価を受けている。国際的にも応用が可能な学習であると同時に、日本文化の海外発信にも寄与することができるもので、他の日本の得意分野での国際協働事業のモデルとして注目したい。

・奈文研のカンボジア・アンコール遺跡群の調査、保存事業は着実に成果を上げている。同じく東南アジアで活動する東文研とのつながりを綿密にし、資料の活用や情報の共有でさらに実りあるものにしてほしい。

・IRCI は、予算や人員が不十分な状態にありながら着実に活動している。アソシエイトフェローがスタッフとして加わり、予算も少し付いたようで喜ばしい。国際研究ワークショップやベトナム・ドンホー版画保護の取組等で成果を上げている。

（希望事項）

・国際協力の成果に関する一般に対する周知が不十分である。一般に向けた講演会、イラストや写真を多用した書籍等、多岐にわたる広報発信を行ってほしい。

・東文研の敦煌研究院との共同調査研究の終了等、中国との国際協力に最近の国家間外交における政治情勢悪化の影響がみられるが、文化財担当機関同士の学術的交流については、可能なかぎり政治と切り離して従来どおり着実に進めていただきたい。

・文化庁委託の「世界遺産委員会審議調査研究事業」の内容の一部が、本項目の業務実績として記載されているのに加え、新中期計画で初めて明文化されている。当該事業は継続することに大きな意味があり、委託が途絶えたとしても情報の蓄積に努めてほしい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信【研究所・センター】

（概観）

・収蔵資料のデジタル化や研究成果の発信に努力している。調査研究報告や紀要・図録類の刊行等、積極的に成果発信に努めている。各人が限られた時間、少ない予算と人員の中でむしろ多くの成果を発信しており、大いに評価したい。しかし、こうした成果を継続的に上げることを個人に負わせることはおのずと限界があり、予算、人的手当て等、機構全体で取り組むべき問題と認識すべきである。また、研究成果が、国内はもとより多言語発信により広く世界に向けて公開されることは、今後より重要となる。

・ウェブサイトによるアーカイブズ・データベースの情報発信サービスは、数多くのアクセスを得ており、高く評価できる。さらにウェブサイトで閲覧できる報告書等の増加や機構内でのリンク等、その充実を進めていただきたい。

・公開講座や展示等のみならず、研究所施設、研究活動の公開を含め、一般向けの情報発信を進めていただきたい。次世代の小中学生に研究所の事業を知ってもらい後継者の芽を育てていただきたい。

（特記事項）

・東文研では文化財情報基盤の整備を継続的に進めており、データの横断的検索を可能とする方向での努力も評価できる。

・奈文研では、国土交通省、文化庁による平城宮跡の復元と整備への協力を行っている。

（希望事項）

・ウェブを用いた国民への発信は、ますますアクセス件数が増えている。文化財はモノであり、視覚的な訴求力が高いので、ウェブによる発信に適している。国民の期待に応えることができるよう、情報収集・整備・データ利用の簡素化等を図っていただきたい。

・刊行物については、ウェブサイトを活用することによって、外部の人が、多くの情報の中から必要なものを容易に見つけ出せるようになるとともに、出版経費の削減も可能になるのではないだろうか。

・東文研が発行する『世界遺産用語集』の発行部数が少ないことについて、世界遺産が注目される昨今、市民の関心に応えるこうした一般向けの冊子は市販の道を探り、実行してほしい。

・所属研究者が外部の学術誌に積極的に研究論文を発表し、そのことが機構内で公表、評価される仕組みづくりを構築していただきたい。

・平城宮跡の展示館やキトラ古墳・高松塚古墳の展示館の事業に対して、特に学芸的分野で、奈文研や機構が持つノウハウを積極的に協力発信していただきたい。そのために担当省庁には適切な人員配置、交通機関の整備に取り組んでいただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上【研究所・センター】

（概観）

・国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託事業をはじめとして多分野において機構ならではの高いレベルで大きな実績を上げており、高く評価できる。その質的内容も年々向上していることが実感される。刊行物によって基礎知識や方法論の普及活動が実施されている点からみても、顕著な適時性・発展性を認めることができる。

・研修については、参加者満足度を重視して内容の向上を心がけていることもうかがえる。現在、機構が地方公共団体等に果たす役割は、より大きくなっており、全国の文化財担当者や、学芸員に対する技術研修の促進に期待したい。

・文化遺産防災ネットワークの活動は目を見張る。人的、物的な援助はもちろん、研修や研究会等を通じて、被災文化財救出に行う手立てはベストを尽くしている。

（希望事項）

・大学における高等教育との連携は、機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野拡大や後継者育成を進める上でも、さらに積極的に展開していただきたい。

・文化財担当者研修について、応募者が定員オーバーで参加できなかったのは、残念なことであり、希望者全員が受講できるように対策をお願いしたい。

・災害時のみならず、地方の文化財保護への取組は深刻で、より大きな国民的合意が必要と思われるので、そうした合意形成のために文化財保護に通じた機構が率先して提言や発言をしていくべきであり、期待したい。

・「文化財の保護の質的向上」を「文化財保護に対する意識の向上」と言い換えて考えた場合、当該地方公共団体の文化財担当の専門職員のみを対象とすることにとどまらず、文化財保護の部署にかかわる担当管理職職員及び事務職職員を含めての研修の強化を図ることが必要である。

・発掘調査を請け負う株式会社が増えており、そこで働く人々への調査技術や文化財保護意識の質的向上や、報告書刊行等への指導等の取組が必要と思われる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

（概観）

・限られた予算、人員の中で、各博物館は懸命な努力をし、国民の期待に応える優れた展覧会を開催している。業務運営の効率化を図ることはもちろん必須であるが、効率化を図ることで、業務の質を低下させてはならないので、事業内容や事務業務の質的な内容を吟味し検討して、個別的な配慮や判断も必要と考える。費用対効果の面での「効率性」をどのように分析、評価するかも課題であろう。また、事業全体の思い切った見直しを図り、成果が十分にみられない業務は縮小・廃止し、効率化の見込める新規業務に切替えを図っていくことも検討してほしい。

・経費削減のため、27 年度も継続して、共通的事務の一元化による業務効率化（財務会計システム等）、業務のアウトソーシングによる経費削減（競争入札による業務委託等）、光熱水料金等の節約、削減を実施しており、地道に努力を積み重ねているという印象を受ける。

・27 年度において自己収入実績額は目標額を大幅に上回り、過去 5 年間で見ると 32%の伸びを達成し、大きな成果を上げている。

・保有資産の活用については、各施設とも前向きにきめ細かく取組がなされている。

・職員の給与水準は引き続き、効率化を進めていただきたいが、人件費のこれ以上の削減がないようにされたい。仕事の量や質は誇るべきものであり、職員の士気向上に水を差すことのないような配慮が必要である。

（特記事項）

・若者をターゲットとした「博物館で野外シネマ」は、若者に支持されている様子がうかがえる。また、施設の目的外使用とはなるが、映画やドラマ撮影での利用は、博物館の PR 効果という面では期待できる。

（希望事項）

・4 博物館・2 研究所・センターの研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、機構全体のスケールメリットを活かした調査・研究・学芸業務をさらに有機的に推進していただきたい。そのために、例えば機構として全施設の横断型研究に、戦略的な研究助成を行ってもよいのではないか。

・寄付金も独自の財源としてさらに獲得強化を図るべきものと考える。長期的には寄付金収入をどうしたら増やせるのか、寄付金獲得のための実務や環境整備の方策を検討してみる価値はあると思われる。

・IRCI について、交付金事業に加えてその研究活動の可能性を広げるため、科学研究費助成事業の取扱機関として認定されていない現状を克服する道を探っていただきたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

（概観）

・長年の課題だった目的積立金を実現化させたことは、長い機構の努力による大きな成果として、高い評価を与えたい。これは法人自立の道を拓くもので、今後とも着実な取組を重ねて行かれることを期待したい。加えて、自己収入の目的積立金化がさらに十分認められ、努力が報われる制度が実現するように、努力と発信をしていただきたい。

・27 年度、自己収入は総額で 2,395 百万円となり、財源に対する自己収入の存在価値が徐々に大きくなるという状況になった。その自己収入の基盤は、平常展と特別展における入場料であり、それは来館者数に依存する。重要なのは、入場料を確保するよう努めること、赤字企画については合理的な理由が説明できること、特別展は全体では採算を確保する（全体ではプラスにする）ことである。

・保有資産の活用による自己収入（施設を様々なイベントや講演会、セミナーやシンポジウム等の場として提供し、利用料収入を得ること）の増加も着実に進められている。こうした業務も着実に拡大するよう、更なる努力を続けていただきたい。

（希望事項）

・特別展での収益の依存が大きいので、従来行ってきた、国内大手メディアとの共催によって日本人向けに広報をかけていく手法だけではなく、外国人の目に触れやすい海外用情報源（メディアよりも実効性の見込める、ガイドブック・動画サイト・観光情報誌等）への働きかけによって、常設展示への導入を図り、年間を通じて来館者数を平準化していく手法も取った方がよい。

・保有資産の有効活用に関連して、出版社が各国立所蔵資料写真を利用する場合、高額であることを理由に利用を抑える動きがあることを付記する。収蔵資料は文化財＝国民共有の財産であり、利用価格の低廉化により、活用しやすくするのが適切である。

・特別展、共催展について東京、京都、奈良、九州の 4 博物館別に収支実績が明示されており、このデータによって機構の運営成績の透明性が高められていると考えられるが、今後は平常展についても同様のデータの開示が望まれる。

Ⅳ　その他人事計画等

（概観）

・諸外国の国立博物館に比較して、我が国の博物館は予算規模、職員数についても全く少ないと言わざるを得ない。少ない職員で多岐にわたる調査研究及び展示・普及活動を展開しているものの、適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。

・専門職制度、アソシエイトフェロー制度に関しては、総評を参照（p.1）。

・「業務運営の効率化」との関連で、中期計画に盛られた「計画的な確保・育成」が果たせたのか、数値を用いた検証では必ずしも十分と言えないのではないかと思われる。

（特記事項）

・2019 年の ICOM 京都大会及び「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が近づいており、日本の文化力を世界に発信する好機と考える。国際発信力強化に役立つ人材強化あるいは採用を望む。

・外国語対応は重要であるが、専門用語の問題等があるため、通常の外注翻訳業者では、ニュアンスまで含めたきちんとした文章が作成できない。機構として各外国語に対応できる職員の配置が必要であろう。

（希望事項）

・研究職員を含む常勤職員の業務・研究評価制度の導入が計画されている。しかし、研究業績の評価は重要である一方で、困難な部分も少なくない。適正な評価がなされるような制度設計が必須である。

・近年の傾向として、任期付き非常勤のアソシエイトフェローや研究補佐員等の役割や比率が高まってきているが、将来の研究体制維持のためには、できるだけ常勤の研究・学芸職の増加に努力を進めていただきたい。全国の文化財関連施設の拠点として、職員の在り方の模範となるところであり、ほかの公的、私的施設に与える影響は大きいことを考えて、主導的立場であることを意識して、理想に近い姿を示す努力も望みたい。

・最新の研究用大型機器が導入されているが、運用や維持に多大な労力を要する。それらを専門に扱うための人員配置が望ましい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	小　林　　忠	（学習院大学名誉教授・岡田美術館館長）
副委員長	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長）
委員	鮎　川　眞　昭	（公認会計士）
委員	石　川　日出志	（明治大学文学部教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	坂　本　弘　子	（朝日新聞社執行役員名古屋本社代表）
委員	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	名児耶　　明	（公益財団法人五島美術館常務理事・副館長兼学芸部長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院文学研究科教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞大阪本社記者）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　博物館調査研究等部会

部会長	河　合　正　朝	（慶應義塾大学名誉教授･千葉市美術館館長）
委員	榊　原　　悟	（岡崎市美術博物館館長）
委員	名児耶　　明	（公益財団法人五島美術館常務理事･副館長兼学芸部長）
委員	浜　田　弘　明	（桜美林大学教授）
委員	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院文学研究科教授）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会　研究所・センター調査研究等部会

部会長	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委員	石　川　日出志	（明治大学文学部教授）
委員	岡　田　保　良	（国士舘大学イラク古代文化研究所教授）
委員	齋　藤　　努	（国立歴史民俗博物館研究部教授）
委員	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委員	柳　林　　修	（読売新聞大阪本社記者）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

河 合　正 朝

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

各館は、それぞれの持つ特徴を活かすべく、その方針に従い活動を展開し、目標とするところをほぼ達成している。特に、東博、京博は、収集において、寄贈・寄託品の受け入れおよび活用においては、東博、京博、九博が前年度を上回る成果を上げたことを評価したい。なお、引き続き、文化財の次世代への継承と、その保存活用の観点から、作品の寄贈、寄託に関しては、努めるとともに、収蔵される作品については科学的な技術を取り入れた修理を行うなど質の向上に向け努力を重ねることが期待される。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

各館ともに、平常展の質の向上に向けた努力のあとが認められる点を特記したい。特別展において国民の求めるところを思量しつつ質の高い展示の実施し、相応の効果を上げている。京博は、「文化財ソムリエ」や「京博ナビゲーター」において、奈良博は、ボランティア活動を活用した「世界遺産学習」、九博は、アジア諸国との文化交流に力を入れ成果を上げるとともに、潜在的利用者と作る新しい博物館像を模索しつつ、その開拓・発掘を目指し一定の成果をあげている。東博は、聴覚障碍者の鑑賞開発に取り組むほか、文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートークを行うなど、学習機会の提供に努めたところを評価したい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

各館には、ナショナルセンターとしての機能の強化を図り、持てる能力を発揮することが期待されており、その直接的な利用者にとどまらず、全国の美術館・博物館もまたその動向に注視している。小、中、高校の教員に対する研修が設けられ相応の成果を上げ、順調に推移していることが知られる点を評価したいが、大学との連携、インターンシップの導入や整備、いわゆる作品解説ボランティアにとどまらない、ボランティアの多様な活用など、課題は少なくないと考えられるが、各館はそれぞれに一段の工夫と、その結果としての成果を期待している。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

機構内の研究員にとどまらず、外部研究機関、外部研究者からの協力を得ることで、調査、研究の質の向上が図れ、期待するところの相当の成果があった。各館は、その調査、研究を通して、多くの知見を得、それを企画展や平常展の展示に反映することが出来た。また、今後の展示や研究・教育普及事業のなかに生かすことを目指している点も評価したい。九博の「博物館危機管理としての市民共同型ＩＰＭシステム構築」や「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」を評価する。外部資金の導入についても引き続き努めることが望ましい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

奈良博、九博における、アジア諸国に重点を置いた継続的な交流・協力の実績は評価されよう。東博の国際協力推進に対する積極的取り組みにも今後の期待が大きい。海外における日本美術・文化財の保存・保護の現状の把握、さらには国際的に活躍し得る、次世代の人材育成にも視野を拡げた各館の対応も必要となろう。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

置かれた地域や与えられる目的、構成する人的資源の活用など、各館がそれぞれの特徴を活かして得たところの成果を発信することに努めた跡が認められるとともに、併せて情報基盤の整備・充実を図っていることが理解出来る。一方、求められる事業の実現には、それに相応しい人材と相当の経費（予算）の確保が必要であることは言うまでもない。引き続き予算獲得のための努力が不可欠である。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

本年もこのことに関してはひとまず順調に推移してものと評価する。しかし、「文化財保護の質的向上」をここでは、「文化財保護に対する意識の向上」と言い換えて考えた場合、当該地方公共団体の文化財担当の専門職員のみを対象とすることにとどまらず、文化財保護の部署にかかわる、担当管理職職員および事務職職員を含めての研修の強化を図ることが必要であり、それなくして文化財保護の質的向上すなわち保護意識の向上を図ることは困難である。特に都市部における都市の開発と文化財保護の問題は深刻である。世界遺産を目指す武家の古都鎌倉市にあっても法には触れることはないとの解釈のもとに遺跡の破壊が粛々と行われているのが現状である。この点に関しては今後の課題として検討の機会を持って頂きたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

共通的な事務の一元化による事務の効率化に関しては、本年も評価すべき成果を上げている。しかし、事務の効率化を求めるあまり、博物館本来が担うべき業務の質的内容の低下を招く恐れのあると考えられる事柄に関しては、その内容を吟味し検討するなど、個別的な判断も必要である。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

自己収入の増加が果たされ、寄付金、科学研究費等の外部資金の導入がともに目標件数を上回る成果を達成したことは高く評価したい。また、長年の課題だったかと思う、いわゆる目的積立金を実現化させたことは、長い機構の努力による大きな成果として、併せて高い評価を与えたい。これは法人自立の道を拓くもので、今後とも着実な取り組みを重ねて行かれることを期待したい。

Ⅳ　その他人事計画等

公務員の人員削減、機構内における人件費の削減が進められるなかにあって、常勤職員を増やすことには相当の困難を伴うものと思われるが、給与体系に工夫を加え（非公務員化のメリットを活かした制度の活用か?）、専門職常勤職員の採用が図れたことは評価されよう。しかし、一方、学芸業務の多くをアソシエイトフェローと称する非常勤職員に頼らざるを得ない現状に大きな問題があろう。ナショナルセンターとしての役割を担う機構内の諸機関は、優秀な人材の育成とその確保にも自ずと責任を負わされている。それは、継続性を求められる博物館・研究所のいわば生命線であり、この点において、アソシエトフェローの専任化を含む、正規職員採用の増員を視座に入れた真摯な検討が引き続き必要である。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

総合的な判断において機構は、その年度内および中期計画に基づいて目標としたところの殆どを達成しているものと判断し、評価したい。引き続き、調査・研究・教育普及など、国民に提供するサービスの向上に向けて、時宜に叶う施策がなされることが期待される。それには、安定した資金の確保と優秀な人材の育成とその継続的雇用が不可欠である。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

鮎川　眞昭

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

① 前年同様、機構は限られた予算と人員の中で最大限の努力と熱意を以て業務に当たってこられたことを高く評価しています。

② 各博物館の収蔵品の新規取得については、東京と京都において昨年を大幅に上回る数の新規購入が実現し、大きな成果が上げられており、その一方で奈良と九州での取得が前年度より落ち込む結果とはなっていますが全体として良好な結果となっています。　収蔵品の取得がそれぞれの博物館単位で行われており、各博物館の独自性と個性を尊重するという基本方針は変わっていないように見受けられます。

③ 施設の環境整備や収蔵品の修理データの蓄積と科学技術の導入については、限られた予算の中で適切になされており、機構全体で必要な予算枠を確保し、所期の成果が挙げられているものと考えています。

④ 以前の総会で、「独立行政法人国立文化財機構の経営環境について」（平成 25 年 4 月 23 日付）が提示され、我が国の文化財事業に投入されている国の予算と人員は韓国や中国のそれに比較しても明らかに見劣りするというデータが示されました。　こうした状況は短期間での改善は期待できず、長期的な取り組みを続けていくしかありません。今回の総会でも、フランスの多額な国家予算の割り当ての例が挙げられていました。　我が国の現状を踏まえ、国、行政（文部科学省、文化庁など）並びに社会全般に対する情報発信を積極展開し、必要十分な予算財源の確保と支援を得られるよう、機構としては幅広い広報活動を持続的に展開することが望まれており、これには長期計画による対策が必要です。

⑤ 前回も申し述べましたが、緊急災害時（今後 30 年以内に首都直下型地震や東海、南海、東南海トラフ連動の大震災などの巨大地震の発生リスク）の対応については、機構としても施設等について高い耐震強度を確保することが急務であり、予算が限られている中でこうした分野にどれだけ先行投資が出来るかがカギとなります。　　すでに「理事長のマネジメント強化」策の一環として危機管理マニュアル等リスク管理に関連した諸規定類の改訂を行っており、また、独自の調査結果に基づき、具体的な補強工事に必要な予算要求を行っていることが報告されています。
今後は、対応の状況（機構の判断として、現在の設備の耐震強度は十分か、どの程度の耐震補強が必要かなど）を組織的、網羅的にチェックし、その結果を報告する必要があると考えます。

⑥ 文化財の修理、修復のため、あるいは科学的な調査研究に様々な最新機器や技術が導入されていることは大変評価できることであり、文化財保全のために一層の必要財源確保が強く望まれます。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

① 最近の海外観光客（インバウンド）の急増に伴い、日本の文化、伝統、芸術を最も効果的にアピールする場として国立博物館の役割は高まっています。こうした中、外国人来館者が増加傾向にあることは望ましいことです。また、日中関係が難しい状況下、中国の歴史文化との交流を象徴する「兵馬俑」の展覧会が成功を収めたことは大いに意義あることと思います。機構の努力により、さらなる国際的文化交流と国際関係改善のための催事が企画され、成功することが期待されます。

② 来館者対応サービスについては“音声ガイド”や日本語以外の解説パンフレットなども充実してきており、外国人来館者対応も順調に出来ていると思います。

③ 来館者に対するサービスの充実と満足度の向上のための対策が毎年議論されています。特に人気の高い展覧会における混雑時対応（来館者の異常集中による大混雑、長時間の待ち行列、鑑賞時間制限などなど）をどうするかは簡単な解決策はないのが現状であるとの事務局の説明がありました。炎天下での長時間待ちに対して日除けテントを設置し、給水所を設けるなどの地道な工夫が続けられており、入場者数の制限のためにチケット購入の予約制を導入するなどのアイデアも委員から提案がありました。今後も来館者・満足度の向上のための様々な工夫が期待されます。

④ 来館者数の増加策として東京都美術館で現在、開催中の「若冲展」が例に挙げられ、注目されました。NHK で、頻繁に若冲作品の紹介と解説などの特別番組が並行的に放映され、一般の関心が非常に高まった中で「若冲展」が開催されました。　その効果もあって、この展覧は大人気となり、大成功（大混雑）につながりました。このように新聞と TV というマスメディアの影響力は極めて大きく、今後も国立博物館での催事はマスコミとの連携が大きな効果を生むとの認識が改めて共有されました。機構としても今後はマスコミとの連携を常に念頭に置いて広告宣伝活動を効果的に展開するなどの対策を含めた催事企画を練ることが必要だと思われます。

⑤ 今年度においても平常展は、来館者数および出品数など、東京が前年を大きく上回る成果を上げたほか、他の博物館も概ね前年実績あるいは目標を上回る活動が展開されています。
また、特別展では、東京（6 件）、京都（3 件）、奈良（4 件）、九州（4 件）が開催され、ほとんどの展示で目標来館者数を上回り、全体的に好調な結果が見られています。　中でも京都の琳派展と奈良の白鳳展が大成功を収めました。例年通り、各博物館それぞれに特別展の開催に努力されていますが、結果に場所ごとのばらつきが多くあります。　地域差が色濃く出ておりこうした地域性、特色にどう対処するかといった問題もあるように思われます。

⑥ 前回の評価書において私は、定量評価値として来館者数と陳列品数に加え、入場料収入金額も「評価委員会」に報告されるべきではないかと申し上げました。　これまでの総会資料には特別展、共催展の収支表において入場料収入と対応するコスト額のデータが提示されました。これは大いに有意義なことと思います。今後は、平常展にかかる同様のデータが開示されるように改善をお願いしたいと思います。

⑦ 平成 25 年度には機構の発足以来、初めて入館者数が 300 万人を下回りましたが、昨年度（平成 26 年度）は 373 万人にまで回復したのに続き、本年度は 399 万人に達したことが報告されています。（平常展では前年比 16 万人増の 146 万人、特別展では前年度比 9 万人増の 252 万人）このため、入場料収入は 674 百万円から 1,090 百万円と大幅な増加となっています。入場料収入は機構の最大財源である運営費交付金収益 6,620 百万円の 16.5%に相当します。前年度まではその比率は 10%前後でしたから自己収入の伸びは極めて顕著であるといえます。　私はかねてより、運営財源に制約がある機構においては自己収入という自助努力をしていくことが当面の現実的課題であると考えてそのことを強調してきました。　今年度の入場料収入（1,090 百万円）は 5 年前（平成 23 年度の 808 百万円）に比較して 282 百万円増加しており、率にすると 35%の増加となっています。

⑧ このような成果は機構自体のご努力のたまものと思いますが、平常展、特別展それぞれに集客戦略を設定し来館者数の増加を目指す体制を構築し目標達成を図る仕組みが必要と思われます。　来年度は是が非でも来館者数の 400 万人越えを達成するよう、さらなるご努力を期待しています。

⑨ 来館者に対して快適な観覧環境を提供するという目的のため、施設、設備の整備充実に加え、付帯設備としてのミュージアムショップやレストラン等、館内サービスの充実が求められています。　それに加え、保有資産の有効利用の推進（各種イベントへの施設の提供等）もあり、こうした領域での収入（展示事業附帯収入と財産利用収入）も徐々に拡大傾向にあります（平成 25 年度、546 百万円、平成 26 年度、689 百万円から平成 27 年度、703 百万円）。　博物館施設や設備の有効利用と利用環境の改善によるさらなる自己収入の増加も大事です。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

① 多岐にわたるテーマが設けられ、それぞれに適切な調査研究活動が展開され、研究成果の公表も多様なメディアを利用して活発に行われていると思います。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

① 多岐にわたる調査研究テーマが設けられ、それぞれに適切な活動が展開されており、特段の問題はないと思います。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

① 文化財保護に関する様々な分野での国際協力事業が展開され、適切な活動が実施されており、特段の問題はないと思います。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

① 各博物館の広報印刷物の刊行やウェブサイトの活用推進も高く評価でき、特段の問題は無いと思います。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

① 地方公共団体への協力等は全国各地の公私立博物館に対する収蔵品の貸出やこれらに対する援助、指導助言などを通じて活発になされており、特段の問題は無いと思います。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

① 平成 22 年 12 月 7 日閣議決定の基本方針のもとで、機構に対しては中長期的に一般管理費の 15%以上の削減、業務経費の 5%以上の削減という目標が設けられています。なお、平成 19 年度の法人統合による機構運営に際しては平成 23 年度までの 5 年間で 19 年度一般管理費の 10%相当の削減を図ることが目標に掲げられ、この目標はすでに終了しています。これらの基本方針のもとで、機構は鋭意、目標値の達成に向けて様々な努力、工夫をしていることは高く評価できます。

② また、一般管理費中の業務経費に次ぐ重要費目である人件費の削減については「国家公務員の給与水準等を十分考慮してその適正化に取り組むこと」とされており、毎年度、「国家公務員の給与の改訂および臨時特例に関する法律」に準じた給与水準の設定が行われていると理解しています。この結果、機構の役職員にかかるラスパイレス指数は 1.0 を若干下回る水準に保たれていることが報告されています。財政的にも厳しい状況下、平成 28 年度から開始する第 4 期中期目標・中期計画において採用および人事配置等の人事計画を策定し組織全体の効率運営を遂行していくとの報告を受けました。

③ 前年度に続き、今年度も継続して文化財機構が経費削減のため、以下のような具体策がとられています。

- 共通的事務を一元化して業務効率化を図ること（具体的には財務会計システムや web 給与システム、機構 VPN の導入など）。
- 計画的に一定の外注可能な業務をアウトソーシングして経費削減につなげること。（博物館の施設管理運営や来館者対応業務等の民間競争入札による業務委託など）
- 使用資源（電気、ガス、水道料金等）の節約、削減を行うこと。

当年度、機構では電気、ガス料金の高騰などの増加要因があったにも関わらず、コスト削減に注力して一定の成果を上げています。また、一定の業務について競争入札によるアウトソーシングを行うことでコスト削減をするなど、機構は地道に努力を積み重ねているという印象を受けています。

④ 自己収入の増大も文化財機構の目標として設定され、総会開催時提示資料には基準額、目標額と実績額が記載されています。自己収入は毎年、基準額の 1.16%の増加を図ることが目標とされており、当年度において自己収入実績額は目標額を大幅に回り、過去 5 年間で見ると 32%の伸びを達成しています。大きな成果だと思います。

⑤ 自己収入の財源として寄付金も独自の財源としてさらに獲得強化を図るべきものです。 機構ではこれまで寄付金は目標としては件数を示すものの、なぜか金額を目標に示していません。 やはり寄付金も機構の財源の新しい柱としてさらに強化するべきものと考えます。 我が国では寄付金文化がない、公益のための寄付の習慣が乏しいといわれていますが、長期的には寄付金収入をどうしたら増やせるのか、寄付金獲得のための実務や環境整備の方策を検討してみる価値はあると思います。

⑥ 機構の役職員に対して一律に公務員人事制度を準用した形での人事給与制度を適用するのではなく、機構独自に専門技術者の育成できるような人事制度を検討していくべきと考えます。以前から指摘されているように有能な人材の流出、過重労働時間などの問題や、文化財に関わる人材の非正規雇用（不定期採用、パートタイマーや嘱託などの人員）問題などが懸念されます。こうした人事にかかる長期的・継続的な問題については文化財機構においての継続的な取り組みとモニタリングを行い、その結果を総会に報告することが望まれます。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

① 今年度、文化財機構への運営費交付金収益は 6,620 百万円であるのに対し、自己収入は総額で 2,395 百万円となり、交付金に対する自己収入の存在価値が徐々に大きくなるという状況になりました。機構の財政基盤は国（文化庁と文部科学省など）の政策や方針に大きく依存し、国による機構への財務支援は十分とは言えないなかで、自己収入の増加は機構の自立度が高まったことを意味します。

② その自己収入の基盤は、平常展と特別展における入場料であり、それは来館者数に依存します。 機構の開催する特別展などは必ずしも収益性の追求を目的するものではなく、場合によっては学術的あるいは啓蒙的な観点から採算を度外視するケースもあり、それは非難されることではありません。しかしここで大事なことは、最大限、入場料を確保するよう努めること、赤字企画については合理的な理由が説明できること、特別展は全体では採算を確保すること（全体ではプラスにする）です。 こうした結果の判定に役立つデータは年々改善され、分かりやすく提示されるようになったのは大きな改善だと思います。

④ 特別展、共催展について東京、京都、奈良、九州の 4 博物館別に収支実績が明示されています。このデータによって機構の運営成績の透明性が高められていると考えます。そして今後は平常展についても同様のデータの開示が望まれます。

⑤ 保有資産の活用による自己収入（施設を様々なイベントや講演会、セミナーやシンポジウムなどの場として提供し、利用料収入を得ること）の増加も着実に進められています。こうした業務も着実に拡大するよう、更なる努力を続けていただきたいと思います。

Ⅳ その他人事計画等

特にコメントはありません。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

現在、機構の自己点検結果は、「外部評価委員会」（委員長を含めて 14 名の委員によって構成される）によって再評価が行われます。また、この評価委員会の下に更に 2 つの部会（「博物館調査研究等部会」（部会長を含む委員、5 名）、及び「研究所・センター調査研究等部会」（部会長を含む委員、6 名）が設置されています。

総会はこれら 11 名の委員に加え、「法人運営全般」を担当する委員 3 名（評価委員会委員長が含まれます）が構成員となっています。　このように、評価委員会・総会は 2 つの部会が第 1 次評価検討を行い、その結果を踏まえた上で総合的な評価判定を行うものとして位置づけられています。　しかし、「法人運営全般」を担当する委員は他の部会に比して相対的に人数が少なく、また評価委員として与えられる検討時間が少な過ぎるように思われます。　他の部会と同様、「法人運営全般」担当委員にも「評価委員会」総会の開催に先立って、法人の各年度における経営課題、人事や経理財務問題などといった事柄（機構の文化・芸術活動の分野の問題とは別個に）を予め検討する機会（部会としての機能）を設けていただきたいと思います。　総会当日の限られた時間での資料に基づく説明と質疑だけでは、なかなか正確に問題点を把握し、議論することは難しいと感じています。

これとは別に、現在、機構が自己評価に費やすエネルギー（時間とボリュームと人手）は大変なものだと感じています。　これほど正確、詳細、かつ大量な評価関連資料を常に作成し集積しなければならないのは些か「過剰」という印象を持ちます。

資料の作成や個別の案件ごとの自己評価はもう少しルール化し、内部組織による効率的な点検機能に委ねるべきではないかと考えます。　つまり内部の管理部門による監視や監督機能を強化し、適時に是正措置を講ずるといった組織的な対応ができれば現在の自己点検作業は大幅に簡素化できるのではないかと思われます。外部評価委員会はそれらを要約した点検結果を再評価することでより効率的効果的な評価が行えるように思います。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

石 川　日出志

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

文化財の新規購入、寄贈・寄託の受け入れによる資料の整備充実に努めるとともに、収蔵庫・展示室の環境や文化財の保存状況の調査、収蔵資料のデータベース化やデジタル化、など保存と継承に関するもっとも基礎的かつ重要な調査研究が適切に執行されている。また、その公開についても継続的な努力がなされている。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

各博物館とも、各種展示会を積極的に開催して国民による歴史・文化理解に資するのみでなく、新たな関心の醸成に努力している。それは来館者数に端的に表れている。

しかし、特に東京国立博物館では、大規模な特別展が開催されているが、所蔵資料の性格とは全く異なり、かつ博物館スタッフの専門性を大きく超えたテーマの展示会もある。そうした企画が常態化することは博物館スタッフの疲弊を招き、ひいては「国民に対して提供するサービス」の低下を招くのではないかと危惧する。

入館者による理解をサポートするために休憩施設の拡充や、入館待ち時間表示など、地道な努力を重ねる点にも敬意を表するが、予算的な制約もあり効果が十分とはなっていない。拡充が求められよう。

国外への発信としては、東京国立博物館によるアメリカ・フィラデルフィア美術館での狩野派展、奈良国立博物館による韓国・国立慶州博物館での「日本の古墳展」が開催された点は高く評価する。特に後者は、政治的冷却状態があるなかで、文化面で両国民による相互理解を育む上で、重要な取り組みである。韓国国立中央博物館と東京国立博物館との連携も継続しており、今後とも努力が重ねられることを期待する。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

各博物館とも、所蔵資料の貸し出しや展示・企画への援助・助言を通して、全国の博物館との連携を進めている点は評価できる。しかし、さらに積極的な支援が必要ではないか。

次世代および現役の文化財担当者を育成・支援する意味から東京国立博物館が実施する研修は、一層の拡充が望まれる。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

各博物館・研究所・センターとも、基礎研究の充実を含めてきわめて多岐にわたる調査研究を活発に展開していることは高く評価する。しかし、特に東京国立博物館では大型展示企画の恒常化によって、調査研究が十分展開できない部分があるのではないかと危惧する。調査研究は博物館の根幹をなすものであり、展示企画の削減は困難であろうからスタッフ拡充による改善が望まれる。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

アジアにおいて調査研究面でもっとも蓄積のある組織として、各博物館および東京・奈良文化財研究所が研修・視察の受け入れや研究者招聘、学術交流会の開催等の国際協力を、継続的かつ積極的に行っている。特に、文化財の分析・調査・保存・修復技術は日本の技術が各国研究者に伝達され、根付いている。このことは国際貢献としてアジア各地からきわめて高く評価されている。しかし、一部では政治的冷却がこうした貢献の継続にブレーキとなり危惧される事例も起きている。これらの貢献は、単に文化財保護にとどまらず、アジア各国の相互理解に大きく資するものであり、今後とも国際貢献の推進に努力されることを強く願う。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

各館・研究所とも収蔵資料のデジタル化や研究成果の発信に努力している。調査研究・修理報告や紀要・図録類の刊行など、積極的に成果発信に努めている。しかしながら、所属研究者が外部の学術誌に積極的に研究論文を発表し、そのことが機構内で公表、評価される仕組みづくりを構築していただきたい。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

奈良文化財研究所は全国の地方公共団体が行う埋蔵文化財の調査研究に対して、東京文化財研究所も文化財の分析・保存・修復等に対して従来から継続して支援活動を重ねており、高い評価を得ている。また、両研究所と同列には扱えないものの、各国立博物館は、地方公共団体の展示への資料の貸し出しや企画協力を行って文化財保護の質的向上に努めている。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

機構内各組織の業務運営の効率化・適正化が積極的に進められている。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

保有資産の有効活用に関連して、出版社が各国立所蔵資料写真を利用する場合、高額であることを理由に利用を抑える動きがあることを付記する。収蔵資料は文化財＝国民共有の財産であり、利用価格の低廉化により、活用しやすくするのが適切である。

Ⅳ　その他人事計画等

少ないスタッフで多岐にわたる調査研究および展示・普及活動を展開している。しかし、東京国立博物館では、スタッフの専門性を大きく超える大型展示会が繰り返されているが、それを担うに相応しいスタッフの任用があるべきである。アソシエイトフェロー制度は、次世代の人材育成の観点では適正である一方で、専任スタッフの業務過多のために本来専任が担うべき業務までを担当せざるを得ない状況にあるのではないか。業務に見合う適正な人員配置が望まれる。

また、研究職員を含む常勤職員の業務・研究評価制度の導入が計画されている。しかし、研究業績の評

価は重要である一方で、困難な部分も少なくない。適正な評価がなされるような制度設計が必須である。
その他（総合的な事項、自己点検評価について等） 自己点検評価報告書の記述法について、施設およびプロジェクト間で精粗等の差異がみられる。報告書作成の日程的制約によるものであろうが、次年度に向けて、早い段階に今年度報告書を自己点検しておくのが望まれる。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

岡 田　保 良

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

各館とも新規の収蔵品の増加は順調のようだが、京都のように寄贈・寄託が一気に増加することが収蔵施設を圧迫しないか懸念され、それを避けて所蔵品を分散させるとしても、その活用を十分に図ることを望みたい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

インバウンド観光が飛躍的に伸びている現状を踏まえ、さらには東京オリンピックにも備え、博物館の外国人対応はより積極的に取り組むべき課題と考えられるが、その実態を数量的にしっかりとらえる必要があろう。

ある委員からの指摘にあったことだが、資料の提供・貸与を含む韓国中央博物館および慶州博物館との交流は高く評価したい。

2019 年の ICOM 大会が京都で開催されることになり、その活動がようやく注目されるようになった。博物館の国際標準の議論やブルーシールド国内委員会設置の問題など、今後は ICOM 活動への理解と取り組みをより積極的に支援し、周知を図っていただきたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

報告会の議論に見られたように、収蔵品の貸与、あるいは企画展の巡回など、日本各地の博物館施設との連携をさらに強め、地方在住の国民にも等しく文化遺産に接する機会を保証すべく、意を払う必要があるようだ。なお東博における特別展について、来館者数の大幅超過やそれに伴う待ち時間の苦痛が予想される場合、首都圏近隣の施設との連携巡回を試みることはできないか、一考の余地はありうるのではないか。

来館者による博物館展示品に対する写真撮影の許諾について、各館一様ではないという事務局報告と意見交換があり、それぞれの展示収蔵品の特色の相違が浮き彫りされ、肯定的な意味で興味深かった。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

民俗文化財を含む無形文化遺産情報に関し、全国ネットワーク化、アーカイブの開発・公開を達成できたことは真に喜ばしく、熊本の震災復興の機会がその試金石となろう。有形及び不動産文化財については、指定・登録物件についての懸念よりも、東北、神戸の経験から、むしろ未指定の文化遺産の消滅が危惧されるなか、その調査と評価を急ぐ必要に迫られている。

多様で独創的な研究が続けられている文化財保存環境の研究事業のなかでも、カビ被害対策と展示ケースに発する問題への取り組みが目を引いた。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

27 年度は海外の文化遺産を巡る状況の中でも、中央アジア諸国との学術交流と並んで、シリア、イラク、アフガニスタンといった国々の危機的事態がとくに注目され、1 月のシンポジウム「紛争と文化遺産」は時宜を得たもので注目度も高く、その内容、発信性ともに好結果をもたらした。

他方、東文研と中国との協力関係が終了したことは、一区切りとはいえ惜しまれることに違いなく、自ら「新たな研究展開のための準備」を目指したはずで、今後、望むらくは新たな連携の可能性を追求すべきであろう。

国際研修のなかでは東文研を中心とした「紙の保存と修復」分野が、スペイン語圏を含む国外研修・技術移転の実績から世界的に抜群の評価を受けており、研究所の存在感をひときわ高めている。他の日本の得意分野での国際協働事業のモデルとして注目したい。

文化庁委託による「世界遺産委員会審議調査研究事業」の内容の一部が、本項目の業務実績として記載されているのに加え、新中期計画ではじめて明文化されていることに留意する。この種の事業は継続することに大きな意味があり、委託が途絶えたとしても情報の蓄積に努めてほしい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

博物館に比して文化財研究所はより専門性が強い機関だけに、一般向けの情報発信は後回しになりがちで、そのことが国民レベルでの知名度や存在感を地味なものにしているのではないか。そのこと自体は本質的問題ではないが、間接的に予算確保や事業の拡大に少なからず与える影響がありそうで、研究所施設、研究活動の公開を含め、一般向けの情報発信の必要性が以前に増して格段に強くなっていることに留意したい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

熊本の大震災による文化遺産被害への対応は、28 年度以降の大きな課題となることは間違いなく、神戸、東北などこれまでの経験を十分に踏まえ、文化庁、地元自治体、さらには研究機関や文化財保護団体等との連携を含む緊急レスキュー体制の中核機関として、当文化財機構に求められる役割に留意したい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

各機関の事業・活動の社会的効果がいかに達成されているか、その外部評価の在り方について、できるだけ定量的尺度で行うことは一見正当に思えるが、研究実績の定量化は容易でなく、また博物館の実績を来館者数偏重に導きかねない。来館者の満足度や教育的効果、機関とそのスタッフの研究実績の社会的評価にも十分な光を当てたいと思う。

無形文化遺産センターについて、交付金事業に加えてその研究活動の可能性を広げるため、科研費取り扱い機関と認定されていない現状を克服する道を探っていただきたい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

資料から推し量ることは難しいが、損益計算書に表れている通りとすれば、運営費交付金収益は前年度比わずかに減、それを事業収入が補うという図式が見て取れる。これを良しとするかどうか、いささか気になった。的確な外部評価が、結果として運営費交付金の減額につながるとすれば、それは評価者の本意

ではない。

Ⅳ　その他人事計画等

東博ではかつて 55 名のスタッフ全員が考古美術の学芸員だったところ、いまではその数 3 分の 2 となっているとの報告は、業務は各段に増大しているに違いないだけに、衝撃的ですらあった。文化予算の目標 1000 億にとどまらず、国家予算の 1 パーセントという理想を掲げて政府にアピールしたいものだ。

国内の人材養成の観点から、アソシエイトフェローという任期付きの雇用形態が人材投資に貢献していないという議論は傾聴に値する。機構内での処遇とは限らぬまでも、他機関・機構とも協調の上、任期後は我が国の文化財保護継承の一翼を担える道筋を用意できる人事システムを望みたい。

以上の点を含め、「業務運営の効率化」との関連で、中期計画に盛られた「計画的な確保・育成」が果たせたのか、数値を用いた検証は必ずしも十分と言えないのではないか。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

今年度から新たな中期構想と計画がスタートしているはずだが、承知している限りでは、それに対する説明は聞かれなかった。また事前に周知が図られた形跡も見当たらない。点検評価のプラットフォームともみなしうるものであり、何らかの言及がほしかった。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

齋 藤　努

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

継続的な資料収集が進められており、良好な環境整備と伝統的修理技術の組み合わせによって、次代へ向けた資料の保存措置が取られている。博物館における収蔵スペースや展示スペースの施設改善、新規設備による資料からのデータ取得、データベース化も計画通りに進められており、全体として高く評価できる。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財機構という組織のみにとらわれず、各機関がある地域内に所在する他組織との連携を進めていくことも有効であろう。例えば京博ならば、地域内の公立・市立博物館・美術館のみではなく、寺院などを含む幅広い観光施設との連携（共通入場券の導入など）、九博ならば太宰府の他に福岡市まで視野に入れた連携などが考えられる。

文化財調査や保存の実態を一般市民に発信するために有効な方法として、年に何度か、実際に体験してもらうことができるような機会がほしい。

ＳＮＳは有効ではあるが、発信業務に手間がかかることと、外国語で実施する必要性も出てくるので、もし行うならば、継続していくための簡便なシステムをきちんと整備しておいた方がよい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

限られた予算と人員の中であまり手を広げすぎることは現実的とはいえないが、いわゆる「美術品」以外の資料や、地方博物館所蔵資料に対してどのような対応が取れるのか、検討する機会があってもよい。場合によっては、うまく機能していないいくつかの事業を縮小あるいは廃止し、より効率的で有効な新規事業に切り替えてしまっても差し支えないのではないだろうか。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

各地方自治体と文化財の調査と保存において、大きな成果をあげており、高く評価できる。これまでの経緯や今後の計画もあるので、直ちに体制を変えることは難しいが、研究の効率化のためには、機関ごとに、担当する地域や調査・研究の内容を分担しあっていくことが可能か、検討する余地はあると考える。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

アジア諸国を中心に、精力的な国際協力を展開し、大きな成果をあげているが、一般に対する周知が不十分である。専門家向けの報告書やシンポジウムに加え、一般（中高生でも理解できる程度に内容を簡素

化したレベルであることが望ましい）に向けた講演会、リーフレット作り、イラストや写真を多用した書籍、など、多岐にわたる広報発信を行ってほしい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

情報資料の収集と整備は十分に行われているが、刊行物が多く、機構から周知したい重要な情報がどれなのか、見えにくくなっている。ウェブサイトを活用することによって、外部の人が、多くの情報の中から必要なものを容易に見つけ出せるようになるとともに、出版経費の削減も可能になるのではないだろうか。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

調査のために各地方公共団体を訪れると、現場の状況と要請に即した、文化財に対する調査・保存・修復・整備・活用などが、文化財研究所等によって適切に行われており、その質的内容も年々向上していることが実感される。刊行物によって基礎知識や方法論の普及活動が実施されている点からみても、顕著な適時性・発展性を認めることができる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

現状では、限られた予算と人員の範囲内で、多岐にわたる事業を展開せざるを得ない状況にある。事業全体の思い切った見直しをはかり、成果が十分にみられない業務は縮小・廃止し、効率化の見込める新規業務に切り替えをはかっていくことも検討してほしい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

博物館では、特別展示で多くの来館者を呼び込むことによって収益を得ており、常設展示のみの時期との落差が大きい。そのため、年間来館者数を年度ごとに増やしていこうとすると、特別展示の企画内容を派手にしていかざるを得ず、いずれ頭打ちになってしまう危険性も予想できる。
しかし、日本人と興味の所在が異なる外国人来館者にとっては、むしろ常設展示の資料の方が、関心を引きやすいはずである。従来行ってきた、国内大手メディアとの共催によって日本人向けに広報をかけていく手法だけではなく、外国人の目に触れやすい海外用情報源（メディアよりも実効性の見込める、ガイドブック・動画サイト・観光情報誌など）への働きかけによって、常設展示への導入をはかり、年間を通じて来館者数を平準化していく手法も取った方がよい。

Ⅳ　その他人事計画等

外国語対応は重要であるが、専門用語の問題などがあるため、通常の外注翻訳業者では、ニュアンスまで含めたきちんとした文章が作成できない。機構として、各外国語に対応できる職員の配置が必要であろう。
また、最新の研究用大型機器が導入されているが、それらは運用や維持に多大な労力を要する。それらを専門に扱うための人員配置が望ましい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

機関ごとに評価基準がやや異なっているところがあるようにみえた。事前に統一をはかっておいた方がよい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

榊 原　悟

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

さまざまな条件下で行われる文化財の収集（購入、寄贈、寄託）であるため、各年度によるばらつきは当然だが、機構全体としては前年度並みの成果を達成した。そのために払った各館の日常的な情報収集・調査活動に対して敬意を表したい。今度とも収集の充実をはかるべきことは論を俟たない。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

東京・京都・奈良・九州の４国立博物館が、それぞれ館の特性や地域性を踏まえ、特別展、平常展、特集陳列等に工夫をこらした。ことに京都国立博物館の「桃山時代の狩野派」展は、同館が 1996 年に行った「室町時代の狩野派」展以来、三度に及び狩野派展（「狩野永徳」展・2007 年、「狩野山楽・山雪」展・2013 年）を継ぐもので、こうした息の長い展覧会活動は国立博物館ならではのものとして改めて評価したい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

国内外の展覧会への文化財貸与など各館とも我が国における博物館の中核施設としての役割りを果たしており、ひき続きこうした活動を強化されたい。また、２とも関連するが、学校教育との連携は、将来にわたって博物館活動を支えていく上で必須となるはずで、この方面でも４国立博物館は指導力を発揮されたい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

特別展に係わる調査研究は当然として、それ以外の収蔵品についての基礎的研究や神社仏閣、個人の所蔵文化財の調査においても、各館は着実に実績を挙げていることが認められる。そうした日常的な調査が１の収蔵品の整備にもつながるはずで、調査研究の推進を期待する。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

アジアを中心に世界との交流をはかることは九州国立博物館や東京文化財研究所を中心に推進されたが、他館においても研究者の受入れなど、なお小規模ではあるが行われた。そうした交流の中から文化財保護に関する国際協力も推進されるはずで、今後とも期待するとともに、これには大きな予算措置が必要で、機構全体で取り組むべきであろう。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

各館、各人が限られた時間、少ない予算と人員の中でむしろ多くの成果を発信しており、大いに評価したい。しかし、こうした成果を継続的に挙げることを個人に負わせることはおのずと限界があり、予算、人的手当てなど、機構全体で取り組むべき問題と認識すべきである。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

東日本大震災、熊本大地震に伴ない、文化財レスキュー活動がいまほど求められたことはない。機構の果たすべき役割りはさらに大きくなったが、実は災害時のみならず、地方の文化財保護への取り組みは深刻で、より大きな国民的合意が必要と思われる。そうした合意形成のために文化財保護に通じた機構が率先して提言や発言をしていくべきではないのか。期待したい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

限られた予算、人員の中で、各博物館は懸命な努力をし、国民の期待に応える優れた展覧会を開催しているのではないか。業務運営の効率化をはかることはもちろん必須であるが、いまの活動にむしろ一定の評価を与えることから始めるべきではないだろうか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

展覧会に係わる事前調査研究のための予算は本来博物館の運営に係わる必須の予算として計上すべきと思う。それに外部から獲得した研究費を当てること自体問題はないのか。利益の目的積立金としての活用が認められるとの吉報を伺ったので、敢えてここで述べて置きたい。

Ⅳ　その他人事計画等

博物館活動の特殊性に鑑みても常勤職員の増加を望みたい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

特になし

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

坂 本　弘 子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

（１）適時適切な収集

全体として新収品の点数も確保されており、自己点検評価においても、ＡやＳの高評価があり、収集において成果を挙げている。東京国立博物館の伊藤若冲作品や京都国立博物館の光琳・乾山の合作など、一般公開が実現すると世間の注目を集めると予想される作品が収められており、評価できる。

（２）収蔵品の管理・保存

各館ともＩＰＭ対策や耐震対策等に計画的に対応している。また奈良国立博物館では新たに修理された文化財の特集陳列を行うなど、文化財修理技術に関して一般への啓蒙に取り組もうとする努力もなされている。

（３）収蔵品の保存技術の向上

Ｘ線ＣＴスキャナーや赤外線撮影など調査・分析機器の活用が進んでいる。保存・修理にきわめて有効であることは勿論だが、新研究や新発見を生み出すツールでもあり、今後も成果が期待できる。

２　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

（１）展覧会事業の充実

総来館者が３９８万人を超え、あと一歩で４００万人に手が届く規模となった。４年前の２３年度と比較すると２６％の伸び率で、各館の日常的な努力の積み重ねによるものと高く評価する。また収支が重要であることは当然だが、人口減少時代における未来顧客開拓を推進するためには、若年層の来館者数を増やすことにも注力しなければならない。従前の手法やテーマに安住せず、常にトレンドを読み、顧客目線を意識した企画に今後も取り組んでいただきたい。

①平常展

・東京国立博物館における平常展来館者数約７５万人は前年度比１２７％、実数で１６万人も増えており、目を見張るものがある。目標値比較では２倍に及ぶ。陳列替を繰り返して所蔵品をフルに活用しただけでなく、敷地全体の環境や季節要因、特別展とのリンクなど、多様な観点から企画を練った努力の結果であろう。自らの強みを洗い出し、組み合わせ、付加価値を生み出している。またインバウンドによる海外旅行者の来館も増えており、今後もさらに伸びる可能性がある。

・京都国立博物館は、明治古都館の改修により平成知新館で特別展を開催している。制約が少なくないが、近頃の刀剣ブームを取り込んだり、年末年始に干支の企画を実施したりして、来館者増を図っている。目標値の約１６７％にあたる２０万人以上が来館したのは大きな成果である。

②特別展

・「始皇帝と大兵馬俑」は目標の倍以上の来館者があり、１億３千万円強の収益があった。館内に立体的な造作を施し、１０体の兵馬俑に加えて多数のレプリカを展示し、現場にいるかのような臨場感を演出した効果が大きかったのではないか。またレプリカといっしょに記念撮影ができるフォトスポットを実施し、若い観覧客がスマホで撮影をしてＳＮＳ上に発信していた。東京に続いて開催している九州でも期待

できそうだ。
・３３万人近い入場者を集め、１億円以上の収益を得た「琳派　京を彩る」は２７年度の代表展といえる。京都の街全体を巻き込み、まさに古都ならではの大型企画。時系列の作品展示に加えて工芸やデザインまで取り込み見応えがあった。
・「平安古経展」は３６日間の会期で、目標来館者２万５千人に対して１万人余りにとどまった。収支でも２３００万円の赤字事業となった。一般市民には比較的なじみが薄いテーマで、とりわけ経巻は素人には見づらい。修理を終えての公開であり、学術的価値は高いとのこと。ならば、なおのこと一段の工夫がほしかった。

（2）教育活動の充実
講演会などのイベントには各館とも力を入れており、参加者は年を追うごとに増加傾向にある。各施設ともマンパワーに限りがあり、困難も多いだろうが、ボランティアを組み込んで体制を補強し、啓蒙的企画をさらに引き続き拡充していただきたい。

（3）快適な観覧環境の提供
京都国立博物館の琳派展や東京国立博物館の鳥獣戯画展では、相当の待ち列ができた。いずれも会期が３６日間、３９日間と短く、短期間に観覧者が集中することが最大の理由である。とはいえ公開日数は容易に延ばすことはできず、結果的に行列が避けられない。
時刻を決めて整理券を配布する実験を試みた経験があるが、会期途中に導入したこともあり、整理券を配布することについての周知が難しく、また整理券を受け取るための長い行列ができて、行列に並んだのに券を受け取れない人からの不満が大きかった。入場日時指定の完全前売り券制を取り入れるという方法もあるが、来館者が自ずと限定されるため、主催者としてはある程度高めの料金設定をすることになる。さらに多方面からの議論が必要であろう。

（4）文化財情報の発信と広報の充実
ぜひとも加速させていただきたいのがＳＮＳ戦略である。新聞もテレビも見ない１０～３０代が急速に増えている。博物館に行くと楽しい、おもしろい、発見がある、勉強になる、友達が増える、というブランディングは、スマホを通じて行う必要がある。ＳＮＳの長所は①おもしろければ各自が勝手に拡散してくれる、②ノーコストあるいはローコストの広報ツール、③国境を軽々と超えて世界中に広がっていく。④動画や写真が使える。寄託品の写真撮影については、安易な解禁はありえないが、館独自の「ゆるキャラ」写真、人気のミュージアムグッズ、ユニークな学芸員の紹介など、なにげないコンテンツを手始めに、まずはネットワークを広げてはどうだろう。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

（1）調査研究の成果の発信
概ね計画どおりに実行されており、奈良国立博物館では入場無料ゾーンを活用するなどの工夫も施されている。

（2）海外研究者の招聘等研究交流の実施
ＩＣＯＭの京都開催が決まり、意欲的に取り組んでいる。研究者の往来は概ね計画以上の実績をあげ、国際シンポジウムも開催している。

（3）保存修理事業者への研修プログラム
概ね計画通りに実施されている。

（4）収蔵品の貸与

概ね計画通りに貸与されている。

（5）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

総会での各委員からの発言を承ると、地方の博物館がナショナルセンターである国立文化財機構に期待するものはかなり大きいとわかる。地方巡回展もふくめて要望が数多く出された。知恵を出しあいながら、効果的かつ効率的な協調が望ましい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

東京文化財研究所と東京国立博物館が連携して「黒田清輝展」を２８年春に開催した。研究所の研究成果と博物館の公開発信機能が結びつき、大きな形を残すことができた。こうしたコラボレーションが機構全体の底上げにつながると考える。今後もこうしたチームプレーを期待したい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

東京文化財研究所が手がける研修「紙の保存と修復」は国際的にも応用が可能な学習であると同時に、日本文化の海外発信にも寄与することができ、興味深いと感じる。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

奈良文化財研究所が協力しているキトラの体験学習館の完成が近づいている。研究所のこれまでの知見を一般の市民に伝える機会であり、多くの人に入館してもらえるよう尽力していただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

概ね計画通りに実施されている。研修の参加者満足度を重視して向上を心がけておられる。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

使用資源の抑制や自己収入の増大など、いずれも着実に成果を挙げている。また保有資産の活用については、各館、各研究所とも前向きにきめ細かく取り組みがなされている。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

入館者数を増大させて収入を持ちあげ、さまざまな努力によって支出を抑制し、大きな努力を積み重ねていることが数字から理解できる。目的積立金が認められたということは、これまでの努力が評価されたということだろう。適切な運営による国民文化向上に資する活動を今後も期待する。

Ⅳ　その他人事計画等

　ＩＣＯＭおよび東京オリンピック・パラリンピックが近づいており、日本の文化力を世界に発信する好機と考える。国際発信力強化に役立つ人材強化あるいは採用を望む。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

　日頃は民間企業で働いており、初めて評価委員会に参加させていただいた。初心者の率直な感想として、評価結果の一覧表を見たとき、自己点検評価の結果がほとんど標準のＢであることに大変驚いた。なぜならＢばかりだと、何がよかったか、何が悪かったかというチェック機能が働きにくいからだ。しかし一方で、Ｂは達成率１００～１２０％と幅が広く、評価幅の刻みが大きいことにも気付いた。よほどの成果を出さないとＡとはならないし、逆に１００％に少し欠けてもＣになってしまう。これまでの評価軸設定をめぐる経緯や議論についてまったく存じ上げないので、すでに議論済みかもしれないが、評価刻みをいくばくか小さくすることでメリハリをつけた評価ができないかと考える。これは評価を厳しくするという意味ではなく、小規模でも優れた取り組みをすくい上げるという観点からの意見である。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

佐 藤　信

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

○ 展示や調査・研究などを通して、日本各地の多様な文化財の保存・継承やその解明に大きな成果を挙げていることを、高く評価したい。収蔵品の整備・展示や文化財の調査・研究の成果を、さらに国民にわかりやすく発信する努力を展開していただきたい。
○ 全国の博物館の中心的拠点として、地方自治体・大学・民間など他博物館における展示や展示技術などへの協力・普及の事業をさらに展開し、国民向けの発信も積極的に進めていただきたい。
○ 博物館収蔵品や研究所収蔵の遺物・史資料などを、保存に支障のない範囲で、他の地方自治体・大学・民間などの博物館や研究機関での展示に積極的に貸し出していただきたい。
○ 文化財修理事業や基礎的な調査では、４博物館・２研究所・センターの機構全体による、さらに有機的な連携・協力の体制を作っていただきたい。
○ 博物館の収蔵品や研究所の資料・図書などの目録・データ的な情報のインターネットによる発信・公開をさらに展開していただきたい。
○ ２０２０年の東京オリンピックの際に世界からの来訪者に向けて日本の歴史・伝統文化を紹介するための展示や研究成果の発信に、戦略的に取り組んでいただきたい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

○ 年間回数の増えた特別展のほか、平常展や、企画展示・シンポジウム・講座・列品解説・コンサート・イベントなどが多角的に展開され、展示説明の多言語化を図るなど、文化財と接する多様な機会を国民・来館者に提供していることは、高く評価したい。
○ 発信事業が多彩に展開されるのは有難いが、職員の勤務条件への負担が過大にならないよう、配慮していただきたい。
○ 海外の博物館・研究所などとの調査・研究・展示（海外展など）をはじめとした協力・交流が多角的に展開されていることは、高く評価できる。さらに、組織的な協力関係の強化を進めていただきたい。
○ 考古学・日本史学・保存科学・美術史・遺跡学・建築史・庭園史・写真学など、関連する多様な学界の最先端の研究成果とリンクして、タイムリーに文化財の意義を発信するタイプの調査・研究・展示を進めていただきたい。諸レベルの学校教育との連携も、さらに推進していただきたい。
○ 世界文化遺産・世界記憶遺産・世界無形文化遺産や民俗文化財・文化的景観・登録文化財・日本遺産など、新しいタイプの文化財の展示や調査・研究にも、配慮をお願いしたい。
○ 人気のある特別展では、会場混雑のため入館待ち・入室待ちに過度の待ち時間を入館者に強いる場合がみられた。混雑解消や待ち時間対策のための有効な方法をさらに本気で模索していただきたい。世界の他館の先進事例も参考になるのではないか。
○ 東博・京博の「ゆるキャラ」や九博でテレビCMを展開するなど、国民に向けた分かりやすい発信への努力も工夫されているが、その効果を検証して、さらに有効な方法をめざしていただきたい。
○ 国土交通省が国営歴史公園事業として行う、平城宮跡の展示館やキトラ古墳・高松塚古墳の展示館・体験学習館の事業に対して、とくに学芸的分野で、奈文研・機構がもつノウハウを積極的に協

力発信していただきたい。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

○　機構の４博物館・２研究所・センターの相互連携をさらに進めるとともに、国内の他の博物館・美術館や文化財研究施設と連携した展示や調査・研究をさらに展開していただきたい。
○　ナショナルセンターとして、国宝・重文・史跡・名勝などの文化財情報や国内の諸博物館の展覧会・収蔵品情報などを、国内外に発信するリンク機能をもっと展開していただきたい。
○　高度で先端的な調査研究成果を、研究者・専門家向けだけでなく、国民・市民向けに分かりやすい形で発信願いたい。多岐にわたる「博物館・研究所の仕事」の実態を、国民に向け発信してほしい。
○　機構各機関の発行する研究紀要・報告書や年報・概要などの内容を、ホームページで公開する事業を、さらに進めていただきたい。
○　機構の博物館・研究所などで所蔵する図書・資料などを研究者・市民にも公開する事業をさらに展開していただきたい。
○　国内外の他博物館・美術館や大学の博物館学講座などに向けた専門知識・技術の発信や連携・協力をさらに進めていただきたい。
○　文化財の総合的な把握・調査・研究をもとにした「博物館型の研究統合」のあり方についての研究成果を、発信していただきたい。
○　博物館の入館者に高齢者がめだつようだが、若者を対象として、大学のパートナー制だけでなく、初等・中等教育の教育の一環としての博物館利用についても、さらに展開していただきたい。
○　ミュージアムショップのさらなる魅力的展開について、努力をお願いしたい。魅力的なグッズの開発とともに、九博の太宰府天満宮参道へのミュージアムショップ出店なども、参考にしてよいのではないか。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

○　東日本大震災での「文化財レスキュー」事業での活躍成果をふまえて、文化財防災ネットワークの推進や「文化財防災計画」策定への協力に、機構のノウハウを活用していただきたい。とくに今回の熊本の地震災害による文化財被害への対応に、積極的に協力していただきたい。
○　基礎的・先端的な文化財の調査・研究に、限られた人員・予算の制約下で大変大きな成果を挙げていることを、高く評価したい。その成果を、国民向けにわかりやすい形でさらに広く発信していただきたい。
○　少ない予算・定員の割りに大きな調査・研究成果を獲得していることの「費用対効果」を算定するための評価方法について、考えていただきたい。
○　基礎的で地道な史跡・歴史資料・美術工芸・無形文化財・保存科学などの文化財に関する調査・研究事業についても、さらに積極的に推進し、その成果を発信していただきたい。
○　科学研究費・民間研究助成・寄付金など外部資金による研究費を獲得して、共同調査・研究を多面的に展開し、大きな成果を挙げていることを、高く評価したい。外部資金の獲得には、さらに努めていただきたい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

○　文化財の保存・修復事業や調査・研究・展示を通した国際協力の面では、文化財研究所・博物館ならではの高いレベルの協力事業が多角的に推進されており、高く評価したい。さらに多様な国際協力の展開に期待したい。

○　東文研の敦煌研究院との共同調査研究の終了など、中国との国際協力に最近の国家間外交における政治情勢悪化の影響がみられるが、文化財担当機関同士の学術的交流については、可能なかぎり政治と切り離して従来どおり着実に進めていただきたい。
○　国際協力は、所属研究者の個人的努力のみに負うことなく、機構として組織体制を整えて国際協力を展開していただきたい。
○　アフガニスタンなど中東の戦地における文化財保護への協力や、文化財の歴史文化的意義を世界に発信することについて、展示などで協力できたことはよかったと思う。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

○　博物館・文化財研究所のホームページによるアーカイブズ・データベースの情報発信サービスは、数多くのアクセスを得ており、高く評価できる。東文研などのデータの横断的検索を可能とする方向での努力も評価でき、さらに機構内でのリンクなど、その充実を進めていただきたい。
○　調査研究成果を、研究者・専門家向けのみでなく、一般国民に対しても分かりやすい形で出版やホームページなどで公表するなど、発信を進めていただきたい。
○　機構の４館・２所・センターのニュース・たより・パンフレット・年報・紀要・報告書などの冊子体の出版物を、インターネットで閲覧できるようにする事業をさらに進めてほしい。
○　電子媒体だけでなく、４館・２所が所蔵する膨大な図書資料・写真資料などを、研究者・市民が閲覧出来る体制と、資料群の横断型の情報提供体制をさらに充実させていただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

○　国・地方公共団体・博物館・美術館等に対する協力・助言では、委託事業をはじめとして多分野において機構ならではの高いレベルで大きな実績を挙げており、高く評価できる。
○　大学における高等教育との連携は、国立文化財機構の文化財に関する高い調査・研究能力を活かして、文化財研究の裾野拡大や後継者育成を進める上でも、さらに積極的に展開していただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

○　４館・２所・センターとも、限られた人員・予算の中で、学術的レベルの高い優れた展示・調査・研究・協力・発信の成果を多方面で挙げていることを高く評価したい。そうした費用対効果の面での「効率性」をどのように進展させ、評価するかが課題となると思う。
○　４館・２所・センターの研究・学芸系職員の協力体制をさらに強化して、機構全体のスケールメリットを活かした調査・研究・学芸業務をさらに有機的に推進していただきたい。そのために、たとえば機構として４館・２所・センターの横断型研究に、戦略的な研究助成を行ってもよいのではないか。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

○　機構は、大変な努力により事業目標を順調に達成し、自己収入の増加を実現してきたが、運営費交付金の一律削減がそれ以上に進む状況にある。単純な経済利益の原理と即応しない文化・文化財を専門とする法人に対しては、特段の配慮があるべきと考える。自己収入の目的積立金化がさらに十分認められ、努力が報われる制度が実現するように、努力・発信していただきたい。
○　目的積立金が今回承認されたが、その使い道と得られた有益な成果・効果について、対外的に発信

できるように努めていただきたい。
○ 外部資金や寄付金の積極的な受容に向けて、「ふるさと納税」のような形での寄付金についての税制優遇制度は実現できないものか。

Ⅳ その他人事計画等

○ 研究・学芸職の優秀な人材を世代構成に配慮しつつ獲得・育成できるように、また多忙ななかで余裕ある研究環境をさらに整備充実できるように、予算的配慮をお願いしたい。
○ 任期付き非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・特任研究員・研究補佐員などの比率が高くなってきており、将来の研究体制維持に危機感を覚える。できるだけ常勤の研究・学芸職を増やす努力をお願いしたい。
○ 任期付き非常勤の若いアソシエイトフェロー・研究補佐員などが、常勤職員と同様に優秀であるにもかかわらず「使い捨て」になることのないように、人事面での配慮が必要であろう。
○ そうした状況への対応から、研究職・事務職の中間的立場として専門職を創設して国際交流分野の人材を確保した試みが、成功であったのか成果を注目したい。
○ 機構内の博物館・研究所・センターなどの間での、研究・学芸職や事務職における人事の交流があってよいのではないか。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

○ 今回、評価書の提出が一回になるといった外部評価委員会の（内容はそのままで）手続きの一部簡素化が図られたことは、良かったと思う。定量評価の数字のみだけでなく、機構・各組織のあり方や将来像についての実質的な質疑・議論が行える時間が得られるのはよいことと感じた。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

玉 蟲　敏 子

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

27 年度は、東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館等において、収蔵品の購入、寄贈が順調に進み、各館の目玉ともなる作品が集められたのは喜ばしい活動であった。奈良国立博物館に関しては自己評価がＢであったが、これもタイミングの問題があり、今後の拡充が期待される。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

充実した展覧会によって、国内外に日本・東洋の文化や美術の豊饒さや美が発信された一年だったといえる。入場者数も順調に推移しており、メディアによる広報活動も行き届き、ある程度の人数からなる美術文化の愛好層が、国民の間に確実に形成されているように感じられる。近年、増加傾向にある外国人観光客においても、同様に国立博物館の存在が認知されてきているようであり、ますます、見学者数の増加が期待される。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

一般国民に対する周知活動は充実しているように思われるが、一歩進んで国民が、積極的に博物館の所蔵品を利用し、あるいは現代美術やデザインの現場で活用しようとするとき、画像の提供が高額であったり、利用上に様々な規約が設けられるなどしており、枷が多くないとはいえない状況である。

現代は、ウェブを活用し、様々な情報が言語・画像の違いを問わず、データとして行き交う時代である。いままでの画像提供とは異なった新技術、新思考による新しい枠組みが求められており、とくに世界の動きを鑑みると、日本の状況はかなり遅れているように思われる。国立館が先導して、イノベーションを推進することも必要であろう。東京オリンピックも目前に控えていることでもあり、そのあたりの機能強化にしっかりと取り組んでいただきたい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

研究所・センター調査研究部における調査研究に関しては、目覚ましい発見といえるほどの特筆される成果はなかったようだが、日常的な研究活動は従来通り、進められており、さらなる進展が期待される。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

研究所部会において衝撃的だったのは、東京文化財研究所が数十年にわたって取り組んできた中国・敦煌壁画の保存修復事業が終了し、今後の再開の目途も立っていないという報告であった。東アジア絵画における日本の技術水準は目覚ましいものであり、それによる国際協力は、文化国家としての顔であったの

ではなかろうか。その要因はおおむね、政治的な問題に求められるようであり、日本の政府においても文化学術交流が途絶えることからくる、ことの重大性を認識してもらいたいと考える。研究機関においては、状況をみつつ、技術水準を後退させないように他分野への応用などをも視野に入れて、工夫を凝らしていただきたいと考える。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

ウェブを用いた国民への発信は、ますますアクセス件数が増えており、数年前のような新メディアといった認識から、むしろ中心的な存在に変化しているように思われる。文化財はモノであり、視覚的な訴求力が高いので、ウェブによる発信に適している。国民の期待に応えることができるよう、情報収集・整備・データ利用の簡素化などを図っていただきたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

東日本大震災の被害への取り組みが一段落したところで、今回は熊本の大震災が起こり、あらためて日本にとって自然災害による文化財被害は常態的な問題であることが認識された。熊本においては装飾古墳への被害が甚大であるという報道も目にしている。従来の取り組みに重ねて、レスキュー活動も今後必要とされてくることも考えられ、充実が図られることを望みたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

昨年と同様に、奈良、東京の２研究所、国立４博物館とも懸命な努力をはかっており、その上で数多くの魅力的な展示や優れた研究活動が行われている。ただし、内側からの努力は最早、限界に達している。2020 年開催予定の東京オリンピックなどが、状況を好転させる起爆剤となりうるのか期待されるが、今回の報告によれば、スポーツ予算に比べて微たる増加に過ぎないという。国民にとってオリンピック＝スポーツの祭典という認識が一般化しているが、世界的にみれば、そればかりではなく、文化の祭典でもあることを、メディアとともに工夫を凝らして、国民に訴える方法はないものであろうか。次年度以降の動きを注視したい。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

経費削減が叫ばれ、さまざまな面でスリム化がはかられることは必要である。27 年度は、目的積立金の承認があったことが報告され、今後の活動に対して、少し光が差したように感じられた。次年度においてどのような取り組みがなされていくのか、期待したい。

Ⅳ　その他人事計画等

毎年、指摘していることだが、常勤職員数の抑制のために行われている退職後のスタッフの不補充と任期制研究員の採用は常態化している。しかしながら、報告よりそうした雇用条件の人材のなかには、所属機関の科研費獲得に貢献する者もおり、調査・研究・展示・発信といった博物館、研究機関の根幹を担う活動を行っている。若い研究者にも希望の持てるように、改めて、４博物館・２研究所は、能動的に文化や学術活動の取り組む人材を長い時間をかけて育成しうる場として、主導的に立場にあることを自覚し、変革期の設計図をじっくりと描いていただけるよう要望したい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等） 　自己点検評価基準がある程度整理され、数年前のような各館、各所におけるばらつきは無くなったように思う。最近は、テレビなどを通じたブロックバスター的な展覧会の宣伝が目立っているが、そのような方法による国民の動員に頼りすぎず、今後、国立博物館が、生活レベルで国民がアートやデザインに親しむことのできる場として成長していくことを、総合的な事項として望みたいと思う。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

名児耶　明

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備に関して、購入はかなりの成果を上げ評価できる。さらに寄贈、寄託も順調であったと判断でき、評価に値する。また、所蔵作品については、作品の価値、継続的なコンディション調査、修理のための科学技術を取り入れた調査、適正な保存をめざすことを日常的に考えることは継続してほしい。特に所蔵品の広く利用されることが可能になるための調査も期待したい。人員が限られる中での調査には苦労があると思うが、国立文化財機構全体で努力してほしいと願う。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

各館の特色を考慮しつつ、開催された４館の展覧会は、全体に来館者数が増加しており、成果を上げていることが確認できるが、特に平常展での伸びは評価できる。特別展による入場者数は内容により異なるので、入館者の増加を特別展に頼るのは、博物館恒常的な基本の活動とは思われない。館蔵品の日常的な活用を基本として多くの観覧者に歴史・伝統文化を伝えることを核とするのが、国立文化財機構の役目と思う。

国外においても、アメリカ・フィラデルフィア美術館や韓国の国立慶州博物館等で展示を開催、着実に伝統文化の発信を継続していて喜ばしい。また、教育活動に対する各種の催しや大学との連携も、これを維持している点が評価でき、これからも続けることが望ましいと思う。なお、快適な観覧環境の提供にはこれからも十分な研究を望みたい。特に入館者の増加を優先することで観覧環境が不適正とならないための工夫はこれからも続ける必要があると思われる。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

作品の保存維持に関する研究や関係者への助言、また４館の資料の他館への貸出は、全国の博物館、美術館の中核としての機能を果たしていると判断でき、評価できる。特別展にともなう調査研究とその成果の図録への反映などは当然であるが、それを若年層も含めてより広範囲の観覧者に分かりやすく伝える工夫も期待したい。インターンシップの整備、ボランティアの多様な活用も評価できるが、さらなる工夫とその成果を期待したい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

幅広い内容の文化財の、数多くの調査研究に取り組み、その実績を多くの報告書に反映させており、着実な成果を上げていることが認められる。科学研究費等の外部資金も積極的に獲得し、熱心に取り組む様子が感じられる。科学技術の日進月歩の中で、それを駆使して調査研究を充実させ進むことも重要であるが、過去から積み重ねられた文化財をとりまく技術等の検証も重要と考える。新しい技術ばかりではなく、保存・展示に関する長い間の実績のある伝統技術の優れた部分はもっと評価してよいと考えるので、それ

らの研究も望みたい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

アジアを中心にさまざまな文化財保護に関する協力体制を維持していくことは、様々な困難があると思われるが、個々には成果を上げていると思われる。将来的には、こうした協力がさらに重要な課題となると思われ、若い世代の人材の育成も課題であろう。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

定期刊行物の刊行や数多くの報告書からも各館それぞれの特徴を生かし研究成果を挙げていると認められる。ただ、調査研究成果を、研究者・専門家向けのみでなく、一般の人々に対しても分かりやすく伝わる方策にもさらなる工夫を望みたい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

各種の文化財に対する地方公共団体への協力は、東日本大震災の復興に伴う案件など、文化財研究所の特徴を生かして着実に成果をあげていると思われる。博物館施設や大学等への研修等は、将来の文化財保護に携わる人材確保のためにも、その活動はおおいに評価できる。同時に将来に向けてのより充実させていただきたい。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の効率化に関しては、使用資源減少、自己収入の増大など成果を評価すべきである。しかしながら、効率化を図ることが、業務の質を低下させてはならないので、事業内容や事務業務の質的な内容を吟味し検討して、個別的な配慮や判断も必要と考える。費用対効果の面での「効率性」をどのように分析、評価するかも課題であろう。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

自己収入が改善され、全体に増加していることは大いに評価できるが、これにより、経費の削減や運営費交付金の減少に安易に結びつけるものではないと考える。一般の経済活動とは異なり、文化・文化財を維持するには、適切な経費の範囲があると考える。それを追求し、文化・文化財を維持する法人には、その必要範囲の業務に関しては、しかるべき配慮があるべきと考える。

Ⅳ　その他人事計画等

近年の傾向であり、任期付き非常勤のアソシエイトフェロー・客員研究員・特任研究員・研究補佐員などの役割比率が高まってきているが、将来の研究体制維持のためには、できるだけ常勤の研究・学芸職の増加に努力を進めていただきたい。全国の文化財関連施設の拠点として、職員の在り方の模範となるところであり、ほかの公的、私的施設に与える影響は大きいことを考えて、主導的立場であることを意識して、理想に近い姿を示す努力も望みたい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等） 全体に、現体制の中で各種成果をあげていることは認めるが、大きな施設ということにより、新聞社等との共同による大型の特別展が多い。その場合、集客効率の重視に偏重せず、来館者が健全に鑑賞できる範囲の構築を目指し、他館の手本となるべく努力をお願いしたい。 自己評価の評定のABCの扱いは、初めてであるがわかりよく、実際の自己評価も適切な判断であった思われる。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

浜 田　弘 明

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

昨年度から評定区分が変更されたが、自己評価の大半が基準のＢと示され、A評定も散見されることから、ほぼ計画は達成されていると評価できる。

地方における公立博物館の相次ぐ閉館や、社寺管理者の高齢化に伴う文化財保管の困難化の問題は相変わらず深刻である。国立博物館は、こうした文化財が海外や民間へ流出することを防ぎ、国・地方の宝を守るべく、従来にも増して、資料の寄贈や寄託はもとより、購入も積極的に進める必要が迫られている。昨年度は、京都国立博物館（以下、京博）において、購入が積極的に進められたようであるが、他の国立館においても相応の資料購入予算を確保するとともに、収蔵スペースを新規に確保することは欠かせない課題である。

また、資料保存の基礎となる、保存カルテの作成やＩＰＭの徹底化も重要な業務である。さらに、文化財情報システムでの資料公開は、国民への公開手段の一つとして重要である。こうした事業の推進には、新たなシステムの整備とともに、人的整備も必要となる。現在、東京国立博物館（以下、東博）で働く研究員は 55 名とのことであるが、欧米の大規模博物館と比較したならば、1/10 にも満たない人員であり、予算とともに人員の確保についても、迫られた課題である。東博の保存修復課にアソシエイトフェロー２名が配置され評価すべき点であるが、こうした有期雇用職員についての終身雇用化も急務の課題である。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

本項目についても、ほぼ計画は達成されていると評価できる。近年の博物館入館者数の低迷を打破する一方策としての海外観光客の呼び込みと、東京オリンピックを視野に入れた、外国語による解説パネルの設置は、各館ともに予定よりも早くほぼ 100%を達成したことは評価したい。さらに、京博のような外国語による音声ガイドも、是非、各館で推進して頂きたいシステムである。

東博では、27 年度の平常展観覧者数が目標値の２倍に達し、考古展示室や黒田記念館のリニューアルが大きく影響しているものと思われる。入館者数のみにこだわる必要は無いが、リピーター確保のために、たゆみない展示のリニューアルと資料の陳列替えは重要であることが窺える。

特別展についても、多くの展覧会で目標値を上回る来館者を数え、中には２倍から３倍に達する特別展もあり、健闘ぶりが窺える。放送局や新聞社との共催展の健闘ぶりが目立つ。問題点も少なからずあるかと思われるが、来館者確保の上で、マスコミによる広報の重要性を窺い知ることが出来た。

次世代を担う子どもの博物館利用促進に向けた取り組みも重要で、九州国立博物館（以下、九博）では、「きゅーはくきゃらばん」「ナイトミュージアム」などの新たな取り組みが行われた。今後に期待したい。京博の「京博ナビゲーター」の活動も定着化した様子が見られ、継続性を期待したい。また、東博に続き京博においても、公式キャラクターとして 27 年度に「トラりん」が登場したことは、お堅いと思われがちな国立博物館のイメージの柔軟化に一役買うものと思われる。国立博物館のソフト戦略として、子どもの博物館への関心が一層高まることを期待したい。さらには、若者を博物館に呼び込むために、ウェブサイトを活用した更なる情報発信にも、今後を期待したい。

今日の博物館において、ミュージアムショップやレストランの存在意義も大きく、各館で進めるオリジナルグッズやオリジナルメニューの開発や販売は、博物館ファンを増やす意味でも重要なものとなりつつ

ある。27年度は、九博でミュージアムショップのリニューアルや、レストランでの特別展メニューの提供、東博でケータリングサービスの実施など、新たな取り組みが行われたが、このような利用者に対しての快適な環境づくりも必要なことである。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

ほぼ計画通りに達成されていると評価できる。昨年6月に、ＩＣＯＭ（国際博物館会議）世界大会の日本（京都）招致が決定したことは、我が国の博物館及び博物館学の歴史の上で、記念すべき事象である。その先駆けとして、東博を中心とする国立博物館において、各種の国際会議や国際シンポジウムが開催されたことは、重要な意義があったと言える。今後、ＩＣＯＭ大会開催の実現に向けて、国立博物館には一層のリーダシップが求められよう。

また、日本の博物館の国際化のために、海外への多言語発信は重要となるし、海外の研究者・技術者への支援や交流も、更なる活性化が必要である。東博や九博で実施されているインターンシップ制度は、次代を担う若者に必要なことであるが、更なる充実を図り、国内外の博物館現場で働く学芸員への技術支援も願いたい。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

ほぼ計画は達成されていると評価できる。当機構は、わが国の物質文化研究の拠点として重要な役割を果たしている。調査研究の柱とも言うべき、有形文化財に関わる調査研究に多数取り組み、数々の科学研究費に採択され、外部資金を導入し、着実に成果を上げていることは、喜ばしく思うとともに高く評価したい。

保存環境・保存修復に関わる調査研究、効果的展示や教育活動に関する調査研究は、博物館でなければ取り組めない領域であり、国立博物館は、全国の博物館の模範となるべく、積極的に展開されることを期待したい。

近年は、博物館照明のＬＥＤ化が促進されているが、交換の手間が省かれ、省エネ化が図られるというメリットのほかに、資料保存上、本当に全く影響は無いのかどうかという点についても、是非、研究を深めていただきたい。九博で展開された「みんなでまもる文化財、みんなをまもるミュージアム」は、市民が参加し地域との連携が図られたもので、文化財を災害被害や盗難から守る上で興味深く、独創的な取り組みであったと評価できる。

また、京博で開催された「琳派展」において、「京博ナビゲーター」が教育普及事業に取り組み、好評を得たことは、市民参加型の博物館事業が重要であることを示したものといえる。東博では、考古展示室のリニューアルに伴い、ボランティアの支援によるハンズオン展示、ＩＴ技術を使ったワークシートの開発、学校団体向けアプリの開発などが進められ、この研究成果が将来、全国の博物館で活用されることを期待したい。九博においては、高校所蔵考古資料の所在調査が全国的な広がりを見せてきたと思われるが、その考古学分野でさらに、若い世代の女性利用者の開拓に向けて開始された「きゅうはく女子考古部」の活動実践は、大変ユニークな取り組みであり、マスコミ取材も多いことから情報発信効果もあり、若者女子の博物館への関心が高まることを期待したい。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

計画はほぼ達成されていると評価できる。高い保存・修復技術を持つ当機構の使命として、アジア地域を中心とする文化財保護への技術支援と人材育成の更なる促進に期待したい。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

計画はほぼ達成されていると評価できる。当機構の研究成果が、国内はもとより、多言語発信により広く世界に向けて公開されることは、今後より重要となる。さらには、専門家のみならず広く国民に理解されるよう平易な形で、ウェブサイトを含め、公開講座や展示等を通して発信して行くとも重要である。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

計画はほぼ達成されていると評価できる。博物館「冬の時代」と言われる中で、当機構が地方公共団体等に果たす役割は、より大きくなっており、全国の文化財担当者や、学芸員に対する技術研修の促進に期待したい。

28年4月には、熊本においても大地震が発生しており、文化遺産防災ネットワークは、相次ぐ災害の中で重要な意味を持っていることを再確認したい。また、東日本大震災被災地への文化財等救援・復旧・復興事業にも、引き続き力を入れて行く必要がある。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

経費の削減が進む厳しい状況下にも関わらず、各館の努力の跡を窺い知ることが出来、健闘しているといえよう。とくに財政難の中、自己収入が昨年度をさらに32.7%（暫定値）上回り、寄付金件数は目標の1.4倍、外部資金となる科学研究費の補助金も目標の1.5倍を獲得しており、館員一人一人の経営努力を高く評価したい。

一部ながら、自己収入の剰余金が独自に活用できることとなったことは喜ばしいが、この仕組みについては更なる改善が必要であると思われる。科学研究費の獲得も伸ばしているが、今後も、研究・保存型の国立博物館にとって、研究資金の獲得は重要な課題である。また、寄附金件数が目標を大きく上回ってきていることは、喜ばしいことであるが、欧米の博物館運営のような寄付金による博物館運営のあり方についても、国民に一層広く知らしめる必要があろう。

若者をターゲットとした「博物館で野外シネマ」は、若者に支持されている様子が窺える。また。施設の目的外使用とはなるが、映画やドラマ撮影での利用は、博物館のＰＲ効果という面では期待できる。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

昨年度の評価においても述べたが、健全な事業運営の上で、機構の総予算の削減は、限界に達していると言わざるを得ない。国内最大規模の東京国立博物館でさえも、諸外国の国立博物館に比較すると、その予算規模・職員定数は全く少ないと言わざるを得ず、国（政府）には、文化国家の責務として、博物館への理解を一層深めて欲しいと願うばかりである。

国民に、より親しみが持てる機構（博物館）づくりを目指して、各館は、今後も地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非ご理解いただき、積極的支援がなされることを期待したい。

Ⅳ　その他人事計画等

冒頭にも述べたが、諸外国の国立博物館に比較して、わが国の博物館は予算規模とともに職員定数についても全く少ないと言わざるを得ない。適正な機構運営のためには、これ以上の人員削減や人件費の圧縮は決して望ましいことではない。

人事制度に、機構独自の専門職制度を創設し、契約期間に定めの無い職員が採用されたことは大きな前進であると考える。しかしながら、アソシエイトフェロー制度に関しては、契約期間に定めのある職員であり、今後、終身雇用の専任化への移行は急務と思われる。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

国民に、より親しみが持てる国立博物館づくりを目指して、今後も引き続き、地道な活動を一つ一つ積み上げていって欲しい。こうした地道な活動の上に、国民の文化が成り立っているということを国（政府）にも是非理解いただき、ことに積極的財政的支援がなされることを期待したい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

藤 田　治 彦

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

歴史や伝統文化の保存と継承の中心的拠点として、収蔵品の整備を順調に進めている。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用して歴史・伝統文化を国内外への発信することは重要で、国立文化財機構はその役割を十分果たすべきであり、複数のプロジェクトを着実に推進している。

3　我が国における博物館の中核としての機能の強化

国立文化財機構は、III（予算）に書くように、我が国の博物館の中核としてだけでなく、文化財や文化自体を国の礎とする国の中核となることが期待される。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

文化財に関する調査及び研究は、国立博物館と国立文化財研究所によって適切に推進されている。例えば、奈良国立博物館では、館内の情報システムや公開用データベースのデータ更新を適宜行い、情報資源の拡充と公開に積極的に取り組んでいる。それによって収蔵品・画像データベースから画像の無償ダウンロードが可能になった。研究者や教育者にとって、あるいは一般の人々にとっても重要な貢献である。

5　文化財保護に関する国際協力の推進

文化財保護に関しては、アジアの博物館等への協力は順調に継続されている。東文研は東南アジアならびに西アジア諸国の文化遺産の保存修復事業に大いに協力している。

6　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

東京文化財研究所では文化財情報基盤の整備を継続的に進め、奈良文化財研究所では、文化庁や国土交通省が行っている、平城宮跡の復元と整備への協力を行っている。国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所ともに、ウェブサイトの充実と積極的運用に努力しており、今後も、国内外への発信に力を入れるべきである。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

国立博物館各館は、文化財に関する調査及び研究の推進を積極的に進めている。現在地震の被害を受けた熊本や東日本大震災の被害を受けた東北3県における文化財保護の質的向上は今後とも重要な課題である。東文研は、文化財の修復や整備に関する調査ならびに助言を積極的に行い、奈文研は、飛鳥・藤原地区等での地方公共団体が行う発掘調査への援助や助言を進めている。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

特になし

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

我が国の国立博物館そして国立文化財機構の予算は、他の先進国や近隣の主要国と比べ、明らかに小さすぎる。東京国立博物館を中心とする日本の国立博物館は、歴史的にも、現在の活動の内容を見ても、アジアを代表するミュージアムであるが、近隣諸国とくに中国のミュージアムの拡大充実ぶりはめざましい。日本の国立博物館の国際的な位置を保つだけでなく、わが国の今後の状況を考えても、国立博物館と国立文化財機構の予算は十分増額する必要がある。このことは文化財のためだけではなく、我が国全体の将来のために重要である。我が国は自然災害に頻繁に見舞われながらも、伝統的文化や文化財を努力して適切に保存してきたまれな国である。現在の日本はいわゆる爆買いに象徴される近隣国の消費に依存しているところが大きいが、そのような異常な消費活動に依存している日本の企業は極めて不安定な状態にある。他方、海外からの訪日者は近年、そのような商品ではなく、伝統的な文化や生活に興味を示しつつあり、その傾向はさらに強まるだろう。工業製品の製造販売だけではなく、文化あるいは文化財を中心とした産業の充実に力を入れることが、我が国と世界の歴史を比較すれば、必要であろうと想像される。国民全体の将来のささやかな幸福、穏やかで安定した国のあり方を考えれば、文化財立国、あるいはミュージアム立国が望ましい。ミュージアム立国とは、博物館や美術館だけでなく、その他の国では失われてしまった穏やかな農村風景や生活風景をも野外ミュージアムとして含む、国全体がミュージアムとなるような状態を意味する。さまざまな国から日本の文化や生活に興味を持った人々が訪れ、そのことによって一旦地方を離れた若者が郷里や地方への誇りと愛着を高めてそこに住むようになり、大都市だけでなく、地方が生き生きとした生活を送ることのできる場所になることが期待される。いま急速に発展しているが、激動の社会に人々が苦しみあるいは困惑を深めているアジア諸国の将来のモデルにもなるようなミュージアム国家を実現するために、その最大のセンターとなる国立文化財機構に十分な予算を与えるべきである。

Ⅳ　その他人事計画等

特になし

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

自己点検評価は、国立博物館、文化財研究所・研究センターともに、かなり統一的な評価基準で行われるようになっており、改善が進められている。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

外部評価委員名

柳 林　修

※事項ごとに評価コメントを記入

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

４つの国立博物館が、国民共有の財産である文化財のナショナルセンターであることを考えれば、収蔵品の整備と研究、公開と活用、さらにそれらを次世代へ確実に継承することが、極めて重要な責務であることは論を待たない。館の活動の重点項目として取り組むことは当然である。

収蔵品充実に向けた取り組みは、現在のような限られた予算の中で、各館が設立された経緯やその後の活動の歴史の中で培った特色に重点を置いて進められるべきで、収蔵品で館の力量が試される。平成２７年度をみると、１億４，０００万～８億円という購入額の中で各館が適切に収蔵品を充実させていることがわかる。平成知新館の建設に伴い、２４年度は１件、２５年度はゼロ件、２６年度は９件だった京都国立博物館（京博）の購入件数は１８件に増えた。国宝や重文の書跡などを収蔵したほか、尾形光琳・乾山合作の貴重な陶磁器の角皿は京博らしい収蔵品であり、いち早く、同年度の特別展「琳派　京を彩る」で公開されたことは喜ばしい。公開・活用を率先したことは称賛される。九州国立博物館（九博）も日本と大陸との交流を物語る優品を集めたほか、東京国立博物館（東博）は近年、評価が高まっている若冲作品、仏教美術の収蔵、展示に優れた奈良国立博物館（奈良博）は密教の極めて貴重な資料の木製転法輪筒など、館それぞれに特色ある資料収集に成果を挙げたことは特筆される。これらを積極的に公開してほしい。

文化財購入予算は増加しているものの、さらにこれを補うのは寄贈や寄託の品々であり、この取り組みも重要だ。それには博物館の信頼性が求められる。また、博物館環境の充実も重要な受け入れる要件であろう。ただ、博物館の中にあっては寄贈や寄託が少ない館もあり、残念である。所蔵者がしっかり自らで所蔵していると考えれば、それはそれでいいのだろうが、多くの人々への公開や活用の重要性からいえば博物館への寄贈、寄託にいっそうの力を入れていただきたい。

収蔵品購入に関しては、鑑査会議や外部識者の協議で公正に行われていると思う。それであっても、市場の動きに眼を光らせ、古美術商との連携が癒着にならないよう、絶えず、客観的な、距離を置いた対応で、だれもが納得いく適正な購入額を心がけ、少ない予算を有効に活用する方法にも全力であたるべきだ。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用して日本の歴史や文化を発信することは、文化財を生きた教材として、財産として使うことのできる大切な取り組みであり、「文化財は国民共有の財産」を実践する意義深い活動である。中でも、平常展（常設展）をいかに活用して発信し、多くの人々に見てもらうかが課題である。

そんな中、今年度は４博物館とも平常展の入館者が目標値を達成したのは喜ばしい。各館が平常展を展覧事業の中核と位置づけてそれぞれの特色を生かして取り組んだ成果で、その努力は称賛に値する。定期的な陳列替えといった観覧環境の向上などが成果となって表れたといえよう。中でも東博が目標値の倍を記録し、前年度より１６万人も上回った。外国の博物館で見られるような、平常展で魅力ある博物館にする努力を今後も続けていただきたい。日本人が外国へ行くと博物館を訪れるように、外国人にとっても日本の博物館がそうあってほしいと願う。

特別展も充実している。入館者が多く、博物館の収入増加に寄与していることもあり、精力的に多彩な内容が国民に紹介されことは喜ばしい。国民の知識の向上、国際理解の進展にも寄与しているから、今後もいっそうの充実に尽力願いたい。ただ、中には目標入館者数を下回る展示も見られる。目標値や入館料

は妥当だったのか、広報は十分に行われていたのか。これらの検証をしっかりしていただき、次回に備えるべきだろう。加えて特別展開催が館員の負担になっているとしたら、精選することも考えるべきだ。ただし、特別展は貴重な研究ができる場でもあるから積極的に開催することは好ましいので、綿密な体制で職員の過大な負担にならないよう、十分な検討がこれまで以上に必要なのではないか。

個別にみると、東博では「アート　オブ　ブルガリ」、京博の「琳派　京を彩る」、奈良博の「白鳳ー花ひらく仏教美術」、九博の「美の国　日本」が特に目を引いた。東博展は、こういうジャンルが立派に展覧会の対象になることを証明した。視点が斬新で面白い。京博展は地元に密着する充実した内容で入館者に強いインパクトを与えた。奈良博展は白鳳仏の優品を網羅して白鳳美術の日本各地への浸透とその優れた美を周知することに成功した。九博展は開館後の特別展と敢えて同じ名称にして１０周年を記念。正倉院宝物を含めた質の高い内容の展示品などで話題を呼んだ。広報にも力を入れ、高い満足度を得ている。このほかの特別展でも、多くの入館者の知的好奇心を大いに満たしたと思える内容が見られた。喜ばしい。

パネルなどの展示品の説明資料の外国語化が進んでいることは素晴らしい。急激に増加している外国人観光客を対象にしたこれらの方策は、わが国文化の世界への発信に欠くことができない。それらはスタートであり、今後も外国人に優しい博物館であってほしい。もちろん、日本人にとっても分かりやすい展示施設であることは当然である。入館者の疑問に適切に、臨機応変に対応できる観覧環境もいっそう心がけてほしい。さらにＳＮＳといった手段での情報発信にも積極的に挑戦を試みていただきたい。ＳＮＳの情報で訪れる人が増えた名所、旧跡、地域、店などが増えている。

今回は入館者と満足度の関連に興味を持った。というのは、入館者が多いと混雑度が増し、満足度が下がるというアンケートが顕著だったからだ。これは特別展に多く見られる。新しい現象ではないが、人が集まる素晴らしい内容の展覧会ほど、入館者は満足していないことがわかる。これを解決するのは難題であることは確かだが、少しでも改善の方向に持って行くのは博物館として永遠の課題である。そのために各館がいろいろと工夫しているのは理解でき、敬意を表したい。臨機応変に対応することも大切な方策と思うが、東博が混雑時にケータリングカーを導入するなど、入館待ちの人々を飽きさせないさまざまな改善策を講じてもらいたい。

３　我が国における博物館の中核としての機能の強化

地方の公私立博物館との連携を一層深めてほしい。というのは、展覧会に窮している地方の館があるからだ。そういうところに、規模は小さくてもいいので、国立博物館の収蔵品を積極的に貸し出して展覧会を実現し、協力関係を築いて地方との連携にいっそう努めてもらいたい。

自己点検評価報告書には、地方の博物館に収蔵品を様々な形で貸与している状況が記されている。それはそれで結構なのだが、まだまだ足りないようだ。とくに戦前などに全国各地から国立博物館に集められた文化財を、地方へ里帰り展示する機会を増やすことは検討してもいい。本来なら現地に戻すことも選択肢の一つかもしれないが、ナショナルセンターとしての存在を重視するのも当然で、今の所蔵場所をあえて変える必要もないが、弾力的な貸与を今以上に実現して、地方の人々にも日本の文化財の素晴らしさを体感できる機会を増やしていただきたい。一時的な展示でも喜ばれるだろう。博物館は日本人としてのアイデンティティー醸成の場でもある。

地方の博物館などを対象にした、展覧会や運営等に対しての助言や援助、講演会などでの協力などが精力的に行われていることは望ましい。頼りになる存在といえる。現にそうなっていることが理解できる。文化財研究所が実施している研修のように、地方の博物館関係者を国立博物館である程度の期間、研修することや、思い切って１～２年の交流も必要ではないか。地方の博物館の質を高める方策にもなる。すでに行われているのであれば、いっそう推進し、まだなら試みて日本の博物館のボトムアップをリードしたい。国立博物館の優れたノウハウをどんどん拡散してほしい。

東日本大震災以降の文化遺産防災ネットワークの活動は目を見張る。人的、物的な援助はもちろん、研修や研究会等を通じて、被災文化財救出に行う手立てはベストを尽くしている。これは２８年度になるが、２８年４月に起きた熊本地震での被災文化財についても、建築を中心として今後、活動することが増えるだろう。災害に強い博物館づくりも課題になる。適切に対応してもらいたい。ネットワークが目的にして

いる文化財の防災減災対策の充実にも国立文化財機構を挙げて取り組んでいただきたい。

４　文化財に関する調査及び研究の推進

２研究所、４国立博物館、１センターの文化財に関する調査と研究は、実に多方面にわたって精力的に行われている。必ずしも十分な人数がそろっていない担当者の努力には頭が下がる。それらの成果が数多くの報告書に表れて刊行されており、必要に応じて外国語訳がされていて、日本文化の国内外への情報発信に大きく貢献していることは大いに意義深い。

注目したのは奈良・東大寺東塔の基壇の調査である。奈良県内の遺跡では、奈良文化財研究所（奈文研）、県教育委員会、それぞれの地方自治体と、発掘調査の地域や内容によって担当機関が異なる。もちろん情報の共有はあるが、そういう歴史の中、東塔跡では奈文研と橿原考古学研究所が共同して調査にあたり、東大寺の文化財担当者も交えて取り組んだのは調査の充実、情報の共有などで好ましい。機関によってその遺跡の調査の経験が様々に蓄積されており、多様な機関が共同で調査することでそれぞれの英知を生かせることが可能になる。今後も続く東塔跡の調査体制の在り方は、全国へのモデル的な方向性を打ち出したという意味で特筆されるだろう。

国交省のキトラ古墳（奈良県明日香村）周辺整備が終わり、９月に体験学習館が開館する。貴重な壁画古墳の実情を現地で学べる意義は大きく、文化財活用が大いに期待される。また、奈良市の平城宮朱雀門跡近くには国交省の平城宮跡展示館（仮称）の建設が進む。こちらも平城宮跡へのエントランスとして人々が多数、訪れる場所にあり、奈良の都を理解する導入施設としての利用が期待される。いずれも国交省と文化庁が協力して運営する施設であり、奈文研や同研究所の平城宮跡資料館や飛鳥資料館との密接な連携性が求められるし、文化庁には適切な人員配置をお願いしたい。また、それら新設される施設への交通機関の整備も課題だ。地元の自治体や公共交通機関と連携を密にし、「宝の持ち腐れ」にならないよう、利用者の便を図る方策に担当省庁は取り組んでいただきたい。インバウンド招致にも絶好の施設になる。

５　文化財保護に関する国際協力の推進

東京文化財研究所（東文研）の５か年にわたる中国・敦煌壁画などに関する日中共同研究が終わった。敦煌という、日本の壁画にも大きな影響のある遺跡を舞台にした日中の共同研究は、刊行された報告書でわかるように大きな成果を残した。莫高窟第２８５窟での調査研究は実に１０年に及ぶという。しかし、微妙な国際情勢が影響したのか、終止符が打たれたのは残念だ。こういう時こそ、平和外交の担い手である文化交流が持つ意義は大きいと思う。６０年以上前に焼損した奈良・法隆寺金堂壁画の本格的な調査研究が始まった。奈良・高松塚古墳やキトラ古墳の壁画の研究を深化させる必要もある。そんな時、敦煌壁画の研究は重要性を持つ。日中の共同研究が完全に途絶えることのないような方策を講じ、文化財保護にかかわる国際交流の継続と推進の道を残してほしい。

奈文研のカンボジア・アンコール遺跡群の調査、保存事業は着実に成果を挙げている。南祠堂の再構築が終わり、北祠堂に事業の対象が移る。こうした目に見える成果は、カンボジアにとっても喜ばしいし、地元の研究者を育成する絶好の機会である。東文研も東南アジアで活動している。横のつながりを綿密にし、有効的な資料の活用や情報の共有でさらに実りあるものにしてほしい。

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは予算や人員が不十分な状態にありながら、アジア太平洋地域という広いフィールドを持ってしっかり活動している。アソシエイトフェローがスタッフとして加わり、予算も少しついたようで喜ばしい。富山での国際研究ワークショップやベトナム・ドンホー版画保護の取り組みなどは、調査研究体制がまだ十分に整っていないセンターの事業として成果を挙げている。東文研と協力しながら、着実に存在価値を高める取り組みに挑んでほしい。とくに危機遺産を抱えるこの地域の国々からは大きな信頼が寄せられており、大変だが着実な事業実施を求めたい。

６　情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

ナショナルセンターとしての存在から、情報資料の収集と整備、調査研究の成果の発信が十分に行われていることは自己点検評価報告書で理解できる。しかし、あえてこれまで以上に力を入れていただきたいと切に願う。報告書の刊行は多彩を極め、その労力には敬意を表する。情報手段が発達した現在でも、紙媒体での発信には大きな意義があり、インターネット世代でない人々には大いに役立つからだ。加えて一般に特に関心が持たれるような成果では、ウェブサイトでの公表もいっそう積極的に行ってほしい。データベースやアーカイブの充実も喜ばしい限りだ。この場合は報告書の内容の短縮化とか簡略化が求められる場合もあろう。作業は大変だろうが、一つでも二つでもこうした報告書が増えることを望む。

東文研が世界遺産に関する辞典を出した。しかし、発行部数は３００部という。世界遺産が注目される昨今、市民の関心に応える、こうした一般向けの冊子は市販の道を探り、実行してほしい。東文研がどんな活動をしているかの一端を、市民に知らせる頼もしいツールになることは確かだ。今からでも遅くはないと考える。

いつも言われることだが、東文研は現場がなく、遺跡を発掘調査し、報道発表や現地見学会、資料館展示などで市民と接触がある奈文研とは異なって、その事業が市民に見えにくい。それを補う努力はされており、台東区と協力して施設の公開に取り組んでいることは喜ばしいが、さらに施設紹介や事業紹介の試みに努めていただきたい。九博などが行う「バックヤードの公開」は、研究所にとって施設内に機器があって狭いなど難しい面はあるが、導入を検討してほしい。とくに次世代の小中学生に研究所の事業を知ってもらい、「僕も東文研や奈文研で仕事をするんだ」という後継者の芽を育てていただきたい。

７　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

国立博物館も文化財研究所も、ナショナルセンターとしての存在価値は大きい。地方公共団体や地方の公私立博物館などから大きな信頼が寄せられている。国立博物館員や文化財研究所員はそれを肝に銘じ、誇りに思い、それに応える取り組みをしているのは当然である。それによって、全国的な文化財保護の質的向上が図られ、展示では地方における文化の向上に寄与している。各機関が地方に対する協力や指導に相当、取り組んでいることは素晴らしいし、いっそう地方からの期待に応えていただきたい。

特に奈文研は地方の文化財関係職員に研修を行い、優れた職員を育ててきた。平成２８年５月７日に亡くなった坪井清足元所長が地方の文化財関係職員の養成に力を入れたことは知られる。今もその歴史はしっかり伝わってきて、様々な研修が行われていることは高く評価できる。しかし、一つだけ残念なことがあった。夏に行った奈文研での「報告書作成」の研修課程で多くの応募者が定員オーバーで参加できなかったことだ。研修受講者のアンケートでは全員が「有意義だった」「役に立った」と応えており、希望者全員が受講できるように対策をお願いしたい。地方自治体の発掘調査で、正式な報告書が調査からかなり経っても刊行されていないケースがある。報告書の書き方、作り方がわからない職員もいるらしい。だからこそ、奈文研の研修は重要だ。「しっかり対応する」とのことだったので、その成果を楽しみにしたい。

危惧することがある。最近、発掘調査をする株式会社が増えていることだ。その是非はここでは置くとして、こういった所で働く人々への調査技術や文化財保護意識の質的向上への取り組み、報告書刊行などへの指導はどうなっているのか。遺跡の価値の正当な評価が行われているのか。民間だから無関係ということではない。そのあたりもナショナルセンターとしての文化財研究所として考えてもらい、文化財保存が決しておろそかにならないような対応を長期的な視点で考えてもいいのではないか。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

共通業務の効率化や計画的なアウトソーシング、省エネや廃棄物の減量化、リサイクル推進などが着実に進められている。ＬＥＤ照明には課題もあるというが、省エネ機器の有効活用で、大幅な増加がほとんど見込めない運営費交付金を少しでもバックアップしようとする機構の試みは評価したい。省エネでは５

年間で５％削減したといい、さらなる努力が求められる。適切な外部委託による効率化も推進してほしいが、極端な取り組みは望ましくないだろう。

そんな中で、自己収入実績額（５月１２日暫定値）が目標値を３２％上回る大きな伸びになったことは、機構や機関の努力のたまものと考える。寄付金や科学研究費採択も目標値を上回り、東博や京博では施設の有償利用が大きく増えた。素晴らしいロケーションと施設を博物館事業だけでなく、どんどん他の事業に生かすことで保有資産を多彩に活用し、収入を増やす努力をすることは大いに勧められる活動だ。知恵をひねって活用を売り込み、いっそうの利用を図ってほしい。

職員の給与水準はラスパイレス指数でみると９７～９８％で適切だ。引き続き、効率化を進めていただきたいが、人件費のこれ以上の削減がないようにしたい。職員の士気向上に水を差すことのないような配慮が必要だ。仕事の量や質は誇るべきものである。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

文化庁の予算が近年、１，１００億円程度でほぼ横ばいだ。いつも比べられることだが、フランスでは国全体の年間予算の１％が文化関係予算である。それに対し、文化庁予算は０．１％のままだ。文化財機構への運営費交付金もわずかに上昇しているものの、ほとんど変わりない。極めて残念である。

３年ほど前、国会の参院予算委で下村文科相も安倍首相も文化関係予算の飛躍的増額を約束した。「文化立国を目指す」とも述べたことを国民は忘れない。それなのに、その実現への道筋がいまだにまったく見えないのは悲しい。２０１１年3月の東日本大震災、そして２０１６年4月の熊本地震等々。災害が起きるたびに文化財の重要性が声高に叫ばれるのに、それが財政面での実績となって結実しないのがもどかしい。なぜなのか。機構としてもその原因を探ったらどうか。文教族といわれる国会議員に、正当な手段で協力を訴えるのもいい。研究者としての矜持が許さないことも理解できるが、それはそれで、どこの世界でもロビー活動は行われており、政治を動かす行動力が今こそ求められていると思う。

私たちは今の貧弱な文化関係予算を放っておいて良いわけはない。危機感を共有して、政府の「文化立国を目指す」「文化関係予算の飛躍的増加を目指す」という答弁を忘れず、国にその実現を求めていく努力は最大限に続けなければならない。これは恥ずかしいことではなく、当然の取り組みである。運営費交付金を国際的にも先進国と同等で、妥当とみられるように増額を目指す「がむしゃらな」、一方で「紳士的な」取り組みに期待したい。

朗報があった。平成２６年度の目的積立金と使途が認められたのだ。東博に１５００万円、京博に７１００万円と額的には少ないかもしれないが、これを励みに自己収入の拡充にいっそうの努力を願う。

２０２０年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、スポーツを通じての国威発信は当然だが、それとともに、日本文化の素晴らしさを広く世界に発信しないといけない。オリンピック・パラリンピックはその絶好の機会といえ、絶対に無駄にすることは許されない。各館は「関連した各種事業を検討する」と年度計画に挙げているが、４館職員からなる特別チームを作り、日本の今と昔を外国人にも日本の小学生にも分かりやすいような基本的な日本を理解できる展覧会をぜひ、実現してもらいたい。

Ⅳ　その他人事計画等

人事交流は積極的に進めてもらいたい。事務系では大学との人事交流で優秀な人材確保ができているようだが、若いうちにいろいろな経験を積み重ね、刺激を受けて、それを仕事に生かすことは、その人にとっても機構にとっても有益になる。ただ、むやみやたらと人を動かすのではなく、もちろん計画的に、プラスマイナスの検討をしっかりしたうえで実施していただきたい。とくに、研究職にとってはフィールドが替わることによる研究環境の変化で支障をきたすこともあり、十二分な態勢での支援が必要だ。長年の研究に良くない影響が出るようでは意味がないし、かえってマイナスである。引き継ぎが十分でないために研究がうまく進まないとしたら実施しない方がいい。

しかし、大学など機構外の期間も含めた適切な人事交流は、機構全体に、さらに日本の文化財関係機関

にとって有意義な果実を生み出すことは長い目で見て想像できる。非公務員化のメリットを生かして、これまで以上に対応していただきたい。奈良博が陳列室の拡充とスタッフの増員を訴えている。運営費交付金が伸び悩む中で難しいのは承知しているが、機構は改めて、４館、２研究所、１センターの人員配置の再点検と適正化、充実に取り組んでいただきたい。現場の声をできるだけくんだ対応に努めてほしい。

その他（総合的な事項、自己点検評価について等）

博物館の場合、展覧会（特に特別展）の入館者（来館者）目標値は、どうやって設定するのだろうか。過去の類似の展覧会や開催時期、期間、また、その展覧会の魅力度などを勘案して決めるのだろうか。というのも、自己点検評価の定量的評価で、目標値をどれだけ上回るかで「Ｓ」～「Ｄ」の評価が、それだけではないが、だいたい決まるからである。極端なことをいえば目標値を下げておけば上位の評価ができるが、高くしておいたら達成できなくて低い評価になってしまう。そこは博物館の良心の問題なのか。

それと入館料の設定が悩ましい。今回報告のあった各館の特別展について見ると、５２０～１６００円で、１４００～１６００円が多いのがわかる。安いと入館者が多いかもしれない。もちろん、全体の収支計画の中での設定であり、十二分に議論したうえでの当然の値段であろうが、入館者の数と入館料の多い少ないが関連しているのだろうか。「高い」「低い」が入館者数にどのくらい影響するのか、基本的なことになるのだが、知っておく必要はある。「高くても入館する」人もいれば、「高いからやめておく」という人もいるだろう。そこには展覧会の内容や魅力に関連する要素があるだろう。入館者に調査して、その意識を探るのも、今後の展覧会の運営に資することがあるかもしれない

Ⅵ 日誌

（法人全体及び７施設共通事項）

年　月　日	記　　事
27.　4.　10	第１回役員会（東京文化財研究所）
27.　4.　20	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（研究所・センター調査研究等部会・東京文化財研究所）
27.　4.　28	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（博物館調査研究等部会・東京国立博物館）
27.　5.　29	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会（総会・東京国立博物館）
27.　6.　5	第２回役員会（東京国立博物館）
27.　6.　12	監査法人の監査結果（平成 26 年度）通知
27.　6.　17	平成 27 年度定期監査（東京国立博物館）
27.　6.　30	独立行政法人国立文化財機構の第 8 期事業年度財務諸表の提出
27.　6.　30	独立行政法人国立文化財機構の平成 26 年度自己評価書の提出
27.　6.　30	独立行政法人国立文化財機構の第３期中期目標期間自己評価書（見込評価）の提出
27.　7.　8	平成 27 年度独立行政法人国立文化財機構新任職員研修会（個人情報保護及びハラスメントに関する講演も同時実施）（東京文化財研究所・東京国立博物館）（～７月 10 日）
27.　7.　15	第３回役員会（京都国立博物館）
27.　7.　30	独立行政法人国立文化財機構運営委員会（東京国立博物館）
27.　9.　18	第４回役員会（奈良国立博物館）
27.　11.　6	第１回研究・学芸系職員連絡協議会(東京国立博物館)
27.　11.　13	第１回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
27.　11.　30	第１回情報化委員会(東京国立博物館)
27.　12.　18	第５回役員会（東京国立博物館）
28.　1.　22	第６回役員会（九州国立博物館）
28.　2.　12	第２回研究・学芸系職員連絡協議会(東京国立博物館)
28.　2.　19	第２回７施設連絡協議会(東京国立博物館)
28.　3.　25	第７回役員会（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年　月　日	記　　事
27.　4.　1	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.24」戸田弥生（ヴァイオリン）
27.　4.　2	東京･春･音楽祭 2015「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」
27.　4.　3	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.25」フランチェスコ・トリスターノ（ピアノ）
27.　4.　5	東京･春･音楽祭 2015「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」
27.　4.　8	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.26」安田謙一郎（チェロ）
27.　4.27	特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」開会式及び特別内覧会
27.　5.　7	秋篠宮同妃両殿下　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」お成り
27.　5.　9	上野ミュージアムウィーク「国際博物館の日」記念事業 2015（～5 月 24 日）
27.　5.15	特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」10 万人セレモニー
27.　5.17	国際博物館の日記念ツアー三館園連携事業「上野の山でゾウめぐり」
27.　5.19	国際博物館の日　総合文化展無料観覧日
27.　6.　2	特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」20 万人セレモニー
27.　6.20	初夏東博寄席 2015　金原亭馬生 他
27.　6.21	東京国立博物館　初夏のコンサート　瀬川祥子（ヴァイオリン）他
27.　6.23	臨時休館日（電気設備保守点検）
27.　6.28	ファミリーコンサート　東京クラリネットクワイヤー
27.　7.10	「クレオパトラとエジプトの王妃展」開会式及び特別内覧会
27.　7.27	「クレオパトラとエジプトの王妃展」キッズデー
27.　8.　3	平成 27 年度キャンパスメンバーズ教育連携事業「博物館学講座」（～8 月 7 日）
27.　8.10	「クレオパトラとエジプトの王妃展」10 万人セレモニー
27.　8.13	ネパール地震復興支援コンサート　サワン・ジョシ（シタール）　他
27.　9.　7	「アート オブ ブルガリ 130 年にわたるイタリアの美の至宝」開会式及び特別内覧会
27.　9.　9	「クレオパトラとエジプトの王妃展」20 万人セレモニー
27.　9.11	連続講座「考古学が熱い！」（～9 月 13 日）
27.　9.26	上野の山文化ゾーンフェスティバル「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」
27.　9.29	「博物館でアジアの旅」（～10 月 12 日）
27. 10.　2	博物館で野外シネマ 映画「銀河鉄道の夜」（1985 年、杉井ギサブロー監督）上映（～10 月 3 日）
27. 10.　6	キルギスの伝統楽器コムズの調べ　ウメトバエワ・カリマン（コムズ）他
27. 10.　9	中国の伝統楽器古箏の調べ　ウーファン（古箏）
27. 10.10	留学生の日
27. 10.17	宮沢賢治コンサート　古典四重奏団
27. 10.18	東京国立博物館　秋のコンサート　海野　幹雄（チェロ）他
27. 10.26	特別展「始皇帝と大兵馬俑」開会式及び特別内覧会
27. 10.27	秋の庭園開放（～12 月 6 日）
27. 10.30	創エネ・あかりパーク 2015 に伴うライトアップ（～11 月 2 日）
27. 10.31	Music Weeks in TOKYO 2015 まちなかコンサート

27. 11.10　第12回「台東区の伝統工芸職人展」（～11月15日）
27. 11.20　特別展「始皇帝と大兵馬俑」10万人セレモニー
27. 11.25　東大寺講演会
27. 12. 5　東博ボランティアデー2015開催（～12月6日）
27. 12. 6　特別展「始皇帝と大兵馬俑」関連番組上映会（～12月11日）
27. 12.11　特別展「始皇帝と大兵馬俑」20万人セレモニー
27. 12.21　東京国立博物館評議員会
28. 1. 2　博物館に初もうで2016（～1月31日）
28. 1. 2　博物館に初もうで2016 新春イベント　和太鼓（批魅鼓）
28. 1. 2　博物館に初もうで2016 新春イベント曲独楽（三増紋之助）
28. 1. 2　博物館に初もうで2016 新春イベント獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）
28. 1. 3　博物館に初もうで2016 新春イベント和太鼓（白梅太鼓）
28. 1. 3　博物館に初もうで2016 新春イベント曲独楽（三増紋之助）
28. 1. 3　博物館に初もうで2016 新春イベントクラリネット（ジュリアンズ）
28. 1. 3　博物館に初もうで2016 新春イベント獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）
28. 1. 9　新春東博寄席　金原亭馬生 他
28. 1.14　特別展「始皇帝と大兵馬俑」30万人セレモニー
28. 1.30　国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」（～1月31日）
28. 2.10　特別展「始皇帝と大兵馬俑」40万人セレモニー
28. 3.15　博物館でお花見を（～4月10日）
28. 3.15　春の庭園開放（～4月17日）
28. 3.16　東京･春･音楽祭2016 「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」
28. 3.18　東京･春･音楽祭2016 「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」
28. 3.18　東京･春･音楽祭2016 「東博でバッハvol.27」三浦文彰（ヴァイオリン）、豊嶋泰嗣（ヴィオラ）、富岡廉太郎（チェロ）
28. 3.22　特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」開会式及び特別内覧会
28. 3.22　特別公開「国宝　縄文の女神」オープニングセレモニー及び特別内覧会
28. 3.24　東京･春･音楽祭2016 「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」
28. 3.26　東京･春･音楽祭2016 「東博でバッハvol.28」キム・カシュカシャン（ヴィオラ）
28. 3.30　東京･春･音楽祭2016 「加藤えりな　無伴奏ヴァイオリン・コンサート」
28. 3.31　東京･春･音楽祭2016 「東博でバッハvol.29」戸田弥生（ヴァイオリン）

（京都国立博物館）

年	月	日	記　　事
27.	4.	4	土曜講座「あこがれのコスメグッズ-蒔絵の化粧道具-」
27.	4.	6	特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」開会式、内覧会
27.	4.	7	特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」（～5 月 17 日）
27.	4.	11	記念座談会「日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する!!」
27.	4.	14	名品ギャラリー来場者 50 万人セレモニー
27.	4.	18	土曜講座「生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い」
27.	4.	21	特集陳列「葵祭の美術-千年の伝統-」（～5 月 31 日）
27.	4.	25	土曜講座「新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に」
27.	4.	30	「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」来場者 5 万人セレモニー
27.	5.	2	土曜講座「桃山時代の異国趣味」
27.	5.	2	京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～
27.	5.	9	土曜講座「早熟の天才、狩野探幽登場」
27.	5.	14	「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」来場者 10 万人セレモニー
27.	5.	16	土曜講座「葵祭の美術」
27.	5.	17	国際博物館の日シンポジウム
27.	5.	23	土曜講座「博物館のなかで文化財をまもる-文化財と学ぶ自然科学-」
27.	5.	30	土曜講座「よろこびをまとう-日本の花嫁衣裳-」
27.	6.	6	土曜講座「高僧伝絵の時代」
27.	6.	9	特集陳列「日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情」（～7 月 20 日）
27.	6.	9	文化財に親しむ授業「八橋図屏風（尾形光琳筆）」京都市立大枝中学校
27.	6.	13	土曜講座「国宝 小野毛人墓誌をめぐって」
27.	6.	14	ワークショップ「こども☆ひかりフェスティバル in せんだい」に出展
27.	6.	20	土曜講座「京都周辺の古面」
27.	7.	4	土曜講座「日本で好まれた中国漆器」
27.	7.	9	文化財に親しむ授業「八橋図屏風（尾形光琳筆）」京都市立下鳥羽小学校
27.	7.	11	土曜講座「仁清と乾山　立体絵画への挑戦」
27.	7.	18	土曜講座「新出の法華経要文和歌懐紙」
27.	7.	19	少年少女博物館くらぶ「ドキドキ！刀にふれてみよう」（～7 月 20 日）
27.	7.	22	文化財の複製を用いた授業に関する交流会
27.	7.	25	土曜講座「羅漢図像の伝播　中国から日本へ」
27.	7.	29	特別展観「第 100 回大蔵会記念　仏法東漸-仏教の典籍と美術」（～9 月 6 日）
27.	7.	29	夏期講座「古社寺と文化財Ⅲ」（～7 月 31 日）
27.	8.	2	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～
27.	8.	8	土曜講座「京都大蔵会　－その意義と役割－」
27.	8.	29	記念シンポジウム「仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり」
27.	9.	4	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
27.	9.	4	文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風（俵屋宗達筆）」京都市立柏野小学校
27.	9.	5	土曜講座「仏法東漸の道のり　－大蔵経の成立と変遷－」
27.	9.	13	2015 日伊オペラ国際共同制作「道化師」

27.　9. 18　ヴィヴァルディへのオマージュ～スペシャル・チェンバー・コンサート
27. 10.　6　文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風(俵屋宗達筆)」京都市立開晴中学校
27. 10.　9　琳派 400 年記念特別ｲﾍﾞﾝﾄ「ｺｼﾉｼﾞｭﾝｺ琳派の世界」(ファッションショー)
27. 10.　9　特別展覧会「琳派　京を彩る」記念茶席
27. 10.　9　特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京を彩る」開会式、内覧会
27. 10. 10　記念講演会「くらしを彩る琳派の美」
27. 10. 14　社会科教員のための向上講座「琳派-京を彩るについて」
27. 10. 17　京都ミュージアムズ・フォー連携フォーラム「琳派を飾る-展覧会から見えるもの-」
27. 10. 24　土曜講座「光悦の作陶―自在な発想と造形―」
27. 10. 28　皇太子殿下　特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京を彩る」行啓
27. 10. 30　「琳派誕生 400 年記念　琳派　京を彩る」来場者 10 万人セレモニー
27. 10. 30　文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風（俵屋宗達筆)」京都市立衣笠中学校
27. 10. 30　京都・らくご博物館（秋）～紅葉寄席～
27. 10. 31　土曜講座「「琳派」の継承と広がり」
27. 10. 31　音燈華コンサート
27. 11.　3　琳派 400 年記念国際シンポジウム「琳派この一作　～私の見方・楽しみ方」
27. 11.　4　留学生の日
27. 11.　7　土曜講座「風神雷神図屏風の転生」
27. 11.　7　大琳派プロジェクションマッピング「美の継承」(～11 月 9 日)
27. 11. 10　「琳派誕生 400 年記念　琳派　京を彩る」来場者 20 万人セレモニー
27. 11. 14　土曜講座「宗達の目の記憶」
27. 11. 14　琳派 400 年記念 風神雷神おしゃべり鑑賞会（～11 月 15 日）
27. 11. 18　文化財に親しむ授業「風神雷神図屏風（俵屋宗達筆)」京都市立小栗栖宮山小学校
27. 11. 18　Hijiya Music Club ＆ Kyohaku Joint Concert
27. 11. 21　「琳派誕生 400 年記念　琳派　京を彩る」来場者 30 万人セレモニー
27. 12.　7　文化財に親しむ授業「四季花鳥図屏風（雪舟筆)」京都市立南太秦小学校
27. 12. 13　文化遺産防災国際シンポジウム-文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性
27. 12. 15　新春特集陳列「さるづくし-干支を楽しむ」(～28 年 1 月 24 日)
27. 12. 15　特集陳列「刀剣を楽しむ-名物刀を中心に-」(～28 年 2 月 21 日)
27. 12. 15　特集陳列「獅子と狛犬」(～28 年 3 月 13 日)
27. 12. 15　クリスマス・ロマンチック・コンサート
27. 12. 15　庭園イルミネーション（～28 年 1 月 31 日)
27. 12. 19　ワークショップ「こども☆ひかりフェスティバル in せんだい」に出展
27. 12. 20　クリスマス・ハンドベルコンサート
28.　1.　2　正月イベント「新春・京博こと始め 2016」及び「親子で餅つき大会」
28.　1.　3　正月イベント「新春・京博さるづくし」及び「福引き抽選会」
28.　1.　9　土曜講座「冷泉家の年中行事」
28.　1. 10　新春イベント「芸舞妓　春の舞」(～1 月 11 日)
28.　1. 16　土曜講座「刀剣を楽しむ　－名物刀を中心に－」
28.　1. 23　土曜講座「猿へのまなざし　－申年にちなんで－」

28. 1. 25　第 20 回　評議員会
28. 1. 25　総合防災訓練
28. 1. 26　特集陳列「皇室ゆかりの名宝」（～2 月 21 日）
28. 1. 30　土曜講座「唐物天目　－種類と価値観－」
28. 1. 30　京都・らくご博物館（冬）～新春寄席～
28. 2. 6　土曜講座「行幸行列図を読む」
28. 2. 11　大人の博物館くらぶ「古代の鏡　鋳造体験」
28. 2. 13　土曜講座「典雅なる装い　－京都国立博物館所蔵 宮廷装束コレクション－」
28. 2. 20　土曜講座「科学機器による仏像の調査研究」
28. 2. 27　雛まつりと人形（3 月 21 日）
28. 2. 27　土曜講座「京の雛飾りの特色と変遷について　－ひいな遊びからひなまつりへ－」
28. 3. 5　土曜講座「みちのくの経塚遺宝　－秋田県松岡経塚をめぐって－」
28. 3. 12　土曜講座「教育普及の仕事　－ものと人との橋渡し－」
28. 3. 14　フランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結
28. 3. 18　京都国立博物館ミュージアムパートナー事業報告会
28. 3. 19　土曜講座「国宝　山越阿弥陀図の謎を探る」
28. 3. 26　雅楽公演
28. 3. 26　居合演武（～3 月 27 日）

（奈良国立博物館）

年　月　日	記　　事
27.　4.　6	文化大使（笑い飯 哲夫氏）就任式
	特別展「－まぼろしの久能寺経に出会う－　平安古経展」
	開会式、特別招待日　（会期 4 月 7 日～5 月 17 日）
27.　4.　7	賛助会員特別鑑賞会
27.　4. 15	春季仏像供養法要
27.　4. 18	公開講座「見返絵のある久能寺経について」
27.　4. 19	サンデートーク「伝記絵を見る　聖徳太子絵伝を中心に」
27.　4. 24	第 1 回陳列品鑑査会
27.　4. 25	公開講座「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」
27.　5.　5	名品展無料観覧日（こどもの日）
27.　5.　9	公開講座「久能寺経と一品経」
	親と子のワークショップ「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」
27.　5. 17	サンデートーク「室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師」
27.　5. 19	名品展無料観覧日（国際博物館の日）
27.　6.　1	特別陳列「名匠三代」開会式、特別招待日　（会期 6 月 2 日～28 日）
27.　6. 10	第 2 回陳列品鑑査会
27.　6. 13	公開講座「木内省古の正倉院模造―木画紫檀双六局模造をめぐって―」
27.　6. 21	サンデートーク「出羽の鏡像」
27.　7. 17	開館 120 年記念特別展「白鳳 －花ひらく仏教美術－」
	開会式、特別招待日（会期 7 月 18 日～9 月 23 日）
27.　7. 19	サンデートーク「平安時代の密教修法」
27.　7. 22	賛助会員特別鑑賞会
27.　7. 25	白鳳フォーラム
27.　8.　1	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」
27.　8.　4	水煙チョコ鋳造体験「白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう♪」
27.　8.　8	公開講座「天武・持統天皇の理想の都－藤原宮と新益京－」
27.　8. 12	「奈良国立博物館文化大使　笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座」
27.　8. 16	サンデートーク「文化財を科学するⅡ」
27.　8. 18	夏季講座「白鳳－歴史と美術－」（～8 月 20 日まで）
27.　8. 22	公開講座「東アジアのなかの白鳳仏」
27.　8. 25	白鳳展 親子鑑賞会
27.　8. 26	第 1 回評議員会
27.　8. 29	夏休み親子講座「守ろう！知ろう！文化財」
27.　9.　5	公開講座「白鳳寺院を飾った工芸」
27.　9. 19	公開講座「白鳳の童形仏とその周辺」
27.　9. 27	サンデートーク「第 6 回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」
27.　9. 29	正倉院展無障碍祈願法要
27. 10.　2	第 3 回陳列品鑑査会
27. 10. 11	サンデートーク「偏衫をめぐって」

27. 10. 23　特別展「第 67 回正倉院展」開会式、特別招待日（会期 10 月 24 日～11 月 9 日）
27. 10. 26　賛助会員特別鑑賞会
27. 10. 31　公開講座「王朝びとの年中行事－文学と絵画をめぐって－」
27. 11. 1　古典の日記念　正倉院学術シンポジウム 2015
「正倉院と奈良国立博物館～120 年のあゆみ」
留学生の日
27. 11. 3　公開講座「正倉院の仏具とその収納箱」
第 67 回正倉院展 親子鑑賞会
27. 11. 7　公開講座「奈良時代の衣服」
27. 11. 9　高円宮妃殿下お成り
27. 11. 22　秋の庭園散策（11 月 22 日、23 日）
27. 11. 29　サンデートーク「東大寺僧形八幡神坐像・再説」
27. 12. 8　特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」（～平成 28 年 1 月 17 日）
27. 12. 9　正倉院展満願法要
第 4 回陳列品鑑査会
27. 12. 15　第 5 回陳列品鑑査会
27. 12. 17　名品展無料観覧日（おん祭お渡り式の日）
おん祭と春日信仰の美術「茶会」
27. 12. 20　サンデートーク「仏伝図の世界－ブッダの生涯を旅する」
27. 12. 22　特集展示「新たに修理された文化財」（～平成 28 年 1 月 17 日）
27. 12. 26　公開講座「若宮の誕生とその御祭礼」
28. 1. 14　文化財保存修理所特別公開
28. 1. 17　サンデートーク「古代東アジアの屋根～中国、韓国、日本～」
28. 1. 19　冬季仏像供養法要
28. 1. 29　第 62 回文化財防火デー消防訓練
28. 2. 3　名品展無料観覧日（節分の日）
28. 2. 5　特別陳列「伊豆山神社の歴史と美術」
開会式、特別招待日（会期 2 月 6 日～3 月 14 日）
28. 2. 6　特別陳列「お水取り」（～3 月 14 日）
28. 2. 7　お水取り「講話」と「粥」の会
28. 2. 9　第 6 回陳列品鑑査会
28. 2. 13　公開講座「伊豆山権現像の成立と展開　－保存修理の知見を踏まえて－」
28. 2. 14　奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント「仏像を撮ってみよう！」
28. 2. 21　サンデートーク「8 世紀の鏡」
28. 2. 23　買取等協議会、買取等評価会
28. 2. 27　公開講座「不退の行法　十一面悔過－「お水取り」がたどった棘の道－」
28. 3. 8　第 2 回評議員会
28. 3. 20　サンデートーク「文化財修理の現場から～考古資料を中心として～」

（九州国立博物館）

年	月	日	記　　事
27.	3.	3	トピック展示「柿右衛門－受け継がれる技と美－」（～5 月 10 日）
27.	4.	1	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展 1095 日の軌跡（～4 月 19 日）
27.	4.	19	施設見学会（職員向け）
27.	4.	20	開館 10 周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」開会式および内覧会
27.	4.	21	開館 10 周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」開催（～5 月 31 日）
27.	4.	25	第 46 回　はじめての茶道体験
27.	4.	26	第 53 回　親子で茶道体験
27.	4.	29	きゅーはくミュージアムコンサート　盲導犬チャリティーイベント＆コンサート～Message～
27.	5.	2	シンポジウム「開館 10 周年記念特別展関連『戦国武将のデザイン』」
27.	5.	3	きゅーはくミュージアムコンサート　墨絵アーティスト西元祐貴によるライブパフォーマンス
27.	5.	4	博多どんたく港まつりパレード参加
27.	5.	8	開館 10 周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」3 万人セレモニー
27.	5.	16	第 47 回　はじめての茶道体験
27.	5.	17	第 54 回　親子で茶道体験
27.	5.	19	文化交流展無料観覧日（国際博物館の日）
27.	5.	19	特別公開「中世刀剣の美－ふくやま美術館寄託『小松コレクション』と九博の名刀－」（～6 月 28 日）
27.	5.	23	第 1 回　ガムランワークショップ
27.	5.	27	開館 10 周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」7 万人セレモニー
27.	6.	3	特別展歴代ポスター展示（～7 月 5 日）
27.	6.	13	きゅーはくミュージアムコンサート　やっぴい博士のサイエンスラボ&Mr.BUNBUN ジャグリングショー
27.	6.	13	第 55 回　親子で茶道体験
27.	6.	14	第 48 回　はじめての茶道体験
27.	6.	14	シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災Ⅰ」
27.	6.	20	開館 10 周年記念コンサート　大迫淳英&関雅子～歌は人生、旅も人生～
27.	6.	21	第 2 回　ガムランワークショップ
27.	7.	1	ミュージアムショップのリニューアル
27.	7.	7	「ゆかた de 太宰府～古都の夏～」オープニングイベント
27.	7.	11	第 49 回　はじめての茶道体験
27.	7.	11	第 3 回　ガムランワークショップ
27.	7.	12	第 56 回　親子で茶道体験
27.	7.	13	開館 10 周年記念特別展「大英博物館展－100 のモノが語る世界の歴史－」開会式および内覧会

27. 7. 14　夏休み特別企画「九博ブックカフェ」（～9 月 6 日）
27. 7. 14　開館 10 周年特別企画「むしの考古学」（～9 月 13 日）
27. 7. 14　開館 10 周年記念特別展「大英博物館展－100 のモノが語る世界の歴史－」開催（～9 月 6 日）
27. 7. 18　きゅーはくミュージアムコンサート　Departure
27. 7. 18　九博ナイトミュージアム（～7 月 19 日、8 月 28 日）
27. 7. 20　太宰府天満宮参道アンテナショップのオープン
27. 7. 24　納涼イベント with ゆかた de 太宰府　茶室でポーズ（～7 月 25 日）
27. 7. 28　「筑前朝倉の青銅器」（～9 月 27 日）
27. 8. 8　開館 10 周年記念イベント「アジア人形劇フェスティバル　ワヤンクリ（インドネシア）」（～8 月 9 日）
27. 8. 8　第 4 回　ガムランワークショップ
27. 8. 10　第 1 回評議員会
27. 8. 15　全国高等学校考古学フォーラム 2015
27. 8. 16　きゅーはくミュージアムコンサート　アイリッシュハープの調べ
27. 8. 18　開館 10 周年記念特別展「大英博物館展－100 のモノが語る世界の歴史－」7 万人セレモニー
27. 8. 21　メンタルヘルス研修（職員向け）
27. 8. 22　第 50 回　はじめての茶道体験
27. 8. 23　第 57 回　親子で茶道体験
27. 8. 26　開館 10 周年記念イベント「アジア人形劇フェスティバル　水中人形劇（ベトナム）」（～8 月 27 日）
27. 8. 28　開館 10 周年記念特別展「大英博物館展－100 のモノが語る世界の歴史－」10 万人セレモニー
27. 8. 29　開館 10 周年記念イベント「アジア人形劇フェスティバル　フン・ラコーン・レック（タイ）」（～8 月 30 日）
27. 8. 29　きゅーはく 10 周年特別企画『むしの考古学』関連イベント「ゆめはく」号がやってくる（～8 月 30 日）
27. 9. 1　博物館で昆虫採集と野鳥調査？～意外と知らない博物館の仕事（～9 月 13 日）
27. 9. 5　きゅーはくミュージアムコンサート　English music by TomTach
27. 9. 19　第 51 回　はじめての茶道体験
27. 9. 20　第 58 回　親子で茶道体験
27. 9. 21　文化交流展無料観覧日（敬老の日）
27. 9. 22　開館 10 周年特別企画・「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念　トピック展示「新羅王子がみた大宰府」（～11 月 29 日）
27. 9. 25　太宰府　古都の光（17 時半以降　文化交流展無料観覧）
27. 9. 29　学術文化交流協定締結事業「微笑みの国タイ古典舞踊と伝統音楽」（～9 月 30 日）
27. 10. 3　第 59 回　親子で茶道体験
27. 10. 4　第 52 回　はじめての茶道体験
27. 10. 6　8K スーパーハイビジョンシアター「神やどる島　宗像沖ノ島」上映開始
27. 10. 11　開館 10 周年記念イベント　九博ボランティアフェスタ

27. 10. 14　「琉球と海－アジアにおける交流」（～11 月 23 日）
27. 10. 14　「田中丸コレクションの茶陶」（～12 月 20 日）
27. 10. 14　「九州国立博物館のあゆみ」パネル展示（～11 月 3 日）
27. 10. 14　絵画コンクール「100 年後の博物館を描こう」（～3 月 27 日）
27. 10. 16　開館 10 周年プロジェクションマッピング「ひかりあと」（～10 月 25 日）
27. 10. 16　開館 10 周年記念植樹式
27. 10. 16　開館 10 周年記念切手シートの販売
27. 10. 17　開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」開会式および内覧会
27. 10. 17　開館 10 周年記念式典および記念レセプション
27. 10. 17　開館 10 周年記念写真集「九州国立博物館のあゆみ」、「九州国立博物館館蔵名品 50 選」発刊
27. 10. 18　文化交流展示室のリニューアル
27. 10. 18　地域交流イベント「きゅーはく市民感謝祭」
27. 10. 18　シンポジウム「アジア交流博物館長サミット」
27. 10. 18　開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」開催（～11 月 29 日）
27 .10. 19　地域交流イベント「10 th Anniversary Happy 5 Days」（～10 月 23 日）
27. 10. 25　開館 10 周年記念イベント　九博能－狂言「萩大名」・能「羽衣」
27. 10. 25　きゅーはく・だざいふコラボ企画「新羅王子がみた大宰府」見どころ解説と太宰府市内史跡案内バスハイク
27. 10. 30　開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」5 万人セレモニー
27. 11. 3　きゅーはく・だざいふコラボ企画 10 周年記念コンサート
27. 11. 3　文化交流展無料観覧日（留学生の日）
27. 11. 7　第 53 回　はじめての茶道体験
27. 11. 8　第 60 回　親子で茶道体験
27. 11. 12　開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」10 万人セレモニー
27. 11. 15　文化交流展無料観覧日（家族の日）
27. 11. 16　職員定期健康診断
27. 11. 21　開館 10 周年記念イベント「アジア人形劇フェスティバル　スバエク・トム（カンボジア）」（～11 月 22 日）
27. 11. 25　ハラスメント研修（職員向け）
27. 11. 28　シンポジウム「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」
27. 11. 29　きゅーはくミュージアムコンサート　徳永玲子&親子 JAZZ ユニット・ビジョンズがおくる「絵本と音の玉手箱」せんねんまんねん
27. 12. 5　第 54 回　はじめての茶道体験
27. 12. 6　第 61 回　親子で茶道体験
27. 12. 6　きゅーはくミュージアムコンサート　やっぴぃ博士のサイエンスラボ&コメディマジック Rintaro
27. 12. 13　第 5 回　ガムランワークショップ
27. 12. 19　シンポジウム「X 線 CT を用いた文化財の研究と活用」
27. 12. 25　開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝

ー」開会式および内覧会
28. 1. 1 開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」開催（～2 月 14 日）
28. 1. 1 新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」（～1 月 24 日）
28. 1. 1 開館 10 周年記念新春展示「太宰府天満宮の地宝」（～2 月 28 日）
28. 1. 16 なりきり考古学者体験
28. 1. 17 きゅーはくミュージアムコンサート　逆瀬川剛史アコースティックギターソロライブ
28. 1. 19 芦屋鋳物師の世界～中世鋳金の美と受け継がれた技～（～4 月 17 日）
28. 1. 23 第 62 回　親子で茶道体験
28. 1. 24 第 55 回　はじめての茶道体験
28. 1. 24 バックヤードツアー特別公開「博物館科学・文化財保存修復施設」
28. 1. 24 シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災 II」
28. 1. 29 開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」3 万人セレモニー
28. 1. 29 国宝修理装潢師連盟による「寒糊炊き」
28. 2. 2 開館 10 周年記念トピック展示「祈りのかたち　八幡」（～3 月 13 日）
28. 2. 6 第 56 回　はじめての茶道体験
28. 2. 7 第 63 回　親子で茶道体験
28. 2. 8 避難訓練
28. 2. 9 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産パネル展（～2 月 14 日）
28. 2. 16 九博子どもフェスタ筑紫地区小学校児童絵画展（～2 月 21 日）
28. 2. 20 九博子どもフェスタ～博物館ってともだちだ！～（～2 月 21 日）
28. 2. 27 シンポジウム「大城（大野城）の謎に迫る！ー宇美町からの新たな発信ー」
28. 2. 27 なりきり考古学者体験
28. 2. 28 第 6 回　ガムランワークショップ
28. 3. 7 防災訓練
28. 3. 12 きゅーはく女子考古学部サミット～女子的考古学のススメ～
28. 3. 12 SUGITETSU PRESENTS チャリティ音楽実験室 for 東北
28. 3. 12 第 57 回　はじめての茶道体験
28. 3. 13 第 64 回　親子で茶道体験
28. 3. 14 「始皇帝と大兵馬俑」開会式および内覧会
28. 3. 15 「始皇帝と大兵馬俑」開催（～6 月 12 日）
28. 3. 15 第 2 回評議員会
28. 3. 16 福岡県産スギの間伐材を利用した木製手すりの設置（館外の遊歩道）
28. 3. 19 なりきり学芸員体験
28. 3. 21 きゅーはくミュージアムコンサート　踊る博物館
28. 3. 22 瀋陽故宮博物院招聘記念講演会「瀋陽故宮博物院の魅力」（職員向け）
28. 3. 27 Ｅテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」

（東京文化財研究所）

年　月　日	記　　事
27. 4. 3	台湾國立台北教育大学大学院 13 名　施設見学
27. 4. 6	共同調査：宮内庁三の丸尚蔵館所蔵作品（～4 月 15 日）
27. 4. 8	学会発表：「適合と発展：西洋と文化財修復における東アジアの材料と技術」（英国保存修復学会）（～4 月 10 日）
27. 4. 21	企画情報部研究会第 1 回「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」
27. 5. 22	東京文化財研究所新任職員研修 16 名
27. 6. 4	企画情報部研究会第 3 回「伝祇園南海筆「山水図巻」（東京国立博物館蔵）について」、「在外コレクションにみる近代日本画家とその作画活動―メトロポリタン美術館所蔵「ブリンクリー・アルバム（近代日本画帖）」の成立と受容を中心に」
27. 6. 6	シンポジウム「美術資料情報における大規模化と高度化―グローバルなデジタル化戦略と学術的専門研究の接点を問う」（国立西洋美術館）
27. 6. 8	JICA エジプト GEM-CC プロジェクト「第 4 回保存修復材料としての和紙研修」（～6 月 17 日）
27. 6. 9	対談「「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合」
27. 6. 14	拠点交流事業（ミャンマー）：煉瓦造遺跡の壁画保存に関する研修及び調査（～6 月 23 日）
27. 6. 28	第 39 回世界遺産委員会参加（ドイツ・ボン）（～7 月 8 日）
27. 6. 29	拠点交流事業（ミャンマー）：第 4 回木造建造物保存研修（～7 月 11 日）
27. 6. 30	企画情報部研究会第 2 回「南紀下向前の長沢芦雪：禅林との関わりをめぐって」
27. 7. 6	保存担当学芸員フォローアップ研修－水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響
27. 7. 8	研究報告会「日韓共同研究－文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究－2015 年度研究報告会」
27. 7. 8	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」基礎編（ベルリン博物館群アジア美術館）（～7 月 10 日）
27. 7. 10	独立行政法人国立文化財機構新任職員研修 45 名　施設見学
27. 7. 13	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」応用編（ベルリン博物館群アジア美術館）（～7 月 17 日）
27. 7. 13	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7 月 24 日）
27. 7. 16	IPM フォーラム「臭化メチル全廃から 10 年：文化財の IPM の現在」
27. 7. 23	タイ在東京タイ王国大使館主席公使他 10 名　所長表敬訪問及び施設見学
27. 7. 28	拠点交流事業（ミャンマー）：文化財建造物保存修理に関する専門家招聘研修（～8 月 6 日）
27. 8. 26	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良（奈良春日野国際フォーラム甍～I・RA・KA～）（～8 月 29 日）
27. 8. 26	西スマトラ・パダン歴史地区の再生に関するワークショップ（マレーシア・ペナン市ジョージタウン）
27. 8. 31	企画情報部研究会第 4 回「黒田清輝宛岡田三郎助書簡　翻刻と解題」、「岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像」

27. 8. 31　ICCROM 国際研修「紙の保存と修復」（～9 月 18 日）
27. 9. 14　文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）：ネパール現地調査（～9 月 28 日）
27. 9. 29　企画情報部研究会第 5 回「絹生産における在来技術について」
27. 10. 2　ユネスコ文化遺産保存日本信託基金（シルクロード）：文化遺産ドキュメンテーション技術向上・遺産のマネジメントプラン作成ワークショップ（～10 月 10 日）
27. 10. 5　東京学芸大学 9 名　施設見学
27. 10. 6　総合研究会第 1 回「展示照明としての白色 LED」
27. 10. 16　染織文化財の技法・材料に関する研究会「ワークショップ　友禅染―材料・道具・技術―」（文化学園大学）（～10 月 17 日）
27. 10. 30　第 49 回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」（～10 月 31 日）
27. 11. 4　ICCROM 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」（～11 月 20 日）（メキシコ国立人類学歴史機構）
27. 11. 4　平成 27 年度福島県被災文化財等救援本部研修会（第 1 回）（南相馬市博物館）
27. 11. 5　大韓民国・国立中央博物館 2 名　施設見学
27. 11. 5　文化遺産国際協力コンソーシアム第 17 回研究会「危機の中の文化遺産」
27. 11. 10　総合研究会第 2 回「文化財防災ネットワーク推進事業と文化財防災・危機管理に関する調査研究」
27. 11. 11　無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」（～11 月 12 日）
27. 11. 13　研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」
27. 11. 16　日本空気清浄協会 21 名　施設見学
27. 11. 16　JAL プロジェクト：海外日本美術資料専門家（司書）招へい・研修（～11 月 27 日）
27. 11. 17　韓国伝統文化大学大学院 4 名　施設見学
27. 11. 19　拠点交流事業（ミャンマー）：ピィ考古学フィールドスクール及びシュリクシェトラ遺跡の整備と活用に関するワークショップ　（～11 月 26 日）
27. 11. 21　文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）：ネパール建築・構造・都市・無形分野現地調査（～12 月 8 日）
27. 11. 22　拠点交流事業（ミャンマー）：第 5 回木造建造物保存研修（～12 月 6 日）
27. 11. 24　企画情報部研究会第 6 回「徳川吉宗が先導した視覚と図像の更新について―岡本善悦豊久の役割を中心に―」
27. 12. 1　総合研究会第 3 回「14 世紀絵巻詞書総覧構想と有効利用について－京都・金蓮寺本「遊行上人縁起絵巻」での適用事例を中心に、その即効性と限界を考える－」
27. 12. 4　第 10 回無形民俗文化財研究協議会「ひらかれる無形文化遺産―魅力の発信と外からの力」
27. 12. 7　袖ケ浦市郷土博物館 10 名　施設見学
27. 12. 13　アセアン＋3 文化遺産フォーラム 2015「東南アジア諸国と共に歩む―多様な文化遺産の継承と活用」
27. 12. 18　第 10 回無形文化遺産部公開学術講座「邦楽の旋律とアクセント－中世から近世へ－」（東京国立博物館）
27. 12. 22　企画情報部研究会第 7 回「「紅白芙蓉図」改装の可能性と受容について」
27. 12. 22　研究会「無形文化遺産と防災―伝統技術における記録の意義」

27. 12. 25　総合防災訓練
28. 1. 12　総合研究会第4回「楽器行脚20年－無形文化財としての楽器研究、その問題点－」
28. 1. 13　企画情報部研究会第8回「ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点」、「東洋人の眼から見たサンドロ・ボッティチェリ―矢代の1925年のモノグラフ」、「矢代幸雄著『受胎告知』を再読する」、「矢代幸雄の絵巻研究」、「矢代幸雄と1930-45年代の中国美術研究」
28. 1. 14　安全衛生講習会
28. 1. 15　第29回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代文化遺産の保存理念と修復理念」
28. 1. 24　国際シンポジウム「紛争と文化遺産－紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興－」
28. 1. 26　第9回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会「文化財建造物の塗装修理に対する日本産漆使用の現状と課題」
28. 1. 28　平成27年度福島県被災文化財等救援本部研修会（第2回）（福島県文化財センター白河館）
28. 1. 29　被災文化財等保全活動の記録に関する研究会
28. 2. 2　総合研究会第4回「有機化学者から見た文化財保護－実体験を中心に－」
28. 2. 3　文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）：2015年ネパール・ゴルカ地震による被災文化遺産に関するセミナー（～2月9日）
28. 2. 9　「アメリカ ゲッティ財団ゲッティ研究所との日本美術の共同研究推進に関する協定」調印式
28. 2. 14　拠点交流事業（ミャンマー）：遺跡の整備・活用に関する専門家招聘研修（～2月22日）
28. 2. 15　文化財の保存環境に関する研究会－実験用実大展示ケースを用いた濃度予測と清浄化技術の評価－
28. 2. 22　無形の文化財映像記録作成研究会
28. 2. 23　企画情報部研究会第9回「光琳の「道崇」印作品について-尾形光琳の江戸滞在と画風転換」
28. 3. 1　総合研究会第5回「近代日本美術の基層をめぐって―岸田劉生を中心に」
28. 3. 9　第4回無形文化遺産情報ネットワーク協議会
28. 3. 23　「東文研の文化財データベース」文化財データベース・アーカイブの構築と活用に関する研究会
28. 3. 24　エントランスロビーパネル展示「選定保存技術―漆の文化財を守り伝えるために」
28. 3. 29　企画情報部研究会第10回「狩野山雪筆「武家相撲絵巻」一巻について」

（奈良文化財研究所）

年　月　日	記　　事
27.　4. 11	第12回平城宮跡クリーン大会実施
27.　4. 24	飛鳥資料館春期特別展「はじまりの御仏たち」（～6月21日）※ギャラリートーク5回実施
27.　5.　9	飛鳥資料館春期特別展記念講演会「塼仏学研究最前線―奉献から荘厳・三尊から群像へ」
27.　6.　8	文化財担当者専門研修「建築遺構調査課程」（～6月12日）
27.　6. 10	展示「飛鳥・藤原地区の最新の調査・研究成果」（藤原宮跡資料室）（～9月13日）
27.　6. 15	文化財担当者専門研修「災害痕跡調査課程」（～6月19日）
27.　6. 20	公開講演会（第116回）（平城宮跡資料館講堂） 「押勝の金・銀・銅貨」「ガラスからみた東西交易：日本出土のローマ・ガラスの起源」「『日本後紀』を考古学で解釈する―弘仁6年正月丁丑条を中心に―」
27.　6. 22	文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」（～6月26日）
27.　7.　6	文化財担当者専門研修「報告書作成Ⅰ(編集基礎)課程」（～7月10日）
27.　7. 10	文化財写真技術研究会の開催（平城宮跡資料館講堂）（～7月11日）
27.　7. 11	平城宮跡資料館夏期企画展（こども展示）「平城京“ごみ”ずかん―ごみは宝―」・夏のミニ展示「すごろく土器がみつかった！」（～9月23日） ※ギャラリートーク5回、親子ワークショップ1回実施
27.　7. 13	文化財担当者専門研修「報告書作成Ⅱ(応用制作)課程」（～7月17日）
27.　7. 13	消防訓練（本庁舎・平城地区）
27.　7. 21	文化財担当者専門研修「自然科学的年代測定法課程」（～7月24日）
27.　7. 28	飛鳥資料館夏期企画展「第6回写真コンテスト応募作品展『ひさかたの天―いにしえの飛鳥を想ふ―』」（～9月13日）
27.　8.　4	環境考古学講演会「北米北西海岸の低湿地遺跡からみた植物利用・景観復元・海水準変動」（平城宮跡資料館講堂）
27.　8. 29	飛鳥資料館夜間無料開館（明日香村観光活性化事業「飛鳥光の回廊」参加）（～8月30日）
27.　9.　1	ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業の集団研修「木造建造物の保存と修復」への実施協力（～10月1日）
27.　9.　8	文化財担当者専門研修「遺跡情報記録調査課程」（～9月11日）
27.　9. 14	文化財担当者専門研修「木器・木製品調査課程」（～9月18日）
27.　9. 24	英国のセインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）およびロンドン大学オリエント・アフリカ学研究所（SOAS）との研究同企画「IN-PACE（Internationalizing Nabunken for Promoting Academic and Cultural Exchange between Japan and UK）セミナーシリーズ」を英国各地で計4回開催（9月24日、11月26日、1月28日、3月11日）
27.　9. 28	文化財担当者専門研修「三次元計測課程」（～10月2日）
27. 10.　3	東院庭園「庭の宴」
27. 10.　6	文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ基礎(金属製遺物)課程」（～10月15日）
27. 10.　9	飛鳥資料館秋期特別展　飛鳥資料館開館40周年記念「キトラ古墳と天の科学」（～11

月 29 日）※ギャラリートーク 4 回、記念講演会 1 回、関連講演会 2 回実施

27. 10. 12　現地説明会「飛鳥藤原第 186 次」（藤原宮大極殿院）発掘調査

27. 10. 15　文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ基礎(木製遺物)課程」（～10 月 23 日）

27. 10. 17　平城宮跡資料館秋期特別展「地下の正倉院展―造酒司木簡の世界」（～11 月 29 日）※ギャラリートーク 3 回実施

27. 10. 18　飛鳥資料館秋期特別展連動企画講演会「古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ」（中之島フェスティバルタワー）

27. 10. 24　特別講演会（東京会場）『発掘遺構から読み解く古代建築』（有楽町朝日ホール）
「なぜ建築史の研究者が発掘現場に？」「発掘遺構と古代建築をつなぐ」「古代建築の復原の手がかり―平城宮朱雀門と第一次大極殿―」「東西楼は入母屋か寄棟か―平城宮第一次大極殿の復原にむけて―」「山田寺倒壊回廊が語る古代建築史」「出土部材をしらべ、まもり、つたえる」

27. 10. 26　ユネスコアジア文化センターが企画する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（ブータンで開催）への実施協力（～10 月 31 日）

27. 10. 31　飛鳥資料館秋期特別展記念講演会「キトラ古墳と天の科学」（明日香村中央公民館）

27. 11. 7　公開講演会（第 117 回）（平城宮跡資料館講堂）
「古代の盤上ゲーム『樗蒲（かりうち）』の復元」「藤原宮から平城京へ―宮の瓦づくりの移り変わり―」「ウマ駆ける古代日本」

27. 11. 8　飛鳥資料館秋期特別展連動企画講演会「プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～」（東京多摩六都科学館）

27. 11. 10　ユネスコアジア文化センターが企画する研修事業の個別テーマ研修「博物館等における文化財の管理と展示活用」への実施協力（～12 月 8 日）

27. 11. 14　日本遺跡学会 2015 年度総会および大会「グスク石垣等の復元整備と課題」の開催（沖縄県立博物館・美術館）（～11 月 15 日）

27. 11. 21　現地説明会「東大寺東塔院跡」発掘現場

27. 11. 28　文化的景観研究集会（第 7 回）の開催（平城宮跡資料館講堂）（～11 月 29 日）

27. 12. 5　平城宮跡資料館ミニ企画展示「発掘速報展 平城 2015　第 1 期」（～1 月 31 日）

27. 12. 5　木簡学会研究集会（第 37 回）の開催（平城宮跡資料館講堂）（～12 月 6 日）

27. 12. 8　文化財担当者専門研修「文化財写真課程」（～12 月 18 日）

27. 12. 11　古代官衙・集落研究集会（第 19 回）の開催（平城宮跡資料館講堂）（～12 月 12 日）

27. 12. 18　遺跡整備・活用研究集会「デジタルコンテンツを用いた遺跡の活用」の開催（平城宮跡資料館講堂）

27. 12. 20　現地見学会「平城第 559 次（興福寺中室・経蔵・鐘楼）」発掘調査

28. 1. 12　文化財担当者専門研修「遺跡等環境整備課程」（～1 月 22 日）

28. 1. 16　文化財担当者特別研修「三次元ワークショップ」（～1 月 17 日）

28. 1. 16　第一回文化財方法論研究会「研究するモノに三次元を―SfM／MVS を用いた考古資料計測 Workshop」（平城宮跡資料館講堂）の開催（～1 月 17 日）

28. 1. 22　保存科学研究集会「出土木製遺物の保存に関する最近の動向」（平城宮跡資料館講堂）の開催

28. 1. 29　飛鳥資料館冬期企画展「飛鳥の考古学 2015―飛鳥の古墳調査最前線―」（～3 月 6 日）

28. 2. 6　古代瓦研究会（第16回）「8世紀の瓦づくりⅤ―東大寺式軒瓦の展開―」の開催（平城宮跡資料館講堂）（～2月7日）
28. 2. 13　平城宮跡資料館ミニ企画展示「発掘速報展 平城2015　第2期」（～3月31日）
28. 2. 15　文化財担当者専門研修「保存科学Ⅲ(応急処置)課程」（～2月19日）
28. 2. 18　全国遺跡報告総覧シンポジウム「文化遺産の記録をすべての人々へ！―発掘調査報告書デジタル化の方向性を探る―」の開催（平城宮跡資料館講堂）
28. 2. 29　消防訓練（本庁舎・平城地区）
28. 3. 2　遺跡整備事例研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査と整備活用の現況」の開催（平城宮跡資料館講堂）（～3月3日）
28. 3. 5　現地見学会「平城第552次（平城京朱雀大路跡)」発掘調査
28. 3. 5　条里制・古代都市研究会（第32回）の開催（平城宮跡資料館講堂）（～3月6日）
28. 3. 8　文化財担当者特別研修「埋蔵文化財デジタル写真研修」（～3月11日）

（アジア太平洋無形文化遺産研究センター）

年　月　日	記　事
27. 4. 6	バングラデシュ国際母語研究所3名　来所
27. 6. 30	ベトナム民族学博物館2名　来所
27. 7. 6	無形文化遺産分野C2センター第3回調整会議（中国）（～7月8日）への参加
27. 9. 25	アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）第4回運営理事会（ホテルアゴーラリージェンシー堺）
27. 10. 26	国際イコモス年次総会・諮問委員会・シンポジウム（アクロス福岡）（～10月29日）への参加
27. 10. 27	韓国C2センター（ICHCAP）第7回運営理事会（グラッドホテルヨイド,韓国）への参加
27. 11. 1	イコモス20世紀遺産に関する国際学術委員会2015年年次委員会（東京文化会館および国立西洋美術館）（～11月2日）への参加
27. 11. 2	ユネスコ主催“Regional Symposium on the Development of Post-Graduate Degrees Focusing on Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”への参加（マリオットホテルスクンビット,タイ）（～11月3日）
27. 12. 8	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific Countries”　（ホテルオニキス,キルギス）（～12月9日）
27. 12. 17	“IRCI 2nd Workshop on the Study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region”（富山県民会館）（～12月19日）
27. 12. 19	“Discussion Meeting on Endangered Traditional Handicrafts in Sri Lanka”（富山県民会館）（～12月20日）
28. 2. 15	“Final Discussion Meeting on Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing”（東京国立博物館）（～2月18日）
28. 2. 29	文化遺産国際協力コンソーシアム（東京文化財研究所）にて発表
28. 3. 4	イコモス主催コロキアム“Post-Trauma Reconstruction”（イコモス本部,フランス）にて発表
28. 3. 22	中国C2センター（CRIHAP）第5回運営理事会（チベットホテル, 中国）への参加

Ⅶ 運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
石　澤　　良　昭	上智大学アジア人材養成研究センター所長	委員長
清　水　　眞　澄	三井記念美術館長	副委員長
安　藤　　裕　康	独立行政法人国際交流基金理事長	
今　村　　峯　雄	国立歴史民俗博物館名誉教授 総合研究大学院大学名誉教授	
風　岡　　典　之	宮内庁長官	
神　居　　文　彰	平等院住職	
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	
佐　藤　　宗　諄	奈良女子大学名誉教授	
佐　藤　　禎　一	国際医療福祉大学大学院教授	
白　石　　太一郎	大阪府立近つ飛鳥博物館長	
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	
檀　　ふ　み	女優	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	
馬　渕　　明　子	独立行政法人国立美術館理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
浦　井　正　明	寛永寺長臈	副会長
阿　部　充　夫	東京国立博物館名誉館長	
江　本　敏　男	東京都立上野高等学校長	
小　寺　正　樹	台東区立忍岡中学校長	
小　西　祐　一	台東区立根岸小学校長	
嶋　田　実名子	個人情報保護委員会委員	
中　井　敬　三	東京都教育委員会教育長	
野　木　肇　雄	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
服　部　征　夫	台東区長	
福　原　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
馬　渕　明　子	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
宮　田　亮　平	東京藝術大学長	
室　瀬　和　美	漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者	
山　田　五　郎	編集者・評論家	
リサ・ステッグマイヤー	タレント	
林　原　行　雄	立命館大学経済学部客員教授	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
藤　井　　譲　治	京都大学名誉教授	会長
柳　原　　正　樹	独立行政法人国立美術館京都国立近代美術館長	副会長
池　坊　　専　好	華道家元池坊次期家元	
神　居　　文　彰	平等院住職	
後　藤　　典　生	高台寺執事長	
鈴　鹿　　可奈子	株式会社聖護院八ツ橋総本店専務取締役	
住　友　吉左衛門	公益財団法人住友財団理事長	
高　橋　　隆　博	関西大学名誉教授／関西大学なにわ大阪研究センター特別顧問	
竹　下　　景　子	俳優	
辻　　弘　嗣	株式会社京都ホテル顧問	
中　本　　晃	株式会社島津製作所代表取締役会長	
藤　田　　裕　之	京都市副市長	
森　口　　邦　彦	染織作家　重要無形文化財「友禅」保持者	
湯　山　　賢　一	独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	
冷　泉　　貴実子	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
森　本　　公　誠	東大寺長老	会長
田　辺　　征　夫	公益財団法人大阪府文化財センター理事長	副会長
植　野　　康　夫	株式会社南都銀行取締役会長	
大　野　　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
花山院　　弘　匡	春日大社宮司	
河　瀬　　直　美	映画監督	
栄　原　　永遠男	大阪歴史博物館長	
佐々木　　丞　平	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館長	
杉　本　　一　樹	宮内庁正倉院事務所長	
多　川　　俊　映	興福寺貫首	
檀　　ふ　み	女優	
東　野　　治　之	奈良大学文学部教授	
中　野　　聖　子	株式会社ホテルサンルート奈良代表取締役社長	
一　松　　旬	奈良県地域振興部長	
松　村　　恵　司	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長	
山　口　　昌　紀	近鉄グループホールディングス株式会社 取締役相談役	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
唐　池　　恒　二	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	会長
高　倉　　洋　彰	西南学院大学名誉教授	副会長
阿　川　　佐和子	文筆家	
芦　刈　　茂	太宰府市長	
今泉　　今右衛門	陶芸作家	
大　曲　　昭　恵	福岡県副知事	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス株式会社取締役会長	
川　崎　　隆　生	株式会社西日本新聞社代表取締役社長	
高　良　　倉　吉	琉球大学名誉教授	
城　本　　勝	ＮＨＫ福岡放送局長	
西高辻　　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　　ス　マ	公益財団法人大野城まどかぴあ館長	
三　島　　寿　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョン（九州・沖縄地区）ガバナー	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学名誉教授･岡田美術館館長	委員長
横　里　　幸　一	ＮＨＫプロモーション特別主幹	副委員長
鮎　川　　眞　昭	公認会計士	
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
河　合　　正　朝	慶應義塾大学名誉教授･千葉市美術館館長	
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	
柳　林　　修	読売新聞社記者	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
河　合　　正　朝	慶應義塾大学名誉教授 千葉市美術館館長	部会長
酒　井　　忠　康	世田谷美術館長	
浜　田　　弘　明	桜美林大学教授	
藤　田　　治　彦	大阪大学大学院文学研究科教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

研究所・センター調査研究等部会委員名簿

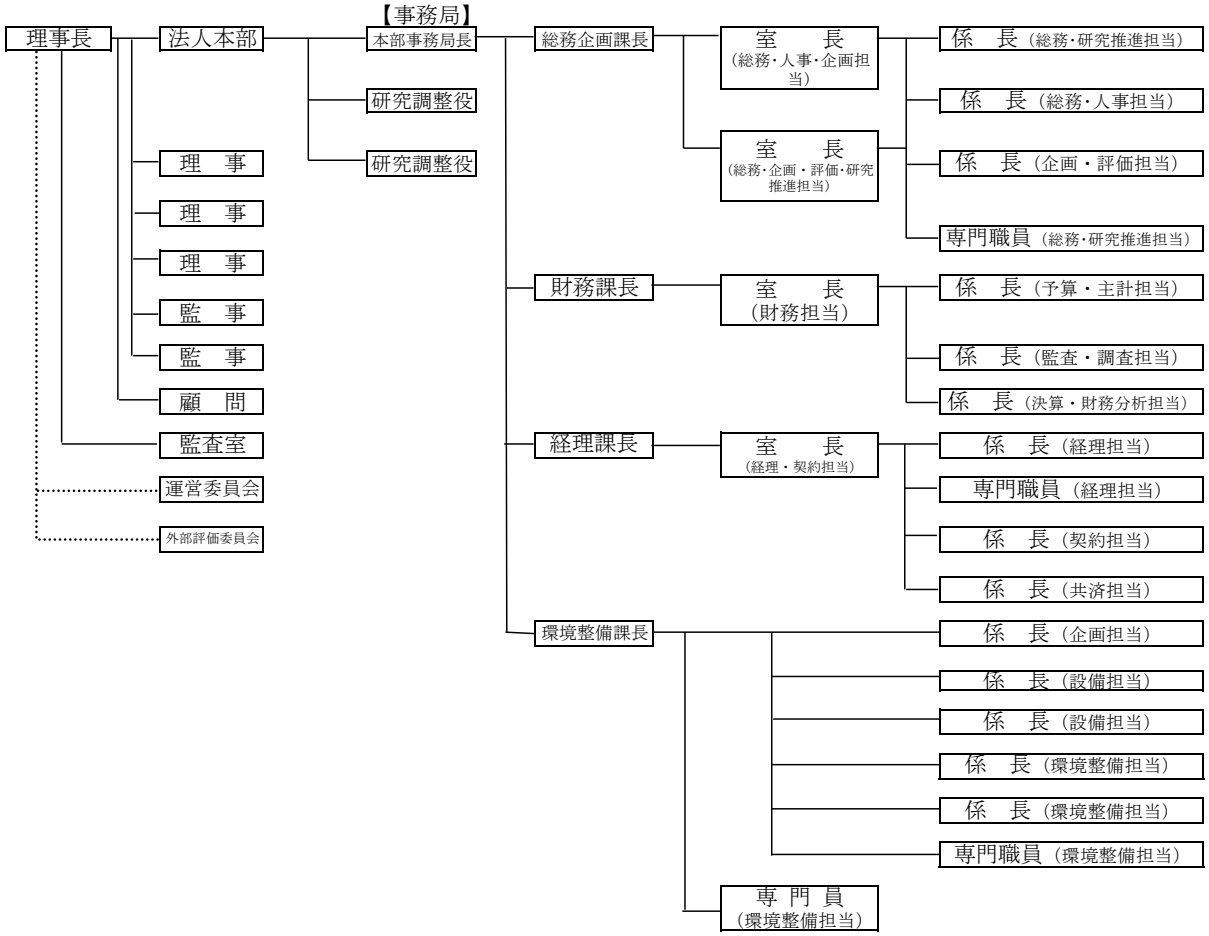
（平成 28 年 3 月 31 日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
稲　田　　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　田　　保　良	国士舘大学イラク古代文化研究所教授	
玉　蟲　　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
柳　林　　修	読売新聞大阪本社記者	

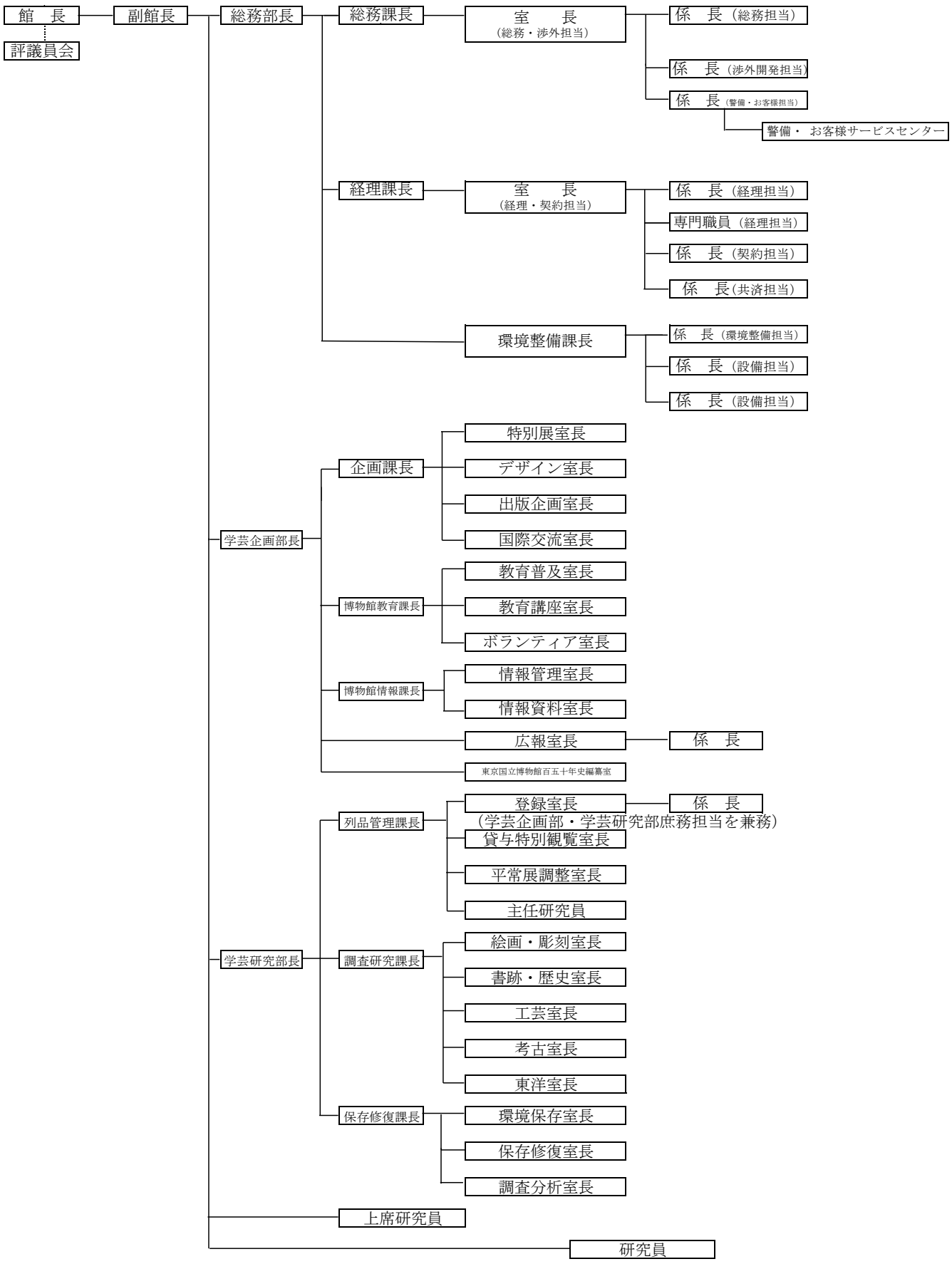
平成28年3月31日現在

◇組　織　図

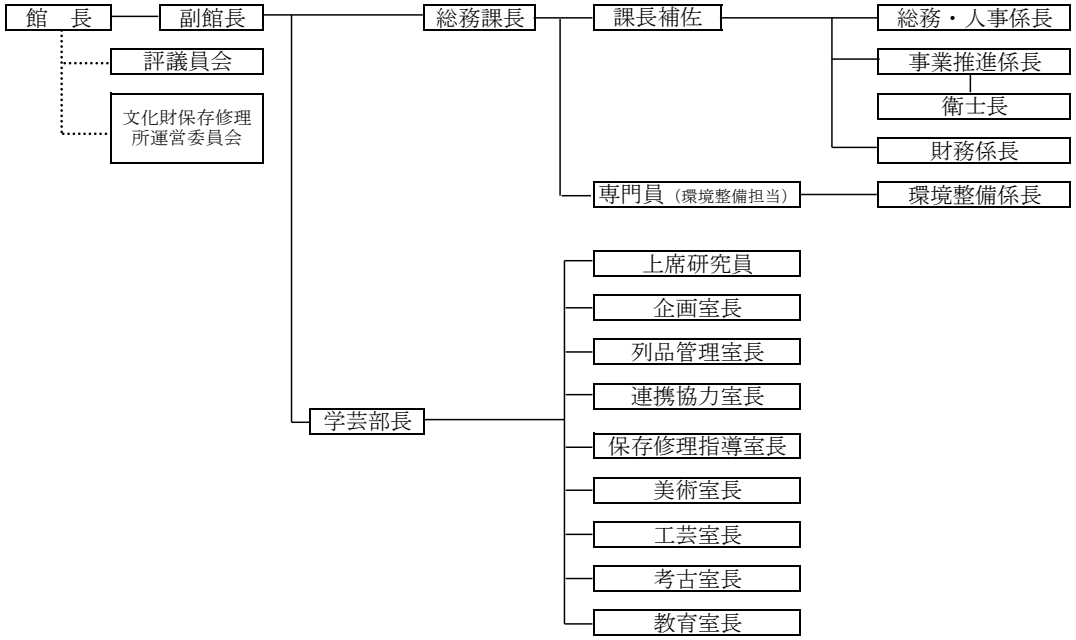
・法　人



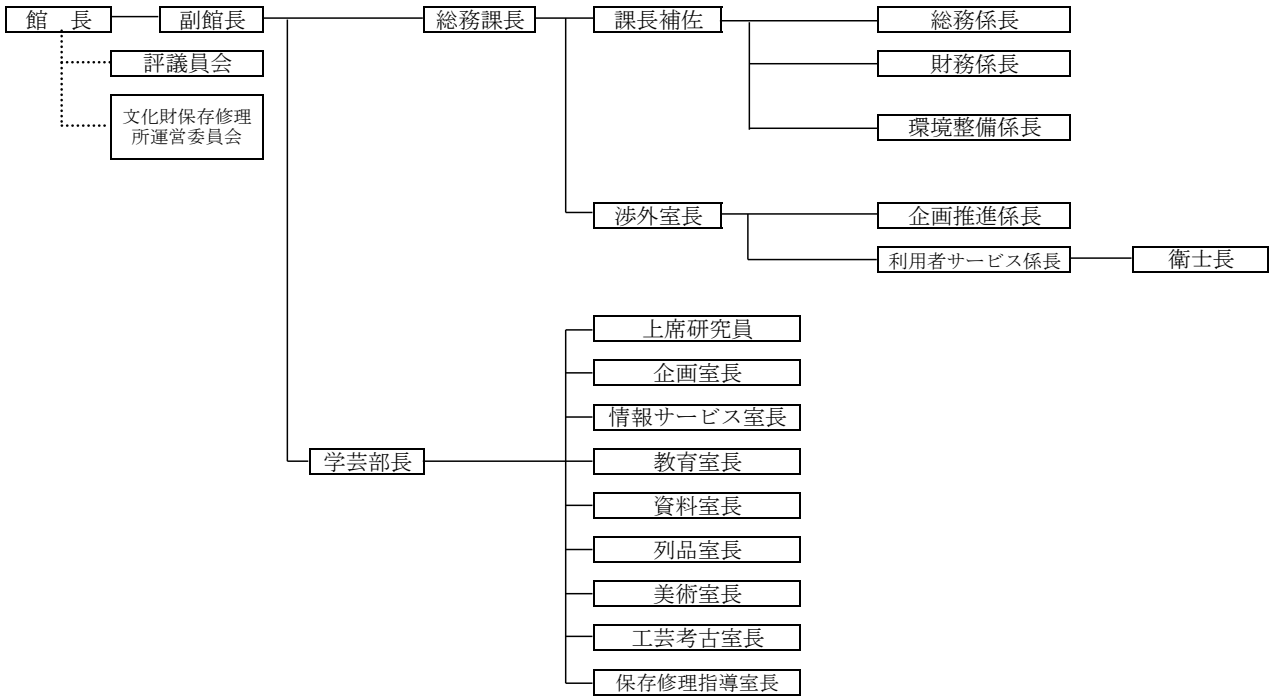
【東京国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
総務部長
総務課長
室　長
（総務・渉外担当）
係　長（総務担当）
係　長（渉外開発担当）
係　長（警備・お客様担当）
警備・ お客様サービスセンター
経理課長
室　長
（経理・契約担当）
係　長（経理担当）
専門職員（経理担当）
係　長（契約担当）
係　長(共済担当)
環境整備課長
係　長（環境整備担当）
係　長（設備担当）
係　長（設備担当）
学芸企画部長
企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
博物館教育課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
博物館情報課長
情報管理室長
情報資料室長
広報室長
係　長
東京国立博物館百五十年史編纂室
学芸研究部長
列品管理課長
登録室長
係　長
（学芸企画部・学芸研究部庶務担当を兼務）
貸与特別観覧室長
平常展調整室長
主任研究員
調査研究課長
絵画・彫刻室長
書跡・歴史室長
工芸室長
考古室長
東洋室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
調査分析室長
上席研究員
研究員

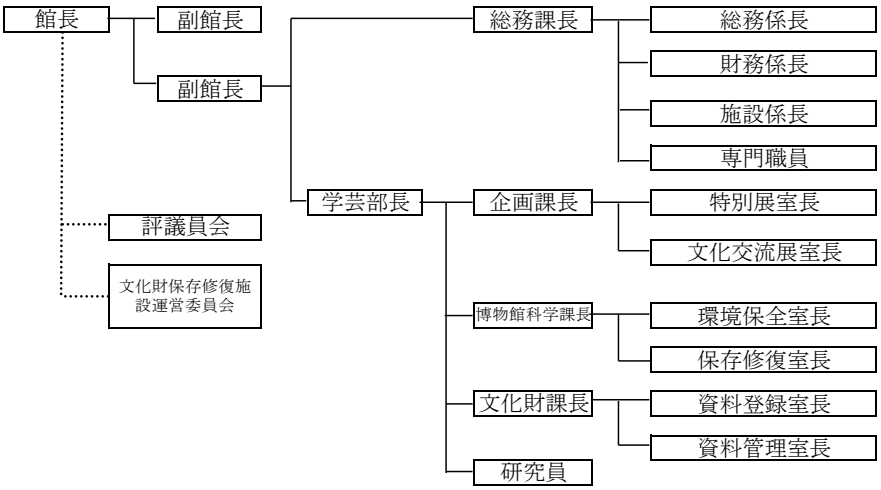
【京都国立博物館】



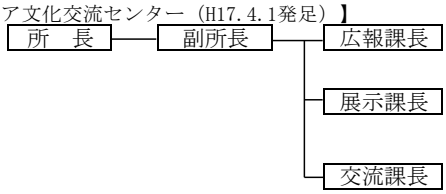
【奈良国立博物館】



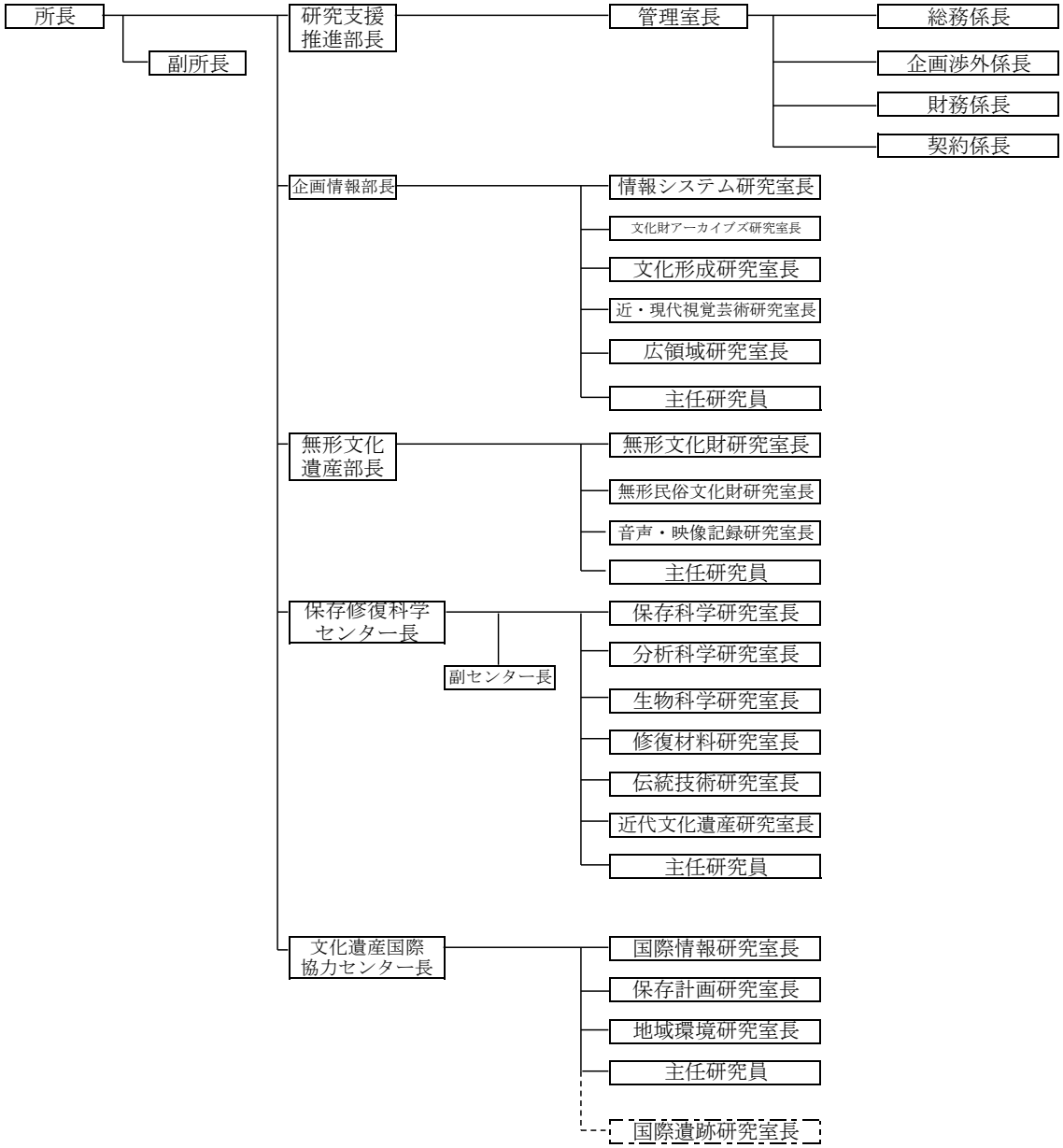
【九州国立博物館】



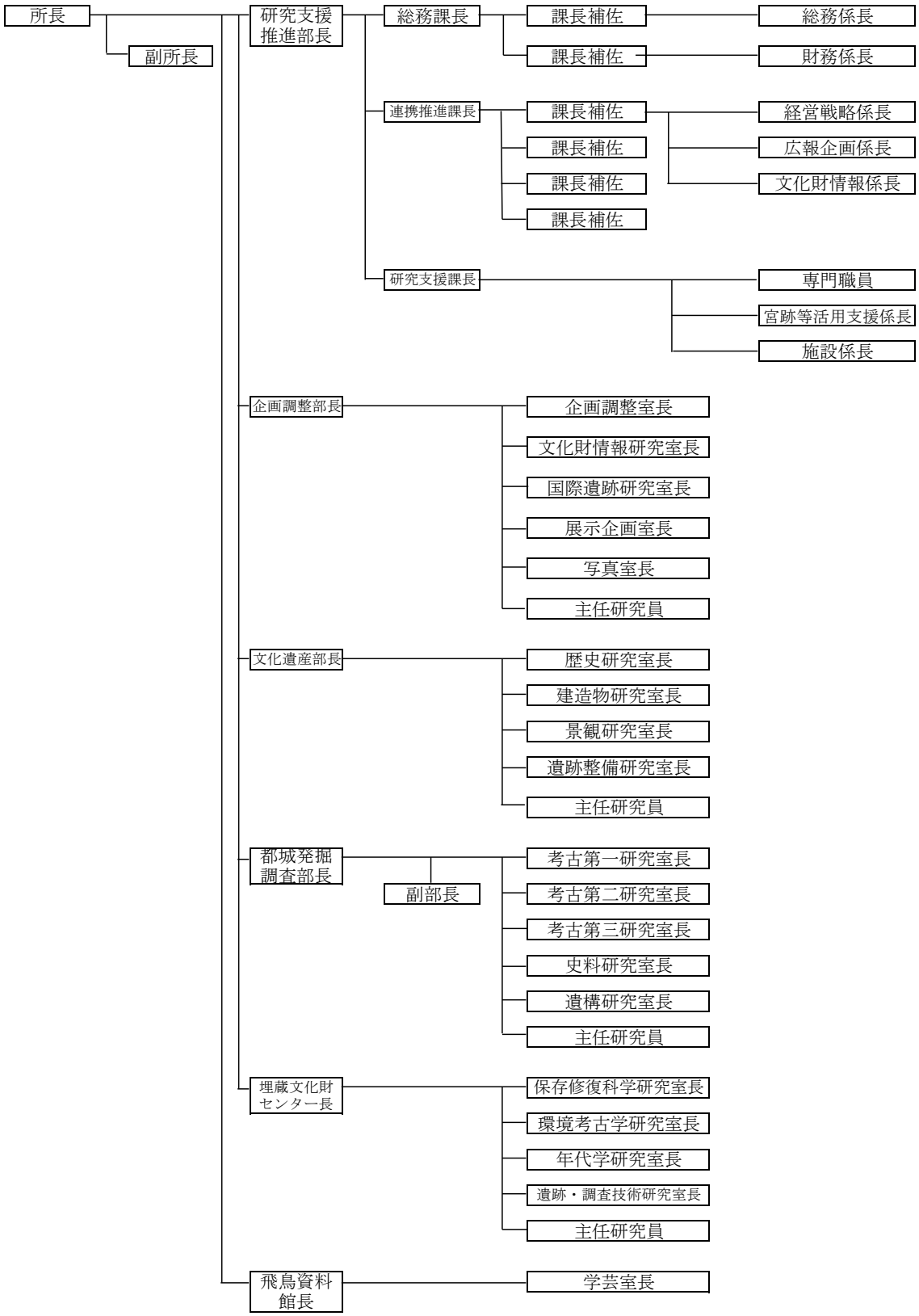
【福岡県立アジア文化交流センター（H17.4.1発足）】



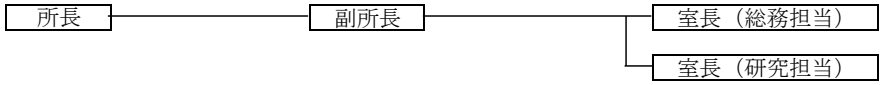
【東京文化財研究所】


所長
副所長
研究支援推進部長
管理室長
総務係長
企画渉外係長
財務係長
契約係長
企画情報部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
主任研究員
保存修復科学センター長
副センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】



【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】



平成２７年度　自己点検評価報告書統計表

平成２７年度　自己点検評価報告書　統計表

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表 ・・・

2-(2)-⑩ 留学生の日 ・・・

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (P.210◎共通資料 c-⑤)
4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.228◎共通資料 c-⑥)
4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (P.184◎共通資料 c-②)
4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.190◎共通資料 c-③)
4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (P.210◎共通資料 c-⑤)
4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.228◎共通資料 c-⑥)
4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究
4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (P.184◎共通資料 c-②)
4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P.190◎共通資料 c-③)
4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (P.210◎共通資料 c-⑤)
4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (P.228◎共通資料 c-⑥)
4-(5)-⑤ 科学研究費助成事業による調査研究 (P.232◎共通資料 c-⑦)
4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (P.238◎共通資料 c-⑧)

5. 文化財保護に関する国際協力の推進
5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備
5-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P.184◎共通資料 c-②)
5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.190◎共通資料 c-③)
5-(1)-④ 論文等発表実績一覧 (P.210◎共通資料 c-⑤)
5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進
5-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P.184◎共通資料 c-②)
5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転
5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況・・・・・・・・・ 126
5-(4)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
5-(4)-① 研究交流実績一覧 (P.156◎共通資料 c-①)
5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 (P.184◎共通資料 c-②)
5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P.190◎共通資料 c-③)
5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 (P.208◎共通資料 c-④)
5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 (P.210◎共通資料 c-⑤)
5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 (P.228◎共通資料 c-⑥)
5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 (P.241◎共通資料 d)

6. 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実
6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信
6-(2)-① 公開講演会､現地説明会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6-(3)-③ 入場料収入 (P.136◎共通資料 a-③)
6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展 (P.137◎共通資料 a-④)
6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力
6-(4)-① ボランティア受入れ実績 (P.152◎共通資料 b)

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
7-① 国･地方公共団体等に対する専門的･技術的な協力･助言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果 130

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1. 一般管理費の削減
Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1 - (1)　収蔵品

1-(1)ー①　収蔵品一覧表　　（単位:件）平成28年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	126,872	131	963	116,932	87	634	7,532	28	183	1,883	13	112	525	3	34
絵画	13,599	34	206	11,162	20	101	2,049	9	55	297	4	42	91	1	8
書跡	3,365	36	173	1,839	14	59	1,333	16	79	145	5	29	48	1	6
彫刻	1,420	1	45	1,107	0	22	145	0	1	146	1	16	22	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,083	3	55	16,415	1	17	490	2	25	163	0	11	15	0	2
刀剣	3,470	20	57	3,447	19	57				16	0	0	7	1	0
陶磁	4,141	0	18	2,952	0	12	1,071	0	2	81	0	0	37	0	4
漆工	4,552	6	30	3,796	4	20	496	0	2	102	2	5	158	0	3
染織	4,744	2	26	3,696	0	19	919	1	6	93	1	1	36	0	0
考古	30,123	4	76	28,649	4	55	690	0	11	734	0	8	50	0	2
民族資料	1,308	0	0	1,197	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料	6,450	0	7	6,115	0	4	290	0	1	0	0	0	45	0	2
和書	17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	685	4	31	685	4	31									
東洋 書跡	1,693	10	12	1,693	10	12									
東洋 彫刻	808	0	20	808	0	20									
東洋 金工	1,034	0	0	1,034	0	0									
東洋 陶磁	3,050	0	10	3,050	0	10									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	602	0	1	602	0	1									
東洋 考古	5,928	0	2	5,928	0	2									
東洋 民族	3,506	0	0	3,506	0	0									
法隆寺献納宝物	321	11	183	321	11	183									
黒田記念館収蔵品	816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)	2	0	2	2	0	2									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

（参考）
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　平成28年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森澄資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
平城宮跡内膳司推定地出土木簡（重要文化財）	483点
平城宮跡造酒司出土木簡（重要文化財）	568点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	30,473
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35,003
平城宮・京出土瓦類	1,000,706
平城宮・京出土木簡	251,599
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約35,949点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,843袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	約38,805箱
土器　　整理箱	約16,359箱
土製品	約15,053点
木器・木製品	約34,051点
木簡	約35,156点
建築部材	約2,969点
金属製品	約19,844点
石器・石製品	約14,284点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鍔淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	8点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-① (参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5ヵ年)

(単位:件) 平成28年3月31日現在

		平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	134,668	316	2,126	135,044	317	2,136	136,215	323	2,143	137,610	325	2,162	138,928	333	2,380
	東京国立博物館	116,586	137	883	116,925	136	884	118,172	140	878	119,332	143	890	120,004	142	892
	京都国立博物館	12,634	110	787	12,622	112	789	12,613	114	801	13,110	113	803	13,644	119	1,003
	奈良国立博物館	3,776	66	425	3,785	66	431	3,856	66	432	3,861	66	435	3,870	67	439
	九州国立博物館	1,672	3	31	1,712	3	32	1,574	3	32	1,307	3	34	1,410	5	46
収蔵品	国立博物館 計	122,802	130	946	123,378	130	950	124,729	130	952	125,766	130	954	126,872	131	963
	東京国立博物館	113,897	87	631	114,362	87	631	115,653	87	633	116,268	87	634	116,932	87	634
	京都国立博物館	6,621	27	177	6,708	27	179	6,721	27	179	7,109	27	180	7,532	28	183
	奈良国立博物館	1,831	13	109	1,834	13	111	1,862	13	111	1,877	13	111	1,883	13	112
	九州国立博物館	453	3	29	474	3	29	493	3	29	512	3	29	525	3	34
寄託品	国立博物館 計	11,866	186	1,180	11,666	187	1,186	11,486	193	1,191	11,844	195	1,208	12,056	202	1,417
	東京国立博物館	2,689	50	252	2,563	49	253	2,519	53	245	3,064	56	256	3,072	55	258
	京都国立博物館	6,013	83	610	5,914	85	610	5,892	87	622	6,001	86	623	6,112	91	820
	奈良国立博物館	1,945	53	316	1,951	53	320	1,994	53	321	1,984	53	324	1,987	54	327
	九州国立博物館	1,219	0	2	1,238	0	3	1,081	0	3	795	0	5	885	2	12

1-(1)-② 平成27年度新収品一覧表

（単位：件）　平成28年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,106			664			423			6			13		
計	43	563	500	16	148	500	18	405	0	4	2	0	5	8	0
絵画	14	10	0	5	3	0	4	6	0	3	0	0	2	1	0
書跡	5	29	0	1	27	0	3	0	0	0	0	0	1	2	0
彫刻	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	48	0	0	0	0	5	47	0	0	0	0	0	1	0
刀剣	0	11	0	0	11	0			0	0	0	0	0	0	0
陶磁	5	211	0	0	5	0	4	204	0	0	0	0	1	2	0
漆工	3	135	0	1	2	0	1	132	0	1	1	0	0	0	0
染織	2	4	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	1	0	0
考古	0	11	0	0	5	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	16	500	0	7	500	0	8	0	0	0	0	0	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0									
東洋 彫刻	0	9	0	0	9	0									
東洋 金工	1	0	0	1	0	0									
東洋 陶磁	0	5	0	0	5	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	8	2	0	8	2	0									
東洋 考古	0	48	0	0	48	0									
東洋 民族	0	22	0	0	22	0									
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

（単位：件）

	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	701			576			1,351			1,037			1,106		
小計	34	176	491	26	153	397	23	513	815	47	484	506	43	563	500
絵画	11	23	1	9	10	0	6	11	28	13	52	0	14	10	0
書跡	7	33	0	3	36	0	2	12	1	3	28	0	5	29	0
彫刻	2	0	0	1	2	0	2	1	0	3	1	0	0	2	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	1	0	0	0	0	2	417	155	5	71	0	5	48	0
刀剣	0	0	0	0	0	0	0	2	38	0	0	0	0	11	0
陶磁	0	5	0	1	61	0	1	1	15	0	86	0	5	211	0
漆工	0	24	0	1	0	0	1	29	33	8	162	0	3	135	0
染織	5	7	0	1	1	0	3	5	65	4	7	0	2	4	0
考古	1	0	1	4	23	0	1	1	109	5	12	0	0	11	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0
歴史資料	7	0	489	6	1	397	3	1	334	2	0	506	0	16	500
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 書跡	0	44	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0
東洋 金工	0	0	0	0	16	0	0	29	1	0	1	0	1	0	0
東洋 陶磁	0	34	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	5	0
東洋 漆工	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	0	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0	8	2	0
東洋 考古	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	62	0	0	48	0
東洋 民族	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0	0	22	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-③ 平成27年度新収品一覧

【東京国立博物館】(664件)

(1) 購入 (16件)

＜絵画＞ (5件)

1　○名　　称　住吉物語絵巻断簡（すみよしものがたりえまきだんかん）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦30.3cm 横80cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。平安時代に原型が成立したとされる『住吉物語』を描く絵巻の断簡。『住吉物語』は、継子いじめを受ける姫君と、彼女に想いを寄せる少将の恋物語。本図は物語の後半部、住吉の地に身を隠していた姫君を少将が見つけ出し、船に乗り、都へ連れ帰る場面を描く。
『住吉物語』を描く中世の作例に静嘉堂文庫美術館本（重要文化財）などがあるが、本図を含む住吉物語絵巻が現存最古の作例である。本図に連続する場面が現在メトロポリタン美術館（バーク財団寄贈）に所蔵されるほか、東京国立博物館蔵の巻子本（A-17、重要文化財）、および掛幅本（A-12092、重要美術品）も、もとは一連の作品である。

2　○名　　称　玄圃瑤華（げんぽようか）
　　○作 者 等　伊藤若冲（1716～1800）自画自刻
　　○時　　代　江戸時代・明和5年(1768)
　　○品　　質　紙本拓版
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　縦28.2cm 横17.8cm
　　○作品概要　画帖装（粘葉装）。「玄圃瑤華」の「玄圃」は仙人の居どころ、「瑤華」は玉のように美しい花の意。全48図、種々の草花と昆虫、蛙などを組み合せ変化させた画帖である。各図にある賛は、相国寺の梅荘顕常（大典）によるもので、図後に大典および公家の菅原世長の跋がある。若冲特有の拓版画であり、線条や面が強烈なコントラストをしめして白く浮き上がり、光を発しているかのように輝く。力強くシャープな造形、漆黒の墨の美しさをしめす逸品として注目されている。奥付「斗米庵（若冲の号）鐫蔵」から若冲自身が版を彫り版木を管理していたことが知られる。53歳時の作。なお本作は、江戸後期の酒井抱一、さらに19世紀末パリのジャポネズリーに影響を与えたことが指摘されている。

3　○名　　称　四季遊楽図画稿（しきゆうらくずがこう）
　　○作 者 等　円山応挙（1733～95）筆
　　○時　　代　江戸時代・18世紀
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　縦28.2cm 横523.7cm
　　○作品概要　巻子装。木軸。徳川美術館所蔵の円山応挙筆「華洛四季遊戯図巻」の稿本で、春の嵐山舟遊図、夏の四条河原納涼図、秋の盆踊り図、冬の歳末街頭図の4図を墨だけで描き、各図に菅茶山が賛詩を付して1巻としたもの。巻末に頼春水が寛政12年（1800）に江戸霞ヶ関で跋文を記している。

4　○名　　称　倣董源山水図（ほうとうげんさんすいず）
　　○作 者 等　山本梅逸（1783～1856）筆
　　○時　　代　江戸時代・弘化元年(1844)
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦179cm 横95.5cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。共箱。橋上の侍童が水を運ぶ先に樹々に囲まれた家屋があり、高士ふたりの対座する姿がみえる。そうした文人の営みを大自然が包み込む。山間に三段階に落ちる瀑布が光り、左手前の川に流れ込む。前後に重なる山々の描写は、圧倒的な存在感をしめす。これら流水と重なる山々によって、奥から手前へと厚みのある空間が形成されている。迫力満点の力作で、画面の大きさ、運筆の力強さ、渇筆と潤筆で表した山の量感表現、充実の筆技はすばらしく、見事な山水景観を生み出している。筆者自身による箱書きから、中国・南唐（10世紀）の巨匠、董源の画法にならって描いたことが知られる。梅逸の充実期である京都時代の作。

5　○名　　称　桃源仙境図屏風（とうげんせんきょうず）
　　○作 者 等　福田半香（1804～1864）筆
　　○時　　代　江戸時代・安政2年(1855)
　　○品　　質　絹本着色
　　○員　　数　6曲1双
　　○寸 法 等　本紙 各 縦157.3cm 横347.6cm
　　○作品概要　屏風装。桃の花の咲く仙境に漁夫が迷い込み、帰るのを忘れたという武陵桃源の故事を描く。桃源郷は、俗界を離れた他界・仙境で、出所は陶淵明『桃花源記』。江戸後期の文人画家たちが好んで絵画化した。画は右から左に展開。右隻右端に、桃源郷に迷い込んだ漁師が乗り捨てた舟と、桃源郷への洞窟の小口が描かれ、左方へ奇岩と嶂々たる山並み、瑞雲が、繊細な筆致で画面を覆いつくすかのようにびっしりと描きこまれる。左隻に入ると、一転して視界が開け、広々とした桃源郷の景となる。第3扇下方に主人公の漁師と歓迎する里人の姿がみえ、華やかな桃の林はいうまでもなく、桃花源記に記される「良田」の畦道を行く牧童と牛、「美池」で釣りをする人、「鶏や犬」の姿など、平和な光景が映し出されている。清初の文人画風を取り入れ、充実した描写をみせる大作・力作であり、江戸後期の文人たちに好まれた桃源郷を大画面に絵画化した優品として注目される。

＜書跡＞ (1件)

6　○名　　称　和漢朗詠集巻下断簡(戊辰切)（わかんろうえいしゅうまきげだんかん　ぼしんぎれ）
　　○作 者 等　藤原定信（1088～1154～?）筆
　　○時　　代　平安時代・12世紀
　　○品　　質　彩箋墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　本紙 縦28.7cm 横37.7cm
　　○作品概要　掛幅装。牙軸。もとは『和漢朗詠集』上下2巻を完存。昭和3年(1928)に一橋徳川家より売りに出され、売却後すぐに分割された。昭和3年の干支により「戊辰切」と呼ばれる。上巻を藤原伊行(～1149～68～)が、下巻をその父・定信が書写している。本作は、『和漢朗詠集』下巻より「恋」の部分。和歌のさいごの一首のみ欠けているが、17行もあるのは珍しい。藤原定信の特徴である右肩上がりの書風がはっきりと現れており、片仮名による傍訓等は後のものと考えられている。『古筆学大成』第15巻（小松茂美著)に図版が紹介されている。

＜漆工＞ (1件)

7　○名　　称　吉野宮蒔絵書棚（よしののみやまきえしょだな）

○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1 基
○寸 法 等　幅 90.0cm　奥行 37.5cm　高 75.5cm
○作品概要　天板に筆返しをつけ、二段目と三段目を違棚とした書棚。下段の右側に観音開きの扉をつけ、物入れとする。 表面は全体を梨子地として、天板や棚板の上面、扉の表には金高蒔絵に付描、金銀切金を主体にして、珊瑚象嵌や据文、極込や極付など様々な技法を交え、桜が満開の山水や舎殿、庭園を表わしている。画中には金銀平文で表わした歌文字を散らしており、『万葉集』巻一の持統天皇が吉野へ行幸した際に柿本人麻呂が詠んだ歌、「やすみしし　わご大君の　聞し食す　天の下に　国はしも　多にあれども　山川の　清き河内と　御心を　吉野の国の　花散らふ　秋津の野邊に　宮柱　太敷きませば　百礒城の　大宮人は　舟並めて　朝川渡り　舟競ひ　夕河渡る　この川の　絶ゆることなく　この山のいや高知らす　水激つ　瀧の都は　見れど飽かぬかも」を表現したものであることが分かる。 天板・棚板の四角や脚先等の要所には、梅枝を象り七宝で彩った金具を打っている。扉には、竹を象り七宝で彩りを添えた蝶番と、松の折枝を象った掛金具をつける。

＜東洋金工＞（1 件）

8　○名　　称　七宝箸・粧刀・眼鏡入（しっぽうかんざし・しょうとう・めがねいれ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　白銅、七宝
○員　　数　3 個
○寸 法 等　箸：長 40.0cm　粧刀：長 18.0cm　眼鏡入：長 17.0cm　幅 6.3cm
○作品概要　箸：銀製の箸（韓国ではピニョという）。楕円形の飾り部分には前・背の両面に鶴が羽を広げ、雲や竹葉の文様をあらわし、上には向かい合う 2 羽の鳥（鳳凰か）と中央に梅花がならぶ。竹葉には「寿」「福」字が刻まれている。本体の刺す部分には前・背面それぞれに 12 枚ずつ一列に葉文を刻む。
粧刀：銀製のごく小さな刀（韓国ではチャンドという）。正面の柄の部分には木に戯れる鳥、鞘には花と樹下の鹿の図があらわされる。柄と鞘を止めるのは 2 本の箸のような部品で、蝶の形をした留め具があしらわれている。鞘の上部に鐶が付く。
眼鏡入：楕円の形をした容器。蓋には鴛鴦と蓮花が、身に竹と亀があらわされる。蓋の天部に 2 つ紐通し用の孔があく。
3 点いずれも銀胎七宝で青を基本とし、黄、橙、紫などで彩色する。

＜東洋染織＞（8 件）

9　○名　　称　刺繍花鳥図屏風（ししゅうかちょうずびょうぶ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　屏風装、絹糸による刺繍
○員　　数　8 曲 1 隻
○寸 法 等　高 152.0cm 幅 296.0cm
○作品概要　朝鮮時代には、正月を初めとする年中行事や、婚礼・出産・還暦などの吉事において、吉祥文様を表わした屏風が飾られる。その中には、本品のように刺繍で文様を表わした八曲屏風もしばしば用いられた。赤地花文様緞子の地に、梅、桜、牡丹、蓮、睡蓮、菖蒲、菊など四季折々の花と蝶を一部は唐草風にアレンジしながら刺繍で表わす。八扇目は薔薇の花、および柳の木の元で春草を摘む 2 人の女性を刺繍で表わし「寿福康寧　富貴多男」の 8 文字をやはり、紺の刺繍糸で表わす。刺繍は、白・緑・紫・ピンク・黄・淡紫の釜糸で、平繍、纏い繍が中心である。以上の主題より、婚礼用、あるいは出産時にあつらえられたものと考えられる。

10　○名　　称　ウォンサム（円衫）　花唐草文様紋紗（えんさん　はなからくさもんようもんしゃ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　紋紗、印金
○員　　数　1 着
○寸 法 等　身丈 111.0cm
○作品概要　朝鮮時代の女性が婚礼の際に着用する上衣である。表地は胴部分に淡緑地花唐草文様紋紗を用い、双龍丸文の印金を施す。また、裾の部分にも印金で装飾を施す。袖部分には、赤紫・淡黄・ピンク・淡緑・紺とさまざまな配色の紋紗を縫い合わせる。それらの紋紗の織文様は胴部分と同様である。袖端には白地小石畳花文様紋紗を縫い合わせる。襟部分には同模様の赤地紋紗をめぐらし、菊花文と「福」字文の印金を施す。さらに、花文を空摺りにした厚手の白い紙で襟を覆う。裏地は赤地小石畳文双鳳双龍丸文様紋紗である。胸前に、赤地紋紗の紐が 2 本付く。

11　○名　　称　テンギ　紅地襷福字梅花文様浮紋織印金（てんぎ　べにじたすきふくじばいかもんようううきもんおりいんきん）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹、印金
○員　　数　1 組
○寸 法 等　テンギ 長さ 94.5cm 幅 23.5cm ； 帯 長さ 94.0cm 幅 6.0cm
○作品概要　婚礼の際に、女性の頭を飾るテンギである。頭部を三角形に折ったものは頭の後ろに垂らし、細長いリボン状の帯は簪にかける。いずれも、赤平地福字菱梅花襷文様浮紋織を袷仕立てとし、印金によって「福寿」「康寧」「喜」「富」といった文字や鳳凰、石榴といった吉祥文様の装飾を施す。頭部の三角形の頂上には紫・紺・黄の釜糸が付く。円衫（案件 No.10）の襟裏につけられた裂がこのテンギと共裂であることから、円衫（No.10）とは一揃いの婚礼衣装であったと考えられる。

12　○名　　称　チョガッポ　古銭文様縫い合わせ（ちょがっぽ　こせんもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 42.0cm 横 42.0cm
○作品概要　日本の掛袱紗や風呂敷のような用途で用いられるポジャギであるが、中でも小裂を縫い合わせて 1 枚の布に仕立てたものをチョガッポと称する。裏地を折り返した縁は、白地五越絽である。内部にあたる鏡の部分には、輪を重ねて繋ぎ合わせたような古銭文様がパッチワークで表わされる。パッチワークの裂には緑・青緑・白・葡萄色の紗、紺・赤の繻子、赤繻子地鶴蝶文様浮紋織、赤地花文様緞子、桃色地花文様緞子、淡紫地花文様緞子などを用い、ピンクの絹撚糸で縫い合わせる。古銭文の中央部には、黄・赤・朱・黄緑・淡緑・淡桃・紫・白などの平絹でできた飾りを施す。中央部には濃いピンクの紋紗の帯でつまみをつけ、白・紫・淡緑の平絹でできた飾りを施す。

13　○名　　称　チョガッポ　三角形繋ぎ文様縫い合わせ（ちょがっぽ　さんかっけいつなぎもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 44.0cm 横 45.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁には白地襷花文様浮紋紗を用いる。内部の鏡の部分には淡緑・黄緑・黄の瓢箪唐草文様紋紗、紺無地紗、淡ピンク地花文様紋紗、紫地菊花文様紋紗、赤無地紗、赤地花文様紋紗を三角形に切りそろえた小裂を、紫の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、淡緑地石畳文様紋紗でできた帯状の取っ手をつけ、紫平絹で作った飾りを留めつける。

14　○名　　称　チョガッポ　三角繋ぎ文様縫い合わせ（ちょがっぽ　さんかくつなぎもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製

○員　　数　1 枚
○寸 法 等　径 50.5cm
○作品概要　通常は正方形や長方形に仕立てられることが多いが、本品は八角形である。裏を表に返した縁には白平絹を用いる。内部の鏡の部分には紫平絹、淡水色平絹、ピンク平絹、赤平絹、淡紅地平地小石畳文様浮紋織、鼠色平絹、淡紅地卍字形花文様浮紋織を三角形に切りそろえた小裂を、淡紫の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、葡萄色緞子でできた帯状の取っ手をつけ、ピンクと淡緑で作った飾りを留めつける。

15 ○名　　称　チョガッポ　石畳文様縫い合わせ（ちょがっぽ　いしだたみもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 66.0cm 横 58.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁は額仕立とし、白平絹を用いる。内部の鏡の部分には淡緑平地喜字円文唐草文様浮紋織、赤平絹、淡浅葱地花唐草文様浮紋織、淡緑平地蝙蝠文様浮紋織、臙脂色地瓢箪唐草文様浮紋織、白平地卍字形文様浮紋織、淡黄地小石畳喜字円文浮紋織を縦 5cm、横 3.5cm の長方形に切りそろえた小裂を、赤の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、紫地浮紋織でできた帯状の取っ手をつけ、淡黄平絹で作った飾りを留めつける。

16 ○名　　称　チョガッポ　石畳文様縫い合わせ（ちょがっぽ　いしだたみもんようぬいあわせ）
○時　　代　朝鮮時代・19～20 世紀
○品　　質　絹製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 93.0cm 横 78.0cm
○作品概要　裏を表に返した縁には白地襷花文様浮紋紗を用いる。内部の鏡の部分にはピンク・淡緑・赤・淡紫・淡ピンク・紫・白の平絹を縦 8cm、横 4cm の長方形に切りそろえた小裂を、赤の絹撚糸で縫い合わせる。中央部には、淡緑地石畳文様紋紗でできた帯状の取っ手をつけ、紫平絹で作った飾りを留めつける。

(2) 寄贈（148 件）
＜絵画＞(3 件)
1 ○名　　称　猿図（さるず）
○作 者 等　森狙仙（1747～1821）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 92 cm 横 36.2cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。親子と思しい檜の木に登る 3 匹の猿。親猿は手で捕獲した蜂を見つめている。「蜂」と「封」、猿猴の「猴」と「侯」の音通から、封侯すなわち諸侯に封ずる、出世するという寓意をこめた画題である。顔にわずかに淡い朱を用いる以外は水墨で描かれている。見事な毛描きによってふわりとした体部が表わされ、顔の精緻な描写によって生気のある画面を実現している。優れた出来と右下の落款により、森狙仙（1747～1821）の筆とみなせる。

2 ○名　　称　双龍図（そうりゅうず）
○作 者 等　狩野山雪（1590～1651）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀前半
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　2 幅
○寸 法 等　各 縦 115.1 cm 横 51.2 cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。昇り龍と降り龍とが対峙する図様。細かな龍の鱗の描写は巧緻をきわめ、引き締まった顔の描写が強い緊張感を生んでいる。暗雲を表わす墨のグラデーションは絶妙で、渦巻状に旋回する風や滞留する雲など、大気の変化が見事に映し出されている。白黒のコントラストは強烈で、場面をいっそう劇的なものにしながら、迫力を生み出している。 両幅に狩野山雪の基準印が捺され、龍をかたどる描線や繊細な墨のグラデーションは、これまで知られていた山雪の龍図とまったく同じものとみなせる。

3 ○名　　称　鳥獣人物戯画（模本）（ちょうじゅうじんぶつぎが（もほん））
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　縦 26.8 cm 横 554.5cm
○作品概要　巻子装。木軸。「鳥獣人物戯画」の模本。現在、4 巻から成る「鳥獣人物戯画」のうちの、甲巻から分かれた別本の写しである。「鳥獣人物戯画」別本は現在、掛幅の断簡となり国内外に分蔵されているが、伝来の過程で失われた場面も多い。この模本は、分断以前の様相を写す貴重なものである。なお、同様の場面を写すものに住吉家伝来模本（梅澤記念館蔵）がある。

＜書跡＞（27 件）
4 ○名　　称　和歌詠草「八千年の」（わかえいそう　やちとせの）
○作 者 等　徳川斉昭（1800～60）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 128.0cm 横 25.8cm
○作品概要　掛幅装。和歌「八千年の限りしあれは身を棄て朽ぬ名を社（こそ）世々に傳へよ」を草書で大書する。

5 ○名　　称　和歌詠草「ありなれの」（わかえいそう　ありなれの）
○作 者 等　山県有朋（1838～1922）筆
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 115.4 cm 横 40.3cm
○作品概要　掛幅装、牙軸。 日清戦争従軍時の詠草「暁かた鴨緑江をわたり戦ひけるとき　有朋　ありなれの川橋わたるものゝふのかげにともなふゆみはりの月」を書く。山県の家集『椿山集』（1922）にも収める。 「ありなれの川」は『神功皇后紀』に「阿利那礼河」とあるのに基づく鴨緑江の和名。『公爵山県有朋伝』によれば、山県の率いる第一軍は鴨緑江に橋を架け、明治 27 年（1894）10 月 25 日午前 3 時半に渡河を開始、清軍の守る九連城を攻撃した。この日の月齢は 25.9 で「ゆみはりの月」は明け方の空に見えた実景である。

6 ○名　　称　自画賛（じがさん）
○作 者 等　近衛信尹（1565～1614）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀

○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 80.2 cm 横 22.2cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。縦長の料紙の下部に僧体の人物像を墨画で描き、上部に七言四句の賛文を書く。賛の内容から自画像と考えられる。

7　○名　　称　高松賦（こうしょうふ）
○作 者 等　小島宗真（1580～1655?）筆
○時　　代　江戸時代・正保 4 年(1647)
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　本紙 縦 30.7 cm 横 374.2cm
○作品概要　巻子装。牙軸。淡彩で花卉類をまばらにあしらった料絹に、唐の徐偃作「高松賦」の全文を光悦風の大胆な配字で書く。

8　○名　　称　色紙「我恋は」（しきし わがこいは）
○作 者 等　本阿弥光悦（1558～1637）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 19.9 cm 横 16.7cm
○作品概要　掛幅装。木軸。雲母で六弁花文様を摺り出した装飾料紙に藤原家隆（1158～1237）の家集『壬二集』収載の一首「我恋はまだすへ出ぬあらかたのよるさへやすくいやはねらるる」を散らし書きで書く。本来は新三十六歌仙帖などの一枚かと推測される。

9　○名　　称　色紙「山川の」（しきし やまかわの）
○作 者 等　尾形宗謙（1621～87）筆
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 21.4 cm 横 19.4cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。花卉と流水を金泥で描いた料紙に藤原興風（生没年未詳）の和歌「山川の菊の下水いかなればながれて人の老をせくらむ」（新古今和歌集）を散らし書きで書く。

10　○名　　称　書状（しょじょう）
○作 者 等　佐久間象山（1811～64）筆
○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1巻
○寸 法 等　第 1 通 縦 16.3cm 横 60.8cm ； 第 2 通 縦 14.9cm 横 55.9cm ； 第 3 通 縦 17.5cm 横 19.0cm
○作品概要　巻子装。木軸。佐久間象山書状 3 通を貼り継ぐ。

11　○名　　称　法華経　薬王菩薩本事品第二十三（ほけきょう　やくおうぼさつほんじぼんだいにじゅうさん）
○時　　代　鎌倉時代・12 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 27.0cm 横 23.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。白く透過性が高く、裏面に銀箔を蒔いた料紙に「法華経」薬王菩薩本事品第二十三を書写した経典の断簡。本文の書風は、一般に「目無経」として知られている写経と筆意に相通じる点があり、制作もほぼ同じ頃の鎌倉時代（12 世紀）と考えられる。

12　○名　　称　紫紙金字大方広仏華厳経　巻第八（ししきんじだいほうこうぶつけごんきょう　まきだいはち）
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　鎌倉時代・13 世紀
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 27.0 cm 横 9.0cm
○作品概要　掛幅装。木軸。紫紙に金字で『華厳経』巻第八を書写した断簡。本経は力強く雄渾な筆致で書写されているが、奈良時代のものと比べて柔和で、紫紙の色調も異なっている。なお料紙に施された銀界には、当館の所蔵する平安時代前期の紫紙金字法華経と類似する点がうかがえる。

13　○名　　称　装飾法華経（そうしょくほけきょう）
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 29.4 cm 横 10.1cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。料紙に金界を引き、界の上下欄外には金銀切箔を散らし、『法華経』見宝塔品第十一を端正な楷書にて書写したもの。

14　○名　　称　新古今和歌集切（しんこきんわかしゅうきれ）
○作 者 等　伝飛鳥井雅経（1170～1221 ）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦 15.8 cm 横 14.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『新古今和歌集』巻第六冬の部分。もとは升型の冊子本。『新古今和歌集』は元久２年(1205）に中書本が奏上されており、本作はその時期からそれほど隔たらないものと推測される。

15　○名　　称　一字蓮台法華経（いちじれんだいほけきょう）
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1枚
○寸 法 等　本紙 縦 33.4cm 横 4.2cm
○作品概要　掛幅装。木軸。経文の一字ずつを蓮台にのせた一字蓮台法華経である。料紙に銀界を引き、さらに各行ごとに金泥にて天蓋 1 つと蓮台 20 を置き、その蓮台の上に奔放な書風で経文を一字ずつ墨書する。

16　○名　　称　古今和歌集切（こきんわかしゅうきれ）
○作 者 等　伝後京極良経（1169～1206）筆

○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 23.7cm 横 11.0cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『古今和歌集』巻第十七雑歌上の部分。もとは冊子本。後京極良経（1169～1206）の真跡（「書状」B-2368）と比較して異筆だが、後京極流の書風である。

17 ○名　　称　大井川行幸歌会序断簡（おおいがわぎょうこううたかいじょだんかん）
○作 者 等　伝後京極良経（1169～1206）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.6cm 横 8.0cm
○作品概要　掛幅装。木軸。承保 3 年（1076）10 月に催された白河天皇の鷹狩の大井川行幸の序（源師房作）の部分。金小切箔、銀砂子が雲状に散らされた料紙に、後京極流の書風。

18 ○名　　称　千五百番歌合断簡（せんごひゃくばんうたあわせだんかん）
○作 者 等　伝慈円（1155～1225）筆
○時　　代　鎌倉時代・14 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 13.6 横 13.9cm
○作品概要　掛幅装。木軸。『千五百番歌合』（全 20 巻）より、1338 番の判詞部分。もとは升型の冊子本。

19 ○名　　称　明月記断簡（めいげつきだんかん）
○作 者 等　藤原定家（1162～1241）筆
○時　　代　鎌倉時代・建暦元年(1211)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 29.7cm 横 9.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『明月記』とは、藤原定家(1162～1241)がつけていた日記で、治承４年(1180)（定家 19 歳）から嘉禎元年(1235)(定家 74 歳）の分まで現在確認されている。「明月記」は後世の呼称。

20 ○名　　称　和漢朗詠集切（わかんろうえいしゅうきれ）
○作 者 等　伝世尊寺行能（1179～1251?）筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.5 cm 横 24.4cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。『和漢朗詠集』巻上秋の部分。淡墨の界線を引き、漢詩は一行に一列、和歌は一行に二列書写するのは、よく見られる形式。墨と朱により訓点が付けられている。

21 ○名　　称　古筆手鑑（こひつてかがみ）
○時　　代　平安～江戸時代・8～19 世紀
○員　　数　1 帖
○寸 法 等　縦 40.4 cm 横 29.5cm
○作品概要　帖仕立。表・裏各 35 面の古筆手鑑。古筆切が表面に 48 葉、裏面に 61 葉が貼付されており、はがれている切が 12 葉ある。また、同時に寄贈となる伝世尊寺行能筆「和漢朗詠集切」のつれと思われる「和漢朗詠集切」も含まれている。

22 ○名　　称　[重要美術品]梅図自画賛（うめずじがさん）
○作 者 等　後陽成天皇（1571～1617）筆
○時　　代　安土桃山～江戸時代・16～17 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.9 cm 横 63.3cm
○作品概要　掛幅装。画面の左半から速筆の墨画で花をつけた梅樹を描き、右端から散らし書きで和歌一首を書く。「たつねくる　はかなきねにも　にほふらむ　軒はのむめの　花のはつ蝶」（藤原家隆『壬二集』）

23 ○名　　称　[重要美術品]番衆歴名（ばんしゅうれきみょう）
○作 者 等　豊臣秀吉（1537～98）筆
○時　　代　平安～鎌倉時代・12～13 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 28.3cm 横 45.3cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。竪紙に一部漢字を交えた仮名で墨書する。

24 ○名　　称　家康公遺訓（いえやすこういくん）
○作 者 等　小野鵞堂（1862～1922）筆
○時　　代　明治～大正時代・19～20 世紀
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 129.7cm 横 32.2cm
○作品概要　掛幅装。木軸。徳川家康の著名な遺訓を書写したもの。漢字仮名交じりで、ところどころ連綿も表現した小野鵞堂のもっとも脂ののった筆致と言える。

25 ○名　　称　女大学一節（おんなだいがくいっせつ）
○作 者 等　小野鵞堂（1862～1922）筆
○時　　代　明治～大正時代・19～20 世紀
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 129.7cm 横 32.2cm

○作品概要　掛軸装。木軸。「女大学」と呼ばれる貝原益軒著『和俗童子訓』巻之五「教女子法」（宝永 7 年[1710]4 月撰）より 18 条（最終条）を書写している。

26 ○名　　称　風濤騒ぐ（ふうとうさわぐ）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　昭和 54 年(1979)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 202.9cm 横 69.1cm
○作品概要　額装。「風濤騒」の三文字を大字で表現したもの。薄墨を使ってにじみを利用しながら、成瀬映山初期の力強さをも感じさせる巧みな筆致をしめす。

27 ○名　　称　唐詩三首（とうしさんしゅ）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　昭和 58 年(1983)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　4 幅
○寸 法 等　本紙　各 縦 227.4 cm 横 39.4cm
○作品概要　掛幅装。木軸。李白、陳子昂、杜甫の詩・３首を、４幅に書写したもの。３首とも景色を詠んで懐かしいなどの感情を重ねる内容の詩となっている。

28 ○名　　称　李商隠詩（りしょういんのし）
○作 者 等　成瀬映山（1920～2007）筆
○時　　代　平成 16 年(2004)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙　各 縦 39.0cm 横 231.0cm
○作品概要　額装。中国・唐時代の李商隠の詩「柳」を横長 2 枚の料紙に書写したもの。成瀬映山の特徴である飄々とした筆致もそのままに、丸みを帯びた柔らかい筆遣いとなっている。

29 ○名　　称　夢窓疎石墨跡杜甫詩（むそうそせきぼくせきとほし）
○作 者 等　夢窓疎石（1275～1351）筆
○時　　代　鎌倉時代・文保 2 年（1318）
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 22.3cm（最小値） 横 121.5cm
○作品概要　掛幅装。牙軸。一行ごとに縦に折り目と思われる線が入っており、界線として使用したと推測される。

30 ○名　　称　戴仁抱渾（じんをいただき、えんをいだく）
○作 者 等　九鬼隆一（1852～1931）筆
○時　　代　明治 17 年(1884)
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1 面
○寸 法 等　本紙 縦 27.5cm 横 52.8cm
○作品概要　額装。明治 17 年(1884)1 月、33 歳の九鬼隆一が、「戴仁、抱渾」（仁を戴き、渾を抱く）と書いている。明治 12 年以降、教育令に関して、天皇とその側近の意向を知り、その影響を受けた九鬼の心情を伝える内容である。

＜彫刻＞（2 件）

31 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　平安時代・12 世紀
○品　　質　木造、漆箔・彩色・截金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 37.1cm 総高 46.5cm
○作品概要　髻を結い、元結紐一条で括り、髪束を五束あらわす。天冠台は上から列弁と紐一条からなる。地髪および後頭部は平滑にあらわすが、天冠台下では髪束を八束あらわし、疎ら彫りとする。耳朶は環状だが不貫とする。白毫相は認められない。三道相をあらわす。条帛、天衣、裙をつける。条帛は左肩から右脇腹をとおり、正面では左胸辺にて内から外にかけて先端は左腰下方に垂下する。背面では先端が左腰辺に至る。天衣は両肩からかけ、両腕内側に垂らし、先端は欠失する。裙は正面中央にて右前に打ち合わせ、上端を一段折り返し、前後左右に舌状に垂れる。左手は屈臂して五指を握り、右手は垂下して掌をやや内側に向け、第三・四指を軽く捻じる。構造については、頭体幹部を一材から彫出し、内刳りは施さない。両肩先、両足先、別材。天冠台上、正面および左右に小孔を穿ち、針金を挿す。元結紐は朱彩とする。肉身部に漆箔、着衣部に彩色と截金を施す。着衣部には、朱地のうえ墨線により界線を菱形に区切り、内区に截金による四菱文をあらわす。また墨線で団花文をあらわす。台座（後補）は六重蓮華座で、蓮華、敷茄子、返花、受座、六方入隅の上框、同じく隅足つき下框とする。

32 ○名　　称　三宝荒神立像（伝金剛夜叉明王）（さんぽうこうじんりゅうぞう（でんこんごうやしゃみょうおう））
○作 者 等　高村光雲作
○時　　代　明治時代・19～20 世紀
○品　　質　木造
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 15.6cm
○作品概要　中央の面の左右にやや小ぶりの脇面を表す。三面とも額にも目がある。中央面のみわずかに口を開き歯列を表す。炎髪で、頭飾をつける。三道相を表す。腕は六臂で、本手は左に五鈷鈴、右に五鈷杵、脇手は左上に橛、右上に剣、左中に弓、右中に弓を執る。各腕に臂釧、腕釧をつける。条帛、天衣、裙を着ける。足釧をつける。台座は岩座、框座。光背は岩座に支柱を立てる輪宝形の頭光で、上方と左右に火炎を表す。
本体は上中段の脇手を除き、まだ香りの残る白檀の一材より彫出する。持物、岩座、光背は別材製。框座は白檀製ではない。箱書きに金剛夜叉明王とあるが、光雲作の長野・善光寺仁王門の三宝荒神像雛形に近似するので三宝荒神と考えられる。

＜刀剣＞（11 件）

33 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　近江大掾忠広作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 76.2cm　反 1.3cm

○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅やや広く、重ね厚く、元先の幅に差があり、中鋒。
地鉄　小板目よく約み、地沸つき地景細かく入る。
刃文　のたれ調に互の目、小丁子交じって足入り、小沸よくつき、細かに砂流かかり、物打に金筋長くかかる。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
彫物　指裏（太刀表）　鎬を中心にして腰元に真の倶利伽羅龍、指表（太刀裏）　同腰元に梵字（カーン）、護摩箸に爪。
茎　生ぶ、先剣形、鑢目勝手上り、目釘孔 1、指裏（太刀表）に「肥前国住近江大掾藤原忠広」と銘がある。

34 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　肥前国忠宗作
○時　　代　江戸時代・元禄 15 年（1702）
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 69.5cm　反 1.6cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、反り浅く、中鋒。
地鉄　小板目よく約み、地沸つく。
刃文　中直刃、上方二重刃風となり、小足、葉処々に入り、小沸つき、匂口しまりごころ。
帽子　表裏、直ぐに小丸、先掃きかける。
彫物　表裏　棒樋、区にて丸止。
茎　生ぶ、先剣形、鑢目切、目釘孔 2、指裏（太刀表）に「肥前国相摸大掾忠宗作　甲割」、指表（太刀裏）に「元禄十五年八月吉日」と銘がある。

35 ○名　　称　刀（かたな）
○作 者 等　肥前国正広（河内大掾）作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 66.4cm　反 1.8cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、3 寸程磨上げて反り浅くなり、中鋒。
地鉄　板目約み、地沸よくつき、地景入る。
刃文　小のたれに大互の目、大丁子交じり、一部逆がかり、足・葉しきりに入り、沸、荒沸厚くつき、砂流全体にかかり、匂口深い。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
彫物　表裏、棒樋茎にて掻流し。
茎　磨上、先切、鑢目筋違（元）・切（新）、目釘孔 3 中 2 埋、指裏（太刀表）に「肥前国佐賀住正広」と銘がある。

36 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　武蔵大掾忠広作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.0cm　反 0.8cm
○作品概要　形状　平造、庵棟、身幅やや広く、重ねあって先反つく。
地鉄　小板目よく約み、地沸つき、地景入り、鉄明るい。
刃文　中直刃、指表物打二重刃がかり、小沸つき、匂口深い。
帽子　表裏、直ぐに小丸、先掃きかける。
茎　生ぶ、先入山形、鑢目切、目釘孔 1、指表に「武蔵大掾藤原忠広」と銘がある。

37 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　土佐守忠吉作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.4cm　反 0.9cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、反り浅くつき、中鋒。
地鉄　小板目肌立ちごころに地沸つき、地景入る。
刃文　のたれ調に小互の目、小丁子交じって連れ、足入り、小沸よくつき、処々に砂流かかる。
帽子　表裏、直ぐに小丸。
茎　生ぶ、先栗尻、鑢目切、目釘孔 2、指裏に「肥前国住人土佐守藤原忠吉」と銘がある。

38 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　大和守安定作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 40.0cm　反 0.7cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、身幅広く、反り浅く、大鋒。
地鉄　小板目肌立ち、鎬地柾目、地沸厚くつき地景入り、鉄冴える。
刃文　小のたれに互の目、大互の目、角ばる刃交り、足太く入り、小沸よくつき砂流かかり、匂口深く明るく冴える。
帽子　表裏、のたれ込み、先小丸。
茎　生ぶ、先刃上りの栗尻、鑢目大筋違、目釘孔 1、指表に「大和守安定」と銘がある。

39 ○名　　称　脇指（わきざし）
○作 者 等　山城守国清作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　刃長 53.0cm　反 1.2cm
○作品概要　形状　鎬造、庵棟、やや細身で元先の幅差少しあって、反り浅くつく。
地鉄　小板目に杢目交って肌立ちごころ、地沸つき地景入ってザングリとする。
刃文　直刃調に浅くのたれ、互の目、尖りごころの刃交り、足よく入り、小沸よくつき、砂流かかり、匂口やや深く沈みごころ。
帽子　表裏、直ぐに小丸、焼き深い。
彫物　指表　腰元鎬寄りに草の倶利伽羅龍、指裏　腰元鎬寄りに梅樹。

茎　生ぶ、先栗尻、目釘孔 2、鑢目筋違、指裏に菊紋と「山城守藤原国清」、指表に「鍛南蛮鉄剣之」と銘がある。

40　○名　　称　薙刀（なぎなた）
　　○作 者 等　森岡朝国作
　　○時　　代　江戸時代・文久 3 年(1863)
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　刃長 74.2cm　反 10.3cm
　　○作品概要　形状　薙刀造、庵棟、身幅尋常、重ね厚く、先反極端について半月形となる。
　　地鉄　小板目に小杢目交り、流れるところあって地沸つく。
　　刃文　下半焼出風ののたれ刃、上半角ばった互の目連れ、小沸つき、全体に砂流かかる。
　　帽子　表裏、のたれ込み、先火焔風に小丸。
　　彫物　指表、鎬地に腰樋。
　　茎　生ぶ、先切、鑢目勝手下り、目釘孔 2 中 1 忍、佩表に「土佐住森岡兵庫朝国作之」、佩裏に「文久三年癸亥六月選之」と銘がある。

41　○名　　称　薙刀（なぎなた）
　　○作 者 等　越前下坂作
　　○時　　代　安土桃山～江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　刃長 52.4cm　反 2.3cm
　　○作品概要　形状　薙刀造（佩表は平造、佩裏は切刃造）、庵棟、先あまり張らず、反り浅い。
　　地鉄　板目に大杢目交り、地沸つき地景入り、地鉄黒ずむ。
　　刃文　小のたれに互の目交り、物打に大模様の互の目、尖り刃、逆がかる刃あり、足入り、小沸つき、匂口しまりごころに明るい。
　　帽子　表裏、乱れ込み、先突き上げて小丸、深く返る。
　　彫物　佩表　平地に梵字、草の倶利伽羅龍、佩裏　平地に刀樋、薙刀樋に添樋、薙刀樋と添樋は区上にて角止、薙刀樋の中に素剣を浮彫であらわす。
　　茎　生ぶ、先剣形風の栗尻、鑢目桧垣、目釘孔 1、佩表に「越前国下坂」と銘がある。

42　○名　　称　笹穂槍（ささほやり）
　　○作 者 等　関兼貞作
　　○時　　代　室町～安土桃山時代・16 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 本
　　○寸 法 等　刃長 32.5cm
　　○作品概要　形状　平三角造、身幅に比して寸が伸び、先張る。
　　地鉄　小板目、刃寄りにて流れ、地沸つく。
　　刃文　小のたれ調に互の目、平面に尖り刃目立ち、小沸つき、匂口しまりごころ。
　　帽子　表裏、直ぐに小丸。
　　彫物　平面に太樋。
　　茎　生ぶ、先切、鑢目不詳、目釘孔 2、茎に「兼貞」と銘がある。

43　○名　　称　飾鏃（かざりやじり）
　　○作 者 等　埋忠吉信作
　　○時　　代　江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　鍛鉄製
　　○員　　数　1 本
　　○寸 法 等　刃長 20.5cm
　　○作品概要　形状　両鎬造、身幅広く、ふくら詰まり平根形。
　　地鉄　小板目約み、処々流れる。
　　刃文　小のたれに小互の目交り、小沸つき、砂流かかる。
　　帽子　表裏、直ぐに小丸。
　　彫物　表裏、真の倶利伽羅龍を欄間透かしとし、けら首上に鎬を中心として「埋忠」、「吉信」と毛彫がある。
　　茎　生ぶ、先丸、鑢目筋違。

＜陶磁＞（5 件）

44　○名　　称　染付梅文猪口（そめつけうめもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 5.7cm　口径 8.0cm　底径 4.3cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。開きは他の 3 点よりも大きく、底部畳付きはごく細く削り出す。釉は青みが強い。畳付きはオレンジ色の焼け色を呈する。コバルトで裾に圏線を巡らせ、胴部に梅樹を細い筆致で描く。

45　○名　　称　染付水仙文猪口（そめつけすいせんもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 6.0cm　口径 7.1cm　底径 5.2cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。全体に青灰色を呈する。直線的に開く杯。胎はやや厚みがある。底はごく細く畳付きを削り出し、一部目跡のような痕跡が残る。灰色がかったコバルトで裾に圏線を巡らせ、胴部に水仙と思われる文様を描く。焼け痕が内外に広がっている。

46　○名　　称　染付秋草文猪口（そめつけあきくさもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 5.6cm　口径 7.5cm　底径 5.8cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。底は蛇の目。コバルトで口縁内側に 2 本の圏線を巡らせ、胴部には女郎花のような秋草の文様をごく細い筆致で描く。花や葉は輪郭をとり、やや淡い発色の濃みをさす方法であらわされ、他の 3 点とは異なり、精緻な絵付けである。また、見込みには圏線と中央に宝文を配する。

47　○名　　称　染付雪持笹文猪口（そめつけゆきもちざさもんちょこ）
　　○時　　代　江戸時代・18 世紀
　　○品　　質　磁製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 6.3cm　口径 7.4cm　底径 5.2cm
　　○作品概要　硬質白磁胎。直線的に開く杯。底部畳付きを細く削り出す。青みがかった透明釉で細かな貫入が入る。灰色を帯びたコバルトで裾に圏線を巡らせ、松と雪輪のような文様を胴部正面、背面と 2 面に配する。

48　○名　　称　片口鉢（かたくちはち）
　　○作 者 等　丹波
　　○時　　代　安土桃山～江戸時代・17 世紀
　　○品　　質　陶製
　　○員　　数　1 口
　　○寸 法 等　高 7.8cm～11.0cm　口径 15.8cm×23.6cm　底径 11.3cm
　　○作品概要　灰色硬質の胎。夾雑物が混じる。全体に黒茶色に焼き締まり、内外のところどころに自然釉が降り掛かり、景色を作る。底は平底。口縁を楕円に大きく歪ませた鉢で、口は稜線を描くように高低をつけ、一方に注ぎ口を作る。見込みには放射状に刻みを入れ、内底中央に＊印を刻んで擂鉢としている。

＜漆工＞（2 件）

49　○名　　称　朱漆硯台（しゅうるしすずりだい）
　　○時　　代　室町～安土桃山時代・16 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 基
　　○寸 法 等　方 28.0cm　高 5.5cm
　　○作品概要　方形の甲板に低い立ち上がりと刳形の四脚をつけた硯台。見込みから立ち上がり内面にかけて朱漆塗、その他を黒漆塗とする。四脚は輪郭を朱漆で括り、木口を朱漆塗としている。甲板の側面は四角に角金具をつけ、四辺中央付近に三個の飾り鋲を並べ打っている。

50　○名　　称　竹雉子蒔絵料紙硯箱（たけにきじまきえりょうしすずりばこ）
　　○作 者 等　塩見政誠（生没年不詳）作
　　○時　　代　江戸時代・19 世紀
　　○品　　質　木製漆塗
　　○員　　数　1 具
　　○寸 法 等　（硯箱）縦 24.6cm 横 21.6cm 高 4.2cm、（料紙箱）縦 41.2cm 横 32.4cm 高 13.7cm
　　○作品概要　同じ主題の文様、技法で統一された料紙箱と硯箱のセット。硯箱は長方形、被蓋造の箱で、蓋の肩を几帳面として口縁に玉縁を作り出す。身の内は硯の上下に下水板を渡して筆架とし、他に水滴 1 個、筆 1 本、錐 1 本を納める。硯箱の表面は全体を黒漆塗として、面取部や蓋と身の口縁を金地とする。外側には金銀研出蒔絵に朱漆描を交え、竹林に雉子の図柄を描いている。蓋裏から見込みにかけては平目地として青金・銀の薄肉高蒔絵で千鳥の群れを表わす。料紙箱は長方形、印籠蓋造の箱で、蓋の肩を几帳面として、蓋の口縁と身の置口に玉縁を作り出す。漆塗りと文様・技法は硯箱と同仕様としている。

＜考古＞（5 件）

51　○名　　称　緑釉棺台残片（ませいせきふりょくゆうかんだいざんへん）
　　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　　○時　　代　古墳時代・7 世紀
　　○品　　質　陶製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　残存長 11.5cm 同幅 4.5cm 厚 2.7～2.8cm
　　○作品概要　やや開く立上がりをもち、下面には脚台の痕跡が残る隅丸長方形の外容器の一部。全体はナデ整形仕上げされるが、各所にハケメ・ヘラケズり痕が残る。内面の全面および外面の壁体部外面に淡青灰色の緑釉を施す。胎土は明灰褐色。

52　○名　　称　須恵器 子持台付有蓋長頸壺（すえき こもちだいつきゆうがいちょうけいこ）
　　○時　　代　古墳時代・6 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全高 47.0cm 台部径 24.5cm 脚径 23.5cm 脚部高 21.8cm 蓋部径 6.5cm 蓋部高 6.3cm つまみ径 3.2cm 壺部口径 17.5cm 壺銅部径 21.5cm 子壺部径 3.5～4.0cm 子壺部高 4.5～4.8cm
　　○作品概要　古墳時代後期の子持台付有蓋長頸壺。蓋部は比較的高く、頂部に扁平なつまみが付く。口縁部はなだらかに下がり、端部を丸く納めるがわずかに外側につまみ出し、天井部との境界は下端に沈線を廻らせた明瞭な段をもつ。

53　○名　　称　須恵器 革袋形提瓶（すえき かわぶくろがたていへい）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全高 13.8cm 全幅 20.7cm 口径 6.9cm 胴部厚 8.4cm
　　○作品概要　古墳時代後期の革袋をモデルとした提瓶。細い基部の口頸部から、外端面をもつ口縁部が大きく外反して開く。胴部は肩部が明確な稜をなす逆台形のタイプで、把手は省略される。

54　○名　　称　須恵器 鳥形瓶（すえき とりがたへい）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　全長 19.5cm 全幅 9.3cm 全高 10.0cm 口径 4.3～5.5cm
　　○作品概要　鳥形を模した瓶。扁平な丸味の強い胴部の前後に、粘土を貼付して鳥の頭部と尾部を造り出す。背部中央に口頸部を貼付し、口頸部は基部から直線的に伸びて歪みが著しい。口縁部は薄く丸く仕上げる。

55　○名　　称　須恵器 脚付長頸壺（すえき きゃくつきちょうけいつぼ）
　　○時　　代　古墳時代・6～7 世紀
　　○品　　質　須恵製
　　○員　　数　1 個
　　○寸 法 等　口径 10.5cm 頸部径 4.5cm 全高 22.8cm 胴部径 14.5cm
　　○作品概要　古墳時代後期の脚付長頸壺。基部が細い口頸部は大きく外反して開き、口縁部には外端面をもつ。中位に２条一組の沈線が廻る。肩部がなだら

かな胴部は最大径を中位にもつ。

＜歴史資料＞（7 件）

56 ○名　　称　九鬼隆一関係資料（くきりゅういちかんけいしりょう）
○時　　代　明治～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　73 件
○作品概要　九鬼家伝来の書画類を中心とした資料である。東郷平八郎が隆一のために揮毫した書や隆一が出席した宴会の模様を川端玉章が描いた戯画、明治期の名刺類を貼り込んだアルバムなど、隆一の事跡を物語るものを含んでいる。

57 ○名　　称　書状（しょじょう）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治 8 年(1875)
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 16.5cm 横 37.8cm
○作品概要　掛幅装。世界地図の文様を摺り出した用箋に本文を書く。年紀を欠くが「当春は連月開館いたし度」とある。明治 8 年 2 月 2 日に博覧会事務局が、定例の博物館の公開日である 1・6 の日に日曜日を加え、連月開館とすることを太政官に上申する直前の 1 月 31 日、局長の町田久成が部下の蜷川式胤、岸光景、多田親愛の 3 名に相談をしようとしたが皆不参のため、実施を決断したときのものと考えられる。

58 ○名　　称　白衣観音像（びゃくえかんのんぞう）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆、自賛
○時　　代　明治 21 年（1888）
○品　　質　絹本金銀泥画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 81.0cm 横 25.7cm
○作品概要　掛幅装。金銀泥の線画で趺座する白衣観音を描き、自賛を加える。町田は出家後、白衣観音像数千点を描いたと伝えられる。

59 ○名　　称　竹筍図（ちくじゅんず）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治時代・19 世紀
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 115.3cm 横 29.3cm
○作品概要　掛幅装。墨画で竹と筍を描く。この絵は指頭画といい、手のひらや指、爪などに墨や顔料をつけて描いたものである。

60 ○名　　称　七言絶句（しちごんぜっく）
○作 者 等　町田久成（1838～97）筆
○時　　代　明治 24 年(1891)
○品　　質　絹本墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 18.9cm 横 13.2cm
○作品概要　掛幅装。やや光沢のある絹に墨書で七言絶句を記す。

61 ○名　　称　石谷上人（町田久成）像（せきこくしょうにん まちだひさなり ぞう）
○作 者 等　杉孫七郎（聴雨）等 4 名賛
○時　　代　明治 36 年(1903)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙 縦 94.4cm 横 41.3cm
○作品概要　掛幅装。石谷上人（町田久成）の僧形の坐像を写真画風に描き、上部に杉孫七郎（聴雨）、稲生真履、多田親愛、智満（園城寺僧か）の 4 名の賛を配する。明治 36 年（1903）の町田の七回忌に際して仕立てられたものである。

62 ○名　　称　町田久成関係資料（まちだひさなりかんけいしりょう）
○時　　代　明治～昭和時代・19～20 世紀
○員　　数　一括（161 点）
○作品概要　町田久成及び秀麿宛の書簡類が多くを占める他、久成の写真、東京帝室博物館に建立された記念碑に関する資料、久成の事跡をまとめた記録などから成る。

＜東洋彫刻＞（9 件）

63 ○名　　称　男性像頭部（だんせいぞうとうぶ）
○作 者 等　伝ハッダ、タパ・エ・ショトール出土
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　塑造彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　総高 38.5cm（台座含む） 像高 24.0cm
○作品概要　高浮彫。ターバン飾りをつけ、口髭をたくわえた男性像の頭部。ターバンは前頭部に結び目をつくり側頭部を覆う。頭頂部に六角柱型の装飾を付ける。左耳朶に耳飾を付ける。背面中央やや右耳寄りに小穴あり。小穴内部に焼損した物体が見える。首の断面より金属製の支柱で木製台座に固定する。

64 ○名　　称　如来頭部（にょらいとうぶ）
○作 者 等　ガンダーラ出土
○時　　代　3～5 世紀
○品　　質　ストゥッコ造彩色
○員　　数　1 個
○寸 法 等　総高 38.0cm（台座含む） 像高 23.0cm
○作品概要　高浮彫。波状頭髪、白毫あり。髪際は額中央をやや尖らせ、額は広くあらわす。眼は半眼とする。目、唇、両耳に朱彩が残る。瞳は墨彩。現状で、背面は後頭部中央から首にかけて窪んでいる。背面の一部に藁が残る。首の断面より金属製の支柱で木製台座に固定する。

65 ○名　　称　如来坐像（にょらいざぞう）
○時　　代　五胡十六国時代・4 世紀
○品　　質　銅造鍍金

○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.8cm　座高 5.2cm
○作品概要　頭上に大きな肉髻を表わし、肉髻・地髪とも素文とする。袈裟を通肩に着け、腹前で両手の甲を外側にむけ、右手を手前にして重ねる。台座の正面左右には正面向きの獅子を表わす。後頭部にはホゾを切り落とした痕跡あり。底面を開口し、首下あたりまで中型のくりあげを設ける。

66 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 7.5cm 像高 5.6cm
○作品概要　如来の立像、肉髻を盛り上げ素髪とする。衣を通肩に着し、左手は垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。蓮華座は蓮肉と返花（６弁）、六角框座から構成され、底面を開口して中型のくりあげを設ける。

67 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　像高 10.7cm
○作品概要　如来の立像、肉髻を高く盛り上げ素髪とする。胸前を大きくあけて衣を通肩に着し、左肩から右脇にかけて内衣を表わす。左手はわずかに屈臂のうえ垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。

68 ○名　　称　如来立像（にょらいりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 6.2cm 像高 5.0cm
○作品概要　如来の立像。肉髻の盛り上がりは確認できず、髪際にわずかな段差を設ける。袈裟を通肩に着し、左手は垂下して与願印をむすび、右手は屈臂して施無畏印をむすぶ。

69 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.2cm 像高 6.2cm
○作品概要　菩薩の立像。髻を結い、三面頭飾をつける。裙と天衣、胸飾（陰刻線で表わす）を着ける。天衣は両肩から垂下し、両体側部に垂れる。

70 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 8.0cm 像高 6.0cm
○作品概要　菩薩の立像。単髻を結い、三面頭飾・胸飾・瓔珞を表わす。天衣は腰下垂下部のみ確認できる。

71 ○名　　称　菩薩立像（ぼさつりゅうぞう）
○時　　代　統一新羅・8～9 世紀
○品　　質　銅造鍍金
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　総高 9.6cm 像高 7.2cm
○作品概要　菩薩の立像。髻を結い、三面頭飾をつける。正面頭飾は化仏か宝瓶か不明。裙と天衣、胸飾を着ける。

＜東洋陶磁＞（5 件）

72 ○名　　称　呉器茶碗（ごきちゃわん）
○時　　代　朝鮮時代・16～17 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.5cm　口径 9.8～11.0cm　底径 6.6cm
○作品概要　灰色硬質の胎。素地には夾雑物が多く混じる。腰折れで丸みをもった胴に撥状に開いて立つ高台が付く。全体を白土で化粧し、腰に 1 周化粧を掻き落としてから透明釉を掛ける。

73 ○名　　称　粉引茶碗　銘高砂（こひきちゃわん　めいたかさご）
○時　　代　朝鮮時代・16～17 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.5cm　口径 13.7cm　底径 5.0cm
○作品概要　茶色硬質の胎。薄づくり、端反りの茶碗。底部畳付きまで白土で化粧をし、畳付きには目跡が残る。全体に雨漏風のしみが広がって景色をなす。

74 ○名　　称　白磁碗（はくじわん）
○時　　代　高麗時代・11 世紀
○品　　質　磁製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3cm　口径 14.1cm　底径 4.6cm
○作品概要　白色硬質磁胎。夾雑物が混じる。高火度釉の透明釉が総体に掛かる。釉はムラがあり、ところどころ青みを帯びる。直線的に開いて立つ碗で、底は蛇の目（玉璧）高台。

75 ○名　　称　中国陶磁片一括（ちゅうごくとうじへんいっかつ）
○時　　代　東晋～元時代・4～14 世紀
○員　　数　1 括
○作品概要　中国陶磁の陶片合計 80 片。うち 62 片は昭和初期に中国の杭州領事であった米内山庸夫によって杭州市内で採集された陶片である。その他 18 片は付属のメモより、繭山龍泉堂旧蔵の陶片であることが推測できる。官窯青磁や龍泉窯青磁など南宋～元時代に位置づけられる中国の青磁が中心で、ほかに白磁や磁州窯陶の破片が混じる。また、これらの多くに陶磁研究者小山冨士夫による生産窯を記した書付（シール）が貼られて

いる。

76 ○名　　称　青磁盤（せいじばん）
○時　　代　北宋時代・11～12 世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 2.8cm　口径 17.1cm　底径 9.1cm
○作品概要　灰白色、硬質の胎。つやのある青緑色の青磁釉が総体に掛かる。釉の表層には細かいヒビが全体に走る。口縁がわずかに外反した盤で、底には撥状の高台が付く。高台内には針目跡（支釘痕）が 3 つ残る。

＜東洋染織＞（2 件）

77 ○名　　称　覆い布（プルカリ）茶木綿地幾何文様刺繍（おおいぬのちゃもめんじきかもんようししゅう）
○時　　代　木綿地に絹糸による刺繍
○品　　質　19 世紀末～20 世紀前半
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 234.0cm 横 146.0cm
○作品概要　インド・パンジャーブ（現パキスタン）で 19 世紀から 20 世紀にかけて制作された覆い布（プルカリ）である。手紡ぎ糸で織られた茶木綿地に、オレンジ・ピンク・淡緑・淡茶・紺・黒の釜糸で、平繍によって畳目状にさまざまな幾何文様を表わす。

78 ○名　　称　敷物菱幾何文様綴織（キリム）（しきものひしきかもんようつづれおり）
○時　　代　20 世紀前半
○品　　質　毛織物
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 291.0cm 横 166.0cm
○作品概要　キリムとは、西アジア一帯で暮らす遊牧民族が、家畜の毛で毛糸を紡ぎ、染色して綴織にした敷物の一種である。国や部族によって文様に特色が見られる。本品は、赤・茶・藍・緑・黄・白に染めた毛糸を用い、平組織による綴織で文様を織り出す。

＜東洋考古＞（48 件）

79 ○名　　称　オイノコエ（おいのこえ）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　器高 7.3cm 胴径 4.0cm 底径 2.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に淡黄色、水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

80 ○名　　称　アリュバロス（ありゅばろす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.3cm 口径 3.0cm 胴径 5.0cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に淡黄色、水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

81 ○名　　称　アンフォリスコス（あんふぉりすこす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.3cm 胴径 4.0cm 底径 2.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。濃紺色の本体に黄色と水色のガラスを巻きつけて、胴部にジグザグ文と平行線文を表す。

82 ○名　　称　アラバストロン（あらばすとろん）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.3cm 口径 2.4cm 胴径 2.8cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。黒色の本体に白色のガラスを巻きつけて縦に引き、フェストゥーン文としている。

83 ○名　　称　アラバストロン（あらばすとろん）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　前 6～前 5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.5cm 口径 2.8cm 胴径 3.3cm
○作品概要　香油容器。サンド・コア技法による成形。本体に白、黄色のガラスを巻きつけて縦に引き、フェストゥーン文としている。

84 ○名　　称　スキュフォス（すきゅふぉす）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・2～3 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 4.8 cm 幅 11.2cm
○作品概要　碗形の酒杯。水色のガラスから宙吹き技法によって成形された。底部はくぼみ、その結果、内面に山形の突起をなしている。

85 ○名　　称　片手瓶（かたてへい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・3～4 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口

○寸 法 等　高 13.3cm 口径 4.7cm 胴径 12.5cm 底径 4.3cm
○作品概要　淡緑色ガラスを薄く宙吹き成形した壺。口縁部は一旦外側に張り出した後、内側に折り返す。頸部は円筒形で肩部が張り出す。

86 ○名　　称　突起装飾小瓶（とっきそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.3cm 口径 2.0cm 胴径 3.5cm
○作品概要　青色ガラスを型吹き技法で成形した厚手の小瓶。胴部にはこの時の縦畝が多数残る。口縁から頸上半部は円筒形、下部は瘤状の膨らみを経て括る。

87 ○名　　称　小瓶（しょうへい）
○作 者 等　地中海東部出土出土
○時　　代　3～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　3 口
○寸 法 等　1)高 9.0cm 口径 2.0cm 胴径 5.4cm 提携 3.5cm、2）高 7.3cm 口径 1.9cm 胴径 4.7cm 底径 2.7cm 、3）高 5.3cm　口径 2.2cm　胴径 3.4cm　底径 1.0cm
○作品概要　1）淡青色ガラスを宙吹き成形した器壁の薄い小瓶。2）淡青色ガラスを宙吹き成形した器壁の薄い小瓶。3）淡緑色ガラスを宙吹き成形した器壁のやや厚い小瓶。

88 ○名　　称　丸底鉢（まるぞこばち）
○作 者 等　地中海東部出土出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 7.0cm 径 14.0cm
○作品概要　鋳造技法によって成形された淡緑色ガラスの分厚い碗。内面口縁部直下に 2 条の平行線が刻まれている。

89 ○名　　称　長頸瓶（ちょうけいへい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.5cm 口径 2.1cm 胴径 7.0cm 底径 3.0cm
○作品概要　宙吹き技法によって成形された紫色ガラスの瓶。器壁はきわめて薄く、器面全体に白色ガラスの細線を螺旋状に巻きつけて装飾している。

90 ○名　　称　脚付杯（あしつきはい）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ローマ時代・4 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.5cm 口径 7.0cm 底部径 3.0cm
○作品概要　無色ガラスから宙吹き技法によって成形された酒杯。碗形の本体に同色のガラスで別途作られた脚台を接合したもの。

91 ○名　　称　二連瓶（にれんへい）
○作 者 等　シリア出土
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.5cm 幅 3.7cm 奥 1.1cm
○作品概要　薬品容器。無色ガラスの管を中央部で折り返して作られた。表面全体に青色ガラスの細線を巻きつけて装飾し、最後に口縁部とその直下に 1 対の青色ガラスの小把手を付す。

92 ○名　　称　突起装飾碗（とっきそうしょくわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・4～5 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.0cm 径 10.0cm
○作品概要　突起装飾は、切子技法と並んで、サーサーン朝時代に大いに発達したガラス器の装飾技法である。本作品は欠損がほとんどない優品。

93 ○名　　称　切子装飾碗（きりこそうしょくわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・5～6 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.0cm 径 11.9cm
○作品概要　サーサーン朝時代に発達した切子の技法を駆使して器面を飾っている。

94 ○名　　称　円形切子碗（えんけいきりこわん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・5～6 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.8cm 径 9.0cm
○作品概要　サーサーン朝時代の代表的な円形切子碗の優品である。類品がいわゆるシルクロードを経てわが国にも伝来していることは広く知られている。

95 ○名　　称　小瓶（しょうへい）
○作 者 等　シリア出土

○時　　代　イスラーム時代・7～8 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 6.3cm 径 4.8cm 底径 2.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代のガラス器制作技法がイスラーム時代に継承された作例である。

96 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン、グルガーン地方出土
○時　　代　イスラーム時代・8～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 8.3cm 口径 3.4cm 胴径 6.3cm 底径 2.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代に発達した切子の技法を駆使して器面を飾っている。

97 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.6cm 口径 3.4cm 底径 8.2cm
○作品概要　無色のガラスを分厚く宙吹き成形した容器。頸部はやや外に開いた円錐形で縦方向の６条の面取りが施される。

98 ○名　　称　切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.6cm 口径 3.5cm 底径 7.7cm
○作品概要　サーサーン朝時代以来のガラス工芸の伝統を引き継ぐイスラーム時代の作品。完形品

99 ○名　　称　四足付角型小瓶（よんそくつきかくがたしょうへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.7cm 口径 2.4cm 胴径 2.7cm
○作品概要　淡緑色ガラスを型吹きによって分厚い角瓶としたもの。頸部は逆円錐形で、口縁部にのみ青色ガラスを貼り付ける。

100 ○名　　称　瓶（へい）
○作 者 等　伝モンゴル出土
○時　　代　9～10 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 11.7cm 口径 2.1cm 胴径 7.2cm 底径 5.0cm
○作品概要　型吹き技法によって成形された青色ガラスの瓶。球形の胴部に二重円文が 6 回繰り返される。

101 ○名　　称　広口瓶（ひろくちへい）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・10～11 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 12.4cm 口径 6.7cm 径 9.0cm 底径 4.5cm
○作品概要　無色のガラスをきわめて薄く（約 0.15 センチ）宙吹き成形した容器。頸部は外に開いた円錐形、以下は球形で、装飾はない。

102 ○名　　称　首飾（くびかざり）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 3～前 1 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 連
○寸 法 等　全長 45.0cm ビーズの径は 0.35cm、長は 0.15～0.20cm、人頭の高 1.7cm
○作品概要　ペースト・ガラスの貼り付けによって作られた人頭 9 個と水色のビーズを綴って首飾としたもの。

103 ○名　　称　腕輪（うでわ）
○作 者 等　シリア又はエジプト出土
○時　　代　9～13 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　17 個
○作品概要　本体青色ガラスほか。イスラーム時代に一般的であったガラス加工技法をよく示す資料。

104 ○名　　称　楔形文字銘釘形土製品（くさびがたもじめいくぎがたどせいひん）
○作 者 等　イラク出土
○時　　代　ウル第三王朝時代・前 2100 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 15.4cm 頭部径 5.6cm
○作品概要　丸い頭部をもった釘状の土製品。円錐部に罫線を引き、シュメル楔形文字による 10 行の銘文が刻まれている。

105 ○名　　称　牛形スタンプ印章（うしがたすたんぷいんしょう）
○作 者 等　イラク南部出土
○時　　代　ジェムデッド・ナスル期・前 3200～前 2800 年頃

○品　　質　大理石
○員　　数　1 個
○寸 法 等　横 6.5cm 縦 3.5cm 高 2.1cm
○作品概要　うずくまる雄牛を象ったスタンプ印章。両目（及び鼻孔も？）は窪んでいるが、象嵌が抜け落ちた結果である。印面には７匹の動物（亀？）が表現される。

106 ○名　　称　円形スタンプ印章（えんけいすたんぷいんしょう）
○作 者 等　エジプト出土
○時　　代　前 400 年頃
○品　　質　大理石製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 6.3cm 厚 2.2cm
○作品概要　円形の印面をもつ大型のスタンプ印章。背面は丸く、上下に径約 0.6 センチの孔が貫通する。印面には 5 頭の動物の姿が彫り出される。

107 ○名　　称　女性土偶（じょせいどぐう）
○作 者 等　パキスタン、バローチスタン地方出土
○時　　代　前 2700～前 2500 年頃
○品　　質　粘土・焼成
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 12.3cm 幅 4.2cm 奥 4.4cm
○作品概要　インダス文明が成立する直前の時期、バローチスタンで作られた土偶。

108 ○名　　称　装身具（そうしんぐ）
○作 者 等　イラク又はシリア出土
○時　　代　シュメル初期王朝時代・前 26～前 24 世紀
○品　　質　石ほか
○員　　数　20 個
○作品概要　装身具の部品あるいは衣服に取り付けた一群の飾り。動物、人物の形をしたもの、円盤、管玉などが含まれる。

109 ○作 者 等　シリア出土
○時　　代　青銅器時代・前２千年紀
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 具
○寸 法 等　神像：高 14.6cm 幅 5.6cm 基部径 3.0cm、テーブル：高 6.5cm 径 6.6cm 基部径 3.5cm
○作品概要　二つの頭を持つ神の像と奉納物を載せる台。同形同大の頭は 5 つの突起をもつ冠を戴き、高い鷲鼻、大きく見開かれた目が特徴で、口の表現はない。

110 ○名　　称　飾板（かざりいた）
○作 者 等　トルコ東部出土
○時　　代　ウラルトゥ王国時代・前 9～前 8 世紀
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　現存長 21.0cm 幅 2.1cm 厚 1.2cm
○作品概要　前 9～前 6 世紀にトルコ東部、アルメニア、コーカサスにまたがる地域に存在したウラルトゥ王国の作品。打ち出しによって作られ、刻線で装飾を施したベルトの一部を、後に切り抜いたもの。

111 ○名　　称　刻文土器　細頸壺（こくもんどき　ほそくびつぼ）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　初期青銅器時代第Ⅱ期・前 2075～前 2000 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 13.3cm 口径 3.5cm 胴径 9.2cm
○作品概要　やや下膨れの球形胴部に円筒形の頸部、少し開いた口縁部が付く。

112 ○名　　称　犬の土偶（いぬのどぐう）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 7～前 6 世紀
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 7.1cm 幅 5.6cm 長 8.6cm
○作品概要　黄褐色の胎土で作られ、黒・赤の２色の顔料で、太線、列点などの大胆な文様が施されている。

113 ○名　　称　攪拌棒（かくはんぼう）
○作 者 等　地中海東部出土
○時　　代　ヘレニズム時代・前 2 世紀頃
○品　　質　動物骨製
○員　　数　1 本
○寸 法 等　現存長 21.0cm 幅 2.1cm 厚 1.2cm
○作品概要　環状の先端をもつ攪拌棒で、飲物を混ぜるために使用された。柄の頭部には胸元に赤子を抱く裸婦立像が表現されている。

114 ○名　　称　ピン（ぴん）
○作 者 等　イラン、ルリスタン地方出土
○時　　代　前 2 千年紀後半～前 1 千年紀初頭
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 本
○寸 法 等　長 21.3cm 径 0.8cm 幅 7.6cm
○作品概要　頭部に、翼をもったネコ科の動物２頭を両手で制圧する人物（神）が、透かし彫りで表現されている。

115 ○名　　称　容器を背負う動物の土偶（ようきをせおうどうぶつがのどぐう）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　前２千年紀末

○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 17.8cm 長 10.5cm 幅 5.4cm
○作品概要　硬質の灰色土器。四足動物の背に角瓶を乗せている。

116 ○名　　称　山羊形リュトン（やぎがたりゅとん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　鉄器時代・前 1 千年紀前半
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 21.2cm 口径 9.1cm 胴径 7.5cm 孔径 0.7cm
○作品概要　開いた口をもつ壺形の本体に山羊の前駆を取り付けた、黄褐色の酒杯。

117 ○名　　称　鷲の足（わしのあし）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　パルティア時代・前 150～後 228 年
○品　　質　青銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 12.5cm 幅 7.6cm
○作品概要　鷲の右足を象ったもの。上部がホゾになっていることから、別途作られた像本体に取り付けられていた部品であることがわかる。

118 ○名　　称　三足付皿（さんそくつきさら）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　イスラーム時代・10～11 世紀
○品　　質　粘土製・焼成・施釉
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　径 23.4cm 高 5.2cm 脚長 1.5cm
○作品概要　縁が水平に開いた皿本体を、円錐形の足 3 本で支えている。内面に白色釉を施し、黒・黄・緑色の釉で装飾紋様が描かれている。

119 ○名　　称　女性土偶（じょせいどぐう）
○作 者 等　イラク北部又はシリア北部出土
○時　　代　ハラフ期・前 5600～前 5000 年頃
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　5 躯
○寸 法 等　1）高 8.2cm 幅 4.8cm 奥 6.0cm、2）高 7.8cm 幅 4.6cm 奥 4.3cm、3）高 5.1cm 幅 3.2cm 奥 3.6cm、4）高 8.3cm 幅 4.2cm 奥 4.6cm、5）高 6.6cm 幅 3.5cm 奥 3.8cm

120 ○作品概要　地面に腰を下ろした裸婦の小像群。両手で乳房を持ち上げるものと、両手を膝上に置くものがある。頭部は小さく、後頭部が尖る。
○名　　称　動物形リュトン（どうぶつがたりゅとん）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　鉄器時代・前 1 千年紀前半
○品　　質　粘土製・焼成
○員　　数　1 個
○寸 法 等　全長 27.5cm、高 22.5cm、幅 14.5cm
○作品概要　丸みを帯びた動物の形をした酒器。黄褐色の土器で、器表全体に篦磨きが施されている。

121 ○名　　称　切子装飾小壺（きりこそうしょくこつぼ）
○作 者 等　イラン出土
○時　　代　サーサーン朝時代・7 世紀
○品　　質　ガラス製
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.3cm、径 3.7cm
○作品概要　無色ガラスを厚く宙吹きし、切子装飾によって仕上げた小型の容器。頸部側面には 6 面の切子、本体には 8 面の切子が施されている。

122 ○名　　称　男子立像（だんしりゅうぞう）
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　古拙Ⅱ期・前６世紀
○品　　質　石灰岩製・赤色顔料
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　本体高さ 36.0cm、 幅 9.0cm、奥行 4.0cm（台座　高 3.7cm、幅 11.4cm、奥行 9.0cm）
○作品概要　裸足の両足を揃えて直立する若い男性像。全体に細長く平たい体躯で、背面は平坦。踝を覆う長いキトンとヒマチオンを着ている。

123 ○名　　称　雲気文軒丸瓦（うんきもんのきまるがわら）
○時　　代　秦～前漢時代・前 3～前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 15.2cm　奥行 5.5cm（現存値）
○作品概要　円形。高い周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は 24 個の乳丁文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに雲文を配する。

124 ○名　　称　「高安萬世」軒丸瓦（「こうあんばんせい」のきまるがわら）
○時　　代　前漢時代・前 1 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　径 15.3cm　奥行 4.7cm（現存値）
○作品概要　円形。幅広の周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は中心に突出した円文とその周囲に列点文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに篆書で「高安萬世」の四字を配する。

125 ○名　　称　雲気文軒丸瓦（うんきもんのきまるがわら）
○時　　代　前漢時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　土製

○員　　数　1個
○寸 法 等　径 15.5cm　奥行 4.7cm（現存値）
○作品概要　円形。高い周縁をもつ。正面は圏線によって内区と外区に分かれる。内区は中心に突出した円文とその周囲に鋸歯文を飾り、外区は二本一組の界線で四分割し、これに雲文、および雲文の合間に三角文を配する。

126 ○名　　称　蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）
○時　　代　北魏～北周時代・6 世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　径 13.8cm　奥行 2.0cm（現存値）
○作品概要　円形。やや傾斜した幅広の周縁をもつ。正面は中心に七個の実をもつ蓮の花拓を、その周囲に十枚の蓮弁を配する。蓮弁は単弁で表現する。

＜東洋民族＞(22件)

127 ○名　　称　ワヤン・クリ　グヌンガン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 67.9cm 像高 46.0cm 最大幅 30.6cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。可動部はなく、操作棒1本で操作する。ワヤン・クリにおいて開演、場面転換、終演の時に登場する宇宙の山グヌンガンを表現している。表には樹木と建物と一つ目の霊獣、虎、水牛、蛇、猿、鳥、棍棒を持つ怪人、裏には巨大な獣面が描かれている。

128 ○名　　称　ワヤン・クリ　ブトロ・グル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 75.5cm 像高 46.0cm
○作品概要　水牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜き、水牛の角の操作棒をつけている。穿孔・操作棒組立の後に彩色。可動部はなく、操作棒 1 本で操作する。

129 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウモ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 52.0cm 像高 33.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

130 ○名　　称　ワヤン・クリ　ユディスティロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 38.1 像高 25.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

131 ○名　　称　ワヤン・クリ　ウルクドロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、プラスティック、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 61.5cm 像高 40.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

132 ○名　　称　ワヤン・クリ　アルジュノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 70.5cm 像高 49.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

133 ○名　　称　ワヤン・クリ　アルジュノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 66.4 像高 45.8cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

134 ○名　　称　ワヤン・クリ　ノロヨノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 64.8 像高 43.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

135 ○名　　称　ワヤン・クリ　クレスノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1体
○寸 法 等　全長 73.0 像高 51.6cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後、本体部分に彩色を施す。

136 ○名　　称　ワヤン・クリ　カルノ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 68.5 像高 49.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

137 ○名　　称　ワヤン・クリ　スラティモントロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 92.5 像高 69.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品3つを組み立て、水牛の角の操作棒2本をつけている。肩の上端で、あごひげが見えるように腕の部品を切り欠いている。本体部分に彩色を施す。

138 ○名　　称　ワヤン・クリ　コンソ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 83.0 像高 59.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

139 ○名　　称　ワヤン・クリ　スムボドロ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 54.0 像高 34.2cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

140 ○名　　称　ワヤン・クリ　スリカンディ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 52.3 像高 33.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

141 ○名　　称　ワヤン・クリ　バヌワティ
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 54.8 像高 37.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけている。組み立て後に本体部分に彩色を施す。

142 ○名　　称　ワヤン・クリ　シリハン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　像高 39.5cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜い部品5つを組み立て、水牛の角の操作棒3本をつけていたが操作棒は欠落。全身には彩色を施す。

143 ○名　　称　ワヤン・クリ　バユン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、骨、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 34.8 像高 25.8cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品3つを組み立て、水牛の角の操作棒2本をつけている。本体部分に彩色を施す。

144 ○名　　称　ワヤン・クリ　スマル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、木、竹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 63.6 像高 39.3cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、木や竹の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

145 ○名　　称　ワヤン・クリ　ガレン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、角、竹、人毛、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 60.0 像高 41.0cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鑿で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、水牛の角や竹の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色。

146 ○名　　称　ワヤン・クリ　ペトル
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、木、竹、人毛、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 79.2 像高 57.0cm

○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、木や竹の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色を施す。

147 ○名　　称　ワヤン・クリ　バゴン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　水牛の革、竹、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 65.2 像高 42.1cm
○作品概要　水牛の革を人間の形に切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、竹製の操作棒3本をつけている。組み立ての後、本体部分に彩色を施す。

148 ○名　　称　ワヤン・クリ　アノマン
○時　　代　20 世紀後半
○品　　質　牛の革、竹、プラスティック、彩色
○員　　数　1 体
○寸 法 等　全長 59.2 像高 43.5cm
○作品概要　牛の革を切り抜き、鏨で透かしを打ち抜いた部品5つを組み立て、竹製の操作棒3本をつけている。本体部分に彩色を施す。

(3) 編入（500 件）
＜歴史資料＞(500件)
1　○名　　称　歴史資料（れきししりょう）
○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
○員　　数　500 件
○作品概要　「歴史資料(P)」と称される分野は、昭和13年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時の列品から「学芸課資料」として再編成された資料群を基礎としている。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれ、その内容は多様である。今回編入分には、幕末明治期の画家菊池容斎旧蔵の資料、黒田清輝関係の資料、錦絵等が含まれている。

（参考）
既存列品への編入（33件）
＜法隆寺献納宝物＞
○名　　称　鳳凰文刺繍残欠（ほうおうもんししゅうざんけつ）ほか
○員　　数　33件
○作品概要　法隆寺献納宝物の一部とみられる上代裂を含む。平成 26 年度修理完了に伴い、法隆寺献納宝物の旧ガラス挟み上代裂の一括資料に追加するかたちで未整理品から列品に編入する。
※　法隆寺献納宝物の一部とみられる上代裂を含む関係上、旧ガラス挟み上代裂の一括資料として既存の列品に枝番号を追加する形で編入する。

【京都国立博物館】(計 423 件)
(1) 購入(18 件)
＜絵画＞(4 件)
1　○名　　称　池大雅像（いけのたいがぞう）
○作 者 等　福原五岳筆
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　縦 88.0cm、横 29.1 ㎝
○作品概要　池大雅の肖像画は数本が現存しているが、大雅の弟子・福原五岳（1730～99）の筆になる本作はそれらの中でも最も優れた出来映えを示す一点として知られている。画面上部には大雅風の書で像主の略伝が記され、本作が遺像であることが分かる。片膝をついてその上に両手をのせ、やや前かがみの姿勢をとる表情は憂いを含み、病床の姿を写したものとも考えられている。精緻な面貌描写は、生前の像主の姿を彷彿とさせて見事である。

2　○名　　称　花見遊楽図屏風（はなみゆうらくずびょうぶ）
○作 者 等　狩野養信筆
○時　　代　江戸時代(19 世紀)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　2 曲 1 隻
○寸 法 等　縦 137.6cm、横 147.8 ㎝
○作品概要　江戸・御殿山付近から品川沖を俯瞰的にとらえた作品である。画面下部の近景には桜が咲き誇り、幔幕が張られたなかで人々が思い思いに花見を楽しんでいる。船が多数停泊する品川沖を中心に、これを囲むように東海道と思われる街道が伸び、漁の様子や活発な往来も細緻に描かれる。富士山は群青の塗り残しによってあらわされており、峰には金泥の霞がかかるといういかにも江戸好みの洗練された趣である。破綻のない見事な遠近表現には西洋絵画等からの影響も看取され、その中に名所絵・四季絵・風俗画といった諸要素を含む点でも注目すべき作品である。

3　○名　　称　四季山水図屏風（しきさんすいずびょうぶ）
○作 者 等　久隅守景筆
○時　　代　江戸時代(17 世紀)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各縦 149.9cm、横 345.8 ㎝
○作品概要　季節を示す景物は明瞭ではないが、雨中の柳や雪山の描写から四季山水図を構成していると考えられる。左右隻で視点を異にする点も含め、狩野探幽筆「山水図屏風」(東京国立博物館）との親近性が顕著である一方、景物の重層的な配置により空間に奥行きを与える表現は雪舟画にならうものである。探幽門下の有力弟子としてその大きな影響を受けつつ、さらにおそらくは直接的に雪舟画をも摂取して、自己の様式を確立していったことが見て取れる初期の大作としての価値は高い。

4　○名　　称　四季花鳥図屏風（しきかちょうずびょうぶ）
○作 者 等　源琦筆
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6 曲 1 双
○寸 法 等　各縦 156.8cm×横 356.8 ㎝
○作品概要　右隻には梅・薔薇・山吹と雉・鷺、左隻には芙蓉・寒菊・椿と四十雀・鴛鴦といったモチーフが配され、一双を通じて四季を巡らせる四季花鳥図である。応挙譲りの緻密で華麗な鳥たちの描写と、控えめの優しい彩色による草花の描写が大きな見どころとなっている。梅樹の描写は寛政

7年（1795）作の大乗寺障壁画に類似し、近い制作時期を想定することも可能であろう。色感は吉村孝敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」（奈良県立美術館）にも通じ、応挙以降の円山派の流れを考えるうえでもこうした大作は注目される。

＜書跡＞(3件)

5　○名　　称　漢書楊雄伝第五十七（かんじょようゆうでんだいごじゅうなな）
　　○指　　定　国宝
　　○時　　代　中国・唐時代(7世紀)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　縦27.5cm、全長1385.4cm
　　○作品概要　尾題に「楊雄伝第五十七」とあること、および本文の内容から、後漢の班固が著し、唐の訓詁学者として著名な顔師古（581～645）が注をほどこした『漢書』楊雄伝の写本である。楊雄（字は子雲、前53～後18）は前漢の文学者・哲学者・言語学者で、王音に文才を認められ朝廷に仕えた。『四庫全書』所収の同本と比較すると、巻頭より2紙分、39行程度が欠けていると思われるものの、全体では26紙分が残存する。欧陽詢風の字高のたかく力強い線の字すがた、あるいは唐の高祖（李淵）や太宗（李世民）の「淵」や「民」に諱を避けるための欠筆が存在することから、書写年代は唐時代の7世紀にまでさかのぼるとみてよい。巻末の加点奥書が示すように、文中の随所には、数度にわたり訓点が付されている。

6　○名　　称　正親町天皇宸翰御消息 蘭奢待云々 九条稙通宛（おおぎまきてんのうしんかんおんしょうそく　らんじゃたいうんぬん　くじょうたねみちあて）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　桃山時代(16世紀)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦34.7cm、横99.9cm
　　○作品概要　ウハ書に据えられた花押は、「正親町天皇宸翰消息」（重要文化財、大雲院蔵）と比較しても同一であり、散らし書きの体裁をとる確実な正親町天皇の宸筆である。内容は天正２年（1574）３月、東大寺三倉に収められた名香「蘭奢待」の小片を下賜するにあたり、九条稙通（1507～94）にあてたもの。蘭奢待はベトナム付近を産出地とする沈香で、そのなかに「東大寺」の三文字を隠しもつ。三倉の開封には古来、厳重な儀式を必要としたが、『天正二年截香記』によれば、奏請から間もない３月28日、蘭奢待は織田信長の待ちうける多聞山城に運び出されたのち、二片が切りとられ、一片は信長が手許にとどめ、もう一片は正親町天皇に献上された。強引ともいえる信長の要請に応じざるを得なかった天皇の無念が滲む一方、決して揺らぐことのない字すがたは天皇の高い徳を示すものといえる。

7　○名　　称　寸松庵色紙（ちはやふる）（すんしょうあんしきし(ちはやふる)）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　平安時代(11世紀)
　　○品　　質　彩牋墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　縦12.7cm、横12.2cm
　　○作品概要　「寸松庵色紙」は、伝小野道風筆の「継色紙」と伝藤原行成筆の「升色紙」とともに、三色紙とよばれる古筆の名品で、紀貫之（872～945？）を伝称筆者とする。大徳寺龍光院の子院である寸松庵に住した茶人・佐久間真勝（あるいは直勝とも、1570～1642）が愛蔵したことから、その名がある。40枚程度が確認されるなかで、草花文様が鮮やかに残る唐紙に、『古今和歌集』巻第5・294番歌＝在原業平の有名な「ちはやふる…」一首を散らし書にする。自然でありながら品格あふれる筆跡は、優美な料紙とみごとに調和し、狭い紙面に上句と下句を巧みに配列することで、余白の広さを効果的に生み出すなど、もはや総合芸術といっても過言ではない。

＜金工＞(5件)

8　○名　　称　太刀　銘備中国住人左兵衛尉直次作／建武二年十一月　（たちめいびっちゅうのくにじゅうにんさひょうえのじょうなおつぐさく/けんむにねんじゅういちがつ）
　　○指　　定　重要文化財
　　○時　　代　鎌倉時代(14世紀)
　　○品　　質　鉄鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等(cm)全長91.4、刃長70.7、茎長20.7、鋒長2.9、刀身反2.4、元幅3.2、先幅2.1、元重0.7、先重0.6
　　○作品概要　本品は使い勝手を良くするため、後年になってわずかに磨上げられてはいるものの、銘文は全文判読可能である。刀身部分の作行も非常に良好で、刃中の働きが極めて豊富かつ繊細なうえ、身幅広く、やや重が薄い点に南北朝時代につながる時代的な特徴を見て取ることができる。当館所蔵の青江鍛冶の作品は重要文化財「太刀　銘包次」１件のみであり、備中鍛冶の全体像を見渡すためにも、鎌倉時代最末期・建武二年の年紀がある本品は基準作として極めて重要である。

9　○名　　称　刀　銘越後守藤原国儔(かたな　めいえちごのかみふじわらのくにとし）
　　○時　　代　桃山時代(17世紀)
　　○品　　質　鉄、鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等　刃長65.7㎝　反り2.4㎝　目釘孔1個
　　○作品概要　桃山時代の京都で繁栄した刀工集団堀川派の名工・越後守藤原国儔の打刀。鍛錬の細やかな地鉄に、ゆったりとしたのたれに互の目を交えた刃を焼き、沸がよくつき、砂流しがかり、帽子は浅くのたれて小丸に長く返るなど、末関風の色彩を色濃くあらわしている。さらに注目すべきは、本品の刀姿である。寸つまりで、先反りのついた体配を示し、茎も片手打風に刀身に比して短く造り込んでいるなど、姿までも室町末期の打刀の形状を忠実に写している。

10　○名　　称　太刀　銘備州長舩家守／應永元年十月日(たち　めいびしゅうおさふねいえもり／おうえいがんねんじゅうがつじつ)
　　附　牡丹金襴包鞘花唐草文金具毛抜形太刀拵(つけたり　ぼたんきんらんつつみさやはなからくさもんかなぐけぬきがたたちごしらえ)
　　○時　　代　【刀身】室町時代(14世紀)、拵】江戸時代（19世紀）
　　○品　　質　【刀身】鉄、鍛造、【拵】木胎、金襴包、銀鍛造
　　○員　　数　1口
　　○寸 法 等　【刀身】刃長69.8㎝　反1.95㎝　目釘孔1個、【拵】全長98.3㎝　鞘長75.0㎝
　　○作品概要　太刀は身幅がやや研ぎ減っているものの、重が一段と厚く、先方にも反りが付いた堂々とした太刀姿を示しており、室町時代前期の特色を備えている。地鉄に見られるやや肌立った杢目交じりの板目肌は室町時代の備前刀に顕著なもので、淡い映の立つ小互の目・小丁子交じりの刃文とあわせて小反り派の典型作と言える。応永元年の年紀を有することからも基準作として申し分ない。
拵は、金具類の彫金技法も極めて洗練されており、みやこの工人の確かな技術が伺える名品と言える。この拵は文久三年に本阿弥家と並ぶ研師の名門、竹屋家が家守の太刀に合わせて製作したもので、製作に当たって関与した各分野の工人の名前を列記した仕様目録が付随する点が極めて重要である。

11　○名　　称　龍虎図二所物　小柄　銘天保九戌年首冬作後藤法橋一乗（花押）(りゅうこずふたところもの　こづか めいてんぽうきゅういぬどししゅとうさく ごとうほっきょういちじょう(かおう))
　　笄　銘後藤光代入道法橋一乗（花押）(こうがい めいごとうみつよにゅうどうほっきょういちじょう　(かおう))

○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　赤銅、鍛造、彫金
○員　　数　1 組
○寸 法 等　【小柄】長 9.7 ㎝　幅 1.45 ㎝、【笄】長 21.2 ㎝　幅 1.2 ㎝　75.0 ㎝
○作品概要　この二所物は、表面に極小の魚々子鏨で整然とした魚々子を敷き詰め、そこに虎と龍を描くことで二者をあわせて龍虎のモチーフとしている。黒一色の地に彫り込まれた龍虎の図は極めて細密で、後藤家伝統の図案を一乗が群像風にアレンジしたものである。龍の鱗の一枚、虎の毛並みの一筋に至るまで一切の破綻が無く、一乗の彫物師としての技量の高さがいかんなく発揮されている。さらに付属する桐箱は一乗自身の手による墨書がなされた共箱であり、天保 9 年（1838）の年紀もあることから資料性が極めて高い。

12 ○名　　称　乙女図小柄　銘後藤法橋一乗（花押）（おとめずこづか めいごとうほっきょういちじょう(かおう)
○時　　代　江戸時代（19 世紀）
○品　　質　赤銅、鍛造、彫金
○員　　数　1 口
○寸 法 等　長 9.7 ㎝　幅 1.42 ㎝
○作品概要　赤銅を基材として、裏に金板を接合し、表面にオカメ顔の女性像を高肉に彫出す。着物や瓢に素銅や金・銀などの色彩豊かな金属を象嵌することでモチーフを引き立てる色絵技法がふんだんに盛り込まれた華やかな作品である。さらに付属する桐箱は一乗自身の手による墨書がなされた共箱であり、資料性が極めて高い。

＜陶磁＞(4 件)

13 ○名　　称　錆絵寒山拾得図角皿　（さびえかんざんじっとくずかくざら）
○指　　定　重要文化財（28 年度指定）
○作 者 等　尾形光琳・乾山合作
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○品　　質　軟質陶胎
○員　　数　1 対
○寸 法 等(㎝)寒山図　高 3.2、幅 21.8×21.9、底径 21.2×20.9、
拾得図　高 3.1、幅 21.8×22.0、底径 21.0×21.1
○作品概要　型作り成形された正四方の一対の角皿である。縁は切立縁で、底部の周縁を面取りに仕上げている。総体に白泥による白化粧をし、マンガン質の鉄絵具で人物や賛を表して朱で印を捺し、その上に透明釉を施している。二枚ともに見込周縁を界線で囲んで、中ほどに人物図を描き、その左右に賛や銘文、落款を捺している。

14 ○名　　称　灰陶加彩辟邪形器座　（はいとうかさいへきぎゃがたきざ）
○時　　代　中国・漢代(紀元前 1～3 世紀)
○品　　質　土器
○員　　数　1 基
○寸 法 等　高 12.2cm、幅 20.3cm×12.1cm
○作品概要　本作は中国・漢代の俑である。顔先が短く、虎のような顔をした獅子形の俑で、とぐろを巻いてうずくまるような姿をしており、肩には羽根を閉じたような表現がなされていることから、辟邪を表現したものと思われる。胴部には、ヘラ彫り毛並みが表され、その上から朱色の彩色が施されている。底はなく、内部は中空となっており、中央に穴があけられている。旗を指すものとして用いられたり、四神のように四方に配して、構造物の台座の一部として用いられたりと、いくつかの用途が考えられる。

15 ○名　　称　色絵栄花物語冊子形硯箱　（いろええいがものがたりさっしがたすずりばこ）
○時　　代　江戸時代(18～19 世紀)
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.6cm、幅 22.5cm×15.4cm
○作品概要　『栄花物語』の和装本を積み上げた状態をかたどった硯箱である。冊子を七冊重ねた状態で、一冊づつの厚さも異なるなど、細部へのこだわりもみえる。白釉の地に「栄花物語　御賀」と錆絵で記し、紗綾文地を紺の絵具、菊花を赤、緑の絵具と金彩で描いている。一般に古清水と総称される色絵陶器の一群である。ただし、極端に色挿しをして盛り上げてはいない。また、蓋上の菊文の部分には透かし彫りがみられる。印や銘などはみられない。京都では江戸時代以降、いわゆる京焼という一大窯業地として、多くのやきものが作られてきており、本作もその流れを語る上でも欠かすことができないものである。

16 ○名　　称　色絵三番叟香炉　（いろえさんばそうこうろ）
○時　　代　江戸時代(19 世紀)
○品　　質　施釉陶器
○員　　数　1 基
○寸 法 等　総高 31.2cm
○作品概要　能の演目である「式三番」の後半に演じる舞である「三番叟」をあらわした色絵の香炉である。直面でおどけた表情をみせる。頭部と背中の香を入れる部分が外せることができ、口と鼻が煙出しとなっている。衣装は、亀甲文、青海波文の地紋に松竹と鶴、宝相華文が描かれている。青色、緑色の絵具を基調とし、縁取りに金彩を用い、上絵付は厚く塗られている。顔と手、底部については無釉で、眉や目、口、そして烏帽子紐には色付けがされている。

＜漆工＞(1 件)

17 ○名　　称　桐竹鳳凰菊桐紋蒔絵広蓋　（きりたけほうおうきくきりもんまきえひろふた）
○時　　代　桃山時代(16～17 世紀)
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、金銅製縁
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　54.0cm×56.9cm　　高 9.2cm
○作品概要　本品は、全体を梨地とし、見込みから内側面にかけて、金薄肉高蒔絵、金平蒔絵、金付描、金銀の金具、金銀の切金を組み合わせた本格的な蒔絵技法で、土坡に桐竹、岩、雲、下草類、そして鳳凰の番いを表した、きわめて豪華な品である。外側面と底裏には金平蒔絵、金銀金具、金付描で、菊桐紋を並べ置いている。底裏にも文様があるのは、そこが衣装箱の蓋表であったときの名残ととらえられ、この盆が広蓋の初期例であることを示唆している。さらにいえば、本来は王者のみに許される文様であった桐竹鳳凰という文様や、菊桐紋の組み合わせ、蒔絵の質の高さなどを考え合わせると、豊臣家周辺で作られた品であるとも想定できる。家紋を置く装飾法も含め、のちに定型化する婚礼調度としての広蓋の源流に位置づけられる品ということができよう。

＜染織＞(1 件)

18 ○名　　称　紅文綾地菱亀甲文様総鹿子絞繍小袖　（べにもんあやじひしきっこうもんようそうがのことしぼりぬいこそで）
○時　　代　江戸時代(17 世紀)
○品　　質　絹
○員　　数　1 領
○寸 法 等　丈 147.0cm、裄 61.0 ㎝、袖丈 41.5 ㎝
○作品概要　粒状の鹿の子絞りを全体に連ね、絞り残した部分で小ぶりの亀甲と菱の輪郭線を表現した、総鹿の子絞りの小袖である。このように、地落ちで

文様を表現した総鹿の子絞り小袖は、一般的には、江戸時代後期に町方の女性が晴着として着用した作例が多いが、この1領は、それらよりも明らかに製作年代が遡る要素を含むことから、本小袖の製作年代は、17 世紀後半の寛文期周辺と考える。仕立て直しの痕跡は認められるものの、17 世紀半ば頃の欠失部分のない小袖が市場に出回ることは極めて稀である。

(2)寄贈(405 件)

＜絵画＞(6 件)

1 ○名　　称　棕櫚図（しゅろず）
○作 者 等　林閬苑筆
○時　　代　江戸時代
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦134.4cm、横49.5cm
○作品概要　画面一杯に棕櫚を描く大胆な筆墨が魅力的な作品である。閬苑は18世紀後半に大坂で活躍した画人で、緻密な着色画と同時にこのように粗放な水墨画も手がけた。

2 ○名　　称　筍図（たけのこず）
○作 者 等　伊藤若冲筆
○時　　代　江戸時代（18世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦110.0cm、横31.0cm
○作品概要　若冲の墨竹図は少なくないが、筍図は主題として珍しい。小品ながら筆墨は冴え、その濃淡のコントラスト等から明和～安永年間（1764～81）頃の制作が想定される。着賛年の「辛卯」が明和8年（1771）とすれば、画賛がほぼ同時期であった可能性も考えられる。

3 ○名　　称　船団図（せんだんず）
○作 者 等　狩野永信筆
○時　　代　江戸時代（19世紀）
○品　　質　絹本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦99.7cm、横36.5cm
○作品概要　招福画題である宝船図にも見えるが、様々な紋があしらわれた帆をはためかせ進む船団を描くのは珍しく、当時廻船問屋であった旧蔵者の家業と関わる可能性も考えられる。永信の出自は不詳ながら、京狩野9代永岳の養子と伝わる。

4 ○名　　称　菊桔梗群鵐図（きくききょうぐんしゅんず）
○作 者 等　土佐光起筆
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦43.6cm、横95.0cm
○作品概要　今尾景年旧蔵の作品で、もとは風炉先屏風であったという。画面は中央付近で巧妙に継がれており、掛軸への改装の際に画面が横方向に縮められたものとみられる。鵐や菊花の描写はきわめて精細で、光起の優れた画技を示す優品である。景年の子、景祥の箱書きをともなう。

5 ○名　　称　山水図（さんすいず）
○作 者 等　王昆筆
○時　　代　清時代（17世紀）
○品　　質　（各）金箋墨画
○員　　数　2幅
○寸 法 等　（落款あり）縦161.5cm、横47. 6cm　（落款なし）縦143.8cm、横47.2cm
○作品概要　明末清初に流行した金箋の長条幅の山水図。2幅のうち1幅に「甲午仲春写、王昆」の落款があるが、「王昆」は逸名の画家である。金陵（南京）派の龔賢の構図に、勢いのある筆致は常州の惲向に似ており、現在の江蘇省あたりの作を思わせる。「甲午」の年紀は清・順治11年（1654）であろうか。江戸時代に日本にもたらされ、越後（新潟県）の旧家に伝来した。

6 ○名　　称　梟図 淀藩稲葉家伝来品のうち（ふくろうず よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○作 者 等　徳川家光筆
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本墨画
○員　　数　1幅
○寸 法 等　縦50.1cm、横30.0cm
○作品概要　3代将軍家光の筆と伝わる作品である。絵そのものは素人芸の域を出ないが、やはり家光筆として伝わる「枯木梟図」（久能山東照宮）とは画題・様式ともにきわめて近く、伝来からしても家光の作として問題ないと思われる。将軍のたんなる手すさびというより、威信財としての積極的な意義を有したものであろう。

＜金工＞(47 件)

7～18 ○名　　称　槍　銘△長谷部国信(やり　めい△はせべくにのぶ)　1口　ほか
○時　　代　南北朝時代～江戸時代
○品　　質　刀剣及び刀装具類
○員　　数　12件
○作品概要　兵庫県の愛刀家蒐集の刀剣類及び刀装具のコレクション。刀装具は種類・産地・作者の幅が広く、今後の展示・研究に大いに活用が見込まれる。また、特筆すべきは南北朝時代の「槍　銘△長谷部国信」で、これまで知られていた鎌倉時代の「槍　銘来国次」に次ぐ槍の古作であり、武装の発生と進化を考える上で極めて重要な作例である。

19～53 ○名　　称　脇差　無銘(わきざし　むめい)　1口　ほか
○時　　代　鎌倉時代～近代
○品　　質　刀剣及び刀装具類
○員　　数　35件
○作品概要　京都府の居合道師範蒐集の刀剣類及び刀装具のコレクション。来派・長谷部派など京都由来の刀工の作品が多く、立命館大学で近代に製作された刀剣など時代・作者の幅も広い。刀装具や刀剣文化に関係する資料も充実しており、中でも室町時代前期にかかる「黒漆太刀拵」や、江戸時代の「試刀術」の大家・山田浅右衛門家の試斬絵図巻など、貴重な作品が含まれている。

＜陶磁＞(204 件)

54 ○名　　称　華南三彩印花双魚文盤(かなんさんさいいんかそうぎょもんばん)
○時　　代　江戸時代
○品　　質　陶器

○員　　数　1枚
○寸 法 等　口径30.1cm×30.2cm、高台径17.3cm×17.7cm、高5.1cm
○作品概要　川に泳ぐ二匹の魚と川海老、水草などを線刻と彩色によって表現した皿である。口縁部を輪花状に成形し、白色の素地の上に緑色を基調として、黄色と紫色の釉薬を掛けて彩色を施している。中国・明代に華南地域で焼かれた鉛釉陶器を日本国内において写して焼いた皿と思われるが、中国産の可能性を含め、産地や年代などについて今後検討を要する。

55　○名　　称　青白磁刻花文香合(せいはくじこっかもんこうごう)
○時　　代　清時代（19 世紀）以降
○品　　質　磁器
○員　　数　1合
○寸 法 等　口径5.7cm×6.0cm、胴径7.1cm、底径4.5cm、高5.3cm
○作品概要　甲の部分に枝梅、その周りに牡丹唐草文を型押し成形で表現した香合である。中国・宋代から元代にかけ、江西省の景徳鎮窯を中心に焼かれたやや青味を帯びた白磁を、清時代以降に景徳鎮窯周辺で写して焼いたものと思われる。詳細な年代等については、今後検討を要する。

56　○名　　称　亀香合　(かめこうごう)
○作 者 等　樂吉左衛門作
○時　　代　明治時代～昭和時代
○品　　質　陶器
○員　　数　1合
○寸 法 等　口径7.2cm×5.2cm、胴径7.1×9.2cm、底径5.7cm×3.8cm、高6.0cm
○作品概要　楽焼の亀形香合である。中国・華南地域で焼かれた交趾焼と呼ばれる三彩陶器の香合を楽焼で写して焼いたものである。型押し成形で作られており、蓋裏には丸枠印に「樂」と書かれた印が捺されている。楽家で焼かれたものと思われるが、詳細について今後検討を要する。

57～257　○名　　称　瀬戸一重口水指　銘谷陰(せとひとえぐちみずさし　めいたにかげ)ほか
○時　　代　明時代、清時代、朝鮮時代（17 世紀）、古墳時代、奈良時代、江戸時代～明治時代（17～19 世紀）
○品　　質　陶器、磁器、須恵器、玉器、ガラス
○員　　数　201件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「瀬戸一重口水指　銘谷陰」、「伊賀耳付花入」、「三島平茶碗」、「刷毛目茶碗」などの茶道具を中心に、「金彩交趾釉葉形鉢　高橋道八作」、「染付山水文徳利・染付菊梅図猪口 尾形周平作」、「染付祥瑞文盃台　貝塚焼 」などといった京焼や関西の諸窯の作品を含む陶磁器の品、そして、「青花百寿文字鉢 」「青花唐花唐草文福寿文字鉢 」をはじめとした清朝陶磁など 201 件。

＜漆工＞(132 件)

258～384　○名　　称　鳳凰蒔絵笙　（ほうおうまきえしょう）ほか
○時　　代　江戸～昭和時代（17～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵／螺鈿／漆絵／箔絵／沈金、あるいは竹製など
○員　　数　127件
○作品概要　大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、蒔絵の楽器や化粧箪笥のほか、永田友治や長野横笛らによる蒔絵の重箱、椀、盃、盃台、提重、数十人前の膳椀具一式など、幕末から明治にかけて活躍した関西圏の豪商の暮らしぶりを伝える漆工品および木竹工品。

385　○名　　称　蓮唐草蒔絵巾着形合子　(はすからくさまきえきんちゃくがたごうす)
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代～明治時代（19 世紀）
○品　　質　乾漆または紙胎、漆塗、蒔絵
○員　　数　1 合
○寸 法 等　幅7.35cm、奥行き7.48cm、高4.22cm
○作品概要　薄造りな乾漆または紙胎で巾着形を象った印籠蓋造の合子。表面に微細な蒔絵で巾着に根付けをぶら下げた様子を表す。蓋裏に近代フランスの美術商のシールが貼られており、一度、19 世紀パリへ売られていった品が里帰りしたとわかる。南蛮漆器同様、欧米で人気を博した小箱類は、浮世絵の場合と同じように日本にあまり残っていない。本品は、近代ヨーロッパにおける蒔絵の需要を物語る好例である。

386　○名　　称　楓蒔絵皷箱　(かえでまきえつづみばこ)
○作 者 等　不詳
○時　　代　明治～大正時代（19～20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、蒔絵、内布張り
○員　　数　1 合
○寸 法 等　縦30.0cm、横25.2cm、高27.5cm
○作品概要　木製、長方形、唐戸面取を施した印籠蓋造の箱。黒地に金銀の研出蒔絵や朱金の技法で琳派風の楓を描く。明治時代末から大正時代ごろの琳派復興の流行に合わせて作られた品と思われる。内部に雲に麒麟文様の金襴を張っており、プロポーションからも鼓箱であろう。当時は能楽の復興期でもあり、豪商たちのあいだで能楽を嗜む者も増えていた。残念ながら鼓は入っていないが、時代の流行をよく反映した遺品である。

387　○名　　称　楼閣人物堆錦八角盆および唐子堆錦香合　(ろうかくじんぶつついきんはっかくぼんおよびからこついきんこうごう)
○作 者 等　不詳
○時　　代　明治～大正時代または清時代（20 世紀）
○品　　質　木製、漆塗、堆朱、堆黄、堆錦
○員　　数　1 括
○寸 法 等　盆：径28.7cm、高2.7cm
香合：径7.6cm、高2.4cm
○作品概要　八角形で外周を垂直とし、内周を緩やかに立ち上がる縁として、底裏に太い畳付きを巡らせた盆と、円形、甲盛、印籠蓋造の合子。はじめに黄漆を厚く塗って雲紋や波紋を彫り、その上に楼閣や八仙や唐子を彫った堆朱片を張ったような、特異な技法の品。近代日本の彫漆である可能性があり、今後の研究の好材料となるであろう品である。

388　○名　　称　裏白笹蒔絵香盆　淀藩稲葉家伝来品のうち　(うらじろささまきえこうぼん　よどはんいなばけでんらいひんのうち)
○作 者 等　不詳
○時　　代　江戸時代（17～18 世紀）
○品　　質　木製、蒔絵
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦13.5cm、横21.0cm、高さ2.4cm
○作品概要　長方形で縁をつけ、四つ足をつけた小型の盆。木地に金銀の薄肉高蒔絵で、雲間の月や岩に裏白などの植物を表し、口縁を金地とする。香道具を乗せて用いる香盆である。淀藩稲葉家の子孫から家伝の品を寄贈されたものであり、大名家の奥向きの道具として素性のはっきりした品である。

389　○名　　称　道中箸盃　淀藩稲葉家伝来品のうち　(どうちゅうばしさかずき　よどはんいなばけでんらいひんのうち)
○作 者 等　不詳

○時　　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　　質　乾漆、漆箔、竹製、漆塗、象牙、絹
○員　　数　1 具
○寸 法 等　【盃】径5.2cm、高さ2.5cm【箸入れの筒】縦2.3cm、横1.8cm、長さ16.6cm
○作品概要　乾漆製の小型の椀の内を漆箔とした杯と、象牙製の蓋をつけた竹筒に納められた竹製で片面だけ黒漆を塗った箸三膳。煙管筒と煙草入れのように、箸筒に絹で編んだ網を繋いでそこに杯を納める携帯用の飲食器である。淀藩稲葉家の伝来品であり、単なる行楽用の品ということではなく、参勤交代の道中を楽しむための食器であったかもしれない。

＜染織＞(3件)

390 ○名　　称　衣裳類　淀藩稲葉家伝来品のうち　（いしょうるい　よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○時　　代　江戸時代　17～19 世紀
○品　　質　絹（染、刺繍など）、革
○員　　数　1 括
○作品概要　淀藩主稲葉家に伝来した女性の衣裳（小袖裂、打掛、振袖、帯）6 種と、男性の衣裳（陣羽織）1 種。小袖裂は稲葉家の出身である春日局着用との包紙を伴い、江戸時代前期の作例として極めて重要である。そのほかの女性の衣裳は着用者名までは判明していないが、江戸時代後期に用いた品が中心である。当館は当該時期の武家女性の服飾を相当数所蔵しているが、伝来が判明する作例は僅かであり、本衣裳類は基準となる作例である。

391 ○名　　称　髪飾り類　淀藩稲葉家伝来品のうち　（かみかざりるい　よどはんいなばけでんらいひんのうち）
○作 者 等
○時　　代　江戸時代　19～20 世紀
○品　　質　鼈甲、銀など
○員　　数　1 括
○寸 法 等
○作品概要　淀藩主稲葉家に伝来した女性の髪飾り、37種。所用者は判明していないが、幕末に用いた儀礼用の大ぶりな鼈甲製のもの加え、明治時代に入って用いた普段使いの小ぶりな品を含む。使用階層がはっきりした髪飾り類として、基準となる作例である。

392 ○名　　称　鞋　花唐草文様刺繍　（あい　はなからくさもんようししゅう）
○時　　代　清時代　19～20 世紀
○品　　質　木綿（刺繍）
○員　　数　1 足
○寸 法 等　長14.5cm　幅5.0cm
○作品概要　中国・清時代の女性が着用した鞋（靴）。当時の中国では小さい足の女性を尊び、足を大きくさせない纏足の風習があった。そのため、この鞋は、たいへん小ぶりな寸法で製作されている。爪先を黒地の天鵞絨でくるみ、それ以外の部分は白木綿地に絹糸で花唐草の刺繍を施した生地で覆う。鮮やかな刺繍糸は化学染料の色調を呈しており、製作年代は近代であろう。裏地は革貼り。

＜考古＞(5件)

393 ○名　　称　金環（きんかん）
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 3.2 ㎝、横 3.5 ㎝
○作品概要　古墳時代後期に流行した C 字形の耳環。出土地は不明。鍍金が厚くて鮮やかである。

394○名　　称　金環（きんかん）
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 3.0 ㎝、横 3.3 ㎝
○作品概要　古墳時代後期に流行した C 字形の耳環。出土地は不明。鍍金は剥落。

395 ○名　　称　単鳳環頭大刀柄頭(たんほうかんとうたちつかがしら)
○時　　代　古墳時代(6 世紀)
○品　　質　銅鍍金
○員　　数　1 個
○寸 法 等　縦 7.5 ㎝、横 6.1 ㎝
○作品概要　古墳時代後期の装飾付大刀の柄頭。出土地不明。環内に一羽の鳳凰の頭部を表現するもの。鍍金の状態も良好で展示効果が高い遺物である。

396 ○名　　称　百万塔(ひゃくまんとう)
○時　　代　奈良時代(8 世紀)
○品　　質　木製
○員　　数　1 基
○寸 法 等　現高 13.3 ㎝、底径 10.5 ㎝
○作品概要　奈良時代に百万基作られたとされる木造百万塔。相輪と陀羅尼経が失われていることに加え三層目の笠部に欠損がある。表面の白土もほぼ剥落している。底面にはロクロの爪痕が残るが墨書などはない。研究用資料。

397 ○名　　称　陶質土器　高坏(とうしつどき　たかつき)
○時　　代　古新羅時代(6 世紀)
○品　　質　陶質
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 5.8 ㎝、径 9.8 ㎝
○作品概要　坏部下面に「慶州」の朱書きがある。韓国慶尚北道慶州で出土した古新羅時代の高坏とすることができる。同地の古墳からはーか所で数百から千個もの陶質土器が出土するのでこれもそのひとつ。日本の須恵器高坏と並列展示して違いを理解するに相応しい。

＜歴史資料＞(8件)

398 ○名　　称　引伸機　フォコマートⅠ型
○時　　代　1930 年代
○員　　数　1 式
○寸 法 等　L515㎜×W400㎜×H670㎜(1000)　支柱：600㎜

○作品概要　・引伸機・・・ドイツ　エルンスト・ライツ社（現ライカ）。自動焦点引伸機。レンズなし。本体は黒塗金属製、白文字で「E.LEUTZ WETZLAR GERMANY」を表記。シリアルナンバーなし。台座は木製。台座にイーゼルマスク用の溝あり。35mm フィルム用
・イーゼルマスク・・・台座は木製。台面に印画紙の角当てが上・左側につく。マスクは金属製。縦側 3－22cm. 横側 4－27cm までの表記あり。MSAK STANDERI の表記あり
・イーゼルマスク固定金具・・・黒塗金属製。フォコマートⅠ型台座の溝部分に填め込みイーゼルマスクを固定する

399 ○名　称　引伸機　スターライコンⅡ型
○時　代　1900 年代中期
○員　数　1 台
○寸 法 等　L473mm×W392mm×H880mm(1220)　支柱：810mm
○作品概要　日本　上田写真機店（大阪心斎橋）。本体は黒塗金属製。赤バッジで「REGISTERED ☆ TRADE MARK　STAR-LEICON UNIVERSAL ENLARGER MOD.Ⅱ MADE IN JAPAN」表記。台座は木製。台座は将棋の駒型で、イーゼルマスク用の溝あり。ロールフィルムのブローニー判、及び、ガラス乾板の名刺判（60*84mm）用引伸機。表記には、会社名は書かれてないが、1937 年（昭和 12 年）に発行された「コンタックスの使い方」　著者：田頭良介　発行所：アルス　に、スターライコンⅠ型が大阪の上田写真機店より発売されている記載がある。

400 ○名　称　カメラ　No.3A オートグラフィック コダックスペシャル　モデル B
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 式
○寸 法 等　収納：L120mm×W48mm×H240mm　組立：L120mm×W210mm×H240mm
○作品概要　アメリカ　イーストマン・コダック社。フォールディングカメラ。黒革張。折り畳み式蛇腹。ファインダー付。蛇腹引出部にシリアル No.16112。サイド社名表基板にシリアル No.13662。1914-1937 年にかけて制作された。ガラス乾板、とロールフィルムの両方が撮影できる蛇腹折りたたみ式カメラ。写真のイメージ枠は、現在のブローニー判 120 フィルムよりも大きい、122 フィルムを使い、80*140mm の画像が撮れる。ガラス乾板は付属のガラス乾板フォルダを使用し、85*135mm 枠と、変換用枠を取り付けて、手札判（80*105mm）、名刺判（55*80mm）の撮影ができる。本来、レンズは交換式ではなく、固定されているはずだが、背面より確認すると、無理矢理外されたような痕跡があり、本来であれば、518 コッダクアナスティグマット　F6.3　170mm のレンズがついたのではないかと推測される。

401 ○名　称　カメラ　カーバイン
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 台
○寸 法 等　収納：L155mm×W55mm×H27mm　組立：L155mm×W252mm×H270mm
○作品概要　フォールディングカメラ。黒革張。折り畳み式蛇腹。Carbine の標記のみ。距離計、ファインダー付き。ロールフィルムの 127 フィルム、キャビネ判（115*158mm）の撮影ができる。制作会社の表記は見当たらないが、イギリス　ホートンブッチャー&サンズ社が、カーバインシリーズを出しており、このシリーズの一つと思われる。ガラス乾板と兼用と思われるが、フォルダは見つかっていない。レンズは本体固定と思われるが、欠失している。

402 ○名　称　引伸機
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 台
○寸 法 等　L490mm(最長 1000)×W260mm×H400mm
○作品概要　壁面投影式引伸機。本体は木製。幻灯部は黒塗り金属製。構造は幻灯部・蛇腹・コンデンサーレンズ・ネガキャリア・蛇腹・レンズ。幻灯部は赤窓あり。電球台は上下・前後移動可能。煙突部分は取り外し可能。幻灯部の中を覗ける。コンデンサレンズにヒビあり。ガラス乾板専用の引伸機、ネガキャリアは、手札判（80*105mm）、180 度回転が可能。これにより、画像の縦横を変更できる。製造所名、及び、名称は全く記載なし。壁面に貼り付けた印画紙に向けて投影し、画像を拡大する。制作年代は不明であるが、514・515 の引伸機より構造は古い。

403 ○名　称　レンズ
○時　代　1900 年代初期
○員　数　1 括
○作品概要　・ウォレンサック　ヴェリート F4　7　1/4　in・・・アメリカ　ウォレンサック社。バレルレンズ（シャッター、及び、ヘリコイドを持たない「鏡胴だけ」のレンズのこと）。絞り F4-F45。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル No.13024 であり、バレルレンズと呼ばれる。絞りは F4-F45 まである。焦点距離　7　4 分の 1　インチ（180mm レンズに相当）。ヴェリートとは、ウォレンサック社が作った、故意にレンズ収差を残し、ピントが合った像が軟かいものとなるように設計されている写真レンズ。ポートレートに使われるレンズである。517 の引伸機とレンズマウントのピッチが合う。鏡胴内にかびあり。
・カール ツアイス イエナ　テッサー F4.5 18cm・・・ドイツ　カールツアイス社。バレルレンズ。絞り F4.5-F50。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル No.：643948。シリアル No.より、1925 年制作と思われる。鏡胴内にかびあり。
・コッダク　アナスティグマット　F6.3　170mm・・・アメリカ　イーストマン・コダック社。ねじ込み式マウント（スクリューマウント）。シリアル NO.18512。シャッター、ILEX　ACME　B.2～1/30、シリアル No.16794。アナスティグマットは、レンズの収差を補正したレンズのこと。非点収差（縦線横線のピントのずれ）と像面湾曲（中心ではシャープな像が見えるのに対し、周辺ではぼけた像になる。）を補正したレンズ。鏡胴内にカビあり。シャッターの羽は動くがシャッターは切れないカメラ　No.3A オートグラフィック コダックスペシャルについていたものと推測される。
・ボシュロム　ラピッド　レクチリニアー・・・アメリカ　ボシュロム社のレンズ。バレルレンズ。ねじ穴 3 カ所あり。絞りはなく、完全に鏡胴のみのレンズ。ラピッド　レクチリニアーとは、球面収差(樽型・糸巻き型）を補正したレンズ。鏡胴内にかびあり。

404 ○名　称　竹製遠眼鏡　大　岩橋善兵衛作(たけせいえんがんきょう　だい　いわはしぜんべえさく）
○時　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　質　竹、銅、紙、漆、ガラス
○員　数　1 本
○寸 法 等　径 8.8cm、長 242.4cm
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、貝塚の魚屋に生まれた岩橋善兵衛（1756～1811）が製作した大型の望遠鏡。岸和田藩主から譲り受け、廻船問屋であった旧家で、船が帰ってくるのを見るのに使ったものという。6 つの節のある大型の竹筒の節を穿ち、両端にレンズを固定した曲げもの製の筒を填めるが、先端のレンズは欠失している。(別のレンズ一枚が附属する)。竹筒の先端には「岩橋」の焼印がある。舶来品を観察してレンズ磨きの技術を学んだ善兵衛の望遠鏡は評判となり、日本各地の大名や天文学者たちに用いられた。

405 ○名　称　竹製遠眼鏡　小　岩橋善兵衛作(たけせいえんがんきょう　しょう　いわはしぜんべえさく）
○時　代　江戸時代（18～19 世紀）
○品　質　竹、籐、紙、漆、ガラス
○員　数　1 本
○寸 法 等　径 5.6cm、長 82.7cm
○作品概要　大阪の旧家に伝わった文化財から、貝塚の魚屋に生まれた岩橋善兵衛（1756～1811）が製作した携帯用の望遠鏡。2 つの節のある 2 尺ほどの竹筒の節を穿ち、両端に杉製の曲物の筒にレンズを填めた機構をとりつけたもの。両端に黒塗りの蓋が附属する。レンズは一枚のみが現存し、もう一枚は平滑なガラスが填まっているため、現状では対象が小さく見えてしまうが、江戸時代後期に一世を風靡した元祖和製望遠鏡の実例として貴重である。

【奈良国立博物館】（計６件）

(1)購入（４件）

＜絵画＞**(3 件)**

1　○名　　称　絹本著色春日社寺曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがしゃじまんだら）
　　○時　　代　鎌倉時代　14 世紀
　　○品　　質　絹本著色　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 78.8 ㎝　横 31.9 ㎝　　表具　縦 161.1 ㎝　横 46.5 ㎝
　　○作品概要　春日社の景観と興福寺の主要堂塔安置の諸尊を一図に配した春日社寺曼荼羅の新出作品。鎌倉時代後期の春日宮曼荼羅の定型を踏襲しつつも、春日社景中には例を見ない小社を一の鳥居の先に描くなど希有な特徴をもつ。興福寺諸尊は台座や光背まで精緻に描かれており、現存しない像の詳細まで知られる点でも貴重な作品である。

2　○名　　称　紙本墨画帝釈天図像（しほんぼくがたいしゃくてんずぞう）
　　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　○品　　質　紙本墨画　掛幅装
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙　縦 92.1 ㎝　横 49.3 ㎝
　　○作品概要　立像の帝釈天を描く白描図像。墨書により本品は醍醐寺三宝院に伝来した珍海（1091～1152）筆様の十二天図像の一つと分かる。また鎌倉時代の図像収集家として知られる玄証の集めた図像の一つとも判明する。本品は反町家旧蔵の帝釈天図像（重要文化財、東京国立博物館蔵）と祖本を同じくする作品とみられ、日本初現期の十二天図像の一部として密教絵画史上きわめて重要な作品に数えられる。

3　○名　　称　紙本著色十巻抄（経法）（しほんちゃくしょくじっかんしょう〔きょうほう〕）
　　○時　　代　鎌倉時代　13 世紀
　　○品　　質　紙本着色　巻子装
　　○員　　数　1 巻
　　○寸 法 等　本紙　縦 30.2 ㎝　長 815.5 ㎝　　表紙　縦 30.2 ㎝　横 22.4 ㎝　　軸付紙　縦 30.2 ㎝　長 16.5 ㎝
　　○作品概要　「十巻抄」は平安時代末期に編纂された日本最古の図像集で、原本は伝わらず鎌倉時代の写本が伝存する。本品はその写本の一つであり、東寺観智院に伝来したもの。全 10 巻のうち巻第２は既に当館の蔵品となっており、他に帝塚山大学博物館や米ハーバード大学美術館の所蔵巻も知られている。本品の図像は堅実な作風をみせ、由緒の明らかな鎌倉時代の写本として貴重な作品である。

＜漆工＞**(1 件)**

4　○名　　称　木製転法輪筒（もくせいてんぽうりんつつ）
　　○時　　代　平安～鎌倉時代（12 世紀）
　　○品　　質　木製　墨画　表面に淡彩
　　○員　　数　1 合
　　○寸 法 等　総高 23.6 ㎝　蓋径 5.8 ㎝　身底径 5.3 ㎝
　　○作品概要　転法輪法という修法に使われる木製の円筒。転法輪法は怨敵退散や国家安穏、安産などを祈願する仏教修法で、空海所伝、東密の秘法と伝えられてきた。本品は筒表に 16 体の尊像を墨線で表し、蓋表と底裏には輪宝を彫刻し 10 字の梵字を墨書している。先行研究によれば、本品は勧修寺で作られたものを明恵（1173～1232）が受領して高山寺に伝えた２合のうちの一つという。当時の秘法に関わる極めて貴重な遺品。

(1)寄贈(2 件)

＜染織＞**(1 件)**

5　○名　　称　錦幡　模造（きんばん　もぞう）
　　○時　　代　現代　平成 25～26 年（2013～14）
　　○品　　質　絹製　化学染料　金具は金銅
　　○員　　数　2 旒
　　○寸 法 等　(1)全長 91.5 ㎝　幡頭幅 38.0 ㎝　幡身幅 25.2 ㎝、　(2)全長 90.7 ㎝　幡頭幅 38.0 ㎝　幡身幅 24.8 ㎝
　　○作品概要　滋賀・兵主大社旧蔵の錦幡（当館所蔵）の復元模造品。宗教法人兵主神社が原品調査を行い、（公財）朝日新聞文化財団文化財保護助成を得て製作したもの。舌や幡手の省略や、金具文様の違いなど原品と異なる点があるものの、当初の原品の姿をうかがい知る上で貴重な資料になりうる品である。

＜漆工＞**(1 件)**

6　○名　　称　紅牙撥鏤尺　模造　附　撥鏤制作過程資料　村松親月　作
　　（こうげばちるのしゃく　もぞう　つけたり　ばちるせいさくかていしりょう　むらまつしんげつ　さく）
　　○時　　代　現代　平成 27 年（2015）
　　○品　　質　象牙製（アフリカ象）　染色（インド茜、臙脂）
　　○員　　数　1 枚、　資料 1 式
　　○寸 法 等　縦 29.8 ㎝　横 2.5 ㎝　厚 0.7 ㎝
　　○作品概要　正倉院北倉に伝わる紅牙撥鏤尺の模造品。その制作過程に関する染料類の資料が附属する。作者の村松親月氏（1934～）は正倉院の象牙作品を中心に多くの復元作品がある。氏は紅牙撥鏤尺の紅色を、茜と臙脂を重ねて染めたものと推定し、実験を重ねてきた。本品はその成果であり、撥鏤の制作過程の解明に資する資料として高い価値を有する。

【九州国立博物館】（計 13 件）

（1）購入（5 件）

＜絵画＞（2 件）

1　○名　　称　絹本著色阿弥陀三尊像（けんぽんちゃくしょくあみださんぞんぞう）
　　○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
　　○品　　質　絹本著色
　　○員　　数　1 幅
　　○寸 法 等　本紙：縦 90.0cm　横 52.6cm　表具：縦 195.0cm　横 74.2cm　軸長 80.3cm
　　○作品概要　阿弥陀如来とその脇侍である観音菩薩、勢至菩薩を描いた南宋時代の作例。画面中の銘文によって南宋時代の画家・張思恭筆と判明する京都・禅林寺および京都・蘆山寺の「阿弥陀三尊像」との画風の親近性が認められることから、本図も銘文等はないものの張思恭あるいはその工房で描かれた可能性がきわめて高い。なお、左手に水瓶をのせるという阿弥陀の印相はほかに類例がなく、際立った特徴といえる。
　　本図と直接的な関係を示す日本の作例は見いだせないが、典型的な南宋絵画の様式を示す本図は、鎌倉時代の絵画や彫刻に多大な影響を与えた

宋画の具体的な作例としてその価値はきわめて高い。また、日本において南宋画家として高く評価されてきた張思恭の様式を知る上でも大きな意義をもつ。

2　○名　　称　紙本著色伊勢物語図色紙　第七段　かへる波　俵屋宗達筆（しほんちゃくしょくいせものがたりずしきし　だいななだん　かえるなみ　たわらやそうたつひつ）
○作 者 等　俵屋宗達
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本著色・掛軸装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 24.8cm　横 21.0cm　表具：縦 141.8cm　横 43.7cm　軸長 48.5cm
○作品概要　『伊勢物語』第七段「かへる浪」を主題とする作品である。京に居づらくなった主人公の男が東へ旅立つが、伊勢と尾張の境の海辺に到ったところで、寄せては返す波を羨む和歌を詠んだという短編を画題とする。画中には狩衣姿の主人公が縁側に座って海を眺める姿を描き、画面右上の金地に和歌を書写する。群青・緑青等で彩色を施し、金銀泥の細い筆線で文様を表わすなど、非常に丁寧な描きぶりを特徴とする。俵屋宗達およびその工房による「伊勢物語図色紙」（現存59枚）のなかでも、特に描写の秀でた作例の一つに数えられる。なお、本色紙の旧肌裏紙には、表と同じ和歌と、段の数字（「七」）、詞書筆者（「高辻侍従殿」）を記した墨書が確認できる。

＜書跡＞（1 件）
3　○名　　称　紙本揚摸王羲之尺牘（妹至帖）（しほんとうもおうぎしせきとく（まいしじょう））
○時　　代　（揚摸）中国・唐時代・7～8 世紀　（原跡）中国・東晋時代・4 世紀
○品　　質　紙本揚摸・掛幅装
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 25.3cm　横 5.3cm　表具：縦 136.0cm　横 34.9cm　軸長 39.0cm
○作品概要　4 世紀・中国東晋時代の貴族・王羲之は、漢字の各書体・各書法に兼ね通じた能書で、後世「書聖」と尊崇される。その書は、漢字文化圏における書法の王道とされ、毛筆学習の正統的手本として文化史的に価値が高い。こんにち、王羲之の肉筆は世界に 1 件も存在せず、臨書や拓本などの複製のみで伝わるが、なかでも本作品は、中国唐時代の双鉤填墨という方法による最高品質の歴史的複製である。この双鉤填墨による王羲之の書は、世界に 10 件程度と希少で、うち 4 件がわが国に伝存する。
王羲之の書は中国歴代王朝が収集につとめ、わが国には遣唐使によって精巧な複製が将来され、以後の日本書道史に多大な影響を及ぼした。本作品は、王羲之が病弱な妹のことを心配して主に草書で書いた手紙の一節で、散見される丸みのある字姿は、平安時代中期の和様書法の原風景としても意義深い。日中の書の架け橋を象徴する名品である。

＜陶磁＞（1 件）
4　○名　　称　色絵唐花福寿文反皿（いろえからはなふくじゅもんそりざら）
○作 者 等　伊万里（有田）・柿右衛門窯
○時　　代　江戸時代・元禄 12 年(1699)
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 2.4cm　口径 16.5cm　高台径 11.0cm
○作品概要　型打成形により、見込から口縁を高めに折り返し幅広の鐔縁状とし、さらに端部を平らとする。見込中央を白く残し、それを囲むように口縁部にかけて呉須で如意雲文形と唐花文形の窓枠を交互に三つずつ設ける。如意雲形の窓の内側には桃形の窓枠を配し、赤色の輪郭線と白抜きで「壽」字を表し、唐花形の窓枠の内側には木瓜形の窓枠を描き、赤線と金色の上絵具で「福」字を記す。肥前（現佐賀県）・有田の柿右衛門窯が製作した「元禄柿」と呼ばれる色絵磁器の皿。「元禄柿」には、元禄六年・八年・十二年銘の作品があり、本作品は高台に「元禄十二年　柿」銘がある。金襴手様式の成立を示す、伊万里焼の研究上重要な基準作品である。説田家旧蔵品。

＜染織＞（1 件）
5　○名　　称　茜地獅子唐草文更紗茶具敷（あかねじしからくさもんさらさちゃぐしき）
○作 者 等　布地：インド　仕立て：日本
○時　　代　布地：（表地：18 世紀/裏地：17～18 世紀前半）　仕立て：江戸～明治時代・19 世紀～20 世紀
○品　　質　[表]茜地獅子唐草文更紗、木綿単糸平織。　[裏]黄地縞織、経糸絹・緯糸木綿交織、平織。
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　縦 177.0cm　横 125.4cm
○作品概要　茜地獅子唐草文の更紗を表に、裏には黄地縞織を添わせ絹糸で縁取り縫いした敷物。表地は「獅子手」と称されるインド更紗で、獅子、蓮華唐草文を布一面に手描きし、獅子文には紫と薄紅、蓮華文には浅葱と茜色を交互に染め、唐草文は蠟防染で白く染め貫く。裏地に添えられた縞織物は「かぴたん」と称される経絹、緯木綿の交織縞織物で 4 枚をはぎ合わせている。

（2）寄贈（8 件）
＜絵画＞（1 件）
1　○名　　称　紙本金地著色鞨鼓催花図　六曲屏風（しほんきんじちゃくしょくかっこさいかくず　ろっきょくびょうぶ）
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　紙本金地著色・屏風装
○員　　数　1 隻
○寸 法 等　本紙：縦 136.0cm　横 280.4cm　折畳時：縦 136.0cm　幅 48.2cm　厚 11.0cm
○作品概要　本図は、晩唐・南卓の『羯鼓録』の冒頭―羯鼓の名手であった唐の玄宗が羯鼓を打ち鳴らすと、その妙音で諸花が一斉に花開いたという逸話―を主題とする中屏風である。画面右側の楼台に羯鼓を叩く玄宗を、画面左にその様子を対面の楼閣から眺める楊貴妃や女官たちを描く。
このような「羯鼓催花図」の典型的な構図や図様を踏まえながら、本図には、海棠、椿、柳、紅葉、雪山など四季の表現が混ざり、風俗的要素を強めた玄宗絵である。本図には落款・印章がないが、総じて表現は手堅く、描写も丁寧である。細く柔らかな枝振りの花木は長谷川派に似通うが、岩の皺や松の樹皮には独特の筆数の多さがみられ、筆者についてはなお検討を要する。

＜書跡＞（2 件）
2　○名　　称　紙本墨書朱舜水追悼文稿　安東省庵筆（しほんぼくしょしゅしゅんすいついとうぶんこう　あんどうせいあんひつ）
○作 者 等　安東省庵(1622～1701)筆
○時　　代　江戸時代・天和 2 年(1682)
○品　　質　紙本墨書・巻子装・軸首竹製
○員　　数　1 巻
○寸 法 等　本紙：縦 26.3cm　横 160.0cm（第 1 紙 90.0cm　第 2 紙 70.0cm）　表具：縦 26.3cm　横 187.4cm　軸長 28.4cm
○作品概要　朱舜水(1600-82)は中国・明朝末期の儒学者。万治 3 年(1660)日本に亡命し、長崎に滞在したのち水戸藩主・徳川光圀の招聘を受け、寛文 5 年(1665)江戸に向かった。同藩では光圀の賓師として厚遇され、礼法・学制・農法などを指導した。安東省庵は筑後柳川藩の儒学者。朱舜水を師と仰ぎ、その人格と学問を慕い深く交流した。舜水が江戸に赴いた後二人が再会することはなかったが、互いの交流は続いた。本作品は、天和 2 年 7 月に朱舜水の訃報に接した安東省庵による舜水追悼文の自筆草稿。省庵作の舜水追悼文は早くから刊行されるが、それらと校合すると全文の 8 割以上が遺存し、内容には省庵による推敲の跡を示す刊本との異同も一部に確認できる。

3　○名　　称　彩箋墨書古今和歌集巻第一断簡（関戸本）　伝藤原行成筆（さいせんぼくしょこきんわかしゅうまきだいいちだんか（せきどぼん）　でんふじ

わらのゆきなりひつ）
○作 者 等　伝藤原行成(972～1027)筆
○時　　代　平安時代・11 世紀
○品　　質　彩箋墨書
○員　　数　1 幅
○寸 法 等　本紙：縦 20.9cm　横 17.3cm　表具：縦 139.0cm　横 40.8cm　軸長 45.4cm
○作品概要　「古今和歌集（関戸本）」は、加賀藩主前田家に伝わった『古今和歌集』の写本の 1 つ。平安中期、仮名の字姿や用筆がもっとも洗練された 11 世紀の筆になり、伝承筆者の藤原行成の没年よりも下る時代の成立とされる。「古今和歌集（関戸本）」は、何よりも緩急自在で流麗な筆づかいが特筆される仮名古筆の優品として知られる。線質の変化に富んだ 7～9 字に及ぶ長い連綿や、効果的な位置での墨継ぎ、それらがもたらす紙の奥行き感など、芸術性が高い。原装は、白・紫・藍・茶・黄・縹などの染紙を用いた綴葉装の冊子本で、昭和 27 年(1952)頃に分割された。本作品は、巻第一春歌上に所収される 2 首の和歌と詞書を、薄縹の染紙に 10 行にわたって書写した断簡で、戦後、掛幅装とされた。

＜金工＞（1 件）

4　○名　　称　柴垣群禽図肩衝釜（しばがきぐんきんずかたつきがま）
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　鉄製鋳造
○員　　数　1 口
○寸 法 等　総高 14.8cm　口径 11.9cm　胴径 26.7cm
○作品概要　口が低い輪口の肩衝釜。釜鐶をつけるための鐶付は、小枝を括った大小の束柴を 3 つ重ね、なだらかに鼓面をなす肩には薄肉に鋳出した梅花を散らす。胴部には細枝を竪子とした柴垣を一面に巡らし、垣根の丈を短く揃えた釜の正面には、枯れ木が垣根の前から二股に分かれて幹を伸ばす。幹には大鳥を正面に留まらせ、更に大鳥を取り囲むようにして 3 羽の小鳥を配する。胴の下端から釜底にかけてはゆるやかに湾曲し、釜底中央には円形の湯口が残る。また、釜底内には鳴鉄が複数貼り付けられており、煮沸時に松籟の音を出す工夫ともなっている。なお、本品に附属する蓋は唐金製で、6 弁花形の座金にやや縦長の鞠形の摘みを設ける。

＜陶磁＞（2 件）

5　○名　　称　白磁玉縁皿（はくじたまぶちさら）
○作 者 等　邢州窯
○時　　代　中国・唐時代・8 世紀
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 4.4cm　口径 15.4cm　底径 6.7cm
○作品概要　ロクロ成形により、幅広の畳付から直線的に立ち上がり、玉縁状の口縁を成す。胎土は白色できめが細かく、畳付を除き全体に透明釉を施す。唐時代を代表する白磁窯として名高い、中国河北省南部臨城県の邢州窯の製品。蛇の目高台で口縁を玉縁とする白磁皿は、主に 8 世紀に生産され、日本国内でも大宰府、鴻臚館、平安京等の遺跡から出土している。8 世紀の末頃より、越州窯系青磁、長沙窯の黄釉陶器と共に出土しており、これらは同時代のエジプト・フスタート遺跡やインドネシア・ブリトゥン島沖沈没船の引き揚げ資料からも類品が発見されていることから、中国の本格的な陶磁器輸出の開始を示す製品である。

6　○名　　称　柿釉麒麟雲龍文大盤（餅花手）（かきゆうきりんうんりゅうもんたいばん（もちはなで））
○作 者 等　中国・福建省・漳州窯
○時　　代　明時代末期～清時代初期・16～17 世紀
○品　　質　磁器
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　高 10.6cm　口径 41.2cm　底径 20.2cm
○作品概要　ロクロ成形により、ゆったりと丸みを帯びながら立ち上がり、さらに角度を変えて外に折れて上方へと広がり、立ち上がりのある口縁となる。柿釉を全体に施し、底部のみ拭き取る。見込には白釉で麒麟、雲、太湖石、草花などの文様を表し、見込側面には龍文と雲文を描き、口縁部には花唐草文を廻らす。高台には砂目跡がつき、見込には砂状の降りものが見られる。明末清初期の中国・福建省の漳州窯で作られた柿釉の餅花手である。漳州窯の製品は、ほかに呉須染付や呉須赤絵が知られる。日本や東南アジアなど世界各国に輸出された当時の中国の代表的な貿易陶磁器である。国内では堺環濠都市遺跡や鹿児島県坊津から出土している。

＜考古＞（1 件）

7　○名　　称　草葉文鏡（そうようもんきょう）
○作 者 等　中国
○時　　代　中国・漢時代・前 2～前 1 世紀
○品　　質　青銅鋳造
○員　　数　1 面
○寸 法 等　径 14.0cm
○作品概要　草葉文鏡は前漢武帝期(在位前 141-前 87)から流行する鏡であり、前漢文化の指標となるものである。白銅質の青銅鏡で、欠損がなく、銘文を完備し、鏡背面の鋳上がりも良好である。鏡背面の中央に半球形の鈕と四葉座を配し、二重の方形区画で構成される内区には吉祥銘「見日之光長毋相忘」を時計回りに陽鋳する。外区には上下左右に乳を配し、それぞれの両側に草葉文をおく。草葉文はいわゆる稲穂形で、二段構えで上端にむけて内傾する。鏡縁は平縁で、16 連弧文とする。草葉文鏡としては中型品に属し、14.0cm という面径は前漢の標準尺度でいえば五寸（13.58cm）に相当する。

＜歴史資料＞（1 件）

8　○名　　称　朝鮮三国時代拓本（ちょうせんさんごくじだいたくほん）
○時　　代　中原高句麗碑拓本（原碑：三国時代（高句麗）・5 世紀　採拓：現代・20 世紀）
丹陽新羅赤城碑拓本（原碑：三国時代（新羅）・6 世紀　採拓：現代・20 世紀）
○品　　質　紙本墨拓
○員　　数　2 件
○寸 法 等　中原高句麗碑拓本（第 1 面：縦 156.8cm　横 66.1cm　第 2 面：縦 164.4cm　横 52.0cm　第 3 面：縦 162.1cm　横 66.1cm　第 4 面：縦 160.0cm　横 48.1cm）
丹陽新羅赤城碑拓本（本紙：縦 88.5cm　横 96.0cm　表具：縦 143.5cm　横 108.6cm）
○作品概要　中原高句麗碑拓本は、1979 年に立石集落の入口で地元住民により発見された高句麗碑の拓本である。高句麗の君主号を「太王」という美称でもってあらわし、新羅王を「寐錦」という新羅の固有語で示すとともに「東夷」を冠するなど、高句麗を主体かつ上位とし、新羅を下位においた記述方式をとる。
丹陽新羅赤城碑拓本は、1978 年に丹陽面の赤城とよばれる山城で見つかった新羅碑の拓本である。赤城あるいはその周辺で起こった事態に際し、功をあげた也尓次を讃え、その親族には恩典を施し、今後もしも国内で同様のことがあれば、その対処は本事案にならう旨を宣布する。

1-(1)-④ 寄託品一覧表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		12,056	201	1,417	3,072	55	258	6,112	91	820	1,987	54	327	885	2	12
絵画		3,429	58	440	478	13	66	2,202	30	264	590	15	107	159	0	3
書跡		1,672	66	330	395	10	30	902	41	260	317	14	37	58	1	3
彫刻		890	13	217	246	3	37	262	1	73	376	9	105	6	0	2
建築		5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工		998	13	129	133	5	18	535	2	79	237	7	31	93	0	1
刀剣		249	10	69	213	8	56				34	2	13	2	0	0
陶磁		1,200	1	7	136	0	3	776	1	3	11	0	0	277	0	1
漆工		707	13	71	98	6	15	468	4	32	108	3	23	33	0	1
染織		861	8	89	286	2	4	497	4	84	49	2	1	29	0	0
考古		922	15	38	172	4	13	427	8	15	228	2	9	95	1	1
民族資料		120	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	109	0	0
歴史資料		96	0	11	5	0	0	40	0	10	29	0	1	22	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
東洋	絵画	170	2	11	170	2	11									
	書跡	39	1	3	39	1	3									
	彫刻	31	0	0	31	0	0									
	金工	5	0	1	5	0	1									
	陶磁	129	1	0	129	1	0									
	漆工	33	0	1	33	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	486	0	0	486	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-⑤ 寄託品増減表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度			26年度	27年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		11,844	367	155	12,056	3,064	31	23	3,072	6,001	232	121	6,112	1,984	7	4	1,987	795	97	7	885
絵画		3,330	149	50	3,429	476	8	6	478	2,108	135	41	2,202	591	0	1	590	155	6	2	159
書跡		1,672	36	36	1,672	396	7	8	395	905	25	28	902	316	1	0	317	55	3	0	58
彫刻		882	15	7	890	248	0	2	246	256	9	3	262	373	5	2	376	5	1	0	6
建築		4	2	1	5	0	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	2	0	2
金工		917	98	17	998	133	0	0	133	535	16	16	535	238	0	1	237	11	82	0	93
刀剣		249	1	1	249	213	1	1	213					34	0	0	34	2	0	0	2
陶磁		1,209	20	29	1,200	137	0	1	136	779	20	23	776	11	0	0	11	282	0	5	277
漆工		693	24	10	707	99	2	3	98	455	20	7	468	107	1	0	108	32	1	0	33
染織		861	0	0	861	286	0	0	286	497	0	0	497	49	0	0	49	29	0	0	29
考古		916	8	2	922	168	4	0	172	427	2	2	427	228	0	0	228	93	2	0	95
民族資料		120	0	0	120	5	0	0	5	0	0	0	0	6	0	0	6	109	0	0	109
歴史資料		91	5	0	96	5	0	0	5	35	5	0	40	29	0	0	29	22	0	0	22
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
東洋	絵画	170	0	0	170	170	0	0	170												
	書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
	彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
	金工	5	0	0	5	5	0	0	5												
	陶磁	124	6	1	129	124	6	1	129												
	漆工	33	0	0	33	33	0	0	33												
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
	考古	487	0	1	486	487	0	1	486												
	民族	0	3	0	3	0	3	0	3												

1-(1)-⑥ 登録美術品一覧表

（単位:件）　平成28年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		26	0	1	24	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画		2	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(2) 収蔵品の管理・保存

1-(2)-① 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　平成28年3月31日現在

合計		1,432		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		558	240	634
絵画		152	4	445
書跡		40	1	2
彫刻		26	0	4
建築		0	0	0
金工		43	0	4
刀剣		18	190	2
陶磁		45	2	3
漆工		20	0	9
染織		22	12	19
考古		60	20	5
歴史資料		18	0	3
民族資料		19	5	2
和書		13	2	8
東洋	絵画	24	1	32
	書跡	16	0	0
	彫刻	2	0	0
	金工	0	0	7
	陶磁	6	2	0
	漆工	2	1	36
	染織	0	0	2
	考古	0	0	0
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		28	0	26
その他（黒田含）		4	0	25

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	102	100	91
絵画	52	40	15
書跡	15	16	1
彫刻	0	14	0
建築	0	0	0
金工	7	6	0
刀剣		1	0
陶磁	7	0	2
漆工	3	7	0
染織	2	0	6
考古	16	16	1
民族資料	0	0	1
歴史資料	0	0	5
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(2)-② 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	13～28℃	31～79%
	収蔵庫	09：30～17：00	15～27℃	23～78%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	21～27℃	47～61%
	収蔵庫	09：30～17：00	20～26℃	46～60%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	15～30℃	28～63%
	収蔵庫	09：30～17：00	10～28℃	42～70%
宝物館	展覧会場	24時間運転	18～25℃	50～71%
	収蔵庫	24時間運転	20～22℃	54～65%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館（特別展示館）	展覧会場	8：30～18：00	16～26℃	50～60%
	収蔵庫	8：30～17：30	16～26℃	50～60%
平成知新館（新平常展示館）	展覧会場	9：00～17：00	20～25℃	50～60%
	収蔵庫	9：00～17：00	18～24℃	50～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	16～26℃	50～60%
文化財保存修理所		9：00～17：30	22～24℃	57～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:30～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(3) 収蔵品の修理

1-(3)-① 本格修理件数

平成28年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		131	86 (10)	12	11	22
絵　画		25	9	3	4	9
書　跡		4	2	0	1	1
彫　刻		3	0	0	3	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		5	3	2	0	0
刀　剣		2	2	0	0	0
陶　磁		2	2	0	0	0
漆　工		2	1	1	0	0
染　織		15	2	5	2	6
考　古		24	22 (10)	0	1	1
歴史資料		4	0	1	0	3
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		7	5	0	0	2
東洋	絵　画	3	3			
	書　跡	0	0			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	2	2			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	2	2			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		25	25			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		2	2			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-⑶-② 修理概況

【東京国立博物館】（86件）

〈絵画〉（9件）

1 ○列品番号　A-56
○名　　称　牧馬図屏風(ぼくばずびょうぶ)
○指　　定　重文
○指定年月　平成17年(2005)6月9日　絵第2014号
○時　　代　安土桃山時代
○年代世紀　16c
○品　　質　紙本着色
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　156.6×342.5 ㎝
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護する。 4. 旧裏打紙、補紙を除去する。5. 欠損部に補紙を、亀裂部分に補強紙をあてる。6. 補紙に補彩を行なう。 7. 新規裏打ちを行なう。 8. 屏風下地を新調し、下地に本紙、裂、裏貼紙を貼り込む。 9. 襲木や金具を新調する。（平成26年度は2の途中まで、平成27年度は7の途中まで）

2 ○列品番号　A-9972
○名　　称　鷹見泉石像(たかみせんせきぞう)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和26年(1951)6月9日
○時　　代　江戸
○年代世紀　天保8年(1837)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦115.0　横57.2 、表具 縦190.7　横69.2 ㎝
○施工会社　㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 表装裂、軸首は可能な限り再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

3 ○列品番号　A-11180
○名　　称　山水図(さんすいず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　2幅
○寸 法 等　各119.2×55.0 ㎝
○施工会社　アソシエイトフェロー
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 欠失部に補修紙を施す。 5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。 6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。 7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。 8. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで）

4 ○列品番号　A-11182
○名　　称　林和靖図(りんなせいず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1幅
○寸 法 等　119.2×55.0 ㎝
○施工会社　アソシエイトフェロー
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 旧裏打ち紙を除去する。 4. 欠失部に補修紙を施す。 5. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せをする。 6. 補紙部分に地色合わせの補彩をする。 7. 上下裂地は新調、一文字・中廻しは再使用する。 8. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで

5 ○列品番号　A-12087
○名　　称　坪内老大人像画稿(つぼうちろうたいじんぞうがこう)
○時　　代　江戸
○年代世紀　文政元年(1818)
○品　　質　紙本墨画淡彩
○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦82.0　横74.4、表具 縦145.0　横82.5 ㎝
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部の補紙を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 補紙に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

6 ○列品番号　A-12105
○名　　称　釈迦三尊像(しゃかさんぞんぞう)
○時　　代　南北朝～室町
○年代世紀　14～15c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　135.7×60.4 ㎝
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、料絹の欠損部に補絹を行なう。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。 （平成25年度は2の途中まで、平成26年度は4の途中まで）

7 ○列品番号　A-12327
○名　　称　山水図
○指　　定　重文

○時　代　室町時代
○年代世紀　15c
○品　質　紙本墨画淡彩
○員　数　1幅
○寸 法 等　93.9 ×34.0cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度は2の途中まで、平成28年度は5の途中まで）

8　○列品番号　A-12435
○名　称　柿本人麻呂像(かきのもとのひとまろぞう)
○時　代　室町時代
○年代世紀　15c
○品　質　絹本着色
○員　数　1幅
○寸 法 等　75.4×38.3cm
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。描線のある旧補絹の除去については検討して進める。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補絹部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸は再使用して、掛幅装に仕立てる。7. 軸木、金具、紐、桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。極のみ新箱に戻す。（平成27年度は2の途中まで）

9　○列品番号　A-12439
○名　称　年中行事図屏風(ねんじゅうぎょうじずびょうぶ)
○時　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　質　紙本金地着色
○員　数　1幅
○寸 法 等　154.6 ×386cm
○施工会社　アソシエイトフェロー、国宝修理装こう師連盟関東支部
○修理内容　1. 屏風装を解体する。2. 剥落止め、表打ちを施して、旧裏打紙と旧補紙を除去する。3. 補紙を施し、肌裏打ち、増裏打ちを行なう。4. 仮張りをし、補紙に補彩を施す。5. 下地を新調、本紙、裏張紙を張り込む。6. 縁裂、尾背、縁木を新調し、屏風装に仕立てる。7. 旧裏打紙、旧下地、旧金具などを保管する保存箱を作製する。（平成27年度は5の途中まで）

〈東洋絵画〉（3件）

10　○列品番号　TA-315
○名　称　四睡図(しすいず)
○指　定　重文
○指定年月　昭和57年（1982）6月5日　絵第1830号
○時　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙77.8 ×34.3cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度は2の途中まで、平成28年度は5の途中まで）

11　○列品番号　TA-618
○名　称　放犢図(ほうとくず)
○指　定　重文
○指定年月　昭和34年(1959)6月27日　絵第1455号
○時　代　元時代
○年代世紀　14c
○品　質　絹本墨画
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙108.0×46.5 cm
○施工会社　㈱半田九清堂
○修理内容　1. 解体し、クリーニングする。2. 旧裏打紙除去、欠損部に補絹をして、新規裏打ち、折れ伏せを行ない、補絹に補彩する。3. 上下裂は新調、一文字・中廻し、軸首は再使用する。4. 太巻添軸、保存箱を新調する。（平成26年度は2の途中まで）

12　○列品番号　TA-642
○名　称　雪景山水図(せっけいさんすいず)
○指　定　国宝
○指定年月　平成19年（2007）6月8日
○時　代　南宋時代～元時代
○年代世紀　13～14c
○品　質　紙本墨画淡彩
○員　数　1幅
○寸 法 等　本紙110.3 ×49.7cm
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する。2. 裏打ちなど補強を施す。3. 表装裂、軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。4. 桐製保存箱、桐製太巻添軸、包裂、布貼帙等を新調する。（平成25・26年度は2の途中まで）

〈書跡〉（2件）

13　○列品番号　B-2936
○名　称　拾遺抄切(しゅういしょうぎれ)
○時　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　質　彩牋墨書

○員　　数　1幅
○寸 法 等　本紙 縦21.2　横12.7 ㎝
○施工会社　㈱岡墨光堂
○修理内容　1. 表装を解体する 2. 剥落止めを行なう。 3. クリーニングする。 4. 旧裏打紙を除去し、新規に裏打ちを行なう。 5. 表装裂などを新調し、軸首を再使用し、もとの形に仕立てる。6. 太巻添軸、保存箱を新調する。 （平成26年度は4の途中まで）

14 ○列品番号　B-3178
○名　　称　医心方(いしんぽう)
○指　　定　国宝
○指定年月　昭和59年（1984）6月6日　書第2399号
○時　　代　平安時代～江戸時代
○年代世紀　12c～17c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　30巻、1冊
○寸 法 等
○施工会社　保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
○修理内容　1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から平成28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）

〈金工〉（3件）

15 ○列品番号　E-15247
○名　　称　坏(つき)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　11～12c
○品　　質　陶製
○員　　数　2個
○寸 法 等　①口径10.1 高3.3　②口径9.6 高3.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失箇所を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

16 ○列品番号　E-15248
○名　　称　カワラケ(かわらけ)
○時　　代　平安時代～鎌倉時代
○年代世紀　11～14c
○品　　質　陶製
○員　　数　1括
○寸 法 等　高1.5～2.5　口径7.0～12.0　cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

17 ○列品番号　E-19840
○名　　称　梅花文印櫃(ばいかもんいんびつ)
○時　　代　昭和4年(1929)
○年代世紀
○品　　質　黒柿、銅製鍍金
○員　　数　1口
○寸 法 等　幅12.1 奥行16.5 高15.8
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 短側面の金銅板を黒柿板より取り外す。2. 黒柿板の内面を和李、形状を修正する。3. 取り外した金銅板の形状を修正する。4. 金銅鋲を復元し、欠失箇所に補填する。5. 必要に応じて金銅病の緩みを修正する。(平成27年度は3の途中まで)

〈刀剣〉（2件）

18 ○列品番号　F-15812
○名　　称　太刀　銘　恒遠(たち　めい　つねとう)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　　質　鍛鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長78.0　反2.6 ㎝
○施工会社　小野博
○修理内容　1. 全身を研磨する（下地研ぎ）。 2. 白鞘を新規製作する。3. 全身を研磨する（仕上げ研ぎ）。（平成26年度は2まで）

19 ○列品番号　F-20203
○名　　称　刀
○指　　定　重文
○時　　代　（刀身）鎌倉時代・13世紀　（刀装）江戸～明治時代・19世紀
○年代世紀
○品　　質　鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長65.0 反り2.2 柄長22.8 鞘長70.2
○施工会社　高山一之
○修理内容　1. 白鞘を作製する。2. 原品と同様の鋼を新規作製する。3。継木(つなぎ)を作製する。(平成27年度は2の途中まで)

〈陶磁〉（2件）

20 ○列品番号　G-3966
○名　　称　色絵牡丹文小皿
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　2口

○寸 法 等　①高3.5　最大径12.5　②高3.5　最大径12.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は3の途中まで）

21 ○列品番号　G-4218
○名　　称　大燈籠(だいとうろう)
○時　　代　明治時代
○年代世紀　明治41年(1908)
○品　　質　陶製
○員　　数　1基
○寸 法 等　総高130.0　基礎高14.0　竿高53.0　火袋高66.0　傘高47.0　宝珠高67.0 ㎝
○施工会社　文化財修理工房明舎
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 亀裂を補強する。 3. 欠失部に補填、補彩を行なう。 4. 補強材を設置する。5. もとの位置にある土台部分をクリーニングする。 6. もとの位置でもとの形に組み立て直す。（平成26年度は2まで、平成27年度は4まで）

〈東洋陶磁〉（2件）

22 ○列品番号　TG-346
○名　　称　緑釉温酒尊(りょくゆうおんしゅそん)
○時　　代　前漢～後漢時代
○年代世紀　前1～2世紀
○品　　質　陶製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高26.8　径22.2～22.6
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する(身のみ)。 2. クリーニングする（身・蓋）。 3. 接合する(身のみ)。 4. 欠失部分を補填、復元する（身・蓋）。 5. 補填箇所に補彩する（身・蓋）。 6. 保存箱を新調する。 （平成27年度は3の途中まで）

23 ○列品番号　TG-973
○名　　称　五彩獅子文有蓋壺(ごさいししもんゆうがいこ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　17～18c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　総高34.0 口径12.0 底径14.0（推定値）
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 接合する。 3. 欠失部分を補填、復元する。 4. 補填箇所に補彩する。 5. 保存箱（桐製、四方桟箱）を新調する。 （平成27年度は3の途中まで）

〈漆工〉（1件）

24 ○列品番号　H-3502
○名　　称　葵牡丹紋竹蒔絵女乗物(あおいぼたんもんたけまきえおんなのりもの)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　寛文4年（1664）
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1挺
○寸 法 等　駕籠　127.3×90.9×121.2　担ぎ棒　長454.5cm
○施工会社　㈱修護
○修理内容　1.（絵画）絵画面の付着物を除去し、必要に応じて表打ちなどの養生を絵画面に行なう。 2.（絵画・漆工）絵画面および金箔紙を乗物内部から取り外す。 3.（絵画）絵画面の汚れを除去し、剥落止めを行ない、旧裏打紙を除去する。また、類似した補修材を作製して欠失箇所に補填し、染色した楮紙を用いて肌裏打ちを行なう。 4.（絵画）増裏打ちを行なった後、補填箇所に補彩を施す。 5.（漆工）乗物の内外装、担ぎ棒の補修を行なう（必要に応じて金物、部材を取り外す）。 6.（絵画）乗物内部に3層程度の下貼をして下地を整え、補修を終えた絵画面および金箔紙を原状通りに貼り戻す。 7.（漆工）染織品の破損箇所を修繕し、金物および木部材を原状通りに取り付ける。 8.（絵画・漆工）木綿製のカバーを作製し、取り付ける。 （平成26年度は絵画が3の一部終了まで、漆工は5の途中まで）

〈東洋漆工〉（1件）

25 ○列品番号　TH-116
○名　　称　龍涛堆朱箪笥(りゅうとうついしゅたんす)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18c
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　幅39.1　奥行19.7　高30.3
○員　　数　1基
○施工会社　㈱小西美術工藝社
○修理内容　1. 表面全体に付着した埃や汚れを落とす。 2. 堆朱層の亀裂や浮きに漆を含浸し、接着強化をはかる。 3. 剥落している堆朱片を、本来の位置に接着する。 4. 堆朱層の欠失部は復元を行なわず、錆下地による表面の強化と色合わせにとどめる。 （平成27年度は2の途中まで）

〈染織〉（27件）

26 ○列品番号　I-337-1
○名　　称　白地朝顔文描絵布襪残欠(しろじあさがおもんかきえぬのしとうずざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、描絵
○員　　数　1枚
○寸 法 等　29.2×34.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

27 ○列品番号　I-337-4
○名　　称　淡茶地目結文綟纐平絹(うすちゃじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹

○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.3×38.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

28 ○列品番号　I-337-8
○名　　称　緑地目結文綟纐平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×28.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-9と繋がる可能性あり)。

29 ○列品番号　I-337-9
○名　　称　緑地目結文綟纐平絹(みどりじめゆいもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×30.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-8と繋がる可能性あり)。

30 ○列品番号　I-337-13
○名　　称　赤地襷文綟纐平絹幡足残欠(あかじたすきもんこうけちへいけんばんそくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　34.3×15.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

31 ○列品番号　I-337-17
○名　　称　赤地七宝繋文綟纐平絹(あかじしっぽうつなぎもんこうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.6×11.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

32 ○列品番号　I-337-18
○名　　称　青緑地花弁文纐纐平絹(あおみどりじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　27.2×17.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

33 ○列品番号　I-337-22
○名　　称　赤地目結文綟纐平絹(あかじめゆいもんこうけへいけん)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・平絹
○員　　数　1枚
○寸 法 等　7.2×16.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

34 ○列品番号　I-337-23
○名　　称　紫地目結文綟纐綾(むらさきじめゆいもんこうけちあや)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綟纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　13.2×18.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

35 ○列品番号　I-337-24
○名　　称　紺地目結文綟纐綾腰ヒ(衣へんに非)残欠(こんじめゆいもんこうけちあやようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c

○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　28.0×12.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

36 ○列品番号　I-337-25
○名　　称　暈繝纐纐綾(うんげんこうけちあや)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　2.5×24.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

37 ○列品番号　I-337-26
○名　　称　暈繝花菱文錦(うんげんはなびしもんにしき)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、錦
○員　　数　1枚
○寸 法 等　2.2×19.0
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

38 ○列品番号　I-337-27
○名　　称　紫地目結文纐纐綾垂飾残欠(むらさきじめゆいもんこうけちあやすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綴纐・綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　23.6×9.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

39 ○列品番号　I-337-28
○名　　称　紫地目結文纐纐綾垂飾残欠(むらさきじめゆいもんこうけちあやすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質
○員　　数　1枚
○寸 法 等　22.3×15.2
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

40 ○列品番号　I-337-29
○名　　称　白地花枝唐草文綾褥残欠(しろじはなえだからくさもんあやじょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、綾
○員　　数　1枚
○寸 法 等　30.2×14.9
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

41 ○列品番号　I-337-32
○名　　称　赤地円弧文纐纈布(あかじえんこもんこうけちぬの)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、纐纈
○員　　数　1枚
○寸 法 等　39.7×30.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-33と繋がる可能性あり)。

42 ○列品番号　I-337-33
○名　　称　赤地円弧文纐纈布(あかじえんこもんこうけちぬの)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　麻製、纐纈
○員　　数　1枚
○寸 法 等　40.7×29.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする(I-337-33と繋がる可能性あり)。

43 ○列品番号　I-337-36
○名　　称　赤地花弁文臈纈平絹(あかじかきもんろうけちへいけん)
○時　　代　奈良時代

○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　33.1×28.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。3. 和紙で裏打ちを行なう。4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

44 ○列品番号　I-337-55
○名　　称　淡青地草花文蘭纈平絹腰ヒ(衣へんに非)残欠(うすあおじそうかもんろうけちへいけんようひざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　39.2×13.6
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

45 ○列品番号　I-337-72
○名　　称　黄地花鳥雲文蘭纈羅(きじかちょううんもんろうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　30.8×40.8
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする(I-337-73 と繋がる可能性あり)。

46 ○列品番号　I-337-73
○名　　称　黄地花鳥雲文蘭纈羅(きじかちょううんもんろうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、蘭纈・平絹
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　30.5×40.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする(I-337-72 と繋がる可能性あり)。

47 ○列品番号　I-337-110
○名　　称　茶地花葉文夾纈羅(ちゃじかようもんきょうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　39.0×24.4
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

48 ○列品番号　I-337-112
○名　　称　淡茶地花葉文夾纈羅(うすちゃじかようもんきょうけちら)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　39.2×23.7
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

49 ○列品番号　I-337-132
○名　　称　赤地葡萄唐草文綾幡足残欠(あかじぶどうからくさもんあやばんそくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　26.9×39.3
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 汚れなどを除去する。 3. 歪んだ部分は加湿して形を整える。 4. 低加圧式ウィンドウマット装にする。

50 ○列品番号　I-337-133
○名　　称　紫地葡萄唐草文綾天蓋垂飾残欠(むらさきじぶどうからくさもんあやてんがいすいしょくざんけつ)
○時　　代　奈良時代
○年代世紀　8c
○品　　質　絹製、夾纈・羅
○員　　数　1 枚
○寸 法 等　24.0×21.5
○施工会社　澤田むつ代、三田覚之、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー
○修理内容　1. ガラスを外して裂を取り出す。 2. 糸目をそろえて形を整える。 3. 和紙で裏打ちを行なう。 4. 中性紙のウィンドウマット装にする。

51 ○列品番号　I-2061
○名　　称　小忌衣 浅葱天鷲絨地菊水模様(おみごろも　あさぎびろーどじきくすいもよう)

○時　代　江戸時代
○年代世紀　19c
○品　質　天鵞絨地に切付・刺繍
○員　数　1領
○寸 法 等　丈 156.5　裄 63.6
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. 引解（解体）にする。 2. 縫い付けによる裏打ちをする。 3. 刺繍の綴付、蛇腹状の襟の仕立て直しを行なう。 （平成27年度は1の途中まで、平成28年度は2の途中まで）

52 ○列品番号　I-4072
○名　称　小袖 白黒紅染分綸子地熨斗藤模様(こそで しろくろべにそめわけりんずじのしふじもよう)
○指　定　重文
○指定年月　昭和57年(1982)6月5日　工第2480号
○時　代　江戸時代
○年代世紀　17c
○品　質　絹製　綸子地に刺繍・絞り・摺箔
○員　数　1領
○寸 法 等　丈 140.8 裄 64.0
○施工会社　㈱松鶴堂
○修理内容　1. もとの縫い目に留意しながら解体し、表裂と裏裂を分ける。 2. 糸印や穴をつまんだ部分など、後世の使用で追加された部分については、作品に支障がない範囲で除去する。 3. 白地の部分に当てる似寄りの綸子地を新調し、横切れの箇所に地模様を合わせながら裏から綸子をあてて縫い留める。 4. 肩山の切れなど、黒紅地の部分の横切れについては、似寄りの綸子地を黒紅地に染めた後、裏から当てて縫い留める。 5. 裏地を新調し、中綿を入れて、小袖の状態に戻す。(平成26年度は2の途中まで。平成27年度は4の途中まで)

〈東洋染織〉(1件)

53 ○列品番号　TI-418-3
○名　称　コート　金茶色繻子地花唐草文様刺繍(きんちゃいろしゅすじはなからくさもんようししゅう)
○年代世紀　19c
○品　質　絹、繻子地に絹糸と金銀モール糸で刺繍
○員　数　1着
○寸 法 等　丈 88.5　肩幅 34.5　袖長 49.5 cm
○施工会社　㈱染技連
○修理内容　1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて縫いとめる。 3. 可能な箇所についてシミ抜きをする。 4. 刺繍のほつれをとめる。 5. しわをのばす。 6. 保存箱、包裂(羽二重)、布団を新調する。 （平成25年度は1の途中まで、平成26年は2の途中まで）

〈考古〉(22件)

54 ○列品番号　J-3097
○名　称　須恵器 有蓋長頸壺(すえき ゆうがいちょうけいこ)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　陶製
○員　数　1合
○寸 法 等　法量:高 26 口径 9 最大径 14
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は3の途中まで）

55 ○列品番号　J-5683
○名　称　鉄鍬先(てつくわさき)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　質　鉄製
○員　数　1個
○寸 法 等　長 20 幅 25 厚さ 1.5
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は2の途中まで）

56 ○列品番号　J-10242
○名　称　鍔(つば)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1個
○寸 法 等　最大径 7.9 最小径 6.5 厚さ 0.3
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分を補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。

57 ○列品番号　J-10268
○名　称　鉄鏃残欠(てつぞくざんけつ)
○時　代　古墳時代
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1口
○寸 法 等　現存長 9.2 最大幅 1.3 厚さ 0.3
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分を補填、復元する。5. 補填箇所に補彩する。

58 ○列品番号　J-11977
○名　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　代　続縄文時代(前期)

○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高34.1 口径10.5 底径8
○施工会社　武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。 （平成27年度は2の途中まで）

59 ○列品番号　J-22387
○名　　称　鉄刀(てっとう)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長106.2　最大幅4.3
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 折損部分を接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

60 ○列品番号　J-22388
○名　　称　鉄刀(てっとう)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　5～6c
○品　　質　鉄製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長91 最大幅3.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 折損部分を接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

61 ○列品番号　J-34374
○名　　称　河童形土偶（かっぱがたどき）
○時　　代　縄文時代中期
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高30.0　幅19.1　厚8.7cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

62 ○列品番号　J-34947
○名　　称　人面付壺形土器(じんめんつきつぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前2～前1世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　現存高68.4 口径14.3
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

63 ○列品番号　J-34961
○名　　称　壺形土器(つぼがたどき)
○時　　代　弥生時代(中期)
○年代世紀　前2～前1世紀
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高19.7 底径8.2
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

64 ○列品番号　J-37240
○名　　称　青白磁合子(せいはくじごうす)
○時　　代　平安時代
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1合
○寸 法 等　蓋 口径4.2 高1.3 ； 身 口径4.2 高
○施工会社　繭山　隆司
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成27年度は2の途中まで）

65 ○列品番号　J-37538
○名　　称　深鉢形土器（ふかばちがたどき）
○時　　代　縄文時代中期
○年代世紀　前3000～前2000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高25.5 cm
○施工会社　㈲武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。（平成26年度は2まで）

66 ○列品番号　J-38857-1
○名　　称　土師器 小型鉢形土器(はじき こがたはちがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c

○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径8.5 高6.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

67 ○列品番号　J-38857-3
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径10.5 高9
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

68 ○列品番号　J-38857-4
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11.5 高5.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。　(平成27年度は2の途中まで)

69 ○列品番号　J-38857-7
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　復元口径9.5 高8
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

70 ○列品番号　J-38857-11
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径9 高9.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

71 ○列品番号　J-38857-12
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径11 高11
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

72 ○列品番号　J-38857-15
○名　　称　土師器 小型坩形土器(はじき こがたかんがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高8.5
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

73 ○列品番号　J-38861-2
○名　　称　土師器 鉢形土器(はじき はちがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　口径15 高9
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

74 ○列品番号　J-38971-1
○名　　称　土師器 甕形土器(はじき かめがたどき)
○時　　代　古墳時代
○年代世紀　3～4c
○品　　質　土製

○員　　数　1個
○寸 法 等　口径15.5、高14.0、最大径20.0
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

75 ○列品番号　J-39374
○名　　称　漆塗籠棺残片(うるしぬりかごかんざんぺん)
○時　　代　古墳(飛鳥)時代
○年代世紀　7c
○品　　質　籠製漆塗
○員　　数　1括
○寸 法 等　厚1、桟部約1.5
○施工会社　高妻洋成
○修理内容　1. 構造調査、成分分析を行なう。 2. 樹脂含浸・強化・乾燥を行なう。 3. 表面を強化する。 （平成26年度は1の途中まで、平成27年度は2の途中まで）

〈東洋考古〉(2件)

76 ○列品番号　TJ-997
○名　　称　鉄鉞戟(てつえつげき)
○時　　代　漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　　質　鉄鍛造
○員　　数　1本
○寸 法 等　長43.3　幅15.3 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

77 ○列品番号　TJ-998
○名　　称　鉄鉞戟(てつえつげき)
○時　　代　漢
○年代世紀　前2～後3c
○品　　質　鉄鍛造
○員　　数　1本
○寸 法 等　長43.3　幅15.3 cm
○施工会社　㈱東都文化財保存研究所
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

〈民族資料〉(5件)

78 ○列品番号　K-25947-2
○名　　称　茶チューカー
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　総高8.0　最大幅13.0
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. クリーニングする。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。

79 ○列品番号　K-25953
○名　　称　蓋付茶碗(蓋付マカイ)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁製
○員　　数　2合
○寸 法 等　吉祥：高6.2　口径11.0　鶴鹿：高6.0　口径9.9
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

80 ○列品番号　K-25956
○名　　称　鉢(ワンブー)
○時　　代　第二尚氏時代
○年代世紀　19c
○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高10.5　口径23.3　底径9.5
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

81 ○列品番号　K-25957
○名　　称　肴鉢(さかなばち)
○時　　代　清時代
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高4.5　口径26.7
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。

82 ○列品番号　K-29003
○名　　称　内耳土器(ないじどき)
○時　　代
○年代世紀　14～16c

○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高7.5 長径12.0×短径11.3
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1.　付着物を保護しながらクリーニングする。 2. 補填して復元し、外面を強化する。 3. 補填箇所に補彩する。所に補彩する。

〈和書〉(2件)

83 ○列品番号　QA-4218
○名　　称　伊賀国図（いがのくにず）
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c 写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1舗
○寸 法 等　本紙 縦132.2　横89.5

84 ○列品番号　QA-4219
○名　　称　志摩国図(しまのくにず)
○時　　代　江戸時代
○年代世紀　19c 写
○品　　質　紙本着色
○員　　数　1舗
○寸 法 等　本紙 縦74.3 横120.4
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。 2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。 3.美濃紙にて裏打ちを行う。 4.表紙は補修して再使用する。 5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。
○施工会社　㈲山口墨仁堂
○修理内容　1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。

〈館史資料〉(2件)

85 ○列品番号　館史資料-671
○名　　称　重要雑録　明治十五年(じゅうようざつろく　めいじじゅうごねん)
○時　　代　明治15年（1882）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1冊
○寸 法 等　縦27.3 横19.1
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。(平成26年度は2の途中まで)

86 ○列品番号　館史資料-680
○名　　称　重要雑録　明治二十七～二十九年(じゅうようざつろく　めいじにじゅうしちからにじゅうくねん)
○時　　代　明治27～29年（1894～96）
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　1冊
○寸 法 等　縦27.5横18.6
○施工会社　㈲東京修復保存センター
○修理内容　1.冊子本を解装する。 2.各頁ごとに折れや皺をのばす。 3.欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。 4.表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。 5.封筒や付箋は、補紙などを施し、もとの場所に貼り付ける。6. 冊子本に仕立てる。(平成27年度は2の途中まで)

【京都国立博物館】(12件)

＜絵画＞ (3件)

1 ○名　　称　病草紙（やまいのそうし）
○指　　定　国宝
○時　　代　平安時代（12世紀）
○品　　質　紙本著色
○員　　数　10面
○寸 法 等　縦 25.9～26.0cm　横 25.3～49.3cm
○施工会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2 台紙貼り装の解体を行う。 3 膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。 4 浄化水にて本紙の汚れを除去する。 5 布海苔を用い、養生紙にて表打ちを行う。 6 旧肌裏紙及び旧補紙を除去する。 7 調査に基づいて補修紙を作成し、料紙欠失箇所に補紙を行う。 8 染薄美濃紙にて肌裏打ちを行い、表打ちの養生紙を除去する。 9 軸首を5巻分新調する。 10 美栖紙にて増裏打ちを行う。 11 折れ伏せを入れ、折れを直す。 12 美栖紙にて中裏打ちを行う。 13 混合紙にて総裏打ちを行い、仮張りし乾燥させる。 14 軸首を4巻分新調し、表紙裂、見返し紙を新調する。 15 補紙の箇所に補彩を行う。 16 隔及び軸巻紙を本紙料紙に合わせて作成し、本紙同様の裏打ちを施す。 17 表紙裂及び見返しは、肌裏を打ち、合わせて表紙の形に仕立てる。 18 本紙に、隔、軸巻き紙、表紙を継ぎ、新調した軸首、中軸、紐等を取り付け巻子装に仕上げる。 19 桐製太巻添軸、桐製屋郎箱を新調し、本紙を納入する。 (24年度より・4ヶ年事業)

2 ○名　　称　紙本淡彩耕作図（しほんたんさいこうさくず）
○指　　定　重要文化財
○時　　代　江戸時代（17世紀）
○品　　質　紙本淡彩
○員　　数　6曲1双
○寸 法 等　本紙（各）縦 151.0cm　横 347.0cm
○施工会社　株式会社　岡墨光堂
○修理内容　1 修理前の調査・写真撮影を行う。 2 金具、襲木を取り外し、本紙を下地骨から取り外す。 3 クリーニングを行う。 4 絵具の剥落止めを行う。 5 肌裏紙を含む旧裏打ち紙を除去する。 6 本紙欠失個所に補修紙を補填する。 7 肌裏打ちを行う。 8 増裏打ちを行う。 9 新たに補填した補修紙に地色補彩を施す。 10 新調した下地骨に充分な下貼りを施す。 11 本紙を屏風下地に張り付ける。 12 大縁、子縁の裂を本紙の周囲に取り付ける。 13 屏風裏面に雀型

唐紙を貼る。　14 新調した襲木を取り付け、隅金具、飾金具、散鋲を取り付ける。　15　修理後の調査・写真撮影を行う。　16　報告書を作成する。（26 年度より・3 ヶ年事業）

3　○名　　称　江邨漁隠図巻　黄均筆（こうそんぎょいんずかん　こうきんひつ）
　○時　　代　中国・清時代・19 世紀
　○品　　質　紙本墨画淡彩
　○員　　数　1 巻
　○寸 法 等　縦 22．1cm、長 226.8cm
　○施工会社　有限会社漢和堂
　○修理内容　1 本紙に掃かれた礬砂を除去する。　2 本紙にあてられた旧裏打ち紙を除去する。　3 本紙に発生したシミなどの汚れを洗浄する。　4 本紙天地の破損個所に本紙に合う古紙を用いて補修する。　5 本紙で洗浄した箇所に補彩をほどこす。　6 古色をつけた紙で本紙に肌裏を打つ。　7 生宣紙で増し裏を打つ。　8 折れぶせを入れる。　9 本紙の色調に合う表装裂を新調し、天然染料で表面の光沢を抑える。　10 本紙と表装裂地を別々に仮張りして乾燥させる。　11 本紙と表装裂地のつけ回しを行う。　12 生宣紙にて中裏と総裏を入れ、仮張りの状態で長期間乾燥させる。　13 中国画巻の形式に合わせた表装に仕立てる。　14 桐箱を新調し、作品を裂で包んで収納する。　15 修理過程の記録を残し、報告書を作成する。

＜金工＞（2 件）

4　○名　　称　太刀 忠光作（たち　ただみつさく）
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　鉄・鍛造
　○員　　数　1 振
　○寸 法 等　刃長 66.7cm
　○施工会社　真澄庵
　○修理内容　刀身の研磨により、作品を侵食する赤錆を除去する。これに加えて、差込研による美術刀剣に適した仕上げを行うことで、展示効果をより一層高める。刀身を保護し、保管箱の役割を果たす白鞘と気密性保持に欠かせないヽヽバキを新調することにより、今後の保存に役立てる。

5　○名　　称　短刀　無銘　附朱漆塗小さ刀拵（たんとう　むめい　つけたりしゅうるしぬりちいさがたなこしらえ）
　○時　　代　室町時代・16 世紀
　○品　　質　鉄・鍛造
　○員　　数　1 口
　○寸 法 等　刃長 35.8cm
　○施工会社　真澄庵
　○修理内容　刀身の研磨により、作品を侵食する赤錆を除去する。これに加えて、差込研による美術刀剣に適した仕上げを行うことで、展示効果をより一層高める。刀身を保護し、保管箱の役割を果たす白鞘と気密性保持に欠かせないヽヽバキを新調することにより、今後の保存に役立てる。付属の朱漆塗小さ刀拵についても、柄巻の巻き替えや、各部の調整を加えることで展示効果を高める。

＜漆工＞（1 件）

6　○名　　称　花鳥蒔絵螺鈿書箪笥（かちょうまきえらでんたんす）
　○時　　代　桃山時代（16 世紀）
　○品　　質　木造、漆塗、蒔絵、螺鈿、金銅製金具
　○員　　数　1 基
　○寸 法 等　幅 60.8cm　奥行 34.7cm　高 43.3cm
　○施工会社　北村繁
　○修理内容　1 修理前の写真撮影を行う。　2 作業中に剥落の恐れがある螺鈿や漆塗膜を和紙片で養生する。　3 クリーニングを行う。　4 剥離した螺鈿や漆塗膜を圧着する。5 漆塗の表面を漆固めで強化する。　6 螺鈿の欠失部の周囲は際錆を施す。　7 漆塗膜の欠失部は刻苧や漆下地で補う。　8 木地の欠失部は刻苧漆、檜材の埋め木、漆下地で補う。　9 前扉の本体側蝶番金具を、所定の位置に打ち込んで扉を固定する。 10 修理後の写真撮影を行う。（25 年度より 3 ヶ年事業）

＜染織＞（5 件）

7　○名　　称　萠黄中蔓金襴（もえぎかなづるきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・15 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 29.2cm、横 25.4cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

8　○名　　称　蜀金金襴（しょっきんきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・17 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 20.7cm、横 19.1ｃｍ
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

9　○名　　称　今春裂金襴（こんぱるきれきんらん）
　○時　　代　中国・明時代・15 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 13.7cm、横 19.3ｃｍ
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている表面の糸の乱れと、裏面の金糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

10　○名　　称　富田丹地雲金襴（とみたたんじくもきんらん）
　○時　　代　中国・宋時代・13 世紀
　○品　　質　絹・金糸
　○員　　数　1 裂
　○寸 法 等　縦 15.5cm、横 23.7cm
　○施工会社　株式会社　染技連
　○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、表面の糸の乱れと裏面の金糸の乱れを整える。虫損による穴の周囲に補修裂

をあて糸で補修する。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

11 ○名　　称　蘇芳地垂花紋モール（すおうじすいかもんもーる）
○時　　代　18世紀
○品　　質　絹・金糸
○員　　数　1裂
○寸 法 等　縦41.5cm、横24.4cm
○施工会社　株式会社　染技連
○修理内容　作品及び旧畳紙・名称小札を台紙及び表紙から取り外す。作品のクリーニングを行い、わずかに生じている糸の乱れを整える。本作品のみを収納する中性紙製の新しい台紙に取り替える。台紙は作品部分に圧力がかからない構造とし、旧畳紙・名称小札をともに収納できる形状とする。

＜歴史資料＞（1件）
12 ○名　　称　賀茂御祖神社絵図（かもみおやじんじゃえず）
○時　　代　室町時代（15世紀）
○品　　質　紙本著色
○員　　数　1枚
○寸 法 等　本紙　縦214.0ｃｍ　横193.0ｃｍ　総丈　縦225.0ｃｍ　横202.0ｃｍ
○施工会社　株式会社 光影堂
○修理内容　1 修理前の損傷状態について、調査・記録を行う。 2 脆弱化している本紙の絵具層の養生を行う。 3 表面の汚れを可能な限り除去する。 4 解装に耐えられない可能性のある絵具層にたいし、剥落止を行う。 5 表装裂地と本紙を取り外し、仮裏を打つ。 6 濾過水を噴霧し、本紙の汚れを除去する。 7 絵具層の剥落止を行う。 8 裏打紙を除去する。 9 新規に補修紙を作成し、本紙欠失箇所に補紙を補填する。 10 新たな肌裏を打つ。 11 増裏打を行う。12 折れ伏せを施し、補強を行う。 13 仮張りを行う。 14 表装裂地を新調し、肌裏を打つ。 15 仮張りされた本紙、及び表装裂地を袋表装の形に付け廻しする。 16 中裏を打つ。17 総裏を打ち、仮張りし充分な乾燥期間を置く。 18 補紙を施した箇所に補彩を行う。 19 上巻絹、発装、中軸、軸首等を新調し、掛軸装に仕立てる。 20 太巻添軸、桐屋郎箱（一重）を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。(26年度より・2ヶ年事業)

【奈良国立博物館】（11件）

＜絵画＞(4件)
1 ○名　　称　絹本著色山越阿弥陀図（けんぽんちゃくしょくやまごしあみだず）
○員　　数　1幅
○時　　代　鎌倉時代　14世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦146.9ｃｍ　横94.3ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。表装を解体し、裏打紙を取り替える本格修理を行う。過去の修理や損傷の状態について詳細な損傷図を作成し、旧補絹の除去及び再使用については修理過程で綿密に検討する。軸装を解体の上、クリーニングを施し、剥落止めを行う。表打ちをし、可能な範囲で旧肌裏紙、旧補絹を除去。新たな補絹、肌裏紙を施し、折れ伏せを行う。軸首は再使用、表装裂、太巻、印籠蓋箱、四方帙は新調。(継続3か年事業のうちの第2年目)

2 ○名　　称　紙本著色泣不動縁起（しほんちゃくしょくなきふどうえんぎ）
○員　　数　2巻
○時　　代　室町時代　16世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　（上巻）縦31.7ｃｍ　横504.3ｃｍ　（下巻）縦31.7ｃｍ　横553.0ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。料紙の折れや欠失部分、絵具の剥離・剥落に対する処置を行い、表面に付着した汚れ等はクリーニングを施す。巻子装を解体し、現在の裏打紙は適切な厚みと材質のものに全て取り替え、一般的な日本の絵巻の形式に則して一紙毎に総裏打ちまで行った後に継ぐ。表紙は新調するが、見返しは再使用とし、間に隔紙を入れて補強する。軸首は再使用し、八双・太巻添軸・軸巻紙・桐印籠箱・紐を新調する。付属品は旧箱とともに別保存とする。(継続2か年事業のうち第2年目)

3 ○名　　称　絹本著色東大寺曼荼羅（けんぽんちゃくしょくとうだいじまんだら）
○員　　数　1幅
○時　　代　室町時代　16世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦132.3ｃｍ　横72.1ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れなどの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。全面に発生した折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打ち紙をあてる。表装については、筋付きの二段仏表具に改装し、軸首・軸木・啄木を新調。また、太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙も新調する。(継続2か年事業のうち第2年目)

4 ○名　　称　絹本著色明空法師像（けんぽんちゃくしょくみょうくうほうしぞう）
○員　　数　1幅
○時　　代　鎌倉時代　13世紀
○品　　質　絹本著色
○寸 法 等　縦168.5ｃｍ　横100.2ｃｍ
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。欠失箇所の周囲を中心に認められる塗布物については、合成樹脂である可能性があり、事前に十分な調査を行った上で除去方法を検討する。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めを行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために折れ伏せを施し、新たに裏打紙をあてる。表装裂は再使用して二段仏表具の形に付け廻し、軸首・鐶も再使用。上下軸・啄木は新調。径を太くした桐製太巻添軸を新調し、二重箱は再使用とする。(継続2ヶ年事業のうち第1年目)

＜書跡＞(1件)
5 ○名　　称　法華経（色紙経）（ほけきょう〔しきしきょう〕）
○指　　定　重要文化財
○員　　数　8巻
○時　　代　平安時代　12世紀
○品　　質　色紙墨書
○寸 法 等　（巻第一）縦24.8ｃｍ　長922.8ｃｍ　（巻第二）縦24.8ｃｍ　長1078.5ｃｍ　（巻第三）縦24.8ｃｍ　長1016.2ｃｍ　（巻第四）縦24.8ｃｍ　長884.9ｃｍ　（巻第五）24.8ｃｍ　長961.1ｃｍ　（巻第六）24.8ｃｍ　長935.3ｃｍ　（巻第七）24.8ｃｍ　長868.1ｃｍ　（巻第八）縦24.8ｃｍ　長764.3ｃｍ

○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。事前調査を行った後、全体を解体する。旧補紙は除去し、その糊跡についても本紙に負担のない範囲で除去する。本紙表面に付着するほこりなど汚れも除去する。水濡れによる汚れは、直接水分を与えず、染色に影響のない範囲で間接的に湿り気を与え軽減させる。暴れ・折れ・皺等にも直接水分を与えず、間接的に湿りを与えて伸ばしプレス乾燥させ、修整する。強い折れには、適宜折れ伏せを施す。紙質調査を行った上で、適切な補修紙を作成し、欠失箇所を補填する。金泥・墨書・朱の状態を確認し、必要に応じ膠水溶液で剥落止めを施す。表紙・見返しの損傷箇所も補修紙により補填し、再利用する。八双・巻緒・軸首・軸木は可能な限り再利用するが、解体後不具合があった場合は新調を検討する。軸付紙は新調し、巻子装に仕立てる。包裂は新調する。保存箱は桐桟蓋二段重ねの中箱と桐台指外箱を新調する。(継続３ヶ年事業のうち第１年目)

＜彫刻＞(3件)

6　○名　　称　木造如来立像（もくぞうにょらいりゅうぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　10～11世紀
○品　　質　木造　漆箔・彩色
○寸 法 等　像高　147.8㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　像本体の表面をクリーニングし、肉身部の漆箔の浮き上がりは樹脂で剥落止めを行う。虫蝕箇所は樹脂と砥の粉との混合物で充填し、朽損欠失の目立つ箇所には樹脂を含浸させて強化を図り、これ以上損傷が進行しない程度にまで木屎漆で補強する。白毫については一旦取り外し、再利用するかどうか検討する。右肘内側の別材部も同前。別製袖部２枚はクリーニングし、別保存する。両手首先は補わない。脱落する背板は本体背面に固定するが、目違い部の修正は行わない。背面の干割れには薄板を差し込み、充填強化する。ヒノキ材製、黒漆塗りの方座を新たに製作する。本体に関する修理箇所はすべて古色仕上げとし、修理記銘銅札を台座裏に打付する。(1ヶ年事業)

7　○名　　称　木造僧形神坐像（もくぞうそうぎょうしんざぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　10世紀
○品　　質　木造　現状素地
○寸 法 等　像高 51.5㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　表面の汚れは、可能な範囲で除去する。点在する虫孔は、ブチラール樹脂に砥の粉や木粉と顔料を混合したものを充填し、補修する。体幹部及び両脚部の底面の朽損箇所は、はじめにアクリル樹脂を含浸して強化を図る。そのうえで体幹部材については、木屎漆またはブチラール樹脂に砥の粉や木粉を混合したもので最小限の補足を行い損傷拡大を防止し、両脚部材についてはヒノキ材と木屎漆で欠損部を整形することで、体幹部との繋がりを良くし、像の安定を図る。頭体幹部と両脚部とを繋ぐ丸雇枘は、枘孔内をヒノキ材や木屎漆で整形して緩みをなくし、接合を強固にする。接合は丸枘のみとし、矧ぎ目の接着は行わない。左手先を繋いでいた丸雇枘も同様の方法で緩みをなくす。両手先の補作は行わない。(1ヶ年事業)

8　○名　　称　木造女神坐像（もくぞうじょしんざぞう）
○員　　数　1軀
○時　　代　平安時代　11世紀
○品　　質　木造　彩色
○寸 法 等　像高 52.5㎝
○施工会社　(公財)美術院
○修理内容　表面の汚れは、彩色層に影響を及ぼさない程度に除去し、いちじるしい汚れについてはレーヨン紙等による吸い取りで除去する。また、メチルセルロースを塗布することで彩色を下地から安定させる。面相部の欠損箇所については、損傷拡大のおそれがある部位のみブチラール樹脂に砥の粉や木粉を混合したもので整形し、補作は行わない。劣化した鉄釘は、抜かずに現状のままとし、鉄錆により朽損した木質にアクリル樹脂を含浸し、木質強化と鉄釘の防錆を図る。鉄釘の劣化にともない動揺する割矧ぎ部には膠を注し、さらに必要に応じて像底や像内より薄板を挿し入れ、安定を図る。干割れ等による像表面の空隙は、埋めずに現状のままとする。頭体幹部と両脚部とを繋ぐ後補の木屎漆は除去し、矧ぎ目の調査を実施して修理仕様を検討する。必要に応じて再度木屎漆で整形し、古色仕上げをほどこす。(1ヶ年事業)

＜染織＞(2件)

9　○名　　称　刺繍釈迦如来説法図（ししゅうしゃかにょらいせっぽうず）
○指　　定　国宝
○員　　数　1面
○時　　代　奈良または中国・唐時代　8世紀
○品　　質　絹製　刺繍
○寸 法 等　縦207.0㎝　横157.0㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。過去の修理や経年・構造による損傷の軽減を図るため、装丁を解体する。装丁は全て復元新調するが、床に接する下端には薄い裂縁を付ける。額装扉が刺繍面に直接当たらないように、本紙周囲に厚みを付ける。現行の縁まわしをめくり、刺繍面を全てあらわす。縁まわし裂は現行のものを復元した裂を新調する。剥落の危険がある箇所を接着し、剥落止めを施す。旧補修箇所は表から剥落止めし、オリジナル部分との高低差をなくす処置を施しつつ、現行より刺繍になじむ色となるよう調整する。裂けている部分や画面全体の安定のため裏打ち紙を打ち替える。銘文は現行に準じた箇所に貼り付ける。取り扱い及び収納用の木枠を作製し、木枠ごと収納する箱を作製する。箱は作品を立てて保管する仕様とする。(継続4 か年事業のうちの第４年目)

10　○名　　称　刺繍阿弥陀三尊来迎図（ししゅうあみださんぞんらいごうず）
○指　　定　未指定
○員　　数　1幅
○時　　代　南北朝時代　14世紀
○品　　質　絹本　絹製（毛髪を併用）刺繍
○寸 法 等　縦71.7㎝　横25.0㎝
○施工会社　(株)文化財保存
○修理内容　解体修理。表具を解体し、裏打紙を取り替え、表具を新調する。クリーニング、剥落止めを施し、ほつれた繍い糸は調整する。地裂の欠失部分は電子線劣化絹を使用して補填する。折れの強い部分は折れ伏せを施し補強する。巻きの負担を軽減するため太巻添軸を新調し、それに伴って保存箱も新調する。なお、軸首、残存する端飾金具は再使用するが、欠失した端飾金具は復元新調する。(1ヶ年事業)

＜考古＞(1件)

11　○名　　称　眉庇付冑、鋸、刀子、ヤスリ状鉄器　（五条猫塚古墳出土）（まびさしつきかぶと、のこぎり、とうす、やすりじょうてっき〔ごじょうねこづかこふんしゅつど〕）
○員　　数　一括
○時　　代　古墳時代　5世紀
○品　　質　眉庇付冑は鉄地金銅装、鋸・刀子・ヤスリ状鉄器は鉄製、鍛造品。
○寸 法 等　眉庇付冑／現存高 14.7㎝、全長 28.4㎝、冑鉢長径 21.0㎝　鋸／ ①20.1㎝、②7.4㎝、③4.0㎝（以上、残存長）刀子／ ①8.4㎝、②7.6㎝、③7.4㎝、④6.8㎝、⑤15.6㎝、⑥16.6㎝、⑦3.2㎝、⑧10.8㎝、⑨16.4㎝（以上、残存長）　ヤスリ状鉄器／①13.8㎝、②7.6㎝、③21.4㎝、④24.8㎝（以上、残存長）
○施工会社　(公財)元興寺文化財研究所
○修理内容　１．Ｘ線撮影による構造把握、２．錆や砂等のクリーニング、３．脱塩処理、４．接合、強化樹脂の塗布と欠失部分の樹脂補強、５．必要部分に光沢の除去、後補部分に着色。(1ヶ年事業)

【九州国立博物館】（22件）

＜絵画＞（9件）

1　○名　　称　両界曼荼羅（りょうがいまんだら）　2幅（25年度より継続・3ヶ年計画）
　○所 蔵 者　奈良国立博物館
　○時　　代　室町時代・応永4年(1397)
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　各縦 169.0 ㎝　横 134.4 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙について肌裏紙を残して除去する。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。6.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。7.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。8.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。9.表打の養生紙を除去する。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.折れ伏せを入れ、折れを直す。12.九州国立博物館支給の裂に肌裏打ち、増し裏打ちを行い、仮張りをする。13.本紙と裂を表装の形態に付け廻しを行う。14.美栖紙にて2層の中裏打を行う。15.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。16.補絹の箇所に補彩をする。17.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。18.桐太巻添軸2本、桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。27年度は9～18を施工

2　○名　　称　ヒポクラテス像　渡辺崋山筆（ひぽくらてすぞう　わたなべかざんひつ）　1幅
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・天保11年(1840)　年記：天保2年(1831)
　○品　　質　絹本墨画淡彩
　○寸 法 等　縦 110.1 ㎝　横 41.4 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細を留め、修理前の調査を行なった後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行なった後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行なう。3.経年の劣化による膠着力の低下と表面の擦れにより不安定になっている絵具層に、兎膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。4.本紙表面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。5.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。6.肌裏紙除去後に本紙の周りに本紙と同じ組成で出来た電子線劣化絹にて補絹を施す。7.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9.表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。10.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。11.補修箇所に補彩を施す。12.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。13.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

3　○名　　称　釈迦如来像（しゃかにょらいぞう）　1幅（26年度より継続・2ヵ年計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　中国 元時代・14世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　本紙　縦139.0 ㎝　横60.9 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、本紙を表装より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.旧肌裏紙以外の裏打ち層の除去を最小限の湿りにて行い、仮裏打ちを行う。5.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。6.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している絵具層に対して 1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。7.料絹欠失箇所で裏彩色層が残留している箇所に対して、表面より本紙基調色に染色した電子線劣化絹を用いて補絹を施す。8.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。9.表補絹を施した箇所以外の本紙欠失箇所に対して、裏面より電子線劣化絹にて補絹を行う。10.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。11.表装裂地は、中廻し風帯の金襴と総縁の綾裂に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを施し、仮張りを行う。12.表装裂地の仮張り後、新糊と古糊の混合糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。13.本紙と裂地の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2 段目以降は宇陀紙を用いて、古糊にて総裏打ちを行う。14.補絹箇所に補彩を施す。15.軸首は再使用し、座鐶、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。16.桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。27年度は10～16を施工。

4　○名　　称　物語図　二曲屏風（ものがたりず　にきょくびょうぶ）　2曲1双
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代・17世紀
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦122.5 ㎝　横271.1 ㎝
　○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
　○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、本紙に負担がかからないように屏風装を解体し、本紙を下地より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、兎膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、膠着力が低下している絵具層に対して1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。8.薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、さらに薄美濃紙を用いて2回目の裏打ちを行う。9.縁裂は、大縁と小縁の金襴に薄美濃紙にて新糊を用い、肌裏打ちを行う。裏面の唐紙を新調し、新糊を用いて肌裏打ちを行う。10.杉材を用い総納組隅止めとした下地を2枚新調する。新調した下地の両面に石州紙を用いて6種8層の下貼りを施し、よく乾燥させる。下貼りを施した下地に蝶番を取り付け、屏風装の形に組み立てる。11.補修箇所に補彩を施す。12.屏風装に組み立てられた下地に、補修の完了した本紙に新糊を用いて上貼りを行う。裏面には裏打ちされた唐紙に新糊を用いて上貼りする。上貼り後、縁裂に新糊を用いて付け廻しを行う。13.飾り金物は再使用し、襲木を新調し、屏風装に仕立てる。14.新調した包み裂に本紙を包み納める。

5　○名　　称　隠元隆琦像　喜多元規筆・隠元隆琦賛(いんげんりゅうきぞう　きたげんきひつ　いんげんりゅうきさん)　1幅（27年度より継続・18ヶ月計画）
　○所 蔵 者　九州国立博物館
　○時　　代　江戸時代
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦 119.3 ㎝ 横 48.8 ㎝

○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地は新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。27年度は1～7を施工。

6　○名　称　虎図　熊斐筆（とらず　ゆうひひつ）　1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　江戸時代・宝暦12年（1762）
○品　質　紙本著色
○寸法等　縦 133.0 ㎝ 横 47.6 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補修箇所に補彩を施す。10.軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

7　○名　称　釈迦三尊二比丘十六羅漢図（しゃかさんぞんにびくじゅうろくらかんず）　1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　鎌倉時代・13世紀
○品　質　絹本著色
○寸法等　縦 103.5 ㎝ 横 55.4 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、掛軸装を解体し、本紙を表装より取り外す。2.本紙裏面の周囲に補助紙を貼り付け、補助紙にて仮張りを行う。筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3.絵具層の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある絵具層に対して、免膠水溶液1～3%を用い、剥落止めを行う。4.旧肌裏紙以外の裏打ち層の除去を最小限の湿りにて行い、仮裏打ちを行う。5.本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。6.クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している絵具層に対して1～3%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。7.料絹欠失箇所で裏彩色層が残留している箇所に対して、表面より本紙基調色に染色した電子線劣化絹を用いて補絹を施す。8.布海苔水溶液とレーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う乾式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。9.表補絹を施した箇所以外の本紙欠失箇所に対して、裏面より電子線劣化絹にて補絹を行う。10.天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。11.表装裂地は、中廻し風帯の金襴と総縁の綾裂に、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを施し、仮張りを行う。12.表装裂地の仮張り後、新糊と古糊の混合糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。13.本紙と裂地の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、2段目以降は宇陀紙を用いて、古糊にて総裏打ちを行う。14.補絹箇所に補彩を施す。15.軸首は再使用し、座鐶、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。16.桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。

8　○名　称　陶淵明愛菊図 伝周文筆・瑞渓周鳳賛　（とうえんめいあいきくず　でんしゅうぶんひつ・ずいけいしゅうほうさん）1幅
○所蔵者　九州国立博物館
○時　代　室町時代・文明4年（1472）賛
○品　質　紙本墨画淡彩
○寸法等　縦 78.2 ㎝　横 23.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料紙の情報について記録を行った後、掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以の旧裏打紙を除去する。2.筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸い取り紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3.経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に免膠水溶液1～3%を用い剥落止めを行う。4.最小限の湿りを裏面より与え、短時間で肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5.　本紙欠失箇所に対して、裏面より補修を行う。6.　肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所および今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。7.　表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊を混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。8.　本紙と裂の付け廻し後、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻裂を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.　補修箇所に補彩を施す。10.　軸首は再使用し、中軸、発装、紐等を新調し軸装に仕立てる。11.　桐太巻添軸を新調し、太く巻いて保存する。中箱は桐印籠箱を新調し、掛軸を納める。

9　○名　称　柳に柴垣図　六曲屏風（左隻）（やなぎにしばがきず　ろっきょくびょうぶ）1隻（26年度より2ヵ年計画）
○所蔵者　梅林寺（福岡）
○時　代　江戸時代・17世紀
○品　質　紙本金地著色
○寸法等　縦 150.3 ㎝　横 313.4 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.乾式による汚れの除去を行う。3.絵画部分の剥落および剥離の概念される箇所に膠水溶液を塗布し強化する。4.表装を解体し、本紙の旧肌裏紙以外の肌裏紙を除去する。5.透過水を透過させ、吸収紙に吸い取らせる方法で汚れや酸化物を除去する。6.最小限の水分量で旧肌裏紙および旧補紙を除去する。7.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。8.本紙裏面より料紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行なう。9.薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ちの後、さらに薄美濃紙を用いて2回目の裏打ちを行う。10.縁裂は、大縁と小縁の金襴に薄美濃紙にて新糊を用い、肌裏打ちを行う。裏面の唐紙を新調し、新糊を用いて肌裏打ちを行う。11.杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。新調した下地の両面に石州紙を用いて8度下貼りを施し、よく乾燥させる。下貼りを施した下地に蝶番を取り付け、屏風装の形に組み立てる。12.補修箇所に補彩を施す。13.屏風装に組み立てられた下地に、補修の完了した本紙に新糊を用いて上貼りを行う。裏面には裏打ちされた唐紙に新糊を用いて上貼りする。上貼り後、縁裂に新糊を用いて付け廻しを

行う。14.飾り金物は再使用し、襲木を新調し、屏風装に仕立てる。27年度は8～14を施工

＜書跡＞（1件）

10 ○名　　称　栄花物語（えいがものがたり）　17帖（24年度より継続・3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　鎌倉時代・13世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　（大型本）　縦 30.6 ㎝　横 24.2 ㎝　（小型本）　縦 16.3 ㎝ 横 14.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い，本紙の状態を調査する。2.必要に応じて冊子を解体する。3.本紙の汚れをクリーニングする。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に，上記補修紙にて補紙を行う。6.本紙の折れ・シワを伸ばす。7.本紙をプレス乾燥する。8.本紙を元の冊子装に綴じ直す。9.箱帙を新調して本紙を納め、新調した桐印籠箱2合に納入する。 27年度は冊子番号11～17を施工

＜染織＞（6件）

11 ○名　　称　壁掛け（パランポア）　白地花樹文様更紗　（かげかけ（ぱらんぽあ）しろじかじゅもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　18-19世紀（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　200.0 ㎝　長さ　282.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.中央の縫い続きで縫いが離れている箇所は、旧線で継ぎを補足する。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

12 ○名　　称　装飾布　藍地植物文様更紗（そうしょくふ　あいじしょくぶつもんようさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　15-16世紀
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　99.0cm 長さ　262.0cm
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地の状態を調査する。仕立てや旧補修などはないことから、解体は行わない。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.生地整えについては、検討した上で行う。残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。4.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。5.欠損端口の補修を想定する。6.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。7.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

13 ○名　　称　装飾布　白地人物文様更紗(人形手)（そうしょくふ　しろじじんぶつもんようさらさ(にんぎょうで)　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18世紀　（インドネシア　スラウェシ島トラジャ伝来）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　幅　105 ㎝ 長さ　490 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

14 ○名　　称　サリー断片　赤地立木人物文様紋織（さりーだんぺん　あかじたちきじんぶつもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、撚金糸、絹
○寸 法 等　幅　110 ㎝ 長さ　171.5 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.補修後の生地の両端は元の針穴を辿って旧状に仕立てる。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

15 ○名　　称　サリー　白地人物ペーズリー文様紋織（さりー　しろじじんぶつぺーずりーもんようもんおり）　1枚（27年度より3ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　19-20世紀
○品　　質　木綿、金銀糸、絹、ミラー
○寸 法 等　幅　115 ㎝ 長さ　488 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1.写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2.筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3.仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4.生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5.両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6.欠損端口の補修を想定する。7.補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8.現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27年度は1～2を施工

16 ○名　　称　茜地山水松鶴文更紗（あかねじさんすいまつつるもんさらさ）　1枚（27年度より3ヵ年計画）

○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　17-18 世紀　（インド・コロマンデル海岸）
○品　　質　木綿
○寸 法 等　縦 312.0 ㎝　横 224.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 写真撮影を行い、生地、旧補修の状態（旧補修糸の補修効果や性質など）の検討をする。生地に負荷をかけている場合は生地優先で取り外す。2. 筆やクリーナーを使用した埃払いを行う。3. 仕立てはないため、接合および組立工程はなし。4. 生地整えについては、検討した上で行う。また、旧補修を外す場合、残った折山は今後の欠損に繋がるので生地の折れ皺を伸ばす。湿り気を利用し整え紙と重しで押しをする仕方を想定している。5. 両端や中央継ぎといった力の入りやすい箇所は、帯状に補修裂を裏面からあてて補修糸で縫い留めて補強する。6. 欠損端口の補修を想定する。7. 補修材料を必要箇所に応じて染色で調整する。8. 現状のように、幅は折らない状態で、筒状のものに巻いて保管する。 27 年度は 1～2 を施工

＜考古＞（1 件）

17 ○名　　称　弥生土器・壺（板付Ⅱａ式）（やよいどき・つぼ）　1 点
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　弥生・B.C5-B.C4
○品　　質　土製
○寸 法 等　口径 12.5 ㎝ 胴径 21.0 ㎝ 高 24 ㎝
○施工会社　株式会社芸匠
○修理内容　1. 修理前の状況、材質、形態の記録およびカルテを作成する。2. 解体、旧修理で用いられた接着剤を有機溶剤などで溶解し解体する。3. 接着部など有機溶剤などで溶解し洗浄する。4. 表面に付着した粉塵や墨を、イオン交換水を含ませ脆弱にしてからブラシなどで除去、洗浄する。5. 土器表面など、粉状化ならび剥落箇所には強化する。6. 強化した破片面同士を溶剤形接着剤で接着する　7. 接着部の隙間には、エポキシ樹脂を補填して形状を復元する。8. 補填した箇所の補彩を行う。9. 保存箱などは不要とする。

＜歴史資料＞（3 件）

18 ○名　　称　重文 対馬宗家関係資料（つしまそうけかんけいしりょう）　18 箱 12 巻（26 年度より 4 ヵ年計画）
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 18.0-34.5 ㎝　横 45.5-56.9 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法及び損傷状態を写真や記録に詳細に留め、修理前の調査を行った後、継を外し、巻子装を解体する。2. 筆や刷毛を用いてドライクリーニングを行い、本紙表面に付着した埃等を除去する。3. 墨線の調査を行い、水によるクリーニングの作業に対して危険な状態になる可能性がある墨線に対して、兎膠水溶液 1～2%を用い、剥落止めを行う。4. 本紙下に吸い取り紙を敷き、濾過水を本紙表面より噴霧し、汚れを吸い取り紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。5. クリーニング後の本紙表面の調査を行い、経年変化による劣化により膠着力が低下している墨線に対して 1～2%膠水溶液を用い、剥落止めを行う。6. レーヨン紙にて本紙表面の養生を行った後、最小限の湿りを裏面より与えることで肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。7. 虫損による料紙欠失箇所に、裏面より本紙基調色に染色した本紙と同繊維の補修紙を作製し、補修を施す。表紙裂も同様に欠失箇所に似寄りの組織の平絹具引き加工を施して補絹を施す。8. 本紙に薄美濃紙（染色は天然染料にて行う）を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。9. 表紙裂と見返しを、新糊と布海苔の混合糊にて合わせ、仮張りし十分な乾燥期間をおく。10. 折れ伏せ後、楮と雁皮の混合紙を用いて、新糊と布海苔の混合糊にて総裏打ちを行う。総裏打ち後は仮張りし、十分な乾燥期間をおく。11. 表紙裂の地色を基調色とし、補絹箇所に補彩を施す。12. 各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。軸木、紐は再使用し、巻子装に仕立てる。13. 桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。新調した包み裂に本紙を包み、中性紙箱を新調し納める。27 年度は巻 4～6 を施工

19 ○名　　称　今川了俊書下（いまがわりょうしゅんかきくだし）　1 幅
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　南北朝時代・嘉慶 2 年（1388）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 27.0 ㎝　横 46.0 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙料絹の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2. 筆や刷毛等によるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に吸収させる方法にて汚れの除去を行う。3. 経年の劣化による膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨層に兎膠水溶液１～３%を用い剥落止めを行う。4. 最小限の湿りを裏面より与え肌裏紙の除去を行う湿式肌上法にて、肌裏紙の除去を行う。5. 肌裏除去後に、本紙欠失箇所に本紙と同様の紙繊維でできた補修紙を用いて補修を施す。6. 天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 肌裏打ち後、染色した美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。8. 表装裂地はクリーニングを行い、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打を行って再使用する。肌裏打後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打を行う。仮張り後、新糊と古糊を半々で混ぜた糊にて本紙と裂地との付け廻しを行う。9. 本紙と裂地の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打を行う。その後、古糊にて総裏打を行う。10. 料紙の持っている色合いを基本とし、それに加え現在の経年変化した本紙の状態を加味した色合いにて、欠失部に補填した補修紙上にのみ補彩を施す。11. 軸首は洗浄を行い、再使用する。座鐶、八双、軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。12. 桐太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。中箱は桐屋郎箱を新調し納める。

20 ○名　　称　豊臣秀吉朱印状 遠藤彦右衛門・助二郎宛 （とよとみひでよししゅいんじょう　えんどうひこえもん・すけじろうあて）　1 通
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　安土桃山時代・天正 15 年（1587）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　本紙　縦 32.1 ㎝　横 47.6 ㎝
○施工会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟
○修理内容　1. 一紙ものであるため、特に解体は行わない。2. 筆や刷毛などによるトライクリーニングを行う。また虫糞の付着もみられるため、本紙を傷つけないよう除去する。現状の本紙材紙の風合いをの残すために水によるクリーニングは行わない。3. 経年の劣化による墨線の膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨線に兎膠水溶液１～３%を用い剥落止めを行う。4. ゴアッテックスを用いて本紙に必要最低限の湿りを入れて伸ばし、皺などの修正を行い、全体の形状を整える。5. 本紙料紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製する。また、本紙裏面より料紙欠箇所に補所に補修を行う。6. ゴアッテックスを用いて必要最低限の湿りを入れてプレス乾燥し、繊維の毛羽立ちを押さえる。7. 旧箱の糊浮き部分に糊挿しを行い固定する。8. 本紙は元通り折り畳み、包紙に包んで収納する。桐屋郎箱を新調し、包紙に包んだ本紙と旧箱を納入する。

＜民俗資料＞（2 件）

21 ○名　　称　大壺（常滑窯）（おおつぼ(とこなめよう)）　1 口
○所 蔵 者　九州国立博物館
○時　　代　平安・11-12 世紀

〇品　　質　　陶器
〇寸 法 等　　高52.6 ㎝　口径35.2 ㎝　胴径60.5 ㎝　底径15.6 ㎝
〇施工会社　　株式会社芸匠
〇修理内容　　1.修理前の調査を行う。2.解体、旧修理で用いられた接着剤を有機溶剤などで溶解し、解体する。3.接着部など有機溶剤などで溶解し洗浄する。4.表面など、粉状化ならび剥落箇所には強化する。5.強化した破片面同士を溶剤形接着剤で接着して組み立てる。6.接合部の隙間には、エポキシ樹脂を補填して形状を復元補修する。7.補填した箇所の補彩を行う。8.保存箱などは不要とする。

22　〇名　　称　　朱漆脚付食籠（しゅうるしきゃくつきじきろう）1合
〇所 蔵 者　　九州国立博物館
〇時　　代　　19世紀　（ミヤンマー）
〇品　　質　　木、漆
〇寸 法 等　　高38.0 ㎝ 最大幅69.5 ㎝
〇施工会社　　合同会社大西漆芸修復スタジオ
〇修理内容　　1.修理前の損傷状況、絵絹の特徴・繊組織、作品形態および顔料観察などの調査を行なう。2.作業中の二次的な損傷を予防するため、破損部周辺の漆塗膜などが不安定な部分に薄手雁皮紙の小片を薄い澱粉糊で貼って養生を行う。3.全体のクリーニングを行う。柔らかい筆を用いて表面に溜まった埃などを注意深く取りの除いた後、精製水などで湿らせた綿棒などを用いて表面の汚れを可能な範囲で除去する。4.不安定になっている脚は釘を抜き取って本体と分離する。5.取り外した脚は接着部など整えた後、麦漆を用いて所定の位置で接着する。6.現状のままで接合部に亀裂を生じた脚は、亀裂に希釈した麦漆を注入して補強した後、漆刻苧と漆下地を適宜充填して形状を整え、周辺と調和するように仕上げる。7.蓋頭頂部の宝珠は接合位置を確認してから麦漆で所定の位置に接着する。8.麦漆が固まって宝珠が固定された後、解れている籃胎に可能な限り麦漆で本体に接着し、別保存されている漆塗膜で場所が特定できるものを所定の位置に麦漆で接着する。9.別保存されている飾り板や宝珠の部材は場所の確認を行い、所定の位置に麦漆で接着する。10.脚や宝珠の部材接合部や破損部周辺の塗膜欠失部は漆下地などで形状を整え、周囲と調和するように仕上げる。11.飾り板や胴の裏面の桟の接合部に生じた亀裂に希釈した麦漆を注入して補強し、隙間は漆下地などで形状を整えて仕上げる。12.籃胎の編目に沿って生じた漆塗膜の亀裂のうち、引っ掛かる恐れがある部分を漆刻苧と漆下地などを充填して補強する。13.保存箱などは不要とする。

1-(3)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

単位：件　　平成28年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		269	90	113 (4,686)	66 (752)
絵　画		64	3	44 (1,876)	17 (251)
書　跡		38	0	25 (1,057)	13 (173)
彫　刻		48	1	27 (1,287)	20 (208)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		2	2	0 (1)	0 (4)
刀　剣		2	2	0 (0)	0 (0)
陶　磁		2	2	0 (1)	0 (0)
漆　工		13	1	0 (39)	12 (71)
染　織		18	10	4 (176)	4 (10)
考　古		28	28	0 (13)	0 (0)
歴史資料		9	1	8 (183)	0 (31)
和　書		0	0	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (3)	0 (2)
その他		5	0	5 (35)	0 (1)
東洋	絵　画	1	1		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	2	2		
	漆　工	1	1		
	染　織	0	0		
	考　古	2	2		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		33	33		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 来館者数推移（入館料別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(1)-② 来館者数推移（展覧会別）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(1)-③ 入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成28年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	92%
140件(外国語)	74件(外国語)	71件(外国語)	48件(外国語)
140件(日本語)	74件(日本語)	71件(日本語)	52件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計140件(外国語)/140件(日本語)

- 総合文化展（特集を除く）　99件（外国語）／99件（日本語）　含国宝室
- 特集陳列　31件（外国語）／31件（日本語）
- 黒田記念館　10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計74件(外国語)/ 74件(日本語)

- 名品ギャラリー（特集陳列等を除く）　58件（外国語）／58件（日本語）
- 特集陳列「葵祭の美術」「日本の仮面」　2件（外国語）／2件（日本語）
- 特別展観「仏法東漸」　1件（外国語）／1件（日本語）
- 特集陳列「刀剣を楽しむ」「獅子と狛犬」　2件（外国語）／2件（日本語）
- 特集陳列「さるづくし」「皇室ゆかりの名宝」　10件（外国語）／10件（日本語）
- 特集陳列「雛まつりと人形」　1件（外国語）／1件（日本語）

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計71件(外国語)/71件(日本語)

- 名品展（珠玉の仏像美術）　5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
- 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　5件（外国語）／ 5件（日本語）
- 特集展示「新たに修理された文化財」　6件（外国語）／ 6件（日本語）
- 特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）
- 仏像写真展「大和の仏たち－奈良博写真技師の眼－」　18件（外国語）／18件（日本語）
- 模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
- 模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）

【九州国立博物館】計 48 件(外国語)/52 件(日本語)

- 文化交流展示（トピック展示・特別公開を除く）　40 件(外国語)/47 件(日本語)
- 文化交流展示　音声ガイド　3 件(外国語)/ 0 件(日本語)
- 文化交流展示　トピック展示・特別公開等

うち「新羅王子がみた大宰府」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「太宰府天満宮の地宝」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「国宝　初音の調度」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「祈りのかたち　八幡」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
「田中丸コレクションの茶陶」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

2-(2) 教育活動の充実

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年）

H28.3.31現在

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	37校	38校	43校	44校	48校
京都国立博物館	30校	30校	29校	29校	29校
奈良国立博物館	28校	27校	26校	27校	27校
九州国立博物館	28校	24校	24校	24校	25校
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	112回	126回	131回	127回	146回
講演会等　参加者数	12,664人	13,193人	15,777人	14,419人	18,080人
①講演会	32回	31回	30回	30回	23回
	8,224人	6,952人	7,184人	6,735人	6,023人
アンケート結果	91%	82%	84%	92%	89%
（内訳）					
・月例講演会等	13回	12回	12回	12回	12回
	2,457人	1,791人	1,951人	1,893人	2,369人
アンケート結果	91%	82%	80%	88%	94%
・記念講演会	15回	12回	11回	13回	9回
	4,669人	3,682人	3,368人	3,651人	3,005人
アンケート結果	89%	85%	88%	85%	93%
・シンポジウム	―	―	―	―	1回
	―	―	―	―	264人
アンケート結果	―	―	―	―	89%
・テーマ別講演会	3回	4回	6回	4回	1回
	775人	1,051人	1,709人	1,096人	365人
アンケート結果	―	77%	84%	96%	86%
・その他講演会	1回	3回	1回	1回	0回
	323人	428人	156人	95人	0人
アンケート結果	―	78%	83%	98%	0
②列品解説（ギャラリートーク等）	76回	90回	98回	94回	120回
	3,963人	5,805人	8,205人	7,326人	11,669人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	380人	303人	354人	320人	352人
アンケート結果	89%	75%	95%	87%	97%
④公開講座	3回	4回	2回	2回	2回
	97人	133人	34人	38人	36人
アンケート結果	97%	94%	97%	97%	98%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	15回	19回	21回	36回	39回
講演会等　参加者数	1,450人	3,150人	2,062人	4,596人	4,845人
①土曜講座	13回	16回	10回	31回	32回
	1,199人	2,682人	1,257人	3,888人	3,721人
アンケート結果	77%	84%	87%	80%	83%
②記念講演会	―	1回	1回	1回	1回
	―	215人	190人	193人	200人
アンケート結果	―	89%	88%	―	―
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	193人	213人	219人	206人	206人
アンケート結果	78%	92%	91%	89%	80%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	58人	40人	30人	66人	91人
⑤セミナー・シンポジウム等	―	―	―	2回	4回
	―	―	―	243人	627人
⑥ギャラリートーク	―	―	8回	―	―
	―	―	366人	―	―
⑦ギャラリートーク	―	―	8回	―	―
	―	―	366人	―	―
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	28回	29回	26回	27回	28 回
講演会等　参加者数	3,006人	3,454人	3,219人	3,525人	3,974人
①特別展等講座	15回	16回	13回	14回	15回
	1,839人	2,172人	1,682人	1,986人	2,123人
アンケート結果	87%	85%	85%	86%	79%
②夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	522人	438人	587人	561人	609人
アンケート結果	90%	95%	95%	91%	95%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	645人	844人	950人	978人	1,242人
アンケート結果	88%	85%	85%	87%	85%
④大学との合同公開講座	―	―	―	―	―
	―	―	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―
⑤世界遺産学習特別勉強会の共同開催	―	―	―	―	―
	―	―	―	―	―
アンケート結果	―	―	―	―	―
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	89回	102回	90回	82回	87回
講演会等　参加者数	7,833人	8,354人	7,276人	4,694人	6,212人
①特別展記念講演会	7回	5回	5回	4回	3回
	1,500人	966人	1,108人	980人	710人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	39回	45回	38回	26回	38回
	4,592人	4,918人	4,450人	2,132人	4,096人
アンケート結果	―	―	―	―	―
③ミュージアムトーク	43回	52回	47回	52回	46回
	1,741人	2,470人	1,718人	1,582人	1,406人
○大学等との連携事業					
奈良国立博物館					
①放送大学の面接授業	0回	0回	0回	0回	0回
	―	―	―	―	―
②奈良女子大学との連携講座	7人	10人	9人	8人	3人
③神戸大学との連携講座	10人	7人	8人	16人	7人
九州国立博物館					
①放送大学の面接授業	1回	1回	1回	2回	2回
	50人	50人	50人	50人	44名

2-⑵-② キャンパスメンバーズ

平成28年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
48校	29校（※）	27校（※）	25校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入22校

【東京国立博物館】

①加入校数（48校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	9,260人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,375人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学，文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化服装学院広島校 , 文化外国語専門学校）	7,957人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,739人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,588人	20年4月1日	
6	東京大学	34,323人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,674人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,302人	20年4月1日	
9	大正大学	5,277人	20年4月1日	
10	東海大学	33,232人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,742人	20年4月1日	
12	ハリウッド大学院大学・ハリウッドビューティ専門学校	805人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,200人	20年4月1日	
14	立教大学	23,654人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,993人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,896人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,954人	20年4月1日	
18	法政大学	38,945人	20年4月1日	
19	筑波大学	20,823人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,021人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,907人	20年5月1日	
22	東洋大学	31,360人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,123人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,348人	20年6月1日	
25	文教大学	9,397人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,112人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,145人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,879人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,386人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,421人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,062人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,630人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	2,993人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	6,702人	23年6月1日	
35	神奈川大学	20,141人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,947人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,479人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,272人	25年4月1日	
39	中央大学	31,976人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,633人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,932人	25年8月1日	
42	一橋大学	7,031人	25年11月1日	
43	共立女子大学・共立女子短期大学	5,807人	26年4月1日	
44	成城大学　文芸学部	1,915人	26年4月1日	
45	日本文化大學	866人	27年4月1日	
46	鶴見大学　文学部　文学研究科	1,369人	27年5月1日	
47	十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部	3,522人	27年6月1日	
48	早稲田大学　文化構想学部　多元文化論系	562人	27年6月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月4日（計6回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	180人
担当研究員数	6人

事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月3～7日（5日間）
開催場所	全館
参加者数	37人
担当研究員数	12人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①　加入校数（29校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	19,023人	19年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
2	奈良教育大学	1,387人	18年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学人文科学部	1,038人	20年4月1日	奈良博との2館併用	京博	
4	学校法人同志社	40,134人	19年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	3,988人	19年5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
6	学校法人　関西大学	33,172人	23年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
7	学校法人　京都産業大学	14,339人	24年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
8	帝塚山大学・附属高等学校	3,829人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
9	奈良女子大学	2,741人	18年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
10	京都造形芸術大学	9,780人	18年6月1日	京博のみ	京博	
11	京都工芸繊維大学	4,117人	19年6月1日	奈良博との2館併用	京博	
12	京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学	827人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	京都精華大学	3,595人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
14	龍谷大学・龍谷短期大学	19,939人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
15	京都女子大学・京都女子短期大学	7,564人	18年7月1日	京博のみ	京博	
16	京都橘大学	4,389人	18年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都教育大学・附属高等学校	2,397人	20年7月1日	奈良博との2館併用	京博	
18	成安造形大学	821人	18年8月1日	京博のみ	京博	
19	京都市立芸術大学	1,088人	20年8月1日	京博のみ	京博	
20	京都大学	23,399人	18年9月1日	奈良博との2館併用	京博	
21	近畿大学文芸学部	2,171人	18年9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
22	花園大学	2,129人	18年11月1日	京博のみ	京博	
23	奈良先端科学技術大学院大学	1,091人	19年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
24	大谷大学・大谷短期大学	3,523人	18年12月1日	京博のみ	京博	
25	大阪大学	24,529人	20年12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
26	京都文教大学	2,846人	21年6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
27	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,875人	21年8月1日	奈良博との2館併用	京博	
28	京都府立大学	2,164人	23年7月1日	京博のみ	京博	
29	立命館大学	36,358人	26年4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,546 人	18 年 10 月 1 日	奈良博のみ	
2	奈良佐保短期大学	299人	18 年 11 月 29 日	同上	
3	天理大学	3,395人	20 年 7 月 1 日	同上	
4	奈良県立大学	655人	21年4月1日	同上	
5	奈良工業高等専門学校	1,092人	23年7月1日	同上	
6	奈良教育大学	1,387人	18年4月4日	京博との2館併用	
7	帝塚山大学	3,829人	18 年 5 月 8 日	同上	
8	奈良女子大学	2,741人	18年5月15日	同上	
9	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	827人	18年6月9日	同上	
10	京都精華大学	3,755人	18年6月28日	同上	
11	京都橘大学	4,389人	18年6月30日	同上	
12	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	19,939人	18年6月30日	同上	
13	京都大学	23,399人	18年8月22日	同上	
14	近畿大学　文芸学部、近畿大学大学院文芸学研究科	2,171人	18年8月24日	同上	
15	佛教大学	19,023人	19年4月1日	同上	
16	奈良大学	3,988人	19 年 5 月 2 日	同上	
17	京都工芸繊維大学	4,117人	19年6月1日	同上	
18	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,134人	19年6月1日	同上	
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,091人	19年11月7日	同上	
20	就実大学　人文科学部	1,038人	20年4月1日	同上	
21	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,397人	20年7月1日	同上	
22	大阪大学	24,522人	20年12月1日	同上	
23	京都文教大学、京都文教短期大学	2,846人	21年6月1日	同上	
24	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,875人	21年8月1日	同上	

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
25	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,172人	23年6月1日	同上	
26	立命館大学、立命館大学大学院	36,358人	26年4月1日	同上	
27	学校法人　京都産業大学（京都産業大学、京都産業大学付属高等学校）	14,339人	26年4月1日	同上	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 キャンパスメンバーズカードと併せて、告知のポスターとカード立てを作成しキャンパスメンバーズ加入大学に配布。

【九州国立博物館】

①　加入校数（25校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	11,279人	25年4月1日	
2	九州情報大学	445人	27年4月1日	
3	九州大学	19,174人	26年4月1日	
4	久留米大学	7,460人	25年4月1日	
5	西南学院大学	8,209人	25年4月1日	
6	第一薬科大学	1,136人	27年4月1日	
7	筑紫女学園大学	2,637人	27年4月1日	
8	日本赤十字九州国際看護大学	477人	26年4月1日	
9	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,685人	26年5月1日	
10	福岡教育大学	5,703人	26年4月1日	
11	福岡国際大学	445人	25年4月1日	
12	福岡女子大学	1,065人	27年4月1日	
13	福岡大学	20,790人	25年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,330人	26年4月1日	
15	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	376人	26年4月1日	
16	九州造形短期大学	244人	25年4月1日	
17	筑紫女学園大学短期大学部	286人	27年4月1日	
18	福岡女子短期大学	391人	25年4月1日	
19	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	152人	25年4月1日	
20	久留米大学附設高等学校	608人	25年4月1日	
21	西南学院高等学校	1,297人	25年4月1日	
22	筑紫女学園高等学校	1,437人	27年4月1日	
23	筑紫台高等学校	1,900人	27年4月1日	
24	福岡大学附属大濠高等学校	1,963人	25年4月1日	
25	福岡大学附属若葉高等学校	1,032人	25年4月1日	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：　カフェコンサート	
内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月17日、5月29日、6月26日、7月10日、8月14日、10月2日、11月13日、12月4日、1月22日、2月12日、3月13日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）

2-(2)-③ 講座・講演会等の開催実績

平成 28 年 3 月 31 日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**146回・18,080人** 講演会　23回6,023人 列品解説（ギャラリートーク等） 120回11,669人 連続講座　1回（3日）352人 公開講座　2回36人	**39回・4,845人** 土曜講座32回・3,721人 記念講演会1回・200人 夏期講座1回（3日）・206人 社会科教員のための向上講座 1回・91人 セミナー・シンポジウム等4回・627人	**28回・3,974人** 特別展等講座　15回・2,123人 （公開講座　14回・1,927人、 シンポジウム1回・196人） 夏季講座　1回(3日)・609人 サンデートーク12回・1,242人	**87回・6,212人** 特別展記念講演会　3 回・710人 講演及びシンポジウム　38回・4,096人 ミュージアムトーク　46回・1,406人
	その他展示に関連する事業 9回877人	その他展示に関連する事業 3回・55人	その他展示に関連する事業 18回・1,735人	その他展示に関連する事業 25回・272,070人

【東京国立博物館】

1)　講演会　23回　参加者数　6,023人

①月例講演会　計12回　参加者数　2,369人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月4日	「富士とサクラの絵画」 講師：山下善也（絵画・彫刻室主任研究員）	137	2	94%
5月23日	「書の楽しみ―特集『新収品』の関戸本古今和歌集を中心に」 講師：島谷弘幸（九州国立博物館長）	205	2	100%
6月27日	「呉服商『大彦』の小袖コレクションについて」 講師：小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	215	2	93%
7月25日	「大谷探検隊とシルクロード美術」 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	250	2	87%
8月29日	「子ども質問箱　教えて！エジプトのひみつ」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	108	2	89%
9月26日	「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」 講師：小野真由美(貸与特別観覧室主任研究員）	143	2	73%
10月10日	留学生の日「日本美術がおもしろくなる様々な見方」 講師：ミウォシュ・ヴォズニ（国際交流室アソシエイトフェロー）	170	2	84%
11月7日	「一遍とたどる日本の聖地と時宗の文化財」 講師：瀬谷愛（保存修復室研究員） 薄井和男（神奈川県立歴史博物館）	300	2	88%
12月5日	「後藤一乗　幕末の華やかな刀装と絵図」 講師：酒井元樹（保存修復室研究員）	131	2	93%
28年1月23日	「よろいをまとった仏たち」 講師：淺湫毅（教育講座室長）	300	2	90%
28年2月27日	「メソポタミアとインダスのあいだ　――知られざる海洋の古代文明――」 講師：後藤健（特任研究員）	220	2	85%
28年3月12日	「中国考古展今昔物語」 講師：　谷豊信（学芸研究部長）	190	2	88%

②記念講演会　計9回　参加者数3,005人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月11日	インドの仏展「インドの仏―古代初期から密教まで」 講師：小泉惠英(企画課長)	390	2	93%
5月2日	鳥獣戯画展「鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝」 講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)	350	2	97%
5月16日	鳥獣戯画展「鳥獣人物戯画の修理」 講師：岡岩太郎(岡墨光堂代表取締役) 大山昭子(岡墨光堂修復部長)	296	2	99%
7月11日	クレオパトラとエジプトの王妃展「クレオパトラとエジプトの王妃」 講師：クリスチアーヌ・ジェグレール(ルーブル美術館古代エジプト美術部門名誉部長/本展監修者)	328	2	81%
9月5日	クレオパトラとエジプトの王妃展「遺跡に見る古代エジプトの女王・王妃たち：発掘調査の現場から」 講師：近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授／本展監修者）	385	2	97%
10月31日	始皇帝と大兵馬俑展「始皇帝が夢見た『永遠』―兵馬俑と発掘品から読み解く―」 川村佳男(平常展調整室主任研究員)	382	2	94%
11月21日	始皇帝と大兵馬俑展トークイベント「びじゅチューン！ 井上涼×兵馬俑」 講師：井上涼(映像作家)×柿沼郭(ＮＨＫアナウンサー)ほか	363	2	100%
11月28日	始皇帝と大兵馬俑展「銅車馬―始皇帝の乗った車駕―」 講師：呉永琪(秦始皇帝陵博物院名誉院長)	273	2	91%
28年3月26日	黒田清輝展「黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み」 講師：山梨絵美子（東京文化財研究所企画情報部部長／本展企画・立案）	238	2	85%

③シンポジウム　計1回　参加者数284人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
12月19日	始皇帝と大兵馬俑展シンポジウム「秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―」 基調講演「秦王朝と兵馬俑の考古学」川村佳男(平常展調整室主任研究員) 報告1「秦鏡と秦人の“破鏡”習俗について」宋遠茹(陝西省考古研究院副研究員) 報告2「秦王朝を駆けた馬」菊地大樹(京都大学人文科学研究所特別研究員) 報告3「秦始皇帝陵および陪葬坑の考古学的新発見」陳洪(秦始皇帝陵博物院副研究館員)	284	2	89%

④テーマ別講演会　計1回　参加者数　365人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	"良い"の割合
28年1月16日	顔真卿と唐時代の書ものがたり 講師：鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員） 富田淳（企画課長）	365	2	86%

⑤その他講演会　計0回　参加者数0人

実施日	内容	参加者数(人)	担当研究員(人)	"良い"の割合
―	―	―	―	

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　120回　　参加者総数　11,669人

○列品解説　54回　参加者総数　6,100人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
4月1日	桜からつくられた仏像 講師：淺湫毅（教育講座室長）	176	2
4月3日	鑑賞ガイド 講師：淺湫毅（教育講座室長）	67	2
4月7日	正倉院所在の法隆寺献納宝物の綾幡足を中心に 講師：沢田むつ代（客員研究員）	75	2
4月8日	今日はお釈迦様の誕生日　摩耶夫人像のお話 講師：三田覚之（教育普及室研究員）	92	2
4月10日	鑑賞ガイド 講師：神辺知加（教育講座室主任研究員）	27	2
4月14日	梁山夫婦塚の出土遺物 講師：白井克也（考古室長）	80	2
4月21日	象がやってきた！ 講師：加藤弘子（日本学術振興会特別研究員）	65	2
4月24日	中国・南北朝時代の書 講師：富田淳（列品管理課長）	90	2
4月28日	インド更紗鑑賞入門 講師：小山弓弦葉（工芸室主任研究員）	98	2
5月12日	長野・光明寺の阿弥陀如来坐像について 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）	128	2
5月19日	国宝 和歌体十種の魅力 講師：恵美千鶴子（東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員）	150	2
6月2日	古代中国漆工芸の大作　夾紵大鑑 講師：谷豊信（学芸研究部長）	65	2
6月9日	日御碕神社の甲冑と模写について 講師：池田宏（上席研究員）	85	2
6月30日	京の姿、厳島の姿 講師：金井裕子（特別展室研究員）	83	2
7月7日	インドネシアのワヤン 講師：白井克也（考古室長）	78	2
7月14日	呉服商「大彦」の小袖コレクション 講師：高木結美（特別展室アソシエイトフェロー）	148	2
7月28日	キリシタン遺品にみるマリア信仰 講師：神辺知加（教育講座室主任研究員）	112	2
8月7日	国宝になった醍醐寺の虚空像菩薩立像 講師：西木政統（絵画・彫刻室アソシエイトフェロー）	145	2
8月18日	後水尾院と東博の十二ヶ月花鳥図巻 講師：遠藤楽子（出版企画室研究員）	142	2
8月25日	東洋の白磁 講師：三笠景子（東洋室研究員）	117	2
9月1日	後水尾院と住吉派のはじまり 講師：瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	122	2
9月4日	能面入門 講師：淺湫毅（教育講座室長）	114	2
9月29日	江戸初期の写生図とその背景 講師：小野真由美（貸与特別観覧室主任研究員）	69	2
9月30日	インドから東南アジアへ、仏像の旅 講師：淺湫毅(教育講座室長)	120	2
10月2日	東洋の白磁　―白いうつわをもとめて 講師：三笠景子(東洋室研究員)	78	2
10月3日	文字でたどる朝鮮の歴史 講師：白井克也(考古室長)	73	2
10月6日	トーハクでシルクロード探検 講師：勝木言一郎(出版企画室長)	170	2
10月7日	茶人の執着ここにあり！名物裂の世界 講師：小山弓弦葉(工芸室長)	92	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
10月9日	筆墨の伝える世界　―東アジアのパスポート 講師：富田淳(企画課長)	83	2
10月12日	古代アジア青銅器の旅　なぜ人々は青銅に熱中したのか 講師：谷豊信(学芸研究部長)	130	2
10月20日	国宝武人埴輪と現代日本文化 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	180	2
10月27日	須恵器の展開 講師：白井克也（考古室長）	130	2
11月6日	肖像彫刻 講師：淺湫毅（教育講座室長）	110	2
11月10日	禅宗寺院の中世障壁画 講師：救仁郷秀明（列品管理課長）	89	2
11月13日	縄文土器の見方　大きさ・形・文様 講師：品川欣也(特別展室研究員)	188	2
11月17日	東アジアへと伝わった英雄ヘラクレスのイメージ 講師：勝木言一郎（出版企画室長）	78	2
11月20日	板碑への誘い　中世の石製塔婆 講師：井出浩正(考古室研究員)	110	2
11月27日	埴輪の農夫 講師：河野正訓(考古室研究員)	120	2
12月1日	一遍とみる聖地と信仰 講師：瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	194	2
12月8日	顔真卿と唐時代の書 講師：富田淳（企画課長）	168	2
12月15日	兵馬俑と漢・唐時代の唐俑 講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）	120	2
28年1月5日	北斎の生涯と作品 講師：田沢裕賀（調査研究課長）	310	2
28年1月19日	関野貞と竹島卓一の中国史跡写真 講師：田良島哲（博物館情報課長）	67	2
28年1月26日	特集「寿ぎと絵替わりの美―扇散らし―」 講師：竹内奈美子（工芸室長）	68	2
28年2月2日	銘文刀剣と古墳時代の社会 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）	131	2
28年2月9日	江戸幕府御用絵師板谷家の仕事 講師：金井裕子（特別展室研究員）	133	2
28年2月16日	高知・愛媛の考古学 講師：井出浩正（考古室研究員）	114	2
28年2月23日	石で作られた道具 講師：飯田茂雄（考古室アソシエイトフェロー）	74	2
28年3月1日	おひなさまと日本の人形 講師：三田覚之（教育普及室研究員）	115	2
28年3月8日	「修理」という視点からみた仏画 講師：沖松健次郎（絵画・彫刻室主任研究員）	105	2
28年3月15日	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」 講師：高橋裕次（保存修復課長）	120	2
28年3月23日	桜ギャラリートーク「陶磁器にみる植物表現　桜を中心に」 講師:三笠景子(東洋室研究員)	75	2
28年3月30日	桜ギャラリートーク「長沢芦雪筆桜下美人図の魅力」 講師:山下善也（絵画･彫刻室主任研究員）	136	2
28年3月31日	浮世絵に満開の桜、鑑賞ガイド 講師:田沢裕賀（調査研究課長）	91	2

②特別展関連ギャラリートーク　15回　参加者総数　3,656人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
5月1日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 甲巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「信仰に捧げた若き日の熱誠―国宝 仏眼仏母像と明恵上人―」 講師：大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)	350	2
5月8日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 乙巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「故郷に残る明恵のおもかげ―仏画と仏像―」 講師：大河内智之(和歌山県立博物館主査学芸員)	300	2
5月15日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 丙巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「華厳海会善知識曼荼羅―明恵上人と華厳教学―」 講師：谷口耕生(奈良国立博物館教育室長)	300	2
5月22日	鳥獣戯画展リレートーク 「鳥獣人物戯画 丁巻」 講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員） 「仏師湛慶と動物彫刻」 講師：淺湫毅(教育講座室長)	300	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「古代エジプトの動物について」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	200	2

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「比べてみよう！王さまのすがた」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	200	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「古代エジプトの動物について」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	200	2
7月27日	クレオパトラとエジプトの王妃展キッズデーリレートーク「クレオパトラって誰？」 講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）	200	2
8月10日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	120	2
8月11日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	158	2
8月12日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	195	2
8月13日	クレオパトラとエジプトの王妃展クレオパトラウィークギャラリートーク 講師：井上洋一(企画部長)	140	2
28年1月20日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	305	2
28年1月21日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	316	2
28年1月22日	大兵馬俑展トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」 講師：谷豊信（東京国立博物館学芸研究部長）	372	2

③東京芸術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク　51回　参加者総数 1913人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者(人)
12月2日、12月3日、12月9日、12月10日	4	スリリングな仏画『二河白道図』	杉原諒	115
12月11日、12月12日、12月18日、12月19日	4	アンコール時代の建築装飾	吉村苑子	122
1月5日、1月13日、1月15日、1月21日	4	『砧蒔絵硯箱』を読む	鈴木愛乃	165
1月6日、1月26日、2月4日、2月10日	4	青木繁、最後の神話画『日本武尊』	西尾真名	167
1月7日、1月30日、2月12日、2月19日	4	鈴木長吉『鷲置物』	李京林	111
1月8日、1月16日、3月1日、3月2日	4	着物からみる江戸時代のファッション	玉井あや	185
1月9日、1月22日、1月28日、1月29日	4	五感で感じる！道成寺『毘沙門天立像』	竹内佑騎	212
1月10日、1月17日、1月31日、2月11日	4	藍涛の『玉堂富貴図』	李趙雪	143
1月20日、1月24日、1月27日、2月9日	4	『厩図屏風』の表現について	武内麻美	130
1月23日、2月7日、2月18日、2月20日	4	前田青邨の目に映った中国石仏	王紫沁	161
2月2日、2月5日、2月16日、2月21日	4	『七宝饕餮文卣』にみる清工芸の精華	川村笑子	109
2月6日、2月13日、2月27日	3	清時代の玉器	巖由季子	119
2月14日、2月17日、2月28日、3月9日	4	刀装にみる鎌倉時代の飾りの意識	田淵可菜	174

3)　連続講座「考古学が熱い！」　計1回(3日)　参加者総数　352人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	″良い″の割合
9 月 11 日	第 1 講「考古学から見たアジアと日本」 講師：白井克也（考古室長） 第 2 講「弥生時代の再葬墓」 講師：品川欣也（特別展室主任研究員）	352	2	97%
9 月 12 日	第 3 講「近年の弥生時代青銅器研究の成果―銅鐸を中心に―」 講師：難波洋三（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長） 第 4 講「古代東アジアの武装と銘文刀剣」 講師：古谷毅（列品管理課主任研究員）			
9 月 13 日	第 5 講「考古学からみた日本仏教」 講師：時枝務（立正大学 文学部史学科 教授） 第 6 講「関東の埴輪と関西の埴輪」 講師：高橋克壽（花園大学 文学部文化遺産学科 教授）			

4)　公開講座　計2回　参加者総数 36人

開催日	テーマ・講師等	参加者数(人)	担当研究員数(人)	“良い” の割合
28 年 3 月 17 日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(1) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室アソシエイトフェロー）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	19	2	95%
28 年 3 月 18 日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」(2) 講師：高橋裕次（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、土屋裕子（保存修復室長）、和田浩（環境保存室長）、酒井元樹（保存修復室研究員）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、大森逸子（保存修復室事務補佐員）	17	2	100%

5) その他展示に関連する事業　計9回　参加者総数　877人

実施日	内容	会場	参加者数(人)	担当研究員(人)
4月11日	インドの仏とヨガ	東京国立博物館	19	2
4月12日	インドの仏とヨガ	東京国立博物館	18	2
5月19日	恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業 上野の山でゾウめぐり	恩賜上野動物園・国立科学博物館・東京国立博物館	32	2
10月1日	YOGA 仏像と過ごすタベ(1)	東京国立博物館	19	2
10月4日	サムルノリ	東京国立博物館	200	2
10月4日	サムルノリ	東京国立博物館	150	2
10月8日	YOGA 仏像と過ごすタベ(2)	東京国立博物館	19	2

10月11日	カヤグム(伽倻琴演奏と併唱)	東京国立博物館	250	2
10月11日	カヤグム(伽倻琴演奏と併唱)	東京国立博物館	170	2

【京都国立博物館】

1)　土曜講座32回　参加者総数　3,721人

特別展覧会関連などの講座

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月4日	あこがれのコスメグッズ-蒔絵の化粧道具-	主任研究員　永島明子	47
4月18日	生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い	上席研究員　山本英男	200
4月25日	新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に	同志社大学教授　狩野博幸	198
5月2日	桃山時代の異国趣味	研究員　福士雄也	196
5月9日	早熟の天才、狩野探幽登場	成安造形大学教授　小嵜善通	200
5月16日	葵祭の美術	保存修理指導室長　大原嘉豊	145
5月23日	博物館のなかで文化財をまもる-文化財と学ぶ自然科学-	アソシエイトフェロー　池田素子	74
5月30日	よろこびをまとう-日本の花嫁衣裳-	教育室長　山川曉	73
6月6日	高僧伝絵の時代	アソシエイトフェロー　井並林太郎	82
6月13日	国宝 小野毛人墓誌をめぐって	列品管理室長　宮川禎一	101
6月20日	京都周辺の古面	企画室長　浅見龍介	92
7月4日	日本で好まれた中国漆器	主任研究員　永島明子	73
7月11日	仁清と乾山　立体絵画への挑戦	副館長　伊藤嘉章	92
7月18日	新出の法華経要文和歌懐紙	主任研究員　羽田聡	60
7月25日	羅漢図像の伝播　中国から日本へ	主任研究員　呉孟晋	55
8月8日	京都大蔵会　－その意義と役割－	佛教大学教授　松永知海	107
9月5日	仏法東漸の道のり　－大蔵経の成立と変遷－	花園大学教授　中尾良信	197
10月24日	光悦の作陶―自在な発想と造形―	研究員　降矢哲男	114
10月31日	「琳派」の継承と広がり	研究員　福士雄也	109
11月7日	風神雷神図屏風の転生	大和文華館　学芸部長　中部義隆	200
11月14日	宗達の目の記憶	大阪大学大学院　文学研究科教授　奥平俊六	169
1月9日	冷泉家の年中行事	公益財団法人　冷泉家時雨亭文庫理事長冷泉為人	102
1月16日	刀剣を楽しむ　－名物刀を中心に－	研究員　末兼俊彦	200
1月23日	猿へのまなざし　－申年にちなんで－	アソシエイトフェロー　井並林太郎	95
1月30日	唐物天目　－種類と価値観－	研究員　降矢哲男	93
2月6日	行幸行列図を読む	研究員　福士雄也	95
2月13日	典雅なる装い　－京都国立博物館所蔵 宮廷装束コレクション－	教育室長　山川曉	101
2月20日	科学機器による仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	85
2月27日	京の雛飾りの特色と変遷について　－ひいな遊びからひなまつりへ－	平等院ミュージアム鳳翔館学芸員田中正流	100
3月5日	みちのくの経塚遺宝　－秋田県松岡経塚をめぐって－	列品管理室長　宮川禎一	117
3月12日	教育普及の仕事　－ものと人との橋渡し－	研究員　水谷亜希	42
3月19日	国宝　山越阿弥陀図の謎を探る	保存修理指導室長　大原嘉豊	107

2)　記念講演会　1回　200人

実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月10日	くらしを彩る琳派の美	京都美術工芸大学学長 河野元昭	200

3)　夏期講座　1回（3日）206人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
7月29日	第1講「宝剣　神仏に捧げられた刀」	研究員　末兼　俊彦	206
	第2講「中国北朝の石窟寺院―観想・礼拝の場と造形」	京都大学人文科学研究所准教授　稲本泰生	
	第3講「社寺に奉納された陶磁器」	研究員　降矢哲男	
7月30日	第1講「葵祭（賀茂祭）の有職」	文化庁文化財部伝統文化課文化財調査官（工芸技術部門）　猪熊兼樹	
	見学　下賀茂神社（正式名：賀茂御祖神社）		
7月31日	第1講「禅宗寺院の仏像」	企画室長　浅見龍介	
	第2講「若狭国鎮守神人絵系図（京博蔵）について」	研究員　井並　林太郎	
	第3講「シャルトル大聖堂の聖遺物とステンドグラス」	名古屋大学副総長・名古屋大学大学院文学研究科教授　木俣　元一	

4)　社会科教員のための向上講座　1回　91人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
10月14日	講演「「琳派―京を彩る」について」 館内実地研修　「琳派―京を彩る―」展	教育室長　山川　曉	91

5)　セミナー・シンポジウム等　4回　627人

開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
4月11日	記念座談会「日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する!!」 講師：山下裕二（明治学院大学教授・日本美術応援団団長） 井浦　新（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員3号） 山本英男（京都国立博物館学芸部上席研究員）	200
8月29日	記念シンポジウム「仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり」 基調講演　司会：鈴木昌也(仏教大学) 講師：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長) 座 談 会　司会：宮崎健司(大谷大学教授) パネリスト：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)	107

	中尾良信(花園大学文学部教授)、松永知海(佛教大学仏教学部教授)	
10月17日	京都ミュージアムズ・フォー　連携フォーラム「琳派を飾る　―展覧会から見えるもの―」 （京都国立近代美術館）学芸課主任研究員　小倉実子 （京都市立美術館）学芸課長　尾崎眞人 （京都文化博物館）学芸課長補佐　洲鎌佐智子 （京都国立博物館）学芸部教育室長　山川　暁	120
11月3日	琳派400年記念国際シンポジウム「琳派この一作　～私の見方・楽しみ方～」 パネリスト：井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員3号） クリストフ・マルケ氏（日仏会館・日本研究センター所長） ジョン・カーペンター氏（NYメトロポリタン美術館日本美術キュレーター） 辻惟雄氏（MIHO MUSEUM館長） 山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）	200

6)　その他展示に関連する事業　3回　55人

実施日	内容	講師	参加者数(人)
7月19日、7月20日	少年少女博物館くらぶ「ドキドキ！刀にふれてみよう」	研究員　末兼俊彦	40
2月11日	大人の博物館くらぶ「古代の鏡　鋳造体験」	列品管理室長　宮川禎一	15

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　15回　　参加者総数　　2,123人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月18日	「見返絵のある久能寺経について」	名誉館員　梶谷亮治	87
4月25日	「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」	学芸部企画室長　野尻忠	85
5月9日	「久能寺経と一品経」	根津美術館理事長・学芸部長　松原茂	102
6月13日	「木内省古の正倉院模造―木画紫檀双六局模造をめぐって―」	元宮内庁正倉院事務所保存課長　木村法光	86
8月 8日	「天武・持統天皇の理想の都―藤原宮と新益京―」	東京学芸大学名誉教授　木下正史	194
8月22日	「東アジアのなかの白鳳仏」	大阪大学大学院教授　藤岡穣	194
9月 5日	「白鳳寺院を飾った工芸」	学芸部長　内藤栄	194
9月19日	「白鳳の童形仏とその周辺」	上席研究員　岩田茂樹	187
10月31日	「王朝びとの年中行事―文学と絵画をめぐって―」	公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長　冷泉為人	163
11月 1日	「正倉院宝物に学ぶ北村家三代の漆工芸」	漆芸家　北村昭斎	196
	「奈良国立博物館と正倉院展の伝統」	館長　湯山賢一	
	「奈良国立博物館と正倉院展の伝統 Part.2」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	
	「森鴎外と正倉院」	東京国立博物館 博物館情報課長　田良島哲	
	パネルディスカッション	北村昭斎、湯山賢一、杉本一樹、田良島哲	
11月 3日	「正倉院の仏具とその収納箱」	学芸部工芸考古室長　清水健	110
11月 7日	「奈良時代の衣服」	宮内庁正倉院事務所保存課整理室長　田中陽子	162
12月26日	「若宮の誕生とその御祭礼」	春日大社宮司　花山院弘匡	105
28年2月13日	「伊豆山権現像の成立と展開　―保存修理の知見を踏まえて―」	学芸部研究員　山口隆介	87
28年2月27日	「不退の行法　十一面悔過 ―「お水取り」がたどった棘の道―」	東大寺長老　橋本聖圓	171

2)　夏季講座　第44回「白鳳－歴史と美術－」　1回（3日間）609人

開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
8月18日	「白鳳時代論」	奈良大学教授　東野治之	609
	「白鳳時代の小金銅仏―四十八体仏を中心として―」	青山学院大学教授　浅井和春	
	「平城遷都以前の塑像と塼仏―初唐造像受容の様相」	京都大学准教授　稲本泰生	
8月19日	「白鳳の工芸―法隆寺に伝えられた金工品を中心に―」	大正大学教授　加島勝	
	「白鳳仏の源流」	情報サービス室長　岩井共二	
	「古墳が消えた時代―墓制からみた社会の変化と白鳳文化―」	列品室長　吉澤悟	
	「大寺の展開―高市大寺・大官大寺・大安寺―」	奈良市埋蔵文化財調査センター所長　森下惠介	
8月20日	「白鳳の万葉歌」	高岡市万葉歴史館長　坂本信幸	
	「白鳳―花ひらく仏教美術―　―展覧会紹介―」	学芸部長　内藤栄	

3)　サンデートーク　12回　参加者総数　　1,242人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者数(人)
4月19日	「伝記絵を見る　聖徳太子絵伝を中心に」	学芸部研究員　北澤菜月	89
5月17日	「室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師」	学芸部研究員　山口隆介	105
6月21日	「出羽の鏡像」	学芸部工芸考古室長　清水健	81
7月19日	「平安時代の密教修法」	学芸部研究員　斎木涼子	146
8月16日	「文化財を科学するⅡ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	126
9月27日	「第６回　茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部列品室長　吉澤悟	96
10月11日	「偏衫をめぐって」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	88
11月29日	「東大寺僧形八幡神坐像・再説」	上席研究員　岩田茂樹	110
12月20日	「仏伝図の世界―ブッダの生涯を旅する」	学芸部教育室長　谷口耕生	121
1月17日	「古代東アジアの屋根～中国、韓国、日本～」	学芸部主任研究員　岩戸晶子	108
2月21日	「８世紀の鏡」	学芸部研究員　田澤梓	100
3月20日	「文化財修理の現場から～考古資料を中心として～」	学芸部研究員　大江克己	72

4)　その他展示に関連するイベント　18回　参加者総数　　1,735人

実施日	内容	会場	参加者数(人)
5月9日	親と子のワークショップ「消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30
7月30日	薬師寺僧侶による講話	講堂	120
8月1日	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46
8月4日	水煙チョコ鋳造体験「白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう♪」	講堂・葉風泰夢	69
8月21日	講演とコンサート「白鳳を五感で感じる」	講堂	194
8月25日	白鳳展　親子鑑賞会	講堂	44
8月27日	薬師寺僧侶による講話	講堂	197
8月29日	夏休み親子講座「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19
9月4日	薬師寺僧侶による講話	講堂	188
9月10日	薬師寺僧侶による講話	講堂	194
9月17日	薬師寺僧侶による講話	講堂	181
10月24日 ～11月9日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第67回正倉院展　親子鑑賞会	講堂・展示室	172
12月11日	奈良トライアングルミュージアムズ 東京セミナー　～冬の奈良の魅力～	奈良まほろば館	48
12月17日	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	43
1月14日	文化財保存修理所特別公開	講堂・修理所	121
2月7日	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・東大寺二月堂	42
2月14日	奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント「仏像を撮ってみよう！」	講堂・地下写場	27

【九州国立博物館】

1)　特別展記念講演会　3回　　参加者総数　710人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
4月25日	戦国・織豊期の九州とアジア 「戦国の九州とアジア - 大内義隆から大友宗麟へ - 」 「豊臣秀吉と九州の諸大名 - 黒田長政・立花宗茂を中心に - 」	九州大学准教授　伊藤幸司 九州大学教授　中野等	289
7月14日	大英博物館キュレーターによる記念講演会 「大英博物館展の楽しみ方」	大英博物館　本展覧会担当キュレーター ベリンダ・クレラー	201
10月24日	開館10周年記念特別展「美の国　日本展」関連記念講演会 「正倉院あぜくら通信　九州版」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	220

2)　講演及びシンポジウム等　38回　　参加者数　4,096人

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
5月1日	しっとこ九博！特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」解説講座 （筑紫野市）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	59
5月2日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 記念シンポジウム　「戦国武将のデザイン」 基調講演：「九州近世大名道具にみる意匠と機能」 個別報告：「大友家」 「黒田家」 「鍋島家」 「松浦家」	立花家史料館館長　植野かおり 大分市美術館参事　長田弘通 福岡市博物館学芸員　宮野弘樹 鍋島報效会学芸員　富田紘次 松浦史料博物館学芸員　久家孝史	200
5月9日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「九州の群雄とアジアの波濤」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	90
5月13日	開館10周年記念特別展「戦国大名」関連　講演会「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」（公益財団法人　九州経済調査協会）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	25
5月14日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「総論：九州国立博物館」	前九州国立博物館館長　三輪嘉六	12
5月16日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子 展示課展示調整室研究員　一瀬　智	60
5月23日	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波濤 - 」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「貿易都市の考古学」 「戦国九州の刀剣」	展示課展示調整室　岸本圭 文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60
5月28日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「文化交流展示室を散歩する」	展示課長　楠井隆志	6
5月28日	文化財保存交流セミナー「韓国の海事文化遺産について」	韓国国立海洋文化財研究所水中発掘課長　文煥晳	50
6月11日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「当館の文化財収集について」	文化財課長　冨坂賢	6

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
6月14日	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」 公開シンポジウムⅠ 「地域と共に考える文化財の防災減災」 第1部　基調講演 「災害の歴史から学び、防災・減災の社会へ―東日本大震災の地で考える―」 第2部　事例報告 「東日本大震災後の民俗芸能の再開」 「阪神淡路大震災から始まった歴史資料ネットと地域への展開 　関西地域における震災・水害と文化財防災」 「市民とともに歩む文書館―尼崎市立地域研究史料館の取組―」 「和歌山における地域歴史遺産保全活動について」 「学生ボランティアの歴史遺産保存―茨城史料ネットの活動から―」 第3部パネルディスカッション 「地域と共に考える文化財の防災減災―地域歴史遺産、市民参加、大学・ミュージアム、悉皆調査、過疎化・高齢化・危機管理―」	宮城学院女子大学学長・東北大学名誉教授　平川　新 東北歴史博物館　小谷竜介・大久保春野 近大姫路大学　松下正和 尼崎市立地域研究史料館　河野未央 和歌山県立博物館　前田正明 和歌山県教育委員会　三本周作 茨城大学　添田仁 茨城大学大学院　安田千明 司会：特任研究員　　本田光子 パネリスト：東北大学災害科学国際研究所　天野真志・京都造形芸術大学　内田俊秀・神戸大学大学院　奥村弘・対馬市教育委員会　田中淳也・国立民族学博物館　日高真吾・ＮＰＯ文化財保存支援機構　三輪嘉六・豊田市美術館　村田眞宏・宮崎歴史資料ネットワーク　山内利秋	180
6月25日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「九博10年の特別展について」	特任研究員室特任研究員　臺信祐爾	7
7月9日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「文化財の科学調査と健康診断」	博物館科学課長　今津節生	6
7月17日	しっとこ九博！特別展「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 解説講座（筑紫野市）	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	58
7月19日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 「ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～」	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	200
7月23日	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「国際交流、教育普及そしてボランティア」	交流課長　石橋伸二	8
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 「影絵人形ワヤンのみかた」	元当館主任研究員　池内一誠	110
8月4日	特別展「大英博物館展」関連　講演会 「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 （公益財団法人　九州経済調査協会）	企画課長兼文化交流展室長　　河野一隆 企画課研究員　西島亜木子	22
9月5日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座）「『美の国　日本』のみどころ」	展示課長　楠井隆志	69
10月18日	九州国立博物館開館10周年記念「アジア交流博物館長サミット」 第1部 テーマ① 「共同研究や保存修復活動から展示へ」 「文化財保存修理に特化した人材育成」 テーマ②「交流から展示へ」 第2部 テーマ③「教育普及・市民サービス」	コーディネーター　小泉惠英 内蒙古博物院長　タ・ラ タイ王国文化省芸術局副局長　サハプーム・プーミッティティラート 韓国伝統文化大学校校長　キム・ゼヨル ベトナム国立歴史博物館長　グェン・ヴァン・クゥン 韓国国立中央博物館企画運営団長　チョ・ヒョンレ 韓国国立広州博物館長　キム・ジョンマン 中国文物交流中心主任　ワン・ジュン 韓国国立扶餘博物館長　ク・イルフェ	80
10月23日	しっとこ九博！特別展「美の国　日本」解説講座（筑紫野市）	展示課長　楠井隆志	50
10月31日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演会 「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	館長　島谷弘幸	200
11日1日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美の国　日本」 「美の国の工芸」	展示課長　楠井隆志 文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	150
11月3日	開館10周年記念イベント「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念講演会 新羅王子がみた大宰府 講演1「新羅王子がきた時代」 講演2「大野城築城と新羅」 講演3「「西の都」大宰府と客館」	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤 大野城市教育委員会　上田龍児 太宰府市教育委員会　井上信正	194
11月15日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」 「南海の宝石　琉球王国」	企画課研究員　森實久美子 企画課特別展室長　原田あゆみ	80

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
11月28日	シンポジウム「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」 Ⅰ.講演、報告 講演「文化資源区がつなぐ列島の未来－東京文化資源区構想を手がかりに」 報告「九州国立博物館運営に伴う経済波及効果」 Ⅱ.地域の取り組み テーマ「新たなまちの賑わいの演出」 テーマ「彫刻による地域の活性化」 テーマ「企業による地域文化の創造」 Ⅲ.シンポジウム パネリスト コーディネーター	 東京大学大学院情報学環教授　吉見俊哉 公益財団法人九州経済調査協会調査研究部　松嶋慶祐 金沢21世紀美術館広報室長　落合博晃 山口県宇部市公園整備局理事ときわ公園長　佐々木俊寿 ベネッセアートサイト直島（瀬戸内海）公益財団法人福武財団　アートマネージメント部門長　笠原良二 内閣府地方創生推進室次長　麦島　健志 文化庁長官官房政策課長　佐藤安紀 東京大学大学院情報学環教授　吉見俊哉 金沢21世紀美術館広報室長　落合博晃 ベネッセアートサイト直島（公財）福武財団アートマネージメント部門長　笠原良二 野村総合研究所社会システムコンサルティング部長　神尾文彦 館長　島谷弘幸 日本経済新聞社編集局文化部編集委員　内田洋一	160
12月6日	開館10周年記念特別公開「田中丸コレクションの茶陶」講演会 田中丸善八とそのコレクション	田中丸コレクション学芸員　久保山炎	25
12月19日	平成27年度九州国立博物館10周年記念シンポジウム 「X線CT用いたを文化財の研究と活用」 「CTを核にした研究の新基盤」 「CTとは何か～原理と撮影手法～」 「CTを使った発掘調査の新技術」 「仏像の健康診断」 「木彫像の樹種推定」	 九州国立博物館学芸部博物館科学課長　今津節生 奈良国立博物館保存修理指導室長　鳥越俊行 九州歴史資料館　文化財調査室　加藤和歳・小林啓 九州国立博物館博物館科学課　楠井隆志・赤田昌倫 京都大学京都大学生存圏研究所　小林加代子・杉山淳司	150
1月9日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　講演会 「アフガニスタンに生命の水を」	医師・ペシャール会現地代表　中村哲	280
1月15日	しっとこ九博！「「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」解説講座（筑紫野市）	学芸部長　小泉惠英	44
1月16日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　講演会 「心魅するティリヤ・テペ文化」	アフガニスタン文化研究所長　前田耕作	170
1月24日	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災減災 II 第1部基調講演 「あらためて考える文化財の悉皆（しっかい）調査と市民」 第2部 事例報告 1・地域と共に「防災的観点から見た「大分県記録史料調査事業」」 「島原大変肥後迷惑」－熊本県内に残る津波碑の悉皆調査からみえてきたこと - 2・市民と共に 「阪神・淡路大震災以降の文化財保全活動」ー人、まち、時代をつなぐ旧玉置家住宅ー 「新潟県中越大震災と市民参加による資料整理」－十日町市古文書整理ボランティア10年のあゆみ 「「ボランティア」から学ぶ歴史資料保全」 - 東日本大震災の取り組みから - 第3部 パネルディスカッション［16時10分～16時55分］ 地域と共に、市民と共に考える文化財の防災減災	 NPO法人文化財保存支援機構・前九州国立博物館長 三輪嘉六 大分県立歴史博物館　村上博秋 三木市豊かなくらし部商工観光課　辻田政顕 熊本県立装飾古墳館　坂口圭太郎、熊本城調査研究センター美濃口雅朗、天草市文化課　松本博幸 三木市豊かなくらし部商工課観光課　辻田政顕 十日町市教育委員会　髙橋由美子 十日町市博物館・十日町市教育委員会　村山歩 十日町市古文書整理ボランティア写真整理チーム 山内景行 東北大学災害科学国際研究所・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク　天野真志 NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークボランティア 柴田かよ子 NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークボランティア 鳥山美智子 司会：特任研究員　本田光子 パネリスト：神戸大学大学院　京都造形芸術大学　川内淳史・伊達仁美・豊田市美術館　村田眞宏・文化庁　山口俊浩	100
1月30日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座 『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	 展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	150
1月31日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	 学芸部長　小泉惠英 特任研究員　臺信祐爾	140
2月13日	「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推薦記念講演会 講演「遣隋使・遣唐使と古代日本の対外交流」 講演「正倉院宝物と古代の文化交流」 講演「沖ノ島の神宝と古代の文化交流」 まとめ「海の正倉院、沖ノ島の価値を伝えていくために」	 大正大学教授　榎本淳一 宮内庁正倉院事務所　西川明彦 企画課長・文化交流展室長　河野一隆 前九州国立博物館長　三輪嘉六	180

開催日	テーマ	講師	参加者数(人)
2月14日	海底に眠る元寇沈没船の謎 基調報告「鷹島海底遺跡の調査・研究と鷹島1・2号沈没船の発見」 報告1「海底堆積層形成過程からみた鷹島海底遺跡」 報告2「モンゴル襲来と鷹島海底遺跡」 報告3「モンゴルの日本侵攻と高麗の軍需調達問題」 報告4「鷹島海底遺跡における元寇遺物の保存をめぐる諸問題」 報告5「鷹島神崎遺跡の国指定史跡化と活用」	 琉球大学法文学部教授　池田栄史 山口大学教育学部講師　猪原京子 九州大学大学院人文科学研究院教授　佐伯弘次 九州大学大学院人文科学研究院准教授　森平雅彦 奈良県立橿原考古学研究所企画部資料課主任技師 柳田明進 長崎県松浦市教育委員会文化財課長　中田敦之	150
2月27日	シンポジウム「大城（大野城）の謎に迫る！－宇美町からの新たな発信－」 基調講演「大城（大野城）の謎に迫る！」 発表1「考古学から迫る！」 発表2「文献史料から迫る！」 発表3「土木技術から迫る！」 発表4「古代兵器から迫る！」 発表5「地元・宇美から迫る！」 パネルディスカッション コーディネーター パネラー	 福岡県文化財保護課長　赤司善彦 佐賀大学教授　重藤輝行 九州歴史資料館学芸員　松川博一 福岡県文化財保護課技術主査　入佐友一郎 展示課研究員　小嶋篤 宇美町教育委員会学芸員　松尾尚哉 赤司善彦 重藤輝行、入佐友一郎、松川博一、小嶋篤、松尾尚哉	305
3月5日	古代出雲文化フォーラムⅣ　古代の出雲と九州、そして東アジア 第1部　基調講演「古代における九州と出雲」 講演1「先史東アジア海域交流の一側面　－朝鮮半島・北部九州・出雲をつなぐモノ－」 講演2「鉄・玉・貝の道でつなぐ九州と出雲」 講演3「古代国家と出雲・九州　－東アジア世界のなかで－」 第2部　特別講演「大国主命は医薬の神」 座談会　「古代の出雲と九州、そして東アジア」	 前九州国立博物館長　三輪嘉六 島根大学法文学部教授　平郡達哉 企画課長・文化交流展示室長　河野一隆 島根大学法文学部教授　大日向克己 前島根大学学長、島根大学名誉教授・特任教授 小林祥泰 コーディネーター：島根大学ミュージアム准教授會下和宏 パネリスト：大日向克己、河野一隆、平郡達哉	260

3)　ミュージアムトーク　46回　参加者総数　1,406人

・担当研究員数　延べ　46人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後3時より15～30分間）

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
4月7日	柿右衛門窯製品の特徴	企画課アソシエイトフェロー　酒井田千明	50
4月14日	川原寺裏山遺跡の謎	企画課文化交流展室主任研究員　市元塁	36
4月21日	中世博多	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	25
4月28日	ＣＴを使った文化財の健康診断実施中	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫	28
5月12日	再現文化財円成寺　大日如来坐像について	展示課長　楠井隆志	40
5月19日	バンチェンの謎	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	30
5月26日	大宰府式鬼瓦って何だ！？	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	35
6月2日	展示室の環境管理	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	15
6月9日	中世刀剣の美	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60
6月16日	長崎の唐人屋敷	展示課展示調整室研究員　一瀬智	20
6月23日	天神さまの秘密	企画課特別展室研究員　森實久美子	25
6月30日	海のシルクロード　～長崎・対馬・松前～	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	30
7月7日	大宰府の信仰	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	25
7月14日	春日市は弥生時代のハイテク基地～春日市出土の銅製品と鋳型～	博物館科学課長　今津節生	30
7月22日	禅の書にみる「以心伝心」	文化財課資料登録室長　丸山猶計	30
7月28日	むしの考古学	交流課交流事業室主任研究員　進村真之	30
8月4日	銅鐸に描いた生きものたち	辰馬考古資料館研究員　青木政幸	49
8月11日	シルクロードのガラス	学芸部特任研究員　臺信祐爾	30
8月18日	鷹島海底遺跡の魅力と水中考古学の成果	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	30
9月1日	縄文時代の丸木舟について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	25
9月8日	埴輪の世界	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭	30
9月15日	中世の手箱と硯箱	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	30
9月22日	東洋医学と西洋医学	企画課研修生　藤生京子	44
9月29日	ロシアの接近と北方調査	展示課展示調整室研究員　一瀬智	16
10月6日	色を纏ったモノ	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞	13
10月14日	田中丸コレクションの茶陶	企画課特別展室アソシエイトフェロー　酒井田千明	30
10月20日	Ｘ線で見る文化財の鋳造と鍛造	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫	30
10月27日	琉球と海上の道	企画課特別展示室長　原田あゆみ	20
11月3日	阿弥陀の浄土をのぞいてみよう	企画課特別展室研究員　森實久美子	30
11月10日	唐物と室町水墨画	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	35
11月17日	新羅王子がみた大宰府	展示課情報サービス室研究員　小嶋篤	60
11月24日	船について考える	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	35
12月1日	高麗・朝鮮の絵画	文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	20
12月8日	正倉院宝物の修理と模造	展示課展示調整室主任研究員　今井涼子	15
12月15日	密教法具の世界	文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	15
12月22日	長崎ゆかりの唐様の書	文化財課資料登録室長　丸山猶計	20
1月5日	太宰府天満宮の地宝	企画課文化交流展室主任研究員　市元　塁	30
1月13日	新春特別公開「国宝　初音の調度」について	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	35
1月19日	博物館における科学調査について	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	30

実施日	テーマ	解 説 者	参加者数(人)
1月26日	鉄製甲冑と倭王権	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	10
2月2日	シルクロードの美術	学芸部特任研究員　臺信祐爾	30
2月9日	トピック展「祈りのかたち八幡（前期）」	企画課研究員　鷲頭　桂	50
２月16日	元寇の沈没船を守れ～沈没船の保存に向けた取り組み～	博物館科学課長　今津節生	40
2月23日	正倉院宝物について	文化財課課長　冨坂　賢	30
3月1日	トピック展「祈りのかたち八幡（後期）」	企画課研究員　鷲頭　桂	35
3月8日	長崎・聖福寺の鐘	展示課長　楠井隆志	30

4)　その他展示に関連するイベント　25回　　参加者数　　272,070人

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）
文化交流展	7月25日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 昆虫採集 博物館科学特捜部！（昆虫採集）	九州国立博物館	40
	8月8日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り（標本作り）	九州国立博物館	40
	8月8日～ 11月3日	「新羅王子がみた大宰府」関連九博・太宰府市コラボ展示 『太宰府歴史展2015』	太宰府市文化ふれあい館	―
	8月29日 8月30日	企画展「むしの考古学」関連企画　移動博物館車「ゆめはく」号がやってくる	レストラン前広場	400
	9月1日～ 9月13日	九州国立博物館開館10周年記念イベント 博物館で昆虫採集と野鳥調査？―意外と知らない博物館の仕事―	エントランス	44,450
	10月25日	トピック展「新羅王子がみた大宰府」みどころ解説と太宰府市内史跡案内バスハイク	九州国立博物館および太宰府市内史跡地	41

展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数(人)
特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」	4月14日～ 5月31日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」 関連香椎工業高校製作鎧兜展示	エントランス	155,690
	4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着体験	エントランス	120
	4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	九州国立博物館屋外	950
	4月29日	ウオーキングツアー　歴史学者と行く！岩屋城探訪	太宰府市内史跡地	雨天中止
	5月3日	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	エントランス	350
	5月5日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	エントランス	409
	5月10日	九州国立博物館杯　戦国大名展記念「さいふごま大会」	ミュージアムホール	69
	5月17日	開館10周年記念特別展「戦国大名」開催に伴う熊本県観光ＰＲ　くまモン・うとん行長しゃん・熊本城おもてなし武将隊ステージ	ミュージアムホール	1,500
	5月30日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	九州国立博物館	11
特別展「大英博物館展―100のモノが語る世界の歴史―」	7月14日～ 7月26日	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	九州国立博物館屋外	-
	7月18日 7月19日 8月28日	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム	九州国立博物館	246
	8月1日	アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展	ホテルニューオータニ博多	26
	8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	九州国立博物館	8
	8月19日	九州国立博物館杯　特別展「大英博物館展」記念　第2回さいふごま大会	ミュージアムホール	50
特別展「美の国 日本」	9月4日	プレイベント　開講！博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	ホテルニューオータニ博多	238
	11月23日	開館10周年記念特別展「美の国　日本記念」　九州国立博物館杯さいふごま大会	ミュージアムホール	100
特別展「黄金のアフガニスタン」	1月1日～ 1月24日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30年のあゆみ～	エントランス	67,022
	1月11日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 オリエンタル・ベリーダンスショー	ミュージアムホール	280
	2月7日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念　九州国立博物館杯さいふごま大会	エントランス	30

2-⑵-④ 児童生徒を対象とした教育普及事業

平成28年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	通年
開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー、本館地下教育普及スペース、東洋館6室オアシス
入場者数	181,984人　(※東洋館6室オアシスと本館19室参加者数を計上)
担当研究員数	10人
事業内容	本館19室に「みどりのライオン体験コーナー」で、伝統模様のスタンプでポストカードを作る「トーハクでデザイン」、作品の制作工程や技法がわかる「トーハクで〇〇ができるまで」、e国宝がさらに使いやすくなった「トーハクで国宝をさぐろう」、3Dの作品画像を自由に動かせる「トーハクをまわそう」の5つの体験コーナーを運営した。 各種レクチャーや体験型プログラムなどを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。また、総合文化展鑑賞の手引きとして、ワークシート4種を制作し、通年配布した。

2)「親と子のギャラリー」

「美術のくにの象めぐり」	
開催期間	4月7日 ～ 5月17日（36日間）
開催場所	本館特別2室
入場者数	111,440人　(※本館入館者数を計上)
担当研究員数	3人
事業内容	春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさを伝える教育的展示。国立科学博物館、上野動物園との連携企画であり、国際博物館の日記念イベント「動物めぐり」（2015年度で10回目）の関連企画。今回は子どもから人気が高く、多くの作品にも登場する「象」をとりあげる。日本およびアジアの各地域と国でつくられた絵画、彫刻、工芸などさまざまな色、形、大きさの象をテーマとした作品を展示した。
関連事業	・国際博物館の日記念ツアー「上野の山でゾウめぐり」　5月17日　(※詳細は　2-⑵-③　5)その他展示に関する事業を参照)
「ミイラとエジプトの神々」	
開催期間	7月22日 ～9月13日（48日間）
開催場所	東洋館3室
入場者数	64,229人　(※東洋館入館者数を計上)
担当研究員数	3人
事業内容	家族での来館のきっかけ、および、総合文化展鑑賞の一助となることを目的に、わかりやすいテーマ設定のもと時代やジャンルを超えた作品を展示する教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。同時期に開催された特別展の関連展示として、館蔵の作品に他館からの借用作品を加えて展観。当館におけるエジプト考古の代表作品である「パシリエンプタハのミイラ」を中心に「１、古代エジプトでは、死んだらどうなる？」「２、古代エジプトでは、動物も神様だった！？」の２つのテーマで展示し、子どもたちに人気のあるミイラと、それにまつわるエジプトの死後の世界を中心に紹介した。
関連事業	・ファミリーワークショップ「親子でエジプト探検 in ナイト・ミュージアム」　8月22日　(※詳細は　2-⑵-④　3)②ワークショップ　を参照)

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計198,477人、

① 平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　181,984人

ハンズオン体験型展示	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	
	期　　間	4月1日～12月23日
	開催場所	東洋館6室オアシス
	参加者数	27,738人
ハンズオン体験型展示	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	
	期　　間	4月15日～12月23日
	開催場所	本館19室みどりのライオン体験コーナー
	参加者数	154,246人

② 平常展示関連 ワークショップ及び関連事業　　回数　56回　参加者数計　16,493人

ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	
	期　　間	①4月4日　②4月5日
	開催場所	本館2階ラウンジ
	参加者数	①453人　②799人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「屏風体験！」（事前申込制）	
	期　　間	5月9日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①33人　②28人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「呉服商『大彦』の小袖コレクション」（本館特別1室・特別2室）関連 ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	6月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	15人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	特集「呉服商『大彦』の小袖コレクション」（本館特別1室・特別2室）関連 おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦！」（事前申込制）	

	期　　間	6月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	18人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「金工」（本館13室）関連 ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	①7月25日　②7月26日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	①29人　②29人
	担当研究員数	5人
ワークショップ及び関連事業	親と子のギャラリー「ミイラとエジプトの神々」（東洋館）関連 ファミリーワークショップ　親子でエジプト探検 in ナイト・ミュージアム（事前申込制）	
	期　　間	8月22日
	開催場所	東洋館3室、東洋館シアター
	参加者数	52人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「能面　女面の表情」（本館14室）関連 ファミリーワークショップ「能の裏側体験」（事前申込制）	
	期　　間	9月12日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	20人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	特集「能面　女面の表情」（本館14室）関連 おとなのためのワークショップ「能の裏側体験」（事前申込制）	
	期　　間	9月12日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	20人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「着てみてポーズ！ 中国・韓国・日本の伝統衣装」	
	期　　間	9月29日～10月12日（会期中毎日・13日間）
	開催場所	東洋館１階エントランスホール
	参加者数	1,056人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「YOGA 仏像と過ごす夕べ」	
	期　　間	①10月1日　②10月8日
	開催場所	東洋館１室
	参加者数	①19人　②19人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「アジアンぬりえ」	
	期　　間	①10月3日　②10月4日　③10月10日　④10月11日
	開催場所	東洋館１階エントランスホール
	参加者数	①83人　②141人　③126人　④102人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	韓国伝統芸能「サムルノリ（太鼓演奏）」	
	期　　間	10月4日　①14時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館前
	参加者数	①200人　②150人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	各国伝統音楽「キルギスの伝統楽器コムズの調べ」	
	期　　間	10月6日　①13時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館１室
	参加者数	①150人　②120人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	各国伝統音楽「中国の伝統楽器古箏の調べ」	
	期　　間	10月9日　①13時00分～　②15時30分～
	開催場所	東洋館８室
	参加者数	①150人　②130人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	韓国伝統芸能「カヤグム（伽倻琴演奏と併唱）」	
	期　　間	10月11日　①14時00分～　②15時30分～
	開催場所	平成館大講堂
	参加者数	①250人　②170人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月17日　②10月18日　③10月24日　④10月25日
	開催場所	平成館考古展示室
	参加者数	①24人　②24人　③21人　④25人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「日本の考古」（平成館考古展示室）関連 子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！」（事前申込制）	
	期　　間	①10月17日　②10月18日　③10月24日　④10月25日
	開催場所	平成館考古展示室
	参加者数	①22人　②14人　③7人　④14人
	担当研究員数	4人

ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」（本館8室）関連 おとなのためのワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	12月18日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	24人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「暮らしの調度」（本館8室）関連 ファミリーワークショップ「貝合せに挑戦」（事前申込制）	
	期　　間	12月19日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	19人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「博物館に初もうで」（本館特別1・特別2室）関連「サルの楽園」	
	期　　間	28年1月2日、1月3日
	開催場所	本館2階便殿前
	参加者数	10,250人
ワークショップ及び関連事業	特集「おひなさまと日本の人形」（本館14室）関連 ファミリーワークショップ「ひいな遊び　―立雛をつくろう！―」（事前申込制）	
	期　　間	28年2月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	24人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集「おひなさまと日本の人形」（本館14室）関連 おとなのためのワークショップ「ひいな遊び　―立雛をつくろう！―」（事前申込制）	
	期　　間	28年2月20日
	開催場所	本館地下教育普及スペース
	参加者数	22人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	総合文化展「屏風と襖絵」（本館7室）関連 ファミリーワークショップ「桜の庭で屏風体験」（事前申込制）	
	期　　間	28年3月26日　①10時～　②14時～
	開催場所	応挙館
	参加者数	①24人　②24人
	担当研究員数	4人
ワークショップ及び関連事業	桜ワークショップ　「春らんまん　桜ぬりえ」	
	期　　間	①28年3月26日　②28年3月27日
	開催場所	本館2階ラウンジ
	参加者数	①875人　②718人
	担当研究員数	3人

4）東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校25校1,095人／中学校120校4,663人／高校60校2,472人／中高一貫2校9名 計207校8,239人 ※児童・生徒のみを計上。この他引率教員が539人 ※特別支援学校、特別支援学級も含む 盲学校のためのスクールプログラム 4校　22名
担当研究員数	5人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、ガイダンスや対話形式の伝統文化理解のための鑑賞教育プログラムを児童・生徒に実施した。スクールプログラムのパンフレットは近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。 視覚障害者の鑑賞支援プログラム「盲学校のためのスクールプログラム」を継続実施した。

5）職場体験の受入

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校15校46人／高校 4校14人、計19校60人
担当研究員数	2人
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。生涯学習ボランティアとともに、お客様案内やアクティビティの補助等、お客様サービスに関わる業務の体験をする。要項は近隣学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、ウェブサイトにも掲載した。

6）教員を対象とした事業の実施

① 教員鑑賞会の実施

期　　間	①5月8日（特別展「鳥獣戯画展」）、②8月5日（総合文化展）、③10月30日（特別展「始皇帝と大兵馬俑」）
開催場所	平成館大講堂　および　本館地下1階みどりのライオン
参加者数	②296人、②41人、③209人、　　計546人
担当研究員数	6人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム「スクールプログラム」を中心とした博物館利用方法、特別展観覧の手引きとして作成したジュニアガイドの活用方法の説明とともに、展示の解説を行った上で実際に展示を観覧することで、博物館利用についての興味関心、理解を深める。また、指導要領と関連した授業案を提案した。

② 全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

期　　間	7月29日～31日
開催場所	本館地下教育普及スペース、展示室、本館会議室／東京芸術大学
参加者数	39人
担当研究員数	5人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象とした研修会。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めることを目指す。今年度は第12回目として「日本の染・織・刺繍」をテーマに博物館では歴史に関する講義と鑑賞、大学では実技研修を実施した。

【京都国立博物館】

1）少年少女博物館くらぶ　2回　40人

事業名：ドキドキ！刀にふれてみよう	
実施日	7月19日、20日
対象	小学生から中学生
参加者数	小中学生40人

2）博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　10回

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者等

3）児童・生徒の無料入場

・特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」 中学生以下の入場料を無料
・特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京を彩る」 中学生以下の入場料を無料
・平成知新館「名品ギャラリー」　高校生以下の入場料を無料

4）「平成知新館こどもガイド」作成

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者（子ども）

5）特別展観「仏法東漸―仏教の典籍と美術―」鑑賞ガイド「お経って何だろう？」作成

・発行部数　20,000部
・配 布 先　館内観覧者

6）特集陳列「獅子と狛犬」鑑賞ガイド「今日から君も獅子と狛犬博士」作成

・発行部数　10,000部
・配 布 先　館内観覧者

7）京博ナビゲーターによる活動

事業名：　さわって発見！ミュージアム・カート	
実施日	開館日の毎日　10:15～16:15（10月10日～11月23日と年始を除く）
場所	平成知新館　2階、3階
対象	子どもを含む来館者全員
参加者数	定員なし
事業内容	京博ナビゲーター（ボランティア）が、館内に設置された「ミュージアム・カート」で来館者と対話しながら、文化財の魅力を発信し、展示品への理解を深める手助けをした。考古・彫刻・絵画などに関するハンズオン教材を、ミュージアム・カートの教材として開発・作成し、活用した。
事業名：　ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」	
実施日	10月10日～11月23日　開館日の毎日　10:15～16:15　(39回)
場所	平成知新館　2階レファレンスコーナー・ミュージアムラボラトリー
対象	子どもを含む来館者全員
参加者数	15,841人
事業内容	京博ナビゲーター（ボランティア）が、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に合わせて、尾形光琳の下絵をもとにしたスタンプを用いてミニワークショップを行い、来館者と対話しながら琳派の作品の魅力を発信し、展示品への理解を深める手助けをした。

8）文化財ソムリエによる活動　9回　721人

事業名：　文化財に親しむ授業（文化財ソムリエによる訪問授業）	
実施概要	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。高精細複製を教材とした訪問授業を実施。講師は、文化財ソムリエ（京都国立博物館 文化財に親しむ授業講師）が担当した。
対象	京都市内の小中学校
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、ＮＰＯ法人京都文化協会、京都市教育委員会）
実施内容	6月9日　京都市立大枝中学校　2年生 159名　「八橋図屏風」尾形光琳筆 7月9日　京都市立下鳥羽小学校　6年生81名　「八橋図屏風」尾形光琳筆 9月4日　京都市立柏野小学校　6年生 23名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 10月6日　京都市立開晴中学校　1年生95名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 10月30日　京都市立衣笠中学校　1年生185名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆

	11月18日　京都市立小栗栖宮山小学校　6年生63名　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 12月7日　京都市立南太秦小学校　6年生52名　「四季花鳥図屏風」雪舟筆
事業名： 琳派400年記念　風神雷神おしゃべり鑑賞会	
実施日	11月14日、15日
開催場所	堀川御池ギャラリー（ギャラリーC）
参加者数	63人
事業内容	京都市中学校総合文化祭に関連して、生徒が制作した琳派関連作品の展示会場に、俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の高精細複製を持ち込み、文化財ソムリエによる鑑賞会を実施した。

9）教員を対象とした事業の実施

①講座等の開催　2回　120人

事業名：文化財の複製を用いた授業に関する交流会	
実施日	7月22日
開催場所	元京都市立成徳中学校　大会議室
参加者数	29人
担当研究員数	2人
事業内容	京都市内の小中学校教員、文化財ソムリエ、京都国立博物館・京都文化協会職員、その他文化財の複製を用いた教育活動に関心のある人々を交えて、「文化財に親しむ授業」の活動紹介や、意見交換を行った。過去の授業例紹介は、文化財ソムリエ（学生ボランティア）や卒業生が行った。
主催	文化財に親しむ授業実行委員会（京都国立博物館、ＮＰＯ法人京都文化協会、京都市教育委員会）
事業名：社会科教員のための向上講座	
実施日	10月14日
開催場所	平成知新館　講堂・名品ギャラリー
参加者数	91人
担当研究員数	2人
事業内容	京都市教育委員会との連携事業。研究員による講義のあと特別展覧会「琳派―京を彩る―」のギャラリートークと質疑応答、観覧を実施した。小・中・高等学校、総合支援学校の社会科教員を対象とする。
主催	京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

②教員研修等への協力　5回　103人

事業名：京都府私立中学高等学校連合会　メディアと教育研究会　研修会	
実施日	5月23日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　接客室
参加者数	10人
担当研究員数	1人
事業内容	展示方法・教育普及の手法などに関する解説と、展示見学を行った
主催	京都府私立中学高等学校連合会　メディアと教育研究会
事業名：京都府　デザイン系高校教員の勉強会	
実施日	6月5日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　接客室・名品ギャラリー
参加者数	8人
担当研究員数	1人
事業内容	博物館建築・博物館の役割・文化財の修復等に関する解説と、展示見学を行った
主催	京都府　デザイン系高校教員の勉強会
事業名：（小・総）授業実践力向上講座〈図画工作①〉	
実施日	6月12日
開催場所	京都市総合教育センター
参加者数	25人
担当研究員数	1人
事業内容	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会が主催する、小学校教員向けの図画工作の研修講座にて、文化財複製を用いた授業実践のための講義を行った。
主催	京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会
事業名：尼崎市造形教育研究会	
実施日	8月4日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　講堂・名品ギャラリー
参加者数	48人
担当研究員数	1人
事業内容	博物館の教育普及活動に関する解説と、展示見学を行った
主催	尼崎市造形教育研究会
事業名：教務主任学事視察・研修会	
実施日	28年2月10日
開催場所	京都国立博物館　平成知新館　研修室・名品ギャラリー
参加者数	12人
担当研究員数	2人
事業内容	三角縁神獣鏡をはじめとした犬山市内の古墳からの出土品に関する解説と、展示見学を行った
主催	犬山市立小中学校教務主任会

③高精細複製を用いた授業実践への協力　5件　約857人

事業概要	高精細複製を用いた授業実践を希望する学校に対して、実践例の紹介や資料の提供、当日の設営・授業の補助などを行った。
対象	京都市内の小中学校
実施内容	10月21日　朱雀中学校　2年生92人　「八橋図屏風」尾形光琳筆 11月7日　烏丸中学校　全校生徒約145人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 28年1月25日　桂中学校　年生約270人　「「風神雷神図屏風（俵屋宗達筆）」「八橋図屏風（尾形光琳筆）」ほか 28年1月27日　御池中学校　1年生約230人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆 28年2月2日　洛西中学校　1年生約120人　「風神雷神図屏風」俵屋宗達筆

10）来館学校団体等への対応　10回　約378人

内容	解説や体験プログラム等を提供する
対象	解説や体験を希望した学校団体等
実施内容	5月8日　新潟市立早通中学校（新潟県）生徒4人・引率1人、館長へのインタビュー・展示見学 5月14日　佐賀市立金泉中学校（佐賀県）生徒6人・引率1人、博物館業務に関するインタビュー・展示見学 9月12日　鴨沂高等学校（京都府）生徒17人・引率1人、ワークショップ・名品ギャラリーに関する解説・展示見学 10月18日　芦屋市立潮見中学校（兵庫県）美術部　生徒25人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 10月21日　鳥取県立倉吉西高校（鳥取県）生徒31人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 10月28日　京都府立京都すばる高校（京都府）生徒40人・引率2人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 11月5日　親和中学校（兵庫県）生徒33人・引率3人、特別展覧会「琳派―京を彩る―」に関する解説・展示見学 28年1月13日　大谷高等学校（京都府）生徒約170人・引率3人、博物館の仕事・名品ギャラリーに関する解説・展示見学 28年2月10日　犬山市教務主任学事視察(愛知県)教務主任12名、犬山市内の古墳からの出土品に関する解説・展示見学 28年3月13日　京都市中学校教育研究会社会科部会（京都府）　生徒20人・引率5人　名品ギャラリーに関する解説・展示見学

11）館外でのワークショップ　2回　256人

事業名：ミニ掛軸をつくろう	
実施日	6月14日
開催場所	仙台市縄文の森広場
参加者数	217人
事業内容	「こどもひかりプロジェクト」が主催する「こども☆ひかりフェスティバルinせんだい 2015」にブース出展し、裂の代わりに紙を使って掛軸の表装を作るワークショップを行った。ブース運営にはこどもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。
事業名：ミニ掛軸をつくろう	
実施日	12月19日
開催場所	仙台市八木山動物公園
参加者数	39人
事業内容	「こどもひかりプロジェクト」が主催する「こども☆ひかりフェスティバルinせんだい 2015」にブース出展し、裂の代わりに紙を使って掛軸の表装を作るワークショップを行った。ブース運営にはこどもひかりユース（東北地方の大学生ボランティア）や、京都国立博物館の文化財ソムリエ（大学生ボランティア）も参加した。

【奈良国立博物館】

1）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間　　事前申し込み制
・場所　　展示会場・講堂等
・学校団体案内数　　8件、計390名
・担当職員数　　4人（ボランティア室）
・事業内容　　当館ボランティアによるスライド学習と展示会場での作品解説

2）世界遺産学習への対応

・期間　　4月～3月　　事前申し込み制
・対応実績　　小学校37校　　計2,440名
・担当職員数　　4人（ボランティア室）
・事業内容　　奈良市教育委員会との共同で、小学生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
当館ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第67回 正倉院展」で制作、計816台の利用があった。

4）子ども向けイベントの実施

実施日	内　　容	会　場	参加者数
5月9日	親と子のワークショップ「消しゴムはんこで、ほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30
8月1日	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46
8月4日	水煙チョコ鋳造体験	地下回廊・講堂	69
8月25日	白鳳展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に白鳳展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：岩井　共二（奈良国立博物館学芸部情報サービス室長）	講堂	44
8月29日	夏休み親子講座「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19
10月24日 ～11月9日	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―
11月3日	第67回正倉院展　親子鑑賞会 小学生とその保護者を対象に正倉院展の見所を解説。展覧会を自由観覧。 講師：田澤　梓（奈良国立博物館学芸部アソシエイトフェロー）	講堂	172

5）職場体験の受入

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	中学校4校9名（2年生）
担当職員数	1名
事業内容	学校教育活動の一環として実施される職場体験の受入を行った。券売業務や監視業務、ミュージアムショップや館内レストラン等に関わる業務の体験をする。

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 教育普及ゾーン（体験型展示室「あじっぱ」）で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムを開発した。 新規開発キット、プログラム：「織りの世界をのぞいてみよう」「じぶんでつくるわとじずかん」「韓国の箱をつくってみよう」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。平成27年度は、特別展「大英博物館展」に関連し、「ワヤン＝クリをぬろう」「101番目はどんなもの」「身近なものdeアート！」「デューラーには負けないぞ」という4つの体験プログラムを提供した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	参加者のべ555名
実施	7月25日、26日
九博子どもフェスタ	
内容	“博物館っておもしろいところ”をテーマに楽しいものづくりや色々な体験ができるイベント
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	九博ボランティア150人 、九州国立博物館を愛する会60人、壱岐市立一支国博物館6人、参加者のべ2,399人
実施	28年2月20,21日
茶道体験（「親子で茶道体験」、「はじめての茶道体験」）	
内容	茶室にて茶道初心者に対して茶道体験を実施
対象	「親子で茶道体験」小・中・高校生とその保護者、「はじめての茶道体験」中学生以上
人数	「親子で茶道体験」30組程度、「はじめての茶道体験」10名程度
実施	各月1回実施

③ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。 「あじっぱ」における特集展示 ①「あじ庵」：「モンゴル」「あやつり人形」「あじっぱキッチン」「おひなさま」 ②「あじぎゃら」：「はらのむしグランプリ」「東南アジアの楽器」「ミャンマー」「はらのなかのはらっぱで」 ③ディスプレイ：「こどもが主役」「動物」「お正月・干支」「中国」 ④あじっぱ屋台展示替え：6つの屋台のうち4つを展示替
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放

④ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験、なりきり考古学者体験	
内容	①なりきり学芸員体験：作品の扱い方、展示の方法を通して学芸員の仕事を紹介する。 ②なりきり考古学者体験：作品の調書の作成、拓本体験を通して考古学者の仕事を紹介する。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大6名（1日3回実施）
実施	「なりきり考古学者」4日、「なりきり学芸員」6日（計10日、のべ30回）

2）学校教育との連携事業の実施

① 職場体験の受け入れ

中学生・高校生の職場体験	
内容	中学校・高等学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進した。
人数	1校につき最大6名
実施	中学校22校から106名（のべ50日間）を受け入れ

② ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	高校生を対象に、学芸業務体験を通して博物館に親しむ機会を提供する。博物館の活動を高校生と学校に理解してもらうことで、今後の博学連携に向けての布石とした。体験型展示室「あじっぱ」で提供するBOXキット「あじっぱカルタ」を充実させるプログラムを実施した。
人数	10校26名
実施	12月～3月の日曜日を中心に全8回

③ 教員研修の受け入れ

社会体験研修（初任者対象）	
内容	初任者教員を対象に、社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	8校14名
実施	平成27年8月8日～30日の期間のうち3日間を3期（のべ9日間）
社会体験研修（10年経過教員対象）	
内容	経験10年経過教員を対象に、社会貢献等の体験の場を提供し、教員の資質向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進を図る。
人数	3校5名
実施	平成27年8月3日～12日の期間のうち2日間を2期（のべ4日間）

④ 教員を対象としたプログラムの実践

福岡県教育センターキャリアアップ講座「博物館を活用した社会科授業づくり」	
内容	教員を対象に、博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	40名
実施	8月29日
福岡県教育センターキャリアアップ講座「教材化に挑戦！ガムランによる音楽科学習指導」	
内容	アジアの民族楽器「ガムラン」について、専門家による実技指導を通してガムランのよさを実感し、学習指導要領の指導事項に沿って教材化する。
人数	28名
実施	8月4日～5日
館主催研修講座「博物館活用術！」	
内容	教員を対象に、博物館機能や展示内容、学校貸出キットなどについて解説し、博物館活動への理解を深め、学校による博物館利用を促進する。
人数	各回20名
実施	8月18日・27日に各2回

⑤ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校、社会教育団体等
実施	計75件（小学校24件、中学校14件、高等学校8件、その他1件）

⑥ 出前講座・授業実践支援事業への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いて博物館の機能やアジア各地・日本の歴史・文化についての講義を行う。また、学校貸出キット「きゅうぱっく」を活用した授業に関して、交流課職員がチーム・ティーチングなどで活動のサポートを行う。
対象	研究員による出前講座・授業実践支援事業を希望した学校
実施	計6校 4月27日　筑紫女学園大学（博物館ガイダンス） 5月22日　春日市立須玖小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 5月27日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座のガイダンス） 7月15日　太宰府市立太宰府中学校（連続出前講座の一環として「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 2月15日　福岡市立西花畑小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援） 2月22日　那珂川町立岩戸小学校（「きゅうぱっく」を活用した授業支援）

⑦ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	体験プログラムやバックヤード見学等を提供する。
対象	来館した学校団体のうち、体験や支援等を希望した学校
実施	計13校 4月23日　宇美町市立原田小学校（「きゅうぱっく」を活用したハンズオン体験） 6月10日　太宰府市立太宰府中学校（個別の展示見学対応） 6月14日　福岡県立筑紫丘高等学校（郷土研究部のフィールドワークに伴うワークショップやバックヤード見学） 6月17日　太宰府市立太宰府中学校（バックヤード見学） 7月10日　佐賀県立盲学校（異文化体験） 9月29日　春日市立春日中学校ブロック特別支援学級（あじっぱプログラムを活用した体験） 9月30日　太宰府市立太宰府小学校（九州国立博物館のバリアフリー施設に関する調査活動） 10月21日　福岡県立福岡高等視覚特別支援学校（個別の展示見学対応） 10月24日　福岡県立鞍手高等学校（郷土部のフィールドワークに伴うバックヤードの見学） 10月27日　福岡県立香椎高等学校（特別展に関する講義） 11月 6日　福岡県立香椎高等学校（特別展に関する講義） 12月 9日　春日市立春日東中学校ブロック特別支援学級（あじっぱプログラムを活用した体験） 2月19日　福岡聴覚特別支援学校（「きゅうぱっく」の体験） ※展示解説を希望した学校団体への対応は含まない（別項ボランティアの欄に含む）

3）文化交流展、特別展に関連した教育普及事業の実施

特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」体験コーナー	
内容	一般的には難しいと思われる文書に親しむ体験コーナー。「戦国大名の手紙」をテーマに、楮と雁皮の原料と紙を触れる体験、手紙の包み方「切封」体験、花押制作体験の 3 ヶ所のコーナーを展示室内に設けた。
開催場所	特別展示室
実施	4月21日～5月31日
特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」ワークショップ	
内容	出品作品「金箔押桃形兜」をペーパークラフトで作るワークショップを行った。
開催場所	エントランスホール
人数	409名

実施	5月5日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」体験コーナー　①楔形文字を書いてみよう　②九博特製アストロラーベを使ってみよう	
内容	①世界最古の文字を、葦ペンを使って粘土に書く体験 ②中世ヨーロッパの天体観測機器「アストロラーベ」の北部九州版を制作し、実際に使う体験。
開催場所	特別展示室
実施	7月14日～9月6日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」イベント「夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム」	
内容	閉館後の博物館のバックヤードを案内するとともに、大英博物館展示室内では、歴史上の人物が登場し展示物を紹介するイベントを、親子向け、一般向けに計5回実施。
人数	各回25組×5回
開催場所	研修室、バックヤード、特別展示室
実施	7月18日（親子、一般）、7月19日（親子、一般）、8月28日（親子）
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」配布物「ジュニアガイド」	
内容	高校生にも展覧会に興味を持ってもらえるよう、出品される埴輪などのミニチュアを粘土で作り、コマ撮り映像を作成。
開催場所	ホームページ
実施	7月14日～9月6日
特別展「大英博物館展　100のモノが語る世界の歴史」プロモーションビデオ	
内容	博物館で働く人が出品される100点を紹介する動画を製作。
開催場所	ホームページ
実施	7月14日～9月6日
特別展「美の国 日本」　教育普及コーナー「技あり日本！」	
内容	日本独自の製作技法や、大陸から伝わり日本で発達した技法を紹介するコーナー。3Dプリンタで出力した銅鐸や銅鏡を触れるコーナーの設置、漆の技法「蒔絵」をパネルや動画、道具で紹介、葦手絵をパネルで紹介。
開催場所	特別展示室
実施	10月18日～11月29日
特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」体験コーナー　①魚を泳がせてみよう　②ティリアテペの黄金の衣装を着て写真を撮ろう	
内容	①出土した衣装の装飾と衣装を再現し、試着するコーナー。②金属に浮き彫りされた魚のヒレが動く作品を再現し、ヒレが動く様子を体験。
開催場所	①特別展室入口　②特別展示室
実施	1月1日～2月14日
特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」こどもガイド	
内容	アフガニスタンや展覧会について展示を見ながら楽しく学べるガイド。会場入口で配布したほか、事前に県内の小学生に配布。
開催場所	特別展示室
実施	1月1日～2月14日
特別展「始皇帝と大兵馬俑」体験コーナー「秦の単位で身体測定」	
内容	秦の単位で数字が表記してある身長計と体重計を設置して来館者に体験してもらい、度量衡について理解を深めてもらった。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～6月12日
特別展「始皇帝と大兵馬俑」ジュニアガイド	
内容	展覧会に興味を持ってもらうようなクイズや始皇帝の生涯を紹介する読みものを盛り込んだジュニアガイド。会場入口で配布したほか、事前に県内の小学生に配布。
開催場所	特別展示室
実施	3月15日～6月12日

4）高等教育との連携

① 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップ

内容	筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップを開催した。（筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。） 本年度は、開館10周年記念アジア人形劇フェスティバルの一つであるワヤン＝クリ（インドネシアの影絵人形劇）公演にあわせて受講者が練習の成果を発表する形式としたため、前半は4回連続の講座とした。
実施期間	5月23日、6月21日、7月11日、8月8日、12月13日、2月28日　計６回
開催場所	1階ミュージアムホール
参加者数	毎回84人

5）館外の文化施設等における体験型ワークショップ

内容	館への理解促進・生涯学習支援の活動として館外の文化施設等において体験型ワークショップを実施した。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした一般の方
実施	計14件（参加総数 4,460人）　実施箇所等は以下のとおり(人数は当館担当ブースの体験者数) 田村市船引公民館及び福島県立博物館（5月2日,3日）250人 熊本県立装飾古墳館（5月5日）45人 秋田市立千秋美術館（5月17日）213人 仙台縄文の森広場（6月14日）200人 壱岐市立一支国博物館（8月1日）80人 アクアマリンふくしま（8月26日）45人 JR博多シティ（9月20，21，22日）2947人 南相馬市博物館（10月12日）120人 兵庫県立人と自然の博物館（11月1日）40人 兵庫県立考古博物館（11月7日）80人 福岡県立少年自然の家「玄海の家」（11月23日）200人 九州芸文館（12月5，6日）180人 福岡県立社会教育総合センター（2月24日）30人 宇部市ときわミュージアム（3月20日）30人

2-(2)-⑤　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成28年3月31日現在

1)　大学等との連携事業

【京都国立博物館】

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6人
担当研究員数	4人

内　　容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会
実施期間	9月4日
開催場所	京都国立博物館
参加者数	22人
担当研究員数	2人

【奈良国立博物館】

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施期間	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	前期　2人、後期　1人
担当研究員数	1人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	7人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

内　　容	カフェコンサート（福岡女子短期大学の学生による演奏）
実施期間	4月17日、5月29日、6月26日、7月10日、8月14日、10月2日、11月13日、12月4日、1月22日、2月12日、3月4日
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）
参加者数	延べ73人

内　　容	博物館実習生の受け入れ
実施期間	8月19日～31日の間、延べ9日間実施
参加者数	13人（9大学）

内　　容	放送大学の面接授業　「博物館を学ぶ」
実施期間	11月14日～15日
開催場所	九州国立博物館1階研修室
参加者数	44人

2)　インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月10日～28年3月31日
受入部署	学芸企画部　情報管理室、150年史編纂室、デザイン室、教育普及室、教育講座室、広報室 学芸研究部　上席研究員、保存修復課、平常展調整室
参加者数	23人（13大学）
担当研究員数	9人
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。

【京都国立博物館】

受入期間	8月17日～8月28日　9月7日～9月18日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	2人(2大学)
担当研究員数	2人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを受け入れた。11月20日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行った。（出席者32名）

【奈良国立博物館】

受入期間	8月11日～8月13日、8月18日、8月19日
受入部門	総務課
参加者数	3人（1大学）
担当職員数	1人（総務係）
事業概要	立命館大学とのインターンシップに関する覚書に基づき、将来博物館の運営業務（事務系）への就職を検討している学生を募集し、3名の学生を受け入れた。

【九州国立博物館】

受入期間	8月17日～21日の5日間
受入部署	博物館科学課
参加者数	7人（5大学）
担当研究員数	2人
事業内容	当館の文化財保存修復施設の機能と利点を活かし、西日本地域の大学で装潢技術による文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施した。

3) 学生ボランティア

【東京国立博物館】

実施日	ギャラリートーク(研究発表)班 12月2日、12月3日、12月9日、12月10日、12月12日、12月13日、12月19日、12月20日、1月5日、1月6日、1月7日、1月8日、1月9日、1月10日、1月13日、1月15日、1月16日、1月17日、1月20日、1月21日、1月22日、1月23日、1月24日、1月26日、1月27日、1月28日、1月29日、1月30日、1月31日、2月2日、2月4日、2月5日、2月6日、2月7日、2月9日、2月10日、2月11日、2月12日、2月13日、2月14日、2月16日、2月17日、2月18日、2月19日、2月20日、2月21日、2月27日、2月28日、3月1日、3月2日、3月9日（計51回）
開催場所	本館特別2室・3室・5室・10室・11室・12室・18室、東洋館8室・9室・11室
参加者数	インターン13人　聴講者1,913人
担当研究員数	12人
事業内容	東京藝術大学大学院インターンシップギャラリートーク班により入館者に対する総合文化展でのギャラリートークを実施。

【京都国立博物館】

文化財ソムリエによる訪問授業等	
実施日	①文化財に親しむ授業　6月9日、7月9日、9月4日、10月6日、10月30日、11月18日、12月7日（計7回） ②琳派400年記念　風神雷神おしゃべり鑑賞会　11月14日、15日（計2回）
開催場所	①京都市内の小中学校 ②堀川御池ギャラリー
参加者数	①658人 ②63人
担当研究員数	2人
事業内容	文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生が、研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校における訪問授業や、市内ギャラリーでの鑑賞会を実施した。
文化財ソムリエに向けたスクーリング	
実施日	5月20日、5月27日、6月3日、6月17日、6月24日、7月2日、7月1日、7月15日、8月26日、9月2日、9月9日、9月16日、9月30日、10月7日、10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月25日、12月2日、27年1月13日、2月17日、2月24日（計22回）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	19人
担当研究員数	4人
事業内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。

4) 見学対応

【東京国立博物館】

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	12件275人（大学12件、275人／専門学校0件0人）
担当研究員数	4人
事業内容	鑑賞の手助け、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や事業についての解説を含めたガイダンスを実施した。

【京都国立博物館】

期　間	年間
開催場所	平成知新館
参加者数	2件41人（国内大学1件22人／海外大学1件19人）
担当研究員数	1人
事業内容	大学生や大学院生を対象に、特別展や名品ギャラリーの解説や展示見学等を行った。

【九州国立博物館】

期　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	450人（大学6件430人 短期大学１件20人）
担当研究員数	2人
事業内容	大学生等を対象に、九州国立博物館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会・パスポート等

1) 会員数

友の会　　平成28年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数 (年会費 10,300 円) ※継続：9,800 円/東京国立博物館
東京国立博物館	2,041 人
九州国立博物館	206 人

パスポート　　平成28年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	パスポート会員数	一般 (4,100 円)	一般 (3,100 円)	29 歳以下 (3,000 円)	学生 (2,500 円)	学生 (2,100 円)	家族 (6,200 円)
東京国立博物館	18,157 人	16,269 人	－	731 人	1,157 人	－	－
京都国立博物館	7,108 人	－	6,830 人			278 人	－
奈良国立博物館	3,591 人	－	3,443 人	－	－	106 人	42 人
九州国立博物館	5,571 人		3,328 人			2,243 人	

ベーシック（26年4月1日より新設）　　平成28年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	ベーシック会員数	一般 (1,500 円)	29 歳以下 (1,100 円)	学生 (900 円)
東京国立博物館	2,789 人	2,053 人	578 人	158 人

2) 友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

平成28年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館
		（社団法人清風会）	（ミュージアム・パートナー）	
件数	464件	362人	6件	74件
内訳	プレミアム会員(個人)：2人 特別会員(団体)：20団体 特別会員(個人)：8人 維持会員(団体)：42団体 維持会員(個人)：392人	賛助会員：32人 特別会員：65人 普通会員：265人	団体会員：5件 個人会員：1件	特別支援会員：4団体 特別会員：4団体 一般会員(団体)：17団体 一般会員(個人)：49人

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・４月７日（火）　特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」
　特別鑑賞会　参加人数33名
・７月22日（水）開館120年記念特別展「白鳳　―花ひらく仏教美術―」
　特別鑑賞会　参加人数45名
・10月26日（月）　特別展「第67回正倉院展」
　特別鑑賞会　参加人数130名

2-(2)-⑨ 渉外活動

平成 28 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1)　会場提供　　5 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数（人）
5 月 26 日	イベント	第 4 回グローバルリサーチカウンシル年次会合晩餐会	本館、平成館	150
6 月 8 日	イベント	エルメスファッションショー 2015 年秋冬レディスコレクション	表慶館、法隆寺宝物館	500
6 月 29 日	イベント	日本遺産フォーラム（認定証交付式及びパネルディスカッション、ブース出展）	平成館ラウンジ・大講堂	350
7 月 27 日	イベント	FENDI「2015-2016 秋冬コレクション・ショー」	表慶館、法隆寺宝物館	250
11 月 10 日 ～11 月 15 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	17,663

2)　館主催・協力イベント　33 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
4 月 1 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「東博でバッハ vol.24」戸田弥生	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 2 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2015「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」	法隆寺宝物館	166	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 3 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.25」フランチェスコ・トリスターノ	平成館ラウンジ	230	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 5 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」	本館エントランス	133	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4 月 8 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2015「東博でバッハ vol.26」安田謙一郎	法隆寺宝物館	114	東京・春・音楽祭実行委員会共催
6 月 20 日	イベント	東博寄席	平成館大講堂	285	当館主催
6 月 21 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	215	サロン・ド・ソネット共催
6 月 28 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館ラウンジ	435（2 回計）	東京クラリネット･クワイアー共催 上野のれん会、東京国立博物館協力会協賛
8 月 13 日	音楽会	ネパール地震復興支援コンサート	平成館大講堂	250	ネパール地震文化遺産復興支援コンサート実行委員会主催 東京藝術大学音楽学部/NPO 法人世界遺産コンサート後援 東京国立博物館協力
9 月 26 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル 「江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉」	平成館大講堂	143	上野の山文化ゾーン連絡協議会
10 月 2 日 10 月 3 日	イベント	博物館で野外シネマ 映画「銀河鉄道の夜」（1985 年、杉井ギサブロー監督）上映	本館前	6038（2 回計）	当館主催
10 月 6 日	音楽会	キルギスの伝統楽器コムズの調べ	東洋館	270（2 回計）	当館主催
10 月 9 日	音楽会	中国の伝統楽器古箏の調べ	津洋館	280（2 回計）	当館主催
10 月 17 日	音楽会	宮沢賢治コンサート	平成館ラウンジ	300	「賢治と上野の物語」コンサート実行委員会主催 東京国立博物館共催 ㈱椿協賛
10 月 18 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	189	サロン・ド・ソネット共催
10 月 31 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO 2015 まちなかコンサート	本館エントランス	330	東京文化会館他共催
10 月 30 日 ～11 月 2 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2015 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2015」実行委員会共催
11 月 25 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	281	東大寺共催
28 年 1 月 2 日	イベント	和太鼓（批魅鼓）	本館前	984	当館主催
28 年 1 月 2 日	イベント	曲独楽（三増紋之助）	平成館ラウンジ	1,025	当館主催
28 年 1 月 2 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,030	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	和太鼓（白梅太鼓）	本館前	1,605	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	曲独楽（三増紋之助）	平成館ラウンジ	727	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	708	当館主催
28 年 1 月 3 日	イベント	獅子舞（東部葛西囃子睦会中村社中）	本館前	1,240	当館主催
28 年 1 月 9 日	イベント	東博寄席	平成館大講堂	401	当館主催
28 年 3 月 16 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「Vive!サクソフォーン・	本館池前	101	東京・春・音楽祭実行委員会共催

期間	種類	タイトル	会場	出席者数（人）	備考
		クヮルテット」			
28 年 3 月 18 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「Vive!サクソフォーン・クヮルテット」	本館池前	129	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 18 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.27」三浦文彰（ヴァイオリン)、豊嶋泰嗣（ヴィオラ)、富岡廉太郎（チェロ）	平成館ラウンジ	233	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 24 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「佐藤恵梨奈（ヴァイオリン）＆林はるか（チェロ）デュオ・コンサート」	法隆寺宝物館エントランス	186	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 26 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.28」キム・カシュカシャン（ヴィオラ）	法隆寺宝物館エントランス	119	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 30 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「加藤えりな　無伴奏ヴァイオリン・コンサート」	本館大階段踊り場	320	東京・春・音楽祭実行委員会共催
28 年 3 月 31 日	イベント	東京･春･音楽祭 2016「東博でバッハ vol.29」戸田弥生（ヴァイオリン）	法隆寺宝物館エントランス	116	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1) 会場提供　108 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 8 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場	2	丸子紗梨
4 月 8 日	交流会	京都ライオンズクラブ交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	80	京都ライオンズクラブ
4 月 11 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	40	（株）J-MIND
4 月 11 日	茶席	茶会	茶室	4	山本喜久子
4 月 12 日	茶席	茶会	茶室	70	山本喜久子
4 月 20 日	イベント	長唄・三味線演奏会	平成知新館グランドロビー	100	ハイアットリージェンシー京都
4 月 26 日	交流会	京都検定 1 級合格者のつどい	平成知新館講堂	40	京都商工会議所
4 月 26 日	セミナー	茶道関連作法セミナー	茶室	15	（株）Ritzy
5 月 6 日	撮影	写真撮影	茶室	6	オンディーヌ京都烏丸店
5 月 8 日	撮影	写真撮影	茶室	5	エル・ピューパ
5 月 9 日	特別鑑賞会	「そうだ　京都、行こう。」特別鑑賞会	明治古都館	80	JR 東海ツアーズ
5 月 17 日	茶席	勉強会	茶室	10	茶道南坊流明鏡庵　中野宗淳
5 月 24 日	交流会	交流会	平成知新館講堂	32	国際ソロプチミスト日本中央ベンチャーリジョン
5 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	3	能勢琴音
5 月 26 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	42	京都文化協会
5 月 26 日	交流会	「日本人の忘れもの　知恵会議」記念交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	140	京都新聞
5 月 27 日～6 月 9 日	展示販売	カルティエ　ロワイヤル	明治古都館・平成知新館グランドロビー・茶室・庭園ほか	2000	リシュモンジャパン
6 月 14 日	上映会	VR「幻の安土城」上映および講演	平成知新館講堂	100	大阪よみうり文化センター
6 月 21 日	座談会	歴史研究座談会	茶室	10	三浦恵美子
6 月 22 日	総会	京都市内博物館施設連絡協議会総会	平成知新館講堂	100	
7 月 5 日	撮影	写真撮影	茶室	10	青山美由起
7 月 10 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	40	国宝修理装こう師連盟
7 月 11 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	旧管理棟研修室	15	国宝修理装こう師連盟
7 月 11 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場	15	こばやし事務所
7 月 11 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	42	JR 東海ツアーズ
7 月 12 日	イベント	琳派 400 年記念イベント	平成知新館講堂	200	琳派 400 年記念プロジェクションマッピング委員会
7 月 27 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	15	こばやし事務所
7 月 30 日	交流会	京都商工会議所交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	180	京都商工会議所
8 月 1 日	撮影	写真撮影	茶室	2	永吉隆
8 月 3 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・正門前広場・噴水広場	14	（有）オフィスランサック
8 月 9 日	撮影	写真撮影	茶室	9	太田智佳子
8 月 10 日	撮影	写真撮影	明治古都館前広場・正門前広場	2	（株）森戸アソシエイツ
8 月 20 日	撮影	写真撮影	茶室	4	（有）京都きもの町
8 月 22 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	63	
8 月 22 日～23 日	ワークショップ	「映画の復元と保存に関するワークショップ」	平成知新館講堂	150	主催：「映画の復元と保存に関するワークショップ」運営委員会ほか
8 月 23 日	撮影	写真撮影	茶室	10	中川佳苗

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8 月 29 日	交流会	学校法人立命館　四校交流会	平成知新館グランドロビー	50	ハイアットリージェンシー京都
9 月 3 日	講義	研修会	平成知新館講堂	20	ハイアットリージェンシー京都
9 月 4 日	特別鑑賞会	三菱東京 UFJ 銀行特別鑑賞会	平成知新館	96	三菱東京 UFJ 銀行
9 月 5 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	33	JR 東海ツアーズ
9 月 12 日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	22	JR 東海ツアーズ
9 月 16 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	10	国宝修理装こう師連盟
9 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	4	大仲京子
9 月 28 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	16	こばやし事務所
10 月 2 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室・研修室	20	国宝修理装こう師連盟
10 月 3 日	撮影	写真撮影	茶室	2	小泉裕香
10 月 10 日～12 日	イベント	東山南部地域活性化委員会「太閤祭」	正門前広場	—	東山南部地域活性化委員会
10 月 11 日	イベント	今様合の会および記念講演会	平成知新館講堂	100	日本今様謌舞楽会
10 月 15 日	交流会	京のおもてなし交流会	平成知新館講堂	50	（株）関広
10 月 17 日～18 日	茶席	茶会	茶室	90	薮内流茶道教室　松の実会
10 月 17 日 ～11 月 23 日	展示販売	京ものエ芸品「琳派フェア」（伝統工芸品の販売）	正門前広場	—	京都府商工労働観光部染織・工芸課
10 月 18 日	映像鑑賞	展覧会鑑賞のための映像鑑賞	平成知新館講堂	48	奈良ロータリークラブ
10 月 22 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	75	（株）日経カルチャー
10 月 22 日～23 日	茶席	茶会	茶室	200	梶高明
10 月 23 日	講義	研修会	平成知新館講堂	50	京都美術商協同組合
10 月 24 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	19	京都文化協会
10 月 24 日	撮影	写真撮影	茶室	4	伊藤美樹
10 月 25 日	演奏	篠笛演奏	茶室	25	榊原恭子
10 月 27 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館会議室	95	ハースト婦人画報社
10 月 28 日	茶席	授業	茶室	44	京都府すばる高等学校
10 月 29 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館会議室	20	国宝修理装こう師連盟
10 月 29 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	（株）京都新聞企画事業
10 月 31 日	勉強会	勉強会	茶室	30	赤目自然農塾
11 月 1 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	200	東大寺学園　東菁会
11 月 3 日	茶席	茶会	茶室	175	五条坂茶わん坂ネットワーク
11 月 6 日	撮影	写真撮影	茶室	6	（株）ラリアンス
11 月 7 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	40	（株）J-MIND
11 月 8 日	茶席・講演	茶会・講演会	茶室・平成知新館講堂	130	京都漱石の會
11 月 8 日	撮影	写真撮影	茶室	6	オンディーヌ京都烏丸店
11 月 14 日	勉強会	勉強会	茶室	7	大西啓介
11 月 14 日	イベント	ブレゲ　プライベートサロン in 京都 2015	平成知新館グランドロビー	50	ハイアットリージェンシー京都
11 月 15 日	撮影	写真撮影	茶室	6	伊藤美樹
11 月 16 日	特別鑑賞会	三越伊勢丹旅行特別鑑賞会	平成知新館	200	三越伊勢丹旅行
11 月 17 日	講義	展覧会鑑賞のための講義	平成知新館講堂	45	大阪倶楽部美術茶話会
11 月 17 日	勉強会	勉強会	茶室	30	関西インテリアプランナー協会
11 月 21 日	勉強会	勉強会	茶室	15	村井直也
11 月 22 日	撮影	写真撮影	茶室	3	大仲京子
11 月 27 日	講習会	修理技術者資格制度講習会	平成知新館研修室	15	国宝修理装こう師連盟
11 月 27 日	撮影	写真撮影	茶室	18	（株）オリンパス
11 月 28 日	講習会	修理技術者資格制度	平成知新館研修室	15	国宝修理装こう師連盟
11 月 28 日	撮影	写真撮影	茶室	4	神菊梨沙
11 月 29 日	茶席	茶会	茶室	5	菊地原節子
12 月 4 日	交流会	講演および交流会	平成知新館講堂・グランドロビー	10	（一社）Spirit of SHINISE 協会
12 月 5 日	イベント	21 世紀鷹峯フォーラム「つくるフォーラム公募説明会」	平成知新館講堂・グランドロビー	50	ザ・クリエイション・オブ・ジャパン
12 月 5 日	撮影	写真撮影	茶室	3	永井由佳梨
12 月 9 日	茶席	茶会	茶室	8	吉田市蔵
12 月 11 日	撮影	写真撮影	茶室	5	（株）ラリアンス
12 月 13 日	撮影	写真撮影	茶室	13	箱崎友美
12 月 13 日	イベント	将棋対局「叡王戦」	明治古都館・平成知新館接客室・技術資料参考館	80	（株）ドワンゴ、日本将棋連盟
12 月 22 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー	14	こばやし事務所
12 月 25 日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・明治古都館前広場	6	合同会社 TCI 研究所

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
28年1月16日	講習会	日本刀鑑賞講習会	平成知新館講堂	50	澤田康則
28年1月24日	展示会	いけばな展示会	茶室	20	嵯峨御流　紅幸会
28年1月30日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館	40	JR東海ツアーズ
28年2月5日	撮影	写真撮影	茶室	4	（株）ラリアンス
28年2月7日	特別鑑賞会	「そうだ　京都、行こう。」特別鑑賞会	平成知新館	40	JR 東海　京都・奈良・近江文化情報事務局
28年2月14日	音楽コンクール	音楽コンクール最終審査会	平成知新館講堂	100	（一社）　日本イタリア協会
28年2月15日	撮影	写真撮影	正門前広場・平成知新館グランドロビー・茶室	17	（有）オフィスランサック
28年3月3日	商談会	観光関連商品・サービスに関する商談会	平成知新館講堂グランドロビー	60	（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
28年3月8日	記者発表	非公開寺院滞在型文化体験プログラム「いろはにほん」記者発表	平成知新館講堂	50	日本財団
28年3月12日	特別鑑賞会	「親子で行く修学旅行」特別鑑賞会	平成知新館講堂	40	JR東海ツアーズ
28年3月14日	イベント	ダンスパフォーマンス	明治古都館前広場	30	苫野美亜
28年3月17日	茶席	茶会	茶室	50	一条克美
28年3月18日	撮影	写真撮影	茶室	4	（有）スタジオコーゾ
28年3月19日	見学	施設見学	茶室	28	エムケイ観光バス株式会社
28年3月20日	演奏	篠笛演奏	茶室	40	榊原恭子
28年3月28日	撮影	写真撮影	平成知新館グランドロビー・明治古都館前広場・正門前広場	20	（有）ケーズ・プリュ
28年3月28日～31日	研修	展覧会運営従事者研修	平成知新館会議室	延べ160	（株）ザ・アール

2)　館主催・協力イベント　　25件

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
5月2日	落語	京都・らくご博物館（春）～新緑寄席～	平成知新館講堂	185	
5月17日	シンポジウム	国際博物館の日シンポジウム	平成知新館講堂	100	主催：ICOM 日本委員会他
8月2日	落語	京都・らくご博物館（夏）～納涼寄席～	平成知新館講堂	141	
9月13日	イベント	2015日伊オペラ国際共同制作「道化師」	庭園	800	主催：2015 日伊オペラ国際共同制作実行委員会
9月18日	音楽会	ヴィヴァルディへのオマージュ～スペシャル・チェンバー・コンサート	平成知新館講堂	120	主催：さわかみオペラ芸術振興一般財団法人
10月9日	イベント	琳派400年記念祭特別イベント「コシノジュンコ琳派の世界」（ファッションショー）	平成知新館グランドロビー	900	主催：琳派特別ファッションショー実行委員会
10月9日	茶会	特別展覧会「琳派　京を彩る」記念茶席	茶室	300	
10月30日	落語	京都・らくご博物館（秋）～紅葉寄席～	平成知新館講堂	130	
10月31日	音楽会	音燈華コンサート	平成知新館講堂	157	
11月3日	シンポジウム	琳派400年記念国際シンポジウム「琳派　この一作」	平成知新館講堂	200	主催：当館、琳派400年記念祭委員会、古典の日推進委員会
11月7日～9日	イベント	大琳派祭プロジェクションマッピング「美の継承」	庭園	8184	主催：京都府
11月18日	音楽会	Hijiya Music Club & Kyohaku Joint Concert	平成知新館講堂	160	主催：土屋医院
12月13日	講演会	文化遺産防災国際シンポジウムー文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性ー	平成知新館講堂	104	主催：国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進本部
12月15日	音楽会	クリスマス・ロマンチック・コンサート	平成知新館講堂	80	
12月15日～28年1月31日	イベント	庭園イルミネーション	噴水広場	100	
12月20日	音楽会	クリスマス・ハンドベルコンサート	平成知新館グランドロビー	230	
28年1月2日	イベント	新春・京博こと始め2016	平成知新館講堂	200	
28年1月2日	イベント	親子で餅つき大会	庭園	200	
28年1月3日	イベント	新春・京博さるづくし	平成知新館講堂	100	
28年1月3日	イベント	福引き抽選会	平成知新館グランドロビー	820	
28年1月10日・11日	イベント	芸舞妓　春の舞	平成知新館グランドロビー	合計208	
28年1月30日	落語	京都・らくご博物館（冬）～新春寄席～	平成知新館講堂	160	

期間	種類	タイトル	会場	出席者（人）	備考
28 年 3 月 18 日	報告会	京都国立博物館ミュージアムパートナー事業報告会	技術資料参考館	15	
28 年 3 月 26 日	音楽会	雅楽公演	平成知新館グランドロビー	111	
28 年 3 月 26 日・27 日	イベント	居合演武	平成知新館グランドロビーテラス	2 日合計 171	

【奈良国立博物館】

1）会場提供　　30 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 26 日	茶席	奈良八重桜を愛でる会	講堂・茶室、園地・西新館南ピロティ・応接室	190	奈良八重桜の会
4 月 26 日	講演会	奈良ひとまち大学	仏教美術資料研究センター	25	公益財団法人奈良市生涯学習財団
5 月 23 日	茶会	茶会と庭園講座	茶室	43	牧岡一生
7 月 15 日	コンサート	ジョイントコンサート“チェコの調べと共に”	講堂	167	奈良・人と自然の会
7 月 24 日	会議	文化財の買取会議	会議室	－	文化庁美術学芸課
8 月 8 日	コンサート	音燈華　フラリーパッド（ギター・ウクレレの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	300	寧屋舎中合同会社
8 月 9 日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	400	寧屋舎中合同会社
8 月 9 日	会議	能楽学会常任委員会	会議室	15	能楽学会
8 月 9 日	セミナー	能楽に関する研究会「世阿弥忌セミナー」	講堂	122	能楽学会
8 月 30 日	講演会	奈良ひとまち大学	講堂	43	公益財団法人奈良市生涯学習財団
10 月 10 日	茶会	茶会	茶室	44	桃李会
10 月 24 日～11 月 9 日	茶席	正倉院展「野点の茶席」	西新館南側ピロティ庭園	15,715	結の会
10 月 24 日～11 月 9 日	休憩所	休憩所及び甘味の販売	新館西側敷地	－	株式会社鶴屋吉信
10 月 24 日～11 月 9 日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側敷地	－	有限会社日本クリーンシステムズ
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の販売	新館西側敷地	－	校倉な会
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の販売	新館西側敷地	－	なら和み館
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	記念切手の販売	新館西側敷地	－	郵政事業株式会社
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	記念写真の撮影・販売	新館西側敷地	－	小路谷写真株式会社
10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	正倉院展　図録、グッズ等の販売	西新館 地下回廊	－	一般財団法人仏教美術協会
10 月 27 日	講義	第 6 回東アジア地方政府会合エクスカーション参観者への展示品等の説明	講堂	81	奈良県知事公室国際課
11 月 27 日～28 日	茶会	茶会	茶室	27 日 7 28 日 6	小林順子
12 月 3 日	鼎談	「正倉院宝物の保存と公開」をテーマとした鼎談	会議室	11	一般財団法人環境文化創造研究所
12 月 9 日	講演会	世界遺産学習	講堂	64	奈良市立三碓幼稚園
12 月 9 日	茶会	茶会	茶室	8	横井貴史
12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	－	春日大社
28 年 1 月 21 日	茶会	茶会	茶室	18	楽茶会
28 年 2 月 10 日	茶会	第三回珠光茶会	茶室	104	奈良市
28 年 2 月 11、13、14 日	講演会	JR 東海ツアーズ特別講演会	講堂	11 日 62 13 日 77 14 日 40	うまし奈良めぐり実行委員会
28 年 2 月 20 日	講演会	あじさい会講演会	講堂	70	あじさい会
28 年 3 月 10 日～13 日	上映会	ならシネマテーク	講堂・応接室	11 日 90 12 日 74 13 日 57	NPO 法人なら国際映画祭実行委員会

2）館主催・協力イベント　　53 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 7 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	33	
4 月 8 日～9 日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	31	
5 月 9 日	イベント	親と子のワークショップ「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」	地下回廊	30	
7 月 22 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	45	
7 月 23 日～24 日	鑑賞会	タクシー・ホテルなど関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	70	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
7月25日	イベント	白鳳フォーラム	東大寺総合文化センター金鐘ホール	262	
7月27日	鑑賞会	NHKネットクラブ鑑賞会	展示室	279	株式会社 NHK プラネット近畿総支社
7月27日	鑑賞会	休館日内覧会	講堂・展示室	131	クラブツーリズム
7月30日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	120	
8月1日	イベント	夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」	地下回廊	46	
8月3日	鑑賞会	休館日内覧会	講堂・展示室	66	クラブツーリズム
8月4日	イベント	水煙チョコ鋳造体験　白鳳時代の笛吹き童子を作ってみよう♪	講堂・地下回廊	69	協力：薬師寺、CAFÉ 葉風泰夢
8月5日	鑑賞会	わいずクラブ特別鑑賞会	展示室・庭園・仏教美術資料研究センター	99	主催：わいず倶楽部事務局
8月5日～14日	観光イベント	「なら燈花会」ｵﾌﾞｼﾞｪ等を配置	新館周辺	―	主催：なら燈花会の会
8月8日～9日	イベント	仏像あたまを作っちゃおう！かぶっちゃおう！1枚の紙で作るカブリモノ制作・変身ワークショップ	地下回廊	8日　55 9日　47	主催：株式会社 NHK プラネット近畿総支社
8月12日	イベント	奈良国立博物館文化大使笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座	講堂	149	
8月21日	コンサート	講演とコンサート「白鳳を五感で感じる」	講堂	194	読売新聞大阪本社文化事業部
8月25日	鑑賞会	白鳳展　親子鑑賞会	講堂・展示室	44	
8月27日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	197	
8月29日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	125	JR 東海ツアーズ
8月29日	イベント	夏休み親子で学ぶ「守ろう！知ろう！文化財」	講堂	19	協力:奈良市消防局
9月4日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	188	
9月5日	鑑賞会	夜間特別鑑賞会	講堂・展示室	117	JR 東海ツアーズ
9月6日	講義	特別展鑑賞のための講義	講堂	65	読売新聞大阪本社文化事業部
9月10日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	194	
9月11日	講義	NHK 文化センター神戸教室講座「美術館散歩」	講堂	30	NHK 文化センター神戸教室
9月12日	コンサート	Daiwa Sakura Aid presents　「DEPAPEPEP 雨男 vs 野外シリーズ 2015」奈良国立博物館開館 120 年記念特別展白鳳　音燈華 DEPAPEPE Concert	仏教美術資料研究センター	450	寧屋舎中合同会社
9月17日	講話	薬師寺僧侶による講話	講堂	181	
9月23日	コンサート	ライトアッププロムナード・なら 2015 ライトアップコンサート「言霊と音霊の夜会」	仏教美術資料研究センター	135	主催：ライトアッププロムナード・なら実行委員会
10月24日 ～11月9日	観光イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	正倉院展読売新聞ブース	―	主催：はじまりは正倉院展実行委員会
10月24日 ～11月9日	展示	正倉院展「いけばな展示」 法華寺御流のいけばな展示	西新館1階ロビー	―	
10月24日 ～11月9日	展示	正倉院展作文コンクール入賞作品展示	地下回廊	―	主催：奈良国立博物館 読売新聞社
10月24日	セミナー	正倉院展特別セミナー	仏教美術資料研究センター	98	
10月26日	観光イベント	「柿の日」に因み、奈良県特産物である柿を配布し「奈良の柿」を PR	新館前広場	―	主催：奈良県農林部 奈良県農業協同組合
10月26日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂・展示室	130	
10月26日～27日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	211	
11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	94	
11月1日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム２０１５「正倉院と奈良国立博物館　～120 年のあゆみ」	奈良県新公会堂	196	
11月3日	鑑賞会	第 67 回正倉院展　親子鑑賞会	講堂・展示室	172	
11月14日～15日	特別鑑賞	関西文化の日	青銅器館	14日：167 15日：228	
11月22日～23日	イベント	秋の庭園散策	庭園	22日 40 23日 33	
12月11日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ東京セミナー「冬の奈良の魅力」	奈良まほろば館	48	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
12 月 17 日	茶会	おん祭と春日信仰の美術「茶会」	茶室・庭園、西新館南側ピロティ	43	主催：裏千家　泉本宗悠
12 月 25 日	特別鑑賞会	奈良国立博物館文化財修復プレミアム・ミュージアム・ビューイング	講堂・展示室・茶室・庭園･仏教美術資料研究センター	28	
28 年 1 月 14 日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・修理所	121	
28 年 1 月 26 日	講演会	第 17 回文化財防火ゼミナール	講堂	145	主催：奈良市消防局
28 年 1 月 27 日	イベント	施設ボランティア交流会	講堂	168	主催：京エコロジーセンター
28 年 2 月 7 日	講演･特別鑑賞	お水取り「講話」と「粥」の会	講堂・展示室・茶室控室・東大寺二月堂	42	
28 年 2 月 8 日～14 日	観光イベント	なら瑠璃絵　warter art projection の上映	西新館北側池前	－	主催：なら瑠璃絵実行委員会
28 年 2 月 12 日	講演会	第 7 回なら瑠璃絵特別講演会「お水取りと奈良時代の東大寺」	講堂	126	主催：なら瑠璃絵実行委員会
28 年 2 月 14 日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ関連イベント「仏像を撮ってみよう！」	講堂・地下写場	27	
28 年 3 月 1 日～11 日、13 日、14 日	特別鑑賞	修二会期間中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	160	奈良交通株式会社
28 年 3 月 4 日	イベント	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室	194	主催：結の会

【九州国立博物館】

1) 会場提供　16 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 24 日～26 日	貸館	ひびのこずえワークショップ「虫をつくろう」	研修室／和室	190	主催：アートのたね
5 月 9 日	貸館	全国邪馬台国連絡協議会第 1 回九州地区大会	ミュージアムホール	155	主催：全国邪馬台国連絡協議会九州支部、福岡県文化団体連合会
5 月 12 日	貸館	九州市民大学	ミュージアムホール	100	主催：九州市民大学事務局
7 月 1 日	貸館	第 4 回太宰府検定合格祈願特別講座	研修室	70	主催：公益財団法人古都大宰府保存協会内「太宰府検定実行委員会」
9 月 12 日、13 日	貸館	第 6 回太宰府市民茶会	茶室／研修室／和室	300	主催：太宰府茶道文化連盟
11 月 19 日	貸館	九州歴史まちづくりサミット	ミュージアムホール	250	主催：九州地方整備局都市・住宅整備課長
28 年 1 月 15 日	貸館	初釜（社中の初釜会）	茶室	10	個人
28 年 1 月 27 日	貸館	初釜	茶室	30	個人
28 年 2 月 13 日	貸館	初釜	茶室	60	九州茶道文化交流協会
28 年 2 月 26 日	貸館	筑紫関税研究会	研修室	70	筑紫関税会研修委員会
28 年 3 月 5 日、6 日	貸館	観梅茶会	茶室／研修室／和室	200	表千家福岡清雅会
28 年 3 月 13 日	貸館	平成 27 年度太宰府市景観・市民遺産会議	ミュージアムホール／研修室／和室	300	主催：太宰府市民遺産を守り育てる実行委員会
28 年 3 月 21 日	貸館	第 20 回九博デーふるさと講演会「邪馬台国は福岡平野（春日市）にあった！」	研修室	90	主催：九州国立博物館を愛する会
28 年 3 月 23 日、24 日	貸館	茶道部卒業生を送る茶会	茶室	20	九州情報大学
28 年 3 月 24 日	貸館	中国新時代ツアー説明会	研修室	20	ワールド航空サービス
28 年 3 月 28 日～4 月 3 日	貸館	コミュニケーションアート展	ミュージアムホール	―	主催：NPO 法人コミュニケーション・アート

2) 館主催・協力イベント　191 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4 月 1 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展 1095 日の軌跡オープニングセレモニー	エントランス	50	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 1 日～19 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡	ミュージアムホール	5,603	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 5 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡 コロタイプ印刷ワークショップ	エントランス	67	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 14 日～5 月下旬	主催	開館 10 周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連香椎工業高校製作鎧兜展示	エントランス	155,690	主催：九州国立博物館
4 月 17 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	55	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
4 月 18 日	共催	ユネスコ世界記憶遺産「山本作兵衛コレクション」保存処置作業完了報告展　1095 日の軌跡 記念講演会	研修室	111	主催：田川市／田川市石炭・歴史博物館／田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会
4 月 19 日	共催	よさこい踊り	屋外	―	主催：太宰府観光協会、太宰府門前真舞祭実行委員会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4月25日	主催	戦国・織豊期の九州とアジア 「戦国の九州とアジア - 大内義隆から大友宗麟へ -」「豊臣秀吉と九州の諸大名 - 黒田長政・立花宗茂を中心に -」	ミュージアムホール	289	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月25日	主催	第46回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
4月26日	主催	第53回　親子で茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
4月26日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着イベント	エントランス	120	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月26日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	屋外	950	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
4月29日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 盲導犬チャリティーイベント&コンサート～Message～	エントランス	370	主催：九州国立博物館 協力：九州盲導犬協会
5月2日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」記念シンポジウム	ミュージアムホール	200	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月3日	主催	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	エントランス	350	主催：九州国立博物館
5月5日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	エントランス	409	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月9日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「九州の群雄とアジアの波涛」	ミュージアムホール	90	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月10日	主催	九州国立博物館杯　戦国大名展記念 さいふごま大会	ミュージアムホール	69	主催：九州国立博物館
5月12日	共催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」開催に伴う熊本県観光PR	エントランス	21,049	主催：熊本県福岡事務所
5月14日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「総論：九州国立博物館」	NHK文化センター福岡教室	12	主催：NHK文化センター福岡教室
5月16日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	ミュージアムホール	60	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月16日	主催	第47回　はじめての茶道体験	茶室	5	主催：九州国立博物館
5月17日	主催	第54回　親子で茶道体験	茶室	44	主催：九州国立博物館
5月17日	共催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」開催に伴う熊本県観光PR くまモン・うとぅ行長しゃん　熊本城おもてなし武将隊ステージ	ミュージアムホール	1,500	主催：熊本県福岡事務所
5月23日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 -」 リレー講座『よく分かる！戦国大名展』 「貿易都市の考古学」「戦国九州の刀剣」	ミュージアムホール	60	主催：西日本新聞社／九州国立博物館
5月23日	主催	第1回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	7	主催：九州国立博物館／福岡女子短期大学
5月28日	主催	文化財保存交流セミナー　韓国の海事文化遺産について	1階研究室	50	主催：九州国立博物館
5月28日	共催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「文化交流展示室を散歩する」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
5月29日	主催	きゅーはくカフェコンサート	1階エントランスカフェ前	120	主催：九州国立博物館
5月30日	主催	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	九州国立博物館	11	主催：九州国立博物館
5月30日	主催	開館10周年記念イベント　大人の昆虫採集博物館 科学特捜部！昆虫採集と標本作り①	九州国立博物館	7	主催：九州国立博物館
6月3日～ 7月5日	主催	開館10周年記念　九博特別展歴代ポスター展示	エントランス	44,065	主催：九州国立博物館
6月6日、7日	主催	素焼き陶器　絵付けワークショップ	エントランス	90	主催：九州国立博物館
6月11日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「当館の文化財収集について」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
6月13日	主催	開館10周年記念イベント　大人の昆虫採集博物館 科学特捜部！昆虫採集と標本作り②	九州国立博物館	7	主催：九州国立博物館
6月13日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスラボ&Ｍｒ．ＢＵＮＢＵＮのジャグリングショー	エントランス	130	主催：九州国立博物館
6月13日	主催	第55回　親子で茶道体験	茶室	63	主催：九州国立博物館
6月14日	主催	第48回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
6月14日	主催	地域と共に考える文化財の防災減災	ミュージアムホール	180	主催：九州国立博物館
6月20日	共催	開館10周年記念　コンサート「大迫淳英＆関雅子」～歌は人生、旅も人生～	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
6月21日	主催	第2回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	8	主催：九州国立博物館

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
6月25日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「九博10年の特別展について」	NHK文化センター福岡教室	7	主催：NHK文化センター福岡教室
6月26日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	55	主催：九州国立博物館
7月3日～5日	共催	地方自治法施行60周年記念貨幣展	エントランス	4,039	主催：独立行政法人造幣局
7月7日	共催	第5回「ゆかたde太宰府～古都の夏～」オープニングイベント	エントランス	50	主催:太宰府ブランド創造協議会
7月9日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする「文化財の科学調査と健康診断」	NHK文化センター福岡教室	6	主催：NHK文化センター福岡教室
7月10日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	150	主催：九州国立博物館
7月11日	主催	納涼イベントwithゆかたde太宰府 第49回　はじめての茶道体験 〔特別編〕夏のお茶会	茶室	11	主催：九州国立博物館
7月11日	主催	第3回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	9	主催：九州国立博物館
7月12日	主催	第56回　親子で茶道体験	茶室	53	主催：九州国立博物館
7月14日	主催	大英博物館キュレーターによる記念講演会 大英博物館展の楽しみ方	ミュージアムホール	201	主催：九州国立博物館
7月14日～26日	主催	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	九州国立博物館屋外	－	主催：九州国立博物館
7月14日～9月6日	主催	【夏休み特別企画】「九博ブックカフェ」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
7月15日～9月15日	主催	開館10周年絵画コンクール 「100年後の博物館を描こう」	NHK文化センター福岡教室	8	主催：NHK文化センター福岡教室
7月18日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート　Departure	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
7月18日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー・大人向けツアー	九州国立博物館内	96	主催：九州国立博物館
7月18日～28年3月12日(計9回)	主催	集まれ、考古女子！きゅーはく女子考古部発足！	九州国立博物館内 近郊の史跡など	123	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会　ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
7月19日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー・大人向けツアー	九州国立博物館内	105	主催：九州国立博物館
7月23日	主催	講座：まもなく開館10周年　九州国立博物館をガクモンする 「国際交流、教育普及そしてボランティア」	NHK文化センター福岡教室	8	主催：NHK文化センター福岡教室
7月24日、25日	主催	納涼イベントwithゆかたde太宰府　茶室でポーズ	九州国立博物館　茶庭、茶室	20	主催：九州国立博物館
7月25日、26日	主催	九博　子ども向け夏休みイベント いこうよ！あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	555	主催：九州国立博物館
7月25日	主催	開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り （昆虫採集）	九州国立博物館	40	主催：九州国立博物館
8月1日	共催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」アフタヌーンティーと楽しむ　大英博物館展	ホテルニューオータニ	26	主催：西日本新聞
8月2日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会　影絵人形ワヤンのみかた	ミュージアムホール	110	主催：九州国立博物館
8月2日	主催	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	九州国立博物館	8	主催：九州国立博物館
8月8日	主催	開館10周年記念イベント 博物館科学特捜部！昆虫採集と標本作り （標本作り）	九州国立博物館	40	主催：九州国立博物館
8月8日	主催	第4回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	8	主催：九州国立博物館
8月8日、9日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル ワヤン・クリ公演　神々の英雄たち（インドネシア）	ミュージアムホール	1,849	主催：九州国立博物館
8月14日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	170	主催：九州国立博物館
8月15日	主催	全国高等学校考古学フォーラム2015	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
8月16日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート アイリッシュハープの調べ	1階エントランスカフェ前	240	主催：九州国立博物館
8月19日	主催	九州国立博物館杯大英博物館展記念 さいふごま大会	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
8月22日	主催	第50回記念特別編　はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
8月22日、23日	共催	吉野ヶ里Days in 九博	ミュージアムホール	1,164	主催：佐賀県立博物館・美術館、国営海の中道海浜公園事務所（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里公園
8月23日	主催	第57回　親子で茶道体験	茶室	49	主催：九州国立博物館
8月25日～27日	共催	ハノイ・ベトナムデイズ	ミュージアムホール／エントランス	－	主催:福岡県国際交流局交流第二課
8月26日、27日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「水上人形劇」（ベトナム）	ミュージアムホール	1,050	主催:九州国立博物館／ハノイ市（ベトナム）／ハノイ市訪問団受入事業実行委員会（福岡県、福岡商工会議所、九州ベトナム友好協会、（公財）福岡県国際センター）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
8月28日	主催	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム 親子向けツアー	九州国立博物館内	45	主催：九州国立博物館
8月29日、30日	主催	企画展「むしの考古学」関連企画　「ゆめはく」号 がやってくる	屋外	400	主催：九州国立博物館
8月29日、30日	主催	開館10周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「フン・ラコーン・レック」（タイ）	ミュージアムホール	905	主催：九州国立博物館
9月1日～5日	共催	日本遺産西の都太宰府キッズワークショップ 日本遺産「太宰府」展	ミュージアムホール	－	主催：太宰府市日本遺産活性化協議会事務局（太宰府観光経済課）
9月1日～13日	主催	開館10周年記念イベント 博物館で昆虫採集と野鳥調査？―意外と知らない 博物館の仕事―	エントランス	44,450	主催：九州国立博物館
9月4日	共催	プレイベント開講！ 博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	ホテルニューオータニ博多	238	主催：西日本新聞
9月5日	共催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座） 「『美の国　日本』のみどころ」	アクロス福岡 セミナー室	69	主催：九州国立博物館/アクロス福岡
9月5日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート English music by TomTach	エントランス	220	主催：九州国立博物館
9月6日	共催	第4回「太宰府検定」における九州国立博物館開館 10周年記念連携事業	エントランス	180	主催：「太宰府検定」実行委員会
9月8日	共催	第14回太宰府の香り・風景写真コンテスト入賞作 品展	エントランス	9,398	主催：太宰府観光協会
9月15日～27日	共催	東九州神楽人の祭展～京築・庄内・椎葉の神楽を愉 しむ～展示	エントランス／ミュージアムホール	25,843	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月19日	主催	第51回　はじめての茶道体験	茶室	15	主催：九州国立博物館
9月19日、20日	共催	東九州神楽人の祭展～京築・庄内・椎葉の神楽を愉 しむ～公演東九州神楽人の祭展 神楽体験＆ワークショップ	エントランス／ミュージアムホール	2,590	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月20日	主催	第58回　親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
9月25日	共催	東九州神楽人の祭展　高千穂夜神楽	1階エントランス	150	主催：京築連帯アニメティ都市圏推進会議／神楽の里づくり推進協議会／大分県／宮崎県
9月29日、30日	主催	学術文化交流協定締結事業 微笑みの国タイの古典舞踏と伝統音楽	ミュージアムホール	390	主催：九州国立博物館／タイ文化省芸術局
10月2日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	20	主催：九州国立博物館
10月3日	主催	第59回　親子で茶道体験	茶室	42	主催：九州国立博物館
10月4日	主催	第52回　はじめての茶道体験	茶室	2	主催：九州国立博物館
10月11日	主催	開館10周年記念イベント 九博ボランティアフェスタ	エントランス／ミュージアムホール／研修室	2,038	主催：九州国立博物館
10月14日～ 11月3日	主催	開館10周年記念イベント「九州国立博物館のあゆ み」パネル展示	エントランス／アクセストンネル	131,917	主催：九州国立博物館
10月16日	主催	開館10周年記念プロジェクションマッピング	アクセストンネル	－	主催：九州国立博物館
10月18日	主催	地域交流イベント「きゅーはく市民感謝祭」	エントランス	110	主催：九州国立博物館
10月18日	主催	シンポジウム　「アジア交流博物館長サミット」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
10月19日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 「星のランタン展示とワークショップ」	エントランス／ミュージアムホール／研修室／和室	684	主催：九州国立博物館
10月20日	主催	10th Anniversary Happy 5 Dyas 「ゴスペルコンサート」	ミュージアムホール	360	主催：九州国立博物館
10月21日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days だざいふリコーダーアンサンブル「ぬくもりの笛の 音」	ミュージアムホール	130	主催：九州国立博物館
10月22日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 太宰府市民遺産「万葉集つくし歌壇」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
10月23日	主催	10th Anniversary Happy 5 Days 「福岡農業高校ファッションショー等学校発表会」	ミュージアムホール	730	主催：九州国立博物館
10月24日	主催	開館10周年記念特別展「美の国日本展」関連講演 会「正倉院あぜくら通信　九州版」	ミュージアムホール	220	主催：九州国立博物館
10月25日	主催	きゅーはく・だざいふコラボ企画「新羅王子がみた 大宰府」見どころ解説と大宰府市内史跡案内バスハ イク	九州国立博物館および太宰府市内史跡他	41	主催：九州国立博物館
10月25日	主催	開館10周年記念イベント 九博能 - 狂言「萩大名」・能「羽衣」 -	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
10月26日～ 11月3日	共催	きゅーはく・だざいふコラボ企画「ちょ古旅♪太宰 府パネル展」と史跡・観光案内ブースの設置	エントランスホール	76,228	主催：太宰府市
10月31日	主催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演 会「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
11月1日	主催	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リ レー講座「美の国　日本」「美の国の工芸」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
11月3日	主催	開館10周年記念イベント「推定客館跡」特別史跡 追加指定記念講演会　新羅王子がみた大宰府	ミュージアムホール	194	主催：九州国立博物館
11月3日	共催	きゅーはく・だざいふコラボ企画10周年記念コン サート	ミュージアムホール	300	主催：太宰府市

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
11 月 3 日	主催	第 6 回留学生イベント　留学生向け「文化交流ツアーin 九博」	第一会議室／文化交流展示室／学芸調査室	10	主催：九州国立博物館
11 月 7 日	主催	第 53 回　はじめての茶道体験	茶室	16	主催：九州国立博物館
11 月 7 日	主催	親子で作ろう！新聞紙のこいぬ	１階研修室	6	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団支援／九州国立博物館ボランティアグループ活動
11 月 8 日	主催	第 60 回　親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
11 月 13 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	75	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
11 月 14 日	共催	「浅野瑞穂　天女の舞」 ～いまここにある「日本の美」～	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
11 月 15 日	主催	開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」「南海の宝石　琉球王国」	ミュージアムホール	80	主催：西日本新聞／九州国立博物館
11 月 21 日、22 日	主催	開館 10 周年記念イベント アジア人形劇フェスティバル 「スバエク・トム」（カンボジア）	ミュージアムホール	1,055	主催：九州国立博物館
11 月 23 日	主催	開館 10 周年記念特別展『美の国　日本』記念 九州国立博物館杯さいふごま大会	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
11 月 28 日	主催	シンポジウム「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
11 月 29 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 徳永玲子&親子ＪＡＺＺユニット・ビジョンズがおくる「絵本と音の玉手箱」せんねんまんねん	ミュージアムホール	200	主催：九州国立博物館
12 月 4 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	45	主催：九州国立博物館
12 月 5 日	主催	第 54 回　はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	開館 10 周年記念特別公開「田中丸コレクションの茶陶」講演会　田中丸善八とそのコレクション	研修室	25	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	第 61 回　親子で茶道体験	茶室	62	主催：九州国立博物館
12 月 6 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート やっぴぃ博士のサイエンスコラボ&コメディーマジック Rintaro	エントランス	120	主催：九州国立博物館
12 月 12 日	共催	キャンパスフェスタ 2015	エントランス、ミュージアムホール	1,150	主催：大宰府キャンパスネットワーク会議
12 月 12 日	主催	なりきり考古学者体験	1 階あじっぱ	10	主催：九州国立博物館
12 月 13 日	主催	第 5 回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	28	主催：九州国立博物館
12 月 15 日	主催	絵画コンクール「100 年後の博物館を描こう」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
12 月 19 日	主催	平成 27 年度九州国立博物館 10 周年記念シンポジウム「X 線 CT 用いたを文化財の研究と活用」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 1 日～ 1 月 24 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30 年のあゆみ～	エントランス	67,022	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 9 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　講演会「アフガニスタンに生命の水を」	ミュージアムホール	280	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 9 日	主催	女子考古学部	研修室	19	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 11 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　オリエンタル・ベリーダンスショー	ミュージアムホール	280	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 16 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　講演会「心魅するティリヤ・テペ文化」	ミュージアムホール	170	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 16 日	主催	なりきり考古学者体験	あじっぱ	13	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 17 日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 初音（はつおと）逆瀬川剛史アコースティックギターソロライブ	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 22 日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	70	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28 年 1 月 23 日	主催	みんなでまもるミュージアム	研修室	41	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 23 日	主催	第 62 回親子で茶道体験	茶室	36	主催：九州国立博物館交流課
28 年 1 月 24 日	主催	独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム 地域と共に考える文化財の防災減災 II	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 24 日	主催	第 55 回はじめての茶道体験	茶室	1	主催：九州国立博物館交流課
28 年 1 月 24 日	主催	バックヤードツアー 特別公開「博物館科学・文化財保存修復施設」	九州国立博物館バックヤード	39	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課
28 年 1 月 29 日	主催	みんなでまもるミュージアム	研修室	51	主催：九州国立博物館
28 年 1 月 29 日	主催	平成 27 年度古文書保存基礎講座第１回 保存修理に関する講義と寒糊炊きの実習	九州国立博物館　第一会議室	24	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室
28 年 1 月 30 日	主催	開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	ミュージアムホール	150	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28 年 1 月 30 日	主催	平成 27 年度古文書保存基礎講座第２回 文化財の修理理念に基づいた応急修理についての実習	筑紫野市歴史博物館研修室	24	主催：九州国立博物館学芸部博物館科学課保存修復室

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
28年1月31日	主催	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」 関連　リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	ミュージアムホール	140	主催：西日本新聞／九州国立博物館
28年2月2日	共催	東日本大震災５周年　報道写真パネル展～福島の記録～	エントランス	21,966	主催：九州国立博物館振興財団
28年2月6日	主催	第56回はじめての茶道体験	茶室	13	主催：九州国立博物館交流課
28年2月6日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート「東西文化の合流点　アフガニスタンの歌と楽器」	エントランス	150	
28年2月7日	主催	第63回親子で茶道体験	茶室	47	主催：九州国立博物館交流課
28年2月7日	主催	九州国立博物館杯第４回さいふごま大会（開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念）	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
28年2月9日～14日	共催	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産パネル展	エントランス	8,310	主催：福岡県
28年2月11日	共催	博多にわか笑演会 in 九州国立博物館	ミュージアムホール	300	主催：博多二和加振興会
28年2月12日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28年2月13日	主催	「神宿る島」宗像・沖の島と関連遺産群講演会	ミュージアムホール	180	主催：福岡県
28年2月13日	主催	女子考古部	研修室	17	主催：九州国立博物館
28年2月14日	共催	海底に眠る元寇沈没船の謎　基調報告 「鷹島海底遺跡の調査・研究と鷹島１・２号沈没船の発見」	ミュージアムホール	150	主催：国立大学法人琉球大学
28年2月16日～21日	主催	九博子どもフェスタ 筑紫地区小学校児童画展	エントランス	14,431	主催：九州国立博物館を愛する会 九州国立博物館ボランティア 九州国立博物館 （公財）九州国立博物館振興財団
28年2月20日、21日	主催	九博子どもフェスタ ～博物館ってともだちだ！～	ミュージアムホール 研修室	2,399	主催：九州国立博物館を愛する会 九州国立博物館ボランティア 九州国立博物館 （公財）九州国立博物館振興財団
28年2月27日	主催	シンポジウム 「大城（大野城）の謎に迫る！- 宇美町からの新たな発信 -」	ミュージアムホール	305	主催：宇美町、九州国立博物館
28年2月27日	主催	研究会「契丹壁画墓高精細画像の集成と公開」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
28年2月27日	主催	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	15	主催：九州国立博物館
28年2月28日	主催	第6回　ガムランワークショップ	ミュージアムホール	24	主催：九州国立博物館交流課
28年2月28日	主催	折り紙ワークショップ	エントランス	50	主催：九州国立博物館ボランティアイベント部会
28年3月1日～6日	共催	筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんね！まちのたから～」	エントランス	11,012	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
28年3月4日	主催	きゅーはくカフェコンサート	エントランス／研修室	80	主催：九州国立博物館／福岡女子短大
28年3月5日	共催	古代出雲文化フォーラムⅣ 古代出雲と九州、そして東アジア	ミュージアムホール	260	主催：島根大学
28年3月6日	主催	九州国立博物館ボランティア公開研究会 「地域とともに共生する博物館のこれから～九博ボランティア活動の10年～」	ミュージアムホール	143	主催：九州国立博物館交流課
28年3月8日～13日	共催	平成27年度大宰府市景観・市民遺産会議パネル展	エントランス	160	主催：太宰府市民遺産を守り育てる実行委員会
28年3月12日	主催	きゅーはく女子考古部サミット～女子的考古学のススメ～	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
28年3月12日	主催	SUGITETSU PREZENTS チャリティー音楽実験室 for 東北	エントランスカフェ	320	主催：九州国立博物館
28年3月12日	主催	第57回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
28年3月13日	主催	第64回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
28年3月15日～27日	主催	開館10周年記念イベント　絵画コンクール「100年後の博物館を描こう」	エントランス	48,162	主催：九州国立博物館
28年3月19日	主催	博多の伝統芸能「博多芸妓の世界」	ミュージアムホール	300	主催：公益財団法人　九州国立博物館振興財団
28年3月19日	主催	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	9	主催：九州国立博物館
28年3月21日	主催	きゅーはくミュージアムコンサート 特別企画　踊る博物館	ミュージアムホール	523	主催：九州国立博物館
28年3月21日	共催	第20回九博デー「小学3・4・5年生かるた大会『つくし郷土かるた』～つくしの自然と歴史を楽しく遊ぼう～」	研修室・和室	80	主催：九州国立博物館を愛する会
28年3月25日	主催	ボランティアイベント「さげもんまり作り」	研修室	15	主催：九州国立博物館
28年3月26日	共催	日本情報考古学会第36回大会	研修室	60	主催：日本情報考古学会
28年3月27日	主催	Eテレ「びじゅチューン！井上涼×兵馬俑」	ミュージアムホール	482	主催：九州国立博物館

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10 月 10 日(土) 9：30～17：00	○参加者数　887 人《1021 人》 留学生　809 人《935 人》 同伴者　78 人《 86 人》 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・ボランティアによる茶会 参加者数：18 人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：350 人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：269 人	・アンケート実施せず
京都国立博物館 11 月 4 日(水) 9：30～17：30	○参加者数　185 人《73 人》 留学生　185 人《73 人》 同伴者　0 人《0 人》 ・特別展覧会「琳派　京を彩る」の無料観覧 ・ポストカードプレゼント	・留学生アンケート回答者数 16 人 （回収率 9%） ・来館頻度：初めて 66%、2 回目以降 44% ・認知経路：ポスター・チラシ 35%、友人・教師 24%　他 ・出身国：中国 62.5%　他 ・特別展の満足度：87%
奈良国立博物館 11 月 1 日(日) 9：00～19:00 (正倉院展会期中のため 9：00 開館)	○来館者数　16,352 人《15,346 人》 留学生　94 人《98 人》 ・「正倉院展」(特別展)の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難）
九州国立博物館 11 月 3 日(火・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　4,039 人《2,613 人》 留学生　16 人《　15 人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin 九博	・文化交流ツアー参加者アンケート回答 10 人（回収率 100%） ・1 年間の来館頻度：1 回 60%、3 回 40% ・認知経路：学校から 50%、友達から 30%、メール等 20% ・満足度：とても楽しかった 60%、楽しかった 40% ・スタッフの対応について：とてもよかった 70%、よかった 30%

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成 26 年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、障がい者等に配慮した設備等

平成28年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障がい者用トイレ	14ヵ所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8ヵ所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （東新館1、地下回廊2）	6ヵ所 （本体建物）
障がい者用エレベータ	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5ヵ所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4ヵ所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3ヵ所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1ヵ所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	2台	足の不自由な方に対して有	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	22台 （検札4、平成知新館8、倉庫保管10）	15台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15ヵ所 ○ベビーチェア 12ヵ所 ○授乳室 1ヵ所	○ベビーカー 6台 ○ベビーシート 12ヵ所 ○ベビーチェア 11ヵ所 ○授乳室 2ヵ所	○ベビーシート 2ヵ所 ○ベビーキープ 1ヵ所 ○おむつ交換台 1ヵ所	○ベビーカー 11台 ○ベビーシート 15ヵ所 ○ベビーチェア 6ヵ所 ○幼児用補助便座 6ヵ所
27年度整備事項	来館者用貸出車椅子を2台増やした。		正倉院展の会期中に無料託児室を開設し、保育士2名が常駐して１歳児から未就学児までの預かりを実施した。	

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
27年度計：223,331台	27年度計：109,167台	27年度計：49,546台	27年度計：70,955台
・特別展「みちのくの仏像」 27年度期間（27.4.1～4.5） 2,764台 （全期間 30,004台） ・特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」27年度期間（27.4.1～5.17） 12,065台 （全期間 16,714台） ・特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」 41,085台 ・特別展「クレオパトラとエジプトの王妃」 51,588台 ・特別展「始皇帝と大兵馬俑」 112,823台 ・特別展「生誕150年 黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」 27年度期間(28.3.23～3.31) 3,006台 （参考） 今年度ダウンロード件数 ・「トーハクなび」 Android版 3,161件 iOS版 6,141件 ・「法隆寺宝物館30分ナビ」 iOSアプリ 650件	・特別展 「桃山時代の狩野派 永徳の後継者たち」 （日本語版）20,375台 ・特別展 「琳派 京を彩る」 （日本語版）50,956台 ・名品ギャラリー （日本語版） 29,710台 （英語版） 1,892台 （中国語版） 5,507台 （韓国語版） 727台	・特別展 「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」 （日本語版・一般向け） 558台 ・開館120年記念特別展 「白鳳－花ひらく仏教美術－」 （日本語版・一般向け） 14,509台 ・特別展 「第67回正倉院展」 （日本語版・一般向け） 33,406台 （英語版・一般向け） 257台 （日本語版・子供向け） 816台	・文化交流展示 8,796台 （英語版 2,382台） （中国語版 2,834台） （韓国語版 3,580台） ・開館10周年記念特別展 「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛」 7,781台 ・開館10周年記念特別展 「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史」 22,562台 ・開館10周年記念特別展 「美の国 日本」 22,208台 ・開館10周年記念特別展 「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝」 9,608台

2-(4) 文化財情報の発信と広報の充実

2-(4)-① 収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　484件	画像　5,966件	画像　3,875件 文字　7,462件	画像　ー件 （完了済）

2-(4)-② 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		27年度新規	総数	27年度新規	総数	27年度新規	総数	27年度新規	総数
写真原板(フィルム)		1,479件	322,593件	0件	257,681件	5件	361,493件	0件	23,622件
デジタル撮影		11,034件	67,574件	5,294件	16,426件	4,232件	35,836件	1,090件	10,242件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	5,929冊	188,475冊	3,671冊	142,284冊	1,953冊	82,166冊	3,583冊	104,103冊
	漢書	517冊	39,669冊	71冊	21,651冊	18冊	5,155冊	0冊	0冊
	洋書	380冊	13,045冊	114冊	4,510冊	30冊	1,813冊	58冊	2,491冊
	計	6,826冊	241,189冊	3,856冊	168,445冊	2,001冊	89,134冊	3,641冊	106,594冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本 0コマ	0本 0コマ	0本 0コマ	26本 2,779コマ	0本 0コマ	21本 2,192コマ	0本 0コマ	0本 12コマ
マイクロフィルム		3巻	3,660巻	284巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
利　用　者　数	3,385人	4,828人	5,661人	6,118人	5,936人
閉架図書（閲覧）	3,032件	3,571件	3,909件	3,800件	4,521件
マイクロフィルム(閲覧)	573件	603件	466件	562件	399件
レファレンスサービス	2,783件	6,249件	6,802件	4,401件	4,006件
コピーサービス	19,983枚	25,419枚	23,801枚	26,200枚	25,395枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

2-(4)-③ 特別観覧件数

申請件数

平成28年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	330	24	306	147	3	144	64	13	51	62	4	58	57	4	53
写真撮影	73	6	67	1	1	0	20	2	18	25	2	23	27	1	26
映画撮影	17	14	3	3	2	1	1	0	1	3	0	0	0	0	0
テレビ撮影							6	6	0		2	1	2	2	0
ビデオ撮影							2	2	0				0	0	0
模写	12	1	11	4	0	4	1	0	1	1	0	1	1	0	1
模造							4	1	3				1	0	1
熟覧	228	3	225	139	0	139	30	2	28	33	0	33	26	1	25

点数

平成28年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	1,835	43	1,792	998	7	991	218	18	200	445	6	439	174	12	162
写真撮影	348	8	340	2	2	0	96	2	94	171	3	168	79	1	78
映画撮影	44	31	13	9	5	4	6	0	6	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							7	7	0	6	3	3	10	10	0
ビデオ撮影							6	6	0				0	0	0
模写	23	1	22	4	0	4	1	0	1	6	0	6	4	0	4
模造							6	1	5				2	0	2
熟覧	1,420	3	1,417	983	0	983	96	2	94	262	0	262	79	1	78

2-(4)-④ 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平成28年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,145	816	329				731	591	140	293	156	137	5	1	4
		カラー													116	68	48
	プリントでの提供	モノクロ	114	104	10				111	104	7	3	0	3			
		カラー	4	0	4				0	0	0	4	0	4			
画像再利用			181	109	72							178	106	72	3	3	0

点数

平成28年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,521	2,588	2,933				3,251	1,850	1,401	1,745	580	1,165	7	1	6
		カラー													518	157	361
	プリントでの提供	モノクロ	218	182	36				197	182	15	21	0	21			
		カラー	95	0	95				0	0	0	95	0	95			
画像再利用			313	163	150							308	158	150	5	5	0

2-(4)-⑤ 広報実績一覧

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画

「博物館でアジアの旅」

会期：27年9月29日（火）～10月12日(月・祝)

ターゲット：一般の美術愛好家、若年層特に20～30代女性、国内外からの観光客、留学生

重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供

特記事項：期間内に開催した「博物館で野外シネマ」の情報をポスター・チラシに掲載。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,200件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	駅貼り広告(JR 上野、鶯谷、の2駅、東京メトロ 上野、上野広小路、浅草、稲荷町、の5駅、都営線3駅、京王線3駅、東急線3駅)、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	東洋経済日報、陶業時報　ほか
テレビ／ラジオ	―
雑誌・ＷＥＢ掲載	毎日新聞、朝日新聞デジタル&m、SANSPO.COM、BIGLOBEニュース、映画.com、「上野が、すき。」、OZmall、こども映画プラス、J-WAVE　POP UP!、映画ナタリーほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン・SNSでの情報配信

・特別企画

「留学生の日」

会期：27年10月12日（土）

ターゲット：留学生

重点項目：学校を通じた広報

特記事項：ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約500件(大学、語学専門学校等)
交通広告	駅貼り広告(京王線新宿駅、明大前など4駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビ／ラジオ	―
雑誌掲載	―
博物館ニュース	告知2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン･SNSでの情報配信

・考古展示室リニューアルオープン

27年10月14日（水）

ターゲット：考古学ファン

重点項目：当館来館者への周知に加え、当館の考古コレクションについて一般向けにも広く周知する
プレスリリースの配信(約210件)
記者懇談会での報道内覧会の実施　(平成27年10月5日、58人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	1200件（1都3県博物館・美術館・学校・ギャラリー・ホテル等）
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷、東京メトロ上野・浅草、京王線支部や・新宿)5駅15面 デジタルサイネージ（JR東京・上野、東京メトロ上野）
新聞・雑誌広告	読売（カラー突き出し）1回、朝日（半5段 1回
テレビ広告	―
新聞掲載	毎日新聞、朝日新聞、よみうりジュニアプレス、ほか
テレビ／ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌掲載	東京人、なごみ、炎芸術　ほか
博物館ニュース	2回
インターネット	ニュースサイト等43件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事8回、メールマガジン・SNSでの情報配信

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」

会期：27年3月17日（火）～5月17日（日）

ターゲット：一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン

重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約4,500件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、ギャラリー、図書館等) ジュニア用ワークシート：東京近郊小中学校に送付、ウェブサイトからのダウンロード、会場内にて配布
交通広告	交通広告；駅貼り広告(JR上野、東京、品川、大宮、松戸など30駅、東京メトロ 上野、浅草、表参道、六本木、三越前、渋谷、銀座など２０駅、京王線 新宿、渋谷、吉祥寺、明大前など各駅)、表参道駅臨時集中貼り24面1週間、日比谷線、半蔵門線車内広告、JR上野駅ADビジョン
新聞・雑誌広告	日経新聞７回、朝日新聞２回
テレビ広告	―
新聞掲載	日経新聞、朝日新聞、産経新聞、東京新聞、日刊ゲンダイ、The Japan Timesほか
テレビ/ラジオ	本展特別番組「インドの仏 2500年の謎～仏教美術の源流に迫る」（BSジャパン）、「スッキリ」（日本テレビ）、「大人のOFF」（BSジャパン）、アートステージ（TOKYO MX）、Atelier Nova（J-WAVE）ほか
雑誌掲載	日経おとなのOFF（日経BP）、DRESS（gift）、男の隠れ家別冊（プラネットライツ）、別冊宝島（宝島社）、BAILA（集英社）、Tokyo Walker（KADOKAWA）ほか
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 インターネットミュージアム（丹青社）　ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　95件　 雑誌　12件　テレビ・ラジオ　3件 インターネット　24件
③報道発表会　26年11月7日 インド大使館にて（67媒体、100人出席）
④報道内覧会　27年3月16日（100媒体　112人出席）

展覧会名：特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約12,000件(博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、カルチャー・センター、語学学校、ギャラリー、図書館、百貨店、ホテル、大使館、仏教団体、美術関連団体、旅行会社ほか
交通広告	JR　ニューターミナルボードＳＷ－４Ａ　30駅30面 東京メトロ Ｕボードゴールド　17駅20面 私鉄　フレコミボード　B0×2連　43駅86面 JR　京浜東北線中吊り　B3　1,200枚 東急　横浜メガセット　1面（B0×8枚分） 屋外　有楽町イトシア地下広場　1面（B0×8枚分） 京王電鉄　京王ステラボード　Ｈ705×W4,070（mm） 京王電鉄　中吊りポスター　B3　970枚 京王電鉄　駅貼りポスター　B1　100枚東京メトロ５２駅電飾看板 ポスター駅貼り・車内吊等（JR、京王、西武　多数） 東急ドア横、JR品川駅大型フラッグ、西武池袋駅フラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞 社会面下広告：20回 題字下広告：9回
テレビ広告	テレビ朝日　30秒4回 その他、渋谷109フォーラムビジョン、原宿アストロ（神宮前交差点）、有楽町マリオンビジョン（数寄屋橋交差点）の３カ所でも放映
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞（イベント朝日：4回　特集紙面：3回　お知らせ：3回　夕刊連載9回）、日経新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞　ほか
テレビ/ラジオ	日曜美術館(NHK)、ひるまえほっと(NHK)、ぶらぶら美術博物館（BS日テレ)、アート・ステージ(TOKYO MX)、ほか
雑誌掲載	芸術新潮（新潮社)、美術手帳（美術出版社)、和楽、Domani、サライ(小学館)、日経おとなのOFF(日経BP)、SPUR、UOMO、ウルトラジャンプ(集英社)、anan、BRUTUS、クロワッサン（マガジンハウス）ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集3回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジン/SNSでの情報配信、公式ホームページでの紹介 インターネットミュージアム(丹青社)、マイナビニュース（マイナビ)、日経ウーマンオンライン(日経BP)、レッツエンジョイトーキョー（株式会社ぐるなび)、ハフィントンポスト日本版ほか

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　176件、雑誌　219件、テレビ/ラジオ 19件、インターネット　111件

展覧会名：「クレオパトラとエジプトの王妃展」

会期：27年7月11日（土）～9月23日（水・祝）
ターゲット：広く一般の考古学・歴史ファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約13,000件(1都6県博物館・美術館・学校・エジプトレストラン、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンター・語学学校等、外国政府観光局) ジュニア向けワークシート：キッズデー（7月27日）で配布、キッズデー終了後はウェブサイトからのダウンロード
交通広告	大型ボード(JR上野、東京はじめ約40駅)、東京メトロボード（銀座、大手町はじめ約20駅）、私鉄駅ボード（東急沿線ほか約40駅）、西武線京王線など中吊り、ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞約20回、読売新聞1回、日経新聞1回
テレビ広告	ＮＨＫスポット告知
新聞掲載	朝日新聞約70件、読売・日経・産経・東京ほか約70件
テレビ/ラジオ	ねまきでアート（ＮＨＫBS）、特別番組（ＮＨＫBS）、日曜美術館（ＮＨＫ）、 アートステージ（TOKYO MX）ほか
雑誌掲載	週刊朝日、婦人公論、東京ウォーカー、和樂ほか、約90件
博物館ニュース	3回
インターネット	ＷＥＢ媒体約100件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事20回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式Twitter

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　140件、雑誌　90件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　100件
③報道発表会　27年3月2日　東洋館ミュージアムシアターにて　(70人出席)
④報道内覧会　27年7月10日 (177人出席)

展覧会名：「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」
会期：27年9月8日（火） ～ 11月29日（日）
ターゲット：ジュエリーファン　ハイブランドファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約2,500件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	東京メトロ社内モニターCM
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
新聞掲載	読売新聞、朝日新聞、ジャパンタイムズほか
テレビ/ラジオ	NEWS ZERO（NTV）、白熱ビビッドライブ（TBS）、ぶらぶら美術博物館（BS日テレ）、ニュース（NHK）、めざましテレビ（ﾌｼﾞTV）ほか
雑誌掲載	ENGINE（新潮社）、日経ビジネス（日経BP社）、GOLD（世界文化社）、NUMERO TOKYO(扶桑社)、an an（マガジンハウス)、ELLE JAPON（ハースト婦人画報）、ミセス（文化出版局）ほか多数
博物館ニュース	告知2回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 Fashion Snap（レオコーランド）、Fashionpress（カーリン）、Artscape（DNPアートコミュニケーションズ）、FIGARO.jp（cccメディアハウス）、Let’s Enjoy Tokyo（ぐるなび）

②パブリシティー情報掲載・放映
　テレビ　5件、新聞　10件、雑誌ほか　75件、インターネット　38件
③報道発表会　なし
④報道内覧会　71媒体110人出席

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」
会期：27年10月27日（火）～28年2月21日（日）
ターゲット：広く一般の考古学・歴史ファン、美術ファン
重点項目：マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約7,000件(1都6県博物館・美術館・学校、横浜中華街、1都3県ギャラリー・ホテル・カルチャーセンターなど)
交通広告	大型ボード(JR上野、東京はじめ約100駅)、東京メトロボード（銀座、表参道はじめ20駅）、東急社内ビジョン、京王線ポスター駅貼り、東武線車内ポスター、ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞約30回、読売新聞1回
テレビ広告	ＮＨＫ30秒スポット
新聞掲載	朝日新聞約60件、読売・毎日・日経・東京・産経・地方紙など約230件
テレビ/ラジオ	ＮＨＫスペシャル（ＮＨＫ）、日曜美術館（ＮＨＫ）、ひるまえほっと（ＮＨＫ）、 ぶらぶら美術・博物館館（ＢＳ日テレ）、アートステージ（TOKYO MX）、ラジオ深夜便、ほか
雑誌掲載	サライ、男の隠れ家、女性セブン、日経おとなの OFF、和樂、ニュートン、ほか、約90件

博物館ニュース	4回
インターネット	ＷＥＢ媒体約85件、当館ウェブサイト、ブログ関連記事13回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式Twitter、展覧会公式Instagram

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　約290件、雑誌　約90件、テレビ/ラジオ 約10件、インターネット約85件
③報道発表会　27年7月10日　平成館大講堂にて　(93人出席)
④報道内覧会　27年10月26日 (186人出席)

【京都国立博物館】

(1)平常展（名品ギャラリー）

展覧会名：特集陳列「葵祭の美術―千年の伝統―」
会　　期：27年4月21日～5月31日（37日間）
広報媒体：博物館たより、リーフレット、情報誌、ホームページ、新聞等

展覧会名：特集陳列「日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情」
会　　期：27年6月9日～7月20日（37日間）
広報媒体：博物館たより、リーフレット、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年6月8日に実施

展覧会名：新春特集陳列「さるづくし―干支を愛でる―」
会　　期：27年12月15日～28年1月24日（30日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

展覧会名：特集陳列「刀剣を楽しむ―名物刀を中心に―」
会　　期：27年12月15日～28年2月21日（54日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

展覧会名：特集陳列「獅子と狛犬」
会　　期：27年12月15日～28年3月13日（72日間）
広報媒体：博物館たより、鑑賞ガイド、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年12月14日に実施

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」
会　　期：27年4月7日～5月17日（37日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：26年12月5日、27年4月6日、に実施

展覧会名：特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―」
会　　期：27年7月29日～9月6日（35日間）
広報媒体：博物館たより、ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表：27年7月28日に実施

展覧会名：特別展覧会「琳派　京を彩る」
会　　期：27年10月10日～11月23日（39日間）
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞等
記者発表会：27年6月26日（東京）、27年7月16日（京都）、27年10月9日に実施

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

広報媒体：博物館だより、新聞、テレビ等

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」
会期：27年4月7日～5月17日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術」
会期：27年7月18日～9月23日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：「第67回正倉院展」
会期：27年10月24日～11月9日
広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 270 件（学校・公共施設・ホテル・旅行会社等）
交通広告	ＰＲ映像の上映（西鉄駅構内）ほか
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞（展示解説毎週掲載）、読売新聞、産経新聞、朝日新聞、北海道新聞
雑誌掲載	太宰府市広報誌（毎月）、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー（年 4 回）、九州王国（毎月） 和樂、まっぷる福岡、九州じゃらん、るるぶ九州ベストほか
テレビ	・ＣＭ放送（毎週１回放送）、ＴＮＣテレビ西日本の番組内で展示紹介（毎月） ・ＮＨＫ、ＴＶＱ、ＫＢＣ、ＦＢＳの番組内で展示室のリニューアルを紹介。
展示・イベントちらし	毎月発行 ※特別展、文化交流展、イベント情報等を掲載。
季刊情報誌「アジア―ジュ」	年 4 回発行（4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、28 年 1 月 1 日） 特別展、文化交流展示解説、トピック展示特集、博物館ニュース、イベントスケジュール等を掲載。
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介（随時）、メールマガジンでの情報配信（月 2 回）
その他	・ガイドブック「きゅーはく攻略本」を増刷し、館内で配付。 ・ＪＲ博多シティ（博多駅）とタイアップしたイベントを開催し、パンフレットなどを配布。

②報道内覧会

文化交流展示室リニューアル 10 月 16 日（7 社参加）

・トピック展示「柿右衛門－受け継がれる技と美－」

会期：27 年 3 月 3 日(火)～5 月 10 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、佐賀新聞
雑誌掲載	美術の窓、九州春ウォーカー等、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー
季刊情報誌「アジアージュ」	予告 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	マスコミ内覧会の開催 8 社出席 ＪＲ駅デジタルポスター、バス停広告掲出

・特別公開　中世刀剣の美 - ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀 -

会期：27 年 5 月 19 日（火）～6 月 28 日（日）

広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、ぴあＭＯＯＫ「刀剣探訪」、刀剣春秋、九州王国等に掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	予告 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・開館 10 周年特別企画「むしの考古学」

会期：27 年 7 月 14 日(火)～9 月 13 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 2,500 件（太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞
雑誌掲載	九州王国
季刊情報誌「アジアージュ」	告知 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・「筑前朝倉の青銅器」

会期：27 年 7 月 28 日(火)～9 月 27 日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	読売新聞
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
展示・イベントちらし	掲載 1 回

・開館 10 周年記念 「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念

トピック展示「新羅王子がみた大宰府」

会期：27 年 9 月 22 日（火）～11 月 29 日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 530 件（博物館、美術館、文化施設等）、約 1,200 件（友の会・太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞、毎日新聞
雑誌掲載	九州王国、広報だざいふ　記事掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	告知 1 回、特集 1 回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・「琉球と海―アジアにおける交流」

会期：27 年 10 月 14 日(水)～11 月 23 日(月・祝)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
テレビ	ＮＨＫの番組内で紹介
ウェブサイト	メールマガジンでの情報配信
展示・イベントちらし	掲載１回

・「田中丸コレクションの茶陶」
会期：27 年 10 月 14 日(水)～12 月 20 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	朝日新聞　記事掲載、読売新聞
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」
会期：28 年 1 月 1 日（金・祝）～1 月 24 日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞
雑誌掲載	和の漆
テレビ	ＴＮＣの番組内で紹介
毎月１回季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・開館 10 周年記念新春展示　「太宰府天満宮の地宝」
会期：28 年 1 月 1 日(金・祝)～2 月 28 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 200 件（友の会等）
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパーに掲載
季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
テレビ	ＮＨＫ、ＴＮＣ、ケーブルステーション福岡の番組内で紹介
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・トピック展示「祈りのかたち　八幡」
会期：28 年 2 月 2 日(火)～3 月 13 日(日)
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 900 件（太宰府市内公民館等）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞
雑誌掲載	九州王国
交通広告	駅張り広告（ＪＲ、西鉄、福岡市営地下鉄）
テレビ	ＴＮＣの番組内で紹介
季刊情報誌「アジアージュ」	特集１回
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	報道内覧会開催予定（2 月）、太宰府イベント情報（チラシ）

・長期的な広報
　西鉄太宰府駅：広告ボードの設置　（21 年～）
　福岡空港　　：宣伝用看板（電照広告）の設置　（22 年～）
・その他　　：・スーパーハイビジョンシアター　新番組「神やどる島 宗像・沖ノ島」上映開始
　　※ＮＨＫ、ケーブルステーション福岡で紹介
　　・「開館 10 周年記念プロジェクションマッピング」で 4 階の展示物をＰＲ
　　※西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、ＮＨＫ、ＦＢＳ、ＫＢＣ、ＲＫＢ等で紹介

(2)特別展・共催展等

展覧会名：開館10周年記念特別展「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」

会期：27年4月21日（火）～5月31日（日）
①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞（展示解説連載）、毎日新聞、佐賀新聞（展示解説を連載）、朝日新聞、読売新聞
雑誌掲載	九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー、特集 1 回　九州春ウォーカー、和樂、美術の窓、刀剣春秋、日経インテレッセ
テレビ	ＴＶＱ九州放送にて告知ＣＭ・番組での紹介
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知１回、特集１回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施

	設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会　　1 月 20 日（7 社出席）
③報道内覧会　　4 月 20 日（13 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史－」

会期：27年7月14日（火）～9月6日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	朝日新聞、毎日新聞（展示解説を連載）西日本新聞、読売新聞
雑誌掲載	美術の窓、美術の森、男の隠れ家、和樂、九州夏ウォーカー、九州王国、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー　等に掲載
テレビ	ＮＨＫ、ＴＮＣ番組での紹介・ＴＮＣにて告知ＣＭ
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、YouTube で紹介動画の配信、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 福岡県広報誌への掲載

②　記者発表会　　5 月 18 日　（15 社出席）
③　報道内覧会　　7 月 13 日　（14 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「美の国 日本」

会期：27年10月18日(日)～11月29日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、大分合同新聞ほか
雑誌掲載	芸術新潮、和樂、サライ、男の隠れ家、九州秋ウォーカー、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー等で紹介
テレビ	ＴＮＣ、ＴＶＱ、ＮＨＫ、ＲＫＢ、ＦＢＳ、ＫＢＣ等の番組での紹介・ＴＮＣ、ＴＶＱにて告知ＣＭ
ラジオ	ＮＨＫ、鹿児島ＭＢＣにて展覧会紹介、ＦＭ福岡にて告知ＣＭ
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 30,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトおよび特別展公式ホームページでの紹介、メールマガジンでの情報配信、Youtube で紹介動画を配信、facebook 周知活動
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 看板等…大丸地下通路電照看板、博多駅地下ビジョン、地下鉄天神駅電照看板、大丸南側看板、西日本ビジョン 書店タイアップ 飾り山の標題を「美の国 日本」

②　記者発表会　　7 月 29 日（18 社出席）
③　報道内覧会　　10 月 17 日（22 社出席）

展覧会名：開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」

会期：28年1月1日(金)～2月14日(日)

①広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	駅ボード（西鉄・ＪＲ）、ポスター駅貼り等（西鉄・ＪＲ）、ポスター車内（西鉄・ＪＲ・太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、産経新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞
雑誌掲載	眼の目、九州国立博物館&太宰府天満宮フリーペーパー
テレビ	ＴＮＣの番組内での紹介および告知ＣＭ、ＮＨＫのニュースで紹介
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 31,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学・県内商業施設等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、Youtube で紹介動画を配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載 ジュニアガイドを県内の小学校に配布

②　記者発表会　　10 月 29 日（8 社出席）
③　報道内覧会　　12 月 25 日（14 社出席）

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

会期：28年3月15日（火）～6月12日（日）

①広報媒体

種類	設置場所・件数等

ポスター・チラシ等送付	約 3,600 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞掲載	西日本新聞、朝日新聞
雑誌掲載	九州王国、太宰府イベント情報
季刊情報誌「アジア―ジュ」	告知 1 回、特集 1 回、送付 約 2,000 件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・友の会・図書館・文化施設・大学等）
ウェブサイト	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信
その他	太宰府市役所デジタルサイネージ等への広告掲載

②記者発表会　　28 年 3 月 14 日（17 社出席）
③報道内覧会　　3 月 14 日（17 社出席）

（参考）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん」
会　　期：27年7月11日(土)～9月23日(水)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース・TV

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展　造酒司木簡の世界」
会　　期：27年10月17日(土)～11月29日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：ミニ展示「発掘速報展 平城2015」
会　　期：27年12月5日(土)～28年1月31日(日)〈Ⅰ期〉
　　28年2月13日(土)～28年3月31日(木)〈Ⅱ期〉
広報媒体：チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

・**速報展**
①「藤原宮大極殿院の調査（182次）」
②「藤原宮東方官衙北地区の調査（183次）」
③「檜隈寺瓦窯の調査（181-4次）」
④「飛鳥寺出土文字瓦の再調査」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

広報媒体：チラシ、ホームページ、情報誌等

(2)特別展等

展覧会名：春期特別展「はじまりの御仏たち」
会　　期：27年4月24日(金)～6月21日(日)
広報媒体：ポスター・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：夏期企画展「第6回写真コンテスト「ひさかたの天」応募作品展」
会　　期：27年7月28日(火)～9月13日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」
会　　期：27年10月9日(金)～11月29日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学2015－飛鳥の古墳調査最前線－」
会　　期：28年1月29日(金)～3月6日(日)
広報媒体：ポスター・チラシ・ホームページ・新聞・情報誌等・奈文研ニュース

2-(4)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース730号～735号	隔月刊年6回　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,143件（パスポート同時申込 619件含） 寄贈　国内1,273件　海外88件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　495件（キャンパスメンバーズ　48件含） 友の会　2,018件 （28年3月31日現在）
東京国立博物館「案内と地図」	日本語　27.4　改訂　81,000部 日本語　27.9　増刷　40,000部 英語　27.4　改訂　36,000部 英語　27.9　増刷　50,000部 中国語（簡体字）27.4　改訂　10,000部 中国語（簡体字）27.9　増刷　10,000部 中国語（繁体字）27.4　改訂　10,000部 韓国語　27.4　改訂　15,000部 フランス語　27.4　改訂　4,000部 フランス語　27.7　増刷　5,000部 スペイン語　27.4　改訂　4,000部 スペイン語　27,7　増刷　5,000部 ドイツ語　27.4　改訂　4,000部 ドイツ語　27, 7 増刷　3,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内2015.4-2016.3	28.3　27年度版　35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
平成知新館こどもガイド	6月,11月,28年1月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
特別展観「仏法東漸―仏教の典籍と美術－」鑑賞ガイド「お経って何だろう？」	7月	20,000部	観覧者（子ども～大人対象）
特集陳列「獅子と狛犬」鑑賞ガイド「今日から君も獅子と狛犬博士」	28年1月	10,000部	観覧者（子ども～大人対象）
博物館Dictionary No.178～187	4、5、6、10、11、12月 28年2月	20,000部	観覧者（小・中学生対象）
京都国立博物館だより	4、7、10、28年1月	186号（4・5・6月）　30,000部 187号（7・8・9月）　15,000部 188号（10・11・12月）　80,000部 189号（28年1・2・3月）　15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.125～128	4、7、10、28年1月	各3,000部	観覧者、京都観光案内所
平成27年度年間スケジュール	4月	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集陳列「葵祭の美術」リーフレット	4月	15,000部	観覧者
特集陳列「日本の仮面」リーフレット	5月	10,000部	観覧者
特別展観「仏法東漸」ポスター・チラシ	7月	ポスター　2,000部 チラシ　80,000部	観覧者
特別展観「仏法東漸」出品目録・展示替一覧表	7月	20,000部	観覧者
琳派国際シンポジウムチラシ	8月	25,000部	観覧者
「京博のお正月」ポスター・チラシ	10月	ポスター　2,000部 チラシ　80,000部	観覧者
新春特集陳列「さるづくし」リーフレット	28年1月	20,000部	観覧者
特集陳列「刀剣を楽しむ」リーフレット	28年1月	50,000部	観覧者
特集陳列「皇室ゆかりの名宝」ポスター・チラシ	28年1月	ポスター　200部、 チラシ　20,000部	観覧者
特集陳列「皇室ゆかりの名宝」リーフレット	28年1月	15,000部	観覧者
特集陳列「徳川将軍家と京都の社寺（仮称）」「丹後の仏教美術」「与謝蕪村」チラシ	28年3月	80,000部	観覧者
京都国立博物館庭園ガイド2016	28年3月	10,000部	庭園解放時に有料観覧者に配布、および販売(260円税込)
留学生の日チラシ	11月	チラシ　500部	観覧者(関西圏の大学、専門学校へ送付)
平成28年度年間スケジュール	28年3月	10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

【奈良国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 31,000部 冬号 15,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等 約1,560件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版 30,000部 英語版 10,000部 フランス語版 2,000部 ドイツ語版 1,000部 中国語版 15,000部 韓国語版 5,000部 スペイン語版 1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊 行 物 名	発行部数	配 布 先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 95,000部 中国語版 11,000部 韓国語版 11,000部 英語版 31,000部 ドイツ語版 3,000部 フランス語版 4,000部 スペイン語版 3,000部 合計 158,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版 40,000部 中国語版 6,000部 韓国語版 4,000部 英語版 5,000部 合計 55,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版 3,000部 中国語版 300部 韓国語版 300部 英語版 500部 合計 4,100部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(36)号 50,000部 夏(37)号 50,000部 秋(38)号 50,000部 冬(39)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号14,000部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 展示スケジュールのご案内	50,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館 わくわく通信	年5回 総数749,000枚	・近郊の小中学校に配布
九州国立博物館 きゅーはく攻略本	80,000部	・館内で来館者に配布

2-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料 d

3 我が国における博物館の中核としての機能の強化

3-(1)調査研究の成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

3-(1)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

3-(1)-③ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

3-(1)-④ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

3-(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

3-(4) 収蔵品の貸与

3-(4)-① 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成28年3月31日現在

	国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数	273	257	16	134	123	11	77	75	2	36	34	2	26	25	1
合　計	1,530	1,428	102	992	910	82	303	293	10	145	137	8	90	88	2
絵画	432	398	34	185	162	23	174	164	10	59	59	0	14	13	1
書跡	81	81	0	30	30	0	31	31	0	14	14	0	6	6	0
彫刻	313	310	3	285	283	2	13	13	0	13	13	0	2	1	1
建築	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
金工	92	91	1	56	55	1	24	24	0	12	12	0	0	0	0
刀剣	22	22	0	21	21	0				1	1	0	0	0	0
陶磁	116	103	13	96	83	13	19	19	0	0	0	0	1	1	0
漆工	54	53	1	34	34	0	8	8	0	11	10	1	1	1	0
染織	48	48	0	44	44	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
考古	201	167	34	76	49	27	29	29	0	35	28	7	61	61	0
民族資料	37	37	0	37	37	0				0	0	0	0	0	0
歴史資料	20	18	2	17	15	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0
和書	18	18	0	17	17	0				0	0	0	1	1	0
東洋 絵画	20	20	0	20	20	0									
東洋 書跡	7	7	0	7	7	0									
東洋 彫刻	6	2	4	6	2	4									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	13	11	2	13	11	2									
東洋 漆工	2	0	2	2	0	2									
東洋 染織	0	0	0	0	0	0									
東洋 考古	0	0	0	0	0	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	33	27	6	33	27	6									
黒田記念館収蔵品	12	12	0	12	12	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
貸与先件数	266	311	272	274	273
合　計	1,571	1,814	2,041	1,962	1,530
絵画	376	436	461	392	432
書跡	75	91	101	92	81
彫刻	146	224	183	361	313
建築	3	5	4	3	3
金工	61	84	63	94	92
刀剣	42	13	46	10	22
陶磁	98	99	250	257	116
漆工	66	57	121	109	54
染織	152	98	47	35	48
考古	203	327	324	243	201
民族資料	12	2	0	8	37
歴史資料	24	44	68	36	20
和書	21	14	13	13	18
東洋 絵画	15	12	13	42	20
東洋 書跡	9	6	13	13	7
東洋 彫刻	9	27	9	5	6
東洋 金工	1	0	0	4	0
東洋 陶磁	9	29	37	28	13
東洋 漆工	6	3	0	5	2
東洋 染織	0	0	1	7	0
東洋 考古	30	49	47	10	0
東洋 民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物	2	0	0	2	33
黒田記念館収蔵品	211	194	240	193	12

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(4)-② 公私立博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成28年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	202	1,106	114	857	52	154	20	60	16	35
国・国立	32	197	12	120	14	55	4	19	2	3
地方・公立	119	723	73	614	25	51	9	28	12	30
私立団体	51	186	29	123	13	48	7	13	2	2
海外	13	92	11	82	1	3	1	7	0	0

○寄託品

平成28年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
国内	99	322	22	53	41	139	23	77	13	53
国・国立	19	76	5	13	7	48	5	12	2	3
地方・公立	55	138	11	22	21	40	12	26	11	50
私立団体	25	108	6	18	13	51	6	39	0	0
海外	4	10	0	0	2	7	1	1	1	2

3-(4)-③ 海外への列品貸与

【東京国立博物館】　海外貸与先　11件　　海外貸与文化財 82件[うち寄託品 0件]　平成28年3月31日現在

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	14年1月1日～28年12月31日	東洋彫刻2
長期貸与(ヒューストン美術館日本美術室常設展示)	ヒューストン美術館【ヒューストン美術館日本美術室（アメリカ合衆国)】	24年2月17日～28年4月12日	14件 彫刻2、陶磁10、考古2
「細密可貴－韓国美術の品格」	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	27年7月2日 ～ 9月13日	4件 東洋陶磁2、東洋漆工2
「狩野派展」	フィラデルフィア美術館【フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)】	27年2月16日～5月10日	24件 絵画22、歴史資料2
「楽－茶碗の中の宇宙」展	ロサンゼルス・カウンティ美術館[ロサンゼルス・カウンティ美術館(アメリカ合衆国)]	27年3月29日～6月7日	陶磁1
「楽－茶碗の中の宇宙」展	エルミタージュ美術館【エルミタージュ美術館（ロシア連邦)】	27年7月11日 ～ 9月6日	陶磁1
「楽－茶碗の中の宇宙」展	プーシキン美術館【プーシキン美術館（ロシア連邦)】	27年9月22日 ～ 11月15日	陶磁1
「古代仏教彫刻」展	国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国)】	27年9月24日 ～ 11月15日	9件 金工1､法隆寺献納宝物6、東洋彫刻2
特別展「韓国の新石器文化」	国立中央博物館【国立中央博物館(大韓民国)】	27年10月20日 ～ 28年1月31日	考古6
「SOUTATSU」展	アーサー・M・サックラー・ギャラリー【フリーア・サックラー美術館(アメリカ合衆国)】	27年10月24日 ～ 28年1月31日	絵画1
「日本の古墳文化」展	国立慶州博物館【国立慶州博物館(大韓民国)】	27年12月11日 ～ 28年2月21日	考古19

【京都国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 10件[うち寄託品 7件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
海外展『Ink and Gold:Art of the Kano「狩野派」展』	文化庁、フィラデルフィア美術館【フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)】	平成27年1月29日～5月24日	絵画9
「細密可貴」展	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	平成27年6月26日 ～ 8月19日	絵画1

【奈良国立博物館】　海外貸与先 2件　　海外貸与文化財 8件[うち寄託品 1件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
特別展「細密可貴」	サムソン美術館リウム【サムソン美術館リウム（大韓民国)】	27年8月3日 ～ 9月21日	工芸1
韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」	大韓民国国立慶州博物館【国立慶州博物館】	27年10月28日 ～ 平成28年3月18日	考古7

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 2件[うち寄託品 2件]

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
台北國立故宮博物院南部院区－アジア芸術文化博物館開幕展覧会	国立故宮博物院南部院区【国立故宮博物院南部院区】	27年12月15日～ 28年3月31日	2件 絵画1、彫刻1

3-(4)-④ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
高知県立歴史民俗資料館	27	12
愛媛県立歴史文化博物館	4	28

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数（件）	借用件数（件）
愛媛県立歴史文化博物館	2	6
和歌山県立紀伊風土記の丘	1	2

（参考）

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

区分	貸与件数（件）	貸与先件数(件)
古写真	1	1

3-(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

3-(5)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

平成28年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
329件	139件	65件	58件	67件

【東京国立博物館】139件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	イラク文化省	象牙の保存について	28年2月25日	学芸企画部長　井上洋一、保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
2	エンドール考古学博物館（イスラエル）	収蔵品の属性（年代、製作地など）に関する専門的な助言	8月13日	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
3	平等院	平等院ミュージアム鳳翔館･照明施設改修にかかわる基本設計・仕様策定、業者選定、現場調整等への指導･助言	6月12日、9月18日、11月12日、28年3月18日	企画課デザイン室長　木下史青
4	那覇市立壺屋焼物博物館	那覇市立壺屋焼物博物館の施設改修(照明)にかかわる基本設計・仕様策定、業者選定、現場調整等への指導･助言	6月20日～ 23日、28年2月20日、28年2月21日	同上
5	松戸市立博物館	特別展示室の設備・照明改修等にかかわる指導・助言	7月2日	同上
6	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言	1月～12月	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子
7	国立民族学博物館	平成27年度「博物館学集中コース」見学研修講師	11月13日	企画課国際交流室長　鬼頭智美
8	国際展覧会オーガナイザー会議	運営委員会委員･アジアの博物館における展覧会運営について	4月22日、24日	同上
9	さいたま市大宮盆栽美術館	英訳業務および多言語対応について	28年2月17日	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　君波　妙子
10	大英博物館	列品管理とその施設について、展覧会対応について	28年2月23日	企画課国際交流室長　鬼頭智美、保存修復課環境保存室長　和田浩、列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
11	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	1月～28年3月	博物館教育課長　小林牧
12	インド　コルカタ博物館	博物館教育の理念と実践例について	5月20日	博物館教育課長　小林牧、博物館教育課教育普及室主任研究員藤田千織
13	文化庁	指定文化財　企画･展示セミナー　東京国立博物館の鑑賞ガイダンス	7月9日	博物館教育課長　小林牧
14	グランドエジプト博物館	博物館教育、特にミイラのワークシートの開発について	8月14日	同上
15	国立近代美術館	美術館・博物館における広報活動について	10月23日	同上
16	ユネスコ	アジア博物館学芸員研修　博物館教育について	12月3日	同上
17	カタール財団	博物館と大学との連携事業、ならびに人材育成について	28年3月1日	同上
18	国立科学博物館	博物館における鑑賞支援アプリのシステムについて	12月3日	博物館教育課長　小林牧、同教育普及室主任研究員　藤田千織
19	韓国国立中央博物館	「古代仏教彫刻展」における光背断片の復元図作成協力	9月24日～11月15日	博物館教育課教育普及室研究員三田覚之
20	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員として、文化財の指定、修復に関して助言をおこなった	8月1日～28年3月31日	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅
21	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として、山鉾の保存・修復に関して助言をおこなった	4月1日～28年3月31日	同上
22	京都国立博物館	ボランティア活動と運営についての助言	8月21日	博物館教育課ボランティア室長鈴木みどり
23	国立科学博物館	同上	12月5日	同上
24	九州国立博物館振興財団	同上	12月5日	同上
25	京都国立博物館	庭園の効果的利用とボランティアガイドツアーについての助言	28年2月11日	同上
26	文化庁国立近現代建築資料館の今後の在り方に関する懇談会	委員として平成24年度に開館した同資料館の今後の運営方針について、博物館の立場から意見を述べた。	6月～12月	博物館情報課長　田良島哲
27	文化庁国立のアイヌ文化博物館（仮称）展示検討委員会	委員として2020年の開館に向けて準備中の同館の展示のあり方について、博物館の立場から意見を述べた。	4月～28年3月	同上
28	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員として同館の運営について､博物館の立場から意見を述べた。	4月～28年3月	同上
29	ISO/TC46（情報とドキュメンテーション）　に関する標準化調査研究委員会	図書館、博物館、文書館などの情報管理に関する標準を策定する国際委員会の日本国内委員に日本博物館協会推薦の立場で参加、意見を述べた。	4月～28年3月	同上
30	独立行政法人国立公文書館	重要文化財「東京府・東京市行政文書」保存修理事業企画提案審査会外部委員として、修理企画提案書の検討を行った。	6月	同上
31	一般社団法人情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4　国内委員会委員	7月16日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
32	中国河南博物院	収蔵品データベースの構築にかかわる助言	7月26日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
33	東京国立近代美術館	「海外日本美術資料専門家（司書）の招聘・研修・交流事業2015」研修講師	11月18日	博物館情報課長　田良島哲、博物館情報課情報管理室長　村田良二、博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
34	韓国国立中央博物館	収蔵品データベースの構築にかかわる助言	12月1日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
35	広島熊野町筆の里工房	熊野町制100年記念展の内容について助言	8月21日、12月17日	百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子
36	國學院高等学校	日本文化史資料館　資料DVD 「今に伝わる、よみがえる　鶴岡八幡宮の女房装束」の製作	4月～12月	上席研究員　池田宏
37	文化庁、春日大社	春日大社国宝古神宝類の復元模造製作事業	6月25日、11月4日	同上
38	沖縄県石垣市八重山博物館	「駐長崎中華民国領事感謝状」の保存対策	11月9日	特任研究員　神庭信幸
39	岐阜県加茂郡八百津町役場	杉原千畝の「命のビザ」の保存対策	28年1月8日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
40	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	作品の保存環境現地調査およびデータ蓄積準備作業	28年1月8日	特任研究員　神庭信幸、保存修復課保存修復室長　土屋裕子
41	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館の購入にかかる鑑査委員会への出席および指導・助言	12月17日	列品管理課主任研究員　古谷毅
42	サントリー美術館	「逆境の絵師　久隅守景　親しきものへのまなざし」展企画協力	10月10日～11月19日	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人
43	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員（審査委員）	12月～28年11月	同上
44	美術史学会	『美術史』査読委員	12月	同上
45	渋谷ヒカリエ	「バケモノの子」展作品解説	7月24日	同上
46	Bunkamura ザ・ミュージアム	「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展監修	28年3月19日～6月5日	同上
47	Virginia Museum of Fine Arts	兵馬俑の展示に関する助言	10月27日	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男
48	國立故宮博物院	兵馬俑の展示に関する助言	11月8日	同上
49	The Metropolitan Museum of Art	兵馬俑の展示に関する助言	28年2月28日	同上
50	九州国立博物館	特別展「始皇帝と大兵馬俑」の展示に関する援助	28年3月3日～10日	同上
51	仙台市博物館	収蔵品に関する助言	28年3月21日	同上
52	三の丸尚蔵館	修理作品企画競争審査委員会　委員	8月27日～28年3月31日	調査研究課長　田沢裕賀
53	大英博物館	世界規模の葛飾北斎作品データベース構築のための北斎ワークショップで意見・提案	9月23～24日	同上
54	福井県立美術館	購入・寄託作品審査会の審査委員	12月19日	同上
55	福井県立美術館	絵画等寄贈審査員として助言	28年3月17日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也
56	釜山市立鼎冠博物館	TJ-5226鉄地金銅装冑（小倉コレクション）の形態と展示方法に関する情報提供	4月28日	調査研究課考古室長　白井克也
57	島根県立古代出雲歴史博物館	TJ-1542硯模造品の形態・構造・法量などに関する情報提供と天神関する助言	5月25日	同上
58	高知県立歴史民俗博物館	東京国立博物館からの貸与予定作品の展示に関する助言	7月6日～7月7日	同上
59	京丹後市教育委員会	京都文化博物館で開催予定の展覧会へ貸与する東博列品の展示に関する助言	10月14日	同上
60	東京大学教養学部	教養学部美術博物館で開催予定の展覧会に関する助言	11月19日	同上
61	高知県立歴史民俗資料館	同館の特別展開催にかかわる助言	7月6～7日	調査研究課考古室研究員　井出浩正
62	文化庁	水銀規制に関する検討会への助言	4月16日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
63	横浜市歴史博物館	金泥の燻蒸についての助言	7月6日	同上
64	日本大学芸術学部	銀板写真の保存についての助言	7月21日	同上
65	陸前高田市博物館	被災写真資料の保存処置についての助言	7月31日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、特任研究員　神庭信幸
66	国立台湾美術館	写真資料のコレクションマネージメントについての助言	8月11日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
67	ソウル国立近代美術館	エックス線CT撮影装置導入へむけての助言	8月25日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
68	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル２・A　講義「光学調査」講師	9月2日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
69	東京都写真美術館	銀板写真の保存についての助言	9月11日	同上
70	学習院大学資料館	文化財収蔵施設環境についての助言	9月19日	同上
71	市立函館博物館	銀板写真の保存についての助言	9月29日	同上
72	松前町郷土資料館	銀板写真の保存についての助言	9月30日	同上
73	宮内庁書陵部	写真資料の技法、コレクションマネージメントの助言	10月9日	同上
74	北海道博物館	エックス線CTの文化財撮影についての設定・助言	10月23日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
75	韓国国立中央博物館	エックス線CT撮影装置導入へむけての助言	11月5日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
76	上海博物院	エックス線CTの文化財撮影についての設定・助言	11月9日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、企画課国際交流室専門職　楊鋭、学芸研究部長　谷豊信、副館長　松本伸之
77	ユネスコ	同上	12月3日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、学芸研究部長　谷豊信、副館長　松本伸之
78	弘前大学	同上	12月18日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
79	横浜美術館	銀板写真の保存についての助言	12月22日	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
80	川崎市民ミュージアム	銀板写真の保存についての助言	28年1月19日	同上
81	東京都美術館	展示ケースの空気環境について	28年3月6日	同上
82	東京芸術大学	レオナルド・ダ・ヴィンチ作「アンギアーリの戦い」の部分的に残された絵画から、構図・構成の把握と創作の秘密解明のための三次元モデルの制作及び研究に関する指導・援助	4月～5月	保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛
83	弘前大学	漆櫛の解析に関する助言及びCT画像･3D画像構築についての助言	12月18日	同上
84	大分県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	5月9日	保存修復課環境保存室長　和田浩
85	都城島津邸	同上	6月8日	同上
86	入間市博物館	同上	6月11日	同上
87	そごう美術館	同上	6月19日	同上
88	白河集古苑	同上	6月25日	同上
89	観峰館	同上	7月16日	同上
90	富山県水墨美術館	同上	7月23日	同上
91	新潟市美術館	同上	7月30日	同上
92	北海道博物館	同上	8月18日	同上
93	町田市立国際版画美術館	同上	8月20日	同上
94	埼玉県立近代美術館	同上	9月2日	同上
95	岡崎市美術博物館	同上	9月9日	同上
96	新居浜市美術館	同上	9月17日	同上
97	大阪高島屋	同上	10月7日	同上
98	宗像市郷土学習交流館	同上	12月2日	同上
99	日本橋高島屋	同上	11月20日	同上
100	太田記念美術館	同上	28年1月22日	同上
101	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル1・A　講義「温度・湿度」講師	8月31日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子
102	M+, Museum for Visual Culture, WKCDA Hong Kong	文化財保存修復用材料についての助言	7月13日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
103	NPO法人文化財保存支援機構	文化財保存修復専門家養成実践セミナー レベル1・A　講義「油彩画を安全に活用するための修理―東京国立博物館の事例」講師	9月5日	同上
104	杉原千畝記念館（岐阜県八百津町役場）	作品の保存環境および修理についての助言	11月30日	同上
105	岩手県立高田高校	平成24年度修理の被災文化財（油彩画）の保存状態に関する助言および環境調査用データ蓄積準備作業	28年3月23日	保存修復課保存修復室長　土屋裕子、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中照美、防災ネットワーク研究補佐員　三浦知佳
106	もりおか歴史文化館	資料の修理方法に関する助言	5月2日～3日	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　野中昭美
107	文化庁文化審議会文化財分科第四専門調査会	平成27年度選定保存技術の選定・認定について	7月1日	客員研究員　澤田むつ代
108	奈良国立博物館	上代裂修理方法等に関する助言	9月11日	同上
109	文化庁文化審議会文化財分科第一専門調査会	平成27年度文化庁第１調査会、国宝・重要文化財指定品の選定について	28年2月29日～3月2日	同上
110	文部科学省	文化芸術情報基盤検討会議委員	28年3月17日～31日	総務部長　栗原祐司
111	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
112	観光庁	MICE アンバサダー	26年9月2日～28年3月31日	同上
113	滋賀県	アール・ブリュットネットワーク企画委員会議委員	7月1日～29年6月30日	同上
114	徳島県教育委員会	「板東俘虜収容所関係資料」ユネスコ記憶遺産調査検討委員会委員	27年3月1日～30年2月28日	同上

	機　関	内　容	期　間	担当者
115	田川市	世界記憶遺産活用等推進委員会委員	25年12月20日～27年12月20日	同上
116	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	26年6月1日～28年5月31日	同上
117	南九州市	南九州市世界記憶遺産推進会議アドバイザー	28年1月8日～28年3月31日	同上
118	舞鶴市	舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議委員	4月1日～28年3月31日	同上
119	独立行政法人日本スポーツ振興センター	スポーツミュージアム連携･啓発事業実行委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
120	独立行政法人国際協力機構（JICA）	エジプト国大エジプト博物館運営等調査への参画	8月23～29日、11月14～17日、28年1月10～16日	同上
121	公益財団法人日本博物館協会	日本のミュージアムのための国際発信力向上推進委員会委員、同検討会議委員、同企画会議委員	4月1日～28年3月31日	同上
122	公益財団法人日本博物館協会	博物館の登録制度の在り方に関する調査研究に関する委員会委員	26年7月15日～28年3月31日	同上
123	公益財団法人日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
124	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
125	水平社博物館	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会委員	4月1日～28年3月31日	同上
126	上野「文化の杜」新構想推進会議	上野「文化の杜」新構想推進会議ワーキンググループ委員	4月1日～28年3月31日	同上
127	国宝修理装こう師連盟	国宝修理装こう師連盟評議員	5月23日	同上
128	九州国立博物館・田川市	山本作兵衛コレクション保存処置作業完了報告展記念講演会において講演	4月18日	同上
129	反差別国際運動（IMADR）日本委員会	記念講演会「『全国水平社創立宣言』をユネスコ世界記憶遺産に」において講演	6月8日	同上
130	凸版印刷	ideanote セミナーにおいて講演	6月23日	同上
131	大学博物館等協議会	大学博物館等協議会総会（金沢大学）において講演	6月25日	同上
132	文化庁	第９回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーにおいて講義	7月6日	同上
133	公益財団法人全国市町村研修財団	市町村アカデミーにおいて講演	10月8日	同上
134	公益財団法人ユネスコ･アジア文化センター	個別テーマ研修において講義	11月11日～12日	同上
135	文部科学省･社会教育実践研究センター	平成27年度博物館学芸員専門講座において講義	12月9日	同上
136	常総市	常総市水損行政文書救援連絡会議に出席	28年1月18日	同上
137	明日の京都文化遺産プラットフォーム	明日の京都文化遺産プラットフォーム幹事会に出席	28年1月27日	同上
138	公益財団法人かながわ国際交流財団	第6回21世紀ミュージアム・サミットで講演	28年2月27日～28日	同上
139	福島県教育庁	福島県被災文化財等救援本部第2回本部会議に出席	28年3月1日	同上

【京都国立博物館】65件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
2	明日の京都　文化遺産プラネットフォーム	企画・調整委員会委員として助言	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
3	可児市教育委員会	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会委員として助言	4月～28年3月	副館長　伊藤嘉章
4	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員として助言	4月～30年1月	副館長　伊藤嘉章
5	京都大学	教育・研究指導（客員教授、客員准教授）	4月～28年3月	列品管理室長　宮川禎一 美術室長　山本英男 教育室長　山川　曉 保存修理指導室長　大原嘉豊
6	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会委員として助言	4月～29年3月	教育室長　山川　曉
7	公益財団法人放下鉾保存会	放下鉾下水引　復元新調監修者として助言	4月～28年3月	教育室長　山川　曉
8	福島県立美術館	特別展「飛騨の円空」撤収・梱包に関する指導	4月5日～8日	企画室長　浅見龍介
9	フィラデルフィア美術館	「Ink and Gold:Art of Kano」展示会クーリエ業務	4月10日～17日	美術室研究員　福士雄也
10	岡崎市美術博物館	愛知県史文化財部会の調査に関する助言	4月14日	教育室長　山川　曉
11	九州国立博物館	九州国立博物館写場および撮影機材の整備についての指導助言	4月15日	列品管理室　岡田 愛
12	島根県教育委員会	島根県文化財の指定調査に関する助言	4月17日	教育室長　山川　曉
13	香港中文大学文物館	「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画専題講座」の講演	5月7日～11日	列品管理室研究員　呉 孟晋
14	福井県立美術館	「大永平寺展」に関する仏像調査の助言	5月10日	企画室長　浅見龍介
15	越前市教育委員会	文化財保護委員会に出席し助言	5月25日	保存修理指導室長　大原嘉豊
16	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会に出席し助言	5月27日～28日	副館長　伊藤嘉章
17	公益財団法人　大和文華館	評議員として助言	6月3日～28年6月	副館長　伊藤嘉章
18	泉佐野市教育委員会	泉佐野市民大学講座「大坂夏の陣400周年記念」講演	6月6日	工芸室研究員　降矢哲男
19	山口市教育委員会	常栄寺所蔵彫刻の現地調査の指導	6月10日	企画室長　浅見龍介
20	町田市	評価委員会に出席し助言	6月17日、7月7日	副館長　伊藤嘉章
21	伊賀市教育委員会	指定文化財候補(伊賀焼)の調査に関する指導	6月22日	副館長　伊藤嘉章
22	サムソン美術館リウム	「細密可貴展」の展示に関する指導	5月22日～25日	列品管理室研究員　呉 孟晋

	機　関	内　容	期　間	担当者
23	文化庁	文化遺産オンライン等における国指定等文化財の英文による情報発信に関する実務者会議にて助言	6 月 24 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
24	愛知県	資料調査及び撮影への助言	6 月 29 日	教育室長　山川　暁
25	公益財団法人菊池美術財団　菊池寛実記念　智美術館	第６回菊池ビエンナーレ審査員として助言	7 月～28 年 3 月	副館長　伊藤嘉章
26	智山専修学院	仏教の文化と美術講師	7 月 13 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
27	京都文化博物館	寄附申出資料(雛道具・女乗物)の評価に関する指導・助言	7 月 15 日	教育室長　山川　暁
28	文化庁	文化財の買取評価員として助言	7 月 24 日	企画室長　浅見龍介
29	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「工芸」)に出席し助言	8 月 7 日～8 日	副館長　伊藤嘉章 工芸室研究員　降矢哲男
30	(公財)元興寺文化財研究所	陶磁器の産地同定や年代判定に関する指導・助言	9 月 1 日	工芸室研究員　降矢哲男
31	文化庁	文化財の買取評価員として助言	9 月 2 日	企画室研究員　末兼俊彦
32	神奈川大学	「良友」画報研究会での講演	9 月 2 日	列品管理室主任研究員　呉 孟晋
33	静岡市	静岡市三保松原保全活用検討委員会に出席し助言	9 月 7 日	美術室研究員　福士雄也
34	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会に出席し助言	9 月 16 日、10 月 1 日～2 日、10 月 29 日	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
35	プーシキン美術館	楽茶碗展開会式及び講演会	9 月 20 日～24 日	副館長　伊藤嘉章
36	佐賀県	第 65 回佐賀県美術展覧会に係る指導・助言	9 月 27 日～28 日	副館長　伊藤嘉章
37	文化庁	第９回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーの講師	10 月 19 日	副館長　伊藤嘉章
38	文化庁	第９回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナーの講師	10 月 21 日、10 月 23 日	列品管理室長　宮川禎一
39	島根県	島根県文化財保護審議会にて調査に関する指導	10 月 22 日	教育室長　山川　暁
40	産経新聞社	琳派展に関する講師	10 月 23 日	美術室研究員　福士雄也
41	越前市教育委員会	図説「文化財からみる越前市の歴史文化図鑑」編集に伴う現地調査に関する助言	10 月 25 日～26 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
42	日本のミュージアムのための国際発進力向上推進事業	フォーラムへ出席し助言	10 月 27 日～31 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
43	滋賀県教育委員会	高月観音の里歴史民俗資料館にて現地調査	10 月 28 日	教育室長　山川　暁
44	滋賀県教育委員会	文化財保護審議会に出席し助言	11 月 9 日	教育室長　山川　暁
45	九州国立博物館	特別展「美の国・日本」寄託品展示に関する指導	11 月 8 日～9 日 11 月 29 日～30 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
46	智山専修学院	智山専修学院にて講師	11 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
47	岐阜県教育委員会	岐阜県文化財保護審議会委員として助言	11 月 24 日～29 年 11 月	副館長　伊藤嘉章
48	愛知県	愛知県美術館所蔵作品の調査に関する助言	12 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
49	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館委員会に出席し助言	12 月 11 日	副館長　伊藤嘉章
50	文化庁	有識会議に出席し助言	12 月 16 日	事業推進係アソシエイトフェロー リンネ マリサ
51	文化庁	買取協議員として助言	12 月 18 日	企画室研究員　末兼俊彦
52	徳島県埋蔵文化財センター	「2015 発掘とくしま」講演会講師	12 月 19 日	工芸室研究員　降矢哲男
53	愛知県	資料調査及び撮影への助言	28 年 1 月 20 日	教育室長　山川　暁
54	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員として助言	28 年 1 月 20 日～30 年 1 月	教育室長　山川　暁
55	備前長船刀剣博物館	特別展「備前刀剣王国」展示作品開梱に関する指導	28 年 1 月 27 日	企画室研究員　末兼俊彦
56	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員として助言	28 年 1 月 31 日～30 年 1 月	保存修理指導室長　大原嘉豊
57	文化庁	平成 28 年度日本古美術海外展「日本仏像展」(仮称)開催業務企画選定委員会委員として助言	28 年 2 月 1 日～29 年 1 月	上席研究員　浅見龍介
58	福井市愛宕坂茶道美術館	美術品（書跡）学術調査に関する助言	28 年 2 月 6 日	保存修理指導室主任研究員　羽田 聡
59	福井市愛宕坂茶道美術館	美術品（陶磁器）学術調査に関する助言	28 年 2 月 8 日～10 日	工芸室研究員　降矢哲男
60	石橋美術館	石橋美術館ボランティア研修講師	28 年 2 月 12 日～13 日	教育室研究員　水谷亜希
61	京都市元離宮二条城事務所	元離宮二条城保存整備委員会障壁画部会に出席し助言	28 年 2 月 25 日	上席研究員　山本英男
62	日本伝統工芸近畿展実行委員会	第４５回日本伝統工芸近畿展鑑査会鑑査委員として助言	28 年 2 月 29 日	教育室長　山川　暁
63	神戸市立博物館	特別展「須磨の歴史と文化展」出品作品の展示環境に関する助言	28 年 3 月 8 日	美術室アソシエイトフェロー 井並林太郎
64	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会臨時試験準備委員会に出席し助言	28 年 3 月 9 日	保存修理指導室長　大原嘉豊
65	越前市教育委員会	文化財保護委員会に出席し助言	28 年 3 月 15 日	保存修理指導室長　大原嘉豊

【奈良国立博物館】58件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	九州国立博物館	写場の整備及び機材選定に関する指導・助言	4 月 15 日、6 月 7 日	資料室員　佐々木香輔
2	京都大学生存圏研究所	彫刻作品の樹種同定に関する指導・助言	4 月 16 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	公益社団法人　日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員会に委員として出席し助言	4 月 23 日	館長　湯山賢一
4	一般社団法人 国宝修理装潢師連盟	理事会・評議員会に顧問として出席し助言	5 月 23 日	館長　湯山賢一
5	長谷寺	環境改善に関する指導・助言	4 月 28 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
6	東京国立博物館	「鳥獣戯画」展リレートークにて講演	5 月 15 日	教育室長　谷口耕生
7	和歌山県立歴史博物館	和歌山県立歴史博物館協議会及び博物館評価部会に委員として出席し助言	5 月 20 日	館長　湯山賢一
8	奈良市	「東アジア文化都市 2016 奈良市」準備委員会に委員として出席し助言	5 月 21 日、10 月 5 日 28 年 1 月 27 日	館長　湯山賢一
9	九州国立博物館	文化財撮影及び文化財修理に関する指導・助言	5 月 21 日	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月 研究員　伊藤久美 資料室員　佐々木香輔

	機　関	内　容	期　間	担当者
10	五條猫塚古墳研究会	五條猫塚古墳出土品調査報告書作成に関する指導・助言	5 月 24 日	列品室長　吉澤　悟 主任研究員　岩戸晶子
11	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所委員会に委員として出席し助言	5 月 28 日	学芸部長　内藤　栄
12	九州国立博物館	文化財 CT 調査に関する指導・助言	6 月 1 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
13	法隆寺	所蔵品の保存状態に関する指導・助言	6 月 1 日	研究員　北澤菜月
14	公益財団法人　大和文華館	評議員会に評議員として出席し助言	6 月 3 日	学芸部長　内藤　栄
15	東大寺総合文化センター	東大寺経巻聖教原本調査に関する指導・助言	6 月 3 日、 9 月 17 日～18 日 28 年 1 月 20 日～21 日	企画室長　野尻　忠
16	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	理事会に理事として出席し助言	6 月 12 日	館長　湯山賢一
17	公益財団法人　仏教美術協会	評議員会に評議員として出席し助言	6 月 18 日	館長　湯山賢一 総務課長　中村　恵
18	ユネスコ・アジア文化センター　平成27年度文化遺産保護協力事業運営審議会	運営審議会に審議会委員として出席し助言	6 月 18 日	館長　湯山賢一
19	奈良女子大学	奈良女子大学　平成 27 年度学長選考会議に委員として出席し助言	6 月 23 日、9 月 28 日、 12 月 10 日、	館長　湯山賢一
20	文化庁	文化遺産オンライン等における国指定等文化財の英文による情報発信に関する実務者会議（第一回）に委員として出席し助言	6 月 24 日	資料室長　宮崎幹子
21	奈良女子大学	奈良女子大学経営協議会に委員として出席し助言	6 月 25 日、11 月 25 日、 28 年 3 月 18 日	館長　湯山賢一
22	大津市	「施設ボランティア入門講座」にて講演	6 月 25 日	ボランティア室員　鈴木民子
23	文化庁	文化審議会文化財分科会第四専門調査会に委員として出席し助言	7 月 1 日	館長　湯山賢一
24	株式会社　便利堂	法隆寺金堂壁画写真ガラス原版の保存・保管に関する指導・助言	7 月 9 日	資料室長　宮崎幹子 教育室長　谷口耕生
25	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座にて講演	7 月 23 日	学芸部長　内藤　栄
26	NHK 大阪放送局	「白鳳美術の魅力」にて講演	7 月 30 日	情報サービス室長　岩井共二
27	NHK 大阪放送局	「白鳳美術の魅力と謎」にて講演	7 月 31 日	情報サービス室長　岩井共二
28	愛媛県歴史文化博物館	考古資料相互活用事業に関する展示指導・助言	8 月 5 日～7 日	主任研究員　岩戸晶子
29	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座講師	8 月 7 日	学芸部長　内藤　栄
30	NHK 大阪放送局	「白鳳」展講座講師	8 月 7 日	列品室長　吉澤　悟
31	龍谷大学　龍谷ミュージアム	国宝玄奘三蔵絵巻（藤田美術館蔵）上映・閲覧システム設置に係る指導・助言	8 月 7 日	資料室長　宮崎幹子
32	米沢市上杉博物館	上杉博物館資料収集委員会に委員として出席し助言	8 月 11 日	館長　湯山賢一
33	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会に委員として出席し助言	8 月 12 日	上席研究員　岩田茂樹
34	MIHO MUSEUM	MIHO MUSEUM「かざり」展展示に関する指導・助言	8 月 22 日、12 月 11 日 28 年 2 月 10 日、2 月 27 日	工芸考古室長　清水　健
35	東大寺総合文化センター	第 4 回「子ども文化財防火教室」にて講演	9 月 2 日	ボランティア室員　鈴木民子
36	読売新聞大阪本社	正倉院フォーラム大阪にて講演	9 月 23 日	館長　湯山賢一
37	京都美術工芸大学	「第 67 回正倉院展」出前授業にて講演	10 月 1 日	工芸考古室長　清水　健
38	読売新聞大阪本社	「正倉院展の楽しみ方～まほろばの集い IN 名古屋～」にて講演	10 月 3 日	工芸考古室長　清水　健
39	九州国立博物館	正倉院宝物の CT 調査に係る指導・助言	10 月 11 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
40	埼玉県立歴史と民俗の博物館	特別展記念講演会講師	11 月 8 日	企画室長　野尻　忠
41	英語劇甲子園プレイベント実行委員会	英語劇甲子園プレイベント実行委員会に委員として出席し助言	11 月 25 日、12 月 26 日	館長　湯山賢一
42	美馬市寺町防災交流センター	資料展示に係る指導・助言	11 月 13 日～14 日	主任研究員　岩戸晶子
43	公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター　文化遺産保護協力事務所	海外招聘者に対する「文化遺産の保護に資する研修 2015」にて指導・助言	12 月 1 日	企画室長　野尻　忠
44	法隆寺	法隆寺金堂壁画　保存活用調査委員会に委員として出席し助言	12 月 5 日	館長　湯山賢一
45	橿原市	第 2 次洛陽市文化財視察訪日団の来訪に伴う指導・助言	12 月 10 日	企画室長　野尻　忠
46	奈良県東京事務所	トライアングルミュージアムズ東京セミナーにて講演	12 月 11 日	研究員　北澤菜月
47	読売新聞大阪本社	平成 27 年正倉院展短歌・作文コンクール審査会に出席し審査	12 月 17 日	館長　湯山賢一
48	春日若宮おん祭保存会	春日若宮おん祭「試し之儀」解説	12 月 17 日	列品室長　吉澤　悟
49	九州国立博物館	平成 27 年度九州国立博物館 10 周年記念シンポジウムにて講演	12 月 19 日	保存修理指導室長　鳥越俊行
50	唐招提寺	収蔵環境に関する指導・助言	28 年 1 月 13 日	保存修理指導室長　鳥越俊行 研究員　大江克己
51	京都国立博物館	評議員会に評議員として出席し助言	28 年 1 月 25 日	館長　湯山賢一
52	東京国立博物館	米欧ミュージアム専門家連携交換事業会議出席	28 年 1 月 29 日	副館長　清水　功 学芸部長　内藤　栄
53	あべのハルカス美術館	特別展「長谷寺の名宝と十一面観音の信仰」展示に関する指導・助言	28 年 2 月 5 日	工芸考古室長　清水　健
54	文化庁	日本仏像展開催業務企画選定委員会に委員として出席	28 年 2 月 8 日	上席研究員　岩田茂樹
55	九州国立博物館	長期貸与文化財の修理に関する指導・助言	28 年 2 月 10 日	教育室長　谷口耕生 研究員　北澤菜月
56	京都国立博物館	防災に資する収蔵品データーベースシステムに関する検討会に委員として出席し助言	28 年 2 月 12 日	資料室長　宮崎幹子
57	東京国立博物館	東博蔵「書跡」特別調査に関する指導・助言	28 年 2 月 24 日	企画室長　野尻　忠

	機　関	内　容	期　間	担当者
58	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会委員として出席し助言	28 年 2 月 29 日～3 月 2 日	館長　湯山賢一

【九州国立博物館】67件

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	文部科学省	教科用図書検定調査審議会総会にて運営に係る助言	4 月 6 日	館長　島谷弘幸
2	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 37 回大会における保存修理に係る助言	4 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
3	南九州市	第 3 回南九州市世界記憶遺産推進会議にて保存修理に係る助言	4 月 23 日	学芸部特任研究員 本田光子
4	文化庁	文化審議会文化財分科会第三専門調査会にて調査に係る助言	5 月 21 日、22 日	学芸部特任研究員 本田光子
5	文部科学省	教科用図書検定調査審議会総会にて運営に係る助言	5 月 19 日	館長　島谷弘幸
6	南九州市	第 4 回南九州市世界記憶遺産推進会議にて保存修理に係る助言	5 月 25 日	学芸部特任研究員 本田光子
7	文化庁	水中遺跡調査検討委員会（第 8 回）にて保存修理に係る助言	5 月 29 日	博物館科学課長　今津節生
8	福岡市美術館	平成 27 年度作品収集審査会審査委員	6 月 2 日	企画課特別展室長　原田あゆみ
9	文化財保護研究助成財団	文化財保護研究助成財団評議員会にて運営に係る助言	6 月 3 日	館長　島谷弘幸
10	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会選考小委員会にて運営に係る助言	6 月 8 日	館長　島谷弘幸
11	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 37 回文化財の虫菌害・保存対策研修会における講演	6 月 11 日、12 日	前学芸部長　井上洋一
12	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 37 回文化財の虫菌害・保存対策研修会における講演	6 月 11 日、12 日	学芸部特任研究員 本田光子
13	福岡市埋蔵文化財センター	考古学講座での講演	6 月 20 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
14	文化庁	水中遺跡の現地保存に係る助言	6 月 24 日	博物館科学課長　今津節生
15	文部科学省	教科用図書検定総括部会にて運営に係る助言	6 月 22 日	館長　島谷弘幸
16	文化庁	水中遺跡の保存活用に関する助言	7 月 5 日、6 日	博物館科学課長　今津節生
17	松浦市	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会にて保存修理に係る助言	7 月 13 日	博物館科学課長　今津節生
18	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会総会にて運営に係る助言	7 月 14 日	館長　島谷弘幸
19	大分県芸術文化スポーツ振興財団	大分県立美術館開館記念展 vol.2「神々の黄昏」実行委員会にて展示・構成に係る助言	7 月 18 日	展示課長　楠井隆志
20	文部科学省	教科書用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	7 月 23 日	館長　島谷弘幸
21	神戸市立博物館	国宝桜ケ丘銅鐸の研究に係る指導助言	7 月 24 日	博物館科学課 研究補佐員　田中麻美
22	神戸市立博物館	国宝桜ケ丘銅鐸の研究に係る指導助言	7 月 24 日	文化財課アソシエイトフェロー　竹内俊貴
23	思文閣出版	陽明文庫叢書会議にて運営に係る助言	7 月 27 日	館長　島谷弘幸
24	一般財団法人環境文化創造研究所	鼎談における講演	8 月 4 日、5 日	学芸部特任研究員 本田光子
25	大分県歴史博物館協議会	27 年度大分県立歴史博物館協議会にて運営に係る助言	8 月 24 日	学芸部特任研究員 本田光子
26	現日会	東京都美術館にて講演	8 月 8 日	館長　島谷弘幸
27	日本工芸会	日本伝統工芸展第二次審査委員会にて運営に係る助言	8 月 17 日	館長　島谷弘幸
28	文部科学省	ユネスコ選考委員会にて運営に係る助言	8 月 20 日	館長　島谷弘幸
29	宇検村生涯学習センター「元気の出る館」	倉木崎海底遺跡シンポジウムでの講演	8 月 29 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
30	文部科学省	第 14 回ユネスコ記憶遺産選考委員会にて運営に係る助言	9 月 10 日	館長　島谷弘幸
31	文部科学省	第 15 回ユネスコ記憶遺産選考委員会にて運営に係る助言	9 月 24 日	館長　島谷弘幸
32	宇佐市教育委員会	第 1 回宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会にて保存修理に係る助言	9 月 18 日	博物館科学課長　今津節生
33	思文閣出版	陽明文庫叢書会議にて運営に係る助言	9 月 28 日	館長　島谷弘幸
34	文部科学省	教科用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	10 月 1 日	館長　島谷弘幸
35	北京故宮博物院（中国　北京）	北京故宮博物院館長フォーラムにて講演	10 月 14 日	館長　島谷弘幸
36	フランス国立ギメ東洋美術館	「書の世界現代日本の書」展監修者として講演	10 月 21 日	館長　島谷弘幸
37	文化庁	分科審議会文化財分科会第三専門調査会にて調査に係る助言	10 月 22 日、23 日	学芸部特任研究員 本田光子

	機　関	内　容	期　間	担当者
38	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 38 回大会実行委員会にて保存修理に係る助言	10 月 29 日	学芸部特任研究員 本田光子
39	文化庁	27 年度公開承認施設担当者会議における講演	11 月 5 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
40	文化庁	27 年度公開承認施設担当者会議における講演	11 月 5 日	博物館科学課研究員 秋山純子
41	日之出水道機器	浦上家史編纂会議にて運営に係る助言	11 月 14 日	館長　島谷弘幸
42	松浦市	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会にて保存修理に係る助言	11 月 24 日	博物館科学課長　今津節生
43	多良間村教育委員会	水中遺跡の保存活用に関する助言	11 月 30 日、12 月 1 日	博物館科学課長　今津節生
44	一般財団法人環境文化創造研究所	鼎談における講演	12 月 3 日	学芸部特任研究員 本田光子
45	京都大学	京都大学文化財ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ「文化遺産国策協力拠点交流事業」における講演および教育指導	12 月 8 日～10 日	博物館科学課長　今津節生
46	大分県芸術文化スポーツ振興財団	大分県立美術館開館記念展 vol.2「神々の黄昏」実行委員会にて展示・構成に係る助言	12 月 7 日	展示課長　楠井隆志
47	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度 IPM ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ研修での講演	12 月 16 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
48	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第 5 回文化財 IPM ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ資格取得講習会の講師	12 月 17 日	学芸部特任研究員 本田光子
49	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑへでの講演	12 月 19 日	学芸部特任研究員 本田光子
50	文化庁記念物課	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業協力者会議での助言	12 月 21 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
51	文化庁記念物課	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業協力者会議での助言	12 月 22 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
52	北九州市立いのちのたび博物館	歴史講演会での講演	28 年 1 月 23 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
53	宇佐市教育委員会	第３回宇佐市平和ﾐｭｰｼﾞｱﾑ（仮称）建設準備委員会での助言	28 年 1 月 29 日	博物館科学課長　今津節生
54	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度　第１回文化財ＩＰＭｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ委員会での助言	28 年 2 月 2 日	学芸部特任研究員 本田光子
55	熊本博物館	27 年度第 2 回熊本博物館協議会での助言	28 年 2 月 3 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
56	公益財団法人文化財虫菌害研究所	27 年度第 2 回総合調整委員会・総合的防除対策検討委員会の合同委員会での助言	28 年 2 月 4 日	博物館科学課環境保全室長 木川りか
57	文部科学省	教科用図書検定調査審議会にて運営に係る助言	28 年 2 月 10 日	館長　島谷弘幸
58	群馬県埋蔵文化財調査事業団	受託研究における調査に係る助言	28 年 2 月 17 日～2 月 19 日	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
59	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	文化財保護・芸術研究助成財団評議委員会にて運営に係る助言	28 年 2 月 22 日	館長　島谷弘幸
60	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第 38 回プログラム委員会にて保存修理に係る助言	28 年 2 月 29 日	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子
61	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会にて運営に係る助言	28 年 3 月 1 日	館長　島谷弘幸
62	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会大会における保存修理に係る助言	28 年 3 月 3 日	学芸部特任研究員 本田光子
63	南九州市	知覧特攻平和会館保存検討委員会にて保存修理に係る助言	28 年 3 月 7 日	学芸部特任研究員 本田光子
64	公益財団法人陽明文庫	公益財団法人陽明文庫第 17 回理事会・第 9 回評議会にて運営に係る助言	28 年 3 月 8 日	館長　島谷弘幸
65	熊本県博物館ネットワークセンター	平成 27 年度第 3 回県内博物館学芸員等スキルアップ研修会の講師	28 年 3 月 11 日	博物館科学課保存修復室長 木川りか
66	有明工業高等専門学校	講演会での講師	28 年 3 月 11 日	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞
67	大谷大学真宗総合研究所	「大谷大学所蔵ﾀｲ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」公開研究会にて調査に係る助言	28 年 3 月 17 日	企画課特別展室長　原田あゆみ

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動にかかる調査・研究

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑦

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑧

5 文化財保護に関する国際協力の推進

5-(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】７件

	研修・ワークショップ	実施時期	回数	適用
1	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：ワークショップ	28年1月14日～15日 28年2月14日～15日	2回	
2	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業:共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力・ワークショップ	10月2日～10日	1回	一部受託
3	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月31日～9月18日 11月4日～20日	2回	
4	ミャンマーの文化遺産保護に関する拠点交流事業：研修・ワークショップ	6月14日～23日 6月29日～7月11日 7月28日～8月6日 11月19日～26日 11月22日～12月6日 28年1月7日～18日 28年2月14日～22日	7回	受託
5	ネパールにおける文化遺産被災状況調査：ワークショップ	11月21日～12月8日	1回	受託
6	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務： ＜現地研修（計13回）＞ 「第2回パピルス研修」 「染織品（有機物）研修」 「第3回木材研修」 「第2回保存修復材料学研修」 「第4回彩色文化財研修」 「第2回文化財の診断技術・分析法研修」 「無機物Ⅰ（金属）研修」 「無機物Ⅲ（金属）研修」 「第4回木材研修」 「無機物Ⅰ、Ⅱ（非金属）研修」 「第5回保存科学概論」 「第2回石材研修」 「第4回学術研究シンポジウム」 ＜本邦研修（計3回）＞ 「第1回石材研修」 「第4回保存修復材料としての和紙研修」 「第5回保存修復材料としての和紙研修」	 4月 5月 5～6月 5～6月 8月 8月 8月 9月 10月 11月 11月 28年1月 28年2月 5月 5～6月 6月	16回	受託
7	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修（エジプト国別研修）」：研修	6月8日～17日	１回	受託

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(1)-④ 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(3) 研修、専門家の派遣を通じた諸外国における人材育成、技術移転

5-(3)-① アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】

※5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧にまとめて記載

【奈良文化財研究所】 3件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2015（集団研修）	9月1日～10月1日	31日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの。	15人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2015（個別テーマ研修）	11月10日～12月8日	29日	ネパール、スリランカ、モルジブの専門家。	6人
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（ブータンで開催）	10月26日～31日	5日	ブータン人専門家	20人

5-(4) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究

5-(4)-① 研究交流実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-①

5-(4)-② 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-②

5-(4)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-③

5-(4)-④ シンポジウム開催実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-④

5-(4)-⑤ 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-⑤

5-(4)-⑥ 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

5-(4)-⑦ ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載）◎共通資料d

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	27年度受入件数	総件数	27年度受入件数	総件数
図　　書	7,183冊	268,401冊	8,448冊	351,688冊

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 公開講演会、現地説明会

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「第49回企画情報部　オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
- ・開 催 日：10月30日（金）、10月31日（土）
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
- ・講　　演：「仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰」、「十世紀の画師たち」、「与謝蕪村の絵画に見る和漢」、「池大雅の山水図を考える」
- ・参加人数：247人

【奈良文化財研究所】

公開講演会　6件

○公開講演会「第116回公開講演会」
- ・開 催 日：6月20日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：200人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「押勝の金・銀・銅貨」
  「ガラスからみた東西交易：日本出土のローマ・ガラスの起源」
  「『日本後紀』を考古学で解釈する－弘仁六年正月丁丑条を中心に－」

○公開講演会「第117回公開講演会」
- ・開 催 日：11月7日
- ・開催場所：平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：190人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「古代の盤上ゲーム『槮蒲（かりうち）』の復元」
  「藤原宮から平城宮へ－宮の瓦づくりの移りかわり－」
  「ウマ駆ける古代日本」

○公開講演会「特別講演会(東京会場)『発掘遺構から読み解く古代建築』」
- ・開 催 日：10月24日
- ・開催場所：有楽町朝日ホール
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：345人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「なぜ建築史の研究者が発掘現場に？」
  「発掘遺構と古代建築をつなぐ」
  「古代建築の復原の手がかり　－平城宮朱雀門と第一次大極殿－」
  「東西楼は入母屋か寄棟か　－平城宮第一次大極殿院の復原にむけて－」
  「山田寺倒壊回廊が語る古代建築史」
  「出土部材をしらべ、まもり、つたえる」

○公開講演会「飛鳥資料館春期特別展『はじまりの御仏たち』記念講演会」
- ・開 催 日：5月9日
- ・開催場所：飛鳥資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所飛鳥資料館
- ・参加人数：88人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「塼仏学研究最前線―奉献から荘厳・三尊から群像へ―」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『キトラ古墳と天の科学』記念講演会」
- ・開 催 日：10月31日
- ・開催場所：明日香村中央公民館
- ・主　　催：奈良文化財研究所・多摩六都科学館
- ・参加人数：126人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「キトラ古墳と天の科学」

○公開講演会「飛鳥資料館秋期特別展『キトラ古墳と天の科学』連動企画講演会」
- ・開 催 日：11月8日
- ・開催場所：多摩六都科学館
- ・主　　催：奈良文化財研究所・多摩六都科学館
- ・参加人数：151人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～」

現地説明会　3件

○現地説明会「飛鳥藤原第186次（藤原宮大極殿院）発掘調査」
・開 催 日：10月12日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,112人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城第559次(興福寺中室・経蔵・鐘楼)発掘調査」
・開 催 日：12月20日
・開催場所：興福寺発掘調査現場
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,200人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第552次（平城京朱雀大路跡）発掘調査」
・開 催 日：3月5日
・開催場所：平城京朱雀大路跡
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：680人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-② シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

6-(2)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

6-(2)-④ ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

6-(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

6-(3)-① 来館者数推移（入館料別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

6-(3)-② 来館者数推移（展覧会別）　（過去５ヵ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

6-(3)-④ 平常展・特別展・海外展
（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用への協力

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言

平成28年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
1,196件	823件	373件

【東京文化財研究所】823件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保存、展示に関する指導助言	19件
2	無形文化遺産に関する助言	11件
3	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	77件
4	文化財の虫菌害に関する調査・助言	36件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と指導・助言	660件

【奈良文化財研究所】373件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	360件
2	地方公共団体等が行う平城京域発掘調査等への協力・援助	4件
3	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	0件
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	9件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

平成28年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
16件	1件	15件

【東京文化財研究所】　1件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月13日～7月24日	9日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	32人	100%

【奈良文化財研究所】　16件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	建築遺構調査課程	6月8日～6月12日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修。	8人	100%
2	災害痕跡調査課程	6月15日～6月19日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地震、津波、火山などの災害痕跡を理解するための専門的知識と調査方法を取得することを目的とした研修。	8人	100%
3	建造物保存活用基礎課程	6月22日～6月26日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財建造物の保護行政をおこなうための文化財建造物に関する基礎、および文化財建造物の保存・活用に関する基礎の習得を目指す研修。	20人	100%
4	報告書作成Ⅰ（編集基礎）課程	7月6日～7月10日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財調査に必要不可欠な報告書等の出版物制作にあたって、編集に必要な基礎知識と印刷工程の基礎知識についての研修。	14人	100%
5	報告書作成Ⅱ（応用制作）課程	7月13日～7月17日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書等の出版物制作にあたり、実際の編集作業に必要な知識や技術、特にデジタル編集の実習を通じて制作のノウハウを学べる研修。	10人	100%
6	自然科学的年代測定法	7月21日～7月24日	4日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	年輪年代や放射性炭素年代など自然科学的年代測定の基礎知識を平易に解説し、文化財調査に積極的に取り入れるための留意点などの習得を目指す研修。	中止	－
7	遺跡情報記録調査課程	9月8日～9月11日	4日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡・遺物の正確な記録とその保存活用手法として、ＧＩＳやデータベースの利用、遺跡情報の公開に関する知識の取得を目指す研修。	10人	100%
8	木器・木製品調査課程	9月14日～9月18日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	発掘調査において出土した木器・木製品の整理、調査、保管について、必要な専門知識と技術の習得を目的とする研修。	11人	100%
9	三次元計測課程	9月28日～10月2日	5日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	三次元計測の利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。	9人	100%
10	保存科学Ⅰ基礎(金属製遺物)課程	10月6日～10月15日	10日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	金属製遺物の材質および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、金属製遺物の材質および保存処理に関する基礎知識を習得することを目的とする研修。	6人	100%
11	保存科学Ⅱ基礎(木製遺物)課程	10月15日～10月23日	9日	地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	木製遺物の樹種、木取り、および劣化状態に応じた保存処理法の策定、仕様書の作成をおこなうことができるよう、木製遺物の劣化状態および保存処理に関する基礎知識を習得することを目的とする研修。	6 人	100%
12	文化財写真課程	12月8日～	11日	地域の中核となる地方公	文化財の記録の中核をなす記録写真撮	13人	100%

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
		12月18日		共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	影について、様々な文化財分野の写真についての基礎知識と実習による実技を習得できる研修。		
13	遺跡等環境整備課程	28年1月12日～ 1月22日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	遺跡整備に関する講義および整備計画立案の演習を通して、遺跡整備の実施にあたって必要となる基礎的な知識の習得を目指す研修。	14人	100%
14	保存科学Ⅲ（応急処置）課程	28年2月15日～ 2月19日	5日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	発掘調査において出土した脆弱遺物の取り上げ、保存処理までの一時保管法等の遺物の取り扱いに関する応急処置について、講義と実習を通して習得することを目的とする研修。	9人	100%
15	埋蔵文化財デジタル写真研修	28年3月8日～ 3月11日	4日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	フィルム写真記録からデジタル写真環境への移行に対応するに必要な基礎的な知識、技術、設備、文化財担当部局・担当者の考え方について研修する。	16人	100%
16	三次元ワークショップ	28年1月16日 ～1月17日	2日	地域の中核となる地方公 共団体の文化財担当職員 若しくはこれに準ずる者	SfM/MVSを用いた考古資料の三次元計測について、利用事例や利用方法の紹介を通じて、その手法の有効性の検討や利用の普及を進めていくことを目的とする。	23人	－

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
Ⅱ-1　一般管理費の削減

Ⅱ-1-① 施設の有効利用件数

平成28年3月31日現在

○件数

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,715	1,273	652	112	117	392	442	186	256
	うち有償	739	689	434	104	33	118	50	7	43
	うち無償	976	584	218	8	84	274	392	179	213
茶室	総件数	217	217	122	43	11	41			
	うち有償	144	144	73	43	8	20			
	うち無償	73	73	49	0	3	21			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,010	587	239	36	41	271	423	186	237
	うち有償	233	197	71	28	7	91	36	7	29
	うち無償	777	390	168	8	34	180	387	179	208
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	170	151	5	22	61	63	19	0	19
	うち有償	58	44	4	22	18	0	14	0	14
	うち無償	112	107	1	0	43	63	5	0	5
撮影利用	総件数	318	318	286	11	4	17	0	0	0
	うち有償	304	304	286	11	0	7	0	0	0
	うち無償	14	14	0	0	4	10	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	130,524	125,739	62,591	61,083	1,166	899	4,785	381	4,404
茶室	6,381	6,381	5,419	650	145	167			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	8,152	7,250	4,910	1,510	120	710	902	381	521
その他（左記以外の建物、敷地）	88,923	85,040	25,744	58,395	901	0	3,883	0	3,883
撮影利用	27,068	27,068	26,518	528	0	22	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）

平成28年3月31日現在

年度				23	24	25	26	27
国立文化財機構		総来館者数		3,356,159	3,520,384	2,818,511	3,890,178	4,146,847
	平常展	計		913,409	1,109,550	1,011,274	1,372,538	1,536,565
		有料	一般	293,323	355,419	373,417	522,569	636,504
			大学生	27,778	34,218	36,886	59,208	76,590
			小・中・高生	—	—	546	537	0
			友の会	53,383	86,938	89,509	123,720	139,076
		無料	一般(黒田含む)	96,561	74,968	47,371	85,285	107,574
			小・中・高生	173,323	173,386	166,233	165,340	176,248
		招待者等		269,041	384,621	297,312	415,879	400,573
	特別展	計		2,442,750	2,410,834	1,807,237	2,517,640	2,610,282
		有料	一般	1,585,799	1,535,741	1,132,319	1,670,944	1,678,816
			高・大生	89,985	82,665	66,814	93,348	113,109
			小・中生	24,501	30,770	23,243	22,149	34,820
			友の会	40,845	47,758	44,592	58,421	66,016
		無料	小・中生・一般	95,130	88,927	99,764	102,343	122,894
		招待者等		606,490	624,973	440,505	570,435	594,627
東京国立博物館		総来館者数		1,756,590	1,555,694	1,322,288	1,913,643	1,994,508
	平常展	計		324,597	416,430	484,429	587,528	747,944
		有料	一般	143,017	201,988	250,330	269,639	383,579
			大学生	16,073	22,155	26,117	31,324	42,528
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	44,388	76,333	77,771	96,297	108,147
		無料	高校生	13,861	14,773	18,844	20,345	27,108
			小・中生	33,401	36,660	41,197	50,040	52,386
		招待者等		60,620	63,381	70,170	95,280	87,619
		黒田記念館(無料)		13,237	1,140	—	24,603	46,577
	特別展	計		1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564
		有料	一般	972,328	729,470	561,236	926,279	811,089
			高・大生	52,296	36,874	29,955	51,690	61,790
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	12,072	11,448	9,585	12,920	11,889
		無料	小・中生	31,888	20,368	14,715	31,503	51,547
		招待者等		363,409	341,104	222,368	303,723	310,249
京都国立博物館		総来館者数		239,767	234,540	148,429	539,134	653,336
	平常展	計		—	—	—	265,791	205,526
		有料	一般	—	—	—	147,106	124,229
			大学生	—	—	—	16,801	21,478
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	12,764	15,234
		無料	高校生	—	—	—	11,137	15,261
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	77,983	29,324
	庭園開放	計		—	—	—	—	1,699
		有料	一般	—	—	—	—	825
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	—	—	—	93
		無料	大学生	—	—	—	—	56
			高校生	—	—	—	—	235
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	—	—	—	490
	特別展	計		239,767	234,540	148,429	273,343	446,111
		有料	一般	140,395	124,569	76,358	190,015	306,503
			高・大生	13,912	13,570	10,734	14,231	18,021
			小・中生	2,375	5,022	3,224	1,683	—
			友の会	10,719	13,228	9,174	11,978	19,001
		無料	小・中生	3,007	386	1,471	4,571	7,803
		招待者等		69,359	77,765	47,468	50,865	94,783
奈良国立博物館		総来館者数		469,463	450,235	461,690	476,993	455,859
	平常展	計		130,839	145,914	122,075	92,147	95,208
		有料	一般	56,747	56,997	44,307	31,433	30,165
			大学生	4,578	4,754	3,967	3,519	3,204
			小・中・高生	—	—	546	537	0
			友の会	3,765	3,843	2,703	3,344	3,957
		無料	小・中・高生	40,864	48,183	39,249	20,933	18,221
		招待者等		24,885	32,137	31,303	32,381	39,661
	特別展	計		338,624	304,321	339,615	384,846	360,651
		有料	一般	243,704	227,929	258,597	273,574	267,663
			高・大生	12,508	12,304	13,756	13,403	13,852
			小・中生	9,380	8,143	7,622	9,208	9,843
			友の会	9,417	10,291	11,206	14,443	16,265
		無料	小・中生	—	—	3,067	0	0
		招待者等		63,615	45,654	45,367	74,218	53,028
九州国立博物館		総来館者数		712,594	1,107,036	727,603	804,663	884,128
	平常展	計		358,366	460,525	349,848	357,362	412,621
		有料	一般	86,974	91,786	75,827	71,014	93,457
			大学生	6,561	6,831	6,571	7,251	9,072
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	5,230	6,762	9,035	11,315	11,645
		無料	高校生	28,625	26,193	26,305	22,494	26,765
			小・中生	51,740	43,351	38,785	38,507	34,381
		招待者等		179,236	285,602	193,325	206,781	237,301
	特別展	計		354,228	646,511	377,755	447,301	471,507
		有料	一般	219,615	443,965	224,247	271,895	283,603
			高・大生	10,570	19,108	11,482	13,249	18,463
			小・中生	12,746	17,605	12,397	11,258	24,977
			友の会	8,637	12,791	14,627	19,080	18,861
		招待者等		102,660	153,042	115,002	131,819	125,603
平城宮跡資料館		総来館者数		132,295	124,515	108,896	109,188	105,334
	平常展	無料	一般	80,353	64,318	39,502	52,221	50,064
	特別展	無料	一般	51,942	60,197	69,394	56,967	55,270
藤原宮跡資料室		総来館者数		2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
	平常展	計		2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
		無料	一般	2,971	9,510	7,869	8,461	10,933
飛鳥資料館		総来館者数		42,479	38,854	41,736	38,096	42,749
	平常展	計		16,283	12,853	7,551	9,028	12,570
		有料	一般	6,585	4,648	2,953	3,377	4,249
			大学生	566	478	231	313	308
		無料	小・中・高生	4,832	4,226	1,853	1,884	1,835
		招待者等		4,300	3,501	2,514	3,454	6,178
	特別展	計		26,196	26,001	34,185	29,068	30,179
		有料	一般	9,757	9,808	11,881	9,181	9,958
			大学生	699	809	887	775	983
		無料	小・中・高生	8,293	7,976	11,117	9,302	8,274
		招待者等		7,447	7,408	10,300	9,810	10,964

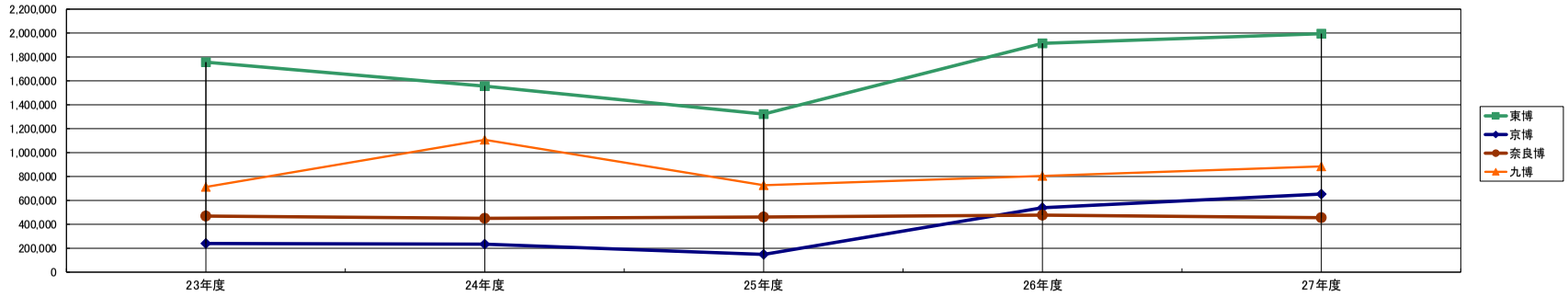
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数(23～27年度)

国立文化財機構　合計

	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
合計	総　合　計	3,356,159	総　合　計	3,520,384	総　合　計	2,818,511	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847
	平常展のみの来館者	913,409	平常展のみの来館者	1,109,550	平常展のみの来館者	1,011,274	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565
	特別(共催)展計	2,442,750	特別(共催)展計	2,410,834	特別(共催)展計	1,807,237	特別(共催)展計	2,517,640	特別(共催)展計	2,610,282

1) 国立博物館

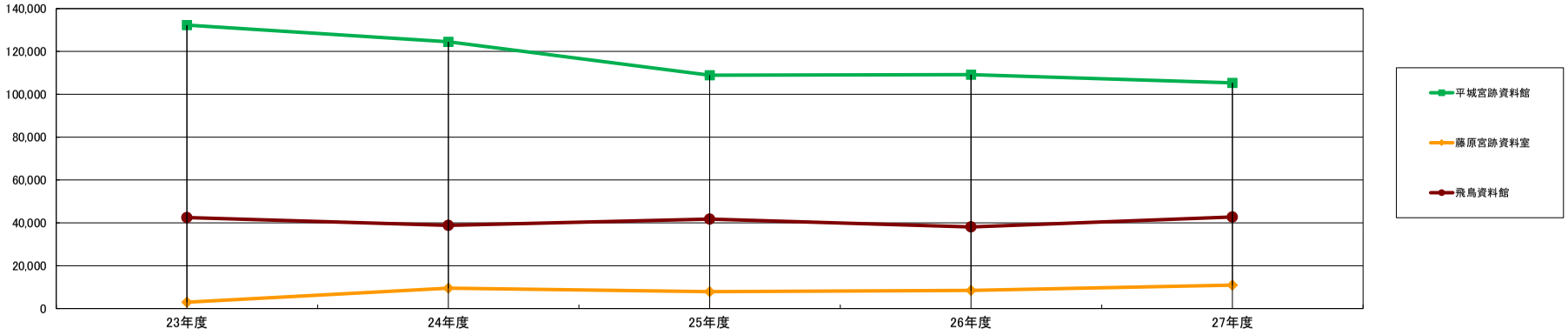


	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
計	総　　計	3,178,414	総　　計	3,347,505	総　　計	2,660,010	総　　計	3,734,433	総　　計	3,987,831
	平常展のみの来館者	813,802	平常展のみの来館者	1,022,869	平常展のみの来館者	956,352	平常展のみの来館者	1,372,828	平常展のみの来館者	1,462,998
	特別(共催)展計	2,364,612	特別(共催)展計	2,324,636	特別(共催)展計	1,703,658	特別(共催)展計	2,431,605	特別(共催)展計	2,524,833
東博	総計(黒田記念館含む)	1,756,590	総計(黒田記念館含む)	1,555,694	総計(黒田記念館含む)	1,322,288	総計(黒田記念館含む)	1,913,643	総計(黒田記念館含む)	1,994,508
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	324,597	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	416,430	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	484,429	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	587,528	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	747,944
	特別(共催)展計	1,431,993	特別(共催)展計	1,139,264	特別(共催)展計	837,859	特別(共催)展計	1,326,115	特別(共催)展計	1,246,564
	特別展「手塚治虫のブッダ展」	99,088	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	486,683	特別展「飛騨の円空」	20,544	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573
	特別展「写楽」	229,625	特別展「中国山水画の20世紀」	※1(18,415)	特別展「国宝　大神社展」	193,990	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」	72,344
	特別展「空海と密教美術」展	550,399	特別展「青山杉雨の眼と書」	51,327	特別展「和様の書」	104,577	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115
	特別展「孫文と梅屋庄吉―100年前の中国と日本」	28,780	特別展「出雲―聖地の至宝―」	137,646	特別展「上海博物館　中国絵画の至宝」	※1(62,378)	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959
	特別展「法然と親鸞　ゆかりの名宝」	212,150	特別展「中国　王朝の至宝」	141,507	特別展「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ130年にわたるイタリアの美の至宝 THE ART OF BVLGARI 130 YEARS OF ITALIAN MASTERPIECES	142,000
	特別展「北京故宮博物院200選」	258,252	特別展「飛騨の円空」	169,578	特別展「クリーブランド美術館展 ―名画でたどる日本の美」	104,865	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑展」	483,809
	特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」	53,699	特別展「書聖　王羲之」	152,523	特別展「人間国宝展 ―生み出された美、伝えゆくわざ―」	112,960	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764
					特別展「支倉常長像と南蛮美術－400年前の日欧交流－」	※2　－	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝 土偶 縄文の女神」	※2　－
					特別展「栄西と建仁寺」	22,122				
京博	総　　計	239,767	総　　計	234,540	総　　計	148,429	総　　計	539,134	総　　計	653,336
	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	0	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526
									庭園のみ(全館閉館期、庭園のみ開放)	1,699
	特別(共催)展計	239,767	特別(共催)展計	234,540	特別(共催)展計	148,429	特別(共催)展計	273,343	特別(共催)展計	446,111
	特別展「法然－生涯と美術－」	84,682	特別展「王朝文化の華　－陽明文庫名宝展－」	101,006	特別展「狩野山楽・山雪」	85,841	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186
	特別展「百獣の楽園－美術にすむ動物たち－」	35,259	特別展「大出雲展」	79,218	特別展「親鸞」	23,659	特別展「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大厩会記念 仏法東漸－仏教の興籍と美術－※3	34,696
	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	106,536	特別展「宸翰 天皇の書」	24,699	特別展「魅惑の清朝陶磁」	38,929			琳派誕生 四〇〇年記念 特別展覧会「琳派　京を彩る」	327,925
	特別展「中国近代絵画と日本」	13,290	特別展「国宝 十二天像と密教法会の世界」/特別展「成立800年記念　方丈記	25,216						
			特別展「狩野山楽・山雪」	4,401						
奈良博	総　　計	469,463	総　　計	450,235	総　　計	461,690	総　　計	476,993	総　　計	455,859
	平常展のみの来館者	130,839	平常展のみの来館者	145,914	平常展のみの来館者	122,075	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208
	特別(共催)展計	338,624	特別(共催)展計	304,321	特別(共催)展計	339,615	特別(共催)展計	384,846	特別(共催)展計	360,651
	特別展「誕生！中国文明」	35,679	特別展「解脱上人貞慶　－鎌倉仏教の本流－」	24,317	特別展「當麻寺　－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像－追真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」	10,561
	特別展「天竺へ～三蔵法師3万キロの旅」	63,364	特別展「頼朝と重源」	41,985	特別展「みほとけのかたち～仏像に会う」	39,232	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901
	特別展「第63回正倉院展」	239,581	特別展「第64回正倉院展」	238,019	特別展「第65回正倉院展」	246,269	特別展「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展 第67回正倉院展	221,189
九博	総　　計	712,594	総　　計	1,107,036	総　　計	727,603	総　　計	804,663	総　　計	884,128
	平常展のみの来館者	358,366	平常展のみの来館者	460,525	平常展のみの来館者	349,848	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621
	特別(共催)展計	354,228	特別(共催)展計	646,511	特別(共催)展計	377,755	特別(共催)展計	447,301	特別(共催)展計	471,507
	特別展「黄檗－OBAKU」	46,530	特別展「平山郁夫　シルクロードの軌跡」	110,047	特別展「大ベトナム展」	71,192	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」	77,455
	特別展「よみがえる国宝―守り伝える日本の美」	118,528	特別展「美のワンダーランド　十五人の京絵師」	75,415	特別展「中国　王朝の至宝」	77,554	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174
	特別展「草原の王朝　契丹 － 美しき3人のプリンセス」	75,880	特別展「ペルリン国立美術館展」	224,324	特別展「尾張徳川家の至宝」	139,448	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753
	特別展「細川家の至宝～珠玉の永青文庫コレクション」	113,290	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」	236,725	特別展「国宝　大神社展」	89,561	特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守り抜かれたシルクロードの秘宝－」	67,641
									特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（23～27年度）

2）研究成果公開施設



	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
計	総　合　計	177,745	総　合　計	172,879	総　合　計	158,501	総　合　計	155,745	総　合　計	159,016
	平常展のみの来館者	99,607	平常展のみの来館者	86,681	平常展のみの来館者	54,922	平常展のみの来館者	69,710	平常展のみの来館者	73,567
	特別（共催）展計	78,138	特別（共催）展計	86,198	特別（共催）展計	103,579	特別（共催）展計	86,035	特別（共催）展計	85,449
平城宮跡資料館	総　計	132,295	総　計	124,515	総　計	108,896	総　計	109,188	総　計	105,334
	平常展のみの来館者	80,353	平常展のみの来館者	64,318	平常展のみの来館者	39,502	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064
	特別（共催）展計	51,942	特別（共催）展計	60,197	特別（共催）展計	69,394	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270
	企画展「発掘速報展 平城 2009・2010」	24,238	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	34,687	春期企画展「発掘速報展　平城2012」	34,025	ロビー展示「震災復興調査とその支援」26.3.12より継続中	※1ー	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1ー
	企画展「地下の正倉院展ーコトバと木簡」	20,120	特別展「地下の正倉院・第一次大極殿院のすべて」	20,356	夏期企画展「平城京どうぶつえん」	18,616	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかいー奈良の都のナンバーワンー」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108
	企画展「発掘速報展　平城2011/文化財レスキュー展」	7,584	春期企画展「発掘速報展　平城2012 」	5,154	秋期特別展「地下の正倉院展 ー木簡学ことはじめ」/「平城宮跡発掘調査部設立50周年記念展」	16,753	秋期特別展「地下の正倉院展―木簡を科学する―」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展 造酒司木簡の世界」	16,830
					ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1ー	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」(第1期)	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003
							ミニ展示「発掘速報展　平城2014」(第2期)	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329
藤原宮跡資料室	総　計	2,971	総　計	9,510	総　計	7,869	総　計	8,461	総　計	10,933
	平常展のみの来館者	2,971	平常展のみの来館者	9,510	平常展のみの来館者	7,869	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	42,479	総　計	38,854	総　計	41,736	総　計	38,096	総　計	42,749
	平常展のみの来館者	16,283	平常展のみの来館者	12,853	平常展のみの来館者	7,551	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570
	特別（共催）展計	26,196	特別（共催）展計	26,001	特別（共催）展計	34,185	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179
	特別展「星々と日月の考古学」	10,679	特別展「比羅夫がゆく-飛鳥時代の武器と武具・いくさ-」	11,425	第3回写真コンテスト「神々の山　大和三山のある風景」	1,148	春期特別展「いにしえの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725
	企画展「鋳造技術の考古学」	3,047	第2回飛鳥資料館写真コンテスト展「遙かなる華の都」	5,385	春期企画展「飛鳥寺2013」	9,406	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)ーいにしえの飛鳥を想ふー」	4,088
	特別展「飛鳥遺珍」	10,454	特別展「花開く都城文化」	5,743	5月～6月ロビーミニ展示※2	2,648	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年 「キトラ古墳と天の科学」	12,862
	企画展「飛鳥の考古学2011」	2,016	冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１２」	1,537	夏期企画展「飛鳥・藤原京を考古科学する」	2,633	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり ー大地にきざまれた記憶ー」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線ー」	2,504
			第３回飛鳥資料館写真コンテスト展「神々の山ー大和三山のある風景ー」	1,911	第4回写真コンテスト「飛鳥川の導」※3	2,313	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 -縄文・弥生・古墳から飛鳥へ-」	2,658		
					ミニ企画展「日光男体山のかがやき-山岳信仰奉賽鏡の世界-」	1,046				
					秋期特別展「飛鳥・藤原京への道」	9,132				
					発見30周年記念　キトラ古墳壁画特別公開	4,008				
					冬期企画展示「飛鳥の考古学２０１３」	1,851				

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 入場料収入

（単位：円）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
国立文化財機構　計	804,337,682	814,309,524	673,986,101	1,030,664,932	1,090,121,158
東京国立博物館	428,268,290	375,602,560	315,141,843	531,481,636	554,557,574
京都国立博物館	71,429,440	67,028,455	39,724,945	152,807,735	194,709,634
奈良国立博物館	213,777,640	207,961,850	225,693,950	238,881,550	218,197,990
九州国立博物館	90,862,312	160,398,639	89,050,933	104,274,641	118,989,130
飛鳥資料館	4,058,960	3,318,020	4,374,430	3,219,370	3,666,830

a-④ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

1)開館期間　4月1日～28年3月31日(307日間)　　平常展のみの開館日数　54日間

2)会　　場
①本　館　1階、2階
②東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
③表慶館　1階、2階
④法隆寺宝物館　1階、2階　(27年5月20日～28年3月14日まで休館)
⑤平成館　1階
⑥黒田記念館（28年1月18日より休館）

3)陳列品総件数　8,911件(うち国宝164件、重要文化財660件)
①本館・平成館企画展示室　4,048件(うち国宝 77件、重要文化財295件)
②東洋館　3,071件(うち国宝　0件、重要文化財 41件)
③表慶館　0件(うち国宝　0件、重要文化財　0件)
④法隆寺宝物館　194件(うち国宝 10件、重要文化財153件)
⑤平成館考古展示室　1,420件(うち国宝 77件、重要文化財166件)
⑥黒田記念館　178件(うち国宝　0件、重要文化財　5件)

4)陳列替件数　6,930件　・　陳列替回数　　延べ331回

5)入場料金
黒田記念館以外　　一般620円、大学生410円
黒田記念館　無料

6)特集　全31件

●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館 特別2室	親と子のギャラリー　美術のくにの象めぐり	27年4月7日 ～5月17日	40(0.0)
	＜主な作品＞象の頭をした神さまの仮面、象の形をした黒い器 、中国風の建物と子どもたちをのせた象の香炉、象、普賢菩薩を乗せた白い象（模本）		
	春の行楽やゴールデンウィークで東博を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさを伝える。国立科学博物館、上野動物園との連携企画、国際博物館の日記念イベント「動物めぐり」（2015年度で10回目）の関連展示。今回は子どもから人気が高く、多くの作品にも登場する「象」をとりあげる。日本およびアジアの各地域と国でつくられた絵画、彫刻、工芸などさまざまな色、形、大きさの象をテーマとした作品を「象のパレード」と称した小テーマで見た目にも楽しく展示する。さらに「ほとけさまを乗せた白い象」、「象を洗う」、「象が日本にやってきた」という小テーマを設ける。また、象牙でできた根付の展示を補助するため、上野動物園や科学博物館から加工前の象牙を借用し展示する。		
本館 14室	日御碕神社の甲冑と模写図	27年4月7日 ～7月5日	11(2.1)
	＜主な作品＞●白糸威鎧、残欠類、出雲国日御崎宝物頼朝卿甲冑図（日御崎什物図　第1巻のうち）、甲全図（温古図譜　甲冑のうち）、◎黒韋肩裾取威腹巻		
	島根県日御碕神社の白糸威鎧は、文化2年(1805)松江藩主松平治郷の命で修理されて現状となっている。その際、取外された威糸や紐類などはすべて保管され、修理記録の文書も残されていて江戸時代の甲冑修理の模範例として著名である。　今まで展示する機会のなかった残欠類や文書と修理前の模写図、あわせて安政3年(1856)に修理された同社の黒韋肩裾取威腹巻を展示して江戸時代の甲冑修理や模写の一例を紹介する。		
本館 特別1室	鳥獣戯画と高山寺の近代 ー明治時代の宝物調査と文化財の記録ー	27年4月28日 ～6月7日	14(0.4)
	＜主な作品＞鳥獣戯画　甲巻（模本、◎壬申検査社寺宝物図集第六、◎高山寺仁王門（壬申検査関係写真のうち）、鳥獣戯画　乙巻（模本)、鳥獣戯画　丙巻（模本）、鳥獣戯画　丁巻（模本）		
	高山寺に所蔵される国宝・鳥獣戯画。平成21年（2009）から4年をかけた修理が行なわれたが、今からおよそ130年前の明治14年(1881)にも、国立博物館の前身である博物局によって「修繕」が成されている。　そのきっかけとなったのが明治5年(1872)、町田久成、蜷川式胤らによって行なわれた「壬申検査」と呼ばれる宝物調査だった。同年7月21日から23日の間、調査団は高山寺を訪れ、今なお高山寺に伝えられる文化財を眼にしているが、その中には「鳥羽僧正筆画巻物　四本」とある鳥獣戯画も含まれていた。おそらくはこの宝物調査により修理の必要性が説かれ、およそ10年後に修理がなされたのである。　修理が完成した後、この貴重な文化財の記録を残すため、二つの方法がとられた。一つが前近代を通じ連綿として培われた「模写」という方法であり、いま一つが「写真」という新たな記録の方法だった。　この特集では、近代における鳥獣戯画という文化財、そして高山寺をめぐる状況を、明治5年の壬申検査の記録や、その後に写された模本や写真資料などからたどる。あわせて、「模写」に加えて「写真」という新たな文化財の記録方法が導入されるようになった最初期の事例の一つとして、鳥獣戯画の二つの記録法を紹介する。なお本特集では、鳥獣戯画全四巻の模本のうち、甲巻の全場面を、展示期間を通じて一挙公開する。		

本館 特別 2 室	平成 26 年度新収品	27 年 5 月 19 日 ～5 月 31 日	40(0.0)
	＜主な作品＞林逋帰亭図屏風、〇融通念仏縁起絵巻断簡、古今和歌集巻第一断簡(関戸本）、円形切子碗、押出如来立像		
	平成 26 年度に新たに収蔵品に加わった作品のうち、39 件の文化財を展示する。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく。		
東洋館 8 室	清時代の書	27 年 6 月 9 日 ～8 月 2 日	24(0.0)
	＜主な作品＞隷書崔子玉座右銘横披、篆書白氏草堂記六屏、楷書嬌舞倚床図便面賦軸、篆書張茂先励志詩四屏		
	清時代も 18 世紀の末頃になると、考証学の進展をうけて金石学が盛んとなり、従来の書の流れを大きく変える碑学派の人々が活躍するようになる。平成 27 年(2015)は、碑学派の中心人物となった鄧石如の没後 210 年、包世臣の没後 160 年にあたる。この特集はこれを記念して、清時代の書に焦点をあて、清初から碑学派が勃興する 19 世紀までの書の流れを概観する。		
本館 特別 1・2 室	呉服商「大彦」の小袖コレクション	27 年 6 月 9 日 ～8 月 2 日	56(0.1)
	＜主な作品＞◎小袖 白練緯地松皮菱竹模様、小袖 白綸子地斜縞歌文字模様、小袖 鬱金綸子地染分花の丸模様、振袖 白縮緬地梅樹衝立鷹模様、小袖 浅葱縮緬地唐山水模様		
	「大彦」は、大黒屋・野口彦兵衛(1848～1925)の手掛けるきもの意匠や染の技術によって一世を風靡し、髙島屋や三井と並ぶ服飾の名門と称された呉服商である。野口彦兵衛は、明治 8 年(1875) 日本橋橘町に「大彦」を開業、明治 20 年代から江戸時代の小袖を蒐集し始めた。そのコレクションの中には後に重要文化財となった、徳川家康ゆかりと伝える「小袖 白練緯地松皮菱竹模様」(I-3865)も含まれる。　明治期において江戸の小袖は古着以外のなにものでもなく、そこに歴史的、美術的価値を見出す向きはほとんどなかった。小袖コレクターとして著名な野村正治郎(現在コレクションは国立歴史民俗博物館蔵)や、吉川観方(現在コレクションは奈良県立美術館・京都府立総合資料館・福岡市博物館蔵)等が近世の染織品の蒐集に力を注ぎコレクションを築き上げた時期は、明治後半から大正期にかけてである。大彦のコレクションは、現在知られる小袖コレクションのなかで、もっとも早い時期に形成されたという点で特に注目に値する。　また、大彦コレクションの小袖には、野口彦兵衛が書き付けたとみられる墨書が多く付随する。墨書付箋には制作年代を示す言葉や「御殿模様」「加賀染」など模様技法が記され、大正期以降さかんとなった京都における風俗研究に先んじて、野口が独自の風俗考証を試みていたことが窺えるのである。　大彦の小袖コレクションは、震災や戦争により数を減らしたものの散逸することなく保管され、昭和 40 年代に一括して東京国立博物館の所蔵するところとなった。本特集は、同コレクション約 50 件を展観し、女性風俗史研究の先駆けともいえる野口彦兵衛の視点を併せて紹介するものである。		
東洋館 8 室	描かれた器物	27 年 6 月 30 日 ～8 月 2 日	47(0.0)
	＜主な作品＞骨董舗図（模本）、琴棋書画図、黒漆輪花椀、三彩金襴手龍濤文水注、五彩花鳥文水注、文会図		
	絵画に描かれた器物は、単なる添景描写ではなく描かれた人物の個性や役割を示す、重要な表現の一部であった。そのため画中器物の形は、実際の器物を想起させるものから、空想に近いもの、わざと倣古の形をとるものなど、実に多様な表現がなされている。当館はこのような、器物を描く絵画と描かれた器物の両方を豊富に所蔵しており、それらを対比的に展示することができる数少ない博物館の一つである。このコレクションの特性を生かし、絵画のもつ意味と器物の持つ意味の二つを同時に展示することで、分野を超えた研究の機会とするとともに、絵画と器物の作品としての魅力を再発見できる展示とする。		
本館 15 室	養生と医学	27 年 7 月 7 日 ～8 月 30 日	29(2.1)
	＜主な作品＞◎銅人形　、●医心方　巻第 9　咳嗽部		
	日本の医療は、江戸時代中期に西洋医学の導入によって飛躍的に進歩し、優れた蘭方医を多く輩出した。明治維新以後は、欧米の近代医学を取り入れ、最近にいたっては遺伝子に基礎を置いた病気の発見や再生医療などに発展しつつある。その一方で、江戸時代以来行われているさまざまな養生のあり方が、予防医学の観点から注目されている。展示では、日本最古の医学書である『医心方』や、東洋医学の基礎となった「つぼ」を示す銅人形、人々が親しんだ養生書、西洋医学の影響をうけた人体解剖模型、シーボルトの携帯用医療器具など、養生と医学との関連を考える上で重要な資料をご紹介する。		
本館 14 室	能面 女面の表情	27 年 7 月 7 日 ～10 月 4 日	32(0.0)
	＜主な作品＞能面　増髪女、◎能面　小面		
	能面には、老人、男女、鬼神の面などの種類があるなかで、今回は能面と言えば誰もが真っ先に思いつく女面を取り上げる。女面は、年齢、品格、性格などに応じ様ざまな種類があり、同種の面でも表情が異なるものもある。　「能面のよう」という言葉は無表情とい意味で使われ、女性の面は変化に乏しいが、わずかな差を見逃さないように注意すれば、能面の鑑賞が面白くなる。　今回の特集では表情の違いを示しつつ、般若や狂言面なども展示し、能楽の女性表現の多彩さをご覧いただこうとするものである。		
本館 14 室	キリシタン関係遺品にみる聖母マリア信仰	27 年 7 月 7 日 ～8 月 30 日	53(0.34)
	＜主な作品＞聖母子図（チプス・カスチタチス）、祈祷書、◎板踏絵　無原罪の聖母、◎聖母像（親指のマリア）		
	当館のキリシタン遺品について聖母マリアをテーマに展示する。カトリック教会ではマリア信仰が篤く、16 世紀半ばから日本で布教を始めたイエズス会や托鉢修道会もカトリック教宗派であったため、日本でもマリア信仰が広がった。当館にあるキリシタン遺品もロザリオ、銅牌、メダイなど、マリア信仰を示すものが多くある。なかでもメダイは浮彫された題材から製作年代がある程度特定できることがわかり、日本にもたらされた年代も推定できつつある。　またキリスト教禁教時には、白磁の観音像を聖母マリアに見立てたマリア観音像や宣教師が将来した銅牌とは異なる顔つきの無原罪のマリア像が浮彫された銅牌など、日本独特の		

	マリア信仰を見ることができる。禁教時代に宣教師シドッチが持参したとされる「親指のマリア」も展示する。		
東洋館 3 室	親と子のギャラリー　ミイラとエジプトの神々	27 年 7 月 22 日 ～9 月 13 日	34(0.0)
	＜主な作品＞イニ像浮彫、パディインヘルのミイラの包み布、パシェリエンプタハのミイラ		
	同時期に開催される特別展の関連展示として「親と子のギャラリー　ミイラとエジプトの神々」と題し、館蔵の作品に他館からの借用作品を加えて展観する。当館におけるエジプト考古の代表作品である「パシリエンプタハのミイラ」を中心に「１、古代エジプトでは、死んだらどうなる？」「２、古代エジプトでは、動物も神様だった！？」の２つのテーマで展示し、子どもたちに人気のあるミイラと、それにまつわるエジプトの死後の世界を中心に紹介する。		
本館 特別 2 室	後水尾院と江戸初期のやまと絵	27 年 8 月 11 日 ～9 月 23 日	8(1.1)
	＜主な作品＞十二ケ月歌意図巻、立花図屏風、◎古今和歌集		
	後水尾院は、安土桃山時代末から江戸時代初期にかけて天皇として在位し、徳川秀忠の娘で家光の妹、東福門院和子を中宮として迎えたことにより、江戸幕府や武家とも深い関係にあった。そして、和歌や立花など、江戸時代初期の宮廷文化を主導し、以後の江戸時代の武家文化にも大きな影響を与えた。本展示では、江戸時代文化の始まりとつながりの深い後水尾院の活動の一端を美術作品を通して紹介し、近世美術の理解に役立てることを目的とする。		
本館 特別 2 室	漢･唐時代の陶俑	27 年 9 月 1 日 ～12 月 23 日	28(0.0)
	＜主な作品＞加彩舞人・楽人、緑釉犬、加彩武人、三彩馬、三彩鎮墓獣		
	漢・唐時代の代表的な陶俑を東洋館リニューアル以降これまでにない規模で展示し、ほぼ同時期に特別展会場で展示される秦の兵馬俑との違いに触れつつ、造形の特徴と多彩な魅力を紹介する。このほか、大正から昭和初期に中国から大量に将来された漢・唐時代の陶俑を含む出土品が、安田靫彦・小林古径など当時の画壇を牽引した画家たちによっても愛蔵された歴史について触れる。とくに、絵画作品（パネル）とそこに描かれた対象に近い形状の陶俑を並置させることで、静物画の画題や歴史画の考証資料として中国の出土品が果たした重要な役割に注目する。		
東洋館 5 室	東洋の白磁―白をもとめ、白を生かす／不孤斎が愛した小さな器―茶入・振出・香合	27 年 8 月 18 日 ～12 月 23 日	61(0.2)
	＜主な作品＞◎白磁鳳首瓶、白磁刻花蓮花文鉢、白磁四耳壺		
	本特集は白磁に焦点をあてるものである。まず北斉にはじまり、元時代の景徳鎮窯まで中国白磁完成に至る展開を邢窯、定窯、景徳鎮窯など窯別、時代別に展観する。さらに白色をもとめ、白土で化粧をし、透明釉をかけた磁州窯の白釉陶や、ベトナム、日本、朝鮮でつくられた白磁・白釉陶をとりあげ、それぞれの文化的背景に基づいて独自に白い器を完成させてゆく様子を展観し、東アジアにひろがったさまざまな白磁の魅力を紹介する。　のぞきケースでは、広田不孤斎寄贈の中国陶磁のなかから、不孤斎がとくに愛玩した茶の湯の器、薄茶器や振出、香合など、小さくて愛らしい作品をまとめて紹介する。		
本館 特別 1 室	春日権現験記絵模本Ⅱ―神々の姿―	27 年 9 月 1 日 ～10 月 12 日	14(0.0)
	＜主な作品＞春日権現験記絵（模本） 巻第一、春日権現験記絵（模本） 巻第六、春日権現験記絵（模本） 巻第十、春日本地仏曼荼羅、春日鹿曼荼羅		
	春日権現験記絵模本の魅力とともに、春日信仰の諸相を様々な角度から紹介する試みの第２回目。聖地春日野の景観に着目した前回に続き、今回は「神々の姿」をテーマとする。　神は仏が仮の姿として現われたとする本地垂迹説を背景に、日本の神々は様々な姿で表わされてきた。春日権現験記絵模本でも、春日の神々は束帯、貴女、童子、仏など、様々な姿で描かれている。本特集では、験記絵模本とともに、春日本地仏曼荼羅、春日鹿曼荼羅などから、多様な春日の神々の姿を紹介する。		
東洋館 8 室	中国書画精華―日本における受容と発展―	27 年 9 月 8 日 ～11 月 29 日	41(4.11)
	＜主な作品＞◎寒江独釣図、◎猿図、●出山釈迦図、●雪景山水図、雑画冊、張氏通波阡表巻、楷書玄妙観重脩三門記巻、 ●無隠元晦あて法語		
	今年も、秋の中国美術の名品展として「中国書画精華」を開催する。わが国に古くから舶載された中国の書画は、日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に、宋元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗とともに数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。東山御物に代表される中国の書画の名品の中には、中国では伝わることがなく、今日、日本においてのみ伝世しているものも少なくない。また、明治以降、新たに中国本来の文人趣味を理想とする優れた収集家によって、中国伝世の歴代書画の精品が、少なからず日本に伝えられた。それらは、中国の書画の神髄を示すものといえる。今回は中国の名品がいつごろ日本に伝えられ、どのような影響を与えてきたか、日本における受容と発展に視座を置きながら、名品の数々を紹介する。		
本館 特別 2 室	江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉―	27 年 9 月 29 日 ～10 月 25 日	18(0.0)
	＜主な作品＞草花魚貝虫類写生図巻 巻 6、草花写生図巻 秋		
	古来、植物などを客観的態度で描く「写生」が広く行われ、そこから花鳥図や花卉図が生まれた。とくに近世の写生図は、江戸中期の博物学の興隆と共鳴しながら、多彩な花卉図へと展開していった。その先駆的な作例である狩野探幽筆「草花写生図巻」と狩野常信筆「草花魚貝虫類写生図巻」が当館に所蔵されている。探幽・常信は、伝統や古典に依拠しながらも、明や西欧の新たな知の影響をうけて、「記録」としての写生にめざめていった。そうした江戸の写生図の源泉を丁寧に解説し、豊かな江戸の花卉図の一端を紹介する。		
本館 14 室	後藤一乗　幕末の華やかな刀装と絵図	27 年 10 月 6 日 ～ 12 月 13 日	25(0.2)
	＜主な作品＞沃懸地鳳凰蒔絵小脇指 、◎吉野龍田図大小揃金具、孝明天皇御剣御絵形（秀光御剣　佩表）、紫檀地花鳥文蒔絵螺鈿太刀		

	幕末を代表する装剣金工の後藤一乗は、幕府の抱工として栄えた後藤家の京都の分家に生まれ、同家の格調高い表現を保ちつつ、家柄に捉われない自由な作風の作品を製作した。当館には、宮中から一乗へ製作が依頼された刀装が所蔵され、これらのなかには文様を狩野永岳、蒔絵を山本光利など、禁裏御用を勤めた工人と合作したものがあって貴重である。本特集では、こうした刀装やその製作で用いられたと思われる絵図、一乗の刀装具やその弟子たちの作品を展示し、気品ある華やかな世界をご覧いただく。		
平成館 企画展示室	伊能忠敬の日本図	27 年 10 月 14 日 ～12 月 23 日	12(0.9)
	＜主な作品＞◎日本沿海輿地図（中図） 北海道東部、◎礼文島・利尻島図		
	伊能忠敬は下総・佐原の商家の経営者を務めて隠退した後、天文学や地理学を学び、ほとんど独力で蝦夷地を測量して、幕府の注目するところとなった。その後幕府の命を受けて生涯を全国の測量に捧げ、その成果は日本全図である「大日本沿海輿地全図」として結実した。当館には伊能忠敬とその関係者が作成に関与した各種日本図が伝来している。本展示では代表的な伊能図と、最初の測量となった蝦夷地（北海道）に関連した歴史資料などを紹介する。また同時期にミュージアムシアターで伊能図に関する番組を上映し、相互の連携を図る。		
平成館 考古展示室	須恵器の展開	27 年 10 月 14 日 ～12 月 23 日	32(0.0)
	＜主な作品＞把手付短頸壺、樽形瓶、〇子持高坏、硯		
	古墳時代中期・5 世紀に朝鮮半島から新しい窯業技術が伝えられ、日本列島で須恵器生産が始まった。技術のみならず、その器形にも朝鮮半島の陶質土器に共通する特徴がみられ、須恵器の生産開始以後も、朝鮮半島との関係がうかがわれる須恵器がみられる。一方、日本列島での生産が各地で展開する中で、日本列島の独自の特徴も現れてくる。本特集においては、須恵器の登場から奈良時代までの須恵器を展示し、技術と交流の歴史と、造形の多様性を示す。		
本館 特別 1・2 室	一遍と歩く 一遍聖絵にみる聖地と信仰	27 年 11 月 3 日 ～12 月 13 日	23(1.6)
	＜主な作品＞◎遊行上人縁起絵、◎二河白道図、陶製外筒、◎阿弥陀如来および両脇侍立像、◎消息、◎因幡堂薬師縁起絵、 ●一遍聖絵 巻第七、◎石清水八幡曼荼羅図		
	国宝「一遍聖絵（一遍上人伝絵巻）」（A-10944）は、時宗の祖・一遍（1239～1289）の生涯をつづった伝記絵巻である。一遍は、念仏聖として、全国さまざまな社寺や先祖ゆかりの地を遊行し、踊念仏や賦算（念仏札配布）によって布教を行った。十回忌にあたる正安元年（1299）に制作された本絵巻は、その様子を壮麗な聖地の風景とともに伝えている。 本特集では、当館所蔵の巻第七と江戸時代の模本を手がかりとして、熊野、善光寺、因幡堂、当麻寺、石清水八幡宮など代表的な聖地・信仰を所縁の絵画、彫刻、考古遺物とともに紹介する。		
平成館 考古展示室	高知・愛媛の考古学	27 年 12 月 1 日 ～ 28 年 3 月 6 日	42(0.0)
	＜主な作品＞木胎漆器、広形銅矛、線刻絵画付壺、卜骨		
	平成 27 年度の考古資料相互活用事業の一環として、高知県と愛媛県からの借用作品により、縄文時代晩期から古墳時代初頭までの四国の考古学を紹介する。 縄文時代晩期は、稲作農耕の定着に先立つ新たな時代の胎動がみられる時期でもあった。東北地方の縄文土器である大洞式土器が四国や九州にまでもたらされ、祈りの道具である土偶が西日本でも独特の発展を遂げるなど、時代の転換点に特有の様相がうかがわれる。 弥生時代には、各地に個性的な弥生文化がみられるとともに、地域間の交流があった。北部九州産とみられる銅矛は、この時代の九州と四国の交流の産物である。 古墳時代初頭には、山陰地方に独特の大型甕形土器や、畿内地方の庄内式土器などがもたらされ、地域間の交流が盛んになった。畿内を中心とした大規模な交流は、新たな政治権力の出現に関わるものと考えられている。		
東洋館 8 室	顔真卿と唐時代の書	27 年 12 月 1 日 ～ 28 年 1 月 31 日	28(0.3)
	＜主な作品＞妙法蓮華経 巻第二、◎大方広仏華厳経、◎化度寺碑、九成宮醴泉銘、伊闕仏龕碑、孟法師碑、麻姑仙壇碑		
	唐時代には欧陽詢・虞世南・褚遂良ら唐の三大家の伝統を受け継ぎながら、顔真卿が顔法と称される筆法を創出した。王羲之や唐の三大家とは異なる美意識のもとにつちかわれた顔法は、王羲之の書とともに、後世にきわめて大きな影響を与えた。本展は平成 27 年が顔真卿の没後 1230 年であることにちなみ、顔真卿をはじめとする唐の名家の拓本や、敦煌出土の宮廷写経など、書が最高峰に到達した唐時代の優品を紹介する。台東区立書道博物館との連携企画第 13 弾。吉備地方は古墳時代における中心的な須恵器生産地のひとつであり、特色ある製品も生産している。馬をはじめとする動物・人物装飾を施した須恵器はその作例のひとつである。本特集陳列では、午年にちなみ、馬の刻文や馬形の装飾を持つ作品を含めた陳列を通じて、吉備地方の須恵器の実体を描出した。あわせて、当該地域の古墳時代研究において、編年上重要な一括資料等を紹介した。上記を組み合わせた通時的な展示によって、当該地域における６世紀を中心とする須恵器の変遷も紹介した。		
平成館 企画展示室	江戸幕府御用絵師板谷家の仕事	28 年 1 月 2 日 ～2 月 14 日	15(0.0)
	＜主な作品＞琴棋書画図屏風、昔噺桃太郎図、羅陵王図(模本)、図案ほか粉本貼り込み画帖、花鳥粉本貼り込み画帖		
	江戸幕府の御用絵師住吉広守（1705～77）の弟子板谷慶舟広当は、住吉家を継いだ後、天明元年（1781）家督を譲って隠居したが、翌年新たに幕府から召しだされ、御用絵師としての板谷家がはじまった。当館では、平成 21 年度に板谷家の御子孫より「板谷家伝来資料」として同家に伝わる粉本・下絵類のご寄贈をいただき、平成 23 年には、これらの資料に館蔵の板谷派作品を加えた特集陳列をおこなった。今回は、個人所蔵の作品により板谷家歴代の作品を紹介するとともに、本画制作と関わりある下絵類を展示する。		
東洋館 8 室	藍瑛とその師友－家族と工房－	28 年 1 月 2 日 ～2 月 14 日	23(0.0)
	＜主な作品＞峨眉飛雪図、剣閣飛瓊図、牡丹図、玉堂富貴図、天目喬松図、倣古山水図冊		
	藍瑛は杭州を中心に活躍した画家で、董其昌などに古典絵画や文人画の理念を学ぶ一方、地元の画風を取り入れた画風を創出し、浙派の殿将（しんがり）とも呼ばれた重要な画家である。その画蹟は江戸時代を通じて日本に多くもたらされ、画壇にも大きな影響を与えた。しかしながらその全貌は、いまだ明らかではない。この展観では藍瑛の真作を中心に、その工房と一族による作品を		

	一同に展示することで、橋本コレクションを活用するとともに、その画風の広がりを検証し、杭州地区における「藍瑛派（武林派）」の全貌に迫ろうとする、日本初の試みとなるものである。		
本館 特別１・２室	博物館に初もうで　猿の楽園	28 年 1 月 2 日 ～1 月 31 日	43(1.0)
	＜主な作品＞猿猴図、〇秋山遊猿図、●十六羅漢像（第十一尊者）、井桁釜		
	平成 28 年の干支である「猿」にちなんだ美術工芸品を展示する。猿は集団で暮らす生態をもつことから群像で絵画などの題材となることが多く、その全身を覆う柔らかな体毛は森狙仙などの絵画で知られる通り、重要な造形要素として知られている。一方、人間との関係に注目すると、猿は人間との類似性から親しみをもって描かれることが多く、親子猿などの愛らしさのある表現がみられる。さらに、猿は古くから人間の周辺にいたことで宗教、民族の諸文化のなかで登場し、ときには擬人化されてあらわされている。本特集では、猿の生態や特徴、文化史的側面から猿の表現を紹介し、その造形の面白さをご覧いただく。		
本館 15 室	中国史跡写真	28 年 1 月 2 日 ～2 月 28 日	66(0.0)
	＜主な作品＞明太祖孝陵 石獣（駱駝）側面、棲霞寺塔、明成祖長陵 大石坊		
	建築史家関野貞（1868～1935）は大正時代に中国の史跡を踏査し、写真による記録を多数残した。竹島卓一（1901～92）は昭和初期に関野を助けて中国史跡の調査に従事し、関野没後はその成果と自ら撮影した厖大な写真を今日まで伝えた。今回、近年当館に寄贈され、東京大学東洋文化研究所との共同調査によってその全貌が明らかになった関野及び竹島による中国史跡写真の一部を紹介する。		
本館 14 室	寿ぎと絵替わりの美―扇散らし―	28 年 1 月 2 日 ～2 月 28 日	27(0.2)
	＜主な作品＞◎扇散蒔絵手箱・大倉集古館、◎扇散蒔絵手箱		
	新春に因み、「末広がり」の意匠としてのめでたさや、絵替わりの楽しさに焦点をあてながら、扇散らしの図柄の意味とその展開をたどる。扇散らしの文様は、扇の変化に富んだ形や、扇面に描き込まれた画中画の面白さが好まれて、鎌倉時代以降、さまざまな工芸品に用いられてきた。この展示では、館蔵品（H-32）や大倉集古館所蔵（寄託中）の重要文化財「扇散蒔絵手箱」をはじめとする中世の蒔絵手箱の名品を集め、扇散らし文様の魅力に迫る。また化粧道具から文具、香道具、馬具にいたる近世の蒔絵作例や、絵画や金工・陶磁・染織などの作品とあわせ、扇散らしの意匠の広がりと展開をご覧いただく。		
本館 14 室	おひなさまと日本の人形	28 年 3 月 1 日 ～4 月 10 日	55(0.0)
	＜主な作品＞古今雛、官女雛、立雛、御所人形、牙首雛、紫宸殿		
	３月３日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行いたい。今回は当館の雛人形を代表する古今雛（山本米子氏寄贈）と牙首雛（三谷てい氏寄贈）、またこれらに本来付属する作品ながら、これまで展示されなかった官女雛の優品と紫震殿（御殿飾り）を中心に展示する。また天児・這子や紙雛にはじまる雛人形の発展を概観する。一方、日本の人形文化を代表するものとして御所人形の名品も一同に展示し、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えたい。		
平成館 考古展示室	経塚出土の瓦経	28 年 3 月 8 日 ～7 月 18 日	40(0.14)
	＜主な作品＞ ◎瓦経・三重県伊勢市浦口町旦過 小町塚経塚出土、瓦経・鳥取県倉吉市桜 大日寺経塚出土、◎如意輪観音像絵瓦・岡山県倉敷市浅原 安養寺経塚出土、◎阿弥陀如来坐像・兵庫県姫路市香寺町 極楽寺経塚出土、滑石経 ・伝福岡県筑後市若菜 八幡宮出土		
	瓦経は粘土板に経文が刻まれた後に焼成された経典の一種である。11 世紀後半から 12 世紀後半の約 100 年間にわたり西日本の経塚に埋納され、これまで 40 ヶ所を超える発見例がある。通常経塚には紙本経典が納められた経筒が土中に埋納されるため、発見時には経典が朽ちて失われている場合が多い。しかし、瓦経は紙本経典に比べて土中においても遺存しやすいことから、考古資料のみならず文字資料においても貴重な資料といえる。　現在、当館には最古の瓦経と考えられる鳥取県倉吉市大日寺経塚出土瓦経をはじめ、兵庫県姫路市極楽寺経塚出土瓦経、三重県伊勢市小町塚経塚出土瓦経など、代表的な資料が所蔵・寄託されている。また、今では所在不明となっている瓦経の拓本も伝来している。　今回はこれまで部分的に陳列されてきたこれらを含め関連資料を一堂に陳列し、来館者に瓦経の特徴や刻まれた経文の解説を行うとともに、造営の背景や造営に関わった集団など、瓦経研究の現状を踏まえ分かりやすく紹介する。		
東洋館 5 室	中国陶磁の技と美	28 年 3 月 15 日 ～5 月 15 日	44(0.1)
	＜主な作品＞ 加彩馬、青花人物図鉢、三彩金襴手龍濤文水注、〇青磁三足香炉		
	本特集はおよそ 6 世紀から 18 世紀にいたる中国陶磁発展の歴史をたどりながら、各時代を象徴する造形、線彫りや青花、五彩といった装飾をとりあげて、そのすぐれた技を紹介するものである。まるで金属器のような鋭い形、生命力にあふれた動物表現、巧みな筆使いによる絵付け、玉膚にも優るなめらかな釉の追求など、さまざまな視点で中国陶磁の魅力に迫る。		
本館 特別 1 室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	28 年 3 月 15 日 ～4 月 24 日	23(0.1)
	＜主な作品＞ 土偶、◎色絵花鳥文大深鉢、鳳凰文刺繍残欠、平絹・繖幡残欠、坪内老大人像、坪内老大人像画稿		
	本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、書跡、工芸、考古、歴史資料などさまざまな分野の作品を展示し、対症修理を施した作品やその工程を示す資料なども併せて紹介する。　具体的には、分野、形態、技法が異なる作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルなどを用い、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただく。　また、平成 27 年 9 月末に修理を終えた「国宝 鷹見泉石（A-9972）」が同期間に本館 2 室（国宝室）にて展示されるため、本特集では鷹見泉石の修理工程の詳細をパネルにて紹介する。		

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：海外展「Ink and Gold; Art of Kano（狩野派展）」

・会　　期　平成27年2月16日（月）～平成27年5月10日（日）（69日間）
・会　　場　アメリカ・フィラデルフィア美術館
・主　　催　アメリカ・フィラデルフィア美術館、文化庁
・特別協力　東京国立博物館
・作品件数　119件
　担当研究員数：2人
・来館者数　77,214人
　展覧会の内容：
日本の絵画史上、最大最長の画派として室町時代から江戸時代末まで、画壇の中心に君臨し続けた狩野派の作品を紹介した。流派の始祖・正信から明治維新後に活躍した幕末期、狩野派に学び近代日本画に大きな足跡を残した狩野芳崖、橋本雅邦までの400年余に及ぶ狩野派絵師たちの作品を網羅的にとりあげ、画題内容、画面形式などに注目しながら、各時代における様々な表現の特色とその展開を概観した。

　講演会等：なし

展覧会名：特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」

・会　　期　平成27年3月17日（火）～平成27年5月17日（日）（56日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、インド政府文化省､コルカタ・インド博物館､インド大使館､日本経済新聞社、BSジャパン
・協　　賛　野崎印刷紙業、三井物産
・協　　力　エア インディア
・作品件数　91件
・来館者数　97,300人(目標60,000人・達成率162.1%)
・入場料金　一般1400円(1200円／1100円)、大学生1000円(800円／700円)、高校生800円(600円／500円)、中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　80%
　担当研究員数：2人

　展覧会の内容：
インドのコルカタ（旧カルカッタ）に所在し、1814年に創立したアジア最古の総合博物館であるインド博物館が所蔵する、古代初期を代表するバールフット遺跡の出土品、仏像誕生の地であるガンダーラやマトゥラーの美術などを展示し、インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった。

講演会等：「インドの仏ー古代初期から密教まで」講師：小泉英恵(企画課長)　平成館大講堂　4月11日（土）

展覧会名　特別展「鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―」

・会　　期　平成27年 4月28日（火）～平成27年6月7日（日）（36日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、高山寺、朝日新聞社
・特別協賛　高島屋
・協　　賛　カネカ、三井物産、凸版印刷
・協　　力　集英社、ビックカメラ、三井住友銀行、あいおいニッセイ同和損保
・作品件数　123件
・来館者数　239,115人(目標180,000人・達成率132.8%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
　中学生以下無料、＊( )内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
　担当研究員数：3人

　展覧会の内容：
日本で最も有名な絵巻の一つである国宝・鳥獣戯画は、墨線のみで動物や人物たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品で、近年修理を終えた。本展覧会では、鳥獣戯画全4巻と、いま存在が確認できる断簡5幅も展示した。また、鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺に伝わる、鎌倉時代の高僧明恵ゆかりの文化財も合わせて公開した。

講演会等：「鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝」講師：土屋貴裕(平常展調整室研究員)　平成館大講堂　5月2日（土）
「鳥獣人物戯画の修理」講師：岡岩太郎(岡墨光堂代表取締役)・大山昭子(岡墨光堂修復部長)　平成館大講堂　5月16日（土）

リレートーク「鳥獣人物戯画 甲巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「信仰に捧げた若き日の熱誠―国宝 仏眼仏母像と明恵上人―」講師：大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)　平成館大講堂　5月1日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 乙巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「故郷に残る明恵のおもかげ―仏画と仏像―」講師：大河内智之(和歌山県立博物館主査学芸員) 平成館大講堂　5月8日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 丙巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「華厳海会善知識曼荼羅―明恵上人と華厳教学―」講師：谷口耕生(奈良国立博物館教育室長)　平成館大講堂　5月15日（金）
リレートーク「鳥獣人物戯画 丁巻」講師：土屋貴裕（平常展調整室研究員）／「仏師湛慶と動物彫刻」講師：大淺湫毅(教育講座室長)　平成館大講堂　5月22日（金）

展覧会名：「クレオパトラとエジプトの王妃展」

・会　　期　平成27年 7月11日（土）　～平成27年9月23日（水）（66日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　東京国立博物館、NHK,NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　外務省
・協　　賛　大日本印刷、トヨタ自動車
・協　　力　日本航空、KLMオランダ航空
・作品件数　181件
・来館者数　267,959人(目標180,000人・達成率148.9%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　67%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
絶世の美女として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たちの魅力を、世界各地の名だたる美術館や博物館から古代エジプトの選りすぐりの名品を集めて紹介した。

講演会等：「クレオパトラとエジプトの王妃」講師：クリスティアーヌ・ジェグレール(ルーブル美術館古代エジプト美術部門名誉部長/本展監修者)　平成館大講堂　7月11日（土）
「遺跡に見る古代エジプトの女王・王妃たち：発掘調査の現場から」講師：近藤二郎（早稲田大学文学学術院教授／本展監修者）　平成館大講堂　9月5日（土）

キッズデーリレートーク　古代エジプトの謎ミニ探検「古代エジプトの動物について」講師：品川欣也（特別展室主任研究員）・「比べてみよう！王さまのすがた」講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）・「クレオパトラって誰？」講師：小野塚拓造（特別展室アソシエイトフェロー）　平成館特別展示室　7月27日（月）

クレオパトラウィークギャラリートーク　講師：井上洋一(企画部長)　平成館ラウンジ　8月10日(月)、8月11日(火)、8月12日(水)、8月13日(木)

展覧会名：「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」

・会　　期　平成27年 9月8日（火）　～平成27年11月29日（水）（72日間）
・会　　場　表慶館
・主　　催　東京国立博物館、、ブルガリ、読売新聞社
・後　　援　イタリア大統領府、イタリア首相府、イタリア文化財・文化活動・観光省、イタリア大使館、ローマ市
・作品件数　265件
・来館者数　142,000人(目標35,000人・達成率405.7%)
・入場料金　一般1400円(1200円／1100円)、大学生・高校生800円(600円／500円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　85%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
130年を越える歴史を持つ、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリの回顧展で、ローマの地に1884年に創業したブルガリの、創成期から今日に至るまでの貴重な作品の数々を展示した。

講演会等：なし

展覧会名：特別展「始皇帝と大兵馬俑」

・展覧会名　特別展「始皇帝と大兵馬俑」
・会　　期　平成27年10月27日（火）～平成28年2月21日（日）（94日間）
・会　　場　平成館 特別展示室第1～4室
・主　　催　　東京国立博物館、陝西省文物局、陝西省文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
・後　　援　中国大使館
・協　　賛　野崎印刷紙業
・協　　力　全日本空輸
・作品件数　91件
・来館者数　483,809人(目標230,000人・達成率210.4%)
・入場料金　一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
中学生以下無料、＊（ ）内は前売り／20名以上の団体料金
・アンケート結果　満足度　78%
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
始皇帝の陵墓のほど近くに埋められた兵馬俑は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けている。本展では、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物を一堂に紹介し、始皇帝が空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った。

講演会等：「始皇帝が夢見た『永遠』―兵馬俑と発掘品から読み解く―」講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）　平成館大講堂　10月31日（土）
「銅車馬―始皇帝の乗った車駕―」講師：呉永琪（秦始皇帝陵博物院名誉院長）　平成館大講堂　11月28日（土）

トークイベント「びじゅチューン！ 井上涼×兵馬俑」講師：井上涼（映像作家）・柿沼郭（ＮＨＫアナウンサー）・松嶋雅人（平常展調整室長）・ 川村佳男（平常展調整室主任研究員）　平成館大講堂　11月21日（土）

国際シンポジウム「秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―」
基調講演「秦王朝と兵馬俑の考古学」講師：川村佳男（平常展調整室主任研究員）・報告1「秦鏡と秦人の“破鏡”習俗について」講師：宋遠茹（陝西省考古研究院副研究員）・報告2「秦王朝を駆けた馬」講師：菊地大樹（京都大学人文科学研究所特別研究員）・報告3「秦始皇帝陵および陪葬坑の考古学的新発見」講師：陳洪（秦始皇帝陵博物院副研究館員）　平成館大講堂　12月19日（土）

トークイベント「キングダムからみた兵馬俑の世界」講師：谷豊信（学芸研究部長）　平成館大講堂　1月20日（水）、1月21日（木）、1月22日（金）

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数：270日（名品ギャラリー開館日数：223日、特別展（琳派展）のみ開館日数：39日、庭園のみ開館日数：8日）
②陳列総件数：1,438件

特別展示等　全7件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集陳列	葵祭の美術―千年の伝統―	4月21日～5月31日	11件（重要文化財1件）
特集陳列	日本の仮面　人と神仏、鬼の多彩な表情	6月9日～7月20日	34件（重要文化財11件）
新春特集陳列	さるづくし―干支を楽しむ―	12月15日～28年1月24日	50件（国宝1件、重要文化財6件）
特集陳列	刀剣を楽しむ―名物刀を中心に―	12月15日～28年2月21日	19件（国宝2件、重要文化財8件、重要美術品1件）
特集陳列	獅子と狛犬	12月15日～28年3月13日	11件（重要文化財8件）
特集陳列	皇室ゆかりの名宝	28年1月26日～2月21日	28件（国宝1件、重要文化財11件、重要美術品1件）
特集陳列	雛まつりと人形	28年2月27日～3月21日	28件

③陳列替件数：1,145件

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：特別展覧会「桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち」

・会　　期　27年4月7日～5月17日（37日間）
・会　　場　明治古都館（本館）
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　（公財）京都文化交流コンベンションビューロー
・協　　賛　野崎印刷紙業、大和ハウス工業、大林組
・協　　力　日本香堂
・作品件数　70件（うち国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件）
・来館者数　118,186人（目標来館者数80,000人・達成率147.8%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度94%

講演会等：5回　　参加者数合計 994人
・記念座談会
4月11日　日本美術応援団、桃山時代の狩野派を応援する！！
山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）、井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員３号）、
山本英男（京都国立博物館学芸部上席研究員）
200名参加

・関連土曜講座
4月18日　生き残るか滅びるか、狩野派絵師の華麗なる戦い
京都国立博物館上席研究員　山本英男
200名参加
4月25日　新発見の狩野孝信筆「北野社頭遊楽図屏風」を中心に
同志社大学教授　狩野博幸氏
198名参加
5月2日　桃山時代の異国趣味
京都国立博物館研究員　福士雄也

196名参加
5月9日　早熟の天才、狩野探幽登場
成安造形大学教授　小嵜善通氏
200名参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

展覧会名：特別展観「第100回大蔵会記念　仏法東漸-仏教の典籍と美術-」
・会　　期　27年7月29日～9月6日(35日間)
・会　　場　平成知新館（１Ｆ２～６展示室）
・主　　催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
・作品件数　95件(国宝12件、重要文化財36件、重要美術品4件)
・来館者数　34,696人(目標来館者数31,000人・達成率111.9%)
・入場料金　一般520円、大学生260円

講演会等：3回　参加者数合計411人
・関連土曜講座
8月8日　京都大蔵会-その意義と役割-
佛教大学教授　松永知海氏
107名参加
9月5日　仏法東漸の道のり-大蔵経の成立と変遷-
花園大学教授　中尾良信氏
197名参加

・記念シンポジウム
8月29日　「仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり」
基調講演　司会：鈴木昌也(仏教大学)
講師：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)
座談会　司会：宮崎健司(大谷大学教授)
パネリスト：赤尾栄慶(京都国立博物館名誉館員)、大原嘉豊(京都国立博物館保存修理指導室長)
中尾良信(花園大学文学部教授)、松永知海(佛教大学仏教学部教授)
107名参加

展覧会名：特別展覧会「琳派誕生 400 年記念　琳派　京（みやこ）を彩る」
・会　　期　27年10月10日～11月23日（39日間）
・会　　場　平成知新館　1F彫刻展示室を除く全室
・主　　催　京都国立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪、BSジャパン、京都新聞
・協　　賛　京都銀行、京都美術工芸大学、JR東海、日本写真印刷、パナソニック、ワコール
・協　　力　岩谷産業、オムロン、日本香堂
・作品件数　175件（うち国宝5件、重要文化財36件）
・来館者数　327,925人　目標来館者数120,000人・達成率273.2%）
・入場料金　一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
・アンケート結果　満足度 84%

講演会等：7回　　参加者数合計1,115人
・記念講演会
10月10日　くらしを彩る琳派の美
京都美術工芸大学学長　河野元昭氏
200名参加
・ミュージアムズ・フォー関連フォーラム
10月17日　琳派を飾る一展覧会から見えるもの一
123名参加
・国際シンポジウム
11 月 3 日　琳派 400 年記念国際シンポジウム「琳派この一作～私の見方・楽しみ方～」
井浦新氏（俳優・京都国立博物館文化大使・日本美術応援団団員３号）、クリストフ・マルケ氏（日仏会館・フランス日本研究センター所長）、ジョン・カーペンター氏（メトロポリタン美術館日本美術キュレーター）、辻維雄氏（MIHO MUSEUM 館長）、山下裕二氏（明治学院大学教授・日本美術応援団団長）
200 名参加

・関連土曜講座
10月24日　「光悦の作陶一自在な発送と造形一」
京都国立博物館研究員　降矢哲男
114名参加
10月31日　「「琳派」の継承と広がり」
京都国立博物館研究員　福士雄也
109名参加
11月7日　「風神雷神図屏風の転生」
大和文華館学芸部長　中部義隆氏
200名参加
11月14日　「宗達の目の記憶」
大阪大学大学院文学研究科教授　奥平俊六氏
169名参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞、ラジオ、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：207日)

②陳列件数：620件

名品展

珠玉の仏教美術(西新館)　376件
特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）　7件
中国古代青銅器(青銅器館)　237件

特別陳列等　全5件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	名匠三代－木内喜八・半古・省古の木工芸－	6月2日～6月28日	27件
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術	12月8日～28年1月17日	51件（国宝3件、重要文化財5件）
特集展示	新たに修理された文化財	12月22日～28年1月17日	7件
特別陳列	お水取り	28年2月6日～3月14日	65件（重要文化財17件）
特別陳列	銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術	28年2月6日～3月14日	26件（重要文化財5件）

③陳列替件数：286件

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展 」

・会　　期　27年4月7日(火)～5月17日(日)（36日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館第一室
・主　　催　奈良国立博物館
・後　　援　文化庁、ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送
・協　　力　日本香堂、仏教美術協会
・作品件数　67件（うち国宝13件、重要文化財16件）
・来館者数　10,561人(目標25,000人・達成率42.2%)
・観覧料金　一般1,200円、高校・大学生800円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度84%
・公開講座：3回　参加者数合計　274人
　4月18日(土)「見返絵のある久能寺経について」梶谷亮治（名誉館員）/ 参加者数　87人
　4月25日(土)「平安時代の大般若経書写―安倍小水麻呂願経を中心に―」野尻 忠（企画室長）/ 参加者数　85人
　5月 9日(土)「久能寺経と一品経」松原 茂（根津美術館理事長・学芸部長）/ 参加者数　102人
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：開館１２０年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」

・会　　期　27年7月18日（火）～9月23日（水・祝）（60日間）
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞、ＮＨＫ奈良放送局、NHKプラネット近畿
・後　　援　文化庁、奈良県、奈良テレビ放送
・協　　賛　関西大学、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム、天理時報社、非破壊検査
・協　　力　日本香堂、仏教美術教会
・作品件数　148件（うち国宝16件、重要文化財72件）
・来館者数　128,901人(目標50,000人・達成率257.8%)
・観覧料金　一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
・アンケート結果　満足度85%
・公開講座：4回　　参加者数合計　769人
　8月 8日(土)「天武・持統天皇の理想の都－藤原宮と新益京－」木下正史（東京学芸大学名誉教授）/ 参加者数　194人
　8月22日(土)「東アジアのなかの白鳳仏」藤岡 穣（大阪大学大学院教授）/ 参加者数　194人
　9月 5日(土)「白鳳寺院を飾った工芸」内藤 栄（学芸部長）/ 参加者数　194人
　9月19日(土)「白鳳の童形仏とその周辺」岩田 茂樹（上席研究員）/ 参加者数　187人
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：「第67回正倉院展」

・会　　期　27年10月24日(土)～11月9日(月)(17日間)
・会　　場　奈良国立博物館　東新館・西新館
・主　　催　奈良国立博物館
・特別協力　読売新聞社
・協　　賛　岩谷産業、ＮＴＴ西日本、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管
・協　　力　ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
・作品件数　63件
・来館者数　221,189人(目標180,000人・達成率122.9%)

・観覧料金　一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
・アンケート結果　満足度69%
・公開講座：3回　　参加者数合計　435人
　10月31日(土)　「王朝びとの年中行事－文学と絵画をめぐって－」冷泉　為人（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長）/ 参加者数　163人
　11月 3日(火･祝)「正倉院の仏具とその収納箱」清水　健（工芸考古室長）/ 参加者数　110人
　11月 7日(土)　「奈良時代の衣服」田中陽子（宮内庁正倉院事務所保存課整理室長）/ 参加者数　162人
・シンポジウム：1回　参加者数　196人
　11月 1日(日)　古典の日記念　正倉院学術シンポジウム2015「正倉院と奈良国立博物館～120年のあゆみ」
　第１部　研究発表　「正倉院宝物に学ぶ北村家三代の漆工芸」北村昭斎（漆芸家）、「奈良国立博物館と正倉院展の伝統」湯山賢一（館長）、「奈良国立博物館と正倉院展の伝統 Part.2」杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）、「森鷗外と正倉院」田良島 哲（東京国立博物館博物館情報課長）
　第２部　パネルディスカッション　北村昭斎、湯山賢一、杉本一樹、田良島 哲
・広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、駅構内看板、テレビ特集番組等

(3)海外展

展覧会名：2015年 韓日修交50周年記念特別展「日本の古墳文化」
・会　　期　27年12月22日(火)～28年2月21日(日)(52日間)
・会　　場　韓国・国立慶州博物館 特別展示館
・主　　催　韓国・国立慶州博物館
・特別協力　奈良国立博物館
・作品件数　142件
・来館者数　87,662人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数：314 日(うち平常展のみ開館日数 131 日)
②陳列替件数：1,513 件
③陳列総件数：2,628 件(うち国宝 72 件　重要文化財 218 件)
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤トピック展示・特別公開等　全 8 件

展示名称	トピック展示　柿右衛門－受け継がれる技と美－				
開催期間	27 年 3 月 3 日(火)～ 5 月 10 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室、基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	18 件（うち重文 1 件、重美 1 件）
内容	十四代酒井田柿右衛門の功績を偲ぶとともに、歴代柿右衛門の名品の展示を通じて、柿右衛門窯が継承する伝統の技と美に注目した。				

展示名称	国宝「西光寺梵鐘」				
開催期間	27 年 5 月 12 日(火)～ 8 月 16 日(日)	開催場所	文化交流展示室 中央	陳列件数（うち指定品件数）	1 件（うち国宝 1 件）
内容	承和 6 年（839 年）に制作された狐峯山西光寺（福岡市早良区）が所蔵する梵鐘を、昨年に引き続き紹介した。				

展示名称	特別公開　中世刀剣の美　－ふくやま美術館寄託「小松コレクション」と九博の名刀－				
開催期間	27 年 5 月 19 日(火)～ 6 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 9 室	陳列件数（うち指定品件数）	14 件（うち国宝 8 件、重文 5 件）
内容	九州ゆかりの「左文字」のほか、刀剣の産地として最もよく知られた山城や備前の名刀や所蔵品の名刀を公開した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念・「推定客館跡」特別史跡大宰府跡追加指定記念トピック展示　新羅王子がみた大宰府				
開催期間	27 年 9 月 22 日(火)～ 11 月 29 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち指定品件数）	31 件（うち重文 1 件）
内容	天平勝宝四年に来日した新羅王子・金泰廉の足跡を、大宰府で出土した新羅と縁のある品々の展示を通じて紹介した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念特別公開　田中丸コレクションの茶陶				
開催期間	27 年 10 月 14 日(水)～ 12 月 20 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 10 室	陳列件数（うち指定品件数）	31 件（うち重文 2 件）
内容	田中丸善八氏が収集した九州陶磁コレクションのうち、茶陶の名品約 30 点を紹介した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念新春展示　太宰府天満宮の地宝				
開催期間	28 年 1 月 1 日(金・祝日)～ 2 月 28 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち指定品件数）	29 件（うち重文 1 件）
内容	九州国立博物館が築かれた地である太宰府に着目し、太宰府天満宮ゆかりの考古資料や関連資料を紹介した。				

展示名称	新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」				
開催期間	28 年 1 月 1 日(金・祝日) ～ 1 月 24 日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	2 件（うち国宝 2 件）
内容	恒例企画。徳川美術館が所蔵する国宝「初音の調度」を公開した。				

展示名称	九州国立博物館開館 10 周年記念トピック展示　祈りのかたち　八幡				
開催期間	28 年 2 月 2 日(火)～ 3 月 13 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 11 室、基本展示室Ｖテーマ	陳列件数（うち指定品件数）	33 件（うち国宝 2 件、重文 8 件）
内容	大分・宇佐地方に生まれ育まれた八幡神に焦点をあて、その信仰の在り様を伝える歴史資料や絵画を紹介した。				

(2)特別展・共催展等

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」

・会　　期　27 年 4 月 21 日(火)～5 月 31 日(日) (37 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　122 件(うち、国宝 6 件、重要文化財 36 件、重要美術品２件)
・来館者数　77,455 人(目標来館者数 50,000 人・達成率 154%)
・入場料金　一般 1,400 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円
・アンケート結果　満足度　88%
・講演会等：　7回　参加者合計　783人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
4月25日	特別講演会「戦国・織豊期の九州とアジア」 「戦国の九州とアジア―大内義隆から大友宗麟へ―」 「豊臣秀吉と九州の諸大名―黒田長政・立花宗茂を中心に―」	九州大学准教授　伊藤幸司 九州大学教授　中野等	289人

・記念シンポジウム

期日	講演会名	所属・講師	参加者
5月1日	しっとこ九博！「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」解説講座（筑紫野市）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	59人
5月2日	記念シンポジウム「戦国武将のデザイン」 基調講演：「九州近世大名道具にみる意匠と機能」 個別報告：「大友家」 「黒田家」 「鍋島家」 「松浦家」	立花家史料館館長　植野かおり 大分市美術館参事　長田弘通 福岡市博物館学芸員　宮野弘樹 鍋島報效会学芸員　富田純次 松浦史料博物館学芸員　久家孝史	200人

・講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
5月9日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「九州の群雄とアジアの波涛」	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	90人
5月13日	開館10周年記念特別展「戦国大名」関連　講演会「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」（公益財団法人　九州経済調査協会）	文化財課資料登録室主任研究員　荒木和憲	25人
5月16日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「桃山の南蛮美術」 「九州大名の肖像画と賛」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子 展示課展示調整室研究員　一瀬智	60人
5月23日	リレー講座「よく分かる！戦国大名展」 「貿易都市の考古学」 「戦国九州の刀剣」	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 文化財課資料登録室アソシエイトフェロー　望月規史	60人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
4月14日～ 5月31日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」 関連香椎工業高校製作鎧兜展示	155,690人
4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連手作り甲冑試着イベント	120人
4月26日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連イベント火縄銃演武	950人
4月29日	ウオーキングツアー　歴史学者と行く！岩屋城探訪	雨天中止
5月3日	きゅーはくミュージアムコン-サート 開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」関連企画 墨絵アーティスト西元祐貴によるライブペイント	350人
5月5日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 ワークショップ「手作り兜を作ろう！」	409人
5月10日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「戦国大名展」記念　「さいふごま大会」	69人
5月17日	開館10周年記念特別展「戦国大名」開催に伴う熊本県観光ＰＲ　くまモン・うとん行長しゃん・熊本城おもてなし武将隊ステージ	1,500人
5月30日	開館10周年記念特別展「戦国大名　九州の群雄とアジアの波涛」関連 留学生シークレットイベント	11人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「大英博物館展―100 のモノが語る世界の歴史― A History of the World in 100 Objects」

・会　　期　27 年 7 月 14 日(火)～9 月 6 日(日)(47 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、大英博物館、朝日新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
・作品件数　101 件
・来館者数　133,174 人(目標来館者数　70,000 人、達成率 190%)
・入場料金　一般　1,600 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
・アンケート結果　満足度　81%
・講演会等：　5回　参加者 合計 591人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月14日	大英博物館キュレーターによる記念講演会 「大英博物館展の楽しみ方」	大英博物館　本展覧会担当キュレーター ベリンダ・クレラー	201人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
7月17日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連 しっとこ九博！「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」解説講座（筑紫野市）	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	58人
7月19日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 ウルってなぁに？～大洪水と王墓のグローバルヒストリー～	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	200人
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連講演会 影絵人形ワヤンのみかた	元当館主任研究員　池内一誠	110人
8月4日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連　講演会	企画課長兼文化交流展室長　河野一隆	22人

	「大英博物館展―100のモノが語る日本の歴史―」 （公益財団法人　九州経済調査協会）	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	

・イベント等

期日	イベント名	参加者
7月14日～7月26日	ロンドンバスが九州国立博物館にやって来る！	－
7月18日、7月19日 8月28日	夜の博物館へ行こう！九博ナイトミュージアム	246人
8月1日	アフタヌーンティーと楽しむ大英博物館展	26人
8月2日	開館10周年記念特別展「大英博物館展」関連イベント平成27年度　留学生スペシャルイベント	8人
8月19日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「大英博物館展」記念　「さいふごま大会」	50人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「美の国　日本」

・会　　期　27 年 10 月 18 日(日)～11 月 29 日(日)　(40 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州、ＴＮＣテレビ西日本、ＴＶＱ九州放送
・作品件数　95 件(うち、国宝　33 件、重要文化財　29 件)
・来館者数　160,753 人(目標来館者数 150,000 人)
・入場料金　一般　1,600 円、高大生　1,000 円、小中生　600 円
・アンケート結果　満足度 89%
・講演会等：　6回　参加者合計　769人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
10月24日	開館10周年記念特別展「美の国日本展」関連記念講演会 「正倉院あぜくら通信　九州版」	宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹	220人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
9月5日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 アクロス文化学び塾（プレ講座）「『美の国　日本』のみどころ」	展示課長　楠井隆志	69人
10月23日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連 しっとこ九博！「美の国　日本」解説講座（筑紫野市）	展示課長　楠井隆志	50人
10月31日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連講演会 「美の国　日本 - 書の魅力 - 」	館長　島谷弘幸	200人
11日1日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美の国　日本」 「美の国の工芸」	展示課長　楠井隆志 文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	150人
11月15日	開館10周年記念特別展「美の国　日本」関連　リレー講座 「美しき仏画の世界」 「南海の宝石　琉球王国」	企画課研究員　森實久美子 企画課特別展室長　原田あゆみ	80人

・イベント等

期日	イベント名	参加者
9月4日	プレイベント　開講！博多華丸・大吉と学ぶ「美の国塾」	238人
11月23日	九州国立博物館杯　開館10周年記念特別展「美の国　日本展」記念　「さいふごま大会」	100人

展覧会名：開館 10 周年記念特別展「黄金のアフガニスタンー守りぬかれたシルクロードの秘宝ー」

・会　　期　28 年 1 月 1 日(木・祝)～2 月 14 日(日)　(42 日間)
・会　　場　九州国立博物館　特別展示室
・主　　催　九州国立博物館・福岡県、アフガニスタン・イスラム共和国情報文化省、TNC テレビ西日本、西日本新聞社
・特別協力　文化庁、東京文化財研究所、文化財保護・芸術研究助成財団、日本・アフガニスタン協会、太宰府天満宮
・作品件数　248 件
・来館者数　67,641 人(目標来館者数 40,000 人・達成率 169%)
・入場料金　一般　1,400 円、高大生　900 円、小中生　500 円
・アンケート結果　満足度94%
・講演会等：　5回　参加者合計784人

・記念講演会

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月16日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」 特別講演会「心魅せるティリヤ・テペ」	アフガニスタン文化研究所長　前田耕作	170人

・講座等

期日	講演会名	所属・講師	参加者
1月9日	アフガニスタンに生命の水を	ペシャワール会現地代表　中村哲	280人
1月15日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」 しっとこ九博！「「黄金のアフガニスタン　守りぬかれたシルクロードの秘宝」解説講座（筑紫野市）	学芸部長　小泉惠英	44人
1月30日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連　リレー講座 『知られざる古代都市の秘宝』 「黄金の丘―ティリヤ・テペ」 「さまよえる黄金―ユーラシア・遊牧民の王墓」	展示課展示調整室主任研究員　岸本圭 企画課長兼文化交流展室長　　河野一隆	150人
1月31日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連		140人

	リレー講座『知られざる古代都市の秘宝』 「アイ・ハヌムーアレクサンドロス大王が造った都市」 「ベグラムー東西文化の宝箱」	 学芸部長　小泉惠英 特任研究員　臺信祐爾	

・イベント等

期日	イベント名	参加者
1月1日～1月24日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 ペシャワール会　現地報告写真展～人・水・命　30年のあゆみ～	67,022人
1月11日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」関連 オリエンタル・ベリーダンスショー	280人
2月7日	開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン」記念　九州国立博物館杯さいふごま大会	30人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

開館日数：307日（平常展のみの開館日数：119日）　陳列件数：656件　陳列替回数：1回
平常展のみの来館者数：50,064人
入場料金：無料

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：夏期企画展「平城京ごみずかん」
会　期：27年7月11日(土)～9月23日(日)　(64日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：79件（0件）
来館者数：18,108人
入場料金：無料
講演会等：ギャラリートーク 5回・参加者数合計150人
親子ワークショップ1回・参加者数合計46人

展覧会名：秋期特別展「地下の正倉院展ー造酒司木簡の世界ー」
会　期：27年10月17日(土)～11月29日(日)　(39日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：99件（0件）
来館者数：16,830人
入場料金：無料
講演会等：ギャラリートーク3回・参加者数合計150人

展覧会名：ミニ展示「発掘速報展平城2015」
会　期：Ⅰ期　27年12月5日(土)～28年1月31日(日)　(44日間)
Ⅱ期　28年2月13日(土)～28年3月31日(木)　(41日間)
会　場：平城宮跡資料館　企画展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：28件（0件）
来館者数：20,332人
入場料金：無料

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：360日　陳列件数：32件　陳列替回数：1回
②特集陳列等　4件

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
飛鳥寺出土文字瓦	27年 6月10日～28年 3月31日	平瓦6
182次調査　奈良時代の地鎮具・平安時代の地鎮具	27年 6月10日～28年 3月31日	須恵器蓋杯1、土師器皿18・甕1
183次調査　佐波理鋺	27年 6月10日～28年 3月31日	佐波理鋺1
181-4次調査　檜隈寺瓦窯の調査	27年 6月10日～28年 1月22日	軒丸瓦1、軒平瓦1、窯壁片3
遺物の展示替え	28年 1月22日～28年 3月31日	軒丸瓦1、軒平瓦1、窯壁片2

入場料金：無料
来館者数：10,933人

【飛鳥資料館】

(1)平常展

開館日数：320日（平常展のみの開館日数：135日）　陳列件数：321件　陳列替回数：１回
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
平常展のみの来館者数：12,570人

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期特別展「はじまりの御仏たち」

会　期：27年4月24日(金)～6月21日(日)　(59日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：172件（0件）
来館者数：10,725人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　　参加者数合計　88人

期日	講演会名	講師(所属)
5月9日	「塼仏学研究最前線－奉献から荘厳・三尊から群像へ－」	大脇　潔（近畿大学元教授）

展覧会名：夏期企画展「第6回写真コンテスト「ひさかたの天」応募作品展」

会　期：27年7月28日(火)～9月13日(日)　(41日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
応募点数：181点
来館者数：4,088人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体

展覧会名：秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」

会　期：27年10月9日(金)～11月29日(日)　(52日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：108件（0件）
来館者数：12,862人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体
講演会：1回　　参加者数合計126人

期日	講演会名	講師(所属)
10月31日	「キトラ古墳と天の科学」	高柳雄一（多摩六都科学館長） 中村　士（大東文化大学研究員） 相馬　充（国立天文台助教） 眞木隆志（NHKｺｽﾞﾐｯｸﾌﾛﾝﾄ）

展覧会名：冬期企画展「飛鳥の考古学２０１５－飛鳥の古墳調査最前線－」

会　期：28年1月29日(金)～3月6日(日)　(33日間)
会　場：飛鳥資料館　特別展示室
主　催：奈良文化財研究所
陳列件数（うち指定品数）：223点（0件）
来館者数：2,504人
入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料
※（　）は20名以上の団体

b ボランティア受入れ実績

1 受入人数

平成28年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,029人	173人	214人	157人	352人	133人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計173人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （160人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助 （通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） 【保存修復事業の補助（通年）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：19校 生徒数：60人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（24人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(11冊) ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアー（隔月1回、6回実施） ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用(通年) ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施補助（通年） 【各種連携事業】 ・「留学生の日」(10月10日)内プログラム ボランティアによる茶会、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、英語ガイド実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月29日～10月12日)内プログラム 樹木ツアー、たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成27年4月1日～4月12日、平成28年3月15日～3月31日内プログラム） アートスタジオ、お茶会、庭園茶室ツアー、彫刻ガイド、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、浮世絵ガイド、東洋館ツアー、英語ガイド、陶磁ガイド、近代の美術ガイド 【ボランティアデー開催】 ・新規ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、各ガイドツアー、お茶会、ワークショップの実施（12月5・6日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施391回14,522人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー 30回673人参加 ・浮世絵ガイド 33回1,568人 ・本館ハイライトツアー 55回3,081人 ・法隆寺宝物館ガイド 13回598人 ・考古展示室ガイド 30回1,152人 ・陶磁ガイド 24回711人 ・庭園茶室ツアー 20回316人 ・お茶会 27回473人 ・彫刻ガイド 33回1,220人 ・英語ガイド 22回843人（留学生の日の定点ガイド含む）

種別　(登録人数)	概　　要
	・こどもたちのアートスタジオ　9回242人 ・たてもの散歩ツアー　32回1,287人 ・近代美術ガイド　19回691人 ・東洋館ツアー　27回673人 ・刀剣・武士の装いツアー　13回852人 ・ボランティア活動紹介ツアー　4回142人
東京芸術大学大学院インターンシップ (13人)	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】13名 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計51回、1,913人】 「スリリングな仏画『二河白道図』」4回、115人 「アンコール時代の建築装飾」4回、122人 「『砧蒔絵硯箱』を読む」4回、165人 「青木繁、最後の神話画『日本武尊』」4回、167人 「鈴木長吉『鷲置物』」4回、111人 「着物からみる江戸時代の女性のファッション」4回、185人 「五感で感じる！道成寺『毘沙門天立像』」4回、212人 「藍涛の『玉堂富貴図』」4回、143人 「『厭図屏風』の表現について」　4回、130人 「前田青邨の目に映った中国石仏」4回、161人 「『七宝饕餮文卣』にみる清工芸の精華」4回、109人 「清時代の玉器」3回、119人 「刀装にみる鎌倉時代の飾りの意識」4回、174人 【調査研究班】0名 平成27年度は実施無し。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「2(2)③大学との連携」の事業である。詳細は処理番号2231を参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計45回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・活動紹介ツアー研修　6回
- ・バリアフリー班研修　5回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　5回
- ・スクールプログラム班研修　6回
- ・保存修復班研修　1回
- ・各種自主企画グループ研修　17回
- ・防災訓練　1回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施)　計2回
- ・特別展「クレオパトラと王妃」1回
- ・特別展「始皇帝と大兵馬俑」1回

【京都国立博物館】　計214人

種　別　(登録人数)	概　　要
京博ナビゲーター（151人）	平成26年度より活動開始した京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く開館日毎日） ・特別展覧会「琳派―京を彩る―」関連ミニワークショップ「琳派デザインに挑戦！」（39日） ・教育普及活動の補助（夏期講座・少年少女博物館くらぶ・大人の博物館くらぶ） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（12回）、感謝会（1回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(26人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(19人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生のボランティアが、当館研究員によるスクーリングを受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。 6月9日（大枝中学校）、7月9日（下鳥羽小学校）、9月4日（柏野小学校）、10月6日（開睛中学校）、10月30日（立衣笠中学校）、11月18日（小栗栖宮山小学校）、12月7日（南太秦小学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア (18人)	年4回当館主催で開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計157人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ（53人）	【世界遺産学習】 小学生の受入れ　37校　2,440名 【学校団体案内】 ・幼稚園、中学生、高校生（外国人含む）　8校　390名 【イベントの補助】 ・水煙チョコ鋳造体験「白鳳時代の笛吹き童子を作って見よう♪」受付と補助　1回 ・特別展・白鳳「親子鑑賞会」事前準備（袋詰め作業）　1回 受付と補助　1回

	・奈良市消防局共催「夏休み親子講座　守ろう！知ろう！文化財」　事前準備（資料作成等）　２回 受付と補助　1回 ・スライド作成の検討会　2回 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　2回
解説グループ(63人)	【通年の活動】 ・青銅器館のデスクでの質問対応と解説　　281日 ・地下回廊・パネル展示のデスクでの質問対応と解説　149日 ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　148日 【展示案内】 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」の質問対応（12月8日～1月17日）30日　66名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣質問対応（2月6日～3月14日）　35日　89名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣ミニ・ツアー解説（3月1日～3月14日）　14日　84名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣奈良交通関係団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）13日　42名（活動数） ・特別陳列｢お水取り｣上記以外の団体予約のツアー解説（3月1日～3月14日）　４件 【その他、予約による解説実施】　３件 【中学生職場体験　館内案内】　４件 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　3回
サポートグループ（41人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　13回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・親と子のワークショップ「消しゴムはんこでほとけさまを彫ってみよう！」受付と補助　1回 ・特別展「白鳳-花ひらく仏教美術-」関連イベント白鳳ファーラム　受付と補助　1回 ・夏休み親と子のワークショップ「ほとけさまの切り絵をつくろう！」受付と補助　1回 ・奈良国立博物館文化大使｢笑い飯 哲夫のおもしろ仏教講座｣受付と補助　1回 ・第67回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・｢文化財保存修理所特別公開｣受付と補助　1回 ・お水取り｢講話｣と「粥」の会　受付と補助　1回 ・｢仏像を撮ってみよう！｣受付と補助　1回 【イベントの案内】 ・白鳳展展覧会＆「あなたの知らない奈良博探訪」受付と案内　1回 ・奈良国立博物館プレミアム･ミュージアムビューイング　受付と案内　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・27年度ボランティア発足式　受付と補助　2回 ・夏季講座の配布資料袋詰め作業　2回 ・第67回正倉院展親子鑑賞会の資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　26回 【他施設ボランティアとの交流】 ・三井ボランティアネットワーク事業団との交流会　案内と交流　1回 ・他施設との交流会の打合せ会議　1回 ・「施設ボランティア交流会」案内、活動報告､意見交換等の交流　1回 【掃除】 ・スタッフルーム　　2回 【交流チームの活動】 ・社寺旧跡等の見学会の実施　4回　217名（参加） ・他施設ボランティアとの交流会　企画と受付　2回 ・第１回ボランティア親睦会　1回　135名（参加） ・他施設との交流会の打合せ会議　2回 ・信貴山見学会（4月予定）の下見　1回　10名 【庭園チームの活動】 ・庭園茶室無料開放の質問対応と案内（6月30日～７月16日）15日間　35名（活動数） ・茶室庭園ツアーの立案と実施　2日 ・ボランティアのための茶室見学会｢八窓庵をのぞいてみませんか？｣の補助　1日 ・茶室庭園と仏教美術資料研究センターの定点解説　2日 【通信誌チームの活動】

	・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　3回

【ボランティアに対する研修の実施】　計26回
・名品展研修　17回
・特別展、特別陳列、特集展示の研修　8回
・マナー研修　1回
【グループ別の勉強会の実施】計40回
・世界遺産グループ　　9回
・解説グループ　　19回
・サポートグループ　　12回
【各グループ共通の活動】
・第67回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　92回

【九州国立博物館】　計　352人

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (86人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (37人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (38人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア (94人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド。
環境ボランティア (33人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (6人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (25人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア (24人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）や他部会のボランティアのイベント等の活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (9人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ　31人が障がい者対応として、また博物館周辺の環境整備活動グループとして35人が活動。
（上記35名は、九州国立博物館を愛する会所属のため、ボランティアではない。）
(研修)全体研修　3回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(5,029人)、館内案内(5,029人)、バックヤードツアー(2,488人)

【奈良文化財研究所】　計133人

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア (133人)	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館夏期企画展の展示研修　1回
〃　　秋期特別展の展示研修　1回
講演形式専門研修　　1回
臨地ガイド研修　　1回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
360 人	149 人	83 人	2 人	13 人	51 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	165 人	48 人		117 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進事業		
	40 人		6 人		

【東京国立博物館】延べ83人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Debasish Gayen	インド	コルカタ・インド博物館	特別展「インドの仏」にかかる調査研究および学術交流のため	4月5日～4月13日
2	Badal Mondal	同上	コルカタ・インド博物館	同上	4月25日～5月2日
3	楊　志剛	中国	上海博物館館長	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流および意見交換のため	5月11日～5月14日
4	周　亜	同上	上海博物館青銅部主任	同上	5月11日～5月14日
5	陸　明華	同上	上海博物館陶磁部主任	同上	5月11日～5月14日
6	包　燕麗	同上	上海博物館工芸部主任	同上	5月11日～5月14日
7	周　燕群	同上	上海博物館文化交流弁室主任	同上	5月11日～5月14日
8		アフガニスタン		2016年に日本で開催予定のアフガニスタン展（仮称）の準備に伴う会議と施設の視察のため	5月15日～5月20日
9	Sayan Bhattacharya	インド	コルカタ・インド博物館	特別展「インドの仏」の展示撤収作業および学術交流のため	5月16日～5月24日
10	Satyakam Sen	同上	コルカタ・インド博物館	同上	5月16日～5月24日
11	金　東完	韓国	大韓民国国立中央博物館学芸研究室考古歴史部学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	6月1日～6月14日
12	黄　朋	中国	上海博物館書画研究部副研究館員	東京国立博物館・上海博物館間の学術交流のため	7月21日～7月31日
13	孫　丹妍	同上	上海博物館書画研究部館員	同上	7月21日～7月31日
14	李　仲謀	同上	上海博物館副館長	展覧会協力関係推進のため	9月1日～9月4日
15	李　柏華	同上	上海博物館青銅研究部副研究員	同上	9月1日～9月4日
16	師　若予	同上	上海博物館青銅研究部間館員	同上	9月1日～9月4日
17	張　莉娟	同上	上海博物館陳列設計部館員	同上	9月1日～9月4日
18	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室副研究員	同上	9月1日～9月4日
19	張　正	同上	陝西省文物交流中心項目主管	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」展示準備作業協力のため	10月14日～10月27日
20	劉　江衛	同上	秦始皇帝陵博物院副研究員	同上	10月14日～10月27日
21	閻　紅霞	同上	秦始皇帝陵博物院館員	同上	10月14日～10月27日
22	郭　思瑶	同上	西安碑林博物館	同上	10月14日～10月27日
23	周魁英	同上	陝西省文物局副局長	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」の開幕行事に参加のため	10月25日～10月29日
24	侯寧彬	同上	秦始皇帝陵博物院院長	同上	10月25日～10月29日
25	顔宗岳	同上	漢陽陵博物院副館長	同上	10月25日～10月29日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
26	范桂強	中国	陝西省考古研究院副院長	「特別展　始皇帝と大兵馬俑」の開幕行事に参加のため	10月25日～10月29日
27	譚青枝	同上	陝西省考古研究院副研究員	同上	10月25日～10月29日
28	呉　永琪	同上	秦始皇帝陵博物院名誉院長	学術交流および特別展「始皇帝と大兵馬俑」にかかる講演のため（平成２７年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業）	11月24日～12月5日
29	趙　晶植	韓国	大韓民国国立中央博物館研究企画部学芸員	東京国立博物館・韓国国立中央博物館間の学術交流のため	11月30日～12月13日
30	李　峰	中国	上海博物館副館長	東京国立博物館・上海博物館間の文化交流および協力関係の推進のため	12月6日～12月11日
31	夏　蓓蓓	同上	上海博物館弁公室副主任	同上	12月6日～12月11日
32	徐　立芸	同上	上海博物館文化交流弁公室館員	同上	12月6日～12月11日
33	曾　原	同上	上海市文化事業管理処副処長	同上	12月6日～12月11日
34	劉　筱莉	同上	上海市財政局教科文処主任科員	同上	12月6日～12月11日
35	金　靖之	同上	上海博物館展覧部館員	日中文人絵画の比較研究のため	12月11日～28年12月中旬
36	盛　為人	同上	中国国家博物館蔵品保管一部副主任	中国国家博物館にて開催予定の日中韓国立博物館長会議および関連共同企画特別展覧会の事前打ち合わせのため	12月14日～12月18日
37	意　如	同上	中国国家博物館蔵品保管一部館員	同上	12月14日～12月18日
38	王　蕾	同上	中国国家博物館展覧一部研究館員	同上	12月14日～12月18日
39	陳　慶慶	同上	中国国家博物館展覧一部館員	同上	12月14日～12月18日
40	鄭　燁	同上	中国国家博物館外事処館員	同上	12月14日～12月18日
41	陳　洪	同上	秦始皇帝陵博物院副研究館員	展覧会の学術交流会に参加のため	12月16日～12月20日
42	宋　遠茹	同上	陝西省考古研究院副研究員	同上	12月16日～12月20日
43	張　小麗	同上	西安市文物保護考古研究院副研究館員	同上	12月16日～12月20日
44	時　瑞宝	同上	咸陽市文物鑽探管理処副研究員	同上	12月16日～12月20日
45	呉　来明	同上	上海博物館文物保護中心主任　副研究館員	東京国立博物館・上海博物館間の調査研究および学術交流の推進のため	28年1月11日～1月20日
46	徐　文娟	同上	上海博物館文物保護中心　副研究館員	同上	28年1月11日～1月20日
47	褚　昊	同上	上海博物館文物保護中心　館員	同上	28年1月11日～1月20日
48	黄　瑛	同上	上海博物館文物保護中心　館員	同上	28年1月11日～1月20日
49	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室　副研究館員	同上	28年1月11日～1月20日
50	ジョン・カーペンター	米国	メトロポリタン美術館学芸員	国際シンポジウム参加のため	28年1月28日～2月6日
51	シネード・ヴィルバー	同上	クリーブランド美術館学芸員	同上	28年1月28日～2月5日
52	アイヌラ･ユスーポヴァ	ロシア	プーシキン美術館素描・版画部長	同上	28年1月28日～2月5日
53	ロジーナ･バックランド	英国	スコットランド博物館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月6日
54	カーン・トリン	スイス	リートベルク美術館学芸員(日本美術)	同上	28年1月28日～2月5日
55	メンノ・フィツキ	オランダ	アムステルダム国立美術館学芸員	同上	28年1月28日～2月2日
56	アルフレッド・ハフト	英国	大英博物館学芸員	同上	28年1月28日～2月2日
57	アン･ニシムラ･モース	米国	ボストン美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月1日
58	ロバート・ミンツ	同上	ウォルターズ美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月2日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
59	アン・ローズ・キタガワ	米国	オレゴン大学シュニッツラー美術館主任学芸員	同上	28年1月28日～2月1日
60	サムエル・C.モース	同上	アーモスト大学教授	国際シンポジウム参加のため	28年1月28日～2月1日
61	モニカ・ビンチク	同上	メトロポリタン美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月28日～2月6日
62	森嶋　由紀	同上	サンフランシスコアジア美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月5日
63	ユーピン・チャン	英国	グラスゴー美術館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
64	ダン・コック	オランダ	国立民族学博物館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
65	ヴィブケ・シュラペ	ドイツ	ベルリン東洋美術館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月6日
66	ジョセフィーヌ･ラウト	英国	ヴィクトリア&アルバート博物館アシスタント・キュレーター	同上	28年1月29日～2月5日
67	サマンサ･スプリンガー	米国	ポートランド美術館コンサバター	同上	28年1月29日～2月6日
68	キラ・ヴァゾヴィキナ	ロシア	プーシキン美術館学芸員	同上	28年1月29日～2月6日
69	ドナテッラ･ファイーラ	イタリア	キヨッソーネ東洋美術館館長	同上	28年1月29日～2月6日
70	伏海翔	中国	西安博物院館員	特別展「始皇帝と大兵馬俑」にかかる作品撤収と展示作業のため	28年2月21日～3月15日
71	朱艶玲	同上	陝西省考古研究院補助研究員	同上	28年2月21日～3月15日
72	鄭　寧	同上	秦始皇帝陵博物院館員	同上	28年2月21日～3月15日
73	李　媛	同上	漢陽陵博物館補助館員	同上	28年2月21日～3月15日
74	晏　新志	同上	陝西歴史博物館文物保護協調領導小組副組長　研究館員	東京国立博物館・陝西歴史博物館および京都醍醐寺間の展覧会協力についての実務協議のため	28年2月22日～2月26日
75	梁　彦民	同上	陝西歴史博物館保管部主任　研究館員	同上	28年2月22日～2月26日
76	董　理	同上	陝西歴史博物館陳列部主任　研究館員	同上	28年2月22日～2月26日
77	王　妮	同上	陝西歴史博物館陳列部　副研究員	同上	28年2月22日～2月26日
78	曾　君	同上	故宮博物院書画部主任	東京国立博物館・故宮博物院間の調査研究および学術交流の推進のため	28年3月7日～3月11日
79	付　東光	同上	故宮博物院書画部研究館員	同上	28年3月7日～3月11日
80	孫　峰	同上	上海博物館文化交流弁公室副研究員	特別展「中国における醍醐寺（仮称）」にかかる作品の点検および輸送作業のため	28年3月2日～3月11日
81	李　柏華	同上	上海博物館青銅研究部副研究員	同上	28年3月2日～3月11日
82	龔　辛	同上	上海博物館展覧部館員	同上	28年3月2日～3月11日
83	ローラ・アレン	米国	サンフランシスコアジア美術館学芸員	東京国立博物館所蔵品展に向けての調査のため	28年3月20日～3月27日

【京都国立博物館】　2人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	John T.Carpenter	アメリカ	メトロポリタン美術館・日本美術キュレーター	琳派400年記念国際シンポジウムパネルトーク	11月3日
2	上島　由起子	フランス	フランス国立ギメ東洋美術館	学術交流協定に向けた意見交換、視察、調査他	12月14日

【奈良国立博物館】　延べ　13人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	孫　峰	中国	上海博物館文化交流弁公室副研究員	当館との協定に基づく学術交流	5月10日～5月19日
2	林　宰完	韓国	慶州博物館学芸研究士	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」にかかる出陳品輸送並びに随行のため	7月13日～7月16日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
3	李　栄勲	同上	慶州博物館館長	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」視察並びに当館職員との意見交換のため	7月16日～7月18日
4	呉　世恩	同上	慶州博物館学芸研究士	同上	7月16日～7月18日
5	古　花開	中国	河南博物院信息管理処副処長（副研究員）	当館との協定に基づく学術交流	7月21日～8月19日
6	向　禕	同上	河南博物院副研究員	同上	7月21日～8月19日
7	張　恩晶	韓国	慶州博物館学芸研究官	同上	8月26日～9月25日
8	許　亨旭	同上	慶州博物館学芸研究士	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」にかかる出陳品輸送並びに随行のため	9月23日～9月25日
9	李　栄勲	同上	慶州博物館館長	第67回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月22日～10月24日
10	金　亨俊	同上	慶州博物館行政主事補	同上	10月22日～10月24日
11	陳　傑	中国	上海博物館考古研究部主任　研究館員	両機関における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	11月24日～12月3日
12	王　建文	同上	上海博物館館員	同上	11月24日～12月3日
13	李　在烈	韓国	慶州博物館学芸研究官	両博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	28年3月3日～3月30日

【九州国立博物館】　延べ　51人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
1	文　煥晳	韓国	国立海洋文化財研究所	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	5月26日～30日	九博負担
2	Belinda　Crerar	英国	大英博物館学芸員	展覧会展示	7月10日～15日	他機関負担
3	Neal　Spencer	同上	大英博物館 古代エジプト・スーダン部長	同上	7月13日	他機関負担
4	Emma　Kelly	同上	大英博物館国際巡回展 部門長	同上	7月13日	他機関負担
5	Nicole Coolidge Rousmaniere	同上	大英博物館アジア部 日本セクション学芸員	同上	7月13日	他機関負担
6	パノムブート・ チャンドラチョート	タイ王国	芸術局博物館事務局長	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	9月22日～9月26日	九博負担
7	ワッチャラワディー・ ウィチェンシー	同上	芸術局文化財 登録収蔵情報課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
8	スティサック・ アルンシー	同上	芸術局展示デザイン課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
9	タナコーン・ カムサップ	同上	芸術局建築部建築保存課長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
10	ウィパラット・プラディットアーチープ	同上	芸術局学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
11	カナッサモン・カムタ	同上	芸術局文化財 登録収蔵情報課学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
12	タッチャソーン・ タンティウォン	同上	バンコク国立博物館学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
13	シリオン・ オンサップ	同上	芸術局国際交流事務官	同上	9月22日～9月26日	九博負担
14	スラポン・ナラポン	同上	芸術局展示デザイン課 アカデミック芸術家	同上	9月22日～9月26日	九博負担
15	サリサー・ チンタウォン	同上	チャオサームプラヤー 国立博物館長	同上	9月22日～9月26日	九博負担
16	ナルーエモン・ カオンエーン	同上	サワンアワーラナーヨック 国立博物館主任学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
17	ベンチャワン・ ポンプラスート	同上	ハリプンチャイ国立博物館 主任学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
18	タニカン・ ウォーラタンマノン	同上	チェンマイ国立博物館 学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
19	パッタマー・コートン	同上	国立美術館学芸員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
20	ナラチャイ・セーウーン	同上	芸術局保存科学研究員	同上	9月22日～9月26日	九博負担
21	趙　炫来	韓国	国立中央博物館 企画運営団長	開館10周年記念式典および館長サミット 出席	10月16日～19日	九博負担
22	金　恩珍	同上	国立中央博物館文化交流広報課　主務官	同上	10月16日～19日	九博負担
23	具　一會	同上	国立扶餘博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
24	金　善英	同上	国立扶餘博物館学芸員	同上	10月16日～19日	九博負担
25	金　鍾萬	同上	国立公州博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
26	金　容男	同上	国立公州博物館 企画運営課長	同上	10月16日～19日	九博負担
27	金　載悦	同上	韓国伝統文化大学校総長	同上	10月16日～19日	九博負担
28	姜　大一	同上	韓国伝統文化大学校 保存科学科教授	同上	10月16日～19日	九博負担
29	王　軍	中国	中国文物交流中心主任	同上	10月16日～19日	九博負担

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間	備考
30	張　威	同上	国家文物局水下文化遺産保護中心副主任	同上	10月16日～19日	九博負担
31	塔　拉	同上	内蒙古博物院長	同上	10月16日～19日	九博負担
32	呉　瑋瑛	同上	内蒙古博物院館員	同上	10月16日～19日	九博負担
33	Nguyen Van Cuong	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館長	同上	10月16日～19日	九博負担
34	Nguyen Quoc Binh	同上	ベトナム国立歴史博物館展示部長	同上	10月16日～19日	九博負担
35	Sahabhum Bhumtitterat	タイ王国	タイ王国文化省芸術副局長	同上	10月16日～19日	九博負担
36	Disapong Netlomwong	同上	タイ王国文化省芸術局学芸員	同上	10月16日～19日	九博負担
37	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute	基盤（A)「彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討」に係る調査	12月3日～8日	一部九博負担
38		アフガニスタン		特別展「黄金のアフガニスタン」開会式	12月19日～27日	一部九博負担
39		同上		特別展「黄金のアフガニスタン」展示に係る指導・助言	28年1月25日～26日	九博負担
40	セス・ヴァントゥヴェーン	オランダ	オランダ教育・文化・科学省文化遺産局・局長	文化庁　平成２７年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業	2月15日～21日	他機関負担
41	塔　拉	中国	内蒙古博物院長	基盤研究（B）「契丹壁画墓の集成と公開」に係るシンポジウム	2月26日～29日	九博負担
42	杜暁黎	同上	内蒙古博物院研究員	同上	2月26日～29日	九博負担
43	Saneh MAHAPHOL	タイ王国	芸術局保存修復部長	科学研究費（基盤研究（B）研究代表者：原田あゆみ）	3月9日～15日	九博負担
44	Sopit Panyakhan	同上	芸術局保存修復部職員	同上	3月9日～15日	九博負担
45	SomchaiNA NAKHONPHANOM	同上	芸術局上席研究員	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	3月10日～15日	九博負担
46	Patcharin SUKPRAMOOL	同上	芸術局課長	同上	3月10日～15日	九博負担
47	Disapong　NETLOMWONG	同上	芸術局主任研究員	同上	3月10日～15日	九博負担
48	Wiparat PRADITARCHIP	同上	芸術局主任学芸員	同上	3月10日～15日	九博負担
49	Poonsri JEABKAEW	同上	芸術局学芸員	同上	3月10日～15日	九博負担
50	李　理	中国	瀋陽故宮博物院副院長	展覧会に係る協議	3月21日～25日	九博負担
51	張恩雨	同上	瀋陽故宮博物院展示部主任	同上	3月21日～25日	九博負担

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　48人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Paul Whitmore	アメリカ	イェール大学 文化遺産保存機構	保存修復技術に係る研究交流	6月4日
2	Ampol Summavuti	タイ	文化省芸術局 伝統芸術部門主任芸術研究振興担当	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
3	Phramaha Anulak Prapavadee	タイ	ラチャプラディット寺院 教育担当官、王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所秘書	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
4	Phrakhrusamu Decho Samreaj	タイ	ラチャプラディット寺院 王室後援ラチャプラディットサティマハシマラム寺院修理事業事務所職員	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
5	Phrakhruthammathon Wiwat Puangkerd	タイ	ラチャプラディット寺院 公的扶助担当官	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
6	Sookprasong Weerasri	タイ	ラチャプラディット寺院 職員	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
7	Wattana Jirasagultha	タイ	ラチャプラディット寺院 所属写真家	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
8	Suwiwan Euasookkul	タイ	TPA School AS 所属通訳	ラチャプラディット寺院の螺鈿扉修復計画策定のための調査研究	7月23日～7月29日
9	Htun Htun Win	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局バガン支局　技官	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
10	Myo Sandar Oo	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局ネピドー支局　課長補佐	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
11	Nay Yi Yi	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局インワ支局　技官	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
12	Nyo Myint Tun	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局マンダレー支局　支局長	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
13	Thein Lwin	ミャンマー	文化省考古・国立博物館　副局長	ミャンマーの歴史的建造物の保存に関する専門家のための研修への参加	7月29日～8月6日
14	Beate Murr	オーストリア	オーストリア応用美術博物館 保存修復部副室長・紙保存修復部室長	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
15	Elisa Maria Coelho Barros	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
16	Stephanie Dianne Baily	オーストラリア	西オーストラリア州立美術館 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
17	Idelette Madelon Van Leeuwen	オランダ	アムステルダム国立美術館 紙保存修復技術室長	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
18	Natalia Seregina	ロシア	国立A.S.プーシキン造形美術館 紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
19	Julia Elise Poirier	アイルランド	チェスター・ビーティ図書館 本・紙保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
20	Nilanthi Pushpalatha Karanachcharige	スリランカ	文化省公文書部門 文書修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
21	Ioan Paul Colta	ルーマニア	アラド県立博物館 絵画保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
22	Morgan Boyd Zinsmeister	アメリカ	アメリカ国立公文書館 主任保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
23	Marcia Valeria De Souz	ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学国立博物館 保存修復技術者	国際研修「紙の保存と修復」2015	8月30日～9月19日
24	武　發思	中国	敦煌研究員保護研究所 副研究館員	中国壁画の保護に関する日中共同研究	11月10日～11月28日
25	Le Thi Lien	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学研究所 上席研究員	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月18日
26	Hubertus Sadirin	インドネシア	ジャカルタ首都特別州知事の文化財に関する諮問専門委員会 保存技術者・技術指導官	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月18日
27	H.E. SUM Map	カンボジア	カンボジア政府アンコール地域保存整備機構 アンコール公園内遺跡保存及び予防考古学局・考古室長	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
28	Vasu Poshyanandana	タイ	文化省考古・国立博物館局 副局長	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
29	Thein Lwin	ミャンマー	文科省芸術局 建造物課主任建築家	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会への参加	11月12日～11月15日
30	Ly Vanna	カンボジア	APSARA機構アンコール公園内遺跡保存課・課長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
31	Harry Widianto	インドネシア	教育文化省文化遺産保護・博物館局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
32	Viengkeo Souksavatdy	ラオス	情報・文化・観光省遺産局・副局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
33	Khalid Bin Syed Ali	マレーシア	観光・文化省国家遺産局遺産執行課・課長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
34	Kyaw Oo Lwin	ミャンマー	文化省考古・国立博物館局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
35	Miran Ted Torralba	フィリピン	フィリピンカトリック司教会議、教会文化遺産常設委員会・幹事	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
36	Wee Mei Yin Jean	シンガポール	国家遺産委員会史跡・記念物保護部・部長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
37	Vira Rojpojchanarat	タイ	文化省・大臣	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
38	Borvornvate Rungrujee	タイ	文化省芸術局・局長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月11日～12月15日
39	Bui Chi Hoang	ベトナム	ベトナム社会科学院南部社会科学研究所・所長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
40	Shao Yong	中国	ユネスコ・アジア太平洋地域世界遺産研修研究センター（上海センター）・代表	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
41	Yu Jaeeun	韓国	国立文化財研究所・復原技術研究室長	文化遺産国際協力コンソーシアムフォーラム講演	12月12日～12月15日
42		アフガニスタン		研究会「危機の中の文化遺産」講演	28年1月22日～1月28日
43	Haider Abdollwashed Oraibi Almamori	イラク	文化省　考古遺産庁 調査発掘部　部長	研究会「危機の中の文化遺産」講演	28年1月23日～1月26日
44	Rorl Hoehmann	ドイツ	産業考古学 事務所長	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	28年1月9日～1月17日
45	Bhesh Narayan Dahal	ネパール	文化・観光・航空省考古局 局長	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月9日
46	Saraswati Singh	ネパール	ハヌマンドカ・ダルバード博物館開発委員会執行ディレクター	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月8日
47	Nabha Basnyat Thapa	ネパール	UNESCOカトマンズ事務所 プロジェクトコーディネーター	「ネパールの被災文化遺産」セミナーへの参加	28年2月3日～2月12日
48	Ana Dalila Terrazas Santillán	メキシコ	メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関 保存修復技術者	国際研修「ラテンアメリカにおける紙文化財保存修復国際研修」の準備への協力	28年3月6日～6月29日

【奈良文化財研究所】延べ117人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	バーバラ・エッガー＝イエンツァー 他４名	スイス	ベルン州・首相	遺構展示館、第一次大極殿見学	4月17日
2	朴英根 他3名	韓国	文化財庁企画調整官・局長	文化遺産管理体系等実態調査のため	5月20日
3	張恩惠	韓国	国立慶州文化財研究所・學藝研究士	古代文化関連遺跡の共同発掘調査実施	8月3日～10月2日
4	イ・チャンハク 他2名	韓国	ソウル市文化本部長	風納土城との関連で、藤原宮跡・平城宮跡の保存・復元方法について視察	9月24日
5	黄建秋	中国	南京大学・教授	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
6	馬照武	中国	儀征博物館・副館長	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
7	張兆維	中国	揚州市文物考古研究所・副所長	科研「中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義」の日中共同研究	9月24日～9月28日
8	Khin　Than Win 他9名	ミャンマー	ホテル観光省 観光促進・国際交流部長	JICA研修の一貫として、平城宮跡の維持保存について視察	9月30日
9	Prof.Dr.MarkMersiowsky 他1名	ドイツ	Universität Stuttgarter・教授	平城宮跡資料館・木簡の整理状況・平城宮跡等の見学	10月2日
10	キム・ジュンスン 他3名（新羅王京事業団）	韓国	大韓民国文化財庁・書記官	平城京の発掘・整備・復元・管理・活用、藤原京の発掘調査状況、整備復元事例について視察	10月13日～10月14日
11	ヘ ビョンソン 他2名	韓国	国立扶余文化財研究所・所長	百済宮城および付属施設比較研究のための現地調査	10月26日～10月29日
12	ラヌルフォ アントニオ エスコバール マカル 他2名	エル・サルバドル	観光局レクレーションセンター	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
13	エルバ アレハンドリーナ シルバ メネンデス 他3名	グアテマラ	観光局文化遺産観光部門	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
14	タニヤ デルカルメン アマヤ カストロ 他2名	ホンジュラス	観光局環境の持続可能性部門	金沢大学実施JICA課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」	10月27日
15	楊文勝	中国	河南省文物考古研究院・副院長	日中共同研究	11月16日～11月20日
16	趙志文	中国	河南省文物考古研究院・研究員	日中共同研究	11月16日～11月20日
17	李一丞	中国	河南省文物考古研究院・館員	日中共同研究	11月16日～11月20日
18	郭洋	中国	河南省文物考古研究院・副科長	日中共同研究	11月16日～11月20日
19	張慧明	中国	河南省文物局・処長	日中共同研究	11月16日～11月20日
20	バデーウ　ウメア　モハメド 他1名	モルディブ	ロアマリゾートモルディブ アットマーミギリ ロアマ博物館・学芸員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
21	プラダン　ミミ 他1名	ネパール	文化観光省考古局 ネパール国立博物館・職員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
22	ウェラスリヤ　ウパルスランガ　ペレラ 他1名	スリランカ	国家遺産省考古局 博物館課・考古研究補佐員	「博物館等における文化財の管理と展示活用」研修：文化財登録管理の実務	11月16日，26日，27日
23	Le Xuan Phuong	ベトナム	ベトナム林業大学・准教授	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
24	Do Thi　Ngoc Bich	ベトナム	Member of Gorestry Association of VFU	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
25	Nahar　Cahayandaru Suyadi	インドネシア	Senior Conservator BOROBUDUR CONSERVATION OFFICE	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
26	Sri Nugroho Marsoem	インドネシア	Head, Laboratory of Wood Chemistry & Fiber Faculty of Forestry Gadjah Mada University	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
27	Erbprem Vatcharangkul	タイ	Director Underwater Archaeology Division Fine Arts Department, Ministry of Culture	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月19日～1月23日
28	ThongLith LuangKhoth	ラオス	Director Division of Archaeology,でDepartment of Heritage Ministry Information, Culture, and Tourism	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
29	Ros Borath	カンボジア	President, National Committee for World Herotage Deputy Director General, Monuments and Archaeology	水浸木材の保存に関する国際セミナー参加	28年1月20日～1月23日
30	Aung Winn	ミャンマー	Assistant Director Minister's Office Ministry of Culture	遺跡の整備と活用に関するワークショップ参加	28年2月14日～2月22日
31	Zar Zar Linn	ミャンマー	Senior Assistant Engineer Grade-2 Department of Archaeology and National Museum Ministry of Culture	遺跡の整備と活用に関するワークショップ参加	28年2月14日～2月22日
32	Bruno Bruguier	フランス	フランス極東学院・教授	情報共有研究会で発表	28年2月21日～2月27日
33	陳永豊 他5名	台湾	文化省政務次官	研究所施設および平城宮跡などの見学、文化財保存について視察	28年3月4日
34	李占楊	中国	河南省文物考古研究院・主任研究員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
35	裴韜	中国	河南省文物考古研究院・館員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
36	毛徳新	中国	許昌市文化広電新聞出版局・副調研員	科研「河南省許昌霊井出土早期土器の日中共同研究」	28年2月29日～3月4日
37	張　璠	中国	西安曲江大明宮遺址文物局・副局長	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
38	龔国強	中国	中国社会科学院考古研究所漢唐研究室・副主任	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
39	趙暁軍	中国	洛陽市文物考古研究院隋唐研究室・主任	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
40	繆韵	中国	洛陽市隋唐城遺址管理処・科長	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
41	趙虎龍	中国	洛陽龍門石窟国際旅行社	遺跡整備活用研究会「長安・洛陽における遺跡の発掘調査及び整備活用の現状」にて発表・参加	28年3月1日～3月5日
42	胡　柏	中国	遼寧省文物考古研究所・研究員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
43	斉　軍	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
44	王　宇	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
45	辛　宏偉	中国	遼寧省文物考古研究所・館員	日中共同研究	28年3月21日～3月25日
46	Teav Sreyniet	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	28年3月24日～3月31日
47	Bun Sreivy	カンボジア	王立芸術大学卒業生	カンボジア文化遺産復興支援事業における招へい研修	28年3月24日～3月31日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ40人

※用務先が海外である場合を含む。また国内研究者を海外に派遣したもの延べ3名を含む(用務欄に用務先を記載)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Timothy CURTIS	タイ王国	Chief, Culture Unit, UNESCO Bangkok	第四回IRCI運営理事会 文化庁受託	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
2	Olympia Esel MOREI	パラオ共和国	Director, Belau National Museum	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
3	Yonsoo KIM	大韓民国	Director, International Cooperation Division, Heritage Promotion Bureau, Cultural Heritage Administration of Korea	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
4	Jin ZHAO	中華人民共和国	Deputy Director, Division of Mutilateral Affairs, Bureau for External Cultural Relations, Ministry of Culture, P.R. of China	同上	9月24日～9月26日 (9月25日開催)
5	Katie O' ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O' Rourke Consulting P/L	無形文化遺産保護に関する現地調査 用務先：ミャンマー、ラオス、タイ 文化庁受託	10月30日～11月11日
6	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Management Solutions (AHMS)	同上	10月31日～11月11日
7	Hanhee HAHM	大韓民国	Professor, Department of Archaeology and Cultural Anthropology, College of Liberal Arts, Chonbuk National University	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific countries” 用務先：キルギス（ビシュケク） 文化庁受託	12月7日～10日 (12月8-9日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
8	愛川紀子	日本	文化庁無形文化遺産アドバイザー	同上	12月6日～10日 (12月8日～9日開催)
9	上杉富之	日本	成城大学文芸学部文化史学科教授	同上	12月5日～11日 (12月8日～9日開催)
10	Thi Hien NGUYEN	ベトナム社会主義共和国	Vice Director, Vietnam Institute for Cultural and Art Studies	同上	12月4日～11日 (12月8-9日開催)
11	Shubha CHAUDHURI	インド	Associate Director General (Academic), American Institute of Indian Studies, Archive and Research Center for Ethnomusicology	同上	12月7日～10日 (12月8-9日開催)
12	Saymon ZAKARIA	バングラデシュ人民共和国	Assistant Director, Forklore department of Bangla Academy	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
13	Dilshod RAHIMOV	タジキスタン共和国	Head of the Department of Folklore, Rudaki Institute of Language, Literature and Oriental Studies	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
14	Gularo ABDULLOEVA	ウズベキスタン共和国	Head of branch, State Conservatory of Uzbekistan	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
15	Janet BLAKE	イラン・イスラム共和国	Assistant Professor, Department of Islamic Law, Faculty of Law Shahid Beheshti University	同上	12月6日～11日 (12月8-9日開催)
16	Elizabeth EDWARDS	フィジー共和国	Director/Producer/Editor & Coordinator, Mai TV	同上	12月5日～13日 (12月8-9日開催)
17	Gulnara AITPAEVA	キルギス共和国	Director, Aigine Cultural Research Centre	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific countries” 用務先：キルギス（ビシュケク） 先方負担	12月8-9日開催
18	Parmoun YADOLLAH	イラン・イスラム共和国	Director, Regional Research Centre for Safeguading Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
19	Mohammad AHMADISHADMEHRI	イラン・イスラム共和国	Financial Chief, Regional Rsearch Centre for Safegurading Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
20	Dinara CHOCHUNBAEVA	キルギス共和国	Director, Central Asian Crafts Support Association’s Resource Center in Kyrgyzstan	同上	12月8-9日開催
21	Kijong PARK	大韓民国	Chief, IT Management Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO	同上	12月8-9日開催
22	Alireza TAVAKOLI	イラン・イスラム共和国	Programme specialist of promotion, Regional Research Centre for Safeguarding Intangible Cultural Heritage in West and Central Asia	同上	12月8-9日開催
23	You Sour LIM	カンボジア王国	Deputy Director General of Administration and Finance, Directorial General Department, Ministry of Culture and Fine Arts	“IRCI 2nd Workshop on the study of Legal Systems Related to Intangible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 文化庁受託	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
24	Bounyadeth DAOPASITH	ラオス	Lecturer of International Law International Relations, Faculty of Laws and Political Science, National University of Laos	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
25	Nang Lao NGIN	ミャンマー	Director, National Museum (Yangon), Department of Archaeology, National Museum and Library, Ministry of Culture	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)
26	Thuy Quynh QUACH	ベトナム社会主義共和国	Lecturer, Centre of Commerce and Management, RMIT University	同上	12月16日～20日 (12月17日-19日開催)
27	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O’ Rourke Consulting P/L	同上	12月15日～20日 (12月17日-19日開催)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
28	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Managemant Solutions (AHMS)	同上	12月15日～20日 （12月17日-19日開催）
29	Himali JINADASA	スリランカ	Director-General, Sri Lanka Export Development Board (SLEDB)	“Discussion Meeting on Endangered Traditional Handicrafts in Sri Lanka” 文部科学省補助金	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
30	Dilrukshi Sandya WETTASINGHE APPUHAMILAGE	スリランカ	Artisan, Eastern Province, Sri Lanka	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
31	Selvi SUBRAMANIAM	スリランカ	Artisan, Northern Province, Sri Lanka	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
32	Navatharshan KANDIAH	スリランカ	Assistant Director (Province), National Craft Council (NCC), Ministry of Traditional Industries & Small Enterprise Development	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
33	Godakuru Pathirannehelage Hansa Anuradha ARIYARATHNA	スリランカ	Development Assistant, National Craft Council (NCC), Ministry of Traditional Industries & Small Enterprise Development	同上	12月16日～21日 （12月19日-20日開催）
34	Harriet DEACON	イギリス	Visiting Research Fellow, Ferguson Centre for African Studies, The Open University, UK	“IRCI 2nd Workshop on the study of Legal Systems Related to Intagible Cultural Heritage in the Greater Mekong Region” 文化庁受託 “Discussion Meeting on Endangered Traditional Handicrafts in Sri Lanka” 文部科学省補助金	12月15日～21日 （12月17日-19日開催） （12月19日-20日開催）
35	Katie O’ ROURKE	オーストラリア	Director, Katie O’ Rourke Consulting P/L	無形文化遺産保護に関する現地調査 用務先：ベトナム、カンボジア 文化庁受託	28年2月15日～25日
36	Susan MCINTYRE-TAMWOY	オーストラリア	Associate Director and Research Co-ordinator at Archaeological and Heritage Management Solutions (AHMS)	同上	28年2月16日～25日
37	Chi Ben NGUYEN	ベトナム	Chairman of Council for Scientific Management	“The Final Discussion Meeting on Safeguarding Intangible Cultural Heritage on the Verge of Extinction: Vietnamese ICH Element Dong Ho Woodblock Printing” 文部科学省補助金	28年2月14日-19日 （2月15日-18日開催）
38	Thi Thu Huong NGUYEN	ベトナム	Division of Scientific Management and International Cooperations Vietnam Institute of Culture and Arts Studies	同上	28年2月14日-19日 （2月15日-18日開催）
39	Dang Tam NGUYEN	ベトナム	Craftsman of Dong Ho Folk Painting Village	同上	28年2月14日-19日 （28年2月15日-18日）
40	岩本　渉	日本	国立大学法人千葉大学	CRIHAPとの打合せ	28年3月21日～23日 （28年3月22日開催）

【文化財防災ネットワーク推進事業】6人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	ピーター・ストーン	イギリス	国際 BS 委員会事務局長	「文化遺産防災国際シンポジウム－文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性－」および研究会参加のため	12月11日～14日
2	コリン・ウエグナー	アメリカ	米BS国内委員会	同上	12月12日～15日
3	スー・ハトリー	オーストラリア	豪BS国内委員会委員	同上	12月11日～15日
4	カイ・ワイズ	ネパール	ネパールICOMOS委員長	同上	12月13日～15日
5	バラト・ワラト	ネパール	ネパールICOM 委員長	同上	12月11日～15日
6	高橋暁	サモア	ユネスコ太平洋事務所企画専門官	同上	12月11日～15日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
94人	51 人	21人	9人	9人	12人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	43 人	18人		25人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】延べ　21人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大正大学	仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究	加島勝	副館長　松本伸之、保存修復課環境保存室長　和田浩
2	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	岩佐光晴	企画課特別展室長　丸山士郎、保存修復課環境保存室長　和田浩
3	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究	今尾 文昭	企画課特別展室主任研究員　品川欣也
4	上智大学	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	月本昭男	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
5	筑波大学	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	守屋正彦	企画課出版企画室長　勝木言一郎
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡穣	博物館教育課教育講座室長　浅湫毅
7	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山洋	同上
8	京都大学人文科学研究所	中国典籍日本古写本の研究	高田時雄	博物館情報課長　田良島哲
9	東京藝術大学	文化財管理における美術品用辞典の作成	河内晋平	博物館情報課情報管理室長　村田良二
10	東京藝術大学	工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―	赤沼潔	特任研究員　神庭信幸
11	奈良県立橿原考古学研究所	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究	水野敏典	列品管理課主任研究員　古谷毅
12	国立歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	上野祥史	同上
13	島根大学	山陰地方における既掘考古資料の再検討と歴史文化遺産の持続的活用（法文学部山陰研究プロジェクト）	岩本崇	列品管理課主任研究員　古谷毅、調査研究課考古室研究員　河野正訓
14	京都国立博物館	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見龍介	保存修復課調査分析室長　荒木臣紀
15	森林総合研究所	木彫像の樹種識別技術の高度化	安部久	保存修復課環境保存室長　和田浩
16	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	松井敏也	同上
17	愛知県立芸術大学	「月次祭礼図模本」の総合復元研究	岩永てるみ	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
18	木更津市郷土博物館金のすず、国立歴史民俗博物館	金鈴塚古墳研究(繊維等の織物資料担当)	稲葉昭智、上野祥史	客員研究員　澤田むつ代

【京都国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築―語彙と理論にまたがる総合的研究	教授　山崎　剛	副館長　伊藤嘉章
2	成城大学	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	教授　岩佐光晴	学芸部列品管理室長　浅見龍介
3	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－	学芸企画部博物館教育課教育講座室長　浅湫　毅	学芸部列品管理室長　浅見龍介
4	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡穣	学芸部列品管理室長　浅見龍介
5	大阪大谷大学	多面的把握に基づく新義真言宗系聖教の解明と公開促進を果たす研究	教授　宇都宮啓吾	学芸部列品管理室主任研究員　羽田聡
6	国際日本文化研究センター	海賊史観から交易を検討する：国際法と密貿易－海賊商品流通の学術的・文明史的研究	教授　稲賀繁美	学芸部列品管理室主任研究員　呉孟晋
7	九州国立博物館	タイにおける異文化の受容と変容-１３世紀から１８世紀の対外交易品を中心として-	学芸部文化財課主任研究員　原田あゆみ	学芸部企画室研究員　末兼俊彦
8	九州国立博物館	日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合的研究	学芸部文化財課主任研究員　原田あゆみ	学芸部企画室研究員　末兼俊彦
9	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究―大航海時代を中心に―	企画情報部　室長　小林　公治	学芸部企画室研究員　末兼俊彦

【奈良国立博物館】延べ9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部教育室長　谷口　耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	学芸部美術室研究員　北澤　菜月

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	教育講座室長　淺湫　毅	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
4	東京国立博物館	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	教育講座室長　淺湫　毅	学芸部列品室研究員 山口　隆介
5	大阪市立大学	東大寺史の総合的再構成－『東大寺要録』を中心に－	名誉教授　栄原永遠男	学芸部列品室研究員 山口　隆介
6	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	教授　藤岡　穣	学芸部上席研究員　岩田　茂樹
7	京都大学	東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態	准教授　稲本泰生	学芸部教育室長 谷口　耕生
8	アジア文化交流センター	国宝桜ケ丘銅鐸の総合診断調査と今後の保存活用　－発見５０年目を迎えるにあたって－	主任研究員　進村真之	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行
9	北海道博物館	アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究	学芸員　杉山智昭	学芸部保存修理指導室長 鳥越　俊行

【九州国立博物館】延べ　12人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	鹿児島大学	Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ）） 総合研究博物館准教授 橋本達也		博物館科学課長 今津節生 企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
2	熊本大学	阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文物交流の実証的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	文学部准教授　杉井健	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
3	北海道博物館	アイヌ民族資料のＸ線ＣＴによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｃ））	学芸主査　杉山智昭	博物館科学課長 今津節生
4	桃山学院大学	東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7－10世紀を中心に（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	国際教養学部非常勤講師 深見純生	企画課特別展室長 原田あゆみ
5	東亜大学	東アジア文化圏の形成に果たした漢代郡県都市に関する学際的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	人間科学部教授　黄 暁芬	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史
6	法政大学	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｂ））	国際日本学研究所客員所員 KREINER Josef	館長　島谷弘幸
7	関西大学	古代寺院荘厳具の復元的研究～川原寺裏山遺跡出土金属製品を中心として～（学術研究助成基金助成金）（挑戦的萌芽研究）	文学部教授　米田文孝	企画課文化交流展室主任研究員 市元塁
8	奈良県立橿原考古学研究所	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	調査課長　今尾文昭	博物館科学課長 今津節生
9	京都大学	木製文化財の非破壊材質評価とデジタルアーカイブ作成（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	生存圏研究所教授　杉山淳司	博物館科学課長 今津節生
10	佐賀大学	史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開（科学研究費補助金）（基盤研究（Ｂ））	学内共同利用施設等研究員　脇田久伸	企画課長兼文化交流展室長 河野一隆
11	東京国立博物館	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（Ｃ））	百五十年史編纂室主任研究員 恵美千鶴子	館長　島谷弘幸
12	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究（科学研究費補助金）（基盤研究（Ａ））	人文科学研究院教授 井手誠之輔	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀

【東京文化財研究所】延べ　18人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	関西外国語大学	ミクロネシアにおける巨石文化の成立と社会複雑化のプロセスを探る考古学的研究	片岡　修	無形文化遺産部主任研究員 石村智
2	国士舘大学	ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学	大沼　克彦	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米　正吾
3	国士舘大学	古代メソポタミア北東部における歴史考古学的研究	沼本　宏俊	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　久米　正吾
4	奈良文化財研究所	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	文化遺産国際協力センターセンター長　川野邊　渉

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	早稲田大学	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	近藤　二郎	文化遺産国際協力センター客員研究員　前川　佳文
6	京都大学	真言密教寺院の史料調査に基づく分野横断的綜合研究―新たな仏教思想史の枠組を求めて	上島　亨	企画情報部主任研究員　皿井　舞
7	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	小島　浩之	保存修復科学センター副センター長　佐野　千絵
8	大阪大学	５～９世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究	藤岡　穣	企画情報部主任研究員　皿井　舞
9	早稲田大学	享保以降義太夫節浄瑠璃作品のデザタル・アーカイブに向けての研究	鳥越　文蔵	無形文化遺産部部長　飯島　満
10	金沢美術工芸大学	日本における「美術」概念の再構築――語彙と理論にまたがる総合的研究	山崎　剛	企画情報部部長　山梨　絵美子
11	東京国立博物館	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	企画情報部文化形成研究室長　小林　達朗
12	九州大学	未解読楽譜研究のための情報検索システムの構築	矢向　正人	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑　いづみ
13	奈良文化財研究所	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	無形文化遺産部主任研究員 石村　智
14	大谷大学	モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進	松川　節	企画情報部情報システム研究室長　二神　葉子
15	東京藝術大学	バーナード・ベレンソンと矢代幸雄の往復書簡に関する研究	越川　倫明	企画情報部部長　山梨　絵美子
16	東京大学	日本絵画の〈復元〉に関する基礎的研究	鴈野　佳世子	保存修復科学センター保存科学研究室長　吉田　直人
17	大阪大学	世界遺産と未来共生ー武力紛争下の文化財保護・回復政策を通じた深層の平和構築の推進	星野　俊也	文化遺産国際協力センター客員研究員　原本　知実
18	京都工芸繊維大学	蛍光寿命測定の文化財材料への応用に関する基礎研究	佐々木　良子	保存修復科学センター保存科学研究室長　吉田　直人

【奈良文化財研究所】延べ25人

○科学研究費補助金　延べ22人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
2	東京大学	正倉院文書の多元的解析支援と広領域研究資源化	准教授　山口　英男	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
3	立命館大学	古代中世東アジアの関所と交通政策	教授　鷹取　祐司	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
4	名城大学	クメール帝國の空間構造と地方拠点都市遺跡に関する研究	教授　溝口　明則	企画調整部長 杉山　洋
5	京都工芸繊維大学	近代日本の博覧会における建築展示に関する研究	教授　石田　潤一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
6	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
7	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉 晃宏
8	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室研究員　小田　裕樹
9	大阪市立大学	東大寺史の再構成-『東大寺要録』を中心に-	特任教授　栄原　永遠男	文化遺産部歴史研究室長 吉川　聡
10	東北大学	年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター年代学研究室　研究員　星野　安治
11	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室研究員　山崎 健
12	歴史民俗博物館	愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開	准教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原 信生
13	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第三研究室研究員　川畑　純

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
14	歴史民俗博物館	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質	准教授　上野　祥史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人
15	大阪市立大学	密林に覆われた古代水利都市アンコール遺跡群の実像解明・保全・修復研究	准教授　原口　強	企画調整部長 杉山　洋
16	元興寺文化財研究所	出土青銅製文化財の保存処理に使用されたアクリル樹脂の劣化について	研究員　植田　直見	埋蔵文化財センター長 難波　洋三
17	橿原考古学研究所	古墳時代中期における甲冑生産組織の研究－「型紙」と製作工程の分析を中心として－	総括研究員　吉村　和昭	企画調整部客員研究員 小林　謙一
18	京都大学	オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化－東南アジア大陸部を事例に－	研究員　柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室長 森本　晋
19	京都大学	古代・中世東西回廊－ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態－	研究員　柴山　守	企画調整部長 杉山　洋
20	京都大学	覆屋とその周辺地盤が露出展示遺構の劣化に及ぼす影響に関する検討	教授　鉾井　修一	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　脇谷　草一郎
21	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
22	京都橘大学	ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築	教授　一瀬　和夫	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　諫早　直人

○学術研究助成基金助成金　延べ3人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	埼玉大学	楽浪郡存続期における鉄器と玉類の流通網及び技術移転に関する包括的研究	准教授　中村　大介	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美
2	東京文化財研究所	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	修復材料研究室長　朽津　信明	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　脇谷　草一郎
3	奈良女子大学	玉類の生産および流通と社会変化の因果関係に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　田村　朋美

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
454人	161 人	47人	17人	20人	77人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	277 人	142人		135人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進室		
	11 人		5 人		

【東京国立博物館】延べ47人（科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を除く）

（参考：科学研究費補助金、その他助成金及び先方負担を含む合計人数は99人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費　44人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭　智美	米国	4月19日～4月27日	国際展覧会オーガナイザー会議に出席ほかのため	招へい共通事業費
2	小泉　惠英	タイ	6月11日～6月15日	タイ展打ち合わせ及び視察のため	海外展交流経費
3	土屋　裕子	イタリア	6月29日～7月3日	伊東マンショ作品の調査のため	同上
4	瀬谷　愛	同上	6月29日～7月3日	同上	同上
5	松本　伸之	中国	8月5日～8月7日	中国文物交流中心及び北京故宮博物院との打合せのため	同上
6	楊　鋭	同上	8月5日～8月7日	同上	同上
7	竹内　奈美子	韓国	8月20日～8月26日	韓国・国立中央博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
8	木下　史青	同上	10月4日～10月11日	韓国国際交流財団主催「2015日本博物館キュレーターワークショップ」に参加のため（2015年度学術交流）	同上
9	小林　牧	中国	10月13日～10月16日	中国北京故宮博物院創立90周年記念フォーラム出席にかかる随行のため	海外交流展経費
10	楊　鋭	同上	10月13日～10月16日	同上	同上
11	金井　裕子	ドイツ	11月4日～11月11日	土佐派絵画の調査のため（2015年度海外派遣）	招へい共通事業費
12	井上　洋一	シンガポール	11月24日～11月27日	アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会出席のため	海外交流展経費
13	鬼頭　智美	同上	11月24日～11月27日	アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会出席にかかる随行のため	同上
14	沖松　健次郎	中国	11月9日～11月18日	中国・上海博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
15	白井　克也	韓国	12月8日～12月17日	韓国・国立中央博物館と当館との2015年度学術交流のため	同上
16	岩田　侑利子	台湾	12月27日～12月29日	台湾国立故宮博物院南院開幕記念式典出席にかかる随行のため	海外交流展経費
17	富田　淳	中国	28年1月19日～1月23日	特集企画「上海博物館との競演」にかかる作品調査のため	同上
18	小山　弓弦葉	同上	28年1月19日～1月22日	同上	同上
19	楊　鋭	同上	28年1月19日～1月23日	同上	同上
20	三笠　景子	同上	28年1月19日～1月22日	同上	同上
21	川村　佳男	同上	28年1月19日～1月23日	同上	同上
22	西木　政統	インド	28年1月31日～2月7日	2018年度開催予定の特集「東アジアにおけるインド風」の事前調査のため	同上
23	井上　洋一	オランダ・イギリス	28年2月1日～2月6日	今後の特別展にむけた考古・民族資料の調査ならびにアル・タニ展にかかる調査のため	同上
24	品川　欣也	同上	28年2月1日～2月8日	同上	同上
25	小野塚 拓造	同上	28年2月1日～2月8日	同上	同上
26	井出　浩正	パプアニューギニア	28年2月6日～2月13日	平成２８年度特集「南太平洋の祈りと暮らしⅡ（仮題）」に展示する民族資料にかかる調査のため	同上
27	川村　佳男	同上	28年2月6日～2月13日	同上	同上
28	猪熊　兼樹	同上	28年2月6日～2月13日	同上	同上
29	小林　牧	中国	28年2月22日～2月27日	中国・上海博物館と当館との2015年度学術交流のため	招へい共通事業費
30	瀬谷　愛	ギリシャ	28年2月25日～3月6日	ギリシャ展の出品作品調査及び打合せのため	海外交流展経費
31	松本　伸之	中国	28年3月2日～3月4日	展覧会打合せのため	同上
32	楊　鋭	同上	28年3月2日～3月4日	展覧会打合せ随行のため	同上
33	松本　伸之	フランス・イギリ	28年3月7日～3月12日	展覧会協議等のため	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
		ス			
34	和田　浩	台湾	28年3月14日～3月16日	国立故宮博物院南院の展示施設・収蔵施設調査のため	同上
35	田沢　裕賀	同上	28年3月14日～3月17日	同上	同上
36	矢野　賀一	台湾	28年3月14日～3月16日	国立故宮博物院南院の展示施設・収蔵施設調査のため	海外交流展経費
37	金井　裕子	同上	28年3月14日～3月17日	同上	同上
38	小山　弓弦葉	中国	28年3月15日～3月19日	特集「上海博物館との競演」にかかる借用点検及び作品梱包のため	同上
39	三笠　景子	同上	28年3月15日～3月19日	同上	同上
40	富田　淳	中国	28年3月15日～3月20日	同上	同上
41	淺湫　毅	同上	28年3月15日～3月20日	同上	同上
42	川村　佳男	同上	28年3月16日～3月19日	同上	同上
43	猪熊　兼樹	同上	28年3月15日～3月23日	同上	同上
44	楊　鋭	同上	28年3月15日～3月24日	同上	同上

○職員旅費（その他）：延べ3人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	松本　伸之	中国	9月9日～12日	国際館長フォーラム出席のため	館長裁量経費
2	松本　伸之	台湾	12月27日～12月29日	台湾国立故宮博物院南院開館記念式典出席のため	同上
3	三笠　景子	韓国	28年1月10日～1月11日	作品調査のため	研究奨励費

○科学研究費補助金：延べ34人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	関　紀子	中国	6月21日～6月25日	関科研調査のため	科学研究費補助金
2	松嶋　雅人	フランス	7月7日～7月10日	松嶋科研調査のため	同上
3	和田　浩	同上	7月7日～7月10日	同上	同上
4	土屋　裕子	イギリス	7月19日～7月25日	白井科研調査のため	同上
5	白井　克也	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
6	鈴木　希帆	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
7	田良島　哲	同上	7月19日～7月25日	同上	同上
8	小野塚 拓造	イスラエル	8月4日～8月23日	月本科研(基盤B)の調査のため	同上
9	小山　弓弦葉	米国	8月16日～8月28日	科学研究費による古染織品調査のため	同上
10	鬼頭　智美	同上	9月8日～9月14日	鬼頭科研調査のため	同上
11	関　紀子	中国	9月14日～9月22日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
12	富田　淳	中国	9月17日～9月22日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
13	松嶋　雅人	ドイツ	9月28日～10月2日	基盤研究(B)「中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察」に関する調査のため	同上
14	和田　浩	同上	9月28日～10月2日	基盤研究（B）木彫像の樹種識別技術の高度化に関する調査研究の現地調査のため	同上
15	三田　覚之	韓国	10月15日～10月17日	韓国国立中央博物館「古代仏教彫刻大展」の熟覧および仏舎利国際シンポジウムへの参加のため	同上
16	淺湫　毅	同上	11月1日～11月3日	金銅仏の調査のため	同上
17	関　紀子	中国	11月12日～11月19日	関科研調査のため	同上
18	富田　淳	同上	11月12日～11月16日	関科研（基盤研究（Ｂ）清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究）の調査のため	同上
19	小山　弓弦葉	イギリス	12月26日～12月31日	科学研究費による染織調査のため	同上
20	後藤　健	バーレーン	28年1月5日～2月15日	科学研究費によるバーレーン発掘調査のため	同上
21	丸山　士郎	インド	28年1月31日～2月7日	科研にかかる調査および開催予定の特集「東アジアにおけるインド風」の事前調査のため	同上
22	伊藤　信二	同上	28年1月31日～2月7日	同上	同上
23	沖松　健次郎	同上	28年1月31日～2月5日	同上	同上
24	和田　浩	ドイツ	28年2月1日～2月5日	海外における博物館リスクマネジメントに関する情報･資料収集のため	同上
25	古谷　毅	韓国	28年2月11日～2月14日	科学研究費による調査および会議・研究会への出席のため	同上
26	白井　克也	米国	28年2月15日～2月21	科学研究費による調査のため	同上

	氏名	用務先	期間	用務	備考
			日		
27	鬼頭　智美	同上	28年2月15日～2月21日	同上	同上
28	田良島　哲	同上	28年2月15日～2月21日	科学研究費による調査のため	同上
29	川村　佳男	中国	28年2月16日～2月19日	科学研究費による「極薄青銅器の製作技術解明」の調査のため	同上
30	和田　浩	同上	28年2月16日～2月19日	同上	同上
31	矢野　賀一	オランダ・イギリス	28年2月20日～2月27日	白井科研にかかる現地調査のため	同上
32	神庭　信幸	韓国	28年3月7日～3月8日	科学研究費による調査のため	同上
33	土屋　裕子	同上	28年3月7日～3月8日	同上	同上
34	瀬谷　愛	米国	28年3月20日～3月27日	同上	同上

〇その他助成金：延べ18人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	田沢　裕賀	米国	11月18日～11月22日	北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業にかかる打合せのため	地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業補助金
2	ミウォシュ・ヴォズニ	同上	11月18日～11月22日	同上	同上
3	岩田　侑利子	同上	11月18日～11月22日	同上	同上
4	神庭　信幸	中国	10月9日～10月11日	１１月開催予定の研修にかかる事前協議のため	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金
5	宮田　将寛	同上	10月9日～10月11日	同上	同上
6	井上　素子	同上	10月9日～10月11日	同上	同上
7	神庭　信幸	韓国	10月26日～10月27日	１１月上海国際会議の事前協議および視察のため	同上
8	井上　素子	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
9	實井　香那子	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
10	六人部　克典	同上	10月26日～10月27日	同上	同上
11	神庭　信幸	中国	11月24日～11月28日	中日韓文物防災学術検討会のため	同上
12	和田　浩	同上	11月24日～11月26日	同上	同上
13	實井　香那子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
14	井上　素子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
15	宮田　将寛	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
16	六人部　克典	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
17	岩田　侑利子	同上	11月24日～11月28日	同上	同上
18	井上　素子	スイス	28年3月6日～3月9日	文化財防災設備に関する調査のため	同上

【京都国立博物館】延べ17人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	福士　雅也	アメリカ	4月10日～17日	「Ink and Gold:Art of Kano」(狩野派特別展)展覧会クーリエ業務	フィラデルフィア美術館
2	呉　孟晋	韓国	5月7日～11日	「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画専題講座」の講演	香港中文大学文物館
3	佐々木　丞平	韓国	5月14日～16日	「龍山再開館１０周年記念国際学術大会」参加	韓国国立中央博物館
4	佐々木　丞平	フランス	5月30日～6月4日	ICOM本部・パリ会議に出席	職員旅費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	呉　孟晋	韓国	6月22日～26日	「細密可貴展-韓国美術の品格」出陳予定作品の輸送及び展示	サムソン美術館リウム
6	呉　孟晋	韓国	8月15日～19日	「細密可貴展-韓国美術の品格」出陳作品の撤収及び輸送	サムソン美術館リウム
7	佐々木　丞平	中国	9月9日～11日	国際館長会議「文物保護与博物館建設：国際博物館高峰論壇」出席	上海博物館
8	呉　孟晋	中国	9月9日～11日	国際館長会議「文物保護与博物館建設：国際博物館高峰論壇」出席の館長随行	上海博物館
9	リンネ マリサ	ポーランド	9月15日～22日	ICOM-ICDADの国際会議参加	ICOM日本委員会
10	伊藤　嘉章	ロシア	9月20日～24日	「樂-茶碗の中の宇宙」開会式、講演会	国際交流基金
11	永島　明子	アメリカ	9月27日～10月1日	琳派展出品作品の借用	日本経済新聞社
12	呉　孟晋	中国	10月26日～30日	国際シンポジウム「呉趙風流：呉讓之、趙之謙書印学術研討会」参加・発表	マカオ芸術博物館
13	佐々木　丞平	韓国	10月28日～31日	2015年ヨンウォル国際博物館フォーラム	韓国寧越国際博物館
14	末兼　俊彦	アメリカ	11月16日～20日	科研費(基盤B)「日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究」にかかる調査	科学研究費補助金
15	福士　雅也	アメリカ	12月11日～16日	琳派展作品返却及び視察	日本経済新聞社
16	佐々木　丞平	フランス	28年3月12日～16日	ギメ東洋美術館との国際学術交流に関する協定書調印式	職員旅費
17	山川　暁	フランス	28年3月12日～16日	ギメ東洋美術館との国際学術交流に関する協定書調印式	職員旅費

【奈良国立博物館】延べ20人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	斎木　涼子	中国	12月9日～12月18日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	上海博物館（中国）
2	田澤　梓	同上	同上	同上	同上
3	内藤　栄	韓国	12月20日～12月27日	日本の古墳文化展開幕式出席、韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	国立慶州博物館（韓国）
4	大江　克己	同上	28年2月6日～3月2日	韓国国立慶州博物館との協定に基づく学術交流及び慶州博「日本の古墳文化」展に係わる展覧会の撤去作業	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
5	谷口　耕生	イギリス	6月10日～6月16日	科研費「春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究」に係る文化財調査	イーストアングリア大学他（イギリス）
6	北澤　菜月	同上	同上	同上	同上
7	伊藤　久美	同上	同上	同上	同上
8	清水　健	韓国	8月8日～8月11日	韓国・三星博物館Leeumにおける「細密可貴」展に係る作品の輸送・展示	三星美術館Leeum（韓国）
9	清水　健	同上	9月15日～9月17日	韓国・三星博物館Leeumにおける「細密可貴」展に係る作品の撤収・輸送	三星美術館Leeum（韓国）
10	山口　隆介	中国	9月16日～9月23日	科研費「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」に係る仏教美術調査	四川博物院他（中国）
11	谷口　耕生	同上	同上	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に係る仏教美術調査	同上
12	北澤　菜月	同上	同上	同上	同上
13	岩井　共二	韓国	10月29日～10月31日	科研費「5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究」に係る仏教美術調査	国立中央博物館（韓国）
14	山口　隆介	同上	11月1日～11月3日	同上	同上
15	岩田　茂樹	同上	11月1日～11月3日	同上	同上
16	岩戸　晶子	同上	12月2日～12月22日	慶州博「日本の古墳文化」展に係る文化財の輸送と展示作業	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）
17	大江　克己	同上	12月3日～12月22日	同上	同上
18	岩田　茂樹	イタリア	12月3日～12月22日	科研費「多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－」に係る仏教美術調査	ヴェネツィア東洋美術館、ローマ東洋美術館（イタリア）
19	湯山　賢一	韓国	12月20日～12月22日	国立慶州博物館　特別展「日本の古墳文化」開会式、レセプションに出席	国立慶州博物館（韓国）
20	岩戸　晶子	同上	28年2月21日～3月3日	慶州博「日本の古墳文化」展に係る撤収作業と文化財の輸送	国立慶州博物館、国立中央博物館（韓国）

【九州国立博物館】延べ77人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	市元塁	中国	4月19日～26日	科学研究費助成事業「契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-」に係る調査	科学研究費
2	臺信祐爾	同上	4月19日～26日	同上	科学研究費
3	秋山純子	同上	4月19日～26日	同上	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
4	臺信祐爾	フランス	5月8日～22日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業、国際巡回展「ラスコー3」に係る現地調査、第2回京都大学-ボルドー大学共催シンポジウムに係る発表	先方負担
5	今津節生	フランス	5月9日～13日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	先方負担
6	鷲頭桂	イギリス	5月9日～13日	特別展「新・桃山展（仮称）」に係る作品調査	職員旅費
7	市元塁	中国	6月8日～13日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に係る調査	先方負担
8	島谷弘幸	タイ	6月11日～15日	特別展「タイ」展（仮称）」に係る協議および出陳作品調査	職員旅費
9	原田あゆみ	同上	6月11日～15日	同上	職員旅費
10	今津節生	同上	6月11日～15日	同上	職員旅費
11	市元塁	中国	7月6日～9日	特別展「美の国 日本」に係る協議	職員旅費
12	島谷弘幸	同上	7月6日～9日	同上	職員旅費
13	畑靖紀	メキシコ	8月3日～8日	特別展「新・桃山展（仮称）」に係る調査・借用交渉	職員旅費
14	鷲頭桂	同上	8月3日～8日	同上	職員旅費
15	市元塁	中国	8月3日～5日	特別展「瀋陽故宮展（仮称）」に係る調査	職員旅費
16	島谷弘幸	同上	8月3日～5日	同上	職員旅費
17	佐々木蘭貞	オランダ	8月19日～24日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業	先方負担
18	臺信祐爾	ミャンマー	8月23日～28日	京都大学・文化庁プロジェクト「文化遺産国際協力拠点交流事業」における講演・教育指導	先方負担
19	島谷弘幸	中国	8月24日～27日	学術文化交流協定に係る調印式への出席および今後の事業に係る協議・施設調査	職員旅費
20	進村真之	同上	8月24日～27日	同上	県費
21	原田あゆみ	インドネシア	9月11日～16日	科学研究費助成事業「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究：7-10世紀を中心に」に係る研究会・意見交換	科学研究費
22	川畑憲子	中国	9月17日～26日	科学研究費助成事業「出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究」に係る調査	科学研究費
23	今津節生	同上	9月21日～26日	同上	科学研究費
24	臺信祐爾	同上	9月21日～25日	同上	科学研究費
25	市元塁	中国	9月21日～26日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に係る作品点検・梱包作業	先方負担
26	市元塁	中国	10月10日～13日	特別展「美の国 日本」に係る作品集荷・輸送	先方負担
27	岸本圭	韓国	10月11日～14日	特別展「美の国　日本」作品集荷	他機関負担
28	島谷弘幸	中国	10月13日～15日	北京故宮博物院館長フォーラムにおける講演	先方負担
29	島谷弘幸	フランス	10月20日～24日	「書の世界現代日本の書」展に係る講演、ユネスコ世界遺産選考委員会	先方負担
30	志賀智史	ベトナム	10月21日～24日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	職員旅費
31	金旻貞	同上	10月21日～24日	同上	職員旅費
32	小泉惠英	韓国	11月7日～8日	科学研究費助成事業「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合研究」に係る調査	科学研究費
33	望月規史	アメリカ	11月16日～23日	基盤（B）「日タイ間の文化交流に関する資料集成と総合研究」に係る打合せ	科学研究費
34	酒井田千明	中国	11月17日～20日	瀋陽故宮展調査	職員旅費
35	市元塁	同上	11月17日～20日	同上	職員旅費
36	進村真之	同上	11月17日～20日	同上	県費
37	金旻貞	ベトナム	11月17日～21日	ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流に係る修理事業調査	職員旅費
38	志賀智史	同上	11月17日～21日	同上	職員旅費
39	島谷弘幸	アメリカ	11月19日～22日	第5回カルコン美術対話委員会・公開フォーラムへの出席	先方負担
40	島谷弘幸	シンガポール	11月25日～28日	第5回アジア国立博物館長会議（ANMA）定期大会への出席	職員旅費
41	小泉惠英	シンガポール	11月25日～28日	シンガポール国立博物館等調査、第5回アジア国立博物館長会議（ANMA）定期大会・送別会出席	職員旅費
42	岸本圭	韓国	12月2日～5日	特別展「美の国 日本」に係る作品輸送・返却	他機関負担

	氏名	用務先	期間	用務	備考
43	市元塁	中国	12月2日～6日	特別展「美の国 日本」に係る作品輸送・返却	先方負担
44	臺信祐爾	オーストラリア	12月5日～16日	特別展「黄金のアフガニスタン」に係る作品集荷	先方負担
45	今津節生	ミャンマー	12月7日～11日	京都大学・文化庁プロジェクト「文化遺産国際協力拠点交流事業」における講演・教育指導	先方負担
46	岸本圭	オーストラリア	12月5日～15日	特別展「黄金のアフガニスタン」に係る作品集荷	先方負担
47	島谷弘幸	韓国	12月20日～23日	特別展「美の国　日本」展示報告および学術文化交流協定に係る協議	職員旅費
48	楠井隆志	同上	12月20日～23日	同上	県費
49	進村真之	同上	12月20日～23日	同上	県費
50	小嶋篤	韓国	12月21日～24日	古代韓国出土の武器･武具の調査	科研費
51	島谷弘幸	台湾	12月27日～29日	台湾故宮南院開幕式および調査	他機関負担
52	佐々木蘭貞	アメリカ	1月7日～14日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	先方負担
53	今津節生	アメリカ	1月7日～14日	基盤（A）「木製文化財の非破壊材質評価とﾃﾞｼﾞﾀﾙｱｰｶｲﾌﾞ作成」に係る調査研究	科研費
54	川畑憲子	オランダ	1月14日～18日	メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金助成「史料にみる彫漆器」に関わる漆器の研究調査	他機関負担
55	松浦晃佑	中国	1月16日～21日	科研費「近世日本のｷﾘｼﾀﾝ禁制と「異国船」対策－東アジアと地域の視点から」に係る調査	科研費
56	原田あゆみ	タイ	1月17日～24日	日タイ修好 130 周年記念特別展「タイ」展（仮称）に係る協議および出陳作品調査	職員旅費
57	小泉惠英	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
58	金旻貞	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
59	赤田昌倫	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
60	今津節生	同上	1月17日～20日	同上	職員旅費
61	進村真之	同上	1月17日～24日	同上	他機関負担
62	小嶋篤	同上	1月17日～24日	同上	他機関負担
63	河野一隆	タイ・インドネシア	1月17日～24日	海外交流展にかかる事前調査／科研費基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	職員旅費
64	島谷弘幸	ドイツ	2月1日～6日	日本ユネスコ国内委員会、日本仏教美術館書跡遺品調査	他機関負担
65	松浦晃佑	ポルトガル	2月12日～21日	科研費『近世日本のｷﾘｼﾀﾝ禁制と「異国船」対策-東アジアと地域の視点から」に係る調査	科研費
66	河野一隆	韓国	2月20日	科研費基盤（B）「史学と自然科学の融合研究で探る幕末明治期における地域鉄産業の変貌と展開」に係る調査	科研費
67	進村真之	ミャンマー	2月23日～27日	交流に係る協議及び調査	県費
68	一瀬智	同上	2月23日～27日	同上	県費
69	秋山純子	アメリカ	2月23日～27日	交流に係る協議及び調査	職員旅費
70	森實久美子	フランス、ドイツ	2月23日～28日	海外交流展「新桃山展」に係る作品の調査	職員旅費
71	畑靖紀	同上	2月23日～28日	同上	職員旅費
72	鷲頭桂	同上	2月23日～28日	同上	職員旅費
73	森實久美子	韓国	3月1日～4日	特別展に係る協議	職員旅費
74	金旻貞	韓国	3月2日～4日	水中遺跡の保存活用に関する調査研究事業に係る現地調査	先方負担
75	佐々木蘭貞	同上	3月2日～4日	同上	先方負担
76	小泉惠英	同上	3月2日～4日	同上	先方負担
77	望月規史	中国	3月2日～5日	特別展「新桃山展」（海外交流展）にかかる作品調査	職員旅費

【東京文化財研究所】延べ　142人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	石村　智	ミクロネシア アメリカ	7月18日～7月23日	ヤップ州歴史保存局にて世界遺産候補「ヤップの石貨」の申請書作成支援、グアム大学にて資料調査	運営交付金
2	石村　智	ネパール	9月20日～9月28日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
3	石村　智	ナミビア	11月28日～12月5日	無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会に係る調査	運営交付金
4	石村　智	ネパール	11月21日～11月25日	コナカにおける無形文化遺産の調査	受託経費
5	石村　智	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
6	石村　智	サモア	28年1月8日～1月17日	サモアの無形文化遺産の調査	受託経費
7	石村　智	グアム	28年2月29日～3月4日	太平洋芸術祭に係る情報収集	受託経費
8	井内　千紗	韓国	28年3月29日～3月31日	韓国ユネスコ国内委員会「文化遺産国際協力ワークショップ」出席	受託経費
9	江村　知子	アメリカ	12月14日～12月18日	動産文化財保護制度の調査	運営交付金
10	江村　知子	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
11	江村　知子	イギリス	28年2月15日～2月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	運営交付金
12	岡田　健	中国	6月14日～6月21日	中国壁画の保存・展示事例調査	受託経費
13	岡田　健	中国	7月8日～7月11日	中国文化遺産研究院創立80周年記念シンポジウム出席、壁画関係資料収集	他機関負担 受託経費
14	岡田　健	中国	8月20日～8月26日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、国際シンポジウム参加	運営交付金
15	岡田　健	中国	9月2日～9月15日	中国初唐期仏教造像に関する調査研究	助成金
16	岡田　健	中国	10月19日～10月24日	第2回曲江壁画シンポジウム参加・発表、古墳壁画調査	運営交付金
17	岡田　健	台湾	11月5日～11月9日	国際シンポジウム参加・発表	他機関負担
18	岡田　健	中国	28年3月9日～3月16日	敦煌壁画の保護に関する日中共同研究調査、打合せ	運営交付金
19	小田　桃子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
20	小田　桃子	台湾	10月25日～10月27日	国際研修の為の協議	基金
21	小田　桃子	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
22	小田　桃子	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
23	小田　桃子	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
24	加藤　雅人	イギリス	4月7日～4月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における成果発表	運営交付金
25	加藤　雅人	台湾	6月22日～6月24日	研修開催に関する協議	基金
26	加藤　雅人	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
27	加藤　雅人	台湾	10月25日～10月27日	国際研修の為の協議	基金
28	加藤　雅人	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
29	加藤　雅人	アメリカ	28年2月8日～2月12日	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復候補作品の調査	運営交付金
30	加藤　雅人	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
31	加藤　雅人	イタリア	28年3月12日～3月16日	合意書更新及び今後の研修内容に関する打合せ	運営交付金
32	亀井　伸雄	ドイツ	7月2日～7月14日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
33	亀井　伸雄	インドネシア	8月24日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
34	亀井　伸雄	イギリス	9月9日～9月16日	イギリス国内の産業遺産調査	運営交付金
35	亀井　伸雄	メキシコ	11月2日～11月9日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修事業の為の視察。	基金
36	亀井　伸雄	ベトナム	11月22日～11月24日	ハノイ遺産保護センタータンロンの国際シンポジウムに出席	他機関負担
37	亀井　伸雄	アメリカ	28年2月6日～2月11日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金
38	亀井　伸雄	イタリア	28年3月12日～3月16日	合意書更新及び今後の研修内容に関する打合せ	運営交付金
39	川嶋　陶子	韓国	28年2月22日～2月26日	韓国国際協力調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
40	川野邊　渉	ドイツ	6月27日～7月17日	第39回世界遺産委員会・産業遺産の調査	受託経費 運営交付金
41	川野邊　渉	イタリア	11月14日～11月23日	ICCROMの総会・理事会に出席	他機関負担
42	川野邊　渉	ミャンマー	28年1月13日～1月17日	壁画・漆工芸品の調査保存に関する協議	受託経費
43	北川　瑞季	サモア	28年1月8日～1月17日	サモアの無形文化遺産の調査	受託経費
44	橘川　英規	ドイツ チェコ	10月2日～10月7日	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業2015」招へい専門家へのヒアリング及び関連調査	他機関負担
45	楠　京子	イギリス	4月7日～4月13日	海外における日本の文化財修復材料の使用状況調査	他機関負担 運営交付金
46	楠　京子	ミャンマー	6月14日～6月23日	バガン遺跡の壁画保護に係る現地調査・および研修	受託経費 運営交付金
47	楠　京子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
48	楠　京子	メキシコ	11月2日～11月14日	ICCROM-RATAMプログラムにおける紙の保存に関するラテンアメリカでの国際研修	運営交付金
49	楠　京子	イギリス	11月22日～12月3日	日本海外修復に関する協議及び技術協力	他機関負担
50	楠　京子	ミャンマー	28年1月7日～1月18日	壁画に関する現地調査と研修	受託経費
51	朽津　信明	イタリア	9月7日～9月11日	壁画の保存状態調査	運営交付金
52	久保田　裕道	ネパール	9月20日～9月28日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	受託経費
53	久保田　裕道	中国	10月16日～10月19日	平成27年度日本祭開催支援事業中国北京公演「岩手民俗芸能公演」における講演	他機関負担
54	久保田　裕道	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
55	久米　正吾	キルギス	6月16日～7月7日	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
56	久米　正吾	キルギス	7月27日～8月27日	発掘調査・考古学研究	科学研究費
57	久米　正吾	キルギス	9月29日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	受託経費
58	小林　公治	タイ	7月23日～7月29日	第2回国際会議"Study of Oriental Lacquer Initiated by H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn for the Revitalization of Thai Wisdom"参加・発表／バンコク市内外寺院・博物館等での螺鈿漆器・工房調査および打ち合わせ	科学研究費
59	小林　公治	韓国	9月7日～9月13日	韓国内の螺鈿漆器および工房調査、研究打ち合わせ	科学研究費
60	小林　公治	中国	10月19日～10月23	美術研究翻訳論文執筆者打ち合わせ、国際会議参加発表ほか	科学研究費
61	小林　公治	韓国	28年1月27日～1月29日	国立中央博物館他における協議及び調査	科学研究費
62	後藤　里架	アルゼンチン	28年2月27日～3月4日	絵画調査	運営交付金
63	境野　飛鳥	ドイツ	6月27日～7月17日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
64	境野　飛鳥	イタリア	11月14日～11月23日	ICCROMの総会・理事会に出席	運営交付金
65	境野　飛鳥	アメリカ	12月14日～12月18日	動産文化財保護制度の調査	運営交付金
66	佐藤　桂	カンボジア	5月26日～6月6日	タネイ遺跡における測量作業およびプレアヴィヒア・アンコール遺跡国際調整委員会への参加	科学研究費
67	佐藤　桂	ミャンマー	6月29日～7月6日	第4回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
68	佐藤　桂	インドネシア	8月22日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
69	佐藤　桂	インドネシア	9月7日～9月12日	ジャワ遺跡調査	科学研究費
70	佐藤　桂	ミャンマー	11月21日～11月30日	第5回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
71	佐藤　桂	カンボジア	12月1日～12月5日	ICC-Angcor及びICC-PrearhVihearへの出席等	運営交付金
72	佐藤　桂	ブータン	12月20日～12月24日	伝統的版築造建造物保存事業のための協議等	運営交付金
73	佐藤　桂	カンボジア	28年2月13日～2月18日	タネイ遺跡周辺地形調査等	科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
74	佐野　真規	フィジー	12月6日～12月15日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
75	皿井　舞	アメリカ	6月15日～6月19日	ゲッティ研究所との共同研究の為の協議	運営交付金
76	皿井　舞	中国	9月16日～9月23日	各石窟の見学	科学研究費
77	皿井　舞	韓国	11月1日～11月2日	調査および関連展覧会の見学	科学研究費
78	鴫原　由美	ドイツ	11月10日～11月28日	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	基金
79	鈴木 絢香	韓国	4月12日～4月17日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
80	鈴木 絢香	アメリカ	28年2月6日～2月14日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金
81	田中 淳	韓国	4月12日～4月15日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
82	田中 淳	アメリカ	6月15日～6月20日	ゲッティ研究所との共同研究の為の協議	運営交付金
83	田中 淳	イギリス、オランダ、フランス	28年2月16日～2月23日	セインズベリー日本藝術研究所長等との日本芸術研究の基盤形成事業の打合せ等	運営交付金
84	津田　徹英	イギリス オランダ	28年2月16日～2月21日	セインズベリー日本藝術研究所長等との日本芸術研究の基盤形成事業の打合せ等	運営交付金
85	友田　正彦	カンボジア	5月31日～6月3日	タネイ遺跡保存に関するAPSARA機構との協力	運営交付金
86	友田　正彦	ミャンマー	6月10日～6月20日	バガン遺跡の壁画保護に係る現地調査・および協議	受託経費
87	友田　正彦	ミャンマー	7月4日～7月12日	第4回ミャンマー木造建造物保存研修	受託経費
88	友田　正彦	インドネシア	8月24日～8月27日	歴史地区保存のためのワークショップ開催	運営交付金
89	友田　正彦	ベトナム	9月3日～9月10日	科研費助成事業に係る現地調査	科学研究費
90	友田　正彦	ネパール	9月14日～9月23日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	運営交付金
91	友田　正彦	ミャンマー	9月26日～10月3日	バガン・ユネスコ事業に係る現地調査及び協議	受託経費
92	友田　正彦	ネパール	11月21日～11月27日	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」に関わる調査	受託経費
93	友田　正彦	ミャンマー	11月28日～12月8日	マンダレーにおける木造建造物調査研修実施､バガンにおけるユネスコ会議出席他	受託経費
94	友田　正彦	ブータン	12月20日～12月24日	伝統的版築造建造物保存事業のための協議等	運営交付金
95	友田　正彦	カンボジア	28年2月13日～2月16日	タネイ遺跡リスクマップ作成のための調査	運営交付金
96	友田　正彦	ベトナム	28年2月21日～2月25日	ベトナム科研に関する研究会に出席及び発表する。	科学研究費
97	友田　正彦	ネパール	28年3月16日～3月27日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に関する調査	受託経費
98	中山　俊介	ドイツ	6月27日～7月20日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	運営交付金
99	中山　俊介	フランス イギリス	9月1日～9月19日	フランス：BigStuff2015講演、イギリス：TICCIH2015への参加及びイギリス国内の産業遺産の現状の現地調査	運営交付金
100	橋本　広美	ミャンマー	28年1月7日～1月17日	壁画および漆工芸品の顔料調査	受託経費
101	早川　泰弘	韓国	10月1日～10月4日	国際シンポジウムへの参加および講演	他機関負担
102	早川　典子	イギリス	4月8日～4月13日	ICON(イギリス修復家学会) の2015年大会"East Asian Materials and Techniques in Western Conservation"における招待講演及び"Starch paste and Japanese adhesives for conservation"ワークショップ講師	他機関負担 運営交付金
103	早川　典子	イタリア	9月7日～9月11日	壁画の保存状態調査	受託経費
104	早川　典子	ドイツ	11月13日～11月18日	漆工品保存修復に関するワークショップの講義	基金
105	二神　葉子	ドイツ	6月27日～7月10日	第39回世界遺産委員会に係る調査を実施する為	受託経費
106	二神　葉子	ナミビア	11月28日～12月6日	無形文化遺産の保護に関する第10回政府間委員会	運営交付金
107	二神　葉子	タイ	28年1月18日～1月25日	文化財防災に関する聞き取り調査	科学研究費
108	増渕　麻里耶	イギリス ドイツ	6月24日～7月17日	第39回世界遺産委員会、産業遺産の調査	受託経費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
109	増渕　麻里耶	エジプト	8月14日～9月2日	ＪＩＣＡプロジェクト診断分析研修講師	他機関負担
110	増渕　麻里耶	トルコ	10月15日～10月22日	遺跡出土鉄製品に関する調査	科学研究費
111	増渕　麻里耶	ミャンマー	28年1月7日～1月17日	壁画および漆工芸品の顔料調査	受託経費
112	森井 順之	韓国	4月12日～4月17日	第7回世界水フォーラムへの参加	運営交付金
113	森井 順之	イギリス	5月19日～5月23日	イコモス石造文化財会ミーティング参加発表	運営交付金
114	森井 順之	韓国	10月21日～10月23日	ISSM2015における講演	他機関負担
115	山内　和也	中国	5月21日～5月26日	ユネスコ・シルクロード・オンラインプラットフォームによる国際ネットワークに関する第1回会議への出席	他機関負担 運営交付金
116	山内　和也	キルギス カザフスタン	6月16日～7月8日	カザフ：アク＝ベシム遺跡での発掘調査・研究打ち合わせ等、キルギス：アク＝ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
117	山内　和也	イスラエル	8月1日～8月8日	ヒシャム宮殿遺跡整備計画準備調査	他機関負担
118	山内　和也	イラン	9月8日～9月19日	イラン国内の世界遺産候補地（カナート）の視察および評価	他機関負担
119	山内　和也	キルギス カザフスタン	9月29日～10月12日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	運営交付金
120	山内　和也	キルギス	10月23日～11月6日	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
121	山内　和也	カザフスタン	11月22日～11月28日	シルクロード世界遺産登録国際調整会議への出席	受託経費
122	山内　和也	エジプト	12月12日～12月18日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト終了時評価調査	他機関負担
123	山内　和也	エジプト	28年2月13日～2月18日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト運営指導調査	他機関負担
124	山下　好彦	ミャンマー	8月16日～9月10日	シュエナンドー僧院の現状調査および一部修復処理	運営交付金
125	山下　好彦	ドイツ	11月10日～11月27日	漆工品保存修復に関するワークショップの運営	基金
126	山下　好彦	ミャンマー	28年1月11日～1月17日	漆工芸品の調査および研修	運営交付金
127	山下　好彦	イギリス	28年2月15日～2月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業の作品調査	運営交付金
128	山下　好彦	オーストリア	28年3月20日～3月27日	ウィーン応用美術大学とのMoUに基づく研修の実施	運営交付金
129	山田　大樹	ネパール	9月14日～9月23日	ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業に係る現地調査	運営交付金
130	山田　大樹	イラン	9月28日～10月5日	中央アジア歴史都市会議への出席・講演、その他打ち合わせ	運営交付金
131	山田　大樹	キルギス	10月5日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ、資材整理他	受託経費
132	山田　大樹	ネパール	11月21日～12月8日	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業」に関わる調査	受託経費
133	山田　大樹	ミャンマー	28年1月12日～1月17日	煉瓦造遺跡での現地調査	受託経費
134	山田　祐子	ドイツ	7月5日～7月19日	在外日本古美術品保存修復協力事業におけるワークショップの開催	基金
135	山藤　正敏	キルギス	6月16日～7月7日	アク・ベシム遺跡での発掘調査・研究	科学研究費
136	山藤　正敏	キルギス	9月29日～10月14日	ユネスコ日本信託基金現地ワークショップ	受託経費
137	山藤　正敏	キルギス	10月20日～11月9日	アク・ベシム遺跡における考古学発掘調査の実施及び出土資料の調査・研究	科学研究費
138	山藤　正敏	フィジー	12月6日～12月12日	フィジー南太平洋大学との共同研究	受託経費
139	山梨　絵美子	韓国	10月1日～10月3日	美術館および図書館調査	運営交付金
140	山梨　絵美子	ドイツ	10月21日～10月26日	国際シンポジウム「日本美術史研究の現在－グローバルな視点から」参加および発表	他機関負担
141	山梨　絵美子	アメリカ	28年2月6日～2月11日	ゲッティとの合意締結及び打合せ等	運営交付金

【奈良文化財研究所】延べ135人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	田村　朋美	イタリア	4月25日～5月2日	国際会議(TECHNART 2015-Catania April 27-30, 2015)に参加、研究発表をおこなう	運営費交付金
2	佐藤　由似	カンボジア・ミャンマー	4月25日～5月22日	アンコール文化遺産保護に関する協力、ミャンマー遺物調査Ｓ	運営費交付金 科学研究費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
3	渡邉　晃宏	韓国	4月26日～4月28日	韓国木簡学会国際学術大会への参加	他機関負担
4	杉山　洋	カンボジア	4月28日～5月3日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費
5	金　宇大	韓国	5月3日～5月7日	「金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究」にかかわる資料調査	科学研究費
6	森本　晋	フランス	5月11日～5月16日	国際シポジウム「人類進化　遺伝子から文化へ」出席	運営費交付金
7	杉山　洋	カンボジア・ミャンマー	5月14日～5月22日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	科学研究費
8	加藤　真二	中国	5月28日～5月31日	科研調査のための事前調査・現地調整	科学研究費
9	佐藤　由似	カンボジア	5月31日～6月14日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
10	降幡　順子	ドイツ	6月1日～6月7日	UNESCO expert workshop conservation of mural paintings への参加・報告	先方負担
11	森本　晋	カンボジア	6月2日～6月8日	アンコール地域調査国際調整委員会技術委員会出席	科学研究費
12	杉山　洋	カンボジア	6月2日～6月9日	カンボジアにおける西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金
13	小野　健吉	イタリア・フィンランド	6月13日～6月22日	イタリアにおける歴史的庭園等・フィンランドの世界遺産調査	他機関負担
14	石橋　茂登	中国	6月14日～6月19日	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査	東文研
15	降幡　順子	中国	6月14日～6月19日	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査	東文研
16	今井　晃樹	中国	6月21日～7月4日	洛陽出土資料の調査	運営費交付金
17	栗山　雅夫	中国	6月21日～7月4日	洛陽出土資料の調査	運営費交付金
18	佐藤　由似	ドイツ、イギリス、フランス	6月26日～7月13日	世界遺産委員会、ロンドン大学初期上座部仏教シンポジウム発表、ヨーロッパ東南アジア考古学会発表	運営費交付金 科学研究費
19	森本　晋	ドイツ・フランス	6月27日～7月13日	世界遺産委員会、東南アジア考古学者ヨーロッパ会議出席	運営費交付金
20	田村　朋美	フランス	7月5日～7月11日	国際会議(15th International Conference of the European Association of Southeast Asian Archaeologists(EurAEASAA15))に参加、研究発表をおこなう	科学研究費
21	杉山　洋	フランス	7月5日～7月13日	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築　研究成果の発表	科学研究費
22	加藤　真二	中国	7月12日～7月19日	中華人民共和国細石刃石器群の調査	科学研究費
23	諫早　直人	韓国	7月19日～7月22日	飛鳥寺塔心礎出土品および「古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費
24	杉山　洋	カンボジア	7月21日～7月24日	カンボジア・西トップ遺跡における調査修復	運営費交付金
25	森本　晋	タイ	7月23日～7月29日	バーミヤーン関係会議・ミャンマー学会参加、資料見学	科学研究費
26	高妻　洋成	オーストリア	7月29日～8月4日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷模型の材料調査	科学研究費
27	難波　洋三	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	運営費交付金
28	中島　志保	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	運営費交付金
29	佐藤　由似	カンボジア	7月31日～8月11日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
30	杉山　洋	カンボジア	8月1日～8月7日	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	科学研究費
31	馬場　基	中国	8月11日～8月15日	科研調査	他機関科学研究費
32	小野　健吉	チェコ・オーストリア	8月16日～8月24日	「歴史と現状から見た庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から」の庭園観光調査	科学研究費
33	佐藤　由似	カンボジア	8月19日～9月26日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
34	森本　晋	台湾	8月30日～9月5日	国際学会CIPA2015(文化遺産記録国際委員会) 出席	科学研究費
35	金田　明大	台湾	8月31日～9月4日	ＣＩＰＡ２０１５発表・参加のため	運営費交付金
36	渡邉　晃宏	中国	8月31日～9月5日	中国石刻資料調査	他機関科学研究費
37	小田　裕樹	韓国	9月3日～9月9日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、百済地域の墳墓調査	科学研究費
38	石田　由紀子	中国	9月7日～9月12日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関科学研究費
39	今井　晃樹	中国	9月7日～9月12日	古代の測量技術と尺度に関する資料調査	他機関科学研究費
40	金田　明大	ポーランド	9月14日～9月21日	ＩＳＡＰ２０１５発表・参加のため	科学研究費
41	杉山　洋	カンボジア	9月18日～9月26日	アンコール遺跡群における水利環境の復元	科学研究費分担金
42	諫早　直人	韓国	9月20日～9月24日	「古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造に関する考古学的研究」の類例調査	科学研究費
43	森本　晋	カンボジア	9月20日～9月26日	アンコール地域における遺跡記録の調査	科学研究費
44	神野　恵	イギリス	9月22日～9月26日	SISJAC-SOAS Research Grant 2015-2016 第１回ミーティング	先方負担
45	玉田　芳英	英国	9月22日～9月29日	京都大学大学院講義のための資料調査研究	他機関負担
46	高妻　洋成	カンボジア、ラオス	9月23日～9月30日	文化庁受託拠点交流事業ベトナム出土木製品保存事業国際研究会参加	文化庁受託
47	海野　聡	中国	9月25日～10月3日	中国国内における古建築調査および資料収集	科学研究費
48	森本　晋	マカオ	9月26日～9月30日	PNC(太平洋近隣有効協会)2015総会に出席・研究発表	科学研究費
49	川畑　純	韓国	10月5日～11月27日	慶州文化財研究所との発掘交流への参加	運営費交付金 先方負担
50	小野　健吉	アメリカ	10月6日～10月13日	コロンビア大学との研究交流打合せ、アメリカ独立前後の記念物調査	運営費交付金
51	杉山　洋	アメリカ	10月6日～10月13日	コロンビア大学との共同研究打ち合わせ	運営費交付金
52	佐藤　由似	アメリカ	10月7日～10月13日	コロンビア大学との共同研究打ち合わせ	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
53	大谷　育恵	中国	10月10日～10月19日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う研究会参加	サントリー文化財団研究費 先方負担
54	金　宇大	韓国	10月11日～10月12日	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	科学研究費
55	中島　義晴	中国	10月13日～10月17日	中国における遺跡整備に関する情報収集	運営費交付金
56	内田　和伸	中国	10月13日～10月19日	中国における遺跡整備に関する情報収集	運営費交付金
57	杉山　洋	カンボジア	10月20日～10月24日	カンボジア・西トップ遺跡における調査修復	朝日助成金
58	中村　一郎	ブータン王国	10月21日～11月2日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催　ワークショップ	他機関負担
59	森本　晋	キルギス	10月26日～10月31日	アクベシム遺跡調査に参加	運営費交付金
60	箱崎　和久	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
61	鈴木　智大	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
62	海野　聡	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
63	村山　聡子	中国	10月26日～11月2日	中国山西省南西部の古代建築調査	科学研究費
64	降幡　順子	韓国	10月30日～11月2日	韓国国内出土鉛釉陶器の資料調査・情報収集	科学研究費
65	惠谷　浩子	中国	11月1日～11月4日	日中大学交流文化遺産国際会議への出席および発表	先方負担
66	影山　悦子	中国	11月7日～11月11日	「第3回アジア文化フォーラム」等への出席	文化庁 中国文化部
67	佐藤　由似	カンボジア	11月9日～11月14日	アンコール王朝末期総合的歴史学の構築	科学研究費
68	杉山　洋	カンボジア	11月9日～11月14日	カンボジアにおけるデータベース構築に関する調査	科学研究費
69	森本　晋	タイ	11月12日～11月15日	国際ワークショップ「文化研究への科学技術の応用」に出席・発表	科学研究費分担金
70	影山　悦子	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修	文化庁受託
71	森本　晋	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修	文化庁受託
72	小野　健吉	ミャンマー	11月18日～11月26日	ミャンマー拠点交流事業遺跡整備活用研修講師	文化庁受託
73	大河内　隆之	中国	11月18日～11月27日	年輪年代調査による資料収集作業とミニシンポジウム参加のため	科学研究費
74	鈴木　智大	中国	11月20日～11月23日	東アジア前近代建築・都市史円卓会議における研究発表	科学研究費
75	降幡　順子	イギリス	11月20日～11月28日	SOASセミナー参加・研究発表、博物館所蔵資料調査	先方負担 科学研究費
76	小池　伸彦	中国	11月23日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
77	高妻　洋成	オーストリア	11月23日～11月27日	ウィーン世界博物館所蔵大名屋敷模型の材料調査	科学研究費
78	加藤　真二	中国	11月23日～12月4日	霊井遺跡ならびに関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
79	清野　孝之	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
80	廣瀬　覚	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
81	諫早　直人	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
82	大谷　育恵	中国	11月24日～11月27日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究	運営費交付金
83	芝　康次郎	中国	11月24日～12月4日	霊井遺跡ならびに関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
84	杉山　洋	カンボジア	11月25日～12月6日	カンボジアにおけるポストアンコール遺跡の調査	運営費交付金
85	佐藤　由似	カンボジア	11月25日～12月10日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
86	丹羽　崇史	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究	運営費交付金 先方負担
87	森川　実	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	運営費交付金 先方負担
88	尾野　善裕	中国	11月30日～12月3日	河南省文物考古研究院との共同研究報告書出版にともなう協議、資料調査	運営費交付金 先方負担
89	影山　悦子	カンボジア	11月30日～12月4日	ICC-Angkor（アンコール遺跡の保存と開発のための国際調整会議）	運営費交付金
90	森本　晋	カンボジア、ラオス	11月30日～12月9日	アンコール遺跡関連資料調査	科学研究費
91	内田　和伸	韓国	12月1日～12月4日	「新羅・月城と世界遺産の調査・研究」国際学術大会	先方負担
92	今井　晃樹	中国	12月14日～12月16日	中国社会科学院考古研究所との共同研究の協議	運営費交付金
93	渡邉　晃宏	中国	12月14日～12月16日	中国社会科学院考古研究所との共同研究の協議	運営費交付金
94	佐藤　由似	カンボジア	12月15日～12月28日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
95	杉山　洋	カンボジア	12月17日～12月26日	西トップ遺跡の調査修復	朝日新聞文化財団助成金
96	田村　朋美	ロシア	12月23日～12月27日	ロシア・ウラジオストクおよび周辺地域出土ガラス製遺物の調査	他機関負担
97	松本　直也	カンボジア	1月12日～1月16日	西トップ遺跡整備事業の視察	運営費交付金
98	松本　正典	カンボジア	1月12日～1月16日	西トップ遺跡整備事業の視察	運営費交付金
99	佐藤　由似	カンボジア	1月12日～1月19日	カンボジア遠隔地拠点遺跡の調査研究	科学研究費分担金
100	杉山　洋	カンボジア	1月12日～1月19日	カンボジアにおける遠隔地遺跡調査研究	科学研究費分担金
101	諫早　直人	モンゴル	1月17日～1月23日	匈奴墓出土馬具の調査	高梨学術奨励基金
102	馬場　基	台湾	1月18日～1月20日	漢簡資料の調査および撮影	科学研究費
103	中村　一郎	台湾	1月18日～1月20日	漢簡資料の調査および撮影	科学研究費
104	森本　晋	韓国	1月25日～1月27日	情報基準資料の調査	運営費交付金
105	尾野　善裕	イギリス	1月25日～1月30日	セインズベリー日本文化研究所主催セミナーへの参加、および口頭発表	先方負担

	氏名	用務先	期間	用務	備考
106	佐藤　由似	カンボジア、ミャンマー、ラオス	1月27日～3月2日	インドシナ半島東西回廊の調査、西トップ遺跡北祠堂の調査、アンコール文化遺産の調査	科学研究費分担金 朝日文化財団運営費交付金
107	影山　悦子	ウズベキスタン	1月31日～2月6日	イスラム以前の遺物の調査	科学研究費
108	森本　晋	ミャンマー	2月1日～2月10日	コー・タ窯跡の調査による人材育成	受託
109	杉山　洋	ミャンマー、カンボジア	2月1日～2月12日	ミャンマー・カンボジアに於ける東西回廊関係遺跡の調査	科学研究費分担金
110	田村　朋美	ミャンマー	2月3日～2月10日	ミャンマーにおける東西回廊関連遺跡の現地調査	運営費交付金
111	大谷　育恵	カザフスタン、キルギスタン	2月6日～2月15日	サントリー文化財団（若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
112	馬場　基	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
113	方　国花	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
114	松村　恵司	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結	運営費交付金 先方負担
115	渡邉　晃宏	台湾	2月16日～2月18日	中央研究院歴史語言研究所との研究協力協約書締結随行	科学研究費
116	諫早　直人	中国	2月16日～2月23日	匈奴墓出土馬具および関連資料の調査	高梨学術奨励基金
117	杉山　洋	カンボジア・ラオス	2月23日～3月2日	カンボジア・ラオスに於ける博物館展示指導	運営費交付金
118	諫早　直人	韓国	2月24日～2月27日	国立歴史民俗博物館共同研究第4回研究会への参加および発表	先方負担
119	小野　健吉	ポルトガル	2月26日～3月5日	ポルトガルの世界遺産調査	他機関負担
120	石橋　茂登	韓国	3月3日～3月5日	資料調査	助成金
121	大谷　育恵	ウズベキスタン	3月4日～3月12日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
122	番　光	オランダ	3月7日～3月13日	ライデン国立民俗博物館所蔵の日本大工道具の調査	科学研究費
123	海野　聡	イギリス・フランス	3月8日～3月21日	ヨーク大における建築史講演・討議および英仏の歴史的建造物のエクスカーション・研究打ち合わせ	先方負担 科学研究費
124	渡邉　晃宏	韓国	3月10日～3月13日	日韓木簡ワークショップ参加	先方負担
125	加藤　真二	中国	3月12日～3月17日	黒龍江省における靈井関連遺跡出土石器の調査	科学研究費
126	杉山　洋	カンボジア	3月13日～3月17日	カンボジアにおける青銅製品の調査	他機関負担
127	諫早　直人	イギリス	3月13日～3月20日	「ゴーランド・コレクション総合研究の新知見に基づく日本古墳時代像・研究史の再構築」にかかる調査	科学研究費分担金
128	佐藤　由似	カンボジア	3月13日～3月20日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
129	石橋　茂登	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
130	小沼　美結	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
131	若杉　智宏	中国	3月15日～3月18日	古墳壁画・天文関連資料調査	運営費交付金
132	森本　晋	ドイツ、フランス	3月15日～3月20日	情報基準資料の調査	運営費交付金
133	小田　裕樹	中国	3月15日～3月25日	「東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究」の一環として、河北省周辺地域の墳墓調査	科学研究費分担金
134	大谷　育恵	ロシア	3月27日～4月4日	サントリー文化財団(若手研究者のためのチャレンジ研究助成）「編年確立を目的とする中央アジア諸国で出土した漢鏡の調査」に伴う調査	サントリー文化財団研究費
135	金田　明大	ノルウェー	3月29日～4月4日	ＣＡＡ2016発表・参加のため	科学研究費

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ11人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	荒田　明夫	中華人民共和国（北京）	27年3月30日～4月2日	「中国C2センター(CRIHAP)第4回運営理事会」陪席	運営費交付金
2	荒田　明夫	中華人民共和国（貴陽）	27年7月5日～9日	“The 3rd Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage”出席	文化庁受託経費
3	児玉　茂昭	中華人民共和国（貴陽）	27年7月5日～9日	“The 3rd Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage”出席	文化庁受託経費
4	荒田　明夫	韓国（ソウル）	27年10月26日～27日	「韓国C2センター(ICHCAP)第七回運営理事会」陪席	文化庁受託経費
5	荒田　明夫	タイ(バンコク)	27年11月1日～4日	“Regional Symposium on the Development of Post Graduate Degrees Focusing on Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region”出席	文化庁受託経費
6	荒田　明夫	キルギス(ビシュケク)	27年12月5日～11日	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific”への出席	文化庁受託経費
7	児玉　茂昭	キルギス(ビシュケク)	27年12月4日～12日	“2015 IRCI Experts Meeting on Mapping Project for ICH Safeguarding in Asia and the Pacific”への出席	文化庁受託経費
8	大貫　美佐子	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	ICOMOSコロキアム出席及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
9	児玉　茂昭	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	ICOMOSコロキアム出席及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
10	野嶋　洋子	フランス（パリ）	28年3月2日～6日	無形文化遺産関連の資料収集及びユネスコ無形遺産課との打合せ	文化庁受託経費
11	荒田　明夫	中国（北京）	28年3月21日～23日	CRIHAP第五回運営理事会陪席	文化庁受託経費

【文化財防災ネットワーク推進室】延べ5人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	栗原　祐司	アメリカ	4 月 25 日～5 月 1 日	アメリカ博物館協会年次大会にて発表等	美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業補助金
2	マリサ　リンネ	アメリカ	4 月 25 日～5 月 1 日	文化財防災活動に関する調査、アメリカ博物館協会年次大会参加	同上
3	難波　洋三	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上
4	中島　志保	アメリカ	7月29日～8月6日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上
5	マリサ　リンネ	アメリカ	7月30日～8月16日	アメリカ国立文化機関の文化財防災に関わる調査、情報収集	同上

c-② 調査研究テーマ一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
190 件	132 件	66 件	17 件	18 件	31 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	57 件	25 件	32 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】　計66件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
2	特別調査「法隆寺献納宝物」（第37次）	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
3	特別調査「書跡」第13回	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
4	特別調査「工芸」第7回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
5	特別調査「彫刻」第5回	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　丸山　士郎
6	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
7	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
8	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　井上洋一
9	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課長　田沢裕賀
10	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	絵画・彫刻室主任研究員　沖松健次郎
11	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室　主任研究員　恵美千鶴子
12	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	考古室長　白井克也
13	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	学芸企画部付　浅見龍介
14	14)博物館における文化財の情報資源化に関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
15	15)古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	客員研究員　澤田むつ代
16	16)法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課研究員　三田覚之
17	17)多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	学芸企画部博物館教育課教育講座室長　淺湫　毅
18	18)海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	国際交流室長　鬼頭智美
19	19)日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
20	20)絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
21	21)東京国立博物館所蔵写真資料データベース(科学研究費補助金)	学芸企画部	企画課長　富田　淳
22	22)中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷　愛
23	23)「月次祭礼図摸本」総合復元研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復室主任研究員　瀬谷　愛
24	24)工芸の展開―金属工芸鋳金における真土型鋳造法の研究―(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課　神庭　信幸
25	25)武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
26	26)三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
27	27)木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
28	1)-1 特別展「コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
29	1)-2「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　塚本麿充
30	1)-3 特別展「始皇帝と大兵馬俑展」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課長　富田　淳
31	1)-4 特別展「生誕150年　黒田清輝」（仮称）に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室研究員　横山　梓
32	1)-5 特別展「黄金のアフガニスタン －守りぬかれたシルクロードの秘宝－」に関する調査	学芸企画部	広報室長　伊藤信二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
33	1)-6 特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―（仮）」に関する調査研究	学芸企画部	
34	1)-7 特別展「平安の秘仏－滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
35	1)-8 特別展「禅―心をかたちに」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕
36	1)-9春日大社展（仮称）に関する調査研究	学芸企画部	企画課長　小泉惠英
37	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
38	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室平常展調整室主任研究員　川村佳男
39	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究	学芸研究部	保存修復課　神庭　信幸
40	神像表現における物語性の調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　丸山　士郎
41	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美
42	東京藝術大学付属図書館所蔵後藤家文書の調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	保存修復課保存修復室研究員　酒井元樹
43	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課平常展調整室研究員　松嶋雅人
44	東アジアにおける繍仏の基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関　紀子
45	極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
46	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	副館長　松本　伸之
47	12)ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	特任研究員　後藤　健
48	13)清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　関　紀子
49	14)古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸研究部	列品管理課主任研究員　古谷毅
50	15)古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造
51	16)5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	学芸企画部博物館教育課講座室長　淺湫毅
52	17)東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
53	18)東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	出版企画室長　勝木言一郎
54	19)唐・宋時代の陶磁に関する絵画資料の収集と分析（西田記念研究助成金）	学芸研究部	調査研究課東洋室研究員　三笠景子
55	20)七仏薬師信仰とその造像に関する研究（メトロポリタン研究助成金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統
56	21)仁寿舎利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（代表者：大正大学　加島勝）	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
57	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次
58	2)被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
59	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
60	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　小林　牧
61	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
62	凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究	学芸企画部	学芸企画部長　井上洋一
63	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)	学芸企画部	博物館教育課長　小林　牧
64	6)ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(学術研究助成基金助成金)	総務課	係長　関谷泰弘
65	7)藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸企画部	特別展室　主任研究員　品川欣也
66	8)「シーボルト旧蔵本」の修理およびデジタル化による公開事業	学芸研究部	保存修復課長　高橋裕次

【京都国立博物館】　計17件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長　伊藤嘉章
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
3	特別調査「彫刻」	学芸部	企画室長　浅見龍介
4	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
5	特別調査「漆工」	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
6	特別展覧会「琳派誕生400年記念　琳派　京を彩る」に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉
7	特別展覧会「禅-心をかたちに-」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室主任研究員　羽田　聡
8	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
9	京都の幕末史料に関する調査研究	学芸部	列品管理室長　宮川禎一
10	近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)	学芸部	列品管理室主任研究員　永島明子
11	実作例に基づく日本の宮廷および調度の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	教育室長　山川　曉
12	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	列品管理室主任研究員　呉　孟晋
13	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
14	文化財の保存・修復に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
15	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長　浅見龍介
16	平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉
17	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	学芸部	教育室長　山川　曉

【奈良国立博物館】　計18件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤　栄
2	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
3	平安時代の大般若経の総合的研究と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(学術研究助成基金助成金)	学芸部	企画室長　野尻　忠
4	仏教工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水　健
5	古墳・古墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤　悟
6	特別展「白鳳」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤　栄
7	特別展「第67回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水　健
8	特別展「国宝 信貴山縁起－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に関する調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
9	南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
10	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。	学芸部	教育室長　谷口耕生
11	伊豆山権現立像（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究	学芸部	列品室員　山口隆介
12	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究(科学研究費補助金)	学芸部	学芸部長　内藤　栄
13	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（学術研究助成基金助成金）	学芸部	情報サービス室員　斎木涼子
14	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
15	収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
16	収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
17	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。	学芸部	教育室長　谷口耕生
18	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】　計 31件

〇有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸部	部長　小泉惠英
2	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	博物館科学課	課長　今津節生
3	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
4	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
5	特別展「東山魁夷　自然と人、そして町」に関する調査研究	学芸部	特任研究員　臺信祐爾
6	特別展「京都　高山寺と明恵上人―特別公開　鳥獣戯画―」に関する調査研究	企画課	特別展室研究員　森實久美子
7	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	課長兼文化交流展室長　河野一隆

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
8	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)	文化財課	資料登録室主任研究員　荒木和憲
9	契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－に関する調査研究(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)	学芸部	特任研究員　臺信祐爾
10	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究(文化庁受託事業)	博物館科学課	課長　今津節生
11	平成20年度に開催した特別展「工芸のいま 伝統と創造」の成果を基礎とした、九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究	企画課	特別展室長　原田あゆみ
12	タイにおける異文化の受容と変容―13世紀から18世紀の対外交易品を中心として―（科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金）	企画課	特別展室長　原田あゆみ
13	トピック展示「有田焼創業400年記念展　旧家の生活を彩った器－古伊万里－」に関する調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
14	酒井田家文書にみる大名家からの御注文品に関する研究（公益信託　西田記念東洋陶磁史研究助成基金）	企画課	アソシエイトフェロー　酒井田千明
15	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	文化財課	資料登録室主任研究員　川畑憲子
16	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費補助金)	企画課	特別展室長　原田あゆみ
17	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	課長　今津節生
18	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
19	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部	特任研究員　本田光子
20	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
21	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	環境保全室アソシエイトフェロー 赤田昌倫
22	みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）	学芸部	特任研究員　本田光子
23	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（学術研究助成基金助成金）	博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
24	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　木川りか
25	ＮＨＫと共同で実施する、高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
26	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子
27	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発	交流課	教育普及室主任研究員　釜瀬進一郎
28	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究	展示課	課長　楠井隆志
29	高等学校所蔵考古資料の調査研究	企画課	文化交流展主任研究員　市元塁
30	文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究	文化財課	課長　冨坂賢
31	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究	企画課	アソシエイトフェロー　西島亜木子

【東京文化財研究所】計25件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　小林達朗
3	近現代美術に関する交流史的研究	企画情報部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純
4	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満
6	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満
7	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島　満

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財デジタル画像形成に関する調査研究	企画情報部	広領域研究室長　小林公治

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（9件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	保存修復科学センター	生物科学研究室　佐藤嘉則
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存科学研究室長　吉田直人
3	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	保存修復科学センター	分析科学研究室長　早川泰弘
4	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
5	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
6	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター	伝統技術研究室長　北野信彦
7	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介
9	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　岡田　健

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	主任研究員　江村知子

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（7件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
2	韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究	保存修復科学センター	修復材料研究室長　朽津信明
3	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	地域環境研究室長　山内和也
5	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター	保存修復科学センター長　岡田　健 地域環境研究室長　山内和也
6	国際研修「紙の保存と修復」	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉
7	在外日本古美術保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター長　川野邊渉

【奈良文化財研究所】計32件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（20件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
3	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
4	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
5	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	文化遺産部	文化遺産部長　林　良彦
6	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
7	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
8	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
9	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
10	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
11	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
12	飛鳥地域発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
13	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
14	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
15	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	副所長　小野健吉
16	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	企画調整部 都城発掘調査部　平城地区	企画調整部長　杉山　洋
17	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
18	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
19	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
20	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（3件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の測量･探査等に関する研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三
3	動植物遺存体による環境考古学的研究	埋蔵文化財センター	埋蔵文化財センター長　難波洋三

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（6件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英
3	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏
4	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力	飛鳥資料館	飛鳥資料館学芸室長　石橋茂登
5	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力	企画調整部	企画調整部長　杉山　洋
6	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部長　玉田芳英

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡の建築学的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	企画調整部長　杉山　洋
2	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　森本　晋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）

1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　荒田明夫

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
54 件	21 件	32 件	1 件

【東京文化財研究所】計21件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	文化遺産国際協力拠点交流事業（大洋州島しょ文化遺産保護）（受託）	無形文化遺産部
2	高精細デジタル画像を活用した「菜蟲譜」複製製作に関する調査研究（受託）	保存修復科学センター
3	Ｘ線透過撮影によるピカソ作《青い肩かけの女》の光学調査（受託）	保存修復科学センター
4	絵金屏風の保存修理に関する調査研究(受託)	保存修復科学センター
5	高松塚古墳壁画の保存・展示の在り方に関する調査（受託）	保存修復科学センター
6	日光の歴史的木造建造物の温風処理等による新たな殺虫処理方法の検討(受託)	保存修復科学センター
7	文化財展示施設収蔵施設等のＡＴＰ調査における留意点の検討（受託）	保存修復科学センター
8	国宝平等院鳳凰堂須弥壇漆塗調査業務（受託）	保存修復科学センター
9	国宝銅造阿弥陀如来坐像保存修理及び調査研究（受託）	保存修復科学センター
10	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務（受託）	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター
11	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査（受託）	保存修復科学センター 文化遺産国際協力センター
12	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	文化遺産国際協力センター
13	第39回世界遺産委員会審議調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター
14	文化遺産国際協力拠点交流事業(ミャンマー)（受託）	文化遺産国際協力センター
15	文化遺産国際協力拠点交流事業（ネパール）（受託）	文化遺産国際協力センター
16	ユネスコ日本信託基金事業「バガン建築遺産保存のための技術支援」に係る委託（受託）	文化遺産国際協力センター
17	シュエナンドー僧院における漆工部材の保存修復に関する調査研究（受託）	文化遺産国際協力センター
18	ユネスコ日本文化遺産保存信託基金事業「シルクロード世界遺産登録に向けた支援」に係る委託（受託）	文化遺産国際協力センター
19	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）に係る国内支援業務(受託)	文化遺産国際協力センター
20	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト「保存修復材料としての和紙研修（エジプト国別研修）」コースに係る委託契約（受託）	文化遺産国際協力センター
21	美術工芸品修理技術者人材等に関する調査研究事業（受託）	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】計32件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成27年度増田地区伝統的建造物詳細調査業務委託（受託）	文化遺産部
2	若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査（受託）	文化遺産部
3	北口本宮冨士浅間神社建造物総合調査（受託）	文化遺産部
4	京都市の文化的景観保存計画策定調査（受託）	文化遺産部
5	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）（受託）	都城発掘調査部　平城地区
6	薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
7	興福寺防災工事に伴う発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
8	朱雀大路緑地水路部（左京三条一坊一・二・七・八坪）遺跡発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
9	興福寺中室・経蔵・鐘楼発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
10	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
11	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査委託（受託）	都城発掘調査部　平城地区
12	平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査（受託）	都城発掘調査部　平城地区
13	長門鋳銭所出土木簡の保存処理を経ての総合的研究（受託）	都城発掘調査部　平城地区
14	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）試掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
15	特別史跡藤原宮跡（吉井宅）本発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
16	本薬師寺跡、藤原京右京八条二・三坊（山口宅）発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
17	史跡　川原寺跡に隣接する県道「大和郡山明日香自転車道線」の発掘調査（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
18	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
19	特別史跡キトラ古墳保存・活用等調査業務（受託）	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
20	国宝　薬師寺東塔　顔料等分析調査業務委託（第Ⅱ期）（受託）	埋蔵文化財センター
21	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究（受託）	埋蔵文化財センター
22	群馬県金井東裏遺跡出土ガラス製遺物の材質・構造調査（受託）	埋蔵文化財センター
23	国史跡田熊石畑遺跡墓域整備に伴う埋蔵環境下での金属製遺物の腐食に関する研究（受託）	埋蔵文化財センター
24	喜界町出土金属製遺物の保存処理（受託）	埋蔵文化財センター
25	平城宮跡遺構展示館の保存活用に関する調査研究事業（受託）	埋蔵文化財センター
26	神明遺跡出土銅鐸に関する保存科学的研究（受託）	埋蔵文化財センター
27	国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務（受託）	埋蔵文化財センター
28	波怒棄館遺跡出土の動物遺存体の分析（受託）	埋蔵文化財センター
29	保美貝塚出土動物遺体分析業務（受託）	埋蔵文化財センター
30	愛知県美術館所蔵作品のテラヘルツイメージングによる診断調査（受託）	埋蔵文化財センター
31	平成27年度文化遺産国際協力拠点交流事業　ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業(受託)	埋蔵文化財センター
32	災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（受託）	埋蔵文化財センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成27年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
359件	203件	102件	16件	51件	34件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	153件	76件	77件	0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	3件				

【東京国立博物館】　102件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「文化財を守る―シリア、アフガニスタン、そして日本―」	学芸企画部長　井上洋一	9月26日	若木考古
2	同上	「文化財保護と博物館の役割について－東京国立博物館の事例を中心として－」	同上	12月26日	日本学術会議
3	同上	明清の書―帖学派の文脈	企画課長　富田淳	9月26日	大東文化大学書道芸術文化講演会
4	同上	日本所藏的三大拓本收藏　中村不折・三井高堅・高島菊次郎	同上	10月17日	香港中文大学文物館「北山汲古―碑帖銘刻拓本」公開講座
5	同上	「顔真卿と唐時代の書ものがたり」	同上	平成28年1月16日	東京国立博物館　連携講演会
6	同上	弥生時代の再葬墓	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	9月11日	東京国立博物館　連続講座「考古学が熱い！」
7	同上	指定制度の歩みと縄文時代の国宝	同上	10月24日	茅野市尖石縄文考古館　「平成27年度（2015年度）縄文ゼミナール」
8	同上	大谷探検隊とシルクロード美術	企画課出版企画室長　勝木言一郎	7月25日	東京国立博物館　月例講演会
9	同上	展示ケース内蔵型下部照明器具の開発事例と評価	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	6月21日	第34回日本展示学会
10	同上	OLEDを用いた展示照明	同上	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
11	同上	博物館展示に用いるOLED照明器具の開発	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
12	同上	時代の先端をいく寒河江の仏像	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅	10月17日	寒河江市教育委員会
13	同上	よろいをまとった仏たち	同上	平成28年1月23日	東京国立博物館　月例講演会
14	同上	春日大社第六十次式年造替記念シンポジウム「平安の正倉院　春日大社」	上席研究員　池田宏	4月19日	春日大社、読売新聞社、奈良県
15	同上	武士の表道具－江戸時代の刀剣外装－	同上	10月7日	千代田区立日比谷図書館
16	同上	意外と知らない東京国立博物館 - 考古資料の収集と活用-	列品管理課主任研究員　古谷毅	10月30日	高知県立歴史民俗資料館　「里帰り！土佐の出土品」展講演会
17	同上	下総西部地方の埴輪 - 鰭ヶ崎三本松古墳出土の埴輪と周辺の埴輪-	同上	12月19日	平成27年度 流山市立博物館・知の講座「市内最大の前方後円墳 鰭ヶ崎三本松古墳に迫る」
18	同上	美術から見た縄文土器―火焔型土器の登場―	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	6月27日	平成27年度十日町市博物館講座
19	同上	How archaeological artefacts became art: Jō mon pottery from modern to contemporary times	同上	9月10日	BAJS Annual Conference 2015
20	同上	日本美術史における縄文土器	同上	12月5日	第16回関西縄文文化研究会研究集会
21	同上	納涼図のひみつ	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	10月18日	サントリー美術館　「逆境の絵師 久隅守景　親しきものへのまなざし」展記念講演会
22	同上	鳥獣戯画甲巻、乙巻、丙巻、丁巻	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	5月1日、5月8日、5月15日、5月22日	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」リレートーク
23	同上	鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝	同上	5月2日	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」記念講演会
24	同上	国宝・鳥獣戯画と明恵上人ゆかりの至宝	同上	5月13日	聖心女子大学文化座講座

25	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	国宝・鳥獣戯画の魅力	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	11月14日	東金図書館教養講座
26	同上	華厳五十五所絵 ―東大寺と華厳の美術―	同上	11月25日	東大寺講演会
27	同上	日本美術／日本文化の新しい展示の模索―東京国立博物館本館のリニューアル構想に向けて―	同上	平成28年1月31日	国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」
28	同上	富士とサクラの絵画	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	4月4日	東京国立博物館　月例講演会（桜セミナー）
29	同上	宗達・光琳・抱一の風神雷神図屏風をめぐって	同上	11月1日	建仁寺両足院多聞会講演会
30	同上	狩野山雪筆「武家相撲絵巻」一巻について	同上	平成28年3月29日	東京文化財研究所企画情報部研究会
31	同上	Spread of Digging Tools and the Social Change in Kofun Period Japan	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　河野正訓	4月16日	SAA(Society For American Archaeology) 80th Annual Meeting
32	同上	古墳時代の農具研究	調査研究課考古室研究員　河野正訓	11月6日	2015年度明治大学大学院佐々木ゼミ特別講演会
33	同上	「大彦」コレクションについて	調査研究課工芸室主任研究員　小山弓弦葉	6月27日	東京国立博物館　月例講演会
34	同上	浴衣の話	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	8月4日	東京国立博物館　みずほプレミアム
35	同上	友禅染の歴史	同上	9月11日	東京手描友禅
36	同上	Fashion in Ukiyo-e	同上	10月30日	国際交流基金シドニー日本文化センター
37	同上	能・狂言装束の歴史と美	同上	11月18日	国立能楽堂
38	同上	染織祭復元時代衣装が語り継ぐ日本の染織	同上	12月19日	神戸ファッション美術館
39	同上	The Relationships between Japanese and Indian textiles	同上	平成28年2月12日	国際交流基金、ニューデリー日本文化センター
40	同上	The Relationships between Japanese and Indian textiles	同上	平成28年2月14日	National Institute of Design (Ahmedabad)
41	同上	津波により被災した漆工芸作品の脱塩処理方法の検討	特任研究員　神庭信幸、漆芸文化財修復　松本達弥、目白漆芸文化財研究所室瀬智弥、陸前高田市立博物館副主幹　熊谷賢、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子、同　實井香那子	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
42	同上	被災文化財等救援活動における保存修理―麻布製カンバスに描かれた油彩画の脱塩の試み	特任研究員　神庭信幸、保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、絵画保存修復　土師広、絵画保存修復　中右恵理子、絵画保存修復　増田久美、保存修復課保存修復室非常勤職員　本茉莉江	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
43	同上	歴史的建造物における展示環境改善の取り組み―風除室の効果の検証―	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	6月27日	文化財保存修復学会
44	同上	東京国立博物館蔵 渡辺崋山筆《坪内老大人像画稿（１幅 紙本墨画淡彩）》の修理事例―貼紙のある掛軸装の修理後の装丁について	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー平河智恵、同　下田純平、君嶋隆幸	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
45	同上	博物館における温湿度環境の評価方法とその活用	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
46	同上	文化財の梱包および輸送の実際と安全性評価	保存修復課環境保存室長和田浩	7月2日	日本包装学会第24回年次大会
47	同上	文化財防災ネットワークの構築を目指す	同上	12月29日	文化財保存修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える-東日本大震災で被災した文化財を考える」
48	同上	博物館における環境特性データの３Ｄ化を通じた文化財の被災リスク早期把握	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	8月27日	2015東アジア文化遺産保存シンポジウムin奈良
49	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎	森鴎外による帝室博物館蔵書調査に関する新知見	博物館情報課長　田良島哲	6月7日	アート・ドキュメンテーション学会

	的な資料整理と調査研究				
50	同上	森鷗外と正倉院	同上	11月1日	奈良国立博物館「正倉院学術シンポジウム2015」
51	特別展等の開催に伴う調査研究	New Trends / New Markets for International Exhibitions ToursOrganizing Exhibitions in/with China	企画課国際交流室長　鬼頭智美	4月23日	国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）
52	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する調査研究	Seismic mitigation in Japan collections	特任研究員　神庭信幸	4月14日	International Symposium on Advances of Protection Devices for Museum Exhibits
53	同上	これからの文化財防災と保存科学	同上	9月20日	日本文化財科学会公開講演会シリーズ『文化遺産と科学』
54	同上	博物館資料の地震対策	同上	11月25日	中韓日連携災害地研修会
55	博物館の環境保存に関する研究	鶏卵紙に用いられている彩色材料について～旧江戸城写真帖を中心に	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、学芸研究部登録室アソシエイトフェロー関紀子、学芸研究部調査研究課長　田沢裕賀	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
56	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
57	同上	Conservation & Preservation of Color Photographs	保存修復課調査分析室長荒木臣紀	8月11日	2015 Workshop：Conservation & Preservation of Color Photography,台中市
58	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸	8月28日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
59	同上	文化財分野におけるエックス線CT利用の現状と今後	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛	12月11日	現物融合型エンジニアリング専門委員会
60	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸、国立科学博物館　坂田智佐子	6月27日	文化財保存修復学会
61	同上	高出力大型X線CT撮影装置の文化財分野への導入と臨床保存への活用	保存修復課調査分析室長荒木臣紀、保存修復課調査分析室アソシエイトフェロー　宮田将寛、特任研究員　神庭信幸、国立科学博物館　真鍋真、同　坂田智佐子、ツォクト・バートル	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
62	同上	東京国立博物館における保存修復活動の進化と現状について	特任研究員　神庭信幸	11月13日	全国美術館会議保存研究部会第46回会合
63	博物館環境デザインに関する調査研究	博物館の展示デザインと施工の実際 ―東京国立博物館・東洋館の展示改修を中心に	企画課デザイン室長　木下史青	6月11日	三越伊勢丹プロパティ・デザイン安全衛生協力会
64	同上	光をまとうと ―お茶つながりがおもしろい vol.6	企画課デザイン室長　木下史青、大日本茶道学会副会長　田中仙堂	8月29日	大日本茶道学会　三徳庵
65	同上	多用な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成	企画課デザイン室長　木下史青、横浜国立大学教授　小野康男、鳴門教育大学教授　山木朝彦、埼玉大学教授　小澤基弘、横浜国立大学教授　渡辺邦夫	9月20日	日本教育大学協会全国美術部門、大学美術教育学会
66	同上	<art-Link上野-谷中>1997-2014 archive 刊行記念シンポジウム	企画課デザイン室長　木下史青、たいとう歴史都市研究会　椎原晶子、東京藝術大学准教授　中村政人、デザイナー　鈴木真梧	7月5日	アートリンク事務局
67	同上	日本文化と進化する展示照明デザイン	企画課デザイン室長　木下史青	平成28年3月10日	日本経済新聞社 文化事業局 イベント事業部
68	博物館教育に関する調査研究	東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	7月5日	文化庁主催「第９回　企画・展示セミナー」
69	同上	東京国立博物館におけるボランティア制度の現状と課題	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	平成28年2月17日	埼玉県博物館連絡協議会南部地域第3回研修会
70	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	東京国立博物館デジタルライブラリーについて	博物館情報課情報管理室長　村田良二	11月14日	アート・ドキュメンテーション学会2015年度秋季研究発表会
71	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	始皇帝が夢見た「永遠」-兵馬俑と発掘品から読み解く-	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	10月31日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」記念講演会

72	同上	基調講演　秦王朝と兵馬俑の考古学	同上	12月19日	特別展「始皇帝と大兵馬俑」開催記念国際シンポジウム　秦王朝と兵馬俑　－発掘された歴史の実像－
73	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	板谷家伝来資料と住吉・板谷家の仏教絵画制作	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	9月26日	美術史学会東支部例会
74	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	院政期の美術―後白河院と絵巻を中心に―	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	7月4日	多摩美術大学連続講座「世紀を歩く―美術と文化Ⅴ：12世紀」
75	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究	聖徳太子絵伝鑑賞の場　―瑞泉寺本聖徳太子絵伝を考えるために―	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	6月7日	井波絵解きフォーラム「南砺の聖徳太子信仰と絵解き文化を探る」
76	同上	聖徳太子絵伝に描かれた東国―富士山を中心に―	列品管理課平常展調整室主任研究員 土屋貴裕	平成28年3月20日	第3回富士山世界遺産セミナー
77	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	「社寺参詣曼荼羅」としての聖絵	同上	11月15日	「国宝 一遍聖絵」展特別展開催記念シンポジウム「一遍聖絵の全貌」
78	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	古墳出土の刀剣の柄巻きと鞘巻きの繊維の種類と仕様について	客員研究員　澤田むつ代	12月6日	「古代武器研究会」
79	同上	正倉院所在の法隆寺献納宝物の綾幡足等について	同上	4月7日	東京国立博物館　ギャラリートーク
80	同上	正倉院所在の法隆寺献納宝物染織品―錦と綾を中心に―	同上	平成28年2月20日	「聖徳太子に学ぶ会」
81	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	10月16日	国際シンポジウム「古代仏塔舎利荘厳と東アジア仏教文化」（於ソウル古宮博物館）
82	極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究－	古代中国の極薄青銅器にみる製作痕分析-３次元計測、蛍光Ｘ線分析を踏まえて-	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、保存修復課環境保存室長　和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一	5月24日	日本考古学協会平成27年度大会
83	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	初期博物館と外国博物館の文化財交換事業	調査研究課考古室長　白井克也	12月9日	韓国国立中央博物館
84	同上	「館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換」	同上	平成28年3月17日	公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」
85	同上	「東京国立博物館のふたつの「羊図」について」	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	同上	同上
86	同上	「ラベルからたどる明治期の文化財の移動」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	同上	同上
87	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	西アジアに出現した大帝国の支配をさぐる：テル・レヘシュ第9次発掘調査（2015年）	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造、天理大学准教授　橋本英将、天理大学教授　桑原久男、古代オリエント博物館研究員　津本英利	平成28年3月26日	日本西アジア考古学会
88	七仏薬師信仰とその造像に関する研究	比叡山延暦寺根本中堂の薬師如来像とその模刻	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	10月31日	第635回れきはく講座（於大津市歴史博物館）
89	文化財防災に関する調査研究	Rescuing Japan’s Cultural Heritage	総務部長　栗原祐司 京都国立博物館アソシエイトフェロー　マリサ・リンネ	4月28日	AAM 2015 Annual Meeting, Atlanta
90	同上	The Involvement of Japanese University Museums in the Rescue and Conservation of Cultural Properties: Presenting Two Cases from Japan	総務部長　栗原祐司 国際基督教大学湯浅八郎記念大学博物館　福野明子	5月14日	ICOM-UMAC 2015 Annual Meeting, Manila
91	同上	文化財防災ネットワークの構築	総務部長　栗原祐司	6月10日	平成２７年度全国博物館長会議
92	同上	A Perspective on “Cultural Heritage and Disaster Resilient Communities” in Japan	同上	12月4日	ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City
93	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	スポーツ資料の保存管理の課題	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	6月7日	アート・ドキュメンテーション学会2016年大会
94	同上	The issue of preservation management of sports documentation in Japan	同上	9月7日	ICOM-ＣＩＤＯＣ 2015 Annual Meeting, Ｎｅｗ Ｄｅｌｈｉ
95	同上	上野「文化の杜」新構想	総務部長　栗原祐司	12月7日	中華民國博物館學會「博物館聚落與文化景觀國際論壇講座」
96	ミュージアム・マネージメントに関する調査研究	歌に見るミュージアム	同上	6月7日	日本ミュージアム・マネージメント学会第20回大会
97	同上	State-of-the-Art Technology in Museum Security and Current Issues in Japan	総務部長　栗原祐司 総務課アソシエイトフェロー　岩田侑利子	10月20日	ICOM-ICMS 2015 Annual Meeting, Zhengzhou

98	同上	The current issues of National Museums in Japan	総務部長　栗原祐司	10月29日	ICOM-INTERCOM 2015 Annual Conference, Washington D.C.
99	我が国の博物館の国際発信に関する調査研究	ICOM京都大会の開催について	総務部長　栗原祐司	6月26日	第18回大学博物館等協議会総会
100	同上	展示と国際化	総務部長　栗原祐司	9月11日	日本展示学会展示論講座
101	我が国の博物館法制度に関する調査研究	日本の博物館の現状と課題	総務部長　栗原祐司	7月4日	台湾博物館法研究会
102	Museum Management	Cultivating Museum Visits in Young Audiences: A case study on audience development at the Tokyo National Museum	Yasuhiro Sekiya Chief Officer Business Development	10月26日	MPR 2015 Almenia Conference

【京都国立博物館】16件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	書画の革命・革命の書画	列品管理室主任研究員 呉孟晋	4月11日	天門美術館（大阪・枚方）「于右任書法名品展」関連講座
2	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	中国近現代絵画於日本的情況	列品管理室主任研究員 呉孟晋	5月9日	香港中文大学文物館「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画」展専題講座
3	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	呉譲之花卉雑画中的交友関係:以日本収蔵作品為中心	列品管理室主任研究員 呉孟晋	10月28日	マカオ芸術博物館「呉趙風流：呉譲之、趙之謙書画印学術研討会」
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「蒔絵の魅力」	列品管理室主任研究員 永島　明子	5月10日	川西市茶道協会　2015年総会講演会
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	若冲と18世紀の上方画壇	美術室研究員　福士雄也	2月27日	徳島市立徳島城博物館
6	陶磁に関する調査研究	戦国・桃山文化の華　茶の湯	工芸室研究員　降矢　哲男	6月6日	レイクアルスタープラザカワサキ泉佐野市市民大学講座　大阪夏の陣・樫井合戦に想いをはせて
7	陶磁に関する調査研究	茶の湯と考古学	工芸室研究員　降矢　哲男	10月4日	さかい利晶の杜　企画展　「まちを掘る」　-発掘40年と茶道具逸品の数々-　講演会
8	陶磁に関する調査研究	「中世の喫茶文化―出土する茶道具の様相とその価値観―」	工芸室研究員　降矢　哲男	12月19日	レキシルとくしま　2015発掘徳島講演会
9	特別展覧会「琳派　京を彩る」に関する調査研究	「琳派を飾る　展覧会から見えるもの」	教育室長　山川　暁	9月13日	京都ミュージアムズ・フォー4館連携フォーラム
10	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に係る調査研究	琳派の流れと広がり―江戸琳派を中心に―	美術室研究員　福士雄也	6月24日	国際京都学協会研究会
11	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に係る調査研究	琳派―「継承」と「変奏」の諸相	美術室研究員　福士雄也	7月25日	ジャポニスム学会例会
12	特別展覧会「禅　心をかたちに」に関する調査研究	「南北朝時代の袈裟観」	教育室長　山川　暁	8月30日	仏教美術研究　上野記念財団　シンポジウム
13	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	「絵巻を楽しむ―『鳥獣人物戯画』を中心に―」（複製を活用した鑑賞体験）	研究員　水谷亜希	6月12日	京都市教育委員会・京都市図画工作教育研究会　授業実践力向上講座
14	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究	博物館の原点回帰	研究員　水谷亜希	28年2月7日	こども光プロジェクト研究交流会 in Kyoto 2016
15	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	「Textile Arts　展覧会が導く染織史研究」	教育室長　山川　暁	28年2月6日	美術史学会西支部大会
16	収蔵品の管理・展示にかかる調査研究	「平成知新館と展示環境」	列品管理室主任研究員 永島明子	28年2月3日	欧州・米国ミュージアム日本美術専門家連盟交流事業

【奈良国立博物館】　51件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	和紙の歴史	館長　湯山賢一	7月26日	第六十五回法隆寺夏季大学（講演）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	同上	和紙の料紙と変遷	同上	8月21日	浅草寺「仏教文化講座」
3	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展 -歴史と見どころ-	同上	9月23日	正倉院フォーラム2015大阪　基調講演
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	経典と料紙	同上	10月3日	四天王寺秋季大学（講演）
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良国立博物館と正倉院展の伝統	同上	11月1日	古典の日記念　正倉院学術シンポジウム２０１５「正倉院と奈良国立博物館～１２０年の歩み」
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良時代の仏教工芸の魅力―正倉院宝物を中心に	学芸部長　内藤栄	5月3日	白鶴美術館
7	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳美術の魅力と特徴	同上	7月23日	ＮＨＫ公開講演会(於:高槻市生涯学習センター)
8	同上	白鳳美術の魅力と特徴	同上	8月7日	ＮＨＫ公開講演会(於:生駒市コミュニティセンター)
9	同上	白鳳文化と薬師寺	同上	8月23日	薬師寺まほろばの集い講演(於:奈良国立博物館)
10	同上	白鳳寺院を飾った工芸	同上	9月5日	公開講座(於：奈良国立博物館)
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	せいぶ正倉院講座	同上	10月27日 10月31日	講演会（於：奈良市西部公民館）
12	同上	奈良国立博物館の歴史と展示について	同上	12月19日	奈良公園特区通訳案内士育成研修（於：奈良県商工会議所）
13	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	東大寺・僧形八幡神像の再検討	上席研究員　岩田茂樹	6月3日	奈良女子大学古代学学術研究センター月例研究会（於：奈良女子大学）
14	同上	仏像の見方とその魅力－奈良国立博物館の展示を通じて－	同上	6月27日	於．名張市桔梗が丘公民館
15	同上	白鳳の童形仏とその周辺	同上	9月19日	於．奈良国立博物館
16	同上	東大寺僧形八幡神坐像・再説	同上	11月30日	奈良国立博物館サンデートーク
17	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳仏の魅力と謎	情報サービス室長　岩井共二	7月31日	NHK公開講演会(於：芦屋ルナ・ホール)
18	同上	白鳳仏の源流	同上	8月19日	奈良国立博物館 夏季講座「白鳳―歴史と美術―」(於：奈良県文化会館)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	偏杉をめぐって	同上	10月11日	奈良国立博物館サンデートーク
20	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	出羽の鏡像	工芸考古室長　清水健	6月21日	奈良国立博物館サンデートーク
21	同上	秋田県の鏡像	同上	8月2日	平成２７年度後三年合戦沼柵公開講座「清原氏と平安のかがみ――秋田県の鏡像と後三年合戦――」（於：雄物川コミュニティセンター）
22	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物に親しむ―その魅力と楽しみ方	同上	10月3日	正倉院展の楽しみ方～まほろばの集いIN名古屋～（於：名古屋市博物館）
23	同上	正倉院の仏具とその収納箱	同上	11月3日	第６７回　正倉院展公開講座（於：奈良国立博物）
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	垂迹する聖地―中世日本の補陀落山表象の諸様態を例として―	同上	12月23日	科学研究費　基盤研究（B）「東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態」第３回ワークショップ（於：京都大学人文科學研究所）
25	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X線CTによる非破壊調査～	保存修理指導室長　鳥越俊行	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
26	同上	虫害を受けたイユタニ（杵）の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	同上	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
27	同上	トゥキ（杯）とイタンキ（椀）との比較－容量に注目して－	同上	6月27日 6月28日	文化財保存修復学会（於：京都工芸繊維大学）
28	同上	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
29	同上	X線CTスキャナを用いた国宝「初音の調度」 帯箱・櫛箱の構造調査	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
30	同上	画像認識を用いた木質文化財の樹種判定システムの構築	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
31	同上	奈良国立博物館における文化財保存修理所の取り組み	同上	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良（於：奈良春日野国際フォーラム甍）
32	同上	文化財におけるＸ線の利用 ―Ｘ線ＣＴを中心に―	同上	9月25日	第177回Ｘ線材料強度部門委員会（於：奈良春日野国際フォーラム甍）
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	ＣＴとは何か ～原理と撮影手法～	同上	12月19日	九州国立博物館10周年記念シンポジウム「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」（於：九州国立博物館）
34	同上	文化財を科学するⅡ	同上	8月16日	奈良国立博物館サンデートーク
35	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の大般若経書写 ―安倍小水麻呂願経を中心に―	企画室長　野尻忠	4月25日	公開講座（於：奈良国立博物館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
36	同上	慈光寺伝来の法華経と大般若経について	同上	11月8日	特別展「慈光寺―国宝 法華経一品経を守り伝える古刹」記念講演会（於：埼玉県立歴史と民俗の博物館）
37	同上	額田寺伽藍並条里図について ～地域史再発見～	同上	11月29日	於：大和郡山市昭和地区公民館
38	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	奈良の技師が生んだ名建築～探訪、仏教美術資料研究センター	資料室長　宮崎幹子	4月26日	奈良ひとまち大学授業（於：奈良国立博物館）
39	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	同上	6月9日 12月8日	同志社大学
40	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月5日 12月12日 12月20日	京都府立大学
41	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	白鳳の考古学―古墳の終焉を考える―	列品室長　吉澤悟	8月7日	主催：NHKプラネット近畿　於：宇治市生涯学習センター
42	同上	古墳が消えた時代―墓制からみた社会の変化と白鳳文化―	同上	8月19日	第44回夏季講座「白鳳―歴史と美術―」
43	同上	薬師寺 日光・月光菩薩を飾ったガラスの装身具―シルクロードとガラスの文化史―	同上	8月30日	第２回 “白鳳時代”を考える
44	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	平安時代の密教修法	研究員　斎木涼子	7月19日	奈良国立博物館サンデートーク
45	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	東大寺僧の伊勢神宮参詣―その歴史的背景	同上	9月20日	東大寺要録研究会報告（於：金鐘会館）
46	同上	室町時代後期の當麻寺再興と宿院仏師	研究員　山口隆介	5月17日	奈良国立博物館サンデートーク
47	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	快慶の軌跡と造像	同上	9月26日	市民教養講座「歴史講座」（鎌倉時代の信仰と美術１）（於：姫路市民会館大ホール）
48	同上	鎌倉時代の南都再興と運慶・快慶	同上	11月28日	霊山寺塾（於：霊山寺）
49	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	海水被害を受けた被災紙資料の保存処理 ～フィリピン共和国タクロバン市の台風被害の事例から～	研究員　大江克己	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
50	同上	江戸時代に製作された柄鏡の蛍光Ｘ線分析	同上	7月11日 7月12日	日本文化財科学会（於：東京学芸大学）
51	同上	日本国内出土馬具の力学的構造解釈- 古墳時代の鉄地金銅製鞍金具を中心として-	同上	8月28日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良（於：奈良春日野国際フォーラム甍）

【九州国立博物館】　34件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	日本近世の漆芸品に関する基礎的研究	「国宝　初音の調度の魅力」	文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子	4月11日	徳川美術館・蓬左文庫開館80周年記念春季特別展「全点一挙公開　国宝初音の調度―日本一の嫁入り道具」記念講演会（会場：徳川美術館）
2	壁画に関する高精細画像集成と活用に関する研究	壁画墓室内空間の高精細画像生成と展示用モデル	学芸部特任研究員　臺信祐爾	5月23日	第2回京都大-ボルドー大学共催シンポジウム　文化財化学分科会（会場：京都大学）
3	文化財の材質・構造等に関する共同研究	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X 線 CT による非破壊調査～	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、東京藝術大学　矢野健一郎、博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、展示課課長　楠井隆志	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）4
4	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	木造彫刻に使用された釘の変遷 ～X 線 CT による非破壊調査～	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、東京藝術大学　矢野健一郎、博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、展示課課長　楠井隆志	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
5	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	開口部における文化財害虫の発見とその対応	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、学芸部特任研究員　本田光子、博物館科学課課長　今津節生、博物館科学課研究補佐員　光山文枝、博物館科学課　伊藤理恵、環境文化創造研究所　川越和四、 イカリ消毒（株）　櫻井伸一、環境文化創造研究所　山﨑久美子	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
6	文化財の材質・構造等に関する共同研究	トゥキ（杯）とイタンキ（椀）との比較検討 ―容量に注目して―	北海道開拓記念館小林幸雄、北海道開拓記念館　杉山智昭、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
7	文化財の材質・構造等に関する共同研究	虫害を受けたイユタニ（杵）の劣化診断および生物劣化に関する現況調査	北海道開拓記念館　杉山智昭、北海道開拓記念館小林幸雄、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、平取町立二風谷アイヌ文化博物館　長田佳宏	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
8	文化財の材質・構造等に関する共同研究	複合材料で制作された絵画に発生した劣化生成物について	東京藝術大学　鈴鴨富士子、東京藝術大学　蔵品真理、東京藝術大学　金　鐘旭、博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子	6月27日	第37回文化財保存修復学会大会（会場：京都工芸繊維大学）
9	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	ベンガラ粒子の形態かたみた北関東の前期古墳出土の丹塗土器について	博物館科学課保存修復室主任研究員　志賀智史	7月11日、12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
10	文化財の材質・構造等に関する共同研究	3Dプリンタの博物館への応用	博物館科学課環境保全室研究補佐員　田中麻美、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
11	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Ｘ線ＣＴスキャナを用いた国宝「初音の調度」 帯箱・櫛箱の構造調査	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、徳川美術館　吉川美穂、文化財課主任研究員　川畑憲子、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
12	文化財の材質・構造等に関する共同研究	文化財用X線CTの輝度情報を用いた木材樹種調査への応用	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、京都大学　杉山淳司、京都大学　小林加代子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
13	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	文化財用X線CTの輝度情報を用いた木材樹種調査への応用	博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、京都大学　杉山淳司、京都大学　小林加代子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）

14	文化財の材質・構造等に関する共同研究	X線CTを用いた鋳型の構造調査	博物館科学課課長　今津節生、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、春日市教育委員会　森井千賀子、鋳物師遠藤喜代志、九州歴史資料館　加藤和歳、福岡大学　武末純一、國學院大學　柳田康雄	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
15	文化財の材質・構造等に関する共同研究	画像認識を用いた木質文化財の樹種判定システムの構築	京都大学　小林加代子、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、博物館科学課課長　今津節生、奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、京都大学　杉山淳司	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
16	文化財の材質・構造等に関する共同研究	Ｘ線ＣＴスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る調査（Ⅱ）－福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物の有機質情報および埋納方法の復元に向けて－	九州歴史資料館　加藤和歳、九州歴史資料館　小林　啓、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、(株)とっぺん　村上浩明、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会　甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
17	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	Ｘ線ＣＴスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る調査（Ⅱ）－福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物の有機質情報および埋納方法の復元に向けて－	九州歴史資料館　加藤和歳、九州歴史資料館　小林　啓、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、(株)とっぺん　村上浩明、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会　甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
18	文化財の材質・構造等に関する共同研究	三元素同位体分析法から見えてきた遺跡出土朱の産地推定	近畿大学　南武志、近畿大学　河野摩耶、福井市埋蔵文化財保護センター　高橋和也、国立環境研究所　武内章記、奈良県立橿原考古学研究所　奥山誠義、奈良県立橿原考古学研究所　菅谷文則、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
19	文化財の材質・構造等に関する共同研究	出土木製品保存処理の省コスト化・省エネルギー化に向けた研究（その１）－自然エネルギーを用いたトレハロース含浸処理法の研究－	大阪文化財研究所伊藤幸司、大阪文化財研究所　藤田浩明、博物館科学課課長　今津節生	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
20	文化財の材質・構造等に関する共同研究	福岡県古賀市船原古墳遺物埋納坑出土資料の保存科学的調査	九州歴史資料館　小林　啓、九州歴史資料館　加藤和歳、博物館科学課課長　今津節生、合同会社２bit　輪田　慧、古賀市教育委員会　森下靖士、古賀市教育委員会甲斐孝司、九州歴史資料館　横田義章	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
21	文化財の材質・構造等に関する共同研究	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生、交流課主任研究員　進村真之、神戸市立博物館　橋詰清孝、菅本宏明、合同会社２bit　輪田　慧、福岡県立太宰府高等学校　池内一誠、奈良県立橿原考古学研究所　北井利幸	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
22	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈の科学調査	奈良国立博物館学芸部保存修理指導室室長　鳥越俊行、博物館科学課課長　今津節生、交流課主任研究員　進村真之、神戸市立博物館　橋詰清孝、菅本宏明、合同会社２bit　輪田　慧、福岡県立太宰府高等学校　池内一誠、奈良県立橿原考古学研究所　北井利幸	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
23	文化財に使用された彩色材料に関する画的調査法の検討	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究３	博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、企画課特別展室研究員　森實久美子	7月12日	第32回日本文化財科学会（会場：東京学芸大学）
24	壁画に関する高精細画像集成と活用に関する研究	壁画墓室内空間の高精細画像生成と展示用モデル	特任研究員　臺信祐爾	8月25日、26日	文化遺産デジタル化セミナー（会場：ミャンマー　ヤンゴン大学）
25	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究	マイクロＸ線ＣＴスキャナを用いた彩色文化財の構造調査	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良文化財研究所　高妻洋成	8月27日	2015 International Symposium on Conservation od East Asian Cultural Heritage in Nara
26	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法	マイクロＸ線ＣＴスキャナを用いた彩色文化財の構造調査	博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　金旻貞、博物館科学課環境保全室アソシエイトフェロー　赤田昌倫、奈良文化財研究所　高妻洋成	8月27日	2015 International Symposium on Conservation od East Asian Cultural Heritage in Nara

27	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	世界の水中遺跡の調査・保存・活用	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	8月29日	平成27年度宇検村倉木崎海底遺跡シンポジウムKURAKIZAKI2015　－倉木崎海底遺跡の魅力をさぐる
28	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	事例報告１　九州国立博物館における ＩＰＭ研修について	博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	11月5日	公開承認施設担当者会議
29	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	オランダ商船ファン・ボッセ号の考古学的検証	博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	11月30日	沖縄県宮古郡多良間村　平成27年度調査報告会
30	日本近世の漆芸品に関する基礎的研究	「江戸時代の輸出漆器」	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	12月5日	西南学院大学博物館特別展「南蛮～昇華した芸術～」 関連記念講演会（会場：西南学院大学博物館）
31	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	室町・戦国期の対馬と壱岐―海域の秩序をめぐる政治史	国立歴史民族博物館研究部准教授（前当館資料登録室主任研究員）荒木和憲	12月13日	九州史学会大会日本史部会 （会場：九州大学）
32	Ｘ線ＣＴスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究	Ｘ線ＣＴを核にした文化財研究の新基盤	博物館科学課課長 今津節生	12月19日	九州国立博物館10周年シンポジウム「Ｘ線ＣＴを用いた文化財の研究と活用」
33	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究	Discovery and Future of the Lost Fleet of the Mongol Empire	琉球大学法文学部教授 池田栄史 博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞	1月8日	Society for Historical Archaeology （Washington D.C.）
34	タイにおける異文化の受容と変容－13世紀から18世紀の対外交易品を中心として－	大谷大学博物館所蔵貝葉経包裂と日タイ交流について	企画課特別展室長 原田あゆみ	3月17日	公開研究会「大谷大学所蔵タイ王室寄贈パーリ語貝葉写本の世界」

【東京文化財研究所】計76件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（22件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究	文化財情報における専門的アーカイブの構築―東京文化財研究所の取り組み	副所長　田中淳、企画情報部主任研究員　皿井舞	6月9日	2015年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会
2	文化財の資料学的研究	黒田清輝宛岡田三郎助書簡　翻刻と解題	福岡県立美術館学芸課学芸員　高山百合	8月30日	東京文化財研究所企画情報部研究会
3	同上	岡田八千代の小説から見た岡田三郎助像	佐賀県立博物館・佐賀県立美術館副館長　松本誠一	同上	同上
4	同上	「かたち」の生成をめぐって―イケムラレイコの場合	企画情報部長　山梨絵美子、主任研究員　皿井舞	6月9日	東京文化財研究所公開対談
5	近現代美術に関する交流史的研究	住友春翠と近代美術　黒田清輝の支援者	副所長　田中淳	11月21日	新居浜市美術館講演会
6	同上	近代日本美術の基層をめぐって―岸田劉生を中心に	同上	28年3月1日	東京文化財研究所総合研究会
7	同上	美術商林忠正―欧米と日本の異なる「美術」概念のはざまで	企画情報部長　山梨絵美子	10月24日	ハイデルベルク大学東アジア美術研究所国際シンポジウム
8	同上	ベレンソンと矢代幸雄をつなぐ両洋の美術への視点	同上	28年1月13日	東京文化財研究所企画情報部研究会「美術史家矢代幸雄における西洋と東洋」
9	同上	黒田清輝の画業―美術で社会を変える試み	同上	28年3月26日	東京国立博物館講演会
10	同上	近代歴史画の魅力	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　塩谷　純	5月16日	井原市立田中美術館講演会
11	同上	近代日本画を支えた人たち	同上	28年3月21日	川越市立美術館講演会
12	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	絹生産における在来技術について	志村明・秋本賀子	9月29日	第5回企画情報部研究会
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	地拍子の古態―早歌からの継承―	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	6月21日	能楽学会
14	同上	楽劇研究と絵画資料	同上	6月28日	楽劇学会
15	同上	能の復元的上演の可能性―「能」を現代に蘇らせる手法―	同上	10月25日	日本演劇学会
16	同上	明治以前の謡とアクセント	同上	12月18日	第10回無形文化遺産部公開学術講座
17	同上	楽器行脚20年	同上	28年1月12日	東京文化財研究所総合研究会
18	同上	染織技術の伝承　その現状と課題―熊谷と京都を事例として―	無形文化遺産部研究員　菊池理予	11月11日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ
19	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	神楽の歴史と鷺宮咲前神社太々神楽	無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	10月24日	鷺宮咲前神社太々神楽奉納二百年記念式典
20	同上	生きた文化財を継承する―無形文化遺産と被災・復興	無形文化遺産部研究員　今石みぎわ	10月25日	東北大学東北アジア研究センター
21	同上	小正月を彩るツクリモノの世界	同上	12月13日	第6回 儀礼文化講座
22	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	ユネスコ無形文化遺産条約をめぐる近年の動向	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	28年2月18日	東京文化財研究所研究会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（0件）

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（31件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	虎塚古墳公開保存施設の管理方法変更による微生物汚染状況の推移	保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、主任研究員　犬塚将英、主任研究員　森井順之、矢島國雄、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか	6月27、28日	文化財保存修復学会第37回大会
2	同上	低酸素濃度殺虫法―25℃、27.5℃、30℃における処理期間の検討―	保存修復科学センター研究補佐員　小野寺裕子、小峰幸夫、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか	同上	同上
3	文化財の保存環境の研究	Changing Gas Concentration in a Display Case using Low Emission Materials	客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民、保存修復科学センター副センター長　佐野千絵	28年3月3、4日	12th International Conference - Indoor Air Quality in Heritage and Historic Environments
4	同上	美術館博物館展示ケースの空気環境に関する研究　その2：実験用展示ケースの温湿度推移と分布	客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民、林良典、須賀政晴、保存修復科学センター副センター長　佐野千絵	9月4、5、6日	日本建築学会大会[関東]
5	同上	展示台からの有機酸放散と遮蔽シートによる対策事例の評価	保存修復科学センター副センター長　佐野千絵、客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
6	同上	キトラ古墳の微生物調査結果：発掘直後から埋戻しに至る期間（16年～25年）の微生物相と考察	九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか、喜友名朝彦、立里臨、保存修復科学センター研究員　佐藤嘉則、副センター長　佐野千絵、杉山純多、宇田川滋正、建石徹	7月11、12日	日本文化財科学会第32回大会
7	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	永青文庫所蔵　洋人奏楽図屏風の彩色材料調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治、三宅秀和	同上	同上
8	同上	国宝平等院鳳凰堂内　西面扉の押縁に施された文様及び色彩の想定復元	神居文彰、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、荒木恵信	6月27、28日	文化財保存修復学会第37回大会
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	石人山古墳における石棺装飾の保存に関する調査	保存科学修復センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　森井順之、主任研究員　犬塚将英、研究員　佐藤嘉則、日高翠、九州国立博物館学芸部博物館科学課環境保全室長　木川りか、センター長　岡田健、	6月27日	同上
10	同上	砂岩製文化財の表面風化形態について	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、保存修復科学センター主任研究員　森井順之、西山賢一	9月24、25日	日本応用地質学会平成27年度研究発表会
11	同上	磨崖仏の覆屋内温度環境制御による保存について	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	8月26日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム専門家会議
12	同上	Reconstruction of the shelter for Buddhist image carved on tuff cliff	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、山路しのぶ、伊藤広宣、山村健生、豊田徹士	5月20日	23rd ISCS Meeting, Edhinburgh
13	文化財の防災計画に関する研究	仏像の耐震対策に関する研究　EDEM を用いた実物大実験の解析	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、中川貴文、花里利一	9月4日	2015年度日本建築学会大会学術講演会
14	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	日光社寺文化財の江戸期修理で用いられた金箔復元に関する調査	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、佐藤則武、松村謙一、市川篤、北川和夫	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
15	同上	日光東照宮陽明門西壁面の唐油蒔絵の調査と修理	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、主任研究員　犬塚将英、客員研究員　本多貴之、中右恵理子、武田恵理、何思縁、佐藤則武、浅尾和年	6月28日	同上
16	文化財修復材料の適用に関する調査研究	Scientific Approaches for Adhesives in the Conservation ofJapanese Paintings	保存修復科学センター主任研究員　早川典子	4月9日	The Institute of Conservation,University of London

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	フノリ抽出物の物性に及ぼす抽出条件の影響 - 温度・種・水の硬度-	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、大村卓也、原由宇稀、アソシエイトフェロー　楠京子、日本学術振興会特別研究員　貴田啓子、客員研究員　本多貴之	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
18	同上	ポリビニルアルコール分解酵素におよぼす接着剤および顔料の影響	客員研究員　酒井清文、アソシエイトフェロー　楠京子、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、山本勇人、文化遺産国際協力センター長　川野邊渉	同上	同上
19	同上	麦漆の接着強度評価と銅触媒添加によるミャンマー産漆への応用	保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩、文化遺産国際協力センター任期付研究員　山下好彦、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	7月11、12日	日本文化財科学会第32回大会
20	同上	Effect of malachite corrosion on the moleculer weight distribution of cellulose in lining paper used for color painting on silk	日本学術振興会特別研究員貴田啓子、岡泰央、稲葉政満、保存修復科学センター主任研究員　早川典子、	7月2日	10th International Symposium on Weatherability
21	同上	銅錯体触媒による高乾燥性漆材料の開発とその耐久性評価	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター任期付研究員　山下好彦、保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩	7月4日	マテリアルライフ学会第26回研究発表会
22	同上	紙に付着した粘着テープの劣化	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、研究補佐員　内田優花	6月27日	文化財保存修復学会第37回大会
23	同上	水の硬度がフノリの固化や溶解性に与える影響の検討	保存修復科学センター主任研究員　早川典子、原由宇稀、客員研究員　本多貴之	6月28日	同上
24	同上	脱脂大豆糊の湿潤加熱処理による物性変化―糊塗布紙のヤング率と変色挙動―	大橋有佳、稲葉政満、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	同上	同上
25	同上	東京大学史料編纂所所蔵「落合左平次道次背旗」の保存修理報告	山口悟史、高島昌彦、金子拓、市宮景子、宇都宮正紀、保存科学修復センター修復材料研究室長　朽津信明、主任研究員　早川典子、企画情報部専門職員　城野誠治	6月27日	同上
26	同上	緑青を使用した絹本会がにおける裏打紙の劣化	日本学術振興会特別研究員貴田啓子、岡泰央、稲葉政光、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	同上	同上
27	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	近代文化遺産の保存理念と修復理念	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	28年1月15日	近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会
28	同上	近代文化遺産の保存と修復について	同上	7月28日	シンポジウム「国産旅客機の開発とその意義」
29	同上	近代文化遺産の保存と修復- 産業遺産を中心に	同上	11月6日	全国近代化遺産活用連絡協議会鉄道遺産部会 2015愛知研修大会
30	同上	道具の保存と活用	同上	11月11日	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）
31	同上	韮山反射炉本体の修復に向けて	同上	28年3月5日	第5回伊豆の国市世界遺産シンポジウム

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究発信	世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	4月21日	東京文化財研究所企画情報部研究会

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（22件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	敦煌莫高窟第285窟の壁画劣化に及ぼす砂塵の影響	三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、保存修復科学センター長　岡田　健、蘇伯民	6月27日	平成27年度日本建築学会近畿支部研究発表会
2	同上	敦煌莫高窟第285窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法	保存修復科学センター長　岡田健、客員研究員　渡辺真樹子客員研究員　高林弘実、蘇伯民、崔強	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	同上	敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における構図を決める当たり線の役割に関する研究	三箇山茜、鉾井修一、小椋大輔、保存修復科学センター長　岡田健、蘇伯民	7月12日	日本文化財科学会第32回大会
4	同上	敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係	同上	9月6日	日本建築学会大会（関東）学術講演会
5	同上	Effects of drifting sand particles on deterioration of mural paintings on the east wall of cave 285 in Mogao caves, Dunhuang	同上	6月15日	6th International Building Physics Conference, IBPC 2015, (Turin, Italy)
6	同上	知識科学としての敦煌データベース	保存修復科学センター長　岡田健、同志社大学准教授・客員研究員　津村宏臣	8月25日	2015 Dunhuang Forum:International Conference on Digital Library and Cultural Relics Preservation and Use in the Big Data Environment、敦煌研究院（敦煌）
7	同上	石窟壁画研究ノート―失われた壁画の記憶	保存修復科学センター長　岡田健	10月23日	第2回曲江壁画論壇―壁画芸術史研究及び保護修復技術研究を中心として、曲江芸術博物館（西安）
8	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	3D Documentation at Ta Nei temple	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　佐藤桂	6月4日	アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第24回技術会
9	同上	ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究　その5　版築職人への聞き取り調査	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　佐藤桂、保存計画研究室長　友田正彦、江面嗣人、青木孝義、冨永善啓、宮本慎宏	9月4日	日本建築学会大会学術講演会
10	同上	インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8	マハラジャンアキララル、脇田祥尚、竹内泰、文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　友田正彦、アソシエイトフェロー　佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀、中尾謙太	9月5日	同上
11	同上	インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9	竹内泰、脇田祥尚、文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　友田正彦、アソシエイトフェロー　佐藤桂、張漢賢、後藤沙紀	同上	同上
12	同上	気候変動と文化遺産	無形文化遺産部主任研究員　石村智	28年3月18、19日	第33回日本オセアニア学会研究大会・総会
13	同上	Review of the results of the UNESCO/Japanese FIT project “Support of documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage serial and transnational nomination in Central Asia”, 2011-2014	文化遺産国際協力センター　地域環境研究室長 山内和也	11月	Fourth Meeting of the Coordinating Committee on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads
14	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産の破壊、そして復興：日本の文化遺産国際協力	同上	28年1月24日	東京文化財研究所シンポジウム
15	同上	キルギス共和国における博物館をめぐる課題	同上	7月13日	第21回東アジア・中央アジア分科会
16	同上	イランの建築と文化	文化遺産国際協力センター　地域環境研究室長 山内和也、アソシエイトフェロー　山田大樹	6月4日	平成27年度トルコ文化研究センター研究会
17	同上	Preservation as the Sustainable Historic District	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　山田大樹	9月30日	中央アジア歴史都市会議
18	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復	タジキスタン国立古代博物館におけるフルブック遺跡出土壁画断片の保存修復―壁画断片群のマウント処置と展示―	小川絢子、客員研究員　藤澤明、成田朱美、増田久美、島津美子、文化遺産国際協力センター地域環境研究室長 山内和也	6月28日	文化財保存修復学会第37回大会
19	在外日本古美術品保存修復協力事業	Karibari: The Japanese Drying Tecnique	文化遺産国際協力センター　国際情報研究室長　加藤雅人	4月9、10日	Adapt &Evolve ICON Conference 2015,University of London
20	同上	キンベル美術館所蔵『二十五菩薩来迎図』修復事例報告	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　楠京子、アソシエイトフェロー　山田祐子、国際情報研究室長　加藤雅人	6月27、28日	文化財保存修復学会37回大会
21	同上	シンシナティ美術館所蔵『源氏物語図屏風』修復事例報告	同上	同上	同上
22	同上	絹本、紙本の修復に使用される補彩絵具の変色	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　山田祐子、国際情報研究室長	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			加藤雅人、アソシエイトフェロー　楠京子		

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0件）

【奈良文化財研究所】計77件

〇文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（56件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	『黒草紙』からみた古代中世の薬師寺	歴史研究室長　吉川聡	11月29日	東京大学史料編纂所 共同利用・共同研究拠点 特定共同研究「薬師寺中世史料の研究」公開研究会
2	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月1日	文化庁伝統的建造物群保存地区関係者集会
3	同上	発掘遺構と古代建築を繋ぐ	都城発掘調査部主任研究員 西山和宏	10月26日	奈良文化財研究所東京講演会
4	同上	山田寺倒壊回廊が語る古代建築史	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	10 月 26 日	奈良文化財研究所東京講演会
5	同上	伝統的建造物群保存地区における修理修景	文化遺産部長　林良彦	7月1日	文化庁伝統的建造物群保存地区関係者集会
6	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	平城宮跡の保存と活用	遺跡整備研究室長　内田和伸	12月2日	国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ『新羅月城と世界遺産の調査・研究』
7	同上	近年の隣国古都での遺跡整備	遺跡整備研究室長　内田和伸	28年1月28日	奈良文化財研究所総合研究会
8	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	妙蓮寺玉蓮院庭園と唐招提寺東室庭園 － 昭和期における庭園遺構の移転 －	客員研究員　エマニュエル・マレス	11月8日	日本庭園学会関西大会
9	同上	縁側から庭へ	客員研究員　エマニュエル・マレス	11月11日	京都教育大学『不思議の国の庭園 － 日本の庭再発見』第2回
10	平城宮・京出土遺物と検出遺構の調査研究等	宮都周辺域の冶金関連生産	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	9月5日	日本古代宮都周辺域における手工業生産の分野横断的比較研究(高橋照彦科研Ｂ)　研究会
11	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表	研究員　清野陽一	10月9日	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表
12	同上	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会	研究員　清野陽一	10月12日	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会
13	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	古代鉛釉陶器・施釉瓦の科学分析からみた特徴	主任研究員　降幡順子ほか4名	7月11日	日本文化財科学会第32回大会
14	同上	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の科学的特徴	主任研究員　降幡順子ほか2名	8月26日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良
15	同上	Analytical studies for ancient lead-glaze ceramics excavated in Japan	主任研究員　降幡順子	11月26日	IN-PACE seminar at SOAS, University of London
16	同上	『日本後紀』を考古学で解釈する－弘仁六年正月丁丑条を中心に－	考古第二研究室長　尾野善裕	6月20日	第１１６回公開講演会
17	同上	発掘遺構と古代建築をつなぐ	主任研究員　西山和宏	10月24日	第7回東京講演会「発掘遺構から読み解く古代建築」
18	同上	ウマ駆ける古代日本	研究員　諫早直人	10月24日	第7回東京講演会「発掘遺構から読み解く古代建築」
19	同上	史跡指定と整備の現状	都城発掘調査部長　玉田芳英	12月4日	平成27年度兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会
20	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	日本の文化的景観の保全に関する現状と施策	研究員　惠谷浩子	11月3日	日中大学交流文化遺産国際会議：過去から未来へ－アジア・太平洋地域における建築・遺跡・景観保存の道筋
21	同上	未来へとつなぐ、ふるさとの風景	研究員　惠谷浩子	12月17日	宮島集落景観保全協議会講演会
22	同上	景観資源を生かした地域づくり ―子供たちや孫，そして自分たちのために―	研究員　惠谷浩子	28年2月26日	中川自治振興協議会勉強会
23	同上	文化的景観を活かした地域づくり	研究員　惠谷浩子	28年3月12日	シンポジウム「八女茶が育んできた奥八女の風景～文化的景観から見る農山村景観～」
24	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	日本のガラス40年-考古学・化学的な視点から-	主任研究員　降幡順子	5月30日	日本ガラス工芸学会
25	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	6月27日	日本建築学会近畿支部
26	同上	弥生時代後期におけるガラス玉の地域性に関する考古科学的研究	客員研究員　大賀克彦 研究員　田村朋美	7月10日	日本文化財科学会
27	同上	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の自然科学的研究	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	7月10日	日本文化財科学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
28	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
29	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
30	同上	海洋環境における鉄製遺物の腐食過程　－埋蔵深度が鉄の腐食状態に及ぼす影響－	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他２名	7月10日	日本文化財科学会
31	同上	出土木製遺物の水中保管環境における溶存酸素を低減する方策の検討	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	7月10日	日本文化財科学会
32	同上	古代鉛釉陶器・施釉瓦の化学分析からみた特徴	主任研究員　降幡順子 室長　石橋茂登、部長　玉田芳英　他2名	7月12日	日本文化財科学会
33	同上	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の化学的特徴	主任研究員　降幡順子 部長　玉田芳英　他1名	8月27日	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
34	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	9月6日	日本建築学会
35	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他３名	9月6日	日本建築学会
36	同上	Analytical studies for ancient lead-glazed ceramics excavated in Japan	主任研究員　降幡順子	11月26日	IN-PACE seminar at SOAS
37	同上	出土木製遺物の水中保管時の劣化と溶存酸素量の関係（その１）－屋外水槽の異なる水深で木材を保管した場合－	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	28年3月27日	日本木材学会
38	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	6月27日	日本建築学会近畿支部
39	同上	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	6月27日	日本建築学会近畿支部
40	同上	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
41	同上	平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他3名	7月10日	日本文化財科学会
42	同上	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	9月6日	日本建築学会
43	同上	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	9月6日	日本建築学会
44	同上	Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	11月	Trans Tech Publication
45	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	遼寧省で出土した貴石象嵌指輪とその位置づけ	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー 大谷育恵	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
46	同上	三燕の金工品と倭の金工品	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
47	同上	北票大板営子墓地の造営過程と親族構造についての予察	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬 覚	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
48	同上	遼寧省北票市金嶺寺遺跡出土瓦の調査	都城発掘調査部考古第３研究室長　清野孝之	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
49	同上	北魏洛陽城太極殿等の調査成果	中国社会科学院考古研究所 研究員　銭国祥	28年1月14日	奈良文化財研究所研究会
50	同上	遼寧省で出土した貴石象嵌指輪とその位置づけ	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー 大谷育恵	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
51	同上	三燕の金工品と倭の金工品	都城発掘調査部考古第一研究室研究員　諫早直人	11月25日	2011年～2015年遼西地区東晋十六国時期都城文化研究学術研討会
52	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	‘A Case Study of the Early Theravada Buddhist Temple in Angkor　-Based on the research of the Western Prasat Top- ‘	研究補佐員　佐藤由似	7月3日	The Emergence of Theravada Buddhism in Cambodia: Southeast Asian Perspectives Symposium, SOAS
53	アンコール王朝末期総合的歴史学の構築	Excavation of the Veal Svay Kiln No1: new research of the Khmer brown glazed stoneware	企画調整部長　杉山洋、研究補佐員　佐藤由似	7月7日	15th International European Association of Southeast Asian Archaeologists Conference in Paris
54	同上	‘Consumption and Distribution of Ceramics after Angkor’	研究補佐員　佐藤由似	7月10日	15th International European Association of Southeast Asian Archaeologists Conference in Paris

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
55	同上	カンボジアの鏡雑感	企画調整部長　杉山洋	12月31日	東南アジア考古学会
56	同上	カンボジア、ヴィール・スヴァイ窯の発掘調査	企画調整部長　杉山洋、研究補佐員　佐藤由似	28年3月29日	東南アジア考古学会例会

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（12件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	虫糞や虫粉を用いた放射性炭素年代測定に関する新たな試み	主任研究員　大河内隆之	7月11日	日本文化財科学会
2	同上	年輪年代学の視点から見た鈴木政吉工場製ヴァイオリンの年代測定と産地推定	主任研究員　大河内隆之、安江恒	7月11日	日本文化財科学会
3	同上	X線CTを用いた東北地方民家所蔵漆器の非破壊年輪計測と産地推定	鈴木伸哉、大山幹成、研究員　星野安治	7月11日	日本文化財科学会
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	東海地方における縄文・弥生移行期の動物資源利用	研究員　山崎健	4月25日	近江貝塚研究会第258回例会
5	同上	動物遺体から見た文化誌	研究員　山崎健	6月27日	生き物文化誌学会第13回学術大会
6	同上	宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体	研究員　山崎健、アソシエイトフェロー　松崎哲也	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
7	同上	縄文時代前半期の東北地方におけるマグロ漁とその利用	アソシエイトフェロー　松崎哲也、研究員　山崎健	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
8	同上	3D骨格図譜データベースの構築	客員研究員　菊地大樹、客員研究員　松井章	7月4-5日	日本動物考古学会第3回大会
9	同上	奈良文化財研究所における災害痕跡への取り組み	研究員　山崎健	8月8日	トニー・ブラウン博士講演会　災害考古学の現状と展望
10	同上	3D骨格図譜データベースの公開と活用	客員研究員　菊地大樹ほか	10月11日	日本人類学会第69回大会
11	文化財に関するデータベースの充実	地理情報標準に準拠した時間属性定義の拡張	文化財情報研究室長　森本晋ほか	10月10日	日本地理情報システム学会
12	文化財に関するデータベースの充実	Creating Archaeo-Ontology based on the Archaeological Inventory	文化財情報研究室長　森本晋ほか	11月13日	文化研究への科学技術の応用に関する国際研究会

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（0件）

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（9件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査及び研究の推進	Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan	主任研究員　降幡順子	6月3日	UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings
2	同上	古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ	主任研究員　石橋茂登ほか1名	10月18日	古代人が見た星宙～キトラ古墳に学ぶ天文学のすすめ
3	同上	プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～	主任研究員　石橋茂登、再雇用職員　井上直夫	11月8日	プラネタリウムで考古学～キトラ古墳の星空が語るもの～
4	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	宮城県波怒棄館遺跡から出土した動物遺存体	研究員　山崎健ほか1名	7月5日	日本動物考古学会第3回大会
5	災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画	土が報せるさまざまな出来事 ～減災に向けて考古学の新たな挑戦～	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年1月30日	奈良文化財研究所総合研究会（第25回）
6	同上	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山噴火に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月2日 －3日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測計画」平成26年度成果報告シンポジウム、 ポスター発表
7	同上	考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年3月28日	人文科学における災害情報の共有化に関する研究会 （大学共同利用機関法人人間文化研究機構・研究資源共有化事業委員会）
8	同上	文化財から読み解く災害の歴史	アソシエイトフェロー 村田泰輔	27年12月6日	京都国立博物館「文化財防災ネットワーク推進事業」講演会
9	同上	考古資料および文献資料から見た過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開	遺跡・調査技術研究室長 小池伸彦	28年3月16日	「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」平成27年度成果報告シンポジウム

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】計3件

○アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究（3件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	紛争後の無形文化遺産の調査:スリランカを中心に	副所長　大貫美佐子	27年10月28日	ICOMOS ICICH部会Round Table

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
2	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	無形文化遺産保護研究のマッピング事業を通じたアジア太平洋地域の無形文化遺産保護研究の分析と課題	アソシエイトフェロー 児玉茂昭	28年2月29日	文化遺産国際協力コンソーシアム第49回企画分科会
3	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	スリランカ及び東ティモールを事例とする紛争・内紛後の「復興の基軸」としての無形文化遺産の再活性化	副所長　大貫美佐子	28年3月4日	ICOMOS Collquium “Post-Trauma Reconstruction”

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
13件	11 件	1件	2件	1件	7件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1 件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進室			
	0 件	1 件			

【東京国立博物館】

○特別展「始皇帝と兵馬俑」シンポジウム　『秦王朝と兵馬俑―発掘された歴史の実像―』
- 開 催 日　12月19日
- 開催場所　東京国立博物館平成館大講堂
- 主　　催　東京国立博物館
- 参加人数　284人
- 事業内容　始皇帝陵および秦朝研究において最前線の研究者を招き、始皇帝が表現しようとした世界の意味を読み解くためのシンポジウムを開催。

【京都国立博物館】

○記念シンポジウム『仏法東漸　釈尊の教えとそのひろがり』
- 開 催 日　8月29日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　京都国立博物館、京都仏教各宗学校連合会
- 参加人数　107人
- 事業内容　特別展観『第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―』にあわせて開催し、４名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○琳派400年記念国際シンポジウム「琳派この一作　～私の見方・楽しみ方～」
- 開 催 日　11月3日
- 開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
- 主　　催　琳派400年記念祭委員会、京都国立博物館、古典の日推進委員会
- 参加人数　200人
- 事業内容　5名の講師によるパネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】

○古典の日記念 正倉院学術シンポジウム2015「正倉院と奈良国立博物館～120年のあゆみ」
- 開 催 日　11月1日
- 開催場所　奈良県春日野国際フォーラム 甍～I・RA・KA～ レセプションホール１
- 主　　催　奈良国立博物館
- 後　　援　読売新聞社
- 参加人数　196名
- 事業内容　当館が開館して１２０年の節目を迎えるにあたり、上記のテーマを掲げ、千数百年の歳月を経て伝来した正倉院宝物のすばらしさを内外に発信し、わが国の文化財保護活動に対する理解を広く共有することを目的とし、４名の研究者による研究発表と、パネルディスカッションを行った。

【九州国立博物館】

○公開シンポジウム　開館10周年記念特別展「戦国大名 - 九州の群雄とアジアの波涛 - 」記念シンポジウム　「戦国武将のデザイン」
- 開 催 日　5月2日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館・公益財団法人立花財団（九州大名家資料研究会）
- 参加者数　200人
- 事業内容　基調講演「九州近世大名道具にみる意匠と機能」、個別報告「大友家」・「黒田家」・「鍋島家」・「松浦家」を行った。

○公開シンポジウム　独立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災Ｉ」
- 開 催 日　6月14日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　180人
- 事業内容　基調講演「災害の歴史から学び、防災・減災の社会へ―東日本大震災の地で考える―」、その他各地域からの事例報告およびパネルディスカッションを行った。

○国際シンポジウム　九州国立博物館開館10周年記念「アジア交流博物館長サミット」
- 開 催 日　10月18日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　80人
- 事業内容　九州国立博物館と学術文化交流協定を締結しているなどの機関の代表者（4ヵ国8機関）を招聘し、これまでの交流の成果と今後の交流について意見を交わした。

○公開シンポジウム　「文化による地域社会の創造を目指して - 地域固有の文化の力と経済効果 - 」
- 開 催 日　11月28日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館、福岡県、西日本新聞社、日本経済新聞社
- 参加者数　160人
- 事業内容　講演「文化資源がつなぐ列島の未来－東京文化資源区構想を手がかりに」、報告「九州国立博物館運営に伴う経済波及効果」をはじめ、全地域における取り組みの紹介、そして幅広い分野の有識者を招いたシンポジウムを開催した。

○公開シンポジウム　九州国立博物館10周年記念シンポジウム X線CTを用いた文化財の研究と活用
- 開 催 日　12月19日
- 開催場所　ミュージアムホール
- 主　　催　九州国立博物館
- 参加者数　150人
- 事業内容　「CTを核にした研究の新基盤」など口頭発表５件と、34件のポスターセッション発表が行われた

○公開シンポジウム　国立行政法人国立文化財機構「文化財防災ネットワーク推進事業」公開シンポジウム「地域と共に考える文化財の防災減災 II」

開 催 日　　28年1月24日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
参加者数　　100人
事業内容　　基調講演「あらためて考える文化財の悉皆（しっかい）調査と市民」、その他各地域からの事例報告およびパネルディスカッションを行った。

○公開シンポジウム　「大城（大野城）の謎に迫る！－宇美町からの新たな発信－」
開 催 日　　28年2月27日
開催場所　　ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館、宇美町
参加者数　　305人
事業内容　　基調講演「大城（大野城）の謎に迫る！」、その他発表5件およびパネルディスカッションを行った。

【東京文化財研究所】

○「紛争と文化遺産－紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興－」
開 催 日　　28年1月24日
開催場所　　東京文化財研究所セミナー室
主　　催　　東京文化財研究所
参加者数　　103人
事業内容　　アフガニスタン及びイラクから専門家２名を招聘し、紛争下および紛争後の地域における日本国の文化遺産協力の枠組みを熟考した。

【奈良文化財研究所】

該当なし

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

該当なし

【文化財防災ネットワーク推進室】

○「文化遺産防災国際シンポジウム－文化遺産を大災害からどう守るか：ブルーシールドの可能性－」
開 催 日　　12月12日
開催場所　　京都国立博物館
主　　催　　独立行政法人国立文化財機構
共　　催　　「明日の京都」文化遺産プラットフォーム、ICOM（国際博物館会議）日本委員会、日本ICOMOS（国際記念物遺跡会議）国内委員会
参加人数　　104名
事業概要　　諸外国のブルーシールドに関する取り組みや活動実態等について海外の専門家から報告をいただくとともに、国内の有識者東文研ともにその可能性と国内における課題、展望についてディスカッションを行った。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 28 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
372 件	197 件	116 件	34 件	27 件	20 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	174 件	34 件	140 件	0 件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	1 件				

【東京国立博物館】116件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸企画部長　井上洋一	「国立博物館の展示―東京国立博物館と九州国立博物館―」	『新訂　博物館展示論』	放送大学教育振興会	平成28年3月20日	無
2	同上	企画課長　富田淳	「明末清初の書」	観峰館新館オープン記念特別企画展「華麗なる清朝後期の書画－ラストエンペラーの時代－」	公益財団法人日本習字教育財団　観峰館	10 月 1 日	無
3	同上	同上	「唐時代の書」	「顔真卿と唐時代の書」	公益財団法人台東区芸術文化財団	12 月 1 日	無
4	同上	同上	「李宗瀚のまなざし」	「顔真卿と唐時代の書」	公益財団法人台東区芸術文化財団	12 月 1 日	無
5	同上	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	作品解説「人形装飾付異形壺形土器」「大形土偶頭部」「土製仮面」「土偶」など、計 22 件	原田昌幸編『日本美術創世記(日本美術全集第1巻　縄文・弥生・古墳時代)』	小学館	12 月 28 日	無
6	同上	企画課出版企画室長　勝木言一郎	大谷探検隊とパーキスターン北部の仏教遺跡について	『インド考古研究』36 号	インド考古研究会	28 年 3 月 31 日	有
7	同上	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	東京国立博物館所蔵土佐光起筆十二ヶ月花鳥図巻の制作背景について―後水尾院との関係を中心に―」	『MUSEUM』 657 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
8	同上	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	展示ケース内蔵型下部照明器具の開発事例と評価	第34回日本展示学会研究大会東京大会　研究発表梗概集	日本展示学会	6 月 21 日	無
9	同上	同上	OLED を用いた展示照明	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
10	同上	企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一、列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人、列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕、保存修復課環境保存室長　和田浩	博物館展示に用いる OLED 照明器具の開発	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	東アジア文化遺産保存シンポジウム実行委員会	8 月 27 日	無
11	同上	企画課国際交流室専門職　楊鋭	地域資源の保存	観光資源としての博物館	芙蓉出版社	28 年 3 月 15 日	無
12	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	おひなさまと日本の人形	東京国立博物館セレクション　おひなさまと日本の人形	東京国立博物館	28 年 2 月 20 日	無
13	同上	博物館教育課教育講座室長　淺湫毅	大倉集古館蔵「伝法蓮房坐像」の像主について	『MUSEUM』659 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
14	同上	列品管理課主任研究員古谷毅、奈良県立橿原考古学研究所　水野敏典、奥山誠義、北井利幸、柳田明進	「三次元計測からみた上牧久渡 3 号墳出土の画文帯神獣鏡」	『日本文化財科学会第３２回大会　研究発表要旨集』	日本文化財科学会	7 月 11 日	無
15	同上	列品管理課主任研究員古谷毅	「古墳時代の文字資料:銘文刀剣」他、14 項目	『日韓国交正常化50周年記念特別展 日本の古墳文化』図録	国立慶州博物館	12 月 22 日	無
16	同上	同上	「三輪山･山ノ神祭祀遺跡と古墳時代の神マツリ」	『大三輪』第 130 号	大神神社	28 年 1 月 1 日	無
17	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	ABSTRACTS:How archaeological artefacts became art: Jōmon pottery from modern to contemporary times	BRITISH ASSOCIATION FOR JAPANESE STUDIES Annual Conference 2015 at SOAS, University of London Programme	SOAS Print Team	9 月	有
18	同上	同上	日本美術史における縄文土器	第16回関西縄文文化研究会研究集会 縄文研究と美術・縄文時代の装身具 発表要旨・資料集	関西縄文文化研究会	12 月 5 日	無

19	同上	同上	岡本太郎の縄文土器論―発見の場としての博物館―	武蔵野美術大学研究紀要第46号	武蔵野美術大学	28年3月1日	有
20	同上	同上	特別寄稿　美術から見た縄文土器―火焔型土器の登場―	十日町市博物館年報　第2号	十日町市博物館	28年3月31日	無
21	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　六人部克典	篆隷の再興と狂草の展開	『顔真卿と唐時代の書』	公益財団法人台東区芸術文化財団	12月1日	無
22	同上	同上	書体について	『文字の力・書のチカラ―Ⅲ　書の流儀』	公益財団法人出光美術館	28年1月9日	無
23	同上	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野探幽筆草花写生図巻―所収写生図の年代順の動向と被写体の提供者について―	『MUSEUM』657号	東京国立博物館	8月15日	有
24	同上	同上	江戸の写生図―記録すること、再現すること―	『特集　江戸の写生図―可憐なる花卉図の源泉―』	東京国立博物館	9月29日	無
25	同上	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	鳥獣戯画がマンガを生んだのか？	『鳥獣戯画―京都 高山寺の至宝―』展図録	東京国立博物館	4月28日	無
26	同上	同上	回顧と展望 日本　近世（美術）	『史学雑誌』124編第5号	史学会	5月20日	無
27	同上	同上	日本の名画と比べてみました	『SWITCH』Vol.33 No.7	スイッチ・パブリッシング	6月20日	無
28	同上	同上		編著『図説　日蓮聖人と法華の至宝　第5巻　絵画』	同朋舎新社(合同会社ＤＯＨＯＰ)	8月18日	無
29	同上	同上	納涼図のひみつ―守景のまなざしの真実	『逆境の絵師　久隅守景　親しきものへのまなざし』展図録	サントリー美術館	10月10日	無
30	同上	同上	奇想の系譜の先へ	『美術手帖』2016年1月号	美術出版社	12月17日	無
31	同上	同上	呉春筆　青天七十二芙蓉図屏風	『國華』1443号	國華社	28年1月20日	無
32	同上	同上	山本梅逸筆　群舞図	『國華』1443号	國華社	28年1月20日	無
33	同上	同上	今様浮世絵鑑賞（ノーウキヨエ・ノーライフ）	『ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞』展図録	日本テレビ放送網	28年3月19日	無
34	同上	同上	幕末の歌川一門の2トップ　国芳と国貞	『ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞』展図録	日本テレビ放送網	28年3月19日	無
35	同上	同上	黒田清輝《湖畔》が秘めるドラマ―江戸・パリ・箱根をめぐる団扇	『芸術新潮』2016年4月号	新潮社	28年3月25日	無
36	同上	同上	特集「出版戦国時代のモンスターべらんめえ国芳」 一、カッコよくなきゃ男がすたらぁ　二、ヤンキー姐さん、ちょいと描かせておくんなさい　三、役者じゃねぇんだ、わっちが描きたいのは　四、腕が鳴るねぇ、三枚続のワイドヴュー　七、やり過ぎたって、かまやしねぇ	『芸術新潮』2016年4月号	新潮社	28年3月25日	無
37	同上	同上		東京国立博物館図版目録　近代日本画《巻子・画帖》篇	東京国立博物館	28年3月31日	無
38	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課東洋室研究員　三笠景子	漢・唐時代の陶俑	漢・唐時代の陶俑	東京国立博物館	9月1日	無
39	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	中国三峡地区的塩竈型明器	『東方考古』第12集（電子版）	中国山東大学東方考古研究中心	28年3月	無
40	同上	列品管理課平常展調整室研究員　土屋貴裕	高山寺の至宝―鳥獣戯画と明恵上人ゆかりの美術―	特別展「鳥獣戯画　京都高山寺の至宝」展図録	東京国立博物館、朝日新聞社	4月28日	無
41	同上	同上	石水院の梱尾開帳―高山寺と春日信仰―	同上	同上	同上	無
42	同上	同上	二つの石をめぐる物語―明恵上人と紀州、天竺―	同上	同上	同上	無
43	同上	同上	鳥獣戯画「平成の修理」から得られること	同上	同上	同上	無
44	同上	同上	作品解説「紫式部日記絵巻」「小野雪見行幸絵巻」「華厳宗祖師絵伝」「法然上人行状絵図」他計7件	加須屋誠編『中世絵巻と肖像画（日本美術全集第8巻　鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』	小学館	6月30日	無
45	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	作品解説「頬焼阿弥陀縁起絵巻」「春日権現験記絵巻」「石山寺縁起絵巻」「法然上人像（鏡御影）」他計7件	泉武夫編『信仰と美術（日本美術全集第11巻　テーマ巻②）』	小学館	10月28日	無
46	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	「狩野派の絵画　激動の時代、永徳から山楽そして探幽へ」	五味文彦監修『歴史文化遺産　戦国大名の遺宝』	山川出版社	10月25日	無
47	同上	調査研究課考古室主任研究員　品川欣也、島根大学法文学部准教授　及川穣、株式会社ラング代表取締役　横山真、、同常務取締役　千葉史、岩宿博物館館長　小菅将夫、岩手大学工学部教授　今野晃市、岩手大学工学部准教授　松山克胤	「3D計測技術を用いた考古資料の接合研究－旧石器時代研究における新しい資料の認識にむけて－」	「一般社団法人日本考古学協会第81回（2015年度）研究発表要旨」	日本考古学協会	5月23日	有

48	同上	調査研究課考古室研究員河野正訓、茨木市立文化財資料館 学芸員　清水邦彦	茨木市安威０号墳から出土した鉄製品（１）	『茨木市立文化財資料館館報』第１号	茨木市立文化財資料館	28 年 3 月 31 日	無
49	同上	保存修復課長 神庭信幸、保存修復課保存修復室長 土屋裕子、保存修復課保存修復室主任研究員 沖松健次郎、保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 平河智恵、同　下田純平、君嶋隆幸	東京国立博物館蔵 渡辺崋山筆《坪内老大人像画稿（１幅 紙本墨画淡彩)》の修理事例―貼紙のある掛軸装の修理後の装丁について	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
50	同上	特任研究員　神庭信幸、漆芸文化財修復　松本達弥、目白漆芸文化財研究所 室瀬智弥、陸前高田市立博物館副主幹　熊谷賢、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子、同　實井香那子	津波により被災した漆工芸作品の脱塩処理方法の検討	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
51	同上	特任研究員　神庭信幸、保存修復課調査分析室長 荒木臣紀、保存修復課環境保存室長　和田浩、保存修復課保存修復室長　土屋裕子、絵画保存修復　土師広、絵画保存修復　中右恵理子、絵画保存修復　増田久美、保存修復課保存修復室非常勤職員　本茉莉江	被災文化財等救援活動における保存修理―麻布製カンバスに描かれた油彩画の脱塩の試み	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
52	同上	特任研究員　神庭信幸、保存修復課環境保存室長 和田浩、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　實井香那子	歴史的建造物における展示環境改善の取り組み―風除室の効果の検証―	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 27 日	無
53	同上	同上	博物館における温湿度環境の評価方法とその活用	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良	8 月 27 日	無
54	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財輸送環境の解析と評価	『東京国立博物館紀要』51 号	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
55	同上	同上	文化財の保存環境分析<温湿度の把握・評価・改善>	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　連携研究「人間文化資源」の総合的研究	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	7 月 21 日	無
56	同上	同上	文化財の梱包および輸送の実際と安全性評価	日本包装学会第 24 回年次大会研究発表予稿集	日本包装学会	7 月 2 日	無
57	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩、森林総合研究所 安部久、同　渡辺憲、同 石川敦子、同　能城修一、同　藤井智之、成城大学 岩佐光晴、興福寺　金子啓明	近赤外分光法を用いた木彫像用材の非破壊的な樹種識別　-木材標本を用いた分析-	『木材保存』41(4)	日本木材保存学会	7 月 1 日	有
58	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財防災ネットワークの構築を目指す	公開シンポジウム　文化財を伝える-東日本大震災で被災した文化財を考える 要旨集	文化財保存修復学会	12 月 19 日	無
59	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　井上素子	博物館における環境特性データの３Ｄ化を通じた文化財の被災リスク早期把握	2015 東アジア文化遺産保存シンポジウム in 奈良　要旨集	東アジア文化遺産保存学会	8 月 27 日	無
60	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	作品解説「長谷寺縁起絵」「松崎天神縁起絵巻」「因幡堂縁起絵巻」他計 6 件	泉武夫編『信仰と美術』日本美術全集第 11 巻	小学館	10 月 28 日	無
61	同上	同上	修理解説「渡辺崋山にかかる 4 幅の修理」他計 4 件	『渡辺崋山筆　国宝・鷹見泉石像　坪内老大人像の修理』	東京国立博物館	28 年 3 月 15 日	無
62	博物館の環境保存に関する研究	特任研究員　神庭信幸	ミュージアムのリスク・マネジメント	ミュージアム・マネジメント事典	学文社	6 月 7 日	無
63	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課デザイン室長　木下史青	展示・照明と環境・情報のデザインについて	黒田記念館修理報告書	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
64	博物館教育に関する調査研究	博物館教育課長小林牧、教育普及室主任研究員 藤田千織、同研究員　三田覚之、同アソシエイトフェロー川岸瀬里	トーハクのミイラ	トーハクのミイラ	東京国立博物館	7 月 22 日	無
65	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報管理室長　村田良二	東京国立博物館デジタルライブラリーについて	アート・ドキュメンテーション学会 2015 年度秋季研究発表会予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	11 月 14 日	有
66	「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　品川欣也	「4 人の王妃-その姿と実像」	特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」図録	東京国立博物館、国立国際美術館、NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	7 月 11 日	無

67	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造	後宮の陰謀	同上	同上	同上	無
68	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	学芸研究部長　谷豊信、列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課考古室研究員　井出浩正	始皇帝と大兵馬俑	特別展『始皇帝と大兵馬俑』図録	東京国立博物館、九州国立博物館、国立国際美術館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、朝日新聞社	10 月 27 日	無
69	同上	学芸研究部長　谷豊信	陶製水道管、瓦、磚と兵馬俑	同上	同上	同上	無
70	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	永遠無窮―出土品と兵馬俑が語る始皇帝の夢	同上	同上	同上	無
71	同上	調査研究課考古室研究員　井出浩正	作品解説「朱書甕」「篦描広口壺」「当て具」「円形陶鈴」「魚形陶鈴」など、計 14 件	同上	同上	同上	無
72	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、調査研究課東洋室研究員　三笠景子	東京国立博物館における陶俑の蒐集と展示の歴史 －特別展「始皇帝と大兵馬俑」、特集「漢・唐時代の陶俑」の開催に寄せて	『陶説』751	日本陶磁協会	10 月 1 日	無
73	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男	秦王朝と兵馬俑の考古学	『秦王朝と兵馬俑　一発掘された歴史の実像一』	東京国立博物館	12 月 19 日	無
74	特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長　松嶋雅人	黒田清輝の夢みたもの―≪智・感・情≫と日本絵画の行方	特別展「生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」図録	美術出版社	28 年 3 月 23 日	無
75	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	企画課特別展室研究員　金井裕子	板谷家のやまと絵について	『板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究　平成23～27年度科学研究費補助金研究成果報告書』	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
76	同上	上席研究員　池田　宏	狩野晴川院『公用日記』にみえる板谷氏の相続	同上	同上	同上	無
77	同上	調査研究課長　田沢裕賀	板谷家伝来資料と研究実績概要	同上	同上	同上	無
78	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　山下善也	善光寺大本願の岡本善悦筆「春夏花鳥図屏風」について	同上	同上	同上	無
79	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	板谷家の画祖と仏教絵画	同上	同上	同上	無
80	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	列品管理課平常展調整室主任研究員　土屋貴裕	高山寺伝来文化財の研究―寺宝の伝来と修理、及び「高山寺」朱文長方印をめぐる諸問題―	『東京国立博物館紀要』51 号	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
81	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する調査研究	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　小野真由美	狩野探幽筆『四季花鳥図』について	『傘松』863 号	永平寺傘松会	8 月	無
82	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	ふたつの第七巻	「国宝　一遍聖絵」展図録	遊行寺宝物館	10 月 9 日	無
83	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	百五十年史編纂室主任研究員　恵美千鶴子	藤原行成の尊重　直筆の記録『敦康親王初覲関係文書』	『BIO CITY』62 号	ブックエンド	4 月 10 日	無
84	同上	同上	藤原行成の尊重　唯一伝わった『書状』	『BIO CITY』63 号	同上	7 月 10 日	無
85	同上	同上	近代数寄者と書　広田不孤斎、松永耳庵と『湯』	『BIO CITY』64 号	同上	10 月 10 日	無
86	同上	同上	近代数寄者と書　高橋箒庵と『寸松庵色紙』	『BIO CITY』65 号	同上	28 年 1 月 7 日	無
87	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	客員研究員　澤田むつ代	「古墳出土の鉄刀と鉄剣の柄巻きと鞘巻きの種類と仕様の事例」	『文化財と技術』第７号	工芸文化研究所	27 年 12 月	無
88	同上	同上	「一二〇〇年以上守り伝えられた上代裂の魅力―色鮮やかな染織品の数々―」	月刊『目の眼』第 472 号	目の眼	27 年 12 月	無
89	同上	同上	「法隆寺伝来・上代裂―平成二十三年度修理の成果―」	『MUSEUM』658 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有
90	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	法隆寺伝来・上代裂　綾幡足と錦残欠等―平成 22 年度修理の成果―	『MUSEUM』第 655 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
91	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之	法隆寺伝来　描絵綾天蓋垂飾	『MUSEUM』第 656 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
92	同上	同上	百済の舎利荘厳美術を通じてみた法隆寺伝来の工芸作品―法隆寺献納宝物の脚付鋺と法隆寺五重塔の舎利瓶を中心に―	『MUSEUM』第 658 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有
93	同上	博物館教育課教育普及室研究員　三田覚之、客員研究員　澤田むつ代	多武峯伝来　十一面観音菩薩立像について	『MUSEUM』第 660 号	東京国立博物館	28 年 2 月 15 日	有

94	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究	博物館教育課教育講座室長　淺湫　毅	定智本図像に基づく十二神将像―神奈川・宝城坊像と個人蔵の浮彫像―	科学研究費補助金基盤研究B 調査報告書　多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究―図像的典拠と分担製作の視点から―	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
95	極薄青銅器の製作技術解明　－中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究－	列品管理課平常展調整室主任研究員　川村佳男、保存修復課環境保存室長和田浩、企画課デザイン室主任研究員　矢野賀一	古代中国の極薄青銅器にみる製作痕分析-３次元計測、蛍光Ｘ線分析を踏まえて-	『日本考古学協会平成27年度大会発表要旨集』	日本考古学協会	5 月 24 日	有
96	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	企画課出版企画室研究員　遠藤楽子	「東京国立博物館のふたつの「羊図」について」	平成二十七年度成果報告公開研究会「明治期博物館の国際的な文化財交換」	東京国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
97	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　鈴木希帆	「ラベルからたどる明治期の文化財の移動」	同上	同上	同上	無
98	同上	調査研究課考古室長　白井克也	「館史資料からみた東京国立博物館と外国博物館との文化財交換」	同上	同上	同上	無
99	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究	企画課出版企画室長　勝木言一郎	敦煌における父母恩重経変相の図像に関する一考察―「孝」の受容と展開―	『東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究論文集』	科学研究費基盤（A）東アジア文化の基層としての儒教イメージに関する研究(研究代表者　筑波大学大学院教授　守屋正彦)	28 年 3 月 31 日	無
100	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造	油滴る地	上智大学キリスト教文化研究所『聖書の世界を発掘する―聖書考古学の現在』	リトン	10 月	無
101	同上	企画課特別展室アソシエイトフェロー　小野塚拓造、天理大学准教授　橋本英将、天理大学教授　桑原久男、古代オリエント博物館研究員　津本英利	西アジアに出現した大帝国の支配をさぐる：テル・レヘシュ第 9 次発掘調査（2015 年）	『平成 27 年度考古学が語る古代オリエント　第 19 回西アジア発掘調査報告会報告集』	日本西アジア考古学会	28 年 3 月	無
102	七仏薬師信仰とその造像に関する研究	調査研究課絵画・彫刻室アソシエイトフェロー　西木政統	平安時代前期の薬師造像に関する研究	『鹿島美術研究』年報 32 号別冊	鹿島美術財団	11 月 15 日	無
103	同上	同上	岩手・黒石寺薬師如来坐像と像内銘記	『MUSEUM』659 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
104	文化財防災に関する調査研究	総務部長　栗原祐司	第３回国連防災世界会議の枠組みにおける国際専門家会合について	『博物館研究』平成 27 年 6 月号	公益財団法人日本博物館協会	6 月	有
105	同上	同上	文化財防災ネットワーク推進事業について	『博物館研究』平成 27 年 7 月号	同上	7 月	有
106	同上	同上	A Perspective on “Cultural Heritage and Disaster Resilient Communities” in Japan	Preprints of the ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City	ICOM-ASPAC 2015, Iloilo City	12 月 4 日	有
107	同上	総務部長　栗原祐司 国際基督教大学湯浅八郎記念大学博物館　福野明子	The Involvement of Japanese University Museums in the Rescue and Conservation of Cultural Properties: Presenting Two Cases from Japan	Preprints of the ＩCOM－UMAC 2015 Annual Meeting, Manila	ICOM-UMAC	5 月 14 日	有
108	我が国の博物館ネットワークに関する調査研究	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	スポーツ・ミュージアム・ネットワーク構想	全日本博物館学会第 41 回研究大会発表予稿集	全日本博物館学会	6 月 27 日	有
109	同上	総務部長　栗原祐司	上野「文化の杜」新構想	中華民國博物館學會「博物館聚落與文化景觀國際論壇講座」予稿集	中華民國博物館學會	12 月 7 日	有
110	同上	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	The issue of preservation management of sports documentation in Japan	Preprints of the ICOM-CＩDOC 2015 Annual Meeting, Ｎew Ｄelhi	ICOM-CIDOC	9 月 7 日	有
111	同上	総務部長　栗原祐司 秩父宮記念スポーツ博物館　新名佐知子	スポーツミュージアム連携・啓発事業について	スポーツ史学会会報「ひすぽ」No.93	スポーツ史学会	28 年 2 月 29 日	無
112	我が国の博物館の国際発信に関する調査研究	総務部長　栗原祐司	第 109 回アメリカ博物館協会（ＡＡＭ）年次大会に参加して	『博物館研究』平成 27 年 8 月号	公益財団法人日本博物館協会	8 月	有
113	ミュージアム・マネージメントに関する調査研究	同上	State-of-the-Art Technology in Museum Security and Current Issues in Japan	Preprints of the ICOM-ICMS 2015 Annual Meeting, Zhengzhou	ICOM-ICMS	10 月 20 日	有
114	同上	同上	The current issues of National Museums in Japan	Preprints of the ICOM-INTERCOM 2015 Annual Conference	ICOM-INTERCOM	10 月 29 日	有
115	ミュージアム・マネジメント	総務課渉外開発担当係長・関谷　泰弘	東京国立博物館における若者向けミュージアム・イベント「博物館で野外シネマ」を事例とした鑑賞者開発の研究	文化経済学、第 12 巻、第 2 号、2015 年、62-75 ページ	文化経済学会	9 月	有

116	ミュージアム･マネジメント	総務課渉外開発担当係長・関谷　泰弘	Challenge to Change: A Case Study of Branding of the Tokyo National Museum	Museum Branding Redefining Museums for the 21st Century, Selected Papers from the ICOM MPR 2014 Conference	ICOM MPR	11 月	有

【京都国立博物館】34件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	新出の探幽縮図―伝李公麟「猛虎図」（正伝寺）に関する一資料―	『國華』第 1434 号	國華社	4月20日	有
2	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	曾我蕭白筆　富士山図	『國華』第 1435 号	國華社	5月20日	有
3	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑 2015』	中国研究所	5月	無
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原　嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　明恵上人像』	勉誠出版	6月	無
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　華厳宗祖師絵伝　元暁絵三巻』	勉誠出版	6月	無
6	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　華厳宗祖師絵伝　義湘絵四巻』	勉誠出版	6月	無
7	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　鳥獣人物戯画　全四巻』	勉誠出版	6月	無
8	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　元暁像』	勉誠出版	6月	無
9	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『高山寺の名宝　国宝　義湘像』	勉誠出版	6月	無
10	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	保存修理指導室長 大原嘉豊	作品解説	『図説　日蓮上人と法華の至宝』第五巻	同朋舎新社	8月	無
11	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	列品管理室 主任研究員　永島明子	作品解説	『図説　日蓮上人と法華の至宝』第六巻	同朋舎新社	12月	無
12	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	山川　暁	(作品解説)「刺繍九条袈裟貼屏風」	板倉聖哲責任編集『日本美術全集：東アジアの中の日本美術』	小学館	28年2月	無
13	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	山川　暁	「中近世染織品の基礎的研究」	『中近世染織品の基礎的研究』	中央公論美術出版	28年2月	無
14	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	「京都国立博物館蔵《餓鬼草紙》の位置づけについて―藤末鎌初における南宋文化受容の観点から―」	『美術史』180 号	美術史学会	28年3月	有
15	近世絵画に関する調査研究	美術室研究員 福士雄也	作品解説	『富士山―信仰と芸術―』（展覧会図録）	静岡県立美術館・山梨県立博物館	9月5日	無
16	禅宗彫刻の調査研究	企画室長　浅見龍介	永平寺所蔵彫刻8件作品解説	『大永平寺展』図録	福井県立美術館	10月23日	無
17	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	木造聖観音菩薩坐像　岐阜・永保寺	國華 1438 号	國華社	8月	無
18	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	木造聖観音菩薩坐像　岐阜・明鏡寺	國華 1438 号	國華社	8月	無
19	仏像の調査研究	企画室長　浅見龍介	神護寺愛染明王坐像解説	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記篇』一二	中央公論美術出版	28年2月	無
20	陶磁に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章	「和物茶碗のこと」	『淡交』851 号～862 号	淡交社	1月1日～12月1日	無
21	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	茶の湯と朝鮮陶磁	高麗美術館館報　第 101 号	高麗美術館	5月1日	無
22	陶磁に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章	「桃山の茶陶」	『樂－茶碗の中の宇宙』展覧会図録	エルミタージュ美術館・プーシキン美術館・国際交流基金	7月11日	無
23	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	新たな発想と創造－桃山陶－	目の眼 8 月号（通巻 467 号）	目の眼	8月1日	無
24	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	最近出土の陶磁トピックス（平成 27 年）(5) 近畿地方	東洋陶磁学会会報　第 84 号	東洋陶磁学会	11月30日	無
25	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	発掘とくしま　埋蔵文化財速報展から　「中世の喫茶文化」	徳島新聞	徳島新聞社	12月17日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
26	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員 降矢哲男	高野山奥之院出土の納骨器	季刊考古学　第 134 号	雄山閣	28年2月1日	無
27	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に係る調査研究	美術室長 山本英男	「桃山画壇を生きる―狩野派絵師の攻防―」、中扉解説	『桃山時代の狩野派』（展覧会図録）	毎日新聞社	4月7日	無
28	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に係る調査研究	美術室長　山本英男、美術室研究員　福士雄也	作品解説	『桃山時代の狩野派』（展覧会図録）	毎日新聞社	4月7日	無
29	特別展観「仏法東漸」に係る調査研究	美術室長　山本英男、保存修理指導室長　大原嘉豊、教育室長　山川暁、列品管理室主任研究員　永島明子、保存修理指導室主任研究員　羽田聡、列品管理室主任研究員　呉孟晋、企画室研究員　末兼俊彦、美術室アソシエイトフェロー　井並林太郎	作品解説	『仏法東漸』（展覧会図録）	京都国立博物館 京都仏教各宗学校連合会	7月	無
30	特別展覧会「琳派　京を彩る」展に関する調査研究	山川　暁	「琳派という芸術」	『美しいキモノ』	ハースト婦人画報社	8月	無
31	特別展覧会「琳派　京を彩る」に係る調査研究	美術室研究員 福士雄也	「琳派」になりたがった画家たち―画風の継承とその意味	『琳派　京を彩る』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	10月9日	無
32	特別展覧会「琳派　京を彩る」に関する調査研究	学芸部長　伊藤嘉章、企画室長　浅見龍介、教育室長　山川暁、列品管理室主任研究員　永島明子、保存修理指導室主任研究員　羽田聡、美術室研究員　福士雄也、工芸室研究員　降矢哲男、企画室研究員　末兼俊彦	コラム及び作品解説	『琳派　京を彩る』（展覧会図録）	日本経済新聞社ほか	10月9日	無
33	特別展覧会「禅　心をかたちに」展に関する調査研究	山川　暁	「南北朝時代の袈裟観」	『研究発表会と座談会報告書』42	仏教美術研究上野記念財団	28年3月	無
34	特別展覧会「禅　心をかたちに」に係る調査研究	保存修理指導室 主任研究員　羽田　聡	作品解説	『季刊　禅文化』235	禅文化研究所	28年1月	無

【奈良国立博物館】27件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	湯山賢一（館長）	『摂関家旧記目録』の筆者は藤原忠実か―摂関家再興の象徴	『近衛家名宝からたどる宮廷文化史　陽明文庫が伝える千年のみやび』	笠間書院	28 年 3 月	無
2	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	学芸部長　内藤栄	木内喜八・半古・省古と正倉院宝物	特別陳列「名匠三代　木内喜八・半古・省古の木工芸」展図録総論	奈良国立博物館	6 月	無
3	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	総論　白鳳の美術	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録総論	奈良国立博物館	7 月	無
4	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	「白鳳―花ひらく仏教美術―」展によせて	『薬師寺』第一八四号	薬師寺	6 月	無
5	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員　岩田茂樹	木造菩薩（伝如意輪観音）遊戯坐像	『国華』一四三五号	朝日新聞出版	5 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	法隆寺夢違観音像・深大寺釈迦如来像の頭部仕上げについて	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録	奈良国立博物館	7月	無
7	同上	同上	東大寺・僧形八幡神坐像の再検討	『仏教芸術』三四三	佛教藝術學會	11月	有
8	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長　岩井共二	各論　中国彫刻と白鳳仏	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録総論	奈良国立博物館	7月	無
9	同上	同上	玄奘三蔵が訪れた健駄羅	玄奘三蔵と薬師寺	薬師寺	8月	無
10	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室長　清水健	神仏と人の織りなす造形	『日本美術全集１１　テーマ巻②信仰と美術』	小学館	10月	無
11	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	近年のコレクション［工芸］	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
12	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院展―七〇年目を迎える展覧会の歩み―	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
13	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長　鳥越俊行	奈良国立博物館の修理事業	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
14	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	企画室長　野尻忠	概論　まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展	『まぼろしの久能寺経に出会う平安古経展』展図録	奈良国立博物館	4月	無
15	同上	同上	古代律令法と七世紀の展開	開館一二〇年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術―』展図録	奈良国立博物館	7月	無
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	玄奘訳経典の日本における拡がりと定着	玄奘三蔵と薬師寺	薬師寺	8月	無
17	同上	同上	国宝「日本書紀 巻第十（残巻）」（奈良国立博物館蔵）解説	奈良国立博物館編『国宝 日本書紀 巻第十残巻　紙背 性霊集』	一般社団法人勉誠	12月	無
18	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	資料室長　宮崎幹子	日本における美術書誌をめぐる課題―文献への道しるべと美術図書館の役割―	『アート・ドキュメンテーション通信』No.一〇四	アート・ドキュメンテーション学会	4月	無
19	同上	同上	なら仏像館―一二〇年の歴史と景観―	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
20	同上	同上	仏教美術資料研究センター―仏教美術のアーカイブズをめざして	『月刊　文化財』６２５号	第一法規	10月	無
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	列品室長　吉澤悟	古墳の終焉と火葬のはざま	『白鳳―花ひらく仏教美術―』特別展図録	奈良国立博物館	7月	無
22	同上	同上	古墳から出土するガラス器について	『日本の古墳文化』特別展図録	国立慶州博物館	12月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
23	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　斎木涼子	摂関・院政期の宗教儀礼と天皇	『岩波講座　日本歴史』古代5	岩波書店	5月	無
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　山口隆介	箱根・阿弥陀寺文殊菩薩立像について	『国華』一四四一号	朝日新聞出版	11月	無
25	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　伊藤久美	「華厳宗祖師絵伝」義湘絵における祖師像制作について	鹿島美術財団年報第三十二号別冊	鹿島美術財団	11月	無
26	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	研究員　大江克己	珠城山古墳群	『日本の古墳文化』特別展図録	国立慶州博物館	12月	無
27	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	研究員　田澤梓	海と山の鏡に関する一考察	『第六十七回正倉院展』特別展図録（宝物寸描）	奈良国立博物館	10月	無

【九州国立博物館】20件

○有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	装飾古墳　赤い石室	大地の赤　ベンガラ異空間	LIXIL出版	4月25日	無
2	文化財に関する調査及び研究の推進　文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課長 今津節生	Automated recognition of wood used in traditional Japanese sculptures by texture analysis of their low-resolution computed tomography data	Journal of Wood Sciense	Japan Wood Research Society	6月3日	有
3	文化財に関する調査及び研究の推進　文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課長 今津節生	Development and application of replicas made from ceramics using 3D measurement technology (X ray CT, 3D digitizer, and 3D printer),	015 International Symposium on Conservation Cultural Heritage in Nara”	The Society for Conserbation Heritage in East Asia,	8月26日	無
4	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	兵馬俑の設計規格とその理念	『特別展　始皇帝と大兵馬俑』図録	NHK、NHKプロモーション、 朝日新聞社	10月27日	無
5	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	コラム　兵士や軍馬ではない兵馬俑	『特別展　始皇帝と大兵馬俑』図録	NHK、NHKプロモーション、 朝日新聞社	10月27日	無
6	太宰府天満宮関連考古資料の調査	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	青銅器はなぜ神社に伝わるのか	太宰府天満宮の地宝	忘羊社	28年1月1日	無
7	太宰府天満宮関連考古資料の調査	企画課文化交流展室 主任研究員　市元塁	九博百年―誘致運動から浦ノ田遺跡の発掘まで	太宰府天満宮の地宝	忘羊社	28年1月1日	無
8	中世やまと絵屏風の調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	桐竹鳳凰孔雀図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
9	中世やまと絵屏風の調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	厩図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
10	室町水墨画の調査研究	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀	雪村周継筆龍虎図屏風	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
11	室町水墨画の調査研究	文化財課資料管理室 主任研究員　畑靖紀	相阿弥筆山水図	國華 第1443号	國華社	28年1月20日	無
12	トピック展示「祈りのかたち　八幡」に関する調査研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	総論「祈りのかたち　八幡」	トピック展示図録「祈りのかたち八幡」	九州国立博物館	28年2月2日	無
13	当館所蔵・寄託絵画の基礎的研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	曾我蕭白筆　真山水図	國華 第1444号	國華社	28年2月20日	無
14	当館所蔵・寄託絵画の基礎的研究	企画課特別展室研究員　鷲頭桂	所蔵品紹介「殉教三聖人図」	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第11号	九州国立博物館	28年3月31日	無
15	教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子	歴史系博物館と科学系博物館の連携プロジェクト―「大英博物館展」教育普及事業における	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第11号	九州国立博物館	28年3月31日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		企画課研究補佐員 山下久美子 企画課研究補佐員 鮫島由佳	北部九州版アストロラーベの製作及び活用への取り組み―				
16	教育普及プログラムの調査研究	企画課アソシエイトフェロー　西島亜木子 企画課研究補佐員 山下久美子 企画課研究補佐員 鮫島由佳	潜在的利用者とつくる新しい博物館の活用について―「きゅーはく女子考古部」の活動を通して―	九州国立博物館研究紀要「東風西風」第 11 号	九州国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
17	タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－	企画課特別展室長 原田あゆみ	「タイの弥勒菩薩像－仏教説話にあらわされた弥勒の福徳－」	報告書『タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－』	九州国立博物館	28 年 3 月 31 日	無
18	受託研究(H25-H26 水分遺跡出土赤色顔料の微視的・科学的調査ならびに調査結果の考古学的な検討)	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	水分遺跡第５・７次調査出土の赤色顔料について	久留米市文化財調査報告書第 364 集　水分遺跡	久留米市教育委員会	28 年 3 月 31 日	無
19	受託研究（H27 鏡迫古墳群出土赤色顔料の微視的・科学的調査ならびに調査結果の考古学的な検討）	博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	鏡迫古墳群出土の赤色顔料について	鏡迫古墳群	福岡県教育委員会	28 年 3 月 31 日	無
20	日本中世における漆芸品の基礎的研究	文化財課資料登録室主任研究員 川畑憲子	重要文化財「小倉山蒔絵硯箱」の木地構造について	サントリー美術館　研究紀要	サントリー美術館	28 年 3 月 31 日	無

【東京文化財研究所】34件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（17件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の資料学的研究	児島薫	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（2）	『美術研究』416 号	東京文化財研究所	8 月 10 日	無
2	同上	同上	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（3）	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
3	同上	同上	藤島武二から黒田清輝、久米桂一郎宛書簡について（4）	『美術研究』418 号	同上	28 年 3 月	無
4	近現代美術に関する交流史的研究	副所長　田中淳	展覧会評　歴史をつくる学芸員の眼	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
5	同上	企画情報部長　山梨絵美子	黒田清輝の画業と遺産	東京国立博物館『生誕 150 年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠』展図録	東京国立博物館	28 年 3 月	無
6	同上	客員研究員　河合大介	研究ノート 赤瀬川源平と《山手線事件》―〈匿名性〉を手がかりとして―	『美術研究』418 号	東京文化財研究所	同上	無
7	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究	企画情報部文化形成研究室長　小林達朗	東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」	『美術研究』416 号	同上	8 月 10 日	無
8	同上	企画情報部広領域研究室長　小林公治	南蛮漆器書見台編年試論	『美術研究』417 号	同上	28 年 1 月 21 日	無
9	同上	同上	15-17 世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討	『鹿島美術研究年報』第 32 号別冊	鹿島美術財団	11 月 15 日	無
10	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部研究員 菊池理予	復刻銘仙の製作と技術の伝承―分業のこれから―	『きものモダニズム』	須坂クラシック美術館	9 月 26 日	無
11	同上	同上	道具と技術の関わり―熊谷地域の染色工房を調査して―	『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』	東京文化財研究所	9 月 30 日	無
12	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	室町時代のアクセントと謡のフシ	〃『無形文化遺産部研究報告』第 10 号〃	同上	28 年 3 月 30 日	無
13	同上	無形文化遺産部長　飯島満	七代目豊沢広助　義太夫節の種類と解説	同上	同上	同上	無
14	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	神楽の歴史と鷲宮咲前神社太々神楽他	『鷲宮咲前神社と太々神楽二百年記念誌』	鷲宮咲前神社太々神楽奉納 200 年記念事業実行委員会	10 月 24 日	無
15	同上	同上	3.11 以降の東北民俗芸能の状況と再評価	『岩手県民俗芸能北京公演プログラム』	国際交流基金	10 月 17 日	無
16	同上	同上	無形文化遺産としての儀礼文化	『儀礼文化学会紀要』第２号	儀礼文化学会	28 年 3 月 31 日	無

17	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	企画情報部情報システム研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 10 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	『無形文化遺産研究報告』第 10 号	東京文化財研究所	28 年 3 月 30 日	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（0件）

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（15件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究	三重県立博物館学芸員・客員研究員　間渕創、保存修復科学センター研究員佐藤嘉則	博物館施設におけるバイオエアロゾル測定の活用について	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有
2	文化財の保存環境の研究	客員研究員　呂俊民、客員研究員　古田嶋智子、林良典、須賀政晴、保存修復科学センター副センター長佐野千絵	試験用実大展示ケースを用いたケース内のガス清浄化と濃度予測	同上	同上	同上	有
3	同上	保存修復科学センター副センター長　佐野千絵、客員研究員　古田嶋智子、客員研究員　呂俊民	展示ケース内有機酸濃度への展示台の寄与	同上	同上	同上	有
4	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	武田裕子、保存修復科学センター分析科学研究室長早川泰弘	国宝「阿弥陀聖衆来迎図」の彩色材料に関する調査	同上	同上	同上	有
5	同上	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘	Ｘ線透過撮影による伊豆長八の作品の調査	同上	同上	同上	有
6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、渡邉尚恵、保存修復科学センター研究補佐員　佐多麻美、保存修復科学センター主任研究員　森井順之	屋外石造文化財における金箔の保存条件に関する研究	同上	同上	同上	有
7	同上	保存修復科学センター修復材料研究室長　朽津信明、久住有生、絵画修復家・客員研究員　前川佳文、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	漆喰表面の劣化形態に関する実験的考察	同上	同上	同上	有
8	同上	保存修復科学センター主任研究員　森井順之	Monitoring system for preservation of the Usuki stone Buddha by volunteer and scientific supports　ISSM2015	National Science Museum,Korea	National Science Museum,Korea	10 月	無
9	文化財の防災計画に関する研究	保存修復科学センター主任研究員　森井順之、近藤希美、新津靖、御子柴正、花里利一	石灯籠の地震対策に関する評価	『日韓共同研究報告書 2015』	東京文化財研究所、大韓民国国立文化財研究所	6 月	無
10	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	陽明門西側漆箔板壁面に描かれた「大和松岩笹と巣籠鶴」の科学調査	大日光 85	日光東照宮	8 月 31 日	無
11	同上	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	当世具足の塗装技術に関する科学調査	甲冑武具研究 191	日本甲冑武具研究保存会	同上	無
12	文化財修復材料の適用に関する調査研究	保存修復科学センター調査・研究アシスタント　小川歩、保存修復科学センター主任研究員　早川典子	テトラクロロ銅(二)酸カリウム 2 水和物添加による漆硬化の温湿度条件緩和の検討	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有
13	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	洋紙の保存と修復	洋紙の保存と修復	同上	28 年 3 月	無
14	同上	同上	近代文化遺産としての道具の保存	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書	同上	9 月	無
15	同上	同上	道具の保存と活用	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ（染色技術の伝承と地域の関わり）報告書	同上	28 年 3 月	無

○保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備（0件）

○文化財保護に関する国際協力の推進（２件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究	保存修復科学センター長岡田健、絵画修復家・客員研究員　渡辺真樹子、京都市立芸術大学講師・客員研究員高林弘実、蘇伯民、崔	敦煌莫高窟第 285 窟東壁に描かれた如来像に用いられた彩色材料と技法	『保存科学』55 号	東京文化財研究所	28 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		強					
2	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力	無形文化遺産部長　飯島満	「気候変動と文化遺産」	日本オセアニア学会ニューズレター No. 112	日本オセアニア学会	同上	無

〇地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（0件）

【奈良文化財研究所】140件

〇文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（102件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	歴史研究室長　吉川聡	廃仏毀釈　発見された奈良･興福寺僧の日記	月刊住職	興山舎	28年1月1日	無
2	同上	歴史研究室長　吉川聡	石鎚山の縁起からみた蔵王権現信仰	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
3	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	都城発掘調査部研究員　海野聡	古代建築のイメージの限界-描かれた古代建築の特質—	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
4	同上	都城発掘調査部研究員　鈴木智大	江戸時代中期における北口本宮冨士浅間神社の中興とその意匠	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
5	同上	都城発掘調査部研究員　海野聡	古代日本における建物の維持修理に対する公的概念の邦画と修理体制	日本建築学会計画系論文集	日本建築学会	7月30日	無
6	同上	都城発掘調査部主任研究員　西山和宏	発掘遺構と古代建築を繋ぐ	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
7	同上	都城発掘調査部遺構研究室長　箱崎和久	山田寺倒壊回廊が語る古代建築史	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
8	同上	文化遺産部研究員 番　光	出土部材をしらべ、まもり、つたえる	奈良文化財研究所東京講演会 予稿集	奈良文化財研究所	10月24日	無
9	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	遺跡整備研究室長 内田和伸	平城宮跡の保存および活用	慶州月城と世界文化遺産の調査と研究	韓国国立慶州文化財研究所	11月30日	無
10	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	史跡名勝天然記念物の保護の仕組み	全史協50年のあゆみ	全国史跡整備市町村協議会	10月31日	無
11	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	平城宮東院庭園での活用プログラム「庭の宴」	遺跡学研究第12号	日本遺跡学会	11月10日	無
12	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	大明宮・洛陽宮跡の遺跡整備現況調査	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	12月	無
13	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	史跡等の整備・活用の長期的な展開	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月30日	無
14	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	総括 史跡等の整備・活用の長期的な展開について	平成26年度遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	12月10日	無
15	同上	研究員　高橋知奈津	遺跡におけるデジタルコンテンツの活用	奈文研ニュース	奈良文化財研究所	28年3月	無
16	我が国の記念物に関する調査･研究（庭園）	研究員　高橋知奈津	戦国時代の城館の庭園	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
17	同上	副所長　小野健吉	中世庭園史の概観と研究の現状	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
18	同上	文化遺産部主任研究員　中島義晴	庭園における境致の導入	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
19	同上	研究員　高橋知奈津	初期書院造庭園に関する一考察	鎌倉・室町時代庭園の研究	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
20	平城宮・京跡出土遺物と検出遺構の調査研究等	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦	興福寺西室出土冶金関連遺構・遺物の再検討	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
21	藤原宮跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　清野陽一	藤原宮大極殿院の調査（ｈ第186次）	奈文研ニュース No. 59	奈良文化財研究所	12月	無
22	同上	考古第二研究室長 尾野善裕、主任研究員 西山和宏、廣瀬覚、森川実、研究員　諫早直人、大澤正吾、川畑純、清野陽一、前川歩、技術職員　栗山雅夫	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）記者発表資料	—	奈良文化財研究所	10月9日	無
23	同上	考古第二研究室長 尾野善裕、主任研究員 西山和宏、廣瀬覚、森川実、研究員　諫早直	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次調査）現地説明会資料	—	奈良文化財研究所	10月12日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		人、大澤正吾、川畑純、清野陽一、前川歩、技術職員　栗山雅夫					
24	同上	考古第三研究室長 清野孝之、主任研究員 森川実、研究員　若杉智宏、山崎健、星野安治、アソシエイトフェロー　大谷育恵	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第182次調査）	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
25	同上	研究員　森先一貴、諫早直人、アソシエイトフェロー　金宇大	藤原宮東方官衙北地区の調査－第183次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
26	飛鳥地域発掘調査	研究員　森先一貴、大澤正吾、諫早直人	檜隈寺周辺の調査-飛鳥藤原第180次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
27	同上	研究員　前川歩	檜隈寺周辺の調査－飛鳥藤原第184次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
28	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	主任研究員　西山和宏、研究員　前川歩、大林潤、アソシエイトフェロー　福嶋啓人	坂田寺出土建築部材調査報告書	－	奈良文化財研究所	28年3月30日	無
29	同上	主任研究員　降幡順子、研究員　諫早直人	藤原宮・京出土の佐波理鋺	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
30	同上	研究員　若杉智宏	和田廃寺SD145出土古式土師器について	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
31	同上	主任研究員　山本崇、客員研究員　藤井裕之	藤原宮木簡の樹種2	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
32	同上	考古第三研究室長 清野孝之、主任研究員 山本崇	飛鳥寺出土文字瓦の再調査	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
33	同上	主任研究員　降幡順子、研究員　森先一貴	藤原宮・京出土瓦の胎土分析（２）	同上	奈良文化財研究所	6月26日	無
34	同上	主任研究員　降幡順子ほか2名	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の科学的特徴	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム発表要旨集	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良組織委員会	8月26日	無
35	同上	主任研究員　降幡順子ほか4名	古代鉛釉陶器・施釉瓦の科学分析からみた特徴	日本文化財科学会第32回大会	日本文化財科学会	7月11日	無
36	同上	主任研究員　山本崇	その後の藤原京―藤原宮京の退顛過程	都城制研究(9) 都城の廃絶とその後	奈良女子大学古代学学術研究センター	28年3月	無
37	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究	学芸室長　石橋茂登、研 究員　田村朋美	鳥寺跡出土遺物の研究　ガラス玉類の考古科学的研究	飛鳥資料館研究図録第19冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	28年3月	無
38	同上	学芸室長　石橋茂登、主 任研究員　降幡順子	向原寺所蔵金銅観音菩薩立像の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
39	同上	学芸室長　石橋茂登、主任研究員　降幡順子、研究員　丹羽崇史、ほか２名	於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
40	同上	研究員　諫早直人	飛鳥寺塔心礎出土馬具	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
41	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	研究員　恵谷浩子	文化的景観学の可能性－「文化的景観学」検討会公開ワークショップの議論から－	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
42	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	世界遺産登録された棚田景観の価値と保護-フィリピンとインドネシアの比較-	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
43	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	地域産業の大変革を経験した遺跡	遺跡学研究第12号	日本遺跡学会	11月10日	無
44	同上	アソシエイトフェロー　菊地淑人	Matsuri in Japan’s Historic Districts: Using Traditional Festivals as a Driver in Local Communities	Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
45	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	研究員　田村朋美 客員研究員　大賀克彦	A scientific and archaeological investigation on Roman glass artifacts unearthed in Japan	TECHNART2015 BOOK OF ABSTRACTS	TECHNART2015	4月27日	有
46	同上	室長　高妻洋成	木質文化財の保存と修復の科学の展望	木材学会誌	日本木材学会	5月	有
47	同上	主任研究員　降幡順子 研究員　庄田慎也	In Pursuit of Evidence for local Production of Bohai Tricolored Earthenware: Chemical Analyses pf	Asian Archaeology vol.3	Science Press Beijing	6月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
		他４名	Lead Glaze Ceramics Excavated from Kraskino and Gorbatoka in the Russian Maritime Province				
48	同上	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の材質・構造調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
49	同上	研究員諫早直人、 主任研究員降幡順子	藤原宮・京出土の佐波理鋺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
50	同上	学芸室長石橋茂登、 主任研究員降幡順子	向原寺所蔵金堂観音菩薩立像の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
51	同上	研究員森先一貴、 主任研究員降幡順子	藤原宮・京出土瓦の胎土分析（２）	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
52	同上	研究員中川あや、 主任研究員降幡順子	三徳山三佛寺所蔵鸚鵡文銅鏡の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
53	同上	主任研究員降幡順子、 学芸室長石橋茂登、研究員丹羽崇史、他２名	於美阿志神社石塔婆出土ガラス小壺の調査	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
54	同上	研究員　脇谷草一郎 研究員　田村朋美 室長　高妻洋成	福岡県潤地頭給遺跡出土船材の保存処理	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
55	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－石室内環境が金属製遺物の腐食におよぼす影響について－	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	有
56	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究－微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響－	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6月27日	無
57	同上	客員研究員　大賀克彦 研究員　田村朋美	弥生時代後期におけるガラス玉の地域性に関する考古科学的研究	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
58	同上	研究員　田村朋美 主任研究員　大河内隆之	香川県安造田東３号墳出土モザイク玉の自然科学的研究	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
59	同上	主任研究員　降幡順子 室長　石橋茂登、部長玉田芳英　他２名	古代鉛釉陶器・施釉瓦の化学分析からみた特徴	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月12日	無
60	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）模擬古墳を用いた土中空間の環境計測とその性状の把握	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
61	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
62	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他２名	海洋環境における鉄製遺物の腐食過程　－埋蔵深度が鉄の腐食状態に及ぼす影響－	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
63	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	出土木製遺物の水中保管環境における溶存酸素を低減する方策の検討	日本文化財科学会第32回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7月10日	無
64	同上	主任研究員　降幡順子 部長　玉田芳英　他１名	東アジアの中での日本の古代鉛釉陶器の化学的特徴	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム要旨集	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	8月27日	無
65	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その４）微生物活動が石室内酸素・二酸化炭素濃度に与える影響	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
66	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その３）金属製遺物の腐食に及ぼす石室内環境の影響	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9月6日	無
67	同上	室長　高妻洋成	木簡など木製遺物の保存環境	木簡研究	木簡学会	11月	有
68	同上	研究員　田村朋美 客員研究員　大賀克彦	Archaeometrical investigation of natron glass excavated in Japan	Microchemical Journal 126	Academic Press	28年1月	有
69	同上	主任研究員　降幡順子	銅造伊豆山権現立像の事前調査と保存修理	伊豆山神社の歴史と美術	奈良国立博物館	28年2月	無
70	同上	客員研究員　大賀克彦 研究員、田村朋美	日本列島出土カリガラスの考古科学的研究	古代学　第8号	奈良女子大学古代学学術研究センター	28年3月	有
71	同上	研究員　脇谷草一郎 室長　高妻洋成　他１名	出土木製遺物の水中保管時の劣化と溶存酸素量の関係（その１）－屋外水槽の異なる水深で木材を保管した場	日本木材学会大会発表梗概集	日本木材学会	28年3月27日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
			合－				
72	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6 月 27 日	無
73	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	日本建築学会近畿支部支部研究発表会梗概集	日本建築学会近畿支部	6 月 27 日	無
74	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他 3 名	大分市元町石仏における塩類風化の現状と要因の検討	日本文化財科学会第 32 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7 月 10 日	無
75	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔 室長　高妻洋成　他 3 名	平城宮跡遺構展示館における土質遺構露出展示保存に関する研究	日本文化財科学会第 32 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	7 月 10 日	無
76	同上	客員研究員　小椋大輔 研究員　脇谷草一郎 他３名	元町石仏における磨崖仏の保存に関する研究　－覆屋内環境が塩類風化に与える影響の検討－	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9 月 6 日	無
77	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	平城宮跡遺構展示館における露出展示遺構の劣化に関する研究	日本建築学会学術講演会梗概集	日本建築学会	9 月 6 日	無
78	同上	研究員　脇谷草一郎 客員研究員　小椋大輔　他２名	Deterioration of Remains Exhibited in the Excavation Site Exhibition Hall, Heijyo-kyu Palace Site	Advanced Materials Research	Trans Tech Publication	11 月	有
79	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 浦蓉子他	左京二条二坊十一坪の調査－平城第 563 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
80	興福寺防災工事に伴う発掘調査	都城発掘調査部研究員　桑田訓也他	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査－平城第 553 次・第 559 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
81	薬師寺東塔代替地盤支持杭事前発掘調査	都城発掘調査部主任研究員　青木敬他	薬師寺東塔の調査―第 554 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
82	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査	都城発掘調査部研究員　小田裕樹他	平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査　平城第 546 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
83	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査	都城発掘調査部研究員　芝康次郎他	平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査　平城第 551 次	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
84	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部研究員　山本祥隆他	東大寺東塔院跡の発掘調査　平城第 550 次（東大寺第 164 次）	奈良文化財研究所紀要 2016	奈良文化財研究所	28 年 6 月予定	無
85	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部主任研究員　森川実	土師器のうつわ、須恵器のうつわ－奈良時代の食器構成に関する一考察－	第 18 回古代官衙･集落研究会報告書　官衙・集落と土器１	奈良文化財研究所	12 月	有
86	同上	都城発掘調査部研究員　小田裕樹	趣旨説明	第 18 回古代官衙･集落研究会報告書　官衙・集落と土器１	奈良文化財研究所	12 月	有
87	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査	桑田訓也	興福寺中室・経蔵・鐘楼の調査（平城第 559 次）	奈文研ニュースNo.60	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無
88	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査（第２年次分）	都城発掘調査部主任研究員　青木敬他	薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報	薬師寺東塔基壇　国宝薬師寺東塔保存修理事業にともなう発掘調査概報	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無
89	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部研究員　石田由紀子	平城宮の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ－ 東大寺式軒瓦の展開－』第 16 回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28 年 2 月	無
90	同上	都城発掘調査部研究員　清野陽一	頭塔の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ－ 東大寺式軒瓦の展開－』第 17 回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28 年 2 月	無
91	同上	都城発掘調査部主任研究員　今井晃樹	西大寺・西隆寺・興福寺の東大寺式軒瓦	『８世紀の瓦づくりⅤ－ 東大寺式軒瓦の展開－』第 18 回シンポジウム発表要旨集	奈良文化財研究所	28 年 2 月	無
92	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	主任研究員　青木敬	日韓王陵級古墳における墳丘の特質と評価	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
93	同上	主任研究員　廣瀬覚	日韓の王陵および壁画古墳の比較研究序説－飛鳥時代と高麗・朝鮮時代を中心に－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
94	同上	研究員　諫早直人	新羅における初期金工品の生産と流通	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
95	同上	研究員　小田裕樹	古代日韓における有蓋台付椀の製作と展開－百済泗沘期の資料を中心に－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
96	同上	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登	日韓古代木製品についての覚書－タタリ状製品について－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
97	同上	研究員　庄田慎矢	日韓古代木製食器の比較研究－器種と樹種を中心に－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
98	同上	都城発掘調査部副部長渡辺晃宏	城山山城出土木簡管見	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
99	同上	遺構研究室長　箱崎和久・研究員　鈴木智大・研究員　海野聡	日本からみた韓半島の古代寺院金堂	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
100	同上	アソシエイトフェロー藤井裕之	日韓交渉史研究と年輪年代学－日本における課題－	日韓文化財論集Ⅲ	奈良文化財研究所、韓国国立文化財研究所	28 年 3 月 31 日	無
101	同上	遺構研究室長　箱崎和久	日本における7世紀の寺院金堂跡とその諸問題	東アジア古代寺址比較研究（Ⅱ）-金堂址編-	奈良文化財研究所、国立扶余文化財研究所	12 月 25 日	無
102	同上	主任研究員　降幡順子・神野恵	奈良三彩技術与化学特征的研究 - 平城宮陶器Ⅱ之奈良 -	『華夏考古』2015 年第 4 期	河南省文物研究所	12 月	無

○文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進（11 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	年輪年代学研究	主任研究員　大河内隆之	年輪年代学的視点から見た黎明期国産ヴァイオリンの木材利用について－鈴木政吉工場製作品を中心に－	奈良文化財研究所紀要	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
2	同上	研究員　星野安治	木の年輪で作った年代を測るものさし－年輪年代学の成果－	遺跡の年代を測るものさしと奈文研	クバプロ	7 月 11 日	無
3	同上	研究員　星野安治、客員研究員　児島大輔、客員研究員　光谷拓実	木造二天王立像（国〈文化庁保管〉）の年輪年代調査	MUSEUM 東京国立博物館研究誌	東京国立博物館	8 月 15 日	有
4	動植物遺存体による環境考古学的研究	研究員　山崎健	埋蔵文化財における動植物標本の現状と課題	学術の動向 20-5	日本学術協力財団	5 月 1 日	無
5	同上	研究員　山崎健	農耕開始期における漁撈活動の変化―伊勢湾奥部を事例として―	日本考古学 39	日本考古学協会	5 月 20 日	有
6	同上	研究員　山崎健	古代における鷲羽の利用	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
7	同上	研究員　山崎健	平城宮東方官衙地区 SK19189 出土の動物遺存体	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	無
8	同上	客員研究員　丸山真史	和歌山城跡から出土した動物遺存体	和歌山城跡第 18 次調査発掘調査報告書	和歌山市文化スポーツ振興財団	9 月	無
9	同上	客員研究員　松井章、客員研究員　丸山真史	東名遺跡群の漁労環境	東名遺跡群Ⅳ	佐賀市教育委員会	28 年 3 月	無
10	同上	アソシエイトフェロー松崎哲也、研究員　山崎健	貝類標本リスト	埋蔵文化財ニュース	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無
11	同上	研究員　山崎健ほか	藤原宮跡出土馬の研究	研究報告	奈良文化財研究所	28 年 3 月	無

○科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進（2 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	ミリ波イメージングにかかる基礎実験、及び装置の改良等	室長　高妻洋成 アソシエイトフェロー杉岡奈穂子	重要文化財諸戸家住宅広間障壁画の色材と構造	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	有
2	同上	室長　高妻洋成 主任研究員　降幡順子 アソシエイトフェロー杉岡奈穂子 アソシエイトフェロー中島志保	国宝薬師寺東塔初層の天井裏板・支輪裏板に用いられた彩色材料調査	奈良文化財研究所紀要 2015	奈良文化財研究所	6 月 26 日	有

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（22 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財に関する調査及び研究の推進	主任研究員　廣瀬覚	高松塚古墳の墳丘調査の意義－今後の調査・整備にむけて－	第26回考古学研究会東海例会資料集	考古学研究会東海例会	28年2月6日	無
2	同上	保存科学研究室長　高妻洋成ほか3名	テラヘルツ波イメージング技術による高松塚古墳壁画の層構造	文化財保存修復学会第37回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
3	同上	主任研究員　降幡順子	Conservation Project for the mural paintings of Takamatsuzuka tumulus in Japan	UNESCO Expert Workshop on Conservation of Mural Paintings	UNESCO	6月3日	無
4	同上	主任研究員　石橋茂登、山本崇、研究員　若杉智宏ほか5名	キトラ古墳と天の科学	－	奈良文化財研究所	10月9日	無
5	同上	主任研究員　石橋茂登、研究員　若杉智宏、再雇用職員　井上直夫	キトラ古墳天文図星座写真資料	－	奈良文化財研究所	28年3月31日	無
6	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力	研究員　森先一貴	檜隈寺瓦窯の調査－第181-4次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
7	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	主任研究員　黒坂貴裕、アソシエイトフェロー　南部裕樹	本薬師寺旧境内の調査-第178-11次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
8	同上	考古第三研究室長　清野孝之、研究員　大林潤	本薬師寺旧境内の調査-第181-1次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
9	同上	研究員　桑田訓也、アソシエイトフェロー　南部裕樹	豊浦寺の調査-第181-8次	奈良文化財研究所紀要2015	奈良文化財研究所	6月26日	無
10	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	主任研究員　青木敬	迅速化のための技術　奈良文化財研究所による支援	東日本大震災の復興と埋蔵文化財支援（中間報告）	文化庁文化財部記念物課	28年3月	無
11	災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画	アソシエイトフェロー　村田泰輔	平城第530次調査で発見された巨大地震の痕跡	奈文研ニュースNo.55	奈良文化財研究所	11月	無
12	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	考古資料から抽出される災害情報とそのデータ化	人間文化研究情報資源共有化研究会報告集６	人間文化研究機構	28年3月	無
13	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	考古資料および文献史料からみた過去の地震･火山災害に関する情報の収集とデータベース構築・公開事業について	学術会議叢書22	日本学術協力財団	28年2月	無
14	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	薬師寺東塔掘込地業における版築構造観察	薬師寺東塔基壇	橿原考古学研究所･奈良文化財研究所（仮）	28年3月	無
15	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	河川堆積と地震痕跡	大桷遺跡14	鳥取県教育文化財団	28年3月25日	無
16	同上	アソシエイトフェロー　村田泰輔	地震の痕跡について	都塚古墳発掘調査報告書	明日香村教育委員会	28年3月	無
17	同上	遺跡・調査技術研究室長　小池伸彦(共著)	考古学における地殻災害研究の今後	『学術会議叢書』22	日本学術協力財団	28年1月31日	無
18	第一次大極殿院建造物復原整備にかかる調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　中川二美	鬼瓦の分布からみた平城宮の造営…―第一次大極殿院の復原研究20―	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
19	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　村山聡子	古代建築の柱間装置の仕様…―第一次大極殿院の復原研究21―	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
20	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　村山聡子他	第一次大極殿院復原検討会記録13	（内部資料）	奈良文化財研究所	28年3月	無
21	平城宮跡歴史公園朱雀大路跡他発掘調査（平城宮第一次大極殿院西面回廊、平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路・三条条間北小路の発掘調査）	都城発掘調査部主任研究員　林正憲他	第一次大極殿院西面回廊の調査－平城第561次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無
22	同上	都城発掘調査部研究員　丹羽崇史他	平城京右京三条一坊一・二坪・朱雀大路･三条条間北小路の調査－平城第552次	奈良文化財研究所紀要2016	奈良文化財研究所	28年6月予定	無

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進（0件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無

○平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館における調査・研究成果（3 件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	飛鳥資料館における展示公開	研究員　丹羽崇史、ほか３名	はじまりの御仏たち	飛鳥資料館研究図録第 62 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	4 月 24 日	無
2	同上	学芸室長　石橋茂登、主任研究員　山本崇、研究員　若杉智宏、ほか５名	キトラ古墳と天の科学	飛鳥資料館図録第 63 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	10 月 9 日	無
3	同上	研究員　若杉智宏、ほか 12 名	飛鳥の考古学 2015	飛鳥資料館カタログ第 33 冊	奈良文化財研究所飛鳥資料館	28 年 1 月 29 日	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（　0件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】0 件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査･研究の推進	副所長　大貫美佐子	Introduction & Outcomes of the Project: Purposes of the Project, Outcomes and Analysis of the Case Studies	『Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)』	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	28 年 3 月	無

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成28年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」６５５～６６０号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
「東京国立博物館紀要」５１号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
「東京国立博物館文化財修理報告」ＸＶＩ	700	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸＶＩ　古今目録抄２	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等　 95件
「東京国立博物館図版目録　近代日本画篇（巻子・画帖）」	800	美術館・博物館・大学・研究所等　163件

○展覧会図録等

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展 特集図録	『鳥獣戯画　京都 高山寺の至宝』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『クレオパトラとエジプトの王妃展』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『始皇帝と大兵馬俑』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『生誕150年特別展　黒田清輝　日本近代絵画の巨匠』	―	美術館・博物館・大学等　111件
	『トーハクのミイラ』	2,000	
	『漢・唐時代の陶俑』	4,000	
特集印刷物	「養生と医学」	5,000	
	「東京国立博物館コレクションの保存と修理」	8,000	
	「国宝　鷹見泉石像」	10,000	
その他	『東京国立博物館セレクション　北斎』	4,000	美術館・博物館・大学・研究所等　498件
	『東京国立博物館セレクション　おひなさまと日本の人形』	4,000	美術館・博物館・大学・研究所等　498件
	『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』	1,000	美術館・博物館・大学等　111件
	『東京国立博物館ハンドブック』（日本語改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館ハンドブック』（英語改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館ハンドブック』（中国語改訂版）	3,000	
	『東京国立博物館日本美術50選』（日本語改訂版）	―	
	『東京国立博物館日本美術50選』（英語改訂版）	―	
	『法隆寺宝物館』（改訂版）	2,000	
	『上海博物館　中国絵画の至宝』増刷	2,000	
	『能面 創作と写し』増刷	2,000	
	『水滴　動物や野菜をかたどった水いれ』（改訂版）	2,000	
	『東京国立博物館　横河民輔コレクション　中国磁器名品選』増刷	2,000	
	『天翔ける龍』増刷	2,000	
	『東京国立博物館図版目録　インド・インドネシア染織篇』増刷	500	
	『東京国立博物館図版目録　中世古文書篇』増刷	500	

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第37号	850	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書13	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
社寺調査報告書27　知恩寺	500	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会『桃山時代の狩野派　永徳の後継者たち』	―	美術館・博物館・大学等
特別展観『第100回大蔵会記念　仏法東漸―仏教の典籍と美術―』	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会『琳派　京を彩る』	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○展覧会図録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	特別展『まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展』	6,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	開館120年記念特別展『白鳳―花ひらく仏教美術』	18,570	美術館・博物館・大学・研究機関等
	『第67回正倉院展』	4,450	美術館・博物館・大学・研究機関等
	『 The 67th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
特別陳列	特別陳列『名匠三代―木内喜八・半古・省古の木工芸―』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術』	1,850	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『お水取り』	5,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
	特別陳列『銅造伊豆山権現像修理記念　伊豆山神社の歴史と美術』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
その他	開館120年記念　『写真でたどる　奈良国立博物館のあゆみ』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館紀要『東風西声』　第11号	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
平成27年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
平成27年度文化芸術振興費補助金「文化財防災ネットワーク推進事業」報告書	800	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
九州国立博物館開館10周年記念シンポジウム「Ｘ線を用いた文化財の研究と活用」報告書	400	シンポジウム参加者

○展覧会図録等

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	「戦国大名－九州の群雄とアジアの波涛－」	1,440	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「大英博物館展－100のモノが語る世界の歴史－」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「美の国 日本」	2,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「始皇帝と大兵馬俑」	－	美術館・博物館・大学・研究機関等
トピック展示等	「新羅王子がみた大宰府」	1,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「祈りのかたち　八幡」	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「琉球と海」	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
	「太宰府天満宮の地宝」	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
文化交流展印刷物（リーフレット）	「九州国立博物館開館10周年記念特別公開　田中丸コレクションの茶陶」	13,000	展示室内等で配布（非売品）
その他	開館十周年記念収蔵品図録　九州国立博物館名品五十選	日英版：4,000 日中版：1,500 日韓版：1,000 合計　：6,500	・10周年記念式典参加者等へ配布 ・関係機関へ送付 ・館内ミュージアムショップにて販売
	九州国立博物館10年のあゆみ（開館10周年記念写真集）	4,500	・10周年記念式典参加者等へ配布 ・関係機関へ送付
	九州国立博物館史（開館10周年記念誌）	2,100	・関係機関へ送付

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配布先
『東京文化財研究所年報』2014年度版	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東京文化財研究所概要』2015年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
『東文研ニュース』58、59、60号	58号 2,500 59,60号 1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平成26年版　日本美術年鑑』	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
『美術研究』416、417、418号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産研究報告』第10号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
『第10回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
『保存科学』55号	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平安密教彫刻論』	450	博物館・美術館・大学・研究機関等
『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書』	500	文化庁・関係機関
『無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅱ「染織技術の伝承と地域の関わり」報告書』	100	文化庁・関係機関
『臭化メチル全廃から10年：文化財のＩＰＭの現在』	400	文化庁・関係機関
『文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究』	150	文化庁・関係機関
『文化財の保存環境の研究』平成23～27年度研究成果報告書	150	文化庁・関係機関
『四季花鳥図屏風　光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『平等院鳳凰堂内　光学調査報告書』	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2015年度』	100	文化庁・関係機関
『洋紙の保存と修復』	500	文化庁・関係機関
『Conservation and restoration of modern textile』	500	文化庁・関係機関
『各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ』	300	文化庁・関係機関
『世界遺産用語集』	500	文化庁・関係機関
『選定保存技術に関する報告書Ⅰ』	500	文化庁・関係機関
『敦煌莫高窟第285窟研究―壁画材料劣化メカニズムの解明』日文中文各1冊	中文100、日文50	中国側機関・大学・研究機関等

『2015年度日韓共同研究報告書』	20	韓国側機関・大学・研究機関等
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力　平成27年度成果報告書』	50	文化庁・関係機関
『東南アジアの文化遺産保護をめぐる技術的課題と展望　研究会報告書』	150	文化庁・関係機関
『Riset Integritas Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat』	50	インドネシア側機関・大学・研究機関等
『Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat』	120	インドネシア側機関・大学・研究機関等
『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013:11th mission』	250	文化庁・関係機関
『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究　アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡―2011～2014年度―』	250	文化庁・関係機関
シンポジウム報告書『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』	150	文化庁・関係機関
『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』	10	文化庁・関係機関
『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』	20	文化庁・関係機関
『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』	20	文化庁・関係機関
『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』	200	文化庁・関係機関
報告書『第17回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 危機の中の文化遺産 報告書』	300	コンソーシアム会員・研究会協力機関
報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム平成27年度諸外国国際協力体制調査 韓国国際協力体制に関する調査報告書』	300	コンソーシアム会員・研究会協力機関
パンフレット『アセアン+３文化遺産フォーラム２０１５ 東南アジア諸国と共に歩む－多様な文化遺産の継承と活用－実施報告』	200	コンソーシアム会員・研究会協力機関
パンフレット『文化遺産国際協力コンソーシアム』	2,000	コンソーシアム会員・研究会協力機関
小冊子『文化遺産の国際協力』	2,000	コンソーシアム会員・研究会協力機関
報告書『平成27年度文化庁委託 第39回世界遺産委員会審議調査研究事業』	400	文化庁・関係機関

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所概要2015	2,700	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所紀要2015	3,000	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.57～60	各3,000	大学、研究機関等
埋蔵文化財ニュースNo.162～165	162：2,500 163：2,500 164：2,500 165：2,200	教育委員会、図書館、博物館等
奈良文化財研究所特別講演（東京会場）『遺跡の年代を測るものさしと奈文研』講演録	260	関係機関、協力機関等
『はじまりの御仏たち』飛鳥資料館図録第 62 冊	2,000	研究機関、協力機関等
『キトラ古墳と天の科学』飛鳥資料館図録第 63 冊	3,000	研究機関、協力機関等
『飛鳥寺跡出土遺物の研究　ガラス玉類の考古科学的研究』飛鳥資料館研究図録第 19 冊	600	研究機関、協力機関等
『飛鳥の考古学 2015』飛鳥資料館カタログ第 33 冊	2,000	研究機関、協力機関等
第6回写真コンテスト展うちわ「ひさかたの天－いにしえの飛鳥を想ふ－」	3,000	館内観覧者
東アジア古代寺址比較研究（Ⅱ）－金堂址編－	700	関係機関、協力機関等
『平城京"ごみ"ずかん-ごみは宝-』リーフレット	5,000	館内観覧者
『地下の正倉院展－造酒司木簡の世界－』リーフレット	7,000	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2015　Ⅰ期』リーフレット	1,700	館内観覧者
ミニ展示『発掘速報展平城2015　Ⅱ期』リーフレット	1,700	館内観覧者
ミニ展示『すごろく土器がみつかった！』リーフレット	1,000	館内観覧者
『日韓文化財論集Ⅲ』奈良文化財研究所学報第 95 冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『中世庭園の研究―鎌倉・室町時代―』奈良文化財研究所学報第 96 冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『キトラ古墳天文図　星座写真資料』奈良文化財研究所研究報告第16冊	800	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『藤原宮跡出土馬の研究』奈良文化財研究所研究報告第17冊	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『史跡等の整備・活用の長期的な展開―経年によるソフト・ハードの変化と再生―』平成26年度遺跡整備・活用研究集会報告書	700	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
『地域のみかた－文化的景観学のすすめ』文化的景観スタディーズ第1冊	1,000	大学、研究機関、図書館・協力機関等
『Lectures from the International Research Exchange between Nara National Research Institute for Cultural Properties and Columbia University, 2011-2015』奈良文化財研究所とコロンビア大学との研究交流事業における研究発表論文集 2011-2015	500	大学、研究機関、図書館等
『平城宮跡整備報告書』	600	関係機関・協力機関等
『坂田寺出土建築部材調査報告書』	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
文化的景観資料集成第2集　文化的景観保存計画の概要（Ⅱ）	1,000	関係機関・協力機関等
文化的景観資料集成第3集　文化的景観保存計画の概要（Ⅲ）	1,000	関係機関・協力機関等
『８世紀の瓦づくりⅤ　－ 東大寺式軒瓦の展開－』第16回シンポジウム発表要旨集	350	関係者・協力者等
『第18回古代官衙・集落研究会報告書　官衙・集落と土器１』	600	関係者・協力者等
『第一次大極殿院復原検討会記録』13（内部資料）	200	関係機関・協力機関等
西トップ遺跡調査修復報告中間報告3　南祠堂再構築編 Annual Report on the Research and Restoration Work of the Western Prasat Top Mantling Process of the Southern Sanctuary	（和）500 （英）300	関係機関・協力機関等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
『「スリランカの内戦後地域における消滅の危機に瀕した伝統工芸の保護プロジェクト」報告書』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
『Documentation of ICH as a Tool for Community-led Safeguarding Activities (2012-2014)』	100	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成28年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	114	42	26	3	3	10	72	26	46	0
科学研究費補助金のみ	31	12	7	1	1	3	19	10	9	0
学術研究助成基金助成金のみ	59	18	9	2	2	5	41	12	29	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	24	12	10	0	0	2	12	4	8	0

※平成 22 年度までの科学研究費補助金事業は、平成 23 年度より「科学研究費補助金」と「学術研究助成基金助成金」による科学研究費助成事業として取り扱うこととなった。

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究	田沢　裕賀	学芸研究部調査研究課長	基盤研究（A）	6,120
2	中世聖徳太子絵伝の図様展開に関する調査研究	沖松　健次郎	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究（A）	5,970
3	博物館における文化財の情報資源化に関する研究	高橋　裕次	学芸研究部保存修復課長	基盤研究（A）	5,330
4	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究（A）	9,360
5	清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究	関　紀子	学芸研究部列品管理課登録室アソシエイトフェロー	基盤研究（B）（海外学術調査）	2,210
6	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	若手研究（A）	4,810
7	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸企画部企画課長	研究成果公開促進費（データベース）	1,900

2）学術研究助成基金助成金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	神像表現における物語性の研究	丸山　士郎	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究（C）	780	4,810〈平成25～28年度〉
2	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸企画部東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550〈平成25～27年度〉
3	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室主任研究員	基盤研究（C）	780	4,290〈平成25～27年度〉
4	聴力障害を持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築	川岸　瀬里	学芸企画部博物館教育課教育普及室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,820	4,160〈平成25～27年度〉
5	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究	澤田　むつ代	客員研究員	基盤研究（C）	1,950	4,680〈平成26～28年度〉
6	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸研究部列品管理課主任研究員	基盤研究（C）	1,300	4,680〈平成27～29年度〉
7	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究	三田　覚之	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究（B）	1,040	3,380〈平成26～28年度〉
8	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析	関谷　泰弘	総務部総務課渉外開発担当係長	若手研究（B）	650	3,900〈平成26～28年度〉
9	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	若手研究（B）	1,560	4,030〈平成27～29年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	刀装具一派後藤家の鑑定　極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察	酒井　元樹	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究（Ａ）	130	1,430	6,500〈平成24～27年度〉
2	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図像的典拠と分担製作の視点から－	浅湫　毅	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究（Ｂ）	1,040	780	6,500〈平成24～27年度〉
3	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察	松嶋　雅人	学芸研究部列品管理課平常展調整室長	基盤研究（Ｂ）	780	0	6,500〈平成25～27年度〉
4	東アジアにおける繍仏の基礎的研究	伊藤　信二	学芸企画部広報室長	基盤研究（Ｂ）	3,770	780	6,500〈平成25～28年度〉
5	極薄青銅器の製作技術解明－中国金属工芸史を再構築するための基盤研究－	川村　佳男	学芸研究部列品管理課平常展調整室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,170	6,500〈平成25～27年度〉
6	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究	白井　克也	学芸研究部調査研究課考古室長	基盤研究（Ｂ）	4,680	1,560	6,500〈平成25～27年度〉
7	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究	鬼頭　智美	学芸企画部企画課国際交流室長	基盤研究（Ｂ）	2,340	1,820	6,500〈平成26～28年度〉
8	高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相	松本　伸之	副館長	基盤研究（Ｂ）	1,820	650	6,500〈平成26～29年度〉
9	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究	浅見　龍介	学芸研究部付研究員	基盤研究（Ｂ）	2,860	1,040	6,500〈平成26～28年度〉
10	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	特任研究員	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	2,340	1,300	6,500〈平成26～30年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	幕末近代の商家が伝えた文化財の総合調査：貝塚廣海惣太郎家コレクション	永島　明子	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（Ａ）	9,100

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	実作例に基づく日本の宮廷装束および調度の基礎的研究	山川　暁	学芸部教育室長	基盤研究（C）	4,030
2	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	若手研究（B）	3,900

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究	湯山　賢一	館長	基盤研究（Ａ）	13,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）

						〈研究期間〉
1	平安時代の「大般若波羅蜜多経」遺品の総合的調査と歴史研究資料としての資源化	野尻　忠	学芸部企画室長	基盤研究（C）	2,080	5,070 〈平成25～27年度〉
2	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部情報サービス室員	若手研究（B）	910	1,560 〈平成27～28年度〉

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	博物館科学課 環境保全室長	基盤研究（A）	15,210
2	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究	原田　あゆみ	企画課 特別展室長	基盤研究（B）	6,890
3	近世日本のキリシタン禁制と「異国船」対策－東アジアと地域の視点から	松浦　晃佑	企画課特別展室　研究員	特別研究員奨励費	1,000

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	博物館科学課保存修復室 主任研究員	基盤研究（C）	1,300	5,200 〈平成25～28年度〉
2	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究	荒木　和憲	文化財課資料登録室 主任研究員	若手研究（B）	650	2,730 〈平成25～27年度〉
3	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究	赤田　昌倫	博物館科学課環境保全室 アソシエイトフェロー	若手研究（B）	780	2,600 〈平成26～27年度〉
4	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	文化財課資料登録室 主任研究員	基盤研究（C）	2,080	4,810 〈平成27～29年度〉
5	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	博物館科学課環境保全室 研究員	基盤研究（C）	910	4,680 〈平成27～30年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	タイにおける異文化の受容と変容―13世紀から18世紀の対外交易品を中心として―	原田　あゆみ	学芸部企画課 特別展室長	基盤研究（B）	0	1,200	6,500 〈平成24～26年度〉 ※期間延長により助成金のみ継続受給
2	契丹壁画墓の集成と公開-唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解-	臺信　祐爾	学芸部　特任研究員	基盤研究（B）	4,160	2,470	6,500 〈平成25～27年度〉

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　10件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	中央アジア、シルクロード拠点都市と地域社会の発展過程に関する考古学的研究	山内　和也	文化遺産国際協力センター 地域環境研究室長	基盤研究（B） 海外	5,980
2	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討	木川　りか	保存修復科学センター 生物科学研究室長	基盤研究（A）	15,210
3	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	小林　公治	企画情報部 広領域研究室長	基盤研究（B）	3,640
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部 研究員	若手研究（A）	4,680
5	彩色材と和紙からなる紙質文化財における和紙の劣化機構	貴田　啓子	保存修復科学センター 特別研究員	特別研究員奨励費	1,024
6	墨、煤、膠の製法と性状の体系化	宇高　健太郎	保存修復科学センター 特別研究員	特別研究員奨励費	1,560
7	毘沙門天像の成立と展開-唐・宋・元から平安・鎌倉へ-	佐藤　有希子	企画情報部 特別研究員	特別研究員奨励費	1,430

8	平安密教彫刻論	津田　徹英	企画情報部 文化財アーカイブズ研究室長	学術図書	2,200
9	SAT大藏經テキストデータベース圖像編	津田　徹英	企画情報部 文化財アーカイブズ研究室長	データベース	4,500
10	江戸時代における初期文人画の基礎的研究―中国絵画学習とその地域性について―	安永　拓世	企画情報部 研究員	研究活動スタート支援	1,430

2）学術研究助成基金助成金のみ　12件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	空間情報データベースによる文化財の災害被害予測の高度化及び防災計画策定への応用	二神　葉子	企画情報部 情報システム研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,170	4,030 （平成26～28年度）
2	平安仏画の技法に関する画像情報による調査研究	小林　達朗	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,080	4,940 （平成26～28年度）
3	平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究	皿井　舞	企画情報部 主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,950	4,680 （平成26～28年度）
4	環境制御による古墳に繁茂する緑色生物の軽減法に関する研究	朽津　信明	保存修復科学センター 修復材料研究室長	基盤研究（Ｃ）	2,340	4,680 （平成27～29年度）
5	津波被災文書資料から発生するにおい物質の同定とその対策	佐野　千絵	保存修復科学センター 副センター長	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,550 （平成27～29年度）
6	日本絵画における鉛白・胡粉の利用とその変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,820	4,680 （平成27～29年度）
7	文化財の材質調査のための２次元イメージング検出器の開発	犬塚　将英	保存修復科学センター 主任研究員	挑戦的萌芽	910	2,990 （平成26～27年度）
8	実演用能装束の保存継承に関する研究-能楽の包括的継承の一指針として-	菊池　理予	無形文化遺産部 研究員	挑戦的萌芽	1,040	2,990 （平成26～28年度）
9	塑像・乾漆像の部材構造を考慮したより高精度な地震時応答解析手法の開発	森井　順之	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,300	3,640 （平成26～27年度）
10	パネル保存型壁画における劣化の検証と保存管理環境の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター 客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,340	3,900 （平成26～27年度）
11	リアルタイム浮遊菌測定を用いた自然共生型博物館におけるゾーニングについての研究	間渕　創	保存修復科学センター 客員研究員	若手研究（Ｂ）	2,080	3,900 （平成27～29年度）
12	放射光を用いた中東アナトリア出土鉄器に対する生産地同定法の開発	増渕　麻里耶	文化遺産国際協力センター アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,040	3,120 （平成27～29年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	考古遺物等を通じたベトナム木造建築様式の形成過程に関する研究	友田　正彦	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長	基盤研究（Ｂ） 海外	2,340	1,820	6,800 （平成25～27年度）
2	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発-旧修理材料や微生物痕の除去-	早川　典子	保存修復科学センター 主任研究員	基盤研究（Ｂ）	2,210	260	8,840 （平成26～30年度）
3	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究（Ｂ）	2,860	520	6,500 （平成26～30年度）
4	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 -伝統的製法の再現-	宇高　健太郎	保存修復科学センター 特別研究員	若手研究（Ａ）	5,200	390	22,040 （平成26～29年度）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集	渡邉　晃宏	都城発掘調査部副部長	基盤研究（Ｓ）	33,410
2	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（Ａ）	8,710
3	アンコール遺跡群を事例とした考古情報資源共有化に関する研究	森本　晋	企画調整部国際遺跡研究室長	基盤研究（Ａ）	13,390
4	中国新石器時代における家畜・家禽の起源と、東アジアへの拡散の動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ａ）	9,230
5	歴史的文字に関する経験知の共有資源化と多元的分析のための人文・情報学融合研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ａ）	7,020
6	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（Ａ）	9,360
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（Ｂ）	4,810
8	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（Ｂ）	5,460
9	奈良時代建築の造営体制と維持管理	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	研究成果公開促進費 ＜学術図書＞	1,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　29件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	古代東アジアにおける土木技術系譜の復元的研究	青木　敬	都城発掘調査部考古第二研究室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	5,200 〈平成24～27年度〉
2	中世日本と東アジアの木造建築における架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	基盤研究（Ｃ）	1,170	5,460 〈平成24～27年度〉
3	甲冑編年の再構築に基づくモノの履歴と扱いの研究	川畑　純	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	650	2,600 〈平成24～27年度〉
4	東アジアにおける鉛釉陶器の原料とその時間的・地域的特徴に関する研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,030 〈平成25～27年度〉
5	平安時代出土文字資料の動態的歴史分析-＜荷札の終焉＞にみえる木簡の機能	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,160 〈平成25～27年度〉
6	ツガ年輪による近世以降の建造物の年代測定および用材産地推定手法の確立	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	520	3,120 〈平成25～27年度〉
7	装飾古墳を安定に保存するための環境制御法の開発に関する研究	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	520	2,210 〈平成25～27年度〉
8	古代東アジアにおける食器構成と食事作法の変化に関する比較研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,640 〈平成25～28年度〉
9	古代日本の宮都、寺院出土磚の基礎的研究	中川　二美	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	650	3,380 〈平成25～28年度〉
10	大工道具とその加工痕跡から見た建築技術史の研究	番　光	文化遺産部建造物研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,380 〈平成25～27年度〉
11	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,770 〈平成25～28年度〉
12	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,120 〈平成25～28年度〉
13	中国由来の木彫像の用材観	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,680 〈平成26～28年度〉
14	「復元学」構築のための基礎的研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,170	3,900 〈平成26～28年度〉
15	古代東北アジアにおける金工品の生産・流通構造にかんする考古学的研究	諫早　直人	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,640 〈平成26～29年度〉
16	七世紀土器編年からみた古代宮都の変遷に関する考古学的研究	若杉　智宏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	2,730 〈平成26～29年度〉
17	九州旧石器編年の再構築と集団関係の研究―中九州石器群の再検討	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	3,770 〈平成26～29年度〉
18	古代都城造営における造瓦体制の復元的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（Ｂ）	780	3,640 〈平成26～29年度〉
19	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ｂ）	－	2,600 〈平成26～30年度〉
20	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古研究室研究員	若手研究（Ｂ）	1,040	3,900 〈平成26～29年度〉
21	中近世における標準年輪曲線の広域ネットワーク整備による木材産地推定	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	若手研究（Ｂ）	910	3,900 〈平成26～29年度〉
22	法隆寺・東大寺宝物に見られる「イラン文化」：エフタルとソグドの影響について	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（Ｃ）	1,040	2,990 〈平成26～28年度〉
23	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,420 〈平成27～31年度〉
24	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300	4,810 〈平成27～29年度〉
25	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,170	4,810 〈平成27～31年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
26	飛鳥時代金属製品の加工技術に関する基礎的研究	石橋　茂登	飛鳥資料館学芸室長	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,810 〈平成27～31年度〉
27	考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	挑戦的萌芽研究	2,080	3,510 〈平成27～31年度〉
28	金工品の流通と製作技術伝播からみた古代東アジアにおける地域間交流研究	稲田　宇大 （金　宇大）	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	910	2,860 〈平成27～31年度〉
29	マルチチャンネル機器を利用した高速遺跡探査技術の開発（国際共同研究強化）	金田　明大	埋蔵文化財センター主任研究員	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）	－	13,910 〈平成27～28年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	650	6,500 〈平成25～29年度〉
2	弥生時代における青銅器生産の総合的研究	難波　洋三	埋蔵文化財センター長	基盤研究（Ｂ）	2,600	1,170	6,500 〈平成25～29年度〉
3	文化財および美術工芸材料のナノ構造と物性・機能の解明	北田　正弘	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	1,950	1,820	6,500 〈平成25～27年度〉
4	歴史と現状からみた庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から	小野　健吉	副所長	基盤研究（Ｂ）	1,950	1,300	6,500 〈平成26～29年度〉
5	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	1,820	1,170	6,500 〈平成26～30年度〉
6	アンコール王朝末期の総合的歴史学の構築	杉山　洋	企画調整部長	基盤研究（Ｂ）	2,470	1,430	6,500 〈平成26～29年度〉
7	東アジアにおける「西のガラス」の流通からみた古代の物流に関する考古科学的研究	田村　朋美	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（Ａ）	130	1,430	6,500 〈平成25～28年度〉
8	古代東アジアにおける建築技術の重層性と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（Ａ）	1,560	1,690	6,500 〈平成26～29年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成28年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
125人	38 人	27人	5人	6人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	87 人	46人		41人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　27人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館学芸部長）	当館所蔵の絵画に関する研究
2	岩崎　均史（練馬区立石神井公園ふるさと文化館館長）	当館所蔵の大小絵暦に関する研究
3	松田　清	当館所蔵の江戸幕府旧蔵の洋書、シーボルト献納本などの古洋書に関する研究
4	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
5	東野　治之（奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
6	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	当館所蔵の切手に関する調査研究
7	水上　嘉代子（公益財団法人遠山記念館学芸員）	当館に所蔵される小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
8	小笠原　小枝	当館所蔵のインド更紗に関する研究
9	大脇　　潔	当館所蔵古瓦の整理および、当館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
10	金子　浩昌（日本考古学協会会員）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
11	宮下　佐江子（公益財団法人古代オリエント博物館学芸部長）	西アジア古代ガラスの研究
12	丸山　清志（城西国際大学物質文化研究センター研究員・助手）	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
13	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の絵画に関する研究
14	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
15	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	当館所蔵の東洋漆工に関する研究
16	小野　博（美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
17	保坂　裕興（学習院大学大学院人文科学研究科教授）	館史資料アーカイブズ学的研究
18	田中　淑江（共立女子大学家政学部准教授）	当館所蔵の江戸時代を中心とする小袖に関する研究
19	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
20	望月　幹夫（元東京国立博物館上席研究員）	当館所蔵の考古資料（原史・有史）に関する調査研究
21	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	当館所蔵油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
22	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授）	考古出土遺物に関する保存科学的研究
23	稲本　泰生（京都大学人文科学研究所准教授）	東洋彫刻及び大谷探検隊将来西域美術の調査研究
24	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
25	クライナー・ヨゼフ	在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信
26	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫上席研究員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
27	高浜　秀	当館所蔵の中央ユーラシア青銅器に関する研究

【京都国立博物館】　5人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上一稔（同志社大学文学部教授）	南山城の彫刻に関する調査研究
2	宇都宮啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	奥平俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	近世絵画に関する調査研究
4	狩野博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学人文学部准教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（東京国立博物館名誉館員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】　46人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	近代美術資料群の調査研究
2	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
3	河合大介	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
4	丸川雄三（国立民族学博物館准教授）	近現代美術資料の収集、整理、公開に関する調査研究
5	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
6	津村宏臣（同志社大学文化情報学部文化情報学科准教授）	東京文化財研究所アーカイブズ構築に関する調査研究
7	吉崎真弓（国立情報学研究所特任研究員）	文化財情報の発信に関する調査研究
8	片山まび（東京藝術大学美術学部准教授）	美術品売立目録の保存と活用に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
9	近松鴻二（国士舘大学非常勤講師ほか）	黒田清輝宛書簡ならびに記事珠等の明治期文書資料に基づく調査研究
10	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
11	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
12	齋藤裕嗣（国学院大学大学院兼任講師）	無形民俗文化財の調査研究
13	原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）	無形文化財工芸技術（金工分野）の調査研究
14	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財工芸技術（陶芸分野）の調査研究
15	山崎　剛（金沢美術工芸大学准教授）	無形文化財工芸技術（漆工分野）の調査研究
16	俵木　悟（成城大学文学部准教授）	無形民俗文化財の調査研究
17	星野厚子（東京藝術大学助手）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
18	大西秀樹(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師)	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護活動の調査研究
20	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	「地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化事業」等の調査研究
21	鎌田紗弓（日本学術振興会特別研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	三浦定俊（公益財団法人文化財虫菌害研究所理事長）	Ｘ線透過画像調査データ等に関する整理およびアーカイブ業務等
23	藤井義久（京都大学農学部教授）	文化財の生物劣化対策の研究
24	呂　俊民	文化財の保存環境の研究
25	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	環境制御および環境解析に関する研究
26	古田嶋　智子	文化財の保存環境に関する調査研究
27	間渕　創（三重県立総合博物館学芸員）	文化財保存収蔵環境におけるカビの付着菌、浮遊菌の調査
28	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
29	長島宏行（一般財団法人日本航空協会）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
30	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
31	本多貴之（明治大学理工学部専任講師）	伝統的修復材料に関する調査研究
32	高林弘実（京都市立芸術大学美術部講師）	中国壁画の保護に関する調査研究
33	渡邉真樹子（絵画修復家）	中国壁画の保護に関する調査研究
34	酒井清文	伝統的修復材料に関する調査研究
35	堤　一郎（茨城大学教育学部特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
36	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	材料の基本物性の計測に関する調査研究
37	谷口陽子（筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類准教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業に関する調査研究
38	松田泰典(国際交流機構大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト・チーフ・アドバイザー)	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」人材育成と技術移転事業
39	大河原典子（鎌倉女子大学専任講師）	古墳壁画の修復に関する調査研究
40	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業に関する修復手法の調査研究等
41	古川尚彬（首都大学東京都市環境学部特任助教）	建築・都市計画に関する知識を活かした調査研究
42	石井美恵（女子美術大学大学院非常勤講師）	在外日本文化財保存修復協力事業に関する調査研究
43	前川佳文（青山学院大学非常勤講師）	古墳壁画の修復に関する調査研究
44	間舎裕生（慶応大学文学部非常勤講師）	キルギス等文化遺産国際協力拠点交流に係る調査研究
45	原本　知実（大阪大学大学院国際公共政策研究科招へい研究員）	文化財保護に関する調査研究及び世界遺産委員会における資産調査
46	藤澤　明（帝京大学文化財研究所講師）	アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する調査研究

【奈良文化財研究所】　41人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小原　嘉記（中京大学国際教養学部准教授）	日本古代・中世の地方支配制度及び中世寺院の研究
2	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	考古学、文化人類学の研究
4	山下慎吾（魚と山の空間生態研究所代表）	文化的景観と生態系との関係に関する研究
5	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所と行う共同研究
6	眞貝　理香	動物遺存体の分析研究
7	水野　裕史（熊本大学教育学部講師）	平城宮跡フィールドミュージアムの研究開発
9	登谷　伸宏（京都橘大学文学部助教）	日本建築・都市史の研究
10	李　　暉（奈良県教育委員会文化財保存事務所調査補助員）	建築史に関する研究
11	MARES　Emmanuel Bernard（総合地球環境学研究所事務補佐員）	森蘊資料の業績に関する研究
12	中村　亜紀子（英国ヨーク大学考古学部Research Associate）	中国を中心とする東アジアの陶製建築部材に関する研究
13	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院復原のための調査・研究
14	谷本　啓（奈良大学通信教育部非常勤講師）	日本古代史の研究
15	深澤　芳樹（元奈良文化財研究所副所長）	歴史考古学の研究
16	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	日本古代史の研究
17	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	出土木器の研究
18	肥塚　隆保（元奈良文化財研究所副所長）	文化財科学、保存修復科学の研究
19	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学名誉教授）	縄文文化財の調査研究
20	北田　正弘	金属材料工学、文化財科学の研究
21	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	保存修復科学、精密工学の研究
22	澤田　正昭(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長)	考古遺物及び遺跡の保存科学の研究
23	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化財の保存展示環境の研究
24	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通についての研究
25	福永　　香（独立行政法人人情報通信研究機構電磁波計測研究所研究マネージャー）	文化財の非破壊診断調査研究
26	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	動物考古学の研究
27	茂原　信生（京都大学名誉教授）	自然人類学、動物考古学の研究
28	渡辺　伸行（神戸市立上野児童館長）	日本考古学（弥生時代～古代）及び自然災害と考古学の研究
29	大江　文雄	古生物学（魚類系統進化）の研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
30	菊地　大樹（元奈良文化財研究所任期付研究員）	中国考古学、動物考古学の研究
31	上中　央子	花粉分析、文化財科学、環境考古学、古環境の研究
32	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の研究
33	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学の研究
34	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学の研究
35	藤井　裕之	年輪年代学の研究
36	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学の研究
37	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
38	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の研究
39	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門員）	遺跡探査の研究
40	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所研究部長）	遺跡及びその調査技術の研究
41	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術の研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成28年3月31日現在

	H23	H24	H25	H26	H27
国立博物館計	6,480,930	7,743,323	6,564,190	10,236,963	13,226,289
東京国立博物館	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460
京都国立博物館	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
奈良国立博物館	722,249	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057
九州国立博物館	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391
文化財研究所計	1,771,695	1,655,762	1,857,638	2,128,972	2,546,715
東京文化財研究所	1,314,541	(*1)1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504
奈良文化財研究所	457,154	425,044	447,563	525,886	605,211
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	1,838 (H23.12.16サイト開設)	5,289	5,454	6,200	7,504
機構本部	208,982	260,558	283,412	325,132	292,721
e国宝	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265
文化財防災ネットワーク	―	―	―	―	102,574

※アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
※1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24年10月～25年2月のアクセスログが消失したことから、年間アクセス件数は不明である。ログが保存されている7ヵ月間のアクセス件数717,919件の月平均を12倍した値を、参考値として記載している。
※文化財防災ネットワークは平成27年3月よりサイトを開設、
同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。

e 平成 27 年度平常展・特別展アンケート結果

＜平常展＞

東京国立博物館総合文化展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 243
京都国立博物館名品ギャラリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 244
奈良国立博物館名品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 245
九州国立博物館文化交流展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 246

＜特別展＞

東京国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 247
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」
特別展「鳥獣戯画　―京都 高山寺の至宝―」
「クレオパトラとエジプトの王妃展」
「アート オブ ブルガリ　１３０年にわたるイタリアの美の至宝」
特別展「始皇帝と大兵馬俑」

京都国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 252
特別展覧会「桃山時代の狩野派」
特別展覧会「琳派　京を彩る」

奈良国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 254
特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展　」
開館 120 年記念特別展「白鳳　花ひらく仏教美術　」
第 67 回正倉院展

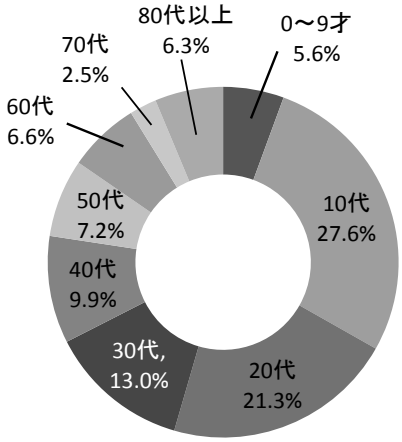
九州国立博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 257
特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波涛―」
特別展「大英博物館展―100 のモノが語る世界の歴史―A History of the World in 100 Objects」
特別展「美の国　日本」
特別展「黄金のアフガニスタン」

東京国立博物館

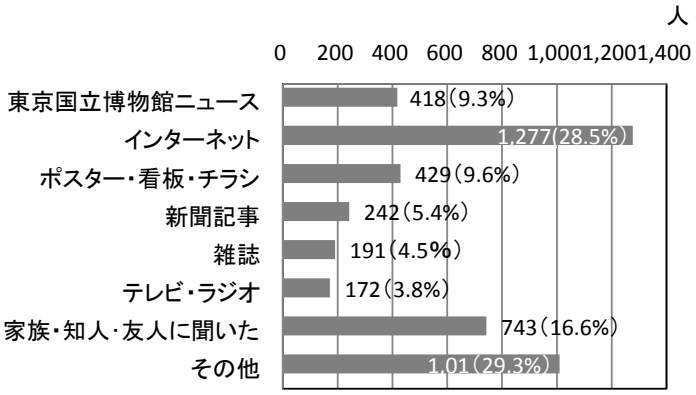
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日（水）～平成28年3月31日（木）開館日数：307日間
回答者数：4,517人（うちタッチパネルアンケート回答者数：3,012人＜66.7%＞）
来館者数：747,944人
アンケート回収率：0.64%

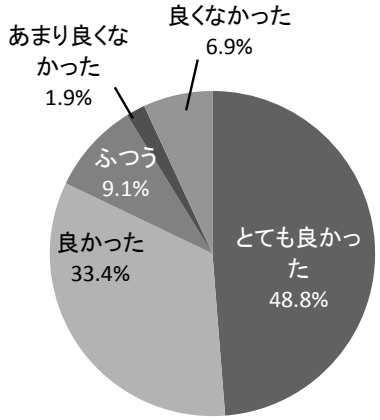
①アンケート回答年齢層



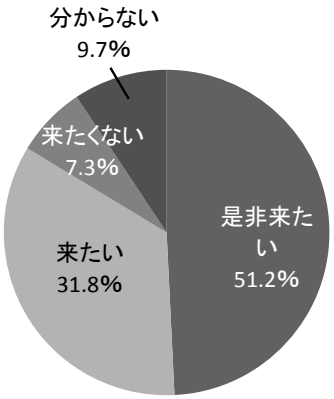
②認知経路　（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館希望率



⑤主な意見・感想

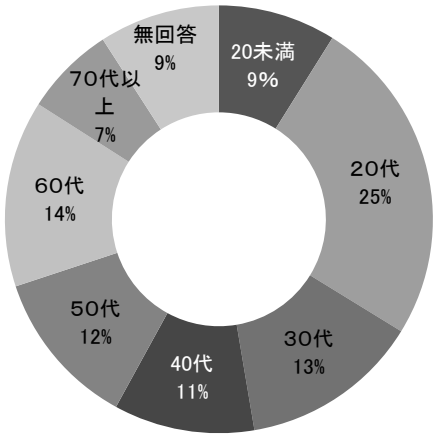
・良かった、楽しかった、面白かった、素晴らしかった。
・～の展示が良かった（三日月宗近、松林図屏風、富嶽三十六景等多岐にわたる）。
・ひんぱんに展示替えがあるので楽しい。飽きない。
・考古展示室がリニューアルされて面白くなった。
・ガラスケースの汚れが気になる。
・外国語の説明や案内が少ない。
・作品を写真撮影できるのがとてもいい。
・トーハクなびのダウンロード時間が長すぎる。
・～の展示を見たい（下村観山、平安時代の絵巻物や和歌集、鳴孤等）
・子どもと一緒に参加できるイベントをもっと増やしてほしい。

京都国立博物館

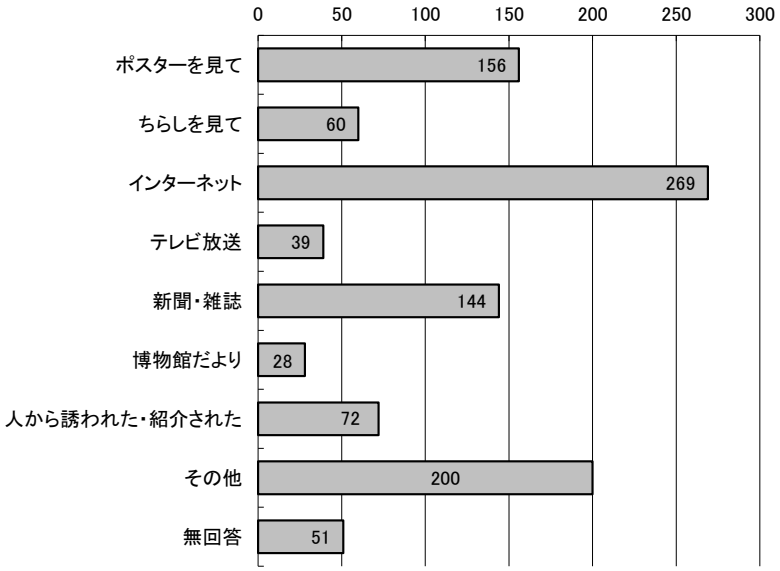
平常展（ 名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間: 平成27年4月1日(水)～平成28年3月21日(月祝)　開館日数:223日間
回答者数: 927人
来館者数:205,526人
アンケート回収率: 0.45%

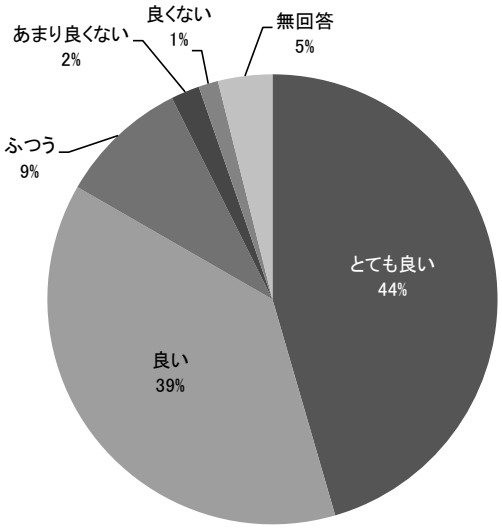
①アンケート回答年齢層



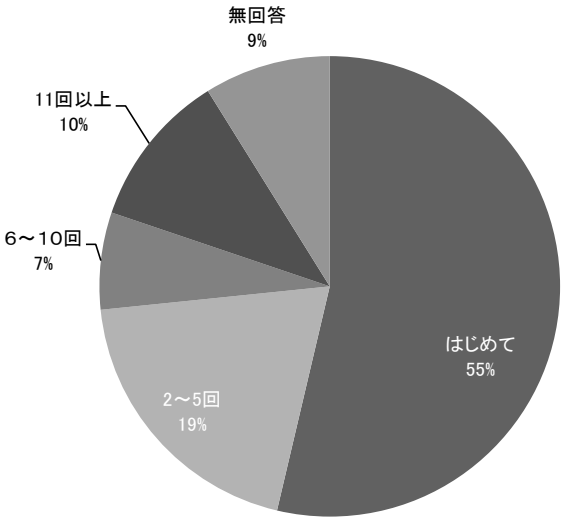
②認知経路 （複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

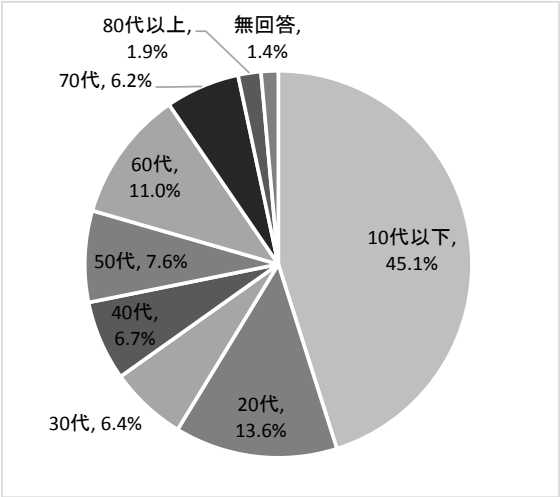
・良かった、素晴らしかった、面白かった、楽しかった
・展示品の質が高い　展示が素晴らしい
・展示替えが多く、何度来ても楽しめる
・建物が新しく洗練されている　景観も素晴らしい
・展示品の解説文が小さくて読みづらい　展示室が暗い　英語の解説が少ない
・順路やトイレなどの場所がわかりづらい

奈良国立博物館

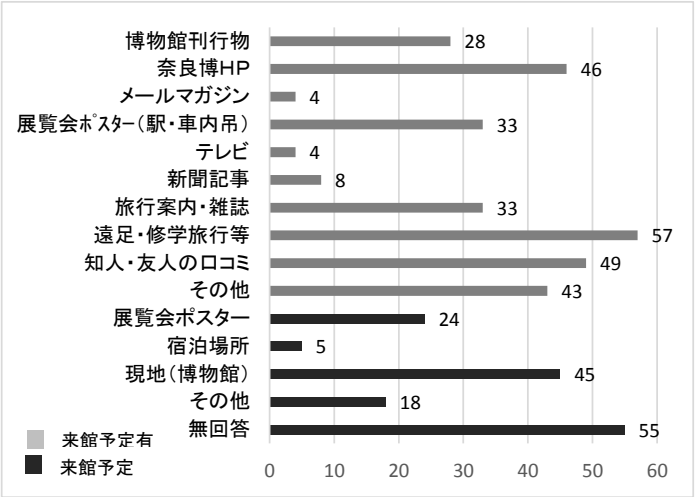
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日(水)～平成28年3月31日(木)　開館日数：320日間
（ただしなら仏像館休館のため6月30日～10月22日、11月10日～12月6日、3月15日～3月31日は青銅器館のみ開館）
回答者数：421人（来館者数：95,208人　アンケート回収率：0.44%）

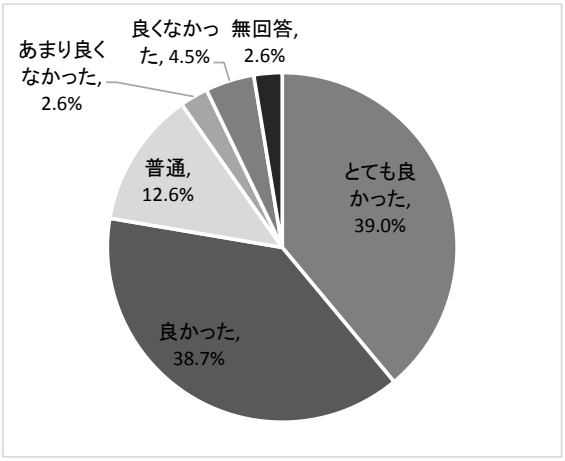
①年齢層



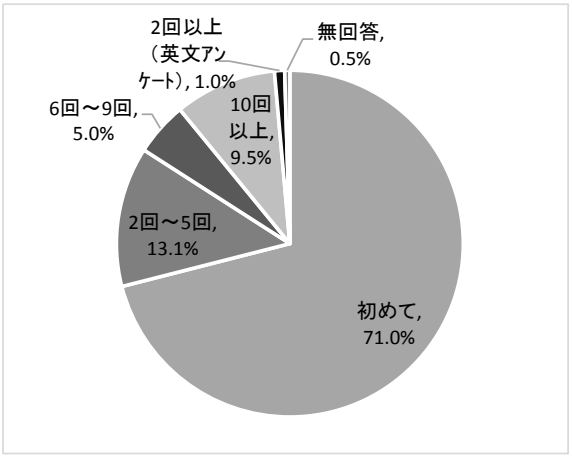
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



⑤主な意見・感想

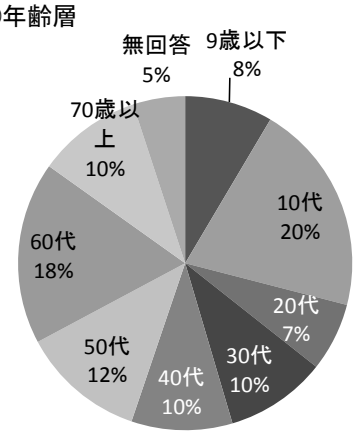
・見たことないものがたくさんで、わかりやすくせつめいがあった。楽しかったのでまたきたい。
・学校で勉強したものがたくさん見られてよかった。
・一つ一つ丁寧な説明があり、わかりやすかった。歴史についてもっと知りたいと思った。
・博物館の醍醐味は常設展にあります。静かに作品と向きあえる常設こそ充実させてください。
・少し見づらいものもあったので、鏡を置くか、斜めに展示していただければありがたかったです。
・落ち着いて見ることができたが、仏像館が休館中で残念。

九州国立博物館

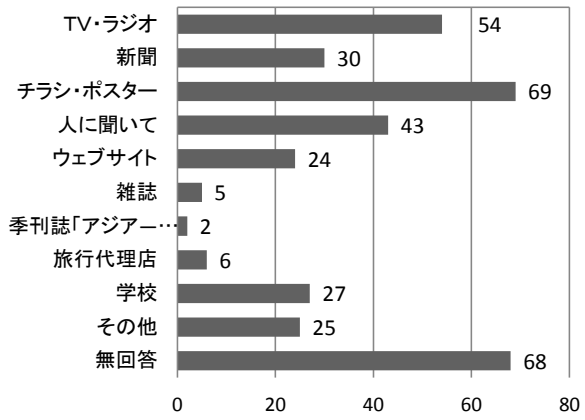
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月1日(水)～28年3月31日(木)　　開館日数:314日間
回答者数：316人　来館者数：412,621人　アンケート回収率：0.08%
H28.3.31現在

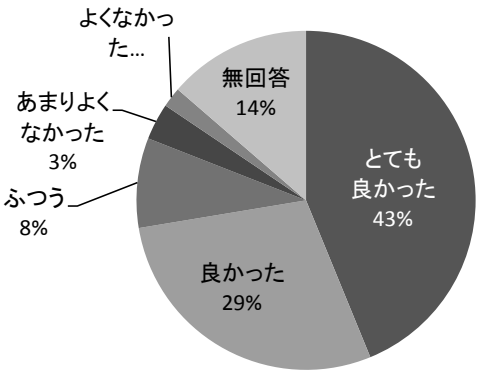
①年齢層



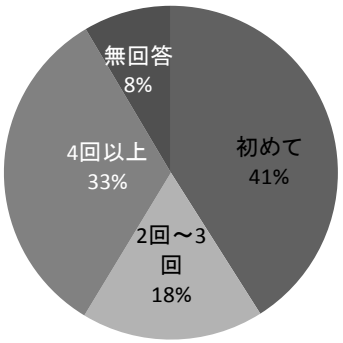
②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④再来館率



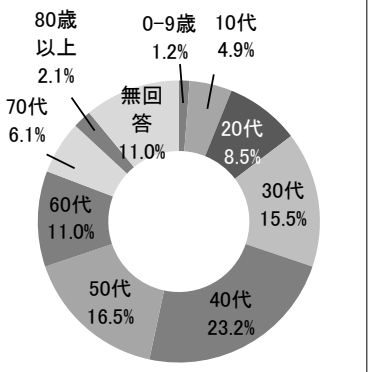
⑤主な意見・感想
・刀剣展示が楽しかった。古美術品も一点一点が興味深かった。
・展示品がどこから見てもいいようになっているのが良かった。
・日本史の教科書でしか見たことのない歴史的に重要なものを多く見ることができて良かった。
・(展示品に)触れられるスペースがあり、とてもよかったので、もっと増やしてほしい。
・くずし字を楷書でわかり易く表記してほしい。
・床に靴音がしない工夫をしてほしい。
・展示室内が暗くて見づらい。

東京国立博物館

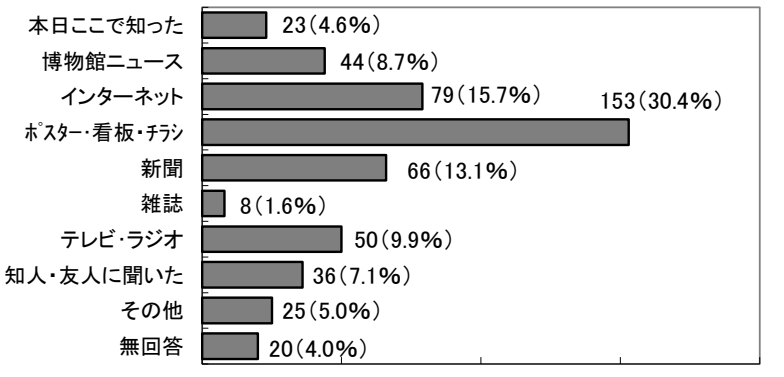
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流」 アンケート集計結果

開催期間：平成27年3月17日（火）～ 5月17日（日）（56日間）
回答者数：328人（総入館者数：97,300人　アンケート回収率：0.34%）

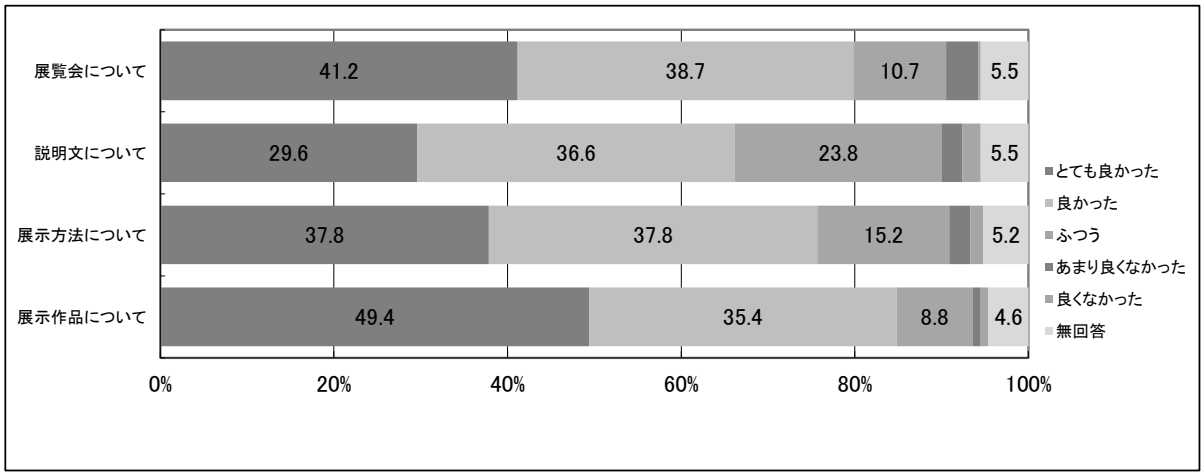
①アンケート回答年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・インドではじまった仏教を勉強する機会となり、大変有意義だった。
・「摩利支天立像」「バールフット遺跡の浮彫彫刻」「ヴェッサンタラ本生の銀鉢」「ガンダーラ仏像」がよかった。
・展示の仕方が良かった。仏像の裏側が見られるなどの工夫があった。
・会場の表慶館が展示イメージにあっていて良い。
・みうらじゅん＆いとうせいこう氏のスペシャル音声ガイドが面白かった。

注:上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	3.7	0.3
説明文	2.4	2.1
展示方法	2.4	1.5
展示作品	0.9	0.9

（%）

1814年に開館したコルカタ（旧カルカッタ）・インド博物館は、ブッダに関するあらゆる作品や仏教美術のコレクションが秀逸なアジア最古の総合博物館です。今回は世界的に有名なバールフット遺跡の浮彫彫刻をはじめ、ギリシャ・ローマの影響を色濃く映し出す流麗なガンダーラの仏像、インド文化の黄金時代グプタ朝の仏立像など、インド仏教の美術の至宝約90件が出品されました。インド仏教美術のあけぼのから1000年を超える繁栄の様子をたどった本展には、10万人近い方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約80%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「会場内の階段が大変だった」「説明が足りない。もっと詳しい説明がほしい」などのご意見も寄せられました。

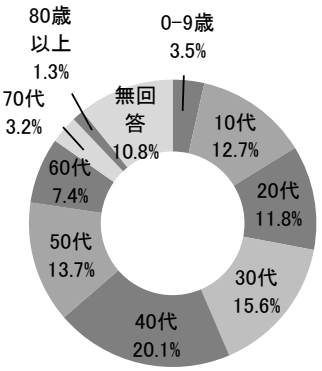
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

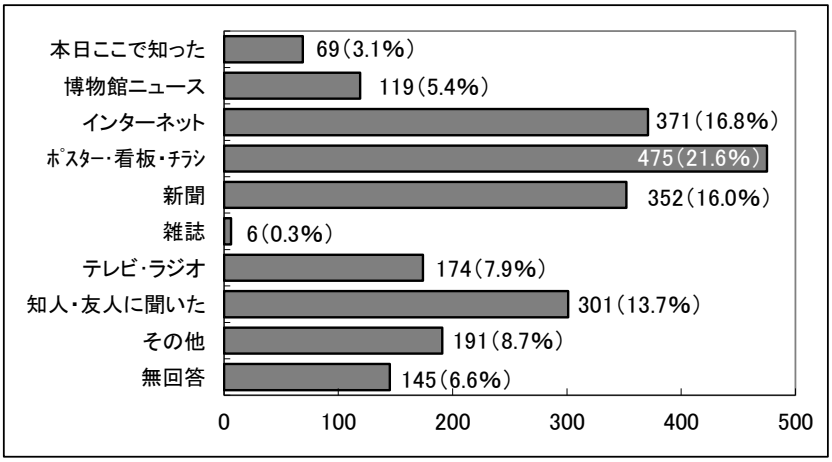
特別展「 鳥獣戯画 –京都　高山寺の至宝–」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月28日（火）～ 6月7日（日）（36日間）
回答者数：1,777人（総入館者数：239,115人　アンケート回収率：0.74%）

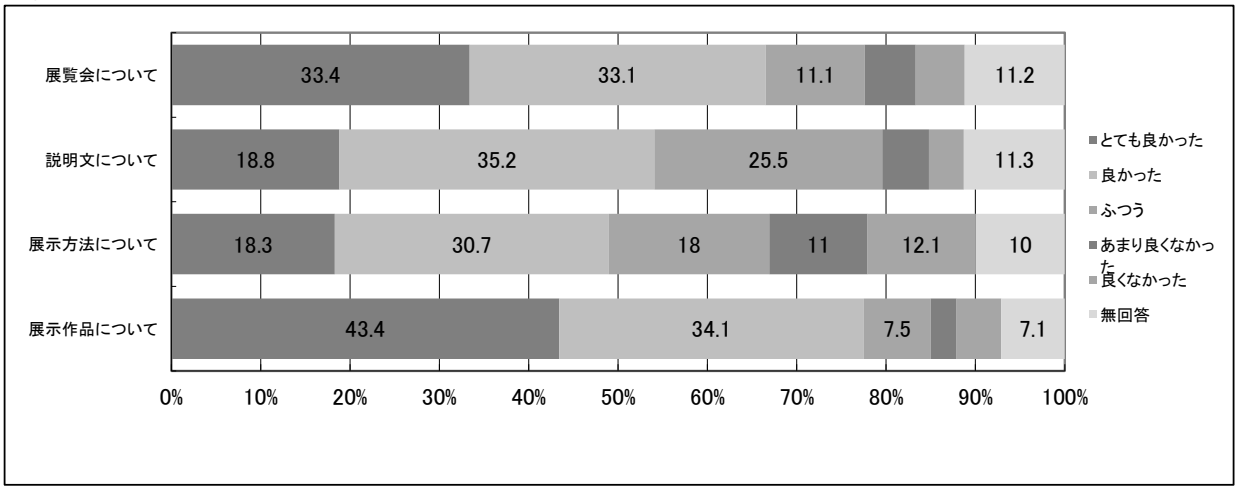
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・親しみのある国宝「鳥獣戯画」を間近で見られて感動した。
・高山寺伝来の宝物から明恵上人の人物像が理解でき、大変勉強になった。
・「明恵上人像(樹上坐禅像)」「華厳宗祖師絵伝」「神鹿」「子犬」がよかった。
・待ち列対応（誘導・待ち時間表示・日傘・給水・テント等）が良く、
　スムーズに並べた。
・甲巻の待ち時間が長かった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	5.7	5.5
説明文	5.2	3.9
展示作品	2.9	5.0

（%）

多くの人が一度は目にしたことのある、日本で最も有名な絵巻、国宝・鳥獣戯画。墨線のみで動物や人間たちを躍動的に描いた、日本絵画史上屈指の作品です。国宝の甲・乙・丙・丁4巻とともに、この4巻から分かれ、国内外に所蔵される断簡5幅も集結し、また鳥獣戯画の伝来した京都・高山寺より、明恵上人の信仰と深く関わる美術作品もあわせてお目見えしました。高山寺ゆかりの至宝と、全巻の修理を終え、現存する全ての鳥獣戯画をご紹介する機会となった本展には、24万人近い方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約67%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「長時間並んで大変だったので整理券があればよかった」「鳥獣戯画の展示は、会期を分けず全て本物を展示してほしかった」などのご意見も寄せられました。

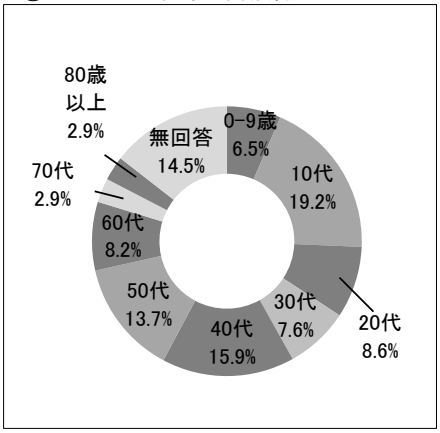
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

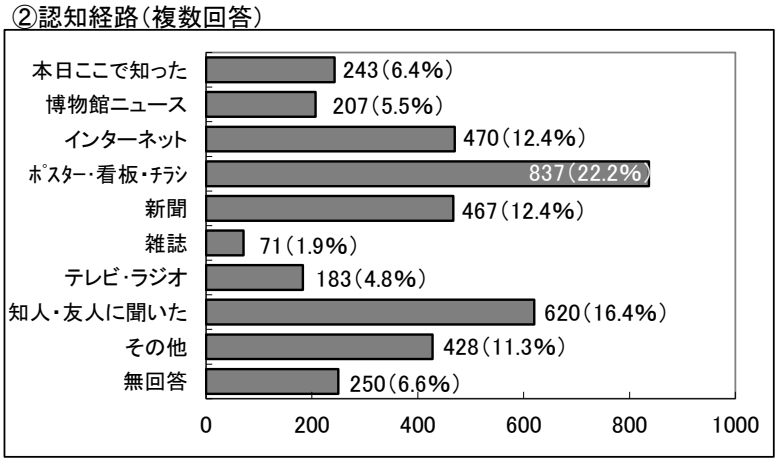
「クレオパトラとエジプトの王妃展」アンケート集計結果

開催期間：平成27年7月11日（土）～ 9月23日（水・祝）（66日間）
回答者数：3,175人（総入館者数：267,959人　アンケート回収率：1.18%）

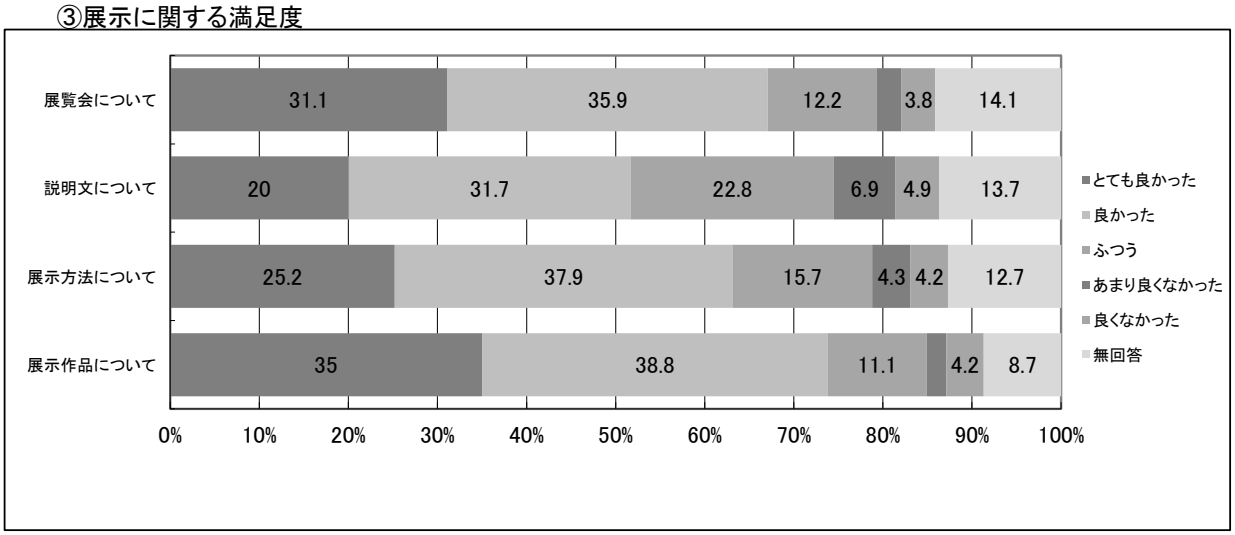
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・古代エジプトの貴重な品がたくさん見られて感動した。
・クレオパトラだけではなく、各王妃や王宮について学べて興味深かった。
・「クレオパトラ彫像」「アメンヘテプ3世の王妃ティイのレリーフ」「青色彩文土器」「王妃のマスク」「装身具、宝飾品」がよかった。
・キッズデー、平日イブニング券の試みがよかった。今後も取り入れてほしい。
・展示会場最後の「クレオパトラを見送った星々」が素敵だった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった
展覧会	2.8
展示作品	2.2

（%）

ピラミッド、ミイラ、死者の書…約3,000年もの間、独自の文化を築いた古代エジプト。ファラオと呼ばれる王を頂点に繁栄する傍らには、いつもファラオや国を支える女性たちがいました。今なお「絶世の美女」として語り継がれるクレオパトラ、女王として君臨したハトシェプストなど、時に大きな政治的・宗教的な役割をも果たした古代エジプトの女性たち。クレオパトラに代表される古代エジプトの王妃や女王たちをテーマに、ルーヴル美術館、大英博物館、ベルリン・エジプト博物館、ウィーン美術史美術館など世界の名だたる美術館・博物館の所蔵品を中心に、14カ国から貴重な名品約180件が一堂に会しました。古代エジプトの粋を集めた本展には、約27万人の方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して67%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「説明文には材質の表記もしてほしい」「会場内が寒く、ゆっくり鑑賞できなかった」などのご意見も寄せられました。

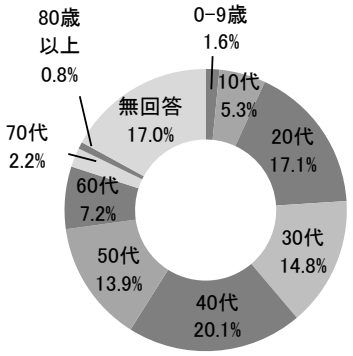
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

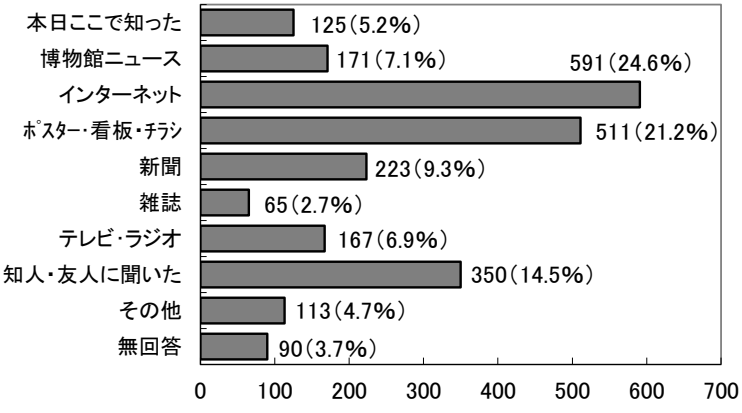
「アート オブ ブルガリ　130年にわたるイタリアの美の至宝」アンケート集計結果

開催期間：平成27年9月8日（火）～ 11月29日（日）（72日間）
回答者数：1,914人（総入館者数：142,000人　アンケート回収率：1.35%）

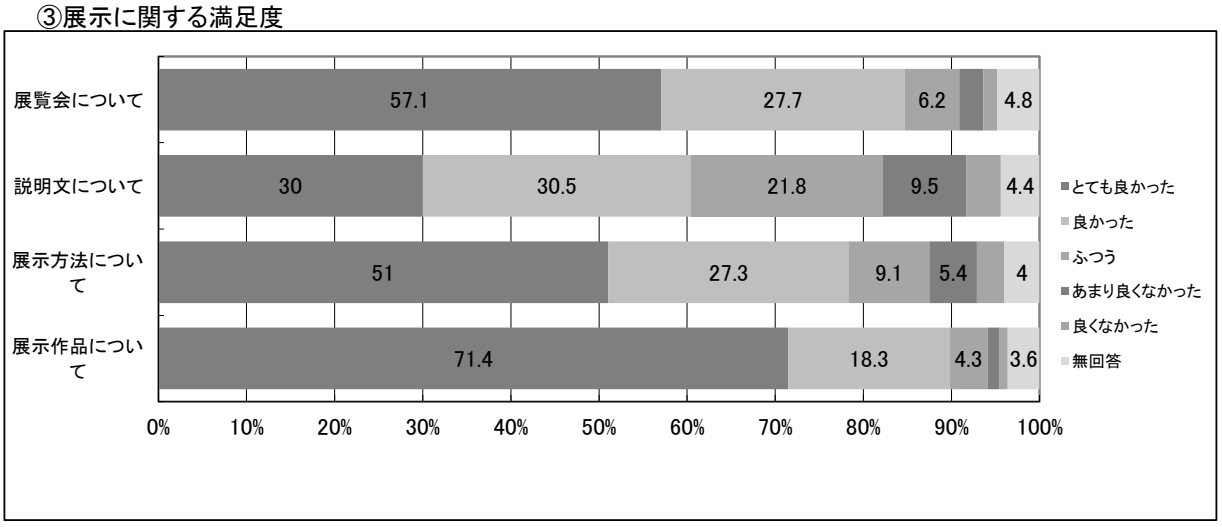
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・洗練された美しいジュエリーの輝きを存分に堪能できた。
・プロジェクション・マッピングを多用した展示演出が斬新でよかった。
・ソートワールのサファイアの色、存在感が素晴らしかった。
・エリザベス･テイラールームが豪華で素晴らしい。ブルガリが使用された映画やリズが実際に着用した衣裳も見られてよかった。
・会場となった表慶館がブルガリの世界観に非常にマッチしていた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.7	1.6
説明文	9.5	3.9
展示方法	5.4	3.1
展示作品	1.3	1.0

（%）

130年を越える歴史を持ち、イタリアが世界に誇るハイジュエリーブランド、ブルガリ。1世紀以上にわたり、イタリア派ジュエリーデザインを代表する美意識の高い作品の数々は、時代を彩る名女優たちからアンディ・ウォーホルまで多くの著名人を魅了し、他の追随を許さず比類なきスタイルを確立しました。今回はブルガリ・ローマ本社の協力のもと、壮大なコレクションの中から『エリザベス･テイラーコレクション』、誕生40周年を迎える『「ブルガリ・ブルガリ」ウォッチ　ヘリテージコレクション』、または日本文化からインスパイアされた作品など、ブルガリの創業から今日に至るまでの最も重要な作品約250ピースが展示されました。日本開催のなかでは過去最大規模の回顧展となった本展には、14万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「図録完売が残念だった。再販してほしい」「会場内が暗く、足元が見えにくくて危なかった」などのご意見も寄せられました。

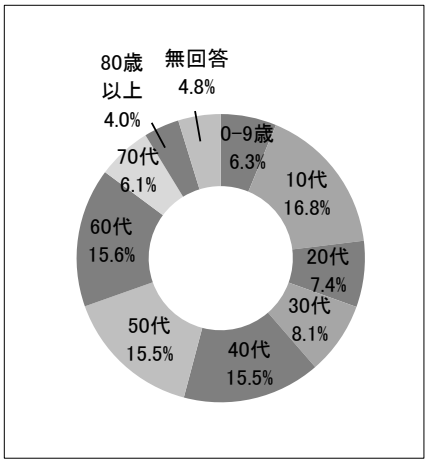
今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館

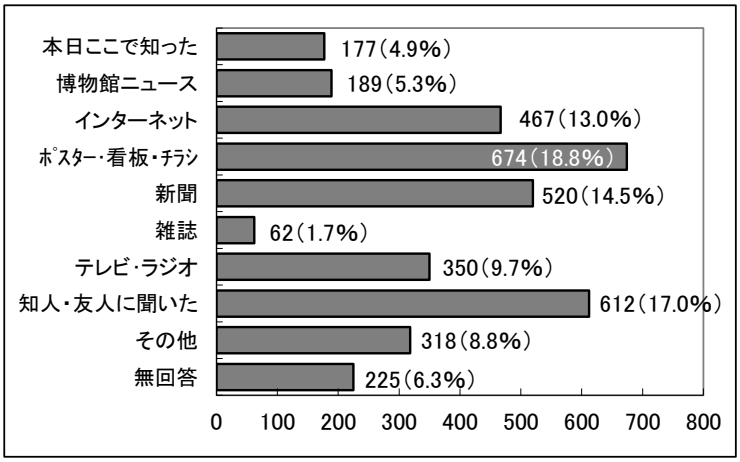
特別展「始皇帝と大兵馬俑」アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月27日（火）～ 平成28年2月21日（日）（94日間）
回答者数：2,814人（総入館者数：483,809人　アンケート回収率：0.58%）

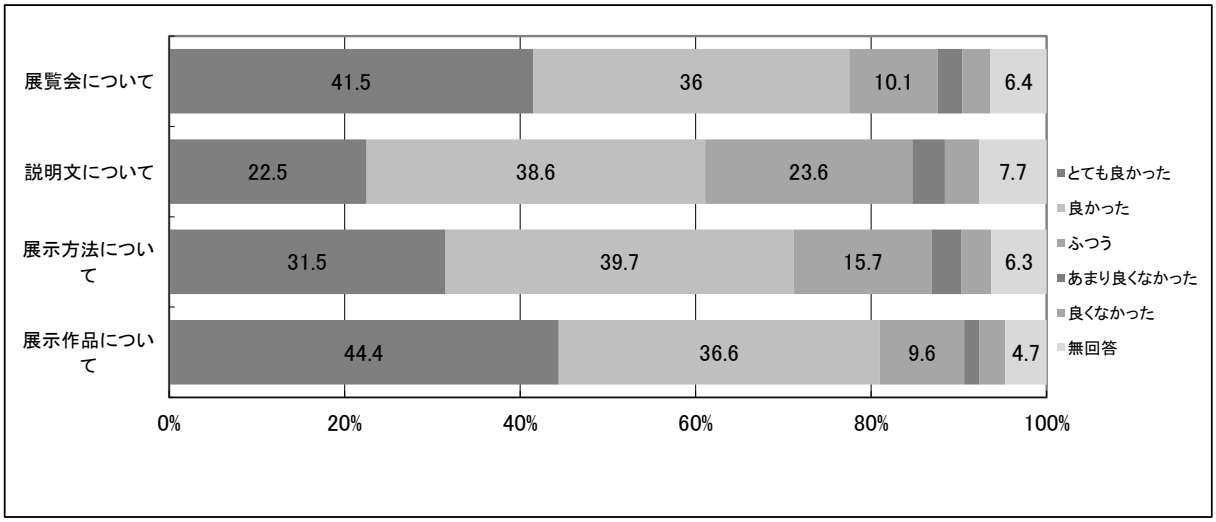
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・「兵馬俑」「銅車馬」のほか、中国の工芸品が堪能できてよかった。
・兵馬俑坑が再現された回廊展示は非常に迫力があり見ごたえがあった。
・説明文がよかった。文字が大きくて読みやすく、理解の助けとなった。
・「びじゅチューン！」コラボグッズやガチャガチャなど魅力的な商品が多くあった。
・会場内に兵馬俑との写真撮影コーナーが設けられており、楽しめた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	2.8	3.2
説明文	3.7	3.9
展示方法	3.4	3.4
展示作品	1.7	3.0

（%）

今から約2200年前に「最初の皇帝」を名乗り、中国大陸に統一王朝を打ち立てた秦の始皇帝。その陵墓のほど近くに埋められた「兵馬俑」は、20世紀の考古学における最大の発見のひとつと謳われ、1974年の出土以来、新しい知見と驚きをもたらし続けています。今回、最新の発掘成果を採り入れながら、バリエーション豊かな兵馬俑と始皇帝にまつわる貴重な文物をご紹介する機会となりました。絶対権力者だからこそ実現できた作品の圧倒的な迫力を示し、始皇帝が地下を含む陵墓一帯に空前の規模で築き上げた「永遠の世界」の実像に迫った本展には、48万人を超える方々にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して約78%の方々から好意的な意見をいただくことが出来ました。一方で、「レプリカの兵馬俑の顔が皆同じでがっかりした」「兵馬俑の台座に足を取られて危なかった」などのご意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

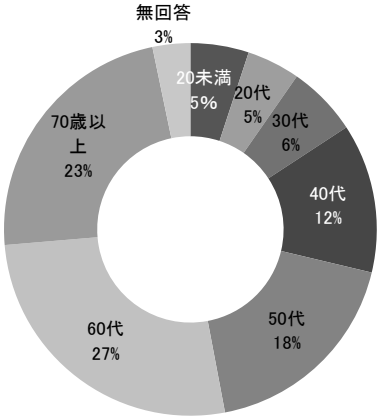
京都国立博物館

特別展覧会「桃山時代の狩野派」

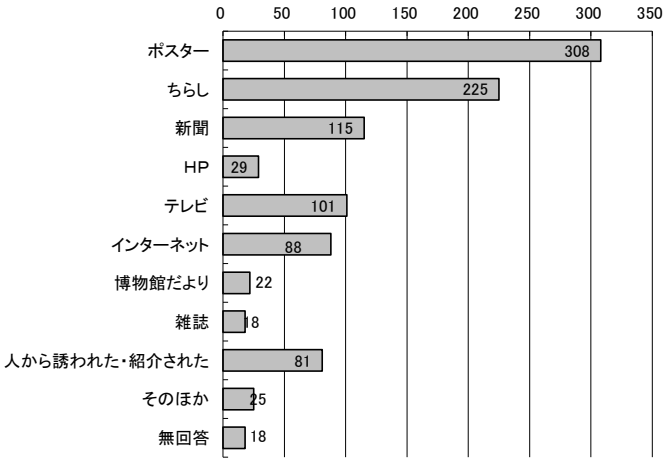
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月7日（火）～ 5月17日（日）（37日間）
回答者数：672人（総来館者数　118,186人　アンケート回収率0.6%）

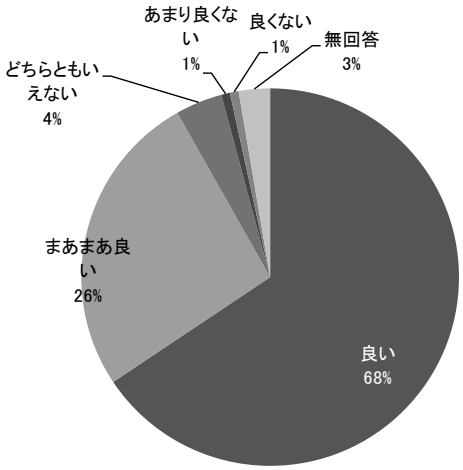
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、素晴らしかった、感動した
・狩野派の流れがよくわかった
・見ごたえがあった、充実した内容だった
・狩野永徳の作品も見たかった

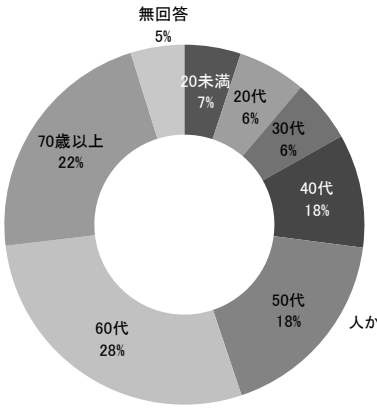
京都国立博物館

特別展覧会「琳派　京を彩る」

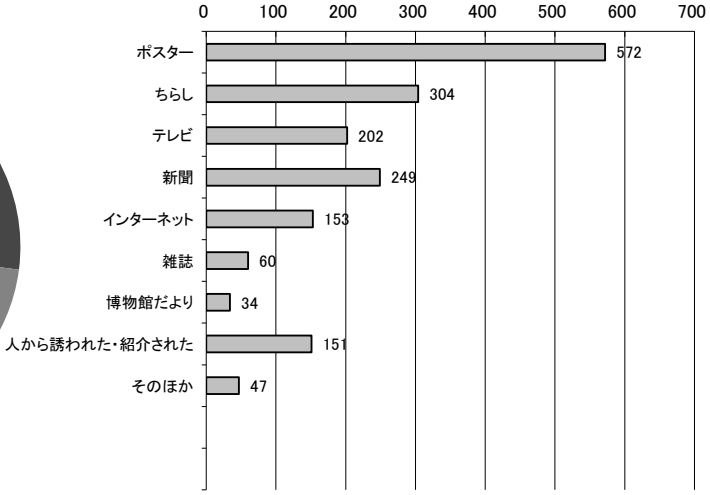
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月10日（土）～ 11月23日（月・祝）（39日間）
回答者数：1,224人（総来館者数 327,925人　アンケート回収率 0.4%）

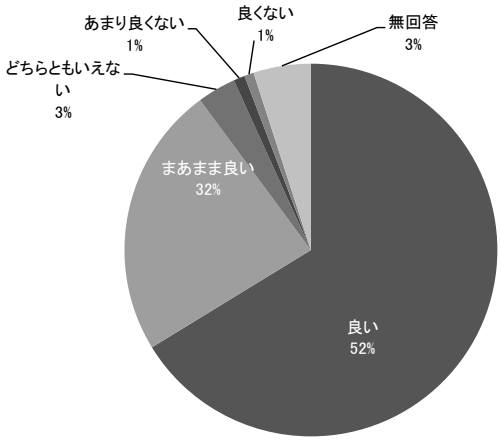
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・良かった、面白かった、感動した
・見ごたえがあった、充実した内容・構成だった
・風神雷神図屏風が見比べられて、よかった
・待ち時間が長い、人が多すぎて、よく見えなかった

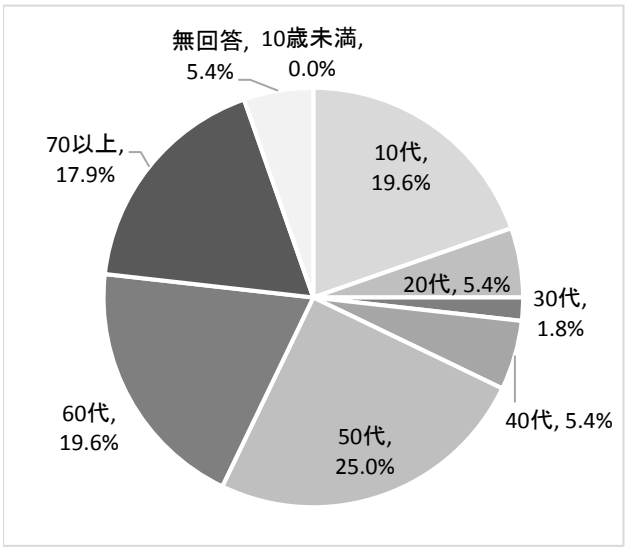
奈良国立博物館

特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展　」

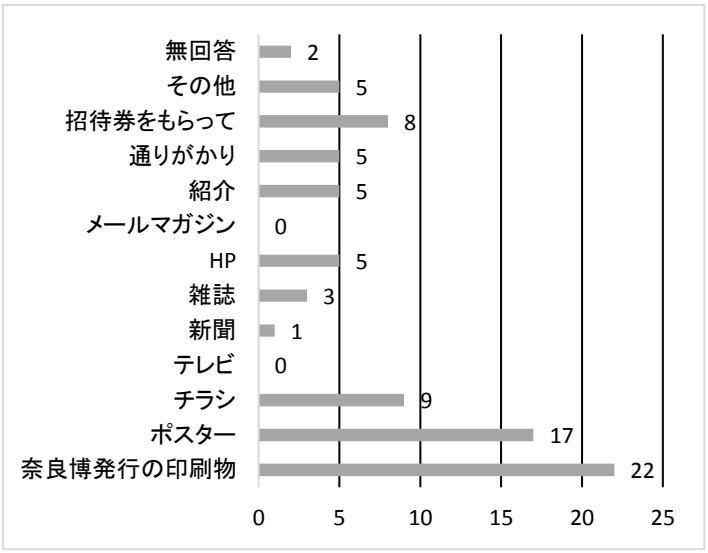
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月7日～5月17日(36日間)
回答者数：56人　入場者数：10,561人　回収率：0.53%

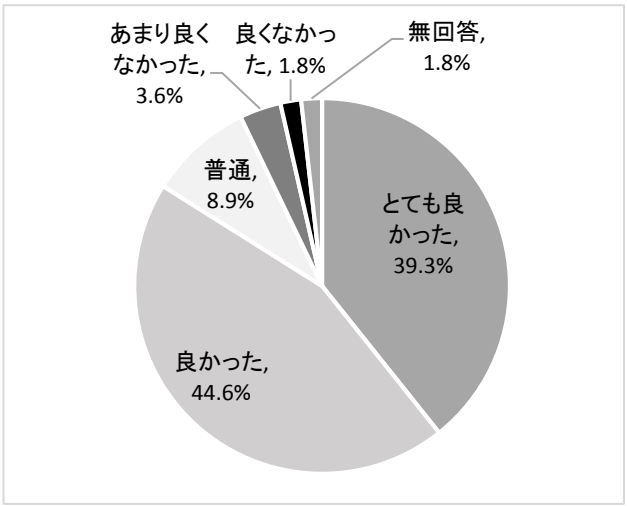
①年齢層



②認知経路(複数回答あり)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・古経というと地味な感じを受けたが、展示品の数の多さと、華やかさに感銘を受けた。
・書体を比較するだけでも楽しかった
・紺紙金地のものにとても感動しました。紺色は現代まで美しく残るものなんですね。
・館内が静かで雰囲気がとてもよかった
・写経の内容を解説していただけたら、もっと楽しめたのに・・・。と思いました。

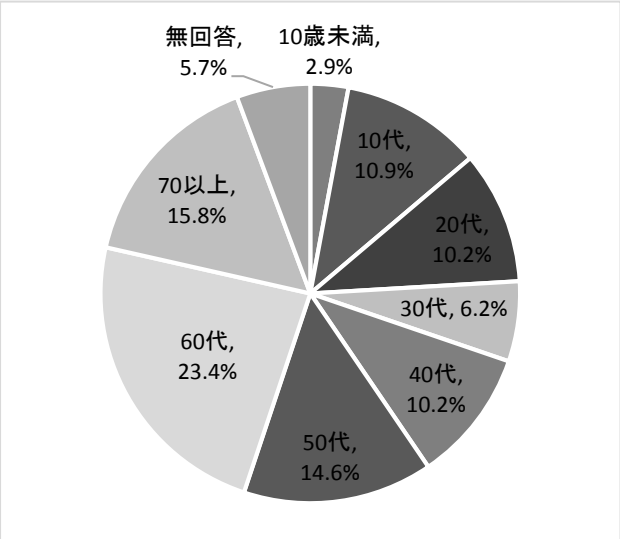
奈良国立博物館

開館120年記念特別展「白鳳　花ひらく仏教美術　」

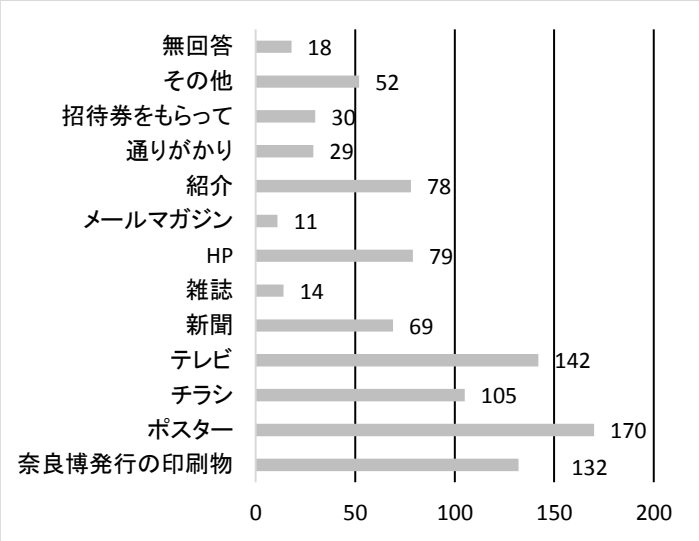
アンケート集計結果

開催期間：平成27年7月18日～9月23日(60日間)
回答者数：615人　入場者数：128,901人　回収率：0.48%

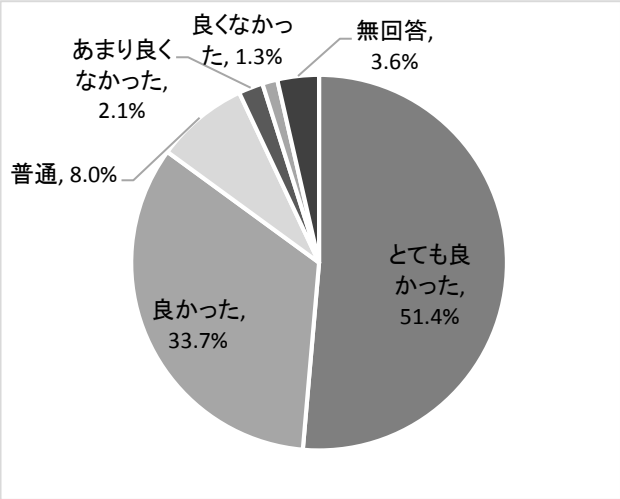
①年齢層



②認知経路(複数回答あり)



③展示に関する満足度



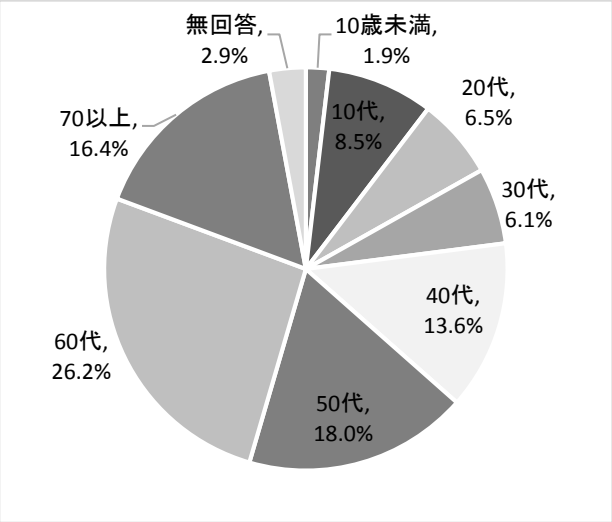
④主な意見・感想
・白鳳時代の仏像をここまで集められたのはすごいと思いました。
・開催主旨が明確であったから、展示内容が充実していた。まさに開館120年記念展にふさわしかった。
・普段見ることのできない仏像の後ろ姿など360度しっかり鑑賞できました。本当に感動しました。
・照明によって展示物の魅力がより伝わっていると感じました。影で見せるのは迫力がありました。
・鑑賞する人達のマナーがもうひとつ。熱心なのはわかるが、もう少し他者への心づかいが大切。
・入場者が多すぎた。展示物の前からなかなか動かない人が多すぎる。
・展示室に椅子がなくてすごく疲れた。

第67回正倉院展

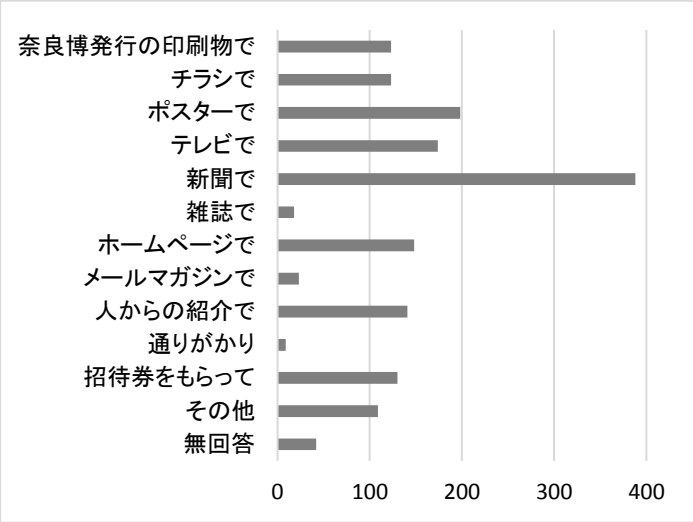
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月24日～11月9日(17日間)
回答者数：1,128人　入場者数：221,189人　回収率：　0.51%

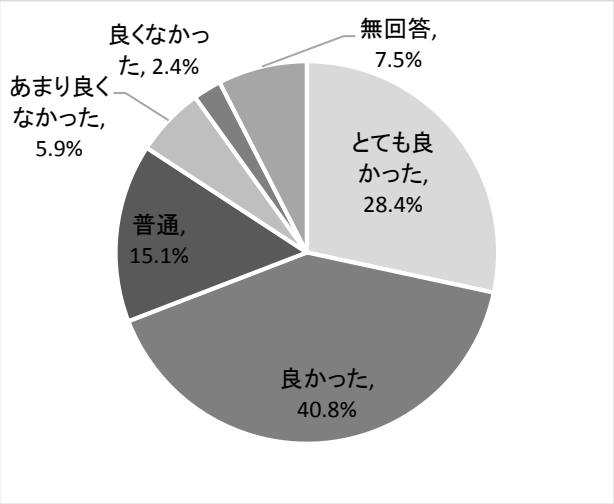
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



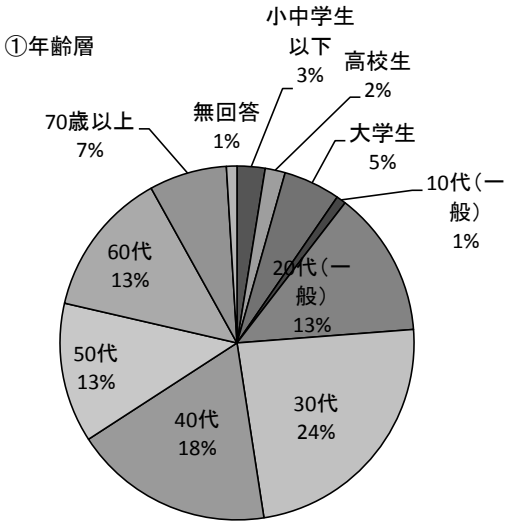
④主な意見・感想
・聖武天皇が愛した品を2015年を生きる私達が目にすることができて、とても感激した。
・テーマごとに並べられていて、例年に比べて出陳品がとても見やすかったです。
・展示品はもちろんですが、展示の工夫が素晴らしいです。照明や空間、説明文の位置や拡大写真等、展示を助ける努力が伝わりました。
・混雑しすぎ。もっと静かにじっくり観覧したかった。
・人が多いのでもう少し誘導をしっかりしてほしい。
・マナーを守らない観覧者が増えている。注意喚起をお願いします。

九州国立博物館

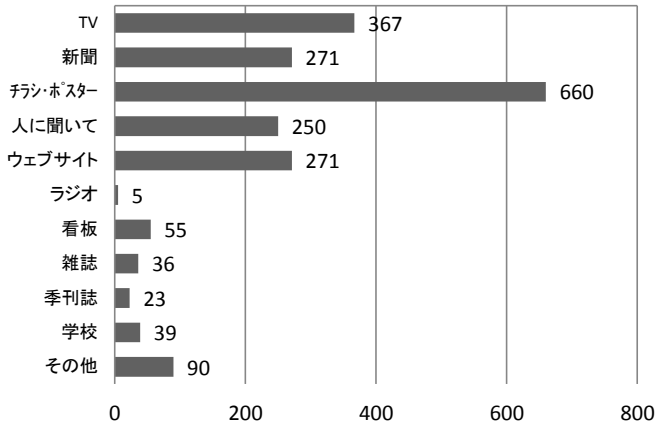
特別展「戦国大名ー九州の群雄とアジアの波涛ー」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年4月21日(火)～5月31日(日)（37日間）
総回答者数：1,432人（総来館者数：77,455人　アンケート回収率：1.85%）

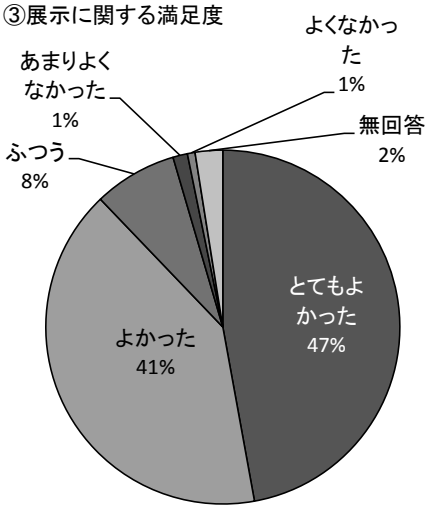
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・九州らしい内容で充実していた。新田肩衝と雷切丸の実物が見れて素晴らしい。企画担当者に感謝。
・刀や鎧を中心に展示してあると思っていたが、大名達の書簡や陶磁器など幅広く楽しめた。
・九州国立博物館の特別展はいつも個性的で、海に面した九州という立地が生かされており非常に楽しめる。
・通路が広くとってあったので前方にお年寄りの方がいた場合でも、後方から十分楽しめた。
・「戦国大名の手紙」という体験コーナーも意外だったが、情報伝達自体が今よりはるかに困難だった時代状況を思えて楽しかった。
・展示してある太刀の裏にある銘文が見えないようになっていたので、鏡を使うなどで工夫して欲しい。

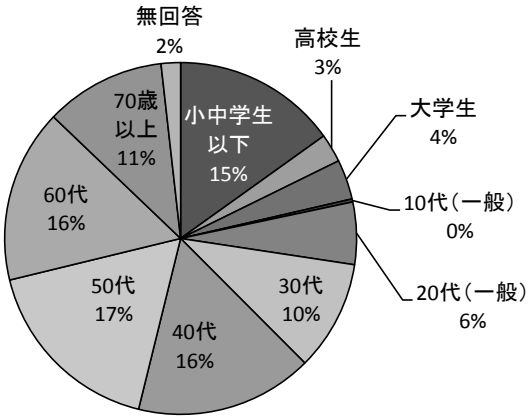
九州国立博物館

特別展「大英博物館展ー100のモノが語る世界の歴史ーA History of the World in 100 Objects」 アンケート集計結果

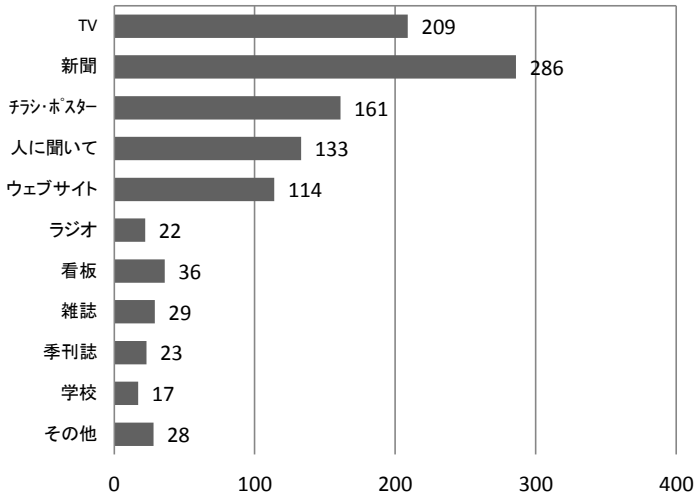
開催期間：平成27年7月14日(火)～9月6日(日) (47日間)

総回答者数：1,066人（総来館者数：133,174人　アンケート回収率：0.8%）

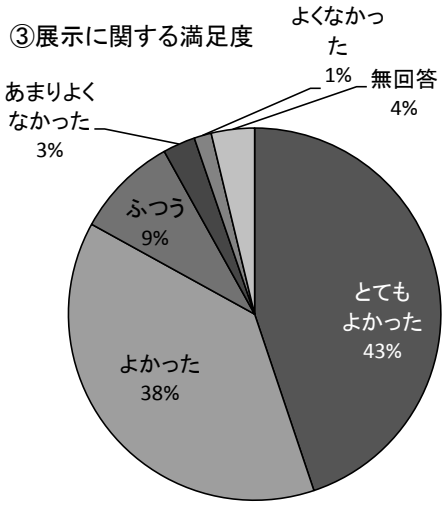
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

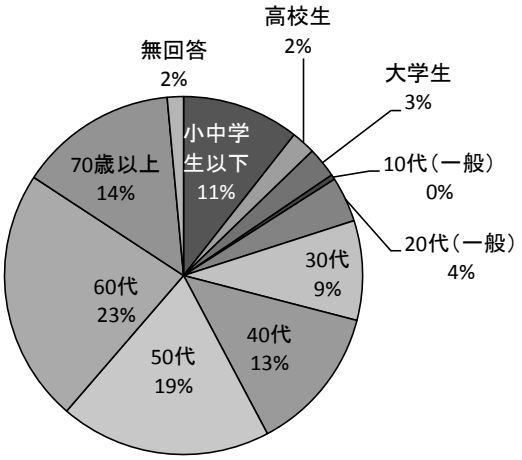
・ケースのない展示物がすごく良かった。こういった展示を増やしてほしい。
・過去に各所で開催された大英博物館展は古代エジプトのみといった1つの時代に絞ったものが多かったが、
　今回は様々な国や時代の展示物があり、飽きを感じさせない内容だった。
・切り口が面白かった。古いものだけでなく現代のもの、また貴重なものだけでなく陶器の破片などでその時代を表すなど、
　身近なもので感じることができた。
・エリアを問わず、歴史の流れと世界を螺旋階段を上るように展示されていて、大変おもしろかった。
・拝見しながらどのような結末だろうかと考えて進んだ。最後の運び方、嬉しく思った。親子で折り鶴を折っている姿も嬉しかった。
・楔型文字の体験は楽しく、また当時の人々の技巧を身を持って知ることができ良かった。
・葦ペンで自分の名前が書けたり、折り紙で鶴を折って平和に参加できたりと、記憶に残る展覧会だった。
・101番目の折り鶴を外国の方と一緒に折ることができ、とても感動的で美しい企画だった。
　来館者が参加できる企画のある展覧会は素晴らしい。
・展示物の説明が日本語のみで楽しめなかった人もいるのでは。展示品の添書きになくとも、パンフレット等で対応できないか。

九州国立博物館

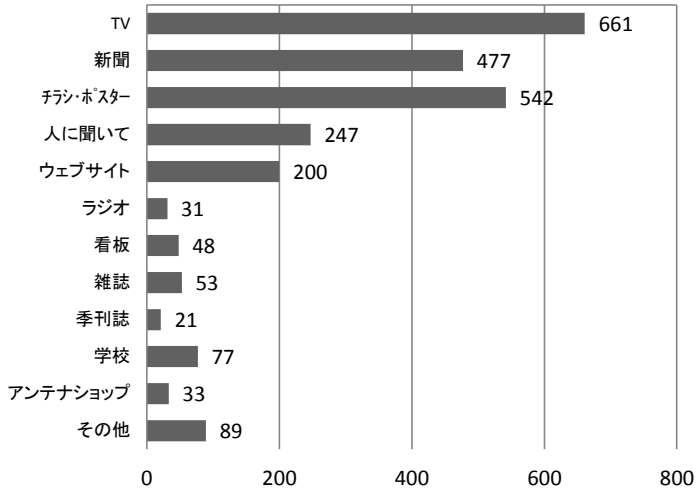
特別展「美の国　日本」
アンケート集計結果

開催期間：平成27年10月18日(日)～11月29日(日)（40日間）
総回答者数：1,567人（総来館者数：160,753人　アンケート回収率：0.9%）

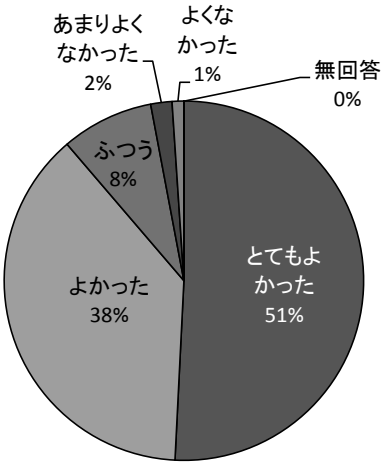
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



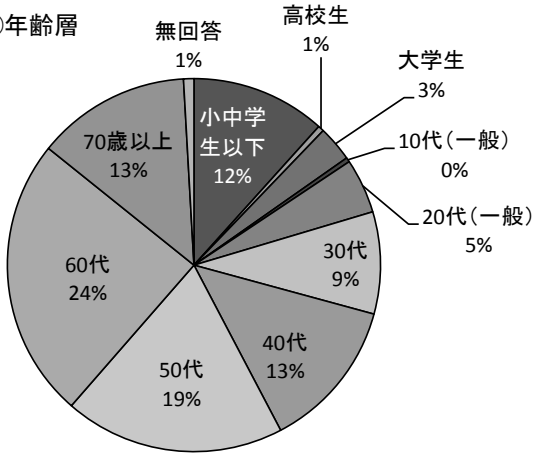
④主な意見・感想
・作品と作品の間のスペースが広くとってあったので見やすかった
・3Dプリンターで銅鐸のうすさを体感できた。すごくうすくてびっくりした。
・「技あり日本！」で展示だけでは分からなかったことも知れてよかった。展示の文字が大きく見やすくなっていてよかった。
・琵琶の展示は前方、後方で見る事が選べてとても満足した。
・小さな展示物を大きく写して後ろの壁に展示してあり、人の多い時はこれがとても見やすかった。
　実物と拡大写真の展示がとても良かった。
・国宝、重文の数々が1600円で見ることができて、とても良かった。実際に見終わって、とてもコスパの高い展示と感じた。
・今まで10年間、多数観させていただいたが、一点も見逃せないと思いながら最後まで見たのは初めてだった。
・白内障で暗がりで字が読みにくいので、音声ガイドは全ての作品で聞けるとうれしいです。

九州国立博物館

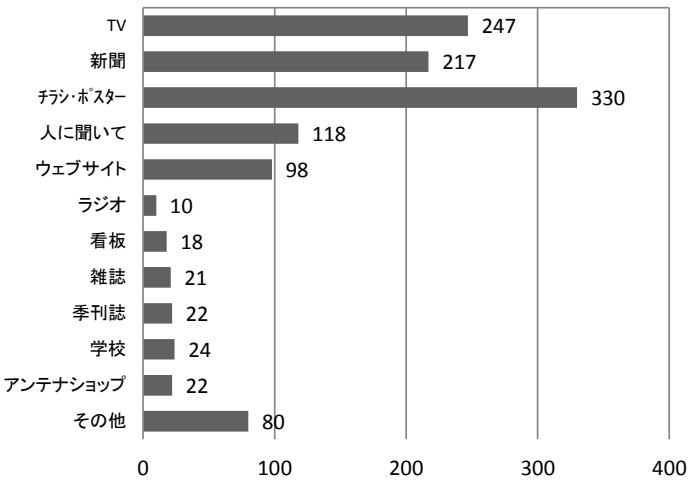
特別展「黄金のアフガニスタン」
アンケート集計結果

開催期間：平成28年1月1日(金)～2月14日(日)（42日間）
総回答者数：780人（総来館者数：67,641人　アンケート回収率：1,15%）

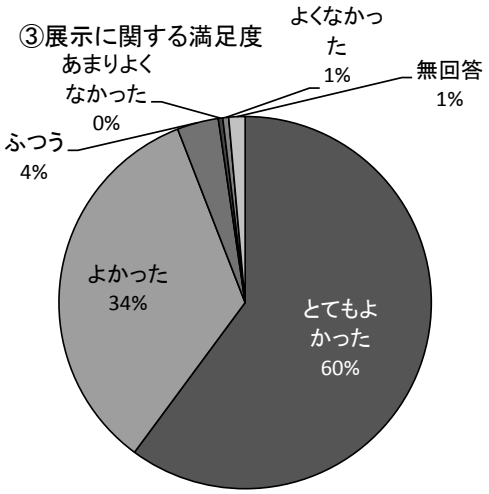
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想
・地図や埋葬の位置が丁寧に書かれていて、わかり易かった。
・展示品の数は少なかったが、展示品のすごさに圧倒された。
・体験コーナーは大人も興味深く体験でき、みな嬉しそうに展示を見直していた。
・今回の魚群水盤のレプリカ等、触れることができるレプリカは大変有意義である。
・入口にあった展示品に関係する衣装を着ての撮影はとても印象に残った。女性用だけでなく、男性用もあればよかった。
・時代を中国、インド、ヨーロッパなどと併記して記載してあるとわかりやすかった。
・順路がないので見にくく、また、音声ガイドがある箇所で人が溜まってしまうのが不快だった。
・高齢者には全体的に暗くて見にくい。せめて文字パネルだけは明るくしてほしい。
・展示カードに記入されている番号を大きく表示してほしい。復元図に示された番号が探せない。

（奥付）

平成 27 年度　独立行政法人国立文化財機構年報
平成 28 年 12 月 15 日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園 13 番 9 号
電話　(03)3822-1111（代表）
Fax　(03)3822-1113
印刷　株式会社長谷工システムズ
©2016. National Institutes for Cultural Heritage,
printed in Japan